遊戯王ＧＸ～ＧＹＺ（ごちゃ混ぜ、やりすぎ、自重なし）～

冬将軍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
遊戯王ＧＸ～ＧＹＺ（ごちゃ混ぜ、やりすぎ、自重なし）～

【Ｎコード】
Ｎ４５２７Ｌ

【作者名】
冬将軍

【あらすじ】
主人公、小野寺（おのでら）　誠（まこと）はある日、事故で死んでしまう。そんな彼に神様は第２の人生をプレゼントした。こうして遊戯王ＧＸの世界に転生した主人公は原作に介入し、やりたい放題な毎日を送ることとなった。

※諸事情によってタイトルを変更しました。

第０１話むしろいろんな世界を旅する世界の破壊者になりたかった（前書き）

はじめまして、冬将軍と申します。

いつもは小説を読む側の人間でしたがいろんな遊戯王小説に感化され思い切って投稿してみました。

色々と見苦しいところがあるかもしれませんが感想等を書き込んでいただけたら幸いです。

それではこれからよろしくお願いします。

※５月１９日修正しました。

第０１話むしろいろんな世界を旅する世界の破壊者になりたかった

突然ですが私小野寺（おのでら）　誠（まこと）は死んでしまいました

別にボールをけって遊んでいた子供をトラックからかばったわけでも部屋の中を死神が横切ったわけでもピッコロ大魔王の部下に殺されたわけではなく

ただバイトの建設工事の作業中足を滑らせて高所から落下

そして運悪くキン肉ドライバーをくらったかのごとく頭からまっさかさまに地面に突き刺さってしまった

スクールデイズの言葉様よろしな感じで俺の短い人生は終わってしまった

誠「はずなんだが、、、何故俺に意識がある」

落下した浮遊感の後に頭に走った激しい痛みを感じたところまでは覚えているのだが気がつけば俺は何もない真っ白な部屋に座り込んでいた

「それは私がよんだからじゃ」

誠「！！！」

ぐる〜〜〜っと見渡したが俺以外の何もない空間だったはずなのにいつの間にか俺の後ろにサンタクロース顔負けのモッサモサのヒゲを生やしたおっさんがいた

誠「、、、、パターンからして、あんたは神様か」

「意外と順応が早いな、、いかにも私が神様だ」

生前よく読んでいた小説でよくあるパターンだがまさか俺がそれを体験するとは

真実は小説より妙なり、、まぁコレも小説なんだけど

神様「単刀直入に言うとお前は死んだ」

誠「でしょうね、、あの状況で生きてたって方がすごいですよ」

神様「っでだ、、本題に入ろう」

ゴホンとむせて本題に切り出す神様

神様「おぬしに再び人生をおくらせるチャンスを与えよう」

誠「しかし、、俺の体はもうお釈迦ですよ」

ブラックジャック先生でも治せないくらい酷い有様だと思うんですけど俺の体

神様「何もこの世界だけがおぬしの人生ではない」

このパターンはまさか

神様「転生じゃ」

そうきたか

上記にも書いたがこの手の小説を沢山読んでいるが俺は何の世界に飛ばされる

よくあるパターンはなのはストライカーズに遊戯王ＧＸ

しかしふと思ったんだがなんで初代遊戯王でなくＧＸが多いんだ？

たいがい転生先はＧＸの世界で初代遊戯王や５ＤＳの世界って事はほとんどないな

まぁＧＸは学園物だから恋愛要素を入れやすくギャグシナリオとかにもしやすいしな

神様「おぬしには遊戯王ＧＸの世界に行ってもらう」

そっちだったか

誠「いくつか質問があります」

神様「なんじゃ」

誠「なんで俺に転生のチャンスを与えてくれたんですか？」

俺みたいにしょぼい死に方するやつよりもなにか不幸な事故にあって死んでしまったかわいそうな人にチャンスを与えればいいのに

神様「ひとつは、、おぬしはまだ死ぬ予定ではなかったことじゃ、、、、少なくとも後８０年は生きられたはずじゃった」

享年１９歳だから予定では９９くらいまでいってたのか

俺って無駄に長生きするはずだったのか

神様「数百年に1度起こるか起こらないかの事態でな、、とりあえずおぬしの魂を別の体に移して第2の人生をおくらせようと思ってな」

誠「って、、さっき“ひとつは”っといってましたが他の理由は」

神様「あまりに結末がしょぼすぎる、バイト先で足を滑らせて高所から落下、打ち所が悪くてＴＨＥ　ＥＮＤ、、、あまりにもしょぼい」

確かにな、Ｚガンダムのカツに負けないくらいのしょぼさである

神様「それともうひとつ、、、、それはおぬしが救いようのないぐらいオタクだからじゃ」

誠「、、、、、、、、、、、、、、、、、、ハ？」

神様「ぶっちゃけ、、、、、おぬし三次元の女子に興味はあるか？」

誠「ない」

神様「結婚願望は」

誠「なにそれ？おいしいの？」

神様「二次元の萌えキャラは？」

誠「大好きです」

神様「そういうところが救いようがないというんじゃ！！！」

ここにきてはじめて神様の言葉が理解できなかった

少し生前の話をするが俺は大のオタクだ

まぁ台詞のヨイショヨイショにそれっぽい表現があったからバレバレだとは思っているが

萌えだけでなく特撮も大好きで毎年主役ライダーのベルトのおもちゃが欲しいと思ってしまう

そんなんだから当然現実の女になんて興味なかった

だって考えてみてよ

二次元の女性キャラは皆男の理想が凝縮された夢の生命体なんだぜ

俺から言わせれば現実の女性より二次元の女性のほうが断然クオリティーが高い

神様「だからおぬしの大好きな二次元に転生させ少しは人生をまともにしてやろうと思ったのじゃ」

誠「甘いな神様、、、二次元とは追い求めても追い求めても手の届かない極めて近く限りなく遠い世界、実際に接触してしまったらそれはもう二次元じゃない」

神様「心の底から腐ってやがるな」

誠「ありがとう、、、最高のほめ言葉だ」

ちなみに上の台詞はガンダム００の主人公ではなくギャグマンガ日和の台詞だ

神様「とにかく、、、ほれ、おぬしのデッキじゃ」

神様からデッキケースを受け取る

中を空けてみてみると俺が生前愛用していたデッキがそこにはあった

誠「まぁ、、、、十代達相手に俺のデッキがどこまで通じるのか試してみるのもいいな」

神様「よし、、、それじゃあおぬしを遊戯王ＧＸの世界に送るぞ」

誠「どんと来い」

そして俺の意識がだんだんと真っ白になっていく

次に目を覚ました時はきっと遊戯王ＧＸの世界のはずだ

第０１話むしろいろんな世界を旅する世界の破壊者になりたかった（後書き）

第１話はデュエルなしです。

２話からデュエルが開始しますので、あと主人公の設定等も後に書きます。

最後になりましたがタイトルは藍蘭島からパクッてますが藍蘭島のキャラは出てきません。

第０２話余談だが作者は自動車免許の筆記試験２度落ちてます（前書き）

連続投稿です。今回からデュエルが行われます。

自分なりの文章の書き方をしてますが読みにくい、こうしたらいいなどの意見がありましたら感想の方に書いていただけるとと嬉しいです。

それでは本編をどうぞ。

第０２話余談だが作者は自動車免許の筆記試験２度落ちてます

誠「、、、、、、、、、ん」

気がつくとどこかの施設のベンチに腰を下ろしていた

誠「ここが、、、遊戯王の世界」

世界の破壊者のような台詞を言ってみたがいかんせん実感がない

なんせ生前の世界と遊戯王ＧＸの世界は相違点が多い

細かな違いはあれど判断するにはどうしたらいいものか

誠「そうだ、、デュエルディスク」

ベンチの上に俺の物と思われるデュエルディスクを拾い上げ左腕に装着してみる

誠「、、、、、間違いなく本物のデュエルディスクだ」

生前の世界にもデュエルディスクはあったが所詮はオモチャ

立体映像が出たりはしないただの飾り的なものだった

だが俺が今つけているものは違う

ずっしりとした重量

デッキをセットした瞬間流れる電子音にライフポイントの表示

誠「、、、、、、、本当に来たんだ」

わかってはいたがショックを感じた

本当に転生したんだな俺

誠「感傷に浸ってる場合じゃないな」

俺の予想が正しければきっとコレは入学試験会場

つまりこれから実技試験で勝たねばならないわけだ

ポケットをあさると試験番号１０９番とかかれた試験票が入っていた

確かこの番号って筆記の成績の順番じゃなかったっけか？

つまり俺は十代より１つしたって事か

誠「最初の相手はクロノス先生かな」

「試験番号１０９番の生徒は試験会場に来てください」

誠「お、、俺の出番か」

会場に入ったとたん激しい熱気を感じた

誠「コレが試験会場」

あまりの迫力に唖然としてしまう

「試験番号１０９番前へ」

誠「あ、、ハイ」

ぼけ～～～っと立ち尽くす俺に試験管が話しかけてきた

ＰＳＰゲームでよく見かけるグラサンの先生だ

どうやらクロノス先生が相手じゃないみたいだ

誠「試験番号１０９番小野寺　誠です」

試験管「いい挨拶だ、それでは早速」

誠・試験管「デュエル！！！！」

さて、それじゃあこの世界での最初のデュエルと行くか

試験管「先攻後攻好きなほうを選びなさい」

誠「それじゃあ先行をとらせてもらいます、、、ドロー」

よし、悪くない手札だ

誠「モンスターを裏守備でセット、リバースを1枚セットしてターンエンドです」

すごい、デュエルディスクにカードをセットすると何もない空間に巨大化したカードの立体映像が現れた

テンション上がる～～～～

試験管「私のターン、手札を1枚捨てＴＨＥトリッキーを特殊召喚」

ＴＨＥトリッキー
風属性レベル５
魔法使い族
攻撃力２０００守備力１２００
効果
手札を1枚捨てる事で、このカードを手札から特殊召喚する。

試験管「まだ私は通常召喚を行っていない、ゴブリン突撃部隊を特殊召喚」

ゴブリン突撃部隊
地属性レベル４
戦士族
攻撃力２３００守備力０

効果
このカードは攻撃した場合、バトルフェイズ終了時に守備表示になり、次の自分のターンのエンドフェイズ時まで表示形式を変更する事ができない。

「ザワザワ」

「わずか1ターンで攻撃力２０００オーバーを2体もそろえるなんて」

「あの試験番号１０９番終わったな」

野次馬度もが好き勝手言ってくれちゃって

試験管「まずはトリッキーで裏守備モンスターに攻撃」

試験管の目の前にたっていたトリッキーが大きくジャンプする

次の瞬間俺の裏側表示だったモンスターが姿を現す

誠「俺のモンスターは巨大ネズミだ」

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０

効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

トリッキー「ハァ」

大きく飛び上がったトリッキーが俺の巨大ネズミに光弾を放つ

光の弾丸が巨大ネズミの体を貫いていく

トリッキー　攻撃力２０００＞巨大ネズミ　守備力１４５０

バリ～～～ンと巨大ネズミがガラスのように砕けその破片が俺に迫ってくる

思わず腕をクロスさせてしまった

恐るべし立体映像の迫力

誠「この瞬間巨大ネズミの効果でデッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスターを1体特殊召喚する」

デュエルディスクからデッキを取り出し1枚のカードを力強くデュエルディスクにセットする

誠「こい、、激昂のムカムカ」

激昂のムカムカ
地属性レベル５
攻撃力１２００守備力６００
自分の手札1枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

誠「俺の手札は４枚、よってムカムカの攻撃力は２８００」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→２８００守備力６００→２２００

試験管「なるほど、、、確かにゴブリン突撃部隊の攻撃力を上回っているが、、甘いぞ、速攻魔法突進を発動」

なんだと

突進
速攻魔法

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体の攻撃力はエンドフェイズ時まで７００ポイントアップする。

完全に不意打ちだぜソレ

試験管「私のゴブリン突撃部隊の攻撃力を７００ポイント上昇させる」

ゴブリン突撃部隊
攻撃力２３００→３０００

試験管「バトルフェイズを続ける、、ゴブリン突撃部隊で激昂のムカムカに攻撃」

棍棒を抱えたゴブリンの群れが俺のムカムカを袋にし始めた

ゴブリン突撃部隊　攻撃力３０００＞激昂のムカムカ　攻撃力２８００
誠
ＬＰ４０００－２００＝３８００

攻撃力の差分ライフが減らされる

先ほどの巨大ネズミが破壊された時のようにガラスの破片のような物になったムカムカが俺に降り注ぐ

試験管「バトルフェイズ終了時ゴブリン突撃部隊は守備表示になる、、メイン2では何もせず私はターンエンドだ」

誠「俺のターン、、、ドロー！！！」

チョットまずいな、計画がかなりずれてしまった

誠「現状を巻き返すぜ、、、モアイ迎撃砲召喚」

俺の目の前にイースター島とかで見かけそうなモアイ像を模したモンスターが姿を現す

モアイ迎撃砲
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１１００守備力２０００
効果
このカードは１ターンに１度裏側守備表示にする事ができる。

誠「モアイ迎撃砲でゴブリン突撃部隊を攻撃、イースターレーザーキャノン！！！！」

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００＞ゴブリン突撃部隊　守備力０

モアイ迎撃砲の口から放たれたレーザーがゴブリン突撃部隊を貫き破壊した

試験管「しかし守備表示モンスターを破壊されただけだ、ダメージはない」

「あいつはバカか、守備力が高いモンスターを攻撃表示で出すなんて」

「次のターン大ダメージをくらってしまうぞ」

ギャラリーがざわめきだす

まったく、メジャーじゃないカードだからってバカにしやがって

誠「メイン2でモアイ迎撃砲の効果発動、このカードを守備表示にします」

目の前にいたモアイ迎撃砲が大きな裏側表示にカードに変化する

使ってて思うんだが本当に姑息なカードだよな

試験管「なるほど、、なかなかしたたかな戦略だな、私のターン、、トリッキーを生贄にサイコショッカーを召喚」

相手フィールド上のトリッキーの体の周りを謎の渦が多い渦が晴れるとそこにはサイコショッカーが仁王立ちしていた

人造人間サイコ・ショッカー
闇属性レベル６
機械族
攻撃力２４００守備力１５００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、お互いに罠カードを発動する事はできず、フィールド上の罠カードの効果は無効化される。

速攻ハゲっすか

試験官「サイコ・ショッカーで相手裏守備モンスターに攻撃」

伏せ状態のモアイ迎撃砲が再び表になる

そしてショッカーが放ったサイコパワーの塊のようなものをくらい消滅していった

試験官「ターンエンドだ」

誠「俺のターン、ドロー、、、Ｎ（ネオスペーシアン）グラン・モールを召喚」

俺の目の前にドリルが付いたモグラが召喚される

いつ見ても岩石族というより獣族な感じのモンスターだ

ネオスペーシアン・グラン・モール
地属性レベル３
岩石族
攻撃力９００守備力３００
効果
このカードが相手モンスターと戦闘を行う場合、ダメージ計算を行わず相手モンスターとこのカードを持ち主の手札に戻す事ができる。

誠「バトルだ、、グランモールでサイコ・ショッカーに攻撃」

グラン・モールの方についていたドリルのパーツが１つになってグランモールの頭をおおいそのまま地面にもぐっていく

誠「グラン・モール効果発動、このモンスターが戦闘を行うときダメージ計算前に互いの戦闘モンスターを手札に戻す、、、、ペネトレート・リターン！！！」

地面にもぐったグラン・モールがサイコ・ショッカーの足元に現れる

次の瞬間２体は光だしフィールドから消滅する

誠「リバースカードを１枚伏せてターン終了」

試験官「私のターン」

試験官（フィールドをがら空きにしてまで私のサイコ・ショッカーを除外したということはずばりあのリバースカードは攻撃無効系もしくは迎撃系カード、ならば）

試験官「天下人　紫炎召喚」

相手の場に馬にまたがった殿様が姿を現す

天下人　紫炎
火属性レベル４
戦士族
攻撃力１５００守備力１０００
効果
このカードは罠の効果を受けない。

試験官「バトルフェイズ、、紫炎でダイレクトアタック」

誠「トラップ発動」

試験官「無駄だ、、紫炎にはトラップは効かない」

誠「わかってますよ、俺が発動するのは和睦の使者」

試験官「なんだと」

俺の目の前の伏せ状態だったカードの1枚が大きく起き上がる

そして絵柄から修道女らしき女性が3人姿を現した

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは0になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

3人の修道女が見えない壁のような物を使い紫炎の突進をはじき返す

試験官「私のモンスターでなく自分側に効果を及ぼすカードか、メイン2でリバースを1枚伏せてターンを終了だ」

誠「俺のターンドロー、、、ロックストーン・ウォリアー召喚」

天から岩が降ってきて着地した瞬間人型に変形しロックストーン・ウォリアーに変形した

ロックストーン・ウォリアー
地属性レベル4

岩石族
攻撃力１８００守備力１６００
効果
このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。このカードの攻撃によってこのカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、自分フィールド上に“ロックストーン・トークン”（地属性レベル１岩石族攻撃力０守備力０）２体を特殊召喚する。このトークンはアドバンス召喚のためにはリリースできない。

誠「ロックストーン・ウォリアーで紫炎に攻撃」

紫炎に向かってショルダータックルで突進していくロックストーン・ウォリアー

そのまま紫炎にぶつかり相手モンスターを粉砕した

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞天下人　紫炎　攻撃力１５００

試験官
ＬＰ４０００－３００＝３７００

試験官「ッグ」

やっと初ダメージか

予定では激昂のムカムカで壁モンスターをバッタバッタとなぎ倒しモアイ迎撃砲で姑息にダメージを与えるはずだったんだがな

誠「リバースカードを1枚伏せてターンエンドです」

試験官「私のターン、、モンスターを裏側守備表示で召喚しリバースカードを2枚伏せてターンエンド」

お、これはもしかして好機

誠「俺のターン、巨大ネズミを召喚、、バトルだ、、、ロックストーン・ウォリアーで攻撃!!」

再び敵に向かってショルダータックルで突進するロックストーン・ウォリアー

試験官「私のモンスターはメタモルポッド」

メタモルポット
地属性レベル2
岩石族
攻撃力700守備力600
効果
リバース:お互いの手札を全て捨てる。その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを5枚ドローする。

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力1800>メタモルポッド守備力600

ロックストーン・ウォリアーのタックルをくらってばらばらに砕け散るメタモルポット

試験官「メタモルポットの効果で互いのプレイヤーは手札をすべて捨てデッキから新たにカードを5枚ドローする」

逆にありがたい、俺は手札をすべて墓地に送り新たに5枚ドローする

誠「まだ俺のバトルフェイズは終了してないぜ、巨大ネズミでダイレクトアタック」

俺の場の巨大ネズミが手に持っている頭蓋骨を試験官に投げ飛ばす

巨大ネズミ　攻撃力１４００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

試験管
ＬＰ３７００－１４００＝２３００

つーか巨大ネズミの攻撃ってこんなんなんだ

しかも跳ね返った頭蓋骨をうまいことキャッチするネズミ

無駄にハイレベルなテクニックをお持ちで

誠「更にリバースを2枚セットしターンエンド」

試験官「そろそろまずくなってきたな、、私のターン、魂を喰らう者バズー召喚」

相手フィールド上に若干サイボーグじみたゴリラが召喚された

魂を喰らう者バズー
地属性レベル４
獣族
攻撃力１６００守備力９００
効果
自分の墓地のモンスターを3枚までゲームから除外する事ができる。除外したカード1枚につき、相手ターン終了時までこのカードの攻撃力は３００ポイントアップする。この効果は自分のターンに1度しか使えない。

試験官「私は墓地に眠るトリッキー、メタモルポット、異次元の生還者を除外しバズーの攻撃力を９００ポイント上昇させる」

魂を喰らう者バズー

攻撃力１６００→２５００

ムクムクと大きくなっていくバズー

すごく、大きいです

試験官「バズーで巨大ネズミに攻撃」

バズーの口から炎が放たれ俺の巨大ネズミを包み込んでいく

炎が晴れるとそこに巨大ネズミの姿は無く無残な獣の骨だけが残っていた

魂を喰らう者バズー　攻撃力２５００＞巨大ネズミ　攻撃力１４００

誠ＬＰ３８００－１１００＝２７００

誠「ック、、再び巨大ネズミの効果発動、デッキからマイン・ゴーレムを特殊召喚」

巨大ネズミの死骸が光に包まれその光の中からマイン・ゴーレムが姿を現した

マイン・ゴーレム

地属性レベル３

攻撃力１０００守備力１９００

効果

このカードが戦闘によって墓地に送られた時、相手ライフに５００ポイントダメージを与える。

試験官「私のターンのエンド時、バズーの効果で除外した異次元の生還者をフィールドに特殊召喚される」

相手フィールドにブラックホールのようなものが現れそこから異次元の生還者が飛び上がってきた

異次元の生還者
地属性レベル４
攻撃力１８００守備力２００
効果
自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードがゲームから除外された場合、このカードはエンドフェイズ時にフィールド上に特殊召喚される。

誠「俺のターン、、モンスターを1体裏守備でセットしマイン・ゴーレムも守備表示に変更してバトル、ロックストーン・ウォリアーで異次元の生還者に攻撃」

本日3度目のショルダータックル

しかし今回は相手だけでなく俺のモンスターも砕け散った

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＝異次元の生還者
攻撃力１８００

誠「ロックストーン・ウォリアーの効果発動、このカードが攻撃を行い戦闘によって破壊されたときロックストーン・トークンを2体特殊召喚する」

ロックストン・ウォーリアーの破片が集まり岩の塊のようなものになり俺のフィールドに2体並ぶ

試験官「私のモンスターを除去し自らの場に壁モンスターを増やすとは」

誠「お褒めに上がり光栄です、、俺はターンエンドです」

試験管「私のターン、バーサークゴリラを召喚」

バーサークゴリラ
地属性レベル４
攻撃力２０００守備力１０００
効果
このカードが表側守備表示でフィールド上に存在する場合、このカードを破壊する。このカードのコントローラーは、このカードが攻撃可能な状態であれば必ず攻撃しなければならない。

今思ったんだが試験管のデッキって特殊効果モンスター満載デッキかリバースカードをあんまし伏せないしゴブリン突撃部隊といいサイコショッカーといいトリッキーといい

試験管「そしてバズーの効果で墓地の異次元からの生還者を除外し攻撃力をアップさせる」

魂を喰らう者バズー
攻撃力１６００→１９００

試験管「バトルだ、バーサークゴリラでマインゴーレムを攻撃」

誠「リバースカードオープン、、、聖なるバリア～ミラーフォース～」

聖なるバリア～ミラーフォース～
通常トラップ
相手がモンスターで攻撃した時、相手の攻撃表示モンスターをすべて破壊する。

試験管「甘いぞ、、こちらもリバースカードオープン、盗賊の７つ道具」

盗賊の７つ道具
カウンタートラップ
１０００ポイントのライフを払う。トラップカードの発動を無効にし、それを破壊する。

試験管
ＬＰ２３００－１０００＝１３００

誠「なんだと」

せっかくのっとっておきの切り札ミラーフォースが無効化されてしまった

しかしこの世界ではライフ１０００ポイントの出費って痛くないか？

明らかにトラップジャマーのほうが使い勝手がいい気が

試験管「バトルを続行、バーサークゴリラでマインゴーレムを攻撃」

バーサークゴリラの口から放たれた炎がマインゴーレムをドロドロに溶かしていった

バーサークゴリラ　攻撃力２０００＞マインゴーレム　守備力１９００

誠「しかし、マインゴーレムが戦闘で破壊された時相手ライフに５００ポイントのダメージを与える」

ドロドロに解けたマインゴーレムの中からコアのようなものが飛び出し試験管の頭上で爆発を起こす

試験管「ック」

試験管
ＬＰ１３００－５００＝８００

試験管「続いて魂を喰らう者バズーで裏守備モンスターに攻撃」

誠「セットモンスターはメデューサ・ワームだ」

メデューサ・ワーム
地属性レベル２
岩石族
攻撃力５００守備力６００
効果
このカードは１ターンに１度だけ表側守備表示にする事ができる。
このカードが反転召喚に成功した時、相手フィールド上のモンスター１体を破壊する。

バズーの放つ炎がメデューサ・ワームを包み込み跡形もなく消滅されてしまった

魂を喰らう者バズー　攻撃力１９００＞メデューサ・ワーム　守備

力６００

試験管「そしてターン終了時再び異次元からの生還者を特殊召喚する、そしてターンエ」

誠「そっちのエンドフェイズ時にトラップ発動、リビングデットの呼び声」

リビングデットの呼び声
永続トラップ
自分の墓地からモンスター１体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

誠「俺は墓地からガーディアンスフィンクスを特殊召喚する」

地面にボコボコを亀裂が走りそこから大きなスフィンクスが現れ俺のフィールドに着地した

ガーディアンスフィンクス
地属性レベル５
岩石族
攻撃力１７００守備力２４００

効果
このカードは1ターンに1度だけ裏側守備表示にする事ができる。
このカードが反転召喚に成功した時、相手フィールド上のモンスターは全て持ち主の手札に戻る。

試験管「させるか、カウンタートラップ昇天のブラックホーン発動」

昇天のブラックホーン
カウンタートラップ
相手モンスター1体の特殊召喚を無効にし、それを破壊する。

せっかく俺の場に出したスフィンクスが苦しみだしバリ～～～ンと割れて俺のフィールドから姿を消す

カウンタートラップ満載デッキですか？

誠「俺のターン、、、ドロー」

まずいな、、俺の場にはトークン2体に対し向こうの場にはモンスター3体、頼みの綱のスフィンクスも破壊されてしまった

誠「モンスターを裏側守備表示でセットしターンエンド」

ライフはこっちが勝っているもののいつやられてもおかしくない状

態だ

まずいねぇ、どうも

久しぶりのこの感覚に興奮してきたぜ

全身の血が煮えたぎるかのようなこの感覚

コレだからデュエルはやめられない

試験管「私のターン、、私は手札から使者への手向けを発動させる」

相手フィールドの立体映像のカードから包帯が何本かのびてきて俺の裏側表示のカードを貫き破壊した

死者への手向け
通常魔法
手札を1枚捨て、フィールド上に存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを破壊する。

試験官「そして墓地に眠るモンスターを3体除外しバズーの攻撃力を２５００にアップさせる」

誠「ック、メタモルポットで墓地の肥え具合は十分ってか」

試験官「バトルフェイズだ、、異次元からの生還者とバーサークゴリラでトークンを攻撃、そしてバズーでダイレクトアタック」

異次元からの生還者　攻撃力１８００＞ロックストーン・トークン
　守備力０

バーサークゴリラ　攻撃力２０００＞ロックストーン・トークン
守備力０

魂を喰らう者バズー　攻撃力２５００（ダイレクトアタック）＞プレイヤー

誠
ＬＰ２７００－２５００＝２００

誠「グォ！！！」

まずい、アニメ張りに追い込まれてきた

って今はアニメの世界に介入してるのか俺は

試験官「私はこれでターン終了だ」

誠「俺のターン、、ドロー」

試験官（少し大人気なかったか、しかしこれはあくまで試験だ、私の場には攻撃の無力化にマジックシリンダーが伏せてある、それにこのモンスター軍団を前に勝機は無い）

誠「先生、、今“俺の場には大量のモンスター、そしてリバースカードは迎撃系を2枚伏せている、私の勝ちだ”なんて思いませんでしたか？」

試験官「な、、何を」

図星のようだな

試験官の先生、それを俺がいた世界では自己説明敗北フラグって言うんだぜ

誠「マジック発動！！大寒波」

マジックを発動させると俺と試験官のマジック・トップゾーンが凍りつき互いに伏せてあったカードも氷の中に埋もれてしまう

大寒波
通常魔法
メインフェイズ1の開始時に発動する事ができる。次の自分のドローフェイズ時まで、お互いに魔法・罠カードの効果の使用及び発動・セットはできない。

誠「そして先ほどのメタモルポットのおかげで俺の墓地も十分肥えさせていただきました、、俺は墓地に眠る岩石族モンスター6体をゲームから除外し」

デュエルディスクのセメタリーのスロットからカードを6枚取り出しとりあえず足元に置く

誠「現れよ!!!メガロック・ドラゴン」

バシンと力強くデュエルディスクにカードをセットする

すると俺の場に超デケー岩のドラゴンが姿を現した

さっきのバズーの比じゃないぜ

メガロック・ドラゴン
地属性レベル7
岩石族
攻撃力?守備力?
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×700ポイントの数値になる。

誠「俺が除外した岩石族モンスターの数は6枚、よって攻撃力は4200」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?↓４２００

誠「バトルフェイズだ、、メガロックドラゴン、魂を喰らう者バズーに攻撃、、アースカノン・インフェルノ！！！！！」

メガロック・ドラゴンの口がガパっと開きそこから超図太い光線が放たれる

そしてその光線はバズーどころか試験官までも包み込んでいった

試験官「うわ～～～～～～」

メガロック・ドラゴン　攻撃力４２００＞魂を喰らう者バズー　攻撃力２５００

試験官
ＬＰ８００－１７００＝－９００

誠「ウオッシャ～～～～～～～～～～～！！！！！！」

大歓声に負けないくらいの俺の雄たけびが会場に響き渡る

試験官「いたた、見事な逆転だったぞ」

先ほどの攻撃でしりもちをついていた試験官が立ち上がる

誠「いえいえ、、こちらこそ、、、スッゲー熱くなるデュエルでした、ありがとうございます」

そっと右手を差し出す

試験官「いい礼儀だ」

俺の右腕をガシッと握り熱い握手をしてくれた試験官

結局この人の名前知らないまま終わってしまったな

まぁいいかどうせモブキャラだ

こうして俺の入学試験は無事幕を閉じたのだった

第０２話余談だが作者は自動車免許の筆記試験２度落ちてます（後書き）

ハイ、主人公のデッキは岩石デッキです。ちなみに私のデッキと同じデッキです。

あと小説書いているときに気づいたんですが、現実で岩石デッキは普段使ってる分にはアニメみたいに逆転勝利とかよく決めているですがライフ４０００ポイントの世界ではメガロック・ドラゴン呼ぶ前に終わってしまうという事に気づきました。たとえ呼べたとしても攻撃力５０００超えは厳しいという。現実で使うメガロックより攻撃力低いな～～とか感じてしまいます。

それでは次の第３話でお会いしましょう。ありがとうございました。

第０３話えぇい、オリキャラはどうでもいい、原作キャラを出せ原作キャラを

蟹座さん、野良猫さん、感想の方ありがとうございます。

そして蟹座さんにも言われたんですが異次元の生還者の効果が使えないと。普段使い慣れてないカードなうえＷＩＫＩのテキストをそのままコピーして張っているのでよく見てませんでした。異次元の偵察機にして書き直そうとか色々と考えたんですが、文章を書けば書くほど原型をとどめなくなり修復不能に……とりあえず２話はそのままの方がいいと思い手をつけなくしました。こんな俺ですがこれからもよろしくお願いします。

最後に３話はデュエルないです。

第０３話えぇい、オリキャラはどうでもいい、原作キャラを出せ原作キャラを

空、どこまでも続く青い、まぶしすぎるくらいの太陽輝く空

海、どこまでも透き通るスカイブルー、見る者皆感動させてくれる

俺は今デュエルアカデミア行きの船に乗っている

オシリスレッドの制服を着て

誠「まぁ、、、、仕方ないな」

話をさかのぼること一週間前

試験を終えた俺は家に帰りこの体の記憶をまとめることにした

目覚めて早々デュエルで落ち着く暇も無かったしな

世界の治安とかは生前の世界と何の代わりも無かった

まぁしいて言えば遊戯王カードがデュエルモンスターズという名前になってるくらいかな

この体の年齢は１５歳、デュエルの知識はかなり豊富のようだ

まぁこの知識は生前の体にあったものなのか、もともとこの体にあったのか、それとも神様が俺にくれたものかは不明だが

しかし、脳の片隅に変な記憶が眠っていた

“デュエルアカデミア筆記試験の際解答欄を1つずらして記入しておりラスト5分でそれに気がつきあわてて直そうとしたが間に合わなかった”

なんて絶望的な記憶だ

これへ下手したら落ちてるかもしれない

まぁそれはないだろう、実技試験には勝ったんだし

誠「しかし、すごいな傷だな」

体のあちらこちらに傷跡がたくさん付いている

しかもストリートファイターのリュウのような格闘家のような無駄な筋肉付き

デュエルに必要かコレ？

まぁきっとあれだ、何か卑怯なデュエルを挑まれたら困るから肉弾戦で決しようって時ようであろうか？

まぁどの道必要ないってこんな筋肉

まぁ、中学時代に荒れた生活を送ってたらしくその産物のようなも

のらしいが

なんかリトルバスターズの真人ばりに筋肉トークを繰り広げてるな

話題を変えよう

誠「結構、、、まじめなやつだったみたいだな」

部屋を一通り見てきたがデュエルモンスターズのカードがある以外何の特徴のない部屋だった

机にベッドに本棚

本棚には漫画がちらほらと置いてあるがすべて全巻そろってなく片手間に趣味で集めた程度と見られる

誠「生前の俺の部屋とは偉い違いだぜ」

生前の俺の部屋といったら窓と入り口以外の壁という壁すべてに本棚をおき漫画で埋め尽くされ

テレビの前にはＰＳ２にＷｉｉにＸＢＯＸ３６０とゲームソフトの山

まさに絵に描いたようなオタクの部屋であった

誠「つーかこの設定は神様が作ったものなのか？最初からいた人物の魂だけ抜き取って俺の魂を移植したりしてないだろうか」

想像していくとだんだん不安になってきた

大丈夫かよ、実はこの体、仮面ライダーＺＸみたいに何千何万という人間の魂を犠牲にした上で完成したとかないよな

誠「まぁ、、、考えても仕方がない、この世界で送る第２の人生を楽しむとするか」

とりあえず試験の疲れもあったのでその日は寝ることとなった

数日後デュエルアカデミアから合格通知が届いた

所属はオシリスレッドという通知表付きで

って現代に至る

誠「まぁ、、オベリクスブルーよりはましか」

ブルーはブルーでなんかエリートの集まりで人間関係悪そうだし

イエローはまぁ楽しいかもしれないけど

レッドなら十代と接点多そうだし楽しく過ごせそうだ

「あれ、、、もしかして」

誰かが後ろから近づいてくる気配があったので振り返るとそこには
俺と同じくらいのレッドの制服を着た男がいた

男「やっぱり誠じゃないか」

この男、初対面だがこの体に記憶が残っている

名前は確か

誠「もしかして、、、、真間か、空栗（からくり）　真間（しんま）」

真間「おう、そうだ、久しぶりだな誠」

空栗　真間

俺の幼馴染らしい

こいつの両親の都合で転校するはめになって１２の時に生き別れと
なったんだが

まさかこんな形で再開するとは

真間「お前もデュエリストを目指しているのか」

誠「まぁな、、こんなに俺を魅了させたものは他に例がないしな」

真間「相変わらずデュエルで得られる興奮にエクスタシーを感じて
いるのか」

どうやら俺が乗り移る前からこの体の持ち主はデュエルという魔物に魅入られていたようだ

真間「なんだ、お前もオシリスレッドか」

誠「そういうお前もオシリスレッドみたいだな、どうした、、実技で失敗でもしたのか」

真間「いんや、、筆記試験で全問正解だったのだが名前を書き忘れて実質筆記で0点くらってな、実技でノーダメージ勝ちしたのはいいが結局オシリスレッドになっちまった」

誠「俺は解答欄1つずつずれて記入したせいで実技の成績が芳しくなく実技で大逆転勝利したがオシリスレッドになった」

真間「お互いに馬鹿だな」

「「ハハハハハハハハハハハハ」」

記憶の中にあったとおりの気持ちのいいやつだった

出来ればこういったやつと相部屋になりたいものである

島に着いたら早速デュエルアカデミアの鮫島校長のお話が待っていた

校長の話

又の名を貧血というステータス異常を起こす特殊属性攻撃

よく漫画とかで校長の話を聞いて貧血で倒れるやつがいるというが
俺は生まれてこの方1度も見たことがない

まぁこんな無駄なこと考えてるくらいだから当然校長の話なんてぜんぜん耳に入ってないぜ

30分ほどで校長の話も終わり俺と真間はレッド寮に向かった

するとなんという偶然か部屋は真間と相部屋であった

確か3人相部屋だったと思うのだが俺と真間の部屋はベッドが1つ壊れており2人で1つの部屋らしい

コレも神様の粋なはからいなのか？

荷物の整理を終えた頃にはすっかり日も沈み真っ暗となっていた

大徳寺先生の歓迎会を終えて俺は一人レッド寮の屋根の上でたたずむ

誠「これから、、デュエルアカデミアでの生活が始まるのか」

誰に語るわけでもなく言葉が溢れる

誠「何度思ったか、本当に遊戯王の世界に来ちゃったんだよな」

「もしかして、前の世界に未練でもあった？」

誠「無かったと言えば嘘になる、でも、、そのうち慣れてくるさ、こっちの世界にもアニメや特撮という物は有る、前いた世界とは全然内容とかは違うが」

「アレレ、もしかして早くもホームシック？」

誠「なわけねーよ、一応生前は一人暮らしだぜ、それに心のどっかではしょうがないってあきらめてるところも有るしな、、、あとは突き進むだけだ」

「結構あっさりしてるんだね」

誠「まぁな、、、、、、、、、っで」

振り向くと見知らぬ女性が俺の隣に座っていた

屋根の上には俺しかいなかったよな

誠「誰？」

女性「っや、初めてだね、、、って言ったほうがいいのかな？」

気さくに話しかけてきた女性

服はアカデミアのブルーの女子の制服でなく黒のTシャツにグレーの短パンというラフな格好であった

顔つきはどこかゆるい感じがあるがあり若干ボーイッシュな感じの青いショートカットの女性だ

こんなキャラGXにいたっけか？

誠「あのう、、、どちら様でしょうか？」

この体の記憶の中にもこんな女性の記憶は存在しない

まったくもって初対面の女性なのだが

女性「ひどいな、あんなに長年パートナーをしているのに」

すごくフレンドリーに話をしてくる

誠「パートナー、、、だって」

女性「そうだよ、、君がそう言ってくれたんじゃないか、エースだのパートナーだの相棒だの」

この体の持ち主はもしかして手が早かったのか？

って待てよ

エースだ相棒だって呼んでたって事はまさか

誠「ま、、、まさか、、メガロック・ドラゴンなのか」

女性「そうだよ、、君のデッキのエースモンスター、メガロック・ドラゴンの精霊だよ」

ＯＨ　ジーザス

まさか俺にデュエルモンスターズの精霊というオプションが付いてくるとは

神様いい仕事してる

でも文句があります

誠「なんで女性なんだ〜〜〜〜〜」

メガロック・ドラゴン（ちょっと長いので以後精霊の方はメガロックと書きます）「な、、どうしたのいきなり」

誠「なんで俺の相棒メガロック・ドラゴンが擬人化（萌えキャラ）になってるんだ〜〜〜」

しかも俺が生前愛していたマブラヴの柏木さんにそっくりじゃないか

正直言うと嬉しいさ、嬉しいよ、パートナーの精霊が柏木さんなんだもん

でも

誠「受け入れられね〜〜〜〜〜〜」

神のはからいなのか？それともミスか？

とにもかくにも一発分殴ってやりたくなってきた

メガロック「どうどう、、落ち着こうよ」

誠「悪い、かなり取り乱していた」

フ～フ～と肩で息をしていたがどうにか落ち着きを取り戻してきた

メガロック「それじゃあ落ち着いたところで」

いつぞやの俺の時のように右腕を俺に差し出すメガロック・ドラゴン

メガロック「コレからよろしくね、、誠」

誠「あぁ、、よろしくな」

ギュッとメガロック・ドラゴン（女人化）と握手を交わす

まぁ人間になったのは逆にこうやってコミニケーションが取れるからいいかな

第０３話えぇい、オリキャラはどうでもいい、原作キャラを出せ原作キャラを

主人公の精霊登場、スイマセン趣味まるだしな展開で。やっぱ主人公キャラにデュエルモンスターズの精霊はつき物と思ったんですがふと自分のデッキを見てみると人間型が一人もいない、だったらいっそネタとして擬人化させてしまおうとした結果がメガロックなんです。

次の話もデュエルないです、とりあえず設定でものせようかと思ってます。

キャラ設定（前書き）

主要キャラとなる2人が出てきたのでここで改めてキャラ紹介をのせようと思います。
小説を読んで気づいている人もいるかと思いますが私のルックスを文章で表現するのがメチャクチャ下手です。

それではどうぞ

キャラ設定

小野寺（おのでら）　誠（まこと）
１５歳男

デュエルアカデミアのオシリスレッド１年生

身長高めでガタイがよい。

黒い短めの髪に黒い瞳。顔つきはゆるめな優男風。

体は１５歳だが魂は１９歳、不幸な事故により死んでしまったが神様の計らいでＧＸの世界で２度目の精を満喫中。

重度のオタクだがとても熱血漢溢れる性格。

意外な特技を多々所有。

空栗（からくり）　真間（しんま）
１５歳男

デュエルアカデミアのオシリスレッド１年生

誠とは違い少し鋭い目つきをしている。

誠と同じく身長高めでガタイがよい。

若干茶色がかった短髪の黒髪、瞳の色は赤。

誠とは幼馴染であったが中学の頃に生き別れとなる、その後デュエルアカデミアで同じ寮の同じ部屋に配属される。

誠以上に熱血漢でまじめではあるが融通が利かないわけでもない。

誰よりもデュエルという物を愛している、それゆえデュエルを汚すものに対しては鬼の形相で怒る。

ちなみに名前はカラクリマシンをもじったものである。

キャラ設定（後書き）

とりあえずこんなものです。レギュラーキャラが増えるたびに設定の説明を使用と思いますが今回はこんなところです。

それではまた次回に。次回はデュエルがあります。

第０４話チームバトル始動～炸裂！友情の二千万パワー～（前書き）

今回も連続投稿です。ついにあの万丈目さんが出てきます。

とりあえずコレを書いたらレンタルビデオ屋行って原作の流れを再確認したいと思います。

第０４話チームバトル始動～炸裂！友情の二千万パワー～

誠「アレ？」

メガロックとの絆を深めたところで部屋に戻ろうとしたら隣の部屋から一人の生徒が出てきた

同じ寮の仲間なので俺は声を掛けてみることにした

誠「こんばんは」

レッド生徒「おう、こんばんは」

って十代じゃないか、遊城　十代

原作主人公との友情フラグｋｔｋｒ

誠「俺は隣の部屋の誠、小野寺　誠だ」

十代「俺は遊城　十代、よろしくな」

よくみてみると十代の腕にはデュエルディスクが付いていた

これからデュエル？

まてよ、今日は確か入寮生の歓迎会が開かれた

そして夜遅くに十代がデュエルディスクを持って出かける

つまり、これから万丈目とデュエルに行くのか

誠「ところでこれからどっかに出かけるのか、デュエルディスクなんかもって」

十代「あぁ、、デュエルに誘われたんでな」

ビンゴ、予想通りだ

誠「面白そうだ、、俺もつて行っていいか?」

十代「あぁ、、いいぜ」

真間「っというわけにもいかんだろう」

十代・誠「「え!?」」

ちょうど俺と十代の間にわって入るように真間が部屋から出てきた

真間「いつまでたってもルームメイトが戻ってこず心配になって探しに行こうと思ったら、、まったく」

誠「十代、、紹介するぜ、こいつは俺のルームメイトにして俺の幼馴染の空栗　真間だ」

十代「真間か、、俺は遊城　十代、よろしくな」

真間「あぁ、、ところでこんな夜遅くにどこに行くんだ、とっくによい子は寝る時間だと思うが」

アレ、真間ってこんな堅物だったっけ？

中学校の時は……いい意味でも悪い意味でもやんちゃだった記憶があるのだが

まさか再開した親友の精神はバリバリにメタルっすか

十代「これからオベリスクブルーの生徒とデュエルなんだぜ」

アチャ～～～、天然少年遊城　十代には真間の堅物オーラがぜんぜんよめてない

真間「まったく」

そういって真間は部屋からデュエルディスクを2つ取り出しひとつを俺に渡した

誠「え？」

真間「校則違反は学生のステータス、、、さぁ、デュエルに行こうぜ」

さすがは親友話がわかりすぎる

十代につれられ俺たちはだだっ広いデュエル場にたどり着く

「よく来たなドロップアウトボーイ」

誰もいないはずの校内に声が響き渡る

この声、たとえ死んでも忘れはしない、まぁ1度死んでいるのだが

十代「やってきてやったぜ万丈目」

万丈目「さんだ」

ウオ～～～～～～ブルーの制服のサンダーだ

万丈目「ん、、、さっき見なかった顔がいるがそいつらはお前の子分か？」

十代「違うぜ、、誠達は俺の友達さ」

会って数分の人間を友達と呼ぶとは恐るべき主人公スキル

「ッヘン、お前達ドロップアウト組みが何人束になっても万丈目さんにはかなわないぞ」

あ、すっかり忘れ去られるが万丈目の取り巻きその1その2だ

リアルで出会うと本当小物オーラが目に見えるようにわかる

万丈目「向こうも3人こちらも3人か、、、ちょうどいいチームバトルをしないか」

真間「チームバトル？」

万丈目「そうだ、、こちらとそちらの代表が1人づつデュエルを行い勝利数が多いチームの勝ちだ」

柔道の試合のようなものだな

万丈目「負けたチームは勝ったチームにデッキの中の1番高価なレアカードを渡す、それでいいな」

チョットまて、それってアンティー・ルールじゃないか

校則で禁止されてるし俺はアンティーは好きじゃない

誠「チョットそのルー」

真間「いいだろう」

おい！！俺の台詞の途中で真間が承諾しやがった

誠「真間、どういう事だ、、アンティーは校則違反だし俺は反対だぞ」

真間「冷静に考えてみろ、、この勝負でやつらに勝って“レアカードはいらねーよ”って言ってみろ、あいつらのエリート意識をぶち壊せる上メチャクチャかっこいいと思わないか？」

完全に目がきらめいてるよこいつ

聞く耳持たずだ

誠「負けたらどうする」

真間「大丈夫、俺たちなら勝てる」

幼馴染の俺ならまだしも初対面の十代の実力をお前はしらんだろう

誠「まぁいい、、、、それじゃあ最初は俺から行かせてもらうぜ」

デッキをシャッフルしデュエルディスクにセットし構える

万丈目「最初は誰から行く?」

取り巻きその1「自分から行かせてもらいます」

万丈目の取り巻きの一人がデュエルディスクを構えて俺の前に立つ

誠「俺の名前は小野寺　誠、そっちは?」

取り巻き1「古鮫(こさめ)　番(ばん)だ」

なるほどコバンザメですか

しかし原作キャラ最初の相手がまさか万丈目の取り巻きの一人とは

誠・番「「デュエル」」

まぁいいや、とにかく楽しむぜ

誠「先行は俺がもらうぜ、、、ドロー」

ヤバイ、開始手札全部モンスターじゃん

まぁいいか、どうにでもなる

誠「モンスターを裏守備でセットしてターンエンド」

番「おいおい、早速守備を固める気か？」

アレ？もしかして今俺挑発されてた？

仮にそうだったとしても蚊ほども効いてねーし

俺のデッキは守備を固めるデッキだしな

番「俺のターン、、不意打ちの又佐召喚」

相手の場に緑色の鎧をまとった武士が現れた

不意打ち又佐
レベル３闇属性
戦士族
攻撃力１３００守備力８００
効果
このカードは１度のバトルフェイズ中に２回攻撃する事ができる。
このカードは表側表示でフィールド上に存在する限り、コントロールを変更する事はできない。

番「さらに又佐にデーモンの斧を装備」

相手がデュエルディスクにカードを差し込むと立体映像の又佐の手に頭蓋骨がはめ込まれた斧が握られる

デーモンの斧
装備魔法
装備モンスターの攻撃力は１０００ポイントアップする。
このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリースする事でデッキの一番上に戻す。

不意打ち又佐
攻撃力１３００→２３００

誠「すごいな、攻撃力２３００で2回攻撃できる上コントロールも奪えない」

番「ハハハハハ、コレがブルーの実力だ、バトル、又佐で相手裏守備モンスターを攻撃」

敵の攻撃宣言とともに又佐の姿が消えていく

そして次の瞬間俺の裏守備モンスターの後ろ側に現ればっさりとカードごと切っていった

誠「ッグ、俺のモンスターは巨大ネズミだ」

不意打ち又佐　攻撃力２３００＞巨大ネズミ　守備力１４５０

誠「巨大ネズミの効果発動、このカードが戦闘で破壊されたときデッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスターを表側攻撃表示で自分フィールドに特殊召喚することができる、現れろ、激昂のムカムカ」

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

激昂のムカムカ
地属性レベル５
攻撃力１２００守備力６００
自分の手札１枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

誠「そして特殊召喚されたムカムカは俺の手札１枚につき攻撃力・守備力が４００ポイントアップする、俺の手札は５枚、よって攻撃力は３２００」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→３２００
守備力６００→２６００

巨大ネズミにはいつもお世話になってます

ムカムカを効率良く呼ぶだけではなく状況に応じて様々なモンスターを呼び出すことが出来る

俺のデッキ１の過労死モンスターだ

誠「どうする、攻撃を続けるか」

番「攻撃力３２００のモンスターをよんだからっていい気になるなよ、俺は手札から速攻魔法収縮を発動させる、、対象は貴様の激昂

のムカムカ、、、コレで攻撃力が半分の１６００だ、バトル続行又佐でムカムカに攻撃」

再び又佐が攻撃を仕掛けてくる

今度は正々堂々と真正面から斧を振り上げて襲い掛かってきた

誠「迎え撃て、ムカムカ」

飛び掛ってきた又佐の腹に大きなはさみを走らせそのまま真っ二つに又佐を切断するムカムカ

番「な、何故又佐がやられた、攻撃力はこっちのほうが上のはず」

誠「俺のムカムカのステータスを良く見てみるんだな」

番「ん」

激昂のムカムカ
攻撃力２６００　守備力２６００

番「何故だ？収縮の効果で攻撃力を下げたはず」

誠「確かに下がったさ、、だが収縮のテキストをもう1度読み直してみろ」

番「なんだと」

収縮
速攻魔法
フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターの元々の攻撃力はエンドフェイズ時まで半分になる。

誠「収縮はあくまでもともとの攻撃力を半分にするカード、俺のムカムカは攻撃力が上がっているがもともとの攻撃力は１２００、そこにパワーアップ効果で攻撃力が２０００上乗せ状態だから収縮の効果で攻撃力は６００ポイントしか下がらない」

番「そ、そんな～」

不意打ちの又佐　攻撃力２３００＜激昂のムカムカ　攻撃力２６００

番
ＬＰ４０００－３００＝３７００

試験官みたいに突進を自分モンスターに使用すれば違ったものを

つーかちゃんと現状見てから行動しろよ、見切り発車しすぎだ

番「俺はカードを1枚セットしてターンエンドだ」

誠「俺のターン、ドロー」

さて、あのリバースはこけおどしかそれとも罠か

まぁ俺の行動は決まっている

誠「俺の手札が6枚に増えたことでムカムカの攻撃力は３６００に上がる」

激昂のムカムカ
攻撃力３２００→３６００
守備力２６００→３０００

誠「バトルだ、、ムカムカでダイレクトアタック、アングリーブロー」

番「うわ～～～～」

激昂のムカムカ　攻撃力３６００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

番
ＬＰ３７００－３６００＝１００

アレ？コレってアレか、原作キャラに舞い降りる奇跡スキル鉄壁のライフ発動ですか？

たった１００ポイントが、たった９８ポイントのライフが削れないという恐るべき執念じみた修正発動させてしまいましたか？

番「俺がダメージを受けた瞬間トラップ発動、ダメージ・コンデンサー」

相手の場に伏せてあったカードが大きく起き上がる

ダメージ・コンデンサー
通常罠
自分が戦闘ダメージを受けた時、手札を１枚捨てて発動する事ができる。その時に受けたダメージの数値以下の攻撃力を持つモンスター１体をデッキから攻撃表示で特殊召喚する。

番「その効果で俺は今受けたダメージの３６００以下の攻撃力のモンスターをデッキから特殊召喚できる、俺はデッキからレアメタル・ドラゴンを特殊召喚」

相手の場のカードから激しい電撃が発生し大きな光球になる

そしてその光球からメタルの輝きを放つ黒き竜が姿を現す

レアメタル・ドラゴン
レベル４闇属性
ドラゴン族
攻撃力２４００守備力１２００
効果
このカードは通常召喚できない。

誠「俺はモンスターを１体守備表示でセットしターンエンドだ」

激昂のムカムカ
攻撃力３６００→３２００
守備力３０００→２４００

番「俺のターン、、俺はレアメタル・ドラゴンを生け贄にグレート魔獣ガーゼットを召喚」

相手がデュエルディスクにモンスターカードをおくと突如レアメタル・ドラゴンの背中から日々が生えガバ～～～っと開いてそこから腕を組み仁王立ちした魔人が姿を現した

グレート魔獣ガーゼット
レベル６闇属性
悪魔族
攻撃力０守備力０

このカードの攻撃力は、生け贄召喚時に生け贄に捧げたモンスター１体の元々の攻撃力を倍にした数値になる。

番「レアメタル・ドラゴンを生け贄に召喚したガーゼットの攻撃力は４８００に」

グレート魔獣ガーゼット
攻撃力０→４８００

番「バトルだ、ガーゼットでムカムカを攻撃、、苦痛の強酸！！」

ガーゼットの口から緑色の毒々しい液体が発射されムカムカにかかるそれをくらったムカムカはもだえながら溶けていき俺のフィールドから消えていった

グレート魔獣ガーゼット　攻撃力４８００＞激昂のムカムカ　攻撃力３２００

誠
ＬＰ４０００－１６００＝２４００

やばいって、ライフはまだ俺のほうが買ってるけど攻撃力４８００

って何の冗談だよ

社長の嫁究極体を殴り殺せるなんて反則だぜ

番「ターンエンドだ」

誠「俺のターン、ドロー、、モンスターを裏守備でセットしターンエンドだ」

番「ハハハハハ、ガーゼットの前ではいかなるモンスターも無力だ、、俺のターン、手札を1枚捨て閃光の双剣トライスをガーゼットに装備」

腕を組んでいたガーゼットがそれをときその手に小さめの剣が2つ握られる

番「閃光の双剣トライスの効果で装備モンスターの攻撃力はダウンするがこのモンスターは1度のバトルフェイズで2回攻撃することが出来る」

閃光の双剣トライス
装備魔法
手札のカード1枚を墓地に送って装備する。装備モンスターの攻撃力は５００ポイントダウンする。装備モンスターはバトルフェイズ中に2回攻撃する事ができる。

グレート魔獣ガーゼット

攻撃力４８００→４３００

番「バトル、、グレート魔獣ガーゼットで右側の裏守備モンスターに攻撃」

誠「俺のモンスターはメデューサ・ワームだ」

メデューサ・ワーム
地属性レベル２
岩石族
攻撃力５００守備力６００
効果
このカードは１ターンに１度だけ表側守備表示にする事ができる。このカードが反転召喚に成功した時、相手フィールド上のモンスター１体を破壊する。

グレート魔獣ガーゼット　攻撃力４３００＞メデューサ・ワーム
守備力６００

ガーゼットの放った毒液によって溶かされてゆくメデューサ・ワーム

気のせいかここんとここのカードをただの壁としてしか使えてない気が

何度でも使える人喰い虫なのだから強力なんだぞ

まぁ効果を使うことなく破壊されてしまう俺が悪いのだが

番「続けて残った裏守備に攻撃」

再びガーゼットが俺のモンスターに毒液をはく

誠「待っていたぜ、、俺の守備モンスターはメタモルポット」

俺の場に伏せてあったカードが起き上がり大きな壷の形のモンスターになる

メタモルポット
地属性レベル２
岩石族
攻撃力７００守備力６００
効果
リバース：お互いの手札を全て捨てる。その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを5枚ドローする。

ガーゼットの毒液をくらいどろどろにとけメタモルポットが破壊される

誠「メタモルポットのリバース効果を発動、、互いのプレイヤーは

手札をすべて捨て新たに5枚ドローする」

さて、何が出るかな

番「フン、君のおかげで手札がだいぶ肥えたよ、リバースカードを2枚セットしターンエンドだ」

誠「俺のターン、、ドロー」

相手のライフが１００あまった時は鉄壁のライフスキル発動とびびったが所詮はほぼ背景キャラ

そんな主人公クラスの恩恵を受けている事はない

誠「マジック発動、、大嵐」

激しい旋風がフィールドに巻き起こる

そしてその風が相手フィールドのリバースカードを破壊する

大嵐
通常魔法
フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て破壊する。

誠「そして俺は墓地に眠る岩石族モンスターを5枚ゲームから除外しメガロック・ドラゴンを特殊召喚」

メガロック（まったく、夜も遅いんだから早く決めちゃってよ）

誠（あぁ、、このターンで決める）

俺の後ろから先ほど仲良くなったメガロック・ドラゴンの精霊が俺のフィールドにダッシュしモンスターゾーンに付いた頃には萌えキャラとはかけ離れたルックスのごっつい岩のドラゴン変形した

メガロック・ドラゴン
地属性レベル７
岩石族
攻撃力?守備力?
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる。

つーか今もしかしいて十代に見られたか?確かあいつも精霊見えるはずだし

まぁ、向こうから聞かれない限り黙っておこう、まさか自分の切り札の精霊が女人化してるなんて自分から言えたもんじゃないしな

誠「メガロック・ドラゴンは特殊召喚する際ゲームから除外したモンスターの数×７００ポイントの数値となる」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?↓３５００

番「しかしそれでは俺のガーゼットの足元にも及ばないぞ」

誠「別にそいつを倒す必要はないさ、、、俺は手札からマジックホール・ゴーレムを通常召喚する」

俺のフィールドに大きなサークルが現れそれが高速回転し手足が生えマジックホール・ゴーレムに姿を変えた

マジックホール・ゴーレム
レベル３地属性
岩石族
攻撃力０守備力２０００
効果
１ターンに１度、自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター１体を選択して発動する事ができる。選択したモンスターはエンドフェイズ時まで攻撃力が半分になり、このターン相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。
この効果を発動するターン、選択したモンスター以外のモンスターは攻撃する事ができない。

誠「マジックホール・ゴーレムの効果発動、、俺はメガロックドラゴンの攻撃力を半分にする、その代わりターン終了時までメガロック・ドラゴンは相手プレイヤーにダイレクトアタックできるようになる」

メガロック・ドラゴン
攻撃力３５００→１７５０

誠「バトルだ、、メガロック・ドラゴンで相手プレイヤーに直接攻撃」

俺の攻撃宣言と同時にメガロック・ドラゴンの目の前にマジックホールゴーレムが移動する

そして相手プレイヤーの目の前にブラックホールのような物が発生する

誠「アースカノン・ディメンション！！！！！」

メガロック・ドラゴンの口から放たれた光線がマジックホールゴーレムのおなかの穴に吸い込まれる

そして相手プレイヤーの目の前に現れたブラックホールから少し小さくなった光線が出現し相手プレイヤーを貫く

番「うわ～～～～～」

番
ＬＰ１００－１７５０＝－１６５０

誠「ウォッシャ～～～～～～～～～～～～～～～」

ガッツポーズと同時に雄たけびを上げる

誰もいない会場なのですごく声が響いた

番「クソ、、俺がレッドごときに負けるとは」

誠「古鮫」

番「なんだ」

誠「最高に熱いデュエルだったぜ、、ありがとな」

互いのデュエルをたたえ握手しようとしたが

番「フン」

俺の出した手を無視し万丈目の元に戻る古鮫

ひどいな、差し出した手を無視するとは

番「すいません万丈目さん、、負けてしまいました」

万丈目「何、、まだ1敗だ、残る試合を俺たちが勝てばいい話だ」

番「ありがとうございます万丈目さん」

そのありがとうをどうして俺に言ってくれなかったのかね

とりあえず俺も仲間たちの下に戻ることにした

十代「スゲーな誠、楽しいデュエルだったぜ」

別に俺とデュエルしたわけではないが十代は俺に対して“ガッチャ”をしてくれた

真間「しばらく会わないうちに又腕を上げたみたいだな」

誠「あぁ、、俺の作った勢い消さないでくれよ」

真間「あぁ、、だったら次は俺だな」

デュエルディスクを構えて今度は真間が戦いの場に向かった

続く

第０４話チームバトル始動～炸裂！友情の二千万パワー～（後書き）

ふと思ったんですが原作キャラがモンスターの必殺技名を叫ぶときはやっぱ思いつきで叫んでいるんでしょうか？私も必殺技名はひらめきで書いているんですが。原作のカードに実は必殺技名が書かれているとか謎は深まるばかりです。

それではまた次回をお楽しみにしてください。ちなみに次回はオリカが出てきます。

第０５話オリカ登場、クレームを受ける覚悟は十分だ（前書き）

久しぶりにアニメの遊戯王ＧＸを見たんですがすごく懐かしくつい見るのに没頭してしまいました。クレイマンのカードがアニメの方の絵柄がカッコイイ。

今回はオリカが出てきます。っというよりもう一人の主人公真間のデッキはオリカメインです。

タイトルどおりクレームを受ける覚悟は十分です。

第０５話オリカ登場、クレームを受ける覚悟は十分だ

チームバトル１戦目は俺が勝利して終わった

さて、次は幼馴染の真間の出番だ

視線変更～真間～

さて、誠が作ってくれた勢いを消さないためにもがんばらないな

真間「さぁ、、俺の相手は誰だ」

取り巻き２「貴様の相手は僕だ」

なんだ、１番偉そうな万丈目じゃないのか

まぁいい、、万丈目出番なくこのチームバトルを終わらせてやるぜ

真間「さぁ、、楽しいデュエルのしようぜ、俺の名は空栗　真間」

取り巻き２「僕の名は取巻（とりまき）　健二（けんじ）」

さて、アカデミア初のデュエルと行きますか

真間・健二「「デュエル」」

健二「僕のターン、、幻獣王ガゼルを攻撃表示で召喚」

幻獣王ガゼル
レベル４地属性
獣族
攻撃力１５００守備力１２００
効果なし

健二「ターンエンドだ」

真間「俺のターン、、ブロンズアーム・スマッシャーを攻撃表示で召喚」

俺のフィールドに骨組みのような体にごっついハンマーが腕部に取り付けられたロボットが現れる

ブロンズアーム・スマッシャー　（オリジナル）
レベル４地属性
機械族

攻撃力１７００守備力４００
効果なし

真間「バトル、ブロンズアーム・スマッシャーでガゼルを攻撃」

ブロンズアーム・スマッシャーがその大きな腕を振り上げガゼルをペシャンコにした

ブロンズアーム・スマッシャー　攻撃力１７００＞幻獣王ガゼル
攻撃力１５００

健二
ＬＰ４０００－２００＝３８００

健二「フ、、少しは出来るようだな」

真間「少しだけじゃないさ、、リバースカードを1枚伏せてターンエンド」

健二「俺のターン、、暗黒のマットドックを召喚」

天から巨大な犬小屋が相手フィールドに降ってきてその小屋を突き破り巨大なワンコが現れた

暗黒のマットドック
レベル４闇属性
獣族
攻撃力１９００守備力１４００
効果なし

健二「バトルだ、、マットドックよブロンズアーム・スマッシャーを噛み砕け」

ヨダレぼたぼたたらしながら狂犬が俺のモンスターに迫ってくる

がんばりすぎだろう海馬コーポレーション、怖えーって

真間「リバースカードオープン、スクランブル・ブースター」

スクランブル・ブースター　（オリジナル）
通常トラップ
自分フィールド上のモンスターが攻撃を受けるとき発動できる。攻撃を受けるモンスターが装備可能なユニオンモンスターが手札に有る場合そのユニオンモンスターを魔法・罠ゾーンに置きそのモンスターに装備させることが出来る。

真間「俺は手札の強化支援メカ・ヘビーウェポンをブロンズアーム・

スマッシャーに装備させる」

強化支援メカ・ヘビーウェポン
レベル３闇属性
機械族
攻撃力５００守備力５００
効果：ユニオン
１ターンに１度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上の機械族モンスターに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。この効果で装備カード扱いになっている場合のみ、装備モンスターの攻撃力・守備力は５００ポイントアップする。１体のモンスターが装備できるユニオンは１枚まで。装備モンスターが破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。

俺の場に飛行機っぽいロボットが飛翔しブロンズアーム・スマッシャーの背中に着地し装備される

ブロンズアーム・スマッシャー
攻撃力１７００→２２００

真間「迎え撃て、ブロンズアーム・スマッシャー」

暗黒のマットドック　攻撃力１９００＜ブロンズアーム・スマッシ

ヤー　攻撃力２２００

健二
ＬＰ３８００－３００＝３５００

健二「ッグ、、確かに、少しどころでなく出来るようだな、、リバースカードを2枚伏せてターンエンドだ」

真間「俺のターン、、ミサイルスナイパーを召喚」

ブロンズアーム・スマッシャーの隣にロケットランチャーをかかえたロボットの兵士が現れる

ミサイルスナイパー　（オリジナル）
闇属性レベル４
機械族
攻撃力１５００守備力１０００
効果
自分フィールド上のミサイルトークン1体を生け贄にささげることで相手フィールド上のモンスター1体の攻撃力をターン終了時まで５００ポイントダウンさせる。

真間「バトル、、モンスター2体でダイレクトアタック」

健二「させるか、、リバースカードオープン、、聖なるバリア〜ミラーフォース〜」

聖なるバリア〜ミラーフォース〜
通常トラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。相手フィールド上に存在する攻撃表示モンスターを全て破壊する。

相手の場にバリアのようなものが展開され俺のモンスター2体の動きを止める

健二「破壊されるがいい」

ドカ〜〜〜ンと土煙が上がる

真間「しかし、ブロンズアーム・スマッシャーに装備されているヘビーウェポンの効果を発動、、このカードを装備しているモンスターが破壊されるとき変わりにこのカードが身代わりとなる」

土煙を貫きブロンズアーム・スマッシャーが相手プレイヤーに襲い掛かる

ブロンズアーム・スマッシャー
攻撃力２２００↓１７００

健二「うわ～～～～」

ブロンズアーム・スマッシャーの巨大な腕が相手プレイヤーに襲い掛かる

まぁソリッドビジョンなんで痛みはないと思うが

ブロンズアーム・スマッシャー　攻撃力１７００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

健二
ＬＰ３５００－１７００＝１８００

健二「おのれ～～、レッドの癖に僕にここまで傷を負わせるとは」

怨念をこめた視線をこちらぬ向ける健二

健二「僕のターン、、モンスターを1体裏守備でセットしターンエンドだ」

真間「俺のターン、、一気に攻めるぜ、赤腕の機械兵を召喚」

俺の場にブロンズアーム・スマッシャーより一回り小さいフレームのボディーに赤い腕パーツが取り付けられたロボットが現れる

赤腕の機械兵　（オリジナル）
レベル４地属性
機械族
攻撃力１５００守備力３００
効果
守備表示モンスターを攻撃した時、このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を越えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

真間「バトル、、赤腕の機械兵で相手モンスターを攻撃」

健二「僕のモンスターは巨大ネズミだ」

お！！誠と同じモンスターだ

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

赤腕の機械兵のパンチが巨大ネズミを粉砕しその破片が相手プレイヤーに襲い掛かる

健二「グッ」

赤腕の機械兵　攻撃力１５００＞巨大ネズミ　守備力１４５０

健二
ＬＰ１８００－５０＝１７５０

健二「巨大ネズミが戦闘で破壊されたことで効果発動、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスターを１体特殊召喚する」

さて、何をよんでくる

誠みたいに激昂のムカムカか？

健二「もう１体巨大ネズミを召喚」

相手の場に再び巨大ネズミが現れた

なんだ、ただデッキ圧縮要因なのか

真間「続けてブロンズアーム・スマッシャーで巨大ネズミに攻撃」

大きな腕で巨大ネズミをプレスするブロンズアーム・スマッシャー

ブロンズアーム・スマッシャー　攻撃力１７００＞巨大ネズミ　攻撃力１４００

健二
ＬＰ１７５０－３００＝１４５０

健二「巨大ネズミの効果で再び巨大ネズミを召喚する」

これで相手の巨大ネズミは出し尽くしたわけだ

真間「リバースカードを２枚伏せてターンエンドだ」

健二「俺のターン、、巨大ネズミを生け贄にささげ、いでよ暗黒のマンティコア」

巨大ネズミが渦に包まれその渦の中から二足歩行のライオンが姿を現す

暗黒のマンティコア
レベル６火属性
獣戦士族
攻撃力２３００守備力１０００
効果

このカードが墓地に送られたターンのエンドフェイズ時に発動する事ができる。獣族・獣戦士族・鳥獣族のいずれかのモンスターカード1枚を手札または自分フィールド上から墓地に送る事で、墓地に存在するこのカードを特殊召喚する。

真間「なるほど、巨大ネズミは生け贄要因でもあったのか」

健二「バトルだ、、マンティコアで赤腕の機械兵を攻撃、、ダークブラスト」

マンティコアのアゴが開きそこから漆黒の炎が放たれ赤腕の機械兵に向かって飛んでくる

真間「リバースカードオープン、ゲットライド」

ゲットライド
通常トラップ
自分の墓地に存在するユニオンモンスター1体を選択し、自分フィールド上に表側表示で存在する装備可能なモンスターに装備する。

真間「この効果で俺は墓地のヘビーウェポンを赤腕の機械兵に装備する」

赤腕の機械兵

攻撃力１５００→２０００

健二「それでもマンティコアの攻撃力のほうが上だ」

暗黒のマンティコア　攻撃力２３００＞赤腕の機械兵　攻撃力２０００

真間
ＬＰ４０００－３００＝３７００

真間「ヘビーウェポンの効果で装備モンスターが破壊されるとき身代わりになる」

健二「僕はメイン2に闇の量産工場を発動」

闇の量産工場
通常魔法
自分の墓地に存在する通常モンスター2体を選択して発動する。選択したモンスターを自分の手札に加える。

健二「墓地のガゼルとマットドックを回収する」

なるほど、獣バニラデッキか

巨大ネズミでデッキを圧縮し暗黒のマンティコアで攻めバニラ系獣モンスターをコストにマンティコアを維持おそらく凡骨の維持もデッキに入っているだろう

真間「俺のターン、、、俺はモンスターを2体生け贄にささげ、シルバーフィスト召喚」

俺の場のモンスター2体が巨大な渦を巻きその中心から全身銀で統一されたカラーリングのちょっと派手な甲冑っぽい機械族モンスターが降臨した

シルバーフィスト　（オリジナル）
光属性レベル7
機械族
攻撃力2500守備力2200
効果
自分フィールド上の機械族モンスター2体を生け贄にささげることで相手フィールド上のモンスターを全て破壊する。

真間「バトル、シルバーフィストでマンティコアに攻撃」

シルバーフィストがその白銀のこぶしでマンティコアの体を貫く

シルバーフィスト　攻撃力2500＞暗黒のマンティコア　攻撃力2300

健二
ＬＰ１４５０－２００＝１２５０

健二「ック」

真間「俺のエンドフェイズだが」

健二「もちろん暗黒のマンティコアの効果を使わせてもらう、手札のガゼルを墓地に送り復活」

相手の場に再びマンティコアが召喚された

しかも攻撃表示で、つまり次のターンで俺のシルバーフィストをどうにかする自信があるという事だ

健二「俺のターン、、俺は手札の融合を発動させる」

融合
通常魔法
手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター１体をエクストラデッキから特殊召喚する。

健二「俺は手札のビック・コアラとデス・カンガルーを融合し、現

れろ、マスター・オブ・ＯＺ」

相手フィールドの上空にまがまがしい渦が現れそこからボクサーグローブをはめた巨大なコアラが降ってきた

マスター・オブ・ＯＺ
レベル９地属性
獣族
攻撃力４２００守備力３７００
融合　ビック・コアラ＋デス・カンガルー
効果なし

やばい、とんでもない化け物がやってきやがったぜ

健二「バトルだ、ＯＺでシルバーフィストに攻撃」

シュッシュっと軽く素振りをした後マスター・オブ・ＯＺのこぶしがシルバーフィストを押しつぶした

はっきりいってパンチなんてレベルじゃないです、スケールが違いすぎる

マスタ・オブ・ＯＺ　攻撃力４２００＞シルバーフィスト　攻撃力２５００

真間
ＬＰ３７００－１７００＝２０００

健二「止めだ、マンティコアでダイレクトアタック」

相手フィールドのマンティコアが俺に向かって飛びか勝て来る

真間「リバースカードオープン、リビングデッドの呼び声、この効果で墓地に眠るシルバーフィストを再び召喚する」

ボコボコっと地面から先ほど破壊されたシルバーフィストが再び俺のフィールドに姿を現す

リビングデッドの呼び声
永続トラップ
自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

健二「命拾いをしたな、、コレでターンエンドだ」

番「この状況で逆転なんて無理無理、さっさとサレンダーするんだな」

向こうサイドからヤジが飛んでくる

サレンダー？冗談

勝てる試合なのにどうして降参しないといけない

真間「俺のターン、、俺は手札の儀式魔法戦場への黒煙発動（いくさばへのこくえん）」

戦場への黒煙　（オリジナル）
儀式魔法
無敵母艦　ＡＴ－Ｘの降臨に必要。場か手札から、レベルの数が合計７個以上になるようカードを生け贄に捧げなければ、無敵母艦ＡＴ－Ｘは降臨できない。

真間「俺は手札のメカ・ハンター（レベル４）と古代の巨大兵器（レベル４）を生け贄に無敵母艦　ＡＴ－Ｘを攻撃表示で特殊召喚」

立体映像の海が突如フィールドに現れそこから巨大な母艦が水を大量に巻き上げながら姿を現す

無敵母艦　ＡＴ－Ｘ　（オリジナル）
レベル８水属性
機械族
攻撃力２６００守備力３０００
効果
自分ドローフェイズ時デッキからカードを１枚ドローする代わりに

デッキからレベル４以下の機械族モンスターを手札に加えることができる。このカードが表側守備表示の時手札の機械族モンスターを１体を特殊召喚することができる。

真間「さらに俺は強化支援メカ・ヘビーウェポンを通常召喚」

健二「ッハ、たとえどんなモンスターが相手であろうと、僕のマスターオブ・ＯＺには敵わない」

真間「シルバーフィストのモンスター効果発動」

俺の台詞をトリガーにその体を震わせるシルバーフィスト

健二「シルバーフィストの効果だと」

真間「そうだ、、シルバーフィストは自分フィールド上の機械族モンスター２体を生け贄にささげることで相手フィールド上のモンスターを全て破壊することが出来る、、、俺はＡＴ－Ｘとヘビーウェポンを生け贄にする」

俺が指定したモンスターが光の球となりシルバーフィストの右腕に吸収される

そしてその右腕がグングン大きくなりマスター・オブ・ＯＺのグローブにも負けないくらいの大きさとなった

真間「いけ～～～、シルバリオブレイク！！！」

その大きな腕を相手フィールドにたたきつけるシルバーフィスト

次の瞬間相手の場のモンスターは全て木端微塵になり消えていった

真間「まだだ、、、俺のバトルフェイズ、シルバーフィストで相手プレイヤーにダイレクトアタック」

先ほど大きくなった腕がすっかり元の大きさに戻ったシルバーフィストが今度は左腕で相手プレイヤーにストレートをぶちかました

健二「うわ～～～～～」

シルバーフィスト　攻撃力２５００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

健二
ＬＰ１２５０－２５００＝－１２５０

真間「ウオッシ！！！！」

ガっとガッツポーズで勝利ポーズをとる

視線変更～誠～

真間が見事にデュエルに勝利した

コレで俺たちレッド寮チームの勝ちが決定した

コレで十代のデュエルがなくなってしまったのだが

コレってもしかして原作クラッシュ？

などと思っているとなぜか万丈目がデュエル場に立っていた

万丈目「おい、何をしている、、遊城　十代、俺とデュエルしろ」

勝敗が決まっているのになぜかデュエルをしようとする万丈目

おそらく1勝でもしてブルーの面目を保とうとしているのか

誠「だってよ、、十代、ご氏名だぜ」

十代「あぁ」

真間「3戦3勝でパーフェクトゲームになる、頼んだぜ」

十代「まかせとけって」

その後は原作どおり十代のフレイム・ウィングマンが1ターン目で敵にコントロールを奪われ大ピンチになるもどうにか現状を巻き返し万丈目が地獄将軍メフィストを召喚した時点で守衛が巡回にやってきて勝負は中断

その際万丈目が

万丈目「この勝負、判定で俺の勝ちだ、、、、そしてリーダーが勝ったんだから先ほどの2敗も帳消しで俺達ブルーチームの勝利だ、、しかしアンティーの件は許してやる、、命拾いしたな」

っと勝手なことを言って去っていった

ちょっと待てよ、いつからこのチームバトルはメダロットのロボトルになったんだよ?Ｍｒウルチは?

って俺たちは今明日香につれられ校舎の外に逃げ込んでいた

真間「危なかったぜ」

先ほど校則違反は学生のステータスとか言ってた真間もさすがにつかまるのだけは勘弁だったようだ

明日香「危なかったわね、、もし守衛が巡回に来なかったらあなた負けてたわよ」

十代「そうでもないさ」

さて、原作だとここで十代が死者蘇生のカードで逆転できたという

んだがここで間違いを正さねば

フレイム・ウイングマンは融合召喚でしか召喚できないカード

そのことを指摘しなければ

十代「俺が引いたカードはフュージョンリカバリーだ」

フュージョンリカバリー
通常魔法
自分の墓地に存在する「融合」魔法カード1枚と、融合に使用した融合素材モンスター1体を手札に加える。

十代「そして手札にはバーストレディがいたからフェザーマンと融合を回収して再びフレイム・ウィングマンで勝てたってわけさ」

アレ？死者蘇生を引いたんじゃないんだ

もしかして俺というイレギュラーのせいで少しゆがみが生じたのかな？

その後俺たちは軽く自己紹介を済ませそれぞれの寮に戻っていった

こうしてデュエルアカデミアのとても騒がしい初日は終了したのであった。

第０５話オリカ登場、クレームを受ける覚悟は十分だ（後書き）

この小説では当時制限だったカードとかは使わず現時点での制限・禁止を参考に参考にしています。ですが死者蘇生や強欲な壺が懐かしいです。アニメで強欲な壺が発動するたびに当時は本当カードの効果が強烈だったと実感します（サンダーボルトしかりブラックホールしかりハーピーの羽箒しかりサイバーポット……等）

次回そろそろあの有名キャラを出そうかと思ってます。それではまた次回もよろしくお願いします。ご愛読ありがとうございます。

第０６話階級なんてただの飾りです、偉い人にはそれがわからないんですよ（前

いつもご愛読ありがとうございます。

こないだうめ吉さんから第５話の感想で真間の手札が増えているという指摘を受けてしまいました。読み返すと確かに手札が矛盾していました。

コレを気にチョット書式を変えてみようと思います、貴重なアドバイスをくれたうめ吉さん、本当にありがとうございます。

現在１０話近くまで書いていたんですが急ピッチ作業で書式を変更しています。

とりあえず６話が出来ましたのでどうぞ。

第０６話階級なんてただの飾りです、偉い人にはそれがわからないんですよ

拝啓お袋様

俺がデュエルアカデミアに入学し１週間がたちました

レッド寮の人たちともすっかり打ち解け生前とあわせて２度目の高校生活をエンジョイしてます

何より幼馴染に真間と再会できたのはすごく驚きでした

それと主人公キャラである十代とは部屋が隣同士で今ではいい友達関係です

それと学校内で行われるデュエルも楽しくて仕方ありません

日常生活の中にデュエルがあるというのはすごく刺激的です

無論連戦連勝です

強靭、無敵、最強っと叫びたくなるくらいです

そしてとある昼休み

俺は購買でドローパンを買い何が出るのかわくわくしながら開けようとした

ブルー生徒「お前がぶつかったせいで右肩脱臼したじゃねーか」

突如購買に叫び声が響き渡る

よくみるとオベリクスブルーの生徒がオシリスレッドの生徒に絡んでいた

レッド生徒「だから、ごめんなさいって謝ったじゃないですか」

ブルー生徒「ゴメンですんだら裁判はいらないんだよ」

なんか、ずいぶんと古い時代を思い出させてくれるガラの悪い男だ

ブルーの生徒は身長は俺よか少し低いくらい

髪型はチョットオールバックでまるで蛇のようにネッチネチと執念深いエリート様だぜ俺と言わんばかりの小物キャラ丸出しの顔

レッドの生徒は絡んでくださいといわんばかりのひ弱オーラを放っている

前髪の1部が刺々しい形をし側面から後頭部にかけてツララが垂れ下がって整列してるかのような髪形をしている

だがいかんせん顔が気弱くさい

髪形だけ見るととてもモブではなくメインキャラっぽい

まぁ、2人とも見覚えがないからきっと原作キャラじゃないんだろうな

ブルー生徒「慰謝料代わりに貴様のデッキからレアカード1枚いただいていくぞ、確かクイーンズ・ナイトを持ってたよな、それをよこせ」

レッド生徒「そんな」

ブルー生徒「お前のような雑魚に持ってもらうより俺が持っていたほうがそのカードも喜ぶというものだ」

ブルーの生徒は無理やりレッドの生徒からカードを奪おうとする

レッド生徒「やめてください、、このカードは、このカードは友人から貰った大切なカードなんです」

ブルー生徒「オシリスレッドの分際でオベリクスブルーの生徒に歯向かうのか」

だんだん雲行きが怪しくなってきた

ブルーの生徒はレッドの生徒に回りから見えないように肘打ちやら膝蹴りやら暴行を加えていく

レッドの生徒は恐怖におびえ耐えしのぐことしか出来なくなっている

ブルー生徒「カードをよこせ」

さすがに限界だった
正直こんな馬鹿パンチで顔面でもつぶせばいいんだ
「待つんだ」
誠「んぁ！！」
戦闘態勢に入っていたため見ず知らずのラーイエローの生徒に声を掛けられたが思わずガンつけてしまった
イエロー生徒「あのブルーの生徒にかかわらないほうがいい」
誠「何でだよ」
イエロー生徒「あいつの名は毒島、オベリクスブルーの生徒なんだがかなり柄が悪くあぁやって自分よりも格下の生徒をいじめる経歴の持ち主だ、デュエルと喧嘩が強く周りの生徒は皆あいつの言いなり状態だ、下手に動かないほうがいい」
誠「警告ありがとう、、、、でも悪い、そんな話聞いたらますます止まれなくなっちまったぜ」
ラーイエローの生徒の警告を無視し俺は毒島とオシリスレッドの間に割って入った
毒島「あぁ、、誰だ貴様」
誠「貴様のようなゲスに覚えてもらう名前なんてねーよ」

毒島「部外者だろうが、、口出すんじゃねーよ」

どすの聞いた声を出しながら俺の胸倉をつかむ毒島

おい、その腕さっき脱臼したんじゃないのかよ

毒島「正義の味方気取りなら怪我しないうちに退散しな」

誠「正義の味方なんかじゃねーよ、、、、貴様専属の処刑人だ」

俺は胸倉をつかんでいるその男の親指を握り逆間接の方向に曲げていった

毒島「あいてててててててて」

悲痛な声を上げながら膝を突く

誠「おい、、、さっさと逃げろ」

レッド生徒「は、、はい」

俺の言葉を聴きものすごいスピードで逃げていったオシリスレッドの生徒

誠「さてと」

逃走を確認し俺は毒島の指を解放する

でんぐり返しをするかのように俺から離れ再び俺にメンチをきってくる毒島

毒島「貴様、、、レッドの風情でブルーに手を上げたな」

誠「貴様の階級など関係ない、、むしろ、ブルーだレッドだ言う前に人間性を少しは上げたらどうだ」

毒島「この！！！！！」

拳を振り上げ俺に向かってくる毒島

俺も迎え撃つつもりでファイティングポーズを取る

イエロー生徒「そこまでだ！！！！！」

俺と毒島の間に先ほどのラーイエローの生徒が入ってきた

毒島「さっきからお前たちは何なんだよ」

イエロー生徒「お前たち、、ここはデュエルアカデミアだぞ、そして俺たちデュエリストはこの腕で誰かを傷つけるんじゃない、デュエルをするんだろう、、ここまで言えばわかるよな」

毒島「フフ、、なるほど、そういう事か」

含みの有る笑みをこぼしながら毒島はデュエルディスクを構える

毒島「デュエルで決着をつければいいんだな、いいだろう、、俺が勝ったらお前のデッキをいただこうか」

こいつ、アンティールールは校則で禁止なのに

しかもデッキ丸々でか

誠「いいだろう、、俺が勝ったらどうする」

毒島「ハァ?オシリスレッドがオベリクスブルーの俺に勝てるわけないだろう、そんな話するだけ無駄無駄」

このやろう

誠「それじゃあ俺が勝ったらテメーのデッキを貰おうか」

毒島「ッハ、デッキといわず俺の持ってるカード全部くれてやるよ」

こいつ、完全に俺の事をなめてやがる

誠「その言葉、、、忘れるなよ」

俺はデッキをシャッフルする

誠（メガロック、、ちょっといいか）

メガロック（何?）

デッキをシャッフルしながら俺は心の中でメガロックと会話する

誠（悪い、お前たちをアンティーにして今デュエルすることが決まった、、、、そしてコレは楽しむデュエルでない、俺個人の感情で行われるデュエルだ、そんな私情なデュエルにお前たちを巻き込んですまないと思っている）

メガロック（な～～に、私たちは後悔しないよ、、弱い者を守るために戦う誠の志は私好きだよ、それに、、私もあいつをぶっ飛ばしたかったところだから）

誠（悪いな、こんな危険な事に巻き込んで）

メガロック（大丈夫、、誠は絶対に負けないから）

誠「ヨッシ、行くぜ相棒！！！」

デュエルディスクにカードをセットする

誠＋毒島「「デュエル！！！！！」」

誠
ＬＰ４０００

毒島
ＬＰ４０００

毒島「俺のターンドロー、俺はお注射天使リリーを召喚する」

誠「リ、リリーだと」

相手の場にでっかい注射器を抱えた女の子のようなモンスターが姿を現す

お注射天使リリー
地属性レベル３
魔法使い族
攻撃力４００守備力１５００
効果
このカードが自分・相手のターンに戦闘を行う場合、そのダメージステップ時に発動する事ができる。２０００ライフポイントを払う事で、このカードの攻撃力はダメージ計算時のみ３０００ポイントアップする。

毒島「さらにリバースカードを1枚セットしターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法・トラップ　なし

毒島
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　お注射天使リリー
魔法トラップ　リバース×１

お注射天使リリーかよ、ライフポイント４０００の世界でそのカードは使い勝手悪くないか

１度効果を使うだけで致命傷だぞ、ライフ８０００の生前の世界でさえ効果の多用は死につながるカードだぞ

っつーとあのリバースカードは回復系カードか？

誠「俺のターン、ドロー」

うわ、、いやらしいカード引いちゃった

誠「俺はロックストーン・ウォリアーを召喚、そのままバトルだ、ロックストーン・ウォーリアーでお注射天使リリーを攻撃」

敵の場のリリーに向かってロックストーン・ウォリアーが突進していく

毒島「所詮はレッド、無謀に突っ込んでくるしか脳がない、俺はリリーの効果を発動、ライフポイントを２０００ポイント払うことでリリーの攻撃力を３０００ポイントアップさせる」

毒島の台詞の後にリリーの注射器がボンっと倍の大きさに膨れ上がる

毒島
ＬＰ４０００－２０００＝２０００

お注射天使リリー
攻撃力４００↓３４００

毒島「ロックストーン・ウォリアーを向かい打てリリー、、診察の時間！！！」

リリー「お注射よ」

リリーがバーチャロンのテムジンのごとく波乗りするかのように巨大化した注射器に乗り突進してくるロックストーン・ウォーリアーを轢いて破壊した

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＜お注射天使リリー　攻撃力３４００

毒島「フハハハハ、差分の１６００ダメージをくらってもらおうか」

誠「それ無理」

俺は相手にも見えるようにデュエルディスクのＬＰ表示部分を前に突き出す

毒島「何、何故ライフが減らないんだ」

誠「ロックストーン・ウォリアーが戦闘を行う場合俺に発生する戦

闘ダメージは０になる」

ロックストーン・ウォリアー
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１８００守備力１６００
このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。このカードの攻撃によってこのカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、自分フィールド上に「ロックストーン・トークン」（岩石族・地・星１・攻／守０）２体を特殊召喚する。このトークンはアドバンス召喚のためにはリリースできない。

毒島「何だと！！！」

こいつ本当にオベリクスブルーなのか？

つーかいやな組み合わせだよなリリーにロックストーン・ウォリアーって

他にもアマゾネスの格闘戦士といいアマゾネスの剣士といい戦闘ダメージ０にする系のカードは天敵だよなリリー

誠「そしてロックストーン・ウォリアーが攻撃した戦闘によって破壊されたので俺の場にロックストーン・トークンが２体特殊召喚される」

ロックストーン・ウォリアーの破片が集まって2つの岩の塊となり俺の場にとどまる

誠「俺はリバースカードを1枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・トークン×２
魔法トラップ　リバース×１

毒島
ＬＰ２０００
手札４枚
モンスター　お注射天使リリー
魔法トラップ　リバース×１

しかし踏んだり蹴ったりだな

せっかくライフを２０００支払ったのに相手にはダメージを与えられず

しかも壁モンスターが新たに出来たので次のターンにダイレクトも決めることが出来ず

コントのような喜劇だ

毒島「俺のターン、、斬首の美女を召喚」

相手の場に大きな刃物を持った女性モンスターが姿を現す

何だろう、何故かあぁいった大きな刃物を見ていると無性に“嘘だ！！！”っとすごい形相で叫びたくなる

斬首の美女
地属性レベル４
戦士族
攻撃力１６００守備力８００
効果なし

つーかここはリリーを生け贄に上級モンスターを呼ぶんじゃないのか？

毒島「そのままバトル、斬首の美女とリリーでロクストーン・トークンを攻撃」

ってリリー守備にしないのかよ、ライフ２０００なんだから少しは慎重になれよ

斬首の美女　攻撃力１６００＞ロックストーン・トークン　守備力０
お注射天使リリー　攻撃力４００＞ロックストーントークン　守備力０

毒島「カードを1枚セットしてターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

毒島
ＬＰ２０００
手札４枚
モンスター　お注射天使リリー、斬首の美女
魔法トラップ　リバース×２

誠「俺のターン、、ドロー」

クソ、こういう時にモアイ迎撃砲が欲しいのに手札にない

誠「俺はモンスターを裏側守備表示でセット、さらにリバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

毒島
ＬＰ２０００
手札４枚
モンスター　お注射天使リリー、斬首の美女
魔法トラップ　リバース×２

毒島「どうした、、防戦一方か、俺のターン、、異次元の女戦士を召喚」

敵の場にブラックホールのようなものが現れる

そしてそこから片腕に包帯を巻いたブロンドの女戦士が降ってきた

やっとまともなモンスターを出してきたか

異次元の女戦士
光属性レベル４
戦士族
攻撃力１５００守備力１６００
効果
このカードが相手モンスターと戦闘を行った時、そのモンスターとこのカードをゲームから除外する事ができる。

つーかもしかしてやつのデッキってハーレムデッキ？

全男性デュエリストなら誰もが１度は考える女性モンスターのみをデッキに詰め込んだデッキ

生前俺の友達が何人もこのデッキを作ったが誰もが挫折をしていった

回りづらいしたとえうまく回せたとしてもモンスター個々の能力に難有りと言う悲惨な結果であった

あと不思議とアマゾネス系のカードは絶対に入れないというポリシーを全員持っていた

何でもアマゾネス系を１枚でも入れたらそれはハーレムデッキでなくアマゾネスデッキになってしまうからだという粋なこだわりを全員持ってたからである

しかしそんな使いづらいハーレムデッキを使っているやつがいるとは、しかもオベリクスブルーの生徒で

毒島「さらにそれだけじゃないぞ、手札から融合を発動」

融合
通常魔法
手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター１体をエクストラデッキから特殊召喚する。

融合だと、何を召喚するんだ

毒島「俺は場の斬首の美女と手札の心眼の女神を融合」

心眼の女神か、、ありとあらゆる融合素材の代わりになるモンスターか

心眼の女神
光属性レベル４
天使族
攻撃力１２００守備力１０００
効果
このカードを融合素材モンスター１体の代わりにする事ができる。
その際、他の融合素材モンスターは正規のものでなければならない。

って、何をよんで来るつもりだ？

毒島「戦場の死装束を特殊召喚」

ちょっと待てコラ、何無駄なことをしている貴様

戦場の死装束
地属性レベル６
戦士族
攻撃力１９００守備力１７００
融合　音女＋斬首の美女
効果なし

毒島「ハハハハハ、いきなりモンスターがパワーアップして驚いているようだな」

まぁ確かに驚いたは

手札２枚消費して攻撃力３００アップはアドバンテージが取れてないにも程がある

まだ伝説の剣をつけたほうがましだぞ

毒島「バトルだ、、異次元の女戦士で裏守備モンスターに攻撃」

異次元の女戦士が剣を振り上げ俺のセットモンスターに迫ってくる

誠「リバースカードオープン、、リアクティブアーマー」

俺の場に伏せてあったカードを1枚解放する

すると異次元の女戦士が光だしフィールドから消滅した

リアクティブアーマー

通常トラップ

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。その攻撃モンスター1体を破壊する。

本当に強いよなこのカード、攻撃したモンスターを無条件で破壊するという

制限か準制限になってもいいと思うけどな

まぁアンチトラップカードも結構いるしそれはないか

毒島「っく、、ならば戦場の死装束でセットモンスターに攻撃」

大剣を振り上げ俺のモンスターに迫ってくる死装束

誠「俺のセットモンスターはマインゴーレムだ」

マイン・ゴーレム
地属性レベル３
岩石族
攻撃力１０００守備力１９００
効果
このカードが戦闘によって墓地に送られた時、相手ライフに５００ポイントダメージを与える。

死装束の大剣を受け止めるマインゴーレム

戦場の死装束　攻撃力１９００＝マイン・ゴーレム　守備力１９００

毒島「俺はこのままターンを終了する」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　マイン・ゴーレム
魔法トラップ　リバース×１

毒島
ＬＰ２０００
手札２枚
モンスター　お注射天使リリー・戦場の死装束
魔法トラップ　リバース×２

ってちょっと待て、リリー攻撃表示のままかよ

誠「俺のターン、巨大ネズミを攻撃表示で召喚」

よし、リクルーターがやってきた

少しはデッキ展開が出来るぞ

誠「バトルフェイズ、巨大ネズミでお注射天使リリーを攻撃」

大きく振りかぶり手に持ってた頭蓋骨をリリーに投げ飛ばす巨大ネズミ

毒島「バカめ、リリーは守備表示にし忘れたんじゃなくお前の攻撃を誘うためにあえて攻撃表示にしたんだよ、、、トラップ発動、マジックシリンダー！！！」

マジックシリンダー
通常トラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。相手モンスター1体の攻撃を無効にし、そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

巨大な筒が突如発生し巨大ネズミが投げた頭蓋骨をすくっていった

その後俺の頭上にもうひとつ大きな筒が現れそこから先ほどの頭蓋骨が落下し俺の頭に直撃する

誠「あいた」

誠
ＬＰ４０００－１４００＝２６００

俺の頭に直撃した頭蓋骨は2，3回バウンドし巨大ネズミの手元に戻った

チョット申し訳なさそうにこっちを振り向く巨大ネズミ

畜生、チョットかわいいじゃねーか

誠「俺はコレでターンエンドだ」

誠
ＬＰ２６００
手札３枚
モンスター　マイン・ゴーレム、巨大ネズミ
魔法トラップ　リバース×１

毒島
ＬＰ２０００

手札２枚
モンスター　お注射天使リリー・戦場の死装束
魔法トラップ　リバース×１

毒島「俺のターン、、行くぜ、リリーを生け贄にささげ月の女戦士を召喚」

リリーの体がエネルギーの渦に包まれ渦が晴れるとそこには大きな剣と盾を持ち白い甲冑に身を包んだ女戦士が立っていた

月の女戦士
闇属性レベル６
戦士族
攻撃力２１００守備力１４００
効果
光属性モンスターと戦闘をする場合、ダメージステップの間このカードの攻撃力は１０００ポイントアップする。

毒島「バトルだ、月の女戦士でマイン・ゴーレムに攻撃、ムーンライトセイバー」

月の女戦士「ハ～～～」

凛々しい声とともに剣を振り下ろす女戦士

その剣によってマイン・ゴーレムの体は綺麗に真っ二つにされた

月の女戦士　攻撃力２１００＞マイン・ゴーレム　守備力１９００

誠「しかしこの瞬間マイン・ゴーレムの効果で相手プレイヤーに５００ポイントのダメージを与える」

マイン・ゴーレムが激しく爆発を起こしその余波で敵のライフを奪っていく

毒島「ッグ！！」

毒島
ＬＰ２０００－５００＝１５００

毒島「なんの、戦場の死装束よ、、巨大ネズミに攻撃」

再び巨大な刃物が俺のフィールドに舞う

その刃は俺の巨大ネズミのどてっぱらを真っ二つに切り裂いた

戦場の死装束　攻撃力１９００＞巨大ネズミ　攻撃力１４００

誠
ＬＰ２６００－５００＝２１００

誠「巨大ネズミが戦闘で破壊された瞬間俺はデッキから激昂のムカムカを特殊召喚する」

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター１体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

激昂のムカムカ
地属性レベル５
攻撃力１２００守備力６００
自分の手札１枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

誠「激昂のムカムカは俺の手札1枚のつき攻撃力が４００ポイント上がるカード、俺の手札は3枚、よって攻撃力は２４００」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→２４００　守備力６００→１８００

毒島「カードを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ２１００
手札3枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×１

毒島
ＬＰ１５００
手札2枚
モンスター　戦場の死装束、月の女戦士
魔法トラップ　リバース×２

誠「俺のターン、ドロー」

毒島「貴様のスタンバイフェイズにリバースカードオープン、、覇者の一喝」

相手の場のリバースカードが起き上がりそこからいかついおっさんがこちらに向かって渇を飛ばしてきた

誠「ック」

覇者の一喝から発せられたビリビリと風のような衝撃を受け少しひるんでしまう

覇者の一喝
通常トラップ
相手スタンバイフェイズで発動する事ができる。発動ターン相手はバトルフェイズを行う事ができない。

誠「ドローしてムカムカの攻撃力が上がったがバトルが行えない」

激昂のムカムカ
攻撃力２４００→２８００

誠「俺はリバースカードを1枚セットしターン終了」

激昂のムカムカ
攻撃力２８００→２４００

誠
ＬＰ２１００
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

毒島
ＬＰ１５０
手札２枚
モンスター　戦場の死装束、月の女戦士
魔法トラップ　リバース×１

毒島「俺のターン、、リバースカードを１枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ２１００
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

毒島
ＬＰ１５００
手札２枚
モンスター　戦場の死装束、月の女戦士
魔法トラップ　リバース×２

誠「俺のターン、ドロー」

とりあえず手札が１枚増えてムカムカの攻撃力が上がる

激昂のムカムカ
攻撃力２４００→２８００

だがモンスターを又攻撃表示のままだと、誘いっているのか

誠「バトルフェイズだ、、激昂のムカムカで戦場の死装束に攻撃」

毒島「おっと、トラップ発動、デモンズ・チェーン」

ムカムカの周りの空間に無数の穴が開きそこから鎖が飛び出しムカムカの体に巻きついていった

毒島「ハハハハ、コレで貴様のモンスターの効果と攻撃を封じたぞ」

デモンズ・チェーン
永続トラップ
フィールド上に表側表示で存在する効果モンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターは攻撃する事ができず、効果は無効化される。選択したモンスターが破壊された時、このカードを破壊する。

激昂のムカムカ
攻撃力2800→1200

くそ、コレじゃあ攻撃できない

誠「バトルフェイズを終えてメイン2に入る」

クソ、もしかしてこいつのデッキ女性モンスターメインだが実はトラップ等でサポートしまくるハーレム・パーミッションデッキなのか？

しかしこんな戦い方をしたやつを俺はどこかで見た気がする

そうだ、確かデュエルマスターズのミミだ、黄昏　ミミ

最初はかわいい系カードを出しまくり相手を油断させ後半でごっついクリーチャーでデストロイするという奇襲じみた戦法

“油断か、怒りか、いずれにせよそんなものにふりまわされるお前

は最低のデュエリストだ”

サンキュー三国、目が覚めたぜ

誠「だったら、もうおくさないぜ、俺はモンスターを裏守備でセット、さらにリバースを3枚セットしてターンエンド」

誠
ＬＰ２１００
手札０枚
モンスター　激昂のムカムカ、裏守備１体
魔法トラップ　リバース×５

毒島
ＬＰ１５００
手札２枚
モンスター　戦場の死装束、月の女戦士
魔法トラップ　デモンズ・チェーン、リバース×１

毒島「このターンで終わらせてやるよ、、俺のターン、リバースを１枚セットしバトルだ、月の女戦士で激昂のムカムカに攻撃、ムーンライトセイバー」

誠「リバースカードオープン、和睦の使者」

伏せカードの１枚が表になりそこから３人の修道女らしき女性がバ

リアを張る

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは0になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

毒島「ちぃ、、しのいだか、ターンエンドだ」

誠
LP2100
手札0枚
モンスター　激昂のムカムカ、裏守備1体
魔法トラップ　リバース×4

毒島
LP1500
手札3枚
モンスター　戦場の死装束、月の女戦士
魔法トラップ　デモンズ・チェーン、リバース×1

誠「俺のターン、手札をさらに1枚伏せモンスターを反転召喚、メタモルポット」

さっきのターン伏せていたモンスターを表側表示に変更する

メタモルポット
地属性レベル２
岩石族
攻撃力７００守備力６００
効果
リバース：お互いの手札を全て捨てる。その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを５枚ドローする。

誠「互いのプレイヤーは手札をすべて捨て新たに５枚ドローする」

毒島「なるほど、だから手札をすべて場に伏せたのか」

誠「まぁ、それもあるけどな、、つーかこのターンで決めるぜ」

毒島「なんだと」

誠「リバースカードオープン、、ハリケーン」

ハリケーン
通常魔法
フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て持ち主の手札に戻す。

フィールドに大きな風が巻き起こり互いのマジック・トラップゾーンのカードがすべて持ち主の手札に戻る

毒島「ま、、まさか貴様の狙いは」

誠「そう、、メタモルポットとハリケーンのコンボで手札を大量増強、さらにお前の場のリバースカードも撤去しムカムカを復活させ攻撃力の上昇、、一石四鳥くらいのスーパーコンボだ」

俺の目の前のムカムカがムクムクっと大きくなっていく

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→４８００

すごいぜ、神以上の攻撃力、究極体の社長の嫁やマシンナーズ・フォースにも負けないぜ

誠「バトルだ、、、激昂のムカムカで月の女戦士に攻撃、アングリーブロー」

巨大になったムカムカが月の女戦士に向かって鋏、っというよりハンマーで月の女戦士を叩き潰した

毒島「うわ～～～～～～～」

激昂のムカムカ　攻撃力４８００＞月の女戦士　攻撃力２１００

毒島
ＬＰ１５００－２７００＝－１２００

ＬＰが０になりその場にガックしと膝を突く毒島

誠「さて、、、それじゃあ約束だ」

容赦なく俺は毒島の胸倉をつかみがんを飛ばす

誠「おい、カード全部貰うのは勘弁してやる、、、だが今まで誰かから奪っていったカード全部持ち主に返しこれから2度と弱いものいじめをしないと誓え」

毒島「ッグ」

誠「返事は?」

毒島「わ、、、わかった」

若干涙目なっている、ちょっとやりすぎたか

誠「じゃあ、、さっさとカードを返してこい」

毒島「ッグ」

覚えていろっと言わんばかりの情けない表情でその場から去っていく毒島

イエロー生徒「いや～～～、かっこいいな君は」

先ほどデュエルを持ちかけたラーイエローの生徒が話をかけてきた

誠「ありがとう、、君がデュエルを持ちかけていなかったら俺はきっとあいつを病院送りにしていた」

イエロー生徒「いいや、俺は何もしてないさ」

誠「しかし、、、普通レッドの生徒をブルーの生徒にけしかけるか？言ってしまえば向こうはエリートこっちは劣等生だぜ」

イエロー生徒「いいや、君なら勝ってくれると信じてたさ」

誠「何ゆえ？」

イエロー生徒「君は知らないかもしれないがレッド寮の遊城　十代に小野寺　誠、それと空栗　真間の3人はデュエルアカデミア新入生にてブルー相手でも未だ不敗の伝説を持つちょっとした有名人なんだ」

知らなかった、俺と真間が原作主人公と肩を並べられる存在だったとは

誠「ところで、、君の名は？」

イエロー生徒「そう言えば自己紹介がまだだったな、俺は三沢、、

三沢　大地だ」

ＯＨさっきまで頭に血が上ってて気がつかなかったがあの三沢さんじゃありませんか

初期の頃は秀才デュエリストにして主人公のライバルという位置付けキャラであったがだんだん陰が薄くなり、それでも何気に本編に出てきてみんなから愛されるキャラだったのに光の結社の時に万城目ホワイトサンダーとのデュエルでわざと負けていこう人気と出番を失い挙句の果てにはちょっと出てすぐ退場を繰り返すあの三沢さんではないか

生前このキャラ好きだったんだよな

よし、ここで三沢との友情フラグをたて光の結社での惨劇を回避するんだ

正解率１パーセントの謎に挑め！！！違うか

誠「知ってると思うけど俺は小野寺　誠だ、よろしく三沢」

三沢「あぁ」

ガシっと三沢と握手を交わす

誠「ただいま～～～～～」

デュエルを追え部屋に戻るとまだ真間は帰っていないようだ

「ウッス、大将、、、おかえり」

そして見知らぬ女性があぐらをかいていた

誰だ?見たことないから原作キャラではないのは確かだ

身の丈はメガロックと同じくらい

服装はデュエルアカデミアの女子の服でなくオレンジ色のハッピを着ている

顔立ちはきりっとしていて健康的な小麦色とまではいかないが少しやけ気味の肌

そして鉢巻にポニーテール

誠「あの、、どちら様でしょうか?」

女性「嫌だな～～、さっき一緒に戦った仲じゃねーか」

やっぱデュエルモンスターズの精霊のようです

さっき一緒に戦ったって事はさっきのデュエルで使ったカードのどれかだな

女性「最後の一撃、、スカッとしたね、鎖で縛られた時はどうなる

かと思ったけど」

最後の一撃、鎖で縛られた

誠「もしかして、、激昂のムカムカか？」

女性「っそ、、私は激昂のムカムカだ」

そうですか、俺のデッキのメインアタッカームカムカさんですか

誠「ウガ～～～～～～～～～～～～～～～」

ムカムカ「ど、どうした」

誠「何で又精霊が女人化（萌えキャラ）してるんだ～～～～～～」

しかも又俺好みな萌えキャラだし

誠「神のヤロ～～～～、ぜって～許さねー」

ムカムカ「落ち着けって、そうカッカすんなよ、、、、、、まぁ激昂のムカムカの私が言えた事じゃないけどな」

豪快に腹を抱えて笑い出すムカムカ

正直白けて先ほどの怒りが消えてしまった

その日の晩

誠「このカードをどう入れようかな～～」

俺は今デッキの調整のためカード達とにらめっこの真っ最中だった

「コンコン」

夜も少し遅いのに珍しくドアからノックをする音が聞こえた

誠「ハ～～～イ」

あわててでてみるとそこには今朝毒島にいじめられていた男子生徒が立っていた

誠「ん、、どうした」

レッド生徒「あのう、、今朝はありがとうございます」

そういって深く頭を下げるレッドの生徒

誠「気にすんな、、俺は俺のやりたい事をやった、それだけだ」

レッド生徒「それでも、、、僕は助かりました、本当にありがとうございます」

又頭を深く下げるレッド生徒

誠「俺の名は誠、小野寺　誠だ、、、君は」

レッド生徒「君島（きみしま）　昭二（しょうじ）です」

うん、やっぱ聞いたことない名前だな

原作キャラでなくモブでしたかやっぱり

この小説でも今後出てくるかどうか

昭二「それじゃあ僕これからデッキの調整があるので」

誠「そうか、、、完成したらテストもかねて俺とデュエルしないか」

昭二「いいですよ、、、その時はよろしくお願いします」

そういって昭二は俺の部屋から去っていった

誠「さて、、それじゃあデッキ調整の続きとでもいきますか」

こうして俺のデッキ調整は深夜まで続いた

第０６話階級なんてただの飾りです、偉い人にはそれがわからないんですよ（後）

僕らのアイドル（？）三沢君登場、書いてて思ったんですがやっぱ三沢君ってストーリーにからめずらい（ｏｒｚ）原作よりは出番を増やしたいと思ってます。

そして主人公の宿敵キャラ（？）毒島君、彼は今後も何かと誠にからんできます、言うならばずっと初期の万丈目さん。

最後に２人目の精霊登場、ムカムカのイメージはチャキチャキの江戸っ娘といった感じです、ハイ作者の趣味又全開です。ふとデッキを見直したら伝説の柔術家という人型モンスターがいましたが女人化精霊モンスターの方がネタ的に面白いのでこのまま続けたいと思います。

それでは次回もよろしくお願いします。冬将軍でした。

第07話いろんな人とデュエルしたけど、私は元気です（前書き）

書式を変えて最初の小説で野良猫さんに毒島のリバースの数が1枚足りないと指摘されたので修正しました、ちなみに最初のターンからずっと伏せてたあのリバースはフォース・フィールドでずっと発動することなくデュエルが終わっています。

それでは7話をお楽しみください。

第07話いろんな人とデュエルしたけど、私は元気です

真間「なぁ、、誠、俺とデュエルしようぜ」

誠「んあ？」

部屋でデッキを調整をしていると急に真間が話しかけてきた

真間「ここに来てお前とデュエルしたことないな～～～って思ってな」

誠「そういえばそうだな」

確かにここに来て数週間デュエルをした事がなかったな

同じ部屋でいろいろとカードについて語り合ったりしたがデュエルは1度もない

キン肉マンとテリーマンみたいだな

まぁいい、コレを機会にちょっとデュエルしてみるか

誠「ちょうどデッキ調整も終わったところだ、、いいぜ」

真間「それじゃあ」

誠・真間「「デュエル」」

誠
ＬＰ４０００

真間
ＬＰ４０００

誠「俺のターン、モンスターを裏守備で１枚セットしリバースカード１枚セットしてターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

真間
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

まぁレッド寮の一室だからデュエルディスク使ってデュエルするわけではなくじゅうたんの上にカードを並べるだけのデュエルだ

真間「俺のターン、ブロンズアーム・スマッシャー召喚」

ブロンズアーム・スマッシャー（オリジナル）
レベル４地属性
機械族
攻撃力１７００守備力１０００
効果なし

真間「ブロンズアーム・スマッシャーで裏守備に攻撃」

誠「俺のモンスターは伝説の柔術家だ」

伝説の柔術家
レベル３地属性
攻撃力１３００守備力１８００
効果
守備表示のこのカードと戦闘を行ったモンスターは、ダメージステップ終了時に持ち主のデッキの一番上に戻る。

ブロンズアーム・スマッシャー　攻撃力１７００＜伝説の柔術家
守備力１８００

真間
ＬＰ４０００－１００＝３９００

誠「さらに伝説の柔術家の効果で攻撃してきた相手モンスターをデッキの1番上に戻すぜ」

真間「アチャ～～～～、やっちまったぜ、リバースを1枚セットしてターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　伝説の柔術家
魔法トラップ　リバース×１

真間
ＬＰ３９００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

誠「俺のターン、いいタイミングで来てくれたぜ、モアイ迎撃砲を召喚、、バトルフェイズだぜ、モアイ迎撃砲でダイレクトアタック、イースターレーザーキャノン」

真間「うぐぉ！！！！」

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

真間
ＬＰ３９００－１１００＝２８００

誠「そしてメインフェイズ２でモアイ迎撃砲を守備表示にするぜ」

モアイ迎撃砲
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１１００守備力２０００
効果
このカードは１ターンに１度裏側守備表示にする事ができる。

真間「相変わらず恐ろしい効果だぜ」

誠「ターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　伝説の柔術家、裏守備×１

魔法トラップ　リバース×１

真間
ＬＰ２８００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

真間「俺のターン、リバースカードを1枚セットしターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　伝説の柔術家、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

真間
ＬＰ２８００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

誠「俺のターン、ロックストーン・ウォリアーを召喚!!」

真間「この瞬間リバースカードオープン、激流葬」

激流葬
通常トラップ
モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚された時に発動する事ができる。フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

誠「うわ～～～～～～、だからモンスターを出さなかったのか、ターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

真間
ＬＰ２８００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

真間「俺のターン、、、ブロンズアーム・スマッシャーを再び召喚しダイレクトアタックだ」

ブロンズアーム・スマッシャー　攻撃力１７００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

誠
ＬＰ４０００－１７００＝２３００

マジィ、この出費は痛い

真間「ターンエンドだ」

誠
ＬＰ２３００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

真間
ＬＰ２８００
手札４枚
モンスター　ブロンズアーム・スマッシャー
魔法トラップ　リバース×１

誠「俺のターン、、モンスターを裏側守備表示でセット、さらにリバースカードを1枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ２３００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

真間
ＬＰ２８００
手札４枚
モンスター　ブロンズアーム・スマッシャー
魔法トラップ　リバース×１

真間「俺のターン、古代の巨大兵器を召喚」

古代の巨大兵器（オリジナル）
レベル４地属性
機械族
攻撃力２０００守備力１００
効果
自分フィールド上にこのカード以外の機械族モンスターが表側表示で存在しない場合このカードを破壊する。このカードは自分フィールド上のこのカードよりも攻撃力が低いカードが全て攻撃するまで攻撃をする事はできない。このカードは自分フィールド上のこのカ

ードよりも攻撃力が高いカードが攻撃した後には攻撃できない。

真間「バトル、ブロンズアーム・スマッシャーで裏守備モンスターに攻撃」

誠「俺のモンスターは巨大ネズミだ」

ブロンズアーム・スマッシャー　攻撃力１７００＞巨大ネズミ　守備力１４５０

誠「巨大ネズミが戦闘で破壊された事により効果発動、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスターを特殊召喚する、来い激昂のムカムカ」

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

激昂のムカムカ
地属性レベル５
攻撃力１２００守備力６００
自分の手札１枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

ムカムカ（ッオ！！私の出番だね）

後ろで何か喋っていたが特に気にしない

黙々とデュエルを続ける

誠「俺の手札は3枚、激昂のムカムカの攻撃力は２４００」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→２４００　守備力６００→１８００

真間「手札を伏せすぎだぜ誠、、トラップ発動、スクランブル・ブースター」

スクランブル・ブースター（オリジナル）
通常トラップ
自分フィールド上のモンスターを1体対象に発動。対象モンスター

が装備可能なユニオンモンスターが手札に有る場合手札からそのモンスターを対象モンスターに装備することができる。

真間「俺はヘビー・ウエポンを古代の巨大兵器に装備」

強化支援メカ・ヘビーウェポン
レベル３闇属性
機械族
攻撃力５００守備力５００
効果：ユニオン
１ターンに１度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上の機械族モンスターに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。この効果で装備カード扱いになっている場合のみ、装備モンスターの攻撃力・守備力は５００ポイントアップする。１体のモンスターが装備できるユニオンは１枚まで。装備モンスターが破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。

古代の巨大兵器
攻撃力２０００→２５００

真間「バトルを続ける、古代の巨大兵器で激昂のムカムカに攻撃」

誠「なんの、リバースカードオープン、強制脱出装置」

強制脱出装置
通常トラップ
フィールド上に存在するモンスター1体を持ち主の手札に戻す。

誠「手札を伏せすぎだがその分罠を仕掛けているんだぜ」

真間「うかつだった、ヘビーウエポンは破壊される場合身代わりになるがバウンズには対応しない、ターンエンドだ」

誠
ＬＰ２３００
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×１

真間
ＬＰ２８００
手札４枚
モンスター　ブロンズアーム・スマッシャー
魔法トラップ　なし

誠「俺のターン、手札が1枚増えてムカムカの攻撃力は上がるがロ

ックストーン・ウォリアーを召喚するから結局２４００どまりだ、すかさずバトル、、ムカムカでブロンズアーム・スマッシャーに攻撃」

激昂のムカムカ　攻撃力２４００＞ブロンズアーム・スマッシャー　攻撃力１７００

真間
ＬＰ２８００－７００＝２１００

誠「致命傷を与えてくれる、ロックストーン・ウォリアーでダイレクトアタック」

メガロック・ウォリアー　攻撃力１８００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

真間
ＬＰ２１００－１８００＝３００

誠「ターンエンド」

誠
ＬＰ２３００
手札３枚

モンスター　激昂のムカムカ、ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×１

真間
ＬＰ３００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

真間「チョットヤバめな状態だね、、俺のターン、手札のメタルウイング・ワイバーン効果発動、このカードを生贄召還する時手札のモンスターを生贄にする事ができる」

メタルウイング・ワイバーン
レベル５風属性
機械族
攻撃力２１００守備力１３００
効果
このカードを生贄召喚する場合フィールドのモンスターでなく手札のモンスターを生贄にする事もできる。

真間「そして生贄にした機械の雑兵効果、同名カードを１枚手札に加える」

機械の雑兵（オリジナル）
レベル２地属性
機械族
攻撃力２００守備力１００
効果
このカードが機械族モンスターの生贄召喚の生贄、もしくは機械族モンスターの効果の生贄になり墓地に送られた時、デッキから同名カードを１枚手札に加える。

真間「バトル、メタルウイング・ワイバーンでロックストーン・ウォリアーで攻撃」

メタルウイング・ワイバーン　攻撃力２１００＞ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００

誠「ック、しかしロックストーン・ウォリアーが行う戦闘で受ける俺の戦闘ダメージは０になる」

真間「リバースカードを１枚セットしターンエンド」

誠
ＬＰ２３００

手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×１

真間
ＬＰ３００
手札３枚
モンスター　メタルウイング・ワイバーン
魔法トラップ　リバース×１

誠「俺のターン、手札が１枚増えたことでムカムカの攻撃力がさらに上がる」

激昂のムカムカ
攻撃力２４００→２８００

誠「ムカムカでメタルウイング・ワイバーンに攻撃！！！」

真間「リバースカード発動、リミッター解除！！！メタルウイング・ワイバーンの攻撃力を２倍にする」

メタルウイング・ワイバーン
攻撃力２１００→４２００

誠「ッグ！！」

激昂のムカムカ　攻撃力２８００＞メタルウイング・ワイバーン
攻撃力４２００

誠
ＬＰ２１００－１４００＝７００

誠「モンスターを１体裏守備でセットしターンエンドだ」

真間、やはりお前は最高だ

海馬　瀬戸が武藤　遊戯とのデュエルで高揚感を感じると言っていた
今ならその気持ちがわかる

こいつは俺にとっては最高のライバルだ

真間「そっちのターンエンド時俺のメタルウイング・ワイバーンは
破壊される」

誠
ＬＰ７００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

真間
ＬＰ３００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

真間「俺のターン」

さて、この興奮に身をゆだねるのもいいが少しは冷静に考えないとな

ライフは若干俺の方が上だがいつ一撃必殺をくらってもおかしくない

真間「メカ・ハンターを召喚」

メカ・ハンター
レベル４闇属性
機械族
攻撃力１８５０守備力８００
効果なし

真間「バトルだ、メカ・ハンターで裏守備モンスターに攻撃」

誠「セットモンスターはクリッターだ」

クリッター
レベル３闇属性
悪魔族
攻撃力１０００守備力６００
効果
このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力１５００以下のモンスター１体を手札に加える。

メカ・ハンター　攻撃力１８５０＞クリッター　守備力６００

誠「クリッターの効果発動、デッキから攻撃力１５００以下のモンスターを手札に加える、俺が手札に加えるのは巨大ネズミだ」

真間「ムカムカへの布石か、、俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ７００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

真間
ＬＰ３００
手札３枚
モンスター　メカ・ハンター

魔法トラップ　なし

誠「俺のターン」

相手のリバースはない

このチャンスを逃すわけにはいかない

誠「俺は墓地に眠る岩石族モンスターを5枚除外しメガロック・ドラゴンを特殊召喚」

メガロック（あ、久しぶりだね）

誠（あぁ、、しばらくぶりだぜ）

メガロック・ドラゴン
地属性レベル7
岩石族
攻撃力?守備力?
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる。

誠「メガロック・ドラゴンは召喚時にゲームから除外した岩石族モ

ンスター1体につき攻撃力が７００アップする」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?→３５００

誠「バトルだ、、メガロック・ドラゴンでメカ・ハンターに攻撃、、アースカノン・インフェルノ!!!」

メガロック・ドラゴン　攻撃力３５００＞メカ・ハンター　攻撃力１８５０

真間
ＬＰ３００－１６５０＝－１３５０

誠「ウオッシャ～～～～勝った～～」

狭いレッド寮の部屋に俺の叫びが響き渡る

真間「いや～～～～相変わらず強いな誠は」

誠「何言ってやがる、お前だって強いじゃないか、、勝てたのは完全に運だ」

真間「それでも、、、俺がここに来て初めて負かしたのはお前だぜ」

そういえば三沢も言ってたな、俺と真間に十代はオシリスレッドの中で不敗伝説を持つデュエリストだと

誠「次やったらどうなるかわかんないぜ、、まぁ負ける気はないけど」

真間「それじゃあデッキの調整が終わったら…」

ＰＲＲＲＲＲＲＲ

突如部屋の中に電子音が響き渡る

誠「あ、俺のＰＤＡがなってる」

ＰＤＡを取り出し画面を見てみるとメールが届いたとメッセージが書いてありボタンを捜査しメールを見てみる

「明日の放課後、デュエルステージにおいてオシリスレッド、ラーイエロー、オベリスクブルーの交流試合が行われます。」

誠「交流試合?」

真間「お、俺の所にも来たぜ、同じメールが?」

誠「って、交流試合って何だ？」

原作ではそんな話なかったよな

真間「先輩から聞いた話だともともと鮫島校長が学園生活にも慣れ同じ寮の人同士仲良くなってきた頃にこれから3年間過ごす別の寮の人達とも仲良くするため交流の意味をかねてデュエルをするそうだ」

誠「交流の為、、、ねぇ、っでもともとって言っていたが何か裏があるのか？」

真間「先輩から聞いた話なんだが、、今ではすっかりブルーの生徒がレッドやイエローに実力を知らしめる為のいわば公開処刑の様な物だって言ってたな」

まぁ、あのエリート連中ならそう考えるだろうな

誠「選ばれる奴はかわいそうって感じか」

再びＰＤＡに目を向ける

「おめでとうございます小野寺　誠君、君ははれて交流試合のレッド代表に選ばれました。当日はブルーの代表と戦ってもらいます」

誠「……」

真間「どうした誠、急に止まりだして、、、、、、なるほど」

誠「どうやら俺が代表のようだ」

謎のおっさんが沢山の屍を踏みにじり俺に花束を渡し“あなたは偉大なるショッカーの改造人間に選ばれました”っと割れんばかりの拍手と共に宣言された気持ちだ

誠「面白い、、、その伝統、ブルーがレッドに実力を知らしめるという歴史をぶち壊してやるぜ」

真間「それでこそ誠だ」

その後俺と真間は夜遅くまでデッキの調整を行った。

第07話いろんな人とデュエルしたけど、私は元気です（後書き）

今回のデュエルは結構おまけていどな感じです。あくまで交流試合への布石的な話にしようと思って作ったのが7話です。

そして書いてて気づきました、デュエルディスクで行わないデュエルってこんなにも地味で書くのが楽だとは（爆）デュエルディスクでデュエルすると“現れた”とよく入力するんですが時々“あわられた”と入力ミスする場合もあったのですがいや～～デュエルディスクなしデュエル何と書きやすい。

それでは次回また会いましょう、来週た作品のキャラがついに介入してきます。

第０８話予想外の介入者、だが、それがいい（前書き）

最初に言っておきます、クレームを受ける覚悟は十分です（２度目）。

関係ない話なんですがＤＶＤ見てて時間が進むの早え～～～～とか思ってしまいました、迷宮兄弟倒して少し戦ったら冬休みって、なんか間にオリジナルエピソードか入れたいな～～とか思ってます。

あと野良猫さんに言われたメガロックをサーチする部分変更しました、実際に俺が使ってるデッキのアドバイスを間接的にもらってるので勉強になります。

話が長くなりましたが第８話どうぞ。

第０８話予想外の介入者、だが、それがいい

交流試合の代表に選ばれた翌日の放課後

つまり交流試合が今まさに始まろうとしている

俺は対戦相手よりも先にデュエル場についてしまい時間をもてあましている最中だ

デッキ調整は昨日散々行った

とは言っても全然中身をいじってないんだけどな

それと気のせいか俺だけでなく観客席全体がまだかまだかとせわしない空気を出していた

誠「そういやぁ、、俺の対戦相手ってどんなんだろう」

オベリスクブルーの生徒と戦うらしいのだがはっきりいってこのデュエルアカデミアに来てろくなブルーの生徒と会ったためしがない

万丈目の取り巻き2人といい毒島といい

今日戦うブルーの生徒は大丈夫だろうか

なんて心配をしているとクロノス先生がデュエル場の真ん中にやってきた

そういえば初めて会うなこの先生と

クロノス「それでぇ～～は、コレより、オベリスクブルーとオシリスレッドの交流試合を、始めるの～～ね」

観客がワ～～～～～～っと盛り上がる

だがなんかいつもの盛り上がりとはチョット違う気がする

クロノス「レッド寮代表、、レッド寮ルーキーの生きた不敗伝説の一人　小野寺　誠」

誠「ウッッッオッス」

歓声をかき消すくらいの気合の雄叫びを上げる

俺の覇気に押され会場が一瞬静まり返る

クロノス「そしてブルー寮代表はぁ～、、新入生美少女ランキングトップ3に名を連ねるブルー女子ツンデレ担当ティアナ・ランスター」

ホワイ？今なんて言いましたか？

クロノス先生の台詞が終わると同時に俺の向かい側にあるドアが大量のスモークと共に開きそこからブルーの女子生徒が歩いてくる

ブルーの制服に身を包んでいるが

あのツリ目

オレンジ色のツインテール

間違いない、なのはストライカーズのダティアナさん事ティアナ・ランスターじゃないですか

ウオ～～～～～～～～～っと先ほど俺がせっかく沈めた会場が再び騒がしくなる

なるほど、さっきから感じていたちょっと変った盛り上がりの原因は彼女だったわけか

歓声の中に“俺にツンツンしてくれ～～”とか“俺をボロクソなじってくれ～～～”とか“お姉さま、私とロザリオの交換を”とか意味不明な古代神官文字（ヒエラティックテキスト）が聞こえたがきっと気のせいだ

つーか待ってくれ、普通こういうときGXの世界に介入してくるのってなのはやフェイトとかはやてじゃないのか？

生前よく読んでいた小説でもよくこの3人がGXの世界に介入とかよく聞いたことあるがこのパターンははじめてだ

って事はだ、どこかにスバルもいるということだ

ヨシ、このデュエルでティアナとの友情フラグを築き上げスバルとの親友フラグもいただきだぜ！！！

正直こないだの三沢との友情フラグなどどうでもよくなっていた

誠「レッド寮代表、、小野寺　誠です」

ティア「ブルー寮代表、ティアナ・ランスターです」

誠「それじゃあ早速、デュエルと行きますか」

デッキをシャッフルしデュエルディスクにセットする

ティア「えぇ」

誠「それじゃあ、、飛び切り熱くて楽しい試合にしましょう、ランスターさん」

誠・ティア「「デュエル！！！」」

誠
ＬＰ４０００

ティア
ＬＰ４０００

ティア「私の先攻、、ドロー、モンスターを裏側守備でセットしターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし

魔法トラップ　なし

ティア
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

さて、ランスターさんのデッキはどんなデッキだ?検討もつかないぜ

誠「俺のターン、、、リバースカードを1枚セットしモンスターを裏守備でセットしターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

ティア
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

ティア「私のターン、、さっきのターン裏守備でセットしたマグナム・リリィを生け贄に、マキャノンを召喚」

ランスターさんの場の裏側守備表示のカードが渦に包まれその渦の中から大砲のような悪魔族モンスターが姿を現す

マグナム　リリィ
レベル３地属性
植物族
攻撃力１１００守備力６００
効果なし

マキャノン
レベル５闇属性
悪魔族
攻撃力１７００守備力１４００
効果なし

って、なんだそのいろんな意味でレアカード達は

今の子供絶対に知らんぞその２枚のカード

よく持ってたよその２枚

ティア「バトル、、マキャノンで相手モンスターに攻撃」

誠「俺のモンスターはマイン・ゴーレムだ」

マイン・ゴーレム
地属性レベル３
攻撃力１０００守備力１９００
効果
このカードが戦闘によって墓地に送られた時、相手ライフに５００ポイントダメージを与える。

マキャノンの口から眼球らしき弾丸が放たれるが俺のモンスターは微動だにせずその攻撃を受け止める

マキャノン　攻撃力１７００＜マイン・ゴーレム　守備力１９００

ティア
ＬＰ４０００－２００＝３８００

そしてマキャノンから発射された眼球はマイン・ゴーレムを破壊することなく跳ね返りランスターさんに直撃する

ティア「キャ」

観客「「小野寺貴様～～～～～～～～」」

観客席全員の声が一斉にハモりだす

さっき語った、なのはが介入してきましたって小説でもこんなシーンあったな

だが俺の場合は俺は何も悪くないぞ、向こうが攻撃したからダメージが発生したんじゃん

そうだ、僕は悪くない、全部父さんが悪いんだ！！父さんがトウジを殺したんだ！！！！！

ティア「私はリバースカードを1枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　マイン・ゴーレム
魔法トラップ　リバース×１

ティア
ＬＰ３８００
手札４枚
モンスター　マキャノン
魔法トラップ　リバース×１

誠「俺のターン」

こういうときに限ってアタッカーがいない

まぁいい、序盤は守りを固めるか

誠「モンスターを1体裏側守備表示でセットしターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　マイン・ゴーレム、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

ティア
ＬＰ３８００
手札４枚
モンスター　マキャノン
魔法トラップ　リバース×１

会場の周りから“卑怯者”だの“臆病者”だのヤジを受ける

ほっとけ、手札が全部防御系カードなんだよ

ティア「私のターン、手札からツインバレル・ドラゴンを召喚」

相手の場に拳銃が現れそれがバキバキと変形しツインバレル・ドラ

ゴンに姿を変えた

ツインバレル・ドラゴン
闇属性レベル４
機械族
攻撃力１７００守備力２００
効果
このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、相手フィールド上に存在するカード１枚を選択して発動する。コイントスを２回行い、２回とも表だった場合、選択したカードを破壊する。

つーかランスターさん、どう考えてもデッキバランスがおかしくないですか？

あなたが先ほどモンスターを１体生け贄にささげて召喚したモンスターの攻撃力は１７００

そしてあなたが今生け贄なしで召喚したモンスターも攻撃力１７００

そしてツインバレル・ドラゴンにはあまり過度に期待は出来ないとはいえ強力な除去効果を備えてます

どう考えてもマキャノンは使わないでしょう

ティア「ツインバレル・ドラゴンのモンスター効果発動、、召喚成功時コイントスを２回行い２回以上面が出た場合は私が指定したカードを破壊することが出来る、、私が指定するのはマイン・ゴーレ

ム」

ランスターさんの台詞が終わると俺とランスターさんの間に立体映像が作り出したコインが2枚現れる

そのコインが同時に跳ね上がり表、表と回転が止まる

ティア「発動成功、、マイン・ゴーレムを破壊」

ツインバレル・ドラゴンから銃弾が発射され俺のマイン・ゴーレムを破壊した

誠「ッグ、効果破壊では俺のマインゴーレムの効果が発動しない」

ティア「そしてバトル、、マキャノンで相手裏側守備モンスターに攻撃」

誠「俺の守備モンスターはマジックホール・ゴーレムだ」

マジックホール・ゴーレム
レベル3地属性
岩石族
攻撃力0守備力2000
効果
1ターンに1度、自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する事ができる。選択したモンスターはエンドエイズ時まで攻撃力が半分になり、このターン相手プレイヤーに

直接攻撃する事ができる。
この効果を発動するターン、選択したモンスター以外のモンスターは攻撃する事ができない。

再びマキャノンから眼球が発射される

今度はその眼球がマジックホール・ゴーレムのおなかのワームホールに飲み込まれランスターさんの頭上にワームホールの出口が出現しそこから眼球が落下しランスターさんにダメージを与える

ティア「ック」

マキャノン　攻撃力１７００＜マジックホール・ゴーレム　守備力２０００

ティア
ＬＰ３８００－３００＝３５００

観客「「小野寺貴様～～、１度ならず２度までも」」

だから俺は悪くないって、ゴルゴムの仕業、もしくはディケイドが悪いんだ

ティア「私はコレでターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　マジックホール・ゴーレム
魔法トラップ　リバース×１

ティア
ＬＰ３５００
手札４枚
モンスター　キャノン、ツインバレル・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×１

誠「俺のターン、、ドロー」

そろそろ攻めてみますか

誠「俺はマジックホール・ゴーレムを生け贄にビック・ピース・ゴーレムを召喚する」

ビック・ピース・ゴーレム
レベル５地属性
岩石族

攻撃力２１００守備力０
効果
相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードはリリースなしで召喚する事ができる。

誠「バトルだ、、ビック・ピース・ゴーレムでマキャノンに攻撃」

ヌヌヌヌヌを巨大な岩のモンスターがマキャノンに向かって拳を振り上げる

ティア「リバースカードオープン、、援護射撃」

援護射撃
通常トラップ
相手モンスターが自分フィールド上モンスターを攻撃する場合、ダメージステップ時に発動する事ができる。攻撃を受けた自分モンスターの攻撃力は、自分フィールド上に表側表示で存在する他のモンスター１体の攻撃力分アップする。

トラップが発動したと同時にマキャノンの横にいたツインバレル・ドラゴンがビック・ピース・ゴーレムに向かって銃弾を乱れ打ちし始める

そしてマキャノンもツインバレル・ドラゴンと一緒にビック・ピー

ス・ゴーレムに向かって射撃をし始める

２体の攻撃をくらいその巨体を倒しフィールドから消滅するビック・ピース・ゴーレム

ビック・ピース・ゴーレム　攻撃力２１００＜マキャノン　攻撃力３４００

誠
ＬＰ４０００－１３００＝２７００

誠「うおぉ！！」

やばいって、その反撃は予想外

俺のダメージをくらうと同時にいっそう湧き上がる会場

“ヒャッホ～～～ザマァ”とか“所詮はレッドだ”とか“俺にも、、俺にもダメージを与えてください”とかいろいろと聞こえてくる

誠「ターン終了」

誠
ＬＰ２７００
手札４枚
モンスター　なし

魔法トラップ　リバース×１

ティア
ＬＰ３５００
手札４枚
モンスター　マキャノン、ツインバレル・ドラゴン
魔法トラップ　なし

ティア「私のターン、、マキャノンとツインバレル・ドラゴンでダイレクトアタック」

観客「「やったぜ、ランスターさんの勝ちだ～～」」

何勘違いしてるんだ、、まだ俺達のデュエルは終了してないぜ

誠「リバースカードオープン、、和睦の使者」

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは０になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

俺のフィールドに毎度おなじみの修道女が現れバリアを張り攻撃を

防ぐ

誠「危ない危ない」

ティア「コレで決まると思ってたのにね、、モンスターを裏守備で１枚セットしターンエンド」

誠
ＬＰ２７００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

ティア
ＬＰ３８００
手札４枚
モンスター　マキャノン、ツインバレル・ドラゴン、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

誠「俺のターン、、ドロー」

やっときてくれた

誠「ロックストーン・ウォリアーを召喚」

デュエルディスクにカードをセットするとどこからともなく巨大な岩が転がってきてそこから手足がはえロックストーン・ウォリアー

に変形する

ロックストーン・ウォリアー
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１８００守備力１６００
効果
このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。このカードの攻撃によってこのカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、自分フィールド上に“ロックストーン・トークン”（地属性レベル１岩石族攻撃力０守備力０）２体を特殊召喚する。このトークンはアドバンス召喚のためにはリリースできない。

誠「バトルだ、、ロックストーン・ウォリアーでマキャノンに攻撃」

ロックストーン・ウォリアーがショルダータックルでマキャノンを吹き飛ばし破壊する

ティア「ック」

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞マキャノン　攻撃力１７００

ティア
ＬＰ３５００－１００＝３４００

誠「リバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ２７００
手札３枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×１

ティア
ＬＰ３４００
手札４枚
モンスター　マキャノン、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

ティア「私のターン、、私はフィールド上のツインバレル・ドラゴンと裏側守備表示のガンロックを生け贄に」

はい、又めったに聞くことの出来ないカード名いただきました

下手したら俺さっきのターンに背中にマシンガンしょった土の巨人に蜂の巣にされながらタックルくらうところだったのか？

ガンロック
レベル４地属性

岩石族
攻撃力１０００守備力１３００
効果なし

ティア「リボルバー・ドラゴンを召喚」

ランスターさんのフィールドに現れた大きな渦が２体のモンスターを巻き込みながら巨大化し渦が晴れるとそこには黒光する拳銃を３つ備えた機械の竜が立っていた

リボルバー・ドラゴン
レベル７闇属性
機械族
攻撃力２６００守備力２２００
効果
相手フィールド上に存在するモンスター１体を選択して発動する。コイントスを３回行い、その内２回以上が表だった場合、そのモンスターを破壊する。この効果は１ターンに１度しか使用できない。

ティア「リボルバー・ドラゴンの効果発動、私はロックストーン・ウォリアーを選択肢コイントスを行います」

再びフィールドに出現する巨大コイン

1度中を舞い出た結果は

表、表、表

ワ～～オ、大当たりじゃないか

ティア「効果成功、ロックストーン・ウォリアーを破壊」

リボルバー・ドラゴンの3つの銃口から銃弾が飛び出し俺のロックストーン・ウォリアーを破壊する

誠「再びピンチ！！」

ティア「バトル、、リボルバー・ドラゴンで相手プレイヤーにダイレクトアタック、ブラストバレル！！！！」

再び3つの銃口から銃弾が飛び出す

今度はモンスターではなく俺目がけ飛んできた

誠「うおぉぉ！！！」

思わず顔の前で腕をクロスしてしまう

リボルバー・ドラゴン　攻撃力2600（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

誠

ＬＰ２７００－２６００＝１００

俺がダメージを食らうと再び観客席が沸きあがる

“美しい、なんて美しい戦略なんだ”とか“小野寺、絶望がお前のゴールだ”とか“さて、帰って寝るか”とか言いたい放題言いやがって

つーか最後のやつ、デュエルは最後まで見ていけ

それとどこかに天気を操る化け物に家族を殺されたやつがいなかったか？

ティア「コレでターンエンドよ」

誠
ＬＰ１００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

ティア
ＬＰ３４００
手札４枚
モンスター　リボルバー・ドラゴン

魔法トラップ　リバース×１

誠「俺のターン」

さて、さすがにここまで追い込まれるとスイッチが入ってきちまうぜ

心臓が久しぶりに悲鳴を上げてやがる

全身で感じるこの緊迫感

ありがとうランスターさん

誠「俺はモンスターを1体守備表示で召喚しさらにリバースカードを2枚セットしターンエンド」

誠
ＬＰ１００
手札１枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×３

ティア
ＬＰ３４００
手札４枚
モンスター　リボルバー・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×１

ティア「私のターン、、リボルバー・ドラゴンの効果発動」

三度舞う立体映像のコイン

しかしそう何度も都合よくあたりを出すわけではなかった

裏、表、裏

ティア「効果失敗か、、だったら手札のマシンナーズ・スナイパーを通常召喚」

リボルバー・ドラゴンの隣に巨大なライフルをかかえた機械人間が姿を現す

マシンナーズ・スナイパー
レベル４地属性
機械族
攻撃力１８００守備力８００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、マシンナーズ・スナイパー以外のマシンナーズと名のついたモンスターを攻撃する事ができない。

ティア「バトル、リボルバー・ドラゴンで裏守備モンスターに攻撃」

誠「俺の守備モンスターは伝説の柔術家だ」

伝説の柔術家
レベル３地属性
攻撃力１３００守備力１８００
効果
守備表示のこのカードと戦闘を行ったモンスターは、ダメージステップ終了時に持ち主のデッキの一番上に戻る。

リボルバー・ドラゴンの放った銃弾が柔術家を貫き破壊する

誠「ッグ、しかし柔術家の効果でリボルバー・ドラゴンをデッキの１番上に戻させてもらうぜ」

足元から光となってリボルバー・ドラゴンがフィールドから消えていく

ティア「でも、残ったマシンナーズ・スナイパーの攻撃が残ってるわ、コレで終わりよ」

マシンナーズ・スナイパーが俺にその銃口を向ける

誠「甘いぜ、トラップ発動、リアクティブアーマー」

リアクティブアーマー
通常トラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。その攻撃モンスター1体を破壊する。

俺のリバースカードが起き上がった瞬間マシンナーズ・スナイパーの足元で爆発が起こりモンスターを消滅させる

ティア「まさか耐えるなんて」

誠「言っておくが、、ここぞという時の俺の粘りは尋常じゃないぜ」

ティア「ターン終了よ」

誠
ＬＰ１００
手札１枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

ティア
ＬＰ３４００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

今思ったんだけどアレか、コレって鉄壁のライフスキル発動中なのか俺？

原作キャラの恩恵を受けているのか

誠「俺のターン、、モアイ迎撃砲を特殊召喚」

俺のフィールドの地面から機械仕掛けのモアイ像が生えてきた

モアイ迎撃砲
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１１００守備力２０００
効果
このカードは１ターンに１度裏側守備表示にする事ができる。

誠「バトルだ、モアイ迎撃砲で相手プレイヤーにダイレクトアタック、イースターレーザーキャノン！！！」

モアイ迎撃砲のアゴが開きそこからレーザーが発射されランスターさんに直撃する

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

ティア
ＬＰ３４００－１１００＝２３００

誠「そしてメイン2でモアイ迎撃砲を裏側守備表示に戻すぜ」

俺の目の前のモアイ像が一瞬で伏せ状態の守備モンスターに変化する

誠「さらにリバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ１００
手札０枚
モンスター　裏守備
魔法トラップ　リバース×３

ティア
ＬＰ２３００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

ティア「私のターン」

今轢いたのはリボルバー・ドラゴン

ハンドアドバンテージは前のターンとあまり変らない

さぁ、俺のたった１００ポイントのライフを削れるか

ティア「私はモンスターを裏守備でセットしリバースカードを1枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ１００
手札０枚
モンスター　裏守備
魔法トラップ　リバース×３

ティア
ＬＰ２３００
手札２枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

誠「俺のターン、、ドロー」

さて、楽しいデュエルであったがもう終わらせるぜ

誠「俺はモアイ迎撃方を反転召喚しリバースカード激流葬を発動させる」

激流葬

通常トラップ
モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚された時に発動する事ができる。フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

俺の場に再びモアイ像が生えたと同時に大津波がフィールドを飲み込みお互いのモンスターを全て洗い流した

誠「そしてさらにリバースカードオープン、魔法発動、ハリケーン」

ハリケーン
通常魔法
フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て持ち主の手札に戻す。

フィールドに今度は暴風が舞い魔法・罠ゾーンのカードを全て持ち主の手札に戻した

誠「さて、、場が空っぽになったところで墓地に眠る岩石族モンスターを6枚除外しメガロック・ドラゴンを特殊召喚」

俺のフィールドが地鳴りとともに震え上がりやがた俺のフィールドに巨大なクレパスが発生しそこからメガロック・ドラゴンが光臨した

メガロック・ドラゴン
地属性レベル7
岩石族

攻撃力?守備力?
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる。

誠「俺は岩石族モンスターを6枚除外した、よってメガロック・ドラゴンの攻撃力は４２００」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?→４２００

誠「コレで止めだ、メガロック・ドラゴンのダイレクトアタック、、アースカノン・インフェルノ!!!!!」

メガロック・ドラゴンの口から巨大な熱線が放たれる

その熱戦はランスターさんの体を覆い隠すかのように貫いた

ティア「キャ～～～～」

メガロック・ドラゴン　攻撃力４２００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

ティア

ＬＰ２３００－４２００＝－１９００

誠「ウオッッシャ～～～～～～」

腕を天高く突き上げガッツポーズで歓喜する

ティア「あいたたた、まさか、あんな手を使ってくるとは」

試験官のときもそうだったのだが何でメガロックドラゴンで攻撃をくらったら尻餅をつくんだ

まぁ、立体映像とはいえやたら迫力はあるかもしれないが

誠「大丈夫ですか、ランスターさん」

ティア「えぇ、、ちょっと腰抜かしただけよ」

そういって立ち上がり埃をはらうランスターさん

誠「スッゲー熱くなれるデュエルでした、、ありがとうございます」

健闘をたたえランスターさんに手を差し出す

ティア「えぇ、、こっちもよ」

軽く微笑みランスターさんも俺の手を握り返そうとしていたが

「チョット待った！！！！」

突如一人のブルーの生徒がデュエル場にやってくる

って、こいつはこないだ戦った毒島じゃないか

毒島「ランスターさん、その手を握り返す必要はありません」

完全にＫＹな雰囲気で乱入してきてこいつは何を言っているんだ？

毒島「何故なら、、今のデュエルにいかさまが仕込まれていたからです」

「「ザワザワ、、、、ザワザワ」」

毒島の言葉にざわめきだす観客席

ティア「チョットあなた、何言ってるの？」

誠「そうだ、、俺はいんちきなんてしてねー、正々堂々と戦った、そもそも俺がいんちきした証拠がどこにある」

毒島「証拠ならあるさ、、お前がオシリスレッドでランスターさんがオベリスクブルーだという事がな」

なるほど、そう言う事か

誠「つまりオシリスレッドである俺がオベリスクブルーのランスターさんに勝つのはおかしいと、そう言いたいんだな」

毒島「あぁ、、でなければレッドがブルーに勝つなどありえない話

だ」

観客席のざわめきも収まるどころかどんどんひどくなっていく

毒島（いい気味だよ小野寺、、貴様にやられた屈辱をこんな形でかえせるとは、棚からボタ餅というものだな）

毒島「どうです先生、、この卑怯者のデュエリストを退学にするというのは」

退学

その言葉で会場が一気に爆発した

「そうだ、、この学校からいなくなれこの卑怯者」

「恥知らず」

「男の癖に情けないぞ」

「そうまでして勝ちたいか」

完全に俺が悪者と化している

クロノス先生もおろおろとしていて事態の収拾は望めそうにない

ランスターさんも観客の罵詈雑言に圧倒され動けない感じだ

毒島「さぁ、、先生、しかるべき処理を」

真間「ざけんじゃね～～～ぞ貴様～～～～～～！！！！！！！！！！」

続く

第０８話予想外の介入者、だが、それがいい（後書き）

次回にチョット続きます。

小説内でも語ったのですがなぜかしら小説の検索ワードで遊戯王で検索して出た小説を読むと5割がたなのはキャラが乱入してくるという、そしてストライカーズのキャラが乱入してこないと、スバルファンである俺は大変悲しい思いをしてたので自小説で出してしまいました。クレームを受ける覚悟は十分です。

そして小説のキーワードのところに“精霊ハーレム”と“三沢君は空気じゃない”を追加しました。

それではまた次回よろしくお願いします。

第０９話力と技のデッキが回る、父よ母よ妹よ（前書き）

チート、それは世界レベルで力が働き恩恵者に勝利を与えるエクスカリバー以上に約束された勝利の剣の事を言う。

デュエリスト少年空栗　真間、始まります（高町　なのはの声で）

第09話力と技のデッキが回る、父よ母よ妹よ

真間「ざけんじゃね～～～ぞ貴様～～～～～～～！！！！！！！！！」

観客のブーイングを一瞬にしてかき消すほどの怒号の雄たけびが響く

声のしたほうをみてみると観客席から真間がデュエル場に降りてきていた

真間「さっきから黙って聞いていれば、わかってんのか、お前のした事は今のデュエルを完全に侮辱した事になる、つまり誠だけじゃない、、ランスターさんも侮辱した事になるんだぞ」

毒島「侮辱したも何もこの小野寺が勝負事を汚しているではないか、私はそれを批判しただけだ」

真間「確かな証拠もないのに何故いんちきしたと言い張れる」

毒島「レッドの生徒がブルーの生徒に勝ったという結果が証拠だと言っている」

そういうお前も過去に俺に負けているけどな

真間「なるほど、、、つまりレッドでもブルーの生徒に勝てるということを証明すればいいんだな」

毒島「そんなことできるわけがない」

真間「出来るさ」

デュエルディスクを腕にはめ毒島にビシ～～～っと力強く指を刺す真間

真間「俺とデュエルしろ、、俺と貴様がデュエルをし俺が勝てば誠は無実ということになるよな」

毒島「レッドの貴様がブルーであるこの俺にか、、いいだろう、そのデュエル受けてたつ」

毒島もデュエルディスクをはめデュエル場に真間と向かい合うように仁王立ちをする

真間「今日だけは本気で行くぜ」

デュエルディスクにセットされてあったデッキを1度はずしベルトの右側についているデッキケースに戻しベルトの左側についているデッキを取り出しシャッフルしだす真間

アレは、、確か

回想シーン

誠「そういやぁさ、、真間デッキ2つ持ってるよな、もうひとつのほうとデュエルさせてくれ」

真間「ワリィ、それは無理なんだ」

誠「え!?なんで?」

真間「俺が普段デュエルは楽しむ為に行う主義で戦ってるのは知ってるだろ?」

誠「あぁ」

真間「普段使ってるのが楽しむ為のデッキ、、、っでもうひとつのデッキは相手を倒すことだけを考えた裏デッキなんだ」

誠「裏デッキ」

真間「このデッキはどうしても勝たなきゃいけない時しか使わないと決めているんだ、だから親友のお前の頼みでも使えん、悪いな」

回想終了

その自ら封印したデッキを使うのか

真間「悪いがデュエルを楽しむ気はない、全力でつぶさせてもらうぜ」

毒島「ッフ、そんなこけおどし効きはしない」

しかし相手はあのハーレムデッキ使いだろ、本気を出した真間の前では瞬殺じゃないであろうか

毒島（クックック、小野寺、貴様は俺がただのハーレムデッキ使いだと勘違いしてるようだが今回の俺のデッキはガチデッキ、俺に屈辱を味合わせたこの男を追い出す千載一遇のチャンスだ、負けるわけにはいかない）

真間・毒島「「デュエル！！！」」

真間
ＬＰ４０００

毒島
ＬＰ４０００

真間「俺のターン、、俺はマシン・ピラニアンを攻撃表示で召喚」

真間のフィールドに機械でできた巨大なピラニアが現れる

マシン・ピラニアン（オリジナル）
レベル３水属性
機械族
攻撃力５００守備力５００
効果
表側攻撃表示のこのカードとバトルを行った相手モンスターはダメージステップ終了時に破壊される。

真間「カードを2枚伏せてターンエンドだ」

真間
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　マシン・ピラニアン
魔法トラップ　リバース×２

毒島
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

毒島「俺のターン、、、チィ、厄介なモンスターがいるのに除去系カードがない、ならば大ダメージを与えるまでだ、俺はジェネティック・ワーウルフを攻撃表示で召喚」

毒島のフィールドに仮面らしきものをつけた白い二足歩行の獣が現れる

ジェネティック・ワーウルフ
レベル４地属性
獣戦士族
攻撃力２０００守備力１００
効果なし

毒島「バトルだ、ジェネティック・ワーウルフでマシン・ピラニアンを攻撃」

爪を立て真間のモンスターに向かってくるワーウルフ

真間「トラップ発動、、スクランブル・ブースター」

スクランブル・ブースター（オリジナル）
通常トラップ
自分フィールド上のモンスターを1体対象に発動。対象モンスターが装備可能なユニオンモンスターが手札に有る場合手札からそのモンスターを対象モンスターに装備することができる。

真間「俺は手札の強化支援メカ・ヘビーウェポンをマシン・ピラニアンに装備する」

強化支援メカ・ヘビーウェポン
レベル３闇属性
機械族
攻撃力５００守備力５００
効果：ユニオン
１ターンに１度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上の機械族モンスターに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。この効果で装備カード扱いになっている場合のみ、装備モンスターの攻撃力・守備力は５００ポイントアップする。１体のモンスターが装備できるユニオンは１枚まで。装備モンスターが破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。

マシン・ピラニアン
攻撃力５００→１０００

毒島「それでも俺のモンスターの攻撃力のほうが上だぞ」

真間のマシン・ピラニアンにパンチを放つワーウルフ

その拳を受けマシン・ピラニアンは破壊されなかったがその余波のようなものが真間に襲い掛かる

真間「ッグ」

ジェネティックワーウルフ　攻撃力２０００＞マシン・ピラニアン
　攻撃力１０００

真間
ＬＰ４０００－１０００＝３０００

真間「しかしマシン・ピラニアンの効果発動、表側攻撃表示のこのモンスターと戦闘を行ったモンスターはダメージステップ終了時破壊される、そして強化支援メカ・ヘビーウェポンの効果で装備状態のこのカードをマシンピラニアンの身代わりに破壊する」

攻撃を終えたワーウルフが相手フィールドに戻ったと同時に突如苦しみだし木っ端微塵に砕け消滅する

毒島「ック、俺はリバースカードを2枚伏せてターンエンド」

真間
ＬＰ３０００
手札２枚
モンスター　マシン・ピラニアン
魔法トラップ　リバース×１

毒島
ＬＰ４０００

手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

真間「俺のターン、俺はリフレクト・バウンダーを攻撃表示で召喚」

全身のいたるところに鏡をつけたロボットが真間のフィールドに現れる

しかしはたから見ればちょっとした変態だよなリフレクト・バウンダー

魔鏡導士リフレクト・バウンダー
レベル４光属性
機械族
攻撃力１７００守備力１０００
効果
攻撃表示のこのカードが相手モンスターに攻撃された場合、相手攻撃モンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与え、ダメージ計算後にこのカードを破壊する

しかし恐ろしいな

攻撃表示で戦闘を行えば確実に相手モンスターを破壊するマシン・ピラニアン

そして生きたマジックシリンダー事リフレクト・バウンダー
なんて恐ろしいフィールドなんだ
コレが勝つことだけを考えた真間の戦略
真間「バトルだ、、モンスター2体でダイレクトアタック」
巨大なピラニアと鏡を全身に取り付けた変人に囲まれる毒島
毒島「リバースカードオープン、、聖なるバリア～ミラーフォース～」
聖なるバリア～ミラーフォース～
通常トラップ
相手がモンスターで攻撃した時、相手の攻撃表示モンスターをすべて破壊する。
毒島「コレで貴様のモンスターは全滅だ」
真間「甘いぜ、カウンタートラップ発動、トラップジャマー」
毒島の発動したミラーフォースの下に魔方陣が展開しミラーフォースを破壊した

トラップ・ジャマー
カウンタートラップ
バトルフェイズ中のみ発動する事ができる。相手が発動した罠カードの発動を無効にし破壊する。

誠「攻撃を続行する、２体のモンスターでダイレクトアタック」

毒島「うわ～～～～～」

マシン・ピラニアン　攻撃力５００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

魔鏡導士リフレクト・バウンダー　攻撃力１７００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

毒島
ＬＰ４０００－２２００＝１８００

誠「リバースカードを１枚伏せてターンエンドだ」

真間

ＬＰ３０００
手札１枚
モンスター　マシン・ピラニアン、魔鏡導士リフレクト・バウンダー
魔法トラップ　リバース×１

毒島
ＬＰ１８００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

しかし誠のやつすごいな

完全に頭に血が上ってると思いきやプレイングは冷静、っというより冷徹

相手が攻撃しづらい状況を良くもまぁ作ったものだ

毒島「おのれ、、レッドの分際で、俺のターン」

カードをドローしフィールドを確認しながら手札を見る毒島

何かを考えているのか手が少し止まっている

まぁ相手フィールドがあんなんじゃあ長考もするか

毒島「俺は手札のブラッドボルスを召喚する」

巨大なハルバードを持った獣人が毒島の場に召喚される

ブラッド・ボルス
闇属性レベル４
獣戦士族
攻撃力１９００守備力１２００
効果なし

毒島「リバースカードを1枚伏せてからバトル、ブラッド・ヴォルスでマシン・ピラニアンに攻撃」

真間「リバースカードオープン、ゲットライド」

ゲットライド
通常トラップ
自分の墓地に存在するユニオンモンスター1体を選択し、自分フィールド上に表側表示で存在する装備可能なモンスターに装備する。

真間「俺は再びマシン・ピラニアンにヘビーウェポンを装備させる」

マシン・ピラニアン
攻撃力５００→１０００

毒島「ック、ブラッド・ヴォルスの攻撃がとまらない」

バシ～～～ンとブラッド・ヴォルスのハルバードがマシン・ピラニアンにたたきつけられる

その攻撃によってマシン・ピラニアンは破壊されないが衝撃波のような物が発生し真間を襲う

真間「ッグ」

ブラッド・ヴォルス　攻撃力１９００＞マシン・ピラニアン　攻撃力１０００

真間
ＬＰ３０００－９００＝２１００

真間「マシン・ピラニアンの効果で攻撃してきたブラッド・ヴォルスを破壊」

バリ～～～ンとブラッド・ヴォルスが相手フィールドではじけ飛ぶ

毒島「コレでターンエンドだ」

真間
ＬＰ２１００

手札１枚
モンスター　マシン・ピラニアン、魔鏡導士リフレクト・バウンダー
魔法トラップ　なし

毒島
ＬＰ１８００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

真間「俺のターン、、マシン・ピラニアンに明鏡止水の心を装備する」

明鏡止水の心
装備魔法
装備モンスターが攻撃力１３００以上の場合このカードを破壊する。このカードを装備したモンスターは、戦闘や対象モンスターを破壊するカードの効果では破壊されない。ダメージ計算は適用する。

真間「バトル、、マシン・ピラニアンで相手プレイヤーにダイレクトアタック」

毒島「トラップ発動、、正統なる血統」

正統なる血統
通常トラップ

自分の墓地に存在する通常モンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

毒島「よみがえれ、ジェネティック・ワーウルフ」

先ほど召喚された二足歩行の獅子が再び召喚される

真間「気にせずブチ潰す!! マシン・ピラニアンでジェネティック・ワーウルフに攻撃」

マシン・ピラニアンがジェネティック・ワーウルフに体当たりを仕掛ける

それにより双方は破壊されなかったがまた衝撃波のような物が真間を襲う

マシン・ピラニアン　攻撃力５００＜ジェネティック・ワーウルフ　攻撃力２０００

真間
ＬＰ２１００－１５００＝６００

真間「再び墓地に舞い戻れジェネティック・ワーウルフ」

バトルを終えたジェネティック・ワーウルフが苦しみだし先ほど同

様墓地に送られる

真間「そしてリフレクト・バウンダーでダイレクトアタック」

毒島「ッグ」

魔鏡導士リフレクト・バウンダー　攻撃力１７００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

毒島
ＬＰ１８００－１７００＝１００

真間「リバースカードを１枚伏せてターンエンドだ」

真間
ＬＰ６００
手札０枚
モンスター　マシン・ピラニアン、魔鏡導士リフレクト・バウンダー
魔法トラップ　明鏡止水、リバース×１

毒島
ＬＰ１００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

毒島「俺のターン、、ドロー」

しかしやばくないか

状況的には真間が押している風にも見えるがＬＰは残る６００

そしてフィールドには攻撃力５００のマシン・ピラニアンが攻撃表示のまま

毒島「俺のターン、、俺はサファイアドラゴンを召喚」

サファイアドラゴン
レベル４風属性
ドラゴン族
攻撃力１９００守備力１６００
効果なし

毒島「コレで終わりだ、、サファイアドラゴンでマシン・ピラニアンに攻撃」

サファイアドラゴンの口から光線が放たれマシン・ピラニアンに向かって飛んでいく

真間「リバースカードオープン、、スピリットバリア」

スピリットバリア
永続トラップ
自分フィールド上にモンスターが存在する限り、このカードのコントローラーへの戦闘ダメージは０になる。

真間の場がバリアで包まれる

サファイアドラゴン　攻撃力１９００＞マシン・ピラニアン　攻撃力５００

スピリットバリアの効果で戦闘ダメージを防ぎ明鏡止水の心でマシン・ピラニアンを破壊から守る

恐ろしいコンボだ

真間「さぁ、、マシン・ピラニアンを攻撃したサファイアドラゴンも消滅してもらおうか」

突然サファイアドラゴンが苦しみだしバリ～～ンとわれフィールドから消滅する

毒島「っぐ、、リバースカードを2枚伏せてターンエンド」

真間
ＬＰ６００
手札１枚

モンスター　マシン・ピラニアン、魔鏡導士リフレクト・バウンダー
魔法トラップ　明鏡止水、スピリットバリア

毒島
ＬＰ１００
手札０枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×４

真間「俺のターン、、バトルだ、、マシン・ピラニアンでダイレクトアタック」

毒島「うわ～～～～～」

マシン・ピラニアンが空中をスイスイ泳ぎ毒島を体の上からパックンをまる飲みする

マシン・ピラニアン　攻撃力５００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

毒島
ＬＰ１００－５００＝－４００

デュエルが終わり立体映像が消滅しがっくりと崩れ落ちる毒島

真間「俺の勝ちだな」

毒島「グ、、、、クソ、お前も、、、お前もいんちきしただろう」

「いい加減にするんだ」

毒島が何かをわめこうとしたが突如現れたブルーの生徒がそれを止める

毒島「カ、カイザー」

先ほどの生徒はカイザー亮こと丸藤　亮先輩だった

亮「見苦しいぞ毒島、、このデュエルはお前の負けだ」

毒島「しかし、、たかがレッドがブルーに勝つなどありえない話です、やはり不正があったとしか」

亮「仮に不正があったとしよう、だが貴様の言うたかがレッドが学園1位のカイザーである俺の目をごまかすことが出来るとでも思っているのか」

毒島「ッグ」

それ以上反論する気力がなくなったのか毒島は完全にその場に崩れ落ちる

亮「クロノス先生、後はお願いします」

そういい残しカイザーはデュエル場から去って行った

クロノス「オホン、、、本日ぅ～の交流戦は、、レッド寮チームの勝ちなのぉ～ね」

「「ワ～～～～～～～～～」」

先ほどのヤジは違う、完全に俺たちの勝利をたたえる歓声が上がる

俺と真間は利き手を天高く掲げその声援にこたえる

クロノス「コレにて、本日の交流戦を終了するのぉ～～ね」

交流戦が終わって俺は一目散に走り出す

行き先はカイザーの所であった

少し走ったところでカイザーを見つけ呼び止める

誠「丸藤先輩」

俺の声に振り返り足を止めてくれる丸藤先輩

亮「どうしたんだ二人とも」

誠「二人とも？」

気がつくと俺の横に俺と同じく息を切らした真間がいた

真間「どうやら、、考えていることは一緒のようだな」

まったく、本当にこいつとは気が合うぜ

誠「それじゃあ一緒にいくか」

真間「あぁ」

息を整え丸藤先輩に二人して向きなおす

誠・真間「丸藤先輩、今日はありがとうございます」

二人同時に頭を深く下げる

亮「かまわない、、、いいデュエルを見せてくれたお礼だ」

真間「いえいえ、丸藤先輩に比べたら俺たちなんて」

亮「ッフ、いい友達を持ったな」

そういってきびすを返し俺たちのもとから去っていく丸藤先輩

亮「遊城　十代に小野寺　誠、そして空栗　真間か、、、今年の1年は面白いやつばかりそろっている、俺もうかうかしてられんな」

その日の晩

真間「う～～～～～～」

誠「いつまでうなってるんだよ、真間」

その日の晩、俺と真間は自室にいた

ちなみに真間はさっきからこんな調子で無気力な感じであった

真間「デッキをいじれないのが痛い」

誠「変なルールを作ったお前が悪い」

あの後真間から聞いたのだがどうやら真間は裏デッキを使う代償として1週間デュエルを禁止するルールを作っているようだ

って、さっき俺の為にそのデッキを作ったので来週までデュエルはお預けということらしい

律儀な男だ

「コンコンコン」

誠「ハ～～～イ」

部屋の中に響くノックオンこんな夜遅くに誰かが来たようだ

ドアを開けるとそこには2人のブルーの女子生徒がいた

ティア「こんばんは」

一人は先ほど一緒にデュエルをしたランスターさん

そしてその後ろには鉢巻をした青い短髪の女の子がいた

誠「ランスターさん、どうしたんですこんな夜中に」

ティア「チョットあなたに用事があったんだけど、デュエルが終わった後私の親衛隊につかまって残念会を開いてくれてそれに付き合ってたら遅くなっちゃって、迷惑だった?」

誠「いいや、まだ起きてた」

ティア「そう」

そういってランスターさんは右手を俺に差し出す

ティア「あの時答えることが出来なかったから、、、私もすごく楽しかったわ、いいデュエルをありがとう」

そんな事のために夜遅くに

いい人なんだな、丸藤先輩といい名の有るブルー生徒はみんないい人だ

誠「いいえ、俺こそ、、、改めて、スッゲー熱く楽しいデュエルで

した、ありがとう」

ガシっとランスターさんと握手する

ティア「それとなんだけど、、時間が空いてたら私のデッキ調整とか付き合って欲しいんだけど」

ランスターさんとの友情フラグｋｔｋｒ

誠「いつでもいいぜ、、あと後ろのほうで悶絶している真間も大歓迎だ」

俺の後ろではもはや禁断症状の域に達しているのかもだえ苦しむ真間がいた

「私も、時間があったらデュエルして欲しいです」

ここに来てようやくランスターさんの後ろにいた女性がしゃべりだす

誠「そちらの人は？」

まぁ、知ってるんだけどね

女性「スバル・ナカジマです、、ティアとは幼馴染で一緒にデュエルアカデミアに入学しました」

キタ～～～～～～生前の俺の嫁キタ～～～～～～～～

この友情フラグ絶対に逃しはしないぜ

誠「よろしく、、ナカジマさん」

ティア「さて、それじゃあ夜も遅いし私たちは帰るわ」

誠「送っていこうか？」

ティア「いいわ、、夜遅いとはいえ一応デュエルアカデミア内で危険はないでしょう」

そういって2人はレッド寮から去っていく

スバル「ティ～～～ア」

ティア「何よ」

スバル「良かったね、観察対象者がいい感じの人で」

ティア「そうね、、まさかこんな早く接触できるとは思わなかったわ」

スバル「出だしは順調、、これからも一緒にがんばろう」

ティア「えぇ、、、そうね」

第０９話力と技のデッキが回る、父よ母よ妹よ（後書き）

っと言うわけで真間のチート全開デュエルでした。ちなみに毒島のデッキはバニラビートでしたがチート補正を受けた主人公の前になすすべなくやられてしまいました。

最後のスバルとティアの台詞は軽い複線です。

それでは又次回もよろしくお願いします。

第１０話試験に挑むのであればまずはキャベツのまるかじりだ（前書き）

このタイトルのネタがわかる人がいる人がはたして何人いるか。当時この番組を見ていた人がただでさえ少ないのにあの番組の中でも少しマニアックなキャラのネタ、近くのビデオレンタルショップにグリッドマンのＤＶＤ置いてないかな～。

話がかなり脱線しました、本編をどうぞ。

第１０話試験に挑むのであればまずはキャベツのまるかじりだ

真間「……」

誠「真間～～、生きてるか～」

こないだの交流戦が終わって早４日目

真間の禁断症状が結構きわまっているのか日曜日だというのに真間はまるで真っ白に燃え尽きたかのように真っ白になっている

気分転換にどこかに遊びに行こうぜと言ってもこの島じゃあいける場所は限られている

島の全てを歩きつくしたため気分転換は無理そうだ

「ＰＲＲＲＲＲＲ」

すでに白骨したいと大差ない真間をどうしようか考えているとＰＤＡが鳴る

手にとって見てみると１通のメールが届いていた

誠「どれどれ」

差出人：ティアナ・ランスター

小野寺君へ、チョット相談したいことがあるんだけど今からそっち

行っていい？

ランスターさんからのメールだった

こないだの交流試合から何かとカードの相談とかを話とかもするようになりすっかりいい友達関係である

とりあえず俺は返事を送ることにした

差出人：小野寺　誠

ＯＫだ、じゃあレッド寮の部屋に来てくれ。

メールを送信し数分で返事が来た

差出人：ティアナ・ランスター

ありがとう、２．３０分くらいでそっちに行くね。

さて、それまでこの白骨死体をどうするかだ

数分後

とりあえず俺は真間にカードの話題を持ちかけどうにか真間が息を吹き返す

デュエルできない代わりに戦略論を一緒に考えることで復活させることに成功した

そしてカードの話で真間と盛り上がっているとちょうどランスターさんたちもやってきた

ティア「おじゃましま～す」

ランスターさんの後ろにはナカジマさんともう一人見慣れぬ女子生徒がいた

誠「こんにちは、、早速だけど相談って何」

ティア「ちょっとね、この子の事で相談が」

そう言って見知らぬ女子生徒を俺達の前に連れてくるランスターさん

その女子生徒は見た事がない所からきっと原作キャラではないな

背は結構低めで顔は少し童顔気味

そして何より気が弱いですオーラがバンバン出ている

イメージ的には校長の話の最中貧血で倒れる、もしくは血を見ただ

けでぶっ倒れる、またはチョット曲がり角で軽くぶつかっただけでもぶっ倒れる、ようは儚げなイメージの女性だ

誠「はじめまして、俺は小野寺　誠」

真間「空栗　真間だ、、、君は？」

女性「は、、は、はじめまして、七野（ななの）　雪（ゆき）といいます」

深くぺこりとお辞儀をする七野さん

ティア「実は、七野さん今度の月１試験でやばいのよね」

真間「月１試験？何だそれは？」

誠「そもそも試験という言葉を俺は知らん」

ティア「現実逃避してないで現実を見なさい」

誠・真間「スイマセン」

どうも、試験とかテストとか言う言葉を聞くとモチベーションがた落ちしてしまう

国語に数学は得意なんだが英語が不安でしょうがない

とりあえずデュエル実技で挽回するしかない

誠「っとまぁ、こんな感じだ、俺達に勉強教えろなんていうのは危険だぞ」

確実に赤点に導く自信があるぜ

ティア「筆記はどうでもいいの、、問題は実技なの、七野さんのね」

雪「実は、、今度のデュエルの実技試験で結果を残さないと私、、退学になってしまうんです」

退学？エリートコースのブルーの生徒がか？

雪「知っていると思うんですが、デュエルアカデミアで男子生徒はレッド、イエロー、ブルーとランクわけが行われていますが女子は無条件でブルーに配属になるんです、、、ですが、私の実力がブルーの水準値に達してないと言われ、今度の試験で結果を残さなかったら退学といわれてしまいました」

ティア「って、あなたたち2人に相談しに来たわけ」

なるほどそういうことですか

誠「だが、レッドの俺達がアドバイスするよりブルーの二人がアドバイスしたほうが効果的じゃないか？」

正直俺と真間の教え方は結構ざっくばらんだ

それに比べたら完成されたブルーの指導のほうが効果的かと

それに俺達とは違い同姓からの方が効果的じゃないでないであろうか？

ティア「私達も、、試験用にデッキを調整したいし、チョット人の面倒を見るまでの余裕はなくって」

そうだな、とりあえずあなたはマキャノンは抜くべきだ

誠「しょうがない、、ついでにまとめて面倒見てやるぜ」

スバル「ありがとう」

とりあえずデッキを見ないとな

しかしただ見るだけでは面白くない

やっぱデュエルしながら見たほうがいいだろう

誠「七野さん」

雪「ハイ」

誠「とりあえず君の実力が知りたい、、手っ取り早くデュエルを見させて欲しい」

雪「ハイ、、わかりました」

さて、相手は誰にするか

誠「ナカジマさん」

スバル「何？」

誠「七野さんとデュエルをしてくれますか」

スバル「わ、私？」

誠「チョット実力が知りたいんで」

それとナカジマさんのデッキも知りたいしな

スバル「わかった、いつでもいいよ」

誠「とりあえず、、外に出ようか」

さすがに部屋の中でデュエルディスクを使ったデュエルは狭すぎるので1度外に出ることにした

誠「それじゃあレフリーは俺が勤めさせてもらいます」

真間「とりあえず俺は七野さんの横でどんな感じなのか観察してるぞ」

誠「あぁ、頼む、、、それじゃ準備はいいか？」

スバル「ＯＫだよ」

雪「大丈夫です」

誠「それじゃあはじめてくれ」

スバル・雪「デュエル！！！」

スバル
ＬＰ４０００

雪
ＬＰ４０００

スバル「私のターン、、モンスターを1体裏守備でセットしターンエンド」

スバル
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

雪
ＬＰ４０００

手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

雪「私のターン、、ドワーフ・ガールを攻撃表示で召喚します」

聞いた事のないモンスターだ、オリカか？

七野さんの場に小さめの女性が自分の身長の倍近く有る斧をかついで登場する

ドワーフ・ガール（オリジナル）
レベル３地属性
戦士族
攻撃力１７００守備力２００
効果なし

雪「バトルです、ドワーフ・ガールで相手モンスターを攻撃」

巨大な斧を振り上げドワーフ・ガールがナカジマさんの裏守備モンスターを攻撃する

スバル「守備モンスターはデス・ハムスター」

ナカジマさんの場の裏守備状態のカードが表側表示になると小さな
ハムスターが姿を現す

デスハムスター
レベル３地属性
獣族
攻撃力９００守備力６００
効果
リバース：自分のデッキからデスハムスター１体を裏側守備表示で
特殊召喚する事ができる。

七野さんのドワーフがその巨大な斧でデスハムスターを一刀両断した

ドワーフ・ガール　攻撃力１７００＞デスハムスター　守備力６００

スバル「デスハムスターの効果発動、デッキから同名カードを裏守
備で１体セットできる」

デッキからカードを１枚デュエルディスクにセットするナカジマさん

まぁ、宣言どおりデスハムスターなのだが

雪「リバースカードを１枚伏せてターンエンドです」

スバル
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

雪
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ドワーフ・ガール
魔法トラップ　リバース×１

スバル「私のターン、、さっき裏守備でセットしたデスハムスターを反転召喚」

先程セットしたカードが表となり再び小さいハムスターがフィールドに現れる

スバル「デスハムスターの効果を再び発動し、同名カードを裏守備で１体セット、、そして２体のモンスターを生け贄に」

なるほど、デスハムスターの効果をうまく利用し生け贄要因を増やしたわけか

スバル「アンティーク・ギアゴーレムを召喚」

２体のハムスターが渦につつまれそこから超巨大な人型の機械がゴ

ゴゴゴゴとフィールドに登場する

アンティーク・ギアゴーレム
レベル８地属性
機械族
攻撃力３０００守備力３０００
効果
このカードは特殊召喚できない。このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

っていきなりですか？

つーかナカジマさんはアンティークギア使いなんですか？

スバル「バトル、アンティーク・ギアゴーレムでドワーフ・ガールに攻撃、アルティメット・パウンド！！！」

巨大な拳がドワーフ・ガールを押しつぶす

雪「ック」

アンティーク・ギアゴーレム　攻撃力３０００＞ドワーフ・ガール
攻撃力１７００

雪
ＬＰ４０００－１３００＝２７００

スバル「コレでターンエンド」

スバル
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　アンティーク・ギア・ゴーレム
魔法トラップ　なし

雪
ＬＰ２７００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

雪「わわ、、私の、ターン」

恐る恐るカードを引く七野さん

無理もないか、デュエル序盤で攻撃力３０００の貫通持ちモンスターがきたんじゃあひるんじまうか

つーかＬＰ４０００の世界で攻撃力３０００の貫通持ちってかなり鬼だと思う

まぁ、ロックバーンに比べれば幾分かわいいか

雪「私は、手札から死者への手向けを発動します」

死者への手向け
通常魔法
手札を１枚捨て、フィールド上に存在するモンスター１体を選択して発動する。選択したモンスターを破壊する。

アンティーク・ギアゴーレムの足元から無数の包帯の様な物が飛び出しアンティーク・ギアゴーレムの体に巻きつきその巨体を地面の中に引きずり込んでいった

スバル「あぁ～～、私のエースモンスターが」

雪「さらに私は思い出のブランコを発動させます」

思い出のブランコ

通常魔法
自分の墓地に存在する通常モンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターはこのターンのエンドフェイズ時に破壊される。

雪「その効果により墓地に眠る翼を織りなす者を特殊召喚します」

七野さんのフィールドに翼を6枚持った巨大な天使が現れる

翼を織りなす者
レベル7光属性
天使族
攻撃力2750守備力2400
効果なし

なるほど、死者への手向けで手札の上級モンスターを捨て墓地から特殊召喚する

昔からよく使われる手堅い戦法だ

雪「バトル、、翼を織りなす者でダイレクトアタック、、ライト・パニッシュ」

巨大な天使の6枚の翼の先に光球が発生しそこから無数のレーザー

が発射されナカジマさんに襲い掛かる

スバル「ウワ～～～～～」

翼を織りなす者　攻撃力２７５０（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

スバル
ＬＰ４０００－２７５０＝１２５０

一気にＬＰが逆転した

なんだ、結構強いじゃん七野さん

雪「さらにモンスターを1体裏側守備でセットし、エンドフェイズに思い出のブランコで召喚された翼を織りなす者は墓地に送られます」

七野さんのフィールドの大天使が光につつまれ場から消滅する

スバル
ＬＰ１２５０
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

雪

LP2700
手札2枚
モンスター　裏守備×1
魔法トラップ　リバース×1

スバル「私のターン、、手札からテラ・フォーミングを発動」

テラフォーミング
通常魔法
自分のデッキからフィールド魔法カードを1枚手札に加える。

スバル「その効果でデッキからギア・タウンを手札に加えそのまま発動」

デッキからカードを1枚選択肢そのままデュエルディスクのフィールドカード置き場にセットするナカジマさん

すると立体映像の効果で当たり1面が機械仕掛の街のような風景に変る

ギア・タウン
フィールド魔法
アンティーク・ギアと名のついたモンスターを召喚する場合に必要なリリースを1体少なくする事ができる。このカードが破壊され墓地に送られた時、自分の手札・デッキ・墓地からアンティーク・ギ

アと名のついたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

スバル「さらに手札から浅すぎた墓穴を発動、互いのプレイヤーは墓地に眠るモンスター1体を自分フィールド上に裏守備状態でセットする」

浅すぎた墓穴
通常魔法
お互いはそれぞれの墓地に存在するモンスターを1体選択し、それぞれのフィールド上に裏側守備表示でセットする。

スバル「私はデスハムスターを選択」

雪「私は翼を織りなす者です」

互いのフィールドにセット上体のモンスターが1体ずつ出現する

スバル「行くよ、私は裏守備状態のデスハムスターを生け贄に、アンティーク・ギアガジェルドラゴンを召喚」

裏守備状態のハムスターが渦につつまれ今度は機械の体を持ったでっかいドラゴンがフィールドに現れる

アンティーク・ギアガジェルドラゴン

レベル８地属性
機械族
攻撃力３０００守備力２０００
効果
このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。　以下のモンスターを生け贄にして生け贄召喚した場合、このカードはそれぞれの効果を得る。●グリーン・ガジェット：このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。●レッド・ガジェット：相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた時、相手ライフに４００ポイントダメージを与える。●イエロー・ガジェット：戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、相手ライフに６００ポイントダメージを与える。

せっかくさっきのターンがんばってアンティーク・ギアゴーレムを破壊したのにもう同じくらい強いモンスター召喚しちゃったし

七野さん完全に怯えてしまってる

スバル「バトル、、アンティーク・ギアガジェルドラゴンで裏守備モンスターに攻撃」

ギアガジェルドラゴンの口から炎が放たれ七野さんのフィールドのモンスターを焼き尽くす

七野「私のモンスターはホーリー・エルフです」

ホーリー・エルフ
レベル４光属性
魔法使い族
攻撃力８００守備力２０００
効果なし

アンティーク・ギアガジェルドラゴン　攻撃力３０００＞ホーリー・エルフ　守備力２０００

スバル「コレでターンエンド」

スバル
ＬＰ１２５０
手札３枚
モンスター　アンティークギア・アゲジェルドラゴン
魔法トラップ　なし

フィールド　ギアタウン

雪
ＬＰ２７００
手札２枚

モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

雪「私のターン、、モンスターを裏守備でセットしターンエンドです」

スバル
ＬＰ１２５０
手札３枚
モンスター　アンティークギア・アゲジェルドラゴン
魔法トラップ　なし

フィールド　ギアタウン

雪
ＬＰ２７００
手札２枚
モンスター　裏守備×２
魔法トラップ　リバース×１

コレは完全にナカジマさんの流れだな

七野さんは完全に防御で手一杯

スバル「私のターン、手札のアンティーク・ギアビーストを召喚」

今度は機械仕掛の巨大な犬がナカジマさんのフィールドに現れる

アンティーク・ギアビースト
レベル６地属性
機械族
攻撃力２０００守備力２０００
効果
このカードは特殊召喚できない。このカードが戦闘によって破壊した相手効果モンスターの効果は無効化される。このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

スバル「バトル、ギアガジェルドラゴンで私から見て裏守備のモンスターに攻撃」

ギアガジェルドラゴンが再び炎を吐き出す

その標的は先程浅すぎた墓穴で復活したモンスターであった

雪「私のモンスターは翼を織りなす者です」

セット状態のカードが表になり翼を閉じて防御体制をとっている天使のすがたになった

アンティーク・ギアガジェルドラゴン　攻撃力３０００＞翼を織りなす者　守備力２４００

ギアガジェルドラゴンの炎を浴びフィールドから消滅する大天使

スバル「そしてアンティーク・ギアビーストでもう1体の裏守備モンスターに攻撃」

機械仕掛の犬が七野さん裏守備モンスターに向かって走り出す

雪「私のモンスターは異次元の女戦士です」

異次元の女戦士
光属性レベル４
戦士族
攻撃力１５００守備力１６００
効果
このカードが相手モンスターと戦闘を行った時、そのモンスターとこのカードをゲームから除外する事ができる。

姿を現した異次元の女戦士をアンティーク・ギアビーストが噛み砕き破壊する

アンティーク・ギアビースト　攻撃力２０００＞異次元の女戦士
守備力１６００

雪「異次元の女戦士の効果を発動、、戦闘で破壊されたとき任意でこのカードとこのカードを戦闘で破壊したモンスターを除外できます」

スバル「だけど私のアンティーク・ギアビーストは戦闘で破壊した効果モンスターの効果を無効化に出来るよ」

雪「そ、、そんな」

スバル「私はコレでターンエンド」

スバル
ＬＰ１２５０
手札３枚
モンスター　アンティークギア・アゲジェルドラゴン、アンティークギア・ビースト
魔法トラップ　なし

フィールド　ギアタウン

雪
ＬＰ２７００
手札２枚

モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

雪「わ、私のターン、、ドロー」

とても力のないドローの声

もう七野さんは完全にあきらめムードになっている

雪「モンスターを1体裏守備でセットしリバースカードを2枚伏せてターンエンドです」

スバル
ＬＰ１２５０
手札３枚
モンスター　アンティークギア・アゲジェルドラゴン、アンティークギア・ビースト
魔法トラップ　なし

フィールド　ギアタウン

雪
ＬＰ２７００
手札２枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×３

スバル「私のターン、、永続魔法アンティーク・ギアキャッスルを発動」

アンティーク・ギアキャッスル
永続魔法
フィールド上に表側表示で存在するアンティーク・ギアと名のついたモンスターの攻撃力は３００ポイントアップする。モンスターが通常召喚される度に、このカードにカウンターを１つ置く。アンティーク・ギアと名のついたモンスターを生け贄召喚する場合、必要な生け贄の数以上のカウンターが乗っていれば、このカードを生け贄の代わりにする事ができる。

スバル「この効果で私のフィールドのモンスターはパワーアップします」

アンティーク・ギアガジェルドラゴン
攻撃力３０００→３３００

アンティーク・ギアビースト
攻撃力２０００→２３００

もうやめて、スバル、とっくに対戦相手の気力は０よ、もう勝負はついたのよ

スバル「バトル、、アンティーク・ギアビーストで裏守備モンスターに攻撃」

雪「セットモンスターは海神の巫女です」

海神の巫女
レベル４水属性
水族
攻撃力７００守備力２０００
効果
このカードが表側表示でフィールド上に存在する限り、フィールドは「海」になる。フィールド魔法カードが存在する場合、この効果は適用されない。

海神の巫女が表側表示になるが一瞬にしてアンティーク・ギアビーストに食い殺されてしまう

リバースは全部攻撃対応型のトラップなのかな?さっきから全然使ってない

アンティーク・ギアゴーレム　攻撃力２３００＞海神の巫女　守備力２０００

スバル「アンティーク・ギアガジェルドラゴンでダイレクトアタック」

ギアガジェルドラゴンの炎が今度は相手プレイヤーに襲い掛かる

雪「キャ～～～～」

アンティーク・ギアガジェルドラゴン　攻撃力３３００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

雪
ＬＰ２７００－３３００＝－６００

真間「なるほど、、大体わかった」

デュエルを追え俺達は１度レッド寮の部屋に戻った

誠「とりあえず、七野さんへのアドバイスは真間に任せるぞ」

真間「任せろ、、伊達に隣でデュエルを見ていない」

誠「さて、、それじゃあ俺はこっちのほうだな」

そういってランスターさんとナカジマさんに向かい合うように腰を下ろす

誠「とりあえずナカジマさんのデッキは問題がないと思う、あんだけ激しく上級モンスターを展開するデッキで事故る事なくプレイングできるのははっきり言って感服でした」

スバル「エへへ」

誠「とりあえず、、、当面はランスターさんのデッキ調整ですね」

ティア「え!?私」

誠「とりあえずデッキを見せてください」

ティア「えぇ、、しっかりチェックして頂戴」

ランスターさんからデッキを受け取りば～～～っと流してみていく

誠「とりあえず、、、このカードは抜きましょう」

パパッとデッキから明らかに不要と思われるカードを抜いていく

マグナム・リリィ

マキャノン

大砲だるま

マジンガン

ガンロック

タイホーン

誠「しかし、、、よくこれらのカードを手に入れられたな」

特に大砲だるまにはびっくりした、この人2枚もデッキに入れてるし

あと、交流試合の時に気づいてましたが案の定射撃デッキですか

ティア「まぁ、、片っ端から持ってるカードをデッキに詰め込んだ感じだったし、変えよう変えようとは思ってても機会もなく周りにも指摘してくれる人はいなかったし」

まぁ、普段ツンツンしてるから近寄りがたいところもあったのかな？それとも指摘しづらかったか？

つーかナカジマさん、親友ならちゃんと助言してやりましょうよ

ランスターさんのデッキとナカジマさんのデッキを見比べたら絶対ナカジマさんのデッキのほうが完成度ダンチです

なんかイメージ壊れるな～、アニメだとまったく逆のポジションだったのに

ナカジマさんが変なデッキ作ってそれをランスターさんが指摘するそんなイメージがあったのにな

誠「とりあえずカードが少なすぎるな、こういう時は」

俺はＰＤＡを操作し有る人物にメールを送った

数分後

三沢「入るぞ、小野寺」

先程メールを送った人物、三沢が部屋にやってきた

三沢「なんだ、レッド寮なのにずいぶんと華やかだな」

誠「ジョークはいいから、頼んだものもって来てくれたか」

三沢「あぁ、、とりあえずこんな所だな」

そういって三沢は背負っていたリュックの中から大量のカードを取り出し床に置く

三沢「大変だったぞ“射撃するっぽいモンスターカードを大量に持ってきてくれ”なんてメールを貰ったときにはどんな基準で持っていっていいかわからなかったぞ」

そうだよな、属性や種族ならまだしも“射撃するっぽいモンスター”というあいまいな検索ワードだったしな

それでもこんなに持ってきたお前はスゲーよ

誠「よし、、それじゃあ三沢もランスターさんのデッキ調整に付き

合ってくれ」

三沢「スマン、実はこの後野球部に助っ人を頼まれていてな、そっちの応援に行かないといけないんだ」

なんということだ、せっかく出番を増やし俺との友情フラグを立てようとしたのに

さすがは三沢、どんなに出番を増やそうとしてもすぐ表舞台から退いてしまう

三沢「とりあえずそのカードは全部持っていっていいぞ、使わなかったりあまってたりしているカードだから、それじゃあデッキ調整がんばれよ」

そういって三沢は部屋から去っていった

誠「さて、、それじゃあデッキ調整と行きますか」

視線変更～真間～

とりあえず俺は七野さんを連れて部屋の外に出ていた

先程のデュエルを見てこの人の弱点を知ったのでそれを本人に教え

るためだ

真間「七野さん単刀直入に言うぞ」

七野「ハ、ハイ」

真間「君は、、すごく気が弱いだろう」

七野「え、、、、その」

さっきのデュエルでもそうだったが相手が強力なモンスターを召喚すると軽くパニックを起こし思考回路をとめてしまう

完全にあせりのせいで本来の実力を出し切れてない感じだ

まぁ、さっきのデュエルは運が悪いことにくるトラップカードがリアクティブアーマーやミラーフォース、攻撃の無力化とアンティーク・ギア系のモンスターの前では紙当然のカードしか引かなかった事もあるんだが

真間「気迫という物がない、そんなおびえた姿勢じゃあデッキは答えてくれない」

七野「ですが、その弱点はどうにもできません」

真間「何故だ?」

七野「私は、、、強くないんです、あなたや、ナカジマさん、小野寺さんとは違って、、、、、相手が強いとやる気が出たりとかそういった事はないんです、いつもおびえることしかできない」

しまいに泣き出しそうになる七野さん

まるで俺がいじめているみたいだがここは心を鬼にしないと

真間「七野さん、あなたがもし男性だったら俺はこの場でおもいっきし殴ってます」

七野「、、、、、」

声こそ出さなかったが七野さんの顔が一瞬恐怖でゆがむ

真間「あなたは、何でデュエルをするんですか」

七野「デュエルを、、、する理由」

真間「あなたは、、、どうしてそのデュエルをするんですか?どうして戦うんですか?」

七野「私、、私」

真間「そんな小さな声でなく、、大きな声で言って欲しい」

ついつい声に力が入る

そんな俺の叫びにもひるまず七野さんは

七野「私、、小さい頃、すごく体が弱かったんです、、、学校にもあんまり通えず、病院に通い詰めで、、そんな私に、デュエルという物を教えてくれる人がいました、その人からデュエルを教わり“

あぁ、、世界にはこんなに楽しい事があるんだ”って思ったんです、、そして私は決めたんです、、私みたいにふさぎこんでいる人にデュエルを通じて世界にはこんなに楽しい事があるんだよって、教えてあげたいんです、あの時あの人が私にしてくれたように、だから私はデュエルのことをもっとよく知りたくて、、、このデュエルアカデミアに来たんです」

先程のおびえためでなくとてもまっすぐな目で俺を見つめここに来た理由を教えてくれた

真間「そうか、、、じゃあなおの事、相手とデュエルして怯えてちゃあいけないな」

七野「ハイ、、ありがとうございます空栗さん、あなたのおかげでデュエルをするきっかけを、理由を思い出しました」

そういって俺の前から駆け出す七野さん

七野「部屋にこもってもう1度デッキを調整してみます」

真間「おう、、がんばれよ」

とても元気よく走っていく七野さん

大丈夫だ、あんなにまっすぐした目をした彼女が作るデッキだきっと彼女の気持ちにも答えてくれるはず

俺は今度の実技試験を楽しみにしながらレッド寮へ戻った。

第１０話試験に挑むのであればまずはキャベツのまるかじりだ（後書き）

誠よりも真間の方が主人公してました。そして人間のヒロイン七野雪登場。細かい設定は誠のヒロインができてからと考えています、ですがチョットヒロインが作りづらいといいますか……他のかたの小説を読んでいると入学試験時に一目惚れし学園生活を送っていくうちに再開しヒロイン化というのがよくあるのですがその機会を逃しているこの小説。

次回は月一試験です。

第１１話たった数話でいじめられキャラを獅子に変える、話の都合とはそういう

月１試験突入です。

今回は誠のお話です、退学がかかった雪のデュエルは次回になります。

それでは本編の方をどうぞ。

第11話たった数話でいじめられキャラを獅子に変える、話の都合とはそういう

誠「……オワタ～～」

机の上にドテ～～～っとうつぶせる

長かった筆記試験がようやく終わりを迎えた

真間「誠、、生きてるか？」

誠「生きてます、、生きているから生きていることを楽しくすればいいと思うけどな」

あぁ、、元祖クウガ事、五代　雄介の幻影が俺にサムズアップをしている

俺の意識も青空になる

三沢「いいから現実に戻って来い」

ッハ！！危ない危ない

魂だけがあの世に行くところであった

誠「ありがとう三沢」

三沢「これからデュエルの実技試験だぞ、大丈夫なのか」

誠「大丈夫だ、、、、この試験でたまった鬱憤を一気に晴らしてく

れる」

デュエルという単語を聞いたとたん再び体に火が付き始める

真間も完全に復活をしていてデッキをシャッフルしている

真間「みんな血相変えてデュエル場に向かって行ったしな、俺達も負けていられん」

三沢「いや、みんなはデュエル場でなく購買に向かったんだ」

誠「腹ごしらえか」

三沢「いいや、今日新しいカードのブースターが入荷するらしいんだ、って今日の試験前にデッキを強化できるカードを求めて買いにいったってわけだ」

あぁ、、思い出した

確か新しいカードは全部クロノス先生が買い占めて十代をコテンパンにするために万丈目に渡すんだよな

せっかく走ったのにザマァ

三沢「お前達は買いに行かないのか」

誠「俺は、、このままでいいかな、変にいじって回らなくなったらいやだし」

実際にデッキに新カードを投入しようものなら変に機嫌損ねて回ら

なくなることがあるからな

真間「確かに、ここに来て自分のデッキを信じられないというのはデュエリストとしてどうかと思うな」

三沢「2人ともずいぶんと余裕だな」

真間「そういう三沢も余裕みたいだな」

三沢「お前達と同じだ、いまさら新しいカードを入れてもデッキ回りが悪くなるだけだしな」

さすがは三沢博士余裕じゃないっすか

その余裕があるスタイルを白の結社の時にも維持してて欲しいです

そして数時間後、場所はデュエル場

試験官「それでは次、レッド寮、小野寺　誠前へ」

誠「オッス！！！」

試験官に名前を呼ばれデュエル場に足を運ぶ

あ！！試験官とは言っても入学試験を請け負ってくれた試験官とは別の人だ

連戦につぐ連戦で会場全体がかなりヒートアップしている

誠「さて、、俺の相手は誰かな」

試験官「対戦相手の君島　昭二、前へ」

昭二「ハイ」

お！！誰かと思えば毒島のときに知り合った昭二じゃないか

まさかこんな形で再開するとは、もとい、またお話に絡んでくるとは以外だった

昭二「今日は全力で相手をさせてもらいます、誠さん」

誠「あぁ、、かかってこい！！」

トランクス、手加減したら承知しないぞ、、、っと天津飯のようにモチベーションを上げていく

誠「さぁ、、熱く楽しいデュエルにしようぜ！！！！！」

誠・昭二「「デュエル！！！！」」

誠

ＬＰ４０００

昭二
ＬＰ４０００

昭二「俺のターン、シャイエンジェルを表側守備表示で召喚します」

光属性デッキでおなじみの天使が相手の場に召喚される

つーかすっかり忘れていたがこの世界では表側守備表示ありだったな

シャインエンジェル
レベル４光属性
天使族
攻撃力１４００守備力８００
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の光属性モンスター１体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。その後デッキをシャッフルする。

昭二「ターンエンドです」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚

モンスター　なし
魔法トラップ　なし

昭二
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　シャインエンジェル
魔法トラップ　なし

誠「俺のターン、、ロックストーン・ウォリアーを召喚」
すっかりおなじみとなった岩から変形するモンスターが俺の場に現れる

ロックストーン・ウォリアー
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１８００守備力１６００
このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。このカードの攻撃によってこのカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、自分フィールド上に「ロックストーン・トークン」（岩石族・地・星１・攻／守０）２体を特殊召喚する。このトークン

はアドバンス召喚のためにはリリースできない。

珍しく攻撃的なカードが手札にそろっている

誠「ロックストーン・ウォリアーでシャインエンジェルに攻撃」

これまたおなじみとなったショルダータックルでシャインエンジェルを粉砕するロックストーン・ウォリアー

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞シャインエンジェル　守備力８００

昭二「シャイネンジェルの効果発動、、デッキから攻撃力１５００以下の光属性モンスターを特殊召喚できる、俺はクィーンズ・ナイトを特殊召喚します」

相手の場に騎士甲冑をつけた女性剣士が姿を現す

クィーンズ・ナイト
レベル４光属性
戦士族
攻撃力１５００守備力１６００
効果なし

アレは確か毒島から守ったカード
友達から貰った大切なカードとか言ってたな
誠「俺はコレでターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　なし

昭二
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　クィーンズ・ナイト
魔法トラップ　なし

昭二「俺のターン、、キングス・ナイトを通常召喚」
相手の場に風格の有る老剣士が召喚される
キングス・ナイト

レベル４光属性
攻撃力１６００守備力１４００
戦士族
効果
自分フィールド上にクィーンズ・ナイトが存在する場合にこのカードが召喚に成功した時、デッキからジャックス・ナイト１体を特殊召喚する事ができる。

昭二「キングス・ナイトの効果で俺はデッキからジャックス・ナイトを特殊召喚」

キングス・ナイトとクィーンズ・ナイトが剣を掲げるとフィールドに光の柱が発生しそこからジャックス・ナイトが姿を現す

ジャックス・ナイト
レベル５光属性
戦士族
攻撃力１９００守備力１０００
効果なし

誠「なるほど、モンスター３連コンボか」

たった２ターンでモンスターが３体並んだ

さすがは伝説のデュエリスト武藤　遊戯が使っていた手では有る

昭二「バトル、、ジャックス・ナイトでロックストーン・ウォリアーを攻撃」

手に持っていた剣で俺のロックストーン・ウォリアーに切りかかるジャックス・ナイト

攻撃力が低いためバシ～～～ンと真っ二つに切られてしまう

ジャックス・ナイト　攻撃力１９００＞ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００

誠「ロックストーン・ウォリアーの戦闘で受ける俺への戦闘ダメージは０になる」

昭二「ですが、フィールドはがら空きです、２体でダイレクトアタック」

攻撃が残っているクィーンズ、キングスが俺に迫ってくる

誠「うわ～～～～～」

クィーンズ・ナイト　攻撃力１５００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

キングス・ナイト　攻撃力１６００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

誠
ＬＰ４０００－３１００＝９００
ライフが一気に減らされすぎた
チョットやばいかな
昭二「コレでターンエンドです」

誠
ＬＰ９００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

昭二
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　クィーンズ・ナイト、キングス・ナイト、ジャックス・ナイト
魔法トラップ　なし

誠「俺のターン、、巨大ネズミを召喚」

頼んだぜ、俺のデッキの主力カード

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

誠「バトル、、巨大ネズミでクィーンズ・ナイトを攻撃」

手に持っている頭蓋骨をクィーンズ・ナイトに投げ飛ばす巨大ネズミ

しかしその頭蓋骨はクィーンズ・ナイトがバッティングをするかのように剣で打ち返し見事巨大ネズミにピッチャー返しをするのであった

巨大ネズミ　攻撃力１４００＜クィーンズ・ナイト　攻撃力１５００

誠
ＬＰ９００－１００＝８００

誠「ッグ、この瞬間巨大ネズミの効果でデッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスターを連れてくることができる」

昭二「リクルーターの効果を自ら使ってくるとは」

誠「俺が呼び出すのは激昂のムカムカだ」

ムカムカ（オッシャ、、行くぜ）

最近姿を見ないのですっかり忘れていた激昂のムカムカの精霊が俺の後ろからモンスターゾーンに走り出す

メガロック同様俺の後ろのほうでは萌えキャラだったがフィールドに付く頃には完全に萌えがかけらも残らないカニの姿になっている

激昂のムカムカ
地属性レベル５
攻撃力１２００守備力６００
自分の手札１枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

誠「俺の手札は５枚なので攻撃力は３２００に」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→３２００

誠「そしてまだバトルフェイズは終わっていない、激昂のムカムカで再びクィーンズ・ナイトを攻撃、アングリーブロー」

クィーンズ・ナイトに今度は激昂のムカムカが向かっていく

今度は迎撃することがかなわずムカムカのはさみに押しつぶされ消滅する

激昂のムカムカ　攻撃力３２００＞クィーンズ・ナイト　攻撃力１５００

昭二
ＬＰ４０００－１７００＝２３００

昭二「ウワ」

誠「さらにリバースカードを１枚伏せてターンエンド」

激昂のムカムカ
攻撃力３２００→２８００

誠
ＬＰ８００
手札５枚
モンスター　激昂のムカムカ

魔法トラップ　リバース×１

昭二
ＬＰ２３００
手札５枚
モンスター　キングス・ナイト、ジャックス・ナイト
魔法トラップ　なし

昭二「俺のターン、、手札から黙する死者発動、その効果で墓地に眠るクィーンズ・ナイトを特殊召喚」

相手の場にマジックカードがあわられそこから盾を前に構えたクィーンズ・ナイトが降臨する

黙する死者
通常魔法
自分の墓地に存在する通常モンスター１体を選択して発動する。選択したモンスターを表側守備表示で特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターはフィールド上に表側表示で存在する限り攻撃する事ができない。

さて、この状況でクィーンズ・ナイトを復活させえたということは

昭二「さらに手札の魔法カード融合を発動」

やはり来たか

融合
通常魔法
手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター１体をエクストラデッキから特殊召喚する。

昭二「場にいる絵札の三銃士を融合、、現れろ、アルカナナイトジョーカー」

絵札の三銃士がその剣を重ねると激しい光を放ちその光が晴れると三銃士の姿がなくなりトランプの柄を全身にまとった巨大な剣士がそこに立っていた

アルカナナイトジョーカー
レベル９光属性
戦士族
攻撃力３８００守備力２５００
融合　クィーンズ・ナイト＋ジャックス・ナイト＋キングス・ナイト
効果
このカードの融合召喚は上記のカードでしか行えない。フィールド上に表側表示で存在するこのカードが、

魔法カードの対象になった場合は魔法カードを、罠カードの対象になった場合は罠カードを、効果モンスターの効果の対象になった場合はモンスターカードを、手札から1枚捨てる事でその効果を無効にする。この効果は1ターンに1度しか使用できない。

昭二「悪いですがこのターンで終わらせてもらいます、、アルカナナイトジョーカーで激昂のムカムカに攻撃、アルカナフラッシュ・JOK!!!」

アルカナナイトジョーカーの剣から宇宙刑事よろしな感じでレーザーブレードのようなものが発生し俺のムカムカに向かって振り下ろされる

誠「リバースカードオープン」

昭二「無駄です、、俺のアルカナナイトジョーカーには魔法、トラップを防げる効果が備わっています」

誠「ところがギッチョン、、和睦の死者」

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは0になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

ムカムカの前に3人の修道女が現れムカムカをかばう形になる

アルカナナイトジョーカーのレーザーブレードが修道女に当たる寸前で寸止めされる

なるほど、女を切る剣は持ってないということか、紳士だ

昭二「確かに、、アルカナナイトジョーカーに効果を及ぼさないカードを使われたらさすがに対応策がないです、、俺はコレでターンエンドです」

誠
ＬＰ８００
手札５枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　なし

昭二
ＬＰ２３００
手札４枚
モンスター　アルカナイトジョーカー
魔法トラップ　なし

誠「俺のターン」

さて、しばらくはアルカナナイトジョーカー無双を楽しませてやりたいが正直そのモンスターは恐ろしすぎる、早々にご退場願おう

誠「リバースカードを2枚伏せてモンスターを裏守備でセットしターンエンド」

誠
ＬＰ８００
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

昭二
ＬＰ２３００
手札４枚
モンスター　アルカナイトジョーカー
魔法トラップ　なし

昭二「俺のターン、、ブレイドナイトを攻撃表示で召喚」

誠「その瞬間、、トラップ発動、激流葬」

激流葬

通常トラップ
モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚された時に発動する事ができる。フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

相手の場にモンスターが召喚されるがその瞬間激しい水が流れ込みすべてモンスターを飲み込んでいった

昭二「ク、、アルカナナイトジョーカーは対象をとらない効果の無効はできない」

誠「そして俺は裏守備でセットしたクリッターの効果を発動」

クリッター
レベル３闇属性
悪魔族
攻撃力１０００守備力６００
効果
このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力１５００以下のモンスター１体を手札に加える。

誠「俺はモアイ迎撃方を手札に加える」

昭二「ック、ターンエンド」

誠
ＬＰ８００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

昭二
ＬＰ２３００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

誠「俺のターン」

相手の場にはカードはない、この好機逃しはしない

誠「モアイ迎撃砲を召喚」

モアイ迎撃砲
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１１００守備力２０００
効果
このカードは１ターンに１度裏側守備表示にする事ができる。

頼んだぜ俺の主力の１枚

俺のフィールドの地面からゴゴゴゴゴとイースター島のモアイ像っぽいモンスターが現れる

誠「バトル、、モアイ迎撃砲でダイレクトアタック、イースターレーザーキャノン！！」

昭二「うお！！」

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

昭二
ＬＰ２３００－１１００＝１２００

誠「バトルフェイズを終えメイン2で、モアイ迎撃砲の効果でこのカードを裏守備に変更する」

パタンとモアイ迎撃砲が裏守備カードに変化する

昭二「ターンエンドだ」

誠
ＬＰ８００
手札４枚
モンスター　裏守備×１

魔法トラップ　リバース×１

昭二
ＬＰ１２００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

すごいじゃないか昭二

とてもオシリスレッドとは思えない実力だ

あの時お前毒島と戦ってたら勝ってたぞ

昭二「俺のターン、切り込み隊長を通常召喚」

フ～～～ン、ッハ！！っと歴戦の勇者を思わす傷を全身にたずさえた剣士が現れる

切り込み隊長
レベル３地属性
戦士族
攻撃力１２００守備力４００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手は表側

表示で存在する他の戦士族モンスターを攻撃対象に選択する事はできない。このカードが召喚に成功した時、手札からレベル４以下のモンスター１体を特殊召喚する事ができる。

昭二「その効果で手札の忍者マスターＳＡＳＵＫＥを召喚」

何もない空間に切れ目が走りまるで布がはがれるかのように開いてそこから一人の忍者がフィールドに現れる

忍者マスターＳＡＳＵＫＥ
レベル４光属性
戦士族
攻撃力１８００守備力１０００
効果
このカードが表側守備表示のモンスターを攻撃した場合、ダメージ計算を行わずそのモンスターを破壊する。

昭二「そして魔法カード発動、闇をかき消す光発動」

懐かしいカードだ、サイバーポッドやファイバーポッドが使えた時期には重宝したな

光の護封剣を持ってなかった俺はこのカードをよく使ったものだ

闇をかき消す光

通常魔法
相手フィールド上に裏側表示で存在するモンスターを全て表側表示にする。

ぱ～～～～～っと激しい光がフィールドに現れ俺のモアイ迎撃砲が表側表示になる

昭二「バトルです、、忍者マスターＳＡＳＵＫＥでモアイ迎撃方に攻撃」

昭二（ＳＡＳＵＫＥの効果でモアイ迎撃砲を破壊し切り込み隊長でダイレクトアタックすれば俺の勝ちだ）

ッフ、昭二よ、今頃お前は心の中で勝利宣言をしてるかもしれないがあえて言わせて貰おう、それは自己説明敗北フラグだと！！！

誠「リバースカードオープン、聖なるバリア～ミラーフォース～」

昭二「この局面でミラーフォース」

誠「ず～～～～っと温存してここぞというときまで取っておいたカードだ」

聖なるバリア～ミラーフォース～
通常トラップ
相手がモンスターで攻撃した時、相手の攻撃表示モンスターをすべ

て破壊する。

ＳＡＳＵＫＥとともに切り込み隊長が俺に向かって来ていたがミラーフォースの効果によって現れたバリアにはじかれ消滅する

誠「ここぞという時まで切り札はとって置くもんだぜ」

昭二「ッグ、、ターンエンド」

誠
ＬＰ８００
手札４枚
モンスター　モアイ迎撃砲
魔法トラップ　なし

昭二
ＬＰ１２００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

相手の場にはモンスターもリバースもない

ここはぜひメガロック・ドラゴンを引いてかっこよくフィニッシュを決めたいぜ

誠「俺のターン、ドロー」

引いたカードは……メデューサ・ワーム

誠「俺はメデューサ・ワームを召喚」

地面を突き破り巨大なワームが俺の場に召喚される

メデューサ・ワーム
地属性レベル２
岩石族
攻撃力５００守備力６００
効果
このカードは１ターンに１度だけ表側守備表示にする事ができる。
このカードが反転召喚に成功した時、相手フィールド上のモンスター１体を破壊する。

誠「バトル、モアイ迎撃砲とメデューサ・ワームでダイレクトアタック！！！」

昭二「うわ～～～～～～」

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

メデューサ・ワーム　攻撃力５００（ダイレクトアタック＞相手プ

レイヤー

昭二
ＬＰ１２００－１６００＝－４００

試験官「それまで、、勝者小野寺　誠」

「ワ～～～～～～～」

会場が歓声でいっぱいになる

昭二「いや～～～～、やっぱ強いですね」

誠「いいや、お前も中々強かったぜ」

最後のダイレクトアタックで尻餅をついてた昭二に手を差し伸べる

昭二「ありがとう」

ガシっと手をつかみ起き上がる昭二

誠「スッゲー熱く楽しいデュエルだったぜ、、ありがとう」

昭二「俺こそ、、楽しかったです」

再び俺たちに歓声が送られる

それに答え俺と昭二は互いの腕を天高く突き上げた。

第１１話たった数話でいじめられキャラを獅子に変える、話の都合とはそういう

何気に昭二のキャラが気に入ってたりしている自分がいます。

ちなみに昭二は戦士デッキです。

作中でも使いました“闇をかき消す光”当時は反則的に強力なリバースカードが沢山あったので重宝したな～～～とか思い出してしまいました。

前書きにも書いたのですが次回は雪のデュエルです。

第１２話電波少年的ラストデュエル～約束の場所へ～（前書き）

月一試験雪編です。今回もチートすれすれのオリカ、いいえ、もうチートクラスのオリカが登場します。

それではどうぞ。

第１２話電波少年的ラストデュエル～約束の場所へ～

ティア「リボルバードラゴンの効果発動成功、相手モンスターを破壊しダイレクトアタック、ブラストバレル」

相手プレイヤー「うわ～～～～」

相手プレイヤー
ＬＰ２０００－２６００＝－６００

スバル「アンティーク・ギアゴーレムで相手守備モンスターに攻撃、アルティメットパウンド！！！」

相手プレイヤー「ヒデブ！！！」

相手プレイヤー
ＬＰ６００－１０００＝－４００

真間「速攻魔法リミッター解除発動、、そしてパワーアップした機械王で攻撃、ドリルブーストナックル！！！！」

相手プレイヤー「ミギャ～～～～」

相手プレイヤー

ＬＰ４０００－４６００＝－６００

誠「お！！みんなお疲れさん」

真間とナカジマさんとランスターさんが観客席に戻ってくる

真間「実に楽しいデュエルだった」

ティア「まったく、みんな死に物狂いで挑んでいるのに楽しんでいるのはあなたたち２人くらいよ」

真間「まぁ、、そんな事よりもだ」

スバル「次はいよいよ、、、だね」

誠「そうだな」

試験官「それでは次、、ブルー女子の七野　雪前へ」

雪「ハイ」

ティア「とうとう七野さんの番ね」

誠「ここで結果を残さなきゃ退学」

真間「大丈夫だ」

スバル「その根拠は？」

真間「今の七野さんの目を見ればわかる、今の七野さんは、、今までの七野さんではない」

視線変更～雪～

とうとう私の番が来ました

すごくドキドキしているのが自分でもわかる

でも不思議と不安とかは感じない

いつもだったら激しい心臓の鼓動に押しつぶされそうになるのに

今日はなぜかすごく心地が良かった

試験官「同じくブルー女子、、東条　レオナ」

レオナ「ハイ」

なぜかデュエル場に赤いジュウタンが走りその上を対戦相手のレオナさんと思われる女性が歩いてくる

レオナ「あなたが私のお相手ですの？」

雪「ハイ、よろしくお願いします」

しかしなんというか、絵に書いたようなお嬢様という感じです
“お紅茶が冷めてしまいますので早々に決させてもらいますわ”とか言い出しそうです

レオナ「お紅茶が冷めてしまいますので早々に決させてもらいますわ」

本当に言い出しました！！

雪「そうですね、では早速はじめましょう」

雪・エレナ「「デュエル！！」」

雪
ＬＰ４０００

エレナ
ＬＰ４０００

見ててください空栗さん

私の、デュエルを

雪「私のターン、、猫かぶりを守備表示で召喚します」

天からトラの皮だけが私のフィールドに落っこちその下から女性型モンスターが姿を現しちょうどトラの皮をかぶる形となる

猫かぶり（オリジナル）
レベル３地属性
攻撃力６００守備力１２００
効果なし

雪「カードを１枚伏せてターンエンドです」

雪
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　猫かぶり
魔法トラップ　リバース×１

エレナ
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

エレナ「私のターン、、ドロー、破壊のゴーレムを召喚しますわ」

相手の場の足元から土人形が姿を現す

破壊のゴーレム
レベル４地属性
岩石族
攻撃力１５００守備力１０００
効果なし

レオナ「バトル、破壊のゴーレムよ、猫かぶりを粉砕なさい」
ゴーレムが右手を振り上げ私の猫かぶりに近づいてくる
雪「リバースカードオープン、万能地雷グレイモア」

万能地雷グレイモア
通常罠
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。相手フィールド上に表側攻撃表示で存在する攻撃力が一番高いモンスター1体を破壊する。

破壊のゴーレムの足元にスイッチが発生

ゴーレムがそれを踏むと同時に激しい爆発が起こりゴーレムは木っ端微塵になり消滅する

レオナ「私のゴーレムをよくも、、カードを2枚伏せてターンエン

ドですわ」

雪
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　猫かぶり
魔法トラップ　なし

エレナ
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

レオナ（私のリバースカードは攻撃してきたモンスターを破壊する聖なるバリア～ミラーフォース～に私の魔法・トラップカードを守るアヌビスの裁き、この壁を越えることができて）

雪「私のターン、手札から融合を発動」

融合
通常魔法
手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター１体をエクストラデッキから特殊召喚する。

雪「場の猫かぶりと手札のムーントランスを融合」

ムーントランス（オリジナル）
レベル４光属性
戦士族
攻撃力１８００守備力３００
効果なし

雪「融合召喚、、月下の女豹剣士」

立体映像の月があわられその下に豹の皮で作った鎧を身にまとい巨大なアックスを手に持った女性モンスターが降臨する

雪「さらに私は座敷わらしを召喚しバトル、月下の女豹剣士でダイレクトアタック」

レオナ「リバースカードオープン、聖なるバリア～ミラーフォース～」

レオナさんが自らの右腕を前にかざしトラップカードの発現を宣言する

だが肝心のカードのほうはうんともすんとも言わなかった

レオナ「何故、、何故トラップが発動しませんの」

慌てふためいているところにさらに私のモンスターが攻撃を仕掛けた

月下の女豹剣士「ハ～～～」

レオナ「キャ」

月下の女豹剣士　攻撃力２２００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

レオナ

ＬＰ４０００－２２００＝１８００

レオナ「お待ちなさい、、なぜかは知りませんがトラップカードが発動しませんの」

雪「それは私の月下の女豹剣士の効果です」

レオナ「え！？」

月下の女豹剣士

レベル７光属性

獣戦士族

攻撃力２２００守備力１８００

融合　猫かぶり＋ムーンストランス

効果

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。このカードがフィールド上で表側表示で存在する限り互いのプレイヤーは魔法・トラップゾーンの伏せカードを発動することはできない。

雪「さらに座敷わらしでダイレクトアタック」

私の場のおかっぱ頭の着物を着た女の子が相手プレイヤーに手まりを投げ飛ばす

座敷わらし
レベル４水属性
魔法使い族
攻撃力１０００守備力１４００
効果
このカードが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えるたびにデッキからカードを１枚ドローできる。

座敷わらし　攻撃力１０００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

レオナ
ＬＰ１８００－１０００＝８００

雪「座敷わらしの効果でデッキからカードを１枚ドロー、、、、そ

して今ちょうどドローした大嵐を発動させます」

大嵐
通常魔法
フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て破壊する。

レオナ「私のカードが」

雪「ターンエンドです」

雪
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　月下の女豹剣士、座敷わらし
魔法トラップ　なし

エレナ
ＬＰ８００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

レオナ「私のターン、ランド・バルキリーを攻撃表示で召喚します

わ」

相手の場に魔方陣が現れそこから馬にまたがった一人の女騎士が飛び出す

ランド・バルキリー（オリジナル）
レベル４地属性
戦士族
攻撃力１５００守備力１０００
効果
このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上の地属性モンスターは、守備表示モンスターを攻撃した時にその守備力を攻撃力が越えていれば、その数値だけ相手に戦闘ダメージを与える。

レオナ「バトルですわ、ランド・バルキリーで座敷わらしを攻撃！！」

馬にまたがった女騎士がこちらに駆けて手に持った剣で私の座敷わらしを切り裂いた

ランド・バルキリー　攻撃力１５００＞座敷らわし　攻撃力１０００

雪
ＬＰ４０００－５００＝３５００

レオナ「そしてメイン2に移行しますわ、、手札の通常魔法地砕きを発動いたします」

相手の場に巨大な拳が出現し地面を砕きその割れ目に月下の女豹剣士が飲み込まれていく

地砕き
通常魔法
相手フィールド上に表側表示で存在する守備力が一番高いモンスター1体を破壊する。

レオナ「私はコレでターン終了ですわ」

雪
ＬＰ３５００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

エレナ
ＬＰ８００
手札２枚
モンスター　ランド・ヴァルキリー
魔法トラップ　なし

雪「私のターン、、ホーリー・エルフを守備表示で召喚します」

ホーリー・エルフ
レベル４光属性
魔法使い族
攻撃力８００守備力２０００
効果なし

雪「リバースカードを2枚伏せてターンエンドです」

雪
ＬＰ３５００
手札０枚
モンスター　ホーリー・エルフ
魔法トラップ　リバース×１

エレナ
ＬＰ８００

手札2枚
モンスター　ランド・ヴァルキリー
魔法トラップ　なし

レオナ「私のターン」

ホーリー・エルフの守備力は２０００、並大抵のレベル４モンスターでは倒せない数値、仮に生け贄召喚してきたとしても私のライフは大きく削られることはない

レオナ「いいカードを引きましたは、、マジック発動、壺の中の魔術書」

壺の中の魔術書（マンガ版ＧＸオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする。

レオナ「この効果により互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローしますわ」

手札増強、何か来るかもしれません

レオナ「そして私は手札から融合を発動しますわ」

融合
通常魔法
手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決め

られた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

レオナ「手札の岩石の巨兵と融合呪印生物・地を融合させますわ」

相手の場に大きな岩の巨人が現れその体を茶色い物体が覆いかぶさり4，5回うねりを上げ中からホウキにまたがった魔女が姿を現す

サンド・ウィッチ
レベル6地属性
岩石族
攻撃力2100守備力1700
融合　岩石の巨兵＋エンシェント・エルフ
効果なし

レオナ「さらに装備魔法アークエネミーをサンド・ウィッチに装備させますわ」

サンド・ウィッチの体がオレンジ色の包まれる

アークエネミー（オリジナル）
装備魔法

地属性モンスターのみ装備可能、装備モンスターの攻撃力を３００ポイント上げる。このカードを装備したモンスターを破壊しない限り相手は他のモンスターを攻撃できない。このカードが墓地に行った時、墓地にあるこのカードをゲームから除外することでデッキから魔法カードを1枚選択し、デッキの一番上に置く。

サンド・ウィッチ
攻撃力２１００→２４００

レオナ「さらに私は通常召喚を行っておりませんわ、、手札のベイオウルフを通常召喚いたします」

相手の場に大きな斧を持った狼男が姿を現します

ベイオウルフ
レベル４地属性
獣戦士族
攻撃力１６５０守備力１０００
効果なし

レオナ「バトル、サンド・ウィッチでホーリー・エルフに攻撃いたしますわ」

相手の場の魔女が私のモンスターに向かって杖を振りかざす

すると天から大量の隕石が降ってきて私のホーリー・エルフを押しつぶして生きます

スイマセン、メチャクチャ派手な攻撃演出ですけど彼女攻撃力２４００ですよね？

明らかにそれの倍以上のモンスターの攻撃にしか見えません

レオナ「私のサンド・ウィッチはランド・バルキリーの恩恵を受け貫通効果を持っていますわ」

雪「ック、リバースカードオープン、ホーリージャベリン」

ホーリージャベリン
通常トラップ
相手の攻撃モンスター１体の攻撃力分のライフポイントを回復する。

雪「その効果により私は攻撃してきたサンド・ウィッチの攻撃力と同じ数値分ＬＰを回復します」

雪
ＬＰ３５００＋２４００＝５９００

エレナ「回復効果でダメージを軽減する作戦ですのね」

サンド・ウィッチ　攻撃力２４００＞ホーリー・エルフ　守備力２０００

雪
ＬＰ５９００－４００＝５５００

レオナ「さて、コレでフィールドのモンスターがいなくなりましたわね、ランド・バルキリーとベイオウルフでダイレクトアタックいたしますわ」

馬にまたがった女騎士と狼男がいっせいに私に攻撃を仕掛けてきます

正直怖すぎです、思わず目をつむってしまいました

ランド・バルキリー　攻撃力１５００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

ベイオウルフ　攻撃力１６５０（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

雪
ＬＰ５５００－３１５０＝２３５０

スバル「ライフがせっかく回復したのにもともとの数値以上に減らされちゃった」

ティア「本当に大丈夫なの」

誠「ＬＰでは勝っているが、相手の場には凶悪なモンスターが３枚、、結構追い詰められた状況だ」

真間「大丈夫、、七野さんなら、勝てる」

観客席の方から空栗さんの声が聞こえてきます

本当は逃げ出したいくらい怖いはずなのに

その声を聞いただけで勇気がわいてきます

心の底からデュエルを楽しめることができます

ありがとうございます真間さん

私は、、、勝ちます！！

レオナ「ターンエンドですわ」

雪

ＬＰ２３５０

手札３枚

モンスター　なし

魔法トラップ　リバース×１

エレナ
ＬＰ８００
手札０枚
モンスター　ランド・ヴァルキリー、サンド・ウィッチ、ベイオウルフ
魔法トラップ　なし

雪「私のターン、ドロー」

私の場にはモンスターがいない

相手の場にはモンスターが3体

私の手札は４枚

私は、あなたという障害を越えて見せます

レオナ（いい目ですわね、まだ勝負をあきらめていない、、ですが伝説のブルーアイズ・ホワイトドラゴンクラスの攻撃力のモンスターを呼び出そうとも私のサンド・ウィッチしか攻撃できません、その際発生するダメージは６００ポイント、そしてアークエネミーの効果でデッキトップにモンスター除去系魔法カードを持ってくれば私の勝利ですわ）

雪「私は永続魔法、魂吸収発動」

魂吸収
永続魔法

このカードのコントローラーはカードがゲームから除外される度に、１枚につき５００ライフポイント回復する。

レオナ「ライフ回復カード」

雪「そしてリバースカードオープン、デビル・コメディアン」

デビル・コメディアン
通常トラップ
コイントスで裏表を当てる。当たりは相手の墓地のカードを全てゲームから除外する。ハズレは相手の墓地のカードの枚数分、自分のデッキの上からカードを墓地へ送る。

レオナ「私の墓地には８枚のカードが、全て除外すればＬＰ４００回復になりますわね」

雪「私は表を選択、、コインよ、舞って」

私達の間に立体映像のコインが飛び舞う

その結果は裏

レオナ「残念でしたわね、デッキから８枚カードを墓地に送りなさい」

デッキから８枚カードを墓地に送る

レオナ「あてが外れましたわね、せっかく魂吸収を張ったのに」

雪「正直言いますと魂吸収は保険だったんです」

レオナ「な、なんですって？」

雪「どちらかといえば私は外れて欲しかったんです」

レオナ「つ、強がりはよろしいですわ、早くターンを続けなさい」

雪「それでは行きます、、私は墓地に眠る炎、水、風、土属性のモンスターをゲームから除外し、手札のエレメント・クイーンを特殊召喚します」

私の場に赤と青、緑と茶色の光の柱が立ちその間から大きな杖を持った女性型モンスターが姿を現す

エレメント・クイーン（オリジナル）
レベル7地属性
魔法使い族
攻撃力２５００守備力１９００
効果
このカードは通常召喚できない。自分の墓地の炎、水、地、風属性モンスターを1体ずつゲームから除外する事でのみ特殊召喚できる。ダメージステップ時このカードとバトルを行うモンスターと同じ属

性のモンスターカードを手札から墓地に捨てることで、このカードの攻撃力をバトルステップ終了時まで１０００ポイントアップさせる。

雪「バトル、サンド・ウィッチに攻撃を仕掛けます、そしてその瞬間エレメント・クイーンの効果を発動、手札の地属性モンスターを墓地に送ることでバトルステップ終了時まで攻撃力を１０００ポイントアップさせる」

エレメント・クイーン
攻撃力２５００→３５００

雪「エレメント・クイーンの攻撃、アンチ・アースブラスト！！！」

私の場のエレメント・クイーンが杖を地面に突き刺すとサンド・ウィッチの足元から岩の柱が大量に発生しサンド・ウィッチの体を貫き破壊する

レオナ「キャ～～～～～」

エレメント・クイーン　攻撃力３５００＞サンド・ウィッチ　攻撃力２４００

レオナ
ＬＰ８００－１１００＝－３００

試験官「そこまで、勝者七野　雪」

観客「ワ～～～～～～～～～～～～～～」

雪「あ、あのう、ありがとうございました、東条さん」

レオナ「レオナでいいですわ、雪さん」

私は互いの健闘をたたえレオナさんと握手する

視線変更～誠～

七野さんのデュエルを終え最後は十代と万丈目のデュエルが行われた

結果は原作と同じでＶＷＸＹＺドラゴン・カタパルトキャノンを羽クリボーＬＶ１０で破壊

しフェザーマンで止めを刺し幕を閉じた

月1試験が終わり1時間後

俺とナカジマさんとランスターさんは校舎から離れた茂みの中にいた

その視線の先には2つの人影が

ひとつは俺の親友の真間

そしてもうひとつは先程見事に勝利し退学を回避した七野さんであった

視線変更～真間～

試験終了後俺は七野さんに呼び出された

最初はすごく顔を赤くして何かもじもじしておりすごく困っていたのでとりあえず落ち着かすため校舎の周りをぶらぶらと歩いている

真間「とりあえず、七野さん」

七野「あ、、、はい」

真間「試験合格おめでとう」

七野「あ、ありがとうございます」

なんか最初あった頃の彼女に戻っているようだ

デュエルをしている時はあんなに輝いていたのに

今は完全に何かに怯えているようだ

もしかして、俺に怯えてるのか？

七野「あのう、、空栗さん」

真間「おう、、なんだ」

七野「お話いしたい事があります」

真間「俺にか」

七野「はい」

俺に話したい事

そしてとても言いずらそうな七野さん

もしかしてアレか

ズボンのチャック開っぱだったか？

雪「私と、、、友達になってくれませんか」

友達、、何だそんな事か

真間「友達になるも何も、、、俺達は友達じゃないか」

雪「え！？」

真間「一緒にデュエルの事考えて、高みを目指し、、もう俺達は友達だぜ」

雪「そうですか、、、それでは、私のことを名前で呼んでもらえないでしょうか？」

真間「あぁ、、いいぜ、これからもよろしくな、、雪」

俺は雪に右手をさす出す

雪「ハイ、、真間さん」

それをゆっくりと握り返してくる雪

視線変更～真間～

真間「しっかし、、覗き見なんて悪趣味だな」

スバル「そうだね」

ティア「現在進行形で覗いている私達が言えた事じゃないけどね」

っとか何とか言いつつも誰一人としてやめようとしないのは思春期のなせる業

他人の恋愛事には超興味津々

スバル「そうだ、、小野寺君も私に事名前で呼んで欲しいな」

誠「エ！？」

スバル「私、ナカジマの方で呼ばれ慣れてないからチョット違和感感じてるんだよね、、だからスバルって呼んで欲しいな」

それは願ったりかなったりですよ

あのスバル・ナカジマとそこまで親友になれるなんて夢のようだ

誠「それじゃあこれからもよろしくな、スバル」

ティア「それじゃあ私も名前の方で読んでいいわよ、ランスターの方で呼ばれ慣れてないから」

誠「そうか、、それじゃあよろしくな、ランスターさん」

ティア「、、、、、今の話聞いてた？」

誠「あぁ、、名前の方で呼んでいいと言ってたよな、、つまり苗字の方でもいいって事だよな」

ティア「どんだけひねくれてるのよあんたの根性は～～～」

誠「ギャ～～～～～」

ランスターさんのロメロ・スペシャルが俺の間接を締め上げる

コレがミッドチルダ式の魔法なのか～～

いや、どう考えても肉弾戦か

ティア「まったく、これからは2人分突っ込まなきゃいけないのか」

あきれた声と共に俺の体を開放するランスターさん

誠「まぁ、、冗談はさておき、よろしくなティアさん」

真間「それじゃあ俺も名前の方で読んでいいかな」

誠・スバル・ティア「！！！！！！」

3人同時に振り返る

そこには腕を組み仁王立ちする真間がいた

真間「気づいてないと思ってたのか、バレバレだぞお前達の尾行は」

さすがは俺の親友、デュエルだけでなく私生活においても鋭い男だ

真間「まったく、とりあえず許してやるよ、、その代わり俺もしたの名前で呼ばしてもらうぜ、、スバル、ティア」

なんだかんだで色々とあったが月一試験は無事に終わりを迎えたのであった。

第１２話電波少年的ラストデュエル～約束の場所へ～（後書き）

実は真間と雪の話はＧＸ本編が放送されている時に考えたキャラでして今回のデュエルもその当時考えたものでした。ですが強欲な壷と天使の施しが使えないという時代に変ってしまい調整が…又どこかでポカがあるかもしれない。

次回はオリジナルシナリオを書こうと思います。

ご愛読ありがとうございました。

第１３話ヒロイン登場、仲良くケンカしな（前書き）

竹林さんの感想を参考にし今回台詞の前の名前をはずしてみました。
正直“コレ誰の台詞？”という部分があるかもしれませんががんばって書いてみました。　それでは本編をどうぞ。

第13話ヒロイン登場、仲良くケンカしな

月一試験が終わり数日がたった

俺と真間は十代と同じくラーイエロー入りを言い渡されたが3人そろってそれを辞退した

十代はレッド寮が気に入っているから

俺は引っ越すのが面倒だから

そして真間は“階級の低いレッドでラーイエローやオベリスクブルーの生徒をデュエルで倒すのは非常にカッコイイから”という理由で結局オシリスレッドに残ることとなった

そして試験が終わって初めての日曜日

そう日曜日だ

それは全国の小学中学高校生は休みの日であり誰もが友達と遊んだり勉学に励んだりと有意義な1日を過ごせる時間

そんな日曜日に俺は先生に呼び出され補修をくらっていた

話を聞けばこないだの試験のデュエル筆記テストが赤点だったそうだ

実技で合格しイエロー入りを辞退した俺が何故補習を？

「死にそうです」

そして補習が終わり俺は廊下においてあったベンチに倒れるかのように寝転がる

「どうした、誠」

たまたま通りかかった真間が俺に声を掛けてきた

俺は寝転がったまま真間に事情を話す

「まさか、、、この俺が補習を受ける事になるとは」

デュエル実技は文句なしの合格、主要五科目も赤点より上で合格ライン

だが答案が帰ってきたらデュエル筆記がまさかの赤点

何故だ?俺は何も間違ってはいない

「お前がデュエル筆記で赤点?名前でも書き忘れたのか」

お前じゃないんだしそんな事はない

「とりあえず試験の解答用紙返してもらったから見てくれ」

「おう」

ベンチにぶっ倒れたまま真間に解答用紙を渡す

「どれどれ」

問：フィールド魔法はどのような魔法カードか答えなさい。
答：フィールドに残り続け自分、相手プレイヤーに恩恵を与える非常にエキサイティングなカード。

問：デッキを作るのに必要な条件を5つ以上答えなさい。
答：1．40枚以上のカード　2．愛情　3．気合　4．魂　5．無限の戦略　6．1枚以下の制限カード　7．2枚以下の準制限カード　8．3枚以下の無制限カード。

問：トラップカードのリアクティブアーマーを漢字で書きなさい。
答：利悪帝武装甲。

問：トラップ中心のデッキに有効な戦略を答えなさい。
答：何度返り討ちにあっても決してくじけない心。

問：儀式召喚と融合召喚の違いを答えなさい。
答：合体は男のロマン。

「、、、、、中学生からやり直せ」

「何故にホワイ？」

「まぁ、、追試は終わったんだろ」

「あぁ、、、この答案用紙の答をもう少しシンプルにしなさいといわれただけで終わったが、疲れた」

「、、、、、試験のとき解答欄1つずつずらして書いてしまったって言ってたがちゃんと書いててもお前はレッドだったと思うぞ」

「とりあえず俺は購買で血糖値を上げるためにアンパンでも食ってくるわ」

「あぁ、、俺はチョットこの辺ぶらついてるわ」

そしてデュエルアカデミアの購買

「「トメさ〜ん、アンパン1個くださ〜い」」

ん、俺の隣からハモル用に声がした

しかも同じ台詞で

「あいよ、、って、ゴメンね、アンパン1個しかないや」

「先手必勝、、もらったぜ」

お金をトメさんに渡そうとしたが

「させるか」

手首をつかまれバシンとカウンターにたたきつけられそのまま押さえ込まれる

「ッグ、何をする」

手首をつかむ力が思いのほか強く一向に腕が上がらない

横を向くと先程俺と台詞画は持ったブルーの女子生徒らしき女性が立っていた

身長は俺より少し小さめ

黄色がかった髪の色をしており後頭部上部でツインテールにしており長さはそんなにロングではないていどである

前頭部には特徴的な大き目のアフォ毛をたずさえ顔つきは少し幼い感じだ

「私の方が０．３秒早かった」

「俺の方が大きな声だった」

俺の腕は相変わらずロック状態だ

「俺の体は今血糖値を上げろ上げろと俺の脳に訴えかけているのだが」

「私は朝から昼ごはんはアンパンと決めていた」

「俺は産まれてこのかた疲れたときはアンパンと決めていた」

「あなたはレディーファーストという言葉を知らないの？」

「レディーファーストの精神は尊重しているが食い物が絡んでくると俺の中のいかなる法律やルールも無効となる」

お互いに完全に譲る気は０のようだ

「こうなったらしょうがない、、デュエルだ、デュエルで決しよう」

「いいわ、やってやろうじゃない」

俺がデュエルの話を持ち出すと同時に俺の右腕が解放される

「さぁ、、購買のアンパンをかけて熱く楽しいデュエルのしようぜ」

「えぇ、、望む所よ」

ついでに補修でたまりにたまった鬱憤を晴らさせてもらうぜ

なんか月一試験のときにも同じ事を言った気が、まぁいい

誠

「「デュエル」」

ＬＰ４０００

ブルー女子生徒
ＬＰ４０００

「俺のターン、、モンスターを裏守備で1枚セットしターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　裏守備1体
魔法トラップ　なし

ブルー女子生徒
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターン、私はライオウを召喚」

相手のフィールドに雷が落ちそこに手足が避雷針になっているモンスターが立っていた

ライオウ
レベル４光属性
雷族
攻撃力１９００守備力８００
効果
このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、お互いにドロー以外の方法でデッキからカードを手札に加える事はできない。また、自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地に送る事で、相手モンスター1体の特殊召喚を無効にし破壊する。

「バトル、ライオウで相手裏守備モンスターを攻撃、ＲＡ☆Ｉ☆ＧＥ☆ＫＩ」

相手の場のライオウの体から電撃が放たれ俺のモンスターに向かってくる

「俺のモンスターは巨大ネズミだ」

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルす

る。

ライオウ　攻撃力１９００＞巨大ネズミ　守備力１４５０

電撃が巨大ネズミを貫き破壊する

すまない巨大ネズミ、いつもいつもいつも破壊させてしまって

「巨大ネズミの効果でデッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスターを特殊召喚できる」

さて、どうする

普通なら激昂のムカムカだけど少し相手の出方も見たいしな

ようし、君に決めた

「ネオスペーシアン・グラン・モールを召喚」

俺のフィールドの床から自らのドリルで穴を掘りグラン・モールが召喚される

ネオスペーシアン・グラン・モール
地属性レベル３
岩石族
攻撃力９００守備力３００

効果
このカードが相手モンスターと戦闘を行う場合、ダメージ計算を行わず相手モンスターとこのカードを持ち主の手札に戻す事ができる。

（グラン・モール、、バトルを行うモンスターを手札に戻すカード、なんてやらしいカードなの、グラン・モールを破壊しなければ私はこの先特殊召喚及び生け贄召喚する際グラン・モールに怯えなければならない、破壊するなら手札になく今場に残っている今のうちだ）

「私は、、手札から魔法カード痛み分けを発動するわ」

痛み分け
通常魔法
自分フィールド上のモンスター1体をリリースして発動する。相手はモンスター1体をリリースしなければならない。

相手の声と共にライオウの体が激しく光りだす

「ライオウを生け贄に相手モンスターを破壊することができる」

電撃をバチバチと発しながら俺のグラン・モールに特攻し爆発する

「うぉ！！、、、そう出たか」

「リバースカードを2枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

ブルー女子生徒
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、ドロー」

モンスターゾーンを空にしてまでグラン・モールを除外したんだ、
あのリバースはモンスター迎撃系トラップ

「頼むぜ、モアイ迎撃砲を召喚する」

俺の主力の１枚モアイ迎撃方が地面からはえてくる

モアイ迎撃砲
地属性レベル４
岩石族

攻撃力１１００守備力２０００
効果
このカードは1ターンに1度裏側守備表示にする事ができる。

「バトルだ、、モアイ迎撃砲でダイレクトアタック、イースターレーザーキャノン！！」

モアイ迎撃砲の口からレーザーが発射される

そしてそのレーザーはそのまま相手プレイヤーを貫く

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

ブルー女子生徒
ＬＰ４０００－１１００＝２９００

トラップを使わなかった、あのリバースはこけおどしか？

それとも１１００ダメージくらいで使うようなカードでなかったか

「ターンエンドだ」

誠

ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

ブルー女子生徒
ＬＰ２９００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン、天の雷を召喚」

相手の場に雷雲のモンスターがモクモクと登場する

天の雷（オリジナル）
レベル４光属性
雷族
攻撃力１７００守備力０
効果
このカードが守備表示モンスターを攻撃する時コントローラーに発生する戦闘ダメージは０になる。このカードが相手守備表示モンスターを攻撃したバトルフェイズ終了時そのモンスターを破壊する。

「バトル、天の雷で裏守備になったモアイ迎撃砲を攻撃」

俺のモアイ迎撃砲が表側表示となり相手の場の雷雲から発射された雷がそれを破壊する

天の雷　攻撃力１７００＜モアイ迎撃砲　守備力２０００

「ッグ、守備力では勝っているが効果で破壊されてしまったか」

「私はリバースカードを1枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

ブルー女子生徒
ＬＰ２９００
手札１枚
モンスター　裁きの雷
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、、ロックストーン・ウォリアーを召喚」

はるかかなたより巨大な岩が転がってきて俺の目の前で手足がはえロックストーン・ウォリアーに変形する

ロックストーン・ウォリアー
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１８００守備力１６００
効果
このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。このカードの攻撃によってこのカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、自分フィールド上に“ロックストーン・トークン”（地属性レベル１岩石族攻撃力０守備力０）２体を特殊召喚する。このトークンはアドバンス召喚のためにはリリースできない。

「バトル、ロックストーン・ウォリアーで天の雷に攻撃」

ロックストーン・ウォリアーが相手の場の雷雲にショルダータックルぶちかまし粉砕する

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞天の雷　攻撃力１７００

ブルー女子生徒

ＬＰ２９００－１００＝２８００

「ターンエンドだ、リバースカードを１枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×１

ブルー女子生徒
ＬＰ２８００
手札１枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×３

「私のターン、ドロー」

（さっきのターン、ロックストーン・ウォリアーで攻撃することもできた、だがモアイ迎撃砲で攻撃を仕掛けてきた、一見考えなしに突っ込んでくるようで実は二手三手先を読んでいる、こいつ本当にレッドなの、私の周りにいるエリート意識だけのブルーの男子生徒より断然強いじゃない、実力だけならラーイエローだっておかしくない）

「きた、、手札のサンダー・ドラゴンの効果を発動」

サンダー・ドラゴン、やばいアレだ

サンダー・ドラゴン
レベル5光属性
雷族
攻撃力1600守備力1500
効果
手札からこのカードを捨てる事で、デッキから別のサンダー・ドラゴンを2枚まで手札に加える事ができる。その後デッキをシャッフルする。この効果は自分のメインフェイズ中のみ使用する事ができる。

「手札のこのカードを墓地に捨てることでデッキから同名カードを2枚手札に加える」

相手がデッキから2枚のサンダー・ドラゴンを手札に加える

つまりあのカードも手札にあるはず

「さらに手札の融合を発動」

融合
通常魔法

手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

「手札のサンダー・ドラゴンを融合、、現れろ、双頭のサンダードラゴン」

相手のフィールドにサンダー・ドラゴンが2体現れ渦を巻きながら回転し1体の巨大な雷をまとったドラゴンというより恐竜といった感じのモンスターが現れる

双頭のサンダー・ドラゴン
レベル7光属性
雷族
攻撃力2800守備力2100
効果なし

やっぱそのカードか

「消費手札2枚でそんな攻撃力のモンスターを呼んでくるとは、恐ろしいカードだ」

ホント恐ろしいカードだぜ

「バトル、、双頭のサンダー・ドラゴンでロックストーン・ウォリ

アーを攻撃、サンダーバースト」

双頭のサンダードラゴンの口から巨大な雷撃が放たれ俺のロックストーン・ウォリアーを破壊する

双頭のサンダー・ドラゴン　攻撃力２８００＞ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００

「ロックストーン・ウォリアーがバトルを行うとき俺に発生する戦闘ダメージは０になる」

「ック、コレでターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

ブルー女子生徒
ＬＰ２８００
手札０枚
モンスター　双頭のサンダー・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、、モンスターを裏守備でセットしターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

ブルー女子生徒
ＬＰ２８００
手札０枚
モンスター　双頭のサンダー・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×３

「私のターン、、モンスターを引かなかったか、だったらこの双頭のサンダー・ドラゴンで殴りきる、双頭のサンダー・ドラゴンで裏守備モンスターに攻撃、サンダーバースト」

「俺の守備モンスターは再び巨大ネズミだ」

そして再び俺のモンスターに雷撃が襲い掛かる

「そして巨大ネズミの効果発動、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスターを特殊召喚する」

デッキからカードを１枚デュエルディスクにたたきつける

「激昂のムカムカを特殊召喚する」

（オッシャ、、行くぜ）

俺の後ろからムカムカが飛び上がり俺の場でカードイラスト通りの姿に変化する

激昂のムカムカ
地属性レベル５
攻撃力１２００守備力６００
自分の手札１枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

「俺の手札は４枚、よってムカムカの攻撃力は２８００」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→２８００

「モンスター１体をコストにそんな攻撃力の高いカードを出すなんて、そっちだってずいぶんと恐ろしいカードを使うじゃないの」

「さぁ、どうする」

「私はコレでターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×１

ブルー女子生徒
ＬＰ２８００
手札１枚
モンスター　双頭のサンダー・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、ドロー、その瞬間俺の激昂のムカムカの攻撃力が３２００になる」

激昂のムカムカ
攻撃力２８００→３２００

「バトルだ、激昂のムカムカで双頭のサンダー・ドラゴンを攻撃、アングリーブロー！！」

俺の激昂のムカムカが双頭のサンダー・ドラゴンの体を真っ二つに切り裂く

激昂のムカムカ　攻撃力３２００＞双頭のサンダー・ドラゴン　攻撃力２８００

ブルー女子生徒
ＬＰ２８００－４００＝２４００

「俺はターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×１

ブルー女子生徒
ＬＰ２４００
手札１枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×３

「私のターン、、モンスターを1体守備表示で召喚しターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　激昂のムカムカ

魔法トラップ　リバース×１

ブルー女子生徒
ＬＰ２４００
手札１枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、再び降臨せよ、ロックストーン・ウォリアー」

先程とまったく同じ演出でロックストーン・ウォリアーが俺の場に現れる

「バトルだ、、激昂のムカムカで相手裏守備モンスターを攻撃、アングリーブロー！！」

「私のモンスターは電池メン単一型よ」

裏側表示のカードが表になり相手の場に巨大な単一電池が現れる

電池メン単一型
レベル１光属性
雷族
攻撃力０守備力１９００
効果

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、相手は自分フィールド上に存在する「電池メン－単一型」以外の雷族モンスターを攻撃対象に選択できない。

相手の場の単一電気を俺のムカムカがハサミでその体を切り裂く

激昂のムカムカ　攻撃力３２００＞電池メン単一型　守備力１９００

「続けてバトルだ、ロックストーン・ウォリアーでダイレクトアタック！！！」

岩の巨人がアイテプレイヤーをショルダータックルで攻撃する

「ッグ」

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

ブルー女子生徒
ＬＰ２４００－１８００＝６００

「ターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　激昂のムカムカ、ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×１

ブルー女子生徒
ＬＰ６００
手札１枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×３

「私のターン、、リバースカードオープン、永続トラップ、リミット・リバース、その効果で墓地に眠る電池メン単一型を特殊召喚」

相手の場に先程倒した電池メン単一型が召喚される

リミット・リバース
永続トラップ
自分の墓地から攻撃力１０００以下のモンスター１体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。そのモンスターが守備表示になった時、そのモンスターとこのカードを破壊する。このカードがフィールド上から離れた時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊

されたこのカードを破壊する。

「さらに今復活させた電池メン単一型を生け贄に、充電池メンを召喚」

電池メン単一型の体が渦に包まれその渦の中からラグビーボールのような頭の機械人間が相手の場に現れる

充電池メン
レベル５光属性
雷族
攻撃力１８００守備力１２００
効果
このカードの召喚に成功した時、自分の手札またはデッキから充電池メン以外の電池メンと名のついたモンスター１体を特殊召喚する事ができる。このカードの攻撃力・守備力は、自分フィールド上に表側表示で存在する雷族モンスターの数×３００ポイントアップする。

「充電池メンの効果で私はデッキから電池メン単三型を特殊召喚」

充電池メンの体が激しく発行しワームホールのようなものを作り出しそこから細長い単三電池方のモンスターが現れる

電池メン単三型
レベル３光属性
雷族
効果
自分フィールド上の「電池メン－単三型」が全て攻撃表示だった場合、電池メン－単三型１体につきこのカードの攻撃力は１０００ポイントアップする。自分フィールド上の電池メン－単三型が全て守備表示だった場合、電池メン－単三型１体につきこのカードの守備力は１０００ポイントアップする。

「さらにリバースカードオープン、速攻魔法、地獄の暴走召喚」

地獄の暴走召喚
速攻魔法
相手フィールド上に表側表示でモンスターが存在し、自分フィールド上に攻撃力１５００以下のモンスター１体が特殊召喚に成功した時に発動する事ができる。その特殊召喚したモンスターと同名モンスターを自分の手札・デッキ・墓地から全て攻撃表示で特殊召喚する。相手は相手自身のフィールド上に表側表示で存在するモンスター１体を選択し、そのモンスターと同名モンスターを相手自身の手札・デッキ・墓地から全て特殊召喚する。

「俺は激昂のムカムカを選択」

俺の場に激昂のムカムカが2体並ぶ

「私は電池メン単三型を2体特殊召喚」

相手の場にもう2体の電池メン単三型が召喚される

「電池メン単三型の効果発動、私の場の全ての電池メン単三型が攻撃表示なので私の電池メン単三型の攻撃力は３０００に、そして充電池メンの効果で私の場の雷族モンスターの数×３００攻撃力守備力がアップする」

電池メン単三型
攻撃力０→３０００

充電池メン
攻撃力１８００→３０００

攻撃力３０００が一気に４体も

だが俺の場には攻撃力３２００の激昂のムカムカが2体

次の俺のターンに手札の大嵐を発動させデュエル序盤から残っていた相手のリバースカードを破壊し2体のムカムカで電池メン単三型を攻撃すれば俺の勝ちだ

って、チョット待て、コレってまさか自己説明敗北フラグしてしまった

「さらにトラップ発動、、光の封札剣」

俺の頭上から光の剣が降り注ぎ手札の大嵐を貫く

光の封札剣
通常トラップ
相手の手札から1枚をランダムに選択し、裏側表示で除外する。そのカードは相手ターンで数えて3ターンの間使用できない。4ターン目のスタンバイフェイズに、そのカードは相手の手札に戻る。

まずい、手札が減ってムカムカの攻撃力が

コレが俺の自己説明死亡フラグか

激昂のムカムカ
攻撃力3200→2800

「バトル、電池メン単三型3体で相手モンスター3体に攻撃」

相手の場のモンスターが電撃をまといながら俺のものスターに突貫してくる

つーかそれなんてトランザム・ミサイルっすか

電池メン単三型　攻撃力３０００＞激昂のムカムカ　攻撃力２８００

電池メン単三型　攻撃力３０００＞激昂のムカムカ　攻撃力２８００

電池メン単三型　攻撃力３０００＞ロックストーン・ウォリアー

攻撃力１８００

誠

ＬＰ４０００－４００＝３６００

「さらに充電池メンでダイレクトアタック！！」

バチバチバチと体から発電しその電気を俺に投げ飛ばす充電地メン

「うわ～～～～～」

充電池メン　攻撃力３０００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

誠

ＬＰ３６００－３０００＝６００

半端ないダメージが俺を襲う

そして体に強烈な電流が走る

コレは雷族モンスターの攻撃を食らったからじゃない

久しぶりにスイッチが入ったぜ

絶望的なこの状況

そうだ、もっと俺を追い詰めろ

その状況から逆転することで俺の体を走る電流はさらにヒートアップする

「ターンエンド」

誠
ＬＰ６００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

ブルー女子生徒
ＬＰ６００

手札1枚
モンスター　充電池メン、電池メン単三型×3
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、、ドロー」

相手の場にリバースカードはない

そして俺が引いたカードは

「墓地に眠る岩石族モンスターを6体除外し、現れろ俺の切り札、メガロック・ドラゴン」

俺のフィールドの地面から沢山の岩が浮かび上がりそれらが集まり俺の切り札メガロック・ドラゴンの姿になる

メガロック・ドラゴン
地属性レベル7
岩石族
攻撃力?守備力?
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×700ポイントの数値になる。

「特殊召喚時、岩石族モンスターを6体除外した事で攻撃力は42

００になる」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?→４２００

「バトルだ、、メガロック・ドラゴンで電池メン単三型を攻撃、アースカノン・インフェルノ!!!!!!」

メガロック・ドラゴンの口から図太い熱戦が発射され相手の場の電池メン１体もろとも相手プレイヤーを貫く

「うわ～～～～～～～」

メガロック・ドラゴン　攻撃力４２００＞電池メン単三型　攻撃力３０００

ブルー女子生徒
ＬＰ６００－１２００＝－６００

「ありがとう、、、、最高に熱く楽しいデュエルだったぜ」

「あ～～あ、負けた負けた、今回はあなたにアンパンを譲るわ」

「アンパン？」

「、、、、もしかして私達がデュエルした理由を忘れてた？」

「、、、、、、、、、、そうだ！！」

楽しいデュエルですっかり忘れていた

「それじゃあお言葉に甘えて、トメさん、、、アンパンくださ～～い」

「あれ、、アンパンならさっき売れちゃったよ」

「うぇ！！？？」

「あんた達がデュエルしている隙に生徒が一人買っていっちゃってね」

そんなバカな～～～～

「結局勝っても負けてもアンパンはお預けって事～」

「、、、、いいや、あきらめるのはまだ早いぜ」

「どういう事？」

「トメさん、、ドローパンひとつもらうよ」

「あいよ」

カウンターにお金を置き俺はドローパンが入ったワゴンに向かう

「ま、、まさか」

「あぁ、、シングル買いできないのならパックで手に入れるまでだ」

「そんな無茶な」

いいや、やってみせる

「運命を切り開く、、、、ドロー」

直感でパンが入った袋を引き当てる

封を開け中に入ってたパンを二つに割る

その中身は

「う、嘘」

「あんこ入りパン、通称アンパンだぜ」

「本当に引き当てるなんて」

「俺のドローもたいしたものだろ、、ほら」

「え!?」

俺が先程2つに割ったアンパンの片方を渡されキョトンとするブル

ーの女子生徒

「大好きなんだろ、、半分やるよ」

「で、でも」

「俺と楽しいデュエルをしてくれたお礼だ」

素直に俺のアンパンを受け取るブルーの女子生徒

「そういやぁ、、自己紹介がまだだったな、俺はレッド寮1年の小野寺　誠だ」

「私はオベリスクスブルー女子の轟（とどろき）　冥衣（めい）」

「轟か、よろしくな」

「、、、ゴメン、私苗字で呼ばれるの慣れてないんだ、冥衣の方でよんで欲しい」

「じゃあ俺も名前でかまわないぜ冥衣」

「えぇ、、、よろしく誠」

「これから3年間よろしくな」

「、、、、つまり私達はライバルという事ね」

「あぁ、、、俺達はライバルだ」

ガシッと硬く握手し俺のチョット騒がしい昼飯は幕を下ろす。

おまけ

「ただいま～～」

「あ、、お帰りなさい誠さん」

「……さてと」

部屋の中に見知らぬ女性が立っていたが今のことろは動じないぜ

かばんを机の上に置き冷静にデッキケースからカードを取り出す

パラパラ～～～っとカードを確認する

「さて、どうしたものか」

そして部屋の中にいた女性を見つめなおす

身長は少し低め

黒い短髪の中にきらめく少し大きめのメガネ

雪さんと同じくらいおどおどとした気弱そうな表情
服はもちろんアカデミアの女子の制服ではなく少し青みがかった水平の方のセイラー服っぽい制服のような服装
「とりあえず確認をする、、君はデュエルモンスターズの精霊かい？」
「ハイ、、そうですが」
やっぱりか～～～、激昂のムカムカ以来ご無沙汰だったからもう出てこないと油断してた～～
しかも今回はなぜか俺の萌属性とはかすりもしない気弱系メガネっ娘
俺、キョンばりにメガネ属性はないぞ
「ちなみに君は何の精霊だ？」
「私はモアイ迎撃砲の精霊です」
モアイ迎撃砲か～～～、確かによく使うカードだから精霊化したのか～～
「なるほど、、自身の効果で裏守備になるから引っ込み思案のキャラになったっと」
「ハイ、、これからもよろしくお願いします」
「ところでモアイ」

「ハイ、、何でしょうか？」

「精霊じみた神秘の力で神様と連絡取れたりできないかな？」

「ご期待にそえず申し訳ないのですが、、そこまでの力は、ちなみにどのようなメッセージを」

「とりあえず殴りたい、、力の限り、むしろ半殺しにしたい、俺の手でね」

「ものすごい綺麗な笑顔でドスのきいたオーラを放ってるんですが」

「いやね、、あいつの粋なはからいかなんかだと思うだけどさ、もうね、、限界なんだよ、精霊が無駄に擬人化、、もとい萌キャラ化がこれ以上進むと俺は本当に神を殺す！！！」

「ヒィ」

「我が名は誠、、小野寺　誠、、我こそは神を断つ剣なり！！！！」

今思えば必殺技名を定めているモンスターばっかだな擬人化したのコレが最後だ、コレが最後であってくれ。

第１３話ヒロイン登場、仲良くケンカしな（後書き）

うまくかけてるかどうか不安です。

作者の趣味全開のヒロイン（人間）登場。そして第３の精霊モアイ迎撃砲です。効果からして擬人化したらこうなるだろうというイメージでおとなしめなメガネっ娘にしました。　ヒロインの設定とかは次回の更新でまとめようかと思ってます。あと精霊の設定も考えているんですがとりあえず現段階で精霊化が決まっているキャラを全員出してから書こう思ってます。

それでは又次回よろしくお願いします。

ヒロイン設定（前書き）

さて、主人公設定も全然できていないのにヒロイン設定をどうしようかと……そうだ、既存のキャラでイメージしてもらおう（逃）

スイマセン、とりあえずヒロイン設定作ったんでどうぞ。

ヒロイン設定

七野（ななの）　雪（ゆき）

女

１５歳

身長は若干低め、若干の童顔。

髪型はセミショートの茶色がかった黒。

普段はおとなしい性格だがデュエル時にはきりっとした表情になる。

イメージは消失の長門からメガネを外した感じ

使用デッキはオリカメインの女性モンスターデッキ。

轟（とどろき）　冥衣（めい）

女

１５歳

身長は十人並み、多少ツリ目。

髪型は後ろよりのツインテールに巨大なアフォ毛がひとつ。

性格イメージはＴｏ　ｈｅａｒｔ２の由真とクラナドの杏を足して２で割った……あまり変らないか２人の性格（爆）

使用デッキは雷デッキ。

ヒロイン設定（後書き）

もう少ししたら精霊の設定とかも書こうかと思ってます。

次回は本編です。十代と翔のタッグデュエルのところです。

第１４話正直同じ作品に気弱キャラは3人もいらない（前書き）

ちなみにタイトルの3人は翔、雪、スバルの事です。

今回から退学をかけたタッグデュエル編です。

そして何気にはじめての原作キャラとオリキャラのデュエル。

第１４話正直同じ作品に気弱キャラは3人もいらない

俺は今十代の部屋にいた

十代の部屋には俺だけでなく真間、三沢、翔、隼人、明日香、雪がいる

まぁ正直少しせま苦しいくらいだ

「って、十代、俺達を集めた理由は何だ」

「実は立ち入り禁止の場所に俺と翔が侵入しちまってよ、下手したら退学しちまいそうなんだよ、、、とりあえずクロノス先生がチャンスをくれてさ、先生がよんだ助っ人デュエリストとタッグデュエルをして勝てば退学を許してくれるって話なんだよ」

つまりタイタンと戦った後って事か

って、チョット待て、つまり若本ボイスを生で聞くチャンスを逃してしまったって事か

なんてことだｏｒｚ

「とりあえずデッキ調整にでも付き合えばいいのか」

「それもあるんだけど、翔」

「うん」

「とりあえず翔、お前のデッキを見てみたい」

「アレ、お前達って同じ部屋だよな？デッキとか知らないのか？」

「そうなんだよ、翔全然デッキを俺に見せてくれないんだよ、それどころかカードを触ってる所すら見たことないんだ」

「う、うん」

力なく返事する翔

なんつーか、似たようなやつが一人いたな

この部屋に初めて来た雪さんくらいの気弱オーラを発している

「じゃあさ、、デュエルしてみようぜ、ここは雪さんがいいんじゃないか」

「え、、私ですか」

同じ引っ込み思案同士、とはいっても雪さんは元だが

そんな雪さんなら翔に何かいいアドバイスをおくれるかもしれない

「それじゃあ早速外に出ようぜ」

こうして俺の提案で雪さんと翔のデュエルが始まった

「よし、雪、、、全力で相手してやれ」

「ハイ、、丸藤さん行きますよ」

「うん」

「「デュエル」」

雪
ＬＰ４０００

翔
ＬＰ４０００

「私のターン、ムーントランスを攻撃表示で召喚」

ムーントランス（オリジナル）
レベル４光属性
戦士族
攻撃力１８００守備力３００
効果なし

立体映像の満月があわられその月に向かって仮面をつけた女性モンスターが姿を現す

「私はコレでターンエンド」

雪
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　ムーントランス
魔法トラップ　なし

翔
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「僕のターン、スチームロイドを召喚」

コミカルな汽車に手足がはえたモンスターが現れる

スチームロイド
レベル４地属性

機械族
攻撃力１８００守備力１８００
効果
このカードは相手モンスターに攻撃する場合、ダメージステップの間攻撃力が５００ポイントアップする。このカードは相手モンスターに攻撃された場合、ダメージステップの間攻撃力が５００ポイントダウンする。

「バトル、スチームロイドでムーントランスを攻撃」

汽車の癖に車輪で滑走するのではなく足のようになった車輪で走り出すスチームロイド

「しかし攻撃力は同じ」

「スチームロイドの効果で相手モンスターを攻撃する時このカードの攻撃力は５００アップする」

スチームロイド
攻撃力１８００→２３００

スチームロイドがムーントランスに体当たりを仕掛け破壊する

スチームロイド　攻撃力２３００＞ムーントランス　攻撃力１８００

雪
ＬＰ４０００－５００＝３５００

「ック、そんな効果があるなんて」

「ターンエンド」

雪
ＬＰ３５００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

翔
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　スチームロイド
魔法トラップ　なし

「私のターン、、ドワーフ・ガールを攻撃表示で召喚」

スバル戦で召喚した女ドワーフが雪さんの場に現れる

ドワーフ・ガール（オリジナル）
レベル３地属性
戦士族
攻撃力１７００守備力２００
効果なし

「バトル、ドワーフ・ガールでスチームロイドを攻撃」

「何で攻撃力の低いドワーフ・ガールで攻撃をしたんだ」

「いや、それでいい、、、、スチームロイドは相手モンスターに攻撃されるとき自身の攻撃力が５００ポイント下がる効果がある」

スチームロイド
攻撃力１８００↓１３００

「落ち着いてフィールドにあるカードの効果を確かめる、そういったマメな努力が勝利につながるんです」

ドワーフ・ガール　攻撃力１７００＞スチームロイド　攻撃力１３００

翔
ＬＰ４０００－４００＝３６００

「うわ～～～」

「リバースカードを１枚伏せてターンエンドです」

雪
ＬＰ３５００
手札４枚
モンスター　ドワーフ・ガール
魔法トラップ　リバース×１

翔
ＬＰ３６００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「僕のターン、モンスターを１体裏守備でセット、リバースカードを１枚伏せてターンエンド」

雪
ＬＰ３５００

手札４枚
モンスター　ドワーフ・ガール
魔法トラップ　リバース×１

翔
ＬＰ３６００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、私はドワーフ・ガールを生け贄に女格闘戦士ＭＵＴＳＵＭＩを召喚」

ドワーフガールがいつもの渦に包まれ底から道着を身にまとった女戦士が現れる

「ＭＵＴＳＵＨＭＩの効果を発動、召喚成功時フィールド上のモンスターの表示形式を入れ替えることができます」

女格闘戦士（オリジナル）ＭＵＴＳＵＭＩ
地属性レベル６
戦士族
攻撃力２２００守備力１９００
効果
このカードが召喚に成功した時、相手フィールド上のモンスター１体の表示形式を変更することができる、その時リバース効果は発動

しない。

「丸藤さんの裏守備モンスターを表側攻撃表示に変更します」

「僕のモンスターはジャイロイド」

ジャイロイド
レベル３風属性
機械族
攻撃力１０００守備力１０００
効果
このカードは１ターンに１度だけ、戦闘によっては破壊されない。
ダメージ計算は適用する。

「バトル、、ＭＵＴＳＵＭＩでジャイロイドに攻撃」

「ジャイロイドの効果、このカードは１ターンに１度戦闘では破壊されない、そしてリバースカードオープン、スーパーチャージ」

スーパーチャージ
通常トラップ
自分フィールド上にロイドと名のついた機械族モンスターのみが存在する場合、相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

自分のデッキからカードを2枚ドローする。

「この効果でデッキからカードを2枚ドローする」

「ですが、戦闘ダメージは受けてもらいます」

女格闘戦士ＭＵＴＳＵＭＩ　攻撃力２２００＞ジャイロイド　攻撃力１０００

翔

ＬＰ３６００－１２００＝２４００

「私はコレでターンエンド」

雪

ＬＰ３５００

手札４枚

モンスター　女格闘戦士ＭＵＴＳＵＭＩ

魔法トラップ　リバース×１

翔

ＬＰ３６００

手札６枚

モンスター　ジャイロイド
魔法トラップ　なし

「僕のターン、、ドロー」

ターンが変わりカードを引いた翔だがそのカードを見つめ動きを止める

おそらくパワーボンドのカードを引いたのだろう

しかしあのカードは兄であるカイザー亮によって封印されている

「僕は手札の魔法カードを発動、融合を発動」

融合
通常魔法
手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

つーか丸藤兄弟よ、融合とパワーボンドをデッキに詰め込むって明らかにおかしい

パワーボンドに集中しなさいよ、2種類はやりすぎです

「場のジャイロイドと手札のジェット・ロイドを融合」

相手の場に眼が付いているコミカルな戦闘機が現れジャイロイドと一緒に天高く舞いひとつの光となる

「ゼロ戦ロイドを特殊召喚」

空から黒光りするごっつい戦闘機型モンスターが召喚される

ゼロ戦ロイド（オリジナル）
レベル７風属性
機械族
攻撃力２４００守備力１８００
融合　ジェット・ロイド＋ジャイロイド
効果
このカードが相手モンスターを破壊した時、そのモンスターのレベル×１００ポイントのダメージを相手プレイヤーに与える。

「バトル、、ゼロ戦ロイドで女格闘戦士ＭＵＴＳＵＭＩを攻撃」

ゼロ戦ロイドに備え付けられてあった機銃が火を噴きＭＵＴＳＵＭＩを破壊する

「ッグ」

ゼロ戦ロイド　攻撃力２４００＞女格闘戦士ＭＵＴＳＵＭＩ　攻撃力２２００

雪
ＬＰ３５００－２００＝３３００

「さらにゼロ戦ロイドのモンスター効果で破壊した相手モンスターのレベル×１００ポイントの効果ダメージを与える」

ゼロ戦ロイドが飛び上がり雪の頭上で手に持っていた爆弾を投げ捨てる

「ッキャ」

雪
ＬＰ３３００－６００＝２８００

「僕はコレでターンエンド」

雪
ＬＰ２８００
手札４枚

モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

翔
ＬＰ３６００
手札５枚
モンスター　ゼロ戦ロイド
魔法トラップ　なし

「私のターン、、モンスターを1体裏守備でセットしターンエンド」

雪
ＬＰ２８００
手札４枚
モンスター　裏守備
魔法トラップ　リバース×１

翔
ＬＰ３６００
手札５枚
モンスター　ゼロ戦ロイド
魔法トラップ　なし

「僕のターン、僕はパトロイドを攻撃表示で召喚」

今度はパトカーのコスプレをした警察官といった感じのモンスターが現れる

パトロイド
レベル４地属性
機械族
攻撃力１２００守備力１２００
効果
相手フィールド上にセットされているカードを１枚めくり、確認した後元に戻す。この効果は１ターンに１度だけ自分のメインフェイズに発動する事ができる。

「パトロイドの効果発動、、相手のセット状態のカードを確認できる、僕は裏守備モンスターを選択」

「私の裏守備モンスターはハープの精」

ハープの精
レベル４光属性
天使族
攻撃力８００守備力２０００
効果なし

「バトル、、ゼロ戦ロイドで裏守備モンスターを攻撃」

「確認してわかってると思いますが、、ハープの精です」

ゼロ戦ロイドの機銃がハープの精を蜂の巣にする

ゼロ戦ロイド　攻撃力２４００＞ハープの精　守備力２０００

「ゼロ戦ロイドの効果で相手に４００ポイントのダメージを与える」

「ック」

雪

ＬＰ２８００－４００＝２４００

「続けてパトロイドでダイレクトアタック」

パトロイドが手に持っている警防で雪さんをバシンとたたく

パトロイド　攻撃力１２００（ダイレクトアタック）＞相手プレイ

ヤー

雪
ＬＰ２４００－１２００＝１２００

「ターンエンド」

雪
ＬＰ１２００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

翔
ＬＰ３６００
手札５枚
モンスター　ゼロ戦ロイド、パトロイド
魔法トラップ　なし

「私のターン、ドロー」

（何で彼女はデュエルを続けるのだろう、こんなに追い込まれて、、逃げ出したくなりようなこの状態で、僕にはわからない）

「リバースカードオープン、融合、、私は手札の慈悲深き修道女と堕天使マリーを融合」

漆黒の天使と祈りをささげる修道女が雪さんの場に現れると同時に渦を巻く

慈悲深き修道女
レベル４光属性
天使族
攻撃力８５０守備力２０００
効果
表側表示のこのカードを生け贄に捧げる。このターン戦闘によって破壊され自分の墓地に送られたモンスター1体を手札に戻す。

堕天使マリー
レベル５闇属性
悪魔族
攻撃力１７００守備力１２００
効果
このカードが墓地に存在する限り、自分のスタンバイフェイズ毎に２００ライフポイント回復する。

「聖女ジャンヌを特殊召喚します」

２体の渦がひとつになりそこに白い鎧を身にまとった女騎士立っていた

聖女ジャンヌ
レベル７光属性
天使族
攻撃力２８００守備力２０００
融合　慈悲深き修道女＋堕天使マリー
効果なし

「私はまだ通常召喚を行っていません、手札のデュナミス・ヴァルキリアを召喚」

天から光が差し込みその光の道をくぐって一人の天使が舞い降りる

デュナミス・ヴァルキリア
レベル４光属性
天使族
攻撃力１８００守備力１０５０
効果なし

「さらに手札のフレイアのホーリーソングを発動」

フレイアのホーリーソング（オリジナル）
通常魔法
ターン終了時まで自分フィールド上の天使族モンスターは自分フィールド上で表側表示で存在する天使族モンスター1体につき攻撃力が３００ポイント上昇する。

魔法カード発動と共に雪さんの場の天使2体の上に天からの光が降り注ぐ

聖女ジャンヌ
攻撃力２８００→３４００

デュナミス・ヴァルキリア
攻撃力１８００→２４００

「バトル、ジャンヌでゼロ戦ロイドを、ヴァルキリアでパトロイドを攻撃」

2体の天使が翔のフィールドのモンスターに襲い掛かる

「うわ～～～～」

聖女ジャンヌ　攻撃力３４００＞ゼロ戦ロイド　攻撃力２４００
デュナミス・ヴァルキリア　攻撃力２４００＞パトロイド１２００

翔
ＬＰ２４００－２２００＝２００

「エンドフェイズに私のモンスターの攻撃力は元に戻ります」

聖女ジャンヌ
攻撃力３４００→２８００

デュナミス・ヴァルキリア
攻撃力２４００→１８００

「ターンエンドです」

雪
ＬＰ１２００
手札０枚
モンスター　聖女ジャンヌ、デュナミス・ヴァルキリア
魔法トラップ　リバース×１

翔
ＬＰ２００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「ぼ、、僕のターン」

翔のやつ、完全に意気消沈してやがる

不思議な物だ、ついこないだは雪さんが同じ立場だったのに今ではすっかり逆の立場だ

さて、雪さんとのデュエルを通じて翔は何を感じた

「僕は、、、サレンダーするよ」

力ない声と共に翔は自らのデッキの上に手を置き降参（サレンダー）をした

次の瞬間デュエルの勝敗が決したので立体映像が解除され場のカードが全て消える

「おい、、どうしたんだよ翔」

「ゴメンよアニキ、あそこまで追い込まれたら逆転なんて」

落ち込む翔の下に集まる俺達

「おい、、、翔」

「何、、！！！！」

突然翔の体が宙を舞う

真間が思いっきり翔の顔を殴ったからだ

倒れている翔に隼人が駆け寄り肩を貸す

「何だあのデュエルは、相手に失礼だと思わないのか」

「そんな事言ったって」

「何で最後のターンカードをドローせずサレンダーなんてした」

「無理なんだよ、僕にはあの状況を逆転するなんて無理なんだよ」

「貴様！！！」

「ズダ〜〜〜〜ン」

「「！！！！」」

誰かが翔を殴ったわけではない

ただ俺が感情に任せて近くにあったレッド寮の柱を殴っただけだ

その衝撃で完全に折れ曲がる

当然俺の拳も無事ではすまず、折れた木材がが刺さりまくりボタボタと血が溢れてくる

「しかしお前はあの時デッキからカードをドローしなかった、、まだまだ勝てる可能性があったかもしれない、その可能性に何故かけなかった、それがデュエルだろう、それがデッキだろう」

「落ち着くんだな誠～、興奮してどんどん血が溢れ出てるんだな」

「僕に、、僕には、、デュエルは無理なんだよ」

そう言って泣きながらどこかには知っていく翔

「十代、、当日は俺か誠と組め、でなければお前が退学になってしまう」

「いいや、俺は翔と一緒にデュエルをする、、翔と一緒でないと、意味がないんだ」

さて、チョット俺も頭に血を上らせすぎたな、少しクールダウンさせないと

まぁ、結論から言えば翔と雪さんを戦わせる作戦は見事失敗に終わった

ただでさえ低かった十代&翔のタッグチームの勝率がさらに低くなるという最悪の結果だ

どうするんだ翔、退学を掛けたタッグデュエルまで時間がないぞ。

第１４話正直同じ作品に気弱キャラは3人もいらない（後書き）

融合を使うと本当に手札の消費が激しいと実感します、原作アニメで強欲な壺がいかにストーリーの展開を助けてくれるのか最近すごく実感してます。カムバックしてくれ強欲な壺。

次回十代がカイザーと戦う部分です。

第１５話兄弟なのに髪の毛の色が違う丸藤兄弟（前書き）

兄弟なのに髪の毛の色が違うことだけでなくアニメでの髪の毛の色の定理について色々と考えてしまう。

クラナドで春原が“金髪で面接はやばいっしょ”とか言っていたが周りの髪の毛の色が紫だったり白銀だったりとすごい髪の色した人物がいるのだが？

まぁ、マンガやアニメとかで全キャラ黒髪なんて珍しいですけどね。

話がだいぶ関係ない方向に行ってしまいましたが１５話しをどうぞ。

第１５話兄弟なのに髪の毛の色が違う丸藤兄弟

「イテテテテテ」

「少しは慢しなさい」

俺は今保健室で鮎川先生の治療を受けている

さすがに手からの出血がひどくツバつけるだけでは治らなかったので本格的な治療を受けていた

「まったく、感情のおもむくままに木製の柱を殴って怪我をするなんて、とりあえずコレでＯＫね」

俺の拳がネオス・フォースよろしな感じに包帯が巻かれる

「しばらく不便かもしれないけど我慢してね、当然デュエルも禁止」

デュエルができない、なんて絶望的な言葉なんだ

「ありがとうございます、それでは失礼します」

鮎川先生にお礼を言って保健室を去る

「大丈夫か～、誠」

「あぁ、、心配掛けたな隼人」

保健室まで付き添ってくれた隼人と合流する

「翔は見つかったのか？」

「いいや、、まだなんだな」

雪さんと翔とのデュエルの後翔は消息を絶った

今十代たちが必死で探していると思う

最初は俺も探そうとしたがさすがに拳が大ピンチだったので保健室に来ていたわけなのだが

「俺達も合流しよう」

その後十代が森の中で翔を捕獲

とりあえず翔はレッド寮の部屋に戻り落ち着かせることにした

「とりあえず、丸藤君は一人にしておいたほうがいいな」

「そうだな、、、って誠、ずいぶんかっこいい腕じゃないか」

「ほっとけ」

包帯の中の拳の筋肉を使おうとするだけで激痛が走る

結構深い所まで木が刺さっていたようだ

「ところで十代は？」

「あぁ、、、何でも翔の兄貴のカイザーと戦うしかないとか言って色々と行動しているらしいぞ」

「カイザーと」

「丸藤君とカイザーとの間に何かあったらしい、それでデュエルしてその答を見出そうとしているようだ」

つまり、今ブルー寮に行けば遭遇できるかもしれない

「よし、、俺達も手伝おう」

「君には仕事があるニャン」

走り出そうとする俺の腕を大徳寺先生がつかみとる

「だ、、大徳寺先生、何ですか、チョット用事が」

「君が破壊した柱がまだ壊れたままニャン、とりあえず修理して欲しいニャ」

そういえば翔と雪さんとのデュエルの時壊してそれっきりだった

「あのう、、俺まだ腕を怪我しているんですが」

「そこをどうにかするのが君の仕事ニャ、、、工具類は物置に入っているから今日中に頼むニャ～」

そういい残し大徳寺先生は去ってゆく

「しょうがない、、柱の修理は俺が手伝おう」

な、何ですと!!!ありがとう三沢、ただでさえ出番が少ないのに俺なんかのためにさらに出番を減らすようなまねをさせてしまってスマナイ

あまりの嬉しさに目からウォーター・ドラゴンを召喚してしまう

「じゃあ十代の応援は俺に任せてくれ」

「あぁ、、頼んだぞ真間」

視線変更～真間～

大徳寺先生につかまった誠と三沢を置いて俺はブルー寮に向かい走っていた

ブルー寮が見えたと同時になぜかずぶぬれの十代が尻餅をついているのを見つける

「大丈夫か十代」

「あぁ、、、だけど酷いよな～」

首をブルブルと振って髪の毛にたまった水を吹き飛ばす十代、お前は犬か

「デュエル申請書を書いてたらクロノス先生に用紙を破かれるし、って、こうやって直接乗り込んでみたら門前払いをくらっちまうしよ」

まぁ、無理もないか

相手は学園最強のデュエリスト

そして俺たちは退学ギリギリの劣等性オシリスレッド

デュエルするどころか会うことすら難しいって事だな

「とりあえず今後の対策を練るために1度寮に戻ろう、服を乾かさないと風邪を引くぞ」

「そうだな」

俺と十代は1度レッド寮に戻る

その際柱の修理をしている誠と三沢の姿があった

「オッ、十代と合流できたようだな、、って首尾の方は？」

「駄目だ、、カイザーに会うことさえ叶わないぜ」

「確かに、アカデミア最強のカイザーとデュエルするのは一筋縄ではいかない、彼を倒せば学園最強の称号を手に入れられるのだからな、誰彼かまわずデュエルできるような人物でもないさ」

「いいや、俺は絶対にあきらめない、、何が何でもカイザーとデュエルするんだ」

俺もそうだが十代も結構頑固な性格のようだ

「とりあえず十代着替えたらどうだ」

「そうだな、部屋に戻るとするか」

誠達と1度別れ部屋に戻ろうとするが

「大変なんだな～～」

重大の部屋から突如人語を話すコアラが飛び出してきた

「って、隼人か、脅かすなよ」

いまだぱっと見コアラと見間違えてしまう
部屋が隣同士なのだから少しは慣れないと失礼だな
「って、何が大変なんだ」
「コレが机においてあたっんだな～」
隼人が十代に1枚の手紙を渡す
まぁ、読まなくても大体の予想はつく
「翔のやつ、逃げやがったな～～」
やはりな
「まだ遠くには行ってないはずだ、手分けして探そう」
走り回ること数分
十代の叫びが聞こえ駆けつける
そこには海に突っ込んでずぶ濡れになった十代と翔がいた
よく見ると丸太が海面に散乱している
イカダか何かで島から脱走しようとしたのか翔

一つ言っておく、いくらお前が小柄とはいえそのていどの木材では海は越えられないぞ

「まったく、お前は今日水難の日か十代」

俺の手をつかみ陸に上がる十代

「サンキュー」

「さて、、、翔」

「うん」

「十代に迷惑を掛けたくないから島を出ようとしたのか」

「うん」

「クロノス先生はタッグデュエルで勝てば退学免除と言ってたんだろ、お前がいなくなったら十代はタッグでデュエルできなくなって結局迷惑がかかるだろう」

「だったら、別の人と組めばいいじゃないか」

「だが、十代はお前としか組み気がないみたいだぞ」

「もちろんだぜ」

「何でアニキは僕なんかと」

「お前でなきゃだめなんだ翔」

「でも、、僕には」

「そうやって逃げ出す気か」

声がした方を見上げるとそこにはカイザー亮が立っていた

その横にはなぜか明日香もいる

「デュエリストとしての自覚がないのであれば早々にこの学園から去れ」

兄弟にしてはずいぶんと冷たいな

いや、兄弟だからこそか

身内だからこそあそこまで厳しくするのか

「そんな言い方ねーじゃねーか」

「いいんだよ、、アニキ」

トボトボと海に戻っていく翔

だから、その丸太を寄せ集めたイカダじゃあ海を越えられないってば

「待てよ、カイザー、だったらせめてはなむけ代わりのデュエルをしようぜ」

こうして急遽十代とカイザーのデュエルが行われる事となった
のだが

「そんなことは許さないぞ～～～」

十代とカイザーがデュエルをしようとしたら突如ブルーの生徒が乱入してきた

「何故俺とは戦わずそんなオシリスレッドと戦うカイザー、お前の相手は俺こそがふさわしいのに」

なんつーか、スッゲー空気よめない男がやってきた

「俺が貴様を倒してアカデミア最強の称号を手に入れるんだ」

しかも名誉目的のようだ

ここは早々に帰ってもらおうか

「スイマセン先輩、、チョット空気読んでここから立ち去って欲しいんですが」

「いいやどかないね、カイザーが俺と戦ってくれるまでは」

あぁ～～もう、しょうがない

「だったら俺とデュエルしてください、先輩が勝ったな俺達はここから立ち去ります、ですが俺が勝ったら潔く帰ってくれますか」

「いいだろう」

「っつーわけだ十代、ここで前菜をいただく、メインディッシュはお前に任せたぜ」

「あぁ、絶対に勝てよ」

「ところで先輩、名前は？」

「戸島（とじま）　鍵（けん）だ」

「それじゃあ楽しいデュエルといきますか」

「「デュエル！！！」」

真間
ＬＰ４０００

鍵
ＬＰ４０００

「先攻は俺がもらう、リバースカードを3枚伏せてターンエンドだ」

真間
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

鍵
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、ドロー」

リバースカードのみ、事故ったのか？それとも罠か？

「行け～～真間君、相手の場はがら空きだ～～」

ゆさぶりをかけてみるか

「俺は手札のメカ・ハンターを攻撃表示で召喚」

メカ・ハンター
レベル４闇属性
機械族
攻撃力１８５０守備力８００
効果なし

「バトルだ、、メカ・ハンターで相手プレイヤーにダイレクトアタック」

俺の場のメカ・ハンターが相手に向かって飛行する

「リバースカードオープン、、リアクティブアーマー」

リアクティブアーマー
通常トラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。その攻撃モンスター１体を破壊する。

メカ・ハンターの体が空中で大爆発する

「ック、俺はリバースカードを２枚伏せてターンエンド」

真間
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

鍵
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、俺は手札から燃えさかる大地」

燃えさかる大地
永続魔法
全てのフィールドカードを破壊する。このカードはそれぞれのスタンバイフェイズ毎に、ターンプレイヤーに５００ポイントダメージを与える。

「さらにリバースカードを1枚伏せてターンエンド」

真間
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

鍵
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　燃えさかる大地、リバース×２

ロックバーンデッキか

「俺のターン、ドロー」

「そして貴様のスタンバイフェイズに燃えさかる大地が貴様のライフを削る」

真間
ＬＰ４０００－５００＝３５００

「俺は手札の機械王プロトタイプを召喚」

俺の場に鋼でできた玉座に座るロボットが現れる

機械王プロトタイプ
レベル3地属性
機械族
攻撃力１６００守備力守備力１５００
効果
フィールド上に存在するこのカード以外の機械族モンスター1体につき、このカードの攻撃力・守備力は１００ポイントアップする。

「機械王の召喚に対しトラップ発動、落とし穴」

落とし穴
通常トラップ
相手が攻撃力１０００以上のモンスターを召喚・反転召喚した時に発動する事ができる。その攻撃力１０００以上のモンスター1体を破壊する。

機械王プロトタイプの下に突如穴が発生し玉座後とそこに落っこちる機械王

「ック、厄介な、、ターンエンド」

真間

ＬＰ３５００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

鍵
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　燃えさかる大地、リバース×１

「手も足も出ないようだな、俺のターン、燃えさかる大地の効果で５００ポイントのダメージをくらおう」

鍵
ＬＰ４０００－５００＝３５００

「そしてカードを１枚伏せてターンエンド」

真間
ＬＰ３５００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

鍵
ＬＰ３５００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　燃えさかる大地、リバース×１

「俺のターン、、燃えさかる大地の効果でダメージを負うぜ」

真間
ＬＰ３５００－５００＝３０００

相手の場にモンスターはなくリバースは3枚と燃えさかる大地１枚

徹底的に俺の攻撃を防いで焼き尽くすつもりだな

グラビティーバインドやレベル制限Ｂ地区がないだけ幾分ましだが

そういやぁ、、誠の答案用紙の問にこんなのがあったな

問：トラップ中心のデッキに有効な戦略を答えなさい。
答：何度返り討ちにあっても決してくじけない心。

まったく持ってその通りだ

「俺はミサイル・シナイパーを召喚する」

ミサイルスナイパー（オリジナル）
闇属性レベル４
機械族
攻撃力１５００守備力１０００
効果
自分フィールド上のミサイルトークン１体を生け贄にささげることで相手フィールド上のモンスター１体の攻撃力をターン終了時まで５００ポイントダウンさせる。

「バトル、ミサイル・スナイパーで相手プレイヤーに直接攻撃」

「無駄無駄無駄無駄無駄、リバース発動、、リアクティブアーマー」

２枚目かよ

俺の場のミサイルをかかえた機械人間が爆発し消滅する

「ターンエンドだ」

真間
ＬＰ３０００
手札３枚

モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

鍵
ＬＰ３５００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　燃えさかる大地、リバース×１

「俺のターン、燃え盛る大地の効果でダメージをくらおう」

鍵
ＬＰ３５００－５００＝３０００

「リバースカードを１枚伏せてターンエンド」

真間
ＬＰ３０００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

鍵
ＬＰ３０００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　燃えさかる大地、リバース×１

「俺のターン、燃えさかる大地のダメージをくらう」

真間
ＬＰ３０００－５００＝２５００

まったく楽だよなあいつは、ドローしてカードを伏せるだけ

相手に合わせてトラップを使い攻撃をつぶしライフは燃えさかる大地で減らしていく

「ブロンズアーム・スマッシャー召喚」

俺のデッキレベル４主力モンスター、頼むぜ

ブロンズアーム・スマッシャー（オリジナル）
レベル４地属性

機械族
攻撃力１７００守備力４００
効果なし

「カウンタートラップ発動、キックバック」

俺の場に召喚されたブロンズアーム・スマッシャーが光に包まれ俺の手札に戻る

キックバック
カウンタートラップ
モンスターの召喚・反転召喚を無効にし、そのモンスターを持ち主の手札に戻す。

「ターンエンドだ」

真間
ＬＰ２５００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

鍵
ＬＰ３０００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　燃えさかる大地、リバース×１

「俺のターン、まずは燃えさかる大地の効果でダメージを食らう」

鍵
ＬＰ
３０００－５００＝２５００

「そして2枚目の燃えさかる大地を発動」

マジかよ

「さらにリバースを1枚伏せてターンエンドだ」

真間
ＬＰ２５００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

鍵
ＬＰ２５００
手札１枚
モンスター　なし
魔法トラップ　燃えさかる大地×２、リバース×１

「俺のターン、、燃えさかる大地の効果のダメージを受ける」

「２枚分で合計１０００ポイントのダメージだ」

真間
ＬＰ２５００－１０００＝１５００

「ッグ、ダメージが半端ねーぜ」

どうする、ここは耐え忍ぶべきか

まぁ、辛抱なんて言葉は俺には似合わないか

「俺はさっきのターンに手札に戻されたブロンズアーム・スマッシャーを再び召喚しバトル、ブロンズアーム・スマッシャーでダイレクトアタック」

「リバース発動、サンダー・ブレイク」

敵のリバースカードから放たれた雷が俺のモンスターを貫く

サンダー・ブレイク
通常トラップ
手札を1枚捨て、フィールド上に存在するカード1枚を選択して発動する。選択したカードを破壊する。

「無駄だ、貴様では俺にダメージを与えることはできない」

「俺はこのままターンエンド」

真間
ＬＰ１５００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

鍵
ＬＰ２５００
手札０枚
モンスター　なし
魔法トラップ　燃えさかる大地×２

「俺のターン、、燃えさかる大地の効果で１０００ポイントのダメージを受ける」

鍵
ＬＰ２５００－１０００＝１５００

「魔法カード、、命削りの宝札を発動」

命削りの宝札（マンガオリジナル）
通常魔法
手札が５枚になるようにドローする。５ターン後全ての手札を墓地に送る。

「デッキからカードを５枚ドローする、、さらにリバースカードを３枚伏せて」

真間
ＬＰ１５００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

鍵
ＬＰ２５００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　燃えさかる大地×２、リバース×３

「まずいな、ここで真間のターンが回れば燃えさかる大地の効果でライフに１０００ポイントのダメージを受け残るライフは５００」

「真間は次のターンで決めないと負けてしまう」

「無理だよ、、勝てないんだ、あんなデッキに勝てっこないよ」

「翔！！！」

「！！」

俺の声にビクッと反応する翔

「翔、、俺の状況を見てみろ、絶望的だ、相手のパーミッションデッキに攻撃を防がれ手も足も出ない状態だ、、でも俺はあきらめない、負ける気はしない、なぜかわかるか」

「どうして」

「俺はデッキを信じている、俺が作ったデッキなんだ、、たとえ俺

が知らずともデッキにはこの状況を打破する戦略が眠っている、、俺はその可能性にかけるぜ！！」

「デッキを、、、信じる」

「デッキを信じているから、、そんなデッキを作った俺を信じているから俺は負けない、そしてそんな俺の全力を全力でぶつけ合ってくれるやつがいるからデュエルは面白いんだ、俺のターン、ドロー」

真間
ＬＰ１５００－１０００＝５００

「お説教はいいが、まず自分の状況を理解してから話をするんだな、どんなにかっこいいことを言っても負けてしまっては誰も耳を貸さない」

「じゃあ勝ってやるぜ、俺は手札の魔法カード大嵐を発動させる！！」

大嵐
通常魔法
フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て破壊する。

「やったぞ、コレで相手は丸裸だ」

「甘いんだよ、、トラップ発動、魔宮の賄賂」

魔宮の賄賂
カウンタートラップ
相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。相手はデッキからカードを1枚ドローする。

「さぁ、俺からのプレゼントだ、1枚ドローしな」

「カードをドロー」

リバースの守りも完璧ってか

「まだまだ、手札のサイクロン発動」

サイクロン
速攻魔法
フィールド上の魔法または罠カード1枚を破壊する。

フィールドに一本の細長い風の集まりが発生し相手のリバースカードめがけ飛んでいく

「リバースカード偽物のわな」

相手の場に“スカ”とかかれたたれまくを持ったゴブリンが俺のサイクロンをかき消した

偽物のわな
通常トラップ
自分フィールド上の罠カードを破壊する魔法・罠・効果モンスターの効果を相手が使用した時に発動する事ができる。このカードを代わりに破壊し、他の罠カードは破壊されない。セットされたカードが破壊される場合は、そのカードを全てめくり確認する。

「ちなみに君が破壊しようとしたカードは奈落の落とし穴だ」

奈落の落とし穴
通常トラップ
相手が攻撃力１５００以上のモンスターを召喚・反転召喚・特殊召喚した時に発動する事ができる。そのモンスターを破壊しゲームから除外する。

「だったら手札のブロンズアーム・スマッシャーを召喚」

「トラップ発動、奈落の落とし穴」

俺の場に召喚されたブロンズアーム・スマッシャーが召喚と同時にワームホールのような物に飲み込まれてゆく

「もうダメだ、、手札の殆どを使い尽くし通常召喚も行った、もう打つ手なんて」

「何を見ているんだ翔」

「え!?」

「冷静にフィールドを見てみろ」

「フィールドを」

さっきまでうつむき加減であった翔がそのあごを上げフィールドを確認する

「俺のあがきは無駄じゃないぜ」

「……あ!!」

ようやく気づいたようだな

翔「相手のリバースカードがなくなっている」

相手のフィールドには表側表示の燃えさかる大地が2枚のみ

「スゲーぜ真間」

「確かに、戸島先輩のボードアドバンテージを奪えたけど、その代償は大きいわ」

「確かに私の鉄壁の守りをここまで崩したのはほめてやろう、だが、どうする、手札も残るわずか、通常召喚の権利を失って何ができる」

「確かに、、フィールド上のカードと俺の手札ではこの状況はくつがえせない、だから、手札から天よりの宝札を発動させる」

天よりの宝札
通常魔法
自分の手札と自分フィールド上に存在する全てのカードをゲームから除外する。自分の手札が2枚になるようにカードをドローする。

「この効果で俺は手札とフィールドのカードを全て除外し新たに2枚ドローする」

まさにディスティニードローだ

まずい、誠じゃないけど興奮してきた

このドローで何が起こるのか

「カードドロー」

恐る恐る引いたカードを確認する

「この状況でどんなカードを引いても無駄だ」

「それどうかな、、儀式魔法、高等儀式術を発動する」

「な、、なんだと」

高等儀式術
儀式魔法
手札の儀式モンスター1体を選択し、そのカードとレベルの合計が同じになるように自分のデッキから通常モンスターを選択して墓地に送る。選択した儀式モンスター1体を特殊召喚する。

「俺はデッキのブロンズアーム・スマッシャーとメカ・ハンターを墓地に送り手札の無敵母艦　ＡＴ－Ｘを特殊召喚する」

無敵母艦　ＡＴ－Ｘ（オリジナル）
レベル８水属性
機械族
攻撃力２６００守備力３０００
効果
自分ドローフェイズ時デッキからカードを1枚ドローする代わりにデッキからレベル４以下の機械族モンスターを手札に加えることが

できる。このカードが表側守備表示の時手札の機械族モンスターを1体を特殊召喚することができる。

立体映像の海がフィールドに現れそこから巨大な空母が浮かび上がってくる

「バカな、、ありえない」

「俺の勝ちだ、、、無敵母艦ＡＴ－Ｘで相手プレイヤーに直接攻撃！！」

ＡＴ－Ｘに取り付けられている大砲が全て戸島先輩の方を向き、いっせいに砲弾が発射される

「うわ～～～～～～」

鍵

ＬＰ１５００－２６００＝－１１００

「ウオッシャ～～～～」

危なかった、正直言えば少し負けは覚悟していた

自分で言うのもアレだが俺の引きもたいしたものだぜ

「俺が、、俺がレッドに負けるなんて、、、、チクショ～～～～～～～～」

涙を流しながらその場から去っていく戸島先輩

せっかく健闘をたたえて握手をしようとしたのに

「さて、、それじゃあ後は頼むぜ十代」

「あぁ、、、なんだか色々と邪魔が入ったけど、デュエルしようぜカイザー」

「あぁ」

その後十代とカイザーのデュエルが行われた

さすがは学園で最も強いデュエリストカイザー

あの十代と互角以上に渡り合っている

そして最後の最後でパワーボンドで召喚されたサイバー・エンド・ドラゴンの攻撃でカイザーの勝利で終わった

「どうだ翔、、俺や真間のデュエルを見て何か感じたか？」

「うん、、２人のデュエルで僕も何か答のような物を手にした気がするよ」

「気がするだけじゃ困る、、ちゃんとした答を教えて欲しいな」

「そうだね、、正直僕がデュエルをする理由はまだ見つかってない、、でも、この学園でいろんなデュエルを経験して、答を見つけ出したいんだ」

まっすぐな瞳で答える翔

あの時の雪を思い出すくらいの強い瞳だ

「いい答だ」

「それじゃあ早速部屋に戻ってデッキ調整しようぜ」

「あぁ」

３人でレッド寮に向かい走り出す

「いい仲間を持ったな、、翔」

さて、十代達を退学させないためにも今夜は徹夜だぜ。

その頃誠は

視線変更～誠～

「フ～～～、疲れたぜ」

三沢の協力のおかげでどうにか柱の修理は終わった

あたりは日も沈みすでに真っ暗

きっと今頃十代とカイザーがデュエルでもしてるんだろう

「それじゃあ俺は2人のデッキ改造に役立ちそうなカードでもかき集めますか」

寮の自室のドアに手をかけ開いてみると

「キュ～～キュ～～」

「バタン！」

思わず勢いよくドアを閉めてしまった

「落ち着け、、とりあえず落ち着こう」

今ドアを空けたら部屋の中に白い毛玉生物がいた気がする

おそらく気のせいだと俺は自分に言い聞かせ再び扉を開ける

「あ！！お帰りなさいませ、ご主人様」

「バタン！！」

再び勢いよく閉められる扉

今度は獣耳をつけたメイドがいた気がする

さっきの毛玉生物がファイナルフォームライドでもしたのか

「きっと疲れてるんだ」

モアイ迎撃砲の精霊と知り合ってまだ少ししか断ってない

そんなに激しいローテーションで新キャラが増えるとは考えにくい

「きっと幻だ幻」

誰もいない密室だと信じて三度ドアが開かれる

「ハ～～～、私って不幸」

「バタン！！！」

3度目の閉門、まぁドアなんだけど

つーかいい加減ドアが壊れる

「とりあえず、、、行くしかないな」

とりあえず話を聞くため勇気を振り絞り部屋の中に入る

「キュ～～キュ～～」

「ご主人様、、何故逃げたりするんですか」

「本当、、私って不幸」

ギャ～～～～～～3人もいる～～

まるでデュエルモンスターズの精霊のバーゲンセールだな

「一応確認だけさせてくれ、、君達はデュエルモンスターズの精霊か？」

「キュキュ～～」

うんうんとうなずく女性A

「さて、、、次は何のカードの精霊かだな」

まずさっきからキュ～キュ～としか言わない女性Aだが、どう見て

もスケープ・ゴートだよな

全身がフカフカの白い毛で覆われておりそこからドラえもんのようなまん丸の手足がはえ顔は糸目で柔らかい表情

何度考えてもスケープゴートだが俺のデッキにはスケープ・ゴートは入っていない

そして女性Bだが完全にメイドだ

黒と青のメイド服に獣耳カチューシャ

肩ぐらいまでにのびた髪の毛を覆うように少し幼げな感じの顔

見れば見るほど何のモンスターかわからない

極めつけは女性C

窓辺で窓の外をはかなげに眺めながら“不幸だ”とつぶやく

白のシャツに黒のズボン

そしてショートカットで少し大人びているが大人の女性特有（？）の少し寂しげな渋さも有る

ダメだ、こいつが本当にデュエルモンスターズの精霊なのかも怪しくなってきた

「ゴメン、、降参、君達何の精霊？」

「キュ～、キュキュキュキュキュ～～」

「いや、君にしゃべられても言葉が理解できない」

「私達は巨大ネズミの精霊だと言っています」

「へ～～、やっぱ同じ精霊同士言葉が通じるんだ、、、、、、え！？」

私、、達？

「キュ～キュ～～～キュキュ」

「やっとわかってくれたか～～～って言ってますわ」

「アレだけ一緒に戦っていたのに気付いてもらえないなんて、、、不幸ね」

まさかのトリプルブッキングですか

「キュ～キュ～」

突然巨大ネズミが俺のすねに自らの体を擦り付けてくる

なんだ、じゃれてるのか？

「その巨大ネズミは主にご主人様がうまく使う事のできた巨大ネズミです」

なるほど、時々巨大ネズミが愛くるしかったりかわいかったりする

のはこいつのせいか

「って、君は？」

「私は、、、ご主人様の無理な命令に忠実に従いつつもそのＤＶに快感を感じるいけない巨大ネズミです」

突如顔を真っ赤にしてくねくねしだす巨大ネズミＢ

「え～～っと……」

「つまりあなたが自ら高い攻撃力のモンスターに攻撃してリクルート能力を発動させる巨大ネズミよ」

「なるほど、、、って君は」

「効果が発動することなく効果は解されたり除外されたりする不幸な巨大ネズミ」

あ～～、たまにあるんだよな、普通に効果破壊されたら悲しくなるよな

「そうか、、、とりあえずややこしいから」

足元でじゃれ付いている巨大ネズミＡを抱きかかえる

「こいつを三女とする」

そして次に俺はメイドを指差す

「次女」

最後に窓際の巨大ネズミを指差し

「長女と呼ぶ」

正直巨大ネズミが3体精霊化は予想外だ

とりあえず3姉妹っぽいしそうやって呼ぶことにした

「それじゃあ、、よろしくな」

3人に向かって手を差し出す

「よろしくね、マスター」

「よろしくお願いしますご主人様」

「キュキュ～」

神様、俺に二次元のキャラと結婚せいとか言ってたが俺の周りに人間の女性がいないんですが

精霊ハーレムっすか？

“生きているのなら、神様だって殺してみせる！！”っとナイフ片手に言いたいよ

むしろ殺そうが許す気ゼロだけどな

神様、君を一生許さない。

第１５話兄弟なのに髪の毛の色が違う丸藤兄弟（後書き）

本当ＬＰ４０００の世界でバーンデッキとか鬼だと思いますね。

そして最後の精霊巨大ネズミ三姉妹登場。色々と案があったんですがニコニコ動画の某闇のゲーム動画で舌魚三兄弟とかやってるのを見て“よし、巨大ネズミを三姉妹にしよう”と考えてみました。とりあえず次あたりにでも精霊の設定とか書いてみようかと考えてます。

それでは次回もよろしくお願いします。

精霊のキャラ設定（前書き）

今回は精霊のキャラ設定です。前回のヒロイン設定のとき同様既存のキャラの名前を使ってみようと思います。自分のルックスの表現力のなさに泣ける。

それではどうぞ。

精霊のキャラ設定

メガロック・ドラゴン

青の短髪に若干ゆるい感じでボーイッシュな顔立ち

服装は白のTシャツにグレーの短パン

イメージキャラは、マブラヴの柏木　晴子

誠が最初に出会った精霊でもあり切り札のメガロック・ドラゴンの精霊だけあってか1番信頼されている

精霊達のまとめ役も勤めるリーダーキャラ

誠に対する呼び方は“誠”

激昂のムカムカ

オレンジ色のポニーテールに鉢巻、少し焼け気味の肌にきりっとした顔立ち

服装はオレンジ色のハッピ

イメージキャラはいませんがしいてあげるなら、ぱすてるチャイムコンテニューの竜胆　沙耶

誠が2番目に出会う精霊、祭りと景気のいいことが大好きな江戸っ娘
女性だが豪快に大笑いをする為時々誠の怒りを白けさせる事もある
誠に対する呼び方は“大将”

モアイ迎撃砲
黒の短髪に気弱そうな顔だちのメガネっ娘
服装は少し青みがかった水平の方のセイラー服っぽい制服のような服
イメージキャラは、涼宮ハルヒの消失の長門

誠が三番目に出会った精霊、おとなしめの性格の為色物ぞろいのほかの精霊達に引っ張りまわされるも時には場をまとめたりもする
伊達にメガネはしておらず精霊達の中では1番の知識を誇る
誠に対する呼び方は“誠さん”

巨大ネズミ長女
黒の短髪に少し大人びた顔つきで大人の女性どくどくの渋さを持っている

服装は白いYシャツに黒のズボン

イメージキャラは、創聖のアクエリオンのレイカ

色物ぞろいな巨大ネズミ三姉妹の中で唯一まともな人物のため三姉妹の中ではまとめ役的な存在

いっつも窓辺の近くではかなげな表情で“私は不幸だ”っとつぶやいている

誠に対する呼び方は“マスター”

巨大ネズミ次女

肩ぐらいまでのびた黒髪に若干の童顔

服装は黒と青のメイド服に身を包み獣耳カチューシャをつけている

イメージキャラは特にいませんがしいてあげるなら、藍蘭島のちかげ

謳歌さんの“巨大ネズミが精霊化したら絶対にマゾだろう”っという発言から生まれた精霊

正直、最初はこの小説を全年齢対象で書くつもりでしたがこのキャラのせいでR指定を入れてくださいと警告がきそうです

誠に対する呼び方は“ご主人様”

巨大ネズミ三女

ゆったりとした顔立ちで糸目

服装（？）は全身白い羽毛で覆われており白い球体のような手足が４つ生えている状態

イメージキャラは、涼宮ハルヒちゃんの憂鬱のキョンの初夢に出てくる羊

人語を話せず“キュー”としか喋らない

人間には三女の言葉を理解できないが他の精霊はなんと言っているのか理解ができる

誠に対する呼び方はない

精霊のキャラ設定（後書き）

こうして書いてみると精霊の設定って結構適当だったな～～～っと実感してしまいます。今度からもっと出番を増やしたいと思います。

次回はオリジナルのお話です

それでは次回で会いましょう。

第１６話ひと夏の出会いはすばらしい、それが１夜限りの幽霊との出会いならなおさら

今回は本編にないオリジナルシナリオです。

あと今回主人公が使うデッキは岩石デッキではないです、でもメガロックがチョット出てきます。

それではどうぞ。

第16話ひと夏の出会いはすばらしい、それが1夜限りの幽霊との出会いならなおさらだ

そして月日が流れた

十代と翔のタッグデュエルは見事十代達が勝利し退学は免除

その後俺と一緒にレッド寮の柱を修理してくれたお礼に十代達と三沢の部屋の塗り替え作業を手伝い

三沢と万丈目がデュエルし三沢が勝利

万丈目さんは人知れず去っていった

きっと万丈目サンダーとなってこの学園に戻ってくれるに違いない

それから暫くたったある日の夜

「まったく、、まいったぜ」

俺はというと夜の校舎に来ているのだった

何故かと言えば授業中こっそりと作っていた新デッキを机の中に忘れてしまったからである

って、それを取りに今真っ暗な校舎の中を歩いているのであるが

「思いのほか不気味だ」

夜におとずれる校舎ほど不気味なものはない

いつもはにぎやかな廊下も誰もいなくわずかな月明かりに照らされているだけ

不気味さ倍増

「だが、さすがにいい年こいてお化けが怖いなんて言ってらんないしな」

女の子が言うならまだしもヤローが言っても不気味でしょうがない

「さて、、魔物を打つ少女や幼少の頃友達からもらった大切なスケッチブックを取りに来た言語障害者の女の子と出会う前に帰るとしよう」

教室に入り机の中から新デッキを回収する

「さて、、それじゃあ帰りますか」

「ガタガタ」

「!!??」

誰もいないはずの廊下から物音が聞こえる

守衛か?だったらチョットまずいな

肝試し気分を味わいたく完全に無許可で入ってるんだよな

「あいたたたた、なんかにつまづいた～、何なのよ～」

廊下から聞こえてきたのは女性の声であった

しかも聞き覚えの有る声だ

「まさか」

ドアを開けるとそこには

「イテテテ」

廊下の真ん中で派手にひっくり返っている冥衣がいた

「おう、どうした冥衣」

「あ、、小野寺　誠」

「とりあえず立ったらどうだ」

「うん」

俺の手を取り起き上がる冥衣

「って、、お前も忘れ物か」

「えぇ、、宿題のノートを忘れちゃってね、そういうあなたは」

「新デッキを机に忘れて取りに来た」

「まぁ、、、とりあえず助かったかな」

「ん、、なんか言ったか」

「ううん、、なんでもない」

そそくさと俺の前から去り机から1冊のノートを取り出す冥衣

そして俺の元に戻ってきた

「ねぇ、、さすがに夜も遅くて女の子が一人歩きするにはあまりかんばしくない状況じゃない」

「あぁ」

「こういう時一緒に帰ってきてくれる男らしい男性がいるといいけどな〜〜」

う〜〜〜〜んと背伸びをしながらもわざとらしくチラチラとこっちを見てくる冥衣

もしかして遠まわしについて来て欲しいと言っているのか？

まぁ、、人はそれをツンデレといいオタク間ではとても受けのいい萌である

だが俺はこういう回りくどいヤツは男であろうと女であろうと大嫌いなのでちょっとしたいたずらをしようと思う

「いるじゃないか、、お前の後ろに首から上がない男子生徒が」

「！！！！！」

「うお！！！！！」

一瞬呼吸が止まり意識が停止する

冷静に状況を確認すると冥衣が俺にすごい力でしがみついていた

全力を出せばひっぺはがす事も可能だが俺はそこまで鬼じゃない

ガタガタと腕が大きく震えている女性を振り払うほど俺はヘタレじゃない

まぁ、震える原因を作った俺が言えた台詞じゃないけどな

「落ち着け冥衣、、冗談だ冗談」

「ク、、、、グ」

必死に落ち着きを取り戻そうとしている冥衣

しばらくたち震えも収まり俺から1歩離れる

「落ち着いたか」

「あぁ、それと一つ、、、、、脅かすな〜〜〜」

「ハウワ！！！」

綺麗な延髄蹴りが俺の首の後ろ側に直撃する

「いや、お前も悪いんだぞ、、、あんな回りくどい事言うから」

「う、、うぅ」

チョット分が悪そうに落ち込む冥衣

「まったく、、遅くならないうちに行くぞ」

これ以上不毛な争いをするのもアレなので強引に冥衣の腕を引っ張って移動する

「え、、チョット」

そして歩くこと数分

「ん！？」

「どうした？」

「今何か聞こえなかったか？」

「な、、チョット、又脅かす気なの」

口では強がっているが俺の服の袖を両手でしっかりつかんでいる姿からは説得力を感じない

「いや、、今度は確かに」

「、、、、けて」

「こっちだ」

声らしきものがしたほうに向かう俺

当然俺の服の腕にしがみついている冥衣も必然的についてくる形となった

「ねぇ、、、誠、何も聞こえないよ～」

「いや、、確かに」

「、、、、、、返して」

「ヒィ！！！」

いっそう俺の服の袖をつかむ冥衣

コレは制服をアイロンがけしないといけないな

「この教室からだ」

俺達の目の前には2年生の教室のドアが有る

そして謎の声もそこから聞こえてきた

「とりあえずあけるぞ」

ガラガラとドアを開ける

教室の中は電気はついていないが月明かりが多少入り込んできておりうっすらと中が見える状態である

そして広い教室の真ん中でうずくまり泣きじゃくる一人の女子生徒がいた

「さっきの声はあの子のか」

とりあえず近づいてみることにした

「君、、こんな夜遅くにどうしたの」

声を掛けると泣きじゃくっていた女子生徒がゆっくりと顔を上げる

「カードを、、、探してるんです」

「カードを探しに、、こんな夜遅くにか」

「ハイ、、、でもどうしても見つからなくて」

まぁ、、こんなに広い教室を一人で探すのは結構きついよな

「とりあえず今日はもう遅いから明日にでも探したら」

「いいえ、、どうしても見つけたいんです」

そういって再び教室の中を探し始める女子生徒

よっぽど大事なカードなんだろうな

「、、、、、まったく、、何のカードだ」

「え!?」

カード探しを止めこちらを向く女子生徒

「探しているカードだ、、俺も一緒に探してやる」

「あ、、ありがとう、、、、え〜〜っと、そういえばお名前は」

「誠、、小野寺　誠だ」

「私は天津　ミオ（あまつ　ミオ）といいます」

「って、冥衣はどうする」

「私も探すわよ、、、カードを大事にする子は嫌いじゃないし」

「人手はそろった、、って、探してるカードは」

「クリボーです」

「クリボーか、、それじゃあ手分けして探そう」

カードを探す事すること数分

結局カードは見つからずあきらめムードになりかけていた

「カード、、どこにもないね」

「あぁ」

「どこに言ってしまったのか」

アレからしばらくカードを探しているが全然カードは出てこない

「チョット腰が痛くなってきた」

ず〜〜〜っとかがんでいたため少し腰に負荷がかかっていたので起き上がりぐ〜〜〜〜っと背伸びをする

（ねぇねぇ、、誠）

（ん、、どうしたメガロック）

起き上がると精霊のメガロックが話しかけてきた

（さっきから教壇の方から怪しい気配がしてるんだけど）

（教壇だって）

確かに、よく見てみると教壇の方に薄紫色の異様なオーラのような物が発生している

「何だろう、、、アレ」

とりあえず近づいてみようとしたら

「フフフフ、まさか俺の存在を感知できるものがいるとはな」

「「！！！！！」」

突如響き渡る不気味な声

先程の紫色のオーラから声は出ているようだ

「何なんだ貴様」

お世辞にもいいやつ、いや、いい存在には見えないが

「私はここの自縛霊、夜な夜なカードを隠しそれを求めさまようデュエリストの悲しみに満ちた魂を感じる事で強さをえるのだ」

案の定よくない存在だった

「やっぱアレか、貴様をデュエルで倒さないとカードは戻ってこないパターンか」

「フハハハ、貴様が私とデュエルをするというのか」

「あぁ」

周りを見てみると

ミオ：カードが1枚ないのでデュエルができない

冥衣：悪霊が怖くてまともにデュエルできない

俺しか戦えるやつがいないしな

「行くぜ幽霊ヤロー」

「「デュエル！！」」

誠

ＬＰ４０００

亡霊

ＬＰ４０００

「俺のターン、、、俺は手札のマシンナーズ・ギアフレームを召喚する」

俺のフィールドにオレンジ色の装甲板と銀のフレームでできたロボットが召喚される

マシンナーズ・ギアフレーム
レベル４地属性
機械族
攻撃力１８００守備力０
効果　ユニオン
このカードが召喚に成功した時、自分のデッキからマシンナーズ・ギアフレーム以外のマシンナーズと名のついたモンスター１体を手札に加える事ができる。１ターンに１度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上の機械族モンスターに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。１体のモンスターが装備できるユニオンは１枚まで。装備モンスターが破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。

「アレ？岩石デッキじゃないの？」

「こないだカードが少しあまったんでチョット新デッキを作ってみ

たんだ」

っというのは嘘だ

カードがあまったからでなくず～～～っとこのデッキを作りたかったのだ

生前俺が作ったデッキの一つ、マシンナーズデッキ

岩石デッキとは違い爆発性はないもののアドバンテージを考えたカードしか入ってないデッキのため面白いくらい回す事のできるデッキだ

「マシンナーズ・ギアフレームの効果でデッキからマシンナーズ・フォートレスを手札に加える、、、さらにリバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　マシンナーズ・ギアフレーム
魔法トラップ　リバース×１

亡霊
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「俺のターン、永続魔法ミイラの呼び声を発動」

ミイラの呼び声だと、なんて厄介なカードを

ミイラの呼び声
永続魔法
自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、手札からアンデット族モンスター1体を特殊召喚する事ができる。この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「このカードは俺のフィールドにモンスターが存在しない時手札のアンデット族モンスター1体を特殊召喚できる、、いでよ龍骨鬼」

相手の場に頭蓋骨が大量に集結し大きな竜の形に変った

龍骨鬼
レベル6闇属性
アンデット族
攻撃力2400守備力2000
効果
このカードと戦闘を行ったモンスターが戦士族・魔法使い族の場合、ダメージステップ終了時にそのモンスターを破壊する。

「さらに手札のゾンビ・マスターを通常召喚」

ボコボコボコと地面が飛び上がり山となってそのうえにボロボロの服と体の人間が姿を現す

ゾンビ・マスター
闇属性レベル４
アンデット族
攻撃力１８００守備力０
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、手札のモンスターカード１枚を墓地に送る事で、自分または相手の墓地に存在するレベル４以下のアンデット族モンスター１体を特殊召喚する。この効果は１ターンに１度しか使用できない。

「バトルだ、、龍骨鬼でマシンナーズ・ギアフレームを攻撃」

大量の頭蓋骨がうねりを上げ俺のギアフレームに巻きつきそのまま絞め殺していく

龍骨鬼　攻撃力２４００＞マシンナーズ・ギアフレーム　攻撃力１８００

誠
ＬＰ４０００－６００＝３４００

「ッグ」

「そしてゾンビ・マスターでダイレクトアタック」

山の上からこっちに向かってジャンプするゾンビ・マスター

「そう何度も攻撃をくらってたまるか、、リバースカード発動、次元幽閉」

次元幽閉
通常トラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。その攻撃モンスター1体をゲームから除外する。

ゾンビ・マスターの目の前に次元の裂け目が発生しそのまま裂け目の中に消えていく

「でも、何で龍骨鬼に使わなかったんでしょうか？龍骨鬼に使えば少なくともゾンビ・マスターとギアフレームで相打ちにできたのに」

「確かにそれもそうだけど、、、きっと誠はゾンビ・マスターの手札コストで使える復活コンボを防ぎたかったと思う」

「えっと、確かゾンビ・マスターは手札1枚を墓地に捨てることで墓地に眠るレベル4以下のアンデットモンスターを復活させる効果ですよね？」

「そう、そんな厄介な効果を使ってこられる前に次元幽閉で除外すればいい、、、一つの戦法ね」

「なるほど、、自らの命を削ってまで私のモンスターを除去したか、私はコレでターンエンドだ」

誠
ＬＰ３６００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

亡霊
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　龍骨鬼
魔法トラップ　ミイラの呼び声

「俺のターン、、俺はマシンナーズ・ソルジャーを攻撃表示で召喚」

俺の場に右腕がナイフになった機械人形が召喚される

マシンナーズ・ソルジャー
レベル４地属性
機械族
攻撃力１６００守備力１５００
効果
自分フィールド上にモンスターが存在しない場合にこのカードが召喚に成功した時、手札からマシンナーズ・ソルジャー以外のマシンナーズと名のついたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

「マシンナーズ・ソルジャーの効果で手札のマシンナーズ・ソルジャー以外のマシンナーズと名の付いたモンスターを1体特殊召喚する、、いでよマシンナーズ・フォートレス」

ギリギリギリとキャタピラ音をあげカラフルな戦車が俺のフィールドに到着する

マシンアーズ・フォートレス
レベル7地属性
機械族
攻撃力２５００守備力１６００
効果
このカードは手札の機械族モンスターをレベルの合計が8以上になるように捨てて、手札または墓地から特殊召喚する事ができる。このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。また、自分フィー

ルド上に表側表示で存在するこのカードが相手の効果モンスターの効果の対象になった時、相手の手札を確認して1枚捨てる。

「バトルだ、マシンナーズ・フォートレスで龍骨鬼に攻撃、フォートレスキャノン！！」

マシンナーズ・フォートレスの砲台が龍骨鬼の方を向く

「ファイア！！！」

バゴンと砲台が火を噴くと同時に木っ端微塵に砕け散る龍骨鬼

マシンナーズ・フォートレス　攻撃力２５００＞龍骨鬼　攻撃力２４００

亡霊

ＬＰ４０００－１００＝３９００

「さらにマシンナーズ・ソルジャーでダイレクトアタック」

飛び上がり右腕のナイフで亡霊に切りかかるソルジャー

マシンナーズ・ソルジャー　攻撃力１６００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

亡霊
ＬＰ３９００－１６００＝２３００

さっきのかりは返したぜ

「さらに俺はマシンナーズ・フロントラインを発動させる」

マシンナーズ・フロントライン
永続魔法
機械族モンスターが戦闘によって破壊され自分の墓地へ送られた時、そのモンスターより攻撃力の低い、同じ属性の機械族モンスター１体を自分のデッキから特殊召喚する事ができる。この効果は１ターンに１度しか使用できない。

「コレでターンエンドだ」

誠
ＬＰ３６００
手札３枚
モンスター　マシンナーズ・ソルジャー、マシンナーズ・フォートレス
魔法トラップ　マシンナーズ・フロントライン

亡霊

ＬＰ２３００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　ミイラの呼び声

「俺のターン、、ミイラの呼び声の効果で闇より出でし絶望を召喚する」

相手の場に大きな影が現れ大きく膨らみ獣とも人ともとれるシルエットとなった

闇より出でし絶望
レベル８闇属性
アンデット族
攻撃力２８００守備力３０００
効果
このカードが相手のカードの効果によって手札またはデッキから墓地に送られた時、このカードをフィールド上に特殊召喚する。

「さらにピラミッド・タートルを攻撃表示で召喚」

ゴゴゴゴと地面からピラミッドが映えそこからさらに亀の手足と頭が生えてくる

やはり入っていたか、アンデットデッキ必須の高性能リクルーターカード

ピラミッド・タートル
レベル４地属性
アンデット族
攻撃力１４００守備力１２００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキから守備力２０００以下のアンデット族モンスター１体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「バトルだ、、ピラミッド・タートルでマシンナーズ・ソルジャーを攻撃」

ノッシノッシとピラミッドを背負った亀が俺のマシンナーズ・ソルジャーに突進してくる

「迎え撃て、、マシンナーズ・ソルジャー」

向かってくる亀の頭にジャンプ斬りを放ち相手モンスターを破壊するソルジャー

ピラミッド・タートル　攻撃力１４００＞マシンナーズ・ソルジャー　攻撃力１６００

亡霊
ＬＰ２３００－２００＝２１００

「この瞬間ピラミッド・タートルの効果を発動」

「リクルーター能力を自爆特攻で使ってきたか」

「デッキより守備力２０００以下のアンデットモンスターを１体特殊召喚できる、、俺はノーブル・ド・ノワールを攻撃表示で特殊召喚」

何もない空間にマントが現れそれが翻るとそこには初老の吸血鬼が立っていた

ノーブル・ド・ノワール
レベル５闇属性
アンデット族
攻撃力２０００守備力１４００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手モンスターの攻撃対象はこのカードのコントローラーが選択する。

「バトル続行、、ノーブル・ド・ノワールでマシンナーズ・ソルジ

ャーに攻撃」

ノーブル・ド・ノワールのマントの中から大量のコウモリが飛んできて俺のソルジャーの体を貫き破壊した

ノーブル・ド・ノワール　攻撃力２０００＞マシンナーズ・ソルジャー　攻撃力１６００

誠
ＬＰ３６００－４００＝３２００

「だがこの瞬間マシンナーズ・フロントラインの効果を発動、破壊された機械族モンスターの攻撃力よりも攻撃力の低い同族性機械族モンスター１体を特殊召喚する、、こい、グリーン・ガジェット！！」

俺の場の表側表示のマシンナーズフロント・ラインが発行しその光の中から緑色の歯車に手足のはえたマシンが召喚される

グリーン・ガジェット
レベル４地属性
機械族
攻撃力１４００守備力６００
効果
このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、デッキからレッド・ガ

ジェット1体を手札に加える事ができる。

「俺は特殊召喚されたグリーン・ガジェットの効果によりデッキからレッド・ガジェットを1枚手札に加える」

「まだ俺のバトルは続いている、、闇より出でし絶望よ、マシンナーズ・フォートレスに攻撃、デット・エンド！！！」

相手のフィールドの陰の腕が鋭い槍のように伸びだし俺のマシンナーズ・フォートレスを貫き消滅させる

闇より出でし絶望　攻撃力２８００＞マシンナーズ・フォートレス　攻撃力２５００

誠
ＬＰ３２００－３００＝２９００

「この瞬間マシンナーズ・フォートレスの効果を発動、このカードが戦闘で破壊された時相手フィールドのカードを1枚破壊することができる、俺は闇より出でし絶望を破壊する、フォートレスバーン！！」

俺のセメタリーから光線が放たれ闇より出でし絶望を貫き破壊する

「フン、俺はメイン2でリバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ２９００
手札４枚
モンスター　グリーン・ガジェット
魔法トラップ　マシンナーズ・フロントライン

亡霊
ＬＰ２３００
手札１枚
モンスター　ノーブル・ド・ノワール
魔法トラップ　ミイラの呼び声、リバース×１

「俺のターン、さっきのターン手札に加えたレッド・ガジェットを守備表示で召喚」

俺の場に今度は赤色の歯車のロボットが召喚される

レッド・ガジェット
レベル４地属性
機械族
攻撃力１３００守備力１５００
効果
このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、デッキからイエロー・

ガジェット1体を手札に加える事ができる。

「レッド・ガジェットの効果を発動、デッキからイエロー・ガジェットを1枚手札に加える」

しかし表側守備表示って本当に便利だな

ガジェットデッキだったら壁を増やしつつ手札増強＋デッキ圧縮し放題

「コレでターンエンドだ」

誠
ＬＰ２９００
手札５枚
モンスター　グリーン・ガジェット、レッド・ガジェット
魔法トラップ　マシンナーズ・フロントライン

亡霊
ＬＰ２３００
手札１枚
モンスター　ノーブル・ド・ノワール
魔法トラップ　ミイラの呼び声、リバース×１

「俺のターン、、再生ミイラを召喚」

棺が地面から浮かび上がりそこから包帯まみれのミイラ男が起き上がる

再生ミイラ
闇属性レベル４
アンデット族
攻撃力１８００守備力１５００
効果
相手のカードの効果によって、このカードが手札から墓地へ送られた時、このカードを手札に戻す。

「やかましいカードがあるな、手札からサイクロンを発動」

サイクロン
速攻魔法
フィールド上の魔法または罠カード１枚を破壊する。

「マシンナーズ・フロントラインを破壊する」

俺の最前線が

「コレでうっとおしいリクルート能力が消えた、バトルだ、再生ミイラとノーブル・ド・ノワールでガジェットどもを攻撃」

アンデットモンスター2体が俺のガジェットたちに攻撃を仕掛けてくる

再生ミイラ　攻撃力１８００＞グリーン・ガジェット　守備力６００

ノーブル・ド・ノワール　攻撃力２０００＞レッド・ガジェット守備力１５００

相手モンスターによって俺のガジェットが破壊され場が空っぽになる

「再び地獄の亡者を蘇らせよう、リバース発動リビングデットの呼び声」

リビングデットの呼び声

永続トラップ

自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「蘇れ、闇より出でし絶望」

相手のフィールドに再び大きな影が現れる

「バトル続行、闇より出でし絶望でダイレクトアタック、、デット・

エンド！！」

獣のような爪が俺の体を切り裂く

「ウガ～～～」

闇より出でし絶望　攻撃力２８００（ダイレクトアタック）＞相手

プレイヤー

誠

ＬＰ２９００－２８００＝１００

まずい、ファイアーボール一発で死んでしまう

「コレでターンエンドだ」

「まずいです、誠さんのライフはもう風前の灯に」

「いいえ、まずいことだけではないわ」

「え！？」

「確かに、相手の場にモンスターが3体、、しかもノーブル・ド・ノワールの効果で攻撃対象が選べなく全ての攻撃が闇より出でし絶望に向けられる、でも状況をよく見てみて」

「え！？」

誠
ＬＰ１００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

亡霊
ＬＰ２３００
手札０枚
モンスター　ノーブル・ド・ノワール、再生ミイラ、闇より出でし
魔法トラップ　ミイラの呼び声、リバース×１

「誠さんの手札が５枚に対し相手の手札は０」

「確かにアンデットデッキは展開力に長けるけどその分手札の消費が激しい、それに対し誠はハンドアドバンテージを確保しつつ敵の攻撃を紙一重でかわしている、、、、ここでフィールドを支配するクラスの能力を持ったカードを出せれば誠の勝利は確定する」

「俺のターン、、ドロー」

「確かに俺の手札はないが貴様に俺のモンスターが倒せるのか、どんな攻撃力のモンスターであろうと俺のノーブル・ド・ノワールの効果で全て闇より出でし絶望に向けてくれる、、まさに貴様にとっての絶望というところだな」

ハ～～～ッハッハッハと高笑いする亡霊

「俺は手札のマシンナーズ・ギアフレームを召喚、効果でマシンナーズ・ソルジャーを手札に加える」

「無駄無駄無駄、、そんな弱小モンスターじゃあ俺のエースモンスターは倒せない、俺が、俺のモンスターが貴様に絶望をくれてやるぜ」

うまいこと言ったつもりだろうが

「だったら、俺がその絶望をぶち抜いて希望を見出してやるぜ、墓地に眠るマシンナーズ・フォートレス効果発動！！」

デュエルディスクのセメタリースロットが光りだす

「手札の機械族モンスターのレベルが8以上になるように墓地に捨てることでマシンナーズ・フォートレスを特殊召喚できる！！！」

デュエルディスクの光がいっそう激しくなる

「俺は手札のイエロー・ガジェットとマシンナーズ・ソルジャーを墓地に送りマシンナーズ・フォートレスを墓地より特殊召喚！！！」

俺のフィールドに再びカラフルな戦車が舞い降りる

「そしてコレが俺の希望、、速攻魔法リミッター解除発動」

リミッター解除
速攻魔法
このカード発動時に、自分フィールド上に表側表示で存在する全ての機械族モンスターの攻撃力を倍にする。この効果を受けたモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

「俺の場の機械族モンスターの攻撃力が倍になる」

バチバチと火花を上げながらマシンナーズフォートレスとギアフレームの体が光りだす

マシンナーズ・フォートレス
攻撃力２５００→５０００

マシンナーズ・ギアフレーム
攻撃力１８００→３６００

「バトルだ、、マシンナーズ・ギアフレームでノーブル・ド・ノワールに攻撃」

「ック、攻撃対象をどれに移しても意味がない」

相手はモンスター効果を使わずそのままマシンナーズ・ギアフレームの拳が白髪のヴァンパイアの体を貫く

マシンナーズ・ギアフレーム　攻撃力３６００＞ノーブル・ド・ノ

ワール　攻撃力２０００

亡霊
ＬＰ２３００－１６００＝７００

「コレで最後だ、、マシンナーズ・フォートレスで闇より出でし絶望に攻撃！！！」

マシンナーズ・フォートレスの大砲から極太の光線が発射される
光線が闇より出でし絶望だけでなく亡霊の体も貫いていく

「絶望を打ち抜き、、俺は希望を掴み取る！！！フォートレスノヴァ！！！！！！」

「ウワ～～～～～～」

マシンナーズ・フォートレス　攻撃力５０００＞闇より出でし絶望　攻撃力２８００

亡霊
ＬＰ７００－２２００＝－１５００

「絶望がお前のゴールだ」

「ッグ、おのれ、おのれ～～～～グワ～～～～～～」

蒸発するかのようにその場から消滅する亡霊

全て消えてなくなった場所には1枚のカードが

「、、、クリボーか」

亡霊のいた場所に落ちていたカードはクリボー

さっきまで必死に探していたカードだ

「探してたカードは、、コレか」

「ハイ、、ありがとうございます」

俺からカードを受け取りデッキに加えるミオ

「ありがとうございます、、コレで」

突如ミオの頭上に光の輪っかが発生する

「コレで、、思い残す事無く旅立てます、、、ありがとう」

そう言い残しミオの体が光の輪っかの中に消えていった

「え、、え、嘘なんで」

状況を理解しきれず困惑する冥衣

「、、、、、まぁ、なんつーか、、よかったよかった」

う〜〜〜〜んと背伸びをする

すると窓から日の光が差し込んでくる

「さて、、楽しい肝試しも終了したことだし、戻って朝飯でも食べますか」

「チョ、、、誠、置いてかないでよ」

相手が亡霊っと言う時点でこの結果はなんとなく予想できていた

何はともあれ又一つデュエリストの魂が救われた

それで十分だ。

第16話ひと夏の出会いはすばらしい、それが1夜限りの幽霊との出会いならなおさら

誠の第2のデッキマシンナーズデッキ、このデッキも私が実際に使っているデッキです。元々このデッキは遊戯王の原作って爆アドじゃね？っという小説の主人公のデッキに感化され実際に作ったデッキなんです。好きだったな～あの小説。

謳歌さんにも言われたんですがマシンナーズデッキの精霊とかは出す予定はないです、軽い設定とかは脳内にあるんですが実際に出してしまうとキャラを使い切れず腐らせてしまう恐れがありますので。

それではまた次回お会いしましょう。次回もオリジナル予定です。

第１７話非住奈～いもうとじゃない～（前書き）

今回魔力カウンターメインのデッキが出るんですが、書くのが結構疲れました。魔力カウンターの数を数え間違えてないか少し不安です。

それではどうぞ。

５月１９日修正しました。

第17話非佳奈～いもうとじゃない～

「ねぇねぇ聞いた、なんでも今日プロのデュエリストがこの島に来るらしいよ」

「本当、どんな人なのかな？」

「なんでも天を突くような大男らしい」

「にらんだだけで相手のデッキの中身がわかるらしい」

「過去に8人を相手に一人で八面打ちして全てノーダメージで勝ったらしい」

夏の晴れた日

今日、デュエルアカデミア内ではプロデュエリストがやってくるという話とそのプロデュエリストの噂で持ちきりだ

当然俺と真間と十代もその話をしている

「プロデュエリストか、、、デュエルしてみたいな」

「確かにな、きっとスッゲーデッキでスッゲー楽しくデュエルできると思うぞ」

「まぁ、、それには俺達もプロの戦略にに答えられるデッキと腕を持たないとな」

真間、すごく痛いところを付いてくるな

でもやってくるプロって誰だろう？エド・フェニックスか？

石田ボイスを生で聞けるのは嬉しいんだが、あの声を聞くとゲキレンジャーの悪夢が……

午前の授業が終わり昼飯を済ませ教室に戻る最中のことであった

「あ、、お兄ちゃん」

トテトテトテトテと小さめの駆ける音が廊下に響く

声のしたほうをみてみるとデュエルアカデミアでは見かけることがないメチャクチャ小さい影がこっちに向かって歩いてくる

「真間おにいちゃ～～～ん」

「お、真次郎じゃないか」

真次郎と呼ばれたその少年を俺は記憶している

真間の弟で俺とも少し面識がある

記憶が正しければ確か今年で小学2年生か

真間の身長が高いせいもあるがすごく背が小さく見えてしまう

「久しぶりだな真次郎」

「誠お兄ちゃんも久しぶりだね」

ワッシワッシと真次郎の頭をなでる

親戚の息子に会った心境だ

「ところで真次郎、、どうしてアカデミアに来てるんだ?」

「チョット遊びに来てたんだ、、ねぇねぇお兄ちゃん、、デュエルアカデミアを案内してよ」

「いいぜ、、っとはいっても学校の施設だから色気のない場所だけどな」

案内すること数分

さっきも言ったけど学校の施設だけあってかあんまり面白みのない観光だが真次郎は楽しそうだった

まぁ、どちらかと言えば兄の真間と一緒にいられるだけで楽しいんだろう

「おいおい、、ここはいつから託児所になったんだ?」
後ろの方から声が聞こえ振り替えてみるとそこにはブルーの制服を来た生徒がいた
「って、、毒島かよ」
「デュエリストをあきらめてベビーシッターを目指すのか?」
「毒島、、お前まだこの学園にいたのかよ」
「おちこぼれレッドのお前達とは違って俺は成績優秀だからな」
「いや、アレだけのことをしでかしてよくこの学園にいられたかと、、むしろどの面下げてこの学園にいる」
ラーイエローやオシリスレッドの弱い生徒をいじめていたが俺にボコスカにやられて
学園内の交流試合で俺にいんちきしたと言いがかりを付け
その後真間とのデュエルでボコスカにやられ
しかも後日いじめをしていた上カードを強奪していることが学校側にばれ先生達からお叱りをくらい
いくら成績がよかろうともそこまでのことをしでかしたら普通自主退学をするものだと思うが

「むしろ何でまだオベリクスブルーなんだ」

「俺は優秀だからな」

すごいな～～、ここまでいやみったらしいキャラだと憎むしかないね

たまにアニメとかで嫌味ったらしいやつが出で“きっと実はいいやつなんだ!!”っという感情が

ストーリーが進むにつれ芽生えたりどんどんいいやつになったりするもんだがこのキャラは別だ

会えば会うほど憎らしくなる

生前バイト先の先輩の中にこういう人いたな

「ねぇお兄ちゃん、この偉そうなお兄ちゃんもデュエリストなの?」

「あぁ」

「君のお兄さんより優秀なオベリクスブルーだ」

「でも、、お兄ちゃんの方が強そうだよ」

「さすがは真次郎、一瞬でわかったか」

「おいおい、馬鹿を言うな、お前達は劣等性のオシリスレッドだろ、何で俺よりも優秀なんだ?」

お前俺達にボッコボコにされたじゃないか

「でも、、お兄ちゃんならオベリスクブルーくらいの実力があると思うけどな」

「だが真次郎よ、最下級の身分の者が上の身分のものを倒す姿はすごく素敵だと思わないか」

そう言ってサムズアップをする真間

「って、、どうした誠、泣いているのか？」

「いいや、、なんでもない」

きっと天然だったと思うのだが真間が素敵なことだと思わないかと言いながらサムズアップをするのをみて完全に元祖クウガの先生を思い出しちゃったじゃないか

“誰かの笑顔のために頑張れるって、すごく素敵なことだと思わないか”

今この場で完全に関係ないがクウガのあの台詞は本当に神レベルだ

「う〜〜、でもお兄ちゃんはもっと上のところにいけるのに〜〜」

「現実を見るんだ、、君のお兄さんは劣等性なんだ」

しっかしこいつも何子供相手に向きになってるんだ

「、、、、ねぇ、もし僕がこのブルーのお兄ちゃんをデュエルで倒したらお兄ちゃんの実力も認められる？」

「ハァ?何を言ってるんだ?」

「お兄ちゃんの弟である僕がブルーのお兄ちゃんを倒すことができたらおにいちゃんも強いって事になるよね」

「まったくばかばかしい、、何でガキとデュエルをしないといけないんだ」

「ハッハッハッハッハ、面白い、おい、毒島、、、真次郎とデュエルしてみろ」

「断る、、何で俺が」

「おいおい、まさか、、、、子供相手に負けるのが怖いのか」

「フン、、下らん」

あきれてその場からさろうとする毒島

「まぁ、、しょうがないか、アレだけの失態をさらした上、小学生に負けたとなったらもう退学うんぬん以前に人としてどうかだよな」

ピクっと真間の挑発に毒島が反応する

「しょうがない、、、デュエルを受けてやる、ただ泣いても知らないぞ」

かばんの中からデュエルディスクを取り出し腕にはめる毒島

真間「それじゃあ真次郎、、俺のディスクを使え」

真次郎「うん、、ありがとうお兄ちゃん」

真間からデュエルディスクを受け取り腰のデッキケースからデッキを取り出しそれにセットする

「「デュエル！！！」」

真次郎
ＬＰ４０００

毒島
ＬＰ４０００

「僕のターン、、僕は王立魔法図書館を守備表示で召喚」

真次郎のフィールドにいくつかの本棚がズゴゴゴゴと地面から生えてくる

王立図書館
レベル４光属性
魔法使い族
攻撃力０守備力２０００
効果

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分または相手が魔法カードを発動する度に、このカードに魔力カウンターを1つ置く（最大3つまで）。このカードに乗っている魔力カウンターを3つ取り除く事で、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「さらにフィールド魔法魔法都市エンディミオンを発動させます」

ゴゴゴゴと今度は神秘的な建造物が地面から生えてくる

魔法都市エンディミオン
フィールド魔法
自分または相手が魔法カードを発動する度に、このカードに魔力カウンターを1つ置く。魔力カウンターが乗っているカードが破壊された場合、破壊されたカードに乗っていた魔力カウンターと同じ数の魔力カウンターをこのカードに置く。1ターンに1度、自分フィールド上に存在する魔力カウンターを取り除いて自分のカードの効果を発動する場合、代わりにこのカードに乗っている魔力カウンターを取り除く事ができる。このカードが破壊される場合、代わりにこのカードに乗っている魔力カウンターを1つ取り除く事ができる。

「さらに王立魔法図書館の効果で魔法カードが発動したので魔力カウンターが1つ乗ります」

王立魔法図書館
魔力カウンター　0→1

毒島「フン、、魔法使いデッキか」

真次郎「さらにリバースカードを1枚伏せてターンエンドです」

真次郎
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　王立魔法図書館
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：魔法都市エンディミオン

毒島
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

毒島「俺のターン、、魔法発動闇の誘惑を発動」

闇の誘惑
通常魔法
自分のデッキからカードを2枚ドローし、その後手札の闇属性モンスター1体をゲームから除外する。手札に闇属性モンスターがない場合、手札を全て墓地へ送る。

毒島「デッキからカードを2枚ドローし、サイコ・ショッカーをゲームから除外する」

真次郎「ですが、闇の誘惑が発動したことにより僕のモンスターに魔力カウンターが乗ります」

王立魔法図書館
魔力カウンター1↓2

魔法都市エンデュミオン
魔力カウンター0↓1

毒島「そして俺はジャイアントオークを攻撃表示で召喚」

棍棒を持った豚鼻の巨人が毒島のフィールドに現れる

ジャイアント・オーク
レベル４闇属性
悪魔族
攻撃力２２００守備力０
効果
このカードは攻撃した場合、バトルフェイズ終了時に守備表示になる。次の自分のターン終了時までこのカードの表示形式は変更できない。

毒島「バトルだ、ジャイアント・オークで国立魔法図書館を攻撃」

一匹の亜人戦士一人に図書館の本棚が次々にバッタバッタと倒されていく

ジャイアント・オーク　攻撃力２２００＞国立魔法図書館　守備力２０００

真次郎「魔法都市エンディミオンの効果が発動します、魔力カウンターが乗っていたモンスターが破壊された時そのモンスターに乗っていたカウンターと同じ数だけこのカードに魔力カウンターをのせる事ができます」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター1↓3

毒島「フン、、何が狙いかは知らんが関係ない、バトルフェイズ終了時ジャイアント・オークは守備表示になる、俺はメイン2でリバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

真次郎
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：魔法都市エンディミオン

毒島
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ジャイアント・オーク
魔法トラップ　リバース×１

真次郎「僕のターン、、僕は魔道戦士ブレイカーを召喚します」

出た～～～バーサーカーソウルで有名な魔道戦士ブレイカー

魔道戦士ブレイカー
レベル４闇属性
魔法使い族
行為激力１６００守備力１０００
効果
このカードが召喚に成功した時、このカードに魔力カウンターを１つ置く（最大１つまで）。このカードに乗っている魔力カウンター１つにつき、このカードの攻撃力は３００ポイントアップする。また、このカードに乗っている魔力カウンターを１つ取り除く事で、フィールド上に存在する魔法・罠カード１枚を破壊する。

真次郎「魔道戦士ブレイカーの効果を発動、、このカードに乗っている魔力カウンターを１つ取り除くことで魔法トラップカードを１枚破壊できる、、僕は魔法都市エンディミオンの効果を使いブレイカーに乗っているカウンターの変わりにエンディミオンのカウンターを一つ取り除きます」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター３→２

真次郎「魔道戦士ブレイカーの効果で相手フィールドのリバースカード１枚を破壊します、、マナブレイク！！」

ブレイカーの見から斬撃が放たれ毒島のリバースカードを破壊する

毒島「俺のマジックシリンダーが」

真次郎「バトル、ブレイカーでジャイアント・オークに攻撃」

絵的に言えばアレだな

図書館を荒らしたゴブリンに図書館の管理人が怒ってこらしめにきた感じか？

「ザシュ」

「グガ～～～～」

いやいやいや、剣で切り刻むってどんなこらしめ方だよ

魔道戦士ブレイカー　攻撃力１９００＞ジャイアントオーク　守備力０

真次郎「さらにメイン２でリバースカードを１枚伏せてターンエンドです」

真次郎
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　魔道戦士ブレイカー
魔法トラップ　リバース×２

フィールド：魔法都市エンディミオン

毒島
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン」

「そちらのメインフェイズにリバース発動、、バベル・タワー」

魔法都市の１部からゴゴゴゴゴゴと巨大なタワーが生えてくる

バベル・タワー
永続トラップ
このカードがフィールド上に存在する限り、自分または相手が魔法カードを発動する度に、このカードに魔力カウンターを１つ置く。

このカードに４つ目の魔力カウンターが乗った時にこのカードを破壊し、その時に魔法カードを発動したプレイヤーは３０００ポイントダメージを受ける。

「っちょこざいなカードを、、俺はタイムカプセルを発動させる」

ゴゴゴゴゴゴとピラミッドの中にありそうな王様の棺らしきものが毒島のフィールドに現れる

タイムカプセル
通常魔法
自分のデッキからカードを１枚選択し、裏側表示でゲームから除外する。発動後２回目の自分のスタンバイフェイズ時にこのカードを破壊し、そのカードを手札に加える。

「デッキからカードを１枚除外、２ターン後俺の手札に加わる」

「ですがその魔法カードが発動したことにより僕のエンディミオンとバベル・タワーに魔力カウンターが乗ります」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター２→３

バベル・タワー
魔力カウンター０→１

毒島「フン、、俺はモンスターを裏守備でセットしターンエンドだ」

真次郎
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　魔道戦士ブレイカー
魔法トラップ　バベル・タワー、リバース×１

フィールド：魔法都市エンディミオン

毒島
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　タイムカプセル、リバース×１

「僕のターン、、魔道戦士ブレイカーの効果を発動、魔力カウンタ

ーを1つ取り除き相手フィールド上の魔法トラップを1枚破壊します、僕はエンデュミオンのカウンターを取り除きタイムカプセルを破壊します」

魔法都市エンデュイミオン
魔力カウンター3→2

「甘いんだよ、、カウンタートラップ天罰発動」

天罰
カウンター罠
手札を1枚捨てて発動する。効果モンスターの効果の発動を無効にし破壊する。

「手札を1枚捨てて魔道戦士ブレイカーを破壊だ」

天から雷が落下し魔道戦士ブレイカーを貫き破壊する

「ック、、ですがブレイカーが破壊されたので乗っかっていた魔力カウンターと同じ数の魔力カウンターがエンディミオンに乗ります」

魔法都市エンデュイミオン
魔力カウンター2→3

「そして僕は熟練の黒魔術師を召喚します」

真次郎のフィールドに黒いローブで全身をおおった魔術師が召喚される

熟練の黒魔術師
闇属性レベル４
魔法使い族
攻撃力１９００守備力１７００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分または相手が魔法カードを発動する度に、
このカードに魔力カウンターを１つ置く（最大３つまで）。魔力カウンターが３つ乗っているこのカードをリリースする事で、自分の手札・デッキ・墓地からブラック・マジシャンを１体を特殊召喚する。

「バトル、、熟練の黒魔術師で相手裏守備モンスターに攻撃」

黒魔術師の杖から放たれた黒い稲妻が相手モンスターに飛んでいく

「さらにリバースカードオープン、、マジシャンズ・サークル」

マジシャンズ・サークル
通常トラップ
魔法使い族モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。お互いのプレイヤーは、それぞれ自分のデッキから攻撃力２０００以下の魔法使い族モンスター１体を表側攻撃表示で特殊召喚する。

「互いのプレイヤーはデッキから攻撃力２０００以下のモンスターを特殊召喚することができる」

「俺のデッキには魔法使い族モンスターは入っていない」

「僕のデッキには当然入ってます、、ジェミナイエルフを特殊召喚」

真次郎のフィールドに魔方陣が発生しそこから双子のエルフが飛び上がってくる

ヂェミナイエルフ
レベル４地属性
魔法使い族
攻撃力１９００守備力９００
効果なし

「バトル続行、、熟練の黒魔術師で裏守備を攻撃します」

「俺のモンスターはランプの魔精ラ・ジーンだ」

モヤモヤと煙が発生しその先端部分が緑色の魔人となた

ランプの魔精ラ・ジーン
レベル４闇属性
悪魔族
攻撃力１８００守備力１０００
効果なし

黒い稲妻に霧状の魔人が霧散していく

熟練の黒魔術師　攻撃力１９００＞ランプの魔精ラ・ジーン　守備力１０００

「さらにヂェミナイエルフでダイレクトアタック」

双子のエルフが大きく跳躍し毒島に電撃を放つ

「うお～～～～」

毒島
ＬＰ４０００－１９００＝２１００

「フン、ちょうどいいハンデだ」

「僕はコレでターンエンドです」

真次郎
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　熟練の黒魔術師、ヂェミナイエルフ
魔法トラップ　バベル・タワー

フィールド：魔法都市エンディミオン

毒島
ＬＰ２１００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　タイムカプセル

「俺のターン、、ダークヒーロー・ゾンバイアを召喚」

エンディミオンのタワーの一つから黒いマントを羽織ったコウモリのようなヒーローが現れる

ダークヒーロー・ゾンバイア
レベル４闇属性
戦士族
攻撃力２１００守備力５００
効果
このカードはプレイヤーに直接攻撃をする事ができない。このカードが戦闘でモンスターを1体破壊する度に、このカードの攻撃力は２００ポイントダウンする。

「バトル、、ゾンバイアで熟練の黒魔術師に攻撃」

ＨＡＨＡＨＡＨＡと謎の笑い声を上げながらゾンバイアが大きく跳び熟練の黒魔術師にキックをぶちかます

ダークヒーロー・ゾンバイア　攻撃力２１００＞熟練の黒魔術師
攻撃力１９００

真次郎
ＬＰ４０００－２００＝３８００

「ですが、熟練の黒魔術師を破壊した事でゾンバイアの攻撃力は２００ポイント下がります」

ダークヒーロー・ゾンバイア
攻撃力２１００→１９００

「フン、だがまだまだ主力としては十分なくらいの攻撃力だ、、俺はコレでターンエンドだ」

真次郎
ＬＰ３８００
手札２枚
モンスター　ヂェミナイエルフ
魔法トラップ　バベル・タワー

フィールド：魔法都市エンディミオン

毒島
ＬＰ２１００
手札２枚
モンスター　ダークヒーローゾンバイア
魔法トラップ　タイムカプセル

「僕のターン、、僕は壷の中の魔術書を発動させます」

壷の中の魔術書（マンガ版ＧＸオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキからカードを３枚ドローする。

「互いのプレイヤーはカードを３枚ドロー、、そしてエンディミオンとバベル・タワーにまた魔力カウンターが乗ります」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター３↓４

バベル・タワー
魔力カウンター１↓２

「そしてヂェミナイエルフを生け贄にレッドダーク・エンチャンターを召喚」

双子エルフが渦になってその渦の中から黒と赤のド派手な魔術師が姿を現す

レッドダーク・エンチャンター
レベル６闇属性
魔法使い族
攻撃力１７００守備力２２００
効果
このカードが召喚に成功した時、このカードに魔力カウンターを２つ置く。このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分または相手が魔法カードを発動する度に、このカードに魔力カウンターを１つ置く。このカードに乗っている魔力カウンター１つにつき、このカードの攻撃力は３００ポイントアップする。１ターンに１度、このカードに乗っている魔力カウンターを２つ取り除く事で、相手の手札をランダムに１枚捨てる。

「レッドダーク・エンチャンターの効果でこのカードが召喚に成功した時魔力カウンターを２つ乗せます、それにより攻撃力が６００ポイント上がります」

レッドダーク・エンチャンター
魔力カウンター０→２

攻撃力
１７００→２３００

「バトル、、レッドダーク・エンチャンターでゾンバイアに攻撃」

魔術師の杖から赤と黒の稲妻が走りゾンバイアの体を蝕み破壊する

レッドダーク・エンチャンター　攻撃力２３００＞ダークヒーロー・ゾンバイア　攻撃力１９００

毒島
ＬＰ２１００－４００＝１７００

「ッグ、、いい気になるなよこのガキ」

「僕はコレでターンエンドです」

真次郎
ＬＰ３８００
手札４枚
モンスター　レッドダーク・エンチャンター
魔法トラップ　バベル・タワー

フィールド：魔法都市エンディミオン

毒島
ＬＰ１７００
手札５枚
モンスター　なし

魔法トラップ　タイムカプセル

「俺のターン、、このターンタイムカプセルの効果で除外したカードを手札に加える」

ゴゴゴゴゴと毒島のフィールドに合った棺が開きカードが1枚光を放ちながら毒島の手札に加わる

「そして今手札に加えたＤＤＲを発動」

ＤＤＲ
装備魔法
手札を1枚捨てる。ゲームから除外されている自分のモンスター1体を選択して攻撃表示でフィールド上に特殊召喚し、このカードを装備する。このカードがフィールド上から離れた時、そのモンスターを破壊する。

「手札を1枚捨ててゲームから除外されているサイコ・ショッカーを特殊召喚する」

次元のゆがみのような物が毒島のフィールドに発生しその中からサイコショッカーがはいずり上がって来た

人造人間サイコ・ショッカー
闇属性レベル６
機械族
攻撃力２４００守備力１５００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、お互いに罠カードを発動する事はできず、フィールド上の罠カードの効果は無効化される。

「さらにデーモン・ソルジャーを通常召喚」

デーモン・ソルジャー
レベル４闇属性
悪魔族
攻撃力１９００守備力１５００
効果なし

なるほど、今日の毒島は闇属性ビートデッキか

「バトル、、サイコ・ショッカーでレッドダーク・エンチャンターに攻撃」

サイコショッカーの掌にエネルギーが集められそれの直撃をくらいバラバラに飛び散るダークレッド・エンチャンター

人造人間サイコ・ショッカー　攻撃力２４００＞レッドダーク・エンチャンター　攻撃力２３００

真次郎
ＬＰ３８００－１００＝３７００

「レッドダーク・エンチャンターが戦闘破壊された事でエンディミオンにまた魔力カウンターが乗ります」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター４→６

「続けてデーモン・ソルジャーでダイレクトアタック」

マントをなびかせデーモンソルジャーがその爪で真次郎の体を切り裂く

デーモン・ソルジャー　攻撃力１９００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

真次郎
ＬＰ３７００－１９００＝１８００

「うぅ、、チョットまずいです」

「見たか、、、コレがエリートの実力だ、リバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

真次郎
ＬＰ１８００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　バベル・タワー

フィールド：魔法都市エンディミオン

毒島
ＬＰ１７００
手札３枚
モンスター　人造人間サイコ・ショッカー、デーモン・ソルジャー
魔法トラップ　リバース×１

「僕のターン、、僕はモンスターを1体裏守備でセットしてターンエンドです」

真次郎
ＬＰ１８００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　バベル・タワー

フィールド：魔法都市エンディミオン

毒島
ＬＰ１７００
手札３枚
モンスター　人造人間サイコ・ショッカー、デーモン・ソルジャー
魔法トラップ　リバース×１

「手が尽きたようだな、、止めを刺してくれる、、サイコ・ショッカーで裏守備に攻撃」

再びエネルギーの塊が真次郎のフィールドに向かって飛んでくる

「僕のモンスターは見習い魔術師です」

見習い魔術師
レベル２闇属性
魔法使い族
攻撃力４００守備力８００

効果
このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、フィールド上に表側表示で存在する魔力カウンターを置く事ができるカード１枚に魔力カウンターを１つ置く。このカードが戦闘によって破壊された場合、自分のデッキからレベル２以下の魔法使い族モンスター１体を自分フィールド上にセットする事ができる。

人造人間サイコ・ショッカー　攻撃力２４００＞見習い魔術師　守備力８００

真次郎の場に一瞬小さ目の魔術師が姿を現したがサイコ・ショッカーの攻撃により瞬殺されてしまう

「みらない魔術師の効果発動、、デッキからレベル２以下の魔法使い族モンスターをフィールドに裏守備でセットできる、僕はもう１枚の見習い魔術師をセットします」

「壁の増殖か、、無駄な事を、デーモン・ソルジャーで裏守備に攻撃」

今セットされた見習い魔術師が再び起き上がる

そして毒島のデーモン・ソルジャーに切り裂かれ消滅してしまった

デーモン・ソルジャー　攻撃力１９００＞見習い魔術師　守備力８００

「僕は２体目の見習い魔術師の効果は使わないです」

「フン、、観念したか、俺はコレでターンエンドだ」

真次郎
ＬＰ１８００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　バベル・タワー

フィールド：魔法都市エンディミオン

毒島
ＬＰ１７００
手札４枚
モンスター　人造人間サイコ・ショッカー、デーモン・ソルジャー
魔法トラップ　リバース×１

「僕のターン」

「もうあきらめるんだな、悪いことは言わない、サレンダーをしな

さい、、大人に挑むには君はまだ若すぎるんだよ」

あのヤロー、完全に膨張してやがる

大人って言ってもまだ１５だろうお前

「僕はマジカル・コンダクターを召喚します」

緑色の服に身を包み瞑想するかのように両目を閉じた女性モンスターが真次郎の場に現れる

マジカル・コンダクター
レベル４地属性
魔法使い族
攻撃力１７００守備力１４００
効果
自分または相手が魔法カードを発動する度に、このカードに魔力カウンターを２つ置く。このカードに乗っている魔力カウンターを任意の個数取り除く事で、取り除いた数と同じレベルの魔法使い族モンスター１体を、手札または自分の墓地から特殊召喚する。この効果は１ターンに１度しか使用できない。

「マジカル・コンダクターの効果で魔力カウンターを取り除き取り除いた数と同じレベルのモンスターを１体墓地から特殊召喚します、、僕はエンディミオンのカウンターを２つ取り除き墓地の見習い魔術師を特殊召喚します」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター６→４

魔法都市のひときわ大きいタワーからレーザーが発射されそのレーザーの中を見習い魔術師が通過しフィールドに降臨する

「何かと思えば、、、そんな雑魚をいくら並べてなんになる」

「さらに僕は手札のマジシャンズクロス」

マジシャンズ・クロス
通常魔法
自分フィールド上に表側攻撃表示の魔法使い族モンスターが２体以上存在する場合、その内１体を選択して発動する。選択した魔法使い族モンスターの攻撃力はエンドフェイズ時まで３０００になる。このターン、選択したモンスター以外の魔法使い族モンスターは攻撃する事ができない。

「僕は見習い魔術師を選択」

見習い魔術師
攻撃力４００→３０００

（なるほど、、攻撃力３０００に上がった見習い魔術師で俺のサイ

コ・ショッカーを破壊しトラップを開放する作戦だな、、おそらく手札にミラーフォースとかを持っているかもしれないが無駄だ、俺のリバースはリビングデットの呼び声、このカードで再びサイコ・ショッカーを復活させ全モンスターで一斉攻撃で俺の勝ちだ）

「さらに手札から魔法カードダブルアタックを発動します」

ダブルアタック
通常魔法
自分の手札からモンスターカード1枚を墓地に捨てる。
捨てたモンスターよりもレベルが低いモンスター1体を自分フィールド上から選択する。
選択したモンスター1体はこのターン2回攻撃をする事ができる。

「手札の熟練の黒魔術師を墓地に送り見習い魔術師は2回攻撃が可能となる、、そしてエンディミオンにさらにカウンターが1つ乗ります」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター4→5

「バトルです、、見習い魔術師でデーモン・ソルジャーに攻撃、、マジックスピア！！！！！」

見習い魔術師の杖の先から槍のようにとがった魔力が発射されデー

モン・ソルジャーを貫き破壊する

見習い魔術師　攻撃力３０００＞デーモン・ソルジャー　攻撃力１９００

毒島
ＬＰ１７００－１１００＝６００

「とどめです、見習い魔術師の２回目の攻撃でサイコ・ショッカーに攻撃、、マジックスピア！！！！」

再び見習い魔術師が動き出し今度はサイコ・ショッカーが魔力の槍に貫かれる

「うわ～～～～～～～～～～」

見習い魔術師　攻撃力３０００＞人造人間サイコ・ショッカー　攻撃力２４００

毒島
ＬＰ６００－６００＝０

「ありがとうございました」

すごく元気のいい声で真次郎がお辞儀をする

それと同時に立体映像が消滅

「馬鹿な、、、この俺が小学生ごときに」

「何を騒いでいるの～ね」

デュエルが終わると同時にクロノス先生がこの場にやってくる

「あ、、スイマセン、クロノス先生、、、空栗のやつが弟をこの学園に連れ込んでいまして、今追い出しますので」

「何を言ってるの～ね、セニョ～ル真次郎は、、校長がわざわざこの学園に招待したの～ね」

「え、、何故？」

「名前くらいは聞いたことあるはず～～～の、プロデュエリスト最年少者、空栗　真次郎、、それがセニョ～ルなの～ね」

「え、、、嘘だろ」

そう、真次郎はプロデュエリストなのだ

毒島のやつはまったく気が付かなかったようだがかなり有名なプロデュエリストだ

「せっかく招待したのに追い出すなんて言語道断～～にょ、、、セニョ～ル毒島、ゲストに何か失礼でも」

「い、、いえ、、なにも」

ばつが悪そうにうつむく毒島、へへ、ザマア

「「ドドドドドドドドドドド」」

「ん！？」

シュンとへこんでいる毒島を見ているとどこからともなく轟音が響き渡る

そう、まるでヌーの大群が移動してくるかのような

数秒後、ヌーの団体より恐ろしい集団が目の前に現れるのだった

「「清次郎君～～～～～」」

おそらく清次郎の噂を聞きつけたアカデミアの女子生徒ほぼ全員がこっちに向かって一直線に向かってくる

「ヤバイ、真間回避だ」

「あぁ」

俺の真間はとりあえず近くにあったドアの中に隠れる

「「え！？え！！？？」」

運が悪い事にクロノス先生と毒島は隠れるタイミングを逃しアタフタしてその場から動けないでいた

そして

「「ドドドドドドドドドド」」

毒島「いて、、、いててて」

クロノス「痛いの～～ね、やめるの～～ね」

人の波に飲まれクロノス先生と毒島はその姿を消す

きっと勢いに負けて倒れスタンピングクラッシュをくらいまくっているのであろう

「キャ～～～本物の真次郎様よ～」

「かわいい～～～～」

「私のことお姉たまって言って～～～」

「一生のお願い、、この首輪をつけて」

女子高生パワーに圧倒されながらもファンに対応していく真次郎、さすがになれてるな

まぁ女子の人気も判る気がする

プロデュエリストと言うのはどこかカッコイイ系のイメージがあるが
真次郎は待ったくま逆のかわいい系デュエリスト
しかも礼儀正しくデュエルが強い
小学1年生である為マスコット的キャラクターでもある
いわば、パンダのランランとカンカンがきた上野動物園状態だった

数時間後

リーサルウエポンと化した女子高生軍団はその場からいなくなっていた
もうすぐ真次郎が帰らないといけないからだ
ちなみにクロノス先生と毒島は全身に足跡をつけられのびている
それに対し真次郎は服装が一糸乱れぬ状態であった、アレだけもみくちゃにされたのにスゲー
「今日はありがとうお兄ちゃん、、すごく楽しかったよ」
「そうか、、それはよかったぜ、気をつけて帰れよ」

「誠お兄ちゃんもまたね」

「あぁ、、今度は俺ともデュエルしてくれよ」

こうして真次郎は船で帰っていった

「しっかし、とんだ父兄参観だったな」

「真次郎は俺の兄貴じゃなくて弟だ」

「ハハ、それもそうだな」

しかし、こうして考えると女性ってすごいと思う

アレだけすごいパワーを生み出す女子高生が年を取るとスーパーのバーゲンで死に物狂いでセール品に群がる

あんなに激しい事ばかりするから平均寿命が男性より低いのではないかと変な理論をたててしまった。

第17話非住奈～いもうとじゃない～（後書き）

ハイ、みんなのダークヒーロー（？）毒島が再登場。そして真間の弟真次郎も登場。ちなみに真次郎のイメージは子供店長です。

それでは次回もよろしくお願いします。

第１８話夏と言ったらチューブでもサザンでもなく大黒マキだ（前書き）

昨日資料集めも兼デッキのネタ収集のためタッグフォース２買いました。
とにかく今はカードを必死で集めてます。

関係のない話をしてしまいましたが第１８話をどうぞ。

第１８話夏と言ったらチューブでもサザンでもなく大黒マキだ

「青い空、白い海、コレがコレこそが夏なんだ～～～～～」

「うるさいぞ誠」

「スイマセン」

「三沢君、、この問題がわからないんだけど」

「この問題か、、、これはだな」

俺と誠、十代に翔に三沢で今海辺に来ているのであるが

夏休みだから海水浴

なんてしゃれた事はしていない

ほぼ空き巣状態の海の家のテーブルに集まり教科書にノートとにらめっこの真っ最中だ

「なぁ三沢、、この問題なんだけど」

「教科書２３ページの公式を当てはめればすぐ解けるさ」

「ヨッシャ、、とりあえず数学の宿題終わったぜ」

「それにしても、、夏休みも残すところあと一週間か」

「そこ、、口を動かす前に手を動かせ」

「わ、、わかってるよ」

ヤローが5人がん首そろえて海辺で夏休みの宿題をするというなんともシュールな現状

まぁ、レッド寮の部屋だと空調が一切ないからクソ熱いし狭い

三沢の部屋も壁中の理論を塗りつぶした真っ最中で部屋には入れずどこか涼しいところを捜し求めた結果がこの海辺の海の家だったわけなのだ

「しかし、、何でみんなこんなに早くにアカデミアに戻ってきたんだ」

大体の生徒は実家に帰ってたり旅行に行ってたりでまだ島には購買部のトメさんと1部の教員しかいない状態である

俺は夏休み終了一週間前に戻ってきたのだがすでにこいつらがいたときはびっくりだった

話を聞けば

十代と翔はず～～～っとアカデミアにいたらしい

そういえばこの2人は原作でも冬休み中レッド寮にいたらしいしな

ちなみに隼人は実家の酒屋の手伝いに戻っているだとか

誠は夏休みはひたすら実家で遊びつくし一週間前にアカデミアに戻り宿題を一気に片付けるつもりだったそうだ

三沢は夏休み中は実家で過ごすつもりだったがこないだ新しい理論が思いつきそれを完成させるためにわざわざ島に戻ってきたというなんつーか、色気のない学園生活だな

夏は開放的になる季節なんだから誰か彼女の一人ぐらい作ってこいよな

まぁ、そんな文句を言ってはいられないか

今は目の前の宿題に熱中しなければ

せっかく三沢が俺達の臨時講師をしてくれているんだ、頑張らないとな

数時間後

「「終わった～～～～」」

４人同時に倒れる

「さて、、それじゃあ泳ぎに行きますか」

起き上がると同時に服を脱ぎだす十代

その下には海パンがはかれてあった

「アニキ、、、服の下に水着を着てたんスね」

「早く泳ぎに行こうぜ」

「まったく、、子供かお前は」

「イヨッシャ〜〜〜〜泳ぐぜ〜〜」

「たまりにたまった鬱憤、晴らしてくれる」

「って、お前達も服の下に水着着てたのか！！！」

さらに数時間後

「あ〜〜〜〜遊んだ遊んだ」

海水浴を終え俺達はシャワーで海水を洗い流していた

「コレで二学期に向けてやりのこしたことはないな」

「いいや、まだあるぜ」

「ん、、何が残ってるんだ、花火か」

「十代、、、俺とデュエルだ」

最近イレギュラー的なデュエリストと戦いまくってすっかり忘れてたが俺は十代達原作キャラと戦って俺のデッキと腕がどこまで通用するのか知りたかったんだ

夏休み最後の思い出は十代、お前と作りたい

「誠とデュエルか、、、そういえば1度もなかったな」

「夏休み中に決着をつけようと思ってな、俺の挑戦受けてくれるか」

「あぁ、望むところだぜ」

「きめているところ恐縮なんだが、、、、、フルチンでシリアスな顔しても間抜けでしょうがない」

「……とりあえず服着るか」

「そうだな」

シャワーから上がり俺達はレッド寮の前で互いにデュエルディスク構えあう

「さて、、それじゃあ夏休み最後のイベントと行こうか」

「あぁ、、最高に熱いデュエルにしようぜ」

ついに始まる、十代とのデュエル

「「デュエル！！」」

誠
ＬＰ４０００

十代
ＬＰ４０００

「俺のターン、ネクロ・ガードナーを守備表示で召喚」

ネクロ・ガードナー、いやなカードだな

メガロック・ドラゴン使いの俺にとってクリボーとオネストにつぐ警戒カードだ

ネクロ・ガードナー
レベル３闇属性
戦士族
攻撃力６００守備力１３００
効果
自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外して発動する。
相手モンスターの攻撃を１度だけ無効にする。

「リバースカードを１枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

十代
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ネクロ・ガードナー
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、手札のビック・ピース・ゴーレムを召喚」

俺の場に大きな岩に顔面と手足がはえたモンスターが現れる

ビック・ピース・ゴーレム
レベル５地属性
岩石族
攻撃力２１００守備力０
効果
相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードはリリースなしで召喚する事ができる。

「レベル５のモンスターを生け贄なしで召喚だと」

「このカードは相手の場にモンスターが存在し俺の場にモンスターが存在しない時生け贄なしで召喚することができる」

「サイバー・ドラゴンみたいだな」

「まぁ、、、あっちは特殊召喚、こっちは通常召喚なんだけどな、バトル、ビック・ピース・ゴーレムでネクロ・ガードナーに攻撃」

ヌヌヌヌヌヌと不気味に敵モンスターに歩み寄りその大きな拳でビック・ピース・ゴーレムが攻撃を仕掛ける

ビック・ピース・ゴーレム　攻撃力２１００＞ネクロ・ガードナー守備力１３００

「うぉっと、、だがこの瞬間リバースカードオープン、、ヒーロー・シグナル」

ヒーロー・シグナル
通常トラップ
自分フィールド上のモンスターが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時に発動する事ができる。自分の手札またはデッキからエレメンタルヒーローという名のついたレベル４以下のモンスター１体を特殊召喚する。

「俺はクレイマンを守備表示で召喚」

十代の場に粘土っぽい巨人が腕をクロスさせて召喚される

このカードも岩石族っぽいよな～、戦士族だけど

エレメンタルヒーロー・クレイマン
レベル４地属性
戦士族
攻撃力８００守備力２０００
効果なし

「ただではやられないか、コレでターンエンド」

あのクレイマンは壁か？それとも融合へのつなぎか？

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　ビック・ピース・ゴーレム
魔法トラップ　なし

十代
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・クレイマン
魔法トラップ

「俺のターン、、手札の融合賢者を発動」

融合賢者
通常魔法
自分のデッキから融合を１枚を手札に加える。その後デッキをシャッフルする。

融合
通常魔法
手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター１体をエクストラデッキから特殊召喚する。

「その効果でデッキから融合を手札に加える」

っつーと、次にやってくるカードはアレか

「そして手札に加えた融合を発動、、、手札のスパークマンとクレイマンを融合、現れろ、エレメンタルヒーロー・サンダー・ジャイアント！！！」

十代の場にスパークマンが現れると同時にすでに場に出ていたクレイマンと一緒に宙を舞い渦を上げ一人の戦士となって降り立った

クレイマンのボディーの胸にコアが取り付きスパークマンの鎧を装備した戦士といったところか

エレメンタルヒーロー・サンダー・ジャイアント
レベル６光属性
戦士族
攻撃力２４００守備力１５００
融合　エレメンタルヒーロー・スパークマン＋エレメンタルヒーロー・クレイマン

効果
このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。自分の手札を1枚捨てる事で、フィールド上に表側表示で存在する元々の攻撃力がこのカードの攻撃力よりも低いモンスター1体を選択して破壊する。この効果は1ターンに1度だけ自分のメインフェイズに使用する事ができる。

「サンダー・ジャイアントの効果発動、、手札を1枚捨てる事で相手フィールド上のこのカードよりも元々の攻撃力が低いモンスター1体を破壊する、、ヴェイパスパーク!!」

サンダー・ジャイアントの手のひらから雷が放たれビック・ピース・ゴーレムを感電させ破壊する

クソ、岩の塊なのに雷効いちゃうのかよ

「まだだ、、サンダー・ジャイアントでダイレクトアタック、ボルテック・サンダー」

サンダー・ジャイアントの両の掌が俺に向けられる

その掌から雷が今度は俺に向かって飛んでくる

「ウガ～～」

エレメンタルヒーロー・サンダー・ジャイアント　攻撃力２４００
（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

誠
ＬＰ４０００－２４００＝１６００

「やっぱアニキはすごいや」

「どうした誠、、押されてるぜ」

やばかったぜ、もし十代の手札にもう1枚スパークマンが存在していたら俺は死んでいた

「俺はコレでターンエンドだ」

誠
ＬＰ１６００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

十代
ＬＰ４０００

手札２枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・サンダー・ジャイアント
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、ドロー」

さすがだぜ十代、１体１体がお世辞にも高くないステータスのエレメンタルヒーローだが融合や豊富なサポートカードにより無限の戦略を生み出す

その代表格が融合

ヒーローシグナルやエマージェーシーコール等でいくらでも欲しいヒーローを手札に持ってこれる

恐ろしいデッキよ

「俺は巨大ネズミを攻撃表示で召喚」

頼んだぜ、俺の過労死モンスター

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１

５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

「バトルだ、、巨大ネズミでサンダー・ジャイアントに攻撃」

（あぁ、、、私に、私に痛みをください）

どうやら巨大ネズミ次女だったようだ

なぜか嬉しそうな表情で敵モンスターに突っ込んでいく巨大ネズミ

顔が少し赤みがかっていた気がするが激しく気のせいだ、気のせい

「迎え撃て、サンダー・ジャイアント」

再びサンダー・ジャイアントから雷が発射され巨大ネズミを貫く

巨大ネズミ　攻撃力１４００＜エレメンタルヒーロー・サンダー・ジャイアント　攻撃力２４００

誠

ＬＰ１６００－１０００＝６００

「巨大ネズミの効果発動、、このカードが戦闘で破壊された時デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスターを１体特殊召喚する、、いでよ、激昂のムカムカ」

（イヨッシャ、、大将と次女ッチの覚悟、無駄にはしないぜ）

激昂のムカムカ
地属性レベル５
攻撃力１２００守備力６００
自分の手札１枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

「激昂のムカムカは俺の手札１枚につき攻撃力が４００ポイントアップする」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→３２００

「バトル続行、、ムカムカでサンダー・ジャイアントに攻撃、、アングリーブロー！！」

岩石でできたカニのハサミがサンダー・ジャイアントの体を貫き破壊する

なんだろう、ヒーローが怪獣にやられたみたいでチョット複雑な心境だぜ

激昂のムカムカ　攻撃力３２００＞エレメンタルヒーロー・サンダー・ジャイアント　攻撃力２４００

十代
ＬＰ４０００－８００＝３２００

「おっと、、やるな誠、俺のヒーローを倒すなんて」

「へへ、、生きた不敗伝説は伊達じゃないぜ」

とはいえその代償は大きい

ライフが大きく削れてしまったぜ、フェザーマンのダイレクトアタックで決まっちゃいますよ

「リバースカードを２枚伏せてターンエンドだ」

激昂のムカムカ
攻撃力３２００→２４００

誠
ＬＰ６００
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

十代
ＬＰ３２００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「俺のターン」

この状況は非常にまずい、手堅く守備に徹せばよかったか

相手はあのチートドローで有名な遊城　十代

あのドローでこの状況をひっくり返すことなどわけがない

「俺は手札の大嵐を発動、全ての魔法トラップを破壊する」

大嵐
通常魔法
フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て破壊する。

「リアクティブアーマーに強制脱出装置が」

「さらに墓地に眠るネクロダークマンの効果発動、１度だけ手札の上級レベルエレメンタルヒーローを生け贄なしで召喚する事ができる」

エレメンタルヒーロー・ネクロダークマン
レベル５闇属性
戦士族
攻撃力１６００守備力１８００
効果
このカードが墓地に存在する限り１度だけ、自分はレベル５以上のエレメンタルヒーローと名のついたモンスター１体をリリースなしで召喚する事ができる。

しかしあのカードをいつ墓地に送った

あ！！サンダー・ジャイアントのコストにしたのか

「手札のエレメンタルヒーロー・エッジマンを召喚」

出たな、単体で最も強いといわれるエレメンタルヒーロー、エッジマン

エレメンタルヒーロー・エッジマン
レベル7地属性
戦士族
攻撃力２６００守備力１８００
効果
このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「エッジマンで激昂のムカムカに攻撃、、パワーエッジアタック！！」

ギルガメッシュ顔負けの金ぴか戦士がジェット噴射で飛んできて俺のムカムカの体を一刀両断する

エレメンタルヒーロー・エッジマン　攻撃力２６００＞激昂のムカムカ　攻撃力２４００

誠
ＬＰ６００－２００＝４００

やばいやばいやばいって
警戒しすぎてリバースを伏せまくったのが裏目に出たか

「俺はコレでターンエンドだ」

誠
ＬＰ４００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

十代
ＬＰ３２００
手札１枚
モンスター　エッジマン
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、、手札の魔法発動、地割れ」

地割れ
通常魔法
相手フィールド上に表側表示で存在する攻撃力が一番低いモンスター１体を破壊する。

「悪いが早々に立ち去ってもらうぜエッジマン」

十代のフィールドに亀裂が走りその亀裂にエッジマンが飲み込まれる

「俺のエッジマンが」

俺の風前のＬＰの前に貫通持ちで攻撃力２６００のモンスターは恐ろしすぎる

現状で貫通持ちは致命傷だ

さて、何はともあれコレで相手のフィールドはがら空きだ

「俺は手札のモアイ迎撃砲を召喚する」

（私の出番ですね、、がんばります）

モアイ迎撃砲
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１１００守備力２０００
効果
このカードは１ターンに１度裏側守備表示にする事ができる。

「バトル、、モアイ迎撃砲でダイレクトアタック、イースターレーザーキャノン！！！」

相手の場には何のカードも存在しない、モアイ迎撃砲のレーザーが相手を貫く

「グ！！」

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

十代
ＬＰ３２００－１１００＝２１００

「さらにメイン２でモアイ迎撃砲を裏守備表示に変更する」

俺の場のモアイ迎撃方が自身の効果で裏守備状態に戻る

「汚いぞ、、せっかく攻撃表示だったのに」

いや、汚いとか言われても

俺は何のルール違反をしてないぞ

十代ＶＳ万丈目で万丈目がタイガー・カタパルトの効果を使った時も翔がそんな事言ってたが別にルール違反じゃないし

コレで卑怯言われたらシンクロ召喚なんてどうなんだって感じだぜ

「ターンエンドだ」

誠
ＬＰ４００
手札２枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

十代
ＬＰ２１００
手札１枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「俺のターン、ドロー、手札からヒーローズ・レスキューを発動」

ヒーローズ・レスキュー（オリジナル）
通常魔法
自分のデッキからカードを５枚墓地に捨てる、この効果で墓地に送ったヒーローと名の付くカード１枚につきＬＰを３００ポイント回復する。

「俺はデッキの上からカードを5枚墓地に送る、、そしてその中にヒーローと名の付くモンスター1枚に付き俺はライフを３００ポイント回復する、墓地に送ったヒーローは3枚、よってＬＰを９００ポイント回復する」

十代
ＬＰ２１００＋９００＝３０００

クソ、ＬＰ回復カードかよ

「さらに手札のバブルマンの効果でこのカードを守備表示で特殊召喚する」

十代の場にマントを羽織った少しメタボ気味の気持ちいいおじさんが召喚される

不敵な笑顔でＨＡＨＡＨＡＨＡＨＡと笑ってた

エレメンタルヒーロー・バブルマン
レベル４水属性
戦士族
攻撃力８００守備力１２００

手札がこのカード1枚だけの場合、このカードを手札から特殊召喚する事ができる。このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時に自分のフィールド上と手札に他のカードが無い場合、デッキからカードを2枚ドローする事ができる。

しかし初めてだぜ、バブルマンの効果を発動するのを見たの大体みんな手札で腐ってしまうか融合素材となって墓地に送るかだしな

「この効果でカードを2枚ドロー、、さらに壺の中の魔術書を発動」

壺の中の魔術書（マンガ版ＧＸオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする。

「互いのプレイヤーはカードを3枚ドローする」

壺の中の魔術書のおかげで俺の手札も増えた

だが油断はできない、現に十代は手札1枚からライフを９００回復し手札も4枚まで巻き返した

「さらにフレンドックを守備表示で召喚」

機械でできたドーベルマンガ縮こまった姿勢で十代の場に召喚される

フレンドック
レベル３地属性
機械族
攻撃力８００守備力１２００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分の墓地からエレメンタルヒーローと名のついたカード１枚と融合を手札に加える。

「コレでターンエンドだ」
手札増強の後は墓地回収
とりあえずこのターンでとどめは刺されなかったがなんて巻き返しなんだ

誠
ＬＰ４００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

十代

ＬＰ３０００
手札３枚
モンスター　バブルマン、フレンドック
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、ドロー」

だが十代、お前ほどではないが俺にだってチートドロースキルは備わっているんだぜ

「手札のライトニング・ボルテックスを発動」

ライトニグ・ボルテックス
通常魔法
手札を１枚捨てて発動する。相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊する。

十代の場に大量の雷が落下、それによってフィールド上のモンスターが全滅する

「効果破壊じゃフレンドックの効果は発動しない」

「さらにロックストーン・ウォリアーを召喚」

ロックストーン・ウォリアー
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１８００守備力１６００
効果
このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。このカードの攻撃によってこのカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、自分フィールド上に“ロックストーン・トークン”（地属性レベル１岩石族攻撃力０守備力０）２体を特殊召喚する。このトークンはアドバンス召喚のためにはリリースできない。

「一気にたたみかける、モアイ迎撃砲を反転召喚しバトル、ロックストーン・ウォリアーとモアイ迎撃砲でダイレクトアタック」

俺の場のモンスターたちがいっせいに十代に襲い掛かる

「うわ～～～～～～～」

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

十代
ＬＰ３０００－２９００＝１００

「やるじゃないか誠」

「見たか十代、俺はメイン２でモアイ迎撃砲を裏守備にしてリバースを２枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４００
手札３枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

十代
ＬＰ１００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

しかしまずったか

十代のＬＰは１００

主役キャラに舞い降りる鉄壁のライフスキル発動っすか？

「俺のターン、、手札の融合を発動、手札のフェザーマンとバーストレディーを融合しエレメンタルヒーロー・フレイム・ウィングマンを召喚」

出たな、初期の十代のフェイバリットカード

エレメンタルヒーロー・フレイム・ウィングマン
レベル６風属性
戦士族
攻撃力２１００守備力１２００
融合　エレメンタルヒーロー・フェザーマン＋エレメンタルヒーロー・バーストレディ
効果
このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

「バトルだ、、フレイム・ウィングマンでロックストーン・ウォリアーに攻撃、フレイムシュート！！」

「よし、ロックストーン・ウォリアーは戦闘ダメージを受けないモンスターだけどフレイム・ウィングマンの効果ダメージでアニキの勝ちだ」

「やらすかよ～～～、和睦の使者発動！！！」

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは０になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

「和睦の使者の効果で俺に発生する戦闘ダメージは０になり俺のモンスターは戦闘では破壊されない」

「よって、フレイム・ウィングマンの効果も発動しない」

「決まったと思ったんだけどな、、ターンエンド」

誠
ＬＰ４００
手札３枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

十代
ＬＰ１００
手札１枚
モンスター　フレイム・ウィングマン
魔法トラップ　なし

「俺のターン、モアイ迎撃砲を反転召喚しリバースカード発動、、
激流葬」

激流葬
通常トラップ
モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚された時に発動する事ができる。フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

フィールドに大きな津波が発生し全てのモンスターを洗い流していく

「ッグ、俺のフェイバリットカードが」

「さらに墓地に眠る岩石族モンスターを5体除外する、、、見せてやるぜ十代、俺のフェイバリットカードを、、、降臨せよメガロック・ドラゴンを特殊召喚！！！！！」

（オシ、、久しぶりに決めるよ～～）

立体映像の演出で地面が大きく裂け底から巨大な岩のドラゴンがうねりを上げながら俺のフィールドに降臨する

メガロック・ドラゴン
地属性レベル７
岩石族
攻撃力?守備力?
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる。

「メアロック・ドラゴンは特殊召喚する際除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの攻撃力守備力になる」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?→３５００
守備力?→３５００

「メガロック・ドラゴンで攻撃、、アースカノン・インフェルノ！！！」

「墓地に眠るネクロ・ガードナーの効果を発動、このカードをゲームから除外し1度だけバトルを無効にする」

メガロック・ドラゴンの熱線が十代に当たる前にバリアのようなものに阻まれ消滅していく

「ック、ターンエンドだ」

誠
LP400
手札3枚
モンスター　メガロックドラゴン
魔法トラップ　なし

十代
LP100
手札1枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、エレメンタルヒーロー・クレイマンを守備表示で召喚、さらにリバースカードを1枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ４００
手札３枚
モンスター　メガロックドラゴン
魔法トラップ　なし

十代
ＬＰ１００
手札０枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・クレイマン
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、ドロー」

クレイマン、守備力２０００の優秀な壁モンスター

この場合メガロック・ドラゴンでクレイマンを破壊しモンスターでダイレクトアタックで勝負は決まるが

警戒すべきはあのリバース

攻撃の無力化みたいなバトルを終了させる系統のカードであれば俺はピンチだ

手札は全て壁要因モンスターのみ

攻撃をしのがれ攻撃力の低いモンスターを攻撃表示のままで相手タ

ーンに攻撃をくらったら俺が負ける
ここは
「俺はマジックホール・ゴーレムを守備表示で召喚」
本当、表側守備表示召喚様様だぜ

マジックホール・ゴーレム
レベル３地属性
岩石族
攻撃力０守備力２０００
効果
１ターンに１度、自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター１体を選択して発動する事ができる。選択したモンスターはエンドェイズ時まで攻撃力が半分になり、このターン相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。
この効果を発動するターン、選択したモンスター以外のモンスターは攻撃する事ができない。

「マジックホール・ゴーレムの効果発動、俺はメガロック・ドラゴンの攻撃力を半分にしメガロック・ドラゴンでダイレクトアタックする事ができる」
メガロック・ドラゴン

攻撃力３５００→１７５０

「バトルだ、、メガロック・ドラゴンでダイレクトアタック、、、アースカノン・デュメンション！！！」

メガロックドラゴンの前に異次元トンネルのようなものが発生しもう一つ十代の目の前にも同じようなものが発生する

そしてその穴にメガロックの熱線が飲み込まれ十代の目の前の穴から顔を出し再び十代に熱線が迫る

「リバースカードオープン、、ヒーローバリア」

ヒーローバリア
通常トラップ
自分フィールド上にエレメンタルヒーローと名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、相手モンスターの攻撃を１度だけ無効にする。

十代の目の前に扇風機の羽のようなエネルギーが発生しか移転し始め熱戦をかき消していく

「クソ、、決まらなかったか、、ターンエンドだ」

誠
ＬＰ４００
手札４枚
モンスター　メガロックドラゴン
魔法トラップ　なし

十代
ＬＰ１００
手札０枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・クレイマン
魔法トラップ　なし

「俺のターン」

「何とかしのいだけど、、アニキの場にはクレイマンのみ」

「だが、、十代の目はあきらめてはいない、、むしろ楽しんでいる」

「普通のデュエリストなら、ここで力尽きるところだが、、十代は、遊城　十代という男は違う」

「どんなピンチもそのドローで切り抜いてきた」

さぁどうする十代

ヒーローバリアでつなげたこのターンで逆転をするか

きっと、するだろうな、俺もそれを望んでいる

「なぁ、誠、、このドローで全てが決まる、、そう思うとわくわくしないか」

「あぁ、、、俺はさっきのターン出せうる限りの全力を、、いや、限界以上の力を出した、次はお前の全力全開を見せてくれ！！！」

「あぁ、、ドローカード、魔法発動、、、ミラクル・フージョン」

ミラクル・フージョン
通常魔法
自分のフィールド上または墓地から、融合モンスターカードによって決められたモンスターをゲームから除外し、エレメンタルヒーローという名のついた融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。この特殊召喚は融合召喚扱いとする。

「墓地に眠るフレイム・ウィングマンとスパークマンを融合、現れろ、光り輝くヒーロー、シャイニング・フレア・ウィングマン」

十代の墓地から激しい光が放たれ天より白く発光する鎧を身にまとったフレイム・ウィングマンが十代の場に降り立った

エレメンタルヒーロー・シャイニング・フレア・ウィングマン

レベル８光属性
戦士族
攻撃力２５００守備力２１００
融合　エレメンタルヒーロー・フレイム・ウィングマン＋エレメンタルヒーロー・スパークマン
効果
このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在するエレメンタルヒーローと名のついたカード１枚につき３００ポイントアップする。このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

「シャイニング・フレア・ウィングマンは墓地に眠るエレメンタルヒーロー１体につき攻撃力が３００ポイントアップする、俺の墓地には１０体のエレメンタルヒーローが存在する」

「つまり攻撃力３０００ポイントアップ」

シャイニング・フレア・ウィングマン
攻撃力２５００↓５５００

「シャイニング・フレア・ウィングマンでメガロック・ドラゴンを攻撃、、シャイニングシュート！！！」

シャイニング・フレア・ウィングマンの体からいくつ物光があふれ出しそれが1つにまとまる剣となって俺のメガロック・ドラゴンの体を真っ二つにした

「うわ～～～～～」

エレメンタルヒーロー・シャイニング・フレア・ウィングマン　攻撃力５５００＞メガロック・ドラゴン　攻撃力３５００

誠
ＬＰ４００－２０００＝－１６００

デュエルが終了し立体映像が消滅していく

「アニキの勝ちだ～～～」

「、、、、ククク、ハハ、ハハハハハハハハハハ」

「な、何だよ誠、、ククク」

「楽しかった、、本当に楽しかったぜ十代、、、互いに全力という全力を出し尽くした、、ハハ、、本当に楽しいデュエルだった、、ハハハハハハハハ」

「あぁ、、俺も楽しかったぜ、、ガッチャ、、、ハハハハハハ」

こうして夏休みの終了と共に俺と十代の初めてのデュエルは俺の敗北で幕を閉じた

まぁ別にいいか、超面白かったぜ

又デュエルしような、十代。

第１８話夏と言ったらチューブでもサザンでもなく大黒マキだ（後書き）

小説書いているときメチャクチャ楽しかったです。そして誠の初敗北。

正直十代とのデュエルはどのタイミングで入れようかずっと考えていたんですが今回少し無理っぽい理由でデュエルしてみました。

次回もまたよろしくお願いします。

第１９話乙女達の戦い（前書き）

キーワードに“チートクラスオリカ”と“チートドロー”を追加しました。

そして今回は真間ＶＳ雪のデュエルです。よってオリカとオリカのカオス的デュエル状況になってます。

それでは本編をどうぞ。

第１９話乙女達の戦い

視線変更～雪～

「このカードは少し癖がありますわね」

「でもさ、、このカードと組み合わせると面白くない」

「チョットデッキが重くなる気が」

私は今エレナさんの部屋で冥衣さんと一緒に購買部で買ったカードをあけてデッキの調整を行ってます

月一試験の時からエレナさんといい競争相手として友達になり

真間さん誠さんと話をしていると冥衣さんと何度か会って話をかけてみるとすごく仲良くなり今ではいい友達です

「ＰＲＲＲＲＲ、、ＰＲＲＲＲＲ」

「アレ、、雪のＰＤＡ鳴ってない？」

「あ、、本当です」

かばんからＰＤＡを取り出してみるとメールが１件受信されてました

開いてみると差出人は真間さんからでした

差出人：空栗　真間
チョット頼みたい事があるんだがいいか？

頼みごとですか

真間さんには色々とお世話になりましたしここは恩返しをするチャンスですね

私はＰＤＡを操作し返事を送った

差出人：七野　雪
ハイ、私で力になれるなら

メールを送り程なくして再びメールが帰ってきました

差出人：空栗　真間
ありがとう、、とりあえず女子寮前に行って直接話がしたい

「アレ、、どうしたんだ雪、嬉しそうな顔して」

「え、、そうですか？」

「先程のメールが関係してそうですわね」

「そんな事ないですよ、、私チョット出かけてきますね」

感づかれないよう私はエレナさんの部屋からエスケープをする

「、、、、、、、私、スキップをする人を産まれてはじめてみましたわ」

「子供ならまだしも高校生になってスキップをするとは思わなかった」

2人に感づかれないよう外に出てみると真間さんがこちらに向かって歩いてきます

その横にはもう一つ見られない影が一つ

レッドの制服を着ているので男の人と思われますがどことなく女の子とも取れそうな顔立ちです

「よう、悪いなこんな夜遅くに」

「いえ、大丈夫です」

しかし何のようなんでしょうか？

夜遅くに呼び出すことの定番といえば告白イベントとか考えてしまったんですが

その場合向こうが2人で来るのはおかしいです

それにその場合はメールの文面は伝えたいことが有るとなるはずです、メールの文面は頼み事が有るになるはずです

「まぁ、、メールにも書いたんだけど頼み事があってな」

何でしょうか

きっと隣の子が関係あると思うんですが

ま、、まさか

「実は、、、、俺バツ一なんだ」

「はじめましてお姉さん、私真間お父さんの子供です」

「イヤ～～～

いや、さすがに違いますね

高校1年でバツ一ってどんな波乱万丈な人生ですかまったく

そもそも頼みごとをしに来たんじゃないですか真間さんは

だとすると

「俺と一緒に、、この子を育ててくれないか」

「え、、、それって」

「結婚してくれ」

ないないないないないないないないないないないないない

何自分の都合のいいように妄想してるんですか

結局バツ一説がなくなってないじゃないですか

「なぁ、、話を続けていいか」

「え、、あ、スイマセン」

「びっくりしたぞ、、急に顔を真っ赤にしてクネクネしだすから」

うぅ、顔どころか全身から出ていたとは

「実はさ、、この子をそっちの方で一晩だけ泊めて欲しいんだ」

そういって真間さんは隣にいた子を私の前に出す

「えっと、、、話が見えないんですが」

「あぁ、、ちゃんと1から説明するわ」

それから数分真間さんからの話を聞きました

何でも真間さんの横にいた子はレッドの制服を着ているが女の子らしい

3年生の丸藤先輩と会いたい一身でアカデミアに一人で乗り込んできたそうなんですが

周りのみんなに女の子ということと小学5年生ということがばれてしまい

明日の船で実家に帰る事になったのだが一晩泊まる所がなく
知り合いである私に助けを求めたみたいだ

「いいですよ」

「悪い、この仮はいつか返すから、それじゃ頼むぜ」

バイバイと手を振り真間さんはレッド寮に戻っていた

「短い間だけど、、よろしくね、私は七野　雪」

「私は、早乙女　レイです」

私はとりあえずレオナさんの部屋に戻りレイさんの事情を説明した

「そうですの、、行動的ですわね」

「いいえ、、それほどでもないですよ」

「いいや、たいしたものよ、、、憧れの人の為身分を偽っての密入航、中々できるもんじゃないって」

「そういえば真間さんから聞き忘れてたんですがレイさんの憧れの人って誰ですか？」

「私の、私の憧れの人は亮様です」

カイザー亮、わかります

容姿良し、学力有り、デュエル強し

女子の間でも人気は高い

「ところで、、、雪さん達にはそういった憧れの人とかいないんですか？」

「私達、、私は、、、、、、、いない、、かな」

顔を赤くしてそっぽを向く冥衣さん

話をしたことはないですがおそらく誰か気になる人がいるんでしょう

「ところでエレナはどうなのよ」

「憧れの人、、、っと言うわけではないですが、フィアンセがいますわ」

「「フィフィフィフィフィフィフィアンセ～～～！！！」」

「チョット3人とも、、声が大きいですわ」

それは大きくもなります

婚約者がいるなんて初耳です、まぁこの手の話題を1度もしたことがないのが原因でもありますが

「父のお友達の息子さんなんですが、、まぁ子供の時に交わした他愛ない結婚の約束何ですが」

「ちなみにエレナのお父さんって何してるの？」

「父は海馬コーポレーション傘下の会社の社長、母は有名なバイオリニストですわ」

うっわ～～～～マンガに出てくるような上級家庭設定です

「それでそれで、、、雪さんはいるんですか？」

う、レイさんがすごいきらきらした目でこっちを見てきます

「、、、、そうですね」

果たして私の中にある真間さんへの感情は恋だとか愛なのでしょうか？

確かに、、、月一試験の時にはお世話になりました

おかげでデュエルを楽しくできるようになりお友達もできました

「チョット、、、わからないですね」

「えぇ～～～～なんですかそれは」

「いや、、むしろ真間の事好きじゃなかったの？」

「フ、、、フェ！！！」

「もしかして、、気づいていないとお思いですの？」

「雪が真間に気があるのはバレバレよ、、あぁ肝心の本人は気づいてないけどね」

「その話聞かせて欲しいです」

ズイズイと近づいてくるレイさん

それに便乗して冥衣さんもせめてきてます

そしてエレナさんもチラチラとこっちを見ているところから興味はあるようですね

「しょうがないです、、話ましょう」

「素敵な話です、、雪さんと真間さんにそんなお話があっただなんて」

「そんな出会いかただったんだ」

「そういう冥衣さんは誠さんとどういう出会いをしたんですの？」

「、、、、、、、、最後に残ったアンパンの取り合い」

「すごく色気のない出会いですね」

「うるさいわよ、、、それよりも、今は雪の事よ、真間の事好きなんでしょ」

「、、、私の中の感情が愛だとか恋だとか、、正直わかりません」

「でしたら、、、、、デュエルをしてみればわかりますわ」

「いや、、、それはチョット違わなくない？」

「いいえ、デュエルとはいわば心を映し出す鏡、、、デュエルを通じてきっと雪さんの中にある感情が何なのかきっと見つかるはずですわ」

「そうだね、、私もそれが1番だと思う」

「もう完全にデュエルするって流れのようね、、、、まぁちょうど新カードが沢山ある事だし、、雪のデッキをパワーアップするしかないわね」

「皆さん、、、ありがとうございます」

翌日

私は真間さんにメールを送り港で落ち合いデュエルする事になりました

後ろの方で冥衣さんにエレナさんにレイさんが茂みにあくれて見守っています

「昨日はみんなで散々デッキを調整しました、、あとは」

私の気持ちしだい

すごく胸がドキドキするのがわかります

デュエル前のわくわくとはちょっと違う鼓動、どうしよう、なんか本当に告白するみたいになってます

「おう、、来たぜ雪」

「ウキョワ～～」

し、、真間さん

いつの間に

「すごい叫びだったが、大丈夫か」

「ハイ、、私は、今日も大丈夫です」

「いや、とても大丈夫には見えないんだが」

うぅ、、まさかこんな失態をさらしてしまうとは

後ろの茂みからプププと小さく笑いをこらえる声が聞こえてきます

「ととと、、、とにかくデュエル、デュエルです真間さん」

「まぁいい、、、やろうぜ雪、最高に熱いデュエルを」

「「デュエル！！！」」

真間
ＬＰ４０００

雪
ＬＰ４０００

「私のターン、リトルバルキリー・レッドを攻撃表示で召喚します」

私のフィールドに火柱が発生しそこから赤い鎧を身に着けた天使が姿を現す

「コレが、、雪の新たな力、リトルバルキリーか」

リトルバルキリー・レッド　（オリジナル）
レベル４炎属性
天使族
攻撃力１５００守備力８００
効果
フィールド上で表側表示で存在するリトルバルキリーと名の付くモンスター１体につき攻撃力２００ポイントアップする。

「さらに魔法発動、、バルキリーホイッスル」

バルキリーホイッスル　（オリジナル）
通常魔法
自分のフィールド上にリトルバルキリーと名の付くモンスターが存在するとき発動可能。手札のリトルバルキリーと名の付くモンスター１体を特殊召喚する

「私はリトルバルキリー・ブルーを守備表示で特殊召喚します」

火柱が発生した場所の隣に水柱が発生しそこから水色の鎧を着た天使が飛び上がる

リトルバルキリー・ブルー　（オリジナル）
レベル４水属性

天使族
攻撃力１５００守備力８００
効果
自分フィールド上にリトルバルキリー・ブルー以外のリトルバルキリーと名の付くモンスターが存在する場合このカードは戦闘では破壊されない。

「そして私の場にリトルバルキリーが2体表側表示で存在してることによりバルキリー・レッドの攻撃力が上がります」

リトルバルキリー・レッド
攻撃力１５００→１９００

「新しいデッキの出来を見るために俺を選んでくれるとは、ありがたいぜ」

「新デッキですのでお手柔らかにお願いしますね、、でも手は抜かないでくださいよ、コレでターンエンドです」

真間
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

雪
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　リトルバルキリー・レッド、リトルバルキリー・ブルー
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、攻撃力１９００は結構厄介なカードだが、、俺はマシン・コマンダーを攻撃表示で召喚する」

真間さんの場にバチバチと火花を上げながらロシアの兵隊っぽいロボットが姿を現します

マシン・コマンダー　（オリジナル）
レベル４地属性
機械族
攻撃力１１００守備力１６００
効果
このカードが召喚に成功した時手札のレベル４以下の機械族モンスターを１体特殊召喚できる。表側表示のこのカードが戦闘によって破壊されたときデッキから攻撃力１５００以下の機械族モンスター１体をデッキの１番上に置くことができる。

「マシン・コマンダーの効果発動、手札のレベル４以下の機械族モ

ンスターを1体特殊召喚できる、、俺は古代の巨大兵器を特殊召喚する」

マシン・コマンダーが手に持っているライフル銃を天に放つと魔方陣が相手のフィールドに発生しそこから丸いボディーのロボットが現れる

そのロボットの体は古代の兵器だけあってか所々塗装がはがれていたり傷が付いていたりしてます

古代の巨大兵器　（オリジナル）
レベル４地属性
機械族
攻撃力２０００守備力１００
効果
自分フィールド上にこのカード以外の機械族モンスターが表側表示で存在しない場合このカードを破壊する。このカードは自分フィールド上のこのカードよりも攻撃力が低いカードが全て攻撃するまで攻撃をする事はできない。このカードは自分フィールド上のこのカードよりも攻撃力が高いカードが攻撃した後には攻撃できない。

「バトルだ、、マシン・コマンダーでバルキリー・ブルーを攻撃」

マシン・コマンダーの銃が私のバルキリー・ブルーに向けられ銃弾が発射される

その銃弾は私のモンスターにあたるものの互いのモンスターに変化は現れません

マシン・コマンダー　攻撃力１１００＞リトルバルキリー・ブルー
守備力８００

「バルキリーブルーは自分フィールドに他のリトルバルキリーと名の付くモンスターが存在する限り戦闘では破壊されません」

「やった、敵モンスターの攻撃を１度防いだ」

「いいえ、コレは真間さんからすれば計算のうちですわね」

「え！？」

「コレで古代の巨大兵器が攻撃できるぜ、、古代の機械兵器でバルキリー・レッドを攻撃」

球体のロボットからミサイルが数発発射され私のバルキリーを１体破壊する

古代の巨大兵器　攻撃力２０００＞リトルバルキリー・レッド　攻撃力１９００

雪
ＬＰ４０００－１００＝３９００

「バルキリー・ブルーを攻撃表示にすべきでしたか」

「まぁ、、それは状況よりけりだ、、プレイングミスではないぜ、とりあえずターンエンドだ」

真間
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　マシン・コマンダー、古代の巨大兵器
魔法トラップ　なし

雪
ＬＰ３９００
手札３枚
モンスター　リトルバルキリー・ブルー
魔法トラップ　なし

「私のターン、、天界の名犬ラッシーを召喚」

天子の羽の生えたチワワが私のフィールドに舞い降りる

尻尾を激しくふる姿は激しくかわいいです

天界の名犬ラッシー　（オリジナル）
レベル４光属性
天使族
攻撃力８００守備力２００
効果
このカードが自分フィールドから墓地に送られた時自分のデッキからリトルバルキリーと名の付くモンスター1体を特殊召喚する事ができる。このカードが戦闘で破壊された時デッキからカードを1枚ドローする。

「そしてリトルバルキリー・ブルーを攻撃表示に変更しバトル、、バルキリー・ブルーでマシン・コマンダーを攻撃」

私の天使がその剣をふるとマシン・コマンダーの足元から水柱が立ち上りその体を吹き飛ばしこの場から退場させる

リトルバルキリー・ブルー　攻撃力１５００＞マシン・コマンダー　攻撃力１１００

真間
ＬＰ４０００－４００＝３６００

「しかし、、マシン・コマンダーが戦闘で破壊された時デッキから

レベル４以下の機械族モンスターをデッキトップに置く事ができる、俺はメカ・ハンターをデッキトップに置く」

「ですが、、残った古代の巨大兵器は自身の効果で自壊します」

バチバチと火花を上げながら球体のロボットが爆発し巨大兵器が消滅する

「コレで場はがら空きですね、バトル続行、、ラッシーでダイレクトアタック！！」

背中の羽で羽ばたきながらチワワが真間さんに体当たりを仕掛ける

正直、あんなかわいい生命体にじゃれられるなんてうらやましいです

天界の名犬ラッシー　攻撃力８００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

真間
ＬＰ３６００－８００＝２８００

「やるじゃないか、魂に火がついてきたぜ」

「ありがとうございます、、、私はコレでターンエンドです」

真間
ＬＰ２８００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

雪
ＬＰ３９００
手札３枚
モンスター　リトルバルキリー・ブルー、天界の名犬ラッシー
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、今ドローしたメカ・ハンターを攻撃表示で召喚」

さっきの古代兵器のような丸いロボットがフィールドに現れそこから手足やら凶器類が飛び出しメカ・ハンターの形になる

メカ・ハンター
レベル４闇属性
機械族
攻撃力１８５０守備力８００
効果なし

「バトルだ、メカ・ハンターでバルキリー・ブルーを攻撃」

私の場の天使に向かって手に持っているロッドを投げ飛ばすメカ・

ハンター

攻撃力が低いうえ効果が発動中ではないので今度は破壊されてしまいます

メカ・ハンター　攻撃力１８５０＞リトルバルキリー・ブルー　攻撃力１５００

雪

ＬＰ３９００－３５０＝３５５０

「さらに手札を2枚伏せてターンエンド」

真間

ＬＰ２８００

手札２枚

モンスター　メカ・ハンター

魔法トラップ　リバース×２

雪

ＬＰ３５５０

手札３枚

モンスター　天界の名犬ラッシー

魔法トラップ　なし

「私のターン、、ラッシーを守備表示に変更してターンエンドです」

真間
ＬＰ２８００
手札２枚
モンスター　メカ・ハンター
魔法トラップ　リバース×２

雪
ＬＰ３５５０
手札３枚
モンスター　天界の名犬ラッシー
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、赤腕の機械兵を召喚」

赤腕の機械兵　（オリジナル）
レベル４地属性
機械族
攻撃力１５００守備力３００
効果
守備表示モンスターを攻撃した時、このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を越えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

貫通持ちモンスター、危険なカードです

「バトルだ、、赤腕の機械兵で天界の名犬ラッシーに攻撃」

血塗られたその腕で私のチワワを押しつぶす機械兵

あぁ～～、せっかくかわいいモンスターだったのに、残念です

赤腕の機械兵　攻撃力１５００＞天界の名犬ラッシー　守備力２００

雪

ＬＰ３５５０－１３００＝２２５０

「ラッシーの効果を発動、このカードが墓地に送られた時デッキからリトルバルキリーと名の付くモンスターを特殊召喚できます、、私はリトルバルキリー・ブラウンを守備表示で特殊召喚します」

リトルバルキリー・ブラウン　（オリジナル）

レベル４地属性

天使族

攻撃力１５００守備力８００

効果

自分フィールド上にこのカード以外のリトルバルキリーと名の付くモンスターが存在する場合1ターンに1度相手フィールド上のモンスター1体の表示形式を変更できる。

「さらにラッシーが戦闘で破壊されたので私はデッキからカードを1枚ドローします」

「バトル続行、、メカ・ハンターでバルキリー・ブラウンに攻撃！！」

メカ・ハンター再び私の天使を破壊する

メカ・ハンター　攻撃力1850＞リトルバルキリー・ブラウン守備力800

「コレでターンエンドだ」

真間
LP2800
手札2枚
モンスター　メカ・ハンター、赤腕の機械兵
魔法トラップ　リバース×2

雪
LP2250

手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターン、ラッシーがくれたチャンス、逃しはしません、リトルバルキリー・ブラックを召喚」

漆黒の翼の天使が私のフィールドに降り立つ

リトルバルキリー・ブラック　（オリジナル）
レベル４闇属性
天使族
攻撃力１５００守備力８００
効果
自分フィールド上にリトルバルキリー・ブラウン以外のリトルバルキリーと名の付くモンスターが存在する時墓地に眠るリトルバルキリーと名の付くモンスターを１体除外する事で相手フィールド上のカードを１枚墓地に送る。この効果は１ターンに１度しか使用できない。

「さらに手札の小天使達の絆を発動させます」

小天使達の絆　（オリジナル）
通常魔法
自分フィールド上にリトルバルキリーと名の付くカードが存在する時発動できる。自分の墓地のリトルバルキリーと名の付くモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する。

「その効果で、リトルバルキリー・ブラウンを特殊召喚、、そして効果を発動、リトルバルキリー・ブラウンはこのカード以外のリトルバルキリーと名の付くモンスターが存在する時相手フィールド上のカードの表示形式を変更する事ができる、、私は赤腕の機械兵の表示を変更します」

パ～～～ット赤腕の機械兵が光に包まれその大きな赤い腕を前にかまえて防御体制をとる

「さらにリトルバルキリー・ブラックの効果で墓地に眠るリトルバルキリー・レッドをゲームから除外しメカ・ハンターを破壊」

黒い翼の天子の羽がメカ・ハンターに向かって飛んでいきます

その翼がメカ・ハンターを貫きその体を破壊する

「そしてバトル、、バルキリー・ブラックで赤腕の機械兵を攻撃」

今度はその黒い翼を飛ばさずそれで羽ばたき赤腕の機械兵に向かって飛翔し腰にたずさえた剣で機械兵を真っ二つにする

リトルバルキリー・ブラック　攻撃力１５００＞赤腕の機械兵　守備力３００

「まだです、、リトルバルキリー・ブラウンでダイレクトアタック！！」

少し岩っぽい鎧を身にまとった天使が羽ばたくことなくショルダータックルで真間さんにダメージを与える

なんか、誠さんのロックストーン・ウォリアーみたいです

リトルバルキリー・ブラウン　攻撃力１５００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

真間
ＬＰ２８００－１５００＝１３００

「へへ、、やるじゃないか雪、、久しぶりに追い込まれてきたぜ」

「私だってやる時はやるんです、コレでターンエンドです」

真間
ＬＰ１３００
手札２枚
モンスター　なし

魔法トラップ　リバース×2

雪
LP2250
手札3枚
モンスター　リトルバルキリー・ブラック、リトルバルキリー・ブラウン
魔法トラップ　なし

「俺のターン、モンスターを1体裏守備でセットしターンエンド」

真間
LP1300
手札2枚
モンスター　裏守備×1
魔法トラップ　リバース×2

雪
LP2250
手札3枚
モンスター　リトルバルキリー・ブラック、リトルバルキリー・ブラウン
魔法トラップ　なし

「私のターン」

もしかして、、チャンスでしょうか？

ここは全力でたたみかけるべきでしょう

「手札の閃光の剣士ア・ティナを特殊召喚します」

私のフィールドが激しく光だしその光が集まって純白の鎧をまとった天使が現れる

閃光の剣士ア・ティナ　（オリジナル）
レベル７光属性
天使族
攻撃力２２００守備力１９００
効果
自分フィールド上にリトルバルキリーと名の付くモンスターが２体以上表側表示で存在する時このカードを表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。このカードは自分フィールド上で表側表示で存在するリトルバルキリーと名の付くモンスター１体に付き攻撃力が１００ポイントアップする。このカードが表側表示で存在する限り相手はリトルバルキリーと名の付くモンスターを攻撃することができない。

「さらにバルキリー・レッドを通常召喚します、、コレによって私のバルキリー・レッドとア・ティナの攻撃力が上がります」

リトルバルキリー・レッド

攻撃力１５００→２１００
閃光の剣士ア・ティナ
攻撃力２２００→２５００

「さらに墓地に眠るバルキリー・ブルーをゲームから除外し真間さんの裏守備を破壊します」

「ック」

「壁モンスターが消えました、、天使達でダイレクトアタック」

私の場の天使たちがいっせいに飛び掛ります

この攻撃が決まれば、、私の勝ちです

「リバースカードオープン、、和睦の使者」

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは０になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

真間さんのルームメイト誠さんがよく使う修道女のカードです

その効果で私の天使たちの攻撃の足が止まります

「決まったと思ったんですが、、メイン2で魔法発動、、小天使の集い」

小天使の集い　（オリジナル）
通常魔法
自分フィールド上にリトルバルキリーと名の付くカードが存在する時発動可能、フィールド上に存在する天使族モンスター1体に付きライフポイントを500ポイント回復する

雪
LP2250→2000＝4250

「私はコレでターンエンドです」

真間
LP1300
手札2枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×1

雪
LP4250
手札1枚
モンスター　リトルバルキリー・ブラック、リトルバルキリー・

ブラウン、閃光の剣士ア・ティナ、リトルバルキリー・レッド
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、手札のくず鉄の要塞を守備表示で特殊召喚する」

くず鉄の要塞　（オリジナル）
レベル５地属性
機械族
攻撃力０守備力２３００
自分のフィールドにモンスターが存在せず、相手の場に２体以上のモンスターが存在し自分の墓地に機械族モンスターのみ存在する場合このカードを手札から特殊召喚する事ができる。自分の墓地のカードを任意の枚数ゲームから除外する事で自分のフィールドにミサイルトークンを特殊召喚できる。

「さらにリバースカードオープン、、ゲットライド」

ゲットライド
通常トラップ
自分の墓地に存在するユニオンモンスター１体を選択し、自分フィールド上に表側表示で存在する装備可能なモンスターに装備する。

「その効果で墓地に眠る強化支援メカ・ヘビーウェポンをくず鉄の

要塞に装備」

強化支援メカ・ヘビーウェポン
レベル３闇属性
機械族
攻撃力５００守備力５００
効果：ユニオン
１ターンに１度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上の機械族モンスターに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。この効果で装備カード扱いになっている場合のみ、装備モンスターの攻撃力・守備力は５００ポイントアップする。１体のモンスターが装備できるユニオンは１枚まで。装備モンスターが破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。

おそらくさっきのターンでバルキリーブラックの効果で墓地に送ったカードでしょう

「さらにヘビーウェポンのユニオンを解除し俺のフィールドに特殊召喚、、そして2体のモンスターを生け贄に、、、現れろ、皆殺しにするキラーマシン」

真間さんのフィールドのモンスターが大きな渦に包まれその渦の中から巨大な機械のモンスターが姿を現す

まがまがしい黒いボディー
異様に巨大な両腕
肩に乗っかっている巨大なバルカン砲
まさしく何かを倒す、殺す事だけを考えたといわんばかりのモンスターです

皆殺しにするキラーマシン　（オリジナル）
レベル８闇属性
機械族
攻撃力２５００守備力０
効果
このカードは特殊召喚できない、このカードの生け贄は全て機械族モンスターでなければならない。このカードが自分フィールド上に召喚された時自分フィールド上のこのカード以外の全てのモンスターを破壊する。バトルフェイズ中このカードの攻撃力を１０００下げることでこのカードは相手モンスターに追加攻撃を行うことができる。このモンスターが追加攻撃を行った場合エンドフェイズ時このカードは守備表示になる。

「さらに速攻魔法リミッター解除発動」
リミッター解除

速攻魔法
このカード発動時に、自分フィールド上に表側表示で存在する全ての機械族モンスターの攻撃力を倍にする。この効果を受けたモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

「この効果によって俺のキラーマシンの攻撃力は倍になる」

皆殺しにするキラーマシン
攻撃力２５００→５０００

「バトル、、キラーマシンで閃光の剣士ア・ティナを攻撃、デストロイド・ナックル！！！」

巨大な腕が私の閃光の剣士を圧殺する

皆殺しにするキラーマシン　攻撃力５０００＞閃光の剣士ア・ティナ　攻撃力２５００

雪
ＬＰ４２５０－２５００＝１７５０

「私の閃光の剣士が、、ですがこのターンしのげばリミッター解除

の効果でキラーマシンは消滅、次の私のターン、リトルバルキリー達のダイレクトアタックで」

「残念だが次のターンはない、、キラーマシンの効果を発動、このカードの攻撃力を１０００下げることで相手モンスターに対し追加攻撃を行うことができる」

皆殺しにするキラーマシン
攻撃力５０００→４０００

「キラーマシンよ、バルキリー・レッドに攻撃」

「キャ～～～～」

皆殺しにするキラーマシン　攻撃力４０００＞リトルバルキリー・レッド　攻撃力２１００

雪
ＬＰ１７５０－１９００＝－１５０

「いや～～～～、楽しかったぜ雪、、リトルバルキリーデッキ、スッゲ～～楽しかったぜ」

「ですが、、負けてしまいました」

「その割にはすごい笑顔だぜ」

「ハイ、、私もすごく楽しかったです」

互いの健闘をたたえ熱い握手を交わします

真間さんの掌はすごく温かかったです

デュエルが終わり私は真間さんと1度わかれ冥衣さん達のところに戻りました

「って、どうですの雪さん、、、心の中の疑問に答えは見出せましたか？」

「え、、答え？」

「、、、、、、、一つ聞くけど、何でデュエルしたか覚えてる？」

「……あ！！」

「デュエルが楽しすぎて忘れてたみたいですね」

ハハハハと少し乾いた笑みをこぼすレイさん

「楽しすぎるデュエルのせいですっかり忘れてました」

「一つ分かったことといえば、、雪さんと誠さんが似たもの夫婦だという事ですわね」

その後デッキ作りを作ってくれたレイさんを十代さんと見送った

帰り際に十代さんに告白するレイさん、本当アグレッシブといいますか元気といいますが

なんとなく何ですが、近い将来、レイさんと再会できるような気がします

その時までに、、、私の中の答を見つけたいと思います

今は、とにかくあの人に勝てるデッキ作りです。

第１９話乙女達の戦い（後書き）

何気にレイ初登場、ボーイッシュキャラが大好きな俺はもちろん誠も実はレイが大好きなんですが諸事情で今回誠は出てこなかったという設定です。そのエピソードはいずれ公開予定です。

しかしエレナの台詞を書くのはチョット疲れます。エレナのイメージは金髪横ロール髪のお嬢様で地で“オ～～～ッホッホッホッホ”と高笑いするショウワアニメに出てくるお嬢様じみたイメージですので、あまり書いたことないキャラなので少し台詞が変になってたりしているかも……。

それではまた次回でお会いしましょう。冬将軍でした。

番外編～流されて、座談会～（前書き）

タイトルは完全に私が愛するニコニコ動画の某闇のゲーム動画のタイトルをまんまパクリました。

小説も２０話を越したのでここら辺で少し息抜き的なことを書こうと思い書いてみました。

正直本編とは全然関係ありません、楽屋裏ネタのオンパレードですのでそういったのが嫌いな人はアニメ版生徒会役員共のサイトに飛ぶのをお勧めします（下手すぎる宣伝）

最後にデュエルは若干有ります、おまけていどですが。

番外編～流されて、座談会～

「流されて、デュエルアカデミア特別編、、流されて、座談会！！！」

「うぉ、、何だ、突如俺の部屋に若本ボイスを物まねしているが全然似てない雪だるまがやってきた」

「はじめまして、この小説の作者の冬将軍と言います」

「作者が自分の作品に出てきちゃったし、、、っつーとアレか、生前読んでいた小説でよく見かけた主人公と作者の語り合いみたいなシーンなのかコレは？」

「まぁ、、そういうところだ、話がわかってくれるやつで助かる」

「伊達にあの世は見てねーぜ」

「今の子供にわからないネタはやめなさい」

「っで、、作者よ、何でこんな所にきたんだ、“光輪の町～ラベンダーの少女～”が発売したのに先月発売した“置き場がない！”が全然終わってね～～～っと忙しいはずだが」

「ナイス宣伝！！まぁ確かにその2作品のせいで確実に小説の更新が遅れているが、、、そうも言ってられないと思ってな」

「お、ついにこの小説にも明確な敵役が登場するのか？」

「来るべきXデーに向けて色々と考えていてな」

「Xデー？」

「かねてからの夢であった野良猫さんとのコラボ企画の件で色々とお前と話しておこうと思ってな」

「いいのかよ、本人を目の前にそんな話しちゃって」

「大丈夫だ、、、例によってここで語られることは本編では一切関係しない、時系列から外れた世界だ、問題ない」

「なんて何でも有りな諸事情なんだ」

「話を戻すが、、コラボ企画するに当たってお前への罰ゲームをどうするか悩んでいるんだよ、、お前結構精神が図太いからたいていの罰を罰と感じないから困る」

「何を言っている、俺だってれっきとした人間だ、時に心に傷を負う事もある」

「まぁ、、過去にあった例の話しをすれば、お前が好意を持っている女性、もしくはお前に好意を持っている女性にお前の生前の恥ずかしい過去を暴かれるっていうのがあったが、例で上げれば野良猫さんの八雲の場合は生前集めていたエロ本をヒロインに没収されるというのがあったが、、、、、お前生前エロ本とか持ってた？」

「エロゲーなら沢山あったがエロ本なんて一つもないね」

「仮にヒロインがお前のエロゲーを持ってたらどうする」

「全力でそのゲームを進めるね」

「こういう性格だから罰ゲームを何にするのか困るんだよ」

「つーか冬将軍よ、、それ以前に俺に好意を寄せているヒロインなんて存在するのか？」

「何を言っている、、いるじゃないか」

「え、、、誰？」

「それはこいつだ～～～～」

「キュ～～～」

「巨大ネズミ三女じゃねーか！！！」

「何を言う、三女はお前にぞっこんじゃないか、ほら、現に今だって」

「キュ～～キュ～～」

「お前の背中に頬ずりしてメッチャ好きやねんアピールしているぞ」

「コレはただ単になついているだけだろう」

「さて、巨大ネズミ三女には帰ってもらって、次なんだが、とりあえずコラボするにあたってお前の要望を聞いておこうと思う」

「いきなり、、う～～ん、そうだな～～、、俺からの要望は特にないな」

「まったく無欲だなお前は、少しぐらいわがままを言ったほうがいいぞ、幸せを取り逃すぞ」

「お前は白凰学園の生徒会長様かよ」

「って、ないのか？」

「そうだな、、“究極奥義”“必ずどちらかが死ぬ”“俺ごと撃て”“コレは真間の分”“ライジングエアー”っという台詞があればいい」

「って、別作品の生徒会！？」

「逆に冬将軍はどうして欲しいとかないのか？」

「とりあえず誠の台詞に“から揚げとザンギの差って何？”と“世界を超えて、俺参上！！！”と“そうだ、このピンチだ、この興奮だ、、全身に流れる電流が俺を昇天させる！！！”という台詞が欲しいな」

「最後のはいいとして最初のいらなくね？つーかどういう状況だよ

最初の台詞、そもそもザンギなんて言葉北海道人にしか通用しないから」

「まぁ、、その話はおいておいて」

「置くんかい！！」

「こういう感じでコラボできればな～～っというネタを考えた」

「ネタっていうな、せめて企画書とか言えよ」

「とりあえず誠と真間で書いてみた」

「あ～～遅刻遅刻」

今学校に走っている俺はどこにでもいるデュエリスト

ただちょっと違うところは結構な実力があるのにオシリスレッドに自分から所属している変わり者なところかな

あ、ちなみに名前は空栗　真間

ふと横を見ると一人のデュエリストがベンチに腰をかけていた

「ウホ、、いいデュエリスト」

そのデュエリストは背中からデュエルディスクを取り出す

「決闘(や)らないか」

強いデュエリストに目のない俺はホイホイ付いていくのであった

「いいのかい、俺は遅刻寸前だろうがなんだろうが楽しくデュエルしちまうぜ」

「っというのはどうだろうか？」

「今死ね、すぐ死ね、骨まで砕けろ、ジェノサイド・ブレイバ～～～」

「ギャ～～～～～～～～」

「誤れ、今すぐ額がかち割れんばかりのスピードで地面に頭たたきつけた土下座で野良猫さんに謝れ！！！！」

「額が割れる前に命が消えそうです」

「まったく、お前のその失礼な発言のせいで貴重な意見をくれる人とのつながりがなくなるかもしれないんだぞ」

「まぁ、、それを恐れ誠と真間の名を使ったんだがな」

「って、他になんか使って欲しいネタはないのか？」

「そうだな～～～」

イレギュラーの力を授かり膨張する毒島

「俺はこの力で、新世界の神となる」

決して出会うことのない2人の主人公の遭遇

「なぁ、八雲、三沢、、、北海道人にしか通じない話かもしれないんだが聞いてくれ、ザンギとから揚げの違いってわかるか？」

「それは」

「そんな話は今関係ない」

「……orz」

雑談しあうヒロイン

「閃光玉投げますね」

「わかりました、、私は尻尾を切りに掛かります」

「私はハンマーでひたすら頭をたたくわ」

「ところで捕獲します?討伐します?」

「当然、、天鱗が欲しいから捕獲の方向で、、、、、、ってギャ〜〜〜、バッテリーが上がってしまった〜〜」

「何をやってるんですか冥衣さん、1人で3オチするより最悪です」

そして始まる最終決戦

「お前達主人公のお話をこの場で終わらせてくれる、、今度から俺が主人公の小説が始まるんだ〜〜〜〜」

「違うな、、俺達の話に終わりはない」

「俺達が生きた道が、戦いの記録が新たな物語となる」

「「俺達の戦いのロードに終わりはない!!!!」」

「小野寺～～、長嶺～～～～、お前達はいったい何なんだ～～～～」

「「通りすがりのデュエリストだ、、覚えておけ！！！！」」

「ハハハハハハハハ、、イレギュラー様にいただいたこのカードで貴様達に引導を渡してくれる」

「まだまだ終わりじゃねー、、たとえ効果を封じられてもメガロック・ドラゴンが俺のフィールドにいる、こいつがいる限り俺は、、俺達は負けない」

「あぁ、、俺のターン、、ミラクルフージョン発動、、墓地のフェザーマン、バーストレディ、バブルマン、クレイマンを融合、、エリクシーラーを特殊召喚、、そして魔法発動、、超絶融合」

超絶融合
通常魔法
タッグデュエルでのみ使用可能、自分フィールド上のレベル7以上のモンスターとパートナーのフィールド上のレベル7以上のモンスターを融合する。

「俺のエリクシーラーと誠のメガロック・ドラゴンを融合！！」

「何、、融合だと」

「「俺達のモンスターを融合、、現れろ、エレメンタルヒーロー・ガイアドラグーンを特殊召喚!!!」」

「何だと〜〜〜〜」

「「ガイアドラグーンで攻撃、、、ファイナルメテオドライバ〜〜〜〜!!!!!」」

「コレは一応ガチで使って欲しいネタなんだが」

「ザンギと女性陣のモンハンのくだりいらなくね?」

「ゴメン、正直ヒロイン枠で話が作れなかった」

「まぁ、、俺達は女っけない人生だからな」

「何を言う、、お前の周りに沢山の女性（デュエルモンスターズの精霊）がいるじゃないか、、、、あ!!」

毒島を倒し熱い握手を交わす八雲と誠

「ところで、、誠には精霊とかいないのか？」

「いや、、その、、アレだ」

（やぁ、、私の事呼んだ）

「え！！」

（いやぁ、、中々スリリングだったね、今のデュエル）

（私の出番がなかった、、、、私って不幸）

（キュ～～キュ～～）

（八雲様も最高でしたと申してます）

（すごく、、、楽しかったです）

「……」

「あのう、、無言で悲しい目になって距離を置かないで」

「お願いですやめてください」

「スゲー、、血涙流す人始めてみた」

「十代にいつ知られるんだいつ知られるんだと毎日がハラハラ何だぞ、マジで勘弁してくれ」

「だが向こうがホシクリボーの精霊を紹介してきたらどうする、お前も精霊を紹介しないといけないだろう」

「その時は俺は自分の目を潰してホシクリボーが見えるけど見えなくする」

「どんだけ本気なんだお前」

「とりあえず精霊の件は保留してくれ」

「そうだな、、まぁとりあえずコラボで使って欲しいネタはこんな感じかな、野良猫さん、とりあえずあくまで使って欲しいネタですので無視してもらっても結構です、採用されなければ俺の方でコラボ小説っぽいのを作ろうと考えてますので」

「そうだ、、作者に一つ聞きたい事があったんだ」

「なんだ」

「生前読んでいた小説だとみんな第1話の試験デュエルでクロノス先生と戦っているのに何で俺はグラサンの先生とだったんだ」

「理由は簡単だ、お前の岩石デッキじゃあアンティークギア・ゴーレムをワンターンで出されればあっという間に死んでしまうからだ」

「まぁＬＰ４０００の世界じゃああっという間に負けてしまうしな、でもそこはチートドローで俺にワンターンキルさせてくれてもいいじゃないか」

「ワンターンキルか」

「俺のターンから行かせてもらいますよクロノス先生、俺はモンスターを１体裏守備でセット、リバースカードを４枚伏せてターンエンドです」

誠
ＬＰ４０００
手札１枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×４

クロノス
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターンにょ、、トロイ・ホースを攻撃表示で召喚、さらに手札の二十召喚を発動、とろいホースを生け贄にささげアンティークギア・ゴーレムを召喚するーの」

「なるほど、、トロイ・ホースは地属性モンスター召喚時の生け贄にしたなら1体で2体分の生け贄になるダブルコストモンスター」

クロノス「バトル、、アンティークギア・ゴーレムで裏守備に攻撃、アルティメットパウンド」

「俺のモンスターはメタモルポットだぜ」

アンティークギア・ゴーレム　攻撃力３０００＞メタモルポット守備力６００

誠
ＬＰ４０００－２４００＝１６００

「ッグ、ダメージを負ったがメタモルポットの効果発動、、互いのプレイヤーは手札を全て捨て新たにデッキから5枚ドローする」

「ありがたい～～の、アンティークギア・ゴーレム召喚のために消費した手札が戻った～～ね、リバースカードを2枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ１６００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×４

クロノス
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　アンティークギア・ゴーレム
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、リバースカードオープン、手札抹殺、互いのプレイヤーは手札を全て捨てた枚数分デッキからカードをドローする、そして速攻魔法手札断殺を2枚発動、俺は手札を2枚捨てデッキから2枚ドローする行動を2回行う、そして最後のリバース発動、大嵐」

「私のミラーフォースとドレインシールドが～～」

「行くぜ、、俺は墓地に眠る１０体の岩石族モンスターをゲームから除外しメガロック・ドラゴンを特殊召喚、このモンスターは特殊召喚時に除外した岩石族モンスター1体に７００ポイントをかけた数値になる、よって攻撃力は７０００、、、、バトル、メガロック・ドラゴンでアンティークギア・ゴーレムを攻撃、アースカノンインフェルノ！！！」

「パルメザ～～～ン」

メガロック・ドラゴン　攻撃力７０００＞アンティークギア・ゴーレム　攻撃力３０００

クロノス
ＬＰ４０００－４０００＝０

「いや、無理がないか」

「あぁ、、書いておいてなんだが、さすがにチートドローにも限度があると思うぞ」

「そもそも俺のデッキに手札抹殺と手札断殺入ってないし」

「元々俺のデッキをまんまコピーしただけだしな」

「さて、それじゃあそろそろ時間だし俺は帰るわ」

「なぁ冬将軍、最後に一つだけ聞かせてくれるか」

「なんだ」

「言ってしまえばこの世界はお前が作ったものなんだよな？」

「あぁ」

「つまり、、俺の精霊ハーレム状況もお前が作ったことで間違いないな」

「そうなるな」

「そうか、それを聞きたかった、、そして、この時を待っていた！！！！！！」

「な、チョ、、待てって、どこからそんな黄金色のハンマーを取り出してきた」

「俺の精霊ハーレムに巻き込んだ神に復讐する機会がこんな形で舞い降りてくるとは」

「まて、落ち着け誠、、、復讐じゃあ誰も救えない」

「誰も救えないかもしれないが、、復讐は復讐しかない者を一時的とは言え救う事が出来る」

「ごもっとも、つーかここで俺を殺したら小説が進まなくなってしまうぞ」

「お前さっき言ったろ、“ここで語られることは本編では一切関係しない、時系列から外れた世界だ、問題ない”って、つまりここでお前をボッコボコにしても小説には何の影響もない」

「し、しまった」

「うおぉぉぉぉおおおお、冬将軍よ、光になれぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ」

「ゾンダ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜」

ＦＩＮ

番外編～流されて、座談会～（後書き）

完全にお笑いメインでお送りさせていただきました。

野良猫さん、途中であったネタは本当に使わなくて結構ですので。

それではまた次回にお会いしましょう。次回はオリキャラＶＳ十代です。

第２０話カメンライド、ＹＵ☆Ｕ☆ＧＩ（前書き）

前回のあとがきに十代ＶＳオリキャラと書いてたんですが普通に神楽坂のところを忘れてました。

っと言うわけで十代ＶＳ真間は次回です、今回は神楽坂のところです。

第２０話カメンライド、ＹＵ☆Ｕ☆ＧＩ

季節は流れ、冬のある日

「アレ？このポスターって」

購買部でブースターパックを買っていると1枚のポスターが目に留まる

「伝説の武藤　遊戯のデッキ展示会」

ということはつまり神楽坂が出てくるところか

生きたエレメンタルヒーロー・プリズマー事神楽坂

コレはチャンスだ

つまり伝説の武藤　遊戯と偽物ではあるがデュエルができるということか

「展示会の整理券は明日発売か」

翌日

「「うおぉぉぉぉぉぉおおおおおお」」

放課後、デュエルアカデミアの廊下に大量の足音と雄たけびがこだまする

それらの行き先は唯一つ

伝説のデュエリスト武藤　遊戯のデッキ展示会の整理券の販売場所だ

まぁ、俺の手にはすでに1番の整理券が握られているわけなんだが

整理券を手にしたら俺は真っ先に売り場から離れたのであの人波はどうにか回避できたのだが

すごい混雑状態だ

事情を知らないで見てみるとラグビーでもしてるのではないかと思うくらいの人の密集具合だ

「お！！小野寺じゃないか」

整理券売り場の惨状を観察していると三沢が声を掛けてきた

その手には2番とかかれた整理券が握られている

「お！！三沢じゃないか、お前も整理券をもらいに来たのか」

「あぁ、、誰よりも早くつく為の理論を立てて走ったのだが2番に

終わってしまった、誰が1番を」

「あぁ、、1番は俺だ」

ヒラヒラと1番とかかれた整理券を三沢に見せる

「お前がか、、いったいどうやって」

「前の授業ボイコットしてず～～～っと整理券売り場の前で待ってた」

「教員には見つからなかったのか？」

「ッフ、三沢よ、、俺には無駄にレベルが高いが無駄としか思えない無駄スキルを52所持している、そしてそのうちの1つ、何の違和感もなくその場所に溶け込むスキルを発動させたのだ」

げんに待ってる途中先生と5回ほどすれ違ったがこのスキルでどうにか乗り越えたぜ

「そんな能力を持っているとは、君は本当にすごいな」

いえいえ、後に“三沢君いたんだと”言われる三沢大先生に比べたら足元にも及ばないっすよ

その後翔と神楽坂が残った整理券をかけてデュエルが行われた

結果は原作どおり翔が勝ち整理券が翔の物となった

その後励まそうとした三沢に罵声を浴びせた時は“その罪、万死に値する!!!”っと心の中で叫んでしまった

そしてその日の晩

「なぁ、、これから展示会場に行かないか？」

十代の部屋で駄弁っていると突如十代が切り出す

「展示会は明日からだぞ」

「でもさ、、もうデッキは会場に入っているよな、もしかしたら誰よりも早く見れるかもしれないぜ」

「そうだな、、俺も見に行くのに賛成だ」

「まったく、しょうがないやつらだ」

「とか言って真間、お前もちゃっかり外に出る準備万端じゃないか」

「正直、、、十代が言い出さなかったら俺から言い出そうかと思っていたところだ」

会場に向かう途中真っ暗な廊下を歩いていると見慣れた顔と遭遇した

「あ！！」

「あ！！」

「あ！！」

真っ暗な廊下の真ん中でスバルとティアさんに出会った

「アレ！！確か交流試合で誠と戦った」

「ティアナ・ランスターよ」

「スバル・ナカジマです」

そういやぁこの2人と原作キャラは初対面だったな

「俺は遊城　十代、よろしくな」

「綺麗な人たちっす、、僕は丸藤　翔です」

「前田　隼人なんだなぁ」

「三沢　大地だ」

「アレ？三沢君いたの？」

「いたよ、さっきから」

途中で合流したのをすっかり忘れていた

さすがだぜ三沢、俺の無駄スキル何の違和感もなくその場所に溶け込むスキルをもう体得しているとは

「マンマミ～～～ヤ～～～～」

雑談をしていると深夜の学校になんとも間抜けな叫びが響く

「展示会場の方からだぜ」

展示会場に向かってみると案の定クロノス先生がいた

そして破壊されたガラスケース

犯人はヤス、でなく神楽坂だ

軽く事情をクロノス先生から確認し捜査に向かう俺達

「セニョール達が頼りなのぉ～ね」

「あぁ、、、行くぜみんな」

展示会場から出た俺達はバラバラにわかれ島中を創作する事となった

さて、十代には悪いが神楽坂とデュエルするのは俺だ

原作知識がある俺には犯人がどこにいるのか目星は付いている、崖っぷちで翔とデュエルをしてるに違いない

「待ってろよ、、遊戯デッキ～～～～～」

走ること数分

森を抜け崖っぷちに付くが人影がまったくない

神楽坂どころか船越　英一もいない

「おかしい、、、、何故だ」

そして俺はここで大事なことに気が付いた

「しまった、崖なんてこの島に腐るほどあるじゃないか！！！」

ここが島である以上３６０度どこに走っても崖にぶつかる

つまり崖っぷちなんてどこにでもあるという事じゃないか

どうするこの島の崖という崖全部見て回るか？

ダメだ、そんな悠長な真似したら十代に先を越される

どうすれば

「ウワ～～～～～～」

「！！！！！」

翔の叫び声、しかも近いぞ

コレはチャンスだ！！！！！

さらに走ること数分

森を抜けると目の前にガックシとした翔と完全に天狗になった神楽坂の姿があった

「ハハハハハハ、俺は最強の力を手にしたぞ」

ついに見つけたぞ神楽坂

お前が何者かなどどうでもいい

武藤　遊戯のデッキを使い武藤　遊戯の戦い方をする

それだけで十分だ、お前は俺と戦う義務がある（ヘルカイザーの声で）

「神楽坂！！！」

「貴様は、、オシリスレッドの小野寺　誠か」

「お前か、武藤　遊戯のデッキを盗んだのは、バカな真似はよしてデッキを戻すんだ、今ならクロノス先生も大事にはしないと言っている」

「断る」

そうでなくては

ここで懺悔してデッキを返すなんて言い出したら逆に俺が断るところだぜ

「だったら、俺とデュエルしろ、俺が勝ったらデッキを元に戻すんだ」

「いいだろう」

さぁ、、、初代デュエリストキング武藤　遊戯のデッキとデュエルだ

「チョット待って！！」

「ウェッ（ＯＷＯ）！！！」

これからデュエルをはじめようとしたら後ろからティアさんが止めに入る

「このデュエル、、私にやらせて」

何だと、コレはまずい

「いいや、ここは俺が、俺があいつの目を覚まさせる」

遊戯のデッキと戦うのはこの俺だ

「お願い、、私が、私でなきゃ彼を救えない気がするから」

真剣な目で訴えてくるティアさん

しょうがない、こんな真剣な目で頼まれたら断れないな

「しょうがない、、頼みますよ」

「ありがとう」

「ティアさ〜〜ん」

後ろの方から翔がデュエルディスクをティアさんに投げ渡す

「さぁ、、デュエルよ」

「かかってこい」

「「デュエル！！！」」

ティア
ＬＰ４０００

神楽坂
ＬＰ４０００

「俺のターン、、マグネット・ウォリアー・アルファを守備表示で召喚」

神楽坂の場にカラフルな石像が盾を構えた状態で呼び出される

マグネット・ウォリアー・アルファ
レベル４地属性
岩石族
攻撃力１４００守備力１７００
効果なし

「リバースカードを１枚伏せてターンエンドだ」

ティア
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

神楽坂
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　マグネット・ウォリアー・アルファ
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、ツイン・ガンファイターを召喚、、そしてマグネット・ウォリアー・アルファに攻撃」

「攻撃力１６００のモンスターで攻撃だと」

ティアさんの場に召喚された2丁拳銃のモンスターが銃弾をマグネット・ウォリアー・アルファに放つ

だが弾丸ははじかれ衝撃波のような物がティアさんを襲う

「ック」

ツイン・ガンファイター　攻撃力１６００＜マグネット・ウォリア

ー・アルファ　守備力１７００

ティア
ＬＰ４０００－１００＝３９００

「そんな攻撃じゃあ俺のモンスターには通用しないぜ」

「でも、、あなたにダメージは与えられたわ」

「な、なんだと」

神楽坂
ＬＰ４０００－１６００＝２４００

「ツイン・ガンファイターの効果、このカードが攻撃に成功したとき相手ライフにこのカードの攻撃力分のダメージを与える」

ツイン・ガンファイター（マンガＲオリジナル）
レベル４地属性
戦士族
攻撃力１６００守備力１０００
効果
このカードが攻撃に成功した時相手プレイヤーにこのカードの攻撃

力と同じ数値分のダメージを与える。

あぁ、どこかで聞いたこと有るカード名かと思ったらRで黒いデュエルディスクをつけてた人のカードか

いや、つーかなにそのチート能力、絶対カード化無理だって、通常攻撃に加えてダイレクトアタックって

「私はコレでターンエンドよ」

ティア
LP3900
手札5枚
モンスター　ツイン・ガンファイター
魔法トラップ　なし

神楽坂
LP2400
手札4枚
モンスター　マグネット・ウォリアー・アルファ
魔法トラップ　リバース×1

「俺のターン、、ドロー」

「あぁ～～～、誰かがデュエルしている」

神楽坂のターンになったと同時に十代達もやってきたようだ

「アレ？何でティアが戦ってるの？」

「武藤　遊戯のデッキを盗んだ犯人はラーイエローの神楽坂だったんだ、そして今ティアさんが説得をするためにデュエルをしている」

「神楽坂、、馬鹿な真似はやめるんだ」

「黙れ三沢、、１度始まったデュエルを誰も止める事はできない、俺はモンスターを生け贄にささげダークレッド・エンチャンターを召喚」

神楽坂のアルファが光に包まれ底から赤と黒の魔術師が飛び出す

ダークレッド・エンチャンター
レベル６闇属性
魔法使い族
攻撃力１７００守備力２２００
効果
このカードが召喚に成功した時、このカードに魔力カウンターを２つ置く。このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分または相手が魔法カードを発動する度に、このカードに魔力カウンターを１つ置く。このカードに乗っている魔力カウンター１つにつき、このカードの攻撃力は３００ポイントアップする。１ターンに１度、このカードに乗っている魔力カウンターを２つ取り除く事で、相手の手札をランダムに１枚捨てる。

「レッドダーク・エンチャンター自身の効果により魔力カウンターを２つこのカードにのせる、そしてこのカードはこのカードにのっている魔力カウンター１つにつき攻撃力が３００ポイントアップする」

レッドダーク・エンチャンター
魔力カウンター０→２
攻撃力１７００→２３００

「バトルだ、、レッドダーク・エンチャンターでツイン・ガンファイターに攻撃、ダークレッド・ショックウェイブ」

魔術師の杖から赤と黒の螺旋が走りツイン・ガンファイターを貫き破壊する

レッドダーク・エンチャンター　攻撃力２３００＞ツイン・ガンファイター　攻撃力１６００

ティア
ＬＰ３９００－７００＝３２００

「ターンエンドだ」

ティア
ＬＰ３２００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

神楽坂
ＬＰ２４００
手札４枚
モンスター　レッドダーク・エンチャンター
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、スナイプストーカーを召喚」

玩具の拳銃を持ったバイキンマンのようなモンスターがティアさんの場に現れる

スナイプストーカー
レベル４闇属性
悪魔族
攻撃力１５００守備力６００
効果
手札を１枚捨て、フィールド上に存在するカード１枚を選択して発動する。サイコロを１回振り、１・６以外が出た場合、選択したカ

ードを破壊する。

「スナイプストーカーの効果発動、手札を1枚捨て相手モンスターを指定しサイコロを振って1か6以外の目が出たらそのモンスターを破壊する」

2人の間に立体映像のサイコロが舞う

その結果は3

「スナイプストーカーの効果でレッドダーク・エンチャンターを破壊する、シャープシューティング」

スナイプストーカーの銃から光線が放たれレッドダーク・エンチャンターを貫き破壊する

「バトル、、スナイプストーカーでダイレクトアタック」

「トラップ発動、、六芒星の呪縛」

スナイプストーカーの体に魔方陣が突き刺さる

六芒星の呪縛
永続トラップ
相手フィールド上に存在するモンスター1体を選択して発動する。選択した相手モンスターは攻撃する事はできず、表示形式を変更する事もできない。選択した相手モンスターが破壊された時、このカ

ードを破壊する。

「バトルを中断しリバースカードを1枚伏せてターンエンド」

ティア
ＬＰ３２００
手札３枚
モンスター　スナイプストーカー
魔法トラップ　リバース×１

神楽坂
ＬＰ２４００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　六芒星の呪縛

「俺のターン、、マグネット・ウォリアー・ベータを召喚」

U字磁石を体につけた丸っこいロボットのようなモンスターが神楽坂の場に召喚される

マグネット・ウォリアー・ベータ

レベル４地属性
岩石族
攻撃力１７００守備力１６００
効果なし

「バトルだ、マグネット・ウォリアー・ベータでスナイプストーカーを攻撃」

マグネット・ウォリアー・ベータがスナイプストーカーを殴り倒す

マグネット・ウォリアー・ベータ　攻撃力１７００＞スナイプストーカー　攻撃力１５００

ティア
ＬＰ３２００－２００＝３０００

「リバースを１枚伏せてターンエンド」

ティア
ＬＰ３０００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

神楽坂

ＬＰ２４００
手札３枚
モンスター　マグネット・ウォリアー・ベータ
魔法トラップ　リバース１枚

「私のターン、壺の中の魔術書を発動」

壺の中の魔術書（マンガ版ＧＸオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする。

コレで互いの手札は6枚、実質原作の天よりの宝札を使ったのと同じになったわけだ

つーかこのカードも絶対カード化されないよな、されたとしても天よりの宝札以上テキストが書きかえられてるだろうな

「私はツイン・バレルドラゴンを召喚」

ツインバレル・ドラゴン
闇属性レベル４
機械族
攻撃力１７００守備力２００
効果

このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して発動する。コイントスを2回行い、2回とも表だった場合、選択したカードを破壊する。

「ツインバレル・ドラゴンの効果発動、召喚成功時相手フィールド上のカードを1枚指定しコイントスを2回行い2回とも表であれば指定したモンスターを破壊することができる、私はマグネット・ウォリアー・ベータを選択」

2人の間に立体映像のコインが2枚舞う

その結果は表、表

恐ろしい的中率だ、主人公キャラの幸運スキルの恩恵だろうか？

「マグネット・ウォリアー・ベータを破壊」

ツインバレル・ドラゴンから銃弾が発射されマグネット・ウォリアーを破壊する

「この瞬間トラップ発動、、魂の綱」

リバースカードが表になり絵柄から光の綱が伸びデッキに神楽坂の突き刺さる

魂の綱

通常トラップ

自分フィールド上のモンスターが破壊され墓地へ送られた時に発動する事ができる。１０００ライフポイントを払う事で、自分のデッキからレベル４モンスター１体を特殊召喚する事ができる。

「このカードは自分フィールド上のモンスターが破壊された時、ライフ１０００支払うことでデッキからモンスターを１体特殊召喚できるカード、俺はビッグ・シールド・ガードナーを特殊召喚する」

神楽坂
ＬＰ２４００－１０００＝１４００

光の綱が巻き戻っていきリバースカードがビッグ・シールド・ガードナーの柄に変る

そして神楽坂のフィールドに巨大な盾を持った戦士が現れた

ビッグ・シールド・ガードナー
レベル４地属性
戦士族
攻撃力１００守備力２６００
効果
裏側表示のこのモンスター１体を対象とする魔法カードの発動を無効にする。その時、このカードは表側守備表示になる。攻撃を受けた場合、ダメージステップ終了時に攻撃表示になる。

「このまま攻撃しても意味がないわね、私はリバースを1枚伏せてターンエンド」

ティア
ＬＰ３０００
手札４枚
モンスター　ツインバレル・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×２

神楽坂
ＬＰ１４００
手札６枚
モンスター　ビッグ・シールド・ガードナー
魔法トラップ　リバース１枚

「俺のターン、、手札を1枚捨ててトリッキーを特殊召喚」

ＴＨＥトリッキー
風属性レベル５
魔法使い族
攻撃力２０００守備力１２００

効果
手札を1枚捨てる事で、このカードを手札から特殊召喚する。

アチャ～～、やっぱ壷の中の魔術書は危険な賭けだったみたいだ
相手の手札も増えちゃったし

「さらに翻弄するエルフの剣士を召喚」

翻弄するエルフの剣士
レベル４地属性
戦士族
攻撃力１４００守備力１２００
効果
このカードは攻撃力１９００以上のモンスターとの戦闘では破壊されない。ダメージ計算は適用する。

神楽坂のフィールドがモンスターで埋め尽くされる

「バトルだ、、トリッキーでツインバレル・ドラゴンに攻撃」

トリッキーの腕から魔力の球のような物が放たれツインバレル・ドラゴンに向かって飛んでゆく

「リバースカードオープン、聖なるバリア～ミラーフォース～」

聖なるバリア～ミラーフォース～
通常トラップ
相手がモンスターで攻撃した時、相手の攻撃表示モンスターをすべて破壊する。

ツインバレル・ドラゴンの目の前にバリアが発生し魔力の球を跳ね返しトリッキーと翻弄するエルフの剣士を破壊する

「コレでターンエンドだ」

ティア
ＬＰ３０００
手札４枚
モンスター　ツインバレル・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×１

神楽坂
ＬＰ１４００
手札４枚
モンスター　ビッグ・シールド・ガードナー
魔法トラップ　リバース１枚

「私のターン」

（ビッグ・シールド・ガードナー、、レベル４にして守備力２６００の恐ろしいカード、、でも1度攻撃すれば攻撃表示になり相手にダメージを与えられる）

「私はピアース・マスケッティアを召喚」

ピアース・マスケッティア（マンガ版Ｒオリジナル）
レベル４地属性
戦士族
攻撃力１７００守備力１０００
効果
このカードが守備表示モンスターを攻撃した時にその守備力を攻撃力が越えていれば、その数値だけ相手に戦闘ダメージを与える。

「リバースカードオープン、黒魔族復活の棺」

黒魔族復活の棺（マンガ・アニメオリジナル）
通常トラップ
相手がモンスターを召喚、特殊召喚した時に発動できる。

「俺のビッグ・シールド・ガードナーと相手フィールド上に召喚されたモンスター1体を生け贄に墓地に眠る魔法使い族モンスターを特殊召喚する、、俺はブラック・マジシャンを特殊召喚」

神楽坂の場に棺が現れそこに2体のモンスターが吸い込まれふたがされる

そしてふたが開いたらそこには一人の魔術師が腕をクロスさせていた

ブラック・マジシャン
レベル7闇属性
魔法使い族
攻撃力2500守備力2100
効果なし

うおぉぉおおおおおお本物のブラック・マジシャンだ～～

やっぱマハードはかっこいいぜ

「ブラック・マジシャン、、でもいつ墓地に」

「おそらく、トリッキーの特殊召喚時に墓地に送ったんだろう」

「スゴイ、なんて無駄のない戦略なの」

「ブラックマジシャンと戦えるなんて、うらやましいぜ」

「私は、、ツインバレル・ドラゴンを守備表示に変更しターンエンドよ」

ティア
ＬＰ３０００
手札４枚
モンスター　ツインバレル・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×１

神楽坂
ＬＰ１４００
手札４枚
モンスター　ブラックマジシャン
魔法トラップ　リバース１枚

「俺のターン、手札から魔法発動、千本ナイフ」

相手の場に大量のナイフが現れそれらがツインバレル・ドラゴンに雨のように降り注ぐ

千本ナイフ
通常魔法
自分フィールド上にブラック・マジシャンが表側表示で存在する場

合のみ発動する事ができる。相手フィールド上に存在するモンスター1体を破壊する。

「壁モンスターが」

「行くぞ、、ブラックマジシャンでダイレクトアタック、ブラックマジック！！」

マハード、もといブラック・マジシャンの杖から黒い雷が放たれる

それらはティアさんに襲い掛かる

「キャ～～～～」

ブラック・マジシャン　攻撃力２５００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

ティア
ＬＰ３０００－２５００＝５００

まずい、ティアさんのライフが風前の灯に

「コレでターンエンドだ」

ティア
ＬＰ５００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

神楽坂
ＬＰ１４００
手札４枚
モンスター　ブラックマジシャン
魔法トラップ　リバース１枚

「私のターン、、きた！！手札からマジック発動、、愚かな埋葬」

愚かな埋葬
通常魔法
自分のデッキからモンスター１体を選択して墓地へ送る。

「この効果にデッキからリボルバー・ドラゴンを墓地に送る、さらにリバース発動、、リビングデットの呼び声」

リビングデットの呼び声
永続トラップ
自分の墓地からモンスター１体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「私は墓地に眠るリボルバー・ドラゴンを特殊召喚」

地面に亀裂が走りそこから拳銃を３つ備えた機械竜が飛び上がる

リボルバー・ドラゴン
レベル７闇属性
機械族
攻撃力２６００守備力２２００
効果
相手フィールド上に存在するモンスター１体を選択して発動する。コイントスを３回行い、その内２回以上が表だった場合、そのモンスターを破壊する。この効果は１ターンに１度しか使用できない。

「リボルバー・ドラゴンの効果発動、、対象はブラック・マジシャン」

２人の間に再びコインが現れ宙を舞う

結果は表、裏、表

すごい的中率じゃないか、もはやチート修正っすよ

「効果成功、ブラック・マジシャンを破壊する」

リボルバー・ドラゴンから放たれた銃弾がブラック・マジシャンを貫き破壊する

「コレで終わらせる、リボルバー・ドラゴンでダイレクトアタック、、ブラストバレル！！！」

リボルバー・ドラゴンから銃弾が大量に放たれる

このダイレクトアタックが通れば

「手札のクリボーの効果を発動！！」

バリアのようなものが発生し神楽坂に迫っていた銃弾が全てはじかれる

クリボー
レベル１闇属性
悪魔族
攻撃力３００守備力２００
効果
相手ターンの戦闘ダメージ計算時、このカードを手札から捨てて発動する。その戦闘によって発生するコントローラーへの戦闘ダメージは０になる。

そうか、遊戯デッキならあのカードが入ってても不思議じゃない

俺もメガロックで戦う時注意しているカードその１じゃないか

「クリボーを墓地に送ることで戦闘ダメージを１度だけ０にできる」

「あんなカードまであるなんて」

「すまないクリボー、お前にはいつも助けられている、、お前が作ってくれたチャンスを無駄にはしない」

（クリィ～汗～）

おのれ神楽坂～～～、遊戯を侮辱するな！！！

「私はモンスターを１体裏守備でセットしてターンエンドよ」

ティア
ＬＰ５００
手札３枚
モンスター　リボルバー・ドラゴン、裏守備×１
魔法トラップ　リビングデットの呼び声

神楽坂
ＬＰ１４００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース１枚

「俺のターン、、手札から黙する死者を発動する」

黙する死者
通常魔法
自分の墓地に存在する通常モンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを表側守備表示で特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターはフィールド上に表側表示で存在する限り攻撃する事ができない。

「もう1度よみがえれブラック・マジシャン」

再びブラック・マジシャンが神楽坂の場に現れる

「そんな、せっかく前のターンに倒したのに」

「だが黙する死者で復活したモンスターは攻撃を封じられる」

「甘いな三沢、リバースカードオープン、光と闇の洗礼を発動」

光と闇の洗礼
速攻魔法

自分フィールド上のブラック・マジシャンを生け贄に捧げる事で発動する事ができる。自分の手札・墓地・デッキの中から混沌の黒魔術師を1体選択して特殊召喚する。

「俺は自分フィールド上のブラック・マジシャンを生け贄に手札の混沌の黒魔術師を召喚する」

ブラック・マジシャンの体が光と闇の螺旋に包まれる

そしてその渦を突き破りブラック・マジシャンが混沌の黒魔術師にランクアップして登場した

混沌の黒魔術師
レベル8闇属性
魔法使い族
攻撃力2800守備力2600
効果
このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、自分の墓地から魔法カード1枚を選択して手札に加える事ができる。このカードが戦闘によって破壊したモンスターは墓地へは行かずゲームから除外される。このカードがフィールド上から離れた場合、ゲームから除外される。

「混沌の黒魔術師が特殊召喚に成功した事により墓地から黙する死者を回収」

「上級モンスターを呼ぶばかりか墓地の回収まで行うとは、、なん

て周りがいいカードなんだ」

「ところで、、、、混沌の黒魔術師って今禁止カードじゃなかったっけ？」

「確かにそうだ、、だが数年前のデッキなんだから入ってても不思議じゃない」

そう言われると納得だ

「そしてバトルだ、混沌の黒魔術師よ、リボルバー・ドラゴンに攻撃だ、、滅びの呪文」

混沌の黒魔術師から放たれた黒い光球がリボルバードラゴンを破壊で泣く消滅させる

混沌の黒魔術師　攻撃力２８００＞リボルバー・ドラゴン　攻撃力２６００

ティア
ＬＰ５００－２００＝３００

「リボルバー・ドラゴンは破壊ではなく除外される」

「墓地回収不可能って事ね」

「コレでターンエンドだ」

ティア
ＬＰ５００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リビングデットの呼び声

神楽坂
ＬＰ１４００
手札１枚
モンスター　混沌の黒魔術師
魔法トラップ　なし

「私のターン、、ドロー」

「どうしよう、ティアのフェイバリットカード、リボルバー・ドラゴンが除外されちゃった」

「さすがは伝説のデュエリストのデッキ、そしてそれを自由自在に操ることのできる神楽坂もすごい」

「どうだ、、コレが俺の実力なんだ、もう誰にも俺をバカにさせない、俺の実力を認めさせてやるんだ～～」

「、、、、哀れね」

「なんだと」

「哀れだと言ったの、、、確かに今のあなたは強い、でも所詮それ

は誰かの力を振り回しているだけに過ぎない」

「黙れ！！貴様に何がわかる、俺には才能が有る、なのに周りのやつらはそれを認めない、、俺は見返してやるんだ、この力で、、、もう誰も俺の才能を認めざるをえないんだ！！！」

「あなたの気持ちはよくわかる、、、私の知ってる人で、自分の周りの才能に嫉妬し、自分の平凡さがいやになって、ガムシャラに努力した、、周りの制止する声もふりきって、、、でも大事になる前に上司に止められて、反省して、、大泣きして、それでもその人についていって、、強さの意味を教えてもらった、だから、、あなたの気持ちはわかる」

「黙れ黙れ黙れ、俺は平凡ではない、、、、どんなデッキでも使いこなせる、この才能で最強のデュエリストになれるんだ～～」

「私はまだデュエルについて知らないことが沢山有る、、でもこれだけは言える、それはあなたのちゃんとした強さじゃない、本当の強さは心の中に宿るもの」

「うるさい、、さっさとデュエルを進めろ」

「私は裏守備モンスター1体を生け贄に、、ブローバック・ドラゴンを召喚」

裏守備カードが渦に包まれ底から頭部に拳銃を取り付けた機械の竜が現れる

ブローバック・ドラゴン

レベル６闇属性
機械族
攻撃力２３００守備力１２００
効果
コイントスを３回行う。その内２回以上が表だった場合、相手フィールド上に存在するカード１枚を選択して破壊する。この効果は１ターンに１度だけ自分のメインフェイズに使用する事ができる。

「やった、ティアの２枚目のフェイバリットカードだ」

「ブローバック・ドラゴンの効果で混沌の黒魔術師を破壊できる」

「だけど、効果は使わないわ」

「「え！？」」

「どういうつもりだ、対象を破壊する効果を使わないだと」

「さらに手札のデュアルサモン発動」

デュアルサモン
通常魔法
このターン自分は通常召喚を２回まで行う事ができる。

「可変機獣ガンナードラゴンを召喚する」

ティアさんの場にキャタピラと砲台をつけた機械の竜がうねりを上

げながら呼び出される

可変機獣ガンナードラゴン
レベル7闇属性
機械族
攻撃力2800守備力2000
効果
このカードは生け贄なしで通常召喚する事ができる。その場合、このカードの元々の攻撃力・守備力は半分になる。

「え!?レベル7のモンスターを生け贄なしで召喚した」

「ガンナードラゴンは妥協召喚できるモンスターなんだ」

「妥協召喚?」

「レベルが高いモンスターではあるがあるデメリット付きで生け贄を少なくして召喚できるという召喚方法だ、ガンナードラゴンは生け贄なしで召喚できるがその際攻撃力守備力は半分になる」

ナイス解説だぜ三沢

だんだん男塾の雷電みたいになってる気もするが

可変機獣ガンナードラゴン
攻撃力２８００→１４００

「無駄だ無駄だ無駄だ、そんな雑魚モンスターいくら並べても俺の混沌の黒魔術師には届かないぜ」

「さらに私は手札の受け継がれる力を発動」

受け継がれる力
通常魔法
自分フィールド上のモンスター１体を墓地に送る。自分フィールド上のモンスター１体を選択する。選択したモンスター１体の攻撃力は、発動ターンのエンドフェイズまで墓地に送ったモンスターカードの攻撃力分アップする。

「私はガンナードラゴンを墓地に送りその攻撃力分ブローバック・ドラゴンの攻撃力をアップさせる」

「うまい、墓地へ行ったときガンナードラゴンの攻撃力は２８００に戻る、つまり攻撃力は１４００でなく２８００上昇する」

ブローバック・ドラゴン
攻撃力２３００→５１００

「スゲー、スゲーゼティア」

「バトル、、ブローバック・ドラゴンで混沌の黒魔術師に攻撃、、全力全開！トリガ～～ブレイカ～～～～！！！！！！」

ブローバック・ドラゴンから明らかに銃弾でなくレーザー砲のようなものが放たれる

アレ、もしかして魔王様から受け継いだ全力全開な魔力の収束砲ですか？

ブローバック・ドラゴン　攻撃力５１００＞混沌の黒魔術師　攻撃力２８００

神楽坂
ＬＰ１４００－２３００＝－９００

神楽坂のＬＰが０になる

立体映像も消滅しデュエルの終わりを告げる

「クソ、何故勝てないんだ」

「それは、、あなたのデッキじゃないからよ」

「俺の、、デッキじゃないから、、、だと」

「デュエリストとはデッキと一緒に強くなっていく者、でもあなたは自分で作ったデッキを信じられず人のデッキに手を出した、、そんなあなたにデッキは答えてくれない、あなたはある程度はスペックを引き出せたかもしれないけど、、、、、でもその強さは間違っている」

「ック、やはり俺に才能はないのか」

「そうでもないわよ」

「え」

「パチパチパチパチパチ」

闇夜に響き渡る大量の拍手

気が付けば周りには俺達以外にも沢山のデュエリストがいた

「スッゲーデュエルだった」

「最高に熱いデュエルをありがとう」

「伝説のデッキをそこまで使いこなすなんてすごいぞ」

「あなたのその才能で、、、みんなが喜んでいるわ、それも、あなたの才能のすごさってやつよ」

「みんな、、ありがとう」

その場で泣き崩れる神楽坂

そんな神楽坂にティアさんは肩を貸し立ち上がらせ声援に一緒にこたえる

「最高に楽しかったぜ2人とも」

「あぁ、、神楽坂も、最高だぜ」

しかし、ティアさんが言ってた自分の周りの才能に嫉妬していた人物ってやっぱ自分自身の事を言ってるのかな？

っつーとこのティアさんはなのはストライカーズのティアさんなのか？

まさかな、この世界が神様の変な気まぐれでティアナとスバルを生んでしまったんだろう

何はともあれこうして遊戯デッキ強奪事件は幕を閉じたのであった

翌日、ティアの格好をした神楽坂の姿を見た瞬間ゴットフィンガーで頭蓋骨を粉砕してやった。

第２０話カメンライド、ＹＵ☆Ｕ☆ＧＩ（後書き）

ＤＶＤを見て“俺に才能はあるはずなのに～”的なことを言っているのを見てコレはティアとデュエルさせるしかないと思い書いてみました。

あとこの小説は基本現状の禁止・制限を参考にして書いているんですが遊戯王ＷＩＫＩで混沌の黒魔術師の効果を再確認していたらまさか禁止カードになっていたとは、とりあえず三沢君の説明どおり昔のデッキなので入っているという事にしました。

それではまた次回、次回こそ十代ＶＳ真間をのせたいと思います。

第２１話十代ＶＳ真間、その頃三沢は……（前書き）

ふと思ったんですが神楽坂の話はレイが出てくる話の前になるのだからこの小説の順番は間違っている事に気づきました。

前回のあとがきに書いたとおり真間ＶＳ十代のデュエルです。

それではどうぞ。

第２１話十代ＶＳ真間、その頃三沢は……

さて、神楽坂の戦いが終わったのでもうお気づきの人もいると思いますがそろそろノース校との交流デュエルの時期です

モニターで鮫島校長がそのことについて話をしている

まぁ、、どうせ十代が代表に選ばれると思うんだけどな

「もうすぐノース校、ウエスト校、サウス校、イースト校との交流デュエルが行われます、今年も１年生同士でデュエルが行われます、、来週代表選抜戦が行われますので皆さんがんばってください」

ホワイ？ノース校だけでなくて？

東西南北全校参加ですか

やっぱ俺というイレギュラーが存在しているせいであろうか？

それで代表選抜戦当日

十代と三沢と真間はノース校代表ブロック
俺はイースト校代表選抜ブロックであった
ここで語るほどのデュエルがなかったので省略させてもらいます
途中毒島とデュエルして次元の裂け目を3積みしてあるアンチデッキを使ってきたがガーデュアンス・フィンクスで逆にハメ倒してやった

パパっと俺は自分のブロックで優勝
十代ＶＳ三沢を見たく急いで隣のブロックに向かった

「それで～～は、ノース校ブロック決勝戦、、、、遊城　十代ＶＳ空栗　真間なの～～ね」

え！？決勝

「いやはや、、さすがは十代、準決勝で戦ったんだが、最後の最後で負けてしまった」

遅かった～～～～十代と三沢のデュエルは終わってた～～～

ゴメンよ三沢、君の活躍を減らしてしまって

視線変更～真間～

ノース校代表決定戦、俺の相手は隣の部屋の遊城　十代

俺や真間と同じ1年生最強と謳われるデュエリスト

いやでも興奮してしまう

「そういやぁ、、真間とデュエルするのってコレが初めてだな」

「そうだな、、全力で行かせてもらうぜ」

「あぁ、、俺も全力で楽しませてもらうぜ」

「「デュエル！！！」」

十代
ＬＰ４０００

真間
ＬＰ４０００

「俺のターン、、エレメンタルヒーロー・フェザーマンを守備表示で召喚、ターンエンド」

十代
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・フェザーマン
魔法トラップ　なし

真間
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

フェザーマン、レベル３の通常モンスター

リバースカードがない所を見ると様子見でよんだカードか

「俺のターン、、赤腕の機械兵を召喚」

貫通持ちモンスターで先手を取るぜ

赤腕の機械兵　（オリジナル）
レベル４地属性
機械族
攻撃力１５００守備力３００

効果
守備表示モンスターを攻撃した時、このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を越えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「バトルだ、、赤腕の機械兵でフェザーマンを攻撃」

赤く染まった巨大な腕がフェザーマンを押しつぶし破壊する

いつも思うんだが俺のモンスターって変に原始的だよな、機械族という最新技術っぽいモンスターなのに

赤腕の機械兵　攻撃力１５００＞エレメンタルヒーロー・フェザーマン　守備力１０００

十代
ＬＰ４０００－５００＝３５００

「おっと、、へへ、やるな真間」

「先手はいただいたぜ、、、このままターンエンドだ」

十代
ＬＰ３５００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

真間
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　赤腕の機械兵
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、エレメンタルヒーロー・スパークマンを召喚」

スパークマン、エレメンタルヒーローのバニラカードの中で高い攻撃力を誇るカード

「お返しだぜ、、スパークマンで赤腕の機械兵に攻撃、、スパークフラッシュ」

小さな電気の網のような物が俺の赤腕の機械兵を包み込み機械部分をショートさせ爆発させる

エレメンタルヒーロー・スパークマン　攻撃力１６００＞赤腕の機械兵　攻撃力１５００

真間
ＬＰ４０００－１００＝３９００

「ッフ、この程度ではまだまだ俺のハートに火が付かないぜ」

「あせんなって、勝負はこれからだろ、手札を１枚伏せてターンエンドだ」

十代
ＬＰ３５００
手札４枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・スパークマン
魔法トラップ　リバース×１

真間
ＬＰ３９００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、メカ・ハンターを召喚」

俺の場に丸っぽい機械に手足と武器がはえたマシンが現れる

メカ・ハンター
レベル４闇属性
機械族
攻撃力１８５０守備力８００
効果なし

「バトルだ、、メカ・ハンターでスパークマンを攻撃」

ＵＦＯキャッチャーのようにフワフワとスパークマンに近づき上から自らの体の株に取り付けられている刃物で真上から串刺しにするメカ・ハンター

チョ！！何その攻撃、軽くトラウマってしまうわ

メカ・ハンター　攻撃力１８５０＞エレメンタルヒーロー・スパークマン　攻撃力１６００

十代
ＬＰ３５００－２５０＝３２５０

「スパークマンの死を無駄にはしないぜ、リバース発動、、ヒーローシグナル」

ヒーロー・シグナル
通常トラップ
自分フィールド上のモンスターが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時に発動する事ができる。自分の手札またはデッキからエレメンタルヒーローという名のついたレベル４以下のモンスター１体を特殊召喚する。

「俺はデッキからエレメンタルヒーロー・バーストレディを召喚する」

上空ににコウモリっぽいＨが書かれたシグナルが現れそこから赤いタイツの女性が十代の場に降り立つ

エレメンタルヒーロー・バーストレディ
レベル３炎属性
戦士族
攻撃力１２００守備力８００
効果なし

ヒーローシグナル、、つまり次の融合につなぐカードというわけか

「俺はコレでターンエンドだ」

十代
ＬＰ３２５０
手札４枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・バーストレディ
魔法トラップ　なし

真間
ＬＰ３９００
手札５枚
モンスター　メカ・ハンター
魔法トラップ　なし

「俺のターン、手札の魔法発動、、戦士の生還」

戦士の生還
通常魔法
自分の墓地に存在する戦士族モンスター１体を選択して手札に加える。

「この効果で墓地に眠るフェザーマンを回収、、さらに魔法発動、、

融合」

融合
通常魔法
手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

「こい、、マイフェイバリットカード、エレメンタルヒーロー・フレイム・ウィングマン」

十代の場にフェザーマンとバーストレディが現れ炎と旋風が2体を包み込み中からドラゴンの頭を腕に備えつけた戦士が現れる

エレメンタルヒーロー・フレイム・ウィングマン
レベル6風属性
戦士族
攻撃力2100守備力1200
融合　エレメンタルヒーロー・フェザーマン＋エレメンタルヒーロー・バーストレディ
効果
このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

「バトルだ、、フレイム・ウィングマンでメカ・ハンターに攻撃、フレイムシュート！！！！」

自らの体を炎で包みメカ・ハンターに特攻してくるフレイム・ウィングマン

バリ～～～～ンと豪快にメカ・ハンターが破壊された

エレメンタルヒーロー・フレイム・ウィングマン　攻撃力２１００
＞メカ・ハンター　攻撃力１８５０

真間
ＬＰ３９００－２５０＝３６５０

「さらにフレイム・ウィングマンの効果で破壊したモンスターと同じ攻撃力分のダメージを与える」

フレイム・ウィングマンの腕のドラゴンが炎を吐き出し俺の体を焼いていく

立体映像なんだから実際には熱くないのだがついつい熱いとか行ってしまう

真間
ＬＰ３６５０－１８５０＝１８００

「どうだ真間、、俺のヒーローの力、思い知ったか」

「あぁ、、さすがだぜ十代、久しぶりに俺の闘争心に火が灯ってきたぜ！！！」

「俺はコレでターンを終了する」

十代
ＬＰ３２５０
手札３枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・フレイム・ウィングマン
魔法トラップ　なし

真間
ＬＰ１８００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「俺のターン」

「さすがは十代、、フレイム・ウィングマンの登場で一気に形成が逆転した」

「だが、、真間はこの状況をさらにひっくり返すぜ」

「さて、、フレイム・ウィングマンはチョット厄介なカードだ、早々にご退場願おう、魔法発動、ミサイル再生術」

ミサイル再生術　（オリジナル）
通常魔法
自分の墓地の機械族モンスターを任意の枚数除外する事で自分の場にミサイルトークン（地属性レベル１機械族攻撃力５００守備力０このカードは機械族モンスターの効果の生け贄にしかできない）を除外した機械族モンスターの数だけ特殊召喚する。

「墓地に眠る赤腕の機械兵とメカ・ハンターをゲームから除外しミサイルトークンを２体生成」

俺の場にミサイルの弾丸が２つ召喚される

「さらに手札のミサイルスナイパーを召喚」

さて、コレでこまはそろった

ミサイルスナイパー　（オリジナル）

闇属性レベル４
機械族
攻撃力１５００守備力１０００
効果
自分フィールド上のミサイルトークン1体を生け贄にささげることで相手フィールド上のモンスター1体の攻撃力をターン終了時まで５００ポイントダウンさせる。

「ミサイルスナイパーの効果を発動、、自分フィールドのミサイルトークンを生け贄にささげる事で相手フィールドのモンスターの攻撃力を５００下げる、、俺は2体のミサイルトークンを生け贄にささげフレイム・ウィングマンの攻撃力を１０００ポイントダウンさせる」

ミサイルスナイパーのロケットランチャーにミサイルの弾頭が2発セットされる

そしてフレイム・ウィングマンに向かってミサイルが放たれ足元で爆発を起こす

エレメンタルヒーロー・フレイム・ウィングマン
攻撃力２１００→１１００

「そしてバトル、、ミサイルスナイパーでフレイム・ウィングマン

を攻撃」

再び肩にかついだミサイルランチャーでフレイム・ウィングマンを打つミサイルスナイパー

今度はフレイム・ウィングマンに直撃し大爆発を起こしフィールドから消し飛ばす

ミサイルスナイパー　攻撃力１５００＞エレメンタルヒーロー・フレイム・ウィングマン　攻撃力１１００

十代
ＬＰ３２５０－４００＝２８５０

「やるじゃないか、、俺のフレイム・ウィングマンを倒すとは」

「おいおい、、まさかそれでおしまいじゃないよな」

「当然、、俺も、、ヒーロー達もまだまだこれからだ」

「俺はリバースカードを１枚伏せてターンエンドだ」

十代
ＬＰ２８５０

手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

真間
ＬＰ１８００
手札３枚
モンスター　ミサイルスナイパー
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、エレメンタルヒーロー・クレイマンを守備表示で召喚」

エレメンタルヒーロー・クレイマン
レベル４地属性
戦士族
攻撃力８００守備力２０００
効果なし

十代の場に粘土っぽい体のヒーローが召喚される

クレイマン、レベル４にして守備力２０００のモンスター

壁としては十分優秀なカード

「俺はコレでターンエンドだ」

十代
ＬＰ２８５０
手札３枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・クレイマン
魔法トラップ　なし

真間
ＬＰ１８００
手札３枚
モンスター　ミサイルスナイパー
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、手札のメタルウイング・ワイバーンの効果を発動、、手札のブロンズアーム・スマッシャーを生け贄このカードを通常召喚する」

メタルウイング・ワイバーン　（オリジナル）
レベル５風属性
機械族
攻撃力２１００守備力１３００
効果

このカードを生贄召喚する場合フィールドのモンスターでなく手札のモンスターを生贄にする事もできる。

俺のフィールドに機械の翼と体のドラゴンが召喚される

「手札のモンスターを代わりに生け贄にできるモンスターか」

「バトルだ、、メタルウイング・ワイバーンでクレイマンに攻撃！！」

メタルウイング・ワイバーンの翼がクレイマンの体を切り裂く

メタルウイング・ワイバーン　攻撃力２１００＞エレメンタルヒーロー・クレイマン　守備力２０００

「さらにミサイルスナイパーでダイレクトアタック！！！」

ボシュ～～～っとミサイルが一発発射され十代の足元で爆発を起こす

「うわ～～～～」

十代

ＬＰ２８５０－１５００＝１３５０

「コレでターンエンドだ」

十代
ＬＰ１３５０
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

真間
ＬＰ１８００
手札２枚
モンスター　ミサイルスナイパー、メタルウイング・ワイバーン
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン」

さて、融合デッキは確かに協力だ、いきなり上級モンスターが場に出る奇襲性が高いカード

だがその分手札の消費が激しいのが難点

そして十代は融合をメインとしたデッキを使う

今まで使った融合は1枚、そして最初の融合からしばらくたっているそろそろ切り返してくるに違いない

「手札の融合発動、手札のスパークマンとクレイマンを融合、こい、、エレメンタルヒーロー・サンダージャイアント」

十代の場にスパークマンとクレイマンが出現し天高く舞い上がりはるか上空で一つの光となり巨大な雷の戦士、サンダー・ジャイアントとして降臨する

エレメンタルヒーロー・サンダー・ジャイアント
レベル6光属性
戦士族
攻撃力2400守備力1500
融合　エレメンタルヒーロー・スパークマン＋エレメンタルヒーロー・クレイマン
効果
このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。自分の手札を1枚捨てる事で、フィールド上に表側表示で存在する元々の攻撃力がこのカードの攻撃力よりも低いモンスター1体を選択して破壊する。この効果は1ターンに1度だけ自分のメインフェイズに使用する事ができる。

「サンダー・ジャイアントの効果発動、手札を1枚捨てる事で相手

フィールド上のこのカードよりも攻撃力の低いモンスターを1枚破壊する、、俺はメタルウイング・ワイバーンを破壊するヴェイパスパーク！！！」

サンダー・ジャイアントの胸のコアから放たれる一筋の雷光がメタルウイング・ワイバーンの体を貫き破壊する

「さらにサンダー・ジャイアントでミサイルスナイパーを攻撃、ボルテックサンダー！！！」

今度はコアからでなく掌から雷撃が発射され俺のモンスターを破壊していく

「うおぉお！！！」

エレメンタルヒーロー・サンダー・ジャイアント　攻撃力２４００
＞ミサイルスナイパー　攻撃力１５００

真間
ＬＰ１８００－９００＝９００

十代
ＬＰ１３５０
手札０枚

「さらにリバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

モンスター　エレメンタルヒーロー・サンダー・ジャイアント
魔法トラップ　リバース×１

真間
ＬＰ９００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、十代、お前の融合は確かに協力だ、、だが俺にだって融合は有る、手札から融合を発動、、手札のシルバーフィストとゴールドフットを融合！！！」

シルバーフィスト　（オリジナル）
光属性レベル７
機械族
攻撃力２５００守備力２２００
効果
自分フィールド上の機械族モンスター2体を生け贄にささげることで相手フィールド上のモンスターを全て破壊する。

ゴールドフット　（オリジナル）
光属性レベル７
機械族

攻撃力２２００守備力２４００
効果
自分フィールド上の魔法カードとトラップカードを１枚ずつ墓地に送ることで相手フィールド上の魔法トラップを全て破壊する。

「現れろ、輝甲機神（きこうきしん）プラティウムを特殊召喚」

やたらぴかぴか光るモンスター２体が俺の場に現れた次の瞬間その光がいっそう激しくなり光が晴れるとそこにはプリズムクリスタルを全身に装備した俺のデッキ最強のエースが立っていた

輝甲機神プラティウム　（オリジナル）
光属性レベル８
機械族
攻撃力２８００守備力２５００
融合ゴールドフット＋シルバーフィスト
効果
手札及び自分フィールド上のモンスター、魔法、トラップカードを１枚ずつ墓地に送ることで相手フィールド上のカードを全て墓地に送る。

「バトルだ、、プラティウムでサンダー・ジャイアントを攻撃、、プリズム聖剣！！！」

プラティウムの腕の部分のプリズム装甲から光の線が沢山あふれ出て一つの巨大な閃光の剣となってサンダー・ジャイアントの体を切り裂く

輝甲機神プラティウム　攻撃力２８００＞エレメンタルヒーロー・サンダー・ジャイアント　攻撃力２４００

十代
ＬＰ１３５０－４００＝９５０

「さぁどうする十代、、俺はターンエンドだ」

手札はゼロ、フィールドにもリバースが１枚のみ攻撃対応型トラップではないのか？

まぁ、、俺の手札も０だがモンスターがいる分俺が有利

だが、十代ならひっくり返してもおかしくはない

十代
ＬＰ９５０
手札０枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

真間
ＬＰ９００
手札０枚
モンスター　輝甲機神プラティウム
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、壺の中の魔術書を発動する」

壺の中の魔術書　（マンガ版ＧＸオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする。

「この効果により互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする、俺はさらにモンスターを裏守備でセットしターンエンドだ」

十代
ＬＰ９５０
手札２枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

真間
ＬＰ９００

手札3枚
モンスター　輝甲機神プラティウム
魔法トラップ　リバース×1

「俺のターン、、十代、このターンで決めさせてもらうぜ、俺はプラティウムの効果を発動させる、手札のモンスターと魔法、そしてフィールドに伏せているトラップを墓地に送ることで相手フィールド上の全てのカードを破壊する、、プリズムノヴァ！！！」

プラティウムのプリズム装甲が激しく光を放ち始める

「リバースカードオープン、、速攻魔法クリボーを呼ぶ増え」

クリボーを呼ぶ笛
速攻魔法
自分のデッキからクリボーまたはハネクリボー1体を選択し、手札に加えるか自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「待たせなた相棒、、俺はデッキからハネクリボーを特殊召喚する」

十代の場に純白の羽がのはえたクリボーが召喚される

ハネクリボー
レベル１光属性
天使族
攻撃力３００守備力２００
効果
フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時に発動する。発動後、このターンこのカードのコントローラーが受ける戦闘ダメージは全て０になる。

「無駄だ、、この閃光が全てを破壊する」
いくつ物光の線が相手のモンスターを全て破壊していく
「うお、、だが、ハネクリボーのモンスター効果によりこのターン俺は戦闘ダメージを受けなくなるぜ」
光の粒が十代を包み込む
ハネクリボーの効果であろうか
しかし、このターンも乗り切られるとは、さすがだぜ十代
「俺はターンエンドだ」
十代

ＬＰ９５０
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

真間
ＬＰ９００
手札２枚
モンスター　輝甲機神プラティウム
魔法トラップ　なし

「俺のターン、ドロー」

「十代、、久しぶりに楽しく、、心の底から熱くなれる最高のデュエルだ」

「あぁ、、俺もだぜ真間、、正直終わらせちまうのがもったいないくらいだぜ」

終わらせるのがもったいない

つまりこの勝負にピリオドを打つカードを引いたのか

「こい十代、お前の全力をぶつけに」

「あぁ、、手札から魔法発動、フージョンリカバリー」

フュージョンリカバリー
通常魔法
自分の墓地に存在する融合1枚と、融合に使用した融合素材モンスター1体を手札に加える。

「俺は墓地から手札にバーストレディと融合を回収、、そして今回収した融合を発動、手札のフェザーマンとバーストレディを融合し、再び現れろ、、エレメンタルヒーロー・フレイム・ウィングマン」

十代の場に再びドラゴンの腕を持つヒーローが現れる

「しかし、フレイム・ウィングマンの攻撃力じゃあ俺のプラティウムには届かないぜ」

「あわてるなって、ヒーローにはヒーローにふさわしい戦う舞台ってもんがあるんだ、フィールド魔法、摩天楼～スカイスクレイパー～を発動するぜ」

摩天楼～スカイスクレイパー～
フィールド魔法
E・HEROと名のつくモンスターが攻撃する時、攻撃モンスターの攻撃力が攻撃対象モンスターの攻撃力よりも低い場合、攻撃モンスターの攻撃力はダメージ計算時のみ1000ポイントアップする。

ゴゴゴゴゴゴゴとあたりが巨大なビルで埋め尽くされる

「行くぜ、、フレイム・ウィングマンでプラティウムに攻撃」

大きく飛び上がりフレイム・ウィングマンが一つのびるの屋上に立ち腕を組み俺のプラティウムに狙いを定める

「かかってこい十代」

「あぁ、、スカイスクレイパーの効果でフレイム・ウィングマンの攻撃力が１０００ポイントアップする」

エレメンタルヒーロー・フレイム・ウィングマン
攻撃力２１００→３１００

「いっけ～～～、フレイム・ウィングマン、スカイスクレイパーシュート！！！」

「迎え撃てプラティウム、、プリズム聖剣！！！」

「「うおぉぉぉおおおおおおおおおお！！！！！！！！」」

プラティウムの光の剣とフレイム・ウィングマンの炎の拳がぶつかり合い巨大な爆発が発生し砂埃が激しく舞う

「「ウワ～～～～～～～～～～～～」」

視線変更～誠～

プラティウムとフレイム・ウィングマンの激しいぶつかり合いによりデュエル場に砂埃が舞い状況が見えなくなる

勝敗は！？

十代
ＬＰ９５０

誠
ＬＰ０

砂埃が晴れると同時に立体映像が消滅する

勝敗は、十代の勝ちに終わった

「勝者、、遊城　十代なの～ね」

「ウオ～～～～～～～～～～～～」

文字通り割れんばかりの歓声がデュエル場を埋め尽くす

「最高だぜ、、最高だったぜ真間」

「俺もだぜ十代、、、お前は最高のライバルだ、次は負けねーぜ」

デュエル場の真ん中で握手を交わす2人

「ノース校代表おめでとう、、俺の時以上に熱いデュエルを期待しているぜ」

「あぁ」

さすがだぜ十代、新入生レッド寮の生きた不敗伝説対決はお前の完勝で終わったみたいだな

さぁ、、東西南北から強豪デュエリストが続々やってくるのか

ノース校は万丈目サンダーだが、他の高校はどんなやつが来るか楽しみだぜ。

第２１話十代ＶＳ真間、その頃三沢は……（後書き）

最近タッグフォースで相方のティラノ剣山の奇行に頭をかかえています。やりようによっては逆転できるカード持ってるじゃないか！！って思うこともありましたが１番理解できないのは強奪使って相手の強力なモンスターを奪っておいてハリケーン使ってターンエンドとか、アルティメットティラノの攻撃順番がどう考えてもてきとうであるわ、激しくパートナーチェンジを求めることがしばしばあります。

あと最近感想が掛かれなくて少し寂しいです、冬将軍はウサギ張りに寂しくなると死んでしまう生物なので……スイマセン、自分で言って自分でむなしくなります。感想かかれてないのは書かれるほどの作品ではないという事です。後はもっと定期的に更新する事でしょうか？

ここでこれからもがんばりますと書き込みしたいのですが結構ネタが尽きている自分もいたりします。でもこれからもがんばります、冬将軍でした。

特別番外編～三女アきゅタ～～（前書き）

私、冬将軍は何かを狙っています

なぜ、どうしてこんな小説を書いたのかはわかりません

ただわかる事は精霊の擬人化に関係があることだけです

巨大ネズミ長女と次女は精霊の一味

他にも精霊が柏木さんや江戸っ娘等

作者的にすごい萌属性を所有

ユーザー情報をもう1度よく調べてください、何気に更新してます

どうしてこんなぬるいラブコメを書いてしまったか私でもわかりません

これをあなたが読んだなら、その時私は死んでいるでしょう（ひぐらしファンの怒りをかったので）

これを読んだあなた

どうか作者に幻滅しないでください

それだけが私の望みです。

特別番外編〜三女アきゅタ〜〜

視線変更〜？？？？？〜

私はデュエルモンスターズの精霊です

何故かは知りませんが巨大ネズミの精霊の三姉妹の一人としてマスターと出会いました

私のマスターはすごく優しい人です

頭をなでて欲しい時はやさしくなでてくれます

甘えたい時は何も言わず私に背中を貸してくれます

デュエルの時も2人のお姉ちゃんとひとくくりにされているとはいえ絶大な信頼を寄せてもらっています

とても幸せな状態なのに私は不幸と感じてしまう

あの人は私の事をどう見ているのだろう？

信頼できるパートナー？

癒し系マスコット？

何故か女人化した精霊？

最初はあの人のそばにいれるだけでよかったのに

最近それだけでは満足できていない自分に気づいてしまう

私は、、あの人の事を……

視線変更～誠～

「チュン、、チュンチュン」

「ん、、朝か」

窓から差し込んでくる薄い昭光に眠りを奪われ起床する

今日は土曜日、つまり学校が休みなのだ

特に予定もないのに早起きしてしまった

「さて、、起きようか」

腰を上げて顔を洗いに行こうとした瞬間

「ムニ」

「ムニ？」

へんてこな感触を手に感じ視線を向けるとそこには見知らぬ女の子がとても静かな寝息を立てていた

すごく綺麗ですごく静かなその寝顔はまるで死んでいるのかとさえ錯覚してしまうほどであった

しかし、誰かに似ている

1度も会った事のない顔なのだが雰囲気が誰かと似ている

だが、見れば見るほど見たことない女性だった

つーか完全に見た目がリトルバスターズのクドリャフカなのだが

「、、、、ってチョット待て、冷静になってる場合じゃないな」

とりあえず女性から俺の手をどかそうとするが

「、、、、、」

「！！！！！」

そっと引き抜こうと仕立てをあろうことかこの女性が俺の腕をつかみとる

そしてそのまま自らのほほに摺り寄せすりすりとこすってくるのであった

まずい、俺にその気は、ロリコンではないのだが理性が崩されていく

「何一人でぶつぶつ言いながら悶絶している」

「し、、真間！！！」

まずい、全然気が付かなかった

「ところで、、、この子は誰だ？」

まずい、まずいぞ

このままでは俺が幼女と一晩過ごしたロリコンヤローと学校中に噂されてしまう

そんな事になったら俺は自ら命を絶つしかない

「いや、、この子は俺の、俺の親戚の子みたいな感じの子なんだ」

「どういう関係だよ」

「俺の親父の友達の娘さんでな、中学の時知り合ったんだ、まぁ当時は今以上に小さかったけど」

変に俺の親戚と言うと昔なじみの付き合いの真間は鋭いからすぐ感づいてしまう

だからあえて空白の時間帯の話をでっち上げたのだが

きっと、ばれてるんだろうな

「、、、、、、、、、まぁ、いいさ」

少しの間をおいて真間は部屋から出て行こうとする

「誠、、お前が言いたくないんなら俺は無理には聞かないさ、、、、だが忘れるなよ、俺達は親友だ、何かあったら真っ先に話して欲しいぜ」

そういい残し真間は部屋から出て行く

悪い真間、今度借りは返すぜ

数分後俺の掌を枕に夢心地だった少女がやっと目を覚ます

「、、、、、、、、、」

「やっと目覚めたか眠り姫」

謎の少女のいい玩具にされた俺の掌はジンジンにしびれていた

とりあえずしびれた右腕を無事な左腕でマッサージをしながら話を聞くことにした

「率直で悪いんだけど、、、、、君、誰?」

「キュキュキュ〜」

「いや、、キュキュキュじゃなくて」

って、キュキュキュ！？

「悪い精霊のみんな、、チョット出てきてくれ」

（どうしたの誠）

（朝っぱらから騒がしいね）

（うに～～、おはようございまふ～）

（朝早くからこき使われるなんて、、、私って不幸ね）

（朝早くから何の御用でしょうかご主人様）

俺は現れた精霊の数を確認する

1、2、3、4、5

一人足りない

「巨大ネズミ三女はどこに行った？」

（そういえば、、、見当たりませんね）

「キュ～～キュ～～」

（（え！？））

やっぱりか

「君は、、、巨大ネズミ三女だな」

「キュ～～」

そうだよと言わんばかりに首を縦に振るクド、、もとい巨大ネズミ三女

「しかし、、どうなてるんだコレは」

（わかりません、、何で三女さんが人間化したのか検討も付きません）

「物知りなモアイ迎撃砲でもわからないか」

（申し訳ありません、、お役に立てなくて）

「別にいいさ」

「キュ～～～」

深刻に悩んでいる俺達にはお構いなく三女は俺に甘えるかのように

背中から抱きついてくる

（神様がまた何かしでかしたんじゃないの？）

「もしそうだとしたら、、、そろそろ本気で神様を殺す事を考えないとな」

（うっわ、、、大将ものすごい邪悪な笑顔になってるよ）

（とりあえず、、三女の願望を叶えたりすれば元の姿に戻れるとか）

「自縛霊の類かよ？」

“腹ぁ、、いっぱいだ”と言いながら成仏していく三女を創造してしまた

「キュ～～キュ～～」

「ッウ！！」

背中に抱きついていた三女が今度は顔を俺の首筋にこすり付けてきた

まずいまずいって、俺の理性が

誠の精神世界

「メーデーメーデー、こちらスーパー戦隊、、、ＨＱ至急応援を求める」

「こちらＨＱ、スーパー戦隊よ、応援はよこせない、、現戦力で対応せよ」

「無茶だ、、、ライダー隊やメタルヒーロー隊から応援を要請します」

「こちらＨＱ、、残念だが応援はよこせない」

「何故だ?上は俺達に死ねと言うのか」

「いや、、違う、、、、、きっと他の部隊も俺達みたいに」

ライダー隊

「ここはやっぱ電王ソードフォームとガタックのカードをスキャンだ」

「バカヤロー、、ここはアギトとディエンドのカードでＳＰを上げまくって戦うんだ」

「とりあえずＸライダーのカードを用意するんだ!!!」

メタルヒーロー隊

「それではコレより最強のアニメを俺達の間でひそかに決めようじゃないか」

「やっぱナノセイバーだろう」

「バカヤロー、、平成犬物語バウだ」

「アイアンリーガーこそが神」

「確かにアイアンリーガーは神アニメだった」

「リューナイトも捨てがたいぞ」

「スーパービックリマンに情熱を燃やしたあの頃を思い出せお前ら」

「いや、、、何でどいつもこいつも昭和アニメしかチョイスしないんだよ」

モンハン隊

「ヨッシャ〜〜、ハンマーで頭叩きまくったおかげでやっとリオレ

イヤがピヨったぜ」

「うっし、麻痺片手剣でひたすら切りつけてやるぜ」

「ヨッシャ、、とりあえず強走薬飲んで双剣でラッシュかけるぜ」

スーパー戦隊

「メッチャ余裕じゃないか～～～～～～」

「ッハ！！！」

今すごく変な事想像してた

「キュ～～」

さて、とりあえずこの三女をどうしたものか

（マスター、、とりあえず三女はあなたと遊びたがってるみたいだから今日1日遊んであげて）

「そうだな、、ちょうど今日は土曜日だ、行こうか、三女」

とりあえず俺は三女の腕を引いて寮の外に出る

（やっと行ったね三女ちゃん）

（えぇ、、世話が焼ける妹、、っというか鈍感すぎるマスターね）

とりあえず俺は食堂で朝飯を済ませ購買でパンをいくつか適当に買い三女と森の中を歩いていた

「しかし、、、見れば見るほどクドリャフカだな」

俺の横を歩いている三女はいつものフカフカ不毛に身を包んだ糸目キャラでなく完全にクドリャフカだった

だがワフ～とは言わずキュ～キュ～ばかり言っていた

「しかし、、、まるでギャルゲーだなこの展開」

学園物

休日に女の子とデート

横を見ればクドリャフカ

ギャルゲート言うよりリトルバスターじゃないか

まぁ、、細かく考えるのはなしだ、俺らしくもない

とにかく今を精一杯楽しむ事だけを考えよう

「三女、、、ほら」

「キュ？」

頼む、クドリャフカの顔で首を傾げないでくれ

萌えてまうやろ～～～～～～～～～

「ほら、、手をつなごう」

「キュ、、、キュ～」

少しはにかみながら俺の手を握る三女

まずい、いつもデュエルで戦った後握手するのとは違いこう男女である事を意識して握ると体温の上昇を感じる

えぇ～～～い、ここで男なのに相手に緊張してるところなんて見せられないぜ

「少し、、歩くか」

「キュ～」

木々に囲まれた道を歩いていく

落ち葉を踏む音と風の音だけが聞こえる

俺に手を引かれ顔を赤くしながらもついててくれている巨大ネズミ三女

まさか、、転生して最初のデートの相手が精霊だとは予想外だ

生前はギャルゲーやらエロゲーやらで二次元の女性に夢中で現実の女性には見向きもしなかった

当然デートなんてしたこともない

でも、今俺の隣には彼女ってわけではないけど俺とデートしてくれている女性がいる

不覚にも、、悪くないと思ってしまう

このままこのデートイベントを超えてはれて三女とゴールイン

「……って違～～～～う」

何を考えていた俺

ゴールインはないだろう
仮にもしゴールインして親にどう説明する
巨大ネズミのカードを見せて“俺、、この人と結婚します”なんて
言ってみろ
病院の精神科でなくあの世に送られてしまうわ
「きゅ～？」
「あ、、スマン、チョット変な事考えて取り乱しただけだ」
俺が悶絶していると不思議そうな表情で俺を見ていた三女
いまさらだが冷静な態度を取り戻し改めてその手を握る
「そこの木陰で、、昼飯にするか」
「キュ～」
その後お昼ごはんを済ませ生前俺がいた世界の話を三女に聞かせる
どんなアニメがあったか
どんな仮面ライダーがいたか

戦隊物はだんだんイケメンばっか採用していてデブのイエローを見たいという俺の願望が満たされないとか

俺、、この戦いが終わったらどこか静かな山奥でひっそりと暮らしたいな……とか

まぁ、正直殆どがアニメの話だった

でも三女は嬉しそうにキュ～キュ～と鳴いていた

そして夕方

「さて、、もうすぐ日が暮れる、、、帰ろうか」

「キュ～」

少し寂しそうにうつむく三女

楽しい時間はいつか終わる

今日はデュエルとかなく単純に女の子とデートできて非常にまったりとしていて楽しい1日だった

「キュキュ～～」

「え！？」

突然三女が肩にかけていたバッグの中からデュエルディスクを取り出した

「、、、、なるほど、やっぱデュエルなしでは終われないか」

俺も背負っていたデュエルディスクにデッキをセットする

「さて、、どんな風になるかわからないが、熱く楽しいデュエルにしようぜ」

「デュエル！！」

「キュキュ～～！！！」

誠
ＬＰ４０００

三女
ＬＰ４０００

「俺から行くぜ、、俺はモンスターを裏守備でセットしリバースを１枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

三女
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「キュキュ～～」

三女の場にモンスターが１体裏守備でセットされリバースが１枚セットされた

「キュ～」

ターンエンドのようだな

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

三女
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、ドロー」

さて、三女のデッキはどんなデッキだ？

俺と同じ岩石デッキ？

まぁいい、とりあえずこのカードで殴ってみるか

「俺はロックストーン・ウォリアーを召喚」

ゴゴゴゴと岩石に手足が生えロックストーン・ウォリアーに変形する

ロックストーン・ウォリアー
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１８００守備力１６００
効果
このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。このカードの攻撃によってこのカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、自分フィールド上に“ロックストーン・トークン”（

地属性レベル１岩石族攻撃力０守備力０）２体を特殊召喚する。このトークンはアドバンス召喚のためにはリリースできない。

「バトル、、ロックストーン・ウォリアーで裏守備に攻撃」

三女のフィールドの裏守備カードが表になる

水色の毛皮をした熊、なるほどお母さんか

グリズリーマザー
レベル４水属性
獣戦士族
攻撃力１４００守備力１０００
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の水属性モンスター１体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。その後デッキをシャッフルする。

リバースカードは特に発動せず俺のモンスターが水色の熊の体をタックルで破壊する

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞グリズリーマザー
守備力１０００

「キュキュ～」

グリズリーマザーの効果が発動しデッキを手に取る三女

さて、何をつれてくる気だ？

「キュ～～～」

三女の場に現れたのは再びグリズリーマザー

デッキ圧縮目的か？

「俺はコレでターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

三女
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　グリズリーマザー
魔法トラップ　リバース×１

「キュ～、、キュキュキュキュ～」

三女の場に緑色の歯車が召喚される、、ってグリーンガジェットか

グリーン・ガジェット
レベル４地属性
機械族
攻撃力１４００守備力６００
効果
このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、デッキからレッド・ガジェット１体を手札に加える事ができる。

「キュ～～キュキュキュキュ～」

デッキからレッドがジェットのカードを手札に加える三女

ダメだ、現段階ではどんなデッキかまったく見当が付かない

「キュ～～、キュキュキュ」

グリーン・ガジェットを召喚しグリズリーマザーを守備表示にしてターンを終えるようだ

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

三女
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　グリズリーマザー、グリーン・ガジェット
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、少し激しく攻めるぜ、モンスターを反転召喚、巨大ネズミ」

１ターン目で裏守備でセットしたモンスターを表側表示にする

まぁ、今回は精霊達は近くにいないので“私の出番だ”等の台詞は聞こえない

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果

このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

「バトル、、ロックストーン・ウォリアーでグリズリーマザーを攻撃」

完全にデジャブなんだが岩の塊のショルダータックルが熊を破壊していく

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞グリズリーマザー守備力１０００

「キュ～～」

三度召喚されるグリズリーマザー

本当にデッキ圧縮要因なのか？

「そして巨大ネズミでグリズリーマザーを攻撃」

大きく飛び上がりグリズリーマザーと取っ組み合う巨大ネズミ

巨大ネズミの頭蓋骨がグリズリーマザーの頭に当たると同時にグリズリーマザーの爪が巨大ネズミ

の体を貫きお互いの体が消滅する

巨大ネズミ　攻撃力１４００＝グリズリーマザー　攻撃力１４００

「そして互いのモンスターのリクルート能力が発動する」

グリズリーマザーはコレで３枚目

さぁ、何をよんでくる

「キュ～～」

何も、、、よんでこない？

「まぁいい、、だったら俺は巨大ネズミの効果を使うぜ、デッキから激昂のムカムカを特殊召喚

」

激昂のムカムカ

地属性レベル５

攻撃力１２００守備力６００

自分の手札１枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

「俺の手札は5枚、、よってムカムカの攻撃力は３２００」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→３２００

「バトル続行、、ムカムカでグリーン・ガジェットを攻撃、アングリーブロー」

ノッシノッシと岩でできたカニがグリーン・ガジェットに近寄り巨大なハサミを振り落とし緑色の歯車を木っ端微塵に粉砕した

激昂のムカムカ　攻撃力３２００＞グリーン・ガジェット　守備力６００

「そして手札を1枚伏せてターンエンドだ」

激昂のムカムカ
攻撃力３２００→２８００

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー、激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

三女
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「キュキュキュ～～、、、キュキュ」

三女のターン、三女は裏守備を１枚セットしただけでターンを終えた

事故ったのか？それとも何か狙いがあるのか？

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー、激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

三女
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、俺は2体目のロックストーン・ウォリアーを召喚、、バトル、1体目のロックストーン・ウォリアーで攻撃」

ダッダッダッダッダと相手モンスターに突っ込んでいくロックストーン・ウォリアー

「キュ～」

三女のフィールドの裏守備カードが表になる

ＵＦＯのボディーから亀の手足と頭が生えた奇怪なモンスター

ＵＦＯタートルか

ＵＦＯタートル
レベル４炎属性
機械族
攻撃力１４００守備力１２００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッ

キから攻撃力１５００以下の炎属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞ＵＦＯタートル守備力１２００

当然数値が上なので俺のロックストーン・ウォリアーが戦闘で勝利する

「キュキュ、、、キュ～～キュ～～キュキュ」

ＵＦＯタートルの効果で呼び出したのはまたしてもＵＦＯタートル

しかし攻撃表示だ、今度こそダメージを与えてやる

「激昂のムカムカでＵＦＯタートルを攻撃」

今度は口から泡をＵＦＯタートルに向かって吐き出すムカムカ

何気に新しい攻撃演出だ

「キュキュ～～～」

「ス、、スピリットバリアだと！！！」

スピリットバリア
永続トラップ
自分フィールド上にモンスターが存在する限り、このカードのコントローラーへの戦闘ダメージは０になる。

激昂のムカムカ　攻撃力２８００＞ＵＦＯタートル　攻撃力１４００

クソ、結局ダメージを与えられずじまいか

そしてＵＦＯタートル２回目の効果で呼び出したのはまたしてもＵＦＯタートル

とりあえず残っていたロックストーン・ウォリアーで戦闘破壊しておく

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞ＵＦＯタートル
攻撃力１４００

クソ、スピリットバリアのせいでダメージを与えられない

そしてＵＦＯタートルの効果で呼び出されたのはマスクド・ドラゴン

マスクド・ドラゴン
レベル３炎属性
ドラゴン族
攻撃力１４００守備力１１００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力１５００以下のドラゴン族モンスター１体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「ターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー×２、激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

三女
ＬＰ４０００

手札５枚
モンスター　マスクド・ドラゴン
魔法トラップ　スピリットバリア

「キュキュ～、、キュ～」

先程グリーン・ガジェットの効果で手札に加えたレッド・ガジェットが守備表示で相手フィールドに召喚される

レッド・ガジェット
レベル４地属性
機械族
攻撃力１３００守備力１５００
効果
このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、デッキからイエロー・ガジェット１体を手札に加える事ができる。

赤い歯車が召喚されたので三女はデッキからイエロー・ガジェットを手札に加える

「キュ～～～、キュキュキュキュキュキュ～」

さらにリバースを伏せてターンエンドみたいだ

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー×２、激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

三女
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　マスクド・ドラゴン、レッド・ガジェット
魔法トラップ　スピリットバリア、リバース×１

「俺のターン、、再び現れよ、最強のリクルーター、巨大ネズミ」

先程玉砕して行った巨大ネズミを再び俺のフィールドに降臨させる

「そしてバトルだ、激昂のムカムカでマスクド・ドラゴンを攻撃」

ムカムカのハサミが仮面をかぶったドラゴンの体を切り裂く

激昂のムカムカ　攻撃力２８００＞マスクド・ドラゴン　守備力１１００

「キュキュ」

マスクド・ドラゴンのリクルーター能力を使ってよんできたのはまたしてもマスクド・ドラゴン

その後巨大ネズミで攻撃した後またマスクド・ドラゴンを召喚し3体目のリクルート効果でアーミー・ドラゴンを特殊召喚した三女

巨大ネズミ　攻撃力１４００＞マスクド・ドラゴン守備力１１００

そのアーミー・ドラゴンをロックストーン・ウォリアーで破壊すれば当然またアーミー・ドラゴンが出てくる

アーミー・ドラゴン
レベル2風属性
ドラゴン族
攻撃力７００守備力８００
効果
このカードが戦闘で破壊され墓地に送られた場合、アーミー・ドラゴンをデッキから1枚選択し自分フィールド上に特殊召喚する。その後デッキをシャッフルする。

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞アーミー・ドラゴ

ン　守備力８００

不気味さを覚え俺は残ったロックストーン・ウォリアーでレッドがジェットを破壊する

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞レッドガジェット守備力１５００

「いったいどんなデッキなんだ？」

リクルーターを使ってまたリクルーターをよびそしてまたリクルーター

何このエンドレスリクルーター

小泉に報告をしないといけないな

そして俺は禁則事項を連呼

やめよう、、あの話は、もう終わったことなんだ

エンドレスエイトなんて黒歴史俺は知りません

「ターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー×２、激昂のムカムカ、
巨大ネズミ
魔法トラップ　リバース×２

三女
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　ドラゴン・アーミー
魔法トラップ　スピリットバリア、リバース×１

「キュ～、、キュキュー」

モンスターを１体裏守備で召喚してターンエンド

きっとあの裏守備もリクルーターなのであろう

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー×２、激昂のムカムカ、
巨大ネズミ
魔法トラップ　リバース×２

三女
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　ドラゴン・アーミー、裏守備×１
魔法トラップ　スピリットバリア、リバース×１

「三女よ、、、この不毛極まりないリクルーター地獄にピリオドを打とう、、俺は最後の巨大ネズミを召喚」

コレで俺のフィールドがモンスターで埋まった

「バトルだ、、巨大ネズミでドラゴン・アーミーを攻撃」

バリ～～～ンとステンドグラスのように散っていくドラゴン・アーミー

巨大ネズミ　攻撃力１４００＞ドラゴン・アーミー　守備力８００

「続いて激昂のムカムカで裏守備に攻撃」

破壊したのはキラー・トマトのカード

キラー・トマト
レベル４闇属性

植物族
攻撃力１４００守備力１１００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力１５００以下の闇属性モンスター1体を自分フィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

そうして三女の場にまたキラー・トマトが呼び出される

「そして2体目の巨大ネズミでキラー・トマトに攻撃をし自爆特攻」

トテトテと残っていた巨大ネズミがキラー・トマトとぶつかり合い互いにその身を消滅させる

そして相手の場にはまたしてもキラー・トマト

俺の場には当然激昂のムカムカをよぶ

「そしてロックストーン・ウォリアーで最後のキラートマトに攻撃」

ぶどう酒作りよろしな感じでロックストーン・ウォリアーがキラー・トマトを踏み潰す

3体目の効果は発動されないと思ったが意外なモンスターが姿を現した

「カ、、カオス・ネクロマンサーだと!!」

カオス・ネクロマンサー
レベル１闇属性
悪魔族
攻撃力０守備力０
効果
このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在するモンスターカードの数×３００ポイントの数値になる。

そうか、そのために墓地を肥えさせていたのか

「リクルーターが大量に墓地に眠っている、今やつの攻撃力は」

カオス・ネクロマンサー
攻撃力０↓４８００

まずい、７体除外メガロックばりの強さを持ってやがる

しかし俺の墓地は全然肥えてない

「ック、、、バトルを中断しターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００

手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー×２、激昂のムカムカ×２、巨大ネズミ
魔法トラップ　リバース×２

三女
ＬＰ４００
手札６枚
モンスター　カオス・ネクロマンサー
魔法トラップ　スピリットバリア、リバース×１

「キュキュ～」

攻撃前に三女がず～～～っと伏せてあったリバースカードをオープンする

って、トラップ・スタンだと

トラップ・スタン
通常トラップ
このターンこのカード以外のフィールド上の罠カードの効果を無効にする。

コレでは俺のリバースが発動できないじゃないか

「キュ～～～～～」

攻撃の指示を出したのかカオス・ネクロマンサーが黒くまがまがしいオーラを掌に集め俺のモンスターに放つ

当然戦闘ダメージを無効にしたり厄介なリクルーター能力を持ったモンスターでなくムカムカを殴ってくる三女

お触れもどきであるトラップ・スタン発動ターンですので返しのカードなんてありません

カオス・ネクロマンサー　攻撃力４８００＞激昂のムカムカ　攻撃力２８００

誠
ＬＰ４０００－２０００＝２０００

まずい、このデュエル初ダメージが俺のダメージでこんな大ダメージをくらうとは

しかも俺の墓地は全然肥えてないから切り札のメガロックの出番は期待できん

「キュキュ～～」

メイン2でリバースを1枚伏せてターンは終了のようだ

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー×2、激昂のムカムカ、
巨大ネズミ
魔法トラップ　リバース×２

三女
ＬＰ１２００
手札６枚
モンスター　なし
魔法トラップ　スピリットバリア、リバース×１

「俺のターン」

どうする、攻撃力４８００なんて化け物相手にどう戦えと

伝説の柔術家とか欲しいところだが残念ながら手札にない

守備で耐え忍ぶか

「ドローカード」

引いたカードは

「ネオスペーシアン・グランモールを召喚」

バリバリバリ～～っとドリルを頭にたずさえたモグラが地面を突き破り現れる

さすがは俺、ナイスチートドロー

ネオスペーシアン・グラン・モール
地属性レベル３
岩石族
攻撃力９００守備力３００
効果
このカードが相手モンスターと戦闘を行う場合、ダメージ計算を行わず相手モンスターとこのカードを持ち主の手札に戻す事ができる。

「三女よ、、強力なモンスターのみに頼った愚かなデュエルがいかにもろいか教えてやる、、バトルだ、グランモールでカオス・ネクロマンサーに攻撃」

海馬社長ヨロシな感じでポージングを決めておく

肩のドリルを１つに束ね地面にもぐっていくグランモール

「グランモールの効果を発動、、バトル時ダメージ計算を行わずに互いのモンスターを手札に戻す、、、、ペネトレートリターン！！！」

「キュ～～」

ここにきてリバースカード発動だと!?

発動カードは、、天罰か

天罰

カウンタートラップ

手札を1枚捨てて発動する。効果モンスターの効果の発動を無効にし破壊する。

「キュキュ～～」

天から雷が落下しグランモールが地面から出てきたと同時にその体を破壊する

「キュ～キュ～」

「やるじゃないか、俺の逆転の切り札を跳ね返すとは、、だが俺はまだ終わらない、リバースカードオープン、、リビングデットの呼び声」

リビングデットの呼び声

永続トラップ
自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「再び舞い戻れ、グランモール」

召喚したときと同じように地面を突き破りグランモールが俺の場に現れる

「そしてまだ俺のバトルフェイズは終了しちゃいないぜ、、、グランモールでカオス・ネクロマンサーを攻撃、、そして効果を発動、、ペネトレートリターン!!!」

グランモールとカオス・ネクロマンサーの体が光り出しフィールドから姿を消す

「さて、、コレで三女は丸裸だな、全モンスターでダイレクトアタックだ」

俺のモンスターたちがいっせいに三女に襲い掛かる

近年まれに見るオーバーキルだった

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力1800（ダイレクトアタッ

ク）＞相手プレイヤー

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

激昂のムカムカ　攻撃力２８００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

巨大ネズミ　攻撃力１４００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

三女
ＬＰ４０００－７８００＝－３８００

「キュ～～～～～」

俺のオーバーキルをくらい目を回しながらその場に倒れる三女

そして立体映像も消滅しデュエルの終了を告げる

「大丈夫か三女」

俺が差し出した手をつかみ起き上がる三女

軽く尻餅をついただけで怪我とかはないみたいだ

「中々やるじゃないか、、、普段のお前からは創造もできない激しいデッキだったぜ、スッゲー熱くなれたぜ」

「キュキュ」

手を握ったまま握手を三女と交わす

そしてその日の晩

俺と三女はレッド寮の部屋に戻っていた

気を使ってくれたのか真間の姿はそこにはなかった

「しかし、、ず～～っとこのままなのであろうか？」

メガロックたちとは違って今の三女は普通の人間のも可視できる存在

さすがにこのままクドリャフカと同じ部屋というのはまずい

「まぁ、、もし戻れないんならいっそ女子生徒としてブルーに入ればいいかな」

色々と無謀なこととかを考えていると三女の足元から光が散り始める

「うお！！どうした三女、まさか、、、、、消滅するのか？」

俺の言葉に首を横に振る三女

「もしかして、、、いつものお前に戻るのか？」

今度はコクンと首を縦に振る

正直さっきまでどうしようかどうしようか悩んでいたがいざ解決してしまうと少し淋しいところも

ある

今生の別れをするわけじゃないんだけど

それだけ今日と言う1日が楽しかったんだと改めて自覚する

「じゃあ、、とりあえずお前との1日を締めくくる前にお前に言っておく、、、今日はスッゲー楽しかったぜ、、ありがとな、三女」

俺の言葉の後に三女が口をもごもごし始める

「どうした三女、、苦しいのか？」

違う違うと首を横に振ると再びゴモゴモし始める三女

「、、、、、あ、、ぁ」

かすれるような声がその口から聞こえる

いつものキュキュ～～っと泣き声のような物ではない

今三女は何かを必死で言おうとしているのがわかる

「何か言いたいんだな、、なんだ」

大事な言葉を聞き逃さないように俺は三女に顔を寄せる

「ま、、、まこ、、、誠兄さん、、、だ、、、、、、、大好き」

次の瞬間三女の顔が俺の視界いっぱいになる

そして唇に感じる人の温もり

その他にも様々な情報が交差し、やっと三女にキスされたと理解する

どれくらいたったであろうか

時間からすれば一瞬かもしれないが永遠と思うくらい長く感じた時間

俺の視界から三女の顔はなくなり

いつものモコモコ羊的な三女が俺の膝元でス～～ス～～寝息を立てている

「、、、、、、、、、、」

まずい、さっきの三女のキスが脳裏に何度もリフレインする

意識が遠のいていく、、、光だけが、広がっていく

「おのれルパンめ、、まんまと盗みおって」

「いいえ、あの人は何も盗んではいません、私の為に戦ってくれました」

「いいえ、やつはとんでもないものを盗んでいきました、、、、、、あなたの心です」

「、、、、、、、、、、、、、ハイ」

「誠～～、入るぞ、、アレ、あの女の子は帰ったのか、、、、、、、、、、って誠、何でだんまりなんだ、つーか顔真っ赤だぞ、、、、、、、、、、、、、、、なるほど、ついにお前にも春が来たか」

その後3日間俺は魂が抜けたかのように動かなかったそうだ

そしてその3日間の間に早乙女レイの事件が発生したことを真間に聞いた

ジーザス、、何てことだ

ボーイッシュ萌大好きな俺がレイのイベントに参加できなかったとはうまい具合に武力介入し“十代様～～”から“誠様～～”に変える作戦が

ｏｒｚ。

特別番外編～三女アきゅタ～～（後書き）

これの小説を書こうと思ったきっかけですがトラノアナでクドワフタ～のポップやら何やらが大量に飾られてるのを見てふと思いついて書いてしまいました

前書きにも書きましたがどうしてこんなぬるいラブコメ小説を書いたか私にもわかりません、だが後悔はしてません。

最後になりましたが更新が遅れてしまいました。生徒会員役員共とハイスクール・オブ・ザ・デットのアニメをＹｏｕ　Ｔｕｂｅでみまくっていたせいです。本当北海道は深夜アニメが全然放送されなくて……（涙）

第２２話東西南北中央不敗、スーパーアジアとなるのだ！！！（前書き）

お久しぶりです冬将軍です。

最近タッグフォースやら新デッキの作成やらＹｏｕ　ｔｕｂｅでアニメみてたりと小説の更新がとまってしまいましたが最近落ち着いてきました。

とりあえず今回から他校との交流試合編です。よく小説とかで世界が何かイレギュラー的なものをかかえたらバランスをとるために何かイレギュラーが発生すると言われてますがこの世界は逆に吹っ切れてます。

それでは本編どうぞ。

第２２話東西南北中央不敗、スーパーアジアとなるのだ！！！

「う～～～～～ん、、今日もいい天気だ」

他校との交流試合当日

学園の屋上でデッキを再確認する

「今日は待ちに待った他校との交流試合」

原作になかったシナリオ

そして俺はイースト校の代表に選ばれた

テンション上がりっぱなしだぜ

「そうだ、、、、原作アニメの十代みたいに俺のモンスターを立体映像で呼び出して気合入れてみるか」

デッキから俺の主力カードを何枚かデュエルディスクにセットする

「巨大ネズミ召喚！！」

（朝早くから呼び出されるなんて、、、不幸ね）

（朝から晩まで２４時間、私はいつでもメイドです）

（キュキュ～～～）

「激昂のムカムカ」

（オッシャ～～、祭りだ祭りだ）

「最後はメガロック・ドラゴンだ！！」

（今日はみんな気合入ってるね）

「……」

（あれ、、どうしたの誠、土下座なんかして）

「へこんでるんだよ、、ｏｒｚ」

デュエルディスクにセットしたモンスターたちはなぜか精霊体（萌キャラ）化して出てきた

「何でその姿で出ちゃったんだよ、、、十代みたいに信頼できるモンスターに囲まれて“みんな気合入ってるな～～”っと言いたかったのに何でその姿で出た」

（大将は、、私達を信頼してないのかい？）

「信頼はしている、、、、だがカッコよく決めようとしていたのにこんな風になった結果に不安があるんだ」

（私達をお気になさらずに決めてしまえばいいじゃないですか）

「周りを女性（萌キャラ）に囲まれて決めても悲しくなるだけなん

だよ～～～」

今はまだ誰にもばれてないがこれから精霊が見れるようになった万丈目がくるわヨハンもいずれやってくるわ1番の悩みの種は異次元に行った時だ

今まで見て見ないふりをしてきたがそろそろ対策を用意しておかないと

今まで十代にばれなかったのが逆に奇跡的だというのに

「お～～～～～～い誠、そろそろ各校の代表が、、、、、、、、って、アレ、デュエルモンスターズの精霊だ」

「……」

自分でもわかるくらいギジギジと間接がうねりをあげながら首が後ろに回っていく

その視線の先には十代、精霊を視覚的感知可能な存在

「ところで、、お前ってハーレムデッキ使いだったっけ?」

「、、、、、、、、、、死ぬ、、死んでやる～～～～」

「お、落ち着け誠」

「ＨＡ☆ＮＡ☆ＳＥ、、俺はここから飛び降りるんＤＡ～～～～～～」

数分後

「すまない十代、、かなり取り乱してた」

「な〜〜に、気にするな」

やけになって身投げしそうになったが十代の必死な説得のおかげでどうにか踏みとどまれた

「しかしすごい精霊の数だな」

「あぁ、、レオパレスに藤原ノリカが付いてくる程度の話じゃないがな」

俺達の後ろで十代のハネクリボーと俺の精霊達がじゃれて遊んでいた

「それよりも、、そろそろ他校との代表戦が始まるぜ」

「あぁ、、、気合を入れなおしていかないとな、、、十代、勝とうな」

「あぁ」

その後下に降りると万丈目兄弟とノース校の連中と遭遇した
そこで原作どおり今回のデュエルが全国放送されるといわれた
フフ、俺のデュエルもついに全国デビューか
オファーがきて欲しいな、、あえてお笑いの方から

そして全ての準備が整った

「それでは、これより、デュエルアカデミアとノース、ウエスト、サウス、イースト校との交流デュエルが始まめます」

「「ワ～～～～～～～～」」

かなり大き目のデュエル場だが各校の代表の応援で全ての席が埋め尽くされている

当然その歓声もいつもの数倍以上の量である

そして普段この場所で見かけないいくつものカメラがデュエル場を映し出している

「それではクロノス先生、後はよろしくお願いします」

「わわわ、、、、私の勇姿がぜぜぜぜぜ全国に、、アガガ、アガガ」

さすがのクロノス先生もあがっているようだ

あぁ、無理もないか、、俺もこの状況にいつも以上にワクワクしている

オラァ、ワクワクしてきたぞ（ドラゴンボールの主人公の声で）

「最初はデュエルアカデミア代表とイースト校代表の対決なの～～～ね」

トップバッターは俺みたいだな

「がんばれよ、、誠」

「あぁ」

控え室には俺と十代しかいない

他の代表は突如テレビに出るとなって部屋に戻って身だしなみを整えなおしているらしい

会場に入るとじかに歓声が俺に降り注がれる

「ウオッシャ～～～～～、みなぎってきた～～」

デッキをシャッフルしディスクにセット

さぁ、準備は万全だぜ、俺の代表は誰だ

「あの～～」

しかしイースト校の代表はどんなやつだ、まだデュエル場に着てないようだが

「もしも～～し」

まぁ、、相手が誰であろうと俺は全力を尽くすのみ

「あなたはそこにいますか？」

「ん？」

やたら金ぴかな生物が言いそうな台詞が聞こえた

声がしたほう、つまり足元を見てみるとそこには背丈が低い他校の制服を来た女子が立っていた

もしかして、、、この娘が代表？

「やっと気づいてくれた、、まったく」

青色の長髪

天を突くかのようなアフォ毛

少し小さめの身長

特徴的な泣き黒子

って、こなた、こなたじゃないか

「私はイースト校代表の泉　こなただよ、、君は」

「デュエルアカデミア本校代表、、小野寺　誠だ、よろしくな泉さん」

「私のことはこなたでいいよ誠君」

しかし改めてみてみると低いなこなた

正直身長差が一般人とチェホンマンくらいあるんじゃないか

「ねぇ、、突然で悪いんだけどさ、君からは私と同じオーラのような物を感じるんだよね」

なるほど、、さすがは伝説の少女Ａ

俺のオタクのオーラを感知したのか

「では、、君が私のウォーミングアップを手伝ってくれるのかね？」（セルの声で）

「いいだろう、、ウォーミグアップで終わらせてやるよ」（ベジータの声で）

エクセレント、、さすがだぜこなた

「こなちゃんガンバッテ～～～」

「がんばりなさいよ～～～」

歓声の中からのほほんとした声とツンツン気味な声がする

なるほど、イースト校は陵桜学園なのかな

待て、、つまりみさおもいるのか？

全神経を視覚と聴覚に集中させ検索開始

「がんばってください、泉さん」

「私達３人しか応援にコレなかったけどがんばりなさいよ～～」

私達３人

つかさにかがみにみゆきさん

ｏｒｚ

「どったの？急に悲しい目になって」

「いいや、、なんでもない」

分かってるよ、こなたが１年生ということはまだみさい達とは面識はないどころかまだキャラ設定すらできていない

出てくるとしたらメインの４人だってのは理解できるよ

しょうがない、この悲しさをデュエルにぶつけて解消してくれる

「さて、、チョット内部事情で色々とあったがこなた、、、熱く楽しいデュエルにしようぜ」

「もっちろんだよ」

「「デュエル！！！」」

誠
ＬＰ４０００

こなた
ＬＰ４０００

「俺のターン、俺はモンスターを裏守備でセットしターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

こまた
ＬＰ４０００

手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターン、コザッキーを召喚するね」

相手のフィールドにイヒヒヒヒと根暗な笑みをこぼしたマッドサイエンティストっぽい博士が現れる

コザッキー
レベル１闇属性
悪魔族
攻撃力４００守備力４００
効果なし

「さらにコザッキーに下克上の首飾りを装備するよ」

コザッキーの首に目玉の形をしたネックレスがぶら下がる

はっきりいって全然似合ってなかった

下克上の首飾り
装備魔法
通常モンスターにのみ装備可能。装備モンスターよりレベルの高いモンスターと戦闘する場合、装備モンスターの攻撃力はレベル差×

５００ポイントアップする。このカードが墓地へ送られた時、このカードをデッキの一番上に戻す事ができる。

なるほど、低レベルバニラデッキか？

「コザッキーで裏守備モンスターに攻撃」

「俺のモンスターはマイン・ゴーレムだ」

マイン・ゴーレム
地属性レベル３
攻撃力１０００守備力１９００
効果
このカードが戦闘によって墓地に送られた時、相手ライフに５００ポイントダメージを与える。

コザッキーの攻撃をマイン・ゴーレムが受け止める

「下克上の首飾りの効果を発動、装備モンスターが相手モンスターと戦闘を行う場合レベルの差×５００ポイント攻撃力がアップする」

コザッキー
攻撃力４００↓１４００

「残念だが俺のモンスターの守備力までは届かないぜ」

コザッキー　攻撃力１４００＜マイン・ゴーレム　守備力１９００

こなた
ＬＰ４０００－５００＝３５００

「あちゃ～～、うかつだったか～～、とりあえずリバースカードを１枚伏せてターンエンドだよ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　マイン・ゴーレム
魔法トラップ　なし

こまた
ＬＰ３５００
手札３枚
モンスター　コザッキー
魔法トラップ　下克上の首飾り、リバース×１

「俺のターン、、モンスターを裏守備でセット、さらにリバースカードを１枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　マイン・ゴーレム、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

こまた
ＬＰ３５００
手札３枚
モンスター　コザッキー
魔法トラップ　下克上の首飾り、リバース×１

「私のターン、私は異次元トレーナーを守備表示で召喚」

こなたの場に涙目の異次元の狂獣が現れその上にセコンド・ゴブリンが着地する

異次元トレーナー
レベル１闇属性
悪魔族
攻撃力１００守備力２０００
効果なし

「そしてバトルフェイズ、、コザッキーで裏守備モンスターに攻撃」

「俺のモンスターは巨大ネズミだ」

（キュキュキュ～～～）

沢山の人が見えいるデュエルのせいかいつもより興奮している三女

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

「下克上の首飾りの効果で攻撃力が上昇するね」

コザッキー
攻撃力４００→１９００

コザッキーの爪が巨大ネズミの体を切り裂き破壊する

コザッキー　攻撃力１９００＞巨大ネズミ　守備力１４５０

「この瞬間巨大ネズミの効果を発動、、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスターを特殊召喚できる、俺はデッキから激昂のムカムカを特殊召喚」

（ウッシャ～～、祭りだ祭りだ）

三女同様ムカムカも興奮状態だ

元々祭好きだったしな

激昂のムカムカ
地属性レベル５
攻撃力１２００守備力６００
自分の手札１枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

「激昂のムカムカは俺の手札１枚につき攻撃力４００ポイントアップする、手札は４枚、よって攻撃力は１６００ポイントアップ」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→２８００

「なんか強力なモンスター来ちゃったよ～～～、私はこれでターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　マイン・ゴーレム、激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×１

こまた
ＬＰ３５００
手札３枚
モンスター　コザッキー、異次元トレーナー
魔法トラップ　下克上の首飾り、リバース×１

「俺のターン、手札がさらに１枚増えたのでムカムカの攻撃力がアップ」

激昂のムカムカ

攻撃力２８００→３２００

「バトルだ、、激昂のムカムカでコザッキーに攻撃」

いくら下克上の首飾りで攻撃力が上がるとはいえこの攻撃力ならば

「トラップ発動、、ジャスティブレイク」

ジャスティブレイク
通常トラップ
自分フィールド上に表側表示で存在する通常モンスターが攻撃宣言を受けた時に発動する事ができる。表側攻撃表示で存在する通常モンスター以外のフィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

バリバリバリ〜〜っとフィールド全体に雷が駆け抜ける

そして雷が晴れると俺のモンスター達が全滅し相手フィールドのコザッキーだけが残っていた

「うおぉ、、、だが通常召喚はまだ残ってるぜ、俺はモンスターを１体裏守備でセットしリバースを１枚セットしターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

こまた
ＬＰ３５００
手札３枚
モンスター　コザッキー
魔法トラップ　下克上の首飾り

「私のターン、う～～～ん、いいカードが来なかった、とりあえず怖いけどコザッキーで裏守備モンスターに攻撃するね」

「俺のモンスターは伝説の柔術家だ」

伝説の柔術家
レベル３地属性
攻撃力１３００守備力１８００
効果
守備表示のこのカードと戦闘を行ったモンスターは、ダメージステップ終了時に持ち主のデッキの一番上に戻る。

「下克上の首飾りの効果で攻撃力がアップするね」

コザッキー

攻撃力４００→１４００

「だが俺のモンスターの数値の方が上だぜ」

コザッキー　攻撃力１４００＜伝説の柔術家　守備力１８００

こなた
ＬＰ３５００－４００＝３１００

「伝説の柔術家の効果を発動、、守備表示のこのカードを攻撃したモンスターをデッキの１番上に戻すぜ、柔道一直線」

コザッキーの白衣をガシットつかみこなたのデュエルディスクのデッキ部分に投げつける柔術家

「おわっと、、さて、下克上の首飾りだけど効果は使わないね、ドローロックする気はないし」

確かに、ここで下克上の首飾りをデッキトップに戻しても自らの首を絞めるだけだ

「通常召喚は行ってないから私はモンスター１体を裏守備でセットしてターンを終了するよ」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　伝説の柔術家
魔法トラップ　リバース×２

こまた
ＬＰ３１００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

「俺のターン」

俺のＬＰは無傷なのに対し向こうは俺の守備モンスターに特攻してきて自滅し削れている

だが互いに決定打を与えていない情況でもある

だったらここいらで大きく戦況を傾けてやるか

「こい、、ロックストーン・ウォリアー」

ゴロゴロゴロと大きな岩が回転してきて俺のモンスターゾーンで手足が生えロックストーン・ウォリアーに変形する

ロックストーン・ウォリアー
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１８００守備力１６００
効果
このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。このカードの攻撃によってこのカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、自分フィールド上に“ロックストーン・トークン”（地属性レベル１岩石族攻撃力０守備力０）２体を特殊召喚する。このトークンはアドバンス召喚のためにはリリースできない。

「ロックストーン・ウォリアーで裏守備モンスターに攻撃」

「私のモンスターはワイトだよ」

ワイト
レベル１闇属性
アンデット族
攻撃力３００守備力２００
効果なし

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞ワイト　守備力２００

ショルダータックルを喰らってバラバラに砕け散るワイト

「まずい、早いとこ戦況を立て直さないと」

「俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　伝説の柔術家、ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×２

こまた
ＬＰ３１００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターン」

今引いたカードは伝説の柔術家の効果で戻したコザッキー

確かに低レベルバニラデッキは下克上の首飾りとか光学迷彩アーマー等サポートカードが豊富なデッキである

だがひとたび手札が貧しくなればここの能力が低く勢いに押されてしまう弱点もある

どう出るこなた

「私はモンスターを1体裏守備でセット、さらにリバースカードを2枚伏せてターンエンドだよ」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　伝説の柔術家、ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×２

こまた
ＬＰ３１００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、俺はモアイ迎撃砲を召喚する」

（大勢の前で少し緊張しますけど、、、がんばりましょう誠さん）

（あぁ、、期待してるぜ）

モアイ迎撃砲
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１１００守備力２０００
効果
このカードは１ターンに１度裏側守備表示にする事ができる。

「バトル、、ロックストーン・ウォリアーで裏守備モンスターに攻撃」

「私のモンスターはメタモルポットだよ」

メタモルポット
地属性レベル２
岩石族
攻撃力７００守備力６００
効果
リバース：お互いの手札を全て捨てる。その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを５枚ドローする。

手札交換カードか

態勢をたてかえるために伏せたのかもしれないが逆に嬉しいぜ

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞メタモルポット守備力６００

「メタモルポットの効果でお互いの手札を全て墓地に送り５枚ドローする」

「バトル続行、、モアイ迎撃砲でダイレクトアタック、イースターレーザーキャノン！！」

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

こなた
ＬＰ３１００－１１００＝２０００

「うぅ、、少しまずいかな」

「バトルフェイズを追えメイン２では何もせずこのままターンを終了するぜ」

誠

ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　伝説の柔術家、ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×２

こまた
ＬＰ２０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン、、伏せカードオープン、ライトニング・ボルテックス」

ライトニング・ボルテックス
通常魔法
手札を１枚捨てて発動する。相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊する。

「手札を１枚捨てて相手フィールド上の表側表示モンスターを全て破壊するよ」

俺のフィールドに無数の雷が落下する

そして雷が晴れた頃にはモンスターが全ていなくなっていた

「さらにダンシング・エルフを召喚」

パ～っと光が天から差し込みその光の中から小さめのエルフの女の子が降り立つ

ダンシング・エルフ
レベル１風属性
天使族
攻撃力３００守備力２００
効果なし

「さらに装備魔法進化する人類を装備するね」

進化する人類
装備魔法
自分のライフポイントが相手より下の場合、装備モンスターの元々の攻撃力は２４００になる。自分のライフポイントが相手より上の場合、装備モンスターの元々の攻撃力は１０００になる。

ゴゴゴゴとダンシング・エルフに光が集まる

進化する人類を亜人類であるエルフが装備するとはこれいかに

「ＬＰは私の方が低いからダンシング・エルフの攻撃力が２４００に変化するね」

ダンシング・エルフ
攻撃力４００→２４００

すごいな、実質デーモンの斧２枚

「お返しだよ、ダンシング・エルフでダイレクトアタック」

ヒラヒラと舞いながらダンシング・エルフが俺に近づいてきて回し蹴りを俺に浴びせる

「うぅ」

ダンシング・エルフ　攻撃力２４００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

誠
ＬＰ４０００－２４００＝１６００

「だが、ＬＰが逆転しダンシング・エルフの攻撃力が変化するぞ」

ダンシング・エルフ
攻撃力２４００→１０００

「状況をひっくり返しただけで十分だよ、私はリバースカードを１枚伏せてターンエンドだよ」

誠
ＬＰ１６００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

こまた
ＬＰ２０００
手札３枚
モンスター　ダンシング・エルフ
魔法トラップ　進化する人類、リバース×１

「俺のターン、巨大ネズミを召喚」

（やっと私の出番ね）

本日２枚目の巨大ネズミ、どうやら長女のようだ

「そしてバトル、巨大ネズミでダンシング・エルフに攻撃」

「リバースカードオープン、、突撃指令」

突撃知れ
速攻魔法
自分フィールド上に表側表示で存在する通常モンスター（トークンを除く）1体を選択して発動する。発動後、選択した通常モンスターを生け贄に捧げ、相手フィールド上のモンスター1体を破壊する。

「ダンシング・エルフを生け贄に巨大ネズミを破壊するよ」

激しくスピンしながらダンシング・エルフが俺の巨大ネズミと正面衝突し激しい爆発を起こしながらフィールドから消える

（リクルーター効果さえも使えないなんて、、、やっぱ私は不幸ね）

「ぐぅ、、俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ１６００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

こまた
ＬＰ２０００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターン、、私はもけもけを召喚」

今度は四角い豆腐に羽と目と？マークが付いた謎の天使が舞い降りる

もけもけ
レベル１光属性
天使族
攻撃力３００守備力１００
効果なし

なんだ、今度は俺のやる気を０にする作戦か？

「さらに装備魔法明鏡止水の心を装備」

明鏡止水の心
装備魔法
装備モンスターが攻撃力１３００以上の場合このカードを破壊する。
このカードを装備したモンスターは、戦闘や対象モンスターを破壊
するカードの効果では破壊されない。（ダメージ計算は適用する）

「バトル、もけもけで相手プレイヤーに直接攻撃」

もけもけ～～～っと奇声を上げながら俺に向かって怪音波を飛ばしてくるもけもけ

もけもけ　攻撃力３００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

誠
ＬＰ１６００－３００＝１３００

くそ、ＬＰがヤバイ

だがそれ以上にあの明鏡止水の心が１番厄介だ

次のターンこなたにダメージを与えることができるがもけもけは破壊されずしかも次ターンからは守備にされ俺の攻撃を防ぐ

「ターンエンドだよ」

誠
ＬＰ１３００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

こまた
ＬＰ２０００
手札２枚
モンスター　もけもけ
魔法トラップ　明鏡止水の心

「俺のターン、、、いよっしゃ、サイクロン発動」

「チョ、それなんてチートドロー」

サイクロン
速攻魔法
フィールド上の魔法または罠カード１枚を破壊する。

「もけもけに装備されている明鏡止水の心を破壊する」

俺のフィールドから旋風が発生しもけもけの体を包み込みまとっていたオーラを破壊する

「これで厄介な装備カードが消えた、そして本日３体目の巨大ネズミ召喚」

（がんばって戦ってきます、、、それにしても、大勢の、ハァハァ、、、大勢の人が私を見ている）

三女やムカムカ同様次女も興奮しているようだ、、、、別の意味で

しっかし、1回のデュエルで巨大ネズミを3回も引き当てるとは

生前のＬＰ８０００の世界ならまだしも４０００のこの世界では初じゃないか？

「バトル、、巨大ネズミでもけもけに攻撃」

大きく振りかぶって巨大ネズミがもけもけの頭に頭蓋骨を叩きつける

巨大ネズミ　攻撃力１４００＞もけもけ　攻撃力３００

こなた

ＬＰ２０００－１１００＝９００

「いよっし、、大打撃だ」

「うぅ、、チョットまずいかも」

「このまま押し切れるか、、、ターンエンド」

誠

ＬＰ１３００

手札４枚
モンスター　巨大ネズミ
魔法トラップ　リバース×２

こまた
ＬＰ９００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターン、、ドロー、Ｋｔｋｒ魔法発動、、壺の中の魔術書」

壺の中の魔術書（マンガ版ＧＸオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする。

「プレイヤーは互いにデッキからカードを3枚ドローする」

「いいのか、、確かにそっちの手札も増えたが俺の手札も増えてしまったぜ」

「フッフッフッフ、貴様の余裕もそれまでだ、、私は魔の試着部屋を発動させる」

魔の試着部屋
通常魔法
８００ライフポイントを払う。自分のデッキの上からカードを４枚めくり、その中のレベル３以下の通常モンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。それ以外のカードはデッキに戻してシャッフルする。

こなた
ＬＰ９００－８００＝１００
自分のＬＰを１００にしてまで使ってくるとは

「４枚めくるね、、魔界植物に骨ネズミ、クオンティティーにキーメイス」

魔界植物
レベル１闇属性
悪魔族
攻撃力４００守備力３００
効果なし

骨ネズミ
レベル１闇属性
アンデット族

攻撃力４００守備力３００
効果なし

クオンティティー（マンガ版ＧＸオリジナル）
レベル１地属性
機械族
攻撃力５００守備力４００
効果なし

キーメイス
レベル１光属性
天使族
攻撃力４００守備力３００
効果なし

マジかよ、魔の試着部屋で４枚全部モンスターって
さすがは別作品とはいえ主人公、ナイスチートドローだ

「そしてヘルバウンドを通常召喚」

ヘルバウンド
レベル１闇属性
アンデット族
攻撃力５００守備力２００
効果なし

これでこなたの場にレベル1通通常モンスターが5体ならんだか

「そしてこれが私の切り札、手札から弱肉一色発動」

弱肉一色
通常魔法
自分フィールド上にレベル2以下の通常モンスターが表側表示で5体存在する時に発動する事ができる。お互いのプレイヤーは手札を全て捨て、レベル2以下の通常モンスターを除くフィールド上に存在するカードを全て破壊する。

魔法発動と同時にこなたの場のモンスターたちがいっせいに光りだした

「さぁ、、このカードの効果で互いのプレイヤーは手札を全て捨てレベル2以下の通常モン

スター以外のフィールド上の全てのカードを墓地に送るよ」

「させるかよ、、、弱肉一色にチェーンして和睦の使者発動」

「うお」

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは０になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

「まさか、、そのカードをず～～～っと温存していたなんて」

「ず～～～っと警戒してたんだぜ」

こなたの場のモンスターの光が収まった頃にはこなたのレベル１モンスター以外全て消え去っていた

「しょうがない、、このままターンエンドだね」

誠
ＬＰ１３００
手札０枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

こまた
ＬＰ１００

手札０枚
モンスター　魔界植物、骨ネズミ、クオンティティー、キーメイス、ヘルバウンド
魔法トラップ　なし

「俺のターン」

さて、さっきのターンは和睦でどうにかしのいだが問題は俺がここでモンスターをドローしなければ負ける

１番好ましいのはメガロック・ドラゴンを引ければいいんだが

「ドロー！！！」

引いたカードは

「俺はモンスターを裏守備でセットしターンエンドだ」

誠
ＬＰ１３００
手札０枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

こまた

ＬＰ１００
手札０枚
モンスター　魔界植物、骨ネズミ、クオンティティー、キーメイス、ヘルバウンド
魔法トラップ　なし

「私のターン、、、ドロー」

（まずいな～、裏守備が1体いるよ、攻撃するべきかな、、、、でも誠君は岩石デッキ、やたらと守備力が高いカードが多かったよね、そして今ドローしたカードはモンスター、、、、、突撃指令だったら勝ちだったのに）

「私はモンスター全て守備表示に変更してターンエンドだよ」

誠
ＬＰ１３００
手札０枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

こまた
ＬＰ１００
手札０枚
モンスター　魔界植物、骨ネズミ、クオンティティー、キーメイス、ヘルバウンド

魔法トラップ　なし

「俺のターン、、これで終わらせるぜ、召喚、メデューサ・ワーム」

ここでこのカードを引くとは、俺はかっこよくメガロックで決めたかったのに

アレか、お笑い担当なのかメデューサ・ワームは

「メデューサ・ワームを攻撃表示で召喚」

ベキベキベキ～～っと地面を割りながら巨大なムシが姿を現す

メデューサ・ワーム
地属性レベル２
岩石族
攻撃力５００守備力６００
効果
このカードは１ターンに１度だけ表側守備表示にする事ができる。
このカードが反転召喚に成功した時、相手フィールド上のモンスター１体を破壊する。

「そして裏守備モンスターを攻撃表示に変更、マジックホール・ゴーレムだ」

裏側表示のカードが表になり底からわっかに頭が引っ付いた土人形

が姿を現す

マジックホール・ゴーレム
レベル３地属性
岩石族
攻撃力０守備力２０００
効果
１ターンに１度、自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター１体を選択して発動する事ができる。選択したモンスターはエンドェイズ時まで攻撃力が半分になり、このターン相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。この効果を発動するターン、選択したモンスター以外のモンスターは攻撃する事ができない。

「マジックホール・ゴーレムの効果を発動、、自分フィールド上のモンスター１体を指定しそのモンスターの攻撃力を半分にすることでそのカードはダイレクトアタックができるようになる、、俺はメデューサ・ワームを選択」

メデューサ・ワーム
攻撃力５００→２５０

「これで最後だ、、メデューサ・ワームで相手プレイヤーにダイレクトアタック」

マジックホール・ゴーレムの中に飛び込んでいくメデューサ・ワーム
次の瞬間こなたの目の前にブラックホールが発生しこなたに体当たりをぶちかます
「天は我を見放した～～～～～」
メデューサ・ワーム（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー
こなた
ＬＰ１００－２５０＝－１５０
「勝者、、デュエルアカデミィ～ア代表、小野寺　誠」
「「ワ～～～～～～～～～～」」
「ウオッシャ～～～～～」
「いや～～～、最後の最後で逆転されたね」
最後のダイレクトアタックを暗い尻餅をついたこなたであったが立ち上がり俺に近づいてきた
「そっちこそ、、まさか弱肉一色を使ってくるとは思わなかったぜ」

「でも、まさかそれを警戒されて和睦を使われるとは私も予想外だったね～」

「俺も1撃必殺系カードの使い手だからな、対処方法は熟知している」

「さすがは本校代表だね、面白かったよ、、機会があったら又やろうね」

「あぁ」

デュエル場の真ん中でこなたと握手をする

デュエルアカデミア本校と他校との交流試合はデュエルアカデミア側の勝利で幕が上がった。

第２２話東西南北中央不敗、スーパーアジアとなるのだ！！！（後書き）

更新履歴をみたら約一ヶ月ぶりの更新でした

脳内でのネタはすでに2期ぐらいまで言っているんですが時間が…

……

仕事もチョット落ち着いてきているのでコツコツと更新したいと思います

それではまた次回会いましょう、冬将軍でした。

第２３話浅上藤乃より有名な曲がれ！！！（前書き）

夏コミ参加してきました。いや～～～最高でした（主に気温が）。
憧れの人とも会えたしもうわが生涯にいっぺんの悔いなし、いや～～～～～～～（白化）

落ち着いたことだしたまりにたまった小説を更新します。

第２３話浅上藤乃より有名な曲がれ！！！

交流試合1戦目は見事俺が勝利しデュエルアカデミア本校が先制点を取った

「スッゲーデュエルだったぜ誠」

「あぁ、、、だが全国に放送されているのに事故って俺が一方的に殴られていくという最悪の事態になった時にはどうしようかと思ったがな」

後でディレクターのところ言って手でハサミを作って“カットをお願いします”とやってくるか

「次は、サウス校との代表戦か」

「そういえば、、、、デュエルに夢中で気づかなかったが俺と十代以外の代表って誰なんだ」

「俺です」

十代と話しているとデュエルアカデミア代表控え室に昭二が入ってきた

「昭二、久しぶりだな、、、、、アレ」

久しぶりに友と再会できた俺だったが何か違和感を感じる

「昭二、その服は」

「ハイ、、こないだの月1試験で結果を残せてラーイエローに昇格しました」

そうか、確かに昭二の実力ならそれもわかる

「第2試合はデュエルアカデミア本校代表とサウス校代表の試合です、代表選手は準備に取り掛かってください」

「それじゃあ行ってきます、誠さんの作った勢いを消したりしないです」

「あんまし気張るな、、、全力で楽しんで来い」

「ハイ!!」

そう言ってデュエル場に姿を消していく昭二

「さて、、それじゃあ昭二のデュエルをよく見るために観客席に行きますか、十代もくるか」

「いいや、もう少しここでデッキの調整をしたいから遠慮しとく」

「そうか、、そんじゃあ、お前の分も応援しといてやるぜ」

数分後

真間と連絡を取り合い俺はどうにか席に座りデュエルを観戦できることとなった

「さっきのデュエルすごかったな、正直弱肉一色が発動したときは負けると思ったぞ」

「ッヘ、コレでも一応代表だからな、、裏をかいてやったぜ」

「でも、、全国放送で事故ったのはチョットアレだったな」

「まぁ、、後でディレクターに俺のデュエルをカットしてもらうさ」

あのデュエルが歴史に残る事だけは避けなければならない

「お！！とうとう第2試合が始まるようだ」

「それで～～は、第2試合、デュエルアカデミア本校とサウス校代表の試合を始めるの～～～ね」

「「わ～～～～～～」」

「デュエルアカデミ～ア本校代表、君島　昭二」

「ハイ！！！」

覇気のこもった声と共に昭二がデュエルフィールドにやってくる

最初見たときはいじめられっこキャラだったのにすごい成長だ

「つづい～～て、サウス校代表、、小泉　一樹」

「「キャ～～～～～～～～」」

クロノス先生の台詞と共に会場が黄色い声が埋め尽くされる

よく見ると向こうサイドの応援席が女性で埋め尽くされている

そしてそんな黄色い歓声の中

って、小泉　一樹だと、あの“まっが～～れ”で有名な一樹ではないか

なるほど、この黄色い歓声もうなずけるぜ

周りの男子生徒から恐ろしいまでの殺気のこもった視線が小泉に向けられる

まぁ、わからないでもないが、俺もティアさんと戦ったときも似たような視線をくらった

って、サウス校ってハルヒの学校なのか？

つまりどこかに鶴屋さんも……っているわけないか、小泉が代表で来てるんだし

べ、別に鶴屋さんがいなくたって悔しくないんかないんだからね

……ゴメン自分でやって自分で気持ち悪かった

視線変更～昭二～

俺の目の前にはどこか裏のありそうな笑顔をした優男が立ている

まぁあの顔だから女子の受けもいいのかもしれない

だが周りの男子生徒から恐ろしい視線が向けられている、夜道には気おつけてくださいサウス校代表

「はじめまして、、小泉　一樹と申します」

「ご丁寧にどうも、、君島　昭二です、第1試合に負けないくらいの楽しいデュエルにしましょう」

「えぇ、、それでは」

「「デュエル」」

昭二
ＬＰ４０００

小泉
ＬＰ４０００

「僕のターンですね、、モンスターを裏守備でセットしリバースカードを1枚伏せてターンエンドです」

昭二
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

小泉
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、Ｄ・Ｄ・アサイラントを召喚」

大きな見をたずさえた覆面剣士が俺に場に現れる

Ｄ・Ｄ・アサイラント
レベル４地属性

戦士族
攻撃力１７００守備力１６００
効果
このカードが相手モンスターとの戦闘によって破壊された時、そのモンスターとこのカードをゲームから除外する。

「中々強力なカードですね」

「俺の主力カードの1枚さ、、バトルだ、Ｄ・Ｄ・アサイラントで裏守備モンスターに攻撃」

Ｄ・Ｄ・アサイラントが背中の大剣をかかえて敵モンスターに突進していく

「僕のモンスターはカバリストです」

相手の裏守備モンスターが表になると頭にピカピカした機械をつけた博士っぽいモンスターになった

カバリスト
レベル1地属性
サイキック族
攻撃力１００守備力１００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、８００ライフポイントを払う事で自分のデッキからサイキック族モンスター1

体を手札に加える。

D・D・アサイラント　攻撃力１７００＞カバメント　守備力１００

「カバメントのモンスター効果、このカードが戦闘によって破壊されたので僕はＬＰを８００支払いデッキからサイキック族モンスター１体を手札に加えます、僕はサイコ・ウォールドを手札に加えます」

小泉
ＬＰ４０００－８００＝３２００

サイキック族、あまり聞いたことないカードだ

「俺はリバースカードを１枚伏せてターンエンドです」

昭二
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　D・D・アサイラント
魔法トラップ　リバース×１

小泉
ＬＰ３２００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「僕のターン、僕はさっき手札に加えたサイコ・ウォールドを通常召喚します」

ビリビリと相手フィールドに電流が走り地面から電撃を放ったナメクジっぽいモンスターが姿を現す

サイコ・ウォールド
レベル４地属性
サイキック族
攻撃力１９００守備力１２００
効果
８００ライフポイントを払って発動する。自分フィールド上に表側表示で存在するサイキック族モンスター１体は、１度のバトルフェイズ中に２回攻撃する事ができる。この効果を発動するターンこのカードは攻撃する事ができない。

攻撃力１９００のモンスター
だが俺のアサイラントは戦闘で破壊された時破壊したモンスターを道連れに除外する効果を持っている
「さらに手札の最古式念導を発動」
最古式念導
通常魔法
自分フィールド上にサイキック族モンスターが表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。フィールド上のカード1枚を破壊し、自分は１０００ポイントダメージを受ける。
「この効果でＤ・Ｄ・アサイラントを破壊します」
Ｄ・Ｄ・アサイラントの体に電流が走り次の瞬間爆発し俺のフィールドから消えていく
「ック、、だが最古式念導が発動したら１０００ポイントのダメージが君に発生する」
最古式念導の効果演出だろうか今度は小泉君の周りに電流が発生する
「そこでリバースカード、、地獄の扉越し銃を発動させます」

地獄の扉越し銃
カウンタートラップ
ダメージを与える効果が発動した時に発動する事ができる。自分が受けるその効果ダメージを相手に与える。

相手の場のトラップカードが発動した瞬間小泉君の周りの電流が消滅し俺の周りに移動する

「うわ～～～～」

昭二
ＬＰ４０００－１０００＝３０００

なんてコンボだ、モンスター除去を行いライフコストをダメージ効果に変えてくるとは

「バトルです、、サイコ・ウォールドで相手プレイヤーにダイレクトアタック」

のっしのっしと俺に近寄ってくるナメクジのお化け

女子だったら悶絶してしまいそうな恐怖映像だぜ

「リバースカードオープン、、血の代償」

血の代償
永続トラップ
５００ライフポイントを払う事で、モンスター1体を通常召喚する。この効果は自分のメインフェイズ時及び相手のバトルフェイズ時にのみ発動する事ができる。

「俺はＬＰ５００を支払い不死武士を守備表示で召喚する」

昭二
ＬＰ３０００－５００＝２５００

サイコ・ウォールドの目の前に落ち武者が現れ敵の進軍を防ぐ

不死武士
レベル３闇属性
戦士族
攻撃力１３００守備力６００
効果
このカードは戦士族モンスターの生け贄召喚以外の生け贄にはできない。自分のスタンバイフェイズ時にこのカードが墓地に存在し、自分フィールド上にモンスターカードが存在しない場合、このカードを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。この効果は自分の墓地に戦士族以外のモンスターが存在する場合には発動できない。

「バトル続行、、サイコ・ウォールドで不死武士に攻撃」

ナメクジの化け物はそのまま突き進み俺の落ち武者をひき殺して言った

サイコ・ウォールド　攻撃力１９００＞不死武士　守備力６００

「ダメージを与えられませんでしたか、メイン2でリバースカードを1枚伏せます、、、僕はコレでターンエンドです」

昭二
ＬＰ２５００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　血の代償

小泉
ＬＰ３２００
手札５枚
モンスター　サイコ・ウォールド
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、墓地に眠る不死武士の効果を発動、墓地には戦士族モンスターしか存在しないのでこのカードを自分フィールドに特殊召喚します」

ボコボコとアンデット族モンスターみたいに俺のフィールドに先程の落ち武者が召喚される

「そして不死武士を生け贄に、、現れろ、無敗将軍フリード」

落ち武者がいっぺん俺のフィールドにヒゲの生えた貫禄の有る将軍剣士が召喚される

なんか

不死武士↑いやな年の取り方

ジェネラル・フリード↑いい年の取り方

っという変な方程式が脳裏をよぎってしまった

無敗将軍フリード
レベル５地属性
戦士族
攻撃力２３００守備力１７００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカードを対象にする魔法カードの効果を無効にし破壊する。このカードが

フィールド上に表側表示で存在する限り、自分のドローフェイズ時に通常のドローを行う代わりに、自分のデッキからレベル４以下の戦士族モンスター１体を手札に加える事ができる。

「バトル、、フリードでサイコ・ウォールドを攻撃」

フリードが剣を構えそのままナメクジの化け物に突進し相手モンスターの体を真っ二つに切り裂く

「ック」

無敗将軍フリード　攻撃力２３００＞サイコ・ウォールド　攻撃力１９００

小泉
ＬＰ３２００－４００＝２８００

「「キャ～～～～～～小泉様～～」」

小泉君がダメージを食らうと同時に会場が黄色い悲鳴に包まれる

そういえば、誠さんもランスターさんとデュエルした時もこんな状況が発生してたな～～と思い出す

「リバースカードを1枚伏せてターンエンドです」

昭二
ＬＰ２５００
手札３枚
モンスター　無敗将軍フリード
魔法トラップ　血の代償、リバース×１

小泉
ＬＰ２８００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「僕のターン、、僕はリバースカードを1枚伏せてメンタルプロテクターを守備表示で召喚します」

メンタルプロテクター
レベル３光属性
サイキック族
攻撃力０守備力２２００
効果
このカードのコントローラーは自分のスタンバイフェイズ毎に５０

0ライフポイントを払う。この時に５００ライフポイント払えない場合はこのカードを破壊する。このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、サイキック族モンスター以外の攻撃力２０００以下のモンスターは攻撃宣言をする事ができない。

レベル3で守備力２２００

毎スタンバイフェイズに強制ライフコストが発生するがなんて優秀なカードなんだ

「僕はコレでターンエンドです」

昭二
ＬＰ２５００
手札３枚
モンスター　無敗将軍フリード
魔法トラップ　血の代償、リバース×１

小泉
ＬＰ２８００
手札４枚
モンスター　メンタルプロテクター
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、ドローフェイズにフリードの効果を発動、デッキからキングス・ナイトを手札に加えます、、そしてスタンバイフェイズ時墓地に眠る不死武士を特殊召喚、そしてメインフェイズで不死武士を生け贄にささげて聖なる力を備えた高等騎士、聖導騎士イシュザークを召喚」

再び不死武士が渦に包まれその渦の中から純白の鎧に身を包んだ高等騎士が姿を現す

聖導騎士イシュザーク
レベル６光属性
戦士族
攻撃力２３００守備力１８００
効果
このカードが戦闘によってモンスターを破壊した時、そのモンスターをゲームから除外する。

「なるほど、、不死武士を使った上級モンスターデッキですか」

「バトル、、イシュザークで裏守備モンスターに攻撃」

光の剣が黄金の体を真っ二つに切り裂く

無敗将軍フリード　攻撃力２３００＞メンタルプロテクター　守備

力２２００

「メンタルプロテクターが戦闘で破壊されたことによりリバースカードを発動させてもらいます、、念導力」

念導力
通常トラップ
通常トラップ
自分フィールド上に表側表示で存在するサイキック族モンスターが、相手モンスターの攻撃によって破壊された場合に発動する事ができる。その時に攻撃を行った相手モンスター１体を破壊し、その攻撃力分だけ自分のライフポイントを回復する。

「イシュザークを破壊しその攻撃力分ＬＰを回復します」

うわ～～～っと断末魔をあげながらフリードが俺のフィールドから消え去る

小泉
ＬＰ
２８００＋２３００＝６１００

「ック、上級モンスターが破壊された上ＬＰまで回復されるとは、だったらでフリードダイレクトアタック」

「おっと」

無敗将軍フリード　攻撃力２３００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

小泉
ＬＰ６１００－２３００＝２８００

ＬＰが元通りになっただけか

だけど、こっちにはサーチ能力と魔法効果を打ち消す上級モンスターフリードがいる分ある程度は有利だ

「リバースカードを１枚伏せてターンエンドです」

昭二
ＬＰ２５００
手札３枚
モンスター　無敗将軍フリード
魔法トラップ　血の代償、リバース×１

小泉
ＬＰ２８００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「僕のターン、、手札のデビルズ・サンクチュアリを発動します」

デビルズ・サンクチュアリ
通常魔法
メタルデビル・トークン（悪魔族・闇・星１・攻／守０）を自分のフィールド上に１体特殊召喚する。このトークンは攻撃をする事ができない。メタルデビル・トークンの戦闘によるコントローラーへの超過ダメージは、かわりに相手プレイヤーが受ける。自分のスタンバイフェイズ毎に１０００ライフポイントを払う。払わなければ、メタルデビル・トークンを破壊する。

「そしてメタルでビルトークンを生け贄にささげマジカル・アンドロイドを召喚します」

相手の場にまがまがしいオーラと共に現れた悪魔の像が召喚された瞬間渦にのまれそこから半分機械半分生身の女性モンスターが姿を

現す

マジカル・アンドロイド
レベル５光属性
サイキック族
攻撃力２４００守備力１７００
効果
自分のエンドフェイズ時、自分フィールド上に表側表示で存在するサイキック族モンスターの数×６００ライフポイント回復する。

「バトルです、、マジカル・アンドロイドでフリードに攻撃」

手に持った杖のような機械で俺のフリードの体を突いてくるマジカル・アンドロイド

そのつきをくらいバリ～～ンと割れてフリードは消滅する

マジカル・アンドロイド　攻撃力２４００＞無敗将軍フリード　攻撃力２３００

昭二
ＬＰ２５００－１００＝２４００

「うお、、フリードが」

「僕のエンドフェイズにマジカル・アンドロイドの効果でＬＰを６００回復させてもらいます」

小泉
ＬＰ２８００＋６００＝３４００

昭二
ＬＰ２５００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　血の代償、リバース×１

小泉
ＬＰ３４００
手札３枚
モンスター　マジカル・アンドロイド
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、不死武士の効果で墓地から特殊召喚、、そしてモンスターを1体裏守備でセットしターンエンドだ」

まずい、起死回生のカードが手札にない、ここは壁モンスターで時間を稼ぐ

昭二
ＬＰ２５００
手札３枚
モンスター　不死武士、裏守備×１
魔法トラップ　血の代償、リバース×１

小泉
ＬＰ３４００
手札３枚
モンスター　マジカル・アンドロイド
魔法トラップ　リバース×１

「僕のターン、、テレキアタッカーを召喚します」

相手の場に潜水服っぽい装備の電流を体にみにまとったモンスターが召喚される

テレキアタッカー
レベル４地属性
サイキック族
攻撃力１７００守備力７００
効果
サイキック族モンスターが破壊される場合、５００ライフポイントを払い代わりにこのカードを破壊する事ができる。

「バトルです、テレキアタッカーで不死武士に攻撃します」

最新鋭の装備を装備したモンスターを前に俺の落ち武者はなすすべなく倒されてしまう

テレキアタッカー　攻撃力１７００＞不死武士　守備力６００

「続けてマジカル・アンドロイドで裏守備に攻撃します」

「俺の裏守備モンスターはダークソードだ」

闇魔界の戦士ダークソード
レベル４闇属性
戦士族
攻撃力１８００守備力１５００
効果なし

マジカル・アンドロイド　攻撃力２４００＞ダークソード　守備力１５００

「そしてエンドフェイズに僕のＬＰが１２００回復します」

小泉
ＬＰ３４００＋１２００＝４６００

まずいまずいぞ、ＬＰがどんどん引き離されていく

早くマジカル・アンドロイドをどうにかしないと

「コレでターンエンドです」

昭二
ＬＰ２５００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　血の代償、リバース×１

小泉
ＬＰ４６００
手札３枚
モンスター　マジカル・アンドロイド、テレキアタッカー
魔法トラップ　リバース×１

「僕のターン、とりあえず不死武士を守備表示で復活させて、、壷の中の魔術書を発動」

壷の中の魔術書（マンガ版ＧＸオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする。

「よし、、魔法発動、、融合」

融合
通常魔法
手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

「手札の絵札の三銃士を融合、、、上位騎士、アルカナナイトジョーカーを召喚」

アルカナナイトジョーカー
レベル9光属性
戦士族
攻撃力3800守備力2500
融合　クィーンズ・ナイト＋ジャックス・ナイト＋キングス・ナイト
効果
このカードの融合召喚は上記のカードでしか行えない。フィールド上に表側表示で存在するこのカードが、魔法カードの対象になった場合は魔法カードを、罠カードの対象になった場合は罠カードを、効果モンスターの効果の対象になった場合はモンスターカードを、手札から1枚捨てる事でその効果を無効にする。この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「バトルだ、、アルカナナイトジョーカーでマジカル・アンドロイドを攻撃、アルカナフラッシュ・JQK!!!」

アルカナナイトジョーカーの剣からレーザーブレードが発生し相手

フィールドのアンドロイドを真っ二つにする

アルカナナイトジョーカー　攻撃力３８００＞マジカル・アンドロイド　攻撃力２４００

小泉
ＬＰ５５００－１４００＝４１００

バ～～ンと大きな爆発が起こり砂埃が辺りを覆いつくす

「コレでマジカル・アンドロイドの回復効果が、、、、アレ？」

砂埃が晴れるとそこにいないはずのマジカル・アンドロイドがまだフィールドに残っていた

「なんで、、マジカル・アンドロイドが」

「テレキアタッカーの効果を使ったんです、僕のＬＰを５００支払いマジカル・アンドロイドの破壊をテレキアタッカーに身代わりにさせました」

小泉
ＬＰ４６００－５００＝４１００

「クソ、、まだアンドロイドが残ってしまったか、とりあえずターンエンドだ」

昭二
ＬＰ２５００
手札２枚
モンスター　アルカナナイトジョーカー、不死武士
魔法トラップ　血の代償、リバース×１

小泉
ＬＰ４１００
手札６枚
モンスター　マジカル・アンドロイド
魔法トラップ　リバース×１

「僕のターン、、僕はカバリストを守備表示で召喚します、、そしてマジカル・アンドロイドを守備表示に変更しリバースカードを３枚セット、エンドフェイズ時マジカル・アンドロイドの効果によりＬＰを１２００ポイント回復します」

小泉
ＬＰ４１００＋１２００＝５３００

「ターンエンドです」

昭二
ＬＰ２５００
手札２枚
モンスター　アルカナナイトジョーカー、不死武士
魔法トラップ　血の代償、リバース×１

小泉
ＬＰ５３００
手札３枚
モンスター　マジカル・アンドロイド、カバリスト
魔法トラップ　リバース×４

「俺のターン、、俺は不死武士を生け贄に、、マキシマム・シックスを召喚」

俺の場に６本腕のマッスルなモンスターが現れる

マキシマム・シックス
レベル６地属性
攻撃力１９００守備力１６００
効果
このカードが生け贄召喚に成功した時、サイコロを１回振る。この

カードの攻撃力は、フィールド上に表側表示で存在する限り、出た目×２００ポイントアップする。

「マキシマム・シックスの効果を発動、、サイコロを振って出た目×２００ポイント攻撃力が上がる、、、ダイスロール」

立体映像のサイコロが宙を舞う

結果は３

「よって、マキシマム・シックスの攻撃力が６００ポイントアップする」

マキシマム・シックス
攻撃力１９００→２５００

「バトル、、マキシマム・シックスでカバリストを攻撃」

フンヌ！！っとマキシマム・シックスがその豪腕で頭でっかちな科学者を叩き潰した

マキシマム・シックス　攻撃力２５００＞カバリスト１００

「ここでカバリストの効果を発動します、、ＬＰを８００ポイント

支払ってデッキからメンタルスフィア・デーモンを手札に加えます」

小泉
ＬＰ５３００－８００＝３５００

「そしてアルカナナイトジョーカイでマジカル・アンドロイドを攻撃！！」

レーザーブレードで機械仕掛の女性モンスターを切り裂くアルカナナイトジョーカー

アルカナナイトジョーカー　攻撃力３８００＞マジカル・アンドロイド　守備力１７００

「そしてリバースカードオープン、、融合解除！！！」

融合解除
速攻魔法
フィールド上に表側表示で存在する融合モンスター1体を選択してエクストラデッキに戻す。さらに、エクストラデッキに戻したこのモンスターの融合召喚に使用した融合素材モンスター一組が自分の墓地に揃っていれば、この一組を自分フィールド上に特殊召喚する

事ができる。

「アルカナナイトジョーカーの融合を解除、、再び舞い戻れ三銃士」

俺のアルカナナイトジョーカーの体が光に変わり3つの光の柱に分離し光が晴れると三銃士の姿に

変わり俺のフィールドに降臨する

「バトルだ、三銃士で相手プレイヤーにダイレクトアタック」

この攻撃が通れば俺の勝ちだが

「リバースカードオープン、、緊急テレポート」

緊急テレポート
速攻魔法
自分の手札またはデッキからレベル3以下のサイキック族モンスター1体を特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターはこのターンのエンドフェイズ時にゲームから除外される。

「緊急テレポートの効果でデッキからクレボンスを守備表示で特殊召喚します」

相手フィールドに次元の穴が発生しそこからピエロのようなモンスターが召喚される

クレボンス
レベル２闇属性
サイキック族
攻撃力１２００守備力４００
効果
このカードが攻撃対象に選択された時、８００ライフポイントを払う事でそのモンスターの攻撃を
無効にする。

「だったら、ジャックス・ナイトでクレボンスに攻撃」

「ここでクレボンスの効果を使います、ＬＰを８００支払ってその攻撃を無効にします」

小泉
ＬＰ３５００－８００＝２７００

「だったら次はクィーンズ・ナイトでクレボンスに攻撃」

「再びクレボンスの効果でバトルを無効にする」

小泉
ＬＰ２７００－８００＝１９００

「まだだ、、、キングス・ナイトでクレボンスに攻撃」

「これ以上の出費に意味はありません、受けて断ちます」

三銃士の攻撃がはじめて敵モンスターに届いた

キングス・ナイト　攻撃力１５００＞クレボンス４００

「とどめにまでは届かなかったがＬＰは削った、リバースカードを１枚伏せてターンエンドだ」

昭二
ＬＰ２５００
手札１枚
モンスター　マキシマム・シックス、ジャックス・ナイト、クィーンズ・ナイト、キングス・ナ

イト
魔法トラップ　血の代償、リバース×１

小泉
ＬＰ１９００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×３

「僕のターン、、僕はリビングデットの呼び声を発動させます」

リビングデットの呼び声
永続トラップ
自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「その効果により墓地に眠るマジカル・アンドロイドを攻撃表示で特殊召喚、さらにデビルズ・サンクチュアリを再び発動させメタルデビル・トークンを特殊召喚、、、そして2体のモンスターを生け贄にメンタルスフィア・デーモンを召喚します」

マジカル・アンドロイドとメタルデビル・トークンの体が渦に包まれそこから巨大な悪魔のようなモンスターが相手の場に現れる

メンタルスフィア・デーモン
レベル８闇属性
サイキック族
攻撃力２７００守備力２３００
効果
このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの元々の攻撃力分だけ自分のライフポイントを回復する。サイキック族モンスター１体を対象にする魔法または罠カードが発動された時、１０００ライフポイントを払う事でその発動を無効にし破壊する。

「そしてリバースカード発動です、、バトル・テレポーテーションを発動です」

バトル・テレポーテーション
通常トラップ
自分フィールド上に表側表示で存在するサイキック族モンスターが１体のみの場合、そのモンスター１体を選択して発動する。このターン選択したモンスターは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。このターンのバトルフェイズ終了時、選択したモンスターのコントロールを相手に移す。

「バトルです、、メンタルスフィアデーモンでダイレクトアタックです、バトル・テレポーテーションの効果でこのカードはダイレクトアタックできます」

異次元のトンネルらしき物がメンタルスフィア・デーモンの目の前に現れその体を覆い隠す

そして俺の目の前にその姿を現す

「コレでおしまいです」

ゴゴゴゴゴゴゴとその巨大な腕が振り上げられる

「リバースカードオープン、、攻撃の無力化」

攻撃力の無力化
カウンタートラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。相手モンスター1体の攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

「勝利を目前に焦ったようですね、、攻撃の無力化の効果でダメージは0、そして」

「バトル・テレポーテーションの効果で僕のメンタルスフィア・デーモンのコントロールがあなたに移ります」

先程俺を攻撃しようとしたモンスターが相手プレイヤー側に向き俺のモンスターゾーンにその巨体を俺に預ける

「僕はさらにリバースカードを1枚セットしターンエンドです」

昭二
ＬＰ２５００
手札１枚
モンスター　マキシマム・シックス、ジャックス・ナイト、クィーンズ・ナイト、キングス・ナイト、メンタルスフィア・デーモン
魔法トラップ　血の代償

小泉
ＬＰ１９００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リビングデットの呼び声、リバース×２

「俺のターン、、ドロー」

一見メンタルスフィア・デーモンのコントロールが移ったのは勝ちに急ぎすぎた為のプレイングミスに見える

だがあのリバースが気になる所でもある

しかし俺の手札に状況を打破するカードもモンスターもいない

「墓地に眠る不死武士を守備表示で特殊召喚、そしてバトル、メンタルスフィア・デーモンで相手プレイヤーに攻撃！！」

「リバースカードオープン、、洗脳解除」

洗脳解除
永続トラップ
このカードがフィールド上に存在する限り、自分と相手のフィールド上に存在する全てのモンスターのコントロールは、元々の持ち主に戻る。

「この効果によりメンタルスフィア・デーモンをかえしてもらいます」

俺の場にいたメンタルスフィア・デーモンが攻撃態勢を解除し相手のフィールドに舞い戻る

「そううまくは行かないか、、俺はメイン2で三銃士を守備表示に変更しターンエンドだ」

昭二

ＬＰ２５００
手札２枚
モンスター　マキシマム・シックス、ジャックス・ナイト、クィーンズ・ナイト、キングス・ナイト
魔法トラップ　血の代償

小泉
ＬＰ１９００
手札３枚
モンスター　メンタルスフィア・デーモン
魔法トラップ　リビングデットの呼び声、洗脳解除、リバース×１

「僕のターンですね、コレでおしまいにしましょう、僕はディストラクターを召喚します」

ディストラクター
レベル４地属性
サイキック族
攻撃力１６００守備力４００
効果
１０００ライフポイントを払って発動する。相手フィールド上にセットされた魔法またはトラップカード１枚を破壊する。自分フィールド上にこのカード以外のサイキック族モンスターが存在しない場

合、エンドフェイズ時にこのカードを破壊する。

「ディストラクターの効果発動、、ＬＰを１０００ポイント支払うことで相手フィールド上の魔法トラップを１枚破壊します、僕は血の代償を破壊します」

小泉
ＬＰ１２００－１０００＝２００

相手のフィールドのテレビがメンに手足が生えたモンスターから光線が放たれ俺の血の代償を破壊する

「そして手札のライトニング・ボルテックスを発動」

ライトニング・ボルテックス
通常魔法
手札を１枚捨てて発動する。相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊する。

「この効果により相手フィールド上の表側表示モンスターを全て破壊します」

俺のフィールドに無数の雷が落下し全てのモンスターを破壊していく

「全てのカードが破壊されてしまった」

「おしまいです、、メンタルスフィア・デーモンでダイレクトアタックします」

あの巨大な悪魔めいたモンスターの腕が再び俺に向かって振り上げられる

だが今回は俺の体を押しつぶすかのように振り下ろされていった

「うわ～～～～～～～～」

メンタルスフィア・デーモン　攻撃力２７００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

昭二
ＬＰ２５００－２７００＝－２００

「そこまでなの～～ね、勝者サウス校代表、セニョ～～ル小泉なの～～ね」

「「ワ～～～～～～～～」」

「いい試合でした、、小泉君」

「えぇ、、僕もすごく楽しかったです」

ガシっと握られる互いの腕

残念だったけど、今回は負けてしまった

でもすごく楽しいデュエルだった。

第２３話浅上藤乃より有名な曲がれ！！！（後書き）

サウス校代表はどうしようかと考えてふと小泉が超能力者なのでサイキック族が似合うな～～っと思ってましたが俺はシンクロ召喚苦手な上ＧＸの世界にシンクロモンスターを入れないと決めていたのでどうしようか考えてましたがマンガ版ＧＸでダークエンドドラゴンが効果モンスターからシンクロモンスターと化しているのを見てマジカル・アンドロイドとメンタルスフィア・デーモンを効果モンスターに変えてみました。

さて次回はいよいよ最後の交流試合です。そして三幻編へ。

第２３話浅上藤乃より有名な曲がれ（訂正版）（前書き）

前回ズタボロだった２３話のデュエルシーンのみ書きなおしました。

最近仕事が忙しくネタがあったんですが更新が遅れてしまいました、

やっぱ使い慣れてないカードのデュエルは難しいと改めて思います。

それでは訂正版をどうぞ。

第２３話浅上藤乃より有名な曲がれ（訂正版）

「行くよ小泉君、、、なんか前にも１度こんな事があった気がするけど」

「受けて断ちましょう、、、僕も前に同じことがあった気がしますが」

「「デュエル！！」」

昭二
ＬＰ４０００

小泉
ＬＰ４０００

「僕のターンですね、、僕はモンスターを１体裏守備でセットしターンエンドです」

昭二
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

小泉
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、、俺はダークソードを攻撃表示で召喚」

バサっと漆黒のマントがフィールドに出現しくるくると回転しながらダークソードが俺のフィールドに降り立つ

闇魔界の戦士ダークソード
レベル４闇属性
戦士族
攻撃力１８００守備力１５００
効果なし

「バトルです、、ダークソードで裏守備モンスターに攻撃します」

「僕のモンスターはメンタルプロテクターです」

メンタルプロテクター

レベル３光属性
サイキック族
攻撃力０守備力２２００
効果
このカードのコントローラーは自分のスタンバイフェイズ毎に５００ライフポイントを払う。この時に５００ライフポイント払えない場合はこのカードを破壊する。このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、サイキック族モンスター以外の攻撃力２０００以下のモンスターは攻撃宣言をする事ができない。

闇魔界の戦士ダークソード　攻撃力１８００＜メンタルプロテクター　守備力２２００

昭二
ＬＰ４０００－４００＝３６００

「レベル３で守備力２２００、、、なんて強烈なカードなんだ、、リバースカードを１枚伏せてターンエンドです」

昭二

ＬＰ３６００
手札４枚
モンスター　闇魔界の戦士ダークソード
魔法トラップ　リバース×１

小泉
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

「僕のターンですね、スタンバイフェイズにメンタルプロテクターの維持コストとしてＬＰを５００ポイント払います」

小泉
４０００－５００＝３５００

「さらにメンタルプロテクターを生け贄にマジカル・アンドロイド」

金色のブリキロボットが渦に包まれそこから半分機械半分生身の女性モンスターが姿を現す

マジカル・アンドロイド
レベル５光属性
サイキック族
攻撃力２４００守備力１７００
効果
自分のエンドフェイズ時、自分フィールド上に表側表示で存在するサイキック族モンスターの数×６００ライフポイント回復する。

「バトル、、マジカル・アンドロイドでダークソードに攻撃します」
手に持った杖をグルグルと回しながらダークソードに向かってくるマジカル・アンドロイド

「やらせない、、リバースカードオープン、、突進」

突進
速攻魔法
フィールド上に表側表示で存在するモンスター１体の攻撃力はエンドフェイズ時まで７００ポイントアップする。

「突進の効果でダークソードの攻撃力を７００ポイント上げます」

闇魔界の戦士ダークソード
攻撃力１８００→２５００

「反撃しろ、、ダークソード」

迫ってくる杖を剣ではらい手に持った剣でマジカル・アンドロイドを切り裂くダークソード

マジカル・アンドロイド　攻撃力２４００＜闇魔界の戦士ダークソード　攻撃力２５００

小泉
ＬＰ３５００－１００＝３４００

「これはまずい、、僕はリバースカードを1枚伏せてターンエンドです」

昭二
ＬＰ３６００
手札４枚
モンスター　闇魔界の戦士ダークソード
魔法トラップ　なし

小泉
ＬＰ３４００
手札４枚

モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、、コアキメイル・ベルグザークを召喚」

俺のフィールドに機械でできた心臓のようなものが発生しそこから肉のようなものが噴出す

そして次の瞬間には肉の塊が変形しペルソナの双刀を持った剣士の形となる

コアキメイル・ベルグザーク
レベル４地属性
戦士族
攻撃力２０００守備力２００
効果
このカードのコントローラーは自分のエンドフェイズ毎に手札からコアキメイルの鋼核１枚を墓地へ送るか、手札の戦士族モンスター１体を相手に見せる。または、どちらも行わずにこのカードを破壊する。このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、もう１度だけ続けて攻撃する事ができる。

「その瞬間トラップ発動です、、、クローン複製」

クローン複製
通常トラップ
相手がモンスターの召喚・反転召喚に成功した時に発動する事ができる。フィールド上に表側表示で存在するそのモンスターの元々の種族・属性・レベル・攻撃力・守備力を持つクローントークン１体を自分フィールド上に特殊召喚する。そのモンスターが破壊され墓地へ送られた時、このトークンを破壊する。

「その効果によりコアキメイル・ベルグザークと同じステータスのトークンを僕の場に召喚します」

小泉君の場のトラップカードから肉の塊のようなものが排出され俺のコアキメイル・ベルグザークと同じようにグニグニと変形しペルソナの双剣戦士に変化する

「対応できるカードがない、、、、だったら、バトル、、、コアキメイル・ベルグザークでクローン・トークンを攻撃」

瓜二つの剣士同士がぶつかり合い爆発を起こし互いの体を消滅させる

コアキメイル・ベルグザーク　攻撃力２０００＝クローン・トーク

ン　攻撃力２０００

「これで場ががら空きになった、ダークソードでダイレクトアタック！！！」

漆黒の剣士が相手プレイヤーにその大きな剣を叩きつける

闇魔界の剣士ダークソード　攻撃力１８００（ダイレクトアタック）
＞相手プレイヤー

小泉
ＬＰ３４００－１８００＝１６００

よし、これでＬＰが一気に優勢になった

「メイン２でリバースカードを１枚伏せてターンエンドです」

昭二
ＬＰ３６００

手札３枚
モンスター　闇魔界の戦士ダークソード
魔法トラップ　リバース×１

小泉
ＬＰ１６００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「僕のターンですね、、僕はリバースカードを2枚伏せてガバリストを守備表示で召喚します」

相手のフィールドに電流が走りそこから頭でっかちな科学者らしきモンスターが姿を現す

カバリスト
レベル１地属性
サイキック族
攻撃力１００守備力１００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、８００ライフポイントを払う事で自分のデッキからサイキック族モンスター１体を手札に加える。

「僕はこれでターンエンドです」

昭二
ＬＰ３６００
手札３枚
モンスター　闇魔界の戦士ダークソード
魔法トラップ　リバース×１

小泉
ＬＰ１６００
手札２枚
モンスター　ガバリスト
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、、、さて、そろそろ決めてみたいところですが、、、、忍者マスターＳＡＳＵＫＥを攻撃表示で召喚します」

ダークソードの足元にあった影がビヨ～～～ンと伸びてそこから忍者マスターＳＡＳＵＫＥがド派手に登場する

忍者マスターＳＡＳＵＫＥ

レベル４光属性
戦士族
攻撃力１８００守備力１０００
効果
このカードが表側守備表示のモンスターを攻撃した場合、ダメージ計算を行わずそのモンスターを破壊する。

「バトル、、忍者マスターＳＡＳＵＫＥでガバリストを攻撃、、戦闘破壊によって起動する効果があるそうですが効果破壊させてもらいます」

「残念ですがそうはさせません、リバースカードオープン、、、、ドレイン・シールド」

ドレインシールド
通常トラップ
相手モンスター1体の攻撃を無効にし、そのモンスターの攻撃力分の数値だけ自分のライフポイントを回復する。

「その効果によりＳＡＳＵＫＥの攻撃を無効にしその攻撃力１８００ポイント分ＬＰを回復させていただきます」

小泉
ＬＰ１６００＋１８００＝３４００

「クソ、、だったらダークソードでガバリストに攻撃」

ダークソードが再びフィールドに舞う

その剣が相手フィールド上の頭でっかちな科学者の体を切り裂いた

闇魔界の剣士ダークソード　攻撃力１８００＞ガバリスト　守備力１００

「ガバリストが戦闘で破壊されたので効果を発動、、そしてそれにチェーンしてトラップ発動、、念導力」

念導力
通常トラップ
通常トラップ
自分フィールド上に表側表示で存在するサイキック族モンスターが、相手モンスターの攻撃によって破壊された場合に発動する事ができる。その時に攻撃を行った相手モンスター１体を破壊し、その攻撃力分だけ自分のライフポイントを回復する。

「まずは念導力の効果でダークソードを破壊しその攻撃力分ＬＰを回復します」

小泉
ＬＰ３４００＋１８００＝５２００

「そしてガバリストの効果を発動、、ＬＰを８００ポイント支払ってデッキからサイキック族モンスターを１体手札に加えます」

小泉
ＬＰ５２００－８００＝４４００

「僕はデッキからサイキック族モンスター、メンタルスフィア・デーモンを手札に加えます」

メンタルスフィア・デーモン、どんなステータスや効果があるかわからないが手札に加える瞬間見えた限りでは高レベルモンスターなのは確かだ、それにカードの効果テキスト欄も文字でびっしりだったおそらくは小泉君のエースモンスターか

そしてＬＰも１６００から４４００まで巻き返した

たった3枚のカードでここまで状況をたてかえるとは

「警戒の必要有りだな、、、リバースカードを1枚伏せてターンエンドです」

昭二
ＬＰ３６００
手札２枚
モンスター　闇魔界の戦士ダークソード
魔法トラップ　リバース×２

小泉
ＬＰ４４００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「僕のターンですね、、魔法カード壺の中の魔術書を発動させます」

壺の中の魔術書（マンガ版ＧＸオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする。

「この効果により互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローします」

手札が消費している時にそのカードは嬉しいが相手の手札も肥えてしまった

「よし、、僕は手札からデビルズ・サンクチュアリを発動させます」

ゴゴゴゴゴと不気味な黒い霧が発生し相手フィールドにメタルチックな小さいゴーレムが出現する

デビルズ・サンクチュアリ
通常魔法
メタルデビル・トークン（悪魔族・闇・星1・攻／守0）を自分のフィールド上に1体特殊召喚する。このトークンは攻撃をする事ができない。メタルデビル・トークンの戦闘によるコントローラーへの超過ダメージは、かわりに相手プレイヤーが受ける。自分のスタンバイフェイズ毎に1000ライフポイントを払う。払わなければ、メタルデビル・トークンを破壊する。

「さらにこのメタルデビル・トークンを生け贄に、マックス・テレポーターを召喚します」

鉄のゴーレムがドロドロに溶け始め溶けてできた液体が魔法陣の形となりそこから白いコートを身にまといサングラスをかけた長身の人型モンスターが姿を現す

マックス・テレポーター
レベル６光属性
サイキック族
攻撃力２１００守備力１２００
効果
このカードは特殊召喚できない。２０００ライフポイントを払う事で、自分のデッキからレベル３のサイキック族モンスター２体を特殊召喚する事ができる。この効果はこのカードがフィールド上に表側表示で存在する限り１度しか使用できない。

「さらにマックス・テレポーターの効果を発動、ＬＰを２０００支払うことでデッキよりレベル３のサイキック族モンスターを２体特殊召喚します、、僕はサイコ・コマンダー２体を特殊召喚」

小泉
ＬＰ４４００－２０００＝２４００

相手の場のグラサンモンスターのコートがバサっとなびいてそのマントの中から下半身が砲台付きのＵＦＯになているクレイジーな雰囲気の軍曹っぽいモンスターが２体現れる

サイコ・コマンダー

レベル3地属性
サイキック族
攻撃力１４００守備力８００
効果
自分フィールド上に存在するサイキック族モンスターが戦闘を行う場合、そのダメージステップ時に１００の倍数のライフポイントを払って発動する事ができる（最大５００まで）。このターンのエンドフェイズ時まで、戦闘を行う相手モンスター1体の攻撃力・守備力は払った数値分ダウンする。

「バトルです、、マックス・テレポーターでダークソードに攻撃を仕掛けます」

バチバチバチと両手から電撃を放ち俺のダークソードを破壊するマックス・テレポーター

マックス・テレポーター　攻撃力２１００＞闇魔界の戦士ダークソード　攻撃力１８００

昭二
ＬＰ３６００－３００＝３３００

まずい、ダークソードが破壊されたことで俺のフィールドが

「続けてバトルです、、サイコ・コマンダー2体でダイレクトアタックを仕掛けます」

フワフワと砲台付きＵＦＯが俺に向かって浮遊してくる

「リバースカードオープン、、ヒーロー見参」

ヒーロー見参
通常トラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。自分の手札から相手はカードをランダムに1枚選択する。選択したカードがモンスターカードだった場合、自分フィールド上に特殊召喚する。違う場合は墓地へ送る。

「俺の手札から小泉君がランダムで1枚選択しそれがモンスターカードであれば俺の場に特殊召喚できるカードです、、さぁ、選んでください」

壷の中の魔術書の効果で手札が増えてしまい的中率が下がってしまったが大丈夫であろうか

「僕は、、、、僕から見て右から2番目のカードを選択します」

小泉君が選択したカードは

「このカードは聖導騎士イシュザークです」

表になったヒーロー見参のカードが激しく光だし光がやむと俺の場

に純白の鎧に身を包んだ剣士が立っていた

聖導騎士イシュザーク
レベル６光属性
戦士族
攻撃力２３００守備力１８００
効果
このカードが戦闘によってモンスターを破壊した時、そのモンスターをゲームから除外する。

良かった、上級戦士族モンスターの特殊召喚に成功した、これでサイコ・コマンダーの追撃を止められた

「バトル続行、サイコ・コマンダーでイシュザークに攻撃を仕掛けます」

「何だって、、攻撃力の低いモンスターで攻撃!?」

戦闘破壊される事で発動する能力でもあるのだろうか？

「サイコ・コマンダーのダメージステップ時、サイコ・コマンダーの効果を発動させます、、ＬＰを１００単位で５００まで支払うことで僕のサイキック族モンスターと戦闘を行うモンスターのステータスを支払ったＬＰ分下げることができます、、僕はＬＰを５００支払いイシュザークの攻撃力を５００下げます」

小泉
ＬＰ２４００－５００＝１９００

聖導騎士イシュザーク
攻撃力２３００→１８００

「だけどまだイシュザークの方が攻撃力が上です」

「このままではＬＰを払い損の上モンスターも無駄に破壊されてしまうので2体目のサイコ・コマンダーの効果を発動、、僕はＬＰ５００を支払いイシュザークの攻撃力をさらに５００ポイントダウンさせます」

「ダ、W効果だって？」

小泉
ＬＰ１９００－５００＝１４００

聖導騎士イシュザーク
攻撃力１８００→１３００

まずい、サイコ・コマンダーから発せられる怪光線を浴びてイシュザークの体がどんどん縮んでいく

「さて、バトルの続きですね、、サイコ・コマンダーでイシュザークに攻撃します」

ふわふわと浮遊していたサイコ・コマンダーの砲台がイシュザークの方を向きそこからエネルギーの塊が発射されイシュザークの体を貫き破壊した

サイコ・コマンダー　攻撃力１４００＞聖導騎士イシュザーク　攻撃力１３００

昭二
ＬＰ３３００－１００＝３２００

「ウワ、、、せっかく運よく上級モンスターを召喚したのに」

「まだ僕のモンスターの攻撃が残っていますね、、２体目のサイコ・コマンダーでダイレクトアタック」

ふわふわと空中をさまよっていた2体目のサイコ・コマンダーが今度は俺に向かって砲撃をし始める

「うわ～～～～」

サイコ・コマンダー　攻撃力１４００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

昭二
ＬＰ３２００－１４００＝１８００

「バトルを終えメインです、、僕はリバースカードを2枚伏せてターンエンドです」

昭二
ＬＰ１８００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

小泉
ＬＰ１４００
手札２枚
モンスター　マックス・テレポーター、サイコ・コマンダー×２
魔法トラップ　リバース×２

昭二「俺のターン、、ドロー」

まずいな～～どうも

ＬＰはかろうじて俺が有利だけどモンスターゾーンに差がありすぎる

こっちは真っ白なのに対し向こうにはモンスターが3体
厄介なのが2体のサイコ・コマンダー
小泉君はあと2回その効果を使用することができる
つまりあの壁を突破するには最低でも攻撃力２５００以上のカードでサイコ・コマンダーをつぶしていかないといけないわけだ
今の俺の手札で出来る事は
「俺はダイ・グレファーを召喚します」

戦士ダイ・グレファー
レベル４地属性
戦士族
攻撃力１７００守備力１６００
効果なし

「さらにて札から永続魔法一族の結束を発動」

一族の結束の
永続魔法
自分の墓地に存在するモンスターの元々の種族が1種類のみの場合、

自分フィールド上に表側表示で存在するその種族のモンスターの攻撃力は８００ポイントアップする。

「一族の結束の効果でダイ・グレファーの攻撃力が８００ポイントアップします」

戦士ダイ・グレファー
攻撃力１７００↓２５００

「バトル、、ダイ・グレファーでサイコ・コマンダーに攻撃します」

「攻撃される前にリバースカードを発動させます、、サイコーヒーリング」

サイコ・ヒーリング
通常トラップ
自分フィールド上に表側表示で存在するサイキック族モンスター１体につき、自分は１０００ライフポイント回復する。

「サイコ・ヒーリングの効果により僕はＬＰを３０００ポイント回復させます」

小泉君のフィールドのモンスターから光の粒が発生しそれが小泉君の体を包み込む

小泉
ＬＰ１４００＋３０００＝４４００

「だが、ダイ・グレファーの攻撃は止められない」

俺のフィールドの蒼い剣士が相手の場のＵＦＯ戦車を真っ二つに切り裂き破壊する

戦士ダイ・グレファー　攻撃力２５００＞サイコ・コマンダー　攻撃力１４００

小泉
ＬＰ４４００－１１００＝３３００

クソ、ＬＰを減らせると思っていたのに全然減らせない

さすがにＬＰコストを大量に支払うデッキだけあって回復カードは豊富なわけか

「メイン２で俺はリバースカードをセット、、これでターンを終了します」

昭二
ＬＰ１８００
手札２枚
モンスター　戦士ダイ・グレファー
魔法トラップ　一族の結束、リバース×２

小泉
ＬＰ３３００
手札２枚
モンスター　マックス・テレポーター、サイコ・コマンダー
魔法トラップ　リバース×１

「僕のターン、、僕は2体のモンスターを生け贄にメンタルスフィア・デーモンを召喚します」

相手フィールドの2体のモンスターが渦に包まれフィールドから消滅し変わりに真っ黒なゲートのようなものが出現する

そしてそこからまがまがしい爪が顔を出し、そこから全身がまがまがしいオーラで包まれた悪魔が姿を現す

メンタルスフィア・デーモン、さっき小泉君がＬＰコストと引き換えにデッキからよんできたエースモンスター

メンタルスフィア・デーモン

レベル８闇属性
サイキック族
攻撃力２７００守備力２３００
効果
このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの元々の攻撃力分だけ自分のライフポイントを回復する。サイキック族モンスター１体を対象にする魔法またはトラップカードが発動された時、１０００ライフポイントを払う事でその発動を無効にし破壊する。

「バトル、、メンタルスフィア・デーモンでダイ・グレファーに攻撃」

「リバースカードオープン、、、収縮」

収縮
速攻魔法
フィールド上に表側表示で存在するモンスター１体を選択して発動する。選択したモンスターの元々の攻撃力はエンドフェイズ時まで半分になる。

「収縮の効果でメンタルスフィア・デーモンの攻撃力を半分にする」

俺の場の魔法カードから光線が発射されメンタルスフィア・デーモンに向かって飛んでいく

「そうはさせません、、、メンタルスフィア・デーモンの効果を発動させます、ＬＰを１０００支払うことでサイキック族モンスター１体を対象とする魔法トラップの効果を無効にし破壊します」

「な、、何だって!!」

突如バリアのようなものを発生させるメンタルスフィア・デーモン

そのバリアによって俺の収縮の魔法カードから放たれた光線がかき消される

小泉
ＬＰ３３００－１０００＝２３００

「バトル続行、、メンタルスフィア・デーモンでダイ・グレファーを攻撃」

巨大な爪が俺のダイグレファーの体を切り裂き破壊する

そのあまりの破壊力に立体映像の強風が吹き荒れ俺を包み込む

「うわ～～～～」

メンタルスフィア・デーモン　攻撃力２７００＞戦士ダイ・グレフ

ァー　攻撃力２５００

昭二
ＬＰ１８００－２００＝１６００

「さらにメンタルスフィア・デーモンの第２の効果を発動します、戦闘によって相手モンスターを破壊した時そのモンスターの元々の攻撃力分ＬＰを回復します」

小泉
ＬＰ２３００＋１７００＝４０００

なんてカードだ、ＬＰを支払うことで対象をとる魔法を無効にし戦闘でモンスターを破壊すればＬＰを回復できる

自給自足、長居させてはいけないカードだ

「さて、、バトルフェイズを終えてそのまま僕はターンを終了します」

昭二
ＬＰ１６００
手札２枚

モンスター　なし
魔法トラップ　一族の結束、リバース×２

小泉
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　メンタルスフィア・デーモン
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、、俺はトランプ兵～銃～を召喚します」

パラパラと１枚の大きなトランプが宙から俺のフィールドに舞い降りる

そしてトランプからバシバシっと手足と頭が生え最後にチャキっと拳銃を背中から取り出しかまえだす

トランプ兵～銃～　（オリジナル）
レベル４光属性
戦士族
攻撃力５００守備力２００
効果
このカードは相手プレイヤーに直接攻撃をする事ができる。このカードが相手モンスターの攻撃対象となった時、墓地に存在する戦士族モンスターをゲームから除外する事でその戦闘で発生する戦闘ダメージは０になる。このカードが戦闘によって破壊され墓地に送ら

れた時デッキからクィーンズナイト1体を自分フィールドに特殊召喚するか手札に加える事ができる。

「一族の血族の効果で攻撃力が１３００に上昇」

トランプ兵～銃～
攻撃力５００→１３００

「バトル、、トランプ兵～銃～で相手プレイヤーにダイレクトアタック」

ぺらっぺらの兵士のかまえた銃から銃弾が放たれ相手プレイヤーの体を貫く

小泉
ＬＰ４０００－１３００＝２７００

「これで多少は巻き返したぞ、、、ターンエンドです」

昭二
ＬＰ１６００
手札２枚

モンスター　トランプ兵〜銃〜
魔法トラップ　一族の結束、リバース×２

小泉
ＬＰ２７００
手札２枚
モンスター　メンタルスフィア・デーモン
魔法トラップ　リバース×１

「僕のターン、、僕はメンタルスフィア・デーモンでトランプ兵〜銃〜に攻撃」

ゴゴゴゴゴとメンタルスフィア・デーモンの口から炎が放たれトランプの兵を焼いていく

さすがに紙製だけあってか景気よく燃えていく

「ック、、、トランプ兵〜銃〜の効果を発動、墓地のダイ・グレファーをゲームから除外して戦闘ダメージを０にする」

メンタルスフィア・デーモン　攻撃力２７００＞トランプ兵〜銃〜攻撃力１３００

「ですが戦闘破壊はさせてもらいます、、、、そしてトランプ兵〜銃〜の元々の攻撃力分ＬＰを回復します」

小泉
ＬＰ２７００＋５００＝３２００

「だがトランプ兵〜銃〜の第３の効果を発動させます、、、このカードが戦闘破壊された時デッキからクィーンズ・ナイトを手札に加えるか場に特殊召喚できます、、俺はフィールドにクィーンズ・ナイトを守備表示で特殊召喚します」

トランプが焼かれた場所に魔方陣が発生しそこから赤い鎧に身を包んだ金髪の女剣士が登場する

クィーンズ・ナイト
レベル４光属性
戦士族
攻撃力１５００守備力１６００
効果なし

「そのカードを使うのですか、、、私はリバースを１枚伏せてターンを終了します」

昭二
ＬＰ１６００
手札２枚
モンスター　クィーンズ・ナイト
魔法トラップ　一族の結束、リバース×２

小泉
ＬＰ３２００
手札２枚
モンスター　メンタルスフィア・デーモン
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、、俺はキングス・ナイトを攻撃表示で召喚」

俺の場に老剣士が膝を突いた状態で登場しゆっくりと腰を上げて戦闘態勢をとる

キングス・ナイト
レベル４光属性
攻撃力１６００守備力１４００
戦士族
効果
自分フィールド上にクィーンズ・ナイトが存在する場合にこのカードが召喚に成功した時、デッキからジャックス・ナイト1体を特殊召喚する事ができる。

「キングス・ナイトの効果によりデッキからジャックス・ナイトを特殊召喚」

２人の剣士の剣が交わりそこから放たれた光が天を貫きその光の先から若き剣士が舞い降りる

ジャックス・ナイト
レベル５光属性
戦士族
攻撃力１９００守備力１０００
効果なし

「そして、、これが俺の切り札だ、、魔法発動、融合」

融合
通常魔法
手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター１体をエクストラデッキから特殊召喚する。

「三銃士を融合、、いでよ、アルカナナイトジョーカーを特殊召喚」

３剣士がそれぞれの剣を重ねると再び激しい光が発生し3対を包み込むほどの巨大な光の柱となる

そして光が収まるとその柱の中から青の鎧に身を包んだ最上級戦士の姿があった

アルカナナイトジョーカー
レベル９光属性
戦士族
攻撃力３８００守備力２５００
融合　クィーンズ・ナイト＋ジャックス・ナイト＋キングス・ナイト
効果
このカードの融合召喚は上記のカードでしか行えない。フィールド上に表側表示で存在するこのカードが、魔法カードの対象になった場合は魔法カードを、罠カードの対象になった場合は罠カードを、効果モンスターの効果の対象になった場合はモンスターカードを、手札から1枚捨てる事でその効果を無効にする。この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「さらに一族の結束の効果で攻撃力が上昇」

アルカナナイトジョーカー
攻撃力３８００↓４６００

「人の心の隙を付けねらう極悪非道な悪魔を切り裂け、、アルカナフラッシュ・ＪＱＫ！！！」

アルカナナイトジョーカーのレーザーブレードのようになった剣がメンタルスフィア・デーモンの体を真っ二つに切り裂く

アルカナナイトジョーカー　攻撃力４６００＞メンタルスフィア・デーモン　攻撃力２７００

小泉
ＬＰ３２００－１９００＝１３００

「それがあなたのエースですか、、僕のメンタルスフィア・デーモンでも太刀打ちできませんでしたか」

エースモンスターが破壊されたのにどこか不気味な笑みをする小泉君

「これでターンエンドです」

昭二
ＬＰ１６００

手札１枚
モンスター　アルカナナイトジョーカー
魔法トラップ　一族の結束、リバース×２

小泉
ＬＰ１３００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「私のターンですね、、私はリバースカードを１枚伏せてターンエンドです」

昭二
ＬＰ１６００
手札１枚
モンスター　アルカナナイトジョーカー
魔法トラップ　一族の結束、リバース×２

小泉
ＬＰ１３００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、、モンスターはいない、、これでとどめです、、アルカナナイトジョーカーでダイレクトアタック」

「残念ですがここで速攻魔法スケープ・ゴートを発動させます」

小泉君のリバースの1枚が表になりそこから小さい羊が4匹ポンポンと発生する

スケープ・ゴート
速攻魔法
このカードを発動するターン、自分は召喚・反転召喚・特殊召喚する事はできない。自分フィールド上に羊トークン（獣族・地・星1・攻／守0）4体を守備表示で特殊召喚する。このトークンはアドバンス召喚のためにはリリースできない。

「効果で羊トークンを4体守備表示で特殊召喚です」

「ック、、だったら1匹ずつ片づけていくまでです、1番右のスケープ・ゴートに攻撃」

「その攻撃に対しホーリー・エルフの祝福を発動させます」

ホーリー・エルフの祝福

通常トラップ
自分はフィールド上に存在するモンスターの数×３００ライフポイント回復する。

「場のモンスターの合計は5体、よって１５００ポイントライフを回復します」

小泉
ＬＰ１３００＋１５００＝２８００

「だが攻撃は止められない、、スケープゴートを1体破壊する」

アルカナナイトジョーカー　攻撃力４６００＞羊トークン　守備力０

フィニッシュには至らなかったか

だけど俺の有利に変わりはない

「このままターンエンドです」

昭二
ＬＰ１６００
手札２枚
モンスター　アルカナナイトジョーカー
魔法トラップ　一族の結束、リバース×２

小泉
ＬＰ２８００
手札２枚
モンスター　羊トークン×３
魔法トラップ　リバース×２

「僕のターンです、、僕は手札の精神操作を発動させます」

精神操作
通常魔法
このターンのエンドフェイズ時まで、相手フィールド上に存在するモンスター１体のコントロールを得る。このモンスターは攻撃宣言をする事ができず、リリースする事もできない。

「あなたのフィールドのアルカナナイトジョーカーのコントロールをいただきます」

「させるか！！アルカナナイトジョーカーの効果発動、、手札の闇をかき消す光を墓地に送りこのカードを対象とする魔法カードの効

果を無効にします」

「まだです、、手札の速攻魔法使者への供物を発動」

死者への供物
速攻魔法
フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を破壊する。次の自分のドローフェイズをスキップする。

「今度こそジョーカーには消えてもらいます」

小泉君の場の魔法カードの立体映像から不気味な腕が出現しアルカナナイトジョーカーに迫ってくる

「ここが正念場カ、、、リバースカードオープン、フォースフィールド」

フォースフィールド
カウンタートラップ
フィールド上のモンスター1体を対象にした魔法の発動を無効にし、そのカードを破壊する。

アルカナナイトジョーカーの体がバリアに包まれ先程の不気味な腕をはじき返す

「さて、、全ての準備は整いました」

「まだ、、何かあるというのか」

しかし、、俺のリバースカードは攻撃モンスターを全て破壊する聖なるバリア～ミラーフォース～だ

そしてフィールドには最強の攻撃力を持ったアルカナナイトジョーカー

この鉄壁を導超えられるのか？

「リバースカードをオープンします、、、リビングデットの呼び声です」

リビングデットの呼び声
永続トラップ
自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「僕は墓地のメンタルスフィア・デーモンをよみがえらせます」

ゴゴゴゴゴと地面が揺れ巨大なクレパスが発生しそこから先程アルカナナイトジョーカーで倒したはずのサイコな悪魔がゆっくりとフィールドに姿を現す

「しかし、、そのカードの攻撃力では俺のモンスターを倒せないで

すよ」

「さらに手札のディストラクターを召喚します」

バチバチバチと小泉君のフィールドに電流が走り一瞬ピカっと激しく光ると相手フィールドにコンピューターに手足が生えた感じのモンスターの姿があった

ディストラクター
レベル４地属性
サイキック族
攻撃力１６００守備力４００
効果
１０００ライフポイントを払って発動する。相手フィールド上にセットされた魔法またはトラップカード１枚を破壊する。自分フィールド上にこのカード以外のサイキック族モンスターが存在しない場合、エンドフェイズ時にこのカードを破壊する。

「ディストラクターの効果を発動させます、、ＬＰを１０００支払って相手フィールドのリバースカードを１枚破壊します」

テレビ画面の顔面から光線が発射され俺のミラーフォースを貫き破壊する

「ッグ、、ですが俺にはまだアルカナナイトジョーカーが残ってい

る」

「残念ですが、、その切り札を超えさせていただきます、、、装備魔法団結の力をメンタルスフィア・デーモンに装備」

団結の力
装備魔法
自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体につき、装備モンスターの攻撃力・守備力は８００ポイントアップする。

「僕のフィールドにはモンスターが5体、、よってメンタルスフィア・デーモンの攻撃力は４０００アップします」

メンタルスフィア・デーモン
攻撃力２７００→６７００

「バトルです、、、メンタルスフィア・デーモンでアルカナナイトジョーカーに攻撃、、ナイトメアクロー」

巨大で邪悪なオーラをまとったメンタルスフィア・デーモンが俺のアルカナナイトジョーカーに向かって飛んでくる

レーザーブレード状の剣で応戦するアルカナナイトジョーカーだっ

たが向こうの攻撃力との数値が違いすぎるため瞬刷されてしまい消滅する

メンタルスフィア・デーモン　攻撃力６７００＞アルカナナイトジョーカー　攻撃力４６００

昭二
ＬＰ１６００－２１００＝－５００

「勝者、、サウス校代表、セニョ～ル小泉なの～～ね」

第２３話浅上藤乃より有名な曲がれ（訂正版）（後書き）

９月の禁止・制限リストが公開されてました。まさか大嵐が禁止になるなんて、その代わりサイクロンが準制限に。とりあえず明日はひたすらデッキ調整になりそうです。

小説ですが次回で他校との交流試合は最後です。

それではまたよろしくお願いします。冬将軍でした。

第２４話知恵と勇気と強く優しくウィ～ア・ザ・スーパーガイ（前書き）

お久しぶりです、最近制限・禁止カードが変更されて全デッキを改造してて時間がなく更新が遅れてしまいました。

それにしてもまさかブラック・ホールが復活するとは予想外です。

ちなみに今回が交流試合最後のデュエルです、再びチートクラスのオリカとオリカのぶつかりあいです。それではどうぞ。

第２４話知恵と勇気と強く優しくウィ～ア・ザ・スーパーガイ

デュエルアカデミア本校と他校との交流デュエルは１勝１敗のイーブン

俺はデュエルアカデミア本校控え室に来ている

「すごく悔しいです、まさか負けるなんて」

控え室に入ると昭二のやつがすでに控え室に戻っていた

「何言ってやがる、最高のデュエルだったぜ、、それに、お前も楽しかっただろ？」

「えぇ、、まぁすごく面白かったです」

「まぁ、、、、その悔しさを胸に又強くなればいい」

「そうですね、、ありがとうございます」

最後の最後までいい笑顔で試合を終えた昭二

「さて、、次はウエスト校とのデュエルだな」

うちの代表は誰だろうか？

「そろそろ私の出番のようね」

「冥衣か、、お前がウエスト校との交流試合代表か」

「まぁね、、っつーか他のブロックの試合見ときなさいよね」

「すまない、、親友の試合に熱中しすぎて気がついたら全代表が決まってたしな」

アレは長丁場だったな、気がついたら全試合終了だったしな

「次のウエスト校代表はデュエルの準備をしてください」

「さて、、次は私の試合だ、勝ってくるか～」

グイ～～～っと背伸びしながらデュエル場に向かう冥衣

「さて、、それじゃあ観客席で見守りますか」

「それで～～は、デュエルアカデミア本校とウエスト校代表の試合が始まるの～ね」

「「わ～～～～～」」

「さすがに俺とこなたの試合とは違って前の試合は盛り上がったせ

いかすごいヒートーアップしてるな」

「ちなみに聞いた話だとこの交流試合は生放送されていて、さっきの試合はカット不可能だそうだ、お前の事故って一方的に殴られ続けたデュエルはすでに全国に流れてしまったみたいだ」

ｏｒｚなんて事だ

視線変更～冥衣～

正直に言ってしまえばさっきからガチガチに緊張している

さっきは誠に強がってはみたものの足が震えている

私のデュエルが全国に流れる

そう思うと恐怖心と不安が心を埋め尽くす

「、、、、、、、、、、、、、、、」

「、、、、まったく、しょうがない、、冥衣～～～～～～～～！！！！！！」

会場の歓声を切り裂いて私の耳にその声が響いてくる

「デュエルは楽しむものだぞ、がんばって楽しんで来い！！！！」

まったくあの馬鹿は

あんたが叫んだりするから回りが困惑してるじゃないの

本当、恥ずかしいヤツ

でも、おかげで少しは楽になれた

さっきまでガチガチに震えていた私が嘘みたいだった

「ありがとう、、、、、、さぁ、私の相手は誰」

「ウエスト校代表前へ」

私の視線の先に一人の青年が現れる

黒い髪の毛を後ろでゆった青年

少し脱力系な表情をしているが瞳は鋭さを秘めている不思議な少年

「私はデュエルアカデミア本校代表、轟　冥衣」

「ウエスト校代表、天領　イッキ」

さて、ここはあいつの台詞でも借りるか

「熱く、楽しいデュエルにしましょう」

「「デュエル！！！」」

冥衣
ＬＰ４０００

イッキ
ＬＰ４０００

「俺のターン、、俺はシアンドックを攻撃表示で召喚する」

相手の場に青い犬型ロボットが召喚される

その両腕にはライフル銃らしきものが取り付けられていた

シアンドック　（オリジナル）
レベル４地属性
機械族・メダロット
攻撃力１７００守備力５００
効果なし

見た事のないモンスター、そしてカードテキストの横に書かれたメダロットの文字

警戒の必要はありそうね

「さらにリバースカードを1枚伏せてターンエンド」

冥衣
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

イッキ
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　シアンドック
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、雷電娘々を召喚」

雷雲に乗って猫耳の女の子モンスターが私の場にやってきた

雷電娘々
レベル４光属性

雷族
攻撃力１９００守備力８００
効果
自分フィールド上に光属性以外の表側表示モンスターが存在する場合、表側表示のこのカードを破壊する。

「バトル、、雷電娘々でシアンドックに攻撃、、ネコサンダー！！」
身の回りの太鼓をいくつかバンバンたたくと背中から雷撃が飛び出し相手の場の青い犬型ロボットを貫き破壊する

雷電娘々　攻撃力１９００＞シアンドック　攻撃力１７００

イッキ
ＬＰ４０００－２００＝３８００

「雷電娘々、、光属性デッキか？」
ＬＰとモンスターを失っても冷静に状況を見すえる目
ゆるい表情の中にある視線の鋭さがいっそう鋭くなってきている

「リバースカードを1枚伏せてターンエンド」

冥衣
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　雷電娘々
魔法トラップ　リバース×１

イッキ
ＬＰ３８００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、俺はロクショウを召喚する」

今度は白と青のクワガタムシっぽいロボットが相手のフィールドに現れる

ロクショウ　（オリジナル）
レベル４風属性
機械族・メダロット
攻撃力１８００守備力７００

効果
このカードが相手モンスターを戦闘で破壊した時相手プレイヤーに２００ポイントのダメージを与える。

「さらに装備魔法メダリアをロクショウに装備」

メダリア　（オリジナル）
装備魔法
メダロットモンスターのみ装備可能、装備モンスターの攻撃力はコントローラーの手札１枚につき１００ポイントアップする。

「その効果によりロクショウの攻撃力が３００ポイントアップする」

ロクショウ
攻撃力１８００→２１００

「バトルだ、、ロクショウで雷電娘々を攻撃」

敵モンスターの右腕に取り付けられたブレード状の部分で私のネコ娘を切り裂かれる

ロクショウ　攻撃力２１００＞雷電娘々　攻撃力１９００

冥衣
ＬＰ４０００－２００＝３８００

「ック、やるじゃない」

「まだ終わらないぜ、ロクショウが相手モンスターを戦闘破壊した時相手プレイヤーに２００ポイントのダメージを与える」

冥衣
ＬＰ３８００－２００＝３６００

ライフはかろうじて向こうが優位か

「コレでターンエンド」

冥衣
ＬＰ３６００
手札４枚

モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

イッキ
ＬＰ３８００
手札３枚
モンスター　ロクショウ
魔法トラップ　メダリア、リバース×１

「私のターン、、モンスターを1体裏守備でセットしリバースカードを1枚伏せてターンエンド」

冥衣
ＬＰ３６００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

イッキ
ＬＰ３８００
手札３枚
モンスター　ロクショウ
魔法トラップ　メダリア、リバース×１

「俺のターン、ペッパーキャットを召喚」

相手フィールドに猫耳っぽい、っと言うより猫型ロボットが相手の場に現れる

ペッパーキャット　（オリジナル）
レベル３光属性
機械族：メダロット
攻撃力１４００守備力１０００
効果
このカードが戦闘を行ったモンスターは次のターン攻撃を行うことができない。

「バトルだ、、ロクショウで裏守備モンスターを攻撃」

「トラップカード発動、サンダー・ブレイク」

サンダー・ブレイク
通常トラップ
手札を１枚捨て、フィールド上に存在するカード１枚を選択して発動する。選択したカードを破壊する。

天から雷が落下しその先にいたクワガタムシ型のロボットは跡形も

なく消滅する

「ック、だがバトルはまだ続いている、、ペッパーキャットで裏守備モンスターを攻撃」

「私のモンスターは電池メンボタン型」

気がつけば本日3度目の猫耳モンスター

どこかのアキバ系が喜びそうなデュエル状態ね

電池メンボタン型
光属性レベル1
雷族
攻撃力100守備力100
効果
リバース：自分のデッキから電池メンボタン型以外のレベル4以下の電池メンと名のついたモンスター1体を特殊召喚する。また、リバースしたこのカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

猫耳モンスターと猫耳モンスターがぶつかり合う

まぁ私のモンスターの方が圧倒的にステータスが低いのでやられてしまうのだが

ペッパーキャット　攻撃力１４００＞電池メンボタン型　守備力１００

「ボタン電池メンの効果を発動、、デッキから電池メンと名の付くレベル４以下のモンスターを特殊召喚できる、私は電池メン単三型を守備表示で特殊召喚するわ、そしてデッキからカードドロー」

電池メン単三型
レベル３光属性
雷族
効果
自分フィールド上の「電池メン－単三型」が全て攻撃表示だった場合、電池メン－単三型１体につきこのカードの攻撃力は１０００ポイントアップする。自分フィールド上の電池メン－単三型が全て守備表示だった場合、電池メン－単三型１体につきこのカードの守備力は１０００ポイントアップする。

「俺はターンエンドだ」

冥衣
ＬＰ３６００
手札３枚
モンスター　電池メン単三型

魔法トラップ　リバース×１

イッキ
ＬＰ３８００
手札３枚
モンスター　ペッパーキャット
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、私は電池メン単三型を攻撃表示召喚するわ、そして守備表示の単三型を攻撃表示に変更することで単三型の効果が発動、、攻撃力が２０００ポイントに上昇するわ」

電池メン単三型
攻撃力０→２０００

「バトル、、単三型でペッパーキャットに攻撃」

１体目の電池メン単三型が相手の場のネコ型ロボットに特攻を仕掛け相手モンスターを破壊する

電池メン単三型　攻撃力２０００＞ペッパーキャット　攻撃力１４００

イッキ

ＬＰ３８００－６００＝３２００

「さらに2体目の単三型で相手プレイヤーにダイレクトアタック」

「リバースカードオープン、緊急入荷」

緊急入荷　（オリジナル）
速攻魔法
自分フィールド上にモンスターが存在しない時のみ発動可能、通常召喚可能なメダロットモンスターが出るまで自分のデッキをめくり、そのモンスターを特殊召喚する。他のめくったカードは全て墓地に送る。

「1枚目、、魔法カード、、2枚目、、魔法カード、、3枚目、来た！！ガンキングを守備表示で特殊召喚」

相手のフィールドに青い中世の騎士っぽいロボットロボットが両手に槍を構えクロスさせて防御体制をとりながら相手の場に現れる

ガンキング　（オリジナル）
レベル7地属性
機械族メダロット
攻撃力１１００守備力３０００

効果
このカードが攻撃した相手モンスターはそのターンのエンドフェイズ時に破壊される。

「守備力３０００なんて運なの、私はバトルを中断してリバースカードを１枚伏せてターンエンドよ」

冥衣
ＬＰ３６００
手札２枚
モンスター　電池メン単三型×２
魔法トラップ　リバース×２

イッキ
ＬＰ３２００
手札３枚
モンスター　ガンキング
魔法トラップ　なし

「俺のターン、俺はセイラーマルチを攻撃表示で召喚」

セイラーマルチ　（オリジナル）
レベル３光属性
機械族メダロット
攻撃力１３００守備力１５００

効果
自分フィールド上にこのカード以外のメダロットモンスターが存在する場合1ターンに1度相手モンスター1体の表示形式を変更できる。

「さらに魔法発動、、スラフ・システム、墓地のロクショウを復活させる」

スラフ・システム　（オリジナル）
通常魔法
自分の墓地からメダロットモンスターを1体守備表示で特殊召喚する、そのカードは攻撃表示に変更する事ができず攻撃を行うことができない。

相手の場に蝶の羽のようなものがつぼみを作りその中から先程倒したクワガタムシのロボットが中膝で座っており防御体制をとっている

「さらに魔法発動、、バージョンアップ」

バージョンアップ　（オリジナル）
通常魔法
自分フィールド上のモンスターを墓地に送りその条件にあったモン

スターをデッキ・手札から特殊召喚する。

「俺は場のロクショウを墓地に送りデッキからドークスを特殊召喚する」

相手の場のクワガタムシロボットが光り輝きだし最新機種っぽい装甲に身を包み生まれ変わった

ドークス　（オリジナル）
レベル7風属性
機械族メダロット
攻撃力２５００守備力１４００
効果
このカードは通常召喚できない。このカードはバージョンアップの効果でロクショウを墓地に送った時のみ手札、デッキから特殊召喚する事ができる。手札のメダロットモンスターを1枚墓地に送る事でデッキからカードを1枚ドローする。

「セイラーマルチの効果発動、1ターンに1度相手モンスターの表示形式を変更する事ができる、、電池メン単三型を選択」

私の場の電池メン単三型が腕をクロスに組み防御体制をとる

「電池メン単三型はフィールド上で同じ表示形式でないと効果が発

動しないよな」

「ック、まさかその弱点を突いてくるとは」

電池メン単三型
攻撃力２０００→０

「バトル、、ドークスで攻撃表示の電池メン単三型を攻撃」

真新しいクワガタムシロボットの右手からコンバットナイフのようなものが飛び出しそのナイフに私の電池メン単三型が切り裂かれは解される

ドークス　攻撃力２５００＞電池メン単三型　攻撃力０

冥衣
３６００－２５００＝１１００

「ック、、でも、私のフィールド上の電池メンは全て守備表示、守備力が上昇」

電池メン単三型
守備力０→１０００

「だがこっちの方が攻撃力が上だ、、セイラーマルチ攻撃」

かわいらしい女子中学生ロボットの腕に取り付けられているマシンガンが火を噴き私の電池メンを破壊する

セイラーマルチ　攻撃力１３００＞電池メン単三型　守備力１０００

「俺はコレでターンエンド」

冥衣
ＬＰ１１００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

イッキ
ＬＰ３２００
手札１枚
モンスター　ガンキング、セイラーマルチ、ドークス
魔法トラップ　なし

「やるじゃない、、楽しくなってきたわ」

「君こそ、、さすがは代表選手だけはあるよ」

「さて、、、それじゃあかっこよく逆転して見せるわ、壷の中の魔

術書を発動」

壺の中の魔術書　（マンガ版ＧＸオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする。

「互いのプレイヤーは3枚ドローする、、よし、電池メン単四型を守備表示で召喚」

私の場に双子っぽい電池型モンスターが姿を現す

電池メン単四型
レベル４光属性
雷族
効果
このカードが召喚・リバースした時、自分の手札・墓地に存在する電池メン単四型1体を特殊召喚する事ができる。

「電池メン単四型が召喚に成功した事で私は墓地のもう1体の単四型を守備表示で特殊召喚するわ」

単四型の横にもう1体単四型が並ぶ

「そして私の場に電池メンと名の付くモンスターが2体以上表側表示で存在するので燃料電池メンを特殊召喚できる」

燃料電池メン
レベル６光属性
雷族
攻撃力２１００守備力０
効果
自分フィールド上に電池メンと名のついたモンスターが２体以上存在する場合、このカードは手札から特殊召喚することができる。１ターンに１度、このカード以外の自分フィールド上に存在する電池メンと名のついたモンスター１体をリリースする事で、相手フィールド上に存在するカード１枚を選択し、持ち主の手札に戻す。

「さらに魔法カード漏電発動」

漏電
通常魔法
自分フィールド上に「電池メン」と名のついたモンスターが３体以上表側表示で存在する場合に発動する事ができる。相手フィールド上に存在するカードを全て破壊する。

「相手フィールド上のカードを全て破壊する」

私の場の電池メン達がいっせいに光だしその光が相手のフィールドのカードを破壊していく

光が収まった頃には相手のフィールドにはカードが1枚も存在しなくなっていた

「そしてバトル、、燃料電池メンで相手プレイヤーにダイレクトアタック」

両手の金属パーツから電流を放ち相手プレイヤーに殴りかかる燃料電池メン

「うわ～～～」

燃料電池メン　攻撃力２１００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

イッキ

ＬＰ３２００－２１００＝１１００

コレでライフは並んだ

その代償として相手に3枚ドローさせる結果となってしまったけど十分アドバンテージは取れた

「コレでターンエンドよ」

冥衣
ＬＰ１１００
手札２枚
モンスター　燃料電池メン、電池メン単四型×２
魔法トラップ　リバース×２

イッキ
ＬＰ１１００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「俺のターン、俺は緊急入荷を発動、、デッキからモンスターが出るまでカードをめくる、、１枚目トラップ、２枚目魔法、、３枚目、魔法、４枚目、来た！！！メタビーを召喚」

少しレトロチックなカブトムシ型ロボットが相手のフィールドに現れる

メタビー　（オリジナル）
レベル４地属性
機械族メダロット
攻撃力１８００守備力１５００
効果

自分フィールド上にこのカード以外のメダロットモンスターの数×２００ポイント攻撃力がアップする。

「さらに魔法カードバージョンアップ発動、メタビーを墓地に送りサイカチスを特殊召喚」

さっきのクワガタムシロボットみたいに激しい光が発生しさっきよばれたカブトムシ型ロボットがそれに包まれ光が晴れるとさっきのドークスみたいに最新機種っぽい装甲に身を包んだカブトムシロボットに姿を変える

サイカチス　（オリジナル）
レベル７地属性
機械族メダロット
攻撃力２５００守備力２４００
効果
このカードは通常召喚できない。このカードはバージョンアップの効果でメタビーを墓地に送った時手札、デッキから特殊召喚する事ができる。手札のメダフォースを墓地に送る事で相手フィールド上のモンスターカードを全て破壊する、この効果を使用したターンのバトルフェイズこのカードは攻撃を行うことはできない。自分ドローフェイズ前にデッキからカードをドローする前に自分の墓地のメダロットモンスター１枚デッキに戻しシャッフルする事が出来る。

「そして魔法発動、、メダルの輝き」

メダルの輝き　（オリジナル）
通常魔法
自分フィールドにレベル7以上のメダロットモンスターが存在する場合デッキからカードを2枚ドローする。

「効果で2枚ドロー、さらに融合を発動」

融合
通常魔法
手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

「手札のアークビートル・ダッシュとティレルビートルを融合、、現れろ、マスタービートル」

アークビートル・ダッシュ　（オリジナル）
レベル6炎属性

機械族メダロット
攻撃力２８００守備力１０００
効果
このカードは通常召喚できない。このカードはバージョンアップの効果でアークビートルを墓地に送った時のみ手札、デッキから特殊召喚する事ができる。このカードの攻撃力とレベルを半分にすることでこのカードは相手プレイヤーに直接攻撃することができる。

ティレルビートル　（オリジナル）
レベル７地属性
機械族メダロット
攻撃力２５００守備力２２００
効果
このカードが攻撃表示モンスターを戦闘によって破壊したときデッキからカードを１枚ドローできる。このカードが守備表示モンスターを戦闘によって破壊した時相手の手札をランダムに１枚選択し墓地に送る。

「マスタービートルを召喚！！！」

相手の場に赤いヘラクレスオオカブトと青いクワガタムシロボットが現れガチャンガチャンと変形合体し一つのモンスターとなった

マスタービートル　（オリジナル）
レベル１０炎属性
機械族メダロット
攻撃力３３００守備力２６００
融合　アークビートル・ダッシュ＋ティレルビートル
効果
自分フィールド上のメダロットモンスターが魔法トラップ効果モンスターの対象となった時手札のメダロットモンスターを墓地に送る事でその効果を無効にする。

「そしてサイカチスの効果を発動、、手札のメダフォースを墓地に送る」

メダフォース　（オリジナル）
通常トラップ
ダメージ計算時ダメージステップ終了時まで自分メダロットモンスターの攻撃力はそのカードの守備力分アップする。

「それによって、サイカチスはこのターンバトルを行えなくなるが相手フィールド上のモンスターを全て破壊する、、一斉射撃」

ババババババババと沢山の銃弾とミサイルが私のフィールドに降り注ぎ私のモンスターたちを破壊していく

さっきのターンとまるで逆の立場だ

「私の電池メン達が」

「バトル、、マスタービートルで相手プレイヤーに直接攻撃」

キキキキキとうねりを上げながらマスタービートルが私に向かって走ってくる

「リバースカードオープン、攻撃の無力化」

攻撃力の無力化
カウンタートラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。相手モンスター1体の攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

「決まらないか、、ターンエンド」

冥衣
ＬＰ１１００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

イッキ
ＬＰ１１００
手札０枚
モンスター　サイカチス、マスタービートル
魔法トラップ　なし

「私のターン、、、、やっと来てくれた、手札のサンダー・ドラゴンの効果を発動、、デッキから同名カードを２枚手札に加える」

サンダー・ドラゴン
レベル５光属性
雷族
攻撃力１６００守備力１５００
効果
手札からこのカードを捨てる事で、デッキから別のサンダー・ドラゴンを２枚まで手札に加える事ができる。その後デッキをシャッフルする。この効果は自分のメインフェイズ中のみ使用する事ができる。

「そのカードがあるということは双頭のサンダードラゴンか」

「それじゃああなたのマスタービートルには届かないわ、私はリバースカード、リビングデットの呼び声を発動させるわ」

リビングデットの呼び声
永続トラップ
自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「墓地に眠るサンダー・ドラゴンを特殊召喚」

「サンダー・ドラゴンを、何が狙いなんだ」

「見せてあげる、、私の切り札カード、、融合を発動、場のサンダー・ドラゴンと手札のサンダー・ドラゴン2枚を融合」

「サンダー・ドラゴンのトリプル融合!?」

「3つの雷光を一つに束ね、、舞い降りれ神の雷よ、、トライヘッド・ギガホーンドラゴンを特殊召喚」

私の場にいっそう激しい電流が走り地面から3首のドラゴンが現れる

真ん中のドラゴンのアゴに、右側の首の右側に、左側の首の左側に雷っぽい形の黄色い角をたずさえたとても巨大なドラゴンだ

トライヘッド・ギガホーンドラゴン　（オリジナル）

レベル１０光属性
雷族
攻撃力３５００守備力２６００
融合　サンダー・ドラゴン＋サンダー・ドラゴン＋サンダー・ドラゴン
効果
このカードは融合の効果でしか特殊召喚できない。このカードが攻撃表示モンスターを攻撃し破壊した時、そのモンスターのレベル×２００ポイントのダメージを相手プレイヤーに与える。このカードが表側守備表示モンスターを攻撃した時ダメージ計算を行わずそのカード壊しデッキからカードを１枚ドローする、そのドローしたカードがモンスターカードであれば互いにそのカードを確認しそのカードの攻撃力分のダメージを相手プレイヤーに与える事が出来る。このカードが裏守備モンスターを攻撃した時、ダメージステップ終了時相手の手札をランダムで１枚墓地に送る、墓地に送ったカードがモンスターカードであればその守備力分のダメージを相手に与える。

「バトル、、トライヘッド・ギガホーンドラゴンでマスタービートルに攻撃、スーパースパークノヴァ！！！！！」

３つの首の口に電気の球が収束しそこから巨大なレーザーが発射されマスタービートルを木っ端微塵に粉砕する

「ック」

トライヘッド・ギガホーンドラゴン　攻撃力３５００＞マスタービートル　攻撃力３３００

イッキ

ＬＰ１１００－２００＝９００

「だけど俺のＬＰはまだ残っている」

「でもトライヘッド・ギガホーンドラゴンが攻撃表示モンスターを戦闘で破壊した時そのレベル×２００ポイントのダメージを与える」

バチバチバチとトライヘッド・ギガホーンドラゴンの真ん中の首の角に電流が走る

「センターホーンスパーク」

「うわ～～～～～～～～～～」

イッキ

ＬＰ９００－２０００＝－１１００

「勝者、、セニョーラ冥衣～～なの～ね」

「「わ～～～～～～～～～～」」

数分後

私は廊下のベンチに腰を下ろす

「、、、、、、、、フ〜〜」

腰を下ろした瞬間自然とため息がこぼれる

正直、、今でも手が少し震えている

誠に激を飛ばしてくれたとはいえチョット緊張はしていた

「冥衣さ〜〜〜〜ん」

「あ、雪、それにエレナも」

「代表戦勝利おめでとうございますわ」

「えぇ、ありがとう、、、で、チョット疲れちゃった、少し眠るね」

そのまま私はベンチに寝転がり腕を枕に眠りの世界へ旅立った

「寝ちゃいましたね」

「えぇ、、相当疲れているみたいですわ」

何かいわれているようだけど、、、、、、聞こえない

もう、、眠って、、しま、、、、、、、う。

視線変更～誠～

その後メインイベントとなる十代ＶＳ万丈目サンダーとのデュエルが行われた

原作どおりこのカードを使う人がいるのかと思うカード、ヒーローキッズを使いアームドドラゴンをフレイムウィングマンで倒して幕を閉じる

そして夕方

港で万丈目サンダーがデュエルアカデミアに残ると言い出しみんなでそれを受け入れた

コレに便乗してこなたやイッキも入学してくれないかと期待していたがそんなイベントはなかった

小泉!?何それおいしいの?

さて、そろそろ話もまとまりそうだし伝説の名言いきますか

「一」

「十」

「「百」」

「「千」」

「万丈目、サンダー!!!」

「「ウオ〜〜〜サンダ〜〜〜〜〜〜」」

生きているうちにサンダーを生で言えて聞けた〜〜〜〜〜〜〜〜

こうして他校との交流試合は大熱狂の中終わったのだった。

第２４話知恵と勇気と強く優しくウィ～ア・ザ・スーパーガイ（後書き）

今回はメダロットより天領イッキ参戦です。元々はどの別作品のアニメのキャラを出そうか悩んでいたとき野良猫さんの小説でメダロットの話題が出てきてこのメダロットデッキを思いつきました。

後書いてて思ったんですが冥衣の名前を書いているとどうしても聖闘士星矢のスペクターの冥闘衣を思い出すのはおそらく俺だけですね。

これから三幻魔編を書こうと思います。

第２５話ドラえもんのび太と夢幻三幻魔（前書き）

ふと小説を読み返してみると第２２話で誠が精霊のカードを展開するシーンでモアイ迎撃砲を召喚しわすれてましたＯｒｚ

今回から三幻魔編です、ダークネスをすっ飛ばしいきなりカミューラ戦からです。

第２５話ドラえもんのび太と夢幻三幻魔

他校との交流試合が終わりしばらくガたった

晴れて万丈目サンダーがレッド寮配属となり大量にあった荷物を無理矢理レッド寮の狭い部屋に押し込み引越しは完了した

ちなみにサンダーの部屋は俺の隣

つまり俺と真間の部屋は十代と万条目の部屋にはさまれる形になる

そしてしばらくサンダーもここの生活に慣れてきたある日

俺、真間、十代、万丈目、三沢、カイザー、明日香、クロノス先生が校長室に呼び出される

つまり三幻魔編ですね、わかります

「実はこの学校に三幻魔と呼ばれる強力なカードが封印されておりまして、、、、、」

とりあえず話も終わり鍵が俺達に渡される事となった

十代、万丈目、三沢、カイザー、明日香、クロノスと鍵が渡されていく

「そして最後の鍵だ」

「「確かに預かりました」」

俺と真間の声がかぶる

そして1本の鍵を2人で持つ形となった

「「アレ？」」

「おかしいですね、数え間違えてしまったのでしょうか？」

まさかのWブッキングっすか校長

とりあえずアレか、真間と殴り合って鍵を守るやつを決めるべきか？

「申し訳ないんですが小野寺君と空栗君、、こちらの手違いで1人多めに呼んでしまいましたのでその鍵は2人で守っていただけないでしょうか？」

「しょうがないですね、、わかりました」

「誠、、この鍵をかけてデュエルして負けたら昼飯おごりな」

「ッフ、いいだろう、お前が負けたあかつきには購買のパン全種おごってもらうぜ」

「まったく、、ドロップアウト組みはのんきなの～～ね」

そして校長に七星門の鍵をもらってしばらくがたった

原作どおり十代と吹雪さんがデュエルを行い2人が保健室で大事を取る形となった

そして十代が戦闘不能の中、吸血鬼カミューラが俺達にデュエルを挑んできた

最初はクロノス先生が戦い敗れ翌日カイザー亮が戦うこととなっただが幻魔の扉と卑怯な手段を使ってきたカミューラの前にカイザーは敗れてしまった

「俺は許さない、、こんなデュエルを、こんなデュエルを仕込んだやつを」

何もない漆黒の海に叫ぶ十代

しかし俺の隣にいた男は十代以上に頭に血が上っていた

「真間、、落ち着け」

「俺は落ち着いている」

「嘘だな、、怒りで握り拳から血が出てるぞ、どんだけキレてるんだ」

「、、、、、、、、、俺はあいつが許せない」

真間のやつに落ち着けと言っているが正直俺も相当頭にきている

デュエルその物を侮辱したデュエリスト、カミューラ

絶対に許さない

そしてカイザーが敗れた翌日

湖に再びカミューラの城が現れた

白の前には七星門の鍵を持っているデュエリストはみんなこのに集まっている

城の中に入り広場に出るとセブンスターズ2人目の刺客カミューラが立っていた

「ようこそ我が城へ、、今宵闇のゲームの生け贄になるのは誰かしら」

「俺が相手だ」

「いいや、俺が戦う」

「俺に決まりだ」

「いいや、、俺が行くぜ」

俺と万丈目と三沢

真間が3人の服の襟をつかみ投げ飛ばす

俺達が転んでいる隙に真間のやつがデュエルフィールドに立っていた

「悪いな3人共、、ここは俺にやらせてもらう」

「あら、、昨日の坊やほどじゃないにしろいい男じゃない」

「さっさとはじめるぞカミューラ」

「あら怖い、、、吸血鬼の私でさえ恐怖を感じちゃうわ」

確かに今の真間はかなりキレてるせいかいつもと異様なオーラを発している

闘気じゃなく完全に殺気や憎悪を背負っていやがる

昔中学のときつるんで悪さしていた時以上の黒いオーラだ

「貴様に敗れていった者達の怒りを思い知れ！！」

「「デュエル！！！」」

真間
ＬＰ４０００

カミューラ
ＬＰ４０００

「俺のターン、、俺は手札の高等儀式術を発動させる」

高等儀式術
儀式魔法
手札の儀式モンスター１体を選択し、そのカードとレベルの合計が同じになるように自分のデッキから通常モンスターを選択して墓地に送る。選択した儀式モンスター１体を特殊召喚する。

「デッキのブロンズアーム・スマッシャーとメカ・ハンターを墓地に送り無敵母艦ＡＴ－？を守備表示で特殊召喚する」

ゴゴゴゴゴゴと真間のフィールドに巨大な母艦が出撃する

無敵母艦　ＡＴ－Ｘ　（オリジナル）
レベル８水属性
機械族
攻撃力２６００守備力３０００
効果
戦場への黒煙の効果によって降臨。自分ドローフェイズ時デッキからカードを１枚ドローする代わりにデッキからレベル４以下の機械族モンスターを手札に加えることができる。このカードが表側守備表示の時手札の機械族モンスターを１体を特殊召喚することができる。

「１ターン目から上級モンスターか」

「おそらく幻魔の扉を警戒し最初から飛ばすつもりなんだろうが」

「焦ってプレイングミスをしなければいいのだけど」

「大丈夫だ、、誠は、たとえどんなにキレてても自分のスタイルを崩さない、、むしろ怒りで頭に血が上ってる時の方が冷静に戦略を立てる、、相手を倒すのにどこまでも冷徹に徹する事ができる」

「さらに俺はカードを１枚伏せてターンエンド」

真間
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　無敵母艦ＡＴ－Ｘ
魔法トラップ　リバース×１

カミューラ
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターン、、永続魔法ミイラの呼び声を発動」

ミイラの呼び声
永続魔法
自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、手札からアンデット族モンスター１体を特殊召喚する事ができる。この効果は１ターンに１度しか使用できない。

「ミイラの呼び声の効果で手札のヴァンパイア・ロードを特殊召喚」

カミューラのフィールドに棺が現れギギギギギギィ～～と不気味

な音を上げながらふたが開きそこから吸血鬼の青年が起き上がる

バンパイア・ロード
レベル５闇属性
アンデット族
攻撃力２０００守備力１５００
効果
このカードが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与える度に、カードの種類（モンスター、魔法、罠）を宣言する。相手はデッキからその種類のカード１枚を選択して墓地に送る。また、このカードが相手のカードの効果で破壊され墓地に送られた場合、次の自分のスタンバイフェイズにフィールド上に特殊召喚される。

「さらにヴァンパイア・ロードをゲームから除外しバンパイアジェネシスを特殊召喚」

青年ヴァンパイアがフィールドから消え去りそこからひときわ大きいコウモリの化け物が姿を現す

ヴァンパイアジェネシス
レベル８闇属性
アンデット族
攻撃力３０００守備力２１００
このカードは通常召喚できない。

自分フィールド上に存在するヴァンパイア・ロード1体をゲームから除外した場合のみ特殊召喚する事ができる。1ターンに1度、手札からアンデット族モンスター1体を墓地に捨てる事で、捨てたアンデット族モンスターよりレベルの低いアンデット族モンスター1体を自分の墓地から選択して特殊召喚する。

「出た、、クロノス先生とお兄さんを苦しめたヴァンパイアジェネシス」

「でも、、ヴァンパイアジェネシスの攻撃力は３０００、ＡＴ－Ｘの守備力も３０００、攻撃は通らないんだな～」

「それはどうかしら、、私は手札から幻魔の扉を発動」

「またあのいんちきカードか」

「すでに手札にあったのか」

カミューラの場に不気味な扉は姿を現し旋風を巻き起こす

「このカードの発動にはコントローラーの魂が必要なんだけど、今回も別の誰かの魂を生け贄にするわ」

ッフ、カミューラよ、お前も年貢の納め時だ

さぁ十代、吹雪さんからもらったペンダントでこの力を跳ね返してくれ

「、、、、、、って、アレ?十代は」

「アニキは容体が悪化したんで今は保健室で休んでいるっす」

なんという事だ！！！！コレじゃあカミューラ無双が止まらないじゃないか

「どうせだったら、みんなまとめてこの幻魔の扉の生け贄になってもらおうかしら」

万事休す！！どうする俺

「カミューラ！！！」

激しい旋風が舞う中真間の怒号の叫びが響く

「何かしら」

「仲間達には指一本触れさせない、、使うのなら、俺の魂を使え」

真間、、お前何を

「ッフ、何を言うかと思えば、、いいのかしら、坊やの魂が生け贄になった瞬間私の勝ちは決定するわ」

「御託はいい、、さっさとしやがれ」

「いいわ、、幻魔の扉よ、、、、坊やの魂を生け贄に発動なさい」

幻魔の扉　（アニメオリジナル）
通常魔法
闇のゲーム時のみ使用可能。コントローラーの魂の半分を生け贄にささげる事で相手フィールド上のモンスターを全て破壊する。その後全ての墓地に存在するモンスターの中から1枚召喚条件を無視して自分フィールドに特殊召喚することができる。

「コレで終わりよ！！」

幻魔の扉が開きそこからいくつもの触手が伸び真間の体を貫く

「ウワ～～～～～」

断末魔を上げながら倒れる真間

「愚かな坊や、、仲間を助けるために自ら犠牲になるなんて」

「そんな、、、真間君が」

「いや待て、、、様子がおかしい」

真間が倒れ明らかにデュエル続行不可能な状態になったのにもかかわらず立体映像のモンスターたちは消滅しない

つまりまだ勝敗が決まってないと言うことだ

「どうなってるの、、勝負はついたはず」

「何、、、、言ってやがるんだ」

かすれるような声とともに真間がゆっくりと立ち上がる

「バカな、、、幻魔の扉に魂を奪われたはず」

「残念だったな、、そんなちんけな扉じゃあ俺の魂は入りきらなかったそうだぜ」

スゲー、スゲーぜ真間

気合と根性と執念で幻魔の扉を跳ね返しやがった

「しかし、、、幻魔の扉の発動条件は満たされている、相手フィールド上の全てのモンスターを破壊」

バコ～ンバコ～～ンと爆発をしながらＡＴ－Ｘが沈没していく

「そして私のフィールドにＡＴ－Ｘを特殊召喚」

さっき沈んだＡＴ－Ｘがカミューラの場に再び姿を現す

装甲版がいくつか黒に染められダークモンスターっぽくなっていた

「せっかく我慢して幻魔の扉を振り切ったのは褒めてあげる、、、でもコレでおしまいよ、ヴァンパイアジェネシスでアイテプレイヤーにダイレクトアタック」

ヴァンパイアジェネシスが黒い旋風に変化し真間に襲い掛かる

「まずいわ、、2体のモンスターのダイレクトアタックが決まれば」

「真間のライフは0」

「なめるな、、トラップ発動、ガードブロック」

ガード・ブロック
通常トラップ
相手ターンの戦闘ダメージ計算時に発動する事ができる。その戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になり、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

バリアのような物が真間を黒い旋風から守る

「ガード・ブロックの効果でヴァンパイアジェネシスから受ける戦闘ダメージを0にする、そしてデッキからカードをドロー」

「だったら坊やの無敵母艦で攻撃してあげるわ、、、ＡＴ－Ｘでダイレクトアタック！！！」

ゴゴゴゴゴと戦艦の砲台がうねりを上げ全て真間に向けられ火を噴く

「うおぉ！！！」

無敵母艦ＡＴ－Ｘ　攻撃力２６００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

真間
ＬＰ４０００－２６００＝１４００

「このターンで倒されれば楽になれたものを、わざわざ苦しむ時間を増やすなんて、私はリバースカードを1枚伏せてターンエンドよ」

真間
ＬＰ１４００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

カミューラ
ＬＰ４０００
手札１枚
モンスター　ヴァンパイアジェネシス、無敵母艦ＡＴ－Ｘ
魔法トラップ　ミイラの呼び声、リバース×１

真間「俺のターン、、俺は所有者の刻印を発動させる」

所有者の刻印
通常魔法
フィールド上に存在する全てのモンスターのコントロールは、元々の持ち主に戻る。

「よし、、コレでＡＴ－Ｘが再び真間のフィールドに戻るぞ」

「だったらその魔法発動にチェーンして、トラップ発動ブラッド・オブ・パワー」

ブラッド・オブ・パワー　（オリジナル）
通常トラップ
自分フィールド上のアンデット族モンスター1体を対象に発動、対象モンスターはフィールド上の全てのモンスターの攻撃力の合計した数値になる。その後対象となったモンスター以外の自分フィールド上の全モンスターの攻撃力が０になる。

「ＡＴ－Ｘの攻撃力２６００をヴァンパイアジェネシスに加算する」

ＡＴ－Ｘから光が溢れその光がヴァンパイアジェネシスに取り込まれていく

ヴァンパイアジェネシス
攻撃力３０００→５６００

無敵母艦ＡＴ－Ｘ
攻撃力２６００→０

「アヒャヒャヒャヒャヒャ、、コレでＡＴ－Ｘの攻撃力は０、そんなモンスター返してあげるわ」

口さけ女みたいに口元がぱっくりと開き不気味な形相に変るカミューラ

そしてＡＴ－Ｘが真間の場に戻る

「そんな、、せっかくモンスターを取り戻したと思ったのに」

「ヴァンパイアジェネシスが強化されて状況が逆に不利になったんだな～～」

「カミューラ、デュエルの前に俺が言ったはずだ、、お前に敗れていった者達の怒りを思い知れと、、手札から魔法発動、、パワー・ボンド」

「パワー・ボンドだと」

あのカードを、カイザーの切り札をデッキに入れたのか

パワー・ボンド
通常魔法
手札またはフィールド上から、融合モンスターカードによって決められたモンスターを墓地へ送り、機械族の融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。このカードによって特殊召喚したモンスターは、元々の攻撃力分だけ攻撃力がアップする。発動ターンのエンドフェイズ時、このカードを発動したプレイヤーは特殊召喚したモンスターの元々の攻撃力分のダメージを受ける。この特殊召喚は融合召喚扱いとする。

「フィールドの無敵母艦ＡＴ－Ｘと手札のメタルウイング・ワイバーンを融合」

フィールドに鉄の翼のドラゴンが現れＡＴ－Ｘの上に乗っかり激しい光を放ちだす

「融合召喚、、唸る戦艦竜ドラゴレライ！！！！」

ガオ～～～～と名前の通りうねりを上げながら機械の巨大なドラゴンが真間のフィールドに現れる

戦艦の体にそこからのびる蛇腹状の首、そしてその先にある頭が空母の戦闘機の着地場みたいになった巨大なモンスターだ

唸る戦艦竜ドラゴレライ　（オリジナル）
レベル１０風属性
機械族
攻撃力３５００守備力２１００
融合　無敵母艦ＡＴ－Ｘ＋メタルウイング・ワイバーン
効果
このカードの融合召喚は上記のカードでしか行えない。相手がモンスターを特殊召喚に成功した時手札・融合デッキからそのモンスターと同じレベルの機械族モンスターを墓地に送る事でその召喚を無効にしそのモンスターを破壊する事ができる。

「パワー・ボンドの効果で攻撃力が2倍になる」

唸る戦艦竜ドラゴレライ
攻撃力３５００→７０００

「スゲー、、スゲーぜ真間」

「カイザーの怒りを思い知れ、、バトル、ドラゴレライでヴァンパイアジェネシスに攻撃、、フォートレスパニッシャ～～～！！！！」

ガバ～～っとドラゴンの口が開きその中に無数の大砲が収納され

ておりそれらがいっせいに火を噴き出しヴァンパイアジェネシスの体を爆発させる

唸る戦艦竜ドラゴレライ　攻撃力７０００＞ヴァンパイアジェネシス　攻撃力５６００

カミューラ
ＬＰ４０００－１４００＝２６００

「グゥウウ」

「コレでありえないくらい強化されたヴァンパイアジェネシスを倒せたのはいいが」

「パワー・ボンドは融合召喚したモンスターの攻撃力分のダメージをターンエンド時にプレイヤーに与える」

「ドラゴレライの攻撃力は３５００、、空栗、、、どうにかしろ」

「ターン終了時、パワーボンドの効果で俺は３５００ポイントのダメージを食らう」

ドラゴレライから光の玉が現れ真間に向かって飛んで行く

「傑作ね、、自分のカードで倒れるなんて」

「なめてもらっては困るぜ、、ダメージ発生時速攻魔法反作用力場発生装置を発動」

反作用力場発生装置　（オリジナル）
速攻魔法
効果ダメージ発生時自分フィールド上にそのダメージの数値以上の攻撃力を持った機械族モンスターが存在する場合発動できる。そのダメージを無効にしその数値分自分フィールド上のモンスター１体の攻撃力をダウンさせる。この効果によってモンスターの攻撃力が０になった時そのカードを破壊する。

「この効果により俺に発生するダメージは０になる」

唸る戦艦竜ドラゴレライ
攻撃力７０００→３５００

「うまいな、、強力なモンスターを除去しつつ自分は高レベルモンスターをフィールドに維持した、、見事な戦略だ」

「コレでターンエンドだ」

真間
ＬＰ１４００
手札１枚
モンスター　唸る戦艦竜ドラゴレライ

魔法トラップ　なし

カミューラ
ＬＰ２６００
手札１枚
モンスター　なし
魔法トラップ　ミイラの呼び声

「私は魂を削る死霊を守備表示で召喚」

魂を削る死霊
レベル３闇属性
アンデット族
攻撃力３００守備力２００
効果
このカードは戦闘では破壊されない。このカードが魔法・罠・効果モンスターの効果の対象になった時、このカードを破壊する。このカードが直接攻撃によって相手ライフに戦闘ダメージを与えた時、相手の手札をランダムに１枚捨てる。

「戦闘破壊されないカード、、カミューラめ、攻めも守りも完璧と言うわけか」

「私はコレでターンエンドよ」

真間
ＬＰ１４００
手札１枚
モンスター　唸る戦艦竜ドラゴレライ
魔法トラップ　なし

カミューラ
ＬＰ２６００
手札１枚
モンスター　魂を削る死霊
魔法トラップ　ミイラの呼び声

「俺のターンだ」

「どうする真間、、戦闘では破壊されない壁モンスター、もたついていると態勢を整えられるぞ」

「俺は速攻魔法、融合解除を発動させる」

融合解除
速攻魔法
フィールド上に表側表示で存在する融合モンスター１体を選択してエクストラデッキに戻す。さらに、エクストラデッキに戻したこのモンスターの融合召喚に使用した融合素材モンスター一組が自分の

墓地に揃っていれば、この一組を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「再び舞い戻れ、、ＡＴ－Ｘ、メタルウイング・ワイバーン」

真間のフィールドにドラゴレライの融合素材となったモンスターがそろう

「どんなにモンスターを並べても無駄よ、私の死霊は戦闘では破壊されないわ」

「さっきも言ったはずだ、貴様に敗れた者達の怒りを思い知れと、俺はモンスター2体を生け贄にささげアンティーク・ギア・ゴーレムを召喚」

モンスター2体が消滅し地面からゴゴゴゴゴゴとアンティーク・ギア・ゴーレムが呼び出される

アンティーク・ギアゴーレム
レベル８地属性
機械族
攻撃力３０００守備力３０００
効果
このカードは特殊召喚できない。このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力

を超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。
このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

「バトルだ、、アンティーク・ギア・ゴーレムで魂を削る死霊を攻撃、、アルティメットパウンド！！！！」

巨大な機械兵の拳が死霊に叩きつけられる

死霊はそれを受け止め破壊をまのがれるそこから発生した衝撃波がカミューラを襲う

「そんな、バカな～～～～～～」

アンティーク・ギア・ゴーレム　攻撃力３０００＞魂を削る死霊守備力２００

カミューラ
ＬＰ２６００－２８００＝－２００

デュエルが終了し今度こそ立体映像が消えモンスターたちがいなくなる

そしてモンスターと入れ替わるように幻魔の扉が出現する

デュエルの敗者、カミューラに罰を与えるためにだ

「そんな、、私が、、、、いや～～～」

扉に飲み込まれカミューラ

このままハッピーエンドかと思われたが

「シュルルルルル」

「な、、何」

扉の中から鞭の様な物が数本伸び真間の体に巻きついていく

そして幻魔の扉からカミューラが顔を出す

「私は死なない、、ヴァンパイア一族を復活させるためにも」

まずい、、なんかＦａｔｅのギルガメッシュっぽくなっている

真間には赤い弓兵の援護射撃が必要だが残念ながら聖杯戦争自体行われてないのが現状

さすがに劇場版Ｆａｔｅ／アンリミデット・ブレイドワークスのラストが終わりこの島にギルガメッシュっぽいやつがいたんでアーチャーがついでにやってきました

ってな展開にはならないか

「グ、、、クソ」

ってまずい、変な事考えているうちに真間の体がどんどん幻魔の扉に引き寄せられている

あのバカ、、今度は自分を犠牲に、あの吸血鬼を自分ごと封印する気か

「真間、お前は俺が救う」

俺は2階の廊下からデュエル場に飛び降り幻魔の扉に近づく

こうやってみてみると結構でかいな

「雛見沢流奥義、、K1クラッシュ」

力の限りドアを蹴り飛ばし閉門する

ちょうどいい感じにカミューラの腕がドアにはさまる形となった

「うお〜〜〜〜〜、、帰れ帰れ帰れ帰れよ〜〜〜〜」

相手が吸血鬼ならレナじゃないんだ、僕だって（アムロ・レイの声で）

俺はなおも抗おうとするカミューラの腕を引きちぎらんばかりの勢いでドアを閉めに掛かる

「うお〜〜〜〜〜、ウッディ〜〜〜〜〜」

俺の叫び声でかき消されているがさっきからカミューラの悲痛な叫びと骨が折れるような鈍い音が俺の耳に入ってくる

「帰れ、、帰れ帰れ帰れ、、帰れよ～～～～」

そして俺が閉門クラッシュをすること４２回

ついにカミューラが観念しドアの中に完全に姿を消す

カミューラを飲み込むと同時に鞭とドアは消滅する

「マジで、、、、やばかったぜ」

その場所でぱたりと倒れる真間

「まったく、、我が幼馴染ながら無茶しやがるぜ」

俺は倒れこんだ真間に腕を差し出す

「そういうお前だって、、さっきのアレも結構な無茶だったぜ」

ガシっと俺の手を握り真間が起き上がる

「ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ」

「まずい、、城が崩れるぞ」

「２人とも～～、早く逃げるんだな～」

まったく何の冗談だよ

ボスを倒したら城崩壊って、昔のアニメかよ

マリオを見習えマリオを、アレはボスを倒して安全になってから爆破してるじゃないか

いや、アレは爆発してるんじゃなくてマリオが爆破しているのか

なんて話しはどうでもいい早く逃げないと

「ガガガガガ」

「カミューラの城が崩壊していく」

「あぁ、、終わったんだな」

なんか、、すっかり三幻魔編終了的な雰囲気になているがまだセブンスターズは2人目だぞ

後5人残っていて、俺達も残る5人

俺というイレギュラーのせいかカミューラは十代ではなく真間が倒した

これからどういったイレギュラーが出てくるか予想できない。

第２５話ドラえもんのび太と夢幻三幻魔（後書き）

クロノスＶＳカミューラのところを見て思うんですがアニメオリジナルのカードをあたかも市販されて結構知名度ありますよ的な会話が……あの時カミューラが使ってたカードほとんどカード化してませんからね、不死のワーウルフとかブラック・ホール的な城とか。

次回は三沢ッチが少しだけ出てきます。スイマセン、キーワードの所に三沢君は空気じゃないと書いておきながら出番が全然作れなくて……

第２６話女だけの部隊だって、ヒャッホ～（ジュド～～ン）“柿崎～～～～～”

最近仕事が忙しく全然小説が進めませんでしたがどうにか２６話完成です。

色々とネタがあるのにパソコン自体いじれないジレンマと戦い続ける毎日。脳内ではすでに２年生編に入るんじゃないかと言うくらいの勢いでネタができています。

１１月くらいには落ち着くと信じて今は辛抱の時。

長くなってしまいましたが２６話をどうぞ。

第２６話女だけの部隊だって、ヒャッホ～（ジュド～～ン）“柿崎～～～～”

「さて、、どうしたものか」

三幻魔編に入って数日がたった

こないだ真間とカミューラがデュエルをし真間が勝利を収めた

まぁ、そのダメージが残って今真間は保健室のベッドで眠っているわけなのだが

とりあえず俺は今考え事をしていた

「カミューラがきたということは、、次はタニアだよな」

昨日の授業でほとんどの生徒が無断欠勤をしていることが判明

きっとタニアのトラにらちられて今頃コロッセオを作っているのであろう

つまりそろそろ三沢ＶＳタニアのデュエルが始まるわけなんだが

「武力介入するのはいいが、、どうするべきか」

ここで三沢とタニアの対決を潰してしまえば三沢ッチという不名誉なあだ名がつけられなくなる

まぁ言ってしまえばあのデュエルそのものをなくせば白の結社のあ

の惨劇を回避するフラグが大いに立つという物だ

だがここで三沢ＶＳタニアを潰してしまえばただでさえ少ない三沢の出番がさらに少なくなってしまう

俺はどうしたらいい

「そうだ、、、こんな時こそ」

俺は財布の中からひときわ大きいコインを取り出す

黄金色に輝き立派な竜が彫られ所々に多色の推奨が埋め込まれているっというのは嘘で完全に蒼天の拳のケンシロウが使っていたもののレプリカだ

「表が出たらタニアと俺が戦う、、裏が出たら三沢を見守る」

ピンっと指でコインをはじく

キ～～～～～～ンと金属が響く気持ちのいい音が部屋に響き渡る

そして地面に落下する前に掌でそれをキャッチ

開いたほうの腕でそれを覆い隠しなんとかのネコ状態にする

「さて、結果は表か裏か」

「大変っす誠君、、三沢君が変になっちゃったっす～～」

翔に連れられ俺はレッド寮の食堂に足を運ぶ

そこにはどこか上の空でマスタードを一気飲みする三沢の姿が

完全に出遅れてしまった

「すごいな、、オムライスにイチゴジャムかけちゃってるよ」

「重症っすね」

「今度はきゅうりにハチミツをかけだしたぞ」

「重症っすね」

「今度はトンカツのソースの中に名古屋名物赤味噌を入れはじめたんだな～」

「重症っすね」

「しまいに、アメリカンドックに砂糖をかけはじめたわ」

「重症っすね」

「いや、、後半から結構まともになってないか？」

まぁ、相変わらず上の空な事には間違いないのだが

その後も三沢君、元気を取り戻せ大作戦が色々と決行されたが全て不発

生前聞いたことがあるな

誰かを愛すと人間は良くなるヤツと悪くなるヤツにわかれるらしい

三沢はどう考えても後者だな

そしてその日の夕方

俺達は再びタニアのコロッセオに脚を運んでいた

理由は当然タニア事件をさっさと終わらせて三沢君を早く回復させるのが目的だった

コロッセオのど真ん中にセブンスターズの刺客タニアが腕を組んで断っている

「良く来たデュエリストどもよ、私の相手は誰だ」

「俺が行かせてもらうぜ、俺の名は小野寺　誠だ」

他のメンバーの声を振り切り一歩前に出る

「私の名はタニア、、、お前が相手か、、ならば貴様に選ばせてやろう、私の手には知恵のデッキと勇気のデッキがある、どちらかを選ばせてやる」

「当然、、勇気のデッキだな」

「アァ〜〜〜ン、、マコピーったら男らしい決断、カッコイイ〜〜」

「、、、、、ゴメン、マコピーはやめてくれ」

俺は別に狐が変化した姿で“あう〜、肉まん”とか言ったりしないから

どちらかと言うとそのキャラの相方の坂本　真綾ボイスのキャラが好きなんだ

「とりあえずデュエルだデュエル」

腰のデッキケースからデッキを取り出しディスクにセットする

「ところで誠よ、大丈夫なのか、お前のデッキは岩石デッキ」

「相手はアマゾネスデッキだろ、わ～～～てるって」

実際防御系デッキとアマゾネスデッキの相性は最悪だと思う

生前俺の友達が防御系カードで固めたデッキを使っていた

ホーリーエルフやらソウルタイガーやらをデッキに大量投入しガチガチに防御を固めるデッキであった

まぁ、そんなデッキだから当然アマゾネスの剣士にボコボコにされたわけで

惨敗した俺の友達は１８にもなって情けなく泣きじゃくりながら俺の所にやってきた

正直あの時の友達の顔はあまりにも気持ちが悪く思わずウエスタンラリアットをぶちかましてしまった

今となってはいい思い出だ

って、関係ない話を自分の中でしてしまった

「それじゃあタニア、、、熱く楽しいデュエルにしようぜ」

「「デュエル」」

誠
ＬＰ４０００

タニア
ＬＰ４０００

「私のターン、、私はフィールド魔法、アマゾネスの死闘場を発動させる」

ガガガガガガとげの付いた鉄格子がデュエルフィールドを包み込む

アマゾネスの死闘場（アニメオリジナル）
フィールド魔法
このカードの発動時にお互いは６００ライフポイント回復する。攻撃宣言をしたプレイヤーはモンスターで戦闘を行う度に、ダメージステップ終了時に１００ライフポイントを払う事で相手ライフに１００ポイントダメージを与える。

「アマゾネスの死闘場の効果によって互いのプレイヤーはＬＰを６００ポイント回復する」

誠
ＬＰ４０００＋６００＝４６００

タニア
ＬＰ４０００＋６００＝４６００

「さらにアマゾネスの格闘戦士を攻撃表示で召喚」

立体映像の穴から一人の女戦士が飛び上がりタニアのフィールドに着地する

アマゾネスの格闘戦士
レベル４地属性
戦士族
攻撃力１５００守備力１３００
効果
このカードが戦闘を行う事によって受けるコントローラーの戦闘ダメージは０になる。

「私はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ４６００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

フィールド：アマゾネスの死闘場

タニア
ＬＰ４６００
手札４枚
モンスター　アマゾネスの格闘戦士
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、、俺はマシンナーズ・ギアフレームを攻撃表示で召喚する」

ギ～～～ンとオレンジ色の飛行機が俺のフィールドにやってきてガシンガシンガシンと変形しマシンナーズ・ギアフレームの姿に変える

マシンナーズ・ギアフレーム
レベル４地属性
機械族
攻撃力１８００守備力０

効果　ユニオン
このカードが召喚に成功した時、自分のデッキからマシンナーズ・ギアフレーム以外のマシンナーズと名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上の機械族モンスターに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。1体のモンスターが装備できるユニオンは1枚まで。装備モンスターが破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。

「マシンナーズデッキだと」

「そういやぁ、、、真間にも見せてなかったっけ、こっちのデッキ」

「あぁ、、初めて知ったぞそっちのデッキは」

「そのデッキも面白そうだな、、誠、次は俺とデュエルしようぜ」

「相変わらずだな十代は、、とりあえずデュエル再開だ、、、マシンナーズ・ギアフレームの効果でデッキからマシンナーズと名のついたモンスターを手札に加える、、俺はマシンナーズ・ソルジャーを手札に加えてバトル、、ギアフレームでアマゾネスの格闘戦士の攻撃」

バシ～～ンと鋼の拳でアマゾネスの女戦士を殴り倒すギアフレーム

マシンナーズ・ギアフレーム　攻撃力１８００＞アマゾネスの女格

闘戦士　攻撃力１５００

「しかし戦闘ダメージは発生しないぞ」

「知ってるさ、、だからお前のアマゾネスの死闘場の効果を使わせてもらうぜ」

ハ～～～～っと気合を入れてみると俺の魂っぽいものがフィールドに姿を現す

誠
ＬＰ４６００－１００＝４５００

「面白い、、、フン！！」

タニアも気合を入れて自分の分身を作り出す

タニア
ＬＰ４６００－１００＝４５００

「うお～～～～～、、マイティーキック！！」

俺の分身がとび蹴りをタニアの分身にぶちかます

タニア
ＬＰ４５００－１００＝４４００

「っぐ、、、負けるか」

俺のけりを暗いひるんだタニアの魂だがすぐに態勢を立て直し俺の分身にパンチを放つ

誠
４５００－１００＝４４００

「オグ、、、、中々いいパンチじゃないか、俺はさらにリバースカードを１枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４４００
手札５枚
モンスター　マシンナーズ・ギアフレーム
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：アマゾネスの死闘場

タニア
ＬＰ４４００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターン、、私はアマゾネスの剣士を召喚」

アマゾネスの剣士か

防御デッキ最大の敵、特にホーリーエルフとにらみ合った時が１番悲惨だよな

アマゾネスの剣士
レベル４地属性
戦士族
攻撃力１５００守備力１６００
効果
このカードが戦闘を行う事によって受けるコントローラーの戦闘ダメージは相手が受ける。

「そして手札からアマゾネスの呪詛師を発動」

アマゾネスの呪詛師
通常魔法
ターン終了時まで、自分フィールド上のアマゾネスという名のついた表側表示モンスター１体と、相手フィールド上表側表示モンスタ

ー1体の元々の攻撃力を入れ替える。

「よって、、アマゾネスの剣士とマシンナーズ・ギアフレームの攻撃力を入れ替える」

マシンナーズ・ギアフレーム
攻撃力１８００↓１５００

アマゾネスの剣士
攻撃力１５００↓１８００

「バトルだ、、アマゾネスの剣士でマンナーズ・ギアフレームに攻撃、、首狩りの剣」

アマゾネスの剣士の剣が俺のギアフレームの首を叩ききる

アマゾネスの剣士　攻撃力１８００＞マシンナーズ・ギアフレーム
　攻撃力１５００

誠
ＬＰ４４００ー３００＝４１００

「さらに私はアマゾネスの死闘場の効果を発動させる」

「上等だ、、、俺も使うぜ」

タニア
ＬＰ４４００－１００＝４３００

誠
ＬＰ４１００－１００＝４０００

「フン、、ハ～～～」

先程と同じく互いのドッペルゲンガーっぽい魂がフィールドに現れ
度付き合いを始める

誠
ＬＰ４０００－１００＝３９００

「うお、、、お返しだ、ライダーキック」

タニア
ＬＰ４３００－１００＝４２００

「ッグ、やるな、私リバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ３９００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：アマゾネスの死闘場

タニア
ＬＰ４２００
手札２枚
モンスター　アマゾネスの剣士
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、行くぜ、、、マシンナーズ・ソルジャーを召喚」

ドカ～～ンと俺のフィールドに小さな爆発が発生し煙がはれるとそこには片腕が短剣になっている人型ロボットが立っていた

マシンナーズ・ソルジャー
レベル４地属性
機械族
攻撃力１６００守備力１５００
効果
自分フィールド上にモンスターが存在しない場合にこのカードが召喚に成功した時、手札からマシンナーズ・ソルジャー以外のマシンナーズと名のついたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

「マシンナーズ・ソルジャーの効果を発動、、召喚成功時手札のマシンナーズと名のつくモンスター1体を特殊召喚できる、、、いでよ、マシンナーズ・フォートレス」

マシンナーズ・ソルジャーが担当の腕を振るうと光のゲートが発生しそこからカラフルな戦車が出現する

マシンアーズ・フォートレス
レベル7地属性
機械族
攻撃力２５００守備力１６００
効果
このカードは手札の機械族モンスターをレベルの合計が8以上になるように捨てて、手札または墓地から特殊召喚する事ができる。こ

のカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。また、自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードが相手の効果モンスターの効果の対象になった時、相手の手札を確認して1枚捨てる。

「バトルだ、、、マシンナーズ・ソルジャーでアマゾネスの剣士に攻撃」

ガキンとつばぜり合いをしあうマシンナーズ・ソルジャーとアマゾネスの剣士

しかし攻撃力が高いマシンナーズ・ソルジャーがその勝負をせいしたマシンナーズ・ソルジャーの短剣に切り刻まれ爆発するアマゾネスの剣士だがその手に持っていた剣が俺に向かって飛んでくる

ッチョ、マジで怖いって

マシンナーズ・ソルジャー　攻撃力１６００＞アマゾネスの剣士攻撃力１５００

誠

ＬＰ３９００－１００＝３８００

「ック、、、、さらにアマゾネスの死闘場の効果を発動」

誠
ＬＰ３８００－１００＝３７００

「いいだろう、、私も」

タニア
ＬＰ４２００－１００＝４１００

「うおぉ～～～～、ドラゴン・ライダーキック」

ぐるぐると空中で何度も回転しながら俺の魂がタニアにけりをぶちかます

タニア
ＬＰ４１００－１００＝４０００

「反撃させてもらうぞ、、うお～～～」

俺のけりをくらったタニアの魂が殴り返してくる

誠
ＬＰ３７００－１００＝３６００

「しかし、、これでフィールドががら空きだぜ、マシンナーズ・フォートレスでダイレクトアタック」

ギリギリギリギリと砲身をタニアに向けるマシンナーズ・フォートレス

「甘いぞ、、リバースカードオープン、、アマゾネスの意地」

タニアの場のリバースカードがちょうどマシンナーズ・フォートレスの砲身からタニアを守るように起き上がる

アマゾネスの意地
永続トラップ
自分の墓地からアマゾネスと名のついたモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターは表示形式を変更する事ができず、攻撃可能な場合には攻撃しなければならない。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「墓地よりアマゾネスの剣士を特殊召喚する」

トラップカードが光のゲートとなって底から先程倒したアマゾネスの剣士が再びフィールドに降り立つ

「アマゾネスの剣士、、厄介なカードを復活させてきたな」

「どうする誠、、ここは慎重に」

「マシンナーズ・フォートレスでアマゾネスの剣士に攻撃」

「「ッチョ、おま」」

タニアに向かっていた方針はそのまま火を噴き間にいたアマゾネスの剣士に直撃し爆殺する

そして先程と同じく爆発した箇所から剣が飛び出し俺の体を貫く

マシンナーズ・フォートレス　攻撃力２５００＞アマゾネスの剣士　攻撃力１５００

誠
ＬＰ
３６００－１０００＝２６００

「まだまだ～～～、アマゾネスの死闘場効果発動」

誠
ＬＰ２６００－１００＝２５００

「負けてられるか～～」

タニア

ＬＰ４０００－１００＝３９００

誠「うおぉ～～～～、、グリムゾンスマッシュ！！！！」

タニア
ＬＰ３９００－１００＝３８００

「お返しだ」

誠
ＬＰ２５００－２４００

「っへ、、中々熱くなってきたぜ、俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ２４００
手札４枚
モンスター　マシンナーズ・ソルジャー、マシンナーズ・フォートレス
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：アマゾネスの死闘場

タニア
ＬＰ３８００

手札2枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「大丈夫か、、誠のヤツ熱くなりすぎて冷静なプレイングができてなくないか？」

「確かに、、、誠君、一見押してる風に見えるけど、ＬＰは実際にタニアの方が上っす」

「だが、、楽しそうにデュエルしてるぞ」

「あぁ、、見ているこっちも楽しくなってきたぜ」

「俺も、、、俺も小野寺みたいなデュエルをすれば、、タニアを満足させれたのであろうか」

「そう気を落とすな三沢、お前はお前、小野寺は小野寺、、人それぞれのデュエルスタイルがある」

「、、、カイザー」

「私のターン、、モンスター1体を裏守備でセット、リバースカードを1枚伏せてターンエンド、、さぁ、、マコピーのターンよ」

「だからマコピーはやめてくれ」

しかし裏守備、ついに手は尽きたか

誠
ＬＰ２４００
手札４枚
モンスター　マシンナーズ・ソルジャー、マシンナーズ・フォートレス
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：アマゾネスの死闘場

タニア
ＬＰ３８００
手札１枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、、これは叩きかけるチャンス、グリーンガジェットを攻撃表示で召喚」

天から緑色の歯車が舞い降りてきて手足が生えてグリーンガジェットと化す

グリーン・ガジェット
レベル４地属性
機械族
攻撃力１４００守備力６００

効果
このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、デッキからレッド・ガジェット1体を手札に加える事ができる。

「デッキからレッド・ガジェットを手札に加えてからバトル、、マシンナーズ・フォートレスで裏守備に攻撃、フォートレスカノン」

「リバースカードオープン、、和睦の使者」

和睦の使者、俺も愛用するカード

その効果は良く知っている

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは0になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

「ちなみに私のモンスターはクリッターだ」

クリッター
レベル３闇属性
悪魔族
攻撃力１０００守備力６００
効果
このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力１５００以下のモンスター１体を手札に加える。

「和睦の使者か、、だがマシンナーズ・フォートレスの攻撃は止められない」

相手の場の３つ目の毛玉生物と俺のカラフルな戦車がぶつかり合う

まぁ和睦の使者の効果で互いに無傷なのだが

マシンナーズ・フォートレス　攻撃力２５００＞クリッター　守備力６００

「行くぜ、、アマゾネスの死闘場の効果を発動させるぜ、、逃がしやしないぞ」

誠
ＬＰ２４００－１００＝２３００

何度目の光景であろうか
俺の分身がフィールドに出現する

「いいだろう、、ふん！！」

タニア
ＬＰ３８００－１００＝３７００

「いくぜ、ライトニングブラスト！！！」
別に足に電撃を足にまとわせて蹴っているわけではないが叫んでみる
もちろん掛け声は“ウェイ～～～～～”だ

タニア
ＬＰ３７００－１００＝３６００

「お返しだ」

バシ～～～ンと俺の分身が殴り飛ばされる

誠
ＬＰ２３００－１００＝２２００

「最高だぜ、、最高だぜタニア、、血液が沸騰しそうだ」

脳みそから電流が発生し全身の神経を刺激されているようだ

「まだ俺のバトルフェイズは終了してないぜ、、、マシンナーズ・ソルジャーでクリッターに攻撃だ！！」

マシンナーズ・フォートレスに続いて今度はマシンナーズ・ソルジャーが飛び上がる

そしてその手の短剣がクリッターに向けられるがバリアのようなものに阻まれてしまう

マシンナーズ・ソルジャー　攻撃力１６００＞クリッター　守備力６００

「アマゾネスの死闘場を発動」

誠
ＬＰ２２００－１００＝２１００

「私も負けるわけにはいかないな」

タニア
ＬＰ３６００－１００＝３５００

「うお～～～、、爆裂強打の型」

背中から小さめの棒を2本握った俺の分身がタニアにドカ～～～ンと強烈な1撃を叩きつける

タニア
ＬＰ３５００－１００＝３４００

「仕返しだ、、くらえ！！」

「ゲフ」

誠
ＬＰ２１００－１００＝２０００

「何度も殴った、、親父にもぶたれた事ないのに」

「ねぇ真間君、、、、誠君ってあぁ見えて箱入り息子なのかあまったれなの？」

「いいや、、中学時代に近所のヤンキーどもとケンカ三昧の毎日を送っていたから親に殴られるどころか赤の他人に殴られた経験すらあるぞあいつ、、、、、しかしあの頃が懐かしいな」

「なんか真間君勝手に回想シーンモードに入ったっす」

「きっとワンピースの回想張りに長くなってるんだなぁ」

向こうは向こうで変に盛り上がっているな

「残ったグリーン・ガジェットでクリッターに攻撃」

当然和睦の使者の効果で破壊されないクリッター

バチバチバチと俺のグリーン・ガジェットのパンチが防がれる

グリーン・ガジェット　攻撃力１４００＞クリッター　守備力６００

「当然死闘場の効果を発動、、、うお～～～～」

「ヌ～～～～ン」

誠

ＬＰ２０００－１００＝１９００

タニア

ＬＰ３５００－１００＝３４００

「いくぞ、、、、ライダー、、、、、キック」

俺の分身がわざわざタニアの分身の前で後ろ向きで断ちそこから振り向きざまの回し蹴りを叩きつける

タニア
ＬＰ３４００－１００＝３３００

「お返しだ」

バシンと俺の分身が殴られる

実際に俺が殴られているわけではないが何故か痛みのような物を感じる

誠
ＬＰ１９００－１００＝１８００

「イア～～～ン、、マコピー、荒々しい、とってもワイルド～～、惚れちゃう～～」

「いや、、だからマコピーはやめてくれよ」

三沢もこのわけわからない攻撃にやられたってわけか

「三沢ッチも良かったけどマコピーのワイルドさも素敵っちゃ～～」

「、、、、タニアよ、一つ言っておくぞ」

「え？何々？」

「貴様が俺にどれだけ言葉をぶつけようとも俺の心はなびかない、、、俺は三次元に興味はない、、二次元の女性しか愛せないからな！！！！！！」

「「……」」

先程まで尋常でないほどの熱気で包まれていたコロッセオが一瞬で冷たい空気につつまれてしまう

「、、、、、、ップ、ハハハハ、ハハ、、さすがだぜ誠、お前らしいぜ」

「タニアよ、、、お前の桃色光線は俺には通用しない、お前にとって俺は愛称最悪の天敵ってわけだ」

「ねぇ兄貴、、三沢君の時も思ったん好けど桃色光線ってなんすかね？」

「さぁ？」

「俗に言う、、キモオタなの～～ね」

「さて、、、すっかりさめてしまたがデュエル続行、、とりあえず俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ２４００
手札５枚
モンスター　マシンナーズ・ソルジャー、マシンナーズ・フォートレス、グリーン・ガジェット
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：アマゾネスの死闘場

タニア
ＬＰ３３００
手札１枚
モンスター　クリッター
魔法トラップ　なし

「私のターン、、フィールドのクリッターを生け贄にささげてアマゾネス女王を召喚」

相手フィールドのクリッターが渦に飲まれて消えていく

そしてコロッセオの奥の扉がギギギギ～～っと不気味な音を上げながら開く

そしてそこから覇気のような物を発しながらアマゾネスの戦士が一人こちらに向かって歩いてくる

アマゾネス女王
レベル６地属性
戦士族
攻撃力２４００守備力１８００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上に存在するアマゾネスと名のついたモンスターは戦闘では破壊されない。

「そしてクリッターの効果でデッキよりアマゾネスの剣士を手札に加える、、、そしてバトルだ、アマゾネス女王でグリーン・ガジェットに攻撃」

相手フィールドのアマゾネス女王が地面に向かい手に持っていた剣を叩きつける

すると巨大な地割れが発生し俺のグリーン・ガジェットに直撃し破壊していく

アマゾネス女王　攻撃力２４００＞グリンーン・ガジェット　攻撃力１４００

誠
ＬＰ２４００－１０００＝１４００

「まずいな、、せっかく誠君が優勢だったのに」

「カード1枚で状況をひっくり返すことができる、、ゆえにデュエルは奥が深い」

「たった1ターンで状況をひっくり返すとは、、あんなチャラケタ態度をしていてもさすがはセブンスターズ、デュエルの腕は折り紙つきだな」

「まだ終わらないぞ、、アマゾネスの死闘場の効果を使うぞ」

タニア
ＬＰ３３００－１００＝３２００

「ここでおりたら男がすたる」

誠
ＬＰ１４００－１００＝１３００

「フン！！」

「イギ」

誠

ＬＰ１３００－１００＝１２００

「やったな、、いくぜいくぜいくぜいくぜ、エクストリーム・スラッシュ！！！！」

背中から取り出した剣の刃の部分が飛び出しタニアの分身を切り裂く

タニア

ＬＰ３２００－１００＝３１００

「面白い、、面白いぞ、、、、ここまで心躍る戦いはひさしぶりだ、私はこれでターンエンドだ」

誠

ＬＰ１２００

手札５枚

モンスター　マシンナーズ・ソルジャー、マシンナーズ・フォートレス
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：アマゾネスの死闘場

タニア
ＬＰ３１００
手札２枚
モンスター　アマゾネス女王
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、、さて、困ったね」

すさまじい興奮に全身の血液が煮えたぎってくる感じ

電流が脳細胞を埋め尽くす

冷静に切り返さないといけない状況なんだから冷静にならないといけないのに

だがそれが心地いい

濡れる（毒島先輩の声で）

「戦闘破壊されなくなるカードか、、、だがダメージは発生する、マシンアーズ・フォートレスでアマゾネス女王に攻撃」

ギリギリギリギリ～～～～っとうねりを上げながら俺のマシンナーズ・フォートレスがアマゾネス女王に向かって飛んでいく

バシ～～～ンと互いの体をぶつけ合う2体

マシンナーズ・フォース　攻撃力２５００＞アマゾネス女王　攻撃力２４００

タニア
ＬＰ３１００－１００＝３０００

「そしてアマゾネスの死闘場の効果を発動」

誠
ＬＰ１２００－１００＝１１００

「血迷ったか、、その風前のＬＰでアマゾネスの死闘場の効果を使うか、、ぬ～～～～ん」

タニア
ＬＰ３０００－１００＝２９００

「ダークネスムーンブレイク！！！」

Y字開の姿勢から大きく宙を舞い宙返りしながら俺の魂がタニアの魂を地面に叩きつける

タニア
ＬＰ２９００－１００＝２８００

「ッグ、、、だが、貴様のライフは残るわずかだな」

誠
ＬＰ１１００－１００＝１０００

「ッグ、、俺はリバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ１０００
手札５枚
モンスター　マシンナーズ・ソルジャー、マシンナーズ・フォートレス
魔法トラップ　リバース×２

フィールド：アマゾネスの死闘場

タニア
ＬＰ２８００
手札２枚
モンスター　アマゾネス女王
魔法トラップ　なし

「私のターン、、手札のアマゾネスの剣士を召喚」

「それに対してリバースカードオープン、、威嚇する咆哮！！！！」

俺のリバースカードが表になりそこから強烈な音波が発せられ相手フィールドのモンスターをひるませる

威嚇する咆哮
通常トラップ
このターン相手は攻撃宣言をする事ができない。

「バトルを行えなくするカードか、まぁいい、私はターンエンドだ」

誠
ＬＰ１０００
手札５枚
モンスター　マシンナーズ・ソルジャー、マシンナーズ・フォートレス
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：アマゾネスの死闘場

タニア
ＬＰ２８００
手札２枚
モンスター　アマゾネスの女王、アマゾネスの剣士
魔法トラップ　なし

「俺のターン」

その場しのぎで威嚇する咆哮を放ったが

このドローカードで全て決まる

「ドロー！！！」

俺の手札は６枚

この手札でできる事を探せ

何の為のハンドアドバンテージだ

この状況を切り抜けるためだろう

この体を支配する興奮と憤りを魂にのせデッキとシンクロさせる

俺ができる事、、、それは

「手札からスクラップ・リサイクラーを召喚」

地面がベキベキベキ～～～っと割れてそこからミキサー大帝のような機械族モンスターが飛び上がる

スクラップ・リサイクラー
レベル３地属性
機械族
攻撃力９００守備力１２００
効果
このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、自分のデッキから機械族モンスター１体を選択して墓地へ送る事ができる。１ターンに１度、自分の墓地に存在する機械族・地属性・レベル４モンスター２体をデッキに戻す事で、自分のデッキからカードを１枚ドローする。

「スクラップ・リサイクラーの第１の効果を発動、、デッキから機

械族モンスターを1体を墓地に送る、俺はデッキに眠るマシンナーズ・フォートレスを墓地に送る、そして第2の効果を発動！！墓地に眠るマシンナーズ・ギアフレームとグリーン・ガジェットをデッキに戻しシャッフルした後に1枚ドローできる」

墓地からカードが2枚飛び出してきたのでそれをデッキに加えシャッフルし再びデュエルディスクにセットする

「本日2度目のディスティニードロー」

こいつだ、こいつで逆転してみせる

「墓地に眠るマシンナーズ・フォートレスの効果を発動、、手札の機械族モンスターをレベルが8以上になるように墓地に送る事で墓地から復活させることができる、俺は手札のイエロー・ガジェットにレッド・ガジェットを墓地に送り墓地から復活させる！！！！」

俺のフィールドにカラフルな戦車が2体並ぶ

「ウオ～～～～～～～～～～バトルだ、、マシンナーズ・フォートレスでアマゾネスの剣士に攻撃」

「バカな、、そんなことしたら誠のＬＰが」

俺の攻撃命令を受けてマシンナーズ・フォートレスが敵モンスターに向かって突っ込んでいく

「この戦闘で発生する戦闘ダメージは１０００ポイント、、そしてアマゾネスの剣士の効果で戦闘ダメージは相手が受ける」

「誠、、見せてくれ、お前の逆転への一手を」

「おう、、目玉こじ開けて活目しろよ真間、、手札から速攻魔法収縮を発動させる」

収縮
速攻魔法
フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターの元々の攻撃力はエンドフェイズ時まで半分になる。

「その効果でマシンナーズ・フォートレスの攻撃力を半減させる」

マシンナーズ・フォートレス
攻撃力２５００→１２５０

スモールライトでも浴びたのかといわんばかりに俺のマシンナーズ・フォートレスが小さくなっていく

マシンナーズ・フォートレス　攻撃力１２５０＜アマゾネスの剣士
攻撃力１５００

誠
ＬＰ１０００－２５０＝７５０

「そしてアマゾネスの死闘場の効果を使うぜ」

誠
ＬＰ７５０－１００＝６５０

「熱い、、熱いぞ、小野寺　誠よ」

タニア
ＬＰ２８００－１００＝２７００

初めてタニアが俺のことをちゃんと名前でよんだ

俺を戦士として見てくれたようだ

「ウオ～～～～、ディメンションキック！！！」

大きく飛び上がる俺の分身

そしてその先にいくつ物巨大なカードが展開しそれを次々と貫きながらタニアの分身に蹴りをたたきつけた

タニア
ＬＰ２７００－１００＝２６００

「ハ～～～～」

誠
ＬＰ６５０－１００＝５５０

「何をしている小野寺、、せっかくのマシンナーズ・フォートレスを１体破壊なんて」

「いいや万丈目、これでいいんだ、マシンナーズ・フォートレスの効果を発動、、このカードが戦闘破壊された時相手フィールド上のカードを１枚破壊する、俺はアマゾネスの女王を破壊する、、フォートレス・バーン」

セメタリーから光の玉が発射されアマゾネスの女王の体を貫き破壊する

「さぁ、、、ドンドン行くぜ、マシンナーズ・ソルジャーでアマゾネスの剣士に攻撃」

バシュ～～～～っとマシンナーズ・ソルジャーの短剣が取り付けられている腕が発射されアマゾネスの剣士を貫く

アマゾネスの剣士の体が爆発につつまれるがそこからアマゾネスの剣士が持っていた剣が俺に向かって飛んできて俺の体を貫通する

マシンナーズ・ソルジャー　攻撃力１６００＞アマゾネスの剣士
攻撃力１５００

誠
ＬＰ５５０－１００＝４５０

「俺はとことん止まらない、、アマゾネスの死闘場の効果を発動」

誠
ＬＰ４５０－１００＝３５０

「私も最後まで付き合うぞ」

タニア
ＬＰ２６００－１００＝２５００

「頼むぜマシンナーズ・ソルジャー」

俺の分身が大きく飛び上がると同時にマシンナーズ・ソルジャーが
短剣を大きく上に持ち上げる

そして俺の魂がその短剣で真っ二つになる形で突っ込んでいく

「ジョーカーエクストリーム！！！」

短剣で切れたので体が真っ二つに割れて右側と左側が時間差で蹴りが叩きつけられる

タニア
ＬＰ２５００－１００＝２４００

「なんとトリッキーな、、この！！！」

誠
ＬＰ３５０－１００＝２５０

「さぁ、、、これでお前のフィールドを守るものがなくなったな、、２体目のマシンナーズ・フォートレスでダイレクトアタック」

ギリギリギリとカラフルな砲身がタニアに向けられる

「フォートレス・カノン！！！！！」

「うお～～～～～～」

マシンナーズ・フォートレス　攻撃力２５００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

タニア
ＬＰ２４００－２５００＝－１００

「ダッシャ～～～、最高だぜ、最高のデュエルだったぜタニア」

「あぁ、、、私もだ、こんなに心震えたのは久しぶりだった、、ありがとう」

デュエルが終わりタニアの体がガクっと落ちる

そしてその姿がだんだん白い虎の姿になっていく

「さらばだ、、、誇り高き戦士よ」

「そんな、、タニアは」

「何を言っている、、いい女だったぜ」

しかし三沢ッチイベントを発生させてしまった

これが今後の三沢にどのような影響が出てくるか

三沢の白の結社に入るまで

後９４日

→超嘘です。

第２６話女だけの部隊だって、ヒャッホ～（ジュド～～ン）“柿崎～～～～～”

気づいている人もいるかもしれませんが誠がアマゾネスの死闘場の効果を使うときの必殺技名は全て平成仮面ライダーの必殺技名です、まぁオーズまではいけませんでしたが。

それと桃色光線を出しまくるタニアは書きづらい（苦笑）誠に二次元以外の女性に興味なしと言う台詞を言わせることを考えてデュエルシーンを書いていたんですがその途中でタニアの台詞がず～～～っとまじめな状態であったので急いで修正をしようとしたんですが……私も流されて、デュエルアカデミアを書く前は色々と小説を書いていたのですがあぁいうしゃべり方のキャラは書きづらいと気づきました。

次回の更新はかなり遅れそうですがじっくりと更新をしていこうと思ってます。

それではまた次回、冬将軍でした。

第２７話残酷な天使のように少年よ神話になれ（前書き）

久しぶりの更新です。

ネタが脳ミソの中で詰まっていますが俺の更新スピードがついてこれない現状に……マチルダさん、俺にマグネットコーティングを、スイマセン軽く錯乱してました。

それでは流されて、デュエルアカデミア２７話をどうぞ。

第27話残酷な天使のように少年よ神話になれ

「ねぇねぇ聞いた、昨日この島に天使が落ちてきたって」

「知ってる知ってる」

「なんでも、、すごく綺麗なお姉さんらしいぞ」

「何でも、天上院君の美貌にナカジマさんの無邪気さ、ランスターさんのツンデレっぷりと七野さんの純情さ、冥衣さんのフレンドリーさをかねそろえたパーフェクトガールだそうだ」

「それなんてモンタージュ」

やれやれ、プロデュエリストに吸血鬼と続いて今度は天使の噂か

「さすがは学園と言うべきか、噂話と言うものでよく盛り上がるな」

「まぁ、、、それが学生の特権だろう」

「大体天使なんて非科学的だぜ」

「珍しいな、お前結構そういうの好きじゃなかったっけ？」

「まぁ、、、神話の類は好きだが、天使はあまり好きじゃないんだ」

俺はどちらかと言えばサタニストだしな

もちろん生前読んでいたマンガ、真女神転生デビルチルドレンの影響だけどな

「なぁ、、、やっぱ天使もデュエルとかするかな？」

さすがは十代、どんな話もすぐさまデュエルに置き換える

「それはあるかもな、、、天界では時期神候補を決めるためにデュエルが行われてるとか？」

「仮にそうだとしたら、、悪魔デッキを使って勝っても負けだよな」

ハハハハハハと3人で笑いあっていると

「そうも言ってられなくはないか？」

「お、、三沢、いたのか」

「いたよ最初から」

まずいな～～～～、こないだのタニア戦が響いてきてるのか普通に三沢を認識できなかった

まるでＯＮＥ～輝く季節へ～みたいな状態になっている

そういやぁあのゲームの主人公も周りからどんどん忘れ去られて別世界に行ったよな～～～～

まさか、三沢は浩平の生まれ変わり！？

なわけないか

しかしお互い授業には欠かさず出ているのだから認識はしているはずなんだけどな

「カミューラの時みたいにその天使も、、セブンスターズの一因じゃないのか？」

「セブンスターズか」

「今のところアカデミア側は3敗している」

「俺にカイザーにクロノス先生だな」

「そしてセブンスターズは、、ダークネスにカミューラ、タニアと倒していっている」

3勝3敗のイーブン状態

「なぁ、、放課後その天使を調べに行かないか？」

「そうだな、、セブンスターズの恐れもあるしな」

「まったく、、お前達は、危険だから近づくのはやめようと言う考えにはいたらんのか？」

「そういう空栗はどうなんだ」

「冒険する気マンマン、天使デュエリストとデュエルしたいぜ」

「まだ決まってないぞ、、天使だという事もデュエリストと言う事も」

そして放課後

俺と真間と十代と三沢の４人で天使が舞い降りたと言う噂のスポットに来ていた

「しっかし、、スッゲー広いな」

「あぁ、、見渡す限りの大草原、、この島にもこんな場所があったんだな」

十代が無邪気に駆け回る

まぁわからないでもない

完全にボクの夏休みに出てきそうな大草原

都会育ちで結構田舎暮らしに憧れを持つ俺としてもこういった絵に描いたような大自然は大好きだ

「十代〜〜、はしゃぐのもいいが俺達に目的を忘れるなよ〜〜」

「あぁ、、そうだった、天使のデュエリストと戦うんだ」

「だから、、その2つの情報はまだ未確定だぞ」

歩き回ること数分

伝説のスーパーサイヤ人ばりに噂の天使デュエリストは影も形もなかった

「見つからないな～～」

「やはり噂は噂だったか」

「だが三沢よ、、セブンスターズが攻めてきているこの時期だ、もしかしたら何かあるかもしれないぞ」

「火のない所に煙はたたず、、だな」

「とりあえずもう少し探してみるか」

再び探索に当たろうとしたその時であった

「アレ、、、羽が」

どこからともなく純白の羽が舞い降りてくる

「まさか、、本当に」

「天使のデュエリストが」

キョロキョロと辺りを見回してみると草原の真ん中の岩に一人の天使が腰を下ろしていた

「フフフ、、どうしたの坊や達、こんなところに迷い込んで」

「あなたが、、噂の天使デュエリストですか？」

「えぇ、、そうよ」

天使が純白のデュエルディスクをつけた腕を前に突き出す

「天使のデュエリストにしてセブンスターズ第４の刺客、降天使（こうてんし）スフィア」

「セブンスターズだと」

「そこの坊や達、お姉さんとデュエルしない」

「っつーと、闇のゲームか、じゃあここは俺がやるべきだな」

「いや、俺がやる」

「いいや俺が」

「お前達はまだダメージが回復しきってないだろ、、、ここは俺が

やるぜ」

十代はまだダークネスとのデュエルでのダメージが残っている

真間もこないだのカミューラとの闇のゲームでデュエルは無理

つーか三沢、お前の鍵はすでに消滅してるだろう

「ここは五体満足な俺に任せておけ」

「しょうがない、、、頼んだぜ誠」

3人をなだめ俺はデュエルディスクを構えスフィアの元に向かう

「あら、、坊やが私の相手をしてくれるの？」

「あぁ、、それと俺は坊やじゃねー、小野寺　誠だ」

「いいわ、、、中々の魂を持っていて、私の計画の最初の生け贄にふさわしい」

「え！？何、、生け贄？」

「フフ、それじゃあはじめましょう、、、闇のデュエルを」

「なんだかよくわからねーけど、、、、熱く楽しいデュエルにしようぜ」

「「デュエル！！！」」

誠
ＬＰ４０００

スフィア
ＬＰ４０００

「俺のターン、、俺はモンスターを裏守備でセット、さらにリバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

スフィア
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターンね、私は天空の聖域を発動させるわ」

パ～～～～っと天から光が差し込みそこから雲の上に載った城が俺たちを囲うようにいくつも落下してくる

天空の聖域
フィールド魔法
天使族モンスターの戦闘によって発生する天使族モンスターのコントローラーへの戦闘ダメージは０になる。

やはり天使デッキ使いのようだ

「そしてシャインエンジェルを召喚を守備表示で召喚」

城の中から一人の青年の天使が飛び上がりスフィアのフィールドに腕を交差させながら着地する

シャインエンジェル
レベル４光属性
天使族
攻撃力１４００守備力８００
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１

５００以下の光属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。その後デッキをシャッフルする。

「私はこれでターンエンドよ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：天空の聖域

スフィア
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　シャインエンジェル
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、俺はロックストーン・ウォリアーを召喚」

ボコボコボコと地面がせり上がり余計な意思や岩をバ～～～ンと弾き飛ばしロックストーン・ウォリアーの形になる

ロックストーン・ウォリアー
地属性レベル４

岩石族
攻撃力１８００守備力１６００
効果
このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。このカードの攻撃によってこのカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、自分フィールド上にロックストーン・トークン（地属性レベル１岩石族攻撃力０守備力０）２体を特殊召喚する。このトークンはアドバンス召喚のためにはリリースできない。

「そして巨大ネズミを反転召喚」

（なんだか不穏な雰囲気でのデュエルね）

どうやらこの巨大ネズミは長女のようだ

相変わらずのネガティブ思考がこっちにまで伝わってくる

（悪いな、、こういう時だからこそ期待しているぞ、、長女）

（こんな状態での期待は荷が重いわね、、、やっぱ私は不幸ね）

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０

効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

「バトル、、巨大ネズミでシャインエンジェルを攻撃」

手に持っていた頭蓋骨が開いてフィールドの天使に噛み付きその体を消滅させる

巨大ネズミ　攻撃力１４００＞シャイネンジェル　守備力８００

「シャインエンジェルの効果を発動、、デッキからコーリング・ノヴァを特殊召喚」

破壊されたシャインエンジェルの羽が宙を舞いそれが輪の形で終結し始め新たなモンスターの形となった

コーリング・ノヴァ
光属性レベル
天使族
攻撃力１４００守備力８００

効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下で光属性の天使族モンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。また、フィールド上に天空の聖域が存在する場合、代わりに天空騎士パーシアス1体を特殊召喚する事ができる。

「リクルーターからまたリクルーターか、、面白い、ロックストーン・ウォリアーでコーリング・ノヴァに攻撃」

ワシっとコーリング・ノヴァの輪を両手でつかむロックストーン・ウォリアー

そして両側に引き伸ばしその体を引き裂いた

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞コーリング・ノヴァ　攻撃力１４００

「天空の聖域の効果で天使族モンスターが戦闘する時のダメージは受けないわ、そしてコーリング・ノヴァの効果を発動、、デッキから攻撃力１５００以下の天使族モンスターを連れてこれるのだけれども天空の聖域がある時代わりにパーシアスをつれてくる事ができ

るわ、私はデッキからパーシアスを攻撃表示で特殊召喚」

むしられたコーリング・ノヴァの羽がゲートのように輪の形になりそこから純白の翼と鎧を身にまとった天使が降臨する

天空騎士パーシアス
光属性レベル５
天使族
攻撃力１９００守備力１４００
効果
守備表示モンスター攻撃時、その守備力を攻撃力が越えていれば、その数値だけ相手に戦闘ダメージを与える。また、このカードが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた時、自分はカードを1枚ドローする。

「貫通能力に加えドロー加速カードか、、俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　巨大ネズミ、ロックストーン・ウォリアー

魔法トラップ　リバース×１

フィールド：天空の聖域

スフィア
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　天空騎士パーシアス
魔法トラップ　なし

「私のターンね、私は豊穣のアルテミスを表側守備表示で召喚」

大きな翼で全身を隠し白い天使が相手フィールドに降臨する

豊穣のアルテミス
レベル４光属性
天使族
攻撃力１６００守備力１７００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、カウンター罠が発動される度に自分のデッキからカードを１枚ドローする。

カウンタートラップが発動する度にデッキからカードをドローできるモンスター

パーシアスに加え更なるドロー加速

「そしてバトル、、パーシアスで巨大ネズミに攻撃、、純白の剣！！」

手に持った光り輝くサーベルによって俺の巨大ネズミが真っ二つに切断される

（今日の出番はもう終わり、、、、不幸ね）

天空騎士パーシアス　攻撃力１９００＞巨大ネズミ　攻撃力１４００

誠

ＬＰ４０００－５００＝３５００

「クソ、、、先手は取られたか」

「うおぉ！！！誠、誠」

「どうした十代」

「足下、、、足下見てみろ」

足下だ？俺はヤムチャみたいに足下がお留守ではないと思うが

「って、、、なんじゃこりゃ～～～」

視線を下に向けると俺の足首から下が大量のクリスタルが発生し引き締め気あって靴が見えないくらいに埋め尽くされている

わかりやすく言えばファフナーの同化現象っぽい状態になっている

「フフフ、言ったわよね、、これは闇のゲームだと、、、、、あなたのＬＰが減るたびにあなたの体はクリスタルに変化していくは、そしてＬＰが０になった時あなたは完全にクリスタルと化す」

「この俺がクリスタルに、、、、さぞ美しいクリスタルになるに違いない」

「いや、、お前はどこの伝説の魔法使いだ」

そのネタをわかるお前は本当にすごいぞ三沢

つーかこの世界にもバスタードはあったのか

「つーかさ、、デュエルで負けたら俺だけ偉い事になるだけでそっちペナルティーなし？」

「そんなことないわよ、、、私はクリスタルにはならねいけど、、その代わり背中の羽が枯れていくわ」

バサっと背中の純白の翼を広げ始めるスフィア

「翼が枯れていく？どういう事だ？」

「私のＬＰが０になり翼が全て枯れると存在その物が消滅するわ」

「なるほど、、、命を懸けてデュエルしてるわけだな」

「そうよ、、理解してくれた？」

「あぁ、、大体理解した」

「やめるんだ誠、、こんな危険なデュエル放棄するんだ」

「やめるかよ、、１度始まったデュエルは止められない、、それに十代、真間、お前達だって命がけで戦ってただろ、、、、俺だけのけ者なんて悲しい事言うんじゃねーよ」

「しかし」

「無駄だ十代、、、誠は普段はチャラケテいるが意外と頑固だ、１度言い出したらとまらないさ」

「誠、、、絶対に負けるなよ」

「ッフ、俺を誰だと思っていやがる、、さぁ、スフィア待たせたな、デュエル続行だ」

「えぇ、、、まず私はパーシアスの効果でカードを1枚ドローするわ」

「モンスターの効果が発動するのはお前だけじゃねーぜ、、俺は墓地に送られた巨大ネズミの効果を発動させる、、、このカードは戦闘で破壊された時デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスターを1体攻撃表示で特殊召喚する事ができる、、激昂のムカムカを

特殊召喚する」

本当、毎度毎度お世話になっているよ、巨大ネズミと激昂のムカムカには

「頼んだぜ俺のメイナタッカー」

（あいよ、、今日もいっちょ張り切りますか）

ベキベキベキ～～～っと地面が我そこから岩とカニを足して2で割ったようなモンスター、激昂のムカムカが登場する

激昂のムカムカ
地属性レベル５
攻撃力１２００守備力６００
自分の手札１枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

「激昂のムカムカは俺の手札１枚につき攻撃力が４００ポイントアップする、、そして俺の手札は４枚、、攻撃力は２８００に上昇」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→２８００

「フフ、、ずいぶんとたくましいお仲間ね、、私はリバースカードを1枚伏せてターンエンドよ」

誠
ＬＰ３５００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー、激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：天空の聖域

スフィア
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　天空騎士パーシアス、豊穣のアルテミス
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、この瞬間手札が1枚増えてムカムカの攻撃力がさらに上昇する」

激昂のムカムカ

攻撃力２８００→３２００

「バトルだ、、激昂のムカムカでパーシアスに攻撃、、、アングリーブロー」

（うっし、、一発ぶちかますぜ！！）

「残念ね、、カウンタートラップ発動、、、攻撃の無力化よ」

攻撃の無力化
カウンタートラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。相手モンスター１体の攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

相手フィールドに突貫していくムカムカであったが突如発生したエネルギーの渦にはばまれその動きを止める

「さらに豊穣のアルテミスの効果でカウンタートラップが発動するたび私はカードを１枚ドローするわ」

（スマネー大将、、、しくじっちまった）

「気にするな、、、俺はリバースカードを１枚伏せてターンエンドする」

激昂のムカムカ
攻撃力３２００→２８００

誠
ＬＰ３５００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー、激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

フィールド：天空の聖域

スフィア
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　天空騎士パーシアス、豊穣のアルテミス
魔法トラップ　リバース×１

「私のターンね、、、厄介なモンスターがいるわね、ドロー、、ここはパーシアスでロックストーン・ウォリアーに攻撃、、、純白の剣」

純白の翼の騎士の剣が再び舞う

一瞬光ったかと思うと俺のロックストーン・ウォリアーの体が真っ二つに切断されていた

天空騎士パーシアス　攻撃力１９００＞ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００

「だがロックストーン・ウォリアーが行う戦闘で発生する俺のダメージは０になる」

「バトルフェイズを終え私はリバースカードを2枚セットしターンエンド、、さぁ、坊やのターンよ」

誠
ＬＰ３５００
手札４枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

フィールド：天空の聖域

スフィア
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　天空騎士パーシアス、豊穣のアルテミス
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、ドロー」

さて、パーシアスが攻撃表示のままか

まぁ天空の聖域があるからダメージを気にせず俺の戦力を減らす戦略をとったのかもしれない

ムカムカの攻撃力は手札が5枚に増えて３２００になる

激昂のムカムカ
攻撃力２８００→３２００

ここは手堅くアルテミスを破壊しよう

カウンタートラップが発動する度にドローされるのは厄介だ

「バトルだ、、ムカムカでアルテミスに攻撃」

再びムカムカが相手フィールドに向かって突撃し始める

「フフ、、リバースカード天使の慈悲を発動」

天使の慈悲　（マンガＧＸオリジナル）
通常トラップ
自分フィールド上のモンスターが攻撃された時発動することができる、そのモンスターとは別の自分フィールド上の天使族モンスターに攻撃対象を変更する。

「ック、攻撃対象を変えるトラップか」

アルテミスに向かっていたムカムカであったがその間にパーシアスがわって入ってくる

「だが攻撃力だったら俺のムカムカの方が上だぜ」

「えぇ、、このままでは私のパーシアスが負けてしまうから天使の慈悲にチェーンして最後のリバースカード禁じられた聖杯の効果を発動するわ」

禁じられた聖杯
速攻魔法
フィールド上に表側表示で存在するモンスター１体を選択して発動する。エンドフェイズ時まで、選択したモンスターの攻撃力は４００ポイントアップし、効果は無効化される。

「このカードの効果によりムカムカの攻撃力は４００ポイントアップする、、その代わり効果は消させてもらうわ」

ムカムカの頭上に巨大なコップが現れそこから水滴が１粒ムカムカにかかる

激昂のムカムカ
攻撃力３２００→１６００

なんてカードだ、、速攻魔法で１ターン限りの愚鈍の斧か

「迎え撃ちなさいパーシアス、、、純白の剣」

今度はパーシアスが俺のムカムカに向かって飛翔してくる

そしてその手の剣でムカムカの体を串刺しにし破壊する

（アチャ～～～大将、、すまない）

「うぉお、、俺のムカムカが」

激昂のムカムカ　攻撃力１６００＜天空騎士パーシアス　攻撃力１９００

誠
ＬＰ３５００－３００＝３２００

「パキパキパキパキパキ」

「クリスタルが膝まで上ってきてるぞ」

「クソ、、、こっちはこんなにダメージをくらってるのに向こうはノーダメージかよ」

「残念だったわね、、私はパーシアスの効果でカードを1枚ドローするわ」

「だがまだ俺のターンは終わってないぜ、、俺はまだ通常召喚を行っていない、メイン2でモンスターを1体裏守備でセットしてターンエンドだ」

誠
ＬＰ３２００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

フィールド：天空の聖域

スフィア
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　天空騎士パーシアス、豊穣のアルテミス
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン、、私はパーシアスを生け贄に、、、、更なる神々しさをまといて降臨せよ、、天空勇士ネオパーシアス！！！」

パーシアスの体が激しい光につつまれる

そしてシルエットだけとなったパーシアスの体の回りに城と青の鎧がどこからともなく現れ装着されていく

そして光が晴れた頃にはパーシアスの姿がネオパーシアスに進化していた

天空勇士ネオパーシアス
レベル７光属性
天使族
攻撃力２３００守備力２０００
このカードは自分フィールド上の天空騎士パーシアス１体を生け贄に捧げる事で特殊召喚する事ができる。このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを

与える。
また、このカードが相手ライフに戦闘ダメージを与えた時、自分のデッキからカードを1枚ドローする。フィールド上に天空の聖域が存在し、自分のライフポイントが相手のライフポイントを超えている場合、その数値だけこのカードの攻撃力・守備力がアップする。

「その瞬間トラップ発動、、激流葬」

激流葬
通常トラップ
モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚された時に発動する事ができる。フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

「フィールド上の全てのモンスターを破壊する」

「カウンタートラップ発動、、、デストラクション・ジャマー」

デストラクション・ジャマー
カウンタートラップ
手札を1枚捨てる。フィールド上のモンスターを破壊する効果を持

つカードの発動を無効にし、それを破壊する。

「手札を1枚捨てて激流葬を無効にし破壊」

俺の激流葬のカードに電流が走りバリ～～～ンと破壊され立体映像の津波もどこかに消え去ってしまった

「さらに豊穣のアルテミスの効果で1枚ドロー」

クソ、実質ノーコストでトラップを無効にしたって所か

「そうそう、、言い忘れてたけどネオパーシアスの攻撃力は天空の聖域がフィールドに存在しているから８００ポイントアップしているわ」

天空勇士ネオパーシアス
攻撃力２３００→３１００

「そしてバトル、、ネオパーシアスで裏守備モンスターに攻撃」

「させるか～～～、、和睦の使者発動」

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは0になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

「残念、、リバースカードオープン、、トラップジャマー」

トラップ・ジャマー
カウンタートラップ
バトルフェイズ中のみ発動する事ができる。相手が発動した罠カードの発動を無効にし破壊する。

俺のフィールドに3人の修道女が現れたが足下から魔法人が発生しその姿をフィールドから消していく

「アルテミスの効果で1ドローね、、そしてパーシアスの攻撃は続くわ、パーシアスで裏守備モンスターに攻撃、、、ホーリー・ノヴァ」

「俺のモンスターはマジックホール・ゴーレムだ」

マジックホール・ゴーレム
レベル３地属性
岩石族
攻撃力０守備力２０００
効果
１ターンに１度、自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター１体を選択して発動する事ができる。選択したモンスターはエンドフェイズ時まで攻撃力が半分になり、このターン相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。
この効果を発動するターン、選択したモンスター以外のモンスターは攻撃する事ができない。

俺のフィールドの裏守備カードが表側表示となりマジックホール・ゴーレムの姿が現れる

だが次の瞬間パーシアスの体から発せられた激しい光によってマジックホール・ゴーレムが塵にかえっていく

天空勇士ネオパーシアス　攻撃力３１００＞マジックホール・ゴーレム　守備力２０００

誠

ＬＰ３２００－１１００＝２１００

「ック、、貫通効果ダメージに加えてさらにカードドローってわけか」

「えぇ、、今の攻撃でさらに坊やと私のＬＰに差ができたわね、、私のパーシアスの攻撃力がさらに上昇したわ」

天空勇士ネオパーシアス
攻撃力３１００→４２００

「バトルフェイズを終えてメイン２でリバースを２枚伏せてターンエンドよ」

誠
ＬＰ２１００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

フィールド：天空の聖域

スフィア
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　天空勇士ネオパーシアス、豊穣のアルテミス
魔法トラップ　リバース×２

「まずいな、、、誠の行動がことごとくカウンタートラップで防がれていく」

「そのたびにアルテミスの効果でデッキからカードをドローできる、、単純な戦略だが確実に誠を追い込んでいる」

「だがハンドアドバンテージは誠の方が若干優勢、、誠、、ここが辛抱時だ」

「俺のターン、、、、ドロー」

クソ、、俺の場にカードはないが手札が5枚

向こうの手札は2枚だがリバースカードが2枚

いつもなら臆する事なく突っ込むものだが、さっきまでのカウンタートラップラッシュが俺の決心を鈍らせる

「えぇい、、ままよ、、、魔法発動、、ライトニング・ボルテックス」

ライトニグ・ボルテックス
通常魔法
手札を1枚捨てて発動する。相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊する。

「手札を1枚捨てて貴様のフィールド上の表側表示のモンスターを全て破壊する」

ババババババっと雷の雨が相手フィールドに降り注ぐ

「ック、やるじゃない、、私のモンスターは全滅ね」

どうやら魔法カードに対するカウンタートラップは伏せられていないようだ

「場ががら空きだぜ、、、俺はモアイ迎撃砲を攻撃表示で召喚」

「残念、、それに対してカウンタートラップキックバックを発動するわ」

キックバック
カウンタートラップ
モンスターの召喚・反転召喚を無効にし、そのモンスターを持ち主の手札に戻す。

「アルテミスがいなくなったから1枚ドローできないけど、、モアイ迎撃砲は手札に戻るわ」

ゴゴゴゴゴと俺のフィールドの地面からモアイ迎撃砲が生えてきたがそのまま勢いよく飛び上がり空のかなたへ飛んでいった

「モアイ、、、どこに行く～～～」

ってボケてる場合じゃない、通常召喚を行ってしまった

「俺はメイン2でリバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ２１００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：天空の聖域

スフィア
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　なし

魔法トラップ　リバース×1

「私のターンね、、手札から手札抹殺を発動させるわ」

手札抹殺
通常魔法
お互いの手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドローする。

手札交換カード、これはチョット嬉しいぜ

「俺は2枚捨てて2枚ドローする」

「私も2枚捨ててその分ドローするわ、、さらに私は手札から天の落し物を発動させるわ」

天の落し物　（マンガＧＸオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキから3枚引きその後手札を2枚捨てる

「互いのプレイヤーはデッキから3枚ドローした後に手札を2枚捨てなければならないわ」

「互いに効果を及ぼす天使の施しか」

しかも天使の施しと違って俺のハンドアドバンテージは＋1される

本当展開都合のためのカードとはいえアニメやマンガには強力なカードがあるよな

「そして私は手札のハーヴェストを召喚するわ」

立体映像の神殿の一つから韋駄天のごとくすばやいスピードで金色の天使が相手フィールドに登場する

智天使ハーヴェスト
レベル４光属性
天使族
攻撃力１８００守備力１０００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分の墓地に存在するカウンタートラップ１枚を手札に加える事ができる。

「バトル、、ハーヴェストでアイテプレイヤーにダイレクトアタック」

手に持った笛の音を吹き始めるハーベスト

そして笛から音波と言うよりもソニックブーム的なものが飛んできて俺に襲い掛かってくる

「うお～～～～～」

智天使ハーヴェスト　攻撃力１８００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

誠
ＬＰ２１００－１８００＝３００

「バリバリバリバリ～～～～～」

「あぁ、、またクリスタルが」

今の攻撃で俺のＬＰが急激に減り俺の体のほとんどがクリスタルに変化する

頭部、両腕以外完全にクリスタルに埋もれてしまいデュエルする事さえも困難になってきていた

「フフフフ、、、派手な姿になったわね」

「ッヘ、何とでも言いやがれ、最終的に勝てばなんでもないぜ」

まずい、デュエルが白熱するときにえられる興奮とは段違いの興奮が俺の精神を埋め尽くしていく

デュエルの勝敗という結果に俺の制止と言う結果も天秤に乗っかっているこの状況

脳ミソどころか全身の血管さえもが沸騰してきそうだぜ

「私はこれでターンエンドよ」

誠
ＬＰ３００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：天空の聖域

スフィア
ＬＰ４０００
手札１枚
モンスター　智天使ハーヴェスト

魔法トラップ　リバース×1

「俺のターン、、リバースカードオープン、、地割れを発動する」

地割れ
通常魔法
相手フィールド上に表側表示で存在する攻撃力が一番低いモンスター1体を破壊する。

バリバリバリ～～～っとクレパスが発生し金色の天使がその中に消えていく

「戦闘破壊じゃないからハーヴェストの効果は発動しないわ」

これで邪魔なモンスターは全て消えた

これで終わらせてやる

「さらに俺は墓地に眠る岩石族モンスターを7体除外する」

（ダメだよ、誠）

「墓地の岩石族モンスターを任意の枚数ゲームから除外し」

（誠、、ねぇ誠、、落ち着いて）

「メガロック・ドラゴンを」

（誠！！！！）

「攻撃表示で特殊召喚する」

（ダメ～～～～～～～～～～～～）

視線変更～真間～

「メガロック・ドラゴンを特殊召喚する」

ゴゴゴゴゴと大きな地響きが発生

そして地面を突き破りながら誠のエースモンスターのメガロック・ドラゴンがフィールドに降臨する

「いいぞ、、これでメガロック・ドラゴンの攻撃力は４９００ポイント、、そして相手フィールド上にはモンスターはいない、、この攻撃が通れば誠の勝ちだ」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?→４９００

「、、、おかしいな」

「どうした真間」

「誠らしくないと思ってな、、相手フィールドにリバースがまだ存在しているのにメガロック・ドラゴンを召喚するなんて」

いつもであれば少なくとも大寒波やハリケーンなどでリバースを綺麗にしてからメガロック・ドラゴンを召喚していたはずだ

マジックシリンダーでもくらおうなら即死

攻撃の無力化などで攻撃を防がれ防御に徹されれば勝率が一気に下がる

ゆえに誠はメガロック・ドラゴンで攻撃する場合はいつも慎重に動いていた

相手のフィールドにはリバースが１枚

なんだ、いやな予感がする

「メガロック・ドラゴンで相手プレイヤーに直接攻撃、、、、アースカノン・インフェルノ！！！」

メガロック・ドラゴンの口にエネルギーが終結していく
気のせいか?メガロック・ドラゴンがどこか攻撃をためらっている風にも見える
「墓地に眠る片翼の天使の効果を発動」
「なんだと!!!」
突如スフィアの目の前に翼が片方もげている天使が姿を現す
「その効果によりメガロック・ドラゴンの攻撃力を半分にするわ」

片翼の天使　（オリジナル）
レベル３光属性
天使族
攻撃力１１００守備力１５００
効果
相手モンスターが直接攻撃宣言時、墓地に眠るこのカードをゲームから除外する事でそのモンスターの攻撃力をバトルフェイズ終了時まで半分にする。

メガロック・ドラゴン
攻撃力４９００→２４５０

「かまうか、、そのままぶち抜け～～～」

メガロック・ドラゴンの口から放たれた熱線が天使の防御により複数の熱線に分けられそのうちの半分がスフィアに直撃する

メガロック・ドラゴン　攻撃力２４５０（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

スフィア
ＬＰ４０００－２４５０＝１５５０

「ック」

熱線を受けるとスフィアの背中の翼が次々としおれていき片方の翼は完全にしぼみきり少し色も黒ずんできた

「この瞬間トラップ発動、、ダメージ・コンデンサー」

ダメージ・コンデンサー
通常トラップ
自分が戦闘ダメージを受けた時、手札を1枚捨てて発動する事ができる。その時に受けたダメージの数値以下の攻撃力を持つモンスタ

ー1体をデッキから攻撃表示で特殊召喚する。

「私は手札を1枚捨てて今受けたダメージの２４５０ポイント以下の攻撃力のモンスター、、ザ・クリエイターをデッキから特殊召喚するわ」

スフィアの場のトラップカードが激しく光り始め光が晴れるとそこにはオレンジ色の神々しい巨人が立っていた

ザ・クリエイター
レベル８光属性
雷族
攻撃力２３００守備力３０００
自分の墓地からモンスターを1体選択する。手札を1枚墓地に送り、選択したモンスター1体を特殊召喚する。この効果は1ターンに1度しか使用できない。このカードは墓地からの特殊召喚はできない。

「ッヘ、、、、中々恐ろしいカードじゃないか、、俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ３００
手札３枚
モンスター　メガロック・ドラゴン
魔法トラップ　なし

フィールド：天空の聖域

スフィア
ＬＰ４０００
手札０枚
モンスター　ザ・クリエイター
魔法トラップ　なし

「私のターン、、壺の中の魔術書を発動させるわ」

壺の中の魔術書（マンガ版ＧＸオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする。

「デッキから3枚ドロー、、そしてクリエイターの効果を発動させるわ、、手札を1枚墓地に送り墓地に眠るモンスター1体を復活させる、、、私はスペルビアを特殊召喚するわ」

クリエイターが気合を入れると天から雷が多数落下し落下箇所に光の魔方陣が発生する

そして魔法人の中から壷に手足と翼が生えた漆黒の天使が這い上がってくる

堕天使スペルビア
レベル８闇属性
天使族
攻撃力２９００守備力２４００
効果
このカードが墓地からの特殊召喚に成功した時、自分の墓地に存在する堕天使スペルビア以外の天使族モンスター１体を特殊召喚する事ができる。

「そしてスペルビアの効果を発動、、墓地に眠る堕天使ゼラートを特殊召喚」

スペルビアの壷の中から漆黒の翼とボディーの天使というよりデビルなモンスターがはいずり上がってくる

堕天使ゼラート
闇属性レベル８
天使族
攻撃力２８００守備力２３００
効果
自分の墓地に闇属性モンスターが４種類以上存在する場合、このカードは闇属性モンスター１体をリリースしてアドバンス召喚する事ができる。手札から闇属性モンスター１体を墓地へ送る事で、相手フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。この効果を発動したターンのエンドフェイズ時にこのカードを破壊する。

「さらに墓地に眠る光属性モンスターを２体除外しホーリーシャイン・ソウルを特殊召喚」

地面から２つの光の玉が出現しそれが混ざり合って女性のシルエットの姿になる

ホーリーシャイン・ソウル
レベル６光属性
天使族
攻撃力２０００守備力１８００
効果
このカードは通常召喚できない。自分の墓地の光属性モンスター２体をゲームから除外して特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在する限り、相手のバトルフェイズ中のみ全ての相手モンスタ

ーの攻撃力は３００ポイントダウンする。

「すごい、、たった1ターンであそこまでボードアドバンテージをひっくり返すとは」

「だが、いくらモンスターを並べても俺のメガロック・ドラゴンの足下にもおよばねーぜ」

「残念ね、、、私は堕天使ゼラートの効果を発動させるわ、手札のダーク・ヴァルキリアを墓地に送り相手フィールド上のモンスターを全て破壊するわ」

ゼラートの足下から影がうねりを上げながら誠のフィールドを侵食する

そして陰から出てきた無数の腕に絡まれメガロック・ドラゴンが影の中に引きずり込まれてゆく

「これでおしまいよ、、、全モンスターでダイレクトアタック」

スフィアのフィールドのモンスターがいっせいに誠に向かって飛び掛っていく

「バカな、、、うお～～～～～」

ザ・クリエイター　攻撃力２３００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

堕天使スペルビア　攻撃力２９００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

堕天使ゼラート　攻撃力２８００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

ホーリーシャイン・ソウル　攻撃力２０００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

誠
ＬＰ３００－１００００＝－９７００

誠が、、、負けた

「フフフ、、それじゃあ罰ゲームね、、クリスタルになってもらおうかしら」

僅かに残っていた誠のクリスタルでない部分からクリスタルが生えてくる

「クソ、、、この俺が、、、、、負ける、、なんて」

残る少ない部分があっという間にクリスタルに埋もれてしまい完全にクリスタルのサボテンのような状態になってしまった誠

そしてその手元にあったカード3枚が俺の風に飛ばされ俺の足下にやってくる

「サイクロン、聖なるバリア〜ミラーフォース〜、伝説の柔術家、、、、、、バカヤロー、勝ちに急ぎやがって」

「さて、、、今日はチョット疲れちゃったし、、生け贄集めはまた明日続行ね」

そう言い残しスフィアの姿が光につつまれ俺達の前から消えていく

「おい、、次は俺と闘え、、誠を返せ、、、返せ〜〜〜〜!!!!!」

第２７話残酷な天使のように少年よ神話になれ（後書き）

誠の敗北。そして三幻魔編もクライマックスです。

しかしマンガ版ＧＸのオリカってかなりチートなカードが多いな～～って思います。壷の中の魔術書とか天の落し物なんて本当“いんちき効果もいい加減にしろ！！”と叫びたくなります。

それではまた次回会いましょう。冬将軍でした。

第２８話ＷＩＴＨ～友よ共に～（前書き）

昨日ニトリで新しいパソコン用のイスを購入し嬉しくて1日中小説を書いてしまいました（笑）

今回は2話連続投稿です。

ちなみに今回は真間が出てくるので相変わらずのチート能力前回のオリカ無双状態になります。

チートクラスオリカ＋チートドロー＋メタカード、何でしょうこのエクスカリバーよりも約束された勝利の剣は。

それでは本編をどうぞ。

第２８話ＷＩＴＨ～友よ共に～

視線変更～真間～

視線変更～真間～

「とりあえずこのカードとこのカードを入れて」

誠がクリスタルに変えられて１週間がたった

天使デュエリストの噂を聞きつけ島のデュエリストが何人かデュエルに挑んだり

スフィアの謎の力であろうかフラフラと引き寄せられたデュエリストがみんなデュエルに敗北

そして誠の周りにはクリスタルに変えられたデュエリストのなきがらが沢山ならんでいる

「よし、、、これで完成だ」

最後のカードをデッキに加え立ち上がる

目的地は、友の敵のいる場所

「うわ～～～～～～」

「フフフ、、あなたも私のかてになりなさい」

ちょうどあの草原にたどり着くと同時に悲鳴が俺の耳に入る

またデュエリストがに敗北しクリスタルに変えられてしまったようだ

「ここもずいぶんにぎやかになったわ、、これだけのクリスタルがあれば私の願いももうすぐ叶う」

「ところが、、世の中そう甘くないのが現実だ」

「あら、、新しいお客さん、、人気者ね私」

俺の声に気づき戦闘態勢をとる

「俺の友を帰してもらうぜ」

「私に勝てたらいいわ、、、でも勝てるのかしら」

「勝ってやる、、、俺は大切な者の為なら何だってしてやるぜ」

デッキケースからカードを取り出しシャッフルしてからデュエルディスクにセットする

「戦う前に一つ聞きたい、、、何故デュエリストの魂を集める」

「、、、、会った時に言ったわよね、私が降天使だと、私はかつて

天界にいたわ、、、、、人々の為に日々神に仕え働いてきた、でも、、ある日、、、同僚であるアイツが、、、私を罠にはめ、、、、、、」

誠とのデュエルで決して崩さなかったスフィアのの表情が少しゆがむ

「天界から追放されフォール・ダウン寸前だった私の元にあのお方が現れた、、そして強きデュエリストの魂を集めれば天界に戻れると、、私は誓った、アイツに復讐する為になんだってしてやると」

「そうか、、、それでこのデュエルアカデミアに目をつけたわけか」

「えぇ、、、でもがっかり、最初に闘った坊やは強い魂を持っていたけど、他はあまり上質な魂ではないわ、、、、、まったく、いつになったら天界に戻れるのか」

「上質な魂か、、、、、自分で言うのもなんだが、俺はお前が最初に倒した誠と同じくらい強いデュエリストだぜ」

「あら、、だったらあなたを倒せば私の里帰りが早くなるって事かしら」

「それはないな、、、、なぜなら俺が勝つからな！！！」

沢山あるクリスタルの中でひときわ大きいクリスタルの前に立ちデュエルディスクをかまえる

俺の友が眠るクリスタルの前に立つ

「誠、、、見ててくれ、このデュエル、お前にささげる」

「「デュエル！！！！」」

真間
ＬＰ４０００

スフィア
ＬＰ４０００

「俺のターン、、、俺はマシン・キャッチャーを守備表示で召喚」

天より巨大な鉄柱が俺のフィールドに降りてきてその鉄柱を伝ってＵＦＯキャッチャーに模したモンスターが俺のフィールドに現れる

マシン・キャッチャー　（オリジナル）
レベル３地属性
機械族
攻撃力２００守備力１６００
効果
このカードが戦闘で破壊され墓地に送られた時、デッキ、または墓地からレベル４以下の機械族モンスターを１体手札に加える。

「さらにリバースカードを2枚セットしてターンエンドだ」

真間
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　マシン・キャッチャー
魔法トラップ　リバース×２

スフィア
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターン、、、フィールド魔法エンジェル・リングを発動させるわ」

スフィアが魔法カードを発動させると俺達の周りに巨大な光の輪が発生する

エンジェル・リング　（マンガ版ＧＸオリジナル）
フィールド魔法
全ての天使族モンスターの攻撃力は２００ポイントアップする。

「さらに豊穣のアルテミスを手札から召喚するわ」

バチバチバチと光の輪が発電し始め相手フィールドに巨大な翼の天使が降臨する

豊穣のアルテミス
レベル４光属性
天使族
攻撃力１６００守備力１７００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、カウンター罠が発動される度に自分のデッキからカードを１枚ドローする。

「エンジェル・リングの効果でアルテミスの攻撃力は２００アップするわ」

豊穣のアルテミス

攻撃力１６００→１８００

「やっぱそのカードか」

誠、、お前を苦しめたそのカード俺が超えてやるぞ

「バトルフェイズに入るわ、アルテミスでマシン・キャッチャーを攻撃」

アルテミスの掌に光が集まりいくつかの光の線となって俺のモンスターの体を貫く

豊穣のアルテミス　攻撃力１８００＞マシン・キャッチャー　守備力１６００

「ック、だがマシン・キャッチャーの効果を発動、、戦闘破壊された時デッキ、または墓地からレベル４以下の機械族モンスター１体を手札に加える、、俺はデッキよりリローバレルを手札に加えるぜ」

ガクンガクンと鉄の棒が屈折しながらデュエルディスクのセメタリーからのびて俺のデッキの手前で止まる

そして先程は解されたＵＦＯキャッチャーが俺の棒をつたって俺の

デッキの前までやってきてそのアームでカードを1枚つかみ俺の手札に器用にセットする

「メイン2ね、、私はリバースカードを3枚伏せてターンエンドよ」

真間
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

フィールド：エンジェル・リング

スフィア
ＬＰ４０００
手札1枚
モンスター　豊穣のアルテミス
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、、、臨時収入発動」

臨時収入　（オリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキからカードを1枚ドローする。

「フフ、、手札交換カードかしら、、でも私が無条件で1枚手札が増えるカードを使うなんて、、、何かあるのかしら」

「あぁ、、これが俺の狙いだ、、、相手プレイヤーがドローフェイズ以外にカードをドローした事で俺のリバース発動、、便乗」

便乗
永続トラップ
相手がドローフェイズ以外でカードをドローした時に発動する事ができる。その後、相手がドローフェイズ以外でカードをドローする度に、自分のデッキからカードを2枚ドローする。

相手がどんなデッキかわかっているからメタをはらしてもらったぜ

「さらに俺のメインフェイズは終わってないぞ、、、マシン・キャッチャーの効果で手札に加えたリローバレルを攻撃表示で召喚」

俺の場にメカニックな犬の肩に大きなキャノン方を2つつけたモンスターが姿を現す

リローバレル　（オリジナル）
レベル４闇属性
機械族
攻撃力１５００守備力８００

効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた時手札を1枚墓地に送る事でデッキからカードを1枚ドローできる。

「さらに速攻魔法、、、アドバンス・アーマー発動」

アドバンス・アーマー　（オリジナル）
速攻魔法
手札を1枚捨てて発動、自分のデッキに存在するユニオンモンスター1体を選択し、自分フィールド上に表側表示で存在する装備可能なモンスターに装備する。

「手札を1枚捨ててデッキから強化支援メカ・ヘビーウェポンをリローバレルに装備する」

デッキから一筋の光が伸び俺の場のリローバレルの背中にあたりリローバレルの装甲が強化された

強化支援メカ・ヘビーウェポン
レベル3闇属性

機械族
攻撃力５００守備力５００
効果：ユニオン
１ターンに１度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上の機械族モンスターに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。この効果で装備カード扱いになっている場合のみ、装備モンスターの攻撃力・守備力は５００ポイントアップする。１体のモンスターが装備できるユニオンは１枚まで。装備モンスターが破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。

リローバレル
攻撃力１５００→２０００

「バトルだ、、リローバレルで豊穣のアルテミスに攻撃」

背中のキャノン砲からレーザーが発射されアルテミスに向かって飛んでいく

「カウンタートラップ、、、攻撃の無力化ね」

攻撃力の無力化

カウンタートラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。相手モンスター1体の攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

時空の渦のような物にリローバレルのレーザーがかき消される

「豊穣のアルテミスの効果で1枚ドローできるけど」

「この瞬間俺の便乗の効果でデッキからカードを2枚ドローできるぜ」

初手にこのカードがあってマジで助かるぜ

自分で入れておいてなんだが本当に鬼畜カードだな便乗

エンジェルパーミッション!?どんどんカウンターしてアルテミスでドローしてくれ

俺はさらにその倍ドローできるから

「バトルが強制終了されてメイン2か、、リバースを1枚セットしてターンエンド」

真間
ＬＰ４０００

手札３枚
モンスター　リローバレル
魔法トラップ　便乗、強化支援メカ・ヘビーウェポン、リバース×２

フィールド：エンジェル・リング

スフィア
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　豊穣のアルテミス
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン、、、生意気な坊や、私はハーヴェストを召喚」

再び光の輪に電流が走り相手の場に黄金色の鎧を身にまとった天使が降臨する

智天使ハーヴェスト
レベル４光属性
天使族
攻撃力１８００守備力１０００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分の墓地に存在するカウンタートラップ１枚を手札に加える事ができる。

「エンジェル・リングの効果で攻撃力が２００ポイント上昇」

智天使ハーヴェスト
攻撃力１８００↓２０００

「バトル、、、ハーヴェストでリローバレルに攻撃よ」

スチャっと手に持ったラッパをかまえるハーヴェスト

「迎え撃て、、リローバレル」

それに対し俺のリローバレルもレーザーの銃口を相手モンスターに向ける

「「バトル」」

ハーヴェストの笛から衝撃波が放たれると同時に俺のモンスターのレーザー砲も相手に向かって放たれる

智天使ハーヴェスト　２０００＝リローバレル　攻撃力２０００

「ユニオン状態のヘビー・ウェポンの効果によりリローバレルは戦闘破壊をまのがれる」

ハーヴェストがレーザーに貫かれて破壊される

それに対し俺のリローバレルはキャノン砲に取り付いていた追加装甲が破壊されただけで終わる

リローバレル
攻撃力２０００→１５００

「ハーヴェストの効果を発動、、墓地からカウンタートラップを１枚手札に回収する、当然攻撃の無力化ね、、、、、そしてアルテミスでリローバレルに攻撃」

再びアルテミスに光が集まりシャワーのごとく俺のモンスターに降り注がれる

「うおぉぉ！！！」

豊穣のアルテミス　攻撃力１８００＞リローバレル　攻撃力１５００

真間
ＬＰ４０００－３００＝３７００

「パキパキパキ」

ダメージをくらいＬＰが減ると誠のときと同じく足下からクリスタルの柱が無数に生えてきて足首を覆い隠す

「あら、、、足下がとんでもない事になってるわよ」

「ックゥ、、、、、だが戦闘破壊されたリローバレルの効果を発動、手札を１枚墓地に捨てデッキからカードを１枚ドローする」

「ドロー加速、、まぁいいわ、、私はメイン２でカードを１枚伏せてターンエンドよ」

真間
ＬＰ３７００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　便乗、リバース×２

フィールド：エンジェル・リング

スフィア
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　豊穣のアルテミス
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、、、サイクロンを発動」

サイクロン
速攻魔法
フィールド上の魔法または罠カード１枚を破壊する。

「その厄介なドーナッツを破壊してやるぜ」

フィールドに強風が吹き荒れる

「させないわ、、、カウンタートラップ、マジック・ジャマー」

マジック・ジャマー
カウンタートラップ

手札を1枚捨てて発動する。魔法カードの発動を無効にし破壊する。

「手札を1枚捨ててサイクロンを無効化、、そしてアルテミスの効果でデッキから1ドロー」

「便乗の効果を発動、、、デッキからカードを2枚ドロー」

（まずいわ、、、エンジェルパーミッションデッキで相手の動きを封じ、、、さらにアルテミスの効果でドロー加速し相手の動きを封じるデッキなのに、、、あの便乗のせいで向こうの手数がいっこうに減らない、、この私を押すなんて、、、生意気な坊や）

「さて、、、手札が肥えた所で、、手札のマシン・クリエイターの効果を発動」

マシン・クリエイター　（オリジナル）
レベル4地属性
機械族
攻撃力0守備力0
効果
このカードを手札から墓地に送る、手札の機械族モンスターを1体墓地に送り、そのカードと同じレベルの効果のない機械族の融合モンスターを融合デッキから自分フィールドに特殊召喚する。この効果を使用したターン、通常召喚を行えなくなる。

「俺は手札の機械王を墓地に送り融合デッキのレベル６の効果のない機械族モンスター１体を特殊召喚する、、、現れろ、、メタル・ドラゴン」

ゴゴゴゴゴと立体映像の雷雲が俺の頭上に出現する

そしてその漆黒の雲の中からエメラルドグリーンの装甲のドラゴンが出現する

メタル・ドラグゴン
レベル６風属性
機械族
攻撃力１８５０守備力１７００
融合　鋼鉄の巨神像＋レッサー・ドラゴン
効果なし

「バトル、、メタル・ドラゴンで豊穣のアルテミスを攻撃」

さぁ、、、どうする、スフィア

ガオ～～～っとうねりを上げながらメタル・ドラゴンがアルテミ

スに突進していく
そしてその爪でアルテミスの体を十字に切り裂く

メタル・ドラグゴ　攻撃力１８５０＞豊穣のアルテミス　攻撃力１８００

スフィア
ＬＰ４０００－５０＝３９５０

「ぐぅぅぅう」

スフィアの背中に展開している翼の１部が黒ずみ始める
これも誠とのデュエルで見たときと同じだ
しかし攻撃の無力化があのリバースの中にあったはず
それを使わなかったと言うことは俺のアルテミスを逆手にとったドロー加速を封じるためか

「俺はこれでターンエンドだ」

真間
ＬＰ３７００
手札３枚
モンスター　メタル・ドラゴン
魔法トラップ　便乗、リバース×２

フィールド：エンジェル・リング

スフィア
ＬＰ３９５０
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×３

「私のターン、、モンスターを裏守備でセットしてターンエンドよ」

真間
ＬＰ３７００
手札３枚
モンスター　メタル・ドラグゴ
魔法トラップ　便乗、リバース×２

フィールド：エンジェル・リング

スフィア

ＬＰ３９５０
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、、、いくぜ俺のお気に入り、、、ブロンズアーム・スマッシャーを召喚」

フィールドに銀のフレームの骨組みの体に巨大なハンマーをたずさえたモンスターが現れる

ブロンズアーム・スマッシャー　（オリジナル）
レベル４地属性
機械族
攻撃力１７００守備力４００
効果なし

「バトル、、、ブロンズアーム・スマッシャーで裏守備モンスターに攻撃だ」

裏守備モンスターに向かって飛んでいく俺のブロンズアーム・スマッシャー

その巨大なハンマーを振り上げるが相手はリバースを発動するそぶ

りも見せない

「私のモンスターはジェルエンデュオよ」

ジェンエルデュオ
レベル４光属性
天使族
攻撃力１７００守備力０
効果
このカードは戦闘では破壊されない。このカードのコントローラーがダメージを受けた時、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを破壊する。天使族・光属性モンスターをアドバンス召喚する場合、このカードは２体分のリリースとする事ができる。

ブロンズアーム・スマッシャー　攻撃力１７００＞ジェンエルデュオ　守備力０

「チィ、、戦闘破壊されないカードか」

なるほど、、だからリバースを発動させなかったわけだ

「生け贄要因を残してしまうな、、、俺はこれでターンエンドだ」

真間
ＬＰ３７００
手札３枚
モンスター　メタル・ドラグゴ、ブロンズアーム・スマッシャー
魔法トラップ　便乗、リバース×２

フィールド：エンジェル・リング

スフィア
ＬＰ３９５０
手札３枚
モンスター　ジェンエルデュオ
魔法トラップ　リバース×３

「私のターン、、、ジェンエルデュオを生け贄に光神テテュスを召喚！！」

双子の天使がクルクル回りながら天に昇っていきそこからひときわ大きい女性の天使がフィールドに降り立つ

光神テテュス
レベル５光属性
天使族

攻撃力２４００守備力１８００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分がドローしたカードが天使族モンスターだった場合、そのカードを相手に見せる事で自分はカードをもう１枚ドローする事ができる。

「もちろんエンジェル・リングの効果で攻撃力が上がってるわ」

光神テテュス
攻撃力２４００→２６００

「テテュスでブロンズアーム・スマッシャーに攻撃よ」

テテュスの背中に光が集まりそこから光線が放たれ俺のブロンズアーム・スマッシャーを溶かし消滅させる

光神テテュス　攻撃力２６００＞ブロンズアーム・スマッシャー
攻撃力１７００

誠
ＬＰ３７００－９００＝２８００

「バキバキバキバキ」

俺の膝から下がクリスタルで埋まっていく

「クソ、、、少し押され気味かな」

「フフ、、このまま押し切ろうかしら、、、、私はこれでターンエンドよ」

真間
ＬＰ２８００
手札３枚
モンスター　メタル・ドラグゴ
魔法トラップ　便乗、リバース×２

フィールド：エンジェル・リング

スフィア
ＬＰ３９５０
手札３枚
モンスター　光神テテュス
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、、、俺はモンスターを裏守備でセット、メタル・ドラゴンも守備表示に変更してターンエンドだ」

真間
ＬＰ２８００
手札３枚
モンスター　メタル・ドラグゴ、裏守備×１
魔法トラップ　便乗、リバース×２

フィールド：エンジェル・リング

スフィア
ＬＰ３９５０
手札３枚
モンスター　光神テテュス
魔法トラップ　リバース×３

「私のターン、、、ドロー、ドローしたカードはクリスティア、、テテュスの効果で追加ドロー、、、、スペルビア、追加ドロー、、ヴァルキリア、、追加ドロー、、ここで打ち止めのようね」

「便乗はドローフェイズにドローしたカード以外でしか効果が発動しない」

便乗ドローをかわしてきやがったか

「私はさっきドローしたデュナミス・ヴァルキリアを召喚」

光の輪から小さな光の玉が出現しそこから手足が生えてきてデュナミス・ヴァルキリアの形となる

デュナミス・ヴァルキリア
レベル４光属性
天使族
攻撃力１８００守備力１０５０
効果なし

デュナミス・ヴァルキリア
攻撃力１８００→２０００

「バトル、、デュナミス・ヴァルキリアでメタル・ドラゴンを攻撃」

ヴァルキリアの掌に光の槍が発生しそれが俺のメタル・ドラゴンの体を貫き破壊する

デュナミス・ヴァルキリア　攻撃力２０００＞メタル・ドラゴン
守備力１７００

「そしてテテュスで裏守備モンスターに攻撃」

「俺のモンスターは2体目のリローバレルだ」

ゲーム序盤で俺が召喚したキャノン砲を持ったメカドックがそのキャノン砲を前に突き出し防御態勢をとる

だが圧倒的にステータスが違うのであっさりと撃ち殺されてしまう

光神テテュス　攻撃力２６００＞リローバレル　守備力８００

「リローバレルの効果を発動、、、手札を1枚捨てて1枚ドローする」

「これでフィールドがすっきりしたわね、、これでターンエンドよ」

真間
ＬＰ２８００
手札3枚
モンスター　なし
魔法トラップ　便乗、リバース×2

フィールド：エンジェル・リング

スフィア
ＬＰ３９５０
手札６枚
モンスター　光神テテュス、デュナミス・ヴァルキリア
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、、サイクロンを再び発動、、その忌々しいドーナッツを破壊する」

「さすがに今回は防ぐ手立てはないわ」

フィールドに旋風が巻き起こり光の輪を消滅させる

光神テテュス
攻撃力２６００→２４００

デュミナス・ヴァルキリア
攻撃力２０００→１８００

「さらに俺はカードガンナーを召喚」

俺の場にＳＦ映画に出てくるような宇宙のロボットっぽいモンスターが現れる

カードガンナー
レベル３地属性
機械族
攻撃力４００守備力４００
効果
１ターンに１度、自分のデッキの上からカードを3枚まで墓地へ送って発動する。このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで、墓地へ送ったカードの枚数×５００ポイントアップする。また、自分フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「カードガンナーの効果、、、デッキの上からカードを3枚墓地に送り攻撃力を１５００ポイントアップさせる」

カードガンナー
攻撃力４００→１９００

「バトルだ、、、カードガンナーでデュミナス・ヴァルキリアに攻撃」

ピコピコとカードガンナーの目が光って腕についているレーザー砲を発射するカードガンナー

「カウンタートラップ、、、攻撃の無力化」

「よめてるんだよ、、カウンタートラップ、魔宮の賄賂を発動」

魔宮の賄賂
カウンタートラップ
相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。相手はデッキからカードを1枚ドローする。

相手フィールドに出現した時空のゆがみのような物をどこかの悪代官っぽいヤツがさらっていく

このカードこんな演出なんだ!?

「よってカードガンナーの攻撃は有効、、、そして魔宮の賄賂の効果でカードをドローしな」

「ック、、カードドロー、、、ドローカードは天使族モンスターではないわ」

「ここで便乗の効果でカードを2枚ドローするぜ、、そしてカードガンナー、、デュミナス・ヴァルキリアを破壊しろ」

さっき発射されたレーザーがデュミナス・ヴァルキリアに直撃しその体を破壊する

カードガンナー　攻撃力１９００＞デュミナス・ヴァルキリア　攻撃力１８００

スフィア
ＬＰ３９５０－１００＝３８５０

「そしてメイン2でリバースカードを2枚セット、、エンドフェイズにカードガンナーの攻撃力が元に戻る、、、ターンエンドだ」

真間
ＬＰ２８００
手札２枚
モンスター　カードガンナー
魔法トラップ　便乗、リバース×３

スフィア
ＬＰ３８５０
手札７枚
モンスター　光神テテュス
魔法トラップ　リバース×３

「私のターン、、ドロー、、天使でないわ、、、メインフェイズに

移るわ、墓地の天使族モンスターが４体のみの場合手札からクリスティアを特殊召喚できるわ」

天から巨大な光が差し込みその光の道をクリスティアがゆっくりと降りて来る

大天使クリスティア
レベル８光属性
天使族
攻撃力２８００守備力２３００
効果
自分の墓地に存在する天使族モンスターが４体のみの場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。この効果で特殊召喚に成功した時、自分の墓地に存在する天使族モンスター１体を手札に加える。このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、お互いにモンスターを特殊召喚する事はできない。このカードがフィールド上から墓地へ送られる場合、墓地へ行かず持ち主のデッキの一番上に戻る。

レベル８の大型モンスターを何のコストもなく特殊召喚か

「これで終わりよ、、、テテュスでカードガンナーを攻撃」

テテュスの背中に巨大な光が終結しそこからいくつものレーザーが俺のモンスターに向かって飛んでくる

「トラップ発動、、、ガードブロック」

ガード・ブロック
通常トラップ
相手ターンの戦闘ダメージ計算時に発動する事ができる。その戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になり、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「この効果によりこの戦闘で発生するダメージを0にする」

いくつものレーザーがカードガンナーを包囲しドガドガドガ～～～っと爆炎が立ち込める

光神テテュス　攻撃力2400＞カードガンナー　攻撃力400

「ガード・ブロックとカードガンナーの効果でデッキからカードを2枚ドローする」

「でも、、これであなたを守るモンスターはいないは、、、クリスティアでダイレクトアタック」

巨大な翼を広げて相手フィールドの大天使が迫ってくる

「これでおしまいよ」

「手札の速攻のかかしの効果を発動」

天からグラサンをかけた感じの鉄製かかしが俺の目の前に降ってきて地面に突き刺さりバリアを発生する

速攻のかかし
レベル1地属性
機械族
攻撃力0守備力0
効果
相手モンスターの直接攻撃宣言時、このカードを手札から捨てて発動する。その攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

「その効果でバトルフェイズを強制終了させる」

「生意気、、、本当に生意気な坊や、、、リバースを1枚伏せてターンエンドよ」

真間
ＬＰ２８００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　便乗、リバース×２

スフィア
ＬＰ３８５０
手札６枚
モンスター　光神テテュス、大天使クリスティア
魔法トラップ　リバース×４

「俺のターン、、モンスターを裏守備でセット、さらにリバースを２枚追加してターンエンドだ」

魔法トラップゾーンフルセットだ

次のターンまで耐えれれば俺の勝ちだ

真間
ＬＰ２８００
手札１枚
モンスター　裏守備
魔法トラップ　便乗、リバース×４

スフィア
ＬＰ３８５０
手札６枚
モンスター　光神テテュス、大天使クリスティア
魔法トラップ　リバース×４

「私のターンね、、、ドロー、スペルビアを見せて追加ドロー、、
ダーク・ヴァルキア、ドロー、ここで打ち止めね、、手札の天の落
し物を発動するわ」

天の落し物　（マンガＧＸオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキから3枚引きその後手札を2枚捨てる

「互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローしその後2枚
墓地に送る」

ック、また便乗が発動しないドロー加速か

「フフフ、、このターンで坊やを地獄に落としてあげるわ、、、
私はクリスティアを生け贄に堕天使ディザイアを召喚」

突如クリスティアの翼が黒くなりもがき苦しみ始める
そしてどこからともなく黒に近い青色の鎧がやってきてクリスティアに装備されディザイアの姿に変貌した

堕天使ディザイア
レベル１０闇属性
天使族
攻撃力３０００守２８００
効果
このカードは特殊召喚できない。このカードは天使族モンスター１体をリリースしてアドバンス召喚する事ができる。１ターンに１度、自分のメインフェイズ時にこのカードの攻撃力を１０００ポイントダウンし、相手フィールド上に存在するモンスター１体を墓地へ送る事ができる。

「クリスティアは自身の効果で私のデッキトップに戻るわ、、、さらに墓地に眠る光属性モンスター２体を除外しホーリーシャイン・ソウルを特殊召喚するわ」

うっすらと人影のようなものが相手フィールドに出現し翼が生えてホーリーシャイン・ソウルの形となった

ホーリーシャイン・ソウル

レベル６光属性
天使族
攻撃力２０００守備力１８００
効果
このカードは通常召喚できない。自分の墓地の光属性モンスター２体をゲームから除外して特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在する限り、相手のバトルフェイズ中のみ全ての相手モンスターの攻撃力は３００ポイントダウンする。

「さらに、、死者蘇生を発動」

使者蘇生
通常魔法
自分または相手の墓地に存在するモンスター１体を選択して発動する。選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

「墓地に眠るスペルビアを特殊召喚」

ゴゴゴゴと不気味なオーラを発しながら相手フィールドに壷が出現
そして壷から手足と翼が生えてスペルビアの形になる

堕天使スペルビア
レベル８闇属性
天使族
攻撃力２９００守備力２４００
効果
このカードが墓地からの特殊召喚に成功した時、自分の墓地に存在する堕天使スペルビア以外の天使族モンスター１体を特殊召喚する事ができる。

「さらにスペルビアの効果で墓地に眠る堕天使ゼラートを特殊召喚」
この組み合わせ、誠と同じパターンだ

堕天使ゼラート
闇属性レベル８
天使族
攻撃力２８００守備力２３００
効果
自分の墓地に闇属性モンスターが４種類以上存在する場合、このカードは闇属性モンスター１体をリリースしてアドバンス召喚する事ができる。手札から闇属性モンスター１体を墓地へ送る事で、相手フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。この効果を発動したターンのエンドフェイズ時にこのカードを破壊する。

「さらに手札のダーク・ヴァルキリアを墓地捨て相手フィールド上のモンスターを全て破壊するわ」

ゼラートの影が俺のフィールドまでのびそこから無数の腕が出現し俺の裏守備状態のカードをその中に引きずり込む

「フフフ、、あの時の坊やと同じパターンね、、全モンスターで直接攻撃」

純白と漆黒の天使たちが俺のフィールドに向かって飛んでくる

「これで最後よ」

「トラップ発動、、、聖なるバリア〜ミラーフォース〜」

聖なるバリア〜ミラーフォース〜
通常トラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。相手フィールド上に存在する攻撃表示モンスターを全て破壊する。

俺の周りにバリアが発生しいっせいに迫ってきていた天使たちの体を破壊していく

「ック、、私のモンスターが」

誠、お前があの時手札に持っていたカードの1枚、使わさせてもら

ったぜ

「ック、、、メイン2リバースカード発動、エンジェルゲート」

エンジェルゲート　（オリジナル）
通常魔法
自分の墓地の天使族モンスターを任意の枚数ゲームから除外する、除外した数と同じ枚数デッキからカードを引きその後除外した数と同じ手札のカードをデッキに戻しシャッフルする。

「私は墓地から天使族モンスターを8体除外しデッキからカードを8枚ドローしデッキに8枚戻しシャッフル、、そして墓地には天使族モンスターが4枚しか存在しないからクリスティアを再び特殊召喚」

再びクリスティアが相手フィールドに姿を現す

頼む、このままターンエンドしてくれ

「私はターンエンドよ」

真間
ＬＰ２８００
手札2枚
モンスター　なし
魔法トラップ　便乗、リバース×２

スフィア
ＬＰ３８５０
手札４枚
モンスター　クリスティア
魔法トラップ　リバース×４

「俺のターン」

来てくれたか、、、だがお前を使うには少々邪魔なモンスターが１体相手フィールドにいやがる
お前を使うためにクリスティアをどうにかしないとな

「俺は手札からマジック・プランターを発動」

マジック・プランター
通常魔法
自分フィールド上に表側表示で存在する永続罠カード１枚を墓地へ送って発動する。自分のデッキからカードを２枚ドローする。

「便乗を墓地に送りデッキからカードを２枚ドローする」

よし、この手札なら

「メカ・ハンターを通常召喚し魔法カード、スキル制御結界～モンスター・チャフ～発動」

スキル制御結界～モンスター・チャフ～　（オリジナル）
通常魔法
自分フィールド上の機械族通常モンスター1体を墓地に送り発動、このターンのエンドフェイズまで相手モンスター1体のモンスター効果を無効にする。

俺の場のメカ・ハンターが爆発しその破片がクリスティアの周りに集まる

そしてそこから電磁波のバリアが発生しクリスティアを包囲する

「これで準備は整った、、永続トラップ、輪廻独断」

輪廻独断　（アニメオリジナル）
永続トラップ
発動時に1種類の種族を宣言する。このカードがフィールド上に存在する限り、全ての墓地のモンスターは自分が宣言した種族になる。

「俺は、、、岩石族を宣言する」

「岩石族、、、、なんで」

「そして俺は墓地に眠る岩石族となった機械族モンスターを10体ゲームから除外し」

誠、お前の力を借りるぜ

「メガロック・ドラゴンを特殊召喚！！！！！！」

俺の後ろにある誠のクリスタルがいっそう激しく光だす

そして俺のフィールドにメガロック・ドラゴンが姿を現した

メガロック・ドラゴン
地属性レベル７
岩石族
攻撃力?守備力?
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる。

「このカードは俺がゲームから除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる、その数１０体、、よって攻撃力は７０００」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?→７０００

気のせいか一瞬メガロック・ドラゴンが俺の顔を見た気がする
きっと気のせいだな

「メガロック・ドラゴンでクリスティアを攻撃」

ゴゴゴゴゴとメガロック・ドラゴンがその口をクリスティアにむけて開きだす

「最後の最後でつめが甘かったわね、、ダメージステップ時オネストの効果を発動」

オネスト
光属性レベル４
天使族
攻撃力１１００守備力１９００
効果
自分のメインフェイズ時に、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを手札に戻す事ができる。また、自分フィールド上に表側表示で存在する光属性モンスターが戦闘を行うダメージステップ時にこのカードを手札から墓地へ送る事で、エンドフェイズ時までそのモンスターの攻撃力は、戦闘を行う相手モンスターの攻撃力の数値分アップする。

クリスティアの前に筋肉隆々の天使が現れる

「オネストの効果でクリスティアの攻撃力にメガロック・ドラゴンの攻撃力と同じ数値が追加される」

「させるか、、、天罰発動」

天罰
カウンタートラップ
手札を1枚捨てて発動する。効果モンスターの効果の発動を無効にし破壊する。

“カ～～～”っと、いかつい白衣の爺さんがオネストにドロップキックをぶちかましその場から退場させる

「これでクリスティアの攻撃力はそのままだぜ」

「そ、、そんな」

「メガロック・ドラゴンよ、、クリスティアを破壊しろ、、、アースカノン・インフェルノ！！！！」

メガロック・ドラゴンの口から今まで見たことないくらいの極太の熱線が放たれクリスティアごとスフィアを焼き尽くす

「キャ～～～～～～～～～～～～～～」

メガロック・ドラゴン　攻撃力７０００＞大天使クリスティア　攻撃力２８００

スフィア
ＬＰ３８５０－４２００＝－３５０

俺の勝利が決まり立体映像が消えていく

そのさなかメガロック・ドラゴンがこっちを見てお礼をしたようにも見えたがたぶん気のせいだろう

「そんな、、、私は、こんなところで」

スフィアの背中の羽がどんどん黒ずみ始めしぼんでいく

そしてそれが翼全体に広がる

「返してもらうぜ、、俺の友を」

「イヤ～～～～～～～～～」

翼が黒くなったと同時にスフィアの体が足下から塵になって消えていく

そしてその体が全て塵になり消滅したと同時に周りのクリスタルが

砕け散り中から生徒達が姿を現す

「バリ～～ン」

「バリ～～ン」

「「バリ～～～ン」」

そして俺の後ろにあるクリスタルも少しずつクリスタルが砕けその中身が顔を出す

「バリバリバリ～～ン」

そしてクリスタルの前面が全て消滅し倒れこむように誠が中から出てくる

「よっと」

ガシっとその体を地面にぶつかる前にキャッチする

「、、、よう、待たせたな、誠」

「ッへ、、、そうでもないさ」

疲労しているのか誠はヨロヨロの体で立ち上がろうとする

「無理するな、、、疲れてるんだ、肩を貸すぜ」

「スマン、、、、それと、ただいま」

「あぁ、、、、おかえり」

第２８話ＷＩＴＨ～友よ共に～（後書き）

便乗が出た頃は強欲な壺くらいしかデッキからドローできるカードがなかったですが今チューニング・サポーターやらフォーミュラ・シンクロンにパーシアス、アルテミス、古いヴァリアブルブックを見直せば現時点で猛威をふるいそうなカードがまだ出てきそうな気がします。

それではこのまま連続投稿いたします。

第２９話完結三幻魔編～本当の仲間・本当の絆～（前書き）

連続投稿です。

今回は短い上にデュエルはありません。２期へ向けてのプロローグのようなものですのでご了承を。

それでは本編をどうぞ。

第２９話完結三幻魔編～本当の仲間・本当の絆～

「ガツガツガツガツ、、うん、うまい」

「、、、、、、、しかし、すごい食欲だな」

ここはデュエルアカデミアの保健室

クリスタルから開放されてここに運ばれた俺はとりあえず真間と翔に頼んで購買にあるパンやら丼ものやらを買ってきてもらい次々と胃袋の中に叩き込んでいる

「フガフガ、、フガフガ」

「食べながらしゃべるな」

「、、、、いや～、魂を少しずつ抜かれてたせいか腹が減って腹が減って」

「でもすごいよね、、他の生徒はみんな意識不明な人が多いのに１番最初に敗れた誠君が先に起きてご飯食べられるほど元気だなんて」

「ハッハッハッハ、翔よ、俺は他のやつとは体のつくりが違うんだよ」

そういて再びご飯に箸を伸ばす

「まぁ、、これだけ元気なら大丈夫だろう、封印のクリスタルから

出たときは結構ぐったりしていて心配だったが、これだけ元気な姿を見れば十分だ」

「悪いな、心配かけて」

「そう思うならさっさと元気を取り戻して退院しろ、2人部屋がたった一人で寂しいぞ」

「まぁ、、とりあえず大事をとって今日はベットでぐっすり寝てろと鮎川先生にも言われたしな」

「それじゃあ僕達はもう行くね」

「あぁ、、、、ところで十代は？」

「アニキは、海のデュエリストの所に行っちゃったっす」

そうか、あのアトランティスデッキのおっさんとのデュエルの後かだからお見舞いに真間と翔しかいなかったわけか

「翔、、気を落とすな、そのうちあいつは帰ってくるさ」

「誠君、、何か知ってるの？」

「あいつはこの学園が好きだしな、、、それに俺は勝ち逃げは許さない」

「あぁ、、、俺も交流試合予選では負けたがいつかリベンジをと思っている」

「っというわけだ、、これだけ俺達が思っているんだ、、帰ってくるって」

「根拠はないけど、、、、なんか2人に言われると本当に戻ってくる気がするよ」

「さて、、あんまし長くお邪魔してると体に障る、そろそろ出ようか、翔」

「うん、、またね誠君」

そういい残し保健室から出て行く2人

その後俺の他のクリスタルに封印されていた生徒達はみんな様態が悪化し1度島外の大きな病院に運ばれ保健室は俺一人となった

そして深夜

鮎川先生もいなくなり文字通り保健室は俺一人となった

「、、、、、さて、みんな出てきてくれ」

俺の声が何の音もない静まり返った保健室に響く

その後俺の精霊全員が姿を現す

（なんだい、、、、誠）

「チョットな、、、お前達に話があって」

（話ですか？）

「あぁ」

「あぁ」

布団を払いのけ俺は床に座り込む

（チョ、、、大将、体は大丈夫なのか）

「あぁ、、もう大丈夫だ、、そして」

姿勢をただし掌をそろえ俺は精霊達に頭を下げる

（（え！？））

「すまなかった、、、みんな」

突然の俺の土下座にみんな驚いた声を上げる

（どうしたんですご主人様、、顔を上げてください）

「俺は、、俺はバカだった、、、、闇のゲームの魔力にとりつかれ、我を失い、、、一緒に戦ってくれるお前達の存在もないがしろにし、最低のデュエルをしてしまった、本当にすまない」

（（、、、、、、、、、、））

「そんな俺だけど、、、俺は、俺はお前達とまた一緒に戦いたい、だから、、、、だから俺を許して欲しい、、、、、、最低なのはわかっている、、でも、俺はお前達が好きなんだ、お前達と一緒じゃないと、だから」

（顔を上げてよ、、誠）

「、、、メガロック」

みんなの表情はそれぞれだか暖かいものがあった

まるで泣きじゃくる子供をあやす母親のような深く優しい目だった

（私達は、いつでも誠と一緒だよ、それは変らない、、みんな同じ考えだよ）

（ハイ、、、色々な人がモアイ迎撃砲のカードを使ってますが、、、、私の事をメインアタッカーとよんでくれたのは誠さんだけでした、裏守備になるだけがとりえの引っ込み思案の私を誠さんは大切に使ってくれました）

「モアイ」

（私も、、、大将と一緒にデュエルしたり、ヤバイ時にも信頼されてすごく嬉しかったよ）

「ムカムカ」

（キュキュキュキュ～～キュ、キュキュキュ～～キュキュキュキュ～～キュキュキュキュ）

（私達は巨大ネズミを3枚持っている人を慕ってるわけではなく、、、“小野寺　誠”個人に慕っているんです、、、っと三女も申してます、、、そして私もそれは同じです）

「次女に三女」

（不幸しかなかった私の人生、、、でも今使ってくれているマスターが使ってくれなくなったら、、、それこそ本当に不幸ね）

「長女」

（私達は、、、望んで誠と出会ったわけではない、、出会ったのは単なる偶然なのかもしれない、、でも、私はこの出会いを大切に思っている、、、私達は小野寺　誠というデュエリストが好きだから、、小野寺　誠というデュエリストといつも一緒に戦っている、たとえ誠がそれを忘れても、私達は、、、、ここにいるから）

「メガロック」

（でも勘違いしないで欲しい、、、デッキに入れろと強制しているわけではない、誠が抜きたくなれば私でもモアイでもムカムカでも

巨大ネズミ3姉妹でも抜けばいい、、、、、でも私はそれで誠に幻滅はしないよ、、だって、、、、私達は、誠といつも一緒だから）

「ありが、、、とう」

気が付けば泣いている自分がいた

他の生徒が病院に移されて本当に良かったと思う

こんな泣きっ面誰にも見せられないからな

こうして俺の三幻魔編は俺の敗北という形で幕と閉じるのであった。

第２９話完結三幻魔編～本当の仲間・本当の絆～（後書き）

三幻魔編完結、まぁ次回はコスプレデュエルの回なんですが。

とりあえずオリキャラ達は七星門の鍵を失ったためここでリタイアです。

次回より頭の中にたまっているネタを消費しつつ本編に戻り誠の第２のデッキを公開しようと思います。

これではれて真間だけでなく誠にもチートカードスキルを加えることができます（爆）

それではまた次回会いましょう。

緊急番外編～流されて座談会2～（前書き）

こんばんは、冬将軍です。

いつも流されて、デュエルアカデミアをご愛読していただき誠にありがとうございます。

この度は第２８話において致命的なミスが発生し皆様から多くの意見をいただきました。

急遽書き直した小説も大変グダグダな内容になってしまっておりただいま書き直し中です。

今回の番外編はその事を反省し2期に向けて気持ちを一新したく書きました。

この度は皆様に多大なご迷惑をかけてしまいました。

これからも流されて、デュエルアカデミアと小野寺　誠をよろしくお願いします。

緊急番外編～流されて座談会2～

「緊急番外編、、、流されて座談会2」

何の突拍子もなく前回の座談会で俺の部屋にやってきた雪だるま（作者）がまたやってきていた

「久しぶりだな、、作者、今日はどうした」

「感想の返信や前書きにて謝罪しましたがこの場を借りて謝罪させてもらいます、、、、本当に申し訳ございませんでした」

「何があったんだ？」

突如作者が明らかに土下座をするに向いていない雪だるまの体系で土下座をし始める

「第２８話においてスフィアがクリスティアを特殊召喚してからひどい展開になってしまい誠に申し訳ございません」

「２８話か、、、俺クリスタルにされてたから」

「現在ラストシーンをもう少し綺麗な終わり方にしようと修正してます」

「それまで2期と俺の新デッキはお預けか」

「ちなみに誠、、、お前の新デッキのお披露目は卒業デュエルの時だ、それまでマシンナーズデッキとまだ見ぬ第３のデッキでがんば

ってくれ」

「いや、、第３のデッキなんて作ってる余裕ないし、、新岩石デッキの作成で忙しいから」

「っと、思って、ほれ」

ゴソゴソと自らの頭に腕を突っ込みそこから１つのデッキケースを取り出し俺に手渡す作者

「うっわ～～、、なんか受け取りたくない方法でデッキ渡された」

「お前が戦前持っていたデッキのひとつだ」

「、、、、、このデッキなのか、ＬＰ４０００の世界で使うことをためらい決して作ろうと思わなかったこのデッキなのか？」

「マシンナーズデッキとは言ってもどうせマシンナーズ・フォートレスメインのデッキになるんだろ、、正直メガロック・ドラゴンといいマシンナーズ・フォートレスといい黄門様の印籠くらいワンパターンかしてるぞ」

「そもそも俺の持ってるデッキ全部貴様のコピーデッキじゃないか」

「まぁな、、、だが全戦メガロックで決めてるわけじゃないだろ」

「まぁ、、、ムカムカだったりメデューサ・ワームだったりとあるが基本メガロックじゃないか」

「元々メガロック専用デッキだしな」

「さて、、それじゃあそろそろしめようか、作者」

「そうだな、、、まぁ序盤でも言ったけど今回は２８話でっかいチョンボしたからその謝罪の意味をこめて番外編をしたわけだ、本来なら２期に入る前にと思っていたが」

「まぁ、、お前がミスったからいけないわけだけどな」

「まぁ、、、あんなに叩かれるとは思わなかった、、、、正直しばらく恐怖でパソコンの電源が入れられなかった」

「まるでエドに敗北した十代みたいだな」

「正直、、、このまま小説家になろうから手を引こうかと考えた事もある、、、、、でも、俺はかえってきた」

「そうだな、、、こんな作品でも読んでくれている人が」

「蔑まされると非常に興奮するからな」

「最悪だ！！！感動的になるはずのしめをボケにして最悪の結果に

しやがった」

「ほめられるとのびて罵倒されると興奮し人に見られるとさらに興奮する」

「お前はどこの思春期真っ盛りな妹だ」

「今年も流されて、デュエルアカデミアを」

「「よろしくお願いします」」

「いや、、なんか正月にやった遊戯王光のピラミッドのアバンっぽい事になってるぞ」

「「アレ?三沢いたのか?」」

「最初からいたから!!!!!」

緊急番外編～流されて座談会2～（後書き）

とりあえずこれから２８話を綺麗にまとめて３０話の作成に入ろうと思います。

２期からは見切り発車だけでなくキチンとＷＩＫＩを活用していきたいと思います。

これからも未熟な俺ですがよろしくお願いします。

2度目の過去の改竄、そろそろタイムパトロール部長（声優劇団ひとり）に目を

最初タイトルは“過ぎ去った時間は取り戻せないとクロノ君が言っていたがチートが存在するこの二次元の前ではかすんで聞こえるぜ（２８話訂正版）”でしたがチョット長すぎると思い変えました。
まぁ変えても長いっちゃ～～長いんですが。

小説を書きながらも効果を確認してますがまたチョンボをしてないかどうか不安で不安でしょうがないです。

それでは本編をどうぞ。

2度目の過去の改竄、そろそろタイムパトロール部長（声優劇団ひとり）に目を

「とりあえずこのカードをデッキに入れるか」

クリスタルから開放されて翌日

保健室を抜け出し俺は自室でデッキ調整をしていた

今頃保健室では鮎川先生が俺の置手紙を握りつぶしているに違いない

視線変更～鮎川先生～

最近学園内でセブンスターズという謎のデュエリスト集団と打ちの生徒が戦っているというううわさを耳にする

私は最初は単なる噂話と思っていた

だが最近ではそれを無視できない怪現象が起こっていた

生徒の連続失踪事件

何でもアマゾネスペットタイガーらしきトラに拉致されてコロッセオを作らされていたそうだ

まぁみんなその後はちゃんとお給料をもらい“労働のありがたみを知りました”とか何とか言ってたそうだけど

でも、今回起こった事件は笑い話では済まされない話だ

ついこないだまで島の大草原に天使が出没しデュエルに負けるとクリスタルにされるという噂があった

私は噂の真相を確かめるべく向かってみるとそこには不気味なクリスタルが大量にサンゴのように発生していた

そしてこないだその生徒達がみんなクリスタルから解放され保健室に運ばれたのだが

みんな容態が悪化し島外の大きな病院に移された

そんな中一人だけ無事だった生徒が一人

オシリスレッドの小野寺　誠君である

他の生徒は意識不明の重体の中彼だけ目を覚ましご飯を食べられるほど元気を取り戻していた

もしかしたら彼なら今回の事件を何か知っているのかもしれない

私は彼が寝ているはずの保健室にやってきたのだが

彼が寝ていたベットには誰もおらず綺麗に布団がたたまれており１枚の書置きが置いてあった

～バタ子さんが新しい顔を持ってきてくれたおかげで元気が１００倍になったので帰ります　誠～

「、、、、、、、、、あのガキャ～～～～～」

「先生落ち着いてください」

視線変更～誠～

なんか学校の方から絶叫が聞こえた気がするがきっと気のせいだ

「さて、、、デッキの調整に取り掛かりますか」

数時間後

「ダ～～～クソ、全然調子が出ない」

メインの岩石デッキを崩してとりあえず机の上に並べてみる

「とりあえずこのカードを抜いてか」

「あとこのカードを抜くべきだな」

突如背中から手が伸びて机の上のグランモールのカードが俺の視線から消える

「いや、、グランモールは必須カードだろう、、、、って、うお!!!!」

振り返ってみるとそこには作者が立っていた

そしてその手にはグランモールが

「ッヨ、、新デッキ作りがんばっているな」

「作者、、なんだまた流されて座談会か?」

「いや、、チョット用事があってな、それとグランモールのカードはボッシュートとさせてもらう」

「マジで勘弁だが、それがないと俺のデッキのパワーバランスが」

「まぁ、、変わりにこのカードをくれてやる」

口からべ〜〜〜っと1枚のカードを取り出し俺に手渡す作者

「相変わらず気持ち悪いカードの取り出し方だな、、、、ってこれって」

「あぁ、、グランモールと同じ効果だがカード名が違うオリカだ、、前々から言われてたから、とりあえず渡しておくぞ」

「あぁ、、、、、でも、グランモール2回くらいしか使ってないよな、用事ってこれの事か？」

「いいや、、別の用事なんだが」

「うお、、、、なんだこの雪だるま」

作者と駄弁っていると真間が部屋に戻ってきた

「おやおや、、これはこれは真間君、こないだのスフィアとのデュエルお疲れ様です」

「いやいや、、ところでどなたですか」

「そういえば初めましてでしたね、、この作品の作者の冬将軍です」

「作品？作者？」

「いや作者、、、そういうメタ設定俺くらいにしか通用しないから」

「さて、、、それじゃあ役者がそろった所で」

ガシャリとどこからともなく金色の杖のような物を取り出す作者

「座談会2で宣言したとおり28話の修正してな、、それをUPしようとしてな」

「そうか、、、って何でその杖のような物を？」

「修正の必要がある」

そういって作者は杖の1部を可変させそこにカードを1枚はめ込む

「チョット待て、、それ使ったら俺またクリスタルに」

「時間の果てまで、行ってQ」

カシャンとカードが杖の中に消えていく

「タイムベント」

「「ウワ～～～～～～～」」

杖から衝撃波のようなものが飛んできてその直撃をくらい俺の意識が遠のいていく

視線変更～真間～

俺は今スフィアを倒すために作ったデッキを持って友が眠る草原に向かっている

気のせいであろうか過去にもこんな事があった気がする

まぁそんなデジャブは気にしてはいられない

俺はアイツを倒して誠を取り戻すんだ

「ギャ～～～～～～」

俺が草原にたどり着くと同時に別のデュエリストが断末魔を上げながらクリスタルに変化していく

「フフフ、、あなたも私のかてになりなさい」

ちょうどあの草原にたどり着くと同時に悲鳴が俺の耳に入る

またデュエリストがに敗北しクリスタルに変えられてしまったようだ

「ここもずいぶんにぎやかになったわ、、これだけのクリスタルがあれば私の願いももうすぐ叶う」

「ところが、、世の中そう甘くないのが現実だ」

「あら、、新しいお客さん、、人気者ね私」

俺の声に気づき戦闘態勢をとる

「俺の友を帰してもらうぜ」

「私に勝てたらいいわ、、、でも勝てるのかしら」

「勝ってやる、、、俺は大切な者の為なら何だってしてやるぜ」

デッキケースからカードを取り出しシャッフルしてからデュエルディスクにセットする

「戦う前に一つ聞きたい、、、何故デュエリストの魂を集める」

「、、、、会った時に言ったわよね、私が降天使だと、私はかつて天界にいたわ、、、、、人々の為に日々神に仕え働いてきた、でも、、ある日、、、同僚であるアイツが、、、私を罠にはめ、、、、、、」

誠とのデュエルで決して崩さなかったスフィアのの表情が少しゆがむ

「天界から追放されフォール・ダウン寸前だった私の元にあのお方が現れた、、そして強きデュエリストの魂を集めれば天界に戻れると、、私は誓った、アイツに復讐する為になんだってしてやると」

「そうか、、、それでこのデュエルアカデミアに目をつけたわけか」

「えぇ、、、でもがっかり、最初に闘った坊やは強い魂を持ってい

たけど、他はあまり上質な魂ではないわ、、、、、まったく、いつになったら天界に戻れるのか」

「上質な魂か、、、、、自分で言うのもなんだが、俺はお前が最初に倒した誠と同じくらい強いデュエリストだぜ」

「あら、、だったらあなたを倒せば私の里帰りが早くなるって事かしら」

「それはないな、、、、なぜなら俺が勝つからな！！！」

沢山あるクリスタルの中でひときわ大きいクリスタルの前に立ちデュエルディスクをかまえる

俺の友が眠るクリスタルの前に立つ

「誠、、、見ててくれ、このデュエル、お前にささげる」

「「デュエル！！！！」」

真間
ＬＰ４０００

スフィア
ＬＰ４０００

「俺のターン、、、モンスターを裏守備でセットしリバースカードを2枚伏せてターンエンドだ」

真間
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

スフィア
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターンね、、私は救済のレイヤードを召喚するわ」

相手フィールドの地面から腕が４本生えて地面に手を下ろし本体がスポンと地面から抜けてレイヤードが召喚される

救済のレイヤード
レベル４光属性

天使族
攻撃力１４００守備力１５００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、カウンター罠が発動される度に除外された自分の天使族モンスター２体を手札に加える。

「バトル、、レイヤードで裏守備モンスターに攻撃」

「俺のモンスターは純金犬マロン」

俺の場の伏せカードが表になるとそこから全身を金ぴかにした悪趣味な犬がお座りの状態で出現する

純金犬マロン　（オリジナル）
レベル４光属性
機械族
攻撃力１０００守備力１０００
効果
このカードが戦闘によって破壊された時互いのプレイヤーはデッキからカードを１枚ドローする。このカードが効果によって破壊された時プレイヤーはデッキからカードを２枚ドローする。

レイヤードの４本の腕のうちの二本の腕に押さえつけられ残った腕で俺のマロンを破壊するレイヤード

救済のレイヤード　攻撃力１４００＞黄金犬マロン　守備力１０００

「マロンが戦闘破壊された事により効果発動、、、互いのプレイヤーはデッキからカードを1枚ドローする」

「私に1ドローさせてまで手札交換をしたかったのかしら」

「いいや、、俺の狙いはこれだ、、、相手プレイヤーがドローフェイズ以外にカードをドローした時俺のリバースの便乗が発動する」

便乗
永続トラップ
相手がドローフェイズ以外でカードをドローした時に発動する事ができる。その後、相手がドローフェイズ以外でカードをドローする度に、自分のデッキからカードを2枚ドローする。

「今回は追加ドローできないが次から相手プレイヤーがデッキからドローフェイズ以外にカードをドローするたびに俺は2枚ドローで

きるぜ」

誠とのデュエルで相手の手の内はある程度知っているからメタをはらせてもらったぜ

「なるほど、、、アルテミス対策かしら、私はリバースカードを３枚伏せてターンエンドよ」

真間
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　便乗、リバース×１

スフィア
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　救済のレイヤード
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、、俺は魔神機関車ＳＳＬ～レベル４～を召喚する」

どこからともなくレールが走り出しその上を黒くまがまがしい機関車が走ってきて俺のフィールドの上に止まる

魔神機関車ＳＳＬ～レベル４～　（オリジナル）
闇属性レベル４
機械族
攻撃力１４００守備力８００
効果
このカードが召喚に成功した時、手札のカードを１枚墓地に送りデッキからカードを１枚ドローする。自分のスタンバイフェイズ時、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送る事で、手札またはデッキから魔神機関車ＳＳＬ～レベル６～を１体を特殊召喚する。

「ＳＳＬの効果により手札を１枚墓地に送りデッキからカードを１枚ドロー、、そして装備魔法幸運の鉄斧をＳＳＬに装備」

まるで興奮をしているかのようにＳＳＬの煙突から煙が激しく噴出し始める

魔神機関車ＳＳＬ～レベル４～
攻撃力１４００→１９００

幸運の鉄斧
装備魔法
装備モンスターの攻撃力は５００ポイントアップする。相手がコントロールするカードの効果によって、フィールド上に表側表示で存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「バトルだ、、ＳＳＬでレイヤードに攻撃」

黒煙を吐き出しながらＳＳＬがレイヤードに向かって突進していく

「させないわ、、、カウンタートラップ発動、攻撃の無力化」

攻撃力の無力化
カウンタートラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。相手モンスター1体の攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

エネルギーの渦のような物に阻まれＳＳＬの進撃がとまる

「レイヤードの効果だけど、、除外されているカードも特にないし不発に終わるわ」

「ック、、メイン2に強制移動か、、、リバースを1枚追加してタ

ーンエンドだ」

真間
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　魔神機関車ＳＳＬ～レベル４～
魔法トラップ　便乗、幸運の鉄斧、リバース×２

スフィア
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　救済のレイヤード
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン、、私はレイヤードを生け贄に天空騎士パーシアスを召喚するわ」

レイヤードの体に日々が走りそこから腕が飛び出しその体を突き破りパーシアスが相手フィールドに出現する

天空騎士パーシアス
光属性レベル５

天使族
攻撃力１９００守備力１４００
効果
守備表示モンスター攻撃時、その守備力を攻撃力が越えていれば、その数値だけ相手に戦闘ダメージを与える。また、このカードが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた時、自分はカードを1枚ドローする。

「さらにフィールド魔法エンジェル・リングを発動させるわ」
俺達のフィールドを大きく囲むように光の軌道が発生しそれがつながり輪になる

エンジェル・リング　（マンガ版ＧＸオリジナル）
フィールド魔法
全ての天使族モンスターの攻撃力は２００ポイントアップする。

「フィールド魔法の効果によりパーシアスの攻撃力が２００ポイント上昇するわ」

天空騎士パーシアス
攻撃力１９００→２１００

「バトルよ、、パーシアスでＳＳＬに攻撃」

純白の剣を広げＳＳＬに向かって飛翔してくるパーシアス

「さっきのお返しをさせてもらうぜ、、、リバース発動、攻撃の無力化」

先程と同じエネルギーの渦がＳＳＬの目の前に発生する

「させないわ、、、カウンタートラップ、トラップ・ジャマーを発動」

トラップ・ジャマー
カウンタートラップ
バトルフェイズ中のみ発動する事ができる。手が発動した罠カードの発動を無効にし破壊する。

「そんな猿真似が私に通用すると思ったの」

「まだ終わらせねーぜ、、リバース発動、魔宮の賄賂」

魔宮の賄賂
カウンタートラップ

相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。相手はデッキからカードを1枚ドローする。

「その効果によりトラップ・ジャマーを無効にし相手はカードを1枚ドローするぜ」

相手の場の表になったトラップ・ジャマーが灰となって消えていく

そしてどこからともなくいんちきくさい越後屋っぽいやつが現れ卑しい笑みをこぼしながらスフィアにカードを1枚手渡す

うわ～～～、、なんかすごいむかつく演出だ

「カードを1枚ドローさせてもらうわ」

「あぁ、、そして俺の便乗の効果が発動、、相手がドローフェイズ以外にカードをドローしたことによって俺はデッキからカードを2枚ドローする」

「そして攻撃の無力化の効果で私のメイン2に入るわ、、、、私はこれでターンエンドよ」

真間
ＬＰ４０００
手札４枚

モンスター　魔神機関車ＳＳＬ～レベル４～
魔法トラップ　便乗、幸運の鉄斧

フィールド：エンジェル・リング

スフィア
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　天空騎士パーシアス
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、スタンバイフェイズにＳＳＬの効果が発動、、このカードを墓地に送る事でＳＳＬはレベル６にレベルアップする」

ウイ～～～ンと天からアームにつかまれたドリルが降りてきてＳＳＬの先端部分に取り付けられる

ドリルがつくと同時に背中にブースターやら翼やらいろんな追加パーツが空から降りてきてＳＳＬの体に装着される

魔神機関車ＳＳＬ～レベル６～　（オリジナル）
闇属性レベル６
機械族
攻撃力２２００守備力１３００
効果
１ターンに１度、手札、または自分フィールドのカード１枚を墓地

に送りデッキからカードを1枚ドローする。また、このカードが戦闘によって相手プレイヤーにダメージを与えたターンのエンドフェイズ時、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送る事で、手札またはデッキから魔神機関車ＳＳＬ～レベル８～を１体を特殊召喚する。

「そしてＳＳＬの効果、手札を1枚墓地に送りデッキからカードを1枚ドローする、そしてバトル、、、ＳＳＬでパーシアスに攻撃」

シュルルルルとドリルを唸らせながらＳＳＬがパーシアスに向かって突進していく

そしてそのドリルに巻き込まれパーシアスの体がバラバラに引きちぎられる

魔神機関車ＳＳＬ～レベル６～　攻撃力２２００＞天空騎士パーシアス　攻撃力２１００

スフィア
ＬＰ４０００－１００＝３９００

ダメージが発生したと同時にスフィアの翼の１部が黒く変色する

「先手はもらったぜ」

「それくらいではしゃぐなんて、、まだまだね」

「しゃらくさいね、、、俺はメイン2に裏守備モンスターとリバースを1枚ずつ伏せ、、エンドフェイズ、、、ＳＳＬのレベルがさらに上昇する、俺はデッキから魔神機関車ＳＳＬ～レベル８～を特殊召喚」

立体映像の線路が出現しＳＳＬの足下までのびていく

そしてその線路の上を別の機械が走りＳＳＬの後ろに連結される

そのままがば～～～～っと起き上がりガシャンガシャンと機械音を上げながら変形していく

ドリルが開きそこから顔が出現しそして最終的には巨大な人型ロボットの形になる

つーか、もう機関車じゃないなこれ

魔神機関車ＳＳＬ～レベル８～　（オリジナル）
闇属性レベル８
機械族
攻撃力２６００守備力２０００
効果
このカードは通常召喚できない、魔神機関車ＳＳＬ～レベル６～の効果でのみ特殊召喚可能。ドローフェイズにドローしたカードを墓地に送りデッキからカードを2枚ドローする。またこのカードが相

手モンスターを戦闘で破壊した時デッキからカードを1枚ドローできる。

「これでターンエンドだ」

真間
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　魔神機関車ＳＳＬ～レベル８～、裏守備×１
魔法トラップ　便乗、リバース×１

フィールド：エンジェル・リング

スフィア
ＬＰ３９００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン、、モンスターを裏守備でセットしてターンエンドよ」

真間
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　魔神機関車ＳＳＬ～レベル８～、裏守備×１
魔法トラップ　便乗、リバース×１

フィールド：エンジェル・リング

スフィア
ＬＰ３９００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、ドローフェイズにＳＳＬの効果を発動、、、今ドローしたカードを墓地に捨ててデッキからカードを2枚ドローする、、そしてマシン・クリエイターの効果を発動」

マシン・クリエイター　（オリジナル）
レベル４地属性
機械族
攻撃力０守備力０
効果
このカードを手札から墓地に送る、手札の機械族モンスターを１体墓地に送り、そのカードと同じレベルの効果のない機械族の融合モンスターを融合デッキから自分フィールドに特殊召喚する。この効

果を使用したターン、通常召喚を行えなくなる。

「俺はシルバーフィストを墓地に送り迷宮の魔戦車を特殊召喚する」

特に関係はないのだがＳＳＬの体の１部が変形しそこからアンテナが顔を出す

そしてアンテナの先端部分からピカ～～～っと光があふれその光の中を青色の装甲版のドリル戦車がフィールドに降り立つ

できるのならばドリラゴかドリルロイドもそろえたいぜ

迷宮の魔戦車
レベル７闇属性
機械族
攻撃力２４００守備力２４００
融合　ギガテック・ウルフ＋キャノン・ソルジャー
効果なし

「バトルだ、、ＳＳＬで裏守備モンスターに攻撃」

ＳＳＬの両腕が激しい回転を起こす
そして旋風を巻き上げながら相手のフィールドに向かって飛んでいく
「私のモンスターはジェンエルデュオよ」
相手の場のカードが表になり双子の天使の姿になる

ジェンエルデュオ
レベル４光属性
天使族
攻撃力１７００守備力０
効果
このカードは戦闘では破壊されない。このカードのコントローラーがダメージを受けた時、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを破壊する。天使族・光属性モンスターをアドバンス召喚する場合、このカードは２体分のリリースとする事ができる。

「このカードは戦闘破壊されないわ」
ＳＳＬのパンチを受け止める小さな双子天使

魔神機関車ＳＳＬ～レベル８～　攻撃力２６００＞ジェンエルデュオ　守備力０

「クソ、、、戦闘破壊されないモンスターか」

そして次のターンには生け贄に上級天使モンスターを特殊召喚か

「ならばバトルフェイズを終えてメイン２に移行、、、手札の魔法カード、ロケットパンチを発動」

ロケットパンチ　（オリジナル）
通常魔法
自分フィールド上にレベル７以上のモンスターが存在する時発動できる。相手フィールドのモンスター１体を破壊しゲームから除外する。

ＳＳＬが再び動き始める

グルグルと腕をぶん回しジェンエルデュオに向かってそれを発射する

「させないわ、、カウンタートラップ発動、ディストラクション・

ジャマー」

デストラクション・ジャマー
カウンタートラップ
手札を1枚捨てる。フィールド上のモンスターを破壊する効果を持つカードの発動を無効にし、それを破壊する。

「手札を1枚捨ててロケットパンチを無効にするわ」

バリアのようなものが発生しジェンエルデュオをつつみＳＳＬが放ったパンチをはじき返す

「クソ、、俺はリバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

真間
ＬＰ４０００
手札2枚
モンスター　魔神機関車ＳＳＬ～レベル８～、迷宮の魔戦車、裏守備×１
魔法トラップ　便乗、リバース×２

フィールド：エンジェル・リング

スフィア
ＬＰ３９００
手札２枚
モンスター　ジェンエルデュオ
魔法トラップ　リバース×１

「私のターンね、、私は天の落し物を発動するわ」

天の落し物　（マンガＧＸオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキから3枚引きその後手札を2枚捨てる

「互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚引きその後カードを2枚墓地に送らなければならないわ」

「だが、カードをドローしたことに変わりはない、、、俺は便乗の効果で2枚ドローする」

「さらに私はジェンエルデュオを生け贄にささげアテナを召喚」

不多義の天使がくるくると高速回転し始め光のゲートと化す

そしてゲートから真っ赤な絨毯が出現しその上を鎧を身にまとった女神が威風堂々と歩いてくる

アテナ
レベル7光属性
天使族
攻撃力2600守備力800
効果
1ターンに1度、アテナ以外の自分フィールド上に表側表示で存在する天使族モンスター1体を墓地へ送る事で、アテナ以外の自分の墓地に存在する天使族モンスター1体を選択して特殊召喚する。フィールド上に天使族モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚された時、相手ライフに600ポイントダメージを与える。

「エンジェル・リングの効果で攻撃力がアップするわ」

アテナ
攻撃力2600→2800

「さらに魔法発動、、、死者蘇生」

死者蘇生
通常魔法
自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

「その効果によって墓地に眠るスペルビアを場に特殊召喚するわ」

光の輪が黒色に変色し黒色のスパークを発生させる

そしてスパークが次元の穴を発生させそこから壷に手足と翼の生えたモンスターが出現する

堕天使スペルビア
レベル８闇属性
天使族
攻撃力２９００守備力２４００
効果
このカードが墓地からの特殊召喚に成功した時、自分の墓地に存在する堕天使スペルビア以外の天使族モンスター1体を特殊召喚する事ができる。

「スペルビアの効果発動、、墓地に眠る天使族モンスターを特殊召喚するわ、私は裁きを下す者ボルテニスを特殊召喚するわ」

スペルビアが突如もがきだしその頭の壷の中からひときわ大きい天使が相手フィールドに降り立つ

裁きを下す者ボルテニス
レベル８光属性
天使族
攻撃力２８００守備力１４００
効果
自分のカウンター罠が発動に成功した場合、自分フィールド上のモンスターを全て生け贄に捧げる事で特殊召喚する事ができる。この方法で特殊召喚に成功した場合、生け贄に捧げた天使族モンスターの数まで相手フィールド上のカードを破壊する事ができる。

「エンジェル・リングの効果で2体の天使モンスターは攻撃力が上がるわ」

スペルビア
攻撃力２９００→３１００

裁きを下す者ボルテニス
攻撃力２８００→３０００

「さぁ、、、懺悔しなさい坊や、まずはアテナの効果を発動、天使族モンスターが私の場に現れた事により相手プレイヤーに６００ポイントのバーンダメージを与えるわ、、私はスペルビアとボルテニスを特殊召喚したことにより合計１２００ポイントのダメージを与えるわ」

アテナの杖から光が放たれる

それと同時に全身に針を刺されたような鋭い痛みが走る

「ウワ～～～

漆黒の天使の爪が走り俺のＳＳＬの体を切り裂き破壊する

堕天使スペルビア　攻撃力３１００＞魔神機関車ＳＳＬ～レベル６～　攻撃力２６００

真間
ＬＰ２８００－５００＝２３００

「さらにボルテニスで迷宮の魔戦車を攻撃」

天から雷が落下し迷宮の魔戦車に直撃し跡形もなく消滅してしまう

裁きを下す者ボルテニス　攻撃力３０００＞迷宮の魔戦車　攻撃力２４００

真間
ＬＰ２３００－６００＝１８００

「ピキピキピキ」

「ッグ」

クリスタルが腰のところまで上ってきやがった

「そしてアテナで裏守備モンスターに攻撃するわ」

「俺のモンスターはヘビー・ウェポンだ」

強化支援メカ・ヘビーウェポン
レベル３闇属性
機械族
攻撃力５００守備力５００
効果：ユニオン
１ターンに１度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上の機械族モンスターに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。この効果で装備カード扱いになっている場合のみ、装備モンスターの攻撃力・守備力は５００ポイントアップする。１体のモンスターが装備できるユニオンは１枚まで。装備モンスターが破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。

裏守備カードが表になりヘビーウェポンがそこから出現する

だがアテナの杖に串刺しにされ一瞬にして消されてしまう

アテナ　攻撃力２８００＞強化支援メカ・ヘビーウェポン　守備力５００

「これでターンエンドよ」

真間
ＬＰ１８００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　便乗、リバース×２

フィールド：エンジェル・リング

スフィア
ＬＰ３９００
手札１枚
モンスター　アテナ、堕天使スペルビア、裁きを下す者ボルテニス
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、俺は死者蘇生を発動、、その効果で墓地に眠るシルバーフィストを特殊召喚」

バキバキバキ～～～と地面が割れてそこから銀一色の巨大なロボットが出現する

シルバーフィスト　（オリジナル）
光属性レベル７
機械族
攻撃力２５００守備力２２００
効果
自分フィールド上の機械族モンスター2体を生け贄にささげることで相手フィールド上のモンスターを全て破壊する。

「さらにブロンズアーム・スマッシャーを通常召喚」

ブロンズアーム・スマッシャー（オリジナル）
レベル４地属性
機械族
攻撃力１７００守備力４００
効果なし

「そしてリバースカード、ゲットライド発動」

ゲットライド
通常トラップ
自分の墓地に存在するユニオンモンスター1体を選択し、自分フィールド上に表側表示で存在する装備可能なモンスターに装備する。

「墓地に眠るヘビーウェポンをブロンズアーム・スマッシャーに装備させる」

墓地から光が飛び出しブロンズアーム・スマッシャーのハンマー部分にヘビーウェポンがへばりつく

ブロンズアーム・スマッシャー
攻撃力１７００→２２００

「プレイングミスかしら、ヘビーウェポンをシルバーフィストに装備したほうが効果的だったと思うわ」

「いや、、別にどのモンスターに装備してもかまわなかった、俺はヘビーウェポンのユニオンを解除」

鋼のハンマーにへばりついていたヘビーウェポンがはがれてモンスターゾーンにヘビーウェポンが降り立つ

ブロンズアーム・スマッシャー
攻撃力２２００→１７００

「そしてシルバーフィストの効果を発動、、機械族モンスターを２

体生け贄にささげる事で相手フィールド上のモンスターを全て破壊する」

ブロンズアーム・スマッシャーとヘビーウェポンが光になりシルバーフィストに吸収される

そしてバチバチと火花を上げながらシルバーフィストの腕がグングン大きくなっていく

「全てを粉砕しろ、、、シルバリオブレイク！！！！」

シルバーフィストの拳から光線が放たれ相手フィールドに着弾し大爆発を起こす

そして巻き上がった砂埃が晴れるとそこにいたスフィアの天使軍団が消滅していた

「そしてバトルだ、、、シルバーフィストで相手プレイヤーに攻撃、シルバクラッシャ～～～！！！」

両拳をがっちりとくみスフィアに向かってその拳のハンマーを叩きつける

「キャ～～～～～」

シルバーフィスト　攻撃力２５００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

スフィア
ＬＰ３９００－２５００＝１４００
ＬＰの現象と共にスフィアの翼が一気に黒く変色し半分以上が黒く染まる
「ッグ、リバース発動、、、ダメージ・コンデンサー」
ダメージ・コンデンサー
通常トラップ
自分が戦闘ダメージを受けた時、手札を１枚捨てて発動する事ができる。その時に受けたダメージの数値以下の攻撃力を持つモンスター１体をデッキから攻撃表示で特殊召喚する。
「手札を１枚墓地に送りデッキからザ・クリエイターを特殊召喚するわ」
天から光が差し込みその光の道からザ・クリエイターが降りてくる
ザ・クリエイター
レベル８光属性

雷族
攻撃力２３００守備力３０００
自分の墓地からモンスターを１体選択する。手札を１枚墓地に送り、選択したモンスター１体を特殊召喚する。この効果は１ターンに１度しか使用できない。このカードは墓地からの特殊召喚はできない。

ザ・クリエイターをダメージ・コンデンサーで特殊召喚
誠と同じパターンになってきたな
「さらに手札から墓地に送った幸福の先導者フレイヤの効果を発動」

幸福の先導者フレイヤ　（オリジナル）
レベル１光属性
天使族
攻撃力２００守備力１００
効果
このカードが墓地に送られた時デッキから魔法カードを１枚選択しデッキの１番上に置く。

「私は命削りの宝札をデッキトップに置くわ」
これで次のターン、相手の手札は０から５枚に増殖すると言うわけか

「俺はリバースカードを2枚追加してターンエンドだ」

真間
ＬＰ１８００
手札２枚
モンスター　シルバーフィスト
魔法トラップ　便乗、リバース×３

フィールド：エンジェル・リング

スフィア
ＬＰ１４００
手札０枚
モンスター　ザ・クリエイター
魔法トラップ　なし

「私のターン、、今ドローした命削りの宝札を発動」

命削りの宝札（マンガオリジナル）
通常魔法
手札が５枚になるようにドローする。５ターン後全ての手札を墓地に送る。

「デッキからカードを5枚ドローするわ」

「俺は便乗の効果でカードを2枚ドロー」

「さぁ、、、再び絶望なさい、、ザ・クリエイターの効果を発動、手札を1枚墓地に送り墓地から再びスペルビアを特殊召喚するわ」

クリエイターの背中の巨大な輪が光り始め輪の中からスペルビアが飛び出す

「スペルビアの効果、、墓地の天使族モンスターを復活させる、蘇りなさい、ボルテニス」

再びスペルビアの頭からボルテニスが這い上がってくる

クソ、シルバーフィストで形勢を逆転したと思ったのに再び巻き戻されたか

「そして、エンジェル・リングの効果でスペルビアとボルテニスは攻撃力が200上昇するわ」

堕天使スペルビア
攻撃力2900→3100

裁きを下す者ボルテニス
攻撃力2800→3000

「バトルよ、、、スペルビアでシルバーフィストに攻撃」

ガバっとシルバーフィストがスペルビアに持ち上げられその壷の中に無理矢理押し込まれフィールドから消える

堕天使スペルビア　攻撃力３１００＞シルバーフィスト　攻撃力２５００

真間
ＬＰ１８００－６００＝１２００

「うおぉぉおおお」

クリスタルが胸のところまで上ってくる

「さぁ、、、絶望なさい、、その絶望にゆがんだ魂もまた私の糧となるわ」

「いいや、まだ俺は終わってない、、、、俺のＬＰはまだ残ってるぞ」

「そんな風前のＬＰこのターンで消して見せるわ、、モンスター達よ、、坊やにとどめを」

クリエイターとボルテニスが俺に向かって飛んでくる

「させるか、、、手札の速攻のかかしの効果を発動」

天から機械のかかしが落下しクリエイターとボルテニスの進撃を止める

速攻のかかし
レベル１地属性
機械族
攻撃力０守備力０
効果
相手モンスターの直接攻撃宣言時、このカードを手札から捨てて発動する。その攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

「速攻のかかしの効果でバトルフェイズを強制終了させてもらう」

「女性をじらせるなんて最低ね、、、私はリバースカードを２枚伏せてターンエンドよ」

真間
ＬＰ１８００

手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　便乗、リバース×３

フィールド：エンジェル・リング

スフィア
ＬＰ１４００
手札２枚
モンスター　ザ・クリエイター、堕天使スペルビア、裁きを下す者
ボルテニス
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、来た、、、まずはリバース発動、心鎮壺」

心鎮壺
永続トラップ
フィールド上にセットされた魔法・罠カードを２枚選択して発動する。このカードがフィールド上に存在する限り、選択された魔法・罠カードは発動できない。

「その効果で相手の場のリバースを２枚発動できなくする」

俺の場に巨大な壺が出現し封がとかれその中に相手の場のリバース

が2枚吸い込まれる

「これで条件はクリアされた、、、永続トラップ輪廻独断！！！」

輪廻独断　（アニメオリジナル）
永続トラップ
発動時に1種類の種族を宣言する。このカードがフィールド上に存在する限り、全ての墓地のモンスターは自分が宣言した種族になる。

「輪廻独断の効果により互いの墓地のモンスターは俺が宣言した種族になる、俺は岩石族を宣言する」

「岩石族？どうして」

「そして俺は墓地に眠る岩石族となった機械族モンスターを１０体ゲームから除外し」

誠、お前の力を借りるぜ

「メガロック・ドラゴンを特殊召喚！！！！！！」

俺の後ろにある誠のクリスタルがいっそう激しく光だす

そして俺のフィールドにメガロック・ドラゴンが姿を現した

メガロック・ドラゴン
地属性レベル７
岩石族
攻撃力?守備力?
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる。

「このカードは俺がゲームから除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる、その数１０体、、よって攻撃力は７０００」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?→７０００

気のせいか一瞬メガロック・ドラゴンが俺の顔を見た気がする

きっと気のせいだな

「そしてメガロック・ドラゴンでザ・クリエイターを攻撃」

ゴゴゴゴゴゴゴとメガロック・ドラゴンがクリエイターに標準を定

める

「リバースが使えないなら手札のカードを使うまで、、、オネストの効果を発動」

オネスト
光属性レベル４
天使族
攻撃力１１００守備力１９００
効果
自分のメインフェイズ時に、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを手札に戻す事ができる。また、自分フィールド上に表側表示で存在する光属性モンスターが戦闘を行うダメージステップ時にこのカードを手札から墓地へ送る事で、エンドフェイズ時までそのモンスターの攻撃力は、戦闘を行う相手モンスターの攻撃力の数値分アップする。

「クリエイターの攻撃力をメガロック・ドラゴン分上昇させるわ」

筋肉質の天使がクリエイターの背中に取り付きその背中に純白の翼が展開される

「ヒャ～～～ッハッハッハッハッハ、これでおしまいね」

「させるかよ、、天罰！！！」

天から雷の矢が2本放たれクリエイターの翼を切り落とす

「そ、、そんな」

「これで手は尽きたな、、メガロック・ドラゴンでクリエイターを攻撃、、、、アースカノン・インフェルノ！！！！！！」

メガロック・ドラゴンの口が開きそこから巨大な熱線が発射されクリエイターもろともスフィアの体を貫く

「キャ～～～～～～～～～～」

メガロック・ドラゴン　攻撃力７０００＞ザ・クリエイター　攻撃力２３００

スフィア
ＬＰ１４００－４７００＝－３３００

俺の勝利が決まり立体映像が消えていく

そのさなかメガロック・ドラゴンがこっちを見てお礼をしたように
も見えたがたぶん気のせいだろう

「そんな、、、私は、こんなところで」

スフィアの背中の羽がどんどん黒ずみ始めしぼんでいく

そしてそれが翼全体に広がる

「返してもらうぜ、、俺の友を」

「イヤ〜〜〜〜〜〜〜〜〜」

翼が黒くなったと同時にスフィアの体が足下から塵になって消えて
いく

そしてその体が全て塵になり消滅したと同時に周りのクリスタルが
砕け散り中から生徒達が姿を現す

「バリ〜〜ン」

「バリ〜〜ン」

「「バリ〜〜〜ン」」

そして俺の後ろにあるクリスタルも少しずつクリスタルが砕けその
中身が顔を出す

「バリバリバリ〜〜ン」

そしてクリスタルの前面が全て消滅し倒れこむように誠が中から出てくる

「よっと」

ガシっとその体を地面にぶつかる前にキャッチする

「、、、よう、待たせたな、誠」

「ッへ、、、そうでもないさ」

疲労しているのか誠はヨロヨロの体で立ち上がろうとする

「無理するな、、、疲れてるんだ、肩を貸すぜ」

「スマン、、、、それと、ただいま」

「あぁ、、、、おかえり」

2度目の過去の改竄、そろそろタイムパトロール部長（声優劇団ひとり）に目を

ユーザー情報の操作方法をすっかり忘れてしまいうめ吉さんとＢＲＡＶＥの小説をお気に入り情報に入れたいのですが……再びつかい方を見直そうと思います。

現在クリスマスネタとバレンタインネタと学園祭ネタを同時筆記中です。クリスマス前に学園祭の話を投稿したいです。

それではまた次回にお会いしましょう。

クリスマス番外編～年末に販売されるクリスマスソング集に“サンタクロースは

お久しぶりです冬将軍です。

最近風邪とモンハン３の波状攻撃のせうですっかり更新が遅れてしまいました、クリスマスの小説の前に学園祭のヤツをＵＰしようとしてたんですが……ｏｒｚ

最後に今回のお話はクリスマスなので三幻魔編の前の話ですので誠は古い岩石デッキをしてます。

それでは本編をどうぞ。

５月２０日修正しました。

クリスマス番外編～年末に販売されるクリスマスソング集に“サンタクロースは

「サンタクロースはどこの人～♪山の向こうの山から来るの～♪」

「ノリノリだな、、、誠」

「お、、真間か」

レッド寮の前の大きなもみの木に飾り付けをしていると真間が話しかけてきた

「料理班の方はどうだ」

「バッチシだぜ、、、隼人のヤツこんなに豪華なクリスマスは初めてだって感動してたぞ」

食堂にはブルー寮から多少拝借した料理

みんなで小遣いを出し合って買ったお菓子

他にも十代が海で吊り上げた魚や

どこからともなくやってきたサルの軍団からもらった果物の盛り合わせ

そして場違いなくらい違和感がある恒例のレッド寮の定番メニュー

（白米にめざしに味噌汁）

「後は大道具係りがテーブルとかを外に並べて料理を運び出してだ

な」

「オ～～ス、、誠、あ！！すごく綺麗なツリー」

「お、、冥衣か、どうした」

「ブルー寮のクリスマスパーティーが開かれていたんだけど、、、チョット窮屈で、雪と一緒にこっちの方に来たんだけど」

「アレ？雪さんも一緒って冥衣一人じゃないのか？」

どう見ても冥衣一人にしか見えないのだが

「アレ？本当だ」

くるくると辺りを見回すが雪さんの姿が見当たらない

「冥衣さ～～～ん、、待ってくださ～～～い」

「あ、、噂をすれば、、、、って雪！？」

声のしたほうを見てみる真っ赤でフカフカな服と帽子を身にまとった雪さんが走ってくる

まぁ言ってしまえばサンタのコスプレをした雪さんがやってきた

「チョット、、雪なんでそんな格好を！？」

「え、、そこに看板があったんですが」

雪さんに連れられ歩くこと数分

俺たちの目の前には1つの看板が

～この先、女人はサンタの格好をしなければ入ること叶わざるっす～

「「、、、、、、、、」」

「そしてそこにサンタさんの服が沢山用意されてまして」

雪さん指差した先にはレッド寮の部屋の1部が更衣室に改造されている部屋ができていた

「、、、、とりあえず、犯人に目星がついている」

ボキボキっと拳をならしながら真間が真犯人の元に向かっていく

そして“ギャ～～～～～～～っす”っと言う悲鳴の後にメガネを砕く音が聖夜に響いた

そして数時間後

レッド寮でもクリスマスパーティーが開かれた
その際翔がボロ雑巾になっていたが気にしない
誰が立てたか不明な看板と大量に用意されていたサンタの服がキャンプファイヤーのごとくメラメラと燃やされていたが気にしない
「気にしない～♪気にしない～～♪気にしない～～～♪」
「今日はずいぶんと上機嫌だな」
「そりゃあクリスマスだからな」
俺と誠はガヤガヤ騒がしいパーティーの中心部から離れ紙コップ片手に適当な場所に腰を降ろす
「そういえばさ、、、歌でさ、、サンタクロースの歌あるじゃん」
「あぁ、、トナカイがいじめられていたアレだよな」
「トナカイをいじめるような悪い子にはプレゼントやらんと言えば一発で解決じゃないか」
「でもさ、、、、それじゃあまるでそのいじめっ子達をクリスマスのプレゼントでつってるようで教育上良くないじゃないか」
「なるほど、、、、だが、よくよく考えればアレって何の解決にもなてないよな、トナカイは相変わらず真っ赤なお鼻を馬鹿にされっぱなしだぞ、サンタクロースにうまい事言いくるめられただけだぞ」

「あんた達何夢のない事しゃべってるのよあんた達は」

「お、、冥衣に雪さん、、、、、アレ？雪さんサンタの格好は？」

「ハイ、、恥ずかしいので着替えちゃいました」

「確かに、、１２月にあんな薄着は恥ずかしいな」

「論点が違うだろうは」

ビシっと真間の平手打ちがヒットする

「話は変るけど、、、サンタクロース村ってあるじゃん」

「えぇ、、フィンランドにあるアレよね」

「俺さ、、、、去年までサンラクロース村にいる人達みんな冬はサンタクロースの服着て生活しているものだとばっかり思ってた」

「いや、、それはないから」

「でも、、テレビでは必ずといっていいほどあの地方の人達サンタクロースの格好してるからな」

「まぁ、、子供の夢を壊さない為だろうけどな」

「え、、、サンタクロースって、実在しないんですか？」

「「、、、、、、、、、、、」」

雪さんの一言が大寒波となって俺達のリバースカードが発動できなくなる

「ようしチョット集合だ」

真間と冥衣をつれて雪さんから離れる

「まさか、、１６にもなってサンタを信じている人間がいるとは」

「どうする、、真実を伝えるか」

「でも、、できれば雪の夢を壊したくないし」

わが子のこれからの教育方針を真剣に話し合う親御さんの気持ちがよくわかる気がする

「シャンシャンシャン」

「アレ？」

「どうした誠」

「今、、、鐘の音が」

人の気配が全然なさそうな場所から鐘の音らしき物が聞こえてきた

「鐘の音？」

「あぁ、、聞こえないか？」

「誰かがワンセグ携帯でテレビ見ててケンタッキーのＣＭが流れているんじゃないの？」

いや、、電子音的な物が聞こえない

本物の鐘の音だ

「シャンシャンシャンシャン」

「ほら、、、こっちの方から聞こえないか？」

音のしたほうを指差した瞬間

「パ～～～～～～～～～～～」

「「！！！！！」」

突如激しい光が俺達をつつんでいく

「っと、いうわけで我々は何故か真っ白な銀世界に来てしまいました」

「さ、寒い～～～～～」

「これは完全に北国的な場所だな」

光が晴れると俺と真間、冥衣に雪さんは何故か猛吹雪の雪国に立っていた

「真間さん、、、今までありがとうございました、私は先に旅立ちます」

「おい、、雪しっかりしろ、寝るな」

「な、、なんであ、あんた達は、、、へ、平気なのよ」

「まぁ、、一応北国出身だしある程度寒さに抵抗があるしな」

「それにしても限度があるわよ!!!」

平然としている俺と真間に対し冥衣と雪さんは大ダメージを負っている

「とりあえず、どこかに避難しないとな」

「誠、、あそこに光が見えるが」

真間が指差すほうに明かりらしき物がいくつか見える

「誰かがいるかもしれない、、、行ってみよう」

歩くこと数分

あいからわず俺達のまわりは白一色で女性陣は次の瞬間死ぬんじゃないかってくらい弱っていた

「雪、、、しっかり、気をしっかり持て」

「うぅぅううう、、、スイマセン、誠さん」

雪さんは相当ピンチな状態なので真間に背負ってもらっている

冥衣も少し意識がモウロウとしているのか足下がおぼつかないので俺が手を引いている状態である

「どこかに休める場所があればいいんだが」

「ビ〜〜〜ビ〜〜〜」

「「！！！！！！」」

突然機械のけたたましいアラーム音が響き渡る

「真間、、何か来るぞ」

「あぁ」

「冥衣、、雪をつれてどこか安全な場所に非難しろ」

「わかった」

真間の背中から雪を受け取り冥衣は雪山に身を隠すように避難する

「ガガガガガガガガガガ」

吹雪の音しかしない空間にはにつかわない機械音が響き渡る

そして真っ白なカーペットの所々から機械の扉が出現しそこからまがまがしい装甲版を身にまとった武装トナカイが出現する

それも1匹や2匹どころの話ではない

見渡す限りトナカイトナカイトナカイトナカイ

そしてそれら全てが俺たちに向けて殺気を向けて唸っている

「懐かしいな、、、、中学の時につるんで町内中のごろつきどもを2人だけで全員病院送りにしたっけな」

「誠、、、腕はなまってないか」

「お前こそ、、長いデュエルアカデミア生活で腕がなまっていないよな」

「ッフ、、さぁ、、、、くるぞ！！！！」

トナカイ達の背中に備えつけられているブースターがいっせいに火を噴き始める

そしてハイスピードで俺達の元に向かって飛翔してくる

「ッセイ！！！！」

向かってきていたトナカイの角をガシっとつかみ踏ん張ろうとするっが足場が雪なうえスニーカーをはいていた為踏ん張ることができずそのまま吹っ飛んでいく

「うっっっだら～～～～」

強引に角を持った腕をグインと力任せに振り上げ方向転換させ俺の目の前のトナカイを別のトナカイが密集しているところに放り投げるグルグルと回転しながら俺と衝突したトナカイが別のトナカイ５．６匹をふっ飛ばしながら明後日の方向に消えていく

「へへ、、ストライクってか」

「グルルルル」

まるで狂犬のような声を上げながら別のトナカイが迫ってくる

「ッへ、、、中途半端な高性能さがあだとなってるぜ」

突進してくるトナカイの角をパシッとうまくつかみカウボーイのようにくるっと回転し背中に乗っかる

「ハイヨ～～～～」

今度は両手で角をつかみハンドルのように左右に振りながら雪原を駆け抜ける

そして他のトナカイの側面に並び族キックをあびせながら次々とトナカイをＫＯしていく

「おらおらおらおら」

っと調子に乗っていると一匹のトナカイがこちらに向かって真正面から飛んでくる

「ッへ、、、チキンレースに付き合う気はないぜ」

俺は一緒に闘ってきたトナカイを無情に乗り捨て向かってきていたトナカイと正面衝突させる

グルグルグルと回転し綺麗な着地をする

「クソ、、、さすがに武器なしでこの数を相手にするのは厳しいかな」

こっちは生身の人間

向こうは野生動物に加えてわけわからん装備に身を包んでいる

はっきり言って状況はかなり不利だ

真間は大丈夫か

視線変更～真間～

「でいや！！！」

弾丸のように飛んでくるトナカイの側頭部に後ろ回し蹴りをぶちかます

俺の蹴りで起動がそらされトナカイは撃沈する

誠の方を見てみるとトナカイに乗っかって縦横無尽に走りながら次々にトナカイを撃沈していっている

俺はと言えば向かってくるトナカイの頭を叩く蹴るで撃沈していくのがやっとである

「ブルルルル」

「フン！！！！」

弾丸のごとく突っ込んできたトナカイの額を拳で叩き潰す

「ブロロロロロロロ～～～～～」

「！！！！」

トナカイがいっせいに空に向かって飛び上がる

そして方向転換し俺に向かって急降下してくる

そしてそれとタイミングを合わすかのように横からも突っ込んでくる

３６０度完全方位攻撃と言ったところか

「ック、、どうする」

逃げ場がないこの状況、、、いや、あった

「ダ～～～～～～イブ！！！」

プールに飛び込むかのように雪原に飛び込んでいく

雪は思いのほか深く本当にプールに入ったかのように体が沈んでいく

そして振り返ると俺がさっきまで立っていた場所に次々とトナカイが突っ込んでいく

そしてとても少年誌では表現できないバベルの塔が完成していく

そういえば誠から借りたマンガの仮面ライダースピリットにライダーハリケーンってこんな状態だったよな

視線変更～真間～

「うお～～～～～、ブレーンバスタ～～～～！！！」

突進してきたトナカイを真っ白のキャンパスにその体を叩きつける

「ゼ～～～～ゼ～～～～～、、クソが」

片っ端から武装トナカイを叩き潰して行っているがいっこうにその数が減ってきている気がしない

「真間、、、そっちは大丈夫か」

「なんだ、、、、誠もうへばったのか」

「ッヘ、両肩で呼吸しているテメーに言われたかねーぜ」

氷点下の中にもかかわらず俺達の体はすっかりヒートアップし湯気が出ているくらいだ

「このまま消耗戦が続けば確実に負けるぞ」

残っていたトナカイたちが俺達の元に向かって飛んでくる

「腹くくるぞ真間！！」

「おうよ」

気合を入れて再び立ち上がる

そしてブースターでトナカイが飛んでくる中そりを引っ張ってまさにサンタクロースのトナカイっぽいトナカイがこっちにやってくる

「ウリャ～～～～」

そしてドリフトをし雪を跳ね上げて突進してくる機械トナカイを吹き飛ばしていく

ドリフトを4，5回繰り返し俺達にもとにソリがつく

「乗ってください」

「ありがとう、、、それとそこの雪山に俺のつれがいるんだ、、、一緒に回収してくれ」

「わかりました」

数分後

俺達はソリで回収してくれた少年の家にかくまってもらっている

「いや～～～～助かったぜ」

女性陣は暖炉の前で毛布に包まり温かいスープを飲み
俺と真間は上半身裸の状態で汗を拭きながらスポーツドリンクで喉を潤していた

「何ですかこの温度差は？」

「いや～～助かったよ、、、ところで君は」

「あ、、僕はキャリーといいます、、、、サンタクロースの見習いです」

「「サンタの見習い！！！」」

少年の発言に驚く俺達

相変わらず女性人はコンロのとりこである

「そしてここはサンタクロースの世界なんです」

「サンタクロースの世界、、、、あのゴーオンジャーに出てきた？」

「いえ、、、その、ゴーオンジャーってなんです？」

「いや、、気にしないで話を続けてくれ」

とりあえず俺達は体が冷え切らないうちにキャリーから借りた服に着替える

そして女性陣も復活し話しに参加し始めた

「改めて自己紹介を、、、僕はこのサンタクロースの世界の住民のサンタの見習いのキャリーです、、、このサンタクロースの世界は誠さん達の世界とは別の世界なんです」

「もしかして、、デュエルアカデミアで聞いた鐘の音は君のものかい」

「ハイ、、、あなた方にお願いがありまして、ご勝手ながらあなた達をこの世界に呼んでしまいました」

「わざわざ別世界から、、何かあったの？」

「実はあなた方にお願いがありまして、、世界が、、、この世界がピンチなんです」

「ほう、、、ついに日本の不景気の波がサンタクロースにも影響を与え玩具が用意しきれなくなったか」

「いや、、、最近の戦隊物の巨大ロボットをやたらと出してそれらを全て合体させないといけないと言う腐った営業スタイルにサンタ側がついてこれなくなったんじゃないか」

「いいえ、、、そんな平和な話じゃないんです、サンタクロースの長が、、、、長が、、人間の世界を征服しようとしているんです」

「「ホワ！！！Σ（ °□ °）」」

きっと俺達４人は同じ顔をしたと思う

「数ヶ月前の話です、、、長が突然変ってしまったんです、子供達のプレゼントを作る機械を兵器を作り上げる機械に改造し、、全てのトナカイに装備させて、着々と世界を侵略する準備を整えているんです、、、このままではクリスマスイブが地獄になってしまいます」

「つまり、、、、その長を鋭利な刃物の類でずたずたに引き裂いて17の肉片に解体すればいいんだな」

「いや、、、何その聖夜に決して出てきてはいけないワード」

「それにそれが目的でしたら私達でなくどこかの殺し屋をつれて来るはずです」

「いや、、雪、それもチョットおかしくない、つーか怖いから」

「いえ、、、僕達の長をデュエルで倒して欲しいんです、、長はデュエルモンスターズもやっておりましてデュエルで倒すことでそのゆがんだ心を元に戻せるはずなんです」

なんつーか、、、すごく都合のいいデュエル脳世界

何で武力による世界制服をする男に対しデュエルでとめると言う展開が待ってるのか

前半パートみたいに俺と真間のWライダーパワーで長を暴力と言う名のエクスカリバーで裁いてやれば作者もデュエルパートなしで楽できると言うものだ

まぁ、、アイツはきっとクリスマスも一人なのだから別にいいか

「ヨッシャ、、、それじゃあさっさと終わらせて俺達の世界に戻ってクリスマスパーティーの続きと行こうか」

「そうだな、、、さっき暴れて腹減ったしな」

「まったく、、、相変わらずのんきな2人、世界の未来がかかっているのよ」

「ッフ、、冥衣よ、俺はキモオタだ、、、、、、明日なんて物はとっくに捨てている、未来など俺には必要ない！！！！！」

「ねぇ真間、、、あんたの親友こんなんで大丈夫なの？」

「ハハハハハハ、、、さすがだぜ誠、、ハハハハ」

「大絶賛みたいですよ冥衣さん」

「どうして男子ってこう中二病が多いのよ」

「ヨッシャ、、、、それじゃあ行こうぜキャリー」

「ハイ、、、秘密の裏口を知っているんです、、ついてきてください」

視線変更～サンタの長～

「もうすぐだ、、、、もうすぐ私の野望が達成する」

目の前のモニターに映し出される数値がどんどん１００パーセントに近づいていく

「見ていろ、、、私が世界の全てを牛耳る、、、フフフ、、ハハハハハハ」

「待てぇい！！！！」

聞きなれない叫び声と共に入り口のドアがバタンと開けられる

「たとえどんな大きな野望でも、、因果応報の法則の元、正しき力によって阻止される、、人それを、、正義と言う」

「何ヤツ！！！！」

「貴様に名乗る名前はない！！！！！！」

視線変更～誠～

「貴様に名乗る名前はない！！！！！！」

みんなの兄さんの台詞を叫びながら頂上のいかにもボスがいそうな部屋に突入する

「いや、、、誠、さっきの口上はなんだ?」

「なんとなくだ」

部屋のど真ん中にはいかにもボスっぽい男が立っている

漆黒の鎧に身をまとい

同じく黒色のマントを羽織っており

若干サンタの面影を残したかったのか頭には黒色だが三角帽子がついている

「貴様ら、、、いったいどうやってここに」

「正義の味方の条件の一つ、悪の親玉のところにワープができるってやつだ」

「いいえ、、僕がここまで案内したんですけど」

「お前か、お前が手引きしたのか」

「長、、、いい加減目を覚ましてください、、元のやさしい長に戻ってください」

「黙れ!!!もはや誰も私を止められない」

「さっきも行ったが貴様の野望は遂げさせん、、、デュエルだ！！！」

ガシャンとデュエルディスクをかまえる

「誠さん」

「ん！？」

「このカードを使ってください」

そう言ってキャリーからカードを2枚受け取る

「ヨッシャ、、一緒に闘おうぜキャリー」

デッキをシャッフルしディスクにセットしサンタの長をにらむ

「フハハハハ、、いいだろう、私の野望の一歩として貴様を血祭りに上げてくれる」

うわ～～～～本当にデュエルする気だよ

ここで武力による解決でなくデュエルを選んでしまう謎の世界観

「そういやぁ、、、名前を聞いてなかったな」

「私の名前はヴェルサーだ、、いずれ全世界を統一する者の名前だ覚えておけ」

「残念だが俺は通りすがりの仮面ライダーでないと名前は覚えられ

ない主義でな」

「なぁ誠、、、そろそろ突っ込みが疲れてきたんだが」

確かに気が付けばねたのオンパレードな気がする

まぁいいか、番外編だし

「さぁ、、、ゲレンデが溶ける程、熱く楽しいデュエルにしようぜ」

「「デュエル！！！」」

誠
ＬＰ４０００
ヴェルサー
ＬＰ４０００

「俺のターン、、モンスターを裏守備でセットしリバースを2枚セットしターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚

モンスター　なし
魔法トラップ　なし

ヴェルサー
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、俺はロックストーン・ウォリアーを攻撃表示で召喚」

ボコボコボコと地面が盛り上がりバコ～～ンとはじけるとそこにロックストーン・ウォリアーが立っていた

ロックストーン・ウォリアー
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１８００守備力１６００
効果
このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。このカードの攻撃によってこのカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、自分フィールド上にロックストーン・トークン（地属性レベル１岩石族攻撃力０守備力０）２体を特殊召喚する。このトークンは生け贄召喚のためには生け贄にできない。

「バトルだ、、、ロックストーン・ウォリアーで」

「俺のモンスターはニードルワームだ」

ニードルワーム
地属性レベル２
昆虫族
攻撃力７５０守備力６００
効果
リバース：相手のデッキのカードを上から5枚墓地に捨てる。

うお！！懐かしい

遊戯王を始めたての頃は兄貴からお下がりのカードでデッキを作ってた頃はよくお世話になりました

攻撃系カードはみんな兄貴が独占してて俺はずっと削りデッキでがんばってたっけ

いまだ制限とかがかからないのが不思議なくらいの強力カード

まぁ最近は墓地が肥える事で効果を発揮するデッキもあるしな

なんて考えているうちに俺のロックストーン・ウォリアーがトゲトゲした芋虫をグシャリと握りつぶす

ムシが苦手な人が見ればきっと気絶するだろう映像だ

「う～～～～ん」

「うわ～～～～、雪が貧血で倒れた～～～」

本当に気絶しだしたし

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞ニードルワーム守備力６００

「さて、、ニードルワームの効果でデッキからカードを5枚捨ててもらおうか」

「結構大きいな」

デッキからカードを5枚めくり墓地に送る

その中に巨大ネズミが1枚含まれていた

（聖なる夜に出番さえプレゼントされないなんて、、、なんて不幸ね）

長女、、、なんか本当にスマナイっと思う

「ヒャッハハッハッハッハ、、、貴様から何もかも奪いつくしてくれる」

なんかすごい邪悪な笑みをし始める

「さて、、リバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×１

ヴェルサー
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、俺は地割れを発動させる」

地割れ
通常魔法
相手フィールド上に表側表示で存在する攻撃力が一番低いモンスター1体を破壊する。

ゴゴゴゴゴとクレパスが発生しそれに俺のロックストーン・ウォリアーが飲み込まれていく

「さらに白い泥棒を召喚する」

ガラガラガラガラと部屋の窓が開きそこから白いタキシードの男が現れヴェルサーのフィールドに降り立つ

白い泥棒
レベル3光属性
魔法使い族
攻撃力1000守備力700
効果
このカードが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた時、相手はランダムに手札を1枚捨てる。

「さらに装備魔法閃光の双剣〜トライス〜を装備させる」

白いタキシード男の手に剣が2つ装備させられる

閃光の双剣トライス
装備魔法
手札のカード1枚を墓地に送って装備する。装備モンスターの攻撃力は５００ポイントダウンする。装備モンスターはバトルフェイズ中に2回攻撃する事ができる。

「そしてバトルフェイズだ、、白い泥棒で相手プレイヤーに直接攻撃」

ハハハハとまるでタキシード仮面のように高笑いしながら白い泥棒がシルクハットをブーメランのように投げ飛ばし俺にぶつける

白い泥棒　攻撃力５００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

誠
ＬＰ４０００－５００＝３５００

「そして白い泥棒の効果で相手はランダムで手札を捨てなければならない」

「ハンデスか」

手札を全て裏返しシャッフルし適当に1枚墓地に送る

「そしてトライスの効果でこのカードは再び攻撃が行える、、、白い泥棒で再び直接攻撃」

白い泥棒　攻撃力５００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

誠

ＬＰ３５００－５００＝３０００

「再び白い泥棒の効果が発動か、、、、これを捨てるぜ」

手札が一気に2枚に減ってしまった

「ハハハハハ、、奪ってやる、貴様から全てを、俺はターンエンドだ」

誠

ＬＰ３０００

手札２枚

モンスター　なし

魔法トラップ　リバース×１

ヴェルサー

ＬＰ４０００
手札０枚
モンスター　白い泥棒
魔法トラップ　閃光の双剣トライス、リバース×２

「俺のターン、、、モアイ迎撃砲を召喚」

天から巨大な石像が降ってきて俺のフィールドにズシンと重量感あふれる音と共にモアイ迎撃砲が降り立つ

モアイ迎撃砲
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１１００守備力２０００
効果
このカードは１ターンに１度裏側守備表示にする事ができる。

（毎度毎度スマナイナ、、、期待してるぞメインアタッカー）

（ハイ、、ここでがんばってサンタクロースさんから私の個性をもらって脱地味キャラです）

（、、、、、、、、、、）

（あの、、誠さん、何で目をそらすんですか？）

「モアイ迎撃砲で白い泥棒を攻撃、、、イースターレーザーキャノン！！！」

「残念だったな、、強制脱出装置だ」

強制脱出装置
通常トラップ
フィールド上に存在するモンスター1体を持ち主の手札に戻す。

「その効果によりモアイ迎撃砲を貴様の手札に戻すぜ」

ゴゴゴゴゴと爆音と煙を上げながらモアイ迎撃砲がまるで巻き戻すかのように逆戻りしてフィールドから消えていく

（チョ、、サンタさん、私から出番を奪わないで～～）

（そのう、、、その、、、、、本当にすまないモアイ）

「クソ、、、さらにリバースを1枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ３０００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

ヴェルサー
ＬＰ４０００
手札０枚
モンスター　白い泥棒
魔法トラップ　閃光の双剣トライス、リバース×１

「俺のターン、、このままバトルフェイズに入る、、白い泥棒で攻撃」

クソ、、、リバースは完全にブラフだ、発動できない

手に持った双剣をナイフのごとく俺に飛ばす白い泥棒

白い泥棒　攻撃力５００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

誠
ＬＰ３０００－５００＝２５００

「白い泥棒の効果で手札をランダムで１枚捨ててもらおうか」

「そして、、、追撃でもう１枚捨てると言うわけか」

「あぁ、、再び白い泥棒で追撃だ」

俺に刺さりっぱなしだった立体映像の剣が熱を放ちだし爆発を起こす

「うお～～～～」

白い泥棒　攻撃力５００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

誠

２５００－５００＝２０００

「そして最後の手札を捨ててもらおうか」

最後の１枚を墓地に送る

まぁ、モアイ迎撃砲のカードなんだが

（ひどいです、、、、私全然出番がなかったです）

「ヒャ～～～ッハッハッハッハ、、俺はメイン２でリバースを１枚

追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ２０００
手札０枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

ヴェルサー
ＬＰ４０００
手札０枚
モンスター　白い泥棒
魔法トラップ　閃光の双剣トライス、リバース×２

「俺のターン、、ドロー」

「トラップ発動、、はたき落とし」

はたき落とし
通常トラップ
相手のドローフェイズ時に発動する事ができる。相手はドローフェ

イズでドローしたカード1枚をそのまま墓地に捨てる。

どこからともなく謎の腕が現れ俺のドローしたカードをバシンとはたき落とす

クソ、これじゃあ何もできない

「、、、、、、、、ターンエンドだ」

誠
ＬＰ２０００
手札０枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

ヴェルサー
ＬＰ４０００
手札０枚
モンスター　白い泥棒
魔法トラップ　閃光の双剣トライス、リバース×１

「俺のターン、、、フハハハ、手札が0で困ってるようだな、だったら俺がプレゼントをくれてやる、、、、壺の中の魔術書を発動させる」

壺の中の魔術書（マンガ版GXオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする。

「この効果により互いのプレイヤーは3枚ドローする」

手札が増えたのは嬉しいが

「アタッカーはいないか、、、ならば白い泥棒で直接攻撃」

背中のマントが大きな円を描き気円斬のようになりそのマントのカッターが俺の体を切り刻む

クソ、メッチャ待遇いいじゃないか白い泥棒

俺のモンスター達は大して出番もなく散っていくというのに

白い泥棒　攻撃力500（直接攻撃）＞相手プレイヤー

誠

ＬＰ２０００－５００＝１５００

「さぁ、、、手札を１枚捨てるんだ」

クソ、２回攻撃の白い泥棒のせいで壷の中の魔術書の相手にもドローさせるというデメリットがないに等しい

何がプレゼントだよ

「そして白い泥棒よ、再び攻撃だ」

ポケットからカードを１枚取り出し投げ飛ばす白い泥棒

そしてそのカードが俺の額にスコ～～～ンと刺さる

白い泥棒　攻撃力５００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

誠

ＬＰ１５００－５００＝１０００

クソ、さらに１枚捨てないといけないのか

完全に白い泥棒無双じゃないか

「手札を、、、、、１枚捨てる」

（すまない大将、、、やられちまった）

（ムカムカ、すまない）

（いいって、、、、相手があんな戦術じゃあ私は足手まといになっちゃうし）

確かに、相手が相手だ、、ムカムカが手札にあってもこの状況では全然役に立たない

「いい眺めだぜ、、、裏守備モンスターを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ１０００
手札１枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

ヴェルサー
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　白い泥棒、裏守備×１
魔法トラップ　閃光の双剣トライス、リバース×１

「俺のターン、、俺はモンスターを裏守備でセットしリバースカードを1枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ１０００
手札０枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×３

ヴェルサー
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　白い泥棒、裏守備×１
魔法トラップ　閃光の双剣トライス、リバース×１

相手はハンデス使い

手札を温存するくらいなら積極的に場に出せるカードを場に出すべきだ

「俺のターン、、、裏守備か、、いいカードがない、俺は白い泥棒を守備表示に変更しリバースを1枚伏せてターンエンドだ」

誠

ＬＰ１０００
手札０枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×３

ヴェルサー
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　白い泥棒、裏守備×１
魔法トラップ　閃光の双剣トライス、リバース×２

「俺のターン、、俺は巨大ネズミを召喚する」

（ご主人様、、、クリスマスにはプレゼントとして是非私に折檻を）

お！！今度は三女か

つーか聖なる夜に折檻ってどんなプレゼントだよ

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１

５００以下の地属性モンスター１体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

「バトルだ、、、巨大ネズミで白い泥棒を攻撃」

バシンと手に持っている頭蓋骨で白い泥棒を撲殺する巨大ネズミ

巨大ネズミ　攻撃力１４００＞白い泥棒　守備力７００

「リバース発動、、、道連れ」

道連れ
通常トラップ
フィールド上に存在するモンスターが自分の墓地へ送られた時に発動する事ができる。フィールド上に存在するモンスター１体を破壊する。

「効果により巨大ネズミを破壊する」

地面から腕のようなものが出てきて巨大ネズミを地中に埋葬する

（せめて、、、せめてご主人様の手で私を、私を葬ってください）

本当に思うんだが、、、次女のキャラって大丈夫なのか？

そろそろ運営に訴えられるのではないか？

「俺はこのままターンエンドだ」

とりあえず厄介な白い泥棒を片付けた、それでいい

誠
ＬＰ１０００
手札０枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×３

ヴェルサー
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、裏守備モンスターを反転召喚、、メタモルポット」

メタモルポット
地属性レベル２
岩石族
攻撃力７００守備力６００
効果
リバース：お互いの手札を全て捨てる。その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを5枚ドローする。

「互いのプレイヤーは手札を全て捨てデッキからカードを5枚ドローする」

手札補充カード、、まぁ相手からすれば手札補充＋デッキ削りの意味もあると思う

「フハハハ、、いいカードを引いたぞ、リバースカードを1枚伏せモンスターを裏守備でセットしターンエンドだ」

誠
ＬＰ１０００
手札５枚
モンスター　裏守備×１

魔法トラップ　リバース×３

ヴェルサー
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　メタモルポット、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、ロックストーン・ウォリアーを召喚、そしてロックストーン・ウォリアーでメタモルポットに攻撃」

ロックストーン・ウォリアーがメタモルポットをガチっとつかみ地面にその体を叩きつけパリ～～～ンとわる

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞メタモルポット攻撃力７００

ヴェルサー
ＬＰ４０００－１１００＝２９００

「いよっし、、、、初ダメージだ」

「ッフ、、、これしきのダメージで喜ぶとはな」

「おいおい、、、聖なる夜はこれからだぜ、、カードを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ１０００
手札５枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×４

ヴェルサー
ＬＰ２９００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、、、モンスターを召喚しよう、増幅するマリスを守備表示で召喚」

人魂のようなものが複数浮かび上がりその中心に鎌を２つ持った骸骨の霊が開いてフィールドに出現する

増幅するマリス
レベル４闇属性
アンデット族
攻撃力７００守備力１０００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手ターンのスタンバイフェイズ時に自分の墓地に存在する、増幅する悪意の枚数だけ、相手のデッキの上からカードを墓地に送る。

「さらにリバース発動、、、チェーン・デストラクション！！！！」

チェーン・デストラクション
通常トラップ
攻撃力２０００以下のモンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚されたら発動する事ができる。そのモンスターのコントローラーの手札とデッキから同名カードを全て破壊する。その後デッキをシャッフルする。

相手のフィールドのトラップカードから鎖が伸びて相手のデッキを串刺しにする

そしてそのまま2枚のカードを引き抜き墓地にその2枚を叩きつける

「そして装備魔法明鏡止水の心を装備させる」

明鏡止水の心
装備魔法
装備モンスターが攻撃力１３００以上の場合このカードを破壊する。
このカードを装備したモンスターは、戦闘や対象モンスターを破壊
するカードの効果では破壊されない。（ダメージ計算は適用する）

「これによって俺のマリスは戦闘及び効果では破壊されなくなった」

クソ、、、本当に便利だよな表側守備表示召喚

「俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ１０００
手札５枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×４

ヴェルサー

LP2900
手札2枚
モンスター　増幅するマリス、裏守備×1
魔法トラップ　明鏡止水の心、リバース×1

「俺のターン、、ドロー」

「そしてマリスの効果を発動、、、墓地に眠るマリスの数だけ相手のデッキからカードを墓地に捨てさせる」

マリスから人魂が俺のデッキに向かって飛んでくる

そしてカードを2枚墓地に送られる

「俺は裏守備モンスターを生け贄にビック・ピース・ゴーレムを召喚」

裏守備モンスターが渦につつまれそこから巨大な石像がせりあがりそれに手足が生えてビック・ピース・ゴーレムの姿になる

ビック・ピース・ゴーレム
レベル5地属性

岩石族
攻撃力２１００守備力０
効果
相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードはリリースなしで召喚する事ができる。

「ビック・ピース・ゴーレムで裏守備モンスターに攻撃だ」

モモモモモと巨大な石像が裏守備モンスターに向かって両腕を振り上げる

「モンスターは魂を削る死霊だ」

魂を削る死霊
レベル３闇属性
アンデット族
攻撃力３００守備力２００
効果
このカードは戦闘では破壊されない。このカードが魔法・罠・効果モンスターの効果の対象になった時、このカードを破壊する。このカードが直接攻撃によって相手ライフに戦闘ダメージを与えた時、相手の手札をランダムに１枚捨てる。

ビック・ピース・ゴーレム　攻撃力２１００＞魂を削る死霊　守備力２００

バシ～～～ンとゴーレムの両腕を受け止める死霊

「戦闘破壊されないモンスターか、、これでターンエンドだ」

誠
ＬＰ１０００
手札５枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー、ビック・ピース・ゴーレム
魔法トラップ　リバース×４

ヴェルサー
ＬＰ２９００
手札２枚
モンスター　増幅するマリス、魂の削る死霊
魔法トラップ　明鏡止水の心、リバース×１

「俺のターン、、俺は死霊を生け贄に悪夢の配給者～サタン・クロス～を召喚する」

死霊の体が渦につつまれ漆黒のロードができる

そしてそのロードを全身を黒一色でそめたサンタクロースが出現する

悪夢の配給者～サタン・クロス～　（オリジナル）
レベル６闇属性
悪魔族
攻撃力２２００守備力１８００
効果
このカードが相手モンスターを戦闘で破壊した時相手モンスターのレベルの数だけ相手はデッキからカードを墓地に送る。

「サタン・クロスでビック・ピース・ゴーレムに攻撃」

ブルルルルとトナカイが興奮しだしサタン・クロスのソリを乱暴に引っ張り出す

そしてそのままビック・ピース・ゴーレムをひき殺す

悪夢の配給者～サタン・クロス～　攻撃力２２００＞ビック・ピース・ゴーレム　攻撃力２１００

誠
ＬＰ１０００－１００＝９００

「うお！！！」

「そしてサタン・クロスの効果で破壊したモンスターのレベルの分だけデッキからカードを墓地に捨ててもらおうか」

ビック・ピース・ゴーレムのレベルが５

５枚を墓地に送らないといけないのか

「ハハハハ、、俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ９００
手札５枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×４

ヴェルサー
ＬＰ２９００
手札２枚
モンスター　増幅するマリス、悪夢の配給者～サンタ・クロス～

魔法トラップ　明鏡止水の心、リバース×１

「俺のターン」

「そう、、貴様のターンにマリスが貴様のデッキを破壊する」

マリスが手に持っていた鎌を俺のデッキにぶっさりと刺し込む

何これ?遊戯王第１話のオマージュっすか

「クソ、、、、俺はモンスターを１体裏守備でセットしロックストーン・ウォリアーを守備表示に変更してターンエンドだ」

誠
ＬＰ９００
手札５枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×４

ヴェルサー
ＬＰ２９００
手札２枚
モンスター　増幅するマリス、悪夢の配給者～サンタ・クロス～
魔法トラップ　明鏡止水の心、リバース×１

「俺のターン、、、貴様に絶望をくれてやるぞ、、魔法発動、、黒いクリスマス」

黒いクリスマス　（オリジナル）
通常魔法
自分フィールドに悪夢の配給者～サタン・クロス～が存在する時発動できる。相手フィールド上の伏せカードを全て持ち主の手札に戻す。

「その効果で貴様の伏せカードを全て手札に戻すぜ」

ブラフに伏せていたリバースとセットモンスターが手札に戻る

「そして魔法発動、、手札抹殺」

手札抹殺
通常魔法
お互いの手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドローする。

「互いのプレイヤーは手札を全て墓地に捨てその数だけカードをドローする」

俺の手札は１０枚、全て捨て１０枚改めてドローする

「そしてトラップ発動、、大暴落」

大暴落
通常トラップ
相手の手札が８枚以上ある時に発動する事ができる。相手は手札を全てデッキに加えてシャッフルした後、カードを２枚ドローする。

「手札を全てデッキに戻しカードを２枚ドローしてもらおう」

まったく、クリスマスに大暴落だなんて使うな

現実を見てしまうだろうが

「さらに魔法カード、邪悪なる聖夜を発動」

邪悪なる聖夜　（オリジナル）
通常魔法
自分フィールド上に悪夢の配給者～サタン・クロス～が存在する時発動可能。相手の手札を２枚墓地に送る。

黒い霧のようなものが俺の手札を墓地にいざなう
手札１０枚から一気に０って
「まだ終わらないぞ、サタン・クロスでロックストーン・ウォリアーに攻撃だ」
手に持っていた巨大な袋で俺のロックストーン・ウォリアーを叩き殺すサタン・クロス
悪夢の配給者～サタン・クロス～　攻撃力２２００＞ロックストーン・ウォリアー　守備力１６００
「そしてサタン・クロスの効果でデッキからカードを４枚墓地に送ってもらおうか」
クソ、、、デッキが薄くなってきやがったぜ
それにフィールド、手札にカードはない
「さらにリバースカードを２枚伏せてターンエンドだ」
誠
ＬＰ９００

手札０枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

ヴェルサー
ＬＰ２９００
手札０枚
モンスター　増幅するマリス、悪夢の配給者～サンタ・クロス～
魔法トラップ　明鏡止水の心、リバース×２

「俺のターン」

「フハハハハハ、無様だな挑戦者、、、手札もフィールドもカードもない、、、、絶望的だな」

（そして私のリバースは聖なるバリア～ミラーフォース～に偽物の罠、、たとえ切り札クラスのモンスターを召喚してもこれで返り討ちだ、仮に守備にてっしてもマリスでデッキを削りきってくれる）

「まずいです、、、誠さんすごくピンチじゃないですか？」

「えぇ、、、ヴェルサーの戦略の前に完全にはめられている」

「誠さん」

「だが、、、決して状態が悪いわけではない」

「そうなんですか」

「まぁ、、、後は誠を信じるのみだ」

「このドローに全てがかかっているのか」

このドローに全てがかかっている

「全人類の存亡が掛かったドローだ、、いいカードだといいな」

「全人類の存亡？」

「、、、、、、お前、何で俺達がデュエルをしているのか忘れてないか」

「、、、、、、、、、、、わ、忘れるわけねーだろ」

（（いや、今の間は絶対に忘れていた））

ッフ、楽しすぎてすっかり忘れてたぜ、こいつが全人類を征服しようとしていた事を

「なぁ、、、、チョット聞いていいかヴェルサー」

「なんだ」

「何で、、世界を征服しようとする」

「フ、、、さっきも言っただろ、俺は与える側から奪う側になったのだと」

「何でだ、、サンタクロースって言うのは子供達に夢と希望を与えてくれるんじゃなかったのかよ」

「夢、希望、、、それを奪ったのは世界だ、、、、、大人達は皆子供にクリスマスのプレゼントを聞き普通にそのままビックカメラに言ってプレゼントを買う、ＰＳ３だＷＩだ、かけらもサンタクロースのプレゼントなんかに期待しちゃいない、、、、、そんな世界など、サンタを否定した世界など、、俺が壊してやる、俺が、、壊してやるんだ」

「それは違います！！！」

雪さんが突如俺達の会話の間に入ってくる

「確かに、、そうかもしれません、、、今の世の中サンタさんのプレゼントよりお父さんのプレゼントの方が高価で需要があるかもしれません、ですが、、、、わたしは覚えています、靴下の中にサンタクロースのプレゼントが入っていた時の感動を、とても嬉しかったです、、、プレゼントが何かは正直覚えていないですけど、、、、私、嬉しかった事だけは今でも覚えています、それなのに、そんな悲しいこと言わないでください」

「ック」

少し動揺し始めるヴェルサー

ここはアニメばりの心理戦フェイズといきますか

「ヴェルサーよ、、お前はただ逃げたかっただけじゃないのか」

「なんだと」

「お前はプレゼントを配るのが怖かったんだ、お父さんとのプレゼントと比較されるのが、、、お前は逃げたんだ、、誰もサンタを不必要となんて思っちゃいない、貴様の被害妄想だ、、、、もう1度子供達の為にがんばってみないか」

「黙れ～～～、、、貴様のターンだ、ここでお前を倒し俺は世界の王に君臨するのだ」

さて、あそこまで大見得切ったんだ、やってやらないとな

「ドロー、、、やぁ～～～～～ってやるぜ」

俺の引いたカードは

「ありがとうキャリー、、お前のカードを使わせてもらうぜ、魔法発動、、、サンタクロースプレゼント」

サンタクロースプレゼント　（オリジナル）
通常魔法
自分フィールド上にカードが存在せず手札がこのカードのみの場合発動できる。デッキからカードを3枚ドローする。

「デッキからカードを3枚ドローする」

このカードは!!!

「キャリー、、、やっぱお前はサンタクロースだな」

「え!?」

「俺は墓地に眠る岩石族モンスターを１１体ゲームから除外しメガロック・ドラゴンを特殊召喚する」

（オッシ、、気合入れていきますか）

ベキベキベキベキｔ～～～～っと地面が割れそこからメガロック・ドラゴンが浮上する

メガロック・ドラゴン
地属性レベル７
岩石族
攻撃力?守備力?
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる。

「でた、、誠の切り札」

「アイツは今まで削りデッキとも何度かデュエルしているが不思議とメガロックが落ちたことは1度もないんだよな、まぁ本人は保険代わりに死者転生をデッキに入れてるが使用しているところを見たことないぜ」

「なるほど、、、デッキ削りによって追い込まれてる風に見えて誠さんは着実に反撃のチャンスを狙っていたんですね」

「メガロック・ドラゴンは特殊召喚時に除外した岩石族×７００ポイントした数値になる、俺が除外したのは１１体、よって攻撃力は７７００に」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?→７７００

「そしてキャリーより授かった第2のカードを使う、、、装備魔法発動、聖夜の聖衣～サンタ・クロス～をメガロック・ドラゴンに装備させる」

俺がデュエルディスクにカードをセットすると同時に激しい光が辺りをつつむ

そして光が収まると

「グハ～～～～～～」

「誠～～～～」

「誠が急に口と目から血を噴出し始めた」

「アレ、、その前にメガロック・ドラゴンが」

光が晴れると俺のフィールドにいたメガロック・ドラゴンがモンスターではなく精霊体になっていた

しかも普段とは違ってサンタクロースのコスプレをしていた

ボーイッシュなサンタクロースｋｔｋｒ、これで勝つる！！！！！

「さて、、、、とてもすばらしいサプライズが終わったところでサンタ・クロスの効果を使わせてもらうぜ」

聖夜の聖衣～サンタ・クロス～
装備魔法
１ターンに１度手札を１枚捨てて以下の効果を得られる。●手札のモンスターカードを１枚捨てる事でエンドフェイズまでこのカードは効果モンスターの効果を受けない。●手札の魔法カードを１枚捨てる事でエンドフェイズまで魔法カードの効果を受けない。●手札のトラップカードを１枚捨てる事でエンドフェイズまでこのカードはトラップカードの効果を受けない。

「俺は手札のトラップカードを1枚捨ててエンドフェイズまでメガロック・ドラゴンはトラップの効果を受けない」

「なんだと」

「いくぜメガロック・ドラゴンで攻撃」

(あぁ、、、チョットひねくれたサンタクロースにお灸をすえてやろう)

「漆黒のサンタクロースと共にヴェルサーの悪しき心を貫け、、、、クリスマス・レインボー・ビーム!!!!」

メガロックがかかえているプレゼント袋を前に掲げる

そして袋の入り口を開けるとそこから七色のカラフルなレーザーが発射される

「うわ〜〜〜〜〜〜〜〜」

メガロック・ドラゴン　攻撃力7700＞悪夢の配給者〜サタン・クロス〜　攻撃力2200

ヴェルサー
LP2900－5500＝－2600

デュエルが終わり立体映像が消える
そして人類の夢、ボーイッシュサンタクロースも消滅してしまった

「、、、、、さようなら、皆の希望」

「いや、、何でそんなに悲しい目をしている、勝者はお前だろ」

「あぁ、、、俺は勝者だ、ボーイッシュサンタクロースを間近で見れてボーイッシュサンタでかっこよくフィニッシュした、、、そう、、、、俺こそが勝者なんだ～～～～～」

「いや、、それはおかしいと思うぞ」

「、、、、、、長」

俺が歓喜しているといつの間にかヴェルサーのもとにキャリーが立っていた

「なぁ、、キャリー、俺は間違っていたのか」

「長、、、確かに長の言うこともわかります、、、、ですが、私達は子供達にプレゼントを配るのではないんです、、、、夢を配るんです、確かにちびっ子がお父さんからもらうプレゼントの方がすごく我々のプレゼントが色あせてしまうかもしれません、、、ですが、その心にはかけがえのない何かが残せる、、、さっき雪さんも言っ

てましたが、僕達のプレゼントをもらい、子供達の心に大きな何かを与えられる、、、それでいいじゃないですか」

「キャリー、、、あの男の言っていたとおり、私は逃げていたのかもしれない」

バサっと漆黒のマントを翻すとそこにはよくマンガとかで見かけるもっさもさの白いひげをたずさえた優しい目の老人のサンタクロースになった

「ありがとう異界のデュエリスト達よ、、、君達のおかげで目が覚めたよ」

「元に戻ったみたいだな、、サンタクロース」

「あぁ、、キャリー、急いで設備の復旧作業を」

「かしこまりました」

ヴェルサーに指示されテキパキと周りの機械をいじり始めるキャリー

「さて、、ワシはトナカイ達を元に戻さないとな」

そして数分後

先程までのまがまがしい雰囲気だったヴェルサーの要塞がクリスマスっぽい煌びやかな建物に変化していた

「改めて礼を言わせてくれ異界のデュエリスト、、ありがとう、君達のおかげで私は過ちを犯さずにすんだ」

「僕からもお礼を言わせてください、、、、、ありがとうございます」

「いいや、、いいっていいって、、、楽しいデュエルだったしな、ありがとう、ヴェルサー」

腕をヴェルサーに差し出す

それを握り返したヴェルサーの腕はとても暖かかった

「お礼といってわなんじゃが、、、、プレゼントを受け取ってくれんか？」

「プレゼント、、、とは言っても、俺達は地元では見れない深夜アニメをＤＶＤで出る前にＹＯＵ　ＴＵＢＥで確認する事になんのためらいを持たなくなった酸いも甘いも知り尽くしてしまった汚い大人だぜ」

「お前の大人の基準ってなんなんだよ」

「いいんじゃ、、、特別大サービスじゃ」

そういってサンタは俺達４人にクリスタルを手渡す

「それらを強く握って欲しいものを願ってみろ、、プレゼントに変化するぞ」

「本当ですか、、、、それじゃあ」

「私も」

女性2人がギュっとクリスタルを強く握り締める

すると激しく光だしクリスタルが巨大なぬいぐるみの形になった

「うわ～～～、、巨大な熊さんのぬいぐるみです」

「私のはピカチュウのぬいぐるみ」

いや冥衣、、、そこでピカチュウかよ

仮にも遊戯王キャラなんだからよその会社のキャラはまずいじゃないか

「誠よ、、、おぬしも握ってみせい」

「あぁ、、それじゃあ」

手渡されたクリスタルを握りプレゼントが欲しいと願う

すると激しく光だし俺の手にずっしりとした感触が

「うお～～～、フットマッサージャーだ」

「「おっさんかよ」」

「何を言う、、、フットマッサージャーはマッサージチェアーとは違って体全体をほぐすわけではないが人間の体の中で最も疲労がたまる脚部を中心に疲れをほぐしてくれる上マッサージチェアーとは違いかさばらず持ち運びも便利、、、この上なくすばらしいものではないか」

「いや、クリスマスなんだからもっと夢のあるものを頼みなさいよ」

「気を取り直して、、、、、真間さんは」

「あぁ、、、今からやってみる」

真間が手に持っていたクリスタルを握りだすと光があふれて

「灯油とかをストーブにキュポキュポするヤツ×5本だ～～～」

「夢も希望もあったもんじゃないです、、完全に日用品じゃないですか」

「いや、、、大徳寺先生に何度もレッド寮のキュポキュポするやつ壊れましたっていってるんだけどあの先生中々新品用意してくれなくてな」

「それでサンタさんにお願いですか、、、仮に子供がどんなに望んでいたのだとしてもサンタクロースが袋の中からそれを出す所を見てしまったら私はサンタでなく泥棒かと疑います」

「しかし、、、、出てきてしまったんだからしょうがないじゃないか」

「あのう、、皆さん」

若干カオス化してきた俺達の空気をキャリーがなだめてくれる

「本当に今日はありがとうございます、、、、皆さん」

次の瞬間俺達の体が光の粒子となって消え始める

「もう、、お別れなのか」

「ハイ、、、僕が未熟なので皆さんをこの世界に呼んだ目的が果たされてしまい強制的にもとの世界に戻ってしまいます、スイマセン」

「かまいやしないさ、、、、楽しかったぜ、機会があったらまた会おうな」

「ハイ、、、必ず」

気が付けば俺達はレッド寮のパーティー会場に戻っていた

誰からしゃべりだすわけでもなくただぼけ〜〜〜っと突っ立っている俺達

「夢、、、だったのかな？」

「いいや、、、夢じゃないさ」

俺達の掌にはそれぞれもらったプレゼントがある

あのデュエルも、サンタの世界も夢じゃなかった

「さて、、、それじゃあ腹も減ったし、パーティーに戻ろうぜ」

「おうさ」

「チョット、、待ちなさいよ」

「待ってくださ～～～～い」

皆も良いクリスマスを

クリスマス番外編～年末に販売されるクリスマスソング集に“サンタクロースは

中学の時には戦闘系小説も書いていたんですが完全にダメだ、腕が落ちているのがわかります。ごめん真間、俺の腕がなまってます（泣）

風邪の影響でしょうかチョット文章も雑なところがチラホラ、早く治そう。

正月ネタはさすがにかけそうにないです、とりあえずバレンタインの話の前に学園祭を完成させたいです。

それでは皆さんまた来年会いましょう、良いお年を。

第３０話愛のないコスプレなんてだたの派手な私服同然です（前書き）

新年明けましておめでとうございます。

今年初の流されて、デュエルアカデミア。投稿前の時点ですでにミスがないかハラハラです（チキンハート）

それでは本編をどうぞ。

第３０話愛のないコスプレなんてだたの派手な私服同然です

「うお！！誠、もう退院していいのか」

「あぁ、、真間、お帰り」

クリスタルから開放されて数日後

やっと退院の許可が出た俺は部屋に戻り新しい岩石デッキの調整を行っていた

そしてその作業中真間が帰ってきてしまったようだ

「部屋中にカードを広げて、、、、、もしかして本格的なデッキ改造か？」

「あぁ、、、、俺ももうすぐ2年生だし、そろそろ本格的にデッキを変えようと思ってな」

さっき購買でトメさんからパックを３０近く買った

そしてそれらを全て部屋の床にぶちまけてデッキを調整中なのである

「まったく、病み上がりで無茶しやがって、、、どれくらいで完成しそうなんだ」

「目処はたってないな、、、、下手すれば何日も掛かるかも」

「、、、、まぁとりあえず俺は適当にブラブラしてくるか」

かばんを放り投げ起用にベッドの上に着地させる真間

「晩には帰る、、、それまでには部屋片付けてくれよ同僚」

「あぁ、、少しは綺麗にしておく」

数日後

結局デッキは今だ完成せず、ズルズルと日数だけが過ぎていっていた

「ダ～～～～クソ、チョットバランスが悪くなっちまうな、このカードを入れると」

1度組んだデッキを再び崩し始める

（なぁ、、大将）

「なんだ、、ムカムカ」

俺が机でデッキと睨めっこしているとムカムカが声を掛けてきた

（最近、、思いつめてばっかだけど、、、大丈夫かい）

「あぁ、、全然大丈夫だ」

（でも、、、最近学校から帰ってからほとんどデッキと向き合いっぱなしで、、、そのままじゃあ体壊しちゃうよ）

「大丈夫だ、、、丈夫さがとりえだ、、、、それよかデッキを完成させないとな、チョット顔洗って気分転換してくる」

（まったく、大将、、、無茶しすぎだよ）

さらに数日後

「少しだが形が見えてきたな」

今日も部屋にこもってデッキの調整を行っている

「アレからかなりの時間を費やしたが、少し目処がたってきた」

「お〜〜〜い、誠、、、、そろそろ電気を消していいか？」

「あぁ、、すまない」

時計を見てみると深夜の２時

明日は学校なのでとりあえず俺は完成しかけのデッキをしまってと

こにつく

「そういやぁ、、、そろそろ学園祭だな」

「アレ、、もうそんな時期なの？」

新デッキに付きっ切りで全然気が付かなかった

「明日から準備始まるからな、、、しかも変に翔が張り切っている、大変そうだ」

「学園祭か、、、とりあえず明日に備えて寝るぜ」

「そうだな」

（なぁなぁ、、、大将）

（何だムカムカ）

ベットに入りウトウトし始めた頃ムカムカが語りかけてきた

（学園祭って、、なんなんだ？）

（学園祭って言うのは、、学校内で生徒達がいろんな出店やら出し物やらでお祭り気分を味わう、、、、って感じの行事なんだ）

（祭りなのか！！！）

目を閉じているのでその姿は確認できていないがきっと今ムカムカはすごく瞳を輝かせていると思う

（確かレッド寮ではコスプレデュエル大会が開かれるんだっけか、、、まずい、そろそろ落ちるわ、お休み、、ムカムカ）

（あぁ、、スマナイ、睡眠前に）

（別にかまいやしないさ）

その台詞を最後に俺の意識が沈んでいく

（祭りに、、、コスプレか）

翌日

「これがレッド寮の物置で眠っていたコスプレ衣装、、そしてこっちが希望のコスプレ衣装（男子生徒が見たい女子生徒のコスプレ）リストだ」

食堂の机の上に大量の箱と謎のオーラをまとったアンケート用紙が並べられる

「うわ～～～、すごいっすね」

「この衣装大丈夫か？」

適当に箱を一つ開けて中身を見てみると中には少しボロボロになって原形をとどめていない衣装があった

「とりあえず俺は衣装の修復作業に専念しよう」

「誠は昔っからそういうのが好きだったな、、だったら俺は大道具係に入って会場作り回ろう」

「だったらボクは雑用係をしつつ女子生徒の人達に声をかけるっす」

その後とんとん拍子で役割分担がきまりそれぞれの仕事に専念し始める

「必殺、、“鳳凰返し縫い”、、、そしてそこから“田舎のおばあちゃんとかイロリの前でやってそうな糸切り歯による裁縫糸切断”」

衣装が一つ補習作業が終了する

「さらに無駄スキルの一つ“一発で針に糸を通す力”発動、、そして“ゴールデン仮縫い”そして“不動明王ミシンがけ”」

「誠君、、すごくうるさいっすね」

「アイツは昔っから、何かに熱中すると渋谷のセンター街のど真ん中よりも騒がしくなるからな」

「上上下下左右左右ＢＡ、、、そして真空竜巻生地返し、、天上天下念動無双縫い！！！」

「文章だから勘違いされるかもしれないけど、、誠は別にボリジョイサーカスばりの派手な動きをしてるわけではありません」

「台詞は派手っすけど動いているのはほとんど腕だけっす」

その後何故か衣装の修復、製作作業が俺一人だけになってました

男は常に一人、孤高な存在なのかｏｒｚ

そして学園祭当日

「いや～～～、終わった終わった、むしろオワタ＼（＾○＾）／」

修復、作成作業を追えぐったりと寝転ぶ

時間は朝5時

連日に告ぐ針作業によって俺の体はボドボドだ（〇H〇）

「さて、、、まだ時間があることだし少し眠ろう」

そんな事言って津田副会長は学園祭が終わるまで寝てたよな～～～

なんて考えながら仮眠をとる

「っま、そんな状況で眠るんだから当然寝過ごすわな」

数時間後すっかり学園祭がスタートしていた

起床した俺はとりあえず自分用に用意していたモアイ迎撃砲の被り物をかぶる

「さて、、とりあえず見回りでもしますか」

俺が寝ている隙に何故かはしらないがコスプレデュエルの運営委員っぽい役職にさせられていた

まぁ、伊達に俺はボーイッシュ萌ではない

こみっくパーティーの芳賀　玲子シナリオを数十回プレイしＹＯＵ

ＴＵＢＥでアニメ版の芳賀玲子が出てくるところを何度も見た
マナー違反なレイヤーがいたら教育的指導するくらいコスプレにはうるさいぜ

「おう、、やっとおきたかネボスケ」

見回りをしているパーフェクト機械王が俺に話しかけてきた

「って、真間か、、パーフェクト機械王のコスプレだったのか」

「あぁ、、どうだ、似合ってるか？」

「あぁ、、俺が強化支援メカ・ヘビーウェポンならそのままユニオンしたいくらいだ」

「わけわからん会話だな」

何故かは知らないが後ろの方から女子の“キャ～～～”とか“フラグキタ～～～”とか“誠×真間？真間×誠？”とかわけわからない女性人の黄色い歓声が聞こえてくる

「あ、、真間さん」

「お、、雪に冥衣もきてたのか」

「ハイ、、真間さんはパーフェクト機械王ですか」

「あぁ、、、そういう雪はエレメント・クイーンのコスプレか」

自分で作っておいてなんだがアレがエレメント・クイーンの衣装だったんだ

４色のクリスタルが埋め込まれたティアラ

赤、青、緑、茶色のラインが入った薄い黄色をベースにしたドレス

木製でなく金属製トンファーに近い杖

こんな格好だったんだエレメント・クイーン

「って、、冥衣は、、、、、、、、、何のコスプレだ」

雪さんの横には腕に鞭のような腕にペンギンの体

「もしかして、、、ボルトペンギンか？」

「そうよ、、ボルトペンギン、、電池メンや雷族にいいコスプレがなかったから、ボルトペンギンにしたのよ」

（本当は雷電娘々にしようとしたんだけど露出が、、、それに電池メンはなんかかっこ悪いから）

「しかし、、ボルトペンギンというより、むしろグドンだな」

ツインテールの冥衣がツインテールを捕食するグドンっぽくなるとは、皮肉なものだ

「グドン、、何それ？」

「いや、、なんでもない、忘れてくれ」

「そうだ雪、、久しぶりに俺とデュエルしないか」

「ハイ、、お手柔らかにお願いします」

そういってパーフェクト機械王とエレメント・クイーンがデュエルスペースに消えていった

「行っちゃたわね、それよりも誠、、その、、、ど、どう、、、私のコス」

「小野寺君～～～、、なんか向こうでコスプレ衣装のトラブルがあったみたい」

「何!?わかった、、悪いチョット俺行ってくるわ、楽しんでくれよ冥衣」

冥衣が何かを言おうとしていたが俺はダッシュでトラブル現場に向かう

「え、、チョット、、、、、、、、、、、、、これで勝ったと思うなよ～～～～～」

しかし、衣装に何の問題があると

死にかけの状態で作業しつつもきちんと衣装は作ったはずだが
とりあえずトラブルの現場に行ってみた

「スイマセン、、コスプレ衣装を担当したものですが何かありましたか？」

「あ、、誠君だ」

「アレ、、、スバルにティアさん」

トラブルの現場に向かってみるとスバルとティアさんがそこにいた

「って、、コスプレ衣装にトラブルがあったって聞いてたんだけど」

「えぇ、、大有りなんだけど」

どうやらトラブルがあったのはティアさんのようだ

「私が頼んだのはピアース・マスケッティアだったのにツイン・ガンファイターの衣装が届いてるんだけど」

「、、、、、、、、、スマン、それは俺のミスだ、いや、、、依頼者名がランスターって書いてあってさ、、、てっきり男からの以来だと思ってな、ピアース・マスケッティアは女性用、、カマコスしてんじゃね～～～～って思って、ツイン・ガンファイターに変えたんだった」

ランスターはランスターでもゼオライマーの風のランスターを思い出してしまった

「まぁ、、、でも似合ってるからいいじゃないかティアさん」

「そうだよティア、、似合ってるよ」

「俺は、、、ボーイッシュ萌だからむしろその方がＧＪ！！！」

ビシっと親指を立てティアサンにサムズアップする

「結果オーラーですますか～～～」

「いたいたいた、、、まずいって、その銃エアーガン改造したやつだからガチで痛いって」

しかも的確に太ももの内側を射抜いてくる辺り恐ろしい銃の腕前

ＢＢ弾が当たった場所が熱せられた鉄板を押し付けられたかのように熱く感じる

「まったく、、注文どおりのものを作りなさいよね」

「まぁまぁ、、いいじゃないか」

「「キャ～～～～、ランスターお姉様～～～、こっちを向いて～～」」

「っと、女子生徒から絶大な支持を得てるじゃないか」

「ねぇ誠君、、、零距離で額にＢＢ弾を何十発と打ち込んだらどうなるか知りたくない？」

「とりあえず冷静に“Ｏ☆ＨＡ☆ＮＡ☆ＳＨＩ”をしましょうティアさん、エアーガンは元々人に向けて打つ物じゃないですから、、サバイバルゲームでも重武装した人同士で打ち合うから怪我がないだけであって、、俺モアイ迎撃砲のかぶり物してる以外ほぼ生身の人間だから」

「お姉様～～～～、、こっちにきてくださ～～～～い」

「ほらほら、、よんでるぞ、お姉様」

「お姉様言うな！！！」

二丁拳銃の鈍器の部分で額に打撃を叩き込まれた

プラスチックとは言えども超痛いです

そしてプンスカしながらティアさんは黄色い歓声の元に向かっていった

「アハハハ、、災難だったね誠君」

「あぁ、、そういやぁ、、スバルは」

「へへへ、、アンティーク・ギアゴーレムだよ」

ガオ～～～～と嬉しそうに両手をぶんぶん振り回すスバル

なんだろう、この姿を見ていると俺の部屋で待機している精霊達を思い出し何故か涙が

「アレ、、誠君泣いてるの？」

「いや、、スマナイ、スバルのコスプレがあまりに似合ってて」

「本当、、へへ、嬉しいな」

「ナカジマさ～～ん、俺とデュエルしてください」

「うん、いいよ～～～～、、、それじゃあね誠君」

腕をブンブン振り回しながらスバルがデュエルスペースに向かっていく

「あぁ、、楽しんでくれよ～～～」

「いいご身分ですわね、、沢山の女性とかかわりがありまして」

「アレ、、、たしか」

スバルと分かれた俺に一人の女性が声を掛けてきた

確か名前は

「雪さんと月一試験で戦った東条　レオナさん」

「えぇ、、そういうあなたとは初対面でしたわね、、冥衣さんから話は聞いてましたが、小野寺　誠さんでよろしいですか？」

「あぁ、、あってるぜ、東条さん」

「苗字で呼ばれるのはなれてませんから名前でかまいませんわ」

「そうか、、じゃあ俺も名前でいいぜ、えっと、、、レオナさん、、ってあってたか？」

「えぇ、、大丈夫ですよ、誠さん」

過去の話を読み直してみるとが混合してて小説読んでいる人もきっと安定してない

つーか作者も安定してなかった

この場で宣言します

彼女の名前は東条　レオナです

過去作品の名前も全部レオナに脳内変換してくれると助かります

「「皆さん、、大変なご迷惑をおかけしました」」

「何どこぞの雪だるまと一緒に何もない空間に土下座をしております」

「そしてレオナのキャラ設定もいまいち安定してなかったのも」

「「申し訳ございませんでした」」

「だからどこのどなたですのその雪だるまは」

「それじゃあ俺は帰るわ」

「おう、、仕事も大事だが、小説更新も忘れないでくれよ、、、でも体は壊すなよ～～～」

「私を差し置いてお話を進めないでくれますか」

「悪い悪い、、って、そのコスプレは、、、奥様は魔女のコスプレか？」

レオナは黒い三角防止に黒のマントに身を包み竹箒を手に持っていた

「今の子供にわからないネタはお止めなさい、サンド・ウィッチですわ」

確かに、言われてみればサンド・ウォッチのコスプレだ

そもそも奥様は魔女はＯＰでしか魔女の格好をしていない

劇中はずっと普通の服だったしな

「しかし、、冥衣さん以外にも、いろんな女性とかかわりがあるようですわね」

「まぁな、、、結構友達は多いほうだと思う」

「まったく、、これじゃあ冥衣さんは報われそうにありませんわ」

「なんか言ったか？」

「いいえ、、、それでは私は約束がありますので」

そう言い残しレオナさんは人ごみの中に消えていった

「さて、、それじゃあ見回りの続きと行きますか」

「あ、、誠さ～～～ん」

「ん？」

見回り中アルカナナイトジョーカーのコスプレをした昭二に出会った

「昭二か、、アルカナナイトジョーカーのコスプレ、、すごいな」

「ありがとうございます、、それよりもご氏名です、、、誠君の名前で、向こうのデュエルスペースで」

「そうか、、、ありがとう」

しかし、この俺を指名するとは、どこのどいつだ

「お、、小野寺が来たぞ」

デュエルスペースに行くとギャラリーたちが俺を向かいいれてくれた

「おう、、悪い、通してくれ」

人ごみを掻き分けデュエルスペースにたどり着くと目の前には一人の女性が立っていた

「っや、、大将」

「、、、、、、、、、、、、、チョット待て」

目の前には変な被り物をしているが激昂のムカムカが立っていた

とりあえず俺は心の中でムカムカと会話することにした

（おい、、何で実体化しているんだムカムカ）

（いや、、、祭りって聞いたらさ、体がうずうずしちゃって、でも、、、やっぱいいねお祭りって）

へへへ、っとペロっと舌を出して両手を合わせるムカムカ

（まったく、とりあえず、、デュエルを挑んできた以上受けてやるぜ）

（ありがとう、、大将）

「自己紹介だ、、俺の名前は小野寺、、、、、、、、いや、モアイ迎撃砲だ」

「私は激昂のムカムカ、、よろしく」

どうやらムカムカが頭にかぶっているのは激昂のムカムカの被り物みたいだ

「さて、、、それじゃ熱く楽しいデュエルにしようぜ」

「「デュエル！！！」」

モアイ迎撃砲（誠）
ＬＰ４０００

激昂のムカムカ
ＬＰ４０００

「俺のターン、、モンスターを1体裏守備でセットしてターンエンドだ」

モアイ迎撃砲（誠）
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　裏守備×１

魔法トラップ　なし

激昂のムカムカ
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターン、、私は手札のムカムカを召喚」

激昂のムカムカのフィールドに俺が普段使っているムカムカよりも一回り小さいムカムカが現れる

ムカムカ
レベル２地属性
岩石族
攻撃力６００守備力３００
効果
このカードが表側表示でフィールド上に存在する限り、コントローラーの手札１枚につきこのカードの攻撃力と守備力は３００ポイントアップする。

「ムカムカは私の手札１枚につき攻撃力が３００ポイントアップする、よって攻撃力は２１００」

ムカムカ
攻撃力６００→２１００

「バトル、、、ムカムカで裏守備モンスターに攻撃」

「俺のモンスターはマシンナーズ・ピースキーパーだ」

マシンナーズ・ピースキーパー
レベル２地属性
機械族・ユニオン
攻撃力５００守備力４００
効果
フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキからユニオンモンスター１体を手札に加える事ができる。１ターンに１度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上の機械族モンスターに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。（１体のモンスターが装備できるユニオンは１枚まで。装備モンスターが破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。）

小さなムカムカのハサミに切断されピースキーパーが消滅する

ムカムカ　攻撃力２１００＞マシンナーズ・ピースキーパー　守備力４００

「「キャ～～～、激昂のムカムカ姉様～～～素敵ですわ～～～～」」

ムカムカの攻撃が成功すると何故かギャラリー（女性）から黄色い歓声が上がる

つーかこの学校には腐女子しかいないのか？

「へへ、、応援ありがとう」

ファンサービス（？）と言わんばかりに手を振って答えるムカムカ

これってアレかな、、ティアさんとのデュエルの時みたいに俺がムカムカにダメージを与えたらあの人達からパッシングを受けるのであろうか

「俺はただではやられないぜ、、、ピースキーパーの効果でデッキからユニオンモンスターを1枚手札に加える、、、俺はマシンナー

ズ・ギアフレームを手札に加えるぜ」

「お、、つまりマシンナーズデッキかい」

「正解だが、、、、ただのマシンナーズデッキだと思うと痛い目見るぜ」

新しい岩石デッキ作成の合間に息抜きでこっちのデッキを強化してあるぜ

「とりあえず私はカードを1枚伏せてターンエンドだ」

ムカムカ
攻撃力２１００→１８００

モアイ迎撃砲（誠）
ＬＰ４０００
手札６枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

激昂のムカムカ
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ムカムカ
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、来たぜ、マシンナーズ・フロントライン発動」

俺のフィールドに土砂で作った袋のバリケードが出現しドカ～～ンドカ～～ンと爆発が発生する

いや、、このフィールドすごく怖いんですけど

ってフィールド魔法じゃなかったぜ

マシンナーズ・フロントライン
永続魔法
機械族モンスターが戦闘によって破壊され自分の墓地へ送られた時、そのモンスターより攻撃力の低い、同じ属性の機械族モンスター1体を自分のデッキから特殊召喚する事ができる。この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「そして手札のマシンナーズ・ギアフレームを召喚し効果発動、デッキからマシンナーズ・フォートレスを手札に加える」

ギ～～ンと空のかなたからオレンジ色の戦闘機があわられる

フィールドにつく前に俺の頭上で1度とまりカードを1枚落としていく

そして再び動き出しフィールドで変形し人型ロボットの形になる

マシンナーズ・ギアフレーム
レベル４地属性
機械族・ユニオン
攻撃力１８００守備力０
効果
このカードが召喚に成功した時、自分のデッキからマシンナーズ・ギアフレーム以外のマシンナーズと名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上の機械族モンスターに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。1体のモンスターが装備できるユニオンは1枚まで。装備モンスターが破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。

「バトルだ、、、、マシンナーズ・ギアフレームでムカムカに攻撃だ」

再び変形しギアフレームがムカムカに飛翔する

「リバース発動、、、無謀な欲張り」

無謀な欲張り
通常トラップ
カードを2枚ドローし、以後自分のドローフェイズを2回スキップする。

「効果でデッキからカードを2枚ドロー」

「って、、、事は」

ムカムカ
攻撃力１８００→２４００

ムクムクとムカムカが大きくなっていく

そしてそのハサミでギアフレームの体を一刀両断する

マシンナーズ・ギアフレーム　攻撃力１８００＜ムカムカ　攻撃力２４００

誠

ＬＰ４０００－６００＝３４００

ギアフレームが爆発しその残骸が俺のフィールドに転がってくる

「ッグ、、だがマシンナーズ・フロントラインの効果発動、、、俺はグリーン・ガジェットを守備表示で特殊召喚する」

ギアフレームの破片から緑色の大きな歯車が出現しそれに手足が生えてグリーン・ガジェットの形となった

グリーン・ガジェット
レベル４地属性
機械族
攻撃力１４００守備力６００
効果
このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、デッキからレッド・ガジェット１体を手札に加える事ができる。

「さらにグリーン・ガジェットの効果でデッキからレッド・ガジェットを手札に加える、そしてリバースカードを１枚伏せてターンエンドだ」

モアイ迎撃砲（誠）
ＬＰ３４００
手札６枚
モンスター　グリーン・ガジェット
魔法トラップ　マシンナーズ・フロントライン、リバース×１

激昂のムカムカ
ＬＰ４０００
手札６枚
モンスター　ムカムカ
魔法トラップ　なし

「私のターン、、無謀な欲張りの効果でカードはドローできない、、、とりあえず私はギロチン・クワガタを召喚する」

ガキンガキンとハサミを開け閉めしながら二足歩行のクワガタ虫が相手フィールドに出現する

ギロチン・クワガタ
レベル４風属性
昆虫族
攻撃力１７００守備力１０００

効果なし

「手札が1枚減ったからムカムカの攻撃力が下がっちゃうけどね」

ムカムカ
攻撃力２４００→２１００

「そしてギロチン・クワガタでグリーンガジェットに攻撃！！！」

ガバ～～～っとクワガタムシがそのハサミでグリーンガジェットの体をはさみこみバキバキバキ～～～っと軋みを上げながらその体を真っ二つに切断した

ギロチン・クワガタ　攻撃力１７００＞グリーン・ガジェット　守備力６００

「だが戦闘破壊された事によってマシンナーズ・フロントラインの効果を発動、、機械族モンスターが戦闘で破壊された時デッキからそのモンスターよりも攻撃力が下回る同属性同種族のモンスターを

デッキから特殊召喚できる、、、俺はデッキからレッド・ガジェットを守備表示で特殊召喚する」

俺のモンスターゾーンがドカ～～ンと爆発し爆炎の中から赤い歯車のモンスターが降り立つ

レッド・ガジェット
レベル４地属性
機械族
攻撃力１３００守備力１５００
効果
このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、デッキからイエロー・ガジェット１体を手札に加える事ができる。

「レッド・ガジェットの効果によりデッキからイエロー・ガジェットを手札を加える」

「まだまだ私のバトルは終わってないよ、、ムカムカでレッド・ガジェットに攻撃だよ」

今度はムカムカがレッドガジェットの腕をそのハサミでつかみレッド・ガジェットの両腕をつかみバキバキ～～っとその体を真っ二つに引き裂いた

なんか、今日俺のモンスター結構悲惨な目にあいまくっている
夜に化けて出てこないでくれよ

ムカムカ　攻撃力２１００＞レッド・ガジェット　守備力１５００

「クソ、、マシンナーズ・フロントラインは１ターンに１度しか使えない」

「ようし、、、これでモンスターゾーンは空っぽになったぜ」

しかし、向こうは次のドローフェイズもカードがドローできない

そして俺の手札は潤いデッキのエースモンスターが特殊召喚できるぜ

「さて、、このままターンエンドするとまずそうだから、、、手札から魔法発動、、禁止令」

禁止令
通常魔法
カード名を１つ宣言して発動する。このカードがフィールド上に存

在する限り、宣言されたカードをプレイする事はできない。このカードの効果が適用される前からフィールド上に存在するカードにはこのカードの効果は適用されない。

「私が指名するカードは、、、マシンナーズ・フォートレス」

な、、なんとΣ（ °□ °）

「マシンナーズ・フォートレス、、マシンナーズ・ギアフレームで持ってこれるうえ、手札が豊富であれば何度でも使用できるカード、、そしてそのデッキはそんなマシンナーズ・フォートレスを何度も再利用する事に特化したデッキ」

ギャ～～～ばれてるよ～～～

「よく俺のデッキ内容がわかったな」

「へへへ、、、私の知り合いに博識なやつがいてね」

よく見てみるとムカムカの後ろにモアイ迎撃砲（精霊体である為薄く透けている状態）が頭を下げていた

なるほど、、、激昂のムカムカの豪快な戦略にモアイ迎撃砲の知識

恐ろしい敵となったわけか

「まぁ、、手札がへってムカムカがまた攻撃力が下がったけどね」

ムカムカ
攻撃力２１００→１８００

「ターンエンドだね」

モアイ迎撃砲（誠）
ＬＰ３４００
手札７枚
モンスター　なし
魔法トラップ　マシンナーズ・フロントライン、リバース×１

激昂のムカムカ
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ムカムカ、ギロチン・クワガタ
魔法トラップ　禁止令

「俺のターン」

クソ、、手札がこんなにも豊富なのに切り札が出せないとは

この屈辱許しはせん（社長の声で）

「俺はマシンナーズ・スナイパーを召喚する」

俺のフィールドの砂袋のバリケードをかっこよくマシンナーズ・スナイパーが飛び越えていく

マシンナーズ・スナイパー
レベル４地属性
機械族
攻撃力１８００守備力８００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、マシンナーズ・スナイパー以外のマシンナーズと名のついたモンスターを攻撃する事ができない。

「バトルだ、、、マシンナーズ・スナイパーでギロチン・クワガタを攻撃」

ガチャっと手に持った巨大なライフル銃を構えるスナイパー

「マシンナーズ・スナイパーで狙い撃つぜ！！！！」

ライフルからレーザーが発射されギロチン・クワガタの体を打ち貫く

マシンナーズ・スナイパー　攻撃力１８００＞ギロチン・クワガタ
攻撃力１７００

激昂のムカムカ
ＬＰ４０００－１００＝３９００

「ここから逆転してやっぜ、、リバースをセットしてターンエンド」

モアイ迎撃砲（誠）
ＬＰ３４００
手札６枚
モンスター　マシンナーズ・スナイパー
魔法トラップ　マシンナーズ・フロントライン、リバース×２

激昂のムカムカ
ＬＰ３９００
手札４枚
モンスター　ムカムカ

魔法トラップ　禁止令

「私のターン、、、、だけどドローはできないか、私はムカムカを生け贄に私自身、、激昂のムカムカを召喚する」

相手フィールドのムカムカの背中からヒビがはえてそこから一回り大きなムカムカが相手フィールドに降り立つ

激昂のムカムカ
レベル５地属性
岩石族
攻撃力１２００守備力６００
自分の手札１枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

アレは、、俺が普段使っているメインアタッカー

つーかいいな～～、自分自身を召喚って

俺も言ってみて～～～～

ムカムカの後ろ側にいるモアイ迎撃砲には申し訳ないがなんで俺このコス選んだんだろう

マシンナーズ系のコスプレにすればよかった

「激昂のムカムカは攻撃力は私の手札1枚につき攻撃力が４００上がる、、私の手札が3枚、、、よって攻撃力は２４００に」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→２４００

「バトル、、、、激昂のムカムカでマシンナーズ・スナイパーに攻撃」

巨大なハサミが大きく振り上げられ俺のマシンナーズ・スナイパーをペッシャンコに押しつぶす

激昂のムカムカ　攻撃力２４００＞マシンナーズ・スナイパー　攻撃力１８００

誠
ＬＰ３４００－６００＝２８００

「うお！！！さすがは俺が普段使っているメインアタッカー、恐ろしいカードだ、、しかしただではやられん、、マシンナーズ・フロントラインの効果でデッキからマシンナーズ・ピースキーパーを守備表示で召喚する」

「へへ、、、とりあえずターンエンドだ」

モアイ迎撃砲（誠）
ＬＰ２８００
手札６枚
モンスター　マシンナーズ・ピースキーパー
魔法トラップ　マシンナーズ・フロントライン、リバース×２

激昂のムカムカ
ＬＰ３９００
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　禁止令

「俺のターン、、俺はピースキーパーを生け贄に機械王を召喚する」

俺のフィールドのピースキーパーが消えると同時にどこからともなく戦闘機やら戦車やらメカメカしい怪鳥やら色々な機械が現れガシ

ャンガシャンガシャンと連結し機械王の形になる

機械王
レベル６地属性
機械族
攻撃力２２００守備力２０００
効果
フィールド上の表側表示で存在する機械族モンスター１体につき、
このカードの攻撃力は１００ポイントアップする。

「さらにリバース発動、、、リビングデットの呼び声」

リビングデットの呼び声
永続トラップ
自分の墓地からモンスター１体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。
このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスター
を破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「墓地より蘇れ、、、マシンナーズ・スナイパー」

地面から極太のレーザーが天に向かって上っていきそれによって発生した穴からマシンナーズ・スナイパーが這い上がってくる

「機械王の効果、、、全フィールド上の機械族モンスター1体に付き攻撃力が１００上昇する」

機械王
攻撃力２２００→２４００

頼むぜ、もう一人の俺の相棒

「機械王で激昂のムカムカに攻撃する」

機械王が自らの腕を発熱させていく

そしてムカムカに向かって飛び上がる

「メガヒートナックル！！！」

バシ～～ンと機械王の真っ赤な腕が激昂のムカムカの体を貫く

だが激昂のムカムカのハサミも同時に機械王の体を切り裂いていた

「スマン相棒、、、安らかに眠れ」

機械王　攻撃力２４００＝激昂のムカムカ　攻撃力２４００

ムカムカと機械王が爆炎につつまれる

「機械王はただでは死なない、、マシンナーズ・フロントラインの効果によって俺はデッキからマシンナーズ・ソルジャーを特殊召喚する」

ドカ～～ンドカ～～～ンと科学戦隊並みの大爆発が俺の後ろに発生する

そして爆発の中を右腕が剣になっているロボットが走ってくる

マシンナーズ・ソルジャー
レベル４地属性
機械族
攻撃力１６００守備力１５００
効果
自分フィールド上にモンスターが存在しない場合にこのカードが召喚に成功した時、手札からマシンナーズ・ソルジャー以外のマシンナーズと名のついたモンスター１体を特殊召喚する事ができる。

「追撃だ、、、ソルジャーとスナイパーでダイレクトアタックだ」

俺のモンスター2体が相手プレイヤーに向かっていく

そしてソルジャーはその腕の剣で

スナイパーは手に持っているスナイパーライフルを叩きつけて攻撃する

って、チョット待て、一人あきらかに攻撃方法間違ってないか

マシンナーズ・スナイパー　攻撃力１８００（ダイレクトアタック）
＞相手プレイヤー

マシンナーズ・ソルジャー　攻撃力１６００（ダイレクトアタック）
＞相手プレイヤー

激昂のムカムカ
ＬＰ３９００－３４００＝５００

「あいたたた、、、これは痛手だね」

「うっし、、このまま押し切れるか、ターンエンドだ」

モアイ迎撃砲（誠）
ＬＰ２８００
手札６枚
モンスター　マシンナーズ・スナイパー、マシンナーズ・ソルジャー
魔法トラップ　マシンナーズ・フロントライン、リビングデットの呼び声、リバース×１

激昂のムカムカ
ＬＰ５００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　禁止令

「私のターンだね、、やっとドローできるよ、よし、高等儀式術を発動」

儀式召喚のカード、何をよんでくるんだ

高等儀式術

儀式魔法
手札の儀式モンスター1体を選択し、そのカードとレベルの合計が同じになるように自分のデッキから通常モンスターを選択して墓地に送る。選択した儀式モンスター1体を特殊召喚する。

「デッキの中のザリガン2体とブレイブ・シザー1体を墓地に送りクラブ・タートルを儀式召喚」

チョット待ておい、、、何だその普段絶対に聞かないカード名達は

相手フィールドにザリガニ2匹と高枝切バサミを装着したロボットが現れるが水流に流される

そしてその水流の中から巨大なカニが姿をあらわす

クラブ・タートル
レベル8水属性
水族
攻撃力2550守備力2500
効果
亀の誓いにより降臨。フィールドか手札から、レベルが8以上になるようカードを生け贄に捧げなければならない。

「バトル、、クラブ・タートルでマシンナーズ・ソルジャーを攻撃」

「させるか、、、リバース発動、、和睦の死者」

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは0になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

砂袋のバリケードを乗り越え普段きている修道女服ではなく緑色メインの迷彩模様の服に身を包み顔にも緑色のラインが走っている

そして何故かガリバーチェーンでクラブ・タートルの動きを封じていく

和睦の死者、、もとの優しいお前に戻ってくれ（シシレンジャーの声で）

「戦闘ダメージはなしか、、私はこれでターンエンド」

モアイ迎撃砲（誠）
ＬＰ２８００
手札６枚
モンスター　マシンナーズ・スナイパー、マシンナーズ・ソルジャー
魔法トラップ　マシンナーズ・フロントライン、リビングデットの呼び声、リバース×１

激昂のムカムカ
ＬＰ５００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　禁止令

「俺のターン、ドロー」

きてくれた、、これでそろったぜ

「魔法発動、、、同胞の絆」

同胞の絆　（マンガオリジナル）
通常魔法
自分フィールド上にモンスターが存在する時１０００ポイントライフを払って発動する。自分フィールド上のモンスター1体と同じ種族のレベル４のモンスターを2体までデッキから特殊召喚する。こ

の効果で特殊召喚したモンスターは攻撃できず生け贄にもできない。

「同胞の絆の効果でデッキからマシンナーズ・ディフェンダーと督戦官コヴィントンを特殊召喚する」

誠

ＬＰ２８００－１０００＝１８００

俺のフィールドに魔方陣が発生しそこからモンスターが2体出現し俺のフィールドに降り立った

マシンナーズ・ディフェンダー
レベル４地属性
機械族
攻撃力１２００守備力１８００
効果
リバース：自分のデッキから督戦官コヴィントン1体を自分の手札に加える。

督戦官コヴィントン
レベル４地属性
機械族
攻撃力１０００守備力６００

効果
自分フィールド上に表側表示で存在するマシンナーズ・ソルジャーとマシンナーズ・スナイパーとマシンナーズ・ディフェンダーをそれぞれ1体ずつ墓地へ送る事で、手札またはデッキからマシンナーズ・フォース1体を特殊召喚する。

「コヴィントンの効果を発動、、、俺のフィールドのマシンナーズ・ソルジャー、マシンナーズ・スナイパー、マシンナーズ・ディフェンダーを墓地に送りマシンナーズ・フォースをデッキから特殊召喚する、、、ファイナルフージョン承認!!!!」

ビシっと人差し指をコヴィントンに向ける

しかしコヴィントンは空気をよまず笛のようなものを吹いてマシンナーズ達に合体指令を出す

何でそこで窓ガラスを拳で叩き割ってくれない

なんて心の中で嘆いているとガシャンガシャンガシャンと俺のモンスター達が変形・合体し巨大な一体のロボットになった

マシンナーズ・フォース
レベル10地属性
機械族

攻撃力４６００守備力４１００
効果
このカードは通常召喚できない。督戦官コヴィントンの効果でのみ特殊召喚する事ができる。このカードは、１０００ライフポイント払わなければ攻撃宣言をする事ができない。フィールド上に存在するこのカードを墓地へ送る事で、自分の墓地からマシンナーズ・ソルジャー、マシンナーズ・スナイパー、マシンナーズ・ディフェンダーをそれぞれ1体ずつ選択して特殊召喚する。

「そんな、、マシンナーズ・フォートレスだけじゃなかったのか」
あぁ、このカードは生前入れてなかったが同胞の絆を見た瞬間入れるしかないと思って入れてみたぜ
それに、このカードはあのカードにも使えそうだしな
「いくぜ、、、マシンナーズ・フォースでクラブ・タートルに攻撃、、、エンド・オブ・ワールド！！！！！」

誠
ＬＰ１８００－１０００＝８００

とりあえず雰囲気を出す為にデュエルディスクをマシンナーズ・フォースの背中に押し当てる

するとマシンナーズ・フォースは全身の重火器からレーザーやらミサイルやらを連発しそれらが全てクラブ・タートルの体を貫き破壊していく

マシンナーズ・フォース　攻撃力４６００＞クラブ・タートル　攻撃力２５５０

激昂のムカムカ
ＬＰ５００－２０５０＝－１５５０

デュエル終了後俺は激昂のムカムカを連れてレッド寮の裏側に来ていた

「って、、、何で実体化して学園祭に出てきたんだ」

「いや～～～、、私、祭りって単語に弱くてさ、、ついついやってきちゃった」

「実体化はどうやった？」

「なんか、、やってみたらできた」

どこの勇者の合体だよ

「まったく、、、なんでこんなことをしたんだ」

「最近、、大将が元気なくて、なんか、、、、、その、、なぁ」

つまり、、、ムカムカはムカムカなりに俺を励まそうとしていたのか

「まったく、、、、少しはお前達のマスターを信頼しろ」

「その、、、ゴメンな」

「でも、、、、その気持ちは嬉しかったぜ、ありがとうな」

「ハハ、、ハハハ」

照れくさそうに鼻をこすりながら笑うムカムカ

「そうだ、、、今度は大将の精霊皆で実体化して一緒に学園祭を回るっていうのはどうだ？」

「やめてくれ、、、そんなことになれば俺はきっと一瞬で殺されるから」

エヴァ弐号機のごとく天から槍を無数に放たれ絶命するであろう

「ハハハハハ、、、まぁそのなんだ、大将、、、無茶しないで、時

には私やメガロックとかにも頼って欲しいよ」

「まったく、、、俺は、お前達に頼ってるよ、この上ないくらいにな」

「大将、、、やっと笑ってくれたね」

確かに、、ここ最近切り詰めてたかもしれないな

ムカムカのおかげで少し心に余裕ができた気がする

「そういやぁ、、、さっきのデュエル、最高に熱く、楽しかったぜ」

ムカムカに向けて手を差し出す

「私も、、楽しかったよ、、大将」

ムカムカと硬く手を握り合う

するとムカムカの姿が消えてなくなる

(それじゃあ私は一足早く帰るね、、大将は学園祭を楽しんできなよ)

どうやら実体ではなく精霊体に戻ったようだ

「そうだな、、、、最近思いつめてばっかだったしな」

生き抜きもかねて学園祭を楽しむとしよう

そして学園祭に戻ってみると十代とブラック・マジシャン・ガールがデュエルをしていた

そしてそれを見守る見慣れた影があった

「お、、十代のヤツ誰かとデュエルしているのか」

「あ、誠、戻ってきたのか」

パーフェクト機械王こと真間がいたので取り合えず戦況を確認した

「って、十代は誰と戦っている」

「見てわからないのか、、、ブラック・マジシャン・ガールだ」

「、、、、一応誰がコスプレしているのか聞きたかったんだが」

「わからん、、、だが相当の使い手だ」

確かに、今ブラック・マジシャン・ガールのフィールドにはマジシャンズ・ヴァルキリアが2体にブラック・マジシャン・ガール

ヴァルキリア・ロック常態か

「しかし、、伝説のデュエリスト武藤　遊戯が使っていた伝説のレ

アカード、ブラック・マジシャン・ガールのカードを使うとは、彼女は一体何者なんだ」

「アレ、、、三沢いたのか？」

「いたよ最初から」

どうやら真間の横にいたようだが全然気が付かなかった

「ところで三沢は何のコスプレをしているんだ」

トラの格好っぽいが、二足歩行で歩くその姿はまるでハヤテのごとくのタマそのものであった

「アマゾネス・ペットタイガーのコスプレだ」

「アマゾネス・ペットタイガー、、、確かタニヤがそのカードを使っていたよな」

「なんか、、、前の彼女のことを忘れられない未練がましい男みたいだな」

「グハ」

刺さった～～～～

真間の残酷な言葉と言う名の“刺し穿つ死棘の槍（ゲイボルク）”が三沢の心臓を貫いた～～～～

「ハ、、ハハハ、、ハハハ」

うわ～～～三沢がすごいうつろな目をしながらフラフラと去っていった

そして真間は全然気づいてない顔してるし

恐るべし、天然パワー

そしてデュエルアカデミア最初の学園祭は約1名の心に深い傷を残し幕を閉じるのであった。

第３０話愛のないコスプレなんてだたの派手な私服同然です（後書き）

ちなみにムカムカのデッキはハサミデッキです。某動画サイトでアームデッキなるものがあるそうですので材料がそろえられれば私もこのハサミデッキを作ってみたいなと考えてしまいます。

それでは皆さん、今年も流されて、デュエルアカデミアと小野寺誠をよろしくお願いします。

第３１話俺は二次元にしか興味がない硬派で通っているんだ（前書き）

この間久しぶりに少年サンデーの立ち読みをしたらハヤテのごとくでヒナギクがナギのアパートの住民になってました。クソ～～～～そんな神イベントが発生していたとは、完全に見落としている。単行本を待つしかなさそうですｏｒｚ

単行本といったら生徒会役員共の６巻もそろそろ出ますね。表紙はきっとムツミですしＤＶＤもついてきますので是が非でも予約をしないと。

これから遊戯王の小説を書こうというのに遊戯王の“ゆ”の字も出ない前書きでしたが第３１話始まります。

第３１話俺は二次元にしか興味がない硬派で通っているんだ

「ねぇ小野寺君」

「ん！？珍しいですね、、ティアさん」

放課後、教室でノートに仮面ライダーディケイド～エンジェルビーツの世界編～を筆記しているとティアさんが話しかけてきた

「チョット今いい」

「別にいいぜ、、小説も一区切りしたところだ」

「良かった、、、チョットデッキ診断して欲しいんだけど」

そういってデッキケースからデッキを俺に渡してくるティアさん

「どれどれ」

カードを1枚1枚チェックしていく

「ティア～～～～」

俺がデッキ診断をしているとスバルがティアさんに泣きついてくる

その姿はまるでのび太君のようであった

「お願い、、、デュエル戦術レポートの宿題手伝ってよ～～」

「チョット、、それ明日提出日じゃないの」

「半分までは完成しているんだけど、、、そこから先がどうしてもダメで」

「まったく、、、しょうがないわね、手伝ってやるわよ」

「やった〜〜、、ティア大好き〜〜〜〜」

「チョ、、暑苦しいから抱きつくんじゃない」

「またまた、、、嫌いじゃないくせに」

人にデッキ診断を頼んでいたティアさんだが俺そっちのけでじゃれ始める

「ハッハッハッハッハ、ティアさんは相変わらずツンデレだな〜〜」

「ブチィ」

今景気よく何かが千切れる音がした

「誰が、、誰がツンデレだ〜〜〜〜〜〜」

「ギャ〜〜〜〜」

突如ティアさんが逆上し俺にパロスペシャルをきめはじめる

完全に両腕両足がきめられているため解除は不可能だ

教室内に俺の悲鳴と間接が軋む音が響く

「こら、、、そこの生徒２人」

この技に３０分間耐え切ればティアさんから煙が出るのかと思っていると突如一人の女性とが近づいてきた

「神聖な学び舎で何をしているの？」

って、近づいてきたのは、カエデ、カエデじゃないか

生徒会役員共の五十嵐カエデ

「えっと、、、あなたは」

「五十嵐カエデです、、、風紀委員の委員長です」

へ～～、この学園にも風紀委員長とかあったんだ

「そんなことより、、あなた達、教室のど真ん中で堂々とイチャイチャしないでください」

チョット待て、今なんと

「学校内での不純異性交遊は禁止です」

「テメー、、どんな目をしているんだ」

これが恋人関係に見えるのか貴様には

どう見ても捕食する側される側じゃないか

そしてティアさん、人が話しかけてるときくらいホールドを解除してください

だんだん腕の感覚がなくなってきました

「あなた、、、小野寺　誠君ね」

「あぁ、、、そうだが」

「話は聞いています、、、男女隔てなく話す軽薄な男子生徒だって」

それを世間では社交的というんじゃないのか？ナンパヤローと言われるのは心外だ

「ちょうどいいです、、今度の実技試験、、私と制裁タッグデュエルを行ってもらいます」

「チョット待て、どうしてそんな話になる」

「あなたみたいな生徒が学園の風紀を乱すんです、ここで私があなたにきつくお灸をすえれば学園の秩序が守れると言うものです」

なんか俺が女性にだらしない生徒代表みたいに聞こえるのは気のせいでしょうか？

ファンには失礼だが俺なんかより絶対吹雪さんの方が女にアレだろう

理不尽じゃ～～～～～～～

「っと、言うわけで俺とティアさんがタッグデュエルをする事となった」

レッド寮の俺に部屋には俺、真間、ティアさん、スバルがそろっていた

「っで、、負けたらどうなるんだ」

「俺とティアさんが負けたら俺だけ厳重指導、、勝てば見逃してもらえるそうだ、、、、、そしてこれがタッグデュエルの詳細だ」

カエデに渡された紙を真間に渡す

「何々、、1.フィールド・墓地・除外は共有、2.ＬＰは４００、3.ターンの流れはＡチームのプレイヤー1→Ｂチームのプレイヤー1→Ａチームのプレイヤー2→Ｂチームプレイヤー2の順番……等等」

まぁ、わかりやすく言えばＰＳＰのタッグフォースデュエルのような

なものだ

「なるほど、、、って、ティアは誠と組まなきゃいけないってわけか」

「あぁ、、、って、チョットデッキの調整をしつつどんな感じになるかみてみたいんでこのルールでタッグデュエルをして欲しいんだ」

「でも、、ティアは射撃デッキ、誠君は岩石デッキ、、、、相性は大丈夫なの？」

「いや、誠は今岩石デッキ崩しているからマシンナーズデッキか？」

「いいや、、、チョット試験的に作ったデッキがあってな、このデッキならティアさんとのデッキと相性がよさそうだ」

「、、、なぁ、、誠、新しい岩石デッキを作るのに忙しいのにそんな暇あったのか？」

「、、、、、、、、、、、」

「何故目をそらす」

「いや、、その、、、、、なんだ」

「、、、、、、息抜きと別の新デッキつくり、、、どっぷりはまってしまったわけか」

「、、、、、、、ハハハハハハハハ」

笑うしかなかった

「まぁ、、、とりあえず、どんな感じになるか確認したいから俺達とタッグデュエルをしてくれないか」

「いいよ、、、じゃあ誠君とティアのチームと私と真間君のチームでデュエルだね」

「、、、、、、、なぁ、誠、何故そんな殺気をこめた目で俺を見る？」

「いいや、、、なんでもないさ」

いかんいかん、、ついつい真間に嫉妬をしてしまった

まぁ、本心を言えばティアさんよりスバルとタッグを組みたかった

数分後

「これで止めだ～～～～」

「だ～～～クソ負けた」

俺のダイレクトアタックが通り相手チームのＬＰを０にした

「すごいね、、、誠君とティアのタッグ」

「えぇ、、、デッキ相性がいいみたいね」

デュエルフィールドを片付けつつ互いのデッキの問題点などを言い合う

こうして俺達のデッキ調整は夜遅くまで続いた

そしてタッグデュエル当日

俺とティアさんは先にデュエル場にやってきていた

「いよいよタッグデュエル当日ね」

「あぁ、、、俺、このデュエルが終わったら、、故郷の幼馴染の女の子にプロポーズをしようと思ってるんだ」

「それ、、、これから死ぬ人の台詞よ、どう考えても」

などと話していると俺達がいる場所の反対側の入り口から女子生徒

が2人デュエルフィールドにやってくる

一人はこのタッグデュエルを挑んできた五十嵐カエデ

って、もう一人はたぶんカエデさんのパートナーであろう女子生徒がいた

でも、どこかで見たことある気が

「逃げずによく来ましたね」

「ッヘ、デュエルと聞いて逃げる理由がどこにある、、どんな時でも真っ向勝負が俺のモットーだ」

「あなた、、、、これが制裁タッグデュエルだという事を忘れていませんか」

「わ〜〜〜てるって、、、、デュエルだろデュエル」

「わかってないみたいですね、、いいですか、あなたは今罰としてデュエルを受けているんですよ」

「それは違わないか、、、デュエルっていうのは罰なんかじゃない、己を知り己を高める物だぜ」

「どうやら、、、制裁タッグデュエル以前に、あなた個人にお説教が必要のようですね」

「まぁまぁ、、、おちついてカエデ」

今にも爆発しそうだった五十嵐さんをパートナーのデュエリストが止めに入る

「タッグデュエルを持ちかけたのはカエデでしょ、、言いだしっぺがデュエルほっぽって相手とケンカしだしたら元も子もないって」

「そうね、、、私が言い出したんだから、、タッグデュエルで倒してその後6時間に及ぶお説教コースが待ってますからね」

いやだな～～、俺今の年齢は16だけど精神は19だからな

年下の女性に6時間も説教されたらへこんでしまうわ

などと考えていると五十嵐さんはプンスカしながら自らのデュエルフィールドに戻っていく

「ゴメンね、私のパートナー、チョット堅物でさ」

五十嵐さんとは打って変わってパートナーはずいぶんとフレンドリーだった

「いや、、、チョット俺もからかいすぎたところもあった、、すまない、感謝する、、、俺は小野寺　誠だ、君は」

「加藤　友紀、、、、よろしくね誠君」

あぁ、、どこかで見たことあると思ったらタッグフォースで見たことあるキャラだった

でもなんでだ、本能的に“ラスボスがいる～～～～～”と叫ばなく

てはいけない気がする

「それじゃあ楽しいデュエルにしようね」

そういって軽くウインクしてカエデさんの元に戻っていく加藤さん

それと同時に地面が割れペガサス島編で見かけたデュエルフィールドが上昇してくる

「なるほど、、、このフィールドに互いのカードをセットしたりしてデュエルするわけだな」

「えぇ、、、そうです、このデュエルであなたの不純な心を打ち砕いて見せます、、クロノス先生、お願いします」

やれやれ、、これじゃあまるで俺が悪役だな

「それで～～は、、これより、小野寺　誠とティアナ・ランスターチームと五十嵐カエデと加藤　友紀チームの制裁タッグデュエルを開始

するの～～ね」

「「ワ～～～～～～～」」

開始宣言と同時に盛り上がる会場

それと何故だろう、複数の殺気のようなものを感じるんですが

ティアさんとデュエルしたときと同じ、いや、それ以上の殺気だ

まぁ、冷静に考えてみると

男：俺一人

女性：ティアさん、五十嵐さん、加藤さん

ちょっとしたハーレム状態だ

これは恨まれてもしょうがないかもしれない

しょうがないかもしれないが理不尽だ

「まぁいい、、それじゃあ皆、熱く楽しいデュエルにしようぜ」

「「デュエル！！！」」

誠&ティアチーム
ＬＰ４０００

カエデ&友紀チーム
ＬＰ４０００

「俺から行かせてもらうぜ、、ドロー、、、一撃必殺侍を攻撃表示で召喚」

俺達の後ろの方にある入り口からポンコツじみたカラクリの馬にまたがり一撃必殺侍が俺達のフィールドに向かってかけてくる

そして馬から飛び上がり俺の目の前に着地する

一撃必殺侍
レベル４風属性
戦士族
攻撃力１２００守備力１２００
効果
このカードが戦闘を行う場合、ダメージ計算の前にコイントスで裏表を当てる。当たった場合、相手モンスターを効果によって破壊する。

「さらにリバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

誠&ティアチーム
ＬＰ４０００
手札　誠４枚　ティア５枚
モンスター　一撃必殺侍
魔法トラップ　リバース×１

カエデ&友紀チーム
ＬＰ４０００
手札　カエデ５枚　友紀５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターンですね、、ドロー」

なるほど、俺→五十嵐さん→ティアさん→加藤さんの順番みたいだな

そして加藤さんのデッキはタッグフォースのままであれば戦士デッキ

五十嵐さんは何デッキだ？

「一撃必殺侍ですか、、そのカードは運任せのギャンブルカード、、、そんな運任せな戦略で私達に挑むなんて」

「なめないでほしいな、、、今日目覚ましテレビだと俺の運勢は３位だったぜ」

「１位になってから威張りなさいよ」

ナイス突込みだぜティアさん

「ターンを続けますね、、、、私はヂェミナイ・エルフを攻撃表示で召喚します」

ウネウネウネと相手フィールドに2色の粘土のようなものが螺旋を描きながら生え始める

そして形作りだし双子のエルフになった

ヂェミナイ・エルフ
レベル４地属性
魔法使い族
攻撃力１９００守備力９００
効果なし

「バトルです、、ヂェミナイエルフで一撃必殺侍に攻撃します」

「効果を気にせず攻撃してきたか」

「眼中にありません、、あなたみたいな不純な人に運はめぐってきませんから」

「だったら、、無理にでも引き寄せるまでだ、、、リバース発動、、モンスターＢＯＸ」

俺の一撃必殺侍が双子のエルフに襲われる前に突如出現した穴つきの箱の中に退避する

モンスターＢＯＸ
永続トラップ
相手モンスターが攻撃をする度に、コイントスで裏表を当てる。当たりの場合、攻撃モンスターの攻撃力は０になる。自分のスタンバイフェイズ毎に５００ライフポイントを払う。払わなければ、このカードを破壊する。

「コイントスカードの２連コンボ」

「さて、、まずはモンスターＢＯＸのコイントスをさせていただく、、俺が狙うのは表だ」

立体映像のコインが宙をまう

そして出た目は表

「そして一撃必殺侍の効果を発動、、、成功しないでくれよ、、俺が狙うは表だ」

再び立体映像のコインが宙をまう

そして出た目は裏

「ヨッシ、一撃必殺侍の効果は発動されない、、そのままバトル続

行だ」

ジェミナイエルフ
攻撃力１９００→０

ジェミナイエルフがモンスターＢＯＸに手を突っ込む

そして次の瞬間別の穴から一撃必殺が飛び出しジェミナイエルフの隙だらけな背中に槍を突き刺し破壊する

ジェミネイエルフ　攻撃力０＜一撃必殺侍　攻撃力１２００

カエデ&友紀チーム
ＬＰ４０００－１２００＝２８００

「ック、、私は手札を1枚伏せてターンエンドです」

誠&ティアチーム
ＬＰ４０００
手札　誠４枚　ティア５枚
モンスター　一撃必殺
魔法トラップ　モンスターＢＯＸ

カエデ&友紀チーム
ＬＰ２８００
手札　カエデ４枚　友紀５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、スタンバイフェイズにモンスターＢＯＸの維持コスト５００を払うわ」

誠&ティアチーム
ＬＰ
４０００－５００＝３５００

（相手フィールドにモンスターは存在しない、、一気にたたきかけたいけど手札にアタッカー系のカードはない）

「だったら、、一撃必殺侍で相手チームに直接攻撃」

「リバース発動、、、、正統なる血統」

正統なる血統
永続トラップ
自分の墓地に存在する通常モンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターがフィールド上に存在しなくなった時、このカードを破壊する。

「その効果により墓地に眠るヂェミナイエルフを攻撃表示で特殊召喚します」

正統なる血統のカードの絵柄から双子のエルフが出現する

「戦闘は巻き返されるか、、、、一撃必殺侍の攻撃は中断するわ」

（自ら攻撃していって効果破壊できるかもしれないけど、、追撃ができない以上リスクを負う必要はない）

「メイン2に私はルーレット・ボマーを守備表示で召喚するわ」

地面が割れてリフトのようなものに乗せられたルーレットボマーが俺達のフィールドにリフトアップしてくる

ルーレットボマー

レベル４光属性
機械族
攻撃力１０００守備力２０００
効果
自分のメインフェイズに2回サイコロを振る事ができる。出た目を１つ選択し、その数と同じレベルのフィールド上表側表示モンスター1体を破壊する。

「そしてリバースカードを1枚セットしてターンエンドよ」

誠&ティアチーム
ＬＰ３５００
手札　誠４枚　ティア４枚
モンスター　一撃必殺侍、ルーレットボマー
魔法トラップ　モンスターＢＯＸ、リバース×１

カエデ&友紀チーム
ＬＰ２８００
手札　カエデ４枚　友紀５枚
モンスター　ジェミナイエルフ
魔法トラップ　正統なる血族

「私のターン、、私は手札の永続、魔法連合軍を発動するね」

向こうチームの後ろ側に戦士や魔法使いの格好をしたギャラリーが出現する

連合軍
永続魔法
自分フィールド上に表側表示で存在する戦士族・魔法使い族モンスター１体につき、自分フィールド上の全ての戦士族モンスターの攻撃力は２００ポイントアップする。

「そして手札の鉄の騎士ギア・フリードを召喚するね」

後ろのギャラリーの中から一つの影が飛び上がり相手フィールドに着地する

影の正体はギア・フリードだった

鉄の騎士ギア・フリード
レベル４地属性
戦士族
攻撃力１８００守備力１６００
効果

このカードに装備カードが装備された時、その装備カードを破壊する。

「そして連合軍の効果、、私のフィールドには魔法使い族モンスターが1体、戦士族モンスターが1体、、、よってギア・フリードの攻撃力が４００ポイント上昇するね」

鉄の騎士ギア・フリード
攻撃力１８００→２２００

「どうですか小野寺君、、これこそ下心など入る余地のない、鋼の結束、絆の力です」

なるほど、それが言いたくて五十嵐さんは加藤さんとタッグを組み自らは魔法使い族デッキを使っているわけか

下心など邪魔、友情の結束がすばらしいと

「このままバトルに入るとモンスターＢＯＸが怖いから速攻魔法、、サイクロンを発動」

フィールドに小さめな竜巻が発生し俺達のモンスターＢＯＸのカードをそのままかっさらっていった

サイクロン
速攻魔法
フィールド上の魔法または罠カード1枚を破壊する。

クソ、それなりの鉄壁の布陣が崩されたか
後はティアさんの運に任せる

「ギア・フリードでルーレットボマーに攻撃」

鋼の鎧を身にまとった戦士がティアさんのルーレットボマーをその手刀で真っ二つに切り裂く

鉄の騎士ギア・フリード　攻撃力２２００＞ルーレットボマー　守備力２０００

「さて、、チョット怖いけど、、ヂェミナイ・エルフで一撃必殺侍に攻撃」

「一撃必殺侍の効果を発動、、私は表を選択するわ」

立体映像のコインが宙をまう
その結果は裏
「効果は発動しないみたいね、、、ギェミナイ・エルフの攻撃は通る」
「えぇ、、リバースの発動もないわ」
ギェミナイエルフ　攻撃力１９００＞一撃必殺侍　攻撃力１２００
誠&ティアチーム
ＬＰ３５００－７００＝２８００
ＬＰがならんだか
だがボードアドバンテージはモンスターが2体残っている分向こうが上か
「私はメイン2でリバースを1枚伏せてターンエンドだよ」

誠&ティアチーム
ＬＰ２８００
手札　誠４枚　ティア４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

カエデ&友紀チーム
ＬＰ２８００
手札　カエデ４枚　友紀２枚
モンスター　ジェミナイエルフ、鉄の騎士ギア・フリード
魔法トラップ　正統なる血族、連合軍、リバース×１

「俺のターン」

ようし、いいカードだ

「永続魔法セカンド・チャンスを発動」

セカンド・チャンス
永続魔法
このカードがフィールド上に存在する限り、自分がコイントスを行う効果を１ターンに１度だけ無効にし、コイントスをやり直す事ができる。

「そして地雷蜘蛛を召喚する」

ボコボコボコと地面がもりあがり大きな穴が開き巨大な蜘蛛が姿を現す

地雷蜘蛛
レベル４地属性
昆虫族
攻撃力２２００守備力１００
このカードの攻撃宣言時、コイントスで裏表を当てる。当たりの場合はそのまま攻撃する。ハズレの場合は自分のライフポイントを半分失い攻撃する。

「バトル、、、地雷蜘蛛でヂェミナイ・エルフに攻撃」

口から蜘蛛の糸でできたネットを発射しヂェミナイ・エルフを捕獲しずるずると引き寄せ始める

「そして、、地雷蜘蛛の効果、、コイントスを行い外したらＬＰを半分失う、、俺は裏を選択する」

本日何度目かのコイントス

結果は表

「ここでセカンド・チャンスの効果を発動させる、、もう１度コイントスだ」

裏で着地した立体映像のコインが再び宙をまう

結果は裏だ

「うっし、、ＬＰを払わずにバトル、、ヂェミナイ・エルフを粉砕だ」

自分の目の前までヂェミナイ・エルフを手繰り寄せ鎌状の前足でその体を貫き破壊する

地雷蜘蛛　攻撃力２２００＞ヂェミナイ・エルフ　攻撃力１９００

カエデ&友紀チーム
ＬＰ２８００－３００＝２５００

「そして魔法使い族モンスターの数が減った事でギア・フリードの攻撃力がダウンするぜ」

鉄の騎士ギア・フリード

攻撃力２２００→２０００

「そしてメイン2にリバースを1枚伏せてターンエンドだ」

誠&ティアチーム
ＬＰ２８００
手札　誠2枚　ティア4枚
モンスター　地雷蜘蛛
魔法トラップ　セカンドチャンス、リバース×２

カエデ&友紀チーム
ＬＰ２５００
手札　カエデ4枚　友紀3枚
モンスター　鉄の騎士ギア・フリード
魔法トラップ　連合軍、リバース×１

「私のターン、、私は連弾の魔術師を通常召喚します」

どこからともなく水晶球が数個現れ宙を舞いその中心にローブを身にまとった魔法使いが出現する

連弾の魔術師
レベル４闇属性
魔法使い族
攻撃力１６００守備力１２００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分が通常魔法を発動する度に、相手ライフに４００ポイントダメージを与える。

「自分フィールドの魔法使い族モンスターが増えたことによりギア・フリードの攻撃力が再び上昇する」

鉄の騎士ギア・フリード
攻撃力２０００→２２００

「そしてバトル、、ギア・フリードで地雷蜘蛛に攻撃」

鋼鉄の騎士とまがまがしい蜘蛛がフィールド上で取っ組み合う

そして爆発し互いの身が消滅する

鉄の騎士ギア・フリード　攻撃力２２００＝地雷蜘蛛　攻撃力２２００

「そして連弾の魔術師でダイレクトアタック」

水晶が３つ俺の周りに集まりそこから電流が走り俺の体を蝕んでいく

「ぬお～～～～～」

連弾の魔術師　攻撃力１６００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

誠＆ティアチーム
ＬＰ２８００－１６００＝１２００

今のはまずったか

ＬＰがかなり減らされた

「私はこれでターンエンドです」

誠&ティアチーム
ＬＰ１２００
手札　誠２枚　ティア４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　セカンドチャンス、リバース×２

カエデ&友紀チーム
ＬＰ２５００
手札　カエデ４枚　友紀３枚
モンスター　鉄の騎士ギア・フリード、連弾の魔術師
魔法トラップ　連合軍、リバース×１

「私のターン、、ツインバレル・ドラゴンを召喚」

空から拳銃がアームに釣られ降下しフィールド上で変形しツインバレル・ドラゴンの形になる

ツインバレル・ドラゴン
闇属性レベル４
機械族
攻撃力１７００守備力２００
効果
このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、相手フィー

ルド上に存在するカード1枚を選択して発動する。コイントスを2回行い、2回とも表だった場合、選択したカードを破壊する。

「ツインバレル・ドラゴンの効果を発動、、コイントスを2回行い2枚とも表立った場合相手フィールドの指定したカードを破壊する、、、私はギア・フリードを選択」

ロックオンマークがギア・フリードの心臓部分に発生する

「コイントスを行う」

結果は、表と裏

「永続魔法セカンド・チャンスの効果を発動、、、今行ったコイントスを無効にしもう1度コイントスを行う」

再びまう2枚のコイン

結果は表と表

的中率がまるで明日香の幼馴染のギャンブルデュエリストみたいだ

名前が全然出てこないが、ボーイは芸名だったしな

「ツインバレル・ドラゴンの効果発動成功、、ギア・フリードを破壊する」

ツインバレル・ドラゴンの頭から銃弾が放たれギア・フリードを狙

撃し破壊する

「まさか、、小野寺君のカードがランスターさんを助けるとは」

「っへ、、タッグデュエルのコンビネーションはそっちの専売特許じゃねーぜ」

言い忘れていたが俺のデッキはギャンブルデッキ

ティアさんの射撃デッキとは結構馬が合うカードが多い

まぁ向こうも半分ギャンブルデッキのようなものだしな

「そしてツインバレル・ドラゴンで連弾の魔術師を攻撃」

バシュバシュとツインバレル・ドラゴンから銃弾が放たれる

「リバース発動、、、攻撃の無力化」

攻撃力の無力化
カウンタートラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。相手モンスター1体の攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

時空の渦のようなものが発生し銃弾がその中に飲み込まれていった

「バトルを強制終了しメイン2ね、、私はリバースを1枚追加してターンエンドよ」

誠&ティアチーム
ＬＰ１２００
手札　誠2枚　ティア4枚
モンスター　ツインバレル・ドラゴン
魔法トラップ　セカンドチャンス、リバース×3

カエデ&友紀チーム
ＬＰ２５００
手札　カエデ4枚　友紀3枚
モンスター　連弾の魔術師
魔法トラップ　連合軍

「私のターン、、カップ・オブ・エースを発動するね」

カップ・オブ・エース
通常魔法
コイントスを1回行い、表が出た場合は自分のデッキからカードを2枚ドローし、裏が出た場合は相手はデッキからカードを2枚ドローする。

あのカードか、俺のデッキにも入ってるけどまだひかないな～～

「コイントスを行うよ」

コインが宙をまう、結果は表

「効果でデッキからカードを2枚ドロ、そして連弾の魔術師の効果でアイテプレイヤーに４００ポイントのダメージを与えるよ」

連弾の魔術師の周りの水晶から光の矢が放たれティアさんの体を貫く

「ッキャ」

誠&ティアチーム
ＬＰ１２００－４００＝８００

まずい、ＬＰが１０００をきってしまった

「まだ通常召喚はしてなかったね、、手札のコマンド・ナイトを攻撃表示で召喚」

相手フィールドに火柱が上がりその中から真紅の鎧を身にまとった女司令官が姿を現す

コマンド・ナイト
レベル４火属性
戦士族
攻撃力１２００守備力１９００
効果
自分のフィールド上に他のモンスターが存在する限り、相手はこのカードを攻撃対象に選択できない。また、このカードがフィールド上に存在する限り、自分の戦士族モンスターの攻撃力は４００ポイントアップする。

「コマンドナイトは自身の効果と連合軍の効果で攻撃力が上昇するよ」

コマンド・ナイト
攻撃力１２００→２０００

「そしてバトル、、コマンド・ナイトでツインバレル・ドラゴンに攻撃」

コマンド・ナイトが剣を抜くとその刀身が炎につつまれる

そしてその炎がブーメランのようにフィールドを舞いツインバレル・ドラゴンの体をスライスしバラバラに切り刻んでいった

コマンド・ナイト　攻撃力２０００＞ツインバレル・ドラゴン　攻撃力１７００

誠＆ティアチーム
ＬＰ８００－３００＝５００

まずい、ＬＰが風前の灯に

「これで終わりだよ、、連弾の魔術師でダイレクトアタック」

連弾の魔術師の水晶玉が光を放ち始める

まずい、、この攻撃が通ったら

「させないわ、、リバース発動、、リビングデットの呼び声」

リビングデットの呼び声
永続トラップ
自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「その効果により墓地に眠るツインバレル・ドラゴンを特殊召喚するわ」

地面を突き破りツインバレル・ドラゴンがフィールドに復活する

「そしてツインバレル・ドラゴンの効果発動、、今度の対象はコマンド・ナイト」

ようし、、俺のリバースをうまく利用してくれたか

「コインよ、、舞って」

コイントスの結果は、裏×2

「セカンド・チャンスの効果でもう1度コイントスを行う」

再びコインが舞うが結果は表と裏

「そう何度もいい目は出ないか」

「だが、、追撃は止められた、、上出来だって」

「そうね、、、さぁ、連弾の魔術師の攻撃はどうするの?」

「とりあえずバトルは中断、、、メイン2でリバースを2枚伏せてターンエンド」

誠&ティアチーム
ＬＰ５００
手札　誠２枚　ティア４枚
モンスター　ツインバレル・ドラゴン
魔法トラップ　セカンドチャンス、リビングデッドの呼び声、リバース×２

カエデ&友紀チーム
ＬＰ２５００
手札　カエデ４枚　友紀２枚
モンスター　連弾の魔術師、コマンド・ナイト
魔法トラップ　連合軍、リバース×２

「俺のターン、、ドロー」

ここいらで一発大きなカードを呼ぶとしますか

「ツインバレル・ドラゴンを生け贄にささげてマキシマム・シックスを召喚」

ツインバレル・ドラゴンが渦につつまれて消滅する

そして地面から腕が６本生えてきてそれらの真ん中から６本腕のマッチョなモンスターが姿を現す

マキシマム・シックス
レベル６地属性
戦士族
攻撃力１９００守備力１６００
効果
このカードが生け贄召喚に成功した時、サイコロを１回振る。このカードの攻撃力は、フィールド上に表側表示で存在する限り、出た目×２００ポイントアップする。

「マキシマム・シックスの効果、、、召喚成功時ダイスをふり出た目×２００ポイント攻撃力が上昇する」

巨大な立体映像のダイスが俺達の目の前に転がり始める

そして出てきた目は５

「うおっし、、、マキシマム・シックスの攻撃力は１０００ポイント上昇する」

マキシマム・シックスの６本の腕の中の５本がドグンと脈打つと同時に一回り大きくなる

マキシマム・シックス
攻撃力１９００→２９００

「バトルだ、、マキシマム・シックスで連弾の魔術師に攻撃」

マキシマム・シックスが5本の腕を折り曲げまるで巨大な拳骨のような形になり連弾の魔術師に向かって飛んでいく

「輝くゼウスの名のもとに、全てを原始に打ち砕く、ビックバン・パ～～～～ンチ！！！」

巨大な拳が連弾の魔術師の体を打ち砕き破壊する

マキシマム・シックス　攻撃力２９００＞連弾の魔術師　攻撃力１６００

カエデ&友紀チーム
ＬＰ２５００－１３００＝１２００

ようし、ＬＰを一気に削ってやったぜ

それとコマンド・ナイトの攻撃力も何気にダウンだ

コマンド・ナイト
攻撃力２０００↓１８００

「とりあえずこれでターンエンドだ」

誠&ティアチーム
ＬＰ５００
手札　誠２枚　ティア４枚
モンスター　マキシマム・シックス
魔法トラップ　セカンドチャンス、リビングデッドの呼び声、リバース×２

カエデ&友紀チーム
ＬＰ１２００
手札　カエデ４枚　友紀２枚
モンスター　コマンド・ナイト
魔法トラップ　連合軍、リバース×２

「私のターン、、友紀さん、あなたのカードを借ります、リバース発動、カップ・オブ・エース」

手札増強カードを連続使用か

強欲使えない今３積みしてもいいな、あのカード

便乗があればどの道手札増強につながる

よし、真岩石デッキの為に覚えておこう

「コイントス、、、そして出た目は表、よって私はカードを２枚ド

ローします」

「手札が増えたな、、、リバース発動、、ギャンブル」

ギャンブル
通常トラップ
相手の手札が6枚以上、自分の手札が2枚以下の時に発動可能。コイントスで裏表を当てる。当たりは自分の手札が5枚になるようにドローする。ハズレは次の自分のターンをスキップする。

「俺もコイントスで手札増強させてもらうぜ、、俺が選ぶのは裏だ」

コインが宙を舞い出た結果は表

「ここで外したら相方に申し訳がない、、、セカンドチャンスの効果を発動」

表でとまったコインが再び舞う

結果は……裏

「ようし、、デッキからカードを3枚ドローする」

危ない危ない

正直ここで外したら敗北していたかもしれなかったぜ

さすがは目覚ましテレビの占い3位の運だぜ

「マキシマム・シックスは少々厄介なカードですね、私はサイレント・マジシャン～レベル４～を守備表示で召喚します」

サイレント・マジシャン
レベル４光属性
魔法使い族
攻撃力１０００守備力１０００
効果
相手がカードをドローする度に、このカードに魔力カウンターを１つ置く（最大５つまで）。このカードに乗っている魔力カウンター１つにつき、このカードの攻撃力は５００ポイントアップする。このカードに乗っている魔力カウンターが５つになった次の自分のターンのスタンバイフェイズ時、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送る事で、自分の手札またはデッキからサイレント・マジシャン　ＬＶ８を１体を特殊召喚する。

「そして私は手札断札を発動させます」

手札断殺
速攻魔法
お互いのプレイヤーは手札を2枚墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドローする。

「私は手札を2枚墓地に送りデッキからカードを2枚ドロー」

「俺もそうさせてもらうぜ」

「そして、アイテプレイヤーがカードをドローしたことによりサイレント・マジシャンに魔力カウンターが1つ乗り攻撃力が上昇します」

サイレント・マジシャン～レベル4～
攻撃力1000→1500

「さらにリバースカードを3枚伏せてターンエンドです」

魔法トラップゾーンがフルセットか、罠かそれともブラフか

誠&ティアチーム
LP500
手札　誠5枚　ティア4枚
モンスター　マキシマム・シックス
魔法トラップ　セカンドチャンス、リビングデッドの呼び声、リバース×2

カエデ&友紀チーム
LP1200

手札　カエデ2枚　友紀2枚
モンスター　コマンド・ナイトサイレント・マジシャ～ンレベル４～
魔法トラップ　連合軍、リバース×４

「私のターン、、ドロー」

「そしてドローしたことによりサイレント・マジシャンにカウンターが一つ乗ります」

サイレント・マジシャン
攻撃力１５００→２０００

「メインフェイズに私はＸヘッド・キャノンを召喚」

鉄球が突如出現しその鉄球の上にロボットの上半身がクレーン車で取り付けられＸヘッド・キャノンが完成する

Ｘヘッド・キャノン
レベル４光属性
機械族
攻撃力１８００守備力１５００
効果なし

「Xヘッド、つまりユニオンする気ですね」

いいえ五十嵐さん、ティアさんのXヘッドはレベル4のアタッカーが少ない為入れたほぼバニラカードです

最初はユニオンも考えたんですがさすがに回りきれないと思いYとZは入れてません

「バトルよ、、マキシマム・シックスでサイレント・マジシャンを」

「バトルフェイズに入る前にリバース発動、、威嚇する咆哮」

威嚇する咆哮
通常トラップ
このターン相手は攻撃宣言をする事ができない。

「この効果により相手はこのターンバトルを行えません」

「おしいわね、、私はリバースカードを1枚追加してターンエンドよ」

誠&ティアチーム
ＬＰ５００
手札　誠５枚　ティア３枚
モンスター　マキシマム・シックス、Ｘヘッド・キャノン
魔法トラップ　セカンドチャンス、リビングデッドの呼び声、リバース×３

カエデ&友紀チーム
ＬＰ１２００
手札　カエデ２枚　友紀２枚
モンスター　コマンド・ナイトサイレント・マジシャ～ンレベル４～
魔法トラップ　連合軍、リバース×３

「私のターン、、コマンド・ナイトを生け贄にしてサイレント・ソードマン～レベル５～を召喚」

サイレント・マジシャンがその杖を振り上げるとコマンド・ナイトが激しい光につつまれその光の中から巨大な剣をかかえた剣士が登場する

サイレント・ソードマン～レベル５～
レベル５地属性
戦士族

攻撃力２３００守備力１０００
効果
このカードは相手の魔法カードの効果を受けない。このカードが直接攻撃によって相手ライフに戦闘ダメージを与えた場合、次の自分のターンのスタンバイフェイズ時、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送る事で、自分の手札またはデッキからサイレント・ソードマン～ＬＶ７～１体を特殊召喚する。

「さらに手札のレベルアップ！を２枚発動」

ゲ～～～それってまさか

レベルアップ！
通常魔法
フィールド上に表側表示で存在する「ＬＶ」を持つモンスター１体を墓地へ送り発動する。そのカードに記されているモンスターを、召喚条件を無視して手札またはデッキから特殊召喚する。

「サイレント・マジシャンをレベル４からレベル８に、サイレント・ソードマンをレベル５からレベル７へ成長させるよ」

２体のサイレントモンスターが激しい光につつまれる

そして光が晴れるとそこには最高レベルにまで成長した２体のサイレントモンスターが立っていた

サイレント・マジシャン～レベル８～
レベル８光属性
魔法使い族
攻撃力３８００守備力１０００
効果
このカードは通常召喚できない。サイレント・マジシャン～ＬＶ４～の効果でのみ特殊召喚する事ができる。このカードは相手の魔法カードの効果を受けない。

サイレント・ソードマン～レベル７～
レベル７光属性
戦士族
攻撃力２８００守備力１０００
効果
このカードは通常召喚できない。サイレント・ソードマン～ＬＶ５～の効果でのみ特殊召喚する事ができる。このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、フィールド上の魔法カードの効果を無効にする。

なんてフィールドだ、サイレントモンスターがそろいぶみってか

「バトル、、サイレント・マジシャン～レベル８～でＸヘッド・キャノンに攻撃」

サイレント・マジシャンの杖から光の矢が放たれＸヘッド・キャノンに向かって飛んでくる

「リバースカードオープン、、、援護射撃」

キタ～～～、ティアさんお得意のシューティングコンボ

援護射撃
通常トラップ
相手モンスターが自分フィールド上モンスターを攻撃する場合、ダメージステップ時に発動する事ができる。攻撃を受けた自分モンスターの攻撃力は、自分フィールド上に表側表示で存在する他のモンスター１体の攻撃力分アップする。

これでマキシマム・シックスの攻撃力がＸヘッド・キャノンの攻撃力に加算され攻撃力は４７００

返り討ちで俺達の勝ちだ

「永続トラップ、、王宮のお触れを発動」

ゲ～～～アレは俺が苦手とするカードの１つ

王宮のお触れ
永続トラップ

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカード以外のフィールド上の罠カードの効果を無効にする。

「このカードがある限り互いのプレイヤーはトラップが使えなくなるよ」

まずい、このままでは

「王宮のお触れにチェーンしてトラップ発動、和睦の使者」

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは0になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

うまい、お触れにチェーンして使ったから効果は殺されず成立される

いつもお世話になっている修道女達が自らの杖を俺達のフィールドに差込結界のようなものをはる

そしてその結界が光の槍を打ち消す

「決まらなかったか～～～、私はこれでターンエンド」

誠&ティアチーム
ＬＰ５００
手札　誠５枚　ティア３枚
モンスター　マキシマム・シックス、Ｘヘッド・キャノン
魔法トラップ　セカンドチャンス、リビングデッドの呼び声、リバース×１

カエデ&友紀チーム
ＬＰ１２００
手札　カエデ２枚　友紀０枚
モンスター　サイレント・マジシャ～ンレベル８～、サイレント・ソードマン～レベル７～
魔法トラップ　連合軍、王宮のお触れ

「俺のターン」

まずい、これはまずい

たった数ターンでここまで状況をひっくり返されるなんて聞いてないぜ

せっかくギャンブルで手札を増強したのにこれじゃあ意味がない

「俺はモンスターを１体裏守備でセットしマキシマム・シックスとＸヘッド・キャノンを守備表示に変更しターンエンドだ」

誠&ティアチーム
ＬＰ５００
手札　誠５枚　ティア３枚
モンスター　マキシマム・シックス、Ｘヘッド・キャノン、裏守備×１
魔法トラップ　セカンドチャンス、リビングデッドの呼び声、リバース×１

カエデ&友紀チーム
ＬＰ１２００
手札　カエデ２枚　友紀０枚
モンスター　サイレント・マジシャ～ンレベル８～、サイレント・ソードマン～レベル７～
魔法トラップ　連合軍、王宮のお触れ

「私のターンですね、、モンスターが来ない、、だったらサイレント・ソードマン～レベル７～でマキシマム・シックスを、サイレント・マジシャン～レベル８～でＸヘッド・キャノンに攻撃です」

クソ、、この状況じゃあリバースも発動できやしない

なぶり殺しにされてしまう

サイレント・ソードマン～レベル7～　攻撃力2800＞マキシマム・シックス　守備力1600

サイレント・マジシャン～レベル8～　攻撃力3800＞Xヘッド・キャノン　守備力1500

「私はこれでターンエンドです」

誠&ティアチーム
LP500
手札　誠5枚　ティア3枚
モンスター　裏守備×1
魔法トラップ　セカンドチャンス、リビングデッドの呼び声、リバース×1

カエデ&友紀チーム
LP1200
手札　カエデ2枚　友紀0枚
モンスター　サイレント・マジシャ～ンレベル8～、サイレント・ソードマン～レベル7～
魔法トラップ　連合軍、王宮のお触れ

「私のターン」

頼むティアさん

スナイプストーカーを引いてくれ

「、、、、、私は、モンスターを裏守備でセットしてターンエンドよ」

誠&ティアチーム
ＬＰ５００
手札　誠５枚　ティア３枚
モンスター　裏守備×２
魔法トラップ　セカンドチャンス、リビングデッドの呼び声、リバース×１

カエデ&友紀チーム
ＬＰ１２００
手札　カエデ２枚　友紀０枚
モンスター　サイレント・マジシャ～ンレベル８～、サイレント・ソードマン～レベル７～

魔法トラップ　連合軍、王宮のお触れ

「私のターン、、、残念モンスターカードをドローできなかったか、、サイレントモンスターズで相手フィールドの裏守備モンスターに攻撃！！！」

無情にも裏守備モンスターがサイレントモンスターズに破壊されてゆく

リバース効果に戦闘破壊効果？

そんなカードは存在しませんよ

俺達の裏守備モンスターはきまぐれの女神（俺がセットしたモンスター）にマシンナーズ・スナイパー（ティアさんがセットしたモンスター）

きまぐれの女神
レベル３光属性
天使族
攻撃力９５０守備力７００
効果
投げたコインの裏表を当てる。当たりは１ターンの間このカードの

攻撃力が2倍、ハズレは1ターンの間このカードの攻撃力が半分になる。

マシンナーズ・スナイパー
レベル４地属性
機械族
攻撃力１８００守備力８００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、マシンナーズ・スナイパー以外のマシンナーズと名のついたモンスターを攻撃する事ができない。

サイレント・ソードマン～レベル７～　攻撃力３２００＞きまぐれの女神　守備力７００

サイレント・マジシャン～レベル８～　攻撃力３５００＞マシンナーズ・スナイパー　守備力８００

ハハハハ、見ろ俺達のモンスターがゴミのようだ

自分で言っておいてなんだがむなしい

「ターンエンドだよ」

誠&ティアチーム
ＬＰ５００
手札　誠５枚　ティア３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　セカンドチャンス、リビングデッドの呼び声、リバース×１

カエデ&友紀チーム
ＬＰ１２００
手札　カエデ２枚　友紀１枚
モンスター　サイレント・マジシャ～ンレベル８～、サイレント・ソードマン～レベル７～
魔法トラップ　連合軍、王宮のお触れ

「俺のターン」

「もうあきらめたらどうですか」

俺のスタンバイフェイズの前に相手の心理フェイズのようだ

「あきらめる、、何でだ」

「このフィールドを見てまだ闘う気なのですか？」

確かに、サイレントロック状態のこの状況

非常に厳しい状況だ、並みのデュエリストだったらその場でサレンダーものだ

正直大号泣したいよ俺だって

「これまで運に助けられて健闘してましたがその運もここまでです、この絶望的状況をひっくり返す事などできますか」

「あぁ、、やってやるよ、、、、教えてやるぜ、俺は悪運だけは強いって事を、俺は手札の時の魔術師を召喚する」

俺のフィールドに壁掛け時計出現しパカっと開くと中から時計に手足が生えたコミカルな魔法使いが出現する

時の魔術師
レベル２光属性
魔法使い族
攻撃力５００守備力４００

効果
1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に発動する事ができる。
コイントスを1回行い、裏表を当てる。当たった場合、相手フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。ハズレの場合、自分フィールド上に存在するモンスターを全て破壊し、自分は破壊したモンスターの攻撃力を合計した数値の半分のダメージを受ける。

「時の魔術師の効果発動、、、俺が選択するのは表」

きっとこれが最後のコイントスとなるだろう

「頼んだぜ、、コイントス！！！！」

（小野寺君はギャンブルデッキといいつつもいつも保険のあるギャンブルしかしてなかった、、一撃必殺侍とモンスターＢＯＸのコンボ、セカンド・チャンスがある状態での地雷蜘蛛にギャンブル、、、、でも今サイレント・ソードマンの効果によってセカンド・チャンスが使えないこの状況、、、外せば時の魔術師の効果で私達が敗北してしまう、、、、、最初で最後の大博打ね）

（無理です、、、あなたのような不純な人に運など）

キ～～～ンと金属音が会場に響き渡る

そしてそのコインの目は表

「ウオッシャ～～～、、時の魔術師の効果発動、、、相手フィールドのモンスターを全て破壊する」

“タイムマジック”っと甲高い声と共に時の魔術師がその杖を天に掲げる

そしてその杖の針が激しく回転し始める

すると相手フィールドのサイレントモンスターズがどんどん年老いていき最終的には2人が立てていた場所に十字架の墓がたち、モンスターが消滅する

「そんな、、あの状況をたった1枚のカードで翻すなんて」

「まだ終わってねーぜ、、俺は融合を発動させる」

融合
通常魔法
手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

「場の時の魔術師と手札のベビードラゴンを融合、、現れろ、サウザンド・ドラゴン」

俺の場にドラゴンの赤ん坊が出現し時の魔術師がその杖をドラゴン

の背中に差し込む
そして杖の針が激しく回転し始めドラゴンの赤ん坊がすくすくと大きく成長していく

サウザンド・ドラゴン
レベル７風属性
ドラゴン族
攻撃力２４００守備力２０００
融合　時の魔術師＋ベビードラゴン
効果なし

「貴様の場はがら空きだ、、サウザンド・ドラゴンで相手プレイヤーに直接攻撃、、サウザンド・ノーズ・ブレス」
サウザンド・ドラゴンの鼻から暴風に近い鼻息が放たれる
そしてその旋風がカエデさんと加藤さんのフィールドで大暴れする

「「キャ～～～～～」」

サウザンド・ドラゴン　攻撃力２４００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

カエデ&友紀チーム
ＬＰ１２００－２４００＝－１２００

「勝者、、、小野寺&ティアチーム」

「「ウオ～～～～～～～～」」

会場が興奮と歓声につつまれる

「そんな、、、私が負けた」

「ハハハ、、まさかあそこで時の魔術師の効果を決めるとはね」

鼻息に吹き飛ばされると言う人生で1，2位を争うトラウマ攻撃をくらい尻餅をついた2人であったがゆっくりと立ち上がる

「言っただろ、、悪運は強いって」

健闘をたたえ俺は2人に近づき手を差し出す

「、、っぅ」

俺のてを見て気まずそうな顔をする五十嵐さん

ヤベ！！原作どおりならこの人男性恐怖症だった

どうする、出した手を引っ込めるのは非常にかっこ悪い

「カエデさん、、、いいデュエルだったわ」

「いえ、、こちらこそ」

困惑する五十嵐さんを見て察したのかティアサンが俺の変わりに手を差し出す

そして五十嵐さんはその手を握り返した

「誠君、、、すごく楽しいデュエルだったよ」

俺の宙ぶらりん状態だった手を加藤さんが握り互いの健闘をたたえあう形になった

Wシェイクハンド成立と同時に会場内に拍手があふれ出す

「小野寺君、、、今回は目をつむりますが、もし何か問題を起こしたら覚悟してくださいね」

「あぁ、、大丈夫だ、俺現実の女に興味はない、、、二次元の女性しか愛せないから」

「……」

俺の台詞と同時にあんなに騒がしかった会場がピタっと凍りつく

そして聞き慣れた真間の大爆笑する声だけが会場にこだまする

「あんたは、、、、あんたはどうして、そうやってムードを台無しにするのよ～～～」

「ギャ～～～～、、タワーブリッジこととアルゼンチンバックブリーカー」

がっちりと俺のアゴと脚がクラッチされ背骨が悲鳴を上げる

「そうやって、、、すぐ人の前でイチャイチャと、、不純です、不純異性交遊です」

「この光景に下心があると思っているのか、、、あるのは俺の生命の危機だけだ～～～」

「ハッハッハッハッハ、仲がいいねお二人さん」

加藤さんは加藤さんでムカムカみたいに豪快に笑い出す

「ゴメン、、普段だったらその笑顔は好きかもしれないが俺が死ぬかもしれない瀬戸際で出されたら悪魔の笑顔に見えて仕方ないわ」

翌日

俺はリア充でもないのに大衆の目の前で女の子とイチャイチャする

ゲスヤローと校内中に話が広がった

何度目の台詞かわからんが叫ばせてくれ

理不尽じゃ～～～～～～～～～

第３１話俺は二次元にしか興味がない硬派で通っているんだ（後書き）

何故かは知りませんが誠とカエデのやり取りが少し荒々しくなっている気がします。まぁ誠は元々委員長系の嫌いと言う裏設定がありますので。

後今回のデュエルは久しぶりにオリカ抜きのＯＣＧ化されてるカード限定で書いてみました。本当強欲な壷ってチートだったと思います。

「作者ゴルゥア～～～」

「うお、、誠どうした後書きコーナーにやってきて」

「何でティアさんの活躍ばっかりでスバルの出番を増やさん」

「バカヤロ～～～、俺だってスバルのデュエルシーンとか書きたいんだよ」

「じゃあ書いてくれよ、、ティアさんのデュエルが３回、スバルのデュエルが１回、、、これじゃあ満足できねーよ」

「だが考えてみろ誠、、、スバルが何デッキを使うのか？」

「アンティークギアをバンバン召喚するアンティークビートデッキだよな」

「ＬＰ４０００の世界であのデッキは凶器なんだよ」

「確かに、、、下手すればアンティークギア・ゴーレムで2回殴れば終わってしまうかもしれない、、、、だがそれでもチョット強引に俺とスバルのタッグデュエルにしてもよかったじゃないか」

「誠よ、、、実はお前とスバルのやり取りが少ないのには理由があるんだ」

「なんだ」

「誠：ボケキャラ、スバル：ボケキャラ（突っ込みスキルなし）、、これじゃあ収拾がつかないじゃないか」

「ウソダドンドコド～～～（○Ｍ○）」

「あきらめろ、、、おとなしくボケてティアに突っ込んでもらうしかないんだ」

「こうなったら山籠りして突っ込みスキルを開眼してくれる」

「やめろ、、山に籠もってもドローを極めるだけで突っ込みスキルは身につかない」

長々と後書きを書いてしまいスイマセン。次回もよろしくお願いします。

バレンタイン番外編このイベントのおかげでバンアレン帯は有名になったと思う

Q・どうして最近更新が止まっていたんですか？

A・４つ同時に小説を書くのは無謀だったからです。

今回更新のバレンタインネタだけでなく現在蛇さんとのコラボ（誠視線）と次女が出てくる話、三幻魔終了の話。欲張りすぎました。

とにかく蛇さんとのコラボ小説を書き終えないと……

とりあえずバレンタイン編どうぞ。

バレンタイン番外編このイベントのおかげでバンアレン帯は有名になったと思う

視線変更～雪～

2月上旬

後もう少しすれば3年生は卒業

この学校では卒業デュエルというイベントがあり全生徒がデッキ作りに専念する時期ですがこの時だけは違います

2月の1大イベント、バレンタインデーである

今調理実習室では学校中の女子達がチョコ作りに専念している

そして私もエレナさんに冥衣さんと一緒にチョコを作っている

「ところで2人は誰にチョコを上げるんですか？」

「私、、私は、、、やっぱ、、、、誠、、かな、、、か、勘違いしないでよ、義理なんだから義理、義理」

顔を真っ赤にしてそんな事言われても説得力というものをかけらも感じられません

「そういえば、、、調理実習室の入り口付近にこんなのが置いてありましたわ」

ピラっとエレナさんが私達の前にプリントのようなものを見せてき

ます

「えっと～、、、バレンタイン間近！！あなたがチョコを上げたい殿方ベスト１０！？」

「何でも女子生徒全員にアンケートをとったみたいですわ、コメントつきで」

「へ～～～、、何々」

プリントをまじまじと見つめる冥衣さん

正直私も少し気になります

「１位は、、、、やっぱりカイザー亮ですか」

「成績優秀、デュエル強し、そしてイケメン、、、、学園ＮＯ１のデュエリストはバレンタインでもＮＯ１のようですわ」

「でも、、、チョット怖い雰囲気がありますよね」

「そう、、デュエルスタイルはとても紳士的だって聞いたことあるけど」

真間さんから聞いた話だと相手をリスペクトする素敵なデュエルスタイルだそうですが私の中には何か高嶺の花的なイメージがあります

「そして同一１位の天上院　吹雪、、、確か明日香のお兄さんよね」

「えぇ、、、カイザー亮の同僚、実力はカイザーと同等と言われて

おります、、カイザーとは違いその甘いマスクで女性と言う女性に気さくに話しかけてくれる為女子間での人気は高いようですわ」

明日香さんのお兄さん

私もあった事があるんですがカイザー亮さんとは違う形でチョット苦手です

話しかけてきてくれるのは嬉しいんですがあのペースに少し押されてしまいそうです

「アレ?真間の名前が4位に入ってるじゃない」

「え!?本当ですか?」

ランキング表を見てみると4位のところに真間さんの名前がのっています

「コメントを見てみますと、、、、ナイフのように鋭い顔つき、1年生のデュエリストの中では5本の指に入る腕前、何よりデュエル中の情熱的なプレイスタイルが人気のようですわ、さらに時々見せる天然ボケが上級生のお姉さんのハートをつかんでいるみたいです」

しかし4位ですか、、うぅ、ライバルが多そうです

「こうしてみてみると色々と見覚えのある名前が多いですね、、アレ?綾小路さんが9位なんですか?」

あのカイザー亮に並ぶ実力者、そして実家はお金持ちのお坊ちゃま

女子間ですごく人気があった気がしますが

「綾小路さんは人気があったんですがオシリスレッドの遊城　十代さんとデュエルして敗北してからスランプになり、、成績とともに人気も落ちてこの順位になったみたいですわ」

「アレ?綾小路さんの下の１０位のところに誠さんの名前がのってます」

「！！！！！」

声には出してないものの冥衣さんがピクっと反応します

ふ～～～ん、へ～～～～等と言いながらチラチラとアンケート用紙をのぞいているようです

「えっと、、、真間さんと同じで1年生中では5本の指に入る腕前、陽気で男女隔てなくフレンドリー、、、、意外とデュエルの知識が豊富でデッキ構成の際にはよく相談に乗ってくれるので人気があったって書いてあります」

「あったって過去形なの?」

「えぇ、、、確かにデュエルの腕はよく誰とも仲良くしてくれて顔も中々のルックス、、、ですがデュエルが白熱するとヨダレをたらすという目撃報告がありますわね」

「確かに、、、誠さんたまにグリム童話に出てくる獲物を見つけた狼の様な顔つきになりますよね」

「それにこないだのランスターさんとの制裁タッグデュエル終了時のキモオタ宣言で完全に人気が大暴落、、、１１位とは２票差ですわ」

「それでも、、、、１０位以内には入っているんだ」

気にしてない不利をしながらも私とエレナさんの会話を集中して聞いているみたいです

さっきから湯銭のボールの中でチョコでなく石鹸をくるくると回しています

視線変更～誠～

「お～～～っす十代、いるか～」

「お、誠に真間じゃん、どうした」

２月１４日早朝

俺達は隣の十代達の部屋に顔を出す

部屋の中には十代に翔、隼人の３人がいた

「て、翔どうしたんだ、そわそわして」

「だって、、、今日は全男子生徒が期待に胸を躍らせる日、バレンタインデーだよ、落ち着いてなんていられないよ」

「そう言えば今日は2月の１４日なんだなぁ」

「バレンタイン？なんだそれ」

この部屋の住民は3人とも異なる精神状態のようだ

まぁ生前の俺のデータだとバレンタインデーには何種類かの人間に分かれる

1. “今年ももらえるだろう”と余裕のある男子
2. “今年ことはもらえるはず”と期待に胸を膨らませる男子
3. “どうせ今年ももらえない”とあきらめる男子
4. ただひたすらチョコをもらえる男子を恨み続ける男子
5. “バレンタインデーって何？おいしいの？”“所詮は菓子屋の陰謀”“いや、、別に俺甘い物苦手だし、、、べ、別に悔しくなんかないんだからね”等と現実逃避が神の領域に達した男子
6. “昔コミックボンボンでＳＤガンダムの４コママンガを書いていた漫画家の父親の誕生日だよな～～”“何気に今日ってG線上の魔王の主人公が警察に出頭した日だよな”っと果てしなくマニアックなことを考える男子

まぁ十人十色で様々な男子が発生する日バレンタインデー
そんな中十代はバレンタインデーその物を知らないようだ
そういえば原作でバレンタインデーネタってやってなかったよな、
学園物なのに

「なんだ翔、、チョコが欲しいのか」

「そりゃそうっすよ、、この日にチョコをいらないなんていう男子は存在しないっす」

「そうか、、、、じゃあこれをやるぜ」

そう言って小さな包み紙を翔に手渡す

「何すかこれ」

「ハッピーバレンタイン」

「誠君、、、、、殺すぞ!!!」

うお!!翔が原作では決して見ることのできないくらいの恐ろしく殺気のこもった目で俺をにらみ始める

さすがはヘルカイザーの弟、迫力抜群だ

「何が悲しくて男からチョコをもらわないといけないんすか」

「いや、、このレッド寮に女っけなんて色のあるものがないからな、

どうせ全レッドの生徒はチョコに餓えたバイオハザード状態になってると思い、、某学園黙示録みたいな惨劇にならないよう俺がこうやってチョコレートを配り歩いているわけだ」

「いくら餓えてるといっても男からチョコをもらっても嬉しくないっす」

「いや、、俺も今朝誠のチョコを食ったんだが、、かなりうまかったぞ」

「本当か、、なぁ誠俺にもチョコくれよ」

「俺も、、少し食ってみたいんだな〜〜」

「大丈夫だ、、、、お前達の分も持ってきている、、それと、、、、翔、ふてくされてないで俺のチョコ食ってみろ」

十代と隼人、そして翔にチョコの包みを渡す

「うぅ、、、また、変にかわいい女の子が一生懸命作りました感あふれる包みっす」

「ッフ、、俺の無駄スキルの一つ、“こだわろうと思ったら徹底的にこだわり尽きる力”のたまものだ」

「いや、、それはただの努力家ってことじゃないのか？」

「それより、、早く食ってみようぜ」

包みを開けて中に入っている一口チョコを食べ始める3人

「お、、うまい」

「本当なんだなぁ～、お店で売ってても不思議じゃないんだな～～」

「う、、うまい、決して甘すぎず、若干のビターの苦味を残しつつも決してくどくなく、薄味でもない絶妙な味のバランス、、そして口に入れた瞬間体温で溶けたチョコが口の中で甘みと風味を爆発させ食した者の脳に刺激を与える、、、なんて、なんてうまいチョコなんすか」

「なんか変な解説始まった～～～～～～」

「なぁ、、これって遊戯王の小説だよな、、、、、料理小説じゃないよな」

ザ・シェフの主人公バリに何かをぶつぶつ言い始める翔

「言っただろ、、徹底的にこだわり尽きる力と」

「いや、、でもやりすぎだと思うぞ、、、、、ロイズのチョコくらいうまかったぜ」

「ッフ、真間よ、、、、、考えてみろ、チョコレートがもらえなく禁断症状の男子生徒に男子からおいしくないチョコレートをもらったらどうなる、、禁断症状が破壊衝動に変換され目の前にいる俺にぶつけられてしまうだろう、、、、それこそまさにパンデミック症候群になるから俺はこうやって“ＯＨ　ＭＹ　コンブ～～～”っとリアクションしてくれるくらいおいしいチョコレートを作ったんじゃないか、、これなら誰も傷つかないですむ」

「ダメだ、、、色々と突っ込みどころが多すぎてどこから突っ込んでいいかわからん」

「なぁなぁ誠、、、もう一つチョコくれよ」

「悪いな十代、、一人一袋までなんだ、、、レッド寮の連中だけでなく学校中のチョコがもらえなかった連中に配ろうと思ってるから」

「チェ、、じゃあ来年も期待しているぜ」

「このやり取りが男女同士なら色気がある会話だったのにな」

「確かにそうっすね」

視線変更〜冥衣〜

「これ、、バレンタイチョコだよ」

「ねぇ、、、放課後、校舎裏に来てくれるかな?」

「ハハハハハ、、闘いなさい、闘って闘って闘い抜いて最後に残った殿方だけがこの私のチョコをもらう資格があるのよ」

学校中がバレンタインで盛り上がっている
約一箇所からどす黒いオーラのようなものが発生しているが
ちゃんとバレンタインを満喫している
私も、観測する側だけでなくちゃんとこのチョコを渡さないと
雪はちゃんと渡したのかしら
「何故だ、、何故俺の机にチョコが1個も入っていないんだ～～～」
アレは、、、、毒島だったかな？どうやらチョコをもらえていないようだ
まぁ彼だけでなくレッド・イエロー・ブルーの亡骸（？）がそこらへんに転がっていた
なんて考える前に、私も行動しないと
視線変更～誠～
「おう、、何死人みたいな顔してるんだ」
俺の目の前にはＯＮＥ～輝く季節へ～において目の前で主人公が消

えた時のヒロインのごとく落ち込んでいる生徒が一人いた

「実は、、、バレンタインなのに全然チョコがもらえなくて」

「大体理解した、、、こんな時は、仮面ライダーシンに変身だ」

「いや、、何このコント」

「ポイントその1、、とにかく苦しむ、シンはリアルに改造人間なので変身の際には体の内側に溶岩を流し込まれたかのごとくもだえ苦しむんだ、、ポイントその2、額から触覚を2本早し目を真っ赤に充血させる、これで完璧だ」

「そんなのいいからさっさと目的を果たせよ」

「それじゃあ仮面ライダーシンの変身ポーズを完全マスターした君にプレゼントだ、、ベルトをプレゼントしたいがシンはベルトを持っていない、なので変わりに俺からバレンタインデーチョコを上げよう」

「ハイ、、ありがとうございます」

チョコレートを落ち込んでいる男子生徒に渡す

すると男子生徒はお礼のつもりなのか俺の目の前で再び仮面ライダーシンの変身ポーズをし始める

「よし、、、これで真・仮面ライダー〜序章〜信者12人目と」

「なんでチョコ渡すだけなのに変なポーズを教えているんだ」

「いや、、困っているんですと言われるとつい」

レッド寮から出て数分後

俺と真間は校内の死にかけている男子生徒にチョコレートを配っていた

とりあえずサンタクロースみたいに白い袋を担ぎ歩き回っているのだが

困っているんですといわれるとどうしても仮面ライダーディケイドのネットムービーを思い出し仮面ライダーの変身ポーズを教えてしまっている

まぁそのおかげで真・仮面ライダーの知名度が一気に上がった

これはこの世界で真・仮面ライダー真〜序章〜の続きが製作されるかもしれないな

「しかし、、まだ半部以上もあまっているな」

「あぁ、、全然さばききれていない」

ティッシュ配りのバイトの時はすさまじい勢いでティッシュを配っていたというのに

やはりチョコとだと調子が狂うのか

「まぁ、、皆ソワソワしながら無駄に徘徊しているからな、、、、

今朝お前がバイオハザード状態になってしまうといっていたがまさか本当にこうなるとは」

なんか、デュエルゾンビの前兆のようにも感じる

「あの、、真間さん」

「ん」

真間と共に構内のチョコレートゾンビどもを浄化していると雪さんが話しかけてきた

「さて、、お邪魔虫は去るとしよう」

視線変更〜冥衣〜

今私の親友の雪がたんせいこめて作ったチョコレートを真間に渡そうとしていた

私の隣にはレオナも一緒に見守っている

なんか、少女マンガでこんなシーンがあった気がする

「実は、、渡したい物があるんです」

「おう、、なんだ」

あの鈍感男、わかってるのかしら今日が何の日か
私の親友がバレンタインデーチョコを上げるかもというモーションかけているんだから少しは動揺しなさいよ

「こ、、これを受け取ってください」

「ありがとう、、、いただくよ」

「やった、、受け取ったわ!!!」

「ですが、、、真間さんはたぶん本命チョコでなく義理チョコだと思ってる恐れもありますわ」

う!!確かにそうかもしれない
だがチョコを渡した雪自身がすごく幸せそうな顔をしている
まぁ、本人達が幸せならそれでいいか

「ところで、、、真間さんは、今日何個チョコをもらいましたか?」

「ん?これが初めてだけど」

「そ、、そうなんですか」

それを聞いていっそう嬉しそうな顔になる雪

「おかしいわね、、アンケートだとかなりの上位に名前があったの

に1個ももらってないだなんて」

「あら、、知らなかったんですか、真間さんと雪さんは全校生徒公認のカップルなんですのよ」

「え!!?そうなの!?」

「あのアンケートはあくまで渡したい相手という事ですので、、、実際に真間さんに渡す人はいませんわ」

そんな暗黙のルールがあったとは

「それより、、、次は冥衣さんじゃなくって」

「わ、、私」

「何の為にそのチョコを作ったんですの」

「その、、、心の準備が、私よりもレオナはどうなの?チョコは渡したの?」

「渡しましたは、、、、教員の人全員に」

え!?

「バレンタインと浮かれるのもいいですが、、ちゃんと教員の方にも配って黙認してもらうよう手回しをしておかないといけませんわよ」

なんつーか、、私の親友は紳士だと思う

「何故かクロノス先生はありえないくらい大号泣しながら喜んでいましたわ」

なんかその光景が目に浮かぶ気がする

「それよりも、、、早くチョコを渡しに行きますわよ」

「チョット待って、、まだ心の準備が、それに誠がどこに行ったかもわからないし」

「あら、、チョコは誠さんに渡すんですか」

してやったりといわんばかりの笑顔になるレオナ

見えてないけどきっと私の顔はすごく真っ赤になってると思う

視線変更～誠～

「大体わかった、、、こういう時は仮面ライダーブラックに変身だ」

真間とわかれて校内を徘徊すること３０分

とりあえず俺はチョコを配りながら歴代の仮面ライダーの変身ポー

ズを教えて回っていた

とりあえず今は初代からブラックまで教え終わったところだ

「これでお前も明日からてつをだ」

「ハイ、、、何でもかんでもゴルゴムの仕業です」

チョコレートをもらい吹っ切れた顔でさっていく男子生徒

しかし、、袋の中にはまだチョコレートがあまっている

「まったく、、こんな日に何奇行に走ってるのよ」

「あ、、ティアさん」

次のチョコレートの贈呈の為仮面ライダーブラックＲＸのポーズを思い出そうとしているとティアさんが話しかけてきた

「教室行ったら変なポーズを決めている男子生徒がやたらいると思ったらあんたが犯人なのね」

そうか、、、あいつらちゃんとポーズを続けてくれてたんだな

「それよりも、、、これ」

「ん」

そっぽを向きながらティアさんが正方形の包み紙を俺に差し出してくる

「か、勘違いしないでよね、、義理よ義理、、、義理なんだから」

「スイマセン、ティアさん、、、、俺、別にツンデレ好きでないのでそんな風に渡されても嬉しくないです」

「ブチィ」

あ！！久しぶりに景気よく何かが切れる音がした

「それじゃあバレンタインらしくチョコレートという弾丸であなたの心臓を打ち抜いてみようかしら」

ポケットから拳銃を取り出しチョコレートで作られた弾丸を込め俺の心臓に銃口を突きつけてくるティアさん

ッチョ、目が怖いです

今にも“少し、、頭冷やそうか”といわんばかりなんですが

「スイマセンでした、、、ありがたく頂戴いたします」

大惨事になる前に土下座してチョコを受け取る

「わかればいいのよ」

俺がもしリア充で結婚したら、きっと尻にしかれるのかもしれないと考えてしまう

「あ、、誠君だ〜〜」

ティアサンからもらったチョコをかばんにしまうと同時にスバルが話しかけてきた

「ハイ、、、バレンタインチョコだよ」

そう言ってスバルは俺に長方形の箱を俺に差し出してくる

「、、、あ、ありが、、、ありがとう」

「うわ～～～、血涙流して喜ぶ人私始めてみたわ」

ビバ！！二次元トリップ

まさかあのスバルから義理とはいえバレンタインチョコをもらえるだなんて

生前のキモオタ仲間に自慢したい

俺はあのスバルからバレンタインチョコをもらったぞ～～～～

「あ、、そうだ、お返しに俺のチョコを上げるよ」

血の涙をぬぐい俺は袋に入っているチョコを2人に渡す

「なんかでかい袋かかえていると思ったらチョコレートが入ってたの」

「あぁ、、恵まれない男子生徒に配っていたのだが、全然配れていないのが現状だ」

「チョコを配るのはいいけど、、男子に変なポーズを教えるのはやめなさいよ、、、、、教室入ったら全男子生徒がボディービルダーみたいに互いのポージングをチェックしてて入りづらいったらないわ」

「そうだ、、、どうせだったら2人にバロム1の変身ポーズを」

「ブラストバレル」

俺の目の前でティアさんが目にも止まらぬ速さでデュエルディスクを展開しリボルバー・ドラゴンのカードをセットする

そして立体映像から放たれた銃弾が俺を蜂の巣にしていく

「いててててててて」

実際には痛みはないのだがついつい痛いと言ってしまう

「とりあえず今すぐ教室に戻って洗脳をといてきなさい」

ズ～～ルズ～～～ルとえりを捕まれ俺はティアさんに教室まで連行される

その後教室で“ウソップ海賊団は、本日を持って解散する！！！”っとべそかきまくりながら宣言したら全員綺麗さっぱり仮面ライダーの変身ポーズを忘れてしまった

俺の真・仮面ライダー～2章～の夢が～～～～～

そして放課後

「ようし、、放課後で全てのチョコを配りきるぞ～～～」

放課後、再び真間と合流しチョコ配りを再開する

「いや、、、いくら冬でもチョコもう溶けてるんじゃないか」

「大丈夫だ、、冷蔵庫に入れておいたからチョコは全部無事だ、、、、それよりもだ」

パチンと指を鳴らすと教室内の電源が落ちる

そして俺は机の中からプロジェクターを取り出し壁に映像を映し出す

「オペレーション、、聖（セント）・バレンタイン・ウォーズの説明をする」

「ここは死後の世界なのか？」

「正直に言おう、、朝のチョコ配りは全然成果が出なかった、、、、チョコレートをそんなに配れていない」

「つーかお前何個チョコ作ったんだ」

「夢中になって作ってたら７０近く作ってしまってた」

「作りすぎだろう」

「っでだ、、残ったチョコをいかに効率よく配っていくか」

バンと壁を叩くと景気のいい音が教室に

「ずばり、、夕方頃だ、、、、早朝と放課後始まってすぐの時間帯はダメだったんだ、、朝は朝食のエネルギーでフルに使用し校内のイベントポイントを巡回する、、そして、放課後、期待に胸躍らし昼ごはんで補給したエネルギーを使用し机の中↓下駄箱↓イベント発生ポイントを巡回する」

「いや、そもそもこの学校土足の学校だから下駄箱なんてないぞ」

「昼ごはんで補給したエネルギーも尽き、チョコレートが全然もらえず心に絶望が芽生え、、男達は教室で屍と化す、、、そこで俺がチョコレートをあげる、これでミッションはクリアだ」

「つーかプロジェクターの映像１度も使ってないよな、何の為に教室の明かりを落としたんだ、、、、、まぁ、とりあえず放課後まで待って作戦決行ってわけか」

「しかし、、、私は我慢弱い人間だ、、ナンセンスだが動かずにはいられない、っというわけで早速配りに回るぞ」

袋をかかえて自動ドアを飛び出す

「今までのやり取りが必要だったのか本当に」

「ほらよ、、俺からのチョコレートだ、これ食って元気出せ」

「ありがとうございます」

「これで、、、13個目か」

袋の中にはまだチョコレートがわんさか控えている

途中でトメさんからもらったドライアイスを袋に2，3個突っ込んでチョコレートを冷凍保存しているからチョコの形状は保っているが

「どうしたものか」

「あ、、誠君だ」

「ん!?」

チョコレートの袋をかかえなおして移動しようとすると昭二が話しかけてきた

「お、、昭二、、、って、すごいな」

昭二はその腕に数個のチョコレートの箱をかかえていた

「お前、、、結構もてるんだな」

「いや、、自分でもびっくりです、、、、そして何故かは知りませんが今朝から友達にデュエルをものすごい剣幕で挑まれるんですが何故でしょうか」

「とりあえずそのチョコをしまおうな」

サファリパークの肉食獣のところで全身に生肉を巻きつけて仮面ライダーブラックのＥＤみたいにゆっくりと歩くようなものだ

「ところでその大きな袋はなんですか？」

「実はカクカクシコシコ」

「シカジカですよね」

「っと言うわけでひたすらチョコを配っているんだが」

「そうですか、、がんばってください」

「あぁ、、お前も、夜道には気をつけろよ」

っと昭二とわかれて数分、獣のような剣幕でデュエルを挑まれている昭二がいた

「ＰＲＲＲＲＲ、、ＰＲＲＲＲＲ」

「ん！？」

パンを加えて曲がり角でぶつかった相手にチョコを渡そう作戦を実行中“そもそもこのイベントは早朝しか発動せず俺は男だからぶつかるのは女だから意味ないじゃん”っと悟ったと同時にＰＤＡが鳴り出す

取り出してみるとメールが一件、差出人は真間からだった

「何々」

“どうせ配りきれてないんだろ、俺がいい作戦を思いついた、教室に来い”

「さすがは親友、、頼りになるぜ」

視線変更～冥衣～

放課後になった

結局誠にチョコを上げるどころか話しかけることさえできなかった

「うぅ～～～、私の意気地なし」

「何たれパンダみたいにふやけているのです」

「あ、、レオナ」

机につっぷっているとレオナが話しかけてきてくれる

その表情は“ヤレヤレですわ”っといった感じだ

「その様子ですと、、誠さんにはチョコを上げれてないようですわね」

「それどころか接触自体が取れない」

「まったく、、、雪さんはちゃんとチョコを渡したというのに」

当人の方を見てみると完全に上の空状態である

顔を真っ赤にしチョットニヘラニヘラと笑い時々もだえるように地面に転がる

完全にトランス状態だ

「そんな、、真間さん、ダメですよ、、、、せめて電気は消してください」

いや、妄想少し激しくない

しまいに鼻血を噴出しながらのけぞりかえり始める私の親友

この子の熱が冷めるまでしばらく他人のふりをしよう

「冥衣さんはこんな風にはならないでくださいね」

完全にレオナも今の雪の状態に引いている

「安心して、、あそこまではいかないから、、、、、たぶん」

「バレンタインに親友を2人も失うのは私も心苦しいので、、、それよりも、誠さんがどこかに行ったみたいですわ、追いますわよ」

「う、、うん」

でも、いつからだろうアイツのこと気にしだしたのは

最初の出会いは、、、あんましいい出会いじゃなかった

アンパンの取り合いで出会って

そこからデュエルに流れ込んで

それから友達になり

時々デッキの相談とかもして

時々デュエルして

アイツのデュエルしている時の顔がかっこよく見えてきて

時々よだれをたらしたりするけど

思えば、私とこんなに親しい男友達っていなかった気がする

自分でもわかっているけどチョット御転婆だし男勝りだし

アイツは私のことライバルとか親友って思ってるかもしれないけど

私は……

「ほら、、冥衣さん」

「ふぇ!?」

「誠さんがいましたわ」

レオナの声に思わず間抜けな返しをしてしまう

そして彼女が指差すほうを見てみるとサンタクロースのごとく白い袋をかかえた誠がいた

「さっさと渡してきなさい」

「う、、うん、わかった」

視線変更～誠～

「誠！！！」

教室に向かって歩くこと数分

冥衣が話しかけてきた

「ん、、お！！冥衣か」

「その、、、チョット、今大丈夫」

呼び止めておいて何故か顔を真っ赤にしそわそわしだす冥衣

「まぁべつにいいが、なんだ」

「えっと、、、その、、あの」

しまいには挙動不審にキョロキョロしだす

「ん、、そうだ、冥衣、お前にこれをやる」

袋の中からチョコが入った袋を一つ渡す

「いつもお世話になってるからな、、バレンタインチョコだ」

「あ、、ありがとう」

なんだ、今日の冥衣はいつもと違うな

なんか、心ここにあらずというかそわそわしてるというか

（もう、、なんでチョコを渡しにきたのに逆にもらっちゃって）

「誠、、その、、あのね」

「おう」

（言うんだ、、“渡したい物があるの、このバレンタインチョコをうけとって”っと）

「わ、、わた、わた、、わ」

“俺のこの手が真っ赤に燃える～～～”っと言わんばかりに冥衣の顔が真っ赤になる

大丈夫なのか？

「わ、、わた、わた、、、、、、私とデュエルよ！！！」

視線変更～冥衣～

ビシ～～～っと人差し指を誠に向ける

「デュエルか、、、いいぜ、冥衣とやるのも久しぶりだな」

そう言って誠は袋を下ろしかばんからデュエルディスクを取り出す

うぅ～～、私の意気地なし、向こうからレオナが“何をしてますの”って目で私をにらんでる～～、、こうなったら

「主義じゃないけどアンティールールとして、敗者は勝者に何か一つ命令できる、、、どう？」

「あぁ、、受けてたとう」

ようし、作戦成功

これで私が誠に勝って“このチョコを受け取りなさい”と言えば作戦成功

目的は果たせる

視線変更～誠～

まったく、何をもじもじしているかと思ったらデュエルをいどみにきたのか

だったらいつもみたいにデュエルをいどんでくればいいのに

まぁいい、デュエルだ

「、、、、ってアレ」

デュエルディスクをかばんから取り出しベルトのデッキケースからデッキを取り出そうとしたがデッキがない

しまった、部屋に忘れたようだ

「やべ!!デッキを部屋に忘れた」

「バ〜〜ロ〜〜小野寺、何をやってやがる、、、、、、だが、、男にはそれくらいの強引さが必要だ〜〜」

突如タッグフォースでよく見かけるサングラスの先生（声優が神谷明）がやってきた

「先生、、、酔っているんですか？（ウイスキーボンボンで）」

そして千鳥足でさっていく先生

しかし参った、デッキがないとデュエルができない

だがデュエルを受けたうえでデッキを部屋に取りに行くのは非常にかっこ悪い

なにか、、武器はないか

「あ!!」

ポケットをあさっていると以前作者からもらった第3のデッキが出

てきた

どうする、とりあえずこれを使うか

ＬＰ４０００の世界で使うことをためらっていたこのデッキを

まぁためしにチョット使ってみるか

「それじゃあ冥衣、熱く楽しいデュエルにしようぜ」

「「デュエル！！！」」

誠
ＬＰ４０００

冥衣
ＬＰ４０００

「私のターン、、雷獣オトロスを守備表示で召喚」

バチバチと地面に電流が走り黄色のボディーに黒のラインが走った犬が相手フィールドに出現する

雷獣オトロス　（オリジナル）
レベル３光属性
雷族

攻撃力１５００守備力１３００
効果
このカードが戦闘によって破壊された時、デッキからレベル４以下の雷獣と名のつくモンスター１体を特殊召喚する。

「さらにリバースカードを１枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

冥衣
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　雷獣オトロス
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、俺はバルバロスを妥協召喚する」

ゴゴゴゴゴと地面が競りあがり高台の形となる

そしてそのてっぺんに二足歩行し盾と槍を持ったライオンの騎士が降臨する

神獣王バルバロス
レベル８地属性
獣戦士族
攻撃力３０００守備力１２００
効果
このカードはリリースなしで通常召喚する事ができる。この方法で通常召喚したこのカードの元々の攻撃力は１９００になる。また、このカードはモンスター3体をリリースして召喚する事ができる。この方法で召喚に成功した時、相手フィールド上に存在するカードを全て破壊する。

「妥協召喚の影響でバルバロスの攻撃力が下がるがな」

神獣王バルバロス
攻撃力３０００→１９００

「バトル、、バルバロスでオトロスに攻撃」

バルバロスが飛び上がりその槍を相手フィールドのモンスターに突

き刺す

神獣王バルバロス　攻撃力１９００＞雷獣オトロス　守備力１３００

「ック、、でも、オトロスの効果発動、、デッキからレベル４以下の雷獣を特殊召喚できる、、私は雷獣エニクスを攻撃表示で特殊召喚」

再びフィールドがスパークし今度は黄色メインの体に黒いラインの鳥がフィールドに降り立つ

雷獣エニクス　（オリジナル）
レベル４光属性
雷族
攻撃力１７００守備力３００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた時、デッキから雷獣と名のつくモンスター１体を手札に加える。

さっきから出ているモンスターに雷獣と名がついている

生前見たことないカードだからきっとこの世界にのみあるオリカだな

「メイン2に俺はリバースカードを2枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　神獣王バルバロス
魔法トラップ　リバース×２

冥衣
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　雷獣エニクス
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、、私は雷獣ヘカケイルを召喚するわ」

地面から電流を放ちながら巨大な影がヌ～～～っと出現し黄色いダイダラボッチのようなモンスターに変化する

雷獣ヘカケイル　（オリジナル）

レベル４光属性
雷族
攻撃力２１００守備力０
効果
自分フィールド上にこのカード以外の雷獣と名のつくモンスターが存在しない時このカードを破壊する。

「バトル、、ヘカケイルでバルバロスに攻撃」
その腕に電撃を終結させたヘカケイルの巨大な拳が俺のバルバロスの体を貫き破壊する

雷獣ヘカケイル　攻撃力２１００＞神獣王バルバロス　攻撃力１９００

誠
ＬＰ４０００－２００＝３８００

ッグ、先手はとられたか

「続いてエニクスでダイレクトアタック」

放電しながら翼を羽ばたかせエニクスが俺に向かって飛んでくる

「させるか、、、リバース発動、ヒーロー見参」

ヒーロー見参
通常トラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。自分の手札から相手はカードをランダムに1枚選択する。選択したカードがモンスターカードだった場合、自分フィールド上に特殊召喚する。違う場合は墓地へ送る。

「俺の手札は3枚、、、さぁ、好きなのを選びな」

まぁ、全て上級レベルモンスターなんだけどな

「私は真ん中を選択するわ」

「選択したカードは、、ガンナードラゴンだ」

ヒーロー見参のカードが光り輝きだしその光からガンナードラゴンが出撃する

可変機獣ガンナードラゴン
レベル7闇属性
機械族

攻撃力２８００守備力２０００
効果
このカードは生け贄なしで通常召喚する事ができる。その場合、このカードの元々の攻撃力・守備力は半分になる。

「さぁどうする攻撃を続けるか」

「っく、、私はバトルを中断、、そしてリバースカードを1枚追加してターンエンドよ」

誠
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　可変獣機ガンナードラゴン
魔法トラップ　リバース×１

冥衣
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　雷獣エニクス、雷獣ヘカケイル
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、魔法発動名推理」

名推理
通常魔法
相手プレイヤーはモンスターのレベルを宣言する。通常召喚が可能なモンスターが出るまで自分のデッキからカードをめくる。出たモンスターが宣言されたレベルと同じ場合、めくったカードを全て墓地に送る。違う場合、出たモンスターを特殊召喚し、残りのカードを墓地へ送る。

「さぁ、、、俺のモンスターのレベルを数えろ」

「いや、、数えるのではなく宣言だと思うのだけど」

チィ、通じなかったか

生前ニコ動の闇のゲーム動画で色々と使われていた名言なのだが

「とりあえず私は、、、、、8を宣言するわ」

「行くぜ、、、魔法カード、、魔法カード、トラップカード、、ヨッシャ、モンスターだ、レベル6のライトニングギア～桜火～だ」

バシンと桜火をデュエルディスクにセットする

すると天から光が差し込みその光の中を桜火が降下してくる

ライトニングギア～桜火～
レベル６光属性
天使族
攻撃力２４００守備力１４００
効果
このカードは生け贄なしで召喚する事ができる。この方法で召喚した場合、このカードはエンドフェイズ時に墓地へ送られる。

「行くぜ～～、、桜火でエニクスに攻撃」

桜火の口から熱線と共に桜の花びらっぽい物がフィールドに舞う

「ブレス・オブ・チェリーブロッサム」

熱線がエニクスの体を貫きドロドロに溶かしていく

「ック、、リバース発動、ガード・ブロック」

ガード・ブロック
通常トラップ
相手ターンの戦闘ダメージ計算時に発動する事ができる。その戦闘

によって発生する自分への戦闘ダメージは0になり、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

ライトニングギア～桜火～　攻撃力２４００＞雷獣エニクス　攻撃力１７００

「ガード・ブロックの効果で戦闘ダメージは0になりデッキからカードを1枚ドロー、、さらにエニクスの効果発動、、、デッキから雷獣と名のつくモンスター1枚を手札に加える、、私は雷獣王ギドラスを手札に加える」

「だが、、もう1体効果が発動するモンスターがいるよな」

「えぇ、、、ヘカケイルはこのカード以外の雷獣と名のつくモンスターが存在しない時自壊するわ」

バコ～ンとヘカケイルが爆発し冥衣のフィールドががら空きになる

「っへ、、いい眺めだぜ、ガンナードラゴンでダイレクトアタック！！！！」

ティアさん、技をかりるぜ

「ドラゴンキャノン！！！！」

ガンナードラゴンの砲台が相手プレイヤーに標準を向ける
そしてそこから砲弾が放たれ冥衣の周りで爆発し始める
「キャ～～～～」
可変獣機ガンナードラゴン（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー
冥衣
ＬＰ４０００－２８００＝１２００
「ック、、、やるじゃない」
「ッへ、、、、見たか、これでターンエンドだ」
俺のデッキは大半が上級モンスターで構築されたデッキだ
ヒーロー見参や名推理などでひたすら特殊召喚しまくり相手を殴るデッキ
だからＬＰ４０００の世界では使うのをためらってたんだよな、すぐ決着つきそうだし
まぁいい、、このデッキがどこまでやれるのか見てみよう

誠
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　可変獣機ガンナードラゴン、ライトニングギア～桜火～
魔法トラップ　リバース×１

冥衣
ＬＰ１２００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、雷獣ケセパランを守備表示で特殊召喚」

フワフワと綿毛のようなものが浮遊しながら冥衣のフィールドにとどまる

そしてそれに目が生えてバチバチと電気を放ち始める

雷獣ケセパラン　（オリジナル）
レベル１光属性
雷族
攻撃力０守備力０
効果
相手フィールド上にモンスターが存在し自分フィールドにモンスタ

ーが存在しない時手札、墓地からこのカードを表側守備表示で特殊召喚できる。このカードの効果で墓地から特殊召喚されたこのモンスターがフィールドからはなれる時ゲームから除外される。雷獣ケセパランはフィールド上に1体までしか表側表示で存在できない。

「そしてケセパランを生け贄に雷獣王ギドラスを召喚」

激しく放電しながらケセパランがその体を消滅させる

そして残った電流が異次元ゲートを発生させその中からひときわ大きい3首の黄色い巨大なドラゴンが姿を現す

雷獣王ギドラス　（オリジナル）
レベル7光属性
雷族
攻撃力2200守備力2000
効果
このカードは自分フィールド上の雷獣と名のつくモンスター1体を生け贄に攻撃表示で召喚できる、このカードは墓地に眠る雷獣と名のつくモンスター1体につきこのカードの攻撃力は200ポイント上がる。

「ギドラスは墓地に眠る雷獣と名のつくモンスターの数×200ポ

イント攻撃力が上がる、、よって攻撃力は３０００に上昇するわ」

雷獣王ギドラス
攻撃力２２００↓３０００

マジかよ、、社長の嫁の攻撃力とならびやがった

「バトル、、ギドラスで桜火に攻撃、デルタ・プラズマ！！！！」

３首の竜から雷が同時に放たれる

それが３角形の形を描き俺のモンスターの体を真っ黒に焦がしていく

雷獣王ギドラス　攻撃力３０００＞ライトニングギア～桜火～　攻撃力２４００

誠
ＬＰ４０００－６００＝３４００

「メイン２に私はリバースを１枚追加してターンエンドよ」

誠
ＬＰ３４００
手札２枚
モンスター　可変獣機ガンナードラゴン
魔法トラップ　リバース×１

冥衣
ＬＰ１２００
手札２枚
モンスター　雷獣王ギドラス
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、、ガンナードラゴンを生け贄にライトニングギア～轟龍～を妥協召喚する」

ガンナードラゴンがガコンガコンと変形し巨大カタパルトのような物になる

そしてカタパルトに乗っかっていた宝玉を発射する

そして放り出された宝玉に様々なパーツがどこからともなくやってきてくっつき轟龍の形となった

ライトニングギア～轟龍～
レベル８光属性
天使族
攻撃力２９００守備力１８００
効果
このカードは生け贄１体で召喚する事ができる。この方法で召喚した場合、このカードはエンドフェイズ時に墓地へ送られる。また、このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が越えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「でも、、じゃあ私のギドラスの攻撃力には届かないわよ」

「あわてるなって、、、貴様のモンスターを倒すモンスターはこいつじゃない、、俺はアドバンスドローを発動させる」

アドバンスドロー
通常魔法
自分フィールド上に表側表示で存在するレベル８以上のモンスター１体をリリースして発動する。自分のデッキからカードを２枚ドローする。

「その効果で俺は轟龍を生け贄にデッキからカードを２枚ドローする」

ようし、きてくれたぜ

「速攻魔法発動、、デーモンとの駆け引き」

デーモンとの駆け引き
速攻魔法
レベル８以上の自分フィールド上のモンスターが墓地へ送られたターンに発動する事ができる。自分の手札またはデッキからバーサーク・デッド・ドラゴンを１体を特殊召喚する。

「デーモンとの駆け引きの効果でデッキから現れろ、、バーサーク・デッド・ドラゴン」

怨霊のようなものがフィールドをただよい始め地面から体の半分以上が腐敗したドラゴンゾンビが出現する

バーサーク・デッド・ドラゴン
レベル８闇属性
アンデット族
攻撃力３５００守備力０

効果
このカードはデーモンとの駆け引きの効果でのみ特殊召喚が可能。
相手フィールド上の全てのモンスターに1回ずつ攻撃が可能。自分
のターンのエンドフェイズ毎にこのカードの攻撃力は５００ポイン
トダウンする。

「……う」

バーサーク・デッド・ドラゴン出現と同時にふらつき始める冥衣

あ！！そういやぁお化けとか苦手だったんだっけ

だが、デュエルはデュエルだ、悪いが攻撃させてもらうぜ

「バトルだバーサーク・デッド・ドラゴンでギドラスに攻撃」

腐敗した竜と3首の竜が同時に宙を舞う

雷と黒炎が数回頭上で光ると3つ首のドラゴンが先に落下してきて
その上にバーサーク・デッド・ドラゴンが乗っかりその体を粉砕し
ていった

バーサーク・デッド・ドラゴン　攻撃力３５００＞雷獣王ギドラス
攻撃力３０００

冥衣
ＬＰ１２００－５００＝７００

「ック、、ギドラスがこうもあっさり倒されるなんて」

「そして俺はリバースカードを1枚伏せて、エンドフェイズにバーサーク・デッド・ドラゴンの攻撃力は減少する」

バーサーク・デッド・ドラゴン
攻撃力３５００→３０００

「これでターンエンドだ」

誠
ＬＰ３４００
手札１枚
モンスター　バーサーク・デッド・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×２

冥衣
ＬＰ７００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン」

（なんなのよ、今日の誠のデッキは、、、上級モンスターをバンバン出しちゃって、でも絶対に負けない、、、勝ってチョコレートを渡すんだから）

「私はモンスターを裏守備でセットしターンエンドよ」

誠
ＬＰ３４００
手札１枚
モンスター　バーサーク・デッド・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×２

冥衣
ＬＰ７００
手札２枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、リバース発動、レベル変換実験室を発動」

レベル変換実験室
通常トラップ
自分の手札のモンスターカードを１枚選択して相手に見せ、サイコロを１回振る。１の目が出た場合、選択したモンスターを墓地へ送る。２～６の目が出た場合、このターンのエンドフェイズ時までこのモンスターは出た目のレベルになる。

「俺が選択するのはザ・クリエイター、、そしてダイスロールだ」

立体映像のダイスが舞う、出た目は４

「ようし、、ザ・クリエイターを通常召喚するぜ」

しかし、このカード少しトラウマが

えぇい、俺はトラウマを超えて強くなるんだ

ザ・クリエイター
レベル８光属性
雷族
攻撃力２３００守備力３０００
自分の墓地からモンスターを１体選択する。手札を１枚墓地に送り、選択したモンスター１体を特殊召喚する。この効果は１ターンに１度しか使用できない。このカードは墓地からの特殊召喚はできない。

「クリエイターの効果、手札を1枚捨てて墓地のバルバロスを復活させる」

クリエイターの背中の輪ッかが発行しその中からバルバロスが姿を現す

「行くぜ行くぜ行くぜ、、まずはクリエイターで裏守備モンスターに攻撃」

「私のモンスターは雷獣チグモよ」

裏守備状態のカードが表になり黄色のボディーに黒のラインが入った蜘蛛が姿を現す

雷獣チグモ　（オリジナル）
レベル３光属性
雷族
攻撃力０守備力１００
効果
このカードが戦闘破壊された時、このターンのエンドフェイズまでプレイヤーに発生する戦闘ダメージは全て０になる。

「チグモの効果発動、、このターン私が受ける戦闘ダメージは全て０になる」

冥衣の周りに電磁ネットのようなものが発生する

「追撃は不可能か、、、エンドフェイズにバーサーク・デッド・ドラゴンの攻撃力がまた下がってターンエンドだ」

バーサーク・デッド・ドラゴン
攻撃力３０００→２５００

誠
ＬＰ３４００
手札０枚
モンスター　バーサーク・デッド・ドラゴン、ザ・クリエイター、神獣王バルバロス
魔法トラップ　リバース×１

冥衣
ＬＰ７００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン、、、そういえば、誠にはまだこのカードを使ったことがなかったね、私は手札のサンダー・ドラゴンの効果を発動」

サンダー・ドラゴン
レベル5光属性
雷族
攻撃力1600守備力1500
効果
手札からこのカードを捨てる事で、デッキから別のサンダー・ドラゴンを2枚まで手札に加える事ができる。その後デッキをシャッフルする。この効果は自分のメインフェイズ中のみ使用する事ができる。

「手札から墓地に送る事でデッキから同名カードを2枚まで手札に加えることができる、、、そしてリバース発動、、リビングデットの呼び声」

リビングデットの呼び声
永続トラップ
自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスター

を破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「リビングデットの呼び声の効果で墓地のサンダー・ドラゴンを蘇生させるわ」

地面から電流をまとったドラゴンが這い上がってくる

そのカードを蘇生させるってことはまさか

「さらに融合を発動、、手札のサンダー・ドラゴン2体と場のサンダー・ドラゴンを融合、トライヘッド・ギガホーンドラゴンを融合召喚」

３匹のサンダー・ドラゴンが天に昇り暗雲の中に消える

そして暗雲が激しく放電し始め飛び散るとそこから3つ首の巨大な竜が姿を現す

トライヘッド・ギガホーンドラゴン　（オリジナル）
レベル１０光属性
雷族
攻撃力３５００守備力２６００
融合　サンダー・ドラゴン＋サンダー・ドラゴン＋サンダー・ドラゴン
効果

このカードは融合の効果でしか特殊召喚できない。このカードが攻撃表示モンスターを攻撃し破壊した時、そのモンスターのレベル×２００ポイントのダメージを相手プレイヤーに与える。このカードが表側守備表示モンスターを攻撃した時ダメージ計算を行わずそのカード壊しデッキからカードを１枚ドローする、そのドローしたカードがモンスターカードであれば互いにそのカードを確認しそのカードの攻撃力分のダメージを相手プレイヤーに与える事が出来る。このカードが裏側守備モンスターを攻撃した時、ダメージステップ終了時相手の手札をランダムで１枚墓地に送る、墓地に送ったカードがモンスターカードであればその守備力分のダメージを相手に与える。

「交流試合の時に使ったカードか、、スゲー迫力だぜ」

俺達の上級モンスター達が雛鳥みたいに小さく見える

「さらにリバース発動、、雷の裁き」

雷の裁き
通常トラップ
自分フィールド上に雷族モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚された時に発動する事ができる。相手フィールド上のカード１枚を破壊する。

「このカードの効果でクリエイターを破壊するわ」

冥衣のトラップカードから光の弾丸が発射され俺のクリエイターを貫き破壊する

「そしてバトル、、トライヘッド・ギガホーンドラゴンでバーサーク・デッド・ドラゴンに攻撃、スーパースパークノヴァ」

超極太のレーザーが俺のバーサーク・デッド・ドラゴンを塵一つ残さずフィールドから消し去る

「うお～～～～」

トライヘッド・ギガホーンドラゴン　攻撃力３５００＞バーサーク・デッド・ドラゴン　攻撃力２５００

誠
ＬＰ３４００－１０００＝２４００

「さらにトライヘッド・ギガホーンドラゴンの効果発動、戦闘で相手モンスターを破壊した時そのモンスターのレベル×２００した数値の効果ダメージを与える」

「バーサーク・デッド・ドラゴンのレベルは８、、つまり１６００のバーンダメージか」

誠

ＬＰ２４００－１６００＝８００

まずい、早すぎた埋葬一発分のＬＰしか残ってないぜ

「私はコレでターンエンドよ」

誠
ＬＰ８００
手札０枚
モンスター　神獣王バルバロス
魔法トラップ　リバース×１

冥衣
ＬＰ７００
手札１枚
モンスター　トライヘッド・ギガホーンドラゴン
魔法トラップ　リビングデットの呼び声

「俺のターン、、このカードにかける、アドバンスドロー発動、、バルバロスを墓地に送りデッキからカードを２枚ドローする」

これが俺のディスティニードローだ

「きたぜ！きたぜ！！きたぜ！！！逆転してやるぜ、、、俺は墓地に眠るガンナードラゴンとバルバロスをゲームから除外しバルバロスＵＲを特殊召喚する」

俺の目の前にバルバロスとガンナードラゴンが現れる

そしてガンナードラゴンの体がいくつものパーツにわかれバルバロスの鎧となり装着された

獣神機王バルバロスＵｒ
レベル８地属性
獣戦士族
攻撃力３８００守備力１２００
効果
このカードは、自分の手札・フィールド・墓地から　獣戦士族モンスター１体と機械族モンスター１体をゲームから除外し、手札から特殊召喚する事ができる。　このカードが戦闘を行う場合、相手プレイヤーが受ける戦闘ダメージは０になる。

「さらにライトニングギア～桜火～を妥協召喚してバトル、、バルバロスＵｒでトライヘッド・ギガホーンドラゴンに攻撃、、獅子咆哮レーザーブレイド！！！」

バルバロスＵＲの両腕についているレーザー砲からビームサーベルが放たれ巨大なビームサーベルのようになる

そしてそのビームサーベルがトライヘッド・ギガホーンドラゴンの体を走りその体を切り刻んでいった

獣神機王バルバロスＵＲ　攻撃力３８００＞トライヘッド・ギガホーンドラゴン　攻撃力３５００

バルバロスＵｒは相手プレイヤーに戦闘ダメージを与える事はできない

だが相手フィールドのモンスターを片付けただけで上出来だ

「止めだ、、、ライトニングギア～桜火～で直接攻撃！！！」

再び桜火の口に桃色の光が集まる

そしてその口からピンク色のレーザーと大量の桜の花びらが放たれ相手に襲い掛かる

「キャ～～～～～～～～」

ライトニングギア～桜火～（直接攻撃）＞相手プレイヤー

冥衣

ＬＰ４００－２４００＝－２０００

「楽しいデュエルだったぜ、、冥衣」

使っておいてなんだがこのデッキはひどい

1度でもダイレクトアタックが決まろうものなら致命傷だ

このデッキと健闘したんだ、たいしたもんだぜ冥衣は

とりあえずこのデッキは封印だ

「うん、、負けたけど、私も楽しかった」

ガシっと互いの手を握り合う

「そういやぁ、、、アンティールールで勝者は敗者に命令できるんだったな」

「う!!!そ、そうね」

「それじゃあ、、、今俺がやったチョコレートをこの場で食って味の感想をくれ」

俺の命令にキョトンとした顔になる冥衣

「え!?あぁ、、このチョコね、チョット待ってて」

ガサガサと俺からもらった包みをあけ中からチョコを1粒取り出し口に放り込む冥衣

さて、甘い物に目がない女性から見て俺のチョコの評価はいかほど

「すごく、、、すごくおいしい」

「そうか、、ありがとう、それじゃあ俺チョット真間によばれてるから俺は行くぜ」

「えぇ、、呼び止めて悪かったわね」

視線変更〜冥衣〜

「負けちゃいましたわね」

デュエルが終わり誠が去った後レオナが声を掛けてきた

「うん、、チョコも上げられなくて」

がんばって作ったのに、無駄になっちゃったかな

「そうだ、、、レオナ、一緒にチョコ食べよう」

「ですがそのチョコは」

「いいのいいの、、いつもお世話になってるし、雷獣デッキ作るときも色々とアドバイスをもらったから、そうだ、、、雪も誘おう」

「ＰＲＲＲＲ、、ＰＲＲＲＲ」

「あ、、メールだ、、何々、、、、、、、雪が鼻血の出しすぎで保健室に運ばれたって！！！！」

「雪さんにはチョコでなく鉄分が重要みたいですわね」

視線変更～誠～

さてと、、真間のヤツ一体どんな作戦を思いついたのか

「ガラガラガラガラ」

「おう、、真間、作戦ってなんだ」

「おう、、きたか」

教室に入ると真間とその他大勢の男子生徒がいた

しかしなんだ、真間以外恐ろく邪悪なオーラをまとっていた

ハイパー化して巨大化するんじゃないかこいつら

とりあえず俺は真間ひとりを連れて教室の角に退避する

「なぁ真間、、これはどういうことだ」

「な〜〜に、、学校中に誠がチョコをもらいまくっていると噂を流してな」

なるほど、だから全員俺の事を恐ろしい目で見てくるんだな

なんか今にも火曜サスペンスが発生しそうだ

そんな亡者どもに向かって真間は急に立ち上がりだした

「お〜〜〜〜い、お前ら、今から真間とデュエルして勝ったやつにこいつがもらったチョコがもらえるぞ〜〜〜〜」

「「ガシャガシャガシャガシャガシャ」」

スゲー

今こいつら一瞬でデュエルディスクをセットしやがったぞ

って、チョット待て真間

「これのどこが作戦なんだ」

「こいつらとデュエルして勝ったら友好の証としてお前のチョコを

渡せばいいだろ」

なるほど、こいつらが俺のチョコを狙ってデュエルを挑んでくる

そして俺がそいつらを倒す

最後に残念賞として俺のチョコを渡す

すばらしいデュエル脳世界だ

「って、、チョット待て」

俺は確か今日スバルからチョコをもらった

「これは、、、死んでも負けられねーぜ」

さっき封印したデッキの封印を速攻でとく

「全員まとめてかかってこいや～～～～～～～～～～～！！！！！」

こうして俺は億クラスの金をつまれても手放す事のないチョコを死守し

アホみたいに作りすぎたチョコレートを配り終えるのであった。

バレンタイン番外編このイベントのおかげでバンアレン帯は有名になったと思う

後書きに関係ない話を少しします

ゴーカイジャーの第1話見たんですがマジで興奮しました、あざとい、あざとすぎる、、だけど大好きですあのオープニング。

ちなみに冥衣の新デッキは雷獣というオリカメインのデッキです。
雷獣の名前の由来は架空の生物などです。

頭の中ではすでに卒業デュエルの内容とか考えているんですが……
……当初の予定では結構すんなり行くはずが気が付けば番外編のネタが沢山出てきてしまいずるずると……今年中には卒業デュエルの話を書きたいです。

ではまた次回会いましょう。

コラボ番外編鋼鉄の勇気輝け～まぶしい光を浴びて～（前書き）

今回は鋼鉄の旅人の蛇さんとのコラボ企画です。

蛇さんのところに乗っている小説とは少し展開は違います。

コラボ番外編鋼鉄の勇気輝け～まぶしい光を浴びて～

「ゴールドラッシュ！！♪♪１００万ドルでも♪時は止まらない♪だから挑みたい♪」

「歌を歌うのはかまわないがちゃんと荷物をまとめろよ誠」

「わかってるって」

今俺と真間は部屋の整理をしている

何でも今度、業者がやってきて壊れたままだったベッドの修理をするそうだ

それに伴い俺と真間は一時的にイエロー寮の空き部屋に引っ越す事となったのだ

「しかし、、２人部屋だったのも新学期でおしまいか」

「そうだな、、２年に上がったら後輩がこの部屋にやってくるのか」

「ん、、何だこの箱は」

部屋を掃除していると真間が小箱を見つけたようだ

「アレ、、俺のだ」

「何が入ってるんだ？」

ポ～ンと真間が投げた箱をナイスキャッチする

「何だっけか、、、とりあえず開けてみよう」

ふたを開けてみるとそこには脱脂綿につつまれた一本の歯があった

「うお、、それ歯じゃん、誠ケンカでもしたのか？」

「あぁ、、これか、そんなんじゃねーって、、コレはだな」

さかのぼる事数ヶ月

「まずい遅刻遅刻」

完全に寝過ごしてしまった

真間は真間で日直だから先に行っちゃってるし

コレ完全に遅刻だぜ

初代タッグフォースだったら先生をデュエルで倒せば授業受けられ

たけどこの世界ではどうなんだ?

急いで学校に向かっているとベンチに何故か雪だるまが腰を下ろしていた

「ウホ、、いい雪だるま」

そういうとその雪だるまはおもむろに頭に乗っているバケツを下ろし始める

「やらないか?」

「どっせい!!!」

俺のけりが雪だるまの顔面に文字通り突き刺さる

「何のようだ作者、座談会ならまた今度にしやがれ」

「会うなり人様の顔面に蹴りを突き刺すとは、ずいぶんな挨拶だな」

とりあえず意外と冷たかったので足を引っこ抜く

それと同時にまるで再生能力でもあるのかと言わんばかりのスピードで再生していく作者

「早速で申し訳ないがお前には異世界に行ってもらうぞ」

「なんだ、、もしかしてお前が俺にトイカメラを渡してくれてこれからライダーの世界を旅させる気なのか」

「誰もが旅の途中だな」

「結局あのカメラを渡した人の正体とか不明のままだしな」

「でも俺思うんだ、、きっと春の仮面ライダー映画で夏のオーズの映画の予告が流れて、、そして夏のオーズの映画で仮面ライダーディケイド本当の完結編が流れると」

「何を言っているんだ冬将軍、、ムービー大戦２０１０は完結編ではないぞ、、あくまでアレは番外編だ」

「ハッハッハッハ、こいつはうっかりだ」

その後仮面ライダーディケイドの会話で盛り上がる事１時間

「なぁ、、冬将軍、俺達なんで仮面ライダーディケイドの話で盛り上がってるんだ」

「、、、、、、そうだ！！お前に異世界に行ってもらうんだった」

「まったく、話脱線させすぎなんだよ」

「きっかけはテメーだろうが」

「ゴブア」

雪だるまの眉毛に使われている木炭が勢いよく飛んできてみぞおちにクリーンヒットする

「とりあえずお前には異次元に行ってもらうぞ、、マジナヨーナ界～白熱と激戦の草原～にて異世界の、、、別作品の主人公とデュエリストと闘ってもらいたい」

「マジナヨーナ界って、、ずいぶんと懐かしい言葉を」

「ちなみにデュエルすればもとの世界に返れるから、、、言い換えればデュエルが終わるまで帰れない」

テンプレですね、わかります

「そうそう、、手ぶらで行くのも失礼だからお土産を渡しておこう」

そういって作者は腹の中に手を突っ込みそこからセブンイレブンの袋を取り出し俺に手渡す

「いや、、セブンイレブンの袋って、コレはコレで失礼じゃないか？」

そして中身をのぞいてみる

「って、おい、、作者、何ゆえお土産が北海道美唄市名物の袋詰めの焼きそばなんだよ」

「いや～～、最初は月寒アンパンとジンギスカンキャラメルとどっ

ちにしようか悩んだんだけどそっちの方がいいと思って、、秘密の県民ＳＨＯＷにも出てきたしこっちの方が喜ぶだろうと思って」

「何で北海道の中でも知名度の低い地方名物をチョイスした、、、もっと知名度の高いところの名物をチョイスしろよ、、札幌とか函館とか稚内とか、、、あ！！美唄と月寒の人スイマセン」

「とりあえず、、異世界に行ってデュエルをしてきてくれ」

「わ～～った、とりあえずマジナヨーナ界ということはトラベリオンで向かうのかな」

金色の列車がやってきてくるのかと思いきや突如作者の頭が某寄生虫マンガのごとく展開しだした

「行ってらっしゃ～～～い」

「モゲゲ～～～～～」

「ッハ」

作者に丸呑みにされ気を失っていたようだ

目を覚ますと広大な草原のど真ん中に寝転がっていた

それにしてもモゲゲ～～～ってなんだよモゲゲ～～～って

あまりの恐怖にアホみたいな絶叫を上げてしまった

「まぁいい、、とりあえず異世界のデュエリストを探すとしますか」

別作品の主人公か、、、どんなヤツなんだろうか

「、、、、主人公、、ッハ（゜□゜）！！！！皆出てきてくれ」

（なんだいなんだい）

デッキから俺の精霊達が全員飛び出してくる

「チョット皆に話したい事があって、、俺、これから異世界のデュエリストとデュエルするんだけど、その間姿を隠してもらえないか」

（何でですか？）

「相手が精霊を可視できたらどうする」

（友達になればいいじゃないか）

「バカヤロー、、俺がこんなハーレムの真っ只中にいると知られてみろ、友好的な感情が一瞬で殺意にゼロリバースするわ！！！」

もとの世界でも十代くらいにしか知られてないが

これから見える人たちと交流が続くと思うと胃腸が傷む

「とにかく、、絶対にデュエル中は出てこないでくれよ、、絶対にだぞ」

（それは出川哲郎的なふりととってもいいのかしら？）

「俺はいつから芸人キャラになった」

（わかりました、、、今回何か不祥事がありましたら私がご主人様から罰を受けます）

「お前は本当に出ないで欲しい、、向こう側の小説にも多大な迷惑をかけそうだから」

次女一人のせいで向こうの小説にR指定がついてしまったら申し訳がない

「とにかく、、、絶対に出ないでくれよ」

そして草原をさまよう事数分

この世界きてようやく人影らしきものを見つけた

「ちょっといいか？」

「ん？」

声を掛けると目の前の人物が振り返った

見た事がない顔だったが一目でわかった

この主人公オーラ、間違いない、別作品の主人公だ

「あんたは？」

「俺は小野寺　誠。デュエルするためにここにきたんだがあんたが相手か？」

「ああ作者の言ってたデュエリストってあんたか。俺は鋼野（はがねの）　龍一（りゅういち）よろしくな」

「ああよろしく」

ガシっとお互いに握手する

「で、小野寺」

「誠でいいぜ、俺も龍一って呼ぶからよ」

「そうか？じゃあ誠、お前の持ってるそのセブンイレブンの袋はなんだ？」

早速きたか

「ああこれか？俺の作者からあずかってきたお土産だよ」

「お土産？」

「おう北海道の名物を預かってきたぜ」

「へぇー、北海道の名物か」

すごく期待してる目をしているが、まぁ大丈夫だ

こいつも北海道を代表する名産品だ

「じゃ？ん。北海道美唄市の名物、袋に入った焼きそばだ」

「聞いたこともないわボケー！」

突如強烈などつきを後頭部にくらう

まずい、お星様が見え出した

「鈴音！？どうしてここに？」

「あ、ダーリン。なんかツッコミをせなあかん気配がしてなかけつけてきたんよ。それよかなんやそのお土産は見たことも聞いたこともないわ！」

「何を言う！この袋に入った焼きそばは秘密の県民ＳＨＯＷで登場した翌日、北海道中の皆がいっせいに購入して美唄市のスーパーか

らその姿を消したほどの人気があったんだぞ（実話）」

「それはおいといてや、なんでセブンイレブンの袋からとりだしてん」

「テレビの影響であろうか今では美唄だけでなく道内のコンビニにも置かれている」

ちなみに最近ソース味だけでなく塩焼きそば味も出ているぞ

「それ聞いてありがたみが激減や！」

そして再びおとずれる衝撃

今度の突っ込みはさらに激しく犬神家のごとく地面に突き刺さる

「そうやダーリン。作者がこれ渡すようにやって、、、じゃあうちは帰るわ」

「なんだこれ？お、アイスまんじゅうか」

「アイスまんじゅう？」

珍しい物好きの俺の耳に聞きなれないワード

実に興味深い（2人で一人の探偵右側と同じ声で）

「ああ松永牛乳っていう会社が作っていてな、福島県の相双地区のほうでしか売ってないんだよ」

ご当地限定スイーツか

「へ～食べてもいいか？」

「あぁいいぞ」

「じゃあいただきま？す」

龍一からアイスまんじゅうを一つもらい口に運ぶ

「あ、言い忘れてたけど固いから気をつけて」

「ガキン」

「あ～」

なんだ、コレすごく固い

噛み切れずに再びお星様を見た気がする

「いてて、言うの遅いって」

「すまんすまん」

その後俺と龍一は焼きそばとアイスまんじゅうを食べながら雑談を始める

互いに転生者だけあって今所属する世界では話せない事がいっぱいの為話が自然と盛り上がった

「そういやさ～、そろそろスパロボZの続編出るじゃん」

「あぁ第二次な、、前作がPS2でなんで今回はPSPなのか謎だが出るな」

「ついに待望のコードギアスにグレンラガンにガンダム00も参戦、かなり嬉しいんだけど、参戦すべき作品がまだあるよなって思ってしまう」

「あぁ、、、エクスカイザーとかの勇者シリーズも早く参戦してくれないかと思う」

「いや、、まずは“キャッ党忍伝てやんでえ”の参戦が先だろう」

「それを覚えている人間が日本にどれだけいると思っている!!」

「しかし考えてみろ、、もし参戦したら皆の夢“サクラ大戦”も参戦するぞ」

「どう考えても無理だろう」

「しかし今度のスパロボにはグレンラガンが出るんだぜ」

「、、、、、、、、それでも無理だろう」

あの間はきっと一瞬ゆらいだんだな

「で、ここはどこなんだ?誠はなにか聞いていないのか?」

話もひと段落し龍一が話を切り返してきた

「ああ、うちの作者が言うにはここは特別な空間でどちらかがデュエルで勝つまで出られないらしい」

「なるほど……じゃあやることは一つだな」

「ああそうだな」

俺たちはお互いにデュエルディスクを構える

「「デュエル!!」」

誠
ＬＰ４０００

龍一
ＬＰ４０００

「俺の先攻でいかせてもらうぜ、、ドロー、俺は鋼鉄戦士タンク・クラスターを守備表示で召喚」

相手フィールドにタンクを模した機械のモンスターが出現する

鋼鉄戦士タンク・クラスター　（鋼鉄の旅人オリジナル）
攻撃力１５００
守備力１６００
効果
このカードの召喚、特殊召喚に成功したときデッキからレベル３以下の鋼鉄戦士と名の付くモンスターを２体まで手札に加えることができる

「タンク・クラスターの効果を発動、、デッキからレベル３以下の鋼鉄戦士と名のつくモンスターを２体まで手札に加える事ができる、、俺はデッキから鋼鉄戦士シールド・クラスターと鋼鉄戦士キッド・クラスイターを手札に加える」

さっきから向こうで展開している鋼鉄戦士と名のついたカード

なるほど、アレが向こうの世界のオリカ

龍一の主力カードか

「さらにリバースカードを2枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

龍一
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　鋼鉄戦士タンク・クラスター
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、ロックストーン・ウォリアーを召喚」

ヒュ～～～～～～～っと天からロックストーン・ウォリアーが落下し俺のフィールドに降り立つ

ロックストーン・ウォリアー

地属性レベル４
岩石族
攻撃力１８００守備力１６００
効果
このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。このカードの攻撃によってこのカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、自分フィールド上にロックストーン・トークン（地属性レベル１岩石族攻撃力０守備力０）２体を特殊召喚する。このトークンはアドバンス召喚のためにはリリースできない。

「バトルだ、、ロックストーン・ウォリアーでタンク・クラスターに攻撃」

ロックストーン・ウォリアーが相手フィールドの戦車モンスターとぶつかり合う

ぶつかった衝撃で激しい砂煙が発生する

そして煙が晴れるとロックストーン・ウォリアーだけが立っていた

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＞鋼鉄戦士タンク・クラスター　守備力１６００

「ヨッシャ、ファーストバトルはもらった」

「リバース発動、、ブロークン・ブロッカー」

なんだと！！！

ブロークン・ブロッカー
通常トラップ
自分フィールド上に存在する攻撃力より守備力の高い守備表示モンスターが、戦闘によって破壊された場合に発動する事ができる。そのモンスターと同名モンスターを2体まで自分のデッキから表側守備表示で特殊召喚する。

「ブロークン・ブロッカーの効果によって俺はデッキからもう1体のタンク・クラスターを守備表示で特殊召喚する」

さっき倒した戦車のモンスターがブロークン・ブロッカーのカードの絵柄から出現する

「そして、、タンク・クラスターの効果を再び発動、、デッキから鋼鉄戦士ガード・クラスターを手札に加える」

なんつー恐ろしいコンボなんだ、手札増強しすぎだ

「俺はリバースを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×１

龍一
ＬＰ４０００
手札６枚
モンスター　鋼鉄戦士タンク・クラスター
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、、俺はキッド・クラスターを守備表示で召喚」

相手フィールドに顔に少し幼さを残した子供のような機械人形が防御体制で償還される

鋼鉄戦士キッド・クラスター　（鋼鉄の旅人オリジナル）
レベル２
攻撃力５００
守備力５００
効果

このカードを召喚した次のターンのスタンバイフェイズにこのモンスターを墓地に送ることで鋼鉄戦士アンティーク・クラスターを特殊召喚することができる

「さらにリバースカードを1枚追加してターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×１

龍一
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　鋼鉄戦士タンク・クラスター、鋼鉄戦士キッド・クラスター
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン」

遠目で見た限り龍一の手札には守備力２０００のカードがあるはず、なのにそれを召喚しなかった

つまり今召喚したキッド・クラスターに何か秘密があるのか

「このままバトルフェイズに入るぜ」

「おっと、、その前にリバース発動、、威嚇する咆哮」

ック、ガチカードか

トラップカードから強烈な音波が発生する

威嚇する咆哮
通常トラップ
このターン相手は攻撃宣言をする事ができない。

「クソ、バトルを行えないか、俺はモンスターを1体裏守備でセット、さらにリバースを2枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　ロックストーン・ウォリアー、裏守備×１

魔法トラップ　リバース×３

龍一
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　鋼鉄戦士タンク・クラスター、鋼鉄戦士キッド・クラスター
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、この瞬間、キッド・クラスターの効果を発動、このカードを墓地に送りデッキからアンティーク・クラスターを特殊召喚」

相手フィールドの小さなモンスターが一気に巨大なモンスターに変化する

鋼鉄戦士アンティーク・クラスター　（鋼鉄の旅人オリジナル）
レベル６
攻撃力２１００
守備力２０００
効果
このモンスターが攻撃するときトラップカードを使用できない。このモンスターを墓地から除外することで鋼鉄戦士　レトロ・クラスターを特殊召喚できる

「タンククラスターを攻撃表示に変更しバトルだ、、アンティーク・クラスターでロックストーン・ウォリアーに攻撃」

アンティーク・クラスターがこちらに向かって飛んでくる

「リバース発動！！」

「残念だが、アンティーク・クラスターが攻撃する時、トラップカードは発動できないぜ」

アンティークギア効果っすか？

トラップ使えないって結構厳しいです

鋼鉄戦士アンティーク・クラスター　攻撃力２１００＞ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００

「うお！！だがロックストーン・ウォリアーが行った戦闘によって発生する俺への戦闘ダメージは０になる」

「まだ俺のバトルは続くぜ、、タンク・クラスターで裏守備モンスターに攻撃」

「俺のモンスターはメタモルポットだ」

俺の裏守備カードが表になりメタモルポットが俺のフィールドに出現する

メタモルポット
地属性レベル２
岩石族
攻撃力７００守備力６００
効果
リバース：お互いの手札を全て捨てる。その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを5枚ドローする。

鋼鉄戦士タンク・クラスター　攻撃力１５００＞メタモルポット守備力６００

俺のメタモルポットがタンク・クラスターに破壊される

「メタモルポットのリバース効果発動、互いのプレイヤーは手札を全て捨て新たにデッキからカードを5枚ドローする」

「クソ、、手札が捨てられたか」

タンク・クラスターとのコンボで潤った手札を墓地に捨てさせたのはいいが、同時に墓地を肥やさせてしまった

「メイン2、リバースを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×３

龍一
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　鋼鉄戦士タンク・クラスター、鋼鉄戦士アンティーク・クラスター
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン」

さて、、ついにきてしまったか

頼むから精霊化しないでくれよ

「俺は手札の巨大ネズミを攻撃表示で召喚」

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

「行くぜ、、俺は巨大ネズミでタンク・クラスターに攻撃」

（異世界の方、、、私に、私に痛みをください）

「ん、、何か声がしたような」

キャ～～～～～～聞かれちゃったよ～～

次女め、後で覚えてろよ

「きっときのせいだとおもうよりゅういちくん」

「何故片言に？」

「とりあえずバトル続行だ」

巨大ネズミが手に持った頭蓋骨を前に突き出しながら戦車に向かっていく

だがその頭蓋骨は敵に届くことなくタンク・クラスターから砲弾が放たれ巨大ネズミの体を粉砕する

巨大ネズミ　攻撃力１４００＜鋼鉄戦士タンク・クラスター　攻撃力１５００

誠
ＬＰ４０００－１００＝３９００

「だが、、巨大ネズミの効果を発動、、デッキから攻撃力１５００以下のモンスターを攻撃表示で特殊召喚できる」

「なるほど、、自爆特攻によるリクルーター効果を使ってきたわけだな」

「行くぜ、、俺はデッキから激昂のムカムカを攻撃表示で特殊召喚する」

激昂のムカムカ
地属性レベル５
攻撃力１２００守備力６００
自分の手札１枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

（ウッシャ、、気合入れていくよ）

「また、、声がしたような気が」

ギャ～～～～～、皆本当にやりたい放題だ～～

お前ら、打ち合わせ完全に無視しやがって

「なぁ、、誠、お前には声は聞こえないのか？」

「バトルを続行するぞ」

「いや、話を聞いてくれよ」

「激昂のムカムカは俺の手札１枚につき攻撃力が４００ポイント上昇する、俺の手札は５枚、よって攻撃力は２０００上昇する」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→３２００

「行くぜ、、激昂のムカムカでアンティーク・クラスターに攻撃だ、アングリーブロー！！」

ムカムカのハサミがハンマーのように振り下ろされアンティーククラスターを叩き割る

激昂のムカムカ　攻撃力３２００＞鋼鉄戦士アンティーク・クラスター　攻撃力２１００

龍一
ＬＰ４０００－１１００＝２９００

ヨッシャ、一気にＬＰ逆転したぜ

誠
ＬＰ３９００

手札５枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×３

龍一
ＬＰ２９００
手札４枚
モンスター　鋼鉄戦士タンク・クラスター
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、鋼鉄戦士サブマリン・クラスターを召喚」

ウクプクと龍一のフィールドの地面から吸う粒気泡が発生しそこから潜水艦型のロボットが出現する

鋼鉄戦士　サブマリン・クラスター　（鋼鉄の旅人オリジナル）
レベル４
攻撃力１０００
守備力１０００
効果
このモンスターは相手プレイヤーにダイレクトアタックすることができる

攻撃力１０００のダイレクトアタック可能なモンスターか

「さらに俺はサブマリン・クラスターとタンク・クラスターを合体させる」

何!?合体だと!!!

「サブマリン・クラスターとタンク・クラスターをゲームから除外しハザード・クラスターを特殊召喚する」

相手フィールドの戦車と潜水艦のロボットが合体し巨大な潜水艦のようなモンスターに姿を変える

鋼鉄戦士ハザード・クラスター　（鋼鉄の旅人オリジナル）
レベル７水属性
機械族
攻撃力２６００
守備力２８００
融合　鋼鉄戦士　サブマリン・クラスター＋鋼鉄戦士　タンク・クラスター
このモンスターを融合召喚するとき融合は必要としない。自分フィールド上に存在する上記のカードをゲームから除外した場合のみ融合デッキから特殊召喚することができる。攻撃力を半分にすることによりこのモンスターは相手プレイヤーにダイレクトアタックすることができる。このモンスターが攻撃表示で自分フィールド上に存在するとき表示形式を１回だけ変更することができる。エンドフェイズ時このモンスターが守備表示のとき相手に８００ポイントのダメージを与える

「ハザード・クラスターの効果を発動、、このカードは攻撃力を半分にする事で相手プレイヤーに直接攻撃をする事ができる」

鋼鉄戦士ハザード・クラスター
攻撃力２６００↓１３００

「バトルフェイズ、、ハザード・クラスターで相手プレイヤーに直接攻撃」

相手モンスターの全身からレーザーが無数に発射される
そしてそれらが弧を描きムカムカを飛び越えて俺に向かってくる

「うお～～～～」

鋼鉄戦士ハザード・クラスター　攻撃力１３００（ダイレクトアタック）＞相手プレイヤー

誠
ＬＰ３９００－１３００＝２６００

「さらにメイン2でハザード・クラスターの効果を発動、１ターン

に１度このカードを守備表示に変更する事ができる」

防御態勢をとるハザード・クラスター

なるほど、俺のメインアタッカーと似たような効果ってわけか

「俺はさらにリバースカードを１枚追加してエンドフェイズ、、ハザード・クラスターの第２の効果を発動、このカードが守備表示の時エンドフェイズに相手プレイヤーに８００ポイントのダメージを与える」

ッチョ、何それ

サブマリンロイド涙目っすよ

「うぐお～～」

誠

ＬＰ２６００－８００＝１８００

「コレでターンエンドだ」

誠

ＬＰ１８００

手札５枚

モンスター　激昂のムカムカ

魔法トラップ　リバース×３

龍一
ＬＰ２９００
手札３枚
モンスター　鋼鉄戦士ハザード・クラスター
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、、俺はモアイ迎撃砲を通常召喚する」

モアイ迎撃砲
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１１００守備力２０００
効果
このカードは１ターンに１度裏側守備表示にする事ができる。

（がんばりましょう、、誠さん）

「なぁ、、さっきからお前がモンスターを召喚する度に謎の声がするんだけど」

「ない勘違いしているんだ、、、まだ俺のターンは終了してないぜ」

「話をする権利ぐらい俺にくれよ」

「バァトルＤＡ！！激昂のムカムカでハザード・クラスターに攻撃、アングリーブロー」

「速効魔法発動、、合体解除」

合体解除　（鋼鉄の旅人オリジナル）
速攻魔法
効果
自分フィールド上に存在する鋼鉄戦士と名の付く融合モンスターを１体選択しそのモンスターを融合デッキに戻す。そのさいそのモンスターの素材モンスターが除外されている場合そのモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する

「ハザード・クラスターをタンク・クラスターとサブマリン・クラスターに分離、２体を守備表示で特殊召喚」

激昂のムカムカのハサミがハザード・クラスターに当たる直前にモンスターが突如激しい光を放ちだす

そして２つに分離しアングリーブローを回避した

「タンク・クラスターの効果を発動させたいが、、あいにくデッキにもう入っていない」

「だったらバトルを続けるぜ、、激昂のムカムカでタンク・クラスターに、モアイ迎撃砲でサブマリン・クラスターに攻撃」

激昂のムカムカ　攻撃力３２００＞鋼鉄戦士タンク・クラスター
守備力１６００

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００＞鋼鉄戦士サブマリン・クラスター
守備力１０００

ック、ダメージを与えられなかったか

「メイン2に入る、俺はモアイ迎撃砲を自身の効果で裏守備にしターンエンドだ」

誠
ＬＰ１８００
手札５枚
モンスター　激昂のムカムカ、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×３

龍一
ＬＰ２９００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、よし、俺は墓地のアンティーク・クラスターの効果を発動、、このカードを墓地から除外する事で手札のレトロ・クラスターを特殊召喚する」

鋼鉄戦士レトロ・クラスター　（鋼鉄の旅人オリジナル）
レベル８
攻撃力２８００
守備力２５００
効果
このカードがフィールド上に存在するかぎりお互いに罠カードを発動できない

（またトラップを封じるカードか）

「なるほど、、強力なモンスターだがまだ俺のムカムカには届かないぜ」

「誰もムカムカを倒すとは言ってないぜ、ムカムカにはご退場願うまでだ、、手札のジェットクラスターを通常召喚」

鋼鉄戦士　ジェット・クラスター　（鋼鉄の旅人オリジナル）
レベル４風属性
機械族
攻撃力１６００
守備力１８００
効果
このカードの召喚、特殊召喚に成功したとき自分フィールド上にこのカード以外の鋼鉄戦士と名の付くモンスターが存在するとき相手フィールド上のカード一枚を手札に戻すことができる。

「ジェットクラスターの効果発動、、、激昂のムカムカを手札に戻すぜ」

キラキラキラ～～～と俺のムカムカがフィールドから姿を消す

「さて、、コレで邪魔者はいなくなった、行くぜ、レトロ・クラスターで裏守備モンスターに攻撃」

「知っていると思うが、、モアイ迎撃砲だ」

鋼鉄戦士レトロ・クラスター　攻撃力２８００＞モアイ迎撃砲　守備力２０００

「追撃だ、、、ジェット・クラスターでダイレクトアタック」

「うお～～～～～」

鋼鉄戦士ジェット・クラスター　攻撃力１６００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

誠
ＬＰ１８００－１６００＝２００

「コレでターンエンドだ」

誠
ＬＰ２００
手札６枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×３

龍一
ＬＰ２９００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン」

「おいおい、誠、、、何デュエル中に何笑ってるんだ」

「そういう龍一こそ笑ってるじゃねーか」

「龍一、最高だぜ、、最高だぜ本当に最高だ、、、お前に会えてよかった、お前と戦えてよかった、、あぁ、龍一、龍一」

「いや、、どこのヤンデレですかあなたは」

「しいて言うならニトロプラスかな」

でも久しぶりに白熱して来たぜ

血の滾りを通り越し全身の毛穴という毛穴から火がふきだしそうだ

「行くぜ、、まずは手札のビック・ピース・ゴーレムを通常召喚する」

ビック・ピース・ゴーレム
レベル５地属性
岩石族
攻撃力２１００守備力０
効果

相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードはリリースなしで召喚する事ができる。

「さらにリバースカードオープン、、ライトニング・ボルテックス」

ライトニング・ボルテックス
通常魔法
手札を1枚捨てて発動する。相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊する。

「手札を1枚捨てて相手フィールドの表側表示のモンスターを全て破壊する」

「なんだと」

バリ～～ンバリ～～ンとガラスのように粉々に砕け消滅する鋼鉄戦士達

「バトルだ、、、ビック・ピース・ゴーレムでダイレクトアタック！！！」

「墓地に眠るガード・クラスターの効果を発動、墓地に眠るこのカ

ードをゲームから除外する事でこのターンのダメージを０にする」

鋼鉄戦士ガード・クラスター　（鋼鉄の旅人オリジナル）
レベル３光属性
機械族
攻撃力８００
守備力５００
効果
墓地に存在するこのカードを除外することで、このターン自分のモンスターは戦闘によっては破壊されず、プレイヤーは戦闘ダメージをうけない。この効果は相手ターンでも使用できる。

「チィ、、ネクロガードナー系のカードか」

だが、ここで使わせたのは重畳だ

「俺はコレでターンエンドだ」

誠
ＬＰ２００
手札５枚
モンスター　ビック・ピース・ゴーレム
魔法トラップ　リバース×２

龍一
ＬＰ２９００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、モンスターを裏守備でセットしてターンエンドだ」

誠
ＬＰ２００
手札５枚
モンスター　ビック・ピース・ゴーレム
魔法トラップ　リバース×２

龍一
ＬＰ２９００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、俺はモアイ迎撃砲を攻撃表示で召喚しバトルだ、、ビック・ピース・ゴーレムで裏守備モンスターに攻撃」

「俺のモンスターはシールド・クラスターだ」

鋼鉄戦士シールド・クラスター　（鋼鉄の旅人オリジナル）
レベル３地属性
機械族
攻撃力５００
守備力２０００
効果
なし

ビック・ピース・ゴーレム　攻撃力２１００＞鋼鉄戦士シールド・クラスター　守備力２０００

「がら空きだな、、モアイ迎撃砲でダイレクトアタック」

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

龍一
ＬＰ２９００－１１００＝１８００

「メイン2に移る、、俺はモアイ迎撃砲を裏守備に変更しリバースを1枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ２００
手札４枚
モンスター　ビック・ピース・ゴーレム、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×３

龍一
ＬＰ１８００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、、リバース発動、マシン・メディカル・テェック」

マシン・メディカル・チェック　（オリジナル）
通常トラップ
自分の墓地の鋼鉄戦士と名のつくカードを2枚までデッキに戻す。

「俺は墓地に眠るシールド・クラスターとキッド・クラスターをデッキに戻しシャッフル、、さらにサモン・クラスターを攻撃表示で召喚」

鋼鉄戦士サモン・クラスター
レベル４闇属性
機械族
攻撃力１０００
守備力１５００
効果
このモンスターを攻撃表示で召喚したとき守備表示に変更する。手札を一枚すてることでデッキからレベル３以下の鋼鉄戦士と名の付くモンスターを一体特殊召喚することができる。この効果は１ターンに１度しか使えない

「サモン・クラスターの効果によってこのカードは守備表示になる、、そして手札を１枚捨ててデッキの中からシールド・クラスターを特殊召喚する、さらに魔法発動、死者蘇生」

死者蘇生
通常魔法
自分または相手の墓地に存在するモンスター１体を選択して発動する。選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

「俺は墓地に眠るサブマリン・クラスターを蘇生、、そして魔法発動、、デュアル・サモン」

デュアルサモン
通常魔法
このターン自分は通常召喚を2回まで行う事ができる。

コレで龍一は通常召喚をもう1度行う事ができる
フィールドにはモンスターが3体

神クラスのモンスターでも出そうというのか

「俺は3体の鋼鉄戦士を生け贄に鋼鉄神ラハールを特殊召喚する」

鋼鉄神　ラハール　（鋼鉄の旅人オリジナル）
レベル１０闇属性
機械族
攻撃力４０００
守備力４０００
効果
このカードは特殊召喚できない。自分フィールド上に存在するモン

スター3体を生け贄に捧げた場合のみ通常召喚することができる。
このカードの召喚に成功したとき相手フィールド上に存在するカードすべて破壊する。このカードは魔法・罠の効果をうけない

（フン、、やっと俺様の出番か）

（待たせたな相棒）

「ぅお!!!それが龍一の精霊か」

「なんだ、、誠、精霊が見えるのか?」

「あぁ、、いや～～～っぽいいな～～、カッコイイ系の精霊は」

「そういう誠の精霊は何なんだ?見えるってことはいるんだろ?」

きやがった～～～～その話題きちゃった～～～

どう乗り切るんだ俺

「ガタガタ、、、ガタガタガ」

「おい誠、、、なんかデュエルディスクが暴れてないか」

「気のせい気のせい、、気のせいだ」

マンガなどで“武器の威力が強すぎて扱いきれねー”って現象があるが

俺のデュエルディスクはまさにそんな状況だ

デッキとセメタリーを抑えてはいるがいつあいつらが出てきてもおかしくない

「こうなったら、、、アレしかない」

何故か近くにお城の模型があったので俺は左手の甲をお城のとがっている屋根に突き刺す

「ッチョ、何やってるんだ」

「遊戯王のオマージュです」

どうにかごまかせているようだ

若干龍一の目がひいている気もするが大丈夫だろう

「さぁ、、デュエルを続けようぜ」

「いや、デュエルを続ける前に病院に行かないといけない気がするが、まぁいい、、、ラハールの効果を発動、、召喚成功時相手フィールドの全てのカードを破壊する」

バルバロスみたいなものか

しかしＬＰ４０００の世界で攻撃力４０００のカードがその効果も

ちなのは恐ろしいぜ

「ッグ、、だったらその効果にチェーン発動、、和睦の使者」

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは０になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

「うお～～～～」

バリアのようなものが発生し俺の体をつつむ

だがバリアはあくまで俺の周りだけしか保護してない為俺のフィールド上のカードは全て破壊されてしまう

「俺のラハールをかわすとは、、俺はコレでターンエンドだ」

誠
ＬＰ２００

手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

龍一
ＬＰ１８００
手札０枚
モンスター　鋼鉄神ラハール
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、、速効魔法サイクロンでリバースを破壊する」

コレで相手の場にはラハールのみ

手札も０

ここであのカードを破壊すれば勝ちは目前だ

「俺は墓地に眠る８体の岩石族モンスターをゲームから除外し現れろ、、メガロック・ドラゴン」

「メガロック・ドラゴンだって！！」

さぁ、、行くぜ相棒

「って、、、アレ？」

デュエルディスクにカードをセットしたがいっこうに相棒の姿が現

れない

「ハハハハ、、こっちこっち」

ゲェ～～～メガロックが精霊体で龍一の真後ろに出現しだしたし

完全に龍一も顔がキョトンとしてるよ

「いや～さすがは誠、、いいタイミングで私を召喚するね」

「いいから早く戻ってきてくれ」

「ハイハイ、せっかちだねまったく」

ゆっくりと龍一の後ろから俺のフィールドに歩いてくるメガロック

「さて、それじゃあいくよ」

俺のフィールドにつくと同時に振り向き地面に拳を突き刺すメガロック

ゴゴゴゴゴと地面が割れはじめいくつもの岩石がメガロックを包み込みバキバキバキと変形しメガロック・ドラゴンの形となった

メガロック・ドラゴン
地属性レベル7
岩石族
攻撃力?守備力?

このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる。

「って、もしかして今の人」

「……俺の相棒のメガロック・ドラゴンです」

もう完全に俺の精霊達の事がばれちゃったな

しかもメガロックにいたっては接触までしちゃったし

「……少しうらやましいかもしれん」

「バキッ！！」

「ガハッ！」

突如鈍器で頭を度突く音が響く

見てみると龍一の後ろにブリザード・プリンセスが立っており、その手には巨大なモーニングスターが握られている

「な、なんだプリン、、急にどうした」

「フン！！ご主人なんか知らないのだわ」

「なんだよいったい」

「続けていいか？」

「あぁ、、すまない」

「じゃあ、、仕切りなおしていくぜ、、メガロック・ドラゴンは特殊召喚時ゲームから除外した岩石族モンスターの数×７００した数値のステータスになる、俺が除外したのは８体、よって攻撃力は５６００に」

メガロック・ドラゴン
攻撃力？→５６００

「行くぜ、、メガロック・ドラゴンで鋼鉄神ラハールに攻撃、、、アースカノン・インフェルノ！！！」

（いっくよ～～～～）

（ウオ、、なんてパワーだ）

メガロックから放たれる熱線をビームシールドのような物で防ぐラハール

だが熱線がそのシールドを貫きラハールの体をドロドロに溶かし破壊する

メガロック・ドラゴン　攻撃力５６００＞鋼鉄神ラハール　攻撃力４０００

龍一
ＬＰ１８００－１６００＝２００

ヨッシャ、ＬＰはならんだ

向こうのフィールドにはカードは１枚も存在しない

この状況どう逆転する龍一

「コレでターンエンドだ」

誠
ＬＰ２００
手札３枚
モンスター　メガロック・ドラゴン
魔法トラップ　なし

龍一
ＬＰ２００
手札０枚

モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「俺のターン」

デッキからカードをドローする龍一

カードを確認した瞬間一瞬笑みをこぼす

「この勝負もらったぜ」

「さぁこい！！！」

あぁ、、どんなカードを見せてくれるんだ

「コレが俺の最後の切り札だ、、速効魔法最終機甲合身！！！」

最終機甲合身　（オリジナル）
速攻魔法
自分ＬＰが５００以下で自分手札、フィールドにカードがこのカードしか存在しない時発動できる。墓地の鋼鉄戦士、または鋼鉄神と名のつくモンスターをゲームから除外しその条件にあった鋼鉄戦士、または鋼鉄神と名のつく融合モンスターをエクストラデッキから特殊召喚する、この効果で特殊召喚されたモンスターの攻撃力は１００上がる。ターン終了時そのモンスターは破壊されそのカードの

コントローラーはデュエルに敗北する。

「俺は墓地に眠るラハールとレトロ・クラスターにハザード・クラスターをゲームから除外する」

墓地から光の柱が発生しそこから3体の鋼鉄戦士達が姿を現す

あ！！ゴメン1体は神でした

「巨大なる力を束ね、、、今こそ降臨せよ、鋼鉄神デストロイ・クラスター」

3体の機械達がそれぞれバラバラにわかれそれらが連結試合最終的に超巨大なロボットの姿となった

鋼鉄神デストロイ・クラスター　（オリジナル）
レベル１２闇属性
機械族
攻撃力２５００
守備力１９００
融合　レベル7以上の鋼鉄と名のつくモンスター×３
効果
このモンスターを融合召喚するとき融合は必要としない。自分フィールド上に存在する上記のカードをゲームから除外した場合のみ、融合デッキから特殊召喚することができる。このカードがレベル４以下のモンスターと戦闘を行う時そのモンスターの効果はエンドフ

エイズまで無効となる。このカードがレベル６～７のモンスターと戦闘を行う場合その戦闘によって相手モンスターを破壊した時相手の手札を2枚ゲームから除外する。このモンスターがレベル７以上のモンスターと戦闘を行う場合相手モンスターのレベル×４００した数値をこのモンスターの攻撃力に加える。

「最終機甲合身の効果によりデストロイ・クラスターの攻撃力は１０００ポイント上昇する」

鋼鉄神デストロイ・クラスター
攻撃力２５００→３５００

「バトルだ、、デストロイ・クラスターでメガロック・ドラゴンに攻撃」

「攻撃力３５００で攻撃力５６００のモンスターに攻撃だと」

「あぁ、、そしてその瞬間デストロイ・クラスターの効果を発動する、、このカードがレベル７以上のモンスターと戦闘する場合このカードはそのモンスターのレベル×４００した数値を攻撃力に加える」

「俺のメガロック・ドラゴンはレベル７」

鋼鉄神デストロイ・クラスター
攻撃力３５００↓６３００

ガシっとデストロイ・クラスターがヘル＆ヘブンのように両腕を前に突き出す

そしてガシンガシンとパーツが出現、変形し巨大なキャノン砲の形となる

そしてその先端にエネルギーが収束されていく

「マキシマム・デストロイ・キャノン！！！」

キャノン砲の先端からアースカノン・インフェルノよりも巨大なレーザーが放たれメガロックごと俺を貫いていく

「うお～～～～～」

鋼鉄神デストロイド・クラスター　攻撃力６３００＞メガロック・ドラゴン　攻撃力５６００

誠
ＬＰ２００－７００＝－５００

「ちぇっ、俺の負けか」

デュエルが終わり立体映像が消滅する

「楽しいデュエルだったぜ誠」

「ああ俺も楽しかったぜ」

互いの健闘をたたえガシっと握手をする

するとお互いの後ろに扉が現れた

「おっどうやら帰れるみたいだな」

「ああじゃあな誠」

「次は負けないぜ龍一」

俺達はそれぞれ扉をくぐった

「いや～～～楽しかった楽しかった」

ドアを潜り抜けると同時にあふれんばかりの光が収まっていく

するとそこはデュエルアカデミアではなくスクラップ置き場っぽい場所であった

そして俺の目の前には黒いコートに帽子をつけ巨大なパイルバンカーとリボルバーを持った男と緑色のタイツに身を包んだ女性が立っていた

「おっと、、こいつは、新しいエトランゼかな」

「あのう、、つかぬ事をお伺いしますが、ここはどこでしょうか？」

「ここは、、無限のフロンティアさ」

「ウソダドンドコド～～～～～」

って、ここは

「何だ、、、夢だったのか」

目の前に勇者王とニート侍っぽい声の人が出てきた時はどうしようかと思ったぜ

「お、、作者が気を使ってくれたのか時間が少しさかのぼっている」

コレなら遅刻しそうにない

「ポロ」

「ん！？」

何かが落ちる感覚がしキャッチしてみると白い小さな塊が

「、、、、、歯、抜けちゃったな」

あいすマンジュウ恐るべし

ってな事があったんだが真間に話すわけにもいかないな

異世界とか別作品とか言ってもきっと通じないしな

「秘密だ、、、それよりも、荷物をせいりすっぞ」

「そうだな、、、晩飯までには終わらせるか」

コラボ番外編鋼鉄の勇気輝け〜まぶしい光を浴びて〜（後書き）

この作品を書く為に私は蛇さんの小説に出てくるモンスターの効果部分を全てメモ帳に記録しました。

そしてバブルマンといい最終機甲合身といい手札に1枚のみ発動する効果って本当に難しいと思います、まぁ最終機甲合身は俺が考えたカードなんですが。

コラボといえば野良猫さん、、最近連絡取れないな〜。今頃チベットにいるのでしょうか（後にパワーアップアイテムを宅急便で郵送）

それでは次回また会いま

「チョット待った〜〜〜」

「お！！誠また後書きにやってきたな」

「いい加減2期に入ってくれないか？もう番外編とかいいだろう」

「まぁ、、正直俺もここまで長くなるとは思わなかった、、だが安心しろ」

「おぉ、、ついに」

「あと7話くらいやったら2期入るから」

「先がなげ〜〜〜〜〜」

最後になりましたが蛇さんありがとうございます。

第３２話君が主でメイドが私達で（前書き）

いまさらですがこの小説にＲ１５指定と残酷な模写あり設定をつけました。

当初は巨大ネズミ次女のせいでＲ指定をつけるだろうと考えてましたがまさか雪のためにつける事になろうとは。

それではＲ指定という拘束具から開放された流されて、デュエルアカデミアをどうぞ。

第３２話君が主でメイドが私達で

「エへ、、、デへへへ、エへへ」

「雪、、、しっかりしろ雪」

「すばらしいです、、、七野様」

部屋に戻るとそこには異様な光景が広がっていた

鼻血を噴出しヘラヘラと笑う雪さん

そんな雪さんに呼びかける真間

そしてそんな光景を目を輝かせて見守る巨大ネズミ次女

どうしてこんな事になったのか

時をさかのぼる事１時間

１時間前

「すごい不評だぜ」

放課後

俺は学校の中にあるパソコンでインターネットの小説投稿サイトに授業中こっそり筆記していた“仮面ライダーディケイド～エンジェルビーツの世界編～”を投稿したのだが恐ろしいまでの叩かれ具合である

ディケイドが奏をファイナルフォームライドして天使の翼を生えさせるというネタを書いたのだがありえないくらい叩かれている

“奏のあの翼は音無に言われて追加したと言う設定がいいんじゃないか”

“マジうp主のセンスを疑います”

“むしろゆりっぺの出番が全然ね～～”

“ユイを出さないだと貴様～～～”

“椎名を出さないとは、あさはかなり”

俺だってな、ユイが書きたいんだよ～～～

でもしょうがないじゃないか、ユイ戦闘要員じゃないし

まてよ、ディケイドを響鬼にカメンライドさせユイと一緒に音撃道セッションをするのもありか

しかし、皆ボロクソに叩くだけ叩いて評価ポイントを全然くれない

評価ポイントもプラスしかないはずなのに何故かマイナス評価ばか

りされ－２９１ポイントに

評価時には1～5までのポイントを入れるはずなのに何故マイナスに

様々な誹謗中傷の数々に＋1ポイント評価してくれている人がいた

何々

“奏が好きなので奏メインの話なのは良かったです。ですがやはり奏での翼は音無に言われて自分でその機能を追加したという設定がいいと思います”

初めて穏やかなメッセージを見た気がする

アンチ種房に負けない位の罵詈雑言のなかこのメッセージにすごい暖かさを感じてしまった

コメントをしてくれた人は、、、うめ吉さんか

この人も小説を書いているのか、、、しかも遊戯王の小説

主人公が厨二病!?すばらしい

チョット読んでみるか

視線変更～雪～

「じゃあね雪」

「また明日～～～～～」

「ハイ、、また明日」

授業が終わり私は友達と別れ部屋に戻っています

先程購買で買った新カードでデッキを調整したいです

今夜は徹夜の覚悟です

「ガチャ」

「お帰りなさいませ、、七野様」

「バタン！！！」

今私の部屋に見知らぬメイドさんがいた気がします

思わずドアを閉めてしまいました

何故メイドさんが、きっと何かの見違いのはずです

「バタン」

「七野様、、お茶が入りました、、どうぞお召し上がりください」

「、、、、とりあえず失礼します」

やはり私の部屋にメイドさんはいます

私は臆することなく席に着きメイドさんが入れてくれた紅茶を口にします

それと同時にメイドさんの姿を確認しましたがデュエルアカデミアの生徒ではないようです

漆黒のメイド服に白いエプロン

メイドカチューシャには獣耳がついています

顔つきからして私達と同世代か少し下のようです

こうやって私が観察している間も謎のメイドさんはせっせとティーセットをしまいキリキリと働いています

「この紅茶、すごくおいしいです、、、ところであなたは何者ですか?」

「通りすがりのメイドです」

すごく優しい笑顔で答えてくれました

ですが困りました、このメイドさんの正体が全然わけがわかりません

「ご馳走様です、、、あなたの正体はわかりました、、、って、その通りすがりのメイドさんが私に何の用でしょうか?」

「実は、、七野様にお話があります」

ティーセットをしまい終え、すごく真剣な表情で私に向き合う謎のメイドさん

「七野様、、、、、メイドをやりませんか？」

「え！？」

「私思うんです、、、七野様はメイドの素質があると」

私にメイドの素質ですか

つまり気遣いができる

上品

おしとやか

悪いイメージはないです

「七野様は、、、よいマゾメイドになると思えます」

「そこなんですか！？」

「ハイ、、、七野様はすばらしい妄想＋純情型マゾメイドになれると思います」

「今の台詞のどこにすばらしい部分があるのですか？」

少しでも喜んだ私がバカみたいです

「っというわけで、、、マ～ジジルマ・マジジンガ」

「え、、、キャ」

突如メイドさんが旋風となって私の周りを一周します

そして気が付くと服装が制服からメイド服に変ってました

「お色直し完了です」

「エ、、チョ、何ですコレ」

「ご存じないのですか、、、メイド服です」

「いえ、、知ってますから」

よく見てみると私の制服がクリーニングされて綺麗にたたまれて部屋の片隅に置かれています

あの一瞬で私から服をはぎメイド服を着せ制服をきれいにし綺麗にたたむ事までしていたとは

恐るべしメイドパワー

「それでは早速真間様の部屋に向かいましょう」

「チョ、、この格好でですか?しかも真間さんの部屋に」

笑われてしまいます
絶対に皆に笑われます
そもそも廊下に出た瞬間私はさらし者です
「七野様、、、恥ずかしい事はありません、むしろその羞恥心が快楽になります」
「あなたは少し人間としての常識を持ってください」
「あなたではありません、、メイド長と呼びなさい」
本当に何なんですかあなたは～～～～～
そして外に出て数秒
「ガヤガヤガヤガヤ」
すっかり他の生徒の皆さんに囲まれてしまいました
「キャ～～～七野さんかわいい～～～」
「メイドよ、メイドが来たわ～～～」

「私の事をご主人様って呼んで〜〜〜〜」

「いいえ、、ここはご主人たまに決まってるじゃない」

「そのメイド服のお尻の部分から出ている尻尾をおもいっきし引っ張らせて〜〜〜」

すごい勢いでもみくちゃにされてしまいます

ですが何故誰一人としておかしいと言ってくれないんですか？

「うっわ〜〜〜、何々、すごい人だね」

「何かあったのかしら」

「あ、、スバルさん、ティアさん、、助けてください〜〜〜〜」

何故かは知りませんが沢山のお友達に胴上げさせられたあげく神輿のごとく担がれ移動しているとスバルさんとティアさんが話しかけてきてくれました

「あ〜〜、雪メイド服着ている、かわいい〜〜〜」

「えぇ、、似合ってるわね」

お願いです

お願いですから

誰かまともなリアクションをしてください〜〜〜〜〜

視線変更～真間～

「誠～～、戻ってるか、さっき購買で面白いカードを手に入れたんだが」

部屋に戻ると誠の姿はない

変わりに謎のメイドと部屋の片隅ですすり泣くメイド服を着た雪の姿があった

「お帰りなさいませ、空栗様」

「うぅ、、ヒグ、、、、エグ」

「どうした雪、、、何かあったのか」

とりあえず謎のメイドが気になるが大号泣している雪に近づく

「うぅ、、真間さん、ひどいんです」

「ひどいって、、、まさか」

この見知らぬメイドが雪に何かを

「皆、私がメイド服なのに誰も突っ込んでもらえず、かわいいかわ

いいと私を担ぎ上げ、、私、辛かったです」

「いや、、でも、雪、、似合ってるぞそのメイド服」

「、、、、、本当ですか」

「あぁ」

だんだん雪の表情が明るくなり始める

「ありがとうございます真間さん」

「、、、さっき散々かわいいと言われ続け嫌気がさしていたのに、やはり男性に言われる一言は違うようですね」

「さて、とりあえず、、、、君の名前を教えてくれるかい？」

「通りすがりのメイドです、、、、覚えておいてくださいませ」

「全然わからん、、ってそんな台詞誠のヤツも使ってたな、なんかのアニメの台詞か？」

「私もご主人様からお伺いしてましたので」

つまり

「君は誠のメイドなんだね」

「ハイ、、いつもご主人様がお世話になってます」

誠にメイドか

あいつの家はメイドを雇うような家でもなかったと思うが

「誠の関係者だと言う事もわかった、、、っで、なんで雪がメイド服を着ているんだ？」

「それは私が個人的に七野様をメイドの心意気を伝授したいと思いまして」

さすがは誠の関係者といったところか

話が世界を四つか五つ飛び越えてやがるぜ

「っで、何で俺と誠の部屋にいるんだ」

「私は小野寺様のメイドですので、、、七野様にはぜひ空栗様の専属メイドになってもらおうと」

「真間さんの専属メイド！！！！！！」

視線変更～妄想世界の雪～

私は七野　雪、、花も恥らう１６歳

自分で言うのもなんですが１６歳と言う若さであるお方の専属メイドをしています

今日も私は愛しのあの人を起こしに部屋に向かってます

「失礼しますご主人様、、朝でございます」

ドアを開けて部屋に入る

部屋の片隅に設置されているベッドには私のご主人様　空栗　真間様が静かに眠っています

まるで死んでるのかと錯覚してしまうほど静かな寝顔ですが死んでるわけではありません

「ご主人様、、おきてください」

軽く体をゆすりますがご主人様は全然起きる気配がありません

「しょうがないご主人様ですね」

2、3回体をゆすりますがいっこうに起きる気配がありません

ここまではいつもの朝でした

ですが今日この日だけは違ってしまいました

いつも見慣れているあの人の顔

私しか知らないこの無防備な顔

気が付くと私はその人に覆いかぶさり顔をなでています

「いただいてしまっても、、、、いいですよね」

そっとご主人様の顔に自分の顔を近づけていきます

あと数センチで触れ合う距離まで近づき

「って、、、キャ」

突如視界が急回転

何が起こったのか理解できず気がつけばご主人様が私の上にいます

「いけないメイドだな、、、、ご主人様の寝込みを襲おうとするなんて」

私の目の前にはいつもの優しい笑顔とは違う小悪魔的な笑顔のご主人様の顔が

「一体お前は何をしようとしたんだ」

「私は、、、その」

逃げ出そうとしたが私の体は完全に押さえつけられている為抗う事さえ叶わない

「とにかく、、、主人にはむかった罰を与える、、、このベットの上で」

まるで爬虫類が這うかのごとくご主人様の腕が私の体に触れる

寝汗で少し湿った手のひら

ゆっくりと、私の体と心を侵略していくご主人様

そして行為がエスカレートしついに乱暴に私の腕をつかみ……

視線変更～誠～

「いや～～～～、実に面白かった」

思わずうめ吉さんの小説を全話を読んでしまった

しかしこの世界では二次元で初期ＬＰが８０００なんだな

しかしシンクロ召喚がこの世界では二次元では当たり前とは

なるほど、、、ここでシンクロ召喚が有名になって未来の世界、つまり5DSの時代にチューナーとかが出てくると言うわけだな

「ん!?」

部屋に戻ろうとすると俺の部屋に何人もの男子生徒が張り付いていた

なんだ、中に芸能人でもきているのか?

「あ!!小野寺が帰ってきたぞ」

張り付いている生徒の一人が俺に気づく

そしてそれと同時に俺に向かって恐ろしいまでの殺気を視線に乗せ俺をにらみ始める

「小野寺、、、オレハクサマヲムッコロス!!!!!!」

伝説のロリコンと同じ台詞、同じ顔で大量の男子生徒が俺に向かって飛んでくる

「ゴムゴムの〜〜〜ガトリング!!!!」

別に腕がのびるわけではないが襲い掛かってくる男子生徒1人に最低5発パンチを叩き込み次々と2階から地面に吹っ飛ばす

「ギャ〜〜〜〜」

「ヒデブ」

「ウソダドンドコド～～～」

バコバコと襲い掛かる生徒達を1階に叩き落していく

普通なら大怪我をする大惨事なのだがさすがはギャグパート、誰一人として怪我してないぜ

「さて、、掃除も終わった事だし、部屋でデッキ調整でもするか」

回想終了

とりあえずこの状況を誰に確認するかだな

雪さんはダメだ、鼻血の海に沈んでとてもじゃないが話ができる状況じゃない

真間は真間で雪さんを気づけさせる為必死だ

っとなると残るは

（次女、、チョット話がある）

おそらくこの事態の首謀者らしき次女と話をする為心の中で会話をし部屋の角に呼び込む

（ハイ、、、何でしょうかご主人様）

（この事態を説明して欲しいんだが）

（ハイ、、、カクカクシカジカっと言うわけです）

（、、、、、色々と突っ込みたいが、一つ聞かせてくれ）

（ハイ、、何でしょう）

（どうしてお前も実体化してるんだ）

（ご主人様がいけないんですよ、、、最近新デッキ作成という理由で私達をほっぽって、私は、、私は、私は毎晩欲求不満で体が満たされません）

（次女、、、この世界は一応子供向けのアニメの世界なんだから、少しは言葉を選べ）

ジュドー・アーシターの声で“あんたの存在そのものがR指定なんだよ”っと叫びたい

（それに、、少しはご主人様の力になりたいんです、ご主人様最近無理しすぎです）

（、、、、、、まったく、ムカムカといい、俺ってそんなに無理してるのか）

まぁ、それだけ仲間に愛されているって事なのかもしれないが

（ご主人様は気づいてないかもしれませんが新デッキ作成のストレ

スがたまっています、、そこで私は考えました、、メイドの素質がある七野様をメイドにする特訓をさせ空栗様の専属メイドにしたてあげ、空栗様と七野様が急接近、、そして勝手に実体化した私はご主人様の怒りにふれる、普段は温厚なご主人様ですが新デッキ作成の際にたまっていたストレスが爆発、そしてその矛先は罰を犯した私に向けられ、、、私は否定はします、、ですが私はご主人様の怒りに触れた身、かたくなに否定する事はできず私はご主人様のいい玩具になる、、、コレで皆幸せハッピーエンドでいいじゃないですか？）

（長々と語ってもらって悪いんだが、、、最後の部分は絶対に実現しないからな）

（そう、、最初は俺も思っていた、、、だがいつまでたっても完成の見込みが見えない新デッキ、、俺の精神は予想以上に怒りの支配されていた、、そして俺の目の前にはまるで怯えるチワワのごとく怯えつつもどこか嬉しそうに主の罪を待つ哀れな子羊が一匹、、もうすでに理性なんて言葉は俺の脳内には存在していない、、、、感情のおもむくままに俺はその罪びとの衣類を引き剥がしに入る）

（何変なナレーション入れてるんだよ、つーか本当に勘弁してくれ、、、この小説がなくなってしまう）

コレがアニメ本編で放送されたら軽い事故、、、いや、エンドレスエイトばりの放送大事故だぜ

「アレ？、、誠帰っていたのか」

「あ、、あぁ、遅れてしまったが、ただいま」

雪さんが意識を取り戻したのか落ち着いた2人が話しかけてきた

「ところで、、そのメイドはお前の知り合いらしいが」

「あ、、あぁ、ちょっとな」

「そのメイドさん、、誠さんの知り合いだったんですか、、、、つまりアキバからきたのでしょうか?」

レイヤー扱いですか雪さん、最近この人毒舌スキルを会得してるよな

「私をあんなメイドの“メ”の字も知らない安いメイドと一緒にしないでください、、私こそ、あらゆる苦痛を快楽に変える事の出来る本当のメイドです」

「お前にとってメイドとは何なんだ?」

「、、、、、私に質問するな(仮面ライダーアクセルの声で)」

「……」

「あぁ、、ご主人様の四肢が私の体に絡まっていく」

「真間さん、、アレは俗に言う卍固めですよね?」

「あぁ、、あの闘魂レスラーアントニオ猪木の得意技だ」

数分後

「それでは七野様、、あなたにメイドの極意をお教えいたしますね」

「あのう、右腕と右足がよからぬ方向に曲がっている気がするのは気のせいでしょうか？」

俺達の意見をすっ飛ばし次女が雪さんにメイドの教育をし始める

だが肝心のメイド長は全身の間接が複雑に変形しておりまるで糸がからまった操り人形のようなトリッキーな見た目になっている

「いいですか、、まずメイドには、主を第1に考えます、ですがただ三つ指そろえて後ろに座してるだけでなく、時に間違いも正さないといけないんです」

「ハイ、、コーチ」

「コーチではありません、、メイドマスターとよびなさい」

向こうは向こうで楽しんでいるようだ

「なぁ、、真間、止めないでいいのか？」

「いいんじゃねーか、、当人同士が楽しければ」

まぁ、、確かにそうかもな

「もっとほほを上気させ、瞳をうるわせて、、そして主の怒りにふ

れ怯えつつもお仕置きを望むまなざしとオーラを作るんです」

「ハイ、、メイドマスター」

「メイドマスターではありません、メイドエンペラーとよびなさい」

「メイドたるもの常に毅然とした態度で穏やかな心を持たねばなりません」

「ハイ」

「ですが2人っきりになった時、チョット女の子らしいところを見せてご主人様にメイドを女性と認識させるのも重要です」

「ハイ、、メイドエンペラー」

「メイドエンペラーではありません、、メイドゴットとよびなさい」

「メイドたるもの様々な力を持っていなければいけません、座禅を組んだまま宙に浮かんだり、ジャンプ特性ジッポで焼いたニンニクの力でビームを打ったり、1秒間にボタンを12連打したり、、、、メイドとは万能でなければなりません」

「なるほど、、あらゆる状況に応じなければいけないというわけですね、わかりましたメイドゴット」

「メイドゴットではありません、メイド・オブ・メイドです」

「１秒間に１００メートルの距離を雑巾掛けをできるようになりなさい、、１秒間に礼儀正しいお辞儀を５０回できるようになりなさい」

「ハイ、、メイド・オブ・メイド」

「メイド・オブ・メイドではありません、、メイド・イン・チャイナといいなさい」

「いや、呼び名のグレード下がってないか」

「立つのです、、そんなのでは明日の大会では勝てませんよ」

「行きますよ真間さん誠さん、、、、三位一体です」

「あぁ、、今の子供には絶対に通じないな」

「なんかこう違うんです、、、メイドって言うのはこう、心の奥底

からわいてくるパッションといいますか、、、とにかくこうド～～ンとなるものなんです」

「こんなやつらの為に誰かの涙は見たくない、、みんな笑顔でいて欲しいんです、だから見てください、、俺の変身」

「雪、、お前を信じろ、お前が信じる俺じゃない、、俺が信じるお前じゃない、、お前が信じる、お前を信じろ！！！」

「問おう、、あなたが私のマスターか？」

数時間後

「ハ～～ハ～～、、ゼ～～ハ～～」

「久しぶりに、、筋肉が痛む」

「つーか、、、何で俺達まで特訓を」

気が付けば何故か俺と真間も特訓に巻き込まれていた

特訓が次第にエスカレートし何故か外で大暴れをしていた

「すばらしいです七野様、、この数時間で見違えるほどメイドになりましたね」

「コレも優秀なコーチのおかげです」

夕日をバックに硬く握手をしあう2人

何この柔道一直線的な絵

まぁ嫌いじゃないけどな

「それでは最後に、、七野様、、卒業デュエルと行きましょう」

「デュエルですか」

「ハイ、、七野様、、私の屍を乗り越えてください」

「わかりました、、、デュエルである以上全力でいかせてもらいます」

互いにデュエルディスクをかまえあう2人

「「デュエル」」

雪

ＬＰ４０００

次女

ＬＰ４０００

「私からいかせていただきます、、、ドロー、私はモンスターを裏守備でセットしてターンエンドです」

しかし次女はどんなデッキを使うんだろう

三女はエンドレスリクルーターデッキだった

初手が裏守備のセットのみだから全然わからん

雪
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

次女
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

「私のターンですね、、、私はリトルバルキリー・レッドを召喚します」

リトルバルキリー・レッド　（オリジナル）
レベル４炎属性
天使族
攻撃力１５００守備力８００
効果
フィールド上で表側表示で存在するリトルバルキリーと名の付くモンスター1体につき攻撃力２００ポイントアップする。

雪さんのフィールドに火柱が上がりそこから真紅の鎧を身にまとった天使が姿を現す
初見のカードだがこの世界のオリカだろうか？

「さらに魔法発動、、、エンジェルフォン」

エンジェフォン　（オリジナル）
通常魔法
自分フィールドにリトルバルキリーと名のつくモンスターが存在する時発動できる。デッキからレベル４以下のリトルバルキリーと名のつくモンスター1体を特殊召喚する、そのモンスターは自分フィールド上に存在するモンスターと同じ属性のものは選択できない。

「私はデッキからリトルバルキリー・グリーンを攻撃表示で特殊召喚します」

天から純白の携帯電話が落下しリトルバルキリー・レッドがボタンを数回プッシュする

すると突如木の葉と旋風がフィールドに発生しまるで忍者のように深緑色の鎧を身にまとった天使が降臨する

リトルバルキリー・グリーン　（オリジナル）
レベル４地属性
天使族
攻撃力１５００守備力８００
効果
自分フィールド上のリトルバルキリーと名のつくモンスターを対象とした魔法カードが発動した時手札を１枚墓地に捨てる事でその効果を無効に破壊する。この効果は１ターンに１度、自分フィールドにこのカード以外のリトルバルキリーと名のつくモンスターが表側表示で存在する時使用できる。

「そしてフィールドにリトルバルキリーと名のつくモンスターが２体存在するのでリトルバルキリー・レッドの攻撃力が上昇する」

リトルバルキリー・レッド
攻撃力１５００→１９００

「バトルです、、リトルバルキリー・レッドで裏守備モンスターに攻撃します」

「私のモンスターはグレイブ・スクワーマーです」

裏守備状態のカードが表になりそこからミイラ男のように全身に包帯を巻いたモンスターが出現した

グレイブ・スクワーマー
レベル１闇属性
悪魔族
攻撃力０守備力０
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、フィールド上に存在するカード１枚を選択して破壊する。

リトルバルキリー・レッド　攻撃力１９００＞グレイブ・スクワーマー　守備力０

真紅の鎧の天使が剣を星の形にふると突如ミイラ男が炎につつまれフィールドから姿を消した

「この瞬間グレイブ・スクワーマーの効果を発動、、戦闘によって破壊された為フィールド上のカード1枚を破壊します、、、リトルバルキリー・グリーンを破壊します」

次女のデュエルディスクから包帯が何本か伸び深緑色の鎧をまとった天使の体を貫き破壊する

「ック、追撃は無理ですか、、そしてリトルバルキリー・レッドの攻撃力も下がります」

リトルバルキリー・レッド
攻撃力１９００→１７００

「メイン2で私はリバースを2枚伏せてターンエンドです」

雪
ＬＰ４０００
手札2枚
モンスター　リトルバルキリー・レッド
魔法トラップ　リバース×2

次女
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターン、、私はリバースを1枚セット、モンスターを裏守備でセットしてターンエンドです」

雪
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　リトルバルキリー・レッド
魔法トラップ　リバース×２

次女
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

「私のターンです、、リトルバルキリー・ホワイトを召喚します」

今度は純白の天使が降臨する

しかしチョットうらやましいかもしれないデッキだ

うまくやればフィールドをスーパー戦隊っぽくできるんじゃないか

リトルバルキリー・ホワイト　（オリジナル）
レベル４光属性
天使族
攻撃力１５００守備力８００
効果
自分フィールド上のこのカード以外のリトルバルキリーと名のつくモンスター1体を指定する。エンドフェイズまでこのカードの効果は指定したモンスターと同じになる。

「リトルバルキリー・ホワイトの効果を発動、、エンドフェイズ時まで私の場の別のリトルバルキリーと名のつくモンスターの効果をコピーします、、私の場にはリトルバルキリー・レッドの効果をコピーします、、それにより私のモンスターの攻撃力は上昇します」

リトルバルキリー・ホワイト
攻撃力１５００→１９００

リトルバルキリー・レッド
攻撃力１７００→１９００

「バトルに入ります、、リトルバルキリー・ホワイトで裏守備モンスターに攻撃します」

「私のモンスターは黄泉へ渡る船です」

裏守備カードが表になると次女のフィールドに小型の帆船が出現する

黄泉へ渡る船
レベル３水属性
水族
攻撃力８００守備力１４００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた時、このカードを破壊したモンスターを破壊する。

「また、、戦闘破壊されることによって効果が発動するモンスター

ですか」

リトルバルキリー・ホワイト　攻撃力１９００＞黄泉へ渡る船　守備力１４００

純白の鎧をまとった戦士が手に持った剣で次女の場の船を真っ二つに切り裂く

「黄泉へと渡る船の効果を発動します、、戦闘によって破壊された時そのモンスターを道連れにします」

ドカ～～～ンと派手に爆発し黄泉へ渡る船はリトルバルキリー・ホワイトと一緒に消滅する

「ですがフィールドはがら空きです、、攻撃力が下がってしまいましたがリトルバルキリー・レッドでダイレクトアタックします」

リトルバルキリー・レッド
攻撃力１９００→１７００

真紅の天使が次女に向かって飛んでいく

「させません、リバース発動、血の代償」

血の代償
永続トラップ
５００ライフポイントを払う事で、モンスター１体を通常召喚する。この効果は自分のメインフェイズ時及び相手のバトルフェイズ時にのみ発動する事ができる。

「私はＬＰを５００支払い手札のモンスター１体をセットします」

次女
ＬＰ４０００－５００＝３５００

「かまいません、、リトルバルキリー・レッドで裏守備モンスターに攻撃します」

空中で制止していたリトルバルキリー・レッドだが再びその翼を広げ飛び回る

「私のモンスターは２枚目の黄泉へ渡る船です」

まさかの黄泉へ渡る船２連続

リトルバルキリー・レッド　攻撃力１７００＞黄泉へ渡る船　守備力１４００

先程のリトルバルキリー・ホワイトと同じく敵を破壊するもリトルバルキリー・レッドがフィールドから消滅する

「逆に私のフィールドがあいてしまいましたか、、私はコレでターンエンドです」

雪
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

次女
ＬＰ３５００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　血の代償

「私のターン、、きました、永続魔法閃光の宝札を2枚発動します」

閃光の宝札
永続魔法
このカードがフィールド上に存在する限り、自分の魔法&罠カードゾーンを1ヵ所だけ使用不可能にする。このカード以外の閃光の宝札が自分フィールド上に表側表示で存在する場合、自分のドローフェイズ時の通常ドローでカードを2枚ドローする事ができる。

「さらにクルーエルを通常召喚します」

クルーエル
レベル4闇属性
悪魔族
攻撃力1000守備力1700
効果
このカードが戦闘によって墓地に送られた時、コイントスで裏表を当てる。当たった場合、相手モンスター1体を破壊する。

「バトルフェイズです、、、クルーエルでダイレクトアタックをします」

羊頭の悪魔が雪さんに向かって手に持ってた槍を投げ飛ばす

「ッキャ」

クルーエル　攻撃力１０００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

雪

ＬＰ４０００－１０００＝３０００

「やりますね、、、さすがはメイド長」

「メイドたるものデュエリストとしての腕前も必要なんです」

いや、メイドにデュエリストとして脳では必要ないだろう

「私はコレでターンエンドです」

雪

ＬＰ３０００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

次女
ＬＰ３５００
手札１枚
モンスター　クルーエル
魔法トラップ　血の代償、閃光の宝札×２

「私のターン、、リトルバルキリー・バイオレットを召喚します」
炎と氷の柱が発生しその間から紫色の鎧の天使が雪さんのフィールドに降臨する

リトルバルキリー・バイオレット　（オリジナル）
レベル４火属性
天使族
攻撃力１５００守備力８００
効果
このカードは水属性としても扱う。このカードがフィールド上で表

側表示で存在する時リトルバルキリーと名のつくモンスター2体分として扱う（ただし生け贄にする場合一体分としてしか扱えない）

「バトルです、、リトルバルキリー・バイオレットでクルーエルに攻撃」

氷と炎の弾丸が大量に紫色の天使の翼から雨のごとく放たれる

リトルバルキリー・バイオレット　攻撃力１５００＞クルーエル攻撃力１０００

次女
ＬＰ３５００－５００＝３０００

「ですがクルーエルの効果を発動、、コイントスを当てる事でこのカードを戦闘破壊したモンスターを道連れにします、私は表を指定します」

立体映像のコインが宙を舞う

その結果は表

「クルーエルの効果によってリトルバルキリー・バイオレットを破壊します」

ボコボコっと地面から悪魔のような腕が伸びリトルバルキリー・ブラウンの体をつかみ地中に引きずり込む

「メイン2、、私はリバースを1枚追加してターンエンドです」

雪
ＬＰ３０００
手札１枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×３

次女
ＬＰ３０００
手札１枚
モンスター　なし
魔法トラップ　血の代償、閃光の宝札×２

「私のターンです、、、閃光の宝札の効果でデッキからカードを２枚ドロー、、さらにケルベクを攻撃表示で召喚します」

地面から光の粒子が渦を巻きながら舞い上がりその中心からケルベクが出現する

ケルベク
地属性レベル４
天使族
攻撃力１５００守備力１８００
効果
このカードを攻撃したモンスターは持ち主の手札に戻る。ダメージ計算は適用する。

なるほど、次女のデッキは攻撃される事で効果を発揮するカードで相手の動きを妨害

そして閃光の宝札の効果で手札を絶えさせず血の代償で魔法カード代わりの効果モンスターで相手のモンスターを除去する

だが魔法トラップゾーンが閃光の宝札×２と血の代償で埋まってしまう為相手ターンではほぼ無防備状態になる

だが黄泉へ渡る船にニュードリアにクルーエルなど破壊されてもただでは転ばないカードで相手の進撃を防ぐ

ＬＰ８０００の世界だったら絶対にやりあいたくないな

「バトルです、、ケルベクで直接攻撃」

「リバースカード発動です、、キューピットのきまぐれ」

キューピットのきまぐれ　（オリジナル）
通常トラップ
相手モンスターが攻撃してきたとき発動できる、デッキから攻撃力１０００以下の天使族モンスター1体を特殊召喚する。

「この効果で私はデッキから天界の名犬ラッシーを守備表示で特殊召喚します」

雪さんのリバースカードから羽の生えたチワワが出現する

天界の名犬ラッシー　（オリジナル）
レベル４光属性
天使族
攻撃力８００守備力２００
効果
このカードが自分フィールドから墓地に送られた時自分のデッキか

らリトルバルキリーと名の付くモンスター1体を特殊召喚する事ができる。このカードが戦闘で破壊された時デッキからカードを1枚ドローする。

「さすがです七野様、、私のMコンボを見事に受け継いでいます」

「あのう、、ただ破壊されるだけで効果が発動するカード出しただけで感動されても困るのですが」

「いいでしょう、、、師匠としてかわいい教え子の願いをかなえてあげます、、ケルベクでラッシーに攻撃です」

ケルベクの目からレーザーが発射されラッシーの体を貫きは解するやはり時代はチワワでなく真っ白な柴犬の時代なのかも試練

ケルベク　攻撃力１５００＞天界の名犬ラッシー　守備力２００

「ック、ですがラッシーの効果発動、、デッキからレベル４以下のリトルバルキリーを特殊召喚します、、私はリトルバルキリー・ブルーを攻撃表示で特殊召喚します」

水柱があがりそこから水色の鎧を身にまとった天使がフィールドに降り立つ

リトルバルキリー・ブルー　（オリジナル）
レベル４水属性
天使族
攻撃力１５００守備力８００
効果
自分フィールド上にリトルバルキリー・ブルー以外のリトルバルキリーと名の付くモンスターが存在する場合このカードは戦闘では破壊されない。

「さらにラッシーが戦闘破壊されたのでデッキからカードを1枚ドローします」

「ダメージを与えられませんでしたか、、私はコレでターンエンドです」

雪
ＬＰ３０００

手札２枚
モンスター　リトルバルキリー・ブルー
魔法トラップ　リバース×２

次女
ＬＰ３０００
手札２枚
モンスター　ケルベク
魔法トラップ　血の代償、閃光の宝札×２

「私のターン、、小天使の大剣使いを召喚します」

ガガガガガガとすごい轟音が鳴り響くと同時にごっつい天馬２匹に引かれた鋼のそりに腕を組み大きな剣を持った天使が彼方からやってくる

そして大きく飛び上がり雪さんのフィールドに着地した

小天使の大剣使い　（オリジナル）
レベル４光属性
天使族
攻撃力１７００守備力８００
効果
自分フィールド上にリトルバルキリーと名のつくモンスターが表側表示で存在する時このカードは守備表示モンスターを攻撃した時にその守備力を攻撃力が越えていれば、その数値だけ相手に戦闘ダメ

ージを与える。

「バトル、、、小天使の大剣使いでケルベクに攻撃」

ガチャっと背中から大きな剣を取り出しソレを大きく振りかぶる

その恐ろしいスイングでケルベクの体を真っ二つにする

小天使の大剣使い　攻撃力１７００＞ケルベク　攻撃力１５００

次女

ＬＰ３０００－２００＝２８００

「ケルベクの効果を発動、、戦闘によって破壊されましたので破壊したモンスターを持ち主の手札に戻します」

大剣を持った天使の足下に光の魔方陣のようなものが発生しその中に大剣を持った天使が姿を消す

「ですが私のモンスターの攻撃はまだ終わりません、、リトルバルキリー・ブルーで直接攻撃です」

「血の代償の高価を発動、、ＬＰを５００支払いモンスターを１体

裏守備でセットします」

次女
ＬＰ２８００－５００＝２３００

次女に向かって飛び上がったリトルバルキリー・ブルーの目の前に裏側表示のカードが立ちはだかる

「、、、私はリトルバルキリー・ブルーで攻撃を続行、裏守備モンスターに攻撃です」

「私のモンスターはメタモルポットです」

裏守備のカードが表になるとよ～～く見慣れている壷のモンスターが出現する

しかし出現した瞬間青い鎧の天使の剣で真っ二つに斬られてしまう

リトルバルキリー・ブルー　攻撃力１５００＞メタモルポット　守備力６００

「この瞬間メタモルポットの効果を発動、、互いのプレイヤーは手札を全て墓地に送り互いにデッキからカードを5枚ドローします」

メタモルポット
地属性レベル2
岩石族
攻撃力700守備力600
効果
リバース：お互いの手札を全て捨てる。その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを5枚ドローする。

「手札交換カード、、、ですが、逆にありがたいです、私はリバースを1枚伏せてターンエンドです」

雪
LP3000
手札4枚
モンスター　リトルバルキリー・ブルー
魔法トラップ　リバース×3

次女
ＬＰ２３００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　血の代償、閃光の宝札×２

「私のターン、、デッキからカードを2枚ドロー、、、、モンスターを裏守備でセット、、、そして血の代償の効果でＬＰを５００支払い今セットしたモンスターを生け贄にヘルポエマーを生け贄召喚」

次女
ＬＰ２３００－５００＝１８００

次女の場にゴゴゴゴと地面から洋風の墓がせり上がりその墓から鎖が数本放出される

そして地面からがりがりにやせ細ったゾンビっぽいモンスターを吊り上げその墓に貼り付けるかのようにグルグルと巻きついていく

コレがニコニコ動画だったら“もっと腕にシルバー巻くとかＳＡ”とか言われるんだろうな

地獄詩人ヘルポエマー
レベル５闇属性
悪魔族
攻撃力２０００守備力１４００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた場合効果が発動する。このカードが墓地に存在する限り、相手バトルフェイズ終了時に相手は手札からカードを１枚ランダムに捨てる。このカードは墓地からの特殊召喚はできない。

「さらに血の代償の効果を使いＬＰ５００支払い手札のＤ・Ｄアサイラントを通常召喚します」

アレ～～、次女完全に攻め殺す気まんまんですか？

次女
ＬＰ１８００－５００＝１３００

Ｄ・Ｄアサイラント
レベル４地属性
戦士族
攻撃力１７００守備力１６００
効果
このカードが相手モンスターとの戦闘によって破壊された時、そのモンスターとこのカードをゲームから除外する。

「そしてバトル、、ヘルポエマーでリトルバルキリー・ブルーに攻撃」

グケケケケケケと気味悪奇声がフィールドに響く

そして音波のようなものがリトルバルキリー・ブルーに向かって飛んでいく

「リバース発動、、翼の生えたトーテムポールを発動します」

天から謎の木材が落下しリトルバルキリー・ブルーがその手に持った剣でその木を加工していく

そして動きが止まると木材が名前の通り翼の生えたトーテムポールの形になる

翼のはえたトーテムポール　（オリジナル）
永続トラップ
このカードがフィールド上で表側表示で存在す限りリトルバルキリーと名のつくモンスターカードとしても扱う。

「しかし、そのカードでは私のモンスターの攻撃を止める事はできません」

音波になった奇声がリトルバルキリー・ブルーの体をつつむ

「ッグ」

地獄詩人ヘルポエマー　攻撃力２０００＞リトルバルキリー・ブルー　攻撃力１５００

雪

ＬＰ３０００－５００＝２５００

「ですが、リトルバルキリー・ブルーは自分フィールドにこのカードの以外のリトルバルキリーと名のつくモンスターが存在する時戦闘では破壊されません」

「ですがダメージは発生します、、さらに私はＤ・Ｄアサイラントでリトルバルキリー・ブルーに攻撃します」

顔に包帯を巻いたアサシン風の男が背負っている剣でリトルバルキリー・ブルーに切りかかる

だがリトルバルキリー・ブルーもその手に持っている剣でその攻撃を防ぐ

だがその時発生した衝撃波のようなものが雪さんを襲う

「ッキャ」

Ｄ・Ｄアサイラント　攻撃力１７００＞リトルバルキリー・ブルー
攻撃力１５００

雪
ＬＰ２５００－２００＝２３００

「なるほど戦闘で破壊されない効果で大ダメージを回避しましたか、、私はコレでターンエンドです」

雪
ＬＰ２３００
手札４枚
モンスター　リトルバルキリー・ブルー
魔法トラップ　翼のはえたトーテムポール、リバース×２

次女
ＬＰ１３００

手札４枚
モンスター　地獄詩人ヘルポエマー、Ｄ・Ｄアサイラント
魔法トラップ　血の代償、閃光の宝札×２

「私のターン、、、死者蘇生を発動です、その効果で墓地に眠るリトルバルキリー・バイオレットを特殊召喚します」

雪さんの場に再び紫色の鎧の天使が降り立つ

「そしてリトルバルキリーコマンダーを攻撃表示で召喚します」

他の天使たちとは違い上位種っぽう鎧を身にまとい眼帯を装備した少し強面の天使が召喚される

リトルバルキリーコマンド　（オリジナル）
レベル６光属性
天使族
攻撃力１５００守備力１０００
効果
自分フィールド上にリトルバルキリーと名のつくモンスターが２種類以上存在する時このカードは生け贄なしで通常召喚できる。自分フィールド上の表側表示で存在するリトルバルキリーと名のつくモンスター１体につきこのカードの攻撃力が２００ポイント上昇する。このカードが自分フィールド上で表側表示で存在する場合自分フィ

ールド上のこのカード以外のリトルバルキリーと名のつくモンスターの効果は無効化されない。

「このカードは自分フィールド上にリトルバルキリーと名のつくモンスターが2種類以上存在する時生け贄なしで通常召喚ができます、そして自分フィールド上に存在するリトルバルキリーと名のつくモンスター1体につき攻撃力が２００ポイントアップします」

リトルバルキリーコマンド
攻撃力１５００→２５００

「あれ、、リトルバルキリーと名のつくモンスターは七野様のフィールドに3体しかいないはずでは」

「フィールドには翼のはえたトーテムポールとリトルバルキリー・バイオレットも存在します、翼のはえたトーテムポールはリトルバルキリーと名のつくモンスターとして扱えます、そしてリトルバルキリー・バイオレットは1体で2体分のリトルバルキリーと名のつくモンスターとして扱えます、よって私のフィールドには5体のリトルバルキリーが存在する事になります、よってリトルバルキリーコマンダーの攻撃力が１０００ポイント上昇するんです、さらに手札の閃光の天子ア・ティナの効果でフィールドに特殊召喚します」

閃光の剣士ア・ティナ　（オリジナル）
レベル７光属性
天使族
攻撃力２２００守備力１９００
効果
自分フィールド上にリトルバルキリーと名の付くモンスターが２体以上表側表示で存在する時このカードを表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。自分フィールド上で表側表示で存在するリトルバルキリーと名の付くモンスター１体に付き攻撃力が１００ポイントアップする。このカードが表側表示で存在する限り相手はリトルバルキリーと名の付くモンスターを攻撃することができない。

「ア・ティナも攻撃力が上昇する効果を持っています、、場には５体、よって攻撃力は２７００に上昇します」

閃光の剣士ア・ティナ
攻撃力２２００→２７００

「スゲー、、たった１ターンでここまでモンスターを展開するなん

て」

モンスター1体から一転攻撃力２０００以上を2体もそろえるとは

「バトルです、、、ア・ティナでＤ・Ｄアサイラントに攻撃、光の剣！！！」

「手札のクリボーの効果を発動します」

クリボー
レベル１闇属性
悪魔族
攻撃力３００守備力２００
効果
相手ターンの戦闘ダメージ計算時、このカードを手札から捨てて発動する。その戦闘によって発生するコントローラーへの戦闘ダメージは０になる。

「このカードを墓地に捨てる事で私が受けるダメージは０になります」

ア・ティナの剣が光につつまれその姿を大きくしていく

そしてその剣でＤ・Ｄアサイラントの体を真っ二つにした

閃光の剣士ア・ティナ　攻撃力２７００＞Ｄ・Ｄアサイラント　攻

撃力１７００

「戦闘ダメージは０、そしてＤ・Ｄアサイラントの効果によりア・ティナをゲームから除外します」

真っ二つに割れたＤ・Ｄアサイラントの体から黒い瘴気のような物が発生する

そしてその瘴気がア・ティナの体を包み込みフィールドから姿を消す

「バトル続行です、、リトルバルキリーコマンダーでヘルポエマーに攻撃！！！」

強面の女剣士がヘルポエマーに飛び掛る

そしてその手に持った剣でヘルポエマーの本体を貫き墓石も貫通する

リトルバルキリーコマンダー　攻撃力２５００＞地獄詩人ヘルポエマー　攻撃力２０００

次女

ＬＰ１３００－５００＝８００

「さらにリトルバルキリー・バイオレットでダイレクトアタックです、、コレで私のかちです」

チョット待ってくれ雪さん、その台詞は敗北フラグですよ

「ゴ～～～ン、、ゴ～～～ン」

「え！？」

突如響き渡る謎の鐘の音

この演出はもしや

「手札のバトルフェーダーの効果を発動させました」

次女のフィールドにモンスターは存在しなかったはずだがいつの間にか振り子のような物で鐘を鳴らす謎のモンスターが出現する

バトルフェーダー
レベル１闇属性
悪魔族
攻撃力０守備力０
効果
相手モンスターの直接攻撃宣言時に発動する事ができる。このカードを手札から特殊召喚し、バトルフェイズを終了する。この効果で特殊召喚したこのカードは、フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

「相手が直接攻撃を仕掛けてきた時このカードを特殊召喚しバトルフェイズを強制終了させます、、そして墓地に送られたヘルポエマーの効果を発動、バトルフェイズ終了時相手の手札を1枚墓地に送ります」

次女のデュエルディスクのセメタリーから腕のようなものがのび雪の手札1枚を弾き飛ばす

まずいね～～、完全に流れが次女に傾いているな

雪さんも負けフラグたてまくり、さぁどう出る次女

「私はコレでターンエンドです」

雪
ＬＰ２３００
手札０枚
モンスター　リトルバルキリー・ブルー、リトルバルキリー・バイオレット、リトルバルキリーコマンダー
魔法トラップ　翼のはえたトーテムポール、リバース×２

次女

ＬＰ８００
手札３枚
モンスター　バトルフェーダー
魔法トラップ　血の代償、閃光の宝札×２

「私のターン、、２枚ドロー、見せてあげましょう七野様、私のエースモンスターを、バトルフェーダーを生け贄にサイバティック・ワイバーンを召喚します」

バトルフェーダーがフィールドから消え機械を体に埋め込まれたサイボーグのドラゴンが出現する

サイバティック・ワイバーン
レベル５風属性
機械族
攻撃力２５００守備力１６００
効果なし

「いや、チョット待て、何でそんなカードを、今までのカードと全

然毛色が違うじゃないか」

「何を言っているんですか、、このワイバーンは死にかけていたところを主人に助けてもらい中性を誓ったモンスター、、、いわばメイドモンスターです」

「いや、、それはおかしくないか」

「バトルです、、サイバティック・ワイバーンでリトルバルキリー・バイオレットに攻撃」

サイバティック・ワイバーンの口に光が集まる

「メイドストリーム・カノン！！！」

強烈なキャノン砲が口から発射され紫色の鎧の天使の体を粉砕する

サイバティック・ワイバーン　攻撃力２５００＞リトルバルキリー・バイオレット　攻撃力１５００

雪

ＬＰ２３００－１０００＝１３００

「リトルバルキリーと名のつくモンスターが減った事でリトルバルキリーコマンダーの攻撃力が下がります」

リトルバルキリーコマンダー
攻撃力２５００→２１００

「私はコレでターンエンドです」

雪
ＬＰ１３００
手札０枚
モンスター　リトルバルキリー・ブルー、リトルバルキリーコマンダー
魔法トラップ　翼のはえたトーテムポール、リバース×２

次女
ＬＰ８００
手札４枚
モンスター　サイバティック・ワイバーン
魔法トラップ　血の代償、閃光の宝札×２

「私のターン、、私はモンスター２体を守備表示に変更しターンエンドです」

（私の場には戦闘破壊されないリトルバルキリー・ブルーがいます、

そして翼のはえたトーテムポールが存在する為超えられる事はないはず、、ここはたいせいを整えなければ）

雪
ＬＰ１３００
手札１枚
モンスター　リトルバルキリー・ブルー、リトルバルキリーコマンダー
魔法トラップ　翼のはえたトーテムポール、リバース×２

次女
ＬＰ３００
手札４枚
モンスター　サイバティック・ワイバーン
魔法トラップ　血の代償、閃光の宝札×２

「私のターン、、、サイバティック・ワイバーンでリトルバルキリーコマンダーに攻撃」

機械仕掛の竜がその爪でリトルバルキリーコマンダーの体を切り裂き破壊する

サイバティック・ワイバーン　攻撃力２５００＞リトルバルキリー
コマンダー　守備力１０００

「さらにモンスターを1体裏守備でセットしてターンエンドです」

雪
ＬＰ１３００
手札１枚
モンスター　リトルバルキリー・ブルー
魔法トラップ　翼のはえたトーテムポール、リバース×２

次女
ＬＰ３００
手札５枚
モンスター　サイバティック・ワイバーン、裏守備×１
魔法トラップ　血の代償、閃光の宝札×２

「私のターン」

きました、、逆転のカードが

「リバースカード発動、、天使のティータイム」

天使のティータイム　（オリジナル）
速効魔法
発動後自分フィールド上のモンスター1体を墓地に送る。その後墓地に送ったモンスターと同じレベルのリトルバルキリーと名のつくモンスターをデッキから手札に加える。

「その効果でリトルバルキリー・ブルーを墓地に送りデッキからリトルバルキリー・クリアを手札に加えます」

「戦闘破壊されないモンスターを墓地に送った」

「ハイ、、このモンスターの召喚条件を満たす為です、私は墓地に眠る炎、水、風、地属性のモンスターをゲームから除外し、、エレメンタル・クイーンを特殊召喚します」

雪さんのフィールドに4色の光の柱が発生する

そしてそれらが終結しそこからエレメント・クイーンが姿を現す

エレメント・クイーン　（オリジナル）
レベル7地属性
魔法使い族

攻撃力２５００守備力１９００
効果
このカードは通常召喚できない、墓地に眠る炎、水、風、地属性のモンスターを1体ずゲームから除外する事でのみ特殊召喚できる。ダメージステップ時このカードとバトルを行うモンスターと同じ属性のモンスターカードを手札から墓地に捨てることで、このカードの攻撃力をバトルステップ終了時まで１０００ポイントアップさせる。

「バトルです、、エレメント・クイーンでサイバティック・ワイバーンに攻撃、、そしてダメージステップに手札の風属性モンスターを墓地に送る事で攻撃力を１０００ポイントアップします」

エレメント・クイーン
攻撃力２５００→３５００

「バトル続行、、エレメント・クイーンでサイバティック・ワイバーンに攻撃、、アンチ・ストームブラスト！！！」

エレメント・クイーンの杖から赤色の旋風が放出される

そしてそれにつつまれサイバティック・ワイバーンの体が千切りにされフィールドから消滅する

エレメント・クイーン　攻撃力３５００＞サイバティック・ワイバーン　攻撃力２５００

次女
ＬＰ８００－１０００＝－３００

デュエルが終わり俺達は部屋の中に戻る

「すばらしかったです七野様、、私から教える事はもうございません」

「いいえ、、私も熱く楽しいデュエルでした」

互いの健闘をたたえ手を握り合う次女と雪さん

「色々とありましたが今日はとても楽しかったです」

「私も、とても刺激的でした、、、ありがとうございます七野様、コレでしばらくは欲求の不満をまぎらせそうです」

そういって次女は雪さんから離れ俺達の部屋の玄関前まで行く

「それではまた、、ごきげんよう」

礼儀正しい挨拶をのこし次女は外に出て行く

「しかし、、さすがは誠の知り合いと言うべきか、すっ飛んだ人だったな」

「チョット待て真間、、、それじゃあ俺もすっ飛んでいるってか？」

少なくとも次女よりはましだと思うぞ

あっちはR指定俺は全年齢対象

「まぁ、、方向性は違いますが誠さんもメイド長もすごくすっ飛んでいますよ」

「スマナイ雪さん、、メイド服のあなたにだけは言われたくない、つーかあなた完全にコスプレヒロインみたいなキャラ付けになってるぞ」

その日の晩

「あれ、、、、誠、なんだこの雑誌は」

俺達の部屋には今週間少年ジ○ンプ２冊が重ねられてある

その間には巨大ネズミ（次女）のカードが挟まれていた

「チョットカードが曲がってしまってな、雑誌ではさんで形を整えているんだ」

っというのは嘘である

チョットはっちゃけすぎた次女に対するお仕置きである

（あぁ～～～～、ご主人様、、、やっと、やっと私に罰を、、この時を、この時を待ってました～～～～）

「なぁ誠、、雑誌が軽く震えている気がするのは気のせいか？」

「気のせいだ、、ソレより、新デッキで相談があるんだ」

これ以上精霊が実体化して好き勝手やられないために

ソレと、、あんましあいつらに心配かけられないしな

第３２話君が主でメイドが私達で（後書き）

何気にうめ吉さんの小説の宣伝をしてしまいました。

しかし最近小説が月２回更新と言うスロー更新になってしまっている。コレが俺の限界……

「あきらめるな冬将軍！！」

「シモンさん！！」

スイマセンなんか幻影を見ていたようです。

最後になんですが今回の小説はふと雪のリトルバルキリーデッキが１度きりの登場で敗北しかしてなかったのでチョット次女とからませてみようと思い今回の小説を書きました。

さて、次回は雪に何のコスプレをさせようか（え！？）

それではまた次回お会いしましょう。

緊急番外編2

「緊急番外編2、、、っつーわけで緊急事態だ！！！」

「毎度毎度毎度突拍子もなく出てきやがって、、今度は何だ

部屋でくつろいでいたら相変わらず進歩がない若本さんの物まねをした作者が乱入してきた

「重大なルールミスをしたか、それとも前回の次女のデュエルがやばくてついにこの小説が消滅するのか？」

「あぁ、、、、後者が正解だ」

「なん……だと」

「流されて、デュエルアカデミアはなくなります」

「チョット待て、俺の新岩石デッキは……」

「俺は手札から、魔法カード“タイトル変更”を発動させる」

いつの間にか作者の腕にはデュエルディスクが取り付けられており1枚の魔法カードをソレにセットする

「タイトル変更！？」

タイトル変更　（オリジナル）
通常魔法
現在作成中の小説を生け贄に発動、内容そのままでタイトルを変更する。

「この効果により流されて、デュエルアカデミアを墓地に送りタイトルを変更する」

「相変わらずまどろっこしいまねすんじゃね～～～～」

「ヒデブ」

強烈な回し蹴りで作者の頭部を吹き飛ばす

そして部屋の中で何回かピンボールすると綺麗にもとの位置に戻る

「って、何で急にそんな事言い出す」

「いや、、、こないだ蛇さんが住んでいる東北方面でででっかい地震があったろう」

「あぁ、、以前俺と戦った龍一の出ている小説、、“遊戯王　鋼鉄の旅人”の作者だな、、それとあざとい宣伝乙」

「ニコニコ動画とかで見たんだけど津波すごかったじゃねーか」

「ニコニコ動画で確認かよ、、ニュース見ろよ」

「それでさ、、、津波の映像を見て思ったね、、、この小説のタイトルってチョットイメージ悪くないかって思ってな」

「流される＝津波って事か？」

「あぁ、、このままじゃあ被災地の人たちに石を投げられてしまう」

「どう考えても被害妄想だ」

「アースカノン・インフェルノ！！！」

「ゴフア！！！」

雪だるまに使われる細枝から放たれるものとは思えない思い拳がみぞおちに直撃する

「お前は知らない、、世間様はどれだけ厳しいのかを、、、、光戦隊マスクマンのＤＶＤ化されない苦しみを思い出せ」

「まだそんな事を、情けないヤツ」

「ちなみにマスクマンのＤＶＤが今まで出てこれなかったのはマスクマンのＯＰで姿長官が座禅を組んで宙に浮くシーンがありそのシーンがオウム真理教の麻原を想起させると理由でＤＶＤ化はされませんでした」

「ですが今年ＤＶＤ化が決定しました、っというかもう販売されて

ます」

「まぁ、、そんな事があるから俺も次回からタイトルを変えようと思うんだ」

「なるほど、、、って新タイトルは？」

“魁！！デュエルアカデミア”」

「完全に超人気漫画のパクリじゃないか！！！」

「いや、そもそも前のタイトルもパクリだったし」

「それじゃあ、、、、、“侵略オタ息子”」

「チョット待たなイカ？おおぎり化してるでゲソ」

“屋上裏から愛を込めて”」

「詩人ですねっと言われたいのか」

「“小野寺　誠、空栗　真間と新デュエルアカデミア～はばたけ決闘者たち～”」

「とりあえずネタをやめないか」

「何を言う、、、、被災地の人たちに元気になってもらおうと俺なりに励ましという名のネタを作ったんじゃないか」

「でもさ、被災地の人たちはお前の小説を読む余裕はないと思うぞ」

「、、、、、、、しまった～～～～～」

「って、結局新タイトルはどうなるんだ？」

「とりあえず次回まで保留です」

緊急番外編2（後書き）

ネットの友達やこの小説を読んでくれる方がこの地震に巻き込まれてないか心配です。

とりあえず石原軍団、早く被災地に行け。こんな時の為の巨大釜だろう。

最後になりましたが“流されて、デュエルアカデミア”は今回で終了、次回からタイトルを変更しがんばっていきます。

第３３話いざ、精霊界へ～おやつは３００円まで～（前書き）

タイトル変えました

少し長編っぽくしてみました、まずはプロローグ的なものをどうぞ。

第３３話いざ、精霊界へ～おやつは３００円まで～

前回までの流されて、デュエルアカデミアは

「天上院君、俺はデュエリストだ、、不器用で中二病な男だ、、、だからこんな事しか言えない、、天上院君、好きだ～～～、君が欲しい～～天上院君～～～～～」

「だが断る」

「な、、なんだって、ならばデュエルだ、、俺が勝てば君は俺の嫁だ～～～」

「いいわ、、掛かってきなさい万丈目君」

「すばらしいデュエル脳世界だ～～」

「しまった、、七正門の鍵を持っていた万丈目サンダーがデュエルに敗北したから三幻魔の封印がとかれてしまった～～」

「ナイス解説三沢」

「鮫島～～～、、私は老人をやめるぞ～、三幻魔の力を使ってな～

～」

「あ、、アレは影丸会長なのか」

「ウリィィィィィィイイイイ～～～～」

回想終了

「皆大丈夫か」

部屋の中に入ると同時に部屋全体に緊迫した空気が張り巡らされてるのを感じる

そして視線の先には俺の精霊達の姿が

（大将、、皆が大変なんだ）

「あぁ、、わかっている」

影丸理事長が三幻魔の力を使ってデュエルモンスターズの精霊の力を吸収しだした瞬間いやな予感がして部屋に戻ってみれば

「深刻なのは、、巨大ネズミ3姉妹とモアイ迎撃砲か」

（あぁ、、私とメガロックは上級モンスターだからか、チョット息苦しい程度ですんでいるけど）

「レベル４以下の巨大ネズミとモアイ迎撃がピンチなわけか」

４人の顔に生気はなく今にも死にそうなくらい苦しんでいる

クソ、、どうにかできないのか

（、、、、、誠、チョットいい？）

「どうしたメガロック」

（巨大ネズミ達とモアイ迎撃砲を救う手が一つだけあるよ）

「本当か」

おそらく少し立てば十代が影丸を倒して全て元通りと行くはずなんだがこれ以上４人を危険にさらしたくない

（メガロック、、、まさか）

（ムカムカ、、もしもの時は頼んだよ）

「なんだ、メガロック、、、もしかして危険な事する気なのか？」

（大丈夫だよ、、誠、私はどんな事があっても、、、、誠と一緒だから）

そういい残し姿を消すメガロック

「チョ、、、何か知っているのかムカムカ」

（、、、、、、、）

「黙っていないで教えてくれ」

俺の問いかけに何も答えず下を向くしかないムカムカであったがようやくその口を開く

（おそらく、、、メガロックは、精霊界の、、、三幻魔の塔に行ったんだ）

「三幻魔の塔？」

（あぁ、、、精霊の力を吸収しているのはきっと三幻魔のカード、、とはいっても三幻魔は悪くない、きっと三幻魔を悪用しているやつのせいだ）

「あぁ、、犯人は影丸なんだがな」

（メガロックはきっとその力の源である三幻魔の塔に向かった、そこで現実世界との三幻魔の力のつながりにふたをしに行ったんだ、、自らを犠牲に）

「、、、、、クソ！！」

何もできないのか、俺は

そして数分後

部屋の中に充満していた謎の力のようなものが消えてなくなる

島全体が暗雲につつまれているところを見るときっとまだ十代が闘っているはず

つまりメガロックがやってくれたのか

「皆、、大丈夫か」

（えぇ、、さっきまでの不幸が嘘のように楽になったわ）

（痛みや苦しみを快楽に変える私もさすがに今回はまずいと思いました）

（キュ〜〜〜）

（あの、、誠さん、私見えてますよね、、ただでさえ普段影が薄いのに生命力までなくなったらと思うと、、、ちゃんと見えてますよね？）

「大丈夫だ、、三沢くらい存在感があるぞ」

（それは致命的なのでは？）

「何を言う、、、生前のニコニコ動画では結構ネタにされてたぞ、、、主に全裸ネタだったが」

その後何故か三沢が出ていた動画について語り合う

そして数分後

（ところでマスター、、盛り上がっているところ悪いのだけれどもメガロックの姿が見えないのだけど）

「メガロック、、、ハ！！！」

外を見てみると暗雲が消え爽快な青空が広がっている

十代が勝ったみたいだ

よく見てみるとヘリコプターが飛んでいく

さようなら影丸会長、３期までお元気で

「って、、事件解決したのにメガロックは戻ってこないのか」

三幻魔が再び校長の手で封印されたのだからもう戻ってきてもいいはず

（たぶん、、、、戻ってコレなくなったんだと思う）
（スイマセンムカムカさん、事情が読み込めないのですが）

ムカムカが説明する事数分

（そんな事があったんですか）

「あぁ、、、っで何でメガロックは戻ってこない」

（落ち着いてくださいご主人様）

「、、、スマナイ」

（おそらく、、メガロックさんは、三幻魔の塔で、、動けない状態に陥っている、、、またはこちらの世界に戻れなくなっていると思います）

「つまり、、、メガロックは精霊の世界で大ピンチって事なのか？」

（ハイ、、おそらく）

「だったら話が早い、帰ってこれないなら迎えに行くまでだ」

（（え！？））

「行こうぜ、、、精霊の世界に、三幻魔の塔に」

（キュ～～、、キュキュキュキュキュ～～）

「いや、三女、何を言ってるのかさっぱりなんだが」

（危険ですご主人様、、三幻魔の塔に向かうなんて、自殺行為です）

「相棒が待っている、、だったら行くしかないだろ、それに」

俺は机に置いてあったデッキ3つをベルトのデッキケースにセットする

「試作品だが、、、岩石デッキが3つある、コレさえあれば」

（、、、、、止める手段がなさそうだね）

（えぇ、、私達のマスターは強情だから）

「ようし、、、それじゃあ精霊界に行くぞ」

そしてここでふと気が付く

「、、、、、、、、どうやって行けばいいんだ」

（まったく、、考えなしだな、大将）

「すまない、、、誰か精霊世界の行きかたを知らないか？」

（私が案内しましょう）

「モアイ、、行きかたがわかるのか」

（ハイ、、任せてください誠さん）

（頼んだよ、、モアイ）

（キュキュキュ～～）

（メガロック様をお願いします、ご主人様、モアイ様）

（私みたいに不幸な目にあわないよう祈ってるわ）

「ヨッシャ、、とりあえずどうすればいいモアイ」

（誠さん、、、デュエルディスクでマジックホール・ゴーレムを召喚してください）

「まかせろ」

デッキからマジックホール・ゴーレムをデュエルディスクにセットする

すると立体映像のマジックホール・ゴーレムが部屋の中に出現する

（皆さん、お願いします）

（あぁ、、皆行くよ）

（病み上がりですが、、どうにかいけそうです）

（キュキュ～～）

俺の精霊達がエネルギーのようなものをマジックホール・ゴーレムに送る

するとマジックホール・ゴーレムのゲートにマーブル状の模様が浮かび上がる

「コレが、、、精霊界への道」

（行きましょう誠さん）

「あぁ、、ゲートオープン、、魔界へＧＯ」

「ガコン」

「いって～～～～～～」

ゲートをくぐろうと飛び出したらおもいっきしマジックホール・ゴーレムのわくに頭をぶつける

（大丈夫ですか誠さん）

「いたたたた、大丈夫だ、、、やっぱマンガみたいにかっこよく飛び込むんじゃなかったぜ」

今度は飛び込まずゆっくりゲートの中に入っていく

（チョ、、待ってください誠さ～～～ん）

待ってろよ、、メガロック

（、、、、、、、大丈夫かしら）

（今は信じるしかないよ、、大将とモアイっちを）

第３３話いざ、精霊界へ～おやつは３００円まで～（後書き）

今回から誠の三幻魔編が始まります。

っと言うわけでデュエルパートが無かったので連続投稿です。

「うお～～～～～～」

「キャ～～～～～～～」

マジックホール・ゴーレムをくぐると同時に激しい閃光と共に妙な浮遊感に襲われる

そして気が付けば地面に頭から落下していた

「いててててて、、さっきから痛い目ばっかり見ているな、俺」

「大丈夫ですか、、誠さん」

「あぁ、、、ってモアイ」

「なんですか？」

「実体化しているのか？」

いつもの脳内に話しかけてくる感覚とは違いモアイとは普通に会話をしている

「精霊世界ですから、、、とりあえず歩きましょう、、歩きながらこの世界の事を教えますね」

精霊界は無限に広がる世界で日々様々な世界が生まれていると言う事

そしてそれらの世界は次元の壁によって阻まれているが亜空間物質転送装置等の力で移動できると言う事

そして世界にはそれぞれその世界を治める存在がいると言う事

オシリスの天空竜、オベリスクの巨神兵、ラーの翼神竜が治める世界

ドレットルート、イレイザー、アバターが治める世界

名も無き竜、ティマイオス、クリティウス、ヘルモスが封印されている世界

そして、俺たちが今いる神炎皇ウリア、降雷皇ハモン、幻魔皇ラビエルが収める三幻魔の世界

「そして、、、ここが三幻魔のいる三幻魔の塔です」

「なるほどね」

俺達の目の前にスーパーマリオで見られる塔っぽい建物がある

「ここに三幻魔がいて」

「メガロックさんもここにいます」

「よっしゃ、、、だったら入るか」

目の前にあるドアノブに手をかける

「誠さん」

「ん！？」

ドアを開けようとするとモアイが声を上げる

「この世界を収める存在の根城です、、、どんな罠が仕掛けられているかわかりません」

「面白い、、囚われのお姫様を救うのは王子様の仕事ってな、、、、、、、、、、、、、ｏｒｚ」

「ど、どうしたんです誠さん、急に落ち込んだりして」

「俺は、、生前から“囚われのお姫様を救うのは王子様の仕事だろ”って台詞を言いたかった、、言いたかったのに、なんで俺がその王子様になったんだ〜〜〜〜」

「スイマセン、、まったく気持ちが共感できません」

「チクショウ、、この悔しさをバネに行くぞ、、三幻魔の塔へ」

バコ〜〜〜〜ンと扉を豪快に蹴破る

すると中から激しい光があふれ出し俺達を包み込む

「ッグ、、、、負けるかよ〜〜」

ひるむことなくその中に突っ込んでいく

「こ、、、コレが三幻魔の塔」

光が晴れるとそこは外見のまがまがしい見た目とは裏腹にとてもギャップのある光景であった

「、、、、、クッキーの道にチョコレートのドア、、オレンジジュースの川にペロペロキャンディーの車輪の自転車」

とてもファンタジーな内装だった

ヘンゼルとグレーテルに出てくるお菓子の家みたいな場所だった

「コ、、、コレは恐ろしい、なんて恐ろしい」

「どこがだよ」

「考えてください誠さん、、これらのお菓子はどう考えても高カロリー、この階の番人ウリアのもとにたどり着くまでどれだけの甘いにおいの誘惑が来る事か、、そしてその誘惑に負け、お菓子を少しつまみ食い、そしてそのつまみ食いがヒートアップし、、、“明日から、その一言がデブのもと”ウリアのもとにたどりついた頃には北斗の拳のハート様のようなメタボボディーに……」

「、、、、、、、、、、行くぞ」

「あ、、待ってください、誠さん」

「いや〜〜、しかしひどい迷宮だ」

グルグルと塔内を徘徊しているがいっこうに出口が見えてこない

歩きながらも周りのお菓子を一口ちぎり出口を探す

その間モアイが“ダメです、、一口たりともダメです”と謎の声を上げながら何かと闘っていた

「やっとたどり着いたな、、、なぁ、モアイ、、そのスリーパーホールドをといてくれないか」

1階をさ迷う事約1時間

ようやくウリアが待ち構えてそうな部屋の扉の前にたどり着く俺達

そして俺は何故かものすごい恨みのオーラをまとったモアイにスリーパーホールドで首を閉められていた

「男性はいいですね、、体重とか特に気にしないで、、、、乙女の怒りを思い知ってください」

そのまま突き飛ばされ倒れた俺の脚にモアイの足がからみつき４の字に固められる

「ようし、、行くぜ」

数十分に及ぶモアイのサブミッションの連続攻撃がようやく終わる

全身の間接がギシギシ軋む中ひときわ大きい扉に手をかける

ドアを開けるとそこはキャンディーがピラミッドが聳え立っておりその頂上には赤っぽい服に身を包んだ幼女がいた

「フハハハハハ、、よくきたなちょうせんしゃよ、このとうにだれかがやってきたのはすうねんぶりのできごとぞ」

「、、、、、モアイ、一つ確認したい」

「何でしょう誠さん」

「もしかして、、、あの幼女がウリアなのか」

「ハイ、、三幻魔の一人、神炎皇ウリアです」

「、、、、、そうか」

俺は静かに近くにあった巨大なクッキー菓子の近くに歩み寄る

「なんでまた萌キャラ化してるんじゃ～～～～～～～！！！！！！」

怒りに任せ目の前のクッキーを拳で粉々に砕く

「久しぶりに誠さんがきれました！！！！」

精霊キャラの萌キャラ化が最近無かったが久しぶりにぶちぎれたぜ

「え、、ちょ、、あ～～～～～～」

何故かピラミッドの頂上のウリアがピラミッドから転げ落ちてくる

そして俺達の目の前にドテンと着地する

「うぅ～～～、、このおにいちゃんこわい～～～、、え～～～～ん」

「チョ、、誠さん、泣いちゃってるじゃないですか」

「え、、俺のせい」

完全に“男子ってや～ね～”って目線を俺に向けウリアの頭をなで始めるモアイ

俺、完全に悪役ですか？

「ねぇ、、ウリアちゃん、、、私達上の階に行きたいんだけど」

「うぅ、、、だったら、わたしをデュエルでたおすしかないです」

ソレっておかしくないかな（ヤンデレ気味な精霊と同じ声で）

なんでそこデュエルをする流れになるんだ

まぁ、チェスで勝ちなさいと言われるよりはましだぜ

「そうか、、それじゃあデュエルしようか」

ベルトのデッキケースからデッキを一つ取り出しディスクにセットする

試作品1号デッキ

「わたし、、まけないもん、わたしは、、、このかいのばんにんだから」

半分べそをかいていたウリアだが起き上がりながらデュエルディスクをかまえる幼女

「見せてやるぜ、発展型の岩石デッキってヤツを」

「こっちこそ、、なかされたおかえしをしてやるんだから」

誠

「「デュエル！！！」」

ＬＰ４０００

ウリア

ＬＰ４０００

「わたしのターン、、わたしはモンスターをいったいうらしゅびでセットしてリバースも1まいふせてターンエンド」

誠

ＬＰ４０００

手札５枚

モンスター　なし

魔法トラップ　なし

ウリア

ＬＰ４０００

手札４枚

モンスター　裏守備×１

魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、俺はフィールド魔法“聖域の歌声”を発動する」

転生してから初めて使うフィールド魔法

デュエルディスクのフィールドカードスロットにカードを差し込むと俺達の周りに天使が舞い降りてきてコーラスを始める

聖域の歌声
フィールド魔法
守備表示モンスター全ての守備力は５００ポイントアップする。

「そしてモンスター1体を裏守備でセットしリバースを1枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：聖域の歌声

ウリア
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

「わたしのターン、、、モンスターをはんてんしょうかん、“ふこうをつげるくろねこ”」

不幸を告げる黒猫
レベル２闇属性
獣族
攻撃力５００守備力３００
効果
リバース：デッキから罠カードを１枚選択し、デッキの一番上に置く。王家の眠る谷　ネクロバレーがフィールド上に存在する場合、選択した罠カードを手札に加える事ができる。

「くろねこのこうかでデッキからトラップカード、“かみのめぐみ”をてふだにくわえる、、そしてくろねこをいけにえに“カイザー・グライダー”をしょうかん」

ほう、中々渋いカードを使ってくるな

相手フィールドの黒猫が光の玉に変化する
そしてその玉がぐにゃぐにゃに変形しカイザー・グライダーの形になる

カイザーグライダー
レベル６光属性
ドラゴン族
攻撃力２４００守備力２２００
効果
このカードは同じ攻撃力を持つモンスターとの戦闘では破壊されない。このカードが破壊され墓地へ送られた時、フィールド上のモンスター１体を持ち主の手札に戻す。

「バトル、、、カイザーグライダーでうらしゅびモンスターにこうげき」

大きく舞い上がったカイザー・グライダー

そしてそこから俺の裏守備モンスターに向かって急降下を仕掛けてくる

「俺のモンスターは“伝説の柔術家”だ」

裏守備状態のカードが表になり胴着をまとったごっついおっさんが出現する

伝説の柔術家
レベル３地属性
攻撃力１３００守備力１８００
効果
守備表示のこのカードと戦闘を行ったモンスターは、ダメージステップ終了時に持ち主のデッキの一番上に戻る。

「天空の歌声の効果で守備力アップ」

伝説の柔術家
守備力１８００→２３００

「でも、、カイザーグライダーのこうげきりょくのほうがうえだもん」

カイザー・グライダー　攻撃力２４００＞伝説の柔術家　守備力２３００

カイザー・グライダーの急降下アタックをくらいその身を消滅させる柔術家

「やった～～～、、かった～～」

「だが、この瞬間伝説の柔術家の効果発動、、守備表示のこのカードを攻撃したモンスターをデッキトップに戻すぜ」

相手フィールドのカイザー・グライダーが光の粒となって消えていく

「ウキ～～～、、わたしはこれでターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：聖域の歌声

ウリア
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、いくぜ俺のメインアタッカー、、、“モアイ迎撃砲”を召喚」

「わ、、、私ですか？」

俺がデュエルディスクにカードをセットすると地面からベキベキベキ～～っとモアイ迎撃砲がフィールドに出現する

アレ？てっきり後ろにいるモアイが俺のフィールド上でモンスターに変化するのだとばかりおもっていたのだが

「完全にタイミングを逃してしまいました」

「まぁいい、、行くぜ、モアイ迎撃砲で相手プレイヤーに直接攻撃イースターレーザーキャノン！！」

「キャ～～～～」

モアイ迎撃砲の口からレーザーが発射されウリアの体を貫いていく

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

ウリア
ＬＰ４０００－１１００＝２９００

「そしてメイン2にモアイ迎撃砲を裏守備に変更する」

パタンとカードが裏返りモアイ迎撃砲が裏守備状態になる

「あぁ～～～、ズルイ～～、せっかくこうげきひょうじだったのに～～」

「いや、ズルイって言われても」

俺は特にルール違反やいかさまはしてないのだが

「さらにリバースを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００

手札２枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

フィールド：聖域の歌声

ウリア
ＬＰ２９００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「わたしのターン」

今ドローしたのはカイザー・グライダー

そして次にドローするのは不幸を告げる黒猫の効果でデッキトップにもっていった神の恵み

ちょっとしたドローロック状態だ

「わたしはモンスターをうらしゅびでセット、さらにリバースを３まいついかしてターンエンドよ」

誠
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

フィールド：聖域の歌声

ウリア
ＬＰ２９００
手札１枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×４

「俺のターン、、モンスターを裏守備でセットしターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　裏守備×２
魔法トラップ　リバース×２

フィールド：聖域の歌声

ウリア
ＬＰ２９００

手札１枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×４

「わたしのターン、リバースを1まいついかしてターンエンドよ」

相手が防御に徹しだしたか

俺の岩石デッキ試作品も防御に徹するデッキだから完全に硬直状態だ

まぁいい、その隙に俺も準備させてもらうぜ

誠
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　裏守備×２
魔法トラップ　リバース×２

フィールド：聖域の歌声

ウリア
ＬＰ２９００
手札１枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×５

「俺のターン、、モンスターを裏守備でセット、そしてリバースを1枚追加してターンエンドだ」

最初に断っておきます

俺のデッキはドローゴーデッキではありません

「そっちのエンドフェイズにリバースカードオープン、、“かみのめぐみ”」

神の恵み
永続トラップ
自分はカードをドローする度に５００ポイントのライフポイントを回復する。

なんてうっとおしいカードだ

回復カードの代表格じゃないか

誠
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　裏守備×２
魔法トラップ　リバース×３

フィールド：聖域の歌声

ウリア
ＬＰ２９００
手札１枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　神の恵み、リバース×４

「わたしのターン、カードをドローしたしゅんかんかみのめぐみのこうかでライフポイント５００かいふく」

ウリア
ＬＰ２９００＋５００＝３４００

「さらにモンスターをはんてんしょうかん、“メタモルポット”」

メタモルポット
地属性レベル２
岩石族
攻撃力７００守備力６００
効果
リバース：お互いの手札を全て捨てる。その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを５枚ドローする。

「そのこうかでたがいのプレイヤーはてふだをすべてすててデッキからカードを５まいドローする」

「手札交換カードか」

「そしてかみのめぐみのこうかでライフポイントが５００ポイントかいふくぅぅうう」

ウリア
ＬＰ３４００＋５００＝３９００

くそ、ＬＰが一気に１０００ポイントも回復しやがった

「そしてリバースカードはつどう、、“モンスターボックス”」

モンスターＢＯＸ
永続トラップ
相手モンスターが攻撃をする度に、コイントスで裏表を当てる。当たりの場合、攻撃モンスターの攻撃力は０になる。自分のスタンバイフェイズ毎に５００ライフポイントを払う。払わなければ、このカードを破壊する。

このタイミングでモンスターＢＯＸ

「さらにリバースはつどう、、“はだかのおうさま”」

裸の王様
永続トラップ
全ての装備カードの効果は無効になる。

「そして3まいめのリバースカードオープン、まふうじのほうこう」

魔封じの芳香
永続トラップ
このカードがフィールド上に存在する限り、お互いに魔法カードはセットしなければ発動できず、セットしたプレイヤーから見て次の自分のターンが来るまで発動できない。

この局面で裸の王様に魔封じの芳香？

そして相手はウリア

ま、まさか

「わたしはおもてがわひょうじのえいぞくトラップカードを3まいぼちにおくり、、わたしじしん、“しんえんおうウリア”を特殊召喚」

やはりそうきたか

相手の場の表側表示のトラップカードが炎につつまれそれらが一つになり巨大な炎と化す

そしてその巨大な炎の中からオシリスの天空竜を思わせる巨大な真紅のドラゴンが出現する

神炎皇ウリア
レベル１０炎属性
炎族
攻撃力０守備力０
効果
このカードは通常召喚できない。自分フィールド上に表側表示で存

在する罠カード3枚を墓地に送った場合のみ特殊召喚する事ができる。このカードの攻撃力は、自分の墓地の永続罠カード1枚につき１０００ポイントアップする。1ターンに1度だけ、相手フィールド上にセットされている魔法・罠カード1枚を破壊する事ができる。この効果の発動に対して魔法・罠カードを発動する事はできない。

「アハハハハハハ、、ひざまずけ、いのちごいをしろ、こぞうからいしをとりもどせ」

完全に天狗になってるぜあの幼女

つーかムスカネタ？この精霊界にもラピュタが存在するのか？

「ウリアのこうげきりょくはわたしのぼちにねむるえいぞくトラップ1まいにつきこうげきりょくが１０００ポイントアップする」

神炎皇ウリア
攻撃力０↓３０００

「さらにウリアのこうかはつどう、1ターンに1どあいてフィール

ドじょうのリバースカードを1まいはかいする、、“トラップ・ディストラクション！！”」

俺のリオバースカードの1枚に突如火が付く

最初は小さな炎だったがダンダン大きくなって俺のリバースカードを破壊する

「そしてバトル、、、ウリアでみぎがわのうらしゅびモンスターにこうげき、、、ハイパー・ブレイズ」

ウリアの口から炎が噴出す

「俺のモンスターは“巨大ネズミ”だ」

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

俺の裏守備モンスターが表になり巨大ネズミが頭蓋骨を前に突き出

す形で出現する
だがソレと同時にウリアの炎につつまれその体を消滅させていった

神炎皇ウリア　攻撃力３０００＞巨大ネズミ　守備力１４５０

「巨大ネズミの効果を発動、、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスターを1体攻撃表示で特殊召喚する、、俺は“クリオスフィンクス”を攻撃表示で特殊召喚」

巨大ネズミがいた場所に今度は下半身が馬、体は人間、頭は犬の不思議なモンスターが出現する

クリオスフィンクス
レベル６地属性
岩石族
攻撃力１２００守備力２４００
効果
このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、フィールド上のモンスターが持ち主の手札に戻った時、そのモンスターの持ち主は手札からカードを1枚選択して墓地に送る。

「え、、ここは激昂のムカムカを特殊召喚じゃないんですか」

「言っただろモアイ、、このデッキは新岩石デッキの試作品だって、、いつも使っているデッキとはチョット毛色が違うカードが入ってるんだ」

「なにがきてもウリアのまえにはむりょくだもん、、わたしはリバースを1まいついかしてターンエンドよ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　クリオスフィンクス、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

フィールド：聖域の歌声

ウリア
ＬＰ３９００
手札３枚
モンスター　神炎皇ウリア、メタモルポット
魔法トラップ　神の恵み、リバース×２

「俺のターン、、行くぜ、クリオスフィンクスを生け贄に“守護神エクゾード”を守備表示で特殊召喚」

地面から巨大な腕が出現しクリオスフィンクスの体をキャッチする

そしてその腕がどんどん上昇し折れのフィールドに黄金色の巨像が出現する

ソレと同時にクリオスフィンクスの体が粉々に砕け散る

守護神エグゾード
レベル８地属性
岩石族
攻撃力０守備力４０００
効果
このカードは通常召喚できない。
自分フィールド上に存在する“スフィンクス”と名のついたモンスター１体をリリースした場合のみ特殊召喚する事ができる。このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、地属性モンスターが反転召喚に成功した時、相手ライフに１０００ポイントダメージを与える。

「そしてモンスターを反転召喚、、モアイ迎撃砲」

先程ウリアの攻撃から逃れたモアイ迎撃砲を攻撃表示に変更する

「そしてこの瞬間守護神エグゾードの効果発動、、地属性モンスターが反転召喚に成功した時相手ＬＰに１０００ポイントの効果ダメージを与える、、エグゾード・プロミネンス！！！」

俺の場のエグゾードが両の拳をガシンとあわせる

すると背中の光輪から激しい光があふれ出す

「キャ～～～～～」

ウリア

ＬＰ３９００－１０００＝２９００

「さらにモンスターを裏守備でセット、リバースを1枚追加してターンエンドだ」

誠

ＬＰ４０００

手札３枚

モンスター　守護神エグゾード、裏守備×２
魔法トラップ　リバース×３

フィールド：聖域の歌声

ウリア
ＬＰ２９００
手札３枚
モンスター　神炎皇ウリア、メタモルポット
魔法トラップ　神の恵み、リバース×２

「わたしのターン、、カードをドローしたからライフポイントが５００かいふく」

ウリア
ＬＰ２９００＋５００＝３４００

「そしてメインフェイズにウリアのこうかをはつどう、、まんなかのリバースカードをはかいする」

「ック、、俺の“攻撃の無力化”が」

「ウリアのまえにリバースカードをふせるなんて、、じつにおろかね」

わかってるって、そのカードの恐ろしさは

リバースカードを問答無用で破壊する効果、ボルメテウス・ホワイトドラゴンも顔負けだぜ

「そしてバトルフェイズにはいる」

「おっと、、その前に、リバースカード発動“陽動作戦”」

陽動作戦
通常トラップ
このターン裏側表示モンスターを対象に攻撃宣言を行う事はできない。

「この効果でウリア、お前は裏守備モンスターを攻撃できねーぜ」

「おもてがわひょうじなのはエグゾードのみ、そしてエグゾードのしゅびりょくは４５００、わたしのウリアのこうげきりょくは３０００」

「つまり、、このターンの攻撃は封じたも同然だ」

「ムッキ～～～、わたしはメタモルポットをしゅびひょうじにへんこうしてターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　守護神エグゾード、裏守備×２
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：聖域の歌声

ウリア
ＬＰ３４００
手札４枚
モンスター　神炎皇ウリア、メタモルポット
魔法トラップ　神の恵み、リバース×２

「俺のターン、、モンスターを反転召喚、モアイ迎撃砲、、、、そしてエグゾードの効果で相手プレイヤーに１０００ポイントのダメージを与える」

再びエグゾードが拳をぶつけ合うと背中の光輪から激しい光が放たれる

ウリア
ＬＰ３４００－１０００＝２４００

「さらにもう一体のモンスター“メデューサ・ワーム”を反転召喚」
この世界で始めてこのカードを反転召喚できた気がするぜ

メデューサ・ワーム
地属性レベル２
岩石族
攻撃力５００守備力６００
効果
このカードは１ターンに１度だけ表側守備表示にする事ができる。
このカードが反転召喚に成功した時、相手フィールド上のモンスター１体を破壊する。

「メデューサ・ワームの効果を発動、反転召喚成功時相手フィールド上のモンスター１体を破壊する」

裏側表示に変化したメデューサ・ワームがその体をのばしウリアの体を何度か貫きその体をフィールドから消し去る

「そして地属性のモンスターが反転召喚した事でエグゾードの効果発動、相手に１０００ポイントのダメージを与える」

ウリア
ＬＰ２４００－１０００＝１４００

「うぅ～～、さっきからチマチマチマチマと～」

チマチマした攻撃か？この世界で１０００のバーンは現実世界で２０００ポイントに匹敵する数値だぞ

「さらにバトルフェイズ、、モアイ迎撃砲でメタモルポットに攻撃、イースターレーザーキャノン！！」

モアイ迎撃砲の口からレーザーが放たれメタモルポットに穴を開け破壊する

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００＞メタモルポット　守備力６００

「さらに追撃、、メデューサ・ワームでダイレクトアタック」

伸縮自在の芋虫がその体を大きくうねらせ相手プレイヤーにペシっと尻尾を叩きつける

メデューサ・ワーム攻撃力５００（直接攻撃）＞相手プレイヤー
ウリア
ＬＰ１４００－５００＝９００

ようし、これでとりあえず神の恵みで回復する分のＬＰは削った

「そしてメイン2に入る、モアイ迎撃砲とメデューサ・ワームを地震の効果で裏側守備表示に変更しリバースカードを1枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　守護神エグゾード、裏守備×２
魔法トラップ　リバース×２

フィールド：聖域の歌声

ウリア
ＬＰ９００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　神の恵み、リバース×２

「わたしのターン、、かみのめぐみのこうかでライフポイントとが５００かいふく」

ウリア
ＬＰ
９００＋５００＝１４００

「そしてまほうはつどう、、“ししゃてんせい”」

死者転生
通常魔法
手札を１枚捨てて発動する。自分の墓地に存在するモンスター１体を手札に加える。

「そのこうかでてふだを１まいぼちにすてぼちにねむるウリアをてふだにもどします、、、そしてリバースカードオープン、“スピリットバリア”に“おうきゅうの弾圧”」

スピリットバリア
永続トラップ
自分フィールド上にモンスターが存在する限り、このカードのコン

トローラーへの戦闘ダメージは０になる。

王宮の弾圧
永続トラップ
８００ライフポイントを払う事で、モンスターの特殊召喚及び、モンスターの特殊召喚を含む効果を無効にし破壊する。この効果は相手プレイヤーも使用する事ができる。

「そして3まいのえいぞくトラップを墓地に送りしんえんおうウリアをとくしゅしょうかん」

再び相手フィールド上の永続トラップが炎につつまれウリアが再びフィールドに降り立つ

「ぼちにねむるえいぞくトラップの枚数は6まい、、よってウリアのこうげきりょくは６０００にじょうしょう」

神炎皇ウリア
攻撃力０↓６０００

「さらにウリアのこうかでセットじょうたいのまほうトラップカードを1まいはかいできる、、トラップディストラクション！！」

再び俺のリバースが炎上する

ちなみに破壊されたのはフォースフィールドだ

「バトル、、ウリアでみぎがわのうらしゅびモンスターにこうげき」

ウリアの炎が俺の裏守備モンスターを破壊する

そのモンスターはメデューサワーム

神炎皇ウリア　攻撃力６０００＞メデューサ・ワーム　守備力６００

「これでウリアがはかいされることはなくなった、、リバースを１まいついか、、これでターンエンドよ」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　守護神エグゾード、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

フィールド：聖域の歌声

ウリア
ＬＰ１４００
手札２枚

モンスター　神炎皇ウリア
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、モアイ迎撃砲を反転召喚、そして本日４度目のエグゾードの効果発動」

何度目かのエグゾードの効果ダメージ攻撃

ウリア
ＬＰ１４００－１０００＝４００

「ムッカ～～～、さきにエグゾードからたおせばよかった」

いや、エグドーゾードが残ってたら再びメデューサ・ワームでウリア破壊されてたぜ

「そしてモアイ迎撃砲を裏守備表示に変更、、モンスターを１体裏守備でセットしてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　守護神エグゾード、裏守備×２

魔法トラップ　リバース×２
フィールド：聖域の歌声

ウリア
ＬＰ４００
手札２枚
モンスター　神炎皇ウリア
魔法トラップ　リバース×１

「わたしのターン、、リバースはつどう、、“はりむしのそうくつ”」

針虫の巣窟
通常トラップ
自分のデッキの上からカードを５枚墓地に送る。

「このこうかでじぶんのデッキのうえからカードを５まいぼちにおくる、、そしてえいぞくトラップが３まいあったのでウリアのこうげきりょくがさらにじょうしょう」

神炎皇ウリア

攻撃力６０００→９０００

攻撃力がすでにおかしい領域に

オネストなしに戦闘破壊する自身なんて毛ほどもありません

「そしてウリアのこうかでリバースカードを1まいはかいする」

ウリア無双じゃないですか

俺のトラップにモンスターがことごとく破壊されていきます

「バトル、ウリアでエグゾードにこうげき」

すまないエグゾード、今までよくがんばった

神炎皇ウリア　攻撃力９０００＞守護神エグゾード　守備力４５００

誠

「わたしはこれでターンエンド」

ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　裏守備×２
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：聖域の歌声

ウリア
ＬＰ４００
手札３枚
モンスター　神炎皇ウリア
魔法トラップ　なし

「俺のターン、、、何もせずターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　裏守備×２
魔法トラップ　リバース×１

フィールド：聖域の歌声

ウリア
ＬＰ４００
手札３枚
モンスター　神炎皇ウリア
魔法トラップ　なし

「フハハハハ、、わたしのターン、これでおしまいね、、ウリアでうらしゅびモンスターにこうげき」

「俺のモンスターはマイン・ゴーレムだ」

「え！？」

マイン・ゴーレム
地属性レベル３
攻撃力１０００守備力１９００
効果
このカードが戦闘によって墓地に送られた時、相手ライフに５００ポイントダメージを与える。

神炎皇ウリア　攻撃力９０００＞マイン・ゴーレム　守備力２４００

表側表示になり出現したマイン・ゴーレムだったが一瞬にしてウリアの炎でこんがりと焼かれ何故か土偶になった

「戦闘破壊されたマイン・ゴーレムの効果発動、戦闘破壊された事

により相手プレイヤーに５００ポイントのダメージを与える」

俺の場の土偶の足下から炎が噴出し飛行し始めウリア（擬人化）の方に向かって飛んでいく

そしてウリア（擬人化）にぶつかると同時に激しい爆発が発生する

「キャ～～～～～～～～」

ウリア
ＬＰ４００－５００＝－１００

勝敗が決した為立体映像が消える

「やりましたね誠さん、、エグゾードを主軸とした岩石デッキ、大成功ですね」

「いや、、、ダメだこのデッキは」

「え！？」

「そもそもバーンデッキというのがダメだ、、守備を固めバーンダメージを与えると言うのはしょうに合わん、ダメだ、このデッキは失敗だ」

「あのう、、誠さん、そろそろやめてもらえないですか?ウリアちゃんが」

「ん!?」

ふと気が付くとウリアが部屋の片隅で体育座りで地面にのの字を書いていた

「ダメなデッキにまけた、、わたしはダメなデッキにまけた」

すごく落ち込んでいるようだ

とりあえず俺はウリアに近づく

「その、、なんだ、、、、、すごい楽しいデュエルだったぜ」

「うるさい」

ペシンとペロペロキャンディーが投げつけられ俺の額に直撃する

まぁ、、しょうがないな

「でも、、楽しいデュエルだったのは本当だぜ」

「うぅ〜〜〜、おにいちゃんなんてしらない、、、さっさとハモンのかいにいけばいいのよ」

ギギギギ〜〜〜〜っと奥の方に合ったチョコレートのドアが開く

そしてドアの先には階段があった

「ようし、、それじゃあ次の階に行くか、またなウリア、、、、、
今度会う時まで新デッキは完成させとくからそん時はまたデュエル
してくれよな」

「チョ、誠さん待ってください、、、、ウリアちゃんまたね」

「、、、、、、、、、またね、か、、、やくそくだよ、おにいちゃん」

第３４話やたらひらがなカタカナが多いですが決して変換ミスではありません

幼女っぽさを出す為台詞を全てひらがなカタカナで統一したんですが……書きづらいったらありゃしない。

今回の誠のデッキは守備をガッチガチに固めてエグゾードで焼き尽くすバーンデッキです、似たようなデッキを使っている人スイマセン、アレはあくまで誠の意見ですので私に石を投げないでください。

最後になりますが東北地方の大地震で沢山の人が不幸な目にあいました。私の職場にも関東地方に住んでいる身内が助けを呼んでいるということで長期休暇をとっている人も何人かいます。私の友達も何人か関東地方に住んでいますので安否が心配です。以前コラボした蛇さんが元気になって戻ってくる日を楽しみにしてます。

それでは遊戯王ＧＸ～ＧＹＺ～をよろしくお願いします。

番外編～仕事は大変ですけど、作者は元気です～

「ショッカーの諸君よ、立ち上がるのだ、、、世界は、我々ショッカーの物とするのだ」

「「イー！！！」」

世界制服を狙う悪の秘密結社ショッカー

その毒牙がついにデュエルアカデミアに

「イー」

「イー」

「イーイーイーイーうるさいんだよ」

誠の拳が円をえがき黒タイツの男のあごを砕く

「なんなのよ、、なんなのよこいつら」

手に持ったイスで黒タイツの顔面を叩き冥衣もどうにか応戦している

「世界は、、、ショッカーによって支配されると言うのか」

「ハハハハハ、、デュエルアカデミアよ、我らショッカーに服従しろ」

「誰がお前達なんかに、行こうぜ万条目」

「さんだ」

「俺も闘うぞ」

「「アレ?三沢いたんだ」」

「いたよ最初から」

「小野寺　誠よ、、これを見ろ」

「これは」

誠の頭上、何も無い空に無数のディスプレーのようなものが発生する

そしてそれらの映像には全てショッカーが侵略している姿が映し出されている

「この世界だけではない、、我らショッカーはありとあらゆる世界

の征服に乗り出している、宣言しよう、ニジファンで“遊戯王”と打ち込めば出てくる小説の世界全てを支配する」

「っく、、、“遊戯王　鋼鉄の旅人”に“遊戯王５Ｄ′ｓ　ＴＨＥ　ＰＯＷＥＲ　ＯＦ　ＦＥＬＬＯＷＳ”に“沙羅弥デイズＱｕｏＤ”の世界にまでショッカーの魔の手が」

「いや、、相変わらず他作品の宣伝が下手よねこの作者」

「真間さん、、助けてください、、真間さん」

丸い台に貼り付けにされている雪

そんな雪の周りには白衣に身を包みその両手には一般的な病院では決して見る事のできないまがまがしい器具が握られている

そして一人の白衣が一歩踏み出す

その手には注射器とチェーンソーが握られていた

「助けて、、、助けて」

「うおら～～～～」

爆音と共に天上の1部が落下する

そしてその穴から真間が落っこちてきて白衣数人を巻き込み着地する

「助けに来たぜ、雪」

「真間さん、、、アレ、なんでだろう、、、涙が、、涙が止まらないです」

「、、、、、そうか」

2，3ど雪の頭をなで白衣達と向かい合う真間

「テメーらの血は、、、何色だ!!!」

「ッグ、、クソ、はなせ」

最初は勇敢に戦っていたまことであったがさすがに数に押され今では戦闘員に取り押さえられている

「いきのいい小僧だ、、、こいつはいい怪人になる」

「クソ〜〜〜〜〜」

「アースカノン・インフェルノ!!!」

「イー」

どこからとも無く放たれた熱線が誠を抑えていた戦闘員を吹き飛ばす

「アースカノン・インフェルノ、、、ってまさか？」

誠が振り返るとそこには誠と共に戦い続けてきたかけがえの無い仲間達が立っていた

「やぁ、、誠、助けに来たよ」

「へへへ、、大将、危機一髪だね」

「誠さん、、、一緒に闘いましょう」

「世界がショッカーのものに、、、それこそ不幸ね」

「メイドとして、、ショッカーという名の超巨大粗大ごみを駆除してみせます」

「キュキュキュ～～」

「皆、、、ありがとう」

「小野寺　誠、、それに空栗　真間、、貴様らは何故闘う、仮面ライダーでもない貴様らがどうして」

「俺は別にお前達が何をしようが知ったこっちゃねー、選挙に出ようがカレー屋を始めようが、、、だが俺に、俺のいる世界に、俺の仲間に手を出した、、、だから俺はテメーを死んでも許さねー」

「お前は悪だ、、そして俺の大切な人に手をかけた、、、それだけで十分ケンカの理由になる」

「「さぁ、、お前の罪を数えろ」」

「このベルトは」

誠と真間の腰にベルトのような紋が発生する

「それはライダーベルト、、仮面ライダーの象徴、そしてその証だ」

突如オーロラのようなものが発生しそこから歴代の仮面ライダー全員がデュエルアカデミアに集結する

「歴代の、、仮面ライダー」

「ようし、、、誠、俺達もやるぞ」

「あぁ」

「「ライダ～～～～、、変身！！！」」

遊戯王ＧＸ～ＧＹＺ～
超番外編
遊戯王ＶＳ仮面ライダー～仮面の戦士と決闘者～

視線変更～誠～

「いや、作者よ、さすがにこれは無理じゃないか？」

今俺の目の前には作者がいる

時間をさかのぼる事１時間前

突如この雪だるまが俺の部屋にやってきて台本を手渡してきた

台本とはいっても上記の通り要所要所しか書かれていない穴だらけの台本だ

「風呂敷広げすぎだろう、、半月かかっても完成しないぞ」

「正直、、、俺も台本作ってる最中に取り返しがつかない事に気が付いた」

「とりあえずこれは封印だな」

「あぁ」

俺達は外に出てレッド寮付近の適当な場所に台本をしまった缶詰を埋める

地中深くに埋めた為きっと2度と日の目を見る事はないであろう

「それじゃあ明日仕事だし俺帰るわ」

「あぁ、、体には気をつけろよ」

そう言って作者はドロドロに溶けはじめ蒸発し姿を消す

「いやなフェードアウトだぜ、、、まったく」

小腹が減ったので俺は食堂に向かう

「バカと付き合ってたら腹減ったぜ」

番外編～仕事は大変ですけど、作者は元気です～（後書き）

お久しぶりです。冬将軍です。

最近仕事が激しすぎて全然ＰＣが触れない日が続きました。

今日は久しぶりの休みで近くの映画館でメンズデイだったので仮面ライダーの映画を見に行きました。そしてそのテンションでこの小説を思いつきました。

早くハモンパートを書きたい。そして何気に来月でこの小説一周年。また番外編を書きたいです。

それでは皆さんまた会いましょう。

第３５話怒れ誠、炸裂ガイア・プレート（前書き）

久しぶりの更新です。何気にアニメの遊戯王っぽいタイトルになりました。

三幻魔編に入ってからデュエルパートが雑になっている気がします。敵が普段使い慣れてないデッキを使わせてくれてるからかもしれません。

それでは３５話をどうぞ、最初本編とはまったく関係ない前回のあらすじがあります（爆）

第35話怒れ誠、炸裂ガイア・プレート

前回までのあらすじ

「ねぇ、、誠、私達付き合ってるんだよね」

「どうしたんだ急に」

部屋の中で冥衣とくつろいでいると突如冥衣が話をふってくる

「私が告白してもう半年、、色々とあったね」

「あぁ、、、一緒に海に行ったり、タッグデュエルしたり、、、、色々とあったよな」

「えぇ、、、ねぇ、誠、私の事愛してる？」

「何を言ってるんだよ冥衣」

手に持っていた漫画を机に置き冥衣と向かい合う

その瞳はどこか光を失い死人のような目をしていた

「私、、、不安なの、誠が、誠が、、私以外の女性といると思うだけで不安なの」

「冥衣、、俺が愛しているのは冥衣だけだ」

「じゃあ、、こないだ、レオナと一緒にいたよね」

「う！？」

「あの時、、、誠、キスしてたよね、、、レオナと」

「そ、それは」

後ろめたさに一瞬顔を下に向けてしまう

その動作が悪かった

「ザシュッ」

「！！！！！！！！」

喉に激し痛みが走る

ソレと同時に喉から火が出てるのかと錯覚するほどの熱を感じる

そして冥衣の手には血で赤く染まったナイフが握られている

「ガ、、、カハ」

息が、、、できない

意識が遠のく

たぶんさっきのナイフで喉を切られたらしい

「誰にも誠は渡さない、渡さない、渡さない、渡さない、わたさな

い、わたさない、わたさないわたさないわたさないわたさないわたなさい」

体から力が抜け地面に倒れる

すでに俺は虫の息だがそんな俺に冥衣が馬乗りになり俺の体に先程俺の喉を切り裂いた刃物を何発も何発も差し込んでくる

一発一発にまるでどす黒いオーラがまとっているかのごとく一撃一撃が重く感じる

「わたさないワタサナイワタサナイワタサナイワタサナイワタサナイワタサナイワタサナイワタサナイワタサナイワタサナイワタサナイワタサナイ」

まるで狂ったかのごとくうわごとを繰り返す冥衣

あぁ、、俺の人生はここで終わるのか

この感覚久しいな、、、、死ぬのは、久しぶりだな

「誠さん、、嘘はやめましょう、何ですか今の嘘あらすじ」

「いや、、なんとなく」

ウリアとのデュエルを終えた俺達は出現した階段を上り2階のところまで来ていた

階段が終わるとそこにはまたバカでかい門がある

「ウリアちゃんの話だとここの番人は降雷王ハモンですね」

「どんな恐ろしい迷宮で、どんな恐ろしいヤツが待ち構えているか、、だな」

「ですが進まなければなりません」

「あぁ、、、早く相棒を救い出し、現実世界に戻ってオーで仮面ライダーWリターンズのアクセル編をかりたいしな」

本当に仮面ライダーWは平成ライダー屈指の名作だと思うぜ

「わけわからない事言ってないでいきますよ」

「そうだな」

目の前の扉に手をかける

そしていきおいよく開くと

「な、、、なんですかこの部屋は」

「本の、、、、山だ」

見渡す限り本本本本

床から天上までの大きさの本棚が何列もならんでいる

そしてそれらには本がビッシリと詰め込まれている

「これが、、、星の図書館、つまりここの番人はフィリップなのか？」

「いえ、、違うと思います」

そういってモアイが適当な本棚から本を一つ取り出し俺に手渡す

「何々、、、こ、コレは！！」

モアイが俺に渡してくれた本の表紙には

“柔道部物語”

っと書かれてあった

「ま、、まさか」

「ここにある本全部マンガの本のようです」

「ここが、、俺の旅の目的地、ガンダーラ」

「何歌ってるんですか、、今の良い子は絶対知りませんから」

「さぁ行きますよ、、猪八戒」

「誰が猪八戒ですか、、、いい加減に目を覚ましてください、イースターレーザーキャノン！！！」

「ギャ～～～～～」

「すまない、テンションフォルテッシモで暴走していた」

「わかればいいんです」

アレから数十分

あまりの嬉しい状況にかなり興奮していたがモアイのおかげで正気を取り戻せた

「さて、、とりあえず適当にマンガ本を読みながらこの部屋の番人ハモンを探しますか」

「結局読むんですね」

「当たり前だろ、、どんなお宝マンガが眠っているか楽しみでしょうがない、、とりあえず“ウルトラマン超闘士列伝”と“ウルトラ忍法帳”に“スーパーバーコードウォーリアーズ”を見つけたらすぐさま俺に伝えろ」

「寄り道する気まんまんですね」

「さて、、マンガを十分堪能したところでこの階の番人ハモン会うとしますか」

読書にふける事数時間

俺はかなりのお宝マンガを全て読破した

数時間ぶりに体を起こしグイ〜〜〜〜っと背伸びをする

「すっかり余計な時間をすごしましたね」

「何を言う、、、どれも名作ぞろいだったぜ」

「いや〜〜〜、、、しかしずいぶんとマニアックなマンガをチョイスしたっすね〜」

「「！！！！」」

気が付けば俺達の後ろに見知らぬ少女が立っていた

黒のロン毛でデコっぱちでメガネキャラ
らき☆すたのひよりそっくりだ

「あぁ、、、驚かせて申し訳ないっす、自分がこの階の番人のハモンっす」

ですよね～～、つーかまた擬人化してるよ

「しかし、ずいぶんとマニアックなマンガを読んでるっすね、、、君の名前は」

「俺の名前は小野寺　誠だ」

「小野寺君っすか、、、ずばり、コミックボンボン派っすね」

「何故わかった!!??」

「いや、誠さん、、、、、足下に広がっているコミックのほとんどがコミックボンボンの単行本ですから」

「ちなみに、、小野寺君はコロコロコミックは否定派っすか」

「別に否定派ってわけじゃないぞ、、、小さい頃はツルピカはげ丸君読んでたし今のマンガでもデュエルマスターズにドラベースは読んでいるぞ」

「ロックマンエグゼは読んでないんすか?」

「いや、、、やっぱボンボンでないロックマンは拒絶反応を起こし

てしまい、ゲームもろくにプレイしていない、、ロックマンのマンガで1番面白いのはやっぱ岩本先生のロックマンXだな」

「あぁ～～、確かにアレは名作っすね～」

さらに数時間後

この階の番人ハモンとすっかり打ち解けてしまっている

「いや～～～～、まさか精霊世界でマンガについてここまで熱く語れるとは思わなかったぜ」

「自分も、、、久しぶりに語り合えてサイコうっすよ」

「私はついていけませんでしたが」

「そうそう、、、小野寺君ってチェンジマンの年に産まれたんすよね」

「あぁ、、そうだ、ついでにスーパーマリオとビックリマンチョコとも同い年だ」

「懐かしいっすね～～、、ビックリマンチョコとか、自分シールだけ目的で買ってチョコ捨ててたっすよ」

「ブチィ」

「アレ？なんすか今の何かが景気よく切れる音」

「ま、、誠さんが急にどす黒いオーラをまといだしました」

「ハモンよ、、俺はこの世で許せないものが3つある、自分の為に嘘をつくもの、他人を見下すヤツ、そして、、、最後はビックリマンチョコをシールだけ目的で買ってチョコを捨てるやつだ～～～～～～～～」

「ヒィ～～、さっきまでの友好的な表情が一瞬にして憤怒の顔になったっす」

「デュエルだ、、、貴様のそのゆがんだ心、、、この俺がただす！！！！」

「今にも“俺が、ガンダムだ！！！”っと言わんばかりの台詞っす」

「どの道デュエルをしないといけないんだ、、試作品2号デッキ行くぜ、、、、トランザム！！！」

腰のデッキケースからデッキを取り出しデュエルディスクにセットする

「まぁ、、小野寺君のデッキも見てみたいっす、、デュエルデュエル」

「さぁ、、熱く楽しい制裁（デュエル）にしようぜ」

「なんか字が間違ってるかもしれないっすけど」

「「デュエル！！！」」

誠
ＬＰ４０００

ハモン
ＬＰ４０００

「自分のターンっす、、ドロー、、自分はトゥーン・アリゲーターを守備表示で召喚っす」

ハモンのフィールドにコミックが出現する

そしてコミックがパラパラと開きだしあるページで止まるとそこからコミカルなワニが斧を片手に出現する

トゥーン・アリゲーター
レベル４水属性
爬虫類族
攻撃力８００守備力１６００
効果なし

しかし、すごいカードを出してきたな

「さらにリバースカードを1枚伏せてターンエンドっす」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

ハモン
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　トゥーン・アリゲーター
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、いでよ、マンモ・フォッシル」

ゴゴゴゴゴゴと地面が揺れだし地面から全身がドロドロに解けたマンモスっぽいモンスターが出現する

岩石族で嬉しいんだけど、、このカードも岩石族っぽくないよな

マンモ・フォッシル
レベル４地属性
岩石族
攻撃力１８００守備力０
効果
このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、相手ライフに４００ポイントダメージを与える。

「バトル、、マンモ・フォッシルでトゥーン・アリゲーターに攻撃」

俺の場のマンモ・フォッシルがくしゃみっぽい動きをするとアゴから１つの岩石が放たれる

その岩が相手フィールド上のトゥーン・アリゲーターを押しつぶし破壊する

マンモ・フォッシル　攻撃力１８００＞トゥーン・アリゲーター守備力１６００

「マンモ・フォッシルの効果発動、、相手モンスターを戦闘で破壊した時相手ＬＰに４００ポイントの効果ダメージを与える」

「え、、そんなっす～～～～」

マンモ・フォッシルが雄たけびを上げると衝撃波のようなものがハモンに襲い掛かる

ハモン
ＬＰ４０００－４００＝３６００

「ック～～～、効果ダメージを与えてくるとは」

「メイン２に俺はリバースカードを２枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　マンモ・フォッシル
魔法トラップ　リバース×２

ハモン
ＬＰ３６００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「自分のターン、、トゥーン・ゴブリン突撃部隊を攻撃表示で召喚っす」

ポコポコポコっとコミカルなゴブリン突撃部隊が地面から生えてきてハモンのフィールドに出現する

トゥーン・ゴブリン突撃部隊
レベル４地属性
戦士族
攻撃力２３００守備力０
効果：トゥーン
召喚・反転召喚・特殊召喚したターンには攻撃できない。フィールド上の“トゥーン・ワールド”が破壊された時このカードも破壊する。自分のフィールド上に“トゥーン・ワールド”があり相手がトゥーンをコントロールしていない場合、このカードは相手プレイヤーを直接攻撃できる。このカードが攻撃した場合バトルフェイズ終了時に守備表示にし、次の自分のターン終了時まで表示形式は変更できない。

なるほど、、ハモンのデッキはトゥーンデッキか

しかし、トゥーンデッキとは警戒が必要だ

今はトゥーン・ワールドがないが発動しようものなら一瞬でＬＰを０にされてしまうかもしれない

多少のリスク覚悟で相手の場のモンスターを潰していくしかないか

「さらにリバースカードを１枚伏せてターンエンドっす」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　マンモ・フォッシル
魔法トラップ　リバース×２

ハモン
ＬＰ３６００
手札３枚
モンスター　トゥーンゴブリン突撃部隊
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、、コアキメイル・サンドマンを召喚」

サラサラサラっと天上から砂が降ってきて山になりその山の中からサンドマンが姿を現す

コアキメイル・サンドマン
レベル４地属性
岩石族
攻撃力１９００守備力１２００
効果
このカードのコントローラーは自分のエンドフェイズ毎に手札から“コアキメイルの鋼核”１枚を墓地へ送るか、手札の岩石族モンスター１体を相手に見せる。または、どちらも行わずにこのカードを破壊する。相手の罠カードが発動した時、このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。

「さらに手札から速攻魔法“突進”発動」

突進
速攻魔法
フィールド上に表側表示で存在するモンスター１体の攻撃力はエンドフェイズ時まで７００ポイントアップする。

「突進の効果でマンモ・フォッシルの攻撃力を７００ポイント上昇させるぜ」

マンモ・フォッシル
攻撃力１８００→２５００

「バトルだ、、、マンモ・フォッシルでトゥーン・ゴブリン突撃部隊に攻撃」

再びマンモ・フォッシルのアゴから岩石が発射される

そしてその岩石がトゥーン・ゴブリン突撃部隊に向かって飛んでいく

「させないっす、、トラップ発動、聖なるバリア～ミラーフォース～」

聖なるバリア～ミラーフォース～
通常トラップ
相手がモンスターで攻撃した時、相手の攻撃表示モンスターをすべて破壊する。

「ミラーフォースの効果で小野寺君の攻撃表示モンスターを全て破

壊するっす」

「させるかよ、、、サンドマンの効果発動、、ビクテム・サンクチュアリ」

俺の掛け声と共にサンドマンの体が砂となって霧散する

そしてその砂がハモンのフィールド場のミラーフォースのカードを包み込む

「サンドマンの効果、、トラップが発動した時このカードを生け贄にする事でトラップの発動を無効にし破壊する、、ミラーフォースは無効だ」

砂でおおわれたミラーフォースのカードがバリ～～～～ンと破壊される

「そしてバトル続行、、、マンモ・フォッシルでトゥーン・ゴブリン突撃部隊に攻撃」

先程放たれた岩石がようやくトゥーン・ゴブリン突撃部隊に直撃する

マンモ・フォッシル　攻撃力２５００＞トゥーン・ゴブリン突撃部隊　攻撃力２３００

ハモン

ＬＰ３６００－２００＝３４００

「さらにマンモ・フォッシルの効果で４００ポイントのダメージを与える」

再びこだまするマンモ・フォッシルの雄たけび

「ヒ～～～～」

ハモン
ＬＰ３４００－４００＝３０００

「これでターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　マンモ・フォッシル
魔法トラップ　リバース×２

ハモン
ＬＰ３０００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「自分のターンっす、、魔法発動“黙する死者”」

黙する死者
通常魔法
自分の墓地に存在する通常モンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを表側守備表示で特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターはフィールド上に表側表示で存在する限り攻撃する事ができない。

「墓地に眠るトゥーン・アリゲーターを守備表示で特殊召喚、、、そしてトゥーン・アリゲーターを生け贄に“トゥーン・ブラック・マジシャン・ガール”を生け贄召喚っす」

地面に光のゲートが出現しそこから先程倒したトゥーン・アリゲーターが飛び上がってきただが地面にアリゲーターが着地した瞬間背中のファスナーが開きそこからコミカルなブラマジガールが飛び上がってくる

トゥーン・ブラック・マジシャン・ガール
闇属性レベル6
魔法使い族
攻撃力2000守備力1700

効果：トゥーン
場に自分の“トゥーン・ワールド”がないと特殊召喚不可。“トゥーン・ワールド”が破壊された時このカードも破壊。相手がトゥーンをコントロールしていない場合このカードは相手を直接攻撃できるが、コントロールしている場合は相手のトゥーンを攻撃対象に選ぶ。また、自分と相手の墓地にある“ブラック・マジシャン”“マジシャン・オブ・ブラックカオス”の数だけ、攻撃力が３００ポイントアップ。

「そのままバトルっす、トゥーン・ブラック・マジシャン・ガールでマンモ・フォッシルに攻撃っす」

相手の場のコミカルなブラマジガールが杖を振り回しその杖から黒いエネルギーの塊のようなものを俺のマンモ・フォッシルに放つ

そしてマンモ・フォッシルの体がバリ～～～ンと破壊されていく

トゥーン・ブラック・マジシャン・ガール　攻撃力２０００＞マンモ・フォッシル　攻撃力１８００

誠

ＬＰ４０００－２００＝３８００

「クソ、、俺のモンスターが」

そして上級レベルトゥーンを相手の場に残す形になってしまった

「これで自分はターンエンドっす」

誠
ＬＰ３８００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

ハモン
ＬＰ３０００
手札２枚
モンスター　トゥーン・ブラック・マジシャン・ガール
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン」

ハンドアドバンテージは互角

ボードアドバンテージは向こうに上級モンスターが存在する分俺が

不利

「俺は手札のパワー・ジャイアントの効果を発動、、手札のコアキメイル・ガーディアンを墓地に送りこのカードのレベルを４下げて特殊召喚できる」

どこからとも無くカラフルなクリスタル達が俺のフィールドに集結し始める

そしてそれらが人の形となってパワー・ジャイアントの形となった

パワー・ジャイアント
地属性レベル６
岩石族
攻撃力２２００守備力０
効果
このカードは手札からレベル４以下のモンスター１体を墓地へ送り、手札から特殊召喚する事ができる。この方法で特殊召喚した場合、手札から墓地へ送ったモンスターのレベルの数だけこのカードのレベルを下げる。また、このカードが戦闘を行う場合、そのダメージステップ終了時まで自分が受ける効果ダメージは０になる。

パワー・ジャイアント
レベル６→２

「さらに手札のロックストーン・ウォリアーを攻撃表示で召喚」

パワー・ジャイアントが地面にその腕を突っ込む

そしてソレを引き上げるとその手にはロックストーン・ウォリアーが握られていた

ロックストーン・ウォリアー
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１８００守備力１６００
効果
このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。このカードの攻撃によってこのカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、自分フィールド上に“ロックストーン・トークン”（地属性レベル１岩石族攻撃力０守備力０）２体を特殊召喚する。このトークンはアドバンス召喚のためにはリリースできない。

「バトルだ、、、パワー・ジャイアントでトゥーン・ブラック・マジシャン・ガールに攻撃、、プリズムブリット！！！」

パワージャイアントの拳が粉々に砕け無数のクリスタルの破片になる

そしてその破片がトゥーン・ブラック・マジシャン・ガールに降り

注がれる

「キャ～～～～～」

宝石のシャワーを浴びてトゥーン・ブラック・マジシャン・ガールが破壊される

パワー・ジャイアント　攻撃力２２００＞トゥーン・ブラック・マジシャン・ガール　攻撃力２０００

ハモン
ＬＰ３０００－２００＝２８００

「追撃だ、、ロックストーン・ウォリアーで直接攻撃」

バシ～～ンとロックストーン・ウォリアーが近くにあった本棚にけりを入れる

すると本棚が倒れ始めそのまま別の本棚を巻き込み始める

そしてドミノ倒しのごとく倒れだした本棚はハモンを下敷きにする

「ヒ～～～～～」

いや、、何この攻撃演出、遊戯王初期のオマージュっすか？

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

ハモン
ＬＰ２８００－１８００＝１０００

「ようし、、俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ３８００
手札０枚
モンスター　パワー・ジャイアント、ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×２

ハモン
ＬＰ１０００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「自分のターン、、、、魔法発動“光の護封剣”」

本の山から這い上がりデュエルディスクにカードをセットするハモン

すると3本の光の剣が俺のモンスター達の目の前に突き刺さる

光の護封剣
通常魔法
相手フィールド上に存在するモンスターを全て表側表示にする。このカードは発動後、相手のターンで数えて3ターンの間フィールド上に残り続ける。このカードがフィールド上に存在する限り、相手フィールド上に存在するモンスターは攻撃宣言をする事ができない。

クソ、体制を整えるカードか

3ターン攻撃できないのは痛い

その間にトゥーン・ワールドをひかれようものなら、大ピンチだぜ

「さらにモンスターを裏守備でセットしてターンエンドっす」

誠
ＬＰ３８００
手札０枚
モンスター　パワー・ジャイアント、ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×２

ハモン
ＬＰ１０００
手札１枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　光の護封剣、リバース×１

「俺のターン」

俺の引いたカードはサイクロンじゃない

しかもこのカードはちょいと危険だぜ

「俺は、、、これでターンエンドだ」

誠
ＬＰ３８００
手札１枚
モンスター　パワー・ジャイアント、ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×２

ハモン
ＬＰ１０００
手札１枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　光の護封剣（１ターン目）、リバース×１

「自分のターンっす、、、何もせずターンエンドっす」

誠
ＬＰ３８００
手札１枚
モンスター　パワー・ジャイアント、ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×２

ハモン
ＬＰ１０００
手札１枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　光の護封剣、リバース×１

「俺のターン」

アレ？そういやぁ、、トゥーン・ワールドって確か
ＬＰ１０００払わなければ使えないカード
ハモンのＬＰは１０００
使えないじゃん

「俺はリバースカードを1枚追加、、さらに裏守備でモンスターをセットしてターンエンドだ」

誠
ＬＰ３８００
手札０枚
モンスター　パワー・ジャイアント、ロックストーン・ウォリアー、
裏守備×１
魔法トラップ　リバース×３

ハモン
ＬＰ１０００
手札１枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　光の護封剣（２ターン目）、リバース×１

「自分のターンっす、、、モンスター1体を裏守備でセットしてターンエンドっす」

誠
ＬＰ３８００
手札０枚
モンスター　パワー・ジャイアント、ロックストーン・ウォリアー、
裏守備×１
魔法トラップ　リバース×３

ハモン
ＬＰ１０００
手札１枚
モンスター　裏守備×２
魔法トラップ　光の護封剣（２ターン目）、リバース×１

「俺のターン、、、モンスターを反転召喚、メタモルポット」

メタモルポット
地属性レベル２
岩石族
攻撃力７００守備力６００
効果
リバース：お互いの手札を全て捨てる。その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを５枚ドローする。

「メタモルポットの効果で互いのプレイヤーは手札を全て捨ててデッキからカードを５枚ドローする」

クソ、、サイクロンひかなかったか

「俺はメタモルポットを生け贄にビック・ピース・ゴーレムを召喚」

俺の場のメタモルポットが激しく揺れだして中から巨大な岩石が放たれる

そしてそこから手足が生えてビック・ピース・ゴーレムの形になる

ビック・ピース・ゴーレム
レベル５地属性
岩石族
攻撃力２１００守備力０
効果
相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードはリリースなしで召喚する事ができる。

「まぁいい、、このエンドフェイズに光の護封剣が破壊されるぜ」

俺のフィールドに刺さっていた光の剣が消滅する

「ターンエンドだ」

誠
ＬＰ３８００

手札４枚
モンスター　パワー・ジャイアント、ロックストーン・ウォリアー、ビック・ピース・ゴーレム
魔法トラップ　リバース×３

ハモン
ＬＰ１０００
手札５枚
モンスター　裏守備×２
魔法トラップ　リバース×１

「自分のターン、、永続魔法発動“魔力倹約術”」
しまった、そのカードの存在をすっかり忘れていた

魔力倹約術
永続魔法
魔法カードを発動するために払うライフポイントが必要なくなる。

「さらに手札から永続魔法“トゥーン・ワールド”を発動っす」
ハモンがデュエルディスクにカードをセットすると次々と部屋中の本が集まりだす

そして終結した本たちは一つの巨大な本となりハモンのフィールドに降臨する

トゥーン・ワールド
永続魔法
このカードは１０００ライフポイントを払う事で発動する。

「そして魔法発動死者蘇生」

死者蘇生
通常魔法
自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

「死者蘇生の効果で墓地に眠るトゥーン・ブラック・マジシャン・ガールを特殊召喚っす」

ハモンの場の巨大な絵本がパラパラパラ～～～っと開きだしあるページでその動きが止まる

止まったページからファンタジーな雰囲気のお城が出現しそのお城の中から先程倒したトゥーン・ブラック・マジシャン・ガールが顔を出す

「トゥーン・ブラック・マジシャン・ガールは召喚、特殊召喚されたターンに攻撃できるっす、、バトル、トゥーン・ブラマジガールで直接攻撃っす」

コミカルなブラマジガールの杖から黒色の閃光が放たれる

そしてそれらは俺のフィールドのモンスターたちの体をすり抜け俺に向かってくる

「させるか、、トラップ発動、ガード・ブロック」

ガード・ブロック
通常トラップ
相手ターンの戦闘ダメージ計算時に発動する事ができる。その戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になり、自分のデッキからカードを１枚ドローする。

トゥーン・ブラック・マジシャン・ガール　攻撃力２０００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

クソ、さすがにこの世界でのトゥーンは恐ろしい

このターンはどうにかしのいだが次のターンまでにブラマジガールをどうにかしないと

「メイン2っす、、、裏守備モンスター1体を生け贄にトゥーン・デーモンを召喚っす」

巨大な本のページが再び動き始める

それと同時にトゥーン・ブラック・マジシャン・ガールが吹き飛ばされる

そしてトゥーン・ワールドからまがまがしくもコミカルな城が出現しこれまたコミカルな悪魔がその体をビヨ～～～ンとのばす

トゥーン・デーモン
レベル６闇属性
悪魔族
攻撃力２５００守備力１２００
効果：トゥーン
このカードは通常召喚できない。フィールドに自分の“トゥーン・ワールド”が存在する場合のみ特殊召喚できる（レベル５以上は生け贄が必要）。特殊召喚ターンには攻撃できない。５００ライフポイント払わなければ攻撃できない。“トゥーン・ワールド”が破壊された時このカードも破壊する。相手がトゥーンをコントロールしていない場合このカードは相手を直接攻撃できる。トゥーンが存在する場合、相手のトゥーンを攻撃対象に選択しなければならない。

「これでターンエンドっす」

誠
ＬＰ３８００
手札５枚
モンスター　パワー・ジャイアント、ロックストーン・ウォリアー、ビック・ピース・ゴーレム
魔法トラップ　リバース×２

ハモン
ＬＰ１０００
手札２枚
モンスター　トゥーン・ブラック・マジシャン・ガール、トゥーン・デーモン、裏守備×１
魔法トラップ　魔力倹約術、トゥーン・ワールド、リバース×１

「俺のターン」

クソ、攻撃力２５００か

俺のモンスターでは太刀打ちできない

だが、このターンで片付けなければ

「バトルに入る、、、パワー・ジャイアントでトゥーン・ブラック・マジシャン・ガールに攻撃」

自らの腕をトゥーン・ブラマジガールに向けるパワー・ジャイアント

すると右腕がロケットパンチとなって発射される

「リバース発動っす、、ガード・ブロック」

ブルータス、お前もか

パワー・ジャイアント　攻撃力２２００＞トゥーン・ブラック・マジシャン・ガール　攻撃力２０００

ガード・ブロックの効果でダメージはなしか

「ガード・ブロックの効果でデッキからカードを1枚ドローっす」

「さらにビック・ピース・ゴーレムで裏守備モンスターに攻撃」

ビック・ピース・ゴーレムが相手の裏守備モンスターに向かって飛んでいく

「自分のモンスターはスケルエンジェルっす」

相手の場のモンスターが表側表示になるとカードから天使の翼と弓矢が出現する

スケルエンジェル
レベル２光属性
天使族
攻撃力９００守備力４００
効果
リバース：自分のデッキからカードを１枚ドローする。

相手の場に出現した天使のパーツらしきモンスターをビック・ピース・ゴーレムが拳一つで空の彼方に吹っ飛ばす

ビック・ピース・ゴーレム　攻撃力２１００＞スケルエンジェル守備力２００

「スケルエンジェルの効果でデッキから１枚ドローっす」

「気にせずメイン２に入る、、手札から魔法発動“地砕き”」

地砕き

通常魔法
相手フィールド上に表側表示で存在する守備力が一番高いモンスター1体を破壊する。

俺の場のロックストーン・ウォリアーが地面に拳を突き刺す

そしてそこから地面が割れ始めその地割れに相手の場のトゥーン・デーモンをのみこんでいく

「ようし、、これで次のターンのダイレクトアタックを防いだぜ」

ちなみに俺のデッキにはモンスター除去魔法カードがわんさか入っている

相手がトゥーンだと相性がメタですかと言わんばかりにはめられる

直接攻撃がバンバン飛んでくるがデメリットとして1ターン待たないといけない

「俺はリバースを1枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ３８００
手札４枚
モンスター　パワー・ジャイアント、ロックストーン・ウォリアー、ビック・ピース・ゴーレム
魔法トラップ　リバース×３

ハモン
ＬＰ１０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　魔力倹約術、トゥーン・ワールド

「自分のターンっす、、２枚目の“トゥーン・ワールド”発動」
２枚目のトゥーン・ワールド、、、何故？
「そして自分フィールド上の３枚の永続魔法を墓地に送り」
そうか、、相手はハモンだった
「手札の自分自身、、、“降雷皇ハモン”を特殊召喚！！！！」
相手のフィールドの３枚の表側表示の永続魔法カードが黒い霧と化して天に集結しだす
そして霧が暗雲となって雷がいくつかフィールドに降り立ちその暗雲の中から黄色いボディーのまがまがしいモンスターが出現する

降雷皇ハモン
レベル１０光属性

雷族
攻撃力４０００守備力４０００
効果
このカードは通常召喚できない。自分フィールド上に表側表示で存在する永続魔法カード3枚を墓地に送った場合のみ特殊召喚する事ができる。このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、相手ライフに１０００ポイントダメージを与える。このカードが自分フィールド上に表側守備表示で存在する場合、相手は他のモンスターを攻撃対象に選択できない。

「バトルっす、、、ハモンでビック・ピース・ゴーレムに攻撃“失楽の霹靂”！！！」

ハモンの体から無数の雷が放たれ俺のビック・ピース・ゴーレムの体を貫いていく

降雷皇ハモン　攻撃力４０００＞ビック・ピース・ゴーレム　攻撃力２１００

誠
ＬＰ３８００－１９００＝１９００

「さらにハモンの効果発動、、、相手モンスターを戦闘破壊した事

により相手ＬＰに１０００ポイントのダメージを与える、、”地獄の贖罪”」

「何、、、ぐお～～～～」

誠
ＬＰ１９００－１０００＝９００

「まずい、あと1枚でもハモンに戦闘破壊されれば俺の負けだ」

「自分はリバースを3枚追加してターンエンドっす」

誠
ＬＰ９００
手札４枚
モンスター　パワー・ジャイアント、ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×３

ハモン
ＬＰ１０００
手札３枚
モンスター　降雷皇ハモン
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、、、リバース発動、ブラック・ホール」

ブラック・ホール
通常魔法
フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

「互いのフィールド上のモンスターを全て破壊する」

フィールドのまんなかにブラック・ホールが発生し激しい旋風が吹き荒れる

「リバース発動っす、、、ホワイトホールっす」

おいおい、、マジかよ

ホワイトホール
通常トラップ
相手が“ブラック・ホール”を発動した時に発動できる。自分フィールド上に存在するモンスターは、その“ブラック・ホール”の効果では破壊されない。

ハモンの目の前に白いバリアのような物が出現し旋風をシャットダウンする

そしてブラック・ホールに俺のモンスターのみ吸収される

クソ、、昔サンダーボルトをもってなかった時、ブラック・ホールとホワイト・ホールで代用していたが、ブラック・ホールが復活してもデッキに戻さなかった俺に対するたたりなのか？

「ブラック・ホールが裏目に出たか、、、、俺はリバースを1枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ９００
手札４枚
モンスター　パワー・ジャイアント、ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×３

ハモン
ＬＰ１０００
手札３枚
モンスター　降雷皇ハモン
魔法トラップ　リバース×２

「自分のターンっす、、ハモンで直接攻撃っす、、“失楽の霹靂”」

「リバース発動、、、ディメンション・ウォール」

ディメンデョン・ウォール
通常トラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。この戦闘によって自分が受ける戦闘ダメージは、かわりに相手が受ける。

俺のまわりに次元の穴が多数出現する

そしてそれらの穴にハモンから放たれた雷が吸い込まれてゆく

「さぁ、、俺が受けるダメージ４０００を変わりにくらってもらおうか」

「リバース発動、、レインボー・ライフ」

なにそれおいしいの？

レインボー・ライフ
通常トラップ
通常罠
手札を1枚捨てる。このターンのエンドフェイズ時まで、自分が受

けるダメージは無効になり、その数値分ライフポイントを回復する。

「自分が受けるダメージを全て無効にしその数値分ＬＰを回復っす」

ハモンのまわりの次元の穴が出現しそこから雷が放たれる

だが次の瞬間ハモンのまわりにバリアが発生し雷を吸収していく

ハモン
ＬＰ１０００＋４０００＝５０００

ＬＰ超回復っすね

どうする、、状況は不利になっていくばかりだぞ

「自分はこれでターンエンドっす」

誠
ＬＰ９００
手札４枚
モンスター　パワー・ジャイアント、ロックストーン・ウォリアー
魔法トラップ　リバース×３

ハモン
ＬＰ５０００
手札３枚
モンスター　降雷皇ハモン
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン」

きた、きたぜ、、このデッキの切り札が

「俺は墓地に眠るパワー・ジャイアントとビック・ピース・ゴーレムをゲームから除外し“地球巨人ガイア・プレート”を特殊召喚する」

ハモンの部屋が激しく揺れ始める

そして地面が大きく割れるとそこから巨大な岩の塊の人型モンスターがはい上がってくる

地球巨人ガイア・プレート
レベル８地属性
岩石族
攻撃力２８００守備力１０００

効果
このカードは自分の墓地の岩石族モンスター2体をゲームから除外して特殊召喚する事ができる。このカードと戦闘を行う相手モンスターの攻撃力・守備力を半分にする。自分のスタンバイフェイズ時に自分の墓地の岩石族モンスター1体をゲームから除外する。除外しない場合、このカードを墓地へ送る。

「ガイア・プレート、、なんて巨大なモンスターなんすか」

「さらにコアキメイル・ガーディアンを攻撃表示で召喚」

ガイア・プレートの作ったクレパスから少し小さめの石像が現れ俺のフィールドに出現する

俺が宣言しなければきっと気づかれなかったかもしれないな

コアキメイル・ガーディアン
レベル4地属性
岩石族
攻撃力1900守備力1200
効果
このカードのコントローラーは自分のエンドフェイズ毎に手札から“コアキメイルの鋼核”1枚を墓地へ送るか、手札の岩石族モンスター1体を相手に見せる。または、どちらも行わずにこのカードを破壊する。効果モンスターの効果が発動した時、このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。

「バトルだ、、、ガイア・プレートでハモンに攻撃」

「攻撃力２８００のガイア・プレートで攻撃力４０００のハモンに攻撃、、、自滅っすか？」

「ガイアプレートの効果発動」

次の瞬間ガイア・プレートの巨体が大空に舞い上がる

そしてその巨体が地面に突き刺さると同時にハモンの足下が崩れ始めハモンの体が少し埋まる

「このカードと戦闘を行うモンスターのステータスは半分になる」

ハモン
攻撃力４０００→２０００

「そ、、そんな」

ゴゴゴゴゴとハモンを巻き込んでいる地面がガイア・プレートに向かって移動し始める

「ガイア・プレートの攻撃、、、マントル・クラッシュ・ハンマ～～～～！！！！！」

そして移動する地割れによって動きを封じ込まれなすすべなくガイ

ア・プレートに吸い寄せられるハモン
そしてハモンの巨大な腕がハモンの体を粉砕する

地球巨人ガイア・プレート　攻撃力２８００＞降雷王ハモン　攻撃力２０００

ハモン
ＬＰ５０００－８００＝４２００

「さらにコアキメイル・ガーディアンで相手プレイヤーに直接攻撃」
タッタッタッタと相手プレーヤーに向かって駆け出す
そして手に持った剣で相手プレイヤーに切りかかる

「ヒィ～～～」

コアキメイル・ガーディアン　攻撃力１９００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

ハモン
ＬＰ４２００－１９００＝２３００

「だけど、、まだＬＰが残ってるっす」

「何勘違いしているんだ」

「ッヒョ！？」

「まだ俺のバトルフェイズは終了しちゃいないぜ」

「何いってるんっす、、、もう小野寺君のモンスターは全て攻撃を終了したじゃないっすか」

「トラップ発動“異次元からの帰還”」

異次元からの帰還
通常トラップ
ライフポイントを半分払って発動する。ゲームから除外されている自分のモンスターを可能な限り自分フィールド上に特殊召喚する。エンドフェイズ時、この効果で特殊召喚した全てのモンスターはゲームから除外される。

「俺はＬＰを半分支払いゲームから除外されているパワー・ジャイアントとビック・ピース・ゴーレムを特殊召喚するぜ」

誠

ＬＰ９００→４５０

「させないっす、、カウンタートラップ発動“トラップ・ジャマー”」

トラップ・ジャマー
カウンタートラップ
バトルフェイズ中のみ発動する事ができる。相手が発動した罠カードの発動を無効にし破壊する。

「トラップ・ジャマーの効果で異次元からの帰還を向こうにするっす」

「リバース発動“神の宣告”」

神の宣告
カウンタートラップ
ライフポイントを半分払って発動する。魔法・罠カードの発動、モンスターの召喚・反転召喚・特殊召喚のどれか１つを無効にし破壊する。

「トラップ・ジャマーは無効にさせてもらうぜ」

誠
ＬＰ４５０→２２５

「そ、、そんな～～」

「異次元からの帰還の効果で俺の場にパワー・ジャイアントとビック・ピース・ゴーレムを攻撃表示で特殊召喚する」

俺の場に巨大なゴーレムが２体並ぶ

「２体のゴーレムで直接攻撃だ」

「ヒ～～～～～～」

パワー・ジャイアント　攻撃力２２００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

ビック・ピース・ゴーレム　攻撃力２１００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

ハモン
ＬＰ２３００－４３００＝－２０００

「うっしゃ～～～、、勝ったぜ」

「いや～～～、負けちゃったっす」

デュエルが終わり俺はハモンと互いの健闘をたたえあい握手する

「最高に熱いデュエルだったぜ」

「自分も、、久しぶりにいいデュエルができたっす」

「ゴゴゴゴゴゴゴゴ」

「あ、、誠さん、階段が出現しました」

「これが次の、最後の階、、、ラビエルの所につながってるっす」

「そうか、、次でいよいよ最後か」

「三幻魔の塔もこれで最後」

「小野寺君、、、気をつけるっす」

「あぁ、、それじゃあ、またな、、、ハモン」

俺とモアイは階段を駆け上がる

「さて、ラストデュエルと行きますか」

第３５話怒れ誠、炸裂ガイア・プレート（後書き）

次回三幻魔編ラストです。

今回の誠のデッキは低レベルで攻撃力の高い岩石族モンスターと召喚条件がゆるい特殊召喚可能な岩石族モンスター満載＋モンスター除去カード満載の岩石ビートデッキです。

そしてハモンのデッキはトゥーンデッキです。最初はハモンのキャラ設定だけ考えてました。ハモンはオタクキャラにしてどんなデッキを作ろうか考えている最中“ハモンはオタク設定だからトゥーンでっきにしよう、ちょうどトゥーン・ワールドは永続魔法だからハモンのコストにもできるしそれにしよう”っとトゥーンデッキにしたんですが……書きづらかったです、相変わらず行き当たりばったりでシナリオを考えて自分で苦しめている、これなんて一人ＳＭ

「ＳＭ！？私の出番ですね」

マゾメイドは誠の部屋に戻ってくれ。

それでは次回もよろしくお願いします。

第３６話やっぱり我が家が１番です（前書き）

三幻魔編ラストです。

初めての長編＋普段使い慣れてないカードのデッキのオンパレードで俺の体はボロボロだ（〇Ｈ〇）

のっけから本編に関係ない分が出てきますが、３６話をどうぞ。

第３６話やっぱり我が家が１番です

「冬将軍と」

「誠と」

「モアイの」

「タカ」

「トラ」

「バッタ」

「「タトバクッキング～～～！！！」」

「って、のりでやってしまいましたがなんですかこれ？」

「これはうめ吉さんの小説、に感化され俺も小説内で料理レシピっぽいものを書いてみようとおもってな、、料理できる人ってカッコイイ～～なんんて思ってしまった、、俺も便乗して自分の小説に料理レシピのせて“この作者結構いけてね～”って言われたいんだ、やるからにはうめ吉さんに負けられないぜ」

「って、冬将軍、、、今日はどんな料理をつくるんだ？」

「今日の料理はこちら」

“ラーメン茶漬け”

「材料の紹介です、、、白米を適量、ニッシンのカップヌードルシーフード味お好みのサイズ、あっついお湯それなり、、以上です」

「材料の時点でカッコイイ要素０ですね」

「ステップ1、カップヌードルの中身をどんぶりに移しいい感じで粉々に砕きます」

「メンが少し残る程度がちょうどいいぞ」

「ステップ2、どんぶりの中に用意していたご飯も大投下！！！」

「ふと思ったんですが材料が3つしかないと言う事は調理方法が簡単になってしまう気がするんですが」

「ステップ3、そして熱湯をどんぶりに注ぎます」

「やけどには注意しろよ」

「そして中身をよく混ぜてメンの芯がなくなったら“ラーメン茶漬け”の完成です」

「その程度の料理でよくうめ吉さんに負けない宣言しましたね、、今すぐうめ吉さんにあやまって下さい、、沙羅弥デイズＱｕｏＤはちゃんとした料理を作ってますので皆さん見てくださいね」

「相変わらず宣伝がへたくそだなこの小説」

「さて、、、暴れるだけ暴れた事だし、俺は帰るぜ、、、、三幻魔編も今回でラスト、、気張っていけよ誠」

そういって冬将軍の雪だるま状のボディーが溶け始め蒸発し完全にその姿を消す

「さて、、、それじゃあ最後の番人ラビエルのところに行きますか」

「ハイ」

「うっしゃ、行くぜ」

バコ～～～～ンと目の前の扉を秋葉キックで蹴破る

「男、、誠参上、、、、、メガロック、帰るぞ、、って、いねー」

ドアを超えると部屋と言うよりも屋上っぽい場所にでる

「スイマセン誠さん、、いい加減初期の遊戯王ネタを引きずるのはどうかと思います」

「さて、、、ソレよりもだ、ここの番人ラビエルを探さないとな」

「ハイ、、この階にラビエルだけでなくメガロックさんもいるはずです」

「とりあえず、、探しますか」

3階に出て数分

1階2階と違って殺風景な為俺達の探し物はすぐに見つかった

「ありましたね」

「あぁ」

俺達の目の前には巨大な石版のようなものがたっている

そしてその前面にはメガロックが刺さっていた

まぁ、わかりやすく言えばキン肉マンの火事場のクソ力が封印されている扉っぽいのが目の前にある

「さて、、どうしたものか、とりあえず、、、、ライダーパンチ」

全力の右ストレートを扉に叩き込むがびくともしなかった

「ならば、、、ペガサス彗星拳、またの名を10連釘パンチ」

ガガガガガガと一箇所を連続で殴るも扉は微動だにしない

「こうなったら、、、モアイ、、、ソード、スピア、ツインロッド、

トリプルロッド、トンファー、シールドを出してくれ」

「私は別に五老峰に座してハーデス軍を監視してないですから」

「ならば、、ゴールドセイント１２人のコスモを燃やせばあるいは」

「嘆きの壁じゃないですから」

視線変更～モアイ～

「うお～～～～、、太陽剣オーロラプラズマ返し」

「とか言いつつも蹴りしてるじゃないですか、、、そこはせめて拳(けん)じゃないんですか？」

「ならば、、大雪山おろし～～～～」

扉をガシっとつかみ持ち上げようとする誠さんですが扉はうんともすんともいいません

「クソ、、、スパロボだと、たとえどんな投げるの不可能な敵でも投げ飛ばせると言うのに」

「それは演出だからでしょう」

「うお～～～～～、、筋肉が通ります、相当な筋肉が通ります」

メガロックさんを傷つけないようにドアを攻撃する誠さん

案外器用みたいです

「ＪＡＫＱ、ジャッカーコバックだ」

しまいにドアに頭突きし始めます

「、、、、、これは」

何かが私の足下に落下して来ました

「まさか、、、、血」

見てみると誠さんから赤いしぶきが飛び散っています

両手の皮膚ががボロボロでそこから血が出ているようです

「誠さん、、、落ち着いてくだっさい」

これ以上は危険すぎます

私は暴れる誠さんを羽交い絞めにし動きを止めます

「ＨＡ☆ＮＡ☆ＳＥ、、もうすこしでゲージがたまる、たまったゲージを使って真空波動拳使えばメガロックを救えるはずなんだ」

視線変更～誠～

「すまないモアイ、、、また暴走してしまった」

「いえ、、冷静になってくれたのでよかったです」

扉と格闘する事数分

何も変化が無いまま俺の両拳がボロボロになっただけで無駄な時間をすごしてしまった

クソ、救いたい人が目の前にいるのに

何もできないのは実にもどかしい

「まったく、、、騒がしいやつらだ」

「「！！！」」

ズカズカと向こう側から一人の女性が歩いてくる

そして俺達の目の前までやってきた

すこし高めの身長

少し長めの青髪

「一応確認しておくぞ、、、あんたがラビエルか」

「そうだ、、、俺様がこの階の番人、ラビエル様だ」

俺様キャラだ～～～～～、、さすがはオベリスクっぽい三幻魔だけあって海馬っぽいぜ

「スイマセン、ラビエルさん、、、相談したい事があるんですが」

「なんだ、、言ってみろ」

「メガロックさんを返して欲しいのですが」

「メガロック、、、あぁ、この小娘の事か」

腕を組みながらメガロックをにらむラビエル

「そもそも、、、この小娘が勝手にやってきて現実世界と三幻魔の塔のつながる道をふさいだからこうなったんだ」

そうか、、メガロックは体を張って巨大ネズミ3姉妹にモアイを守ったんだな

「だけど、、、、そもそもお前が影丸会長に力を悪用されたのが原因だろ」

「ッグ」

痛いところ疲れて少したじろぐラビエル

「とにかく、、俺の相棒を返してくれるか」

「無理だな、、、、この空間にあるものは全て俺のもの、、そこにあるビックカメラのカードにたまったポイントを全てつぎ込んで買った４０型テレビ、ニトリで買ったリクライニングソファーから石ころに至るまで全て俺のものだ」

「意外と庶民じみたところあるんだな」

「この空間にあるものをどうにかしたいと言うのであれば、、、わかっているな」

そういってラビエルはデュエルディスクをかまえだす

「まぁ、、、想像はしていたけどな」

「下の階の2人を倒した貴様の腕前、、見せてもらうぞ」

ラビエルがちょうどメガロックの前に達俺達と向かい合う形になる

「いいだろう、、試作デッキ3つ目にして最後のデッキ、、、、ここぞという時の為にとっておいたぜ」

最後を飾るに使うべきデッキ、ここで使わせてもらうぜ

「「デュエル！！！」」

誠

ＬＰ４０００
ラビエル
ＬＰ４０００

「俺のターン、、ドロー」

クソ、キーカードが手札に無い

だったら時間を稼ぐまでだ

「モンスターを裏守備でセットしてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

ラビエル
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「俺様のターン、、、こい、“マッド・デーモン”」

相手フィールドに頭蓋骨が出現する

そしてその頭蓋骨を覆うかのように悪魔の体が出現しマッド・デーモンが相手フィールドに出現する

マッド・デーモン
レベル４闇属性
悪魔族
攻撃力１８００守備力０
効果
このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。フィールド上に表側攻撃表示で存在するこのカードが攻撃対象に選択された時、このカードの表示形式を守備表示にする。

「マッド・デーモンで裏守備モンスターに攻撃だ」

マッド・デーモンのおなかの頭蓋骨が粉々に砕かれる

そしてその破片が俺の裏守備カードに向かって飛んでくる

「俺のモンスターは“岩石の巨兵”だ」

裏守備カードが表になると同時に巨大な岩の塊のモンスターが俺にフィールドに現れる

岩石の巨兵
レベル３地属性
岩石族
攻撃力１３００守備力２０００
効果なし

なにげにこのカードレベル制限Ｂ地区下でも攻撃できるからな

ホイリー・エルフやハープの精はレベル４なのにたいしこのカードは攻撃力が５００高くレベルは３、何故？

なんて思っているうちに戦闘が始まっている

マッド・デーモン　攻撃力１８００＜岩石の巨兵　守備力２０００

ラビエル
ＬＰ４０００－２００＝３８００

「フン、、、守備に徹する作戦か、、俺様はリバースを１枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　岩石の巨兵
魔法トラップ　なし

ラビエル
ＬＰ３８００
手札４枚
モンスター　マッド・デーモン
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、、あいつが来ないか、、だったら“破壊のゴーレム”を召喚」

ゴゴゴゴと地面に大きな穴が開きそこから少し小さめのゴーレムが現れる

破壊のゴーレム
レベル４地属性
岩石族
攻撃力１５００守備力１０００
効果なし

「バトル、、、破壊のゴーレムでマッド・デーモンに攻撃、、その瞬間マッド・デーモンの効果が発動するな」

「あぁ、、、マッド・デーモンは攻撃された時守備表示になる」

俺の破壊のゴーレムがマッド・デーモンに向かって走り出すと同時にマッド・デーモンは腕をクロスさせ防御の態勢をとる

破壊のゴーレム　攻撃力１５００＞マッド・デーモン　守備力０

「マッド・デーモンの効果を逆手に取られるとは」

でも、マッドデーモンといいスピア・ドラゴンといい状況によっては結構強いカードになるからな

相手フィールド上にやたらと攻撃力が高いカードがいて守備表示モンスターが2，3体並んでいる時意外なダメージを与えられる事もあるしな

「メイン2だが、、何もする事はない、俺はこれでターンエンドだ」

誠

ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　岩石の巨兵、破壊のゴーレム
魔法トラップ　なし

ラビエル
ＬＰ３８００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「俺様のターン、、目先のモンスターの破壊にとらわれプレイミスをしているな、マッド・デーモンはおとりだったのだ、いでよ“デーモン・ソルジャー”」

相手フィールドに黒い霧が噴出しそこから漆黒のマントを羽織った悪魔が出現する

デーモン・ソルジャー
レベル４闇属性
悪魔族
攻撃力１９００守備力１５００
効果なし

「バトル、、デーモン・ソルジャーで破壊のゴーレムに攻撃」

デーモン・ソルジャーがマントが巨大なカッターとなって俺の破壊のゴーレムの体を真っ二つにする

デーモン・ソルジャー　攻撃力１９００＞破壊のゴーレム　攻撃力１５００

誠
ＬＰ４０００－４００＝３６００

「フン、、マッド・デーモンを攻撃させたのは貴様の守備体制を崩す為だったのだ」

しってたさ、、だがあえて乗ったんだ

「俺様はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ３６００
手札５枚
モンスター　岩石の巨兵

魔法トラップ　なし

ラビエル
ＬＰ３８００
手札４枚
モンスター　デーモン・ソルジャー
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、来たぜ、永続魔法発動“凡骨の意地”」

凡骨の意地
永続魔法
ドローフェイズにドローしたカードが通常モンスターだった場合、そのカードを相手に見せる事で、自分はカードをもう１枚ドローする事ができる。

やっときてくれたぜ俺のキーカード

「さらにモンスターを１体裏守備でセットしてターンエンドだ」

誠
ＬＰ３６００
手札４枚

モンスター　岩石の巨兵、裏守備×１
魔法トラップ　凡骨の意地

ラビエル
ＬＰ３８００
手札４枚
モンスター　デーモン・ソルジャー
魔法トラップ　リバース×１

「俺様のターン、、、防戦一方のようだな、リバースもろくに伏せないで、俺様はフィールドの僕(しもべ)を生け贄に“暗黒魔族ギルファー・デーモン”を召喚する」

デーモン・ソルジャーのマントがまるで悪魔の翼のように展開されるそしてそのままデーモン・ソルジャーの体が変色しギルファー・デーモンの姿になる

暗黒魔族ギルファー・デーモン
レベル６闇属性
悪魔族
攻撃力２２００守備力２５００
効果
このカードが墓地へ送られた時、フィールド上に存在するモンスター１体を選択して発動する事ができる。このカードを攻撃力５００

ポイントダウンの装備カード扱いとして、選択したモンスターに装備する。

「バトルだ、、、その目障りな石ころを焼き尽くせギルファー・デーモン、、“ギルファーフレイム”」

巨大な漆黒の炎の渦が俺の岩石の巨兵をつつみこむ

そしてその炎にやられて岩石の巨兵の姿が俺のフィールドから消滅する

暗黒魔族ギルファー・デーモン　攻撃力２２００＞岩石の巨兵　守備力２０００

ギルファー・デーモンか

かつてビートデッキ使いの俺を何度も苦しめたカード

何度墓地に送ってもしつこく俺のモンスターにまとわりつくいやなカードだ

「メイン2に俺様はリバースを1枚追加してターンエンドだ」

誠

ＬＰ３６００
手札４枚
モンスター　守備×１
魔法トラップ　凡骨の意地

ラビエル
ＬＰ３８００
手札３枚
モンスター　暗黒魔族ギルファー・デーモン
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、ドロー、凡骨の維持の効果を発動、俺が引いたカードは“はにわ”、、追加ドロー、、“ガンロック”、、ドロー“マグネット・ウォリアーα”ドロー、、“サンド・ストーン”ドロー、、、ここで打ち止めか、リバースを１枚追加しモンスターを裏守備でセットしエンドフェイズに手札を１枚墓地に送りターンエンド」

誠
ＬＰ３６００
手札６枚
モンスター　守備×２
魔法トラップ　凡骨の意地、リバース×１

ラビエル
ＬＰ３８００
手札３枚
モンスター　暗黒魔族ギルファー・デーモン
魔法トラップ　リバース×２

「俺様のターン、、、“ゴブリン・エリート部隊”を召喚」

ゴゴゴゴゴゴとどこからとも無く轟音が響き渡る

そして向こう側から甲冑を着けた白馬にまたがったこれまた甲冑を着けたゴブリンノ群れがやって来る

ゴブリン・エリート部隊
レベル４地属性
悪魔族
攻撃力２２００守備力１５００
効果
このカードは攻撃した場合、バトルフェイズ終了時に守備表示になる。次の自分のターン終了時までこのカードは表示形式を変更できない。

「バトルだ、、ギルファー・デーモンとゴブリン・エリート部隊で

貴様の裏守備モンスター達に攻撃」

ひときわ大きい悪魔はその翼を広げて

郡で行動するゴブリンたちは乗っている白馬で

それぞれ別々の方法で俺の裏守備モンスター達に襲い掛かってくる

「俺のモンスターは“はにわ”に“岩窟魔人オーガ・ロック”だ」

ハニワ
レベル２地属性
岩石族
攻撃力５００守備力５００
効果なし

岩窟魔人オーガ・ロック
レベル３地属性
岩石族
攻撃力８００守備力１２００
効果なし

暗黒魔族ギルファー・デーモン　攻撃力２２００＞岩窟魔人オーガ・

ロック　守備力１２００

ゴブリン・エリート部隊　攻撃力２２００＞ハニワ　守備力５００

ギルファー・デーモンが軽く息を吹いただけでオーガ・ロックの体が風化していく

そしてハニワにいたってがゴブリン・エリート部隊の目にすら入らず馬にひき殺されてしまう

何ですかこの圧倒的実力差のようなもの

「フハハハハ、、雑魚を並べて攻撃をしのぐとはなんとも惨めな男だ、、メイン２にゴブリン・エリート部隊は守備表示に変更される、、これで俺様はターンエンドだ」

誠
ＬＰ３６００
手札６枚
モンスター　なし
魔法トラップ　凡骨の意地、リバース×１

ラビエル
ＬＰ３８００

手札３枚
モンスター　暗黒魔族ギルファー・デーモン、ゴブリン・エリート部隊
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、ドロー、ドローしたカードは“岩石の精霊”、、凡骨の意地の効果で追加ドロー、、、“マグネット・ウォリアーγ”追加ドロー、、“迷宮壁～ラビリンスウォール～”追加ドロー、、“はにわ”追加ドロー、、“千年ゴーレム”、ドロー“ガンロック”、、、、ドロー打ち止めか、俺はモンスターを裏守備でセットしてエンドフェイズ、、、、、、手札を４枚墓地に捨ててターンエンドだ」

誠
ＬＰ３６００
手札６枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　凡骨の意地、リバース×１

ラビエル
ＬＰ３８００
手札３枚
モンスター　暗黒魔族ギルファー・デーモン、ゴブリン・エリート部隊
魔法トラップ　リバース×２

「俺様のターン、、ゴブリン・エリート部隊を生け贄に、現れろ、、“野望のゴーファー”」

突如ゴブリン・エリート部隊の先頭に立っていたゴブリンが苦しみ始めその脳ミソから触手が数本延び始める

そしてその触手が他のゴブリン達の頭に突き刺さりその体から養分を吸い取っていく

最終的に最初のゴブリンの頭を突き破り野望のゴーファーが出現する

完全に放送コードに引っかかる演出だなこれ

野望のゴーファー
レベル６闇属性
悪魔族
攻撃力２４００守備力１００
効果
１ターンに１度、相手フィールド上に存在するモンスターを2体まで選択して発動する事ができる。相手は手札のモンスター1体を見せてこのカードの効果を無効にする事ができる。見せなかった場合、選択したモンスターを破壊する。

「ゴーファーの効果は使っても無意味だな」

「あぁ、、さっきからモンスターカードをたらふくドローしてるからな」

「ならば直接破壊してくれる、、ギルファー・デーモンで裏守備モンスターに攻撃」

ギルファー・デーモンの掌から漆黒の魔力が俺のモンスターに向かって飛んでくる

「俺のモンスターは“ガンロックだ”」

ガンロック
レベル４地属性
岩石族
攻撃力１０００守備力１３００
効果なし

暗黒魔族ギルファー・デーモン　攻撃力２２００＞ガンロック　守備力１３００

「今度こそダメージを受けてもらうぞ、、、野望のゴーファーでダイレクトアタックだ」

ウネウネと触手が俺に向かって飛んでくる

まずいって、あんな攻撃くらったら立体映像だろうとも気持つ悪くなってしまいそうだ

「リバース発動、、、“蘇りし魂”」

蘇りし魂
永続トラップ
自分の墓地から通常モンスター1体を守備表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「俺は墓地に眠る“迷宮壁〜ラビリンス・ウォール〜”を守備表示で特殊召喚する」

ウネウネとした触手を阻むかのように地価から巨大な城壁が出現する

迷宮壁～ラビリンス・ウォール～
レベル５地属性
岩石族
攻撃力０守備力３０００
効果なし

「ック、凡骨の意地で増やした手札から墓地に送っていたか、攻撃は中断、、俺様はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ３６００
手札６枚
モンスター　迷宮壁～ラビリンス・ウォール～
魔法トラップ　凡骨の意地、蘇りし魂

ラビエル
ＬＰ３８００
手札３枚
モンスター　暗黒魔族ギルファー・デーモン、野望のゴーファー
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、ドロー、、“マグネット・ウォリアーβ”、、ドロー“はにわ”、、ドロー“サンド・ストーン”ドロー“岩石の巨

兵”ドロー“マグネット・ウォリアーα”ドロー、、打ち止めか、、、、そろそろ攻めてみるぜ、俺は手札のマグネット・ウォリアーα、β、γの3対を墓地に送り“磁石の戦士マグネット・バルキリオン”を特殊召喚」

磁石の戦士マグネット・バルキリオン
レベル8地属性
岩石族
攻撃力3500守備力3850
効果
このカードは通常召喚できない。自分の手札・フィールド上から“磁石の戦士α”“磁石の戦士β”“磁石の戦士γ”をそれぞれ1体ずつリリースした場合に特殊召喚する事ができる。また、自分フィールド上に存在するこのカードをリリースする事で、自分の墓地に存在する“磁石の戦士α”“磁石の戦士β”“磁石の戦士γ”をそれぞれ1体ずつ選択して特殊召喚する。

「バトルだ、、マグネット・ヴァルキリオンで野望のゴーファーに攻撃、、、“約束されし勝利の磁石剣～マグネットセイバー～”」

マグネット・ヴァルキリオンが自らの剣を大きく振りかぶり脳ミソの化け物を一刀両断する

マグネット・ヴァルキリオン　攻撃力3500＞野望のゴーファー　攻撃力2400

ラビエル
ＬＰ３８００－１１００＝２７００

「この俺様にここまでの手傷を負わせるとはな」

「っへ、、見たか、いつまでもやられっぱなしじゃ無いんだぜ、俺はエンドフェイズに手札を2枚捨ててターンエンドだ」

誠
ＬＰ３６００
手札６枚
モンスター　迷宮壁～ラビリンス・ウォール～、マグネット・バルキリオン
魔法トラップ　凡骨の意地、蘇りし魂

ラビエル
ＬＰ２７００
手札３枚
モンスター　暗黒魔族ギルファー・デーモン
魔法トラップ　リバース×２

「俺様のターン、、“正統なる血統”」

正統なる血統
通常トラップ
自分の墓地に存在する通常モンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

「俺様の墓地に眠るデーモン・ソルジャーを復活させる、、、そしてガーゴイルを通常召喚」
地面から鉄柱がはえ始めその上に翼のはえた悪魔が降り立つ

ガーゴイル
レベル３闇属性
悪魔族
攻撃力１０００守備力５００
効果なし

この局面で低レベル悪魔を召喚
しかしこのターン召喚権を使っている

そして相手フィールドには悪魔が3体

そして相手はラビエル、、、、まさか！！！

って、三幻魔編ですっかりパターン化してるなこの台詞

「フィールド上の悪魔族モンスター3体を生け贄に俺様自身、、、
“幻魔皇ラビエル”を特殊召喚する」

ゴゴゴゴゴゴゴゴとラビエルから青色の闘気のようなあふれ出てくる

そしてソレが終結し始め幻魔皇ラビエルの形となる

幻魔皇ラビエル
レベル１０闇属性
悪魔族
攻撃力４０００守備力４０００
効果
このカードは通常召喚できない。自分フィールド上に存在する悪魔族モンスター3体を生け贄に捧げた場合のみ特殊召喚する事ができる。相手がモンスターを召喚する度に自分フィールド上に“幻魔トークン”（悪魔族・闇・星１・攻／守１０００）を1体特殊召喚する。このトークンは攻撃宣言を行う事ができない。1ターンに1度だけ、自分フィールド上のモンスター1体を生け贄に捧げる事で、このターンのエンドフェイズ時までこのカードの攻撃力は生け贄に捧げたモンスターの元々の攻撃力分アップする。

「バトルだ、、、幻魔皇ラビエルでマグネット・バルキリオンに攻撃、、、“天界蹂躙拳”！！！！！」

巨大な拳がマグネット・バルキリオンの体を貫き粉砕し破壊する

幻魔皇ラビエル　攻撃力４０００＞磁石の戦士マグネット・バルキリオン　攻撃力３５００

誠
ＬＰ３６００－５００＝３１００

「俺様はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ３１００
手札６枚
モンスター　迷宮壁～ラビリンス・ウォール～
魔法トラップ　凡骨の意地、蘇りし魂

ラビエル

ＬＰ２７００
手札２枚
モンスター　幻魔皇ラビエル
魔法トラップ　正統なる血統、リバース×１

「俺のターン、、ドロー“太鼓の壷”、、ドロー“イースター島のモアイ”、、ドロー“破壊のゴーレム”ドロー、、、、打ち止めだ、、そして魔法発動“ライトニング・ボルテックス”」

ライトニング・ボルテックス
通常魔法
手札を１枚捨てて発動する。相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊する。

「手札を１枚墓地に送り相手フィールド上のモンスターを全て破壊する」

「トラップ発動“デストラクション・ジャマー”」

デストラクション・ジャマー
カウンタートラップ

手札を1枚捨てる。フィールド上のモンスターを破壊する効果を持つカードの発動を無効にし、それを破壊する。

「手札を1枚捨ててライトニング・ボルテックスは無効だ」

クソ、全然リバースが発動しないと思ってたらそういうカードを伏せていたのか

「ならば、、俺はモンスターを裏守備でセットしてターンエンドだ」

誠
ＬＰ３１００
手札６枚
モンスター　迷宮壁～ラビリンス・ウォール～、裏守備×１
魔法トラップ　凡骨の意地、蘇りし魂

ラビエル
ＬＰ２７００
手札１枚
モンスター　幻魔皇ラビエル
魔法トラップ　正統なる血統

「俺様のターン、、、魔法発動“マジック・プランター”」

マジック・プランター
通常魔法
自分フィールド上に表側表示で存在する永続罠カード1枚を墓地へ送って発動する。自分のデッキからカードを2枚ドローする。

「正統なる血統を墓地に送りデッキからカードを2枚ドロー、、そして“レッド・サイクロプス”を召喚」

幻魔皇ラビエルが口から卵を吐き出しその中から一つ目の鬼が産まれ出てくる

レッド・サイクロプス
レベル４闇属性
悪魔族
攻撃力１８００守備力１７００
効果なし

「バトルだ、、、幻魔皇ラビエルとレッド・サイクロプスで相手モンスターに攻撃だ」

ここで膨張してプレミしてくれないかと期待してたがダメでした

ラビエルでラビリンス・ウォールを、レッド・サイクロプスで裏守備に攻撃してきやがった

幻魔皇ラビエル　攻撃力４０００＞迷宮壁～ラビリンスウォール～守備力３０００

レッド・サイクロプス　攻撃力１８００＞イースター島のモアイ守備力１４００

「フハハハ、これで貴様を守るモンスターはいなくなったな、俺様はリバースを1枚追加してターンエンドだ」

（今伏せたカードは聖なるバリア～ミラーフォース～に、、ヤツのデッキはモンスターメインのデッキらしいから魔法トラップ除去系カードを使ってくるとは思えん、これで俺様の勝利は確定した）

誠
ＬＰ３１００
手札６枚
モンスター　なし

魔法トラップ　凡骨の意地

ラビエル
ＬＰ２７００
手札１枚
モンスター　暗黒魔族ギルファー・デーモン、幻魔皇ラビエル
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン」

デッキのカードはほとんど引いたことになる

だがまだ切り札がやってこない

後はアイツを引くだけなんだ

「ドロー、、俺が引いたカードは“迷宮壁～ラビリンス・ウォール～”追加ドロー、、、、、、！！！！！！！」

きたか

「手札から魔法発動“ハリケーン”」

ハリケーン

通常魔法
フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て持ち主の手札に戻す。

激しい旋風が巻き起こりラビエルの場のリバースカードがフィールドから姿を消す

「さぁ、、準備はできたぜ、、、後はお前しだいだ、、メガロック！！！！」

「メガロックさんですか」

「フン、、何かと思えば、無駄だ、、、、この女の魂はこのラビエルの空間にある現実世界とつながるゲートと一体化している、、、この俺様の意思に反して動き出したりなどしない」

「メガロック、、、、聞こえているんだろ、、言ったよな、どんな事があっても俺と一緒だって」

「、、、、、、、、、、、」

「帰ろう、、、デュエルアカデミアのレッド寮の部屋に、ムカムカやモアイ、巨大ネズミ三姉妹のいるあの部屋に」

「、、、、、、、、、、ゥ」

「いや、、、メガロック、来い、、、、、、俺のもとに、また俺と一緒に闘ってくれ、、、メガロ～～～～～～～～～～ック！

！！！！！！！！！！」

「ウオォォォォォオオオオ」

メガロックの体を封印している扉にひびが入る

「バカな、、、、ヤツにそんなエネルギーが残っていたとでもいうのか」

「だりゃ～～～～～～」

バリ～～～～ンとメガロックを封じ込めていた扉が砕け散る

そしてメガロックの体がそこから飛び出してくる

「自力で復活したと言うのか」

「、、、、、トォ」

大きく飛び上がりメガロックが俺の前に着地する

「まったく、、、、、気持ちよく寝ていたのに、そんなに騒がれたらおちおちうたた寝もできないよ」

「ッフ、、、寝て起きて早々悪いんだけど、お前の力を借りるぜ」

「あぁ、、、、誠が望むなら私はどんな時でも全力でいくよ」

「行くぜ、、、俺は墓地に眠る１８体の岩石族モンスターをゲームから除外し“メガロック・ドラゴン”を特殊召喚」

「ダリャ～～～～～～」

目の前のメガロックが地面に腕を突き刺す

すると地面がどんどん盛り上がり始めその体をおおい尽くす

その後何度か地面がうねりを上げると地面が大きく裂けそこから巨大なドラゴンを模した岩石族モンスターが出現する

メガロック・ドラゴン
地属性レベル７
岩石族
攻撃力？守備力？
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる。

「メガロック・ドラゴンは特殊召喚時ゲームから除外した岩石族モンスター1体につき攻撃力７００ポイント上昇する、、俺は１８体除外したので攻撃力は１２６００」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?→１２６００

「バトルだ、、、メガロック・ドラゴンで幻魔皇ラビエルに攻撃“アースカノン・インフェルノ！！！！！”」

いつもより太めの熱線がラビエルに放たれる

拳で迎撃しようとしたラビエルだったが熱線に飲み込まれその体を消滅させる

メガロック・ドラゴン　攻撃力１２６００＞幻魔皇ラビエル　攻撃力４０００

ラビエル
ＬＰ２７００－８６００＝－５９００

「ッフ、、さすがにしたの２人を倒しただけあるな、久しぶりに充実した時間だった」

「あぁ、、俺も最高に熱いデュエルだったぜ」

ガシっと互いの手を握り合う

「さて、、、もう1度ハモンの階でマンガを読みふけたいが早く現実世界に戻ってデッキを作らないとな」

「そうですね、、、皆さんも心配してそうですし」

「だったら、、、この扉を通っていけ」

自らの背後にある扉を指差すラビエル

「この扉は現実世界とつながっている、、、、そして生きたい場所を心の中で思い浮かべればその場所にワープしてくれる」

「ようし、それじゃあ帰ろう、、、、皆が待っている俺の部屋に、それじゃあなラビエル、またデュエルしようぜ」

「お騒がせしました」

「扉、、、壊してゴメンね、、それじゃあ」

「、、、、、、、、、フン、小野寺　誠か」

「うお〜〜〜〜〜」

（キャ〜〜〜〜）

（おっとっとっと）

扉をくぐると同時に襲い掛かってくる落下する感覚

その感覚の後に訪れる壁にぶつかるかのような衝撃と背中から2つの重量物が落下する感覚

まぁ、簡単に言えば天井から顔面に落下し折れの上にモアイとメガロックが落下してきたわけなんだが

（あ、、、お帰りなさいませ、メガロック様モアイ様）

（キュキュキュキュ〜〜〜〜）

俺達の帰宅を確認すると同時に部屋の中が一気に騒がしくなる

（やぁ、、メガロックの姉さん、元気そうだね）

（うん、、心配かけてごめん）

（な〜に、、大将ならやってくれるって信じてたさ）

（キュキュキュ〜〜キュキュ〜）

（三女ちゃんも、、相変わらずフカフカ～～）

（良かったわ、、あなたに不幸が無くて）

（ハハハ、長女の、、、そのネガティブっぽい横顔も久しぶりだね）

（そういえば誠さん、、、、、今回使った3つのデッキの中でどのデッキを新しい岩石デッキにするんですか？）

「いや、、アレはあくまで試作品だからな、、一応デッキレシピは取っておくが」

（そうなんですか）

「あぁ、、、、だって、この3つのデッキにはお前達が全員入ってるデッキないからな」

（、、、、ご主人様）

「まぁ、、今回の旅はかなり新デッキの参考になった、そのうち新デッキを完成させるぜ」

そしてその日の夜

「しかし、、今日は疲れたぜ」

精霊達をなだめ新デッキの案を少し脳内でまとめ一段楽した俺はレッド寮の屋根の上で横になる

オーバーヒート寸前だった俺の脳ミソが夜風でいい感じに冷却されていくのを感じる

（やぁ、、誠）

「ん!?メガロックか」

屋根で涼んでいるとメガロックがやってきた

（今日はお疲れ様）

「それはお互い様だろ」

（ハハハ、、それもそうだね）

そういいながらメガロックが俺の隣に腰を下ろす

（そう言えば、、、、初めて誠と出会ったのもここだったね）

「そういえば、、、そうだな」

この世界に転生し

デュエルアカデミアにやってきて

アレからもうすぐ1年か

「そうだ、、、メガロック、大事な事を忘れていた」

（何!?）

起き上がりまっすぐメガロックと向かい合う

「相棒、、、お帰り」

（、、、、、ただいま、誠）

おまけ

「静かにするの～ね」

朝の教室

生徒の雑談でにぎわう教室内に独特のイントネーションの声が響き
水をさしたかのように静かになる

「本日～は、、転入生～を、、紹介するの～～ね」

この時期に転入生って、、ずいぶんと急なタイミングだな

「入ってくるの～～ね」

クロノス先生が手を2度叩くとドアから見知った顔の女性3人が入
ってきた

ソレと同時に松井がホームランを打った時ばりに盛り上がる男子生
徒共

「、、、、、、、、、マジかよ」

「自己紹介するの～～ね」

「はじめまして、、しんえんおう　ウリアです、、あ！！まことお
にいちゃ～～～～ん、お～～～～い」

「降雷皇　ハモンっす、、ただの人間には興味ありません、この中
に宇宙人、未来人、超能力者がいたら私の所に来なさい、以上！！
！ってこのネタは小野寺君にしか通じないっすよね」

「幻魔皇　ラビエルだ、、、、俺がこの学園に来た目的はただ一つ、
、、小野寺　誠、、、、、貴様を倒す為だ～～～～～」

「「小野寺貴様～～～～、こんなにかわいかったり綺麗な女性と知り合いなのか、、、この非リア充の癖にテメ～～～～～～～～」」

「助けてください～～～～」

「助けてください、、、助けてください、お願いですから助けてください、、、、、、ッハ」

ガバッと布団から起き上がる

今のは、夢か

「、、、、、、、、、今時夢オチってのもどうかと思う」

第３６話やっぱり我が家が１番です（後書き）

三幻魔編本当に完結！！！

今回の誠のデッキは凡骨の意地でドロー加速し墓地を一気に肥やすデッキです。ラビエルは悪魔ビートデッキです、やっぱビートデッキは書きやすい（爆）

「作者～～～～～～～」

「またきたな誠」

「次回こそ、、、次回こそ俺の新岩石デッキがお披露目になるんだろうな」

「いや、、あと４話はさんでから新岩石デッキお披露目です」

「まだ番外編をやるのか、、、本気で来年になっちまうんじゃねーかって心配になるぞ、その４話カットして今すぐ卒業デュエルの話を書け」

「次回スバルがデュエルするぞ」

「小野寺　誠が命令する、、、作者よ、全力で次話を更新しろ」

「ギアス使うほど本気！？」

第３７話（展開が）無茶で無謀と笑われようと、意地が支えの無理展開（前書き

誠に早く次話投稿しろとギアスをかけられたせいか久しぶりにスピード更新……スイマセン嘘です、単にデュエルパートが短いだけです。やっぱスバルのアンティーク・ギアデッキはＬＰ４０００の世界では凶器です。

それでは３７話をどうぞお楽しみください。

第３７話（展開が）無茶で無謀と笑われようと、意地が支えの無理展開

「ＰＲＲＲＰＲＲＲＲ」

「ん、、メールが来ている」

精霊世界から帰って数日がたった

とりあえず新しい岩石デッキは完成しそうに無いが精霊世界でのデュエルはいい経験になった

そんな俺のもとに１通のメールが来ている

「お、、誠のところにもきたのか、メール」

「俺にもって事は、、、、真間、お前にもか」

「あぁ、、なんかイベントが発生するみたいだな」

「どれどれ」

俺達はそれぞれのＰＡＤに届いたメールを開いてみる

「第４８回ミス・アカデミアコンテスト投票メール！？」

ミスアカデミアって、、漫画版ＧＸのアレか？

こんな卒業式間近で行われたイベントだっけか？

「あぁ、、そういやぁ、先輩から聞いたことある、、毎年これくらいの時期にミスアカデミアを決める為校内の男子生徒が投票しミスアカデミアを決めるらしいぞ」

「とりあえず投票っと」

「即断即決!?早すぎだろう」

「いや、、俺夏休みの宿題とかは最終日に一気に片付ける派だけどこういった一瞬で終わりそうな仕事はその場で終わらせる派なんだ、、、、かっこよく言えば仕事をプライベートにもってこない人間なんだ」

「それは日本語でいいのか?」

ちなみに俺はスバルに投票した

「とりあえず、、、俺は雪に投票かな」

「雪さんなんだ、、、真間もなんだかんだで即決じゃねーか」

「まぁ、、女友達自体そんなにいないしな、、、それに、雪はいい奥さんになると思うぞ」

「プッシュ〜〜〜〜〜〜〜」

「わ〜〜〜〜〜、雪が鼻血の勢いで飛び出した〜〜〜」

後ろの方で雪さんが機動実験に失敗したエヴァ零号機から排出され

たエントリープラグと同じ動きで雪さんが飛び上がり天上かかどっこですごい動きをしている

そして数日後

「それでは、、これよりミス・デュエルアカデミア投票の結果発表を行います！！！！」

「「ウオ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～」」

ミス・デュエルアカデミア投票結果発表が何故かデュエル場で行われていた

会場のど真ん中にはターボ・ウォリアー顔負けのリーゼントの３年生がいる

なるほど、きっと５Ｄ′Ｓに出てくる司会者の先祖だなアイツは

「昨日の段階でのトップ１０に入った麗しき美女達はこちら～～～～！！！！」

巨大なモニターに数名の女子生徒の顔と名前が表示される

その中には冥衣、雪さん、ティアさんにスバル、レオナに明日香などの見知った顔があった

「それでは、、、１位の発表です！！！」

ドルルルルルとドラムロールが鳴り響きスポットライトの証明が右往左往し始める

「ミス・アカデミアに選ばれたのは、、、、3年ブルー女子の小日向　星華！！！」

「「わ～～～～～～～～」」

スポットライトが一人の女子生徒に向けられる

って、あの人確かマンガ版ＧＸの人じゃないか

ってーとアレか、このまま明日香と同票になって十代ＶＳ明日香の展開になるのかな？

なんて考えていると小日向先輩が会場の真ん中に移動する

ものすごい作り笑顔で回りに手を振っている小日向先輩

すると司会者の下にイエローの生徒が近寄り何かのメモを1枚手渡す

「お～～～～っと、今入った情報だと同票1位がもう一人いるぞ～～～」

司会者の言葉にざわめき始める会場

明日香さんがやってくるんですね、わかります

「ところで十代、、お前は誰に投票したんだ？」

投票してないのはわかっているが一応十代に確認をする

「ん！？俺は明日香に投票したけど」

アレ？

「明日香はメッチャデュエル強いしな、、ミスアカデミアっつたら明日香だと思って」

あれぇ～（・３・）

久しぶりに俺というイレギュラーのせいで歴史狂っちゃいましたか？

まぁ、アニメ世界でマンガのシナリオが出ている時点で大いに狂っているがな

「同票１位は、、、１年生のスバル　ナカジマさんです」

「「うおぉぉぉぉおおおおおおお」」

「きたきたきたキタ～～～～～～～～～～」

「誠君のテンションが急上昇したっす」

俺は、俺はこの日を待っていた

生前も含めて俺の好きなキャラはどうしても人気投票では票を集められずほぼ下位のランキングだった

だが今俺の目の前の光景を見てみろ

ついに、ついにボーイッシュキャラが世界に認められたぞ

今ならリミット・オーバー・アクセルシンクロもできる気がする、、、この世界にシンクロモンスターは存在しないけど

「スバル　ナカジマさん、会場へ、、どうぞ」

少しはにかみながら会場の真ん中に向かうスバル

そしてスバルが会場にたどり着くと同時に小日向先輩が司会者からマイクを奪い取る

「私は認めないわ、、、、1位は、、ミスデュエルアカデミアは1人で十分、ナカジマさん、、、、、デュエルよ、ミスアカデミアの座をかけて私とデュエルよ」

「え、、え!?」

勝手に話を進める小日向先輩に唖然とするスバル

マンガでもそうだったが相当プライドが高いみたいだ

「1時間後、、、ミスアカデミアの座をかけてこの会場でデュエルよ」

「よくわからないけど、、、わかった、デュエルだね、楽しみにしてるよ」

こうして周りの意思を完全にシカトぶっこいてスバルと小日向先輩のデュエルが開かれる事になった

数分後～会場の脇にある控え室～

「ただのミスコンが、、変な事になっちゃったわね」

今控え室には俺とスバルとティアサンがいる

これからのデュエルの為にスバルがデッキ調整をしており俺達2人が付き合っている

「でも、、デュエルできるのは嬉しいかな、、、チョット面白いコンボ思いついたし」

「こないだ私に話してくれたあのコンボ?アレってチョット無謀じゃない?」

「無茶で無謀と笑われようと、、、意地が支えのケンカ道」

「いきなりドヤ顔になって何叫びだすのよ」

どこからともなく取り出されたハリセンが俺の後頭部に直撃する

いつもすまないティアさん、突っ込み担当にしてしまって

「とりあえず、、デッキ調整手伝ってよ」

「そうだな、、、、とりあえずデッキを見せてくれ」

デッキの中のカードを1枚1枚丁寧に並べ始めるスバル

「相変わらずのアンティーク・ギアデッキか、、どれどれ、、、ん!?」

明らかにアンティークギアデッキに必要性を感じないカードを1枚発見する

「なぁ、、、このカードは必要なくないか?」

「あぁ、、そのカードはね、、このカードとのコンボに使うんだ」

そういってスバルはものすごい瞳を輝かせながら俺に1枚のカードを見せてくる

「、、、、まさか、そのカードでアレをする気か?」

「そうだよ」

「まったく、、もっと効率のいいコンボがあるじゃないって何度か言ってるんだけど聞かなくて」

「だが、、、決まったら最高にカッコイイな」

「でしょでしょ」

「ダメだ、、、、突っ込み約が私一人しかいないから収拾がつかないわ」

そして数分後

会場の真ん中にスバルと小日向先輩が向かい合って立っていた

「それでは、、、これよりミスデュエルアカデミア決定デュエルを開催いたします」

「「うお～～～～～～～～～～」」

「覚悟はいいですか、、ナカジマさん」

「いつでもＯＫですよ、、小日向先輩」

「「デュエル！！！」」

スバル
ＬＰ４０００

小日向

ＬＰ４０００

「私のターン、、“カエルスライム”を攻撃表示で召喚」

小日向先輩のフィールドに緑色の水滴が落下する

そしてその水滴に目や耳などがはえてカエルの形になった

って、蛇デッキじゃないんですね小日向先輩は

カエルスライム
レベル２水属性
水族
攻撃力７００守備力５００
効果なし

「何このモンスター、、かわいい～～」

マジっすかスバルさん

あんなエドモンド本田フェイスのスライムがかわいいですか

さすがは俺の嫁キャラ独特の感性を持っているようだ

「私はリバースを1枚追加してターンエンドよ」

スバル
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

小日向
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　カエルスライム
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、、魔法発動“テラ・フォーミング”」

テラ・フォーミング
通常魔法
自分のデッキからフィールド魔法カード１枚を手札に加える。

「その効果で“ギア・タウン”を手札に加えそのまま発動します」

ガガガガガガガといくつもの歯車やビルが地面からはえてきて一つ

の街となり2人をかいはじめる

ギア・タウン
フィールド魔法
“アンティーク・ギア”と名のついたモンスターを召喚する場合に必要なリリースを1体少なくする事ができる。このカードが破壊され墓地に送られた時、自分の手札・デッキ・墓地から“アンティーク・ギア”と名のついたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

「そして手札の“ジェスター・コンフィ”を攻撃表示で特殊召喚します」

ポンっとコミカルな爆発がスバルさんのフィールド上で発生しその煙の中から巨大な玉に乗っかったピエロが出現する

ジェスター・コンフィ
レベル1闇属性
魔法使い族
攻撃力0守備力0
効果
このカードは手札から表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。この方法で特殊召喚した場合、次の相手のエンドフェイズ時にこのカードと相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を手

札に戻す。“ジェスター・コンフィ”は自分フィールド上に1体しか表側表示で存在できない。

「そしてジェスター・コンフィを生け贄に“アンティーク・ギアゴーレム”を召喚します」

ッチョ、オマ、、展開速すぎるって

アンティーク・ギアゴーレム
レベル８地属性
機械族
攻撃力３０００守備力３０００
効果
このカードは特殊召喚できない。このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

「アンティーク・ギアゴーレム召喚時トラップ発動、、“酸のラス

トマシンウィルス”」

酸のラストマシンウィルス　（アニメオリジナル）
通常トラップ
自分フィールド上に存在する水属性モンスター1体をリリースして発動する。相手のフィールド上に存在するモンスター、相手の手札、相手のターンで数えて3ターンの間に相手がドローしたカードを全て確認し、機械族モンスターを全て破壊する。このカードの効果によって破壊されたカード1枚につき相手プレイヤーに５００ポイントのダメージを与える。

「カエルスライムを生け贄にあなたの手札、フィールド上の機械族モンスターを全て破壊するわ」

あれは、マッドドッグ犬飼のカードか

つーと、小日向先輩のデッキは蛇デッキでなく対アンティーク・ギアデッキでメタ張ったんですね

「そんなぁ」

スバルの背後にアンティーク・ギアビーストにアンティーク・ギアガジェルドラゴンが姿を現すと同時にその体が錆び始め崩れ落ちていく

ギア・ゴーレムも体が崩れ始めその破片がスバルに襲い掛かる

「うわ～～～～～」

スバル
ＬＰ４０００－１５００＝２５００

「まだだよ、、、私は手札の魔法発動“死者蘇生”」

死者蘇生
通常魔法
自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

「墓地に眠る“アンティーク・ギアガジェルドラゴン”を特殊召喚します」

死者蘇生のカードの絵柄がアンティーク・ギアガジェルドラゴンの絵柄に変わりそこから巨大な機械のドラゴンが出現する

アンティーク・ギアガジェルドラゴン
レベル８地属性
機械族
攻撃力３０００守備力２０００
効果
このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。　以下のモンスターを生け贄にして生け贄召喚した場合、このカードはそれぞれの効果を得る。●グリーン・ガジェット：このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。●レッド・ガジェット：相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた時、相手ライフに４００ポイントダメージを与える。●イエロー・ガジェット：戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、相手ライフに６００ポイントダメージを与える。

「アンティーク・ギアガジェルドラゴンで相手プレイヤーに直接攻撃“プレシャス・バースト”！！！」

ドラゴンの口から炎が吐き出され小日向先輩を直火焼きしていく

「キャ～～～～～」

アンティーク・ギアガジェルドラゴン　攻撃力３０００（直接攻撃）
＞相手プレイヤー

小日向
ＬＰ４０００－３０００＝１０００

「ック、これくらいは必要経費よ」

こいつはまずいかもな

確かに先制攻撃はスバルがせいした

相手のＬＰもすでに風前の灯

だがスバルの手札は０

そしてアタッカーは全てアンティーク・ギア系カード

新たにアンティーク・ギアをドローしても酸のラストマシンウィルスの効果で墓地に送られる

形勢逆転される前にどうにかしないとスバルが負ける

「私はこれでターンエンド」

スバル
ＬＰ２５００
手札０枚
モンスター　アンティーク・ギアガジェルドラゴン
魔法トラップ　なし

フィールド：ギア・タウン

小日向
ＬＰ１０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターン、、リバースカードを2枚伏せてモンスターを裏守備でセットしてターンエンドよ」

スバル
ＬＰ２５００
手札０枚
モンスター　アンティーク・ギアガジェルドラゴン
魔法トラップ　なし

フィールド：ギア・タウン

小日向

ＬＰ１０００
手札２枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン、、ドロー」

「さぁ、、、酸のラストマシンウィルスの効果でドローしたカードを見せてもらおうかしら」

「私がドローしたカードは“アンティーク・ギアファクトリー”です」

ラストマシンウィルスの効果で破壊はされないが、正直厳しい状況だ

「とりあえずバトル、、、、アンティーク・ギアガジェルドラゴンで裏守備モンスターに攻撃“プレシャス・バースト”」

「私のモンスターは“メタモルポット”よ」

ギア・ガジェルドラゴンの炎が放たれると同時に小日向先輩のフィールドの裏側守備表示のカードが表になる１つの壷のモンスターとなる

メタモルポット
地属性レベル２

岩石族
攻撃力７００守備力６００
効果
リバース：お互いの手札を全て捨てる。その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを5枚ドローする。

アンティーク・ギアガジェルドラゴン　攻撃力３０００＞メタモルポット守備力６００

「メタモルポットの効果を発動、、、互いのプレイヤーは手札を全て捨て新たにデッキからカードを5枚ドローする、、そして酸のラストマシンウィルスの効果で手札を見せてもらおうかしら」

スバルのドローしたカードは“俊足のギラザウルス”“コストダウン”“融合”“リロード”“死者転生”

単なる手札補充になったみたいだ

だが、現状をひっくり返せるキーカードはない

「危なかった、、、私はこれでターンエンド」

スバル

ＬＰ２５００
手札５枚
モンスター　アンティーク・ギアガジェルドラゴン
魔法トラップ　なし

フィールド：ギア・タウン

小日向
ＬＰ１０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン、、、“手札抹殺”を発動」

手札抹殺
通常魔法
お互いの手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドローする。

「互いのプレイヤーは手札を全て捨てデッキから捨てた分だけカードをドローする」

「デッキ破壊、、、いや、狙いはバーンダメージ」

スバルがドローしたカードは

“アンティーク・ギアビースト”“リミッター解除”“アンティーク・ギアゴーレム”“打ち出の小槌”“ドラゴンズ・ミラー”

「機械族モンスターは2体、、その2枚を墓地に捨てて相手に１００ポイントのダメージを与えるわ」

「うわ～～～～～」

スバル
ＬＰ２５００－１０００＝１５００

「さらに私の追撃は続くわ、、“海皇の長槍兵”を攻撃表示で召喚するわ」

ザッパ～～～ンと小さな波が発生しそこから半漁人っぽいモンスターが槍をもって飛び上がる

海皇の長槍兵
レベル２水属性
海竜族
攻撃力１４００守備力０

効果なし

「そしてリバースカードオープン、、“下克上の首飾り”」

下克上の首飾り
装備魔法
通常モンスターにのみ装備可能。装備モンスターよりレベルの高いモンスターと戦闘する場合、装備モンスターの攻撃力はレベル差×５００ポイントアップする。このカードが墓地へ送られた時、このカードをデッキの一番上に戻す事ができる。

「下克上の首飾りを海皇の長槍兵に装備してバトル、、、長槍兵でアンティーク・ギアガジェルドラゴンに攻撃、、そして下克上の首飾りの効果で長槍兵の攻撃力がレベル差分上昇するわ」

「えっと、、アンティーク・ギアガジェルドラゴンのレベルは８、長槍兵のレベルは２、、その差は６だから、、、、４０００ポイントアップ！？」

「スバル、、３０００ポイントよ」

海皇の長槍兵
攻撃力１４００↓４４００

「そのまま打ち貫きなさい」

長槍兵がその手に持った槍でアンティーク・ギアガジェルドラゴンに突っ込んでいきその体に大きな穴を開け破壊する

海皇の長槍兵　攻撃力４３００＞アンティーク・ギアガジェルドラゴン　攻撃力３０００

スバル
ＬＰ１５００－１４００＝１００

鉄壁はいりました～～～これで勝つる

だが、状況はかなり不利だ

酸のラストマシンウィルスの効果で機械族モンスターは全て墓地に送られ

たとえギア・ガジェルドラゴンを特殊召喚しても下克上の首飾りをつけた長槍兵で戦闘破壊される

完全にスバルのデッキにメタ張ってやがる

このピンチをどうやって切り抜ける、スバル

「私はこれでターンエンドよ」

スバル
ＬＰ１００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

フィールド：ギア・タウン

小日向
ＬＰ１０００
手札５枚
モンスター　海皇の長槍兵
魔法トラップ　下克上の首飾り、リバース×１

「私のターン、、、、ドローしたのは魔法カード」

「命拾いしたわね、、、でも手札にモンスターがない状況で何ができるのかしら」

「私は待っていた、、、この時を、手札から魔法発動“ドラゴンズ・ミラー”」

ドラゴンズ・ミラー
通常魔法
自分のフィールド上または墓地から、融合モンスターカードによって決められたモンスターをゲームから除外し、ドラゴン族の融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。（この特殊召喚は融合召喚扱いとする）

「ドラゴンズ・ミラー、、ドラゴン族専用の融合カード、、でもあなたのデッキはアンティーク・ギアデッキ、ドラゴン族の融合なんて」

「できません、、、私の融合デッキにドラゴン族融合モンスターは1枚もありませんから」

「じゃあ、、どうしてそのカードをデッキに」

「これが私が考えたコンボ、、、ドラゴンズ・ミラーにチェーンしてさっきドローした速攻魔法発動“コードチェンジ”」

コードチェンジ　（アニメオリジナル）
速攻魔法
このターンのエンドフェイズまで自分フィールド上に表になっているカードに書かれているテキストの種族を自分が指定した種族に変

更する。

「私は、、、ドラゴンズ・ミラーのテキストのドラゴン族を機械族に変換します」

しっかし、すごいコンボだぜアレは、本当にやってのけるとは

「そして私は墓地に眠るアンティーク・ギアゴーレムとアンティーク・ギアガジェルドラゴンとアンティーク・ギアビーストをゲームから除外し“アティーク・ギア・アルティメット・ゴーレム”を特殊召喚」

スバルのフィールドに巨大なミラーが出現する

そしてミラーの中から巨大な機械仕掛のケンタウロスっぽいモンスターが出現する

アンティーク・ギア・アルティメット・ゴーレム
レベル１０地属性
機械族
攻撃力４４００守備力３４００
融合　古代の機械巨人＋“アンティーク・ギア”と名のついたモンスター×２
効果
このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。このカードが守備

表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動する事ができない。このカードが破壊された場合、自分の墓地に存在する古代の機械巨人１体を召喚条件を無視して特殊召喚する事ができる。

「最上級レベルのモンスターを召喚、、、、でも、レベル１０だったら私の長槍兵の攻撃力は４０００上昇し攻撃力が５４００、、まだ私のモンスターの方が攻撃力が上だわ」

「そして手札のリミッター解除を発動します」

リミッター解除
速攻魔法
このカード発動時に、自分フィールド上に表側表示で存在する全ての機械族モンスターの攻撃力を倍にする。この効果を受けたモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

「アンティーク・ギア・アルティメット・ゴーレムのリミッターを解除、、、攻撃力が２倍になるよ」

アンティーク・ギア・アルティメット・ゴーレム
攻撃力４４００→８８００

「バトル、、、アンティーク・ギア・アルティメット・ゴーレムで海皇の長槍兵に攻撃、、、“マキシマム・パウンド”！！！」

「ック、長槍兵の攻撃力は上昇しても、、これじゃあ」

海皇の長槍兵
攻撃力１４００→５４００

巨人の腕がギギギギギとうねりを上げながら振り上げられていく

そして旋風を巻き起こしながら長槍兵に振り下ろされその体を木っ端微塵に砕く

そしてその衝撃が広い会場内に響き渡っていく

「キャ～～～～～」

アンティーク・ギア・アルティメット・ゴーレム　攻撃力８８００
＞海皇の長槍兵　攻撃力５４００

小日向
ＬＰ１０００－３４００＝－２４００

「勝者、、スバル　ナカジマ、、よってミスディエルアカデミアはスバル　ナカジマ」

「「うお～～～～～～～～～～～～～～」」

「私が、、、負けるなんて、ミスアカデミアの、、３年連続制覇の夢が」

「小日向先輩、、、熱く楽しいデュエルでした」

そういって笑顔で小日向先輩に手を差し出すスバル

まぶしい、まぶしすぎる

「、、、、、フン」

先輩相手にだけど今から言葉を乱します

テメー小日向、スバルの握手を拒むとは

俺に変われ～～～～～～（心からの本音）

その後ブルー寮でスバルのミスアカデミア祝勝会が開かれると聞き俺は率先して厨房に立った

生前の俺の嫁キャラが人気投票で1位になったんだ、腕をふるわないわけにはいかない

人気投票、ミスデュエルアカデミア決定デュエルのデッキ調整、そして祝勝会の料理

全てにおいてスバルに献上できた、俺って超人生勝ち組

第３７話（展開が）無茶で無謀と笑われようと、意地が支えの無理展開（後書き

私がアニメに出てきたがいまだカード化されず早くＯＣＧ化されてほしいカード

1. バーサーカーソウル
2. 命削りの宝札
3. コードチェンジ
4. ランドスターシリーズ

ｅｔｃ

何気に精霊の登場シーンなしでした今回。

やっぱスバルのデュエルは早期決戦になってしまいます。リロードに打ち出の小槌３積＋主人公キャラの幸運スキルの極悪コンボで事故る事はほぼ皆無、スバルのデッキを変えようかな。

それでは皆さん次回また会いましょう。

一周年特別番外編～思えば遠くへきたものだ～（前書き）

故　流されて、デュエルアカデミアが始まり遊戯王ＧＸ～ＧＹＺ～になって早１年、、、、、スイマセン、１年と１日でした。

本当は昨日更新したかったのですが仕事が……予約更新昨日をうまく活用できればｏｒｚ

最近ユーザートップに１８禁的な表現は削除されます的な注意書きがありますが、すっかり大好きになっている本編前の関係ないシナリオによる行数稼ぎが引っかかりそうで少し怖いですが……カットビングだ、俺～～～！！！（最近のブームに便乗）

５月１９日修正しました。

一周年特別番外編～思えば遠くへきたものだ～

「混沌幻魔アーミタイルで真間の場のシルバーフィストに攻撃」

ユベルの場のアーミタイルからブラックホールのようなものが放たれ真間のフィールド上のシル

バーフィストに向かって飛んでいく

そのブラックホールから激しい旋風が巻き起こり真間だけでなく誠、十代、ヨハンの場のモンスター達まで引きずり込まれそうになる

「、、、、、、十代、ヨハン、、そして真間」

何かを一瞬考えうつむいていた誠だったが顔を上げる

「なんだ誠」

「どうやら俺はここまでみたいだ」

「何を急に言い出すんだ誠」

「誠、、、まさかお前」

「リバースカード発動、、、、“ファイナル・メテオ・インパクト”」

ファイナル・メテオ・インパクト　（オリジナル）
通常トラップ
自分フィールド上の岩石族モンスター1体を指定しその攻撃力分の効果ダメージを全てのプレイヤーに与える。その後指定したモンスターをゲームから除外する。

「俺はメガロック・ドラゴンを指定、メガロック・ドラゴンは岩石族モンスター8体を除外し特殊召喚したため攻撃力は５６００、、、よって全てのプレイヤーは５６００ポイントのダメージを受ける」

十代
ＬＰ２９００

ヨハン
ＬＰ３６００

誠
ＬＰ６００

真間
ＬＰ２７００

ユベル
ＬＰ４０００

「小野寺　誠め、、全員道ずれに自爆する気か」

「そうじゃないさ、、、ファイナル・メテオ・インパクトにチェーンして最後のリバース発動、“恵みの宝札”」

恵みの宝札　（オリジナル）
速効魔法
手札を全て捨てて効果を発動、そのデュエルに参加しているプレイヤーを3人を指定（すでに指定したプレイヤー、発動したプレイヤーは指定できない）、指定したプレイヤーは発動時手札から墓地に送ったカード1枚につきＬＰ１０００ポイント回復する。

「俺は恵みの宝札の効果で手札を3枚墓地に送り十代、ヨハン、真間のＬＰを３０００ポイント回復させる」

十代
ＬＰ２９００＋３０００＝５９００

ヨハン
ＬＰ３６００＋３０００＝６６００

真間

LP2700+30000=5700

「ユベル、、、俺と一緒に地獄に落ちろ～～～～～」

誠の雄たけびと共にメガロック・ドラゴンの体からいくつ物岩石が放出されフィールド全体に落下し爆発する

「誠、、お前、自爆する気か」

「悪い真間、、、俺はここまでだ、もっとお前や十代、ヨハン、、、、まだ見ぬ世界中のデュエリストと闘いたかったが、、ここでこのヤンデレと心中する」

「待ってくれ誠、、お前、俺がやられそうになったからこんな事を」

「あばよダチ公、、、なんてキザな台詞は言わねー、、、行ってくるぜ、野郎共」

メガロック・ドラゴンの体から放たれる岩石の激しさがさらに増していく

もはやあたり一体は岩石の落下音と爆音で何も聞こえないくらいであった

「誠、誠、、、誠～～～～～」

「ウオ～～～～～」

十代
ＬＰ５９００－５６００＝３００

ヨハン
ＬＰ６６００－５６００＝１０００

誠
ＬＰ２９００－５６００＝－２７００

真間
ＬＰ５７００－５６００＝１００

ユベル
ＬＰ４０００－５６００＝－１６００

そしてそれから数日がたった

十代達はユベルとのデュエルの後、激しい光につつまれ、もとの世界に戻れた

だがその代償は大きく特に真間の状況が深刻であった

この世界に戻って真間は部屋に引きこもり学校にも行かずただほうけていた

真っ暗な部屋の中でまるで人形のように動かない真間
そしてそこに雪がやってくる
「真間さん、、、入りますね」
静かに開けたドアであったが何も音の無い空間であった為いやに耳につく
そして何も言わず雪は真間の隣に座る
「真間さん、、、ダメですよ、ちゃんとご飯を食べないと」
リュックから弁当箱を取り出しすでに部屋の中にあった弁当箱をその中にしまいこむ雪
「真間さん、、もうすぐ私達も卒業ですが、進路は決まってますか」
何を言われても反応をしない真間
心どころか魂までそこにあらずといった感じであった
そんな真間に雪はけなげに献身する
決して返事は返ってこないが話を書け続ける雪
まるで漆黒の闇に薄ら明かりをともすかのように雪の言葉は真間に届かない

「明日も、、、、また来ますね」

パタンと静かに扉が閉められる

外に出た雪はすぐに動き出さずドアに背中を預けるかのように倒れる

「う、、、えぐ、私は、、、、何にもできないのでしょう、、か」

「、、、、雪」

「冥衣さん」

冥衣に話しかけられ急いで涙をぬぐう雪

「また、、真間のところに」

「ハイ、、ですが、真間さん、今日もまるで死人みたいで、、、私見てられないです、ですが、、、、私では何も」

言葉の途中で泣き始める雪

そんな雪を見て冥衣は雪を抱き寄せ優しく背中に手を回す

「まったく、、、報われないわね、私達、、本当に」

さらに数日後

相変わらず真間は生きた屍状態であった

そしてその隣には雪がいた

「ねぇ、、真間さん、私、、、真間さんの声を聞きたいです、、、、、、真間さん!!!」

ガタンと部屋の中がゆれる

雪は普段からは創造できない剣幕で真間に迫りその胸倉をつかむ

「いい加減にしてください、、、私は、私は辛いです、、いつまでそんなつらそうなあなたを見ないといけないのですが、いつまで私は苦しまないといけないんですか、、真間さん、答えてください、声を聞かせてください」

悲哀と憎悪

その二つの感情を真間にぶつける雪だったが真間は決して揺るがなかった

「真間さん、、、、私は」

胸倉をつかんだ雪の手が緩められる

「私は、、、、真間さんに、元気になって欲しいんです」

そう言って雪は自らの服に手をかけ始める

布がすれる音が数回し雪は産まれたままの姿になる

「貧相な体で申し訳ないです、、、、ですが、私には、これくらいのことしかできません」

「ん!?」

真っ暗な部屋の中真間は数ヶ月ぶりに声を発する

「寝て、、、、いたのか、俺は」

布団を跳ね上げベットの上段を見つめる真間

その視線の先には本来寝息を立てているはずの親友の姿は無かった

(長い間、、本当に、長い間、虚無のはざまをさまよっていた気がする、、、、、睡眠をとるなんて、久しぶりだった気がする、、すごく、すがすがしいはずなのに、、、、何故だ、すごく最悪な事が起こっていた気がする)

「真間、、大変だ〜〜〜」

「、、、、、、、、十代?」

真間の部屋に十代が駆け込んでくる

「アレ?元気になってる、ってソレより大変なんだ」

「どうしたんだ、、とりあえず落ち着け」

「あぁ、、すまない」

スーハーっと深呼吸をする十代

「大変なんだ、、雪が、雪のヤツが　　」

(今、何て言った、、、十代の声が最後まで聞こえない)

「聞いてるのか真間、雪が　　」

(何故か最後の部分だけ聴き取る事が出来ない、、、雪がどうしたんだ十代、、、雪が……死、ん、だ!?)

「あ、、、あ、、、うわ～～～

雪の死から数日

生気を取り戻しかけた真間だったが雪の死によって再びもとの生ける屍状態に戻っていた

「、、、、、、」

「真間、、、、入るぞ」

十代に翔が真間に部屋に入ってくる

「まったく、カーテンくらい開けろよな」

「真間君、、元気だすっす」

2人の来客に対してもまったく反応を示さない真間

「シカトかよ、、まったく、ほら」

十代は真間の手に1つの手紙を握らせる

「確かに渡したからな、、、行くぞ翔」

「あ、待ってよ兄貴」

再び部屋が真間一人になり静寂に支配される

「、、、、、手紙、か」

先程十代に渡された物を確認す真間

渡された物は手紙であった

「、、、、、、雪、からだと」

封筒の片隅には“雪より、真間さんへ”と書かれてあった

封筒の封をとき中身を取り出し目を通す真間

真間さんへ

スイマセン、遺言状のような物を真間さん宛てに書いてしまってこの手紙を読んでいるという事はきっと私はこの世にいないと思います

私は、真間さんに元気になって欲しかったです

どんなに尽くしても、献身しても真間さんは見向きもしてくれませんでした

それだけ真間さんの中で誠さんの存在が大きかったと思います

少し、いえとても妬けてしまいます

最終手段、文字通り体を張った励ましも効果が無かった

こんな形で真間さんと結ばれるのは不本意でした

どんなに体を重ねても真間さんの心が元に戻りませんでした

私は、もう耐えられなかったです

大好きな人が苦しむ姿を見るのを

大好きな人の力になれない自分に

絶えられなかったです

最後にこの手紙を読んだ真間さんにこれだけは伝えたいです

私は、真間さんが大好きでした

生きてください、真間さん

「ウ、、ウグ、、、うお～～～

真間の悲痛な叫びが部屋に響く

「俺は、、、俺はどうして、こんなにも、情けないんだ」

バシンバシンと何度も床を叩く真間

しばらくし落ち着きを取り戻す真間

「どうして、、、俺はこんなに苦しむ、それならいっそ」

机の中からカッターを取り出しその刃を手首に向け始める真間

「この命を、、、消してしまおう」

ッグっとカッターを握る手に力を込める真間

「真間!!!!!」

カッターの刃が真間の手首を切り裂く寸前で突如声が響き真間がその動きを止める

「歯ぁ、、くいしばれ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜」

「ゴファ!!!!」

謎の雄たけびの後に真間の体が螺旋を描きながらすっ飛んでいく

「ま、、まさか、、誠か」

殴られたほほを押さえつつ起き上がる真間

その視線の先には体が少しすけた状態の真間が立っていた

「しかし、、、誠は死んだんじゃあ」

「あぁ、、確かに俺は死んだ」

「つまり、、、誠の幽霊なのか？」

「俺をあんな未練がましい存在と一緒にするな、、俺はお前の中にいる小野寺　誠の記憶といったところだ」

「俺の中の、、、小野寺　誠」

「ソレよりもだ、、、真間、お前今死のうとしたか」

「、、、、あぁ、生きる事に疲れた、俺は、、、、、俺みたいなヤツは死んだほうがましなんだ、真間に救われた命を無駄にし、大好きな人の心を踏みにじった、そんな俺に、生きる資格など」

「再び歯ぁくいしばれ！！！！」

「ゲフ」

遠心力の効いた回し蹴りが真間の顔面に直撃する

「俺は、、、、お前に死んで欲しくて自分を犠牲にしたわけじゃない、、雪も、お前に元気になって欲しくてあんな事をしたんだ、、そんなお前が腑抜けててどうする、、相変わらず精神バリバリにメタルなやつだぜ」

倒れている真間に手を差し出し起き上がらせる誠

「ほら、、起き上がれ、たとえつまずいたって起き上がればいいだけじゃないか、、、、、俺だって大きくすっ転んだ時、、、、お前は助けてくれただろ、、、、、だから、やり直しが効くうちに、さっさと立ち上がって、歩き出せ」

「誠、、、お前は、やっぱ俺の親友だな」

「、、、、っへ、やっと元気になりやがった」

「あぁ、、、色々と心配かけちまったな」

互いの拳を重ねる2人

「ありがとう誠、、、、俺の最高の親友、それと、、、、、さようならだ」

「あぁ、、、もう2度と、腑抜けて、俺と再会しないでくれよ」

その言葉を聞き誠の体が光となって消えていく

「皆、、、、行ってくるぜ」

ドアを開け外に飛び出す真間

「さぁ、、、デュエル開始だ！！！！！」

視線変更～誠～

「っというネタを異世界編でやろうと思っているのだがどう思う？」

「さてと、、シュレッダーっと」

ガリガリガリガリ～～～っと音を上げながら作者が書いた台本がシュレッダーによって細切れにされていく

「あぁ～～～俺の努力の結晶が～～何しやがる」

「あんなシナリオにＯＫ出せるか！！！Ｒ１５指定と言う言葉をどれだけ過信している貴様、雪さんのあのシーン下手すれば１８禁的表現だろう、、それと俺が１番言いたいのは主人公の俺死んじゃってるじゃん」

「いいじゃないか、、、真間より主人公してるぞ」

「いや、俺が死んで真間でしめくくったらますます真間が主人公っぽいじゃないか」

「何を言う、、、龍騎でも最終話直前で主人公のシンジが死んだじ

ゃないか」

「その理論を聞いて納得しろと？つーか作者よ、、わざわざ台本を見せる為だけにここに来たのか？」

「いいや、、、、気が付けばこの小説も一周年たったからな、チョット主人公と座談会をしようと思って」

「そんな記念すべき日の小説の冒頭に何鬱になるシナリオのせてるんだよ」

「さて、気を取り直して、、、この小説も今日ではや1年」

「もう1年か、、色々とあったな～～」

「このカードの効果が違う、効果処理が間違っている、この文章で誤字と変換ミスがあります、、、、、そんな事ばかり言われ続けてもう1年か」

「いや、、もうチョット明るい話題を出そうよ、、何でそう気分がダウンする話ばかりするんだよ」

「まぁ、、最近ではそんなに叩かれなくなったけど、、、、、、、

っと油断しているときっと真間ＶＳスフィア戦の時みたいにでっかいミスしてボロクソに叩かれる気がする」

「どんだけネガティブだよ、、、そうだ冬将軍、、この小説を書くきっかけのようなものが知りたいぞ」

「きっかけか、、高校時代の友達の謳歌からこの小説家になろうってサイトの話を聞いてな、、遊戯王で検索していろんな人の小説を読んでいるうちに俺も書きたくなって、、、、、って書きはじめたって感じだ」

（やっとネガティブな思考回路が止まってくれたぜ）

「それで、、、小説書いてなんか変った事あるか？」

「そうだな、、、、“誠”って単語に過剰反応するようになったな」

「俺の名前か？」

「あぁ、、、俺、運送業者で働いているんだけどさ、、お客様のお宅の表札とかで誠って字を見るだけで反応するし、、“誠に申し訳ございません”とか“誠にいかんに思います”とか、、、あと１番反応してしまうのは“スクールデイズの誠くらいヘタレジャナイか”ってワードに１番反応する」

「いや、、反応するって言われても、そもそもお前だろ名前を決めたの」

「いや、、初期設定では“小野寺　誠”でなく“小野寺　大地”だったんだ」

「え!?そうだったの、じゃあ何で誠になったんだ?」

「最初は岩石デッキ使い出し大地にしようと考えていたがよくよく考えると三沢とかぶる、、だから急遽小野寺　誠に変更となったわけなんだ」

「そんな裏事情があったとは」

「ニコニコ動画とかでスクールデイズ関係の動画で“誠死ね”っというコメントを見るたびに“俺の誠恨まれてる～～～～”なんて考えてしまう」

「じゃあ何でその名前にした」

「そうだな、、、まさに後悔先にたたずといったところだ、ハッハッハ」

「ところでさ、、、前に“遊戯王　鋼鉄の旅人”とコラボしたじゃん」

「あぁ、、小説を書いてはじめてのコラボだった、本当に蛇さんには感謝感激だぜ」

「他の世界には行ったりしないのか？」

「まぁ、、、俺はもともと社交性０で人見知りが激しいからな」

「現実だけでなくネットでも人見知りかよ、、友達、とまではいかないがこの小説をよく見てもらっている人とかいないのか？」

「まぁ、、うめ吉さんに、蛇さん、ＢＲＡＶＥさんにリュウガさん、、、、色々な人たちの感想が俺の力になっている、、特にうめ吉さんには本当にお世話になったと思う、、、この小説の方向性をあの人が修正したといっても過言ではないぞ、つまりもう一人の遊戯王ＧＸ～ＧＹＺ～の生みの親と言っても過言ではない」

「さぞ迷惑だろう、、、、勝手にそんなこと言われたら、そういえばさ、、、、野良猫さんにもすごいお世話になっただろう、、あの人脅威のスピードで感想かいてくれてさ、、、冬将軍、スッゲー喜んでたじゃん」

「、、、、、、、あの人最近連絡が取れないんだよな、コラボの企画の約束で終わっている、まぁ俺の方でコラボ小説のネタを書いているんだけどな」

「そうそう、、この小説のキーワードに“精霊ハーレム”がついて

るじゃん」

「あぁ、、そうだな」

「ふと思えばさ、、、、お前に当てはまらないワードだよな」

「、、、、、、、、、」

「おい誠、、何も言わずに万力のような力で俺の首を絞めるな」

「お前アレだけのハーレム状態を作っておいてよくそんな事言えたな」

「いや、、、こないだ違う小説でお前と同じく精霊ハーレムな主人公がいたんだけど、、、アレはすごかった、精霊とファーストコンタクトをとった瞬間、、、大人の関係をきづきだして、俺はあの小説を読んだ瞬間、ネフェルピトーを目の当たりにしたラモットのごとくひれ伏せたね、、かくが違いすぎると」

「色々と突っ込みどころがある発言だ」

「そうそう、、精霊といったらさ、実は話で精霊達が弱った時精霊達の過去が走馬灯で出てくるって設定があったんだけど都合でカットしているんだ」

「弱った時って事は、、巨大ネズミとモアイ迎撃砲の過去か？」

「いや、、実は巨大ネズミ3姉妹の過去なんだけどな」

「モアイまたはぶられちゃったし、、、って、どんな過去エピソー

ドを追加する気だったんだ？」

「まずは長女、、、実は長女は過去に誠以外のデュエリストの精霊だったんだ、、だけど出会ったデュエリストと仲良くなったら全員が不幸な目にあってな、、、ソレが何度も繰り返されだんだん疑心暗鬼になってな、裏設定で長女は誠と1度も面向かい合った事がないという設定がある」

「そういやぁ、、、アイツの顔真正面から見たためしないな」

「そんで次女だけど、、次女は生前は人間だったんだ、とある家でメイドをしていたんだ、、、何でもこなせるパーフェクトメイドで、雇い主の息子のメイドをしていたんだがその息子が次女のパーフェクトっぷりにいっつも嫉妬してな、、次女もそれに感づいていて、“早くその憎悪を私にぶつけてください”っと年中思っていた」

「あぁ、、次女のMっぷりは生前から健在なんだな」

「そんなある日、、その屋敷に強盗が入ってな、、、雇い主たちはその強盗に殺されてしまい、、次女もようやく痛みがもらえると歓喜していたんだが強盗は金品だけをかっぱらって逃走、その際強盗は屋敷に火をつけてその炎に巻き込まれ次女は死亡、、、結局痛みをもらえなかった次女は満足できずデュエルモンスターズの精霊になったって設定だ」

「ただとってつけたM設定の裏にそんな長々とした設定があったとは」

「って最後に三女な、、、、三女も生前は人間だった、でも出産直後病院が火事になってな、その火事で母親が死亡し三女の顔も醜く

焼きただれてしまって、父親はそんな三女の顔を見るたびに母親の死を思い出し辛く三女に当たって、、、、そして産まれて間もない命を父親に奪われ、、、次産まれるときはかわいい生命体になりたいという気持ちが届き巨大ネズミの精霊になったんだ」

「ただのかわいい系マスコットにそんな設定を、、、、ついでに他の精霊の設定を知りたいな」

「モアイ迎撃砲は元々デュエルモンスターズの精霊だったが、、あまり愛用してくれる人がいなく、いつも部屋にこもっりっきりで、全然外に出た事ないから勉強くらいしかする事がなかったからやたらと知識があるんだ」

「作者よ、、、お前の中ではモアイ迎撃砲は博識キャラで通っているつもりだろうかもしれんがあまりその設定生かしきれてないぞ」

「激昂のムカムカはムカムカ自身が忘れているから不明だ」

「本来なら投げやり設定だと言いたいが、、萌があるから許そう」

「って、最後にメガロック・ドラゴンだが生前誠が使っていたカードに精霊の魂がやどったものなんだ」

「生前からいたのか?だが俺は生前あったこと無いぞ」

「もとの世界は精霊が出現するには条件が悪かったんだ、、、GXの世界にやってきてはじめて精霊として出現できたってわけだ」

「ただむやみにハーレム要因を増やしてたわけじゃないみたいだな、、、でも俺はお前を一生許さないぞ」

「話を戻すけどさ、、、、誠、お前のハーレムはやっぱハーレムじゃないわ」

「、、、、、、、、」

「無言でドライヤーの熱風をかけるな、溶けちまうだろうが」

「どう考えても女性の比率高い俺の状況をハーレムじゃないってか、マブラヴの主人公ばりに恋愛原子核かってくらいの女性率じゃねーか俺の近辺」

「だが考えてみろ、、、、お前に好意を寄せている女性は沢山いるが恋愛感情を抱いているのはごくわずかだぞ、、、、とりあえずご本人達に聞いてみよう」

「え！？」

「速攻魔法発動、、“地獄の暴走召喚”」

作者が1枚のカードをかざすとそのカードの絵柄から俺の精霊達が出現しだす

「いや、地獄の暴走召喚って、そんなカードじゃないから」

「って、本人達に聞いてみよう、、、誠の事をどう思っているか」

「誠の事？そうだね、、、、、一緒にいて楽しい親友、かな？」

「大将と一緒にいると色々と楽しい事が沢山あって、、、私は大好きだね」

「初めて私が外の世界を知るきっかけをくれた人ですので、、、、この知識をいかすためにデュエルだけでなく日常生活でも頼って欲しいです」

「せめて、、、私とかかわりを持ったことで不幸な目にあって欲しくないと思っているわ」

「いつになったら私に折檻をしてくれるのかと楽しみにしています」

「キュ～キュキュキュ～～～」

「三女さんの言葉を訳しますね、、“誠兄ぃ、大好きです”だそうです」

「っと、、このようにお前に対して恋愛感情を持っているのは一人だけだ、、これで精霊ハーレムといえると思うか？」

「十分条件はクリアされていると思うぞ」

「さて、、、そろそろ座談会をしめようか」

「そうだな」

「この1年間いろんなことがありました」

「そしてこれからも俺はいろんなヤツとデュエルしていく」

「「皆さん、、、これからも遊戯王ＧＸ～ＧＹＺ～をよろしくお願いします」」

「ところで冬将軍、、、俺は何の為に呼ばれたんだ」

「「アレ?三沢いたの?」」

「最初からいたから、、、そしてこのネタ2回目だから」

一周年特別番外編～思えば遠くへきたものだ～（後書き）

ふと思います、だんだん原作キャラが空気化してるという事を。２期に入ったらもう少し原作キャラとからませたい……レッド寮取り壊しの時とか。

１年、本当に色々とありました、この小説がここまでこれたのは皆様のおかげです。

来月はゴーカイジャーの映画か～（激しく今関係ない）

次回の座談会は２期開始前に色々とネタを用意しておこうと思います。

それでは皆さん、これからも、遊戯王ＧＸ～ＧＹＺ～をよろしくお願いします。

第３８話放課後デュエルタイム～ＴＡＴＡＫＡＥ　ＭＩＲＡＣＬＥ～（前書き）

今回はレオナメインの話なんですが……お嬢様口調ってスッゲー書きづらい、誰だよレオナをお嬢様キャラにしたの、俺だったｏｒｚ

研究しようにも最近アニメで見ないな、お嬢様キャラ（遠い目）

最後に、タイトルはけいおん！っぽいですがけいおん！の“け”の字もありません（爆）

５月２４日訂正しました。

５月２６日再訂正しました。

第３８話放課後デュエルタイム～ＴＡＴＡＫＡＥ　ＭＩＲＡＣＬＥ～

視線変更～冥衣～

「今日もいい天気ですわね」

「ズズズ、、、そうね」

放課後、私はレオナとデッキ構築をしているはずだった

だけど気が付けばブルー寮の中庭でももえと一緒に紅茶を楽しんでいた

まぁいいか、、紅茶も茶菓子もおいしいし

「それにしても、、、冥衣さん、お茶の飲み方がなっていませんわ」

「え!?そう?」

「確かにそうですわ、、、お茶を正しく楽しむのもレディのたしなみですわ」

「ッチョ、レオナももえも、そんな似たようなしゃべり方でしゃべらないでよ、小説読んでいる人も作者も混乱するから」

「何を言っているんですか冥衣さん」

「いや、、、、なんとなく」

ティータイムを満喫した私達は再びデッキ調整をし始める

「さて、、私もそろそろ本格的にデッキを調整しませんと」

「そういえば、、レオナのデッキってどんなデッキだったっけ?」

ずいぶんと一緒にいるけどあまり細かくデッキを見た事がなかった

「実は、、、ちゃんとしたデッキを持っていないのですわ」

「え!?そうなの、、じゃあ雪と闘った時のデッキって?」

「使えそうなカードを寄せ集めただけですわ、、まだ、自分の望むデッキというものが見えていませんでしたので」

「そうだったのですか?」

「えぇ、、、アレから何度か試行錯誤を重ねてデッキを作っているのですがどうもしっくり来なくて」

「じゃあちょうどいいや、、、私達でレオナのデッキを作りましょう」

「3人で、、、ですか?」

「そう、、、一人でうじうじ悩んでもいいデッキはできないよ、そ

れじゃあカードを持ってくるね」

私は部屋においてあるカードを取りにダッシュで中庭から駆け出す

「意外と、、強引なんですね、冥衣さん」

「えぇ、、、でも、私には持ってないものをもっているのも事実ですわ」

「このカードなんて面白くない？」

「でも、、、このデッキに入れるにはチョット相性が悪そうですわ」

「それじゃあこのイケメンの殿方なんてどうでしょうか？」

「いや、、、ももえ、このデッキにそのカードはないと思う」

そして数分後

テーブルの上には何故か2つデッキが並んでいる

勢いでデッキが2つ完成してしまった

「ありがとうございます、、お二人のおかげでデッキが2つもできましたわ」

「いいっていいって、、それより、、、どんな風になるかデュエルしようよデュエル」

「私もデュエルの準備はよろしくってよ」

デッキはちょうど2つ

対戦相手もちょうど2人

など考えていると

「パラパラパラパラパラ」

「え!?」

突如プロペラ音が響き渡る

そして空の彼方から1つのヘリコプターがこちらに向かって飛んでくる

「何でしょうか?」

「、、、、、、、アレは」

激しいプロペラ音と共に私達の目の前に着地するヘリコプター

「やぁ、、、久しぶりだね、、レオナ君」

ヘリコプターに備えつけられているスピーカーからやたらさわやかな声が響き渡る

「レオナ、、、知り合い」

「えぇ、、どうやら、私の御客様のようですわ」

ヘリコプターの側面が開きそこから何故か赤いカーペットが飛び出し真っ赤なじゅうたんの道が出来上がる

そしてそのじゅうたんの上を白いスーツに身を包んだチョットキザくさいボンボンちっくなお坊ちゃんが歩いてくる

「やぁ、、レオナ、久しぶりだね」

うっわ〜〜〜、今歯がキラ〜〜ンって光った

「素敵な殿方ですわね」

ももえ、、あなたの感性はどうなってるの？

確かにイケメンだけれども

「お久しぶりですわね、、、正臣さん」

「ねぇねぇ、、レオナさん、、この素敵な殿方は？」

「東園寺（とうおんじ）　正臣（まさおみ）、、、私のフィアンセですわ」

「「フィ、フィアンセ～～～～～！！？？」」

「冥衣さんには前に話したはずですわ、、幼い頃婚約を約束した幼馴染がいると」

あぁ、、そういえばレイが遊びに来た時そんな話したわね

「そう、、君を迎えに来たのさ、、レオナ」

「迎えに、、、っと申しますと」

「実は、、、僕のパパがチョット病気を患ってしまってね、まぁ、、、軽く風邪を引いただけなんだけど、その時チョット精神がまいってたみたいでさ、僕の花婿姿が見たいってうなされてさ」

いちいちポーズを決めながら話しかけてくる東園寺とかいう男

レオナには悪いけどあまりのうざさにＳＡ☆ＴＵ☆ＧＡ☆Ｉしたい

「それで、、どうして私の元に」

「当然、、君を花嫁として迎える為さ」

「そう申されてましても、、、私はまだ学生の身分、おじ様も軽い症状のようですので、もう少し待っていただけないでしょうか？」

「ッフ、、、学生とは言えど、所詮ここでデュエルモンスターズと言うカードを使ったお遊びを学ぶだけ、、、そんな娯楽いいかげん手を切って僕の元に来るんだ、そのほうが君のためにもなる」

「ブチィ」

アレ？今レオナから景気よく何かが切れる音が

「正臣さん、、、ここはデュエルアカデミア、どうでしょう、デュエルで決するというのは？」

「いいだろう、、、君がそう言うと思ってデッキはもってきている、チョット待ちたまえ」

そういってキザ男はヘリコプターに何故かステップを踏みながら戻っていく

「レオナ、、、いいの？」

「えぇ、、私は負けませんわ」

ゴゴゴゴゴゴゴとオーラのようなものがレオナから感じる

「もしかして、、、デュエルを馬鹿にされて怒っていられますの？」

「えぇ、、そうですわ」

「え！？」

「どうしましたの？」

「いや、、、ずいぶんと、あっさり認めるんだな～～～っと、ツンデレっぽく“べ、別にデュエルの事なんか好きじゃないんだからね

”っとリアクションしてくれるとばかり」

「、、、、、、、、冥衣さん、誠さんが好きなのはわかりますが悪影響を受けるのは感心しませんわ」

「っな！！？？」

「冥衣さん、、その話、是非詳しくお聞かせしてもらえないでしょうか？」

「ッチョ、、ソレよりも今はレオナのデュエルよ」

気が付けばさっきのキザ男がじゅうたんの上を歩いてくる

その腕には金一色のボディーにところどころ宝石が埋め込まれたデュエルディスク

趣味が悪すぎる、ずいぶん前に誠とモンハン２ｎｄやった時誠が金レイア装備一式で来た時と同じ心境だ

「さぁ、、デュエルといこうか」

「えぇ、、どこからでもかかっておいでなさい」

「「デュエル！！！」」

レオナ
ＬＰ４０００

東園寺
ＬＰ４０００

「僕のターン、、僕はモンスターを裏守備でセットしリバースを１枚追加してターンエンドだよ」

レオナ
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

東園寺
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、“ブラッド・オーキス”を攻撃表示で召喚」

レオナのフィールドにかわいらしい双葉が顔を出す

だが次の瞬間双葉が爆発的スピードで成長し始めまがまがしい顔がついた巨大な樹木に成長する

ブラッド・オーキス
レベル４地属性
植物族
攻撃力１７００守備力１０００
効果
このカードが召喚に成功した時、手札から“デス・デンドル”１体を特殊召喚できる。

「ブラッド・オーキスの効果発動、、手札の“デス・デンドル”を攻撃表示で特殊召喚しますわ」

ブラッド・オーキスがその体をふるわせ始めるとそこからいくつもの花が落下しブラッド・オーキスの隣に集まり始める

デス・デンドル
レベル４地属性
植物族
攻撃力３００守備力２０００
効果
１ターンに１度だけ自分のメインフェイズに装備カード扱いとして自分の“ブラッド・オーキス”に装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。この効果で装備カード扱いになっている時のみ、装備モンスターが戦闘によってモンスターを破壊する度に“魔草トークン”（植物族・地・星１・攻／守８００）を１体特殊召喚する。（１体のモンスターが装備できるユニオンは

1枚まで。装備モンスターが戦闘によって破壊される場合は、代わりにこのカードを破壊する。）

「デス・デンドルの効果発動、、、ブラッド・オーキスに装備させますわ」

せっかくほろい落とした花達であったが再びブラッド・オーキスの体に這い上がっていきその体

を色鮮やかに飾っていく

「バトルですわ、、、ブラッド・オーキスで裏守備モンスターに攻撃ですわ」

クケケケケケケケケと奇妙な声を発しながらブラッド・オーキスが音波を放つ

「僕のモンスターは“マッド・リローダー”さ」

裏守備カードが表になると青い色の悪魔が腕を組んで東園寺のフィールドに降り立つ

マッド・リローダー
レベル１闇属性
悪魔族
攻撃力０守備力０

効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分の手札を2枚墓地に送り、自分のデッキからカードを2枚ドローする。

マッド・リローダーに音波が直撃しその体を消滅させていく

ブラッド・オーキス　攻撃力1700＞マッド・リローダー　守備力0

「マッド・リローダーの効果を発動、、手札を2枚墓地に送り新たにデッキからカードを2枚ドローするよ」

「ですがデス・デントルの効果を発動させますわ、、、戦闘によって相手モンスターを破壊したので魔草トークンを1体特殊召喚しますわ」

ポコっとレオナのフィールドに小さめの花が咲き始める

「そして魔草トークンで相手プレイヤーに直接攻撃」

小さな花から種子が弾丸のごとく何発か放たれ東園寺の体を貫いていく

「うわ～～～～」

魔草トークン　攻撃力８００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

東園寺
ＬＰ４０００－８００＝３２００

「やりましたわ、、レオナさんが先手を取りましたわ」

「、、、、、、、、、、」

「どうしましたの冥衣さん」

「確かに先手を取った、、、でも、相手の手の内がわからない以上は守備に徹したほうがよかったかもしれない」

「そうでしょうか」

「私だったら、、、デス・デントルをユニオンせずブラッド・オーキスで壁を破壊しデス・デントルで直接攻撃しメイン２でユニオンしたわ、、、、、ももえ、レオナの攻撃をパターンＡ、私の攻撃をパターンＢとし、、それぞれのメリットデメリットは、わかるわよね」

「え～～っと」

のほほんとした表情のまま考え出すももえ

しばらく考えるがいっこうに答は出てこないようだ

本当にブルーなのあなた

「答を言うわね、、、パターンＡは与えられるダメージがパターンＢより５００ポイントおおいけど攻撃力８００のモンスターを攻撃表示で残してしまう、、パターンＢはパターンＡよりダメージは少ないけれども攻撃力が低いデス・デンドルをユニオンするから次の相手ターン大ダメージは回避できる、、、わかるわよね？」

「、、、、、、なるほどですわ」

このリアクション、たぶんわかってない

「レオナ、、、まさか焦ってプレイミスしてないかな」

「私はメイン２に何もせずターンエンドですわ」

レオナ
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ブラッド・オーキス、魔草トークン
魔法トラップ　デス・デンドル

東園寺

ＬＰ３２００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「僕のターンだね、、、ドロー」

現在相手が使用したカードはマッド・リローダーのみ
悪魔族デッキなのか?それともキーカードを手札に加える為にドロー加速させたのか?

「僕は“ライトロード・パラディン　ジェイン”を攻撃表示で召喚」

巨大な光の柱が突如出現しそこから純白の鎧を身にまとった一人の青年が姿を現す

ライトロード・パラディン　ジェイン
レベル４光属性
戦士族
攻撃量１８００守備力１２００
効果
このカードは相手モンスターに攻撃する場合、ダメージステップの間攻撃力が３００ポイントアップする。このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを2枚墓地に送る。

「なかなかのイケメンモンスターですわ」

「、、、、ライトロードデッキね」

「冥衣さん、、あのイケメン様を知っているのですか？」

「えぇ、、、ライトロードデッキ、自身の効果でコントローラーのデッキを削っていくモンスター郡、、一見デメリットにも感じるけど墓地が肥えれば有利に働くデッキとの相性もさることながらライトロードだけで構築しても十分恐ろしいカードがあるデッキ、、、さっきのマッド・リローダーも墓地を肥やす為のカードだったんだ」

ライロデッキってことは、当然あの光り輝くドラゴンも入ってるわけか

どうするレオナ、早く勝負を決さないとまずいわよ

「バトルフェイズに入る、、、ライトロード・パラディン　ジェインで魔草トークンに攻撃、、ジェインの効果で攻撃力３００アップ」

ライトロード・パラディン　ジェイン
攻撃力１８００→２１００

純白の剣士がその剣をレオナのフィールドの小さな花に突き刺す

ライトロード・パラディン　ジェイン　攻撃力２１００＞魔草トークン　攻撃力８００

レオナ
ＬＰ４０００－１３００＝２７００

「少々、、、焦りすぎたかもしれませんわね」

ライトロード・パラディン　ジェイン
攻撃力２１００→１８００

「エンドフェイズ、、ジェインの効果でデッキからカードを2枚墓地に送るよ、、、ターンエンド」

レオナ
ＬＰ２７００
手札４枚
モンスター　ブラッド・オーキス
魔法トラップ　デス・デンドル

東園寺

ＬＰ３２００
手札４枚
モンスター　ライトロード・パラディン　ジェイン
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、デス・デンドルのユニオンを解除しますわ」
再びブラッド・オーキスがその体をふるわせまとわり突いていた花をふるい落とす
「そしてデス・デントルを生け贄に“ギガプラント”を召喚しますわ」
ガバ～～～っと突如地面から巨大なアゴが出現しデス・デンドルが一網打尽で食される
そしてアゴから下が地面から這い上がってきて巨大な怪植物のモンスターになる

ギガプラント
レベル６地属性
植物族
攻撃力２４００守備力１２００
効果：デュアル

このカードは墓地またはフィールド上に表側表示で存在する場合、通常モンスターとして扱う。フィールド上に表側表示で存在するこのカードを通常召喚扱いとして再度召喚する事で、このカードは効果モンスター扱いとなり以下の効果を得る。●自分の手札または墓地に存在する昆虫族または植物族モンスター1体を特殊召喚する。この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「バトルですわ、、、ギガプラントでジェインに攻撃」

ギガプラントからジェインに向かって触手がいくつも伸び始める

「リバース発動、、、“ライトロード・バリア”」

ライトロード・バリア
永続トラップ
自分フィールド上に表側表示で存在する“ライトロード”と名のついたモンスターが攻撃対象になった時、自分のデッキの上からカードを2枚墓地へ送る事で相手モンスター1体の攻撃を無効にする。

「僕はデッキからカードを2枚墓地に送りその攻撃を無効にする」

ジェインの周りにバリアのようなものが発生しギガプラントの触手をはじき返す

「ック、、、私はメイン2でブラッド・オーキス守備表示に変更し

リバースを1枚伏せてターンエンドですわ」

レオナ
ＬＰ２７００
手札４枚
モンスター　ブラッド・オーキス、ギガプラント
魔法トラップ　リバース×１

東園寺
ＬＰ３２００
手札４枚
モンスター　ライトロード・パラディン　ジェイン
魔法トラップ　ライトロード・バリア

「僕のターン、、、“ライトロード・プリースト　ジェニス”を守備表示で召喚」

さっきみた光の柱が再び出現しそこから今度は杖を持った魔術師が出現する

ライトロード・プリースト　ジェニス
レベル４光属性
魔法使い族

攻撃力３００守備力２１００
効果
“ライトロード”と名のついたカードの効果によって自分のデッキからカードが墓地へ送られたターンのエンドフェイズ時、相手ライフに５００ポイントダメージを与え、自分は５００ライフポイント回復する。

「そしてバトル、、、ジェインでブラッド・オーキスに攻撃」

ライトロード・パラディン　ジェイン
攻撃力１８００→２１００

ザックリとブラッド・オーキスの図太い幹がジェインの剣で真っ二つに切り裂かれる

ライトロード・パラディン　ジェイン　攻撃力２１００＞ブラッド・オーキス　守備力１０００

ライトロード・パラディン　ジェイン
攻撃力２１００→１８００

「そしてそのままエンドフェイズだ、、デッキからカードを2枚墓地に送るよ、、、よし、ライトロード・ビースト　ウォルフがデッキから墓地に直接送られたことにより僕のフィールド上に守備表示で特殊召喚するよ」

ジェインが剣を地面に突き刺すと魔方陣が出現しその中から犬の頭人の体のチョット不気味なモンスターが姿を現す

ライトロード・ビースト　ウォルフ
エベル４光属性
獣戦士族
攻撃力２１００守備力３００
効果
このカードは通常召喚できない。このカードがデッキから墓地に送られた時、このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

「そしてジェインの効果でデッキからカードが墓地に送られたことでジェニスの効果を発動、、、レオナのＬＰに５００ポイントのダメージを与え僕のＬＰを５００回復するよ」

ジェニスが杖をかざすとレオナの体から光があふれ出しその光が東園寺の周りに集結していく

レオナ
ＬＰ２７００－５００＝２２００

東園寺
ＬＰ３２００＋５００＝３７００

「僕はこれでターンエンドだ」

レオナ
ＬＰ２２００
手札４枚
モンスター　ギガプラント
魔法トラップ　リバース×１

東園寺
ＬＰ３７００
手札４枚
モンスター　ライトロード・パラディン　ジェイン、ライトロード・マジシャン　ジェニス、ライトロード・ビースト　ウォルフ
魔法トラップ　ライトロード・バリア

「私のターン、、、来ました、速攻魔法“サイクロン”発動」

サイクロン
速攻魔法
フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して破壊する。

「ライトロード・バリアを破壊しますわ」

バリ〜〜〜ンと東園寺のトラップカードが破壊される

「そしてギガプラントをデュアルしますわ、、それによってギガプラントに効果が付与されますわ、、、そして早速その効果を発動、手札の“妖精王オベロン”を特殊召喚します」

ギガプラントの体から種子が数粒放たれ地面に埋まると同時にみるみる育っていき杖を持った青年のモンスターに姿を変える

「またもイケメンですわ」

妖精王オベロン

レベル６水属性
植物族
攻撃力２２００守備力１５００
効果
このカードがフィールド上に表側守備表示で存在する限り、自分フィールド上に表側表示で存在する植物族モンスターの攻撃力・守備力は５００ポイントアップする。

「バトル、、、オベロンでウォルフに攻撃いたしますわ」
オベロンが杖を振り上げるとウォルフの足下から無数のつたが伸びその体を絡めとる
そしてそのまま地面に引きずり込みウォルフの姿がフィールドから消えてなくなる

妖精王オベロン　攻撃力２２００＞ライトロード・ビースト　ウォルフ　守備力３００

「追撃、、、ギガプラントでジェインに攻撃」
ギガプラントの触手が伸び今度はちゃんと相手モンスタに届きその体を引き寄せる

そしてその大きなアゴで噛み砕き相手モンスターを破壊する

ギガプラント　攻撃力２４００＞ライトロード・パラディン　ジェイン　攻撃力１８００

東園寺
ＬＰ３７００－６００＝３１００

「私はこれでターンエンドです」

レオナ
ＬＰ２２００
手札３枚
モンスター　ギガプラント、妖精王オベロン
魔法トラップ　リバース×１

東園寺
ＬＰ３１００
手札４枚
モンスター　ライトロード・マジシャン　ジェニス
魔法トラップ　なし

「僕のターン、、僕はジェニスを生け贄に“ライトロード・ドラゴン　グラゴニス”を召喚するよ」

ジェニスが突如膝を折り両手を合わせて祈りをはじめる

するとその体が光の粒子となって天に昇りそこから神々しい光を放ちながら鎧を身にまとったドラゴンが降り立つ

ライトロード・ドラゴン　グラゴニス
レベル６光属性
ドラゴン族
攻撃力２０００守備力１６００
効果
このカードの攻撃力と守備力は、自分の墓地に存在する“ライトロード”と名のついたモンスターカードの種類×３００ポイントアップする。このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、自分のエンドフェイズ毎に、デッキの上からカードを3枚墓地に送る。

「今僕の墓地には４種類のライトロードが眠っている、、、よってグラゴニスの攻撃力が３２００に上昇」

ライトロード・ドラゴン　グラゴニス
攻撃力２０００→３２００

「え!?ですが墓地にはジェイン、ウォルフ、ジェニスの３種類しかいないはず」

「きっと、マッド・リローダーの効果で墓地に１枚送ってたのよ」

「バトルだ、、、グラゴニスでギガプラントに攻撃“セイント・バースト”」

グラゴニスの口から光のブレスが放たれギガプラントを干からびさせていく

ライトロード・ドラゴン　グラゴニス　攻撃力３２００＞ギガプラント　攻撃力２４００

レオナ
ＬＰ２２００－８００＝１４００

「攻撃力３２００にして貫通もちのモンスター、、厄介ですわね」

「ハハハハ、僕はリバースカードを１枚追加してエンドフェイズにデッキからカードを３枚墓地に送りターンエンドだ」

レオナ
ＬＰ１４００
手札３枚
モンスター　妖精王オベロン
魔法トラップ　リバース×１

東園寺
ＬＰ３１００
手札３枚
モンスター　ライトロード・ドラゴン　グラゴニス
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、、グラゴニス、厄介なカードですわ、、、装備魔法“薔薇の刻印”を発動しますわ」

薔薇の刻印
装備魔法
自分の墓地に存在する植物族モンスター1体をゲームから除外して発動する。このカードを装備した相手モンスター1体のコントロールを得る。自分のエンドフェイズ時に装備モンスターのコントロールを相手に移す。自分のスタンバイフェイズ時に装備モンスターのコントロールを得る。

「墓地に眠るデス・デンドルをゲームから除外しグラゴニスのコントロールをえます」

グラゴニスの額に薔薇のマークが浮かび上がる

そしてその翼を広げてグラゴニスがレオナのフィールドに降り立つ

「だが、、君の墓地にライトロードは存在しない、、、攻撃力は２０００にもどるよ」

ライトロード・ドラゴン　グラゴニス
攻撃力３２００→２０００

「ですが、、、あなたのＬＰを０にするには十分ですわ、、バトル、、、、、グラゴニスで直接攻撃」

「させないさ、、、リバース発動“閃光のイリュージョン”」

閃光のイリュージョン
永続トラップ
自分の墓地から“ライトロード”と名のついたモンスター１体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。自分のエンドフェイズ毎に、デッキの上からカードを２枚墓地に送る。このカードがフィールド上から離れた時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターがフィー

ルド上から離れた時このカードを破壊する。

「墓地に眠るウォルフを蘇生させるよ」

閃光のイリュージョンの絵柄からさっきの狼男が姿を現す

「グラゴニスの攻撃を中断しオベロンでウォルフに攻撃しますわ」

妖精王オベロン　攻撃力２２００＞ライトロード・ビースト　ウォルフ　攻撃力２１００

東園寺
ＬＰ３１００－１００＝３０００

「おしいわね、、、攻撃の順番が違えば大ダメージを与えられたのに」

さっきからプレミが目立っている

頭に血が上って冷静な判断ができないでいるのかしら

「メイン2、、私は“神秘の中華なべ”を使いますわ」

神秘の中華なべ
速攻魔法
自分フィールド上のモンスター1体を生け贄に捧げる。生け贄に捧げたモンスターの攻撃力か守備力を選択し、その数値だけ自分のライフポイントを回復する。

「グラゴニスを生け贄に攻撃力分私のＬＰを回復しますわ」

巨大な鍋がレオナのフィールドにあわられその中にグラゴニスの体が入っていく

そして鍋が激しく震えるとそこから光の粒子が飛び出しレオナに注がれていく

レオナ
ＬＰ１４００→３４００

「さらに私はカードを1枚伏せてターンエンドですわ」

レオナ
ＬＰ３４００
手札２枚

モンスター　妖精王オベロン
魔法トラップ　リバース×１

東園寺
ＬＰ３０００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「僕のターン、、、魔法発動“壷の中の魔術書”」

壷の中の魔術書　（マンガオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする。

「この効果によって互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする」

これで互いの手札は5枚

ボードアドバンテージにライフアドバンテージはレオナが上

でも、このターンでこの流れが大きく揺れる、そんな気がする

「いいカードを引いたよ、、魔法発動“光の援軍”」

光の援軍
通常魔法
自分のデッキの上からカードを3枚墓地へ送って発動する。自分のデッキからレベル４以下の“ライトロード”と名のついたモンスター1体を手札に加える。

「デッキの上からカードを3枚墓地に送りデッキから“ライトロード・スピリット　シャイア”を手札に加えそのまま召喚」

天から一筋の光がさしこみその周りを小さなキューピットが旋回する
そしてその光の柱の中を小柄な天使が一人降りてくる

ライトロード・スピリット　シャイア
レベル3光属性
天使族
攻撃力４００守備力１４００
効果
このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在する“ライトロード”と名のついたモンスターの種類×３００ポイントアップする。このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分のエンド

フェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを2枚墓地へ送る。

「墓地には7種類のライトロードが眠っている、、よって攻撃力が２１００上昇する」

ライトロード・スピリット　シャイア
攻撃力４００→２５００

レベル3にして最上級レベルモンスタークラスの攻撃力なんてカードなのかしら

そして墓地には6種類ライトロードが眠っている、まずいアレの条件がクリアされている

「バトルに入るよ、、、シャイアでオベロンに攻撃“スピリチアルダガー”！！！」

天使が手に持っているナイフからビームサーベルのような光が発生する

そしてその光の刃がオベロンをみじん切りにしていく

ライトロード・スピリット　シャイア　攻撃力２５００＞妖精王オ

ベロン　攻撃力２２００

レオナ
ＬＰ３４００－３００＝３１００

「さらにメイン2にリバースを1枚セット、、、そしてエンドフェイズにデッキの上からカードを2枚墓地に送るよ、、、よし、“ライトロード・レイピア”の効果発動」

東園寺のフィールドに長剣が2本突き刺さる

そしてシャイアがソレを装備する

「ライドロード・レイピアはデッキから墓地に直接送られることでも発動できる特殊な装備魔法なのさ」

ライトロード・レイピア
装備魔法
“ライトロード”と名のついたモンスターにのみ装備可能。装備モンスターの攻撃力は７００ポイントアップする。このカードがデッキから墓地に送られた時、このカードを自分フィールド上に存在する“ライトロード”と名のついたモンスター1体に装備する事ができる。

ライトロード・スピリット　シャイア
攻撃力２５００→３２００

「僕はリバースを1枚追加してターンエンドだ」

レオナ
ＬＰ３１００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

東園寺
ＬＰ３０００
手札３枚
モンスター　ライトロード・スピリット　シャイア
魔法トラップ　ライトロード・レイピア、リバース×２

「私のターン、、“禁じられた聖杯”を発動しますわ」

シャイアの前に今度は杯が1つ現れる

ソレをグイっとシャイアが口にすると突如苦しみ始める

禁じられた聖杯
速攻魔法
フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。エンドフェイズ時まで、選択したモンスターの攻撃力は４００ポイントアップし、効果は無効化される。

「禁じられた聖杯の効果でシャイアの効果を無効にしますわ」

ライトロード・スピリット　シャイア
攻撃力３２００→１５００

「さらに“フェニキシアン・シード”を召喚」

レオナのフィールドに一つ目の球根らしき植物が地面から顔を出す

フェニキシアン・シード
レベル２炎属性
植物族
攻撃力８００守備力０
効果
自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送って

発動する。自分の手札から“フェニキシアン・クラスター・アマリリス”１体を特殊召喚する。

「そしてフェニキシアン・シードの効果、、このカードを墓地に送って“フェニキシアン・クラスター・アマリリス”を特殊召喚しますわ」

球根が再び地面に戻るとそこからひときわ大きい花が１つ咲き始める

フェニキシアン・クラスター・アマリリス
レベル８炎属性
植物族
攻撃力２２００守備力０
効果
このカードは“フェニキシアン・シード”またはこのカードの効果でしか特殊召喚できない。このカードは攻撃した場合、ダメージ計算後に破壊される。自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時、８００ポイントダメージを相手ライフに与える。自分のエンドフェイズ時にこのカードが墓地に存在する場合、自分の墓地に存在する植物族モンスター１体をゲームから除外する事で、このカードを墓地から守備表示で特殊召喚する事ができる。

「バトル、、、アマリリスでシャイアに攻撃」

アマリリスから1つのつたが鞭のように舞う
つたがシャイアにあたりその体を消滅させる

フェニキシアン・クラスター・アマリリス　攻撃力２２００＞ライトロード・スピリット　シャイア　攻撃力１５００

東園寺
ＬＰ３０００－７００＝２３００

「さらにアマリリスの効果を発動、、このカードが戦闘を行った場合、ダメージステップ終了時このカードを破壊、、、そしてアマリリスは破壊された時相手のＬＰに８００ポイントのダメージを与えますわ」

突如アマリリスの体から光があふれ出し爆散する

そしてその破片が鋭いナイフのように東園寺に降り注ぐ

「ッグ」

東園寺
ＬＰ２３００－８００＝１５００

「これで、、、あのカードの脅威は去ったわ」

「冥衣さん、、、さっきからおっしゃっていますあのカードって何なんですの」

「ももえさん、、、少しは勉強したほうがいいと思う」

あのカードの効果を使うにはＬＰを１０００支払わなければならない

だが支払った瞬間アマリリスの効果が発動し東園寺のＬＰは０

これで１ターンキルの心配はなくなった

「そしてエンドフェイズ、、、フェニキシアン・クラスター・アマリリスの効果を発動、、墓地に眠るブラッド・オーキスをゲームから除外し守備表示で特殊召喚しますわ」

再びさっきの巨大な花がレオナのフィールドに咲き始める

「ターンエンドですわ」

レオナ
ＬＰ３１００
手札３枚
モンスター　フェニキシアン・クラスター・アマリリス

魔法トラップ　リバース×1

東園寺
LP1500
手札3枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×2

「僕のターン、、“ブラック・コア”発動」

ブラック・コア
通常魔法
自分の手札を1枚捨てる。フィールド上の表側表示のモンスター1体をゲームから除外する。

「ブラック・コアの効果でアマリリスを除外する」

アマリリスの頭上にブラックホールが出現しアマリリスの体が吸い込まれていく

「ック、、、私のアマリリスが」

アチャ〜〜、まずい、破壊でなく除外は痛すぎる

効果が仕えないどころかアマリリスの再生効果も使えなくなってしまった

「そして僕の墓地にはライトロードと名のつくモンスターが４種類以上存在する」

まさか、、手札にあったとは

“ジャッジメント・ドラグーン”を特殊召喚するよ」

地面からいくつもの光の柱が出現する

そして光の柱の中心から地面を突き破り白銀に輝く神々しいドラゴンが姿を現した

ジャッジメント・ドラグーン
レベル８光属性
ドラゴン族
攻撃力３０００守備力２６００
効果
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に“ライトロード”と名のついたモンスターが４種類以上存在する場合のみ特殊召喚する事ができる。１０００ライフポイントを払う事で、このカード以外のフィールド上に存在するカードを全て破壊する。このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを４枚墓地へ送る。

「そしてジャッジメント・ドラグーンの効果を発動、ＬＰを１００支払ってフィールド上のこのカード以外の全てのカードを破壊する、、、“裁きの光”」

東園寺
ＬＰ１５００－１０００＝５００

ジャッジメント・ドラグーンの体が発行していく

そしてあたり１面を埋め尽くすほどの光が広がる

「ック、私のカードが」

光が晴れると白銀のドラゴン以外のカードは全て消滅していた

「さて、、、バトルだ、、ジャッジメント・ドラグーンで直接攻撃“セイント・ギガバースト”！！！」

ジャッジメント・ドラグーンが再び発行しだし今度は口から誠のメガロック・ドラゴンの熱線くらい派手な光線が放たれる

「ック」

ジャッジメント・ドラグーン　攻撃力３０００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

レオナ
ＬＰ３１００－３０００＝１００

「まずいですわ、、、レオナさんののＬＰがもう１００しか」

「でも、、首の皮1枚つながったわ」

前に誠が行ってた鉄壁ＬＰ、、、だったかしら

でも実際１００しか残らなかったら絶望的な状況にサレンダーすると思うけど

でも、レオナならきっと逆転の1手を繰り出せるはず

「エンドフェイズにデッキからカードを4枚墓地に送って僕はターンエンドさ」

レオナ
ＬＰ１００
手札3枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

東園寺

ＬＰ５００
手札１枚
モンスター　ジャッジメント・ドラグーン
魔法トラップ　なし

「私のターン、、ドロー、来ましたわ、、、私は“ローンファイア・ブロッサム”を召喚しますわ」

レオナのフィールドに小さめのつぼみ状態の植物が生えてくる

ローンファイア・ブロッサム
レベル３炎属性
植物族
攻撃力５００守備力１４００
効果
自分フィールド上に表側表示で存在する植物族モンスター１体をリリースして発動する。自分のデッキから植物族モンスター１体を特殊召喚する。この効果は１ターンに１度しか使用できない。

「ローンファイア・ブロッサムの効果発動、このカード自身を生け贄にデッキからローンファイア・ブロッサムを特殊召喚」

レオナのフィールドの植物のつぼみが膨らみぱっくりと割れると再びローンファイアブロッサムが出現する

「そしてローンファイア・ブロッサムの特殊召喚成功時手札から速攻魔法“地獄の暴走召喚”を発動いたしますわ」

地獄の暴走召喚
速攻魔法
相手フィールド上に表側表示でモンスターが存在し、自分フィールド上に攻撃力１５００以下のモンスター１体が特殊召喚に成功した時に発動する事ができる。その特殊召喚したモンスターと同名モンスターを自分の手札・デッキ・墓地から全て攻撃表示で特殊召喚する。相手は相手自身のフィールド上に表側表示で存在するモンスター１体を選択し、そのモンスターと同名モンスターを相手自身の手札・デッキ・墓地から全て特殊召喚する。

「私は墓地からローンファイア・ブロッサムを特殊召喚しますわ」

「ック、、僕のジャッジメント・ドラグーンは自身の効果でしか特殊召喚できない」

「そしてフィールド上のローンファイア・ブロッサムの効果をW発動しますわ、自身を生け贄にデッキから植物族モンスターを特殊召喚できる、、、私は“妖精王オベロン”を守備表示で、“椿姫～ティタニアル～”を攻撃表示で召喚」

今度は２つのローンファイア・ブロッサムのつぼみが開き片方からは先程召喚した妖精の王様が

そしてもう片方からは下半身が椿の美しい女性モンスターが出現する

椿姫～ティタニアル～
レベル８風属性
植物族
攻撃力２８００守備力２６００
効果
自分フィールド上に表側表示で存在する植物族モンスター１体をリリースして発動する。フィールド上に存在するカードを対象にする魔法・罠・効果モンスターの発動を無効にし破壊する。

「バトル、、椿姫でジャッジメント・ドラグーンに攻撃ですわ」

「攻撃力２８００の椿姫で僕の攻撃力３０００のジャッジメント・ドラグーンに攻撃だって」

ティタニアルが手をかざしそこに息を吹きかけるといくつかの花びらがまるで鋭利な刃物のように鋭くとがりながらジャッジメント・ドラグーンに向かって飛んでいく

そしてその花びらの刃に刻まれジャッジメント・ドラグーンが破壊され消滅する

「な、、なぜだ、何故僕のジャッジメント・ドラグーンが」

「オベロンの隠された、、、っというよりもあまり知られてない効果、、このカードが表側守備表示で存在する時私のフィールドの植物族モンスターは攻撃力が５００ポイント上昇いたしますわ」

椿姫～ティタニアル～
攻撃力２８００→３３００

妖精王オベロン
攻撃力２２００→２７００

椿姫～ティタニアル～　攻撃力３３００＞ジャッジメント・ドラグーン　攻撃力３０００

東園寺
ＬＰ５００－３００＝２００

これでライフはほぼ互角

東園寺の手札は1枚、フィールドにカードはない

それに対しレオナのフィールドには植物族の上級モンスターと最上級モンスターがそろっている

このターンをしのげればレオナの勝ちが見える

「私はこれでターンエンドですわ」

レオナ
ＬＰ１００
手札２枚
モンスター　妖精王オベロン、椿姫～ティタニアル～
魔法トラップ　なし

東園寺
ＬＰ２００
手札１枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「僕のターン、、モンスターを１体裏守備でセットしターンエンドだ」

今僕がセットしたのはライトロード・ハンター　ライコウだ

これで椿姫かオベロンをフィールドから除去できる

そして僕の手札のカードは死者転生

次のドローフェイズにドローしたカードをコストにジャッジメント・

ドラグーンを特殊召喚すれば僕の勝ちは確定する

レオナ
ＬＰ１００
手札２枚
モンスター　妖精王オベロン、椿姫～ティタニアル～
魔法トラップ　なし

東園寺
ＬＰ２００
手札１枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　なし

「私のターン、、オベロンを攻撃表示に変更しますわ」

レオナのフィールドのオベロンが腕を十字に組んで中腰態勢であったが肘を立て起き上がる

椿姫～ティタニアル～
攻撃力３３００→２８００

妖精王オベロン

攻撃力２７００→２２００

「そしてバトル、、、妖精王オベロンで裏守備モンスターに攻撃ですわ」

オベロンが手に持っている杖を東園寺の裏守備モンスターに向かって投げ飛ばす

「僕のモンスターは“ライトロード・ハンター　ライコウ”さ」

ライトロード・ハンター　ライコウ
レベル２光属性
獣族
攻撃力２００守備力１００
効果
リバース：フィールド上に存在するカード１枚を選択して破壊する事ができる。自分のデッキの上からカードを３枚墓地へ送る。

「ライコウのリバース効果発動、、相手フィールド上のカード１枚を破壊する、、、僕は椿姫～ティタニアル～を選択するよ」

ライコウが光の玉になってレオナの椿姫に向かって飛んでいく

（これで次のターン死者転生でジャッジメント・ドラグーンを手札

に加えて特殊召喚、そしてオベロンに攻撃すれば僕の勝ちだ）

「椿姫～ティタニアル～の効果発動、、フィールド上の植物族モンスターを生け贄にささげ、対象をとる効果を無効にし破壊しますわ」

「なんだって」

「私はオベロンを生け贄にささげライコウの効果を無効にしますわ」

椿姫がバリアにつつまれライコウが変化した光の玉をかき消す

ようは、、つみ状態だったってわけね

東園寺、ご愁傷様

「そんな」

「とどめですわ、、、椿姫で直接攻撃」

椿姫の足下の椿から花びらが手裏剣のごとく大量に放たれ東園寺の体を刻んでいく

「うわ～～～～～～」

椿姫～ティタニアル～　攻撃力２８００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

東園寺

ＬＰ２００－２８００＝－２６００

デュエルが終わり互いのフィールド上のモンスターが消滅する

「そんな、、、僕が負けるなんて～～～～」

デュエルに敗北すると同時にその場で泣き始めるお坊ちゃん

マンガみたいに滝のごとく涙流して泣いちゃってるし、アレを現実で見れる日が来るとは

「、、、、、、まったく」

デッキを片付け東園寺に近づいていくレオナ

「正臣さん、、顔を上げてください」

「う、、、うぅ」

「まったく、、男前が台無しですわよ」

そういってハンカチを取り出し東園寺の涙と鼻水を拭い取っていくレオナ

「今はまだ結婚できませんが、、、、、あなたが立派な大人になっ

て、私もそれにふさわしいレディーになってましたら、、、、、
ご結婚の話を考えてあげてもよくてっよ」

「レ、、レオナ、、あ、、ありが、、ありがとう」

そうして大べそお坊ちゃまはヘリコプターで帰って行った

「それにしても、、、危なかったわね、、レオナ、もう少しでデュエルアカデミアから去って、あのお坊ちゃまと結婚するところだったわね？」

「え！？何を言ってますの冥衣さん」

「あそこで逆転のカードを引かなかったら敗北してたわよ、、、、人生をかけたデュエルだったじゃない」

「あぁ、、、ちなみにあのデュエルは勝っても負けても私はこのデュエルアカデミアを去るはめにはなりませんでしたわ」

「「え！！？？」」

「私は、、デュエルで決しましょうと言いましたが、、、、負けたら結婚しますとは一言も言ってませんわ」

「、、、、、確かに」

「もし負けたら“私はまだデュエルの腕が未熟なのでこの学校で腕を磨き一人前の女性になってから結婚させていただきますわ”っと言う予定でしたので」

あの東園寺、きっと結婚したら尻に敷かれるどころか尻に潰されるわね

翌日

この話を誠にしたら

「スーパー戦隊名物偽装結婚するチャンスが～～～」

っと謎の台詞を叫んでいた

第３８話放課後デュエルタイム～ＴＡＴＡＫＡＥ　ＭＩＲＡＣＬＥ～（後書き）

スイマセン、最後がグダグダになってしまいました。当初の予定ではティタニアル～とオベロンを特殊召喚したターン、レオナがバトルフェイズ中にエネミーコントローラーでオベロンを攻撃表示に変更して止めと言う展開を考えていたのですが、よくよくエネミーコントローラーのテキストを見てみると相手モンスターにしか使えない……様々な路線変更の果てにこんなＧＤＧＤ展開にｏｒｚ

考えてみると私の前書きと後書きにｏｒｚを使わなかった日がない気がします。

次回の最強カードはこれだ（遊戯王のＥＤのように）

“ゴーカイジャー　ゴセイジャー　スーパー戦隊１９９ヒーロー大決戦の前売り券”

「って、カードじゃないじゃないか～～～～！！！！！！」

第３９話幼馴染ほど厄介な相手はいない、こちらの手の内を全て知っているのだ

今回から誠と真間の過去編みたいなものが始まります。ネタ自体は前々から考えていたのですがどのタイミングで入れようかずっと悩んでまして、ちょうど今誠が新デッキに頭を悩ませてますのでここで入れてみようと思いました。

それではどうぞ。

６月３日訂正しました。

６月８日再訂正しました。

第３９話幼馴染ほど厄介な相手はいない、こちらの手の内を全て知っているのだ

視線変更～？？？？～

「う～～～～ん、、潮風が気持ちいい～～」

長い間船に揺られる事数時間

すっかり体に疲労がたまってしまいグイ～～～～っと背伸びをする

「それじゃああありがとうございました」

船長さんに別れを告げ私はひときわ大きい建物に向かう

歩く事数分

校長室と書かれた部屋に入る

そこには少しメタボぎみのツルピカなおっちゃんがいた

「おぉ、、君ですか、我が校を見学したいと言うのは？」

「見学、、、っていうより、できの悪い弟分が元気にやってるかどうか見に来た感じなんすけどね」

「そうですか、、、それでは見学を許可します」

「ハイ、、ありがとうございます」

視線変更〜冥衣〜

「それにしても、、、どうしたのかしら」

「真間さんからのメールだと、、緊急事態だとしかわかりません」

今朝、真間から私と雪にメールが届いた

“急いできてくれ、緊急事態なんだ”

っと書かれているのみ

一体何が大変なんだか意味不明である

とりあえず私と雪はレッド寮の誠の部屋に向かっていた

など思っていると2人の部屋の前に着く

「コンコンコン」

「誠、真間、、いるの？」

返事はない、ただの屍なのかしら？

「真間さ～～ん、、誠さ～～ん」

再びノックをすると

「キケ～～～～～」

「「！！！！！」」

突如部屋の中から鶏が絞め殺されたかのような叫び声が聞こえる

「チョット、、大丈夫なの」

「冥衣さん、、ドアの鍵が開いています」

「ヨッシャ、、誠、真間入るよ」

バタ～～ンとドアを開けると

「神の、、、神のお告げが来たのじゃ～～～～～」

「おちつけ誠～～～」

祈祷師っぽい格好をした誠とソレを必死で押さえ込む真間の姿があった

「神は言っている、、、ネロ・カオスを倒せば新たなデッキを授けると、、今の俺なら27祖全員を1人で相手にしても完勝する自信があるぜ」

「これは、、、確かに一大事ですね」

「とりあえず、、、止めるか」

数分後

どうにか誠を落ち着けることに成功し今4人で力を合わせて部屋の片づけをしている

「びっくりしたぜ、、、朝起きたら変な祭壇が飾られて誠が八墓村みたいな服着ているし」

「すまない、、、かなり取り乱していた」

「まったく、、、そんなに辛いんなら新デッキ作り手伝おうか？」

「いや、、、これだけは俺の手でどうにかしたい、気持ちだけ受け取っておくよ」

そうよね、、1からデッキを作るとなるとやっぱ一人でやらないと私達他者が入り込める余地はないか、アドバイスを送るくらいはで

きるけど

「コンコンコン」

「すいませ～～～ん、、小野寺　誠と空栗　真間の部屋でいいですか～～？」

ノック音の後に聞きなれない声が響く

「ハイ、、あってますが」

「よかった～～、ここであってた」

ガチャっとドアが開かれるとそこには見慣れない女子が立っていた

アカデミアの制服を着てないところを見ると島の外から来たのかもしれない

「楓、、、楓か」

「ひっさしぶりだね、、2人とも」

「あのう、、、真間さん、こちらの女性は」

「あぁ、、悪い、紹介するぜ、、、、俺と誠の幼馴染の火帝（ひかど）　楓（かえで）だ」

「はじめまして、、火帝　楓だ、いつも誠と真間が世話になってる」

ニカっと八重歯をきらめかせながら挨拶をしてくる楓

黒いロングの髪にチョット姉御肌っぽい顔つき
なんとなくだが、、誠と真間を足して2で割った性格を顔立ちが整った女の子にインストールしたらこんな感じになるっというイメージがある

「いえ、、、そんな事ないです、私の方が真間さんに助けられてます」

「そうね、、私も結構助けられてるかな、、、、、まぁそれ以上に暴走止めたりもするけど」

今朝みたいな事をしょっちゅうするからなアイツは

「おやおや、、、私がいない間に、私の幼馴染2人はこんなにかわいい彼女を作って、、、これじゃあ田舎の幼馴染なんて忘れちゃうか」

「そんな、、、、ピカチューよりもかわいいだなんて」

「あちゃ〜〜またはじまったし」

私の親友が顔を真っ赤にしながらその場でのけぞり始める

「ようし、、、冥衣、雪が気が付いたら“私が誠です、、女になりました”っと言ってくれ」

「何をマスターする気なのよあんたわ」

「は〜りぃすたーふぃっしゅ的な意味で色々とマスターしたい」

そして数時間後

「ＰＲＲＲＲＰＲＲＲＲＲ」

５人ですっかり打ち解けあい雑談していると誠のＰＤＡが鳴り響く

「あ！！校長からだ、、もしもし小野寺です」

「あぁ、、小野寺君ですか、近くに火帝さんはいますか」

「いますけど、、、何かあったんですか？」

「実は、、、船にトラブルが発生してしまいまして、、、、帰りの便がなくなってしまったんです」

「え、、そうなんですか」

「急いでも、、、明日まで船は用意できそうにないんです」

ＰＤＡから会話が駄々漏れの為部屋の全員に事態が説明される形になる

「それじゃあ、、私の部屋に泊まりませんか？」

「え、、雪、いいの？」

「ハイ、、、女の子同士お泊り会っというのも面白そうです、、、

それに真間さんや誠さんの恥ずかしい昔話とか聞いてみたいです」

「いいわね、、、私もそのお泊り会に参加しいたいな～」

「じゃあ今日は3人で私の部屋にお泊りですね、、早速私の部屋に楓さんの荷物を置きに行きますか」

「そうだね、、それじゃあ誠、真間、、、また後で来るね」

レッド寮からでて数分

私と雪と楓はブルーの女子寮に向かって歩いている

「ようし、、、今日の夜は楓さんから2人の恥ずかしい過去話とか聞いちゃいますよ～」

私の友人はかなりノリノリであった

「恥ずかしい過去、、、、、、、かぁ」

さっきまでのカラっとした明るい表情がいっぺん楓の顔に影がさす

「どうしたの、、、、楓」

「2人は、、、、まだ2人の過去を聞いてないんだね」

「真間さんと、、誠さんの過去ですか？」

「あの２人も話してないんだ、、、、、まぁ自分から話すような事でもないし、でも、今のあなた達なら、聞く権利くらいはあると思うけど」

「、、、、、そうでしょうか？」

さっきのノリノリのテンションから一転、すっかり落ち込みムードの顔になる雪

「ようし、、、それじゃあデュエルでもしようか」

「何故そんな流れに」

「私が見極めてやるって感じかな、、、２人が誠達の過去を知る権利があるかどうか」

そういってかばんからデュエルディスクとデッキを取り出す楓

「こう見えても、、、弟達の対戦相手をしてて、兄弟間では負け知らず、、腕には自信があるよ」

「ようし、、ここは私が」

雪はチョット戸惑っている

あまりデュエルできるコンディションではない、ここは私が闘おう

「「デュエル！！」」

冥衣
ＬＰ４０００

楓
ＬＰ４０００

「私のターン、、、私は“雷獣オトロス”を守備表示で召喚」

落雷が私のフィールドに発生し雷の落下地点に首が２つある犬っぽいモンスターがお座りをした状態で登場する

雷獣オトロス　（オリジナル）
レベル３光属性
雷族
攻撃力１５００守備力１３００
効果
このカードが戦闘によって破壊された時、デッキからレベル４以下の雷獣と名のつくモンスター１体を特殊召喚する。

「そしてリバースカードを1枚伏せてターンエンド」

冥衣
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　雷獣オトロス
魔法トラップ　リバース×１

楓
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターン、、、“フレムベル・グルニカ”を召喚」

地面からドラゴンが一体飛び上がる

そしてその翼をはばたかせ楓のフィールドにフレムベル・グルニカが舞い降りる

フレムベル・グルニカ
レベル４炎属性
ドラゴン族
攻撃力１７００守備力２００
効果
このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターのレベル×２００ポイントダメージを相手ライフに与える。

「バトル、、、、グルニカでオトロスに攻撃」

楓の場のグルニカが拳に炎をまとわせ渡しのオトロスを攻撃し破壊する

フレムベル・グルニカ　攻撃力１７００＞雷獣オトロス　守備力１３００

「グルニカの効果、、、相手モンスターを戦闘破壊した時そのモンスターのレベル×２００ポイントのダメージを与える」

グルニカの口から火球が放たれ私の目の前で爆発する

「ック」

冥衣
ＬＰ４０００－６００＝３４００

「バーンダメージを持つカードか、、、だけど、オトロスの効果を発動、戦闘破壊されたときデッキからレベル４以下の雷獣を１体特殊召喚する、、、私は“雷獣ゲンプ”を守備表示で特殊召喚」

雷獣ゲンプ
レベル３光属性
雷族
攻撃力１００守備力２０００
効果なし

「メイン2、、私はリバースを1枚追加してターンエンドだ」

冥衣
ＬＰ３６００

手札４枚
モンスター　雷獣ゲンプ
魔法トラップ　リバース×１

楓
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　フレムベル・グルニカ
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、、“雷獣ヘカケイル”を召喚」

ビリビリビリと発電しながら漆黒の影が私のフィールドに出現しヌヌヌヌヌと起き上がり巨大な人型の影になる

雷獣ヘカケイル　（オリジナル）
レベル４光属性
雷族
攻撃力２１００守備力０
効果
自分フィールド上にこのカード以外の雷獣と名のつくモンスターが存在しない時このカードを破壊する。

「バトル、、ヘカケイルでフレムベル・グルニカに攻撃」

電気を帯びた巨大な拳が小さめの火竜の体をペッタンコに押しつぶす

雷獣ヘカケイル　攻撃力２１００＞フレムベル・グルニカ　攻撃力１７００

楓
ＬＰ４０００－４００＝３６００

「メイン2、、私はリバースを1枚追加してターンエンドよ」

冥衣
ＬＰ３６００
手札４枚
モンスター　雷獣ゲンプ、雷獣ヘカケイル
魔法トラップ　リバース×１

楓
ＬＰ３６００
手札５枚
モンスター　なし

魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、、、モンスターを1体裏守備でセットしリバースを１枚追加してターンエンドだ」

冥衣
ＬＰ３６００
手札４枚
モンスター　雷獣ゲンプ、雷獣ヘカケイル
魔法トラップ　リバース×１

楓
ＬＰ３６００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン、、、よし、いでよ“雷獣スキラ”」

どこからともなく黄色い犬が数匹私のフィールドに集まりだす

そしてそれらが密集しあうと犬たちの下半身が融合しその連結部分から女性の上半身がはえはじめる

雷獣スキラ　（オリジナル）
レベル４光属性
雷族
攻撃力１２００守備力１６００
効果
自分フィールド上に存在する“雷獣”と名のつくモンスター１種類につき攻撃力２００アップする。

「スキラの効果、、私のフィールド上の雷獣１種類につき攻撃力が２００ポイント上昇する、、、私の場には３種類存在する、よって攻撃力が６００ポイントアップ」

雷獣スキラ
攻撃力１２００→１８００

「バトル、、、スキラで裏守備モンスターに攻撃」

スキラの下半身の犬達の内数匹が相手フィールドに向かって走り始める

「私のモンスターは“ＵＦＯタートル”だよ」

裏守備カードが表になりＵＦＯの甲羅に亀の手足がはえたモンスタ

ーの姿が現れる

ＵＦＯタートル
レベル４炎属性
機械族
攻撃力１４００守備力１２００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力１５００以下の炎属性モンスター１体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

私のスキラが放った犬がＵＦＯタートルを噛み砕いて域破壊する

雷獣スキラ　攻撃力１８００＞ＵＦＯタートル　守備力１２００

「戦闘破壊されたＵＦＯタートルの効果を発動、、デッキから攻撃力１５００以下の炎属性モンスター１体を攻撃表示で特殊召喚できる、、、私は“ダークブレイズドラゴン”を攻撃表示で特殊召喚するよ」

巨大な火柱が楓のフィールドに発生しその中からまがまがしい爪が顔を出す

そして爪が振り上げられると火柱が消滅しそこには巨大な翼竜が立っていた

ダークブレイズドラゴン
レベル7炎属性
ドラゴン族
攻撃力１２００守備力１０００
効果
このカードが墓地からの特殊召喚に成功した時、このカードの元々の攻撃力・守備力は倍になる。このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

「レベル7なのに攻撃力が１２００、、チョット怖いけどヘカケイルでダークブレイズ・ドラゴンに攻撃」

人型の影がのびはじめダークブレイズドラゴンに向かって飛び上がる

「リバースカード発動、、、“プライドの咆哮”」

プライドの咆哮

通常トラップ
戦闘ダメージ計算時、自分のモンスターの攻撃力が相手モンスターより低い場合、その攻撃力の差分のライフポイントを払って発動する。ダメージ計算時のみ、自分のモンスターの攻撃力は相手モンスターとの攻撃力の差の数値＋３００ポイントアップする。

「私はダークブレイズドラゴンの攻撃力とヘカケイルの攻撃力の差分のＬＰ、、９００ポイントを支払ってダークブレイズドラゴンの攻撃力を払った数値＋３００した数値分アップする」

楓
ＬＰ３６００－９００＝２７００
ダークブレイズドラゴン
攻撃力１２００↓２４００

「ダークブレイズドラゴンの反撃、、“ファイアーバースト”」

ダークブレイズドラゴンの炎が私のヘカケイルを焼き払う

雷獣ヘカケイル　攻撃力２１００＜ダークブレイズドラゴン　攻撃力２４００

冥衣
ＬＰ３６００－３００＝３３００

「ック、攻撃力を増加させるカードだったか」

「さらにダークブレイズドラゴンの効果を発動、、、相手モンスターを戦闘破壊した時もともとの攻撃力分のバーンダメージを与える」

「そんな効果が」

ダークブレイズドラゴンの翼が激しくはばたかれる
そして真っ赤な旋風が私に襲い掛かってくる

「グゥ」

冥衣
ＬＰ３３００－２１００＝１２００

さすがはレベル7のモンスター、、恐ろしいカードじゃない
カードはステータスだけじゃない、効果、魔法、トラップのコンビネーションでどんなカードもどこまでも恐ろしくなれる
やるじゃない楓、今度アカデミアに入学してきなさいよ

「私の場の雷獣の数が減ったのでスキラの攻撃力が減少するわ」

雷獣スキラ
攻撃力１８００→１６００

「メイン2、、私はこれでターンエンド」

冥衣
ＬＰ１２００
手札４枚
モンスター　雷獣ゲンプ、雷獣スキラ
魔法トラップ　リバース×１

楓
ＬＰ２７００
手札５枚
モンスター　ダークブレイズドラゴン
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、、私はダークブレイズドラゴンを守備表示に変更、
そして“火炎木人１８”を召喚」

楓のフィールドに突如木が生え始める

そしてダークブレイズドラゴンがその木に炎を吐き出すと手足がはえ火炎木人１８の姿になる

火炎木人１８
レベル４炎属性
炎族
攻撃力１８５０守備力０
効果なし

「バトル、、火炎木人１８でスキラに攻撃」

ものすごくもだえ苦しみながら灼熱の木人が私のスキラに体当たりを仕掛けてくる

なんか、、夢に出てきそうな嫌な攻撃だ

火炎木人１８　攻撃力１８５０＞雷獣スキラ　攻撃力１６００

冥衣
ＬＰ１２００－２５０＝９５０

「ック、、、やっぱダークブレイズドラゴンの1撃はきいたわ」

だけど、、ダークブレイズドラゴンが守備表示ということはプライドの咆哮などの攻撃力増加系カードは手札にないとみた

あのバーンダメージをくらうのは厄介だ、態勢が整えられる前にあのドラゴンには退場してもらうか？

「私はこれでターンエンド」

冥衣
ＬＰ９５０
手札４枚
モンスター　雷獣ゲンプ
魔法トラップ　リバース×１

楓
ＬＰ２７００
手札５枚
モンスター　ダークブレイズドラゴン、火炎木人１８
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、雷獣ゲンプを生け贄に手札の“雷獣王ギドラス”を攻撃表示で召喚」

ゲンプの体にひびが入りそこから光があふれ出す

そしてゲンプの体を突き破り3首のドラゴンが私のフィールドに降り立つ

雷獣王ギドラス　（オリジナル）
レベル7光属性
雷族
攻撃力２２００守備力２０００
効果
このカードは自分フィールド上の“雷獣”と名のつくモンスター1体を生け贄に攻撃表示で召喚できる、このカードは墓地に眠る雷獣と名のつくモンスター1体につきこのカードの攻撃力は２００ポイント上がる。

「雷獣王ギドラスの効果、、墓地に眠る雷獣と名のつくモンスター1体につき攻撃力が２００ポイントアップする、、、私の墓地には４体の雷獣が眠っている、よってギドラスの攻撃力は３０００にアップ」

雷獣王ギドラス
攻撃力２２００→３０００

さて、どうする

１８に攻撃すべきかダークブレイズドラゴンに攻撃すべきか

「バトル、、ギドラスで、、、、、火炎木人１８を攻撃“デルタ・プラズマ”！！！」

ギドラスの３つの首から雷撃の玉が放たれる

そしてその３つの直撃をくらい１８が成仏していった

雷獣王ギドラス　攻撃力３０００＞火炎木人１８　攻撃力１８５０

楓
ＬＰ２７００－１１５０＝１５５０

ダークブレイズドラゴンの攻撃力は１２００、、私のギドラスの３０００を超えるにはチョットやそっとのカードじゃ難しいはず

それにあのカードは墓地に送られ復活する時攻撃力が倍になるカード

ここはあえてフィールドに残すのが吉とみた

「私はこれでターンエンドよ」

冥衣
ＬＰ９５０
手札４枚
モンスター　雷獣王ギドラス
魔法トラップ　リバース×１

楓
ＬＰ１５５０
手札５枚
モンスター　ダークブレイズドラゴン
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、、モンスターを1体裏守備でセットしリバースを1枚追加してターンエンドだ」

冥衣
ＬＰ９５０
手札４枚
モンスター　雷獣王ギドラス
魔法トラップ　リバース×１

楓
ＬＰ１５５０
手札４枚
モンスター　ダークブレイズドラゴン、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン、、、“雷獣リフォン”を攻撃表示で召喚」
私の場に電流を身にまとった獅子の頭を持つ小鳥がやってくる

雷獣リフォン　（オリジナル）
レベル４光属性
雷族
攻撃力０守備力０
効果
このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、このカードを墓地に送る事で、自分のライフを１０００ポイント回復する。

「雷獣リフォンの効果発動、、このカードを墓地に送りＬＰを１００回復する」

冥衣
ＬＰ９５０＋１０００＝１９５０

「そして墓地の雷獣の数が増えた事でギドラスの攻撃力が上昇する」

雷獣王ギドラス
攻撃力３０００→３２００

「そしてバトル、、ギドラスで裏守備モンスターに攻撃」

「私のモンスターは“大木炭１８”だ」

大木炭１８
レベル１炎属性
炎族
攻撃力１００守備力２１００
効果なし

さっきの火炎木人の成れの果てっぽいモンスターが相手フィールドに現れる

誠に見せたらきっと“燃え尽きたよ、、、真っ白にな”っていいそうね

いや、“あばよ、、ダチ公”かもしれない

雷獣王ギドラス　攻撃力３２００＞大木炭１８　守備力２１００

「私はこれでターンエンド」

冥衣
ＬＰ１９５０
手札４枚
モンスター　雷獣王ギドラス
魔法トラップ　リバース×１

楓
ＬＰ１５５０
手札４枚
モンスター　ダークブレイズドラゴン
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン、、“死者への手向け”を発動」

死者への手向け
通常魔法
手札を1枚捨て、フィールド上に存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを破壊する。

「手札を1枚墓地に送りギドラスを破壊」

楓の場に1枚の魔法カードが出現する

そしてその絵柄からミイラの手のようなものが数本伸びてきてギドラスの体を絵柄の中に引きずり込んでいく

「さて、、、強力なモンスターがいなくなったところでダークブレイズドラゴンを攻撃表示に変更し、、“憑依装着ヒータ”を召喚」

憑依装着ヒータ
レベル４炎属性
魔法使い族
攻撃力１８５０守備力１５００
効果

自分フィールド上の“火霊使いヒータ”1体と他の炎属性モンスター1体を墓地に送る事で、手札またはデッキから特殊召喚する事ができる。この方法で特殊召喚に成功した場合、以下の効果を得る。このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「バトルフェイズ、、全モンスターで攻撃、、、、これでＬＰは０」

「リバース発動、、、、聖なるバリア〜ミラーフォース〜」

聖なるバリア〜ミラーフォース〜
通常トラップ
相手がモンスターで攻撃した時、相手の攻撃表示モンスターをすべて破壊する。

私の周りにバリアが発生相手モンスターの動きを止める

そしてそのモンスターの体を粉砕する

「ック、、、私はリバースを1枚伏せてターンエンド」

冥衣

ＬＰ１９５０
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

楓
ＬＰ１５５０
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×３

「私のターン、、モンスターを1体裏守備でセットしリバースを1枚追加してターンエンド」

冥衣
ＬＰ１９５０
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

楓
ＬＰ１５５０
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×３

「私のターン、、墓地の炎属性モンスターをゲームから除外し“炎の精霊イフリート”を攻撃表示で特殊召喚」

楓のデュエルディスクの墓地のスロットから炎が噴出す

そしてその炎の中から筋肉隆々の魔神が出現する

炎の精霊イフリート
レベル４炎属性
炎族
攻撃力１７００守備力１０００
効果
このカードは通常召喚できない。
自分の墓地の炎属性モンスター1体をゲームから除外して特殊召喚する。このモンスターは自分のバトルフェイズ中のみ、攻撃力が３００ポイントアップする。

「そしてさらに手札の2枚目の火炎木人１８を召喚しバトルフェイズに入ると同時にイフリートの攻撃力が２０００に上がる」

炎の精霊イフリート
攻撃力１７００→２０００

「バトルフェイズ、、１８で裏守備モンスターに攻撃」

「私のモンスターは“雷獣チグモ”」

私の場の裏守備カードが表になり黄色の体に黒のラインが走った鮮やかな蜘蛛が出現する

雷獣チグモ　（オリジナル）
レベル３光属性
雷族
攻撃力０守備力１００
効果
このカードが戦闘破壊された時、このターンのエンドフェイズまでプレイヤーに発生する戦闘ダメージは全て０になる。

火炎木人１８の謎めいた自爆特攻攻撃で私のチグモが破壊される

火炎木人１８　攻撃力１８５０＞雷獣チグモ　守備力１００

「チグモの効果発動、、このカードが戦闘破壊された時私が受ける戦闘ダメージは０になる」

「追撃は不可能か、、、私はこれでターンエンド」

冥衣
ＬＰ１９５０
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

楓
ＬＰ１５５０
手札３枚
モンスター　炎の魔神イフリート、火炎木人１８
魔法トラップ　リバース×３

「私のターン、、きた、手札の“サンダー・ドラゴン”の効果発動」

サンダー・ドラゴン
レベル５光属性
雷族
攻撃力１６００守備力１５００
効果

手札からこのカードを捨てる事で、デッキから別の“サンダー・ドラゴン”を2枚まで手札に加える事ができる。その後デッキをシャッフルする。この効果は自分のメインフェイズ中のみ使用する事ができる。

「手札のこのカードを墓地に送りデッキから同名カードを2枚手札に加える、、、そして魔法発動“融合”」

融合
通常魔法
手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

「手札のサンダー・ドラゴン2枚を融合、融合召喚“双頭のサンダードラゴン”」

私のフィールドにサンダー・ドラゴンが2体出現すると同時に天に駆け上がり暗雲に姿を変える

そしてその暗雲の中から2つ頭のドラゴンが出現する

双頭のサンダー・ドラゴン
レベル７光属性
雷族
攻撃力２８００守備力２１００
効果なし

「バトル、、双頭のサンダー・ドラゴンで炎の魔神イフリートに攻撃、、サンダーバースト！！！」

双頭のサンダー・ドラゴンの２つの口から雷が放たれ螺旋を描きながら楓のイフリートを貫く

双頭のサンダー・ドラゴン　攻撃力２８００＞炎の魔神イフリート　攻撃力１７００

楓
ＬＰ
１５５０－１１００＝３５０

「メイン２に私はリバースカードを１枚伏せてターンエンド」

冥衣
ＬＰ１９５０
手札３枚
モンスター　双頭のサンダー・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×２

楓
ＬＰ３５０
手札３枚
モンスター　火炎木人１８
魔法トラップ　リバース×３

「私のターン、、装備魔法発動“戦線復活の代償”」

戦線復活の代償
装備魔法
自分フィールド上の通常モンスター１体を墓地へ送って発動する。自分または相手の墓地に存在するモンスター１体を選択して自分フィールド上に特殊召喚し、このカードを装備する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、装備モンスターを破壊する。

「私は１８を墓地に送り墓地に眠るダークブレイズドラゴンを特殊召喚する」

１８の炎が激しくなり始め１８の木製ボディーが消し炭になっていく
そして灰の中から煌く灰を身にまとったダークブレイズドラゴンが
飛翔する

「ダークブレイズドラゴンが墓地から特殊召喚に成功した時ステータスが倍になるよ」

ダークブレイズドラゴン
攻撃力１２００→２４００

「リバース発動、、サイクロン」

サイクロン
速攻魔法
フィールド上に存在する魔法・罠カード１枚を選択して破壊する。

「戦線復活の代償を破壊するわ」

「させないよ、、、リバース発動“魔宮の賄賂”」

魔宮の賄賂

カウンタートラップ
相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。相手はデッキからカードを1枚ドローする。

「魔宮の賄賂の効果でサイクロンを無効、、、、さぁ、1枚ドローしていいよ」

「デッキから1枚ドロー」

まずい、、このタイミングで賄賂を使ってくると言う事はこのターンで決める気だ

「さらに手札の“セカンド・ブースター”を召喚」

楓のフィールドに光のゲートが現れそのゲートからステルス戦闘機っぽいモンスターが出現する

セカンド・ブースター
レベル3炎属性
機械族
攻撃力1000守備力500
効果
このカードをリリースし、自分フィールド上に表側攻撃表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターの攻撃力は、エンドフェイズ時まで1500ポイントアップする。

「セカンド・ブースター効果発動、、このカードを生け贄にささげダークブレイズドラゴンの攻撃力を１５００ポイントアップさせるよ」

ダークブレイズドラゴン
攻撃力２４００→３９００

「バトル、、ダークブレイズドラゴンで双頭のサンダー・ドラゴンに攻撃、、“ファイアーバースト”！！！！」

ダークブレイズドラゴンの口に炎が収束していく

この攻撃が通れば大ダメージは確定

このリバースにかけるしかない

「リバースカード発動“あまのじゃくの呪い”」

あまのじゃくの呪い
通常トラップ
発動ターンのエンドフェイズ時まで、攻撃力・守備力のアップ・ダウンの効果は逆になる。

「あまのじゃくの呪いの効果でセカンド・ブースターの攻撃力上昇効果をダウン効果に変更」

私のトラップカードから黒い霧のようなものが出現しダークブレイズドラゴンの体にまとわり付く

ダークブレイズドラゴン
攻撃力３９００↓９００

「ック、、私のリバースは破壊効果を無効にするカード、、あまのじゃくの呪いには使用できない」

「迎え撃て、、、双頭のサンダー・ドラゴン、“サンダーバースト”！！！！」

双頭のサンダー・ドラゴンが２つ頭を大きく振り口から電撃を放ちながら振り下ろす

そしてその電流がダークブレイズドラゴンの体を包み込む

ダークブレイズドラゴン　攻撃力９００＜双頭のサンダー・ドラゴン　攻撃力２８００

楓
ＬＰ３５０－１６００＝－１５５０

「ヨッシャ、、勝った」

「いや～～～～、、さすがデュエルアカデミアの生徒、強いね」

「楓も強かったわ、、、、、来年アカデミアに転校してきたら」

「ハッハッハ、、それもいいかもしれないけど、こっちの高校も大事だしね」

「それで、、、誠と真間の過去についてなんだけど」

「そうだね、、、やっぱ本人から聞いたほうがいいかな、荷物を置いたら２人の部屋に行こう」

「そうですね、、、、、急ぎましょう」

2009

「っというわけだ、、、誠、真間、、彼女らに過去の話をしたらどうだ」

レッド寮に戻ると同時に楓がばっさりと話を切り出した

「まったく、、、おしゃべりだな、お前は」

誠もヤレヤレと少しあきれ気味でため息をつく

「悪い真間、、、説明は頼むぜ、、、、、、俺は長い話苦手だから」

「俺かよ、、しょうがない、少し長い話になるがいいか2人とも」

ゴホンとむせて真間が真剣な表情になり向き合う

続く

第３９話幼馴染ほど厄介な相手はいない、こちらの手の内を全て知っているのだ

新キャラ火帝　楓登場、何気に五十嵐　カエデと名前がかぶってしまってます。ちなみに楓のキャラクターイメージはあかべぇそふとつぅの１８禁ゲーム“Ｗ．Ｌ．Ｏ～世界恋愛機構～”の帝崎　楓です（まんまです）

名前の通り楓は炎デッキなのですが完全に私の愛する動画“超絶！デュエル道”のもりしゅ～さんのファイヤー流デッキそのものになってしまってます（笑）

しかし、メガロックといいムカムカといい冥衣といい楓といいキャラがかぶっているｏｒｚ作者の趣味全開すぎてキャラにメリハリが……

次回誠視線で２人の過去編が始まります。

2011

お知らせ～挫折して小説を打ち切るわけではありません～（前書き）

全然遊戯王に関係ない話ですが叫ばしてください

リトルバスターズ最高～～～～～！！！

Ｋｅｙ最高～～～～～～！！！

そして冬にはリトルバスターズがアニメ化

岡崎最高～～～～～！！！

※６月１４日訂正

お知らせ～挫折して小説を打ち切るわけではありません～

「なぁ…誠」

「どうした、真間」

中学時代のある日

俺と真間は学校の屋上でたたずんでいた

校庭を見ると運動部の連中が部活動をしている

昼間はあんなにもにぎやかな学校だけど今は違う

運動部の掛け声とカラスの羽音しか聞こえない

とても静かな時間だった

いつもと変らない日常

ずっとそんな毎日を遅れると俺は信じていた

「俺さ……今度引っ越すんだ」

「なんだと！！？？」

「来月……親父の会社の都合で、内地に引っ越す事になった」

「そうか……楓には言ったのか？」

2013

「まだだ、最初はお前と決めていたし」

「そうか」

再び訪れる静寂

日もすっかりかたむき始めオレンジの空がだんだん漆黒に染まり始めていた

「幼馴染のお前がいなくなっちまったら寂しいぜ」

「俺だって寂しいさ」

「いつ、発つんだ？」

「来月の頭にはこの町を出る」

「……そうか」

「カキ～～～ン」

俺達の静寂を断ち切るかのように気持ちがいいくらいの金属音が響く

そしてグランドから白球が俺達に向かって飛んでくる

「よっと」

パシっと俺はそれを素手でキャッチする

「そうだ、野球をやろう」

「野球？」

「あぁ、チーム名は“リトルバスターズ”だ」

ＢＧＭ～Ｌｉｔｔｌｅ　Ｂｕｓｔｅｒｓ！～

ごちゃ混ぜ、やりすぎ、自重なし　悪魔の申し子ファイター
小野寺　誠
「俺は世界の破壊者……いや、通りすがりのキモオタだ、覚えておけ！！」

気苦労絶えない真面目（きまじめ）ＭＥＮ
空栗　真間
「友情の証、リトルバスターズは不滅だ」

妄想型純情少女
七野　雪
「大丈夫です、これは鼻血ではありません…心の汗です」

素直になれない生きたツンデレ
轟　冥衣
「ありがとう、、、これまで、そしてこれからも」

2015

トラブルタイフーン少女
火帝　楓
「私は……2人に思いを告げることは許されないから」

天の道を行き、総てを司る超少女
メガロック・ドラゴン
「ハッハッハ、相変わらず楽しそうだね5人とも」

RXと同じ太陽の子
激昂のムカムカ
「認めたくないね…若さ故の過ちというものは」

羊の皮をかぶったヤギ
モアイ迎撃砲
「飛べない翼に意味はあるのでしょうか?」

黄昏の魔弾
巨大ネズミ長女
「私は、冷たい女ですから」

R指定を飛び越えてきたメイド
巨大ネズミ次女
「痛みと書いて“かいらく”と読む、これ最早常識」

打倒!ベビー・トラゴン
巨大ネズミ三女
「キュキュキュ～～～」

「しかし、俺来月には引っ越すのに何をやってるんだ」

「野球だろう」

「何故野球なんだ？」

「考えてみろ…来月卒業する男が普通野球なんて始めるか？普通は始めない、だからいいんじゃないか」

「俺の幼馴染の思考回路は本当にどうなってるんだ」

「オッス誠に真間」

「おう、楓か…どうした」

「来週真間が引っ越すって時になんか大きな事やってるって聞いて、私も混ぜろ」

「野球だ、相手チームの手配もすんでいる」

「え？そうなの」

「あぁ、やっぱ野球といったら試合だろう」

「メンバー集めは」

「……しまった～～」

「何も考えたなかったんだなこいつ」

「しゃーない、混ぜろと言ったいじょうとことん付き合ってやるか、私もメンバーに入るよ」

「本当か、助かったぜ……さすがは幼馴染」

「小野寺　誠～～～～～、私と勝負だ～～」

「いいだろう、勝負の内容は野球だ、負けたら俺達の野球チームに入れ」

「望むところ、、私が勝ったら一生やきそばパンをパシらせてやる」

「ハァ、今日も小野寺さんと空栗さんが額に汗を流して……キタ

～～～～！！！次の同人誌の新刊のネタキタ～～～～」

「あの子、今日も来てるな」

「あぁ、相変わらず鼻血出しながらスケッチブックに向かって鬼の形相で何かを書いているようだが」

「いっそマネージャーにでもするか」

「いや～～～、最近退屈だね～～……なんか面白いことでもないかな～～」

「カキ～～～～ン」

「ヤベ、センターフライだ」

「ハハハハハ、小野寺　誠討ち取ったり～～～～」

「パス……コロコロ」

「そこでまさかの凡ミスでボールを落とすとは」

「う、うるさいわね」

「野球…か」

2019

「いや〜〜〜皆いい汗かいてるね、青春の汗ってヤツ」

「あ、ムカムカの姉さんだ」

「野球やってるんだ、でもなんかメンバー足りなそうだね」

「まぁ、練習しながら地道にメンバー集めしてます」

「そうなんだ、へ〜〜」

「ヨッシャ、それじゃあ守備練習行くぞ」

「あぁ〜〜〜、ここに特に部活動をやってなく運動神経がいい頼れる姉御肌がここにいるけどな〜〜」

「センター行くぞ、オラァ！！！」

「う〜〜〜ん、なんか無性にスポーツとかやりたいな、球技とか」

「ヨッシャ、レフトナイスキャッチだ」

「野球とかすごく得意なんだけどな〜〜〜〜」

「ヨッシャ、今日は日が暮れるまでひたすらバッティングしまくるぜ」

「スイマセン、仲間に入れてください」

「ようし、ムカムカ姉さん……よおこそリトルバスターズへ」

「でもムカムカさん、姉御キャラ気取ってますけど明らかにいじられキャラですよね」

「さて……皆相談に乗ってほしい」

「どうした誠」

「これはとても重要な話なんだ」

「珍しく真剣な表情だね誠、って相談ってなんだ？」

「俺、野球のルールあんまし知らないんだ」

「「……」」

「お～～い、皆聞いているか？」

「「お前が言いだしっぺだろうが～～～～～」」

「っというわけで頭脳担当を拉致って来た」

「あのう、ここはどこですか、どうして私こんな所に」

「不幸ね」

「……」

「私はどうして不幸なのかしら」

「……」

「……私は不幸を呼ぶ女」

「よし、あの人をリトルバスターズに入れよう」

「あの台詞かえらその結論に達するお前の思考回路は本当にどうなってるんだ」

「よくデッドボールの事を死球っていうじゃないですか、でも私にとっては死球でなく至高なんです」

「うまい事を言ったつもりか」

「っと言うわけで私もこの野球チームに、リトルバスターズに入らせてもらいます」

「リーダー権限で全力で否定したいけどメンバーが少ないし背に腹

は変えられないか」

「キュキュキュキュキュ～～～」

「筋肉♪筋肉♪」

「キュ～～、キュキュ～～～…キュキュキュ～～」

「筋肉♪筋肉♪♪筋肉♪♪♪」

「キュキュ～～～」

「筋肉ワッショイ」

「なんか、通じ合えてないかあの2人」

「ヨッシャ、行こうぜ皆」

「おう」

「うっし」

「行こうか」

「まっかせとけって」

「がんばりましょう」

「このチームに不幸がないことを祈るわ」

「ハイ、がんばります」

「キュキュ～～」

「皆さん、怪我しないでくださいね」

「リトルバスターズ、試合開始！！！！！」

「カキ～～～ン」

「やった、ボテボテのセカンドフライ」

「頼んだぜ誠」

2024

「このフライをとったら気持ちいいんだろうな～」

「ッパス！！！」

「ヨッシャ～～～、勝ったぜ、って誠」

「あぁ、俺は……満足だ」

「アレ？誠が……消えた」

「茶番だぁぁぁぁぁぁぁあああああああああああ、冬将軍！！！」

「ザッパ～～～～～」

「熱湯ばんざ～～～～～い」

バケツいっぱいの熱湯をかけられ目の前の雪だるまが形を崩しながら溶けていく

だが次の瞬間まるで逆再生をするかのように作者は元の姿に戻っていく

「って、沢山のＫＥＹファンの敵にまわすようなまねをしてお前は何がしたかったんだ」

「もちろんリトルバスターズの宣伝だ」

「ようし、順に突っ込んでいくぞ……全然宣伝になってないし」

「アベシ」

「そもそもなんかギャルゲのＯＰっぽい事書かれてるし」

「ゴフア」

「そもそももうすぐリライトが発売される中何故いまさらリトルバスターズなんだ」

「ゲフ」

「そしてしめはエンジェルビーツだし」

「ゴフア」

「最後に言いたいのは、やっぱり俺最終的には死んでるじゃないか～～～～～～～～～～」

「アブロブガハ～～～～～」

綺麗にスパイラルしながら冬将軍の体が宙に舞う

そしてグシャ～～～～っと頭から着地しその体が無残に飛び散る

だが次の瞬間には雪たちが終結し元通りの形になる

「お前はターミネーターか」

「って、リトルバスターズのリフレインやってボロ泣きしたのはわかるがなんであのタイミングで恒例の本編に関係ない嘘シナリオのせた、前回真間が過去話に入るぜ的なテンションで終わってるから下手したら途中までこれが本編なんだって信じる人いるかもしれないじゃないか」

「いや～～～、色々とあってな」

「なんだ、話してみろ」

「俺さ……今度引っ越すんだ（実話）」

「そうか」

「カキ～～～～～ン」

どこからともなくホームラン音が響き俺に向かって飛んでくる

俺は飛んできたボールをパシっと素手でキャッチする

「そうだ、野球をやろう」

「野球？」

「あぁ、チーム名は“リトルバスターズ”だ……なんて展開になるか～～～～」

白球が冬将軍の体を貫く

「なぁ、お前普段何か不満かかえているのか？ツッコミの領域を通り越して殺人技の領域に達しているんだけど」

「まぁ、さっきも言ったけど今引越し準備中でさ、遊戯王の資料とかもまとめちゃったんだよ」

「まぁ、直訳すればマンガだな」

「タッグフォースのソフトも片付けてしまって、ヴァリアブルブックもデッキに入ってないカード達も……あまり遊戯王のカードに触れられる状態じゃないんだ、その上今誠と真間の師匠とのデュエルシーンを書いているんだが真間と師匠のデュエルパートは今書いているのだが誠と師匠のデュエルパートが全然書けない、、言うならばスランプだ」

「なるほど」

「なんで、ちょうどこれを気に今書いている真間ＶＳ師匠の話をのせたらチョット遊戯王から離れようと思うんだ、なのはさんも言ってたしな“少し、頭冷やそうか”って」

「その台詞をチョイスしたのは疑問だが、そうか……でも、この小説結構更新止まってる時もあったからいちいち報告しなくてもとりわけ心配はされないと思うぞ」

「っというわけで、活動報告で“引越しするので更新がしばらく止まります”っと書けばいいもののわざわざ小説内でカミングあうとしていた俺ですが、お別れの時間です」

「アレ？冬将軍、こういう座談会の時最後は決まって三沢でしめてたのにその三沢の姿が見えないんだけど」

「……しまった～～！！三沢を普通によびわすれてしまった～～」

「もうアレだ、キーワードの“三沢君は空気じゃない”を削除したらどうだ」

お知らせ～挫折して小説を打ち切るわけではありません～（後書き）

本編でも語ったんですがマジでスランプですｏｒｚ小説を書いて１年とチョット、こんなにネタにつまったのは初めてです。

２年生編で出てくるキャラの設定とかストーリーとか色々と考えているんですが……

とりあえず今書いている真間ＶＳ師匠のデュエルを完成させたらしばらく引越しに専念しようと思います。

引越しが落ち着いたら必ず戻ってきます、リフレインのラストの恭介のごとく窓から戻ってきます。

最後にもう１度だけ叫ばせてください

リトルバスターズは不滅だ！！！！！

2030

第４０話どんな黒歴史も大人になればいい思い出だと笑い会える日が来る（前書

今回から誠の過去編スタートです。

あくまで真間が語っているので真間視線で書きます。番外編を抜かして主人公視線でないエピソードが3回続き次回も真間視線。アレ？この小説の主人公って誰だっけ（爆）

それでは主人公達の過去編をどうぞ。

※６月１６日訂正しました。

第４０話どんな黒歴史も大人になればいい思い出だと笑い会える日が来る

視線変更～真間～

「あ、、、あが、、、ック」

ある日の午後、とある中学の部屋

俺の目の前の男がうねり声を上げる

服のところどころが切れたり穴が開いてたりでボロボロ、ホームレスも眼を背けるようなひどい有様だ

すでに死に掛けている男だが俺はその男の頭を力の限り踏み潰す

コンクリートに何か硬いものが打ちつけられる音と共に男の動きが完全に止まる

「よう、、、そっちは終わったようだな」

部屋の中に俺の親友、小野寺　誠が入ってくる

その格好は多少ボロボロであったが表情は勝利者の表情そのものであった

「そっちは、けりがついたのか」

「あぁ」

窓から外をのぞいてみると数十人の人間でできたボロ雑巾のピラミッドができていた

「これが、、、C町最強の不良学校なのか、昨日行った学校のヤンキーの方がまだ戦い甲斐があったぜ」

「ッフ、、、俺達が強くなっただけだろう、ほれ」

誠からポカリスエットのペットボトルが投げ飛ばされる

俺はそれを受け取り中身を一気に胃袋に流し込む

「さて、、次の学校のヤンキー達の所に行くか」

中学時代

俺と誠はひどく荒れた青春を送っていた

幼馴染の誠と一緒に町内だけでなく隣町の学校と言う学校のヤンキーを次々病院送りにしていた

とても楽しかった

昨日一人で5人までしか相手にできなかったのに翌日は１０人相手にして楽勝だった

２人がかりで倒したやつを翌日１人で倒せた

まるでＲＰＧの主人公のレベルが上がっていくのを楽しむかのごとく俺達は毎日ケンカに明け暮れていた

殴って、殴って、殴られて、殴り返して

拳がダメになったら蹴りで応戦し

足がいかれたら頭突きで戦って

全身がいかれたらても体を無理にでも動かし一人でも多く叩き潰した

文字通り、休まる間もなく戦いまくった

誠と一緒だったらどんなヤツが相手でも戦っていけた

だが、あの日は違った

俺達２人が潰してきたヤンキー共総勢約８０人が俺達２人に復讐しに来た

さすがの俺と誠もあの時ばかりは死を覚悟した

まぁ、８０人全員病院送りにはしてやったんだがな

だけど、さすがの俺の誠も８０人相手にして無事ではすまず病院に

通院する事となった

全治2週間、しかも自宅休養でなく入院であった

はっきり言って退屈だった

早く退院して大暴れしたいと俺と誠はいつもグチっていた

入院してから1週間

やっと先生から病院の敷地内なら外出のＯＫをもらった

そして、この外出が俺達の運命を大きく変えてくれた

「まったく、、やっと退屈な病室のベットから抜け出せたぜ」

「まったくだ、、、すっかり体がなまってしまったぜ」

「俺もだ、、、ようし、久しぶりに腕相撲でもするか」

「いいだろう、、互いのパワーがどれだけ変化したか確認できるしな」

俺達は近くにあったテーブルに向かう
そして互いの肘をテーブルにつけようとするとテーブルの上に産卵
しているものがあることに気が付く

「アレ、、なんだこれ」

テーブルの上にはカードが散乱していた

「なんだ、、、メンコか」

カードを1枚手に取り裏表をジロジロ眺める誠

「いや、、それは確かデュエルモンスターズってカードゲームだっ
たはず」

「たしか、、、真間の弟がやっているカードゲームもそんな名前だ
ったな」

「あ、、ゴメンゴメン」

突如俺達の前に一人の女性がやってきた

「これは、、、あなたのですか」

「すぐに片付けるから、、、、ゴメン」

テーブルの上に散乱していたカードをかき集め女性が去っていく

「さて、、、それじゃあ腕相撲と行こうか」

「クッソ～～～、まさか１０戦全敗するとは」

「ハッハッハ、、入院中でも何気に筋トレしてたんだぜ」

さすがは我が親友、あざといと言うか抜け目がないというか

「アレ？これって」

誠が地面から何かを拾う

見てみるとデュエルモンスターズのカードだった

「きっと、、、さっきの人の落し物だな」

「、、、、、しょうがない、届けに行くか」

「ここか」

ナースステーションで“デュエルモンスターズのカードを持ち込んでいる女性の入院患者の部屋はどこですか？”っというかなりアバウトな情報提供でよくあのナースも説明したものだ

さて、、さっさとお届け物を届けるだけ届けて帰ろう

「コンコン」

「、、、、、、、、、、、、」

「、、、、、、、返事がないな」

「留守かもしれないな」

「あぁ～～～～～～～～もう、どうしよう」

「、、、、、、いるみたいだな」

「そうだな」

俺達はもう1度ノックをしてから部屋の中に入る

「このカードを入れるとバランス悪くなっちゃうし、、、、、、でもこのカードがないとこのカードが」

ベッドの上にカードをならべ悶絶する女性が俺達の目の前にいた

「、、、、あ!?君たちさっきの、どうしたの？」

「忘れ物を届けにきただけだ」

そう言って誠は拾ったカードを女性に手渡す

これでミッション完了、ここで帰って俺達の日常に戻る

そうなるはずだった

「そうだ、、、ねぇねぇ、君達、チョットいいかな」

「なんです」

「どうしてもデッキ構築に詰まっちゃって、、君達の意見がほしいなって思って」

ここで拒絶の言葉を吐いてここから去ればよかったのだが

「素人の意見でいいんですか?」

「一人で悩むと息が詰まりそうだし、、、、やっぱこういうのはいろんな人の意見が欲しいかなって」

その出会いが、俺達の未来を大きく捻じ曲げて、、いや、俺達の未来が軌道修正された

数分後

「いや～～～、、さすがは3本の矢という言葉があるだけあって有意義な時間をすごせたよ」

デッキを整えてケースの中にしまう女性

「それにしても、、デュエルモンスターズか、、面白いな」

「そういえば、、君達の名前聞いてなかったね」

「俺の名前は空栗　真間だ」

「小野寺　誠、、、そういう姉さんは？」

「宇佐美（うさみ）　美友（みとも）」

それが、、トモ姉ぇとの出会いであり、デュエルモンスターズとの出会いでもあった

それから俺達は入院中はずっとトモ姉ぇの元に遊びに行った

ケンカしか知らない俺達の記憶

灰色の世界

その世界に輝かしい光が差し込んできたきがした
誰かをぶん殴らなくても
他人を蹴落とさなくても
俺達は成長し続けられる
進化を実感できるんだ
気が付けば俺達もカードをいじっていた
このカードは面白い
そのコンボはセンスがない
そんな会話がとても楽しいと思った

退院後、俺達の日常は大きく変化していた
誠と一緒に弟の真次郎からデュエルモンスターズの大まかなルールを教わり自分なりのデッキを作り病院に足を運んだ
ケンカでなく俺達は毎日デュエルモンスターズに明け暮れた

地元の不良連中は特にからんでくる事はなかった

まぁ、８０人で挑んできて惨敗したのだ、リベンジする気も失せるであろう

いつでもやめられたのだ

いつでも逃げ出せる事ができたんだ、、あの灰色の世界から

まるで長い悪夢を見ていてそれから目が覚めたかのごとく俺達は生まれ変わった

「行くぜトモ姉ぇ、、真次郎と1時間相談して作り上げたデッキを受けてみろ」

「デッキとはもっと真剣に向かい合ってて作るもの、生兵法なデッキで勝とうなんて１０年早い」

「うわ～～～～～」

真間

ＬＰ４０００→０

「安心しろ真間、、お前の敵は俺が取ってやる、行くぜ、、、、昨日ブックオフでグラップラー刃牙を立ち読みして思いついた俺のス

ーパーコンボで今日こそトモ姉ぇから勝利を奪い取る」

「ひょんなことからすごいコンボを考え付くのはすごい事だけどデッキ構築が全然なってない、、出直し」

「ヒデブ」

誠
ＬＰ４０００→０

来る日も来る日もトモ姉ぇに所に行ってデュエルした

「行くぜトモ姉ぇ、、、最近世知辛い世の中を革命する為に開発された俺の新デッキ」

「いや、、、どんなデッキなのさ、意味不明だから真間君」

「ヌオ〜〜〜〜」

真間
ＬＰ４０００→０

「今度の俺のデッキは一味違うぞトモ姉ぇ、、、こないだ母ちゃんに“私が買うと携帯料金が高いけどあんたの名義で購入したら学割で安上がりだからあんたの名前もらうね”っと言われて思いついたデッキで今度こそ俺が勝ってやるぜ」

「もうそのネタラジオに投稿しなよ」

「アベシ」

誠
ＬＰ４０００→０
来る日も

「行くぜトモ姉ぇ、、この愛しさと切なさと心強さがこもった俺の新デッキィィィィイイイ」

「今更だけど病院内では静かにしましょう」

「ガクリ」

真間
ＬＰ４０００→０

「行くぜトモ姉ぇ、、、アナログ放送が後もう少しで終わる中、我が家はいまだブラウン管テレビだが微塵も焦らない俺の鋼の精神が生み出した俺の最強デッキ」

「地デジの準備はお早めに」

「せめて地デジチューナーだけでも買いましょ～～～～～」

誠
ＬＰ４０００→０
来る日も

「寝ずに考えた俺の新デッキ、、、、今度こそ勝てる」

「寝ずにデッキに取り込む熱意はよし、、、だけどデュエルの時はコンディションを整えてからきなさい」

「おやすみなさい、、、、ＺＺＺＺ」

真間
ＬＰ４０００→０

「行くぜトモ姉ぇ、、、、君を見てるといつもハートドキドキ」

「ゆれる思いはマシュマロみたいにフ～ワフワ」

「フワフワタ～～～～イム」

誠
ＬＰ４０００→０

来る日も

「あえて勝つことだけでなく、、、負けることを考えたデッキを作ってみた、逆転の発想で今日こそ勝利を」

「その発想はどう考えてもダメだと思うよ」

「途中で気づけばよかったよ～～～」

真間
ＬＰ４０００→０

「行くぞトモ姉ぇ、、、、今でこそＭＰ３プレイヤーを愛用しているがこれでも以前はエヴァンゲリオンのシンジが持っていた、電子表示のあるカセットプレイヤーに憧れていた俺のデッキ、、、受けてみろ」

「今は？－ｐｏｄの時代だよ」

「電子機器革命～～～～～～」

誠
ＬＰ４０００→０

来る日も来る日もトモ姉ぇにデュエルを挑んだが１度も勝てなかった

だけど、、、すごく楽しかった

全力で何かをしている自分を実感できた

本当に、トモ姉ぇには感謝している

何度目の挑戦だったか

結局誠ともどもトモ姉ぇにケチョンケチョンに倒された後だったんだけど

「そうだ、、２人に話があるんだ」

「なんだトモ姉ぇ」

「私ね、、、別の病院に移っちゃうんだ」

「え！？」

「来週、、、、この街から出て行くんだ、、、本州の大きな病院に引っ越すんだ」

「そうか、、、、寂しいな」

「それでね、、、、君たちにお願いがあるんだ」

「なんだ、、俺達でできる事ならなんなりと」

「卒業デュエルを、、、したいんだ」

「「卒業デュエル？」」

「そう、、、デュエルアカデミアって知ってる？」

「知ってる、、、未来のプロデュエリストを育成する本州から離れた孤島にあるデュエリストの為の学校だったな」

「私ね、、、、そこを中退しちゃったんだ、こんな体だから」

寂しそうな目をしてデッキケースを指でくるくる回しだすトモ姉ぇ

「それでね、、、デュエルアカデミアには卒業デュエルってイベントがあってね、私中退しちゃったからできなくて、、、来週、屋上で私と卒業デュエルして欲しいの」

「そうか、、、いいぜ」

「来週までに俺達が持ちうる最強の戦略を詰め込んだ最強のデッキで挑んでやるぜ」

そしてその約束の日

俺と誠は屋上にいた

「真間、、、、今日こそ勝とうな」

「あぁ、、トモ姉ぇには悪いが卒業デュエルは全敗してもらおうじゃないか」

「ッフ、、いまだ1勝もできない君達がお姉さんから黒星を奪い取ろうなんて、ずいぶんと大きく出たね」

「、、、、来たようだな」

屋上の入り口にはトモ姉ぇが仁王立ちしていた

「それじゃあ、、2人とも、デュエルの準備はいい」

「いつでもいいぜ」

「それじゃあこれを渡しておくね」

トモ姉ぇがリュックの中から何かを放り投げる

俺はそれをキャッチした

「これって、、、デュエルディスク」

「っそ、、、、レンタルでかりたんだ、、卒業デュエルなんだから派手に行かないと」

「そうか、、、それじゃあ俺から行かせてもらうぜ」

「がんばれよ真間」

「あぁ、、行くぜトモ姉ぇ」

「行くよ真間、、、熱いデュエルにしよう」

「「デュエル！！！」」

続く

第４０話どんな黒歴史も大人になればいい思い出だと笑い会える日が来る（後書き）

作者が主人公によくつける設定

１．オタク。２．バカ。３．ケンカの腕がめっぽう強い。４．重い過去がある。ｅｔｃ

ふと思えば病院でデュエルのきっかけをくれた人と出会うって完全にマンガ版ＧＸとかぶってしまうと気づいてしまった。

デュエルパートがなかったので連続投稿します。

第４１話ゼロノスくらいのデュアル使用、か～な～り強い（前書き）

デュエルパートがなかったので連続投稿です。

過去編デュエルパートその１、真間ＶＳトモ姉ぇ

やっぱ使用経験のあるデッキは書きやすいと改めて実感してしまいます、それでは本編をどうぞ。

※６月１６日訂正しました。

第４１話ゼロノスくらいのデュアル使用、か～な～り強い

視線変更～真間～

「「デュエル！！！」」

真間
ＬＰ４０００

トモ姉ぇ
ＬＰ４０００

「私のターン、、モンスターを１体裏守備でセット、、、さらにリバースを１枚追加してターンエンド」

真間
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

トモ姉ぇ
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　裏守備×１

魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、、“ブロンズアーム・スマッシャー”を召喚」

初めてデュエルディスクにカードをセットした感触は今でも覚えている

感動だった

手元にある機械にカードを差し込むと俺のデッキのモンスターが立体映像になって出てきたのはマジで興奮した

ブロンズアーム・スマッシャー　（オリジナル）
レベル４地属性
機械族
攻撃力１７００守備力４００
効果なし

「なるほど、、真間君は機械デッキか」

「バトル、、ブロンズアーム・スマッシャーで裏守備モンスターに攻撃」

俺のブロンズアーム・スマッシャーが相手フィールドに向かって飛

んでいく

「私のモンスターは“フェデライザー”だよ」

フェデライザー
レベル２風属性
魔法使い族
攻撃力７００守備力１１００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキからデュアルモンスター１体を墓地へ送り、自分のデッキからカードを１枚ドローする事ができる。

巨大なハンマーを持った俺のモンスターがトモ姉ぇのモンスターをそのハンマーで叩き潰す

ブロンズアーム・スマッシャー　攻撃力１７００＞フェデライザー
守備力１１００

「フェデライザーのモンスター効果発動、、戦闘破壊された時、デッキからデュアルモンスターを1枚墓地に送りデッキからカードを1枚ドローできる、、私はデッキからフェニックス・ギア・フリードを墓地に送りデッキから1枚ドローする」

「デュアルモンスター？どんなモンスターなんだ、俺はリバースを1枚追加してターンエンド」

真間
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ブロンズアーム・スマッシャー
魔法トラップ　リバース×１

トモ姉ぇ
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、リバースを1枚追加して“炎妖蝶ウィルプス”を守備表示で召喚」

どこからともなく現れる炎をまとった蝶

まるでトモ姉ぇを守るかのようにトモ姉ぇの付近をフワフワと浮かぶ

炎妖蝶ウィルプス
レベル４炎属性
昆虫族
攻撃力１５００守備力１５００
効果：デュアルこのカードは墓地またはフィールド上に表側表示で存在する場合、通常モンスターとして扱う。フィールド上に表側表示で存在するこのカードを通常召喚扱いとして再度召喚する事で、このカードは効果モンスター扱いとなり以下の効果を得る。●このカードをリリースする事で、自分の墓地に存在する「炎妖蝶ウィルプス」以外のデュアルモンスター１体を特殊召喚する。この効果によって特殊召喚されたデュアルモンスターは再度召喚された状態になる。

「私はリバースを１枚追加してターンエンド」

真間
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ブロンズアーム・スマッシャー
魔法トラップ　リバース×１

トモ姉ぇ
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　炎妖蝶ウィルプス
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、、ブロンズアーム・スマッシャーを生け贄に“人造人間サイコ・ショッカー”を召喚する」

ブロンズアーム・スマッシャーに向かって機械のパーツが大量に飛来してきてそれらがくっつきブロンズアーム・スマッシャーがサイコ・ショッカーにバージョンアップする

人造人間サイコ・ショッカー
闇属性レベル６
機械族
攻撃力２４００守備力１５００
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、お互いに罠カードを発動する事はできず、フィールド上の罠カードの効果は無効化される。

「どんなリバースだろうとサイコ・ショッカーの効果の前では無力、

、バトル、サイコ・ショッカーでウィルプスに攻撃だ」

サイコ・ショッカーの体に雷が落ちていく

ヌヌヌヌヌヌとパワーをチャージし始めるサイコ・ショッカー

「リバース発動“デュアルスパーク”」

デュアルスパーク
速攻魔法
自分フィールド上に表側表示で存在する
レベル４のデュアルモンスター１体をリリースし、フィールド上に
存在するカード１枚を選択して発動する。選択したカードを破壊し、
自分のデッキからカードを１枚ドローする。

「何だと！！！」

「確かにサイコ・ショッカーのトラップセンサーは強力だよ、、相手ターンで発動するカードは大半がトラップカードといっても過言ではない…反撃される事なく攻撃できるのは大きいけど私には通じないよ、いけウィルプス」

ウィルプスの炎が激しくなり始める

そしてサイコ・ショッカーに体当たりをしかけ互いに消滅しあう

「決まらなかったか、、俺はこれでターンエンドだ」

真間
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

トモ姉ぇ
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、“黙する死者”発動」

黙する死者
自分の墓地に存在する通常モンスター１体を選択して発動する。選択したモンスターを表側守備表示で特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターはフィールド上に表側表示で存在する限り攻撃する事ができない。

「その効果で墓地に眠るウィルプスを守備表示で蘇生」

「黙する死者、、、生け贄召喚か？」

「フフ、浅はかだぞ真間君、、、私はウィルプスを再度召喚し効果を付与する」

「再度、、、、召喚？」

「再度召喚、、それはフィールド上の通常モンスター状態のデュアルモンスターに効果を付与する特殊な召喚方法、、そしてウィルプスの効果発動、、自身を生け贄にし墓地からデュアルモンスターをデュアル状態で復活させる、、私は“フェニックス・ギア・フリード”を特殊召喚」

ウィルプスの炎がさっきよみももっと大きく激しく燃えはじめ不死鳥の形となる

そして炎がはれるとそこには白い甲冑に真紅のラインが入った鎧を身にまとった戦士が立っていた

フェニックス・ギア・フリード
レベル８炎属性
戦士族

攻撃力２８００守備力２２００
効果：デュアル
このカードは墓地またはフィールド上に表側表示で存在する場合、通常モンスターとして扱う。フィールド上に表側表示で存在するこのカードを通常召喚扱いとして再度召喚する事で、このカードは効果モンスター扱いとなり以下の効果を得る。●相手が魔法カードを発動した場合、自分の墓地に存在するデュアルモンスター１体を選択して特殊召喚する事ができる。また、自分フィールド上に表側表示で存在する装備カード１枚を墓地へ送る事で、フィールド上に存在するモンスターを対象にする魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。

「そんな、、最上級モンスターを特殊召喚するなんて」

「バトル、、、フェニックス・ギア・フリードで相手プレイヤーに直接攻撃“鳳凰剣一閃”！！！」

フェニックス・ギア・フリードが手に持っていた剣を振り上げる

「させるか～、トラップ発動“リアクティブ・アーマー”」

リアクティブ・アーマー
通常トラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。その攻撃モンスター１体を破壊する。

「攻撃モンスターを破壊する」

その剣が振り下ろされる前にフェニックス・ギア・フリードの体が爆発につつまれ消滅する

「やるね～、、私はこれでターンエンドだよ」

真間
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

トモ姉ぇ
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、速攻魔法“手札断殺”を発動」

手札断殺
速攻魔法
お互いのプレイヤーは手札を2枚墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドローする。

「互いのプレイヤーは手札を2枚墓地に送り新たにデッキからカードを2枚ドローする」

「手札交換カードか、、手札の調子がよくないのかな」

「互いにベストを尽くせる演出だ、、俺は手札の“カードガンナー”を召喚」

俺のフィールドの地面に光の穴が開きそこからカラフルなキャタピラマシンが出現する

カードガンナー
レベル3地属性
機械族
攻撃力４００守備力４００
効果
1ターンに1度、自分のデッキの上からカードを3枚まで墓地へ送って発動する。このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで、墓地へ送ったカードの枚数×５００ポイントアップする。また、自分フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時、自

分のデッキからカードを1枚ドローする。

「カードガンナーの効果発動、、、、デッキからカードを3枚墓地に送り攻撃力を上昇させる」

カードガンナー
攻撃力４００↓１９００

「バトル、、カードガンナーで直接攻撃」

玩具のようなキャノン砲の腕からレーザが放たれトモ姉ぇの体を貫く

カードガンナー　攻撃力１９００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

トモ姉ぇ
ＬＰ４０００－１９００＝２１００

「ヨッシャ、、先手は真間がもらったぜ」

「メイン2に俺は手札を1枚伏せてターンエンドだ」

真間
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　カードガンナー
魔法トラップ　リバース×１

トモ姉ぇ
ＬＰ２１００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、、魔法発動“思い出のブランコ”」

思い出のブランコ
通常魔法
自分の墓地に存在する通常モンスター１体を選択して発動する。選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターはこのターンのエンドフェイズ時に破壊される。

「私は墓地に眠るウィルプスを蘇生、、、そして再びデュアルして効果発動、、、自身を生け贄にささげ墓地に眠るフェニックス・ギ

ア・フリードをデュアル状態で復活」

「さすがは不死鳥、、、何度でも蘇るってか」

「すかさずバトル、、、フェニックス・ギア・フリードでカードガンナーに攻撃、、“鳳凰剣一閃”！！！！」

巨大な剣がスイングされると炎の津波が発生する

そしてその炎が俺のカードガンナーに向かって飛んでくる

「トラップ発動“ガード・ブロック”」

ガード・ブロック
通常トラップ
相手ターンの戦闘ダメージ計算時に発動する事ができる。その戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になり、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「このカードの効果により戦闘ダメージは0になる」

炎の津波が押し寄せてくるが俺の周りにバリアが発生し炎を裂いていく

まぁ、カードガンナーは破壊されてしまったが問題はない

フェニックス・ギア・フリード　攻撃力２８００＞カードガンナー
攻撃力４００

「ガード・ブロックの効果で１枚ドロー、、そしてカードガンナーが戦闘破壊された事によりデッキからさらにカードを１枚ドローする」

「やるね、、、攻撃を防ぐだけでなくハンドアドバンテージもそこまで巻き返すとは、、、私はリバースを１枚追加してターンエンド」

真間
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

トモ姉ぇ
ＬＰ２１００
手札４枚
モンスター　フェニックス・ギア・フリード
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、魔法発動“メイド・イン・チャイナ”発動」

メイド・イン・チャイナ
通常魔法
相手フィールド上のモンスター1体を生け贄に発動、手札のレベル5か6の機械族モンスター1体を自分フィールド上に攻撃表示で特殊召喚する、このカードを発動したターン、自分は召喚、特殊召喚、モンスターのセットは行えず、バトルフェイズを行う事がでない、またこのカードの効果で特殊召喚したモンスターの効果は無効となる。

「そして俺はフェニックス・ギア・フリードを生け贄にささげる」

相手の場のフェニックス・ギア・フリードから人魂のようなものが飛び出し俺の手札に衝突する

「そして手札の“バーストコマンダー”を攻撃表示で召喚」

フェニックス・ギア・フリードの魂が乗り移った（？）カードをデュエルディスクに叩きつける

すると俺のフィールドにごっついミサイルランチャーを担いだ不気味に黒光りするモンスターが出現する

バーストコマンダー　（オリジナル）
レベル６地属性
機械族
攻撃力２２００守備力１７００
効果
このカードが相手モンスターを破壊した時デッキからカードを１枚ドローする。このカードが戦闘によって破壊された時デッキからカードを１枚ドローする。

「バトル、、、っと行きたいけどメイド・イン・チャイナを使ったターンはバトルフェイズを行えない、、俺はこれでターンエンドだ」

真間
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　バーストコマンダー
魔法トラップ　なし

トモ姉ぇ
ＬＰ２１００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン、、再び黙する死者を発動、、もちろんウィルプスを

蘇生するよ」

「またあの不死鳥騎士を蘇生するのか」

「それだけじゃないさ、、、私はウィルプスをサイド召喚しデュアル化、そして効果発動、、自身を生け贄に“ヘルカイザー・ドラゴン”を特殊召喚」

ヘルカイザー・ドラゴン
レベル６炎属性
ドラゴン族
攻撃力２４００守備力１５００
効果：デュアル
このカードは墓地またはフィールド上に表側表示で存在する場合、通常モンスターとして扱う。フィールド上に表側表示で存在するこのカードを通常召喚扱いとして再度召喚する事で、このカードは効果モンスター扱いとなり以下の効果を得る。●このカードは１度のバトルフェイズ中に２回攻撃する事ができる。

「バトル、、、ヘルカイザー・ドラゴンでバーストコマンダーに攻撃、、“デッドフレア”！！！」

ヘルカイザー・ドラゴンの口から炎が放たれ俺のモンスターをドロドロに溶かし破壊する

ヘルカイザー・ドラゴン　攻撃力２４００＞バーストコマンダー
攻撃力２２００

真間
ＬＰ４０００－２００＝３８００

「だがバーストコマンダーが戦闘破壊された時デッキからカードを１枚ドローする、効果は無効化されてるが墓地で発動する効果には影響はない」

「だったらこっちも、ヘルカイザー・ドラゴンの効果、、、このカードは１度のバトルフェイズに２回攻撃ができる」

「なんだと」

「ヘルカイザー・ドラゴンの攻撃、、“デッドフレア第２打”！！！」

再びヘルカイザー・ドラゴンの口から炎が放たれ今度は俺に直撃する

「ぬお～～～～～」

真間
ＬＰ３８００－２４００＝１４００

「ッグ、まずい、、、優勢だったのに状況が一気にひっくり返った」

「たった一手で状況をひっくり返す事もできる、、、だからデュエルは面白いんだよ、、私はこれでターンエンド」

真間
ＬＰ１４００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

トモ姉ぇ
ＬＰ２１００
手札４枚
モンスター　ヘルカイザー・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、、魔法発動“ミサイル再生術”」

ミサイル再生術　（オリジナル）
通常魔法
自分の墓地の機械族モンスターを任意の枚数除外する事で自分の場に“ミサイルトークン”（地属性レベル１機械族攻撃力５００守備力０、このカードは機械族モンスターの効果の生け贄にしかできない）を除外した機械族モンスターの数だけ特殊召喚する。

「俺は墓地に眠るブロンズアーム・スマッシャーとマシンナーズ・ピースキーパーをゲームから除外しフィールドに“ミサイルトークン”２体を守備表示で特殊召喚」

デュエルディスクの墓地からミサイルが2発発射され俺のフィールドに降り立つ

「そして手札のミサイルスナイパーを攻撃表示で召喚」

ドドドドドとエンジン音が響き屋上のフェンスを巨大なバイクが飛び上がっていく

そしてそのバイクが俺の目の前にドリフトしながら止まりバイクからミサイルスナイパーが降り立つ

ミサイルスナイパー　（オリジナル）
闇属性レベル４
機械族
攻撃力１５００守備力１０００
効果
自分フィールド上のミサイルトークン1体を生け贄にささげることで相手フィールド上のモンスター1体の攻撃力をターン終了時まで５００ポイントダウンさせる。

「ミサイルスナイパーの効果発動、、ミサイルトークンを2体生け贄にささげヘルカイザー・ドラゴンの攻撃力を１０００ポイントダウンさせる」

ミサイルトークンが光となってミサイルスナイパーのミサイルランチャーの中に消えていく

そしてミサイルスナイパーが標準をヘルカイザー・ドラゴンに定めミサイルを発射する

「ファイア」

バシュバシュっとミサイルが放たれヘルカイザー・ドラゴンの翼を貫きボロボロにする

ヘルカイザー・ドラゴン
攻撃力２４００→１４００

「そしてバトルだ、、、ミサイルスナイパーでヘルカイザー・ドラゴンに攻撃」

ミサイルスナイパーが肩にかついでいるロケットランチャーの収納からナイフを取り出しそれでヘルカイザー・ドラゴンの体を切り裂き破壊する

ミサイルスナイパー　攻撃力１５００＞ヘルカイザー・ドラゴン
攻撃力１４００

トモ姉ぇ
ＬＰ２１００－１００＝２０００

「そしてメイン２にリバースを１枚追加してターンエンドだ」

真間
ＬＰ１４００
手札２枚
モンスター　ミサイルスナイパー
魔法トラップ　リバース×１

トモ姉ぇ
ＬＰ２０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン、、、リバース発動“蘇りし魂”」

蘇りし魂

永続トラップ
自分の墓地から通常モンスター1体を守備表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「蘇りし魂の効果で墓地からウィルプスを守備表示で特殊召喚、、、そして再召喚し効果を使用、、このカードを生け贄にささげ墓地からヘルカイザー・ドラゴンを特殊召喚」

「なんてデッキだ、、、いくら上級モンスターを倒してもフィールドから除去しきれない」

いい加減俺の手札も息切れしだしている

「ヘルカイザー・ドラゴンでミサイルスナイパーに攻撃」

ヘルカイザー・ドラゴンがミサイルスナイパーに向かって飛んでいくる

「トラップ発動、、、“カオス・バースト”」

カオス・バースト
通常トラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。自分フィール

ド上のモンスター1体を生け贄に捧げる事で、その攻撃モンスター1体を破壊する。その後、相手ライフに１０００ポイントダメージを与える。

「俺はミサイル・スナイパーを生け贄にヘルカイザー・ドラゴンを破壊し相手のＬＰに１０００ポイントのダメージを与える」

ミサイルスナイパーの体が光りはじる

そしてヘルカイザー・ドラゴンに飛び乗りそのまま爆発し互いのみを消滅させる

「カオス・バーストの効果、、、効果発動時相手のＬＰに１０００ポイントのダメージを与える」

空中で爆発した箇所からミサイルスナイパーの残骸がトモ姉ぇに降り注ぐ

「おっとっと」

トモ姉ぇ
ＬＰ２０００－１０００＝１０００

「やるね、、、私はリバースを1枚追加してターンエンド」

真間
ＬＰ１４００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

トモ姉ぇ
ＬＰ１０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　蘇りし魂、リバース×２

「俺のターン」

攻撃力１０００以上のモンスターが手札にいない

「このカードにかける、、俺はモンスターを裏守備でセット、、、
リバースを２枚セットしてターンエンドだ」

真間
ＬＰ１４００

手札０枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

トモ姉ぇ
ＬＰ１０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　蘇りし魂、リバース×２

「私のターン、、未来サムライを召喚」

トモ姉ぇのフィールドに体に機械を埋め込み着物に身を包んだサムライが姿を現す

未来サムライ
レベル４光属性
戦士族
攻撃力１６００守備力１２００
効果：デュアル
このカードは墓地またはフィールド上に表側表示で存在する場合、通常モンスターとして扱う。フィールド上に表側表示で存在するこのカードを通常召喚扱いとして再度召喚する事で、このカードは効果モンスター扱いとなり以下の効果を得る。●自分の墓地に存在するモンスター１体をゲームから除外する事で、フィールド上に表側

表示で存在するモンスター1体を破壊する。この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「そしてリバース発動“正統なる血統”」

正統なる血統
永続トラップ
自分の墓地に存在する通常モンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターがフィールド上に存在しなくなった時、このカードを破壊する。

「墓地より再び舞い戻れ、、フェニックス・ギア・フリード」

トモ姉ぇのデュエルディスクのセメタリーから炎が噴出しその炎の中からフェニックス・ギア・フリードが出現する

「ここで終わらせるよ、、、フェニックス・ギア・フリードで裏守備モンスターに攻撃、、、“鳳凰剣一閃”!!!」

「俺のモンスターは“メタモルポット”だ」

メタモルポット
地属性レベル２
岩石族
攻撃力７００守備力６００
効果
リバース：お互いの手札を全て捨てる。その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを５枚ドローする。

「メタモルポットの効果で互いのプレイヤーは手札を全て捨ててデッキからカードを５枚ドローする」

「だけど、、私のモンスターの攻撃が残ってるよ、、未来サムライで相手プレイヤーに直接攻撃」

「リバース発動“ガード・ブロック”、、その効果で戦闘ダメージを０にしデッキからカードを１枚ドローする」

「やるね、、、、この絶望的な状況からここまで巻き返すなんて、私はリバースを１枚追加してターンエンドだよ」

真間
ＬＰ１４００
手札６枚

モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

トモ姉ぇ
ＬＰ１０００
手札４枚
モンスター　未来サムライ、フェニックス・ギア・フリード
魔法トラップ　蘇りし魂、正統なる血統、リバース×２

「俺のターン、、、“強化支援メカ・ヘビーウェポン”を召喚」

病院の屋上なのに地面が真っ二つに割れそこからホバリングをしながらヘビーウェポンが俺のフィールドに現れる

強化支援メカ・ヘビーウェポン
レベル３闇属性
機械族
攻撃力５００守備力５００
効果：ユニオン
１ターンに１度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上の機械族モンスターに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。この効果で装備カード扱いになっている場合のみ、装備モンスターの攻撃力・守備力は５００ポイントアップする。１体のモンスターが装備できるユニオン

は1枚まで。装備モンスターが破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。

「ユニオンモンスターか、、、でも肝心の装備モンスターがいないけど」

「こいつを出したのはユニオン目的じゃないさ、、手札から魔法発動“プロトタイプ・チェンジ”」

プロトタイプ・チェンジ　（マンガ版GXオリジナル）
通常魔法
自分フィールド上の機械族モンスターを生け贄に発動、墓地に眠る機械族モンスター1体を特殊召喚する。

「俺はヘビーウェポンを墓地に送り墓地に眠る“ゴールドフット”を攻撃表示で召喚」

ヘビーウェポンが光につつまれその光の中からさらにまばゆい光を放つ機械の巨人が姿を現す

ゴールドフット　（オリジナル）

光属性レベル7
機械族
攻撃力2200守備力2400
効果
自分フィールド上の魔法カードとトラップカードを1枚ずつ墓地に送ることで相手フィールド上の魔法トラップを全て破壊する。

「そして俺は手札を2枚伏せてゴールドフットの効果を発動、今伏せた魔法カードとトラップカードを墓地に送り相手フィールド上の魔法トラップカードを全て破壊する、、、、“ゴールドスプラッシュ”!!!」

俺の場のリバースカードが光となってゴールドフットの足に吸収される

そして足から閃光が放たれトモ姉ぇのフィールドに突き刺さっていく

「その効果にチェーンしてトラップ発動“和睦の使者”」

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは0になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

ゴールドフットの閃光がトモ姉ぇのフィールドの魔法トラップを全て破壊するが和睦の使者が使用されたことによりトモ姉ぇの周りにバリアのようなものが発生する

「ダメージは与えられないか、、、だが正統なる血統の効果で復活したフェニックス・ギア・フリードは消滅するぜ」

「このターンで状況をひっくり返すとは、、やっぱ君はすごいよ真間君」

「へへ、、、お師匠様に言われるとくすぐったいぜ、俺はメイン2にリバースを1枚追加してターンエンドだ」

真間
ＬＰ１４００
手札４枚
モンスター　ゴールドフット
魔法トラップ　リバース×２

トモ姉ぇ
ＬＰ１０００
手札４枚
モンスター　未来サムライ
魔法トラップ　なし

「私のターン、、、メタモルポットを使った事を後悔させてやるかな、、手札を1枚伏せて魔法発動“手札抹殺”」

手札抹殺
通常魔法
お互いの手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドローする。

「よっし、、手札の交換終了、どんどん行くよ、魔法発動“ハリケーン”」

ハリケーン
通常魔法
フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て持ち主の手札に戻す。

「ハリケーンの効果で互いの魔法トラップカードを手札に戻すよ」

「ならそれにチェーンして速攻魔法“リミッター解除”を発動」

リミッター解除
速攻魔法
このカード発動時に、自分フィールド上に表側表示で存在する全ての機械族モンスターの攻撃力を倍にする。この効果を受けたモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

「リミッター解除の効果でゴールドフットの攻撃力は倍になる」

ゴールドフット
攻撃力２２００→４４００

「へぇ、、やるね、それじゃあさっき伏せた“ドラゴンズ・ミラー”を発動」

トモ姉ぇのフィールドに巨大な鏡が出現する

ドラゴンズ・ミラー
通常魔法
自分のフィールド上または墓地から、融合モンスターカードによって決められたモンスターをゲームから除外し、ドラゴン族の融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。（この特殊召喚は融合召喚扱いとする）

「私は墓地に眠るウィエウプスとサンライズ・ガードナーをゲームから除外し“超合魔獣ラプテノス”を攻撃表示で召喚」

鏡の中から巨大な腕が飛び出し地面に突き刺さる

そして鏡に亀裂がはしりそれをつきやぶって巨大なドラゴンがトモ姉ぇの場に降り立つ

超合魔獣ラプテノス
レベル８光属性
ドラゴン族
攻撃力２２００守備力２２００
融合　デュアルモンスター×２
効果
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、フィールド上に表側表示で存在する通常モンスター扱いのデュアルモンスターは再度召喚された状態になる。

「そして手札の死者蘇生を発動、蘇れウィルプス」

何度目かになるウィルプスの登場

だがさっきと違って最初からウィルプスの体がメラメラと激しく燃えている

まるでデュアルしているかのようであった

「なんだ、、ウィルプスの様子が変だぞ」

「気が付いたみたいだね、、これがラプテノスの効果、、このカードが表側表示で存在する時フィールド上の全デュアルモンスターは再召喚しないでもその効果が付与される」

「なんだと」

「ウィルプスの効果によりこのカードを生け贄に墓地のフェニックス・ギア・フリードを攻撃表示で特殊召喚」

トモ姉ぇのフィールドに巨大な火柱が発生し何度目かわからないフェニックス・ギア・フリードの登場

「そして手札のウィルプスを通常召喚、、すかさず効果発動、自身を生け贄に墓地に眠るヘルカイザー・ドラゴンを攻撃表示で特殊召喚、そして未来サムライの効果発動、、墓地に眠るウィルプスをゲームから除外しゴールドフットを破壊する」

「マジですか」

未来サムライが手に持った刀をゴールドフットの胴体に突き刺す

するとゴールドフットから煙があふれ出しスクラップになってズズズズズと地面の中に埋もれていく

「さて、、手札に速攻のかかしやバトルフェーダーのようなカードはあるかな」

イシシシシシといやみったらしい笑みをこぼすトモ姉ぇ

「全モンスターで直接攻撃」

トモ姉ぇの場の巨大なモンスター達がいっせいに俺に向かって飛んでくる

「うわ～～～～～～～～～～～～～～」

未来サムライ　攻撃力１６００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

超合魔獣ラプテノス　攻撃力２２００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

フェニックス・ギア・フリード　攻撃力２８００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

ヘルカイザー・ドラゴン　攻撃力２４００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

ヘルカイザー・ドラゴン　攻撃力２４００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

真間
ＬＰ１４００－１１４００＝－１００００

なんつーオーバーキル

デュエル３回分のＬＰを失うって、、ひどいじゃないかトモ姉ぇ

「いや～～～～～ゴメンゴメン、ついついテンション上がっちゃってやりすぎちゃったよ」

「クッソ～～～勝てなかったか」

「でも、、、今までで１番いいデュエルだったよ」

トモ姉ぇが俺に向かって手を差し出してくる

「、、、、、次こそは絶対に負けませんからね」

俺はその手をがっしりと握り返す

そして俺は誠の元に行きデュエルディスクを外しそれを手渡す

「次はお前だ誠」

「あぁ、、任せとけって、敵はとってやるぜ」

続く

第４１話ゼロノスくらいのデュアル使用、か～な～り強い（後書き）

真間は相変わらずの機械族オリカメインのデッキ、トモ姉ぇはデュアルデッキです。以前私が使ってたデッキですが回ればフェニックス・ギア・フリードとヘルカイザー・ドラゴンが際限なく回る恐ろしいデッキでした。

あとオーバーキルはマナー違反らしいですがバーサーカーソウルを愛す私はそんな言葉に屈しません、普段もメガロック・ドラゴンでオーバーキルしてますし（最悪）

次回誠ＶＳトモ姉ぇ戦なんですがトモ姉ぇのデッキあ全然思いつきません。前回も書きましたが引越し作業でしばらく小説の行進が止まりますのでその間にネタをまとめ新居にて作成使用ともいます。

それでは皆さんまたお会いしましょう、冬将軍でした。

第４２話お願いですからゲストキャラさっさと退場してください（ＢＹ作者）

「小説家になろうよ…私は帰ってきた」↑核バズーカーをかまえながら

いや～～、引っ越してはや一ヶ月、やっとネット接続出来ました。
皆、ビッグローブの会員証は大事に保管しておこうね（笑）

さて、長くなってしまいましたが誠の過去編完結です、どうぞ。

※７月２６日修正しました。

第４２話お願いですからゲストキャラさっさと退場してください（ＢＹ作者）

引き続き真間視線でお送りします

「さて、、、行くぜ、トモ姉ぇ、、、、、今度は俺が相手だ」

「それじゃあ誠君、、、楽しいデュエルにしよう」

「「デュエル！！！」」

誠
ＬＰ４０００

トモ姉ぇ
ＬＰ４０００

「俺のターン、、、“マイン・ゴーレム”を守備表示で召喚」

誠の場に小さめのゴーレムが出現し腕をクロスさせ中腰の体制を取る

マイン・ゴーレム

地属性レベル３
攻撃力１０００守備力１９００
効果
このカードが戦闘によって墓地に送られた時、相手ライフに５００ポイントダメージを与える。

「さらにリバースを2枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　マイン・ゴーレム
魔法トラップ　リバース×２

トモ姉ぇ
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターン、、“エレメンタルヒーロー・エアーマン”を召喚」

トモ姉ぇのフィールドに旋風が巻き起こりその旋風の中からプロペラが２つついた人型モンスターが姿をあらわす

エレメンタルヒーロー・エアーマン
レベル４風属性
戦士族
攻撃力１８００守備力３００
効果
このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、次の効果から１つを選択して発動する事ができる。●自分フィールド上に存在するこのカード以外の“ヒーロー”と名のついたモンスターの数まで、フィールド上に存在する魔法または罠カードを破壊する事ができる。●自分のデッキから“ヒーロー”と名のついたモンスター１体を手札に加える。

「エアーマンの効果発動、私はデッキからヒーローと名のつくモンスター１体を手札に加える、そして魔法発動“融合”」

融合
通常魔法
手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター１体をエクストラデッキから特殊召喚する。

「場のエアーマンと手札のヒートを融合、炎と疾風よ、今交わりて熱風となって敵を焼き尽くせ、融合召喚“エレメンタルヒーロー・ノヴァマスター”」

トモ姉ぇのフィールドのエアーマンの上に守護霊のような形でザ・ヒートがまとわり突き出す

そしてエアーマンが炎につつまれその炎の中から

エレメンタルヒーロー・ノヴァマスター
レベル８炎属性
戦士族
攻撃力２６００守備力２１００
融合“エレメンタルヒーロー”と名のついたモンスター＋炎属性モンスター
効果
このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、自分のデッキからカードを１枚ドローする。

「バトル、、ノヴァマスターでマイン・ゴーレムに攻撃“テンペストフレア！！”」

ノヴァマスターの腕から炎がまるで槍のごとくのびてマイン・ゴーレムの体を貫く

槍に貫かれると同時にマイン・ゴーレムの体が炎上し始め消滅する

エレメンタルヒーロー・ノヴァマスター　攻撃力２６００＞マイン・ゴーレム　守備力１９００

「ノヴァマスターの効果発動、、戦闘で相手モンスターを破壊した時デッキからカードを1枚ドローできる」

「だが俺のマイン・ゴーレムにも効果がある、戦闘破壊されたとき相手ＬＰに５００ポイントのダメージを与える」

ボコっとトモ姉ぇの足下から先程破壊されたマイン・ゴーレムの腕が生えてきてトモ姉ぇの足首をガシットつかむ

そしてそのまま爆発し爆炎がトモ姉ぇを包み込んでいった

「キャ～～～～」

トモ姉ぇ

ＬＰ４０００－５００＝３５００

「やるねぇ、、私はリバースを1枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

トモ姉ぇ
ＬＰ３５００
手札４枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・ノヴァマスター
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、、ノヴァマスター、厄介なカードだ、俺はモンスターを1体裏守備でセットしてターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

トモ姉ぇ
ＬＰ３５００
手札４枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・ノヴァマスター
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、“エレメンタルヒーロー・レディ・オブ・ファイア”を攻撃表示で召喚」

赤いクリスタルがどこからともなくトモ姉ぇのフィールドに集結し円を描き出す

そしてその中心に紅蓮の鎧をまとった女戦士が出現する

エレメンタルヒーロー・レディ・オブ・ファイア
レベル４炎属性
炎族
攻撃力１３００守備力１０００
効果
自分のターンのエンドフェイズ時、自分フィールド上に表側表示で存在する“エレメンタルヒーロー”と名のついたモンスターの数×２００ポイントダメージを相手ライフに与える。

「バトル、、ノヴァマスターで裏守備モンスターに攻撃“テンペストフレア！！”」

ノヴァマスターが炎を拳に終結させ誠の場の裏守備モンスターに向かって駆け出す

「俺のモンスターは“巨大ネズミだ”」

誠のフィールドの裏守備カードが表になるとドクロを持ったネズミが腕を組み誠の前に出現する

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

そしてノヴァマスターの拳が巨大ネズミを殴ると同時にその体が紅蓮の炎につつまれた

エレメンタルヒーロー・ノヴァマスター　攻撃力２６００＞巨大ネズミ　守備力１４５０

「ノヴァマスターの効果でデッキからカードを１枚ドロー」

「そして俺の巨大ネズミの効果発動だ、、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスターを

攻撃表示で特殊召喚できる、俺が選ぶのはこいつだ、こい“激昂のムカムカ”」

炎につつまれた巨大ネズミがそのまま灰となり骨だけの状態になる

そしてその骨がズブズブと地面に埋もれていく

その後グラグラと地面が数回揺れ巨大ネズミが埋もれた場所から岩肌の蟹が出現する

激昂のムカムカ
地属性レベル５
攻撃力１２００守備力６００
自分の手札１枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

「俺の手札は現在3枚、よって攻撃力が１２００ポイント上昇する」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→２４００

「チョット、プレミしちゃったかな、リバースカードを1枚伏せてエンドフェイズ、レディ・オブ・ファイアの効果発動、私のフィールド上のエレメンタルヒーローの数×２００ポイントのバーンダメージを与える」

炎の結晶が誠の額にピタっと引っ付く

それと同時に誠の体が火柱でつつまれた

チョ！？この演出怖すぎるって

誠
ＬＰ４０００－４００＝３６００

「これでターンエンド」

誠
ＬＰ３６００
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

トモ姉ぇ
ＬＰ３５００
手札５枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・ノヴァマスター、エレメンタルヒーロー・レディ・オブ・ファイア
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、手札が１枚増えたのでムカムカの攻撃力が４００上昇する」

激昂のムカムカ
攻撃力２４００→２８００

「バトルだ、、ムカムカでレディ・オブ・ファイアに攻撃“アングリーブロー！！”」

誠のムカムカが巨大なハサミを振り上げ炎につつまれた戦士に向かって飛んでいく

「リバース発動、“ヒーローバリア”」

レディ・オブ・ファイアが結晶を目の前に集結させバリアのようなものをはりムカムカの巨大なハサミをせきどめる

ヒーローバリア
通常トラップ
自分フィールド上にエレメンタルヒーローと名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、相手モンスターの攻撃を1度だけ無効にする。

「決まらなかったか、、俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ３６００
手札４枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

トモ姉ぇ

ＬＰ３５００
手札５枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・ノヴァマスター、エレメンタルヒーロー・レディ・オブ・ファイア魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、“エレメンタルヒーロー・クノスペ”を召喚」

ポコっとトモ姉ぇのフィールドに小さなつぼみが出現する

そしてそのつぼみがみるみる生長し手足と顔が植物人間と化した

エレメンタルヒーロー・クノスペ
レベル３地属性
植物族
攻撃力６００守備力１０００
効果
相手プレイヤーに戦闘ダメージを与える度に、このカードの攻撃力は１００ポイントアップし、守備力は１００ポイントダウンする。このカードを除く「エレメンタルヒーロー」と名のついたモンスターが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、相手はこのカードを攻撃対象に選択できず、このカードは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。

「そして魔法発動“ヒーロープレッシャー”」

ヒープレッシャー　（マンガ版ＧＸオリジナル）
通常魔法
相手フィールド上のモンスター1体を対象に発動、エンドフェイズまで対象モンスターの攻撃力か守備力を自分フィールド上のエレメンタルヒーローの数×３００した数値分ダウンさせる。

「私は激昂のムカムカを指定、そして私のフィールド上にはエレメンタルヒーローが3体、よってムカムカの攻撃力が９００ポイントダウンする」

トモ姉ぇのフィールド上のモンスター達の頭から電撃のような物が放たれる

そしてそれが誠のムカムカに直撃しその体が縮こまっていく

激昂のムカムカ
攻撃力２８００→１９００

「バトル、、ノヴァマスターで激昂のムカムカに攻撃」

ノヴァマスターがガシッとムカムカの体をホールドする
そしてその体の炎を激しく燃焼し始める
炎が巻き上がりムカムカの体が消滅する

エレメンタルヒーロー・ノヴァマスター　攻撃力２６００＞激昂のムカムカ　攻撃力１９００

誠
ＬＰ３６００－７００＝２９００

「クソ、、ノヴァマスター無双じゃないか」

「その無双っているノヴァマスターの効果でカードを１枚ドロー、すでにハンドアドバンテージプラスマイナス０になったよ、さらに追撃、レディ・オブ・ファイアで攻撃」

「やらせるか……リバース発動“リビングデットの呼び声”」

誠のフィールドにセットされていたカードが１枚オープンされる

リビングデットの呼び声
永続トラップ
自分の墓地からモンスター１体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「リビングデットの効果で墓地から激昂のムカムカを攻撃表示で特殊召喚」

起き上がったトラップカードの絵柄から激昂のムカムカが出現する

「あちゃ～～、そんなカード伏せてあったとは、私はレディ・オブ・ファイアの攻撃を中断、そしてクノスペは相手フィールドにモンスターが存在しても直接攻撃することができる、クノスペでダイレクトアタック」

パパパパンと両腕のつぼみから種子の弾丸が天に向かって発射される

そしてその弾丸が誠に雨のごとく降り注ぐ

「ぬお～～～～」

エレメンタルヒーロー・クノスペ　攻撃力６００（直接攻撃＞相手プレイヤー

誠

ＬＰ２９００－６００＝２３００

「そしてクノスペの効果、直接攻撃する度に攻撃力を１００上昇させ守備力を１００ポイントダウンさせるね」

エレメンタルヒーロー・クノスペ
攻撃力６００→７００
守備力１０００→９００

「そしてメイン2、私はリバースを1枚伏せてエンドフェイズ…レディ・オブ・ファイアの効果、私の場のエレメンタルヒーローの数×２００の数値分ダメージを与える」

シュシュシュシュっとレディ・オブ・ファイアが手裏剣のごとく炎の結晶を誠に向かって飛ばす

「いててててて、クソ……ダメージが半端ないぜ」

誠
ＬＰ２３００－６００＝１７００

「これでターンエンド」

誠
ＬＰ１７００
手札４枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リビングデットの呼び声、リバース×１

トモ姉ぇ
ＬＰ３５００
手札４枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・ノヴァマスター、エレメンタルヒーロー・レディ・オブ・ファイア、エレメンタルヒーロー・クノスペ
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、手札が１枚増えるけど“コアキメイル・サンドマン”を攻撃表示で召喚するからムカムカの攻撃力に変化はなし」

光のゲートが誠のフィールドに出現しそのゲートから砂の塊のモンスターが出現する

コアキメイル・サンドマン
レベル４地属性
岩石族

攻撃力１９００守備力１２００
効果
このカードのコントローラーは自分のエンドフェイズ毎に手札から“コアキメイルの鋼核”１枚を墓地へ送るか、手札の岩石族モンスター１体を相手に見せる。または、どちらも行わずにこのカードを破壊する。相手の罠カードが発動した時、このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。

「バトル、激昂のムカムカでレディ・オブ・ファイアに攻撃」

「トラップ発動“次元幽閉”」

次元幽閉
通常トラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。その攻撃モンスター１体をゲームから除外する。

「この効果で激昂のムカムカを除外するよ」

「させないぜ、コアキメイル・サンドマンの効果発動…自身を生け贄にトラップの発動を無効にし破壊する」

コアキメイル・サンドマンが光の粒子となって消えていく

それと同時にトモ姉ぇの次元幽閉のカードも光となって消えていく

「バトル続行、ムカムカよレディ・オブ・ファイアを粉砕せよ」

再び大きくひり上げられるハサミ

そしてそのハサミがレディ・オブ・ファイアの体を押しつぶした

激昂のムカムカ　攻撃力２８００＞エレメンタルヒーロー・レディ・オブ・ファイア　攻撃力１３００

トモ姉ぇ
ＬＰ３５００－１５００＝２０００

「よっしゃ、ＬＰがならんできたぜ……俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ１７００
手札４枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リビングデットの呼び声、リバース×１

トモ姉ぇ
ＬＰ２０００
手札４枚

モンスター　エレメンタルヒーロー・ノヴァマスター、エレメンタルヒーロー・クノスペ
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、ノヴァマスターを守備表示に変更、そしてエレメンタルヒーロー・オーシャンを守備表示で召喚」

ザッパ～ンと波が一つトモ姉ぇのフィールドに現れその並みの上に槍を持った魚人っぽいモンスターが仁王立ちをしている

エレメンタルヒーロー・オーシャン
レベル４水属性
戦士族
攻撃力１５００守備力１２００
効果
１ターンに１度、自分のスタンバイフェイズ時に発動する事ができる。自分フィールド上または自分の墓地に存在する“ヒーロー”と名のついたモンスター１体を選択し、持ち主の手札に戻す。

「そしてバトルフェイズ、クノスペでダイレクトアタック」

再び天から降り注ぐ種子の弾丸

「ググ」

エレメンタルヒーロー・クノスペ　攻撃力７００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

誠
ＬＰ１７００－７００＝１０００

「クノスペが相手に戦闘ダメージを与えた事によりさらに攻撃力が上昇するよ」

エレメンタルヒーロー・クノスペ
攻撃力７００→８００
守備力９００→８００

「メイン２にリバースを１枚追加してターンエンド」

誠
ＬＰ１０００
手札４枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リビングデットの呼び声、リバース×１

トモ姉ぇ

ＬＰ２０００
手札３枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・ノヴァマスター、エレメンタルヒーロー・クノスペ、エレメンタルヒーロー・オーシャン
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、“マグネット・ウォリアーβ”を召喚」

誠のフィールドに磁石の形をしたパーツがいくつも螺旋を描きながら終結しだしそれらが合体しロボットっぽいモンスターが姿をあらわす

マグネット・ウォリアーβ
レベル４地属性
岩石族
攻撃力１７００守備力１６００
効果なし

「バトルだ、、まずは激昂のムカムカでノヴァマスターに攻撃」

「その攻撃に対しトラップ発動“立ちはだかる強敵”」

立ちはだかる強敵
通常トラップ
相手の攻撃宣言時に発動する事ができる。自分フィールド上の表側表示モンスター1体を選択する。発動ターン相手は選択したモンスターしか攻撃対象にできず、全ての表側攻撃表示モンスターで選択したモンスターを攻撃しなければならない。

「私はノヴァマスターを選択するよ」

「だが、俺のモンスターの攻撃は止められないぜ」

誠の言うとおりムカムカの巨大なハサミによってノヴァマスターの体が真っ二つに切断される

激昂のムカムカ　攻撃力２８００＞エレメンタルヒーロー・ノヴァマスター　守備力２１００

「やったね、トラップ発動“ヒーロー・シグナル”」

トモ姉ぇのフィールド上の伏せカードが表になるとそこから光が放たれ何かのマークが病院の空に浮かび上がる

ヒーロー・シグナル
通常トラップ
自分フィールド上のモンスターが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時に発動する事ができる。自分の手札またはデッキからエレメンタルヒーローという名のついたレベル４以下のモンスター１体を特殊召喚する。

「その効果でデッキから“エレメンタルヒーロー・フォレストマン”を守備表示で特殊召喚」

トモ姉ぇのトラップカードのマークから半分人間半分樹木の不思議なモンスターが出現する

エレメンタルヒーロー・フォレストマン
レベル４地属性
戦士族
攻撃力１０００守備力２０００
効果
１ターンに１度、自分のスタンバイフェイズ時に発動する事ができる。自分のデッキまたは墓地に存在する“融合”魔法カード１枚を手札に加える。

「ようし、βで追撃だ」

「できないよ」

「なんだと!?」

攻撃の指示を出す誠だったが肝心のモンスターがおろおろとし始める

「どういうことだ」

「立ちはだかる強敵の効果だよ、私が選択したモンスターしか君が攻撃できない、そして君がそのモンスターを破壊したから実質このターンのバトルは封じられたんだ」

「なんて事だ、、だったらメイン2でリバースを1枚追加してターンエンド」

激昂のムカムカ
攻撃力２８００→２４００

誠
ＬＰ１０００
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ、マグネット・ウォリアーβ
魔法トラップ　リビングデットの呼び声、リバース×２

トモ姉ぇ
ＬＰ２０００

手札3枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・クノスペ、エレメンタルヒーロー・オーシャン、エレメンタルヒーロー・フォレストマン
魔法トラップ　リバース×1

「私のターン、、まずはオーシャンの効果発動、墓地に眠るエアーマンを手札に回収、そして次にフォレストマンの効果でデッキから融合を手札に加えるね」

なんて事だ、最上級モンスターを倒しても次の手への布石になる

なんてデッキ、なんて戦略、なんてコンボなんだ

「さて、まずはエレメンタルヒーロー・エアーマンを召喚、そしてエアーマンの効果発動!!私のフィールド上のエアーマン以外のエレメンタルヒーローの数だけ相手の魔法トラップを破壊できる、私の場には3体のヒーローが存在する、誠君の魔法トラップを全て破壊する」

エアーマンに取り付けられているファンから激しい旋風が放たれ誠に向かって飛んでいく

「させるか、チェーンしてトラップ発動“和睦の使者”」

激しい旋風が舞う中誠の場に修道女が威風堂々と歩きながら結界を張っていく

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは0になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

「和睦の使者の効果でこのターン俺は戦闘ダメージを受けず俺のモンスターは戦闘では破壊されない」

「でも、効果では破壊されるよね、リビングデットの呼び声で復活した激昂のムカムカは破壊されるよ」

旋風が晴れると誠の場にはマグネット・ウォリアーβしかいなかった

まずいな、誠の場にはモンスターが1体

そしてトモ姉ぇの場には4体

そして手札には融合が1枚、切り札クラスのモンスターをいつでも出せる状況

つまり誠は自身のこめかみに銃口が突きつけられているって状態だ

「私はこれでターンエンドだよ」

誠
ＬＰ１０００
手札３枚
モンスター　マグネット・ウォリアーβ
魔法トラップ　なし

トモ姉ぇ
ＬＰ２０００
手札５枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・クノスペ、エレメンタルヒーロー・オーシャン、エレメン

タルヒーロー・フォレストマン
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、魔法発動、ライトニング・ボルテックス」

ライトニグ・ボルテックス
通常魔法
手札を１枚捨てて発動する。相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊する。

「手札を1枚捨ててトモ姉ぇのフィールド上の表側表示モンスターを全て破壊する」

「ヨッシャ、ナイスドローだ誠」

トモ姉ぇのフィールドに無数の雷が落下し次々にモンスターを破壊していく

「あちゃ～～、ずいぶんとさっぱりしちゃったね」

「行くぜ、“モアイ迎撃砲”を攻撃表示で召喚」

ゴゴゴゴゴと巨大なモアイ像が誠のフィールドにはえはじめる

モアイ迎撃砲
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１１００守備力２０００
効果
このカードは１ターンに１度裏側守備表示にする事ができる。

「バトル、、モアイ迎撃砲でダイレクトアタック“イースターレーザーキャノン！！”」

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

トモ姉ぇ
ＬＰ２０００－１１００＝９００

「さらにマグネット・ウォリアーβで直接攻撃、この攻撃が通れば」

「させないよ、リバース発動“レスポンシィビリティ”」

レスポンシィビリティ　（マンが版ＧＸオリジナル）
通常トラップ
自分の墓地にレベル５以上の“ヒーロー”と名のつくモンスターがいる時発動できる。相手攻撃モンスター１体を破壊する。

トモ姉ぇのフィールドのトラップカードの絵柄から先程倒したノヴァマスターが顔を出しトモ姉ぇに向かって飛翔していたマグネット・ウォリアーβの体を貫き破壊する

「クソ、後もう一歩だったのに、、メイン２でモアイ迎撃砲を自身の効果で裏守備に変更しリバースを１枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ１０００
手札０枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

トモ姉ぇ
ＬＰ９００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「やるね、さっきのターンであの絶望的な状況を巻き返すなんて、、でも今度は私が逆転する番だよ、まずは“クリッター”を通常召喚」

ふわふわと不気味な３つ目のモンスターがトモ姉ぇのフィールドに出現する

クリッター
レベル３闇属性
悪魔族
攻撃力１０００守備力６００
効果
このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分のデッキか

ら攻撃力１５００以下のモンスター1体を手札に加える。

「そして手札の融合を発動、手札のバブルマンとクリッターを融合、漆黒の闇より出でよ“エレメンタルヒーロー・エスクリダオ”を召喚」

クリッターの体毛が不気味の伸び始める

そしてその体毛の中から漆黒の鎧を身にまとった戦士が飛び上がってくる

エレメンタルヒーロー・エスクリダオ
レベル８闇属性
攻撃力２５００守備力２０００
融合“Ｅ・ＨＥＲＯ”と名のついたモンスター＋闇属性モンスター
効果
このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在する“エレメンタルヒーロー”と名のついたモンスターの数×１００ポイントアップする。

「墓地に眠っているヒーローの数は8枚、よって攻撃力が８００上昇」

エレメンタルヒーロー・エスクリダオ

攻撃力２５００→３３００

「クリッターの効果でデッキからオーシャンを手札に加える、そしてバトル！！エスクリダオで裏守備モンスターに攻撃“ダーク・ディフージョン！！”」

トモ姉ぇの場の漆黒のヒーローが大きく飛び上がる

「知っていると思うけどモアイ迎撃砲だ」

誠の裏守備状態のカードが表になると先程のモアイ像が出現する

しかし出現した瞬間漆黒のヒーローの蹴りをくらい消滅する

エレメンタルヒーロー・エスクリダオ　攻撃力３３００＞モアイ迎撃砲　守備力２０００

「ようし、これで私が有利に立った」

確かにそうだ、今誠の手札は０

そしてモンスターもいなくなり伏せカードが１枚

それに対しトモ姉ぇの場には攻撃力３０００以上のモンスターが１体手札は３枚

次のドローで全てが決まるぞ

「私はリバースカードを１枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ１０００
手札０枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

トモ姉ぇ
ＬＰ９００
手札２枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・エスクリダオ
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、モンスターを裏守備でセットしてターンエンドだ」

誠
ＬＰ１０００

手札０枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

トモ姉ぇ
ＬＰ９００
手札２枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・エスクリダオ
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン“エレメンタルヒーロー・ザ・ヒート”を攻撃表示で召喚」

トモ姉ぇのフィールドに火柱が出現し真紅の鎧をまとった戦士が出現する

エレメンタルヒーロー・ザ・ヒート
レベル４炎属性
炎族
攻撃力１６００守備力１２００
効果
このカードの攻撃力は、自分フィールド上に表側表示で存在する“エレメンタルヒーイー”と名のついたモンスターの数×２００ポイントアップする。

「ザ・ヒートは自分フィールド上のエレメンタルヒーローの数×２００した数値分攻撃力がアップする」

エレメンタルヒーロー・ザ・ヒート
攻撃力１６００→２０００

「バトル、エスクリダオで裏守備モンスターに攻撃」

「俺のモンスターは“メタモルポット”だ」

メタモルポット
地属性レベル２
岩石族
攻撃力７００守備力６００
効果
リバース：お互いの手札を全て捨てる。その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを5枚ドローする。

「メタモルポットの効果、互いのプレイヤーは手札を全て捨て新たにデッキからカードを5枚ドローする」

「だけど、私の手札のエレメンタルヒーローが1枚墓地に行ったからエスクリダオの攻撃力が上昇する」

エレメンタルヒーロー・エスクリダオ
攻撃力3300→3400

「だが、クリッター等のカードで調整された手札を崩す事ができたぜ……そして手札が5枚に増えたぜ」

「だけど、使う機会があるかな？ザ・ヒートで直接攻撃」

「ここぞと言う時のリバース発動“サンダー・ブレイク”」

サンダー・ブレイク
通常トラップ
手札を1枚捨て、フィールド上に存在するカード1枚を選択して発動する。選択したカードを破壊する。

「手札を1枚捨ててザ・ヒートを破壊する」

誠のフィールドのトラップカードから雷が発射されザ・ヒートの体を貫き破壊する

「リバースはなんだろうと思ってたけどまさかそのカードだったか」

「あぁ、手札が全然キープできずにず～～っと腐っていたがようやく使えたぜ」

「メイン2、私はカードを1枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ１０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

トモ姉ぇ
ＬＰ９００
手札４枚
モンスター　エレメンタルヒーロー・エスクリダオ

魔法トラップ　リバース×2

「俺のターン、行くぜ魔法発動“ハリケーン”」

ハリケーン
通常魔法
フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て持ち主の手札に戻す。

「互いの魔法トラップカードを全て持ち主の手札に戻す」

フィールドに暴風が発生し誠とトモ姉ぇのフィールドのリバースカードを全て巻き上げていく

「さらに魔法発動“死者への手向け”」

死者への手向け
通常魔法
手札を1枚捨て、フィールド上に存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを破壊する。

「強力なモンスターにはご退場願うぜ」

誠の場の魔法カードから包帯がいくつも伸びていきトモ姉ぇの場のエスクリダオの体を貫く

「そしてとどめだ、墓地に眠る岩石族モンスターを5体除外し“メガロック・ドラゴン”を攻撃表示で特殊召喚」

ゴゴゴゴゴゴと激しく地面が揺れる

そして巨大なクレパスが発生しそこから岩肌の巨大なドラゴンが出現する

メガロック・ドラゴン
地属性レベル7
岩石族
攻撃力?守備力?
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる。

「メガロック・ドラゴンの攻撃力守備力は特殊召喚時除外した岩石族モンスターの数×７００した数値になる、5体除外した事により攻撃力は３５００になる」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?→３５００

「バトル、メガロック・ドラゴンで直接攻撃“アースカノン・インフェルノ”！！！！」

巨大な熱線がメガロック・ドラゴンの口から放たれる

そしてそれれはまっすぐトモ姉ぇに向かって飛んでいく

「手札の“クリボー”の効果を発動」

熱線の前に突如黒い影が出現し爆発する

クリボー
レベル１闇属性
悪魔族
攻撃力３００守備力２００
効果
相手ターンの戦闘ダメージ計算時、このカードを手札から捨てて発動する。その戦闘によって発生するコントローラーへの戦闘ダメージは０になる。

「このカードを手札から墓地に送ることで私が受ける戦闘ダメージは０になる」

「クソ、決まったと思ったんだけどなこれでターンエンド」

誠
ＬＰ１０００
手札１枚
モンスター　メガロック・ドラゴン
魔法トラップ　なし

トモ姉ぇ
ＬＰ９００
手札６枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「私のターン、楽しいデュエルだったけどこれで終わりにするね、魔法発動“ミラクルフージョン”」

ミラクル・フージョン

通常魔法
自分のフィールド上または墓地から、融合モンスターカードによって決められたモンスターをゲームから除外し、“エレメンタルヒーロー”という名のついた融合モンスター１体を融合デッキから特殊召喚する。（この特殊召喚は融合召喚扱いとする）

「ミラクルフージョンの効果で墓地に眠るザ・ヒートとクノスペを融合、いでよ“エレメンタルヒーロー・ガイア”」

トモ姉ぇのフィールドに巨大な光の玉が出現する

そしてその光の中からハンマーのように巨大な腕を持った巨人が出現する

エレメンタルヒーロー・ガイア
レベル６地属性
戦士族
攻撃力２２００守備力２６００
融合　エレメンタルヒーローと名のついたモンスター＋地属性モンスター
効果
このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。このカードが融合召喚に成功した時、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター１体を選択して発動する。このターンのエンドフェイズ時まで、選択したモンスター１体の攻撃力を半分にし、このカードの攻撃力はその数値分アップする。

「ガイアの効果発動、メガロック・ドラゴンの攻撃力半分を吸収する」

メガロック・ドラゴンの体から光の粒子があふれ出しそれらがガイアの体に吸収されていく

メガロック・ドラゴン
攻撃力３５００→１７５０

エレメンタルヒーロー・ガイア
攻撃力２２００→３９５０

「バトル、ガイアでメガロック・ドラゴンに攻撃“コンチネンタルハンマー”！！！！」

ハンマーのような両腕がゆっくりと上がっていく

そしてそれが振り下ろされるとものすごい破壊音を上げながらメガロック・ドラゴンが破壊される

「うわ～～～～～～」

エレメンタルヒーロー・ガイア　攻撃力３９５０＞メガロック・ドラゴン　攻撃力１７５０

誠

ＬＰ１０００－２２００＝－１２００

「だ～～～～負けた～～」

「そろいもそろって負けちまったな」

「いや～～～～でも、２人とも今までで１番手ごたえがあったよ」

そういってトモ姉ぇは俺達に手を差し出す

「すごく楽しいデュエルだったよ、、ありがとう」

「俺も、最高に熱くなれたぜ」

「あぁ、、トモ姉ぇ、卒業おめでとう」

俺達はガシっと握手を交わす

その数日後

トモ姉ぇは内地の大きな病院に移る事となった

残念ながら弟子だという理由だけでは搬送先の病院は教えてもらえず

連絡先を聞いておけばと後悔をした

そしてその数ヵ月後俺は引越しをする事となって誠のもとを去ることとなった

「そして、このデュエルアカデミアで誠と再開したってわけだ」

「なるほど、、そんな過去があったんですか」

長い話が終わり俺達一同はいっせいに用意していたペットボトルのジュースを喉に流し込み喉を潤す

「ところで、、、そのトモ姉ぇさんとはそれからは？」

「うんにゃ？アレから連絡は取れてない」

「まぁ……プロデュエリストかデュエル学校の教師になりたいと言ってたしきっと夢をかなえているさ、そして、、いずれ会える日が来る、俺はそう信じている……は！！！！」

そういうと誠は机の中からカードを数枚取り出す

「新デッキに使えそうなコンボを思いついたぞ～～～～」

そういって客人をほっぽってデッキ調整を始める誠

「、、、、、、、、それじゃあ私達は部屋に帰るね」

「あぁ、、気をつけて帰れよ」

視線変更～冥衣～

「しっかし、相変わらずだったね～～誠は、本当にデュエルが大好きなやつだ」

誠の部屋から出た私は今雪の部屋で楓と駄弁っていた

「なんでも、今新デッキの作成で頭を悩ませているみたいだし」

「今朝も、、急に八墓村みたいな格好をしだして大変でした」

「でも、ずいぶんと明るくなったと言うか丸くなったと言うか」

急にどこか遠くを見るような顔になる楓

「ねぇ、楓、、一つ聞きたい事があるんだけど」

「何、私で答えられる限りなら答えるけど」

「楓は……誠と真間、どっちが好きなの？」

私の言葉にビクンと反応する楓

しばらく困った表情で固まった後意を決したのかコホンと軽くむせてから私と向かい合う

「私は、誠と真間…両方好きだよ」

「「え！？」」

「私は、どっちかが好きじゃなくて、どっちも好きだよ、もちろん友達や幼馴染としてでなく異性として」

言葉はものすごくすがすがしいけど相変わらず楓の表情はどこか影があった

「でも、私には想いを告げる資格がないから」

「資格？」

「そう、2人が苦しんで、もがいていた時、私は…2人と距離を置いてたから」

きっと2人が美友さんと出会った時の話だろう

そういえば真間の口から楓の名前が出てこなかったけど

「2人がぐれて、他校の生徒とケンカに明け暮れているって話を聞いて、2人とかかわりがあると思われると皆から距離を置かれるんじゃないかと思って、、私は2人が苦しんでいる時私は2人から逃げたんだ……だから、私は2人に想いを告げる資格なんてないんだ」

「それは間違ってます!!!」

突如雪が叫びだし私と楓は驚く

雪の表情を見てみるとものすごい鬼気迫るものがあった

「楓さんは確かに2人に酷い事をしたかもしれません、ですが…そんなの関係ないじゃないですか、楓さんは2人の事が好きじゃないですか、資格とかそんなの関係ないです」

「そうね、たぶん2人ともそんな事気にしてないと思うわ、あんな正確だし…むしろ距離を置かれたこと自体気づいてないと思うわ」

「雪さん、冥衣さん……フフ」

さっき今で暗い表情だった楓の顔に光が差し込んでくる

「おせっかいだね2人とも、私がその気になってしまったら恋のライバルが増えるというのに」

「っな!!??」

「私はかまいません」

私がひるんでいる中雪はものすごい清々しい表情でライバル宣言をしている

この1年でこの子強くなったと実感してしまう

翌日

私と雪、誠と真間が港に集結している

楓が帰る船がやってきたからだ

そして今その楓は幼馴染2人と別れの挨拶をしている

「それじゃあ2人とも、元気で頑張りなよ」

「あぁ、俺はいつでも元気だ」

「お前も体に気をつけろよ」

「冥衣に雪も、、昨日は楽しかったよ」

冥衣さんと雪さんから冥衣に雪になっている

まぁ、昨日はそれだけ互いの絆が深まったといっても過言ではない

「ハイ、私も色々とお話ができて楽しかったです」

「私も、、またデュエルしよう楓」

ガシっと3人で硬く握手をする

「お～～～い、後少しで船が出るぞ～～」

船からセーラー服を着た人から楓に声をかける

「ハイ、わかりました」

そういって楓はかばんを背負いだす

「あ！！そうだ」

突如何を思ったのか楓が誠と真間に近づく……そして

「チュ…チュ」

「「え！！？？」」

今、楓が誠と真間にキスした

ほっぺたにだけど、キスした

「っな、やめろよ……人前で」

「まったく、恥ずかしいヤツだ」

だけど肝心の本人達の精神に揺らぎはなし

そして今度は私と雪に近づき誠と真間に聞こえないくらいの小さな声でこうささやいた

「あんましウカウカしていると、2人ともとってっちゃうよ」

まるでいたずらっ子みたいな笑みをして楓は船に向かって走り出す

「それじゃあね～～～～」

楓が乗ると同時に船が港から離れだす

私達は楓の姿が見えなくなるまで手を振り続けた

「しっかし、相変わらず騒がしいヤツだったな」

「まったくだな」

「真間さん…早速で申し訳ないんですが今晩私に部屋に来ませんか？」

「いや、雪、、ものすごく鼻息荒いから、何をする気なの？むしろナニをする気なの？」

「もうこの小説がなくなってもかまいません、私は私の思うままに行動するのみです！！！！」

楓～～～～、最後の最後でとんでもない起爆スイッチをＯＮにしたな～～～

結局雪を落ち着かせるのに2時間を要したのであった。

第４２話お願いですからゲストキャラさっさと退場してください（ＢＹ作者）

散々悩んだ結果トモ姉ぇのデッキは紅葉型エレメンタルヒーローデッキになってしまいました。

しかしつくづく思います、私ハンドアドバンテージが大好きだと。

真間のオリカも大半がドロー関係のカードですし、ノヴァマスターがものすごく優遇されていました。

次回は蛇さんとのコラボ小説を書こうと思っています。誠、新デッキはもう少し我慢してくれ。

それでは皆さんまたよろしくお願いします。

第４３話卒業式で告白なんてベタな事、今時ドラマでもやらないと、かつてみさ

本当に、本当にお久しぶりです。

やはり無理だったんだ、５つ小説を同時に書こうとするなんて。蛇さんとのコラボ小説に１００万ヒット小説を２つ、卒業デュエルに虎の目のスナイパー。

お盆休みで帰ってきていた友達や兄貴と遊んだりで全然小説かいてなかったので本当に腕が落ちていると実感してしまいます。

あぁ、でも本当になんでこんなに同時期に５つも小説を書こうとおもったんだ俺、阿修羅マンみたいに腕が６本あれば……

「いや、腕６本あっても小説を作る為のパソコンが１つだけだったら宝の持ち腐れじゃないか？」

グギャガガ～～～～（ゆで先生的絶叫）

最後になりましたがスイマセン、前回の後書きで次回は蛇さんとのコラボ小説と書いてたんですが卒業デュエルの話になってしまいました。こっちが先に完成してもう二ヶ月近く放置と言うのもまずいと思い。本当に、久しぶりだな～～（遠い目）

それでは、遊戯王ＧＸ～ＧＹＺ～、レディィィィィイイイＧＯ～～～！！！（眼帯を外しながら）

※9月9日訂正しました

第４３話卒業式で告白なんてベタな事、今時ドラマでもやらないと、かつてみさ

「ＰＲＲＲＰＲＲＲＲ」

「お、、ＰＤＡにメールが来ている」

部屋の中でデッキを調整していると机の上においてあったＰＤＡから電子音が響く

開いてみるとメールが１件届いていた

発信源はデュエルアカデミアからだった

「この時期にメール、ついに来たかみたいだな」

ベッドの上で寝そべりながらＰＤＡをいじっていた真間が起き上がる

「なんだ、また先輩からこの学校のイベントの話を聞いたのか」

「……いくら流行りにうといお前でも気づくと思うのだが」

「なんだよ、もったいぶってないで教えてくれよ」

ハ～～っとわざとらしくため息をこぼす真間

「もうすぐ３年生が卒業するよな」

「……卒業デュエルか」

「やっと気づいたか」

そういやぁ生前アニメの卒業デュエルのところだけ見逃してるんだよな

ニコニコ動画とかで十代とカイザーのデュエルシーンは何度か確認しているけど

「とりあえずメールを確認してみるか」

端末を操作しメールを開く

小野寺　誠君

君は3年生の卒業生の

“三園　手国”

“丸藤　亮”

とデュエルしてもらいます

「「あのカイザーと俺がデュエルだって!!??」」

同じ部屋で同じ台詞が響きあう

「え、真間…もしかしてお前のメールにも」

「あぁ、卒業デュエルでカイザーと闘う事となった、って、お前もなのか」

「あぁ、メールにはそう書いてある」

その後十代が俺達の部屋にやってきてカイザーとデュエルすると話してきた

つまりトリプルブッキングってやつなのか？

その事を校長に確認する為ＰＤＡで電話してみたところ

何でもカイザーが自ら進んで俺達３人とデュエルをしたいと言い出したらしい

もちろん俺達は２つ返事どころか速攻でＯＫをした

「ヨッシャ、、それじゃあ新岩石デッキを完成させるか」

卒業デュエルまで後１週間、それまでに完成させて見せる

そして卒業デュエル当日

デュエル会場は普段以上の興奮につつまれている

メインイベントであるカイザーのデュエルは最後の締めで今は卒業生が様々なデュエリストとデュエルをしている

デュエルを追え互いの健闘をたたえ抱き合うもの

去り行くものに涙するもの

様々であった

「次、レッドの生徒、小野寺　誠第3デュエル場へ来なさい」

「オッシャ、俺の出番だな……それと」

デュエルディスクにデッキをセットする

「華々しいデビュー戦と行こうぜ」

昨日ようやく完成した新岩石デッキと共にデュエル場にたどり着く

「さて、俺の相手は」

「俺だ！！！」

デュエル場にはすでに3年生の先輩が立っていた

イエローの制服を着た生徒がいたのだけれども
あんましこの先輩と面識ないぞ?何で俺を相手に卒業デュエルを
「まぁいいか、、1年の小野寺　誠です、先輩…全力でいかせてもらいます」
「小野寺、チョットいいか?」
「なんです」
「デュエルの前に、お前にどうしても伝えておきたい事があって」
「なんですか?」
「小野寺…俺」
なんだろう、これからデュエルだというのにまるであったばかりの頃の雪さんみたいにオドオドしだす三園先輩
「俺……お前の事が、お前の事が好き何だ〜〜〜〜〜」
「……」
ホワイ?今なんと?
さっきまで騒がしかったデュエル場が一瞬にして凍りつく
「……先輩、一つ確認します、それって…ライクｏｒ

ラブ？」

「もちろんラブだ！！！！」

堂々と言い切っちゃったよこの人

「忘れもしない、アレはバレンタインデーの時だ……今年も俺はバレンタインデーなのにチョコがもらえないと嘆いていた、だけど、そんな俺にお前はチョコレートをくれた、もちろん義理だと言うのはわかっている…だが、俺の中に芽生えたこの激情、決して勘違いなんかじゃない！！！！」

全力で勘違いであって欲しいと願う

「小野寺、もしこのデュエルで勝ったら今すぐこの学校を辞めて俺の妻になってくれ」

「……とにかくデュエルだデュエル」

「「デュエル！！！」」

誠
ＬＰ４０００

三園
ＬＰ４０００

「俺のターン、こい“マンモ・フォッシル”」

俺のフィールドにマンモスのゾンビっぽいモンスターが現れる

マンモ・フォッシル
レベル４地属性
岩石族
攻撃力１８００守備力０
効果
このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、
相手ライフに４００ポイントダメージを与える。

「そして手札を1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　マンモ・フォッシル
魔法トラップ　リバース×１

三園
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし

魔法トラップ　なし

「俺のターン、こい、“ロックストーン・ウォリアー”」

相手フィールドに俺が普段使っているアタッカーが姿を現す

ロックストーン・ウォリアー
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１８００守備力１６００
効果
このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。このカードの攻撃によってこのカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、自分フィールド上に“ロックストーン・トークン”（地属性レベル１岩石族攻撃力０守備力０）２体を特殊召喚する。このトークンはアドバンス召喚のためにはリリースできない。

「バトルだ、、ロックストーン・ウォリアーでマンモ・フォッシルを攻撃」

俺の場のマンモスのゾンビと相手の場の岩人間がぶつかり合う

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００＝マンモ・フォッシル　攻撃力１８００

「クソ、マンモ・フォッシルの効果は俺のフィールドにモンスターが存在しない限り発動できない」

「だが、俺のロックストーン・ウォリアーは自ら攻撃していき戦闘破壊された為俺のフィールドにロックストーン・トークン２体を特殊召喚する」

ボコボコっと２つの岩石が相手フィールドに出現する

「そして俺はリバースを２枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

三園
ＬＰ４０００

手札３枚
モンスター　ロックストーン・トークン×２
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、行くぜ“巨大ネズミ”を攻撃表示で召喚」

（キュキュキュ～～～）

いつも以上に張り切っている三女

きっと久しぶりの登場でテンションが高いのであろう

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

「バトル、巨大ネズミでロックストーン・トークンに攻撃」

（キュキュ～～～）

俺の場の巨大ネズミが相手の場の岩石1体に蹴りを叩き込みそれを破壊する

巨大ネズミ　攻撃力１４００＞ロックストーン・トークン　守備力０

「俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　巨大ネズミ
魔法トラップ　リバース×１

三園
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　ロックストーン・トークン×１
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、俺モ巨大ネズミを召喚」

相手の場にも巨大ネズミが出現する
区別をつけるためか瞳の色と手に持っている頭蓋骨の色が俺の巨大ネズミと違いグレー色になっている
「そしてバトル……巨大ネズミで巨大ネズミに攻撃」
フィールドのど真ん中で2匹の巨大ネズミが互いに手に持った骨を突き出しあい牽制しあう
4，5発骨を前に突き出した後互いに全体重を乗せた攻撃を解き放つ
そして頭蓋骨が互いの脳天に直撃し互いにその身が消滅する
巨大ネズミ　攻撃力１４００＝巨大ネズミ　攻撃力１４００
「「巨大ネズミの効果発動、このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた時デッキから攻撃力１５００以下の攻撃力の地属性モンスターを1体特殊召喚できる、俺はデッキから激昂のムカムカを攻撃表示で特殊召喚する」」
互いのフィールドに背中から蒸気を出すごっつい蟹が出現する

激昂のムカムカ
地属性レベル５
攻撃力１２００守備力６００
自分の手札１枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

「俺の手札は４枚、よって攻撃力は２８００」

「俺の手札は３枚、攻撃力は２４００だ」

激昂のムカムカ（誠）
攻撃力１２００→２８００

激昂のムカムカ（三園）
攻撃力１２００→２４００

「まさかとは思ったが、そのデッキ」

「そうだ誠、お前が使っている岩石デッキを俺が忠実に再現したんだ……まさに愛があればこそなせる業」

やっぱりそうか、どうりで見覚えのあるカードばかりだと思ったぜ

しかし、前に俺が使ってた岩石デッキのコピーデッキか
面白い、新デッキでそのデッキに勝てればこのデッキの方が強いと言う事になる

「バトルを続けたいが……俺のムカムカの攻撃力じゃあそっちにムカムカに届かない、俺はこのままターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×１

三園
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　ロックストーン・トークン、激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、手札が１枚増えてムカムカの攻撃力がさらに上昇する」

激昂のムカムカ（誠）
攻撃力２８００→３２００

だがどうする

攻撃したいのは山々なんだがあのリバース絶対に何かある

何せ俺が前に使っていたデッキだ、リバースがどんなカードなのか大体の見当がつく

「えぇいままよ、バトルだ……俺の激昂のムカムカで相手の激昂のムカムカに攻撃、“アングリーブロー！！！”」

（自分と同じ姿の敵に突っ込んでいくってのも変な感じだけど、いっちょやりますか）

俺のムカムカが相手フィールド上のムカムカに向かって飛んでいく

「トラップ発動“リアクティブ・アーマー”」

リアクティブアーマー
通常トラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。その攻撃モンスター1体を破壊する。

「激昂のムカムカを破壊する」

ドカ～～ンと爆発につつまれるムカムカ

すまない、手札にコアキメイル・サンドマンさえあれば

「メイン2だ、俺はまだ通常召喚をしていない……モンスターを1体裏守備でセットリバースを1枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　裏守備
魔法トラップ　リバース×２

三園
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　ロックストーン・トークン、激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、“モアイ迎撃砲”を攻撃表示で召喚」

クソ、激昂のムカムカにモアイ迎撃砲

俺のデッキ必殺のフォーメーションではないか

モアイ迎撃砲
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１１００守備力２０００
効果
このカードは１ターンに１度裏側守備表示にする事ができる。

「バトル、激昂のムカムカで裏守備モンスターに攻撃」

「リバース発動“次元幽閉”」

次元幽閉
通常トラップ
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。その攻撃モンスター１体をゲームから除外する。

「次元幽閉の効果で激昂のムカムカを除外する」

「クソ、破壊ではなく除外か、痛いな」

除外はこのデッキにとって最大の弱点である

破壊カードであれば大歓迎、どんどん破壊して欲しいが除外はマジできついからな

「先輩、先輩が前の俺のデッキを知り尽くしているように俺もそのデッキを知り尽くしています、どんな手が苦手でどんなカードがやってくるのか手に取るようにわかる……情報戦では紙一重で俺が有利ですよ」

「そんな事はない、俺は、俺はお前以上にお前の事を見てきた…俺の方が小野寺　誠を理解している、愛しているんだ～～～～」

どうしよう、１秒でも早くこのデュエルを終わらせたい

これから巣立つ先輩だけど申し訳ない、早々に退場してくれ

「俺はメイン２でモアイ迎撃砲を守備表示に変更、さらにリバースカードを１枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

三園
ＬＰ４０００
手札２枚
モンスター　ロックストーン・トークン、裏守備×１

魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、がんがん攻めるぜ、俺は手札のコアキメイル・ガーディアンを墓地に送り“パワー・ジャイアント”を特殊召喚」

ドスンと巨大なクリスタルが天から降ってきて俺のフィールドに突き刺さる

そしてクリスタルが変形し人の形となりファイティングポーズをかまえる

パワー・ジャイアント
地属性レベル６
岩石族
攻撃力２２００守備力０
効果
このカードは手札からレベル４以下のモンスター１体を墓地へ送り、手札から特殊召喚する事ができる。この方法で特殊召喚した場合、手札から墓地へ送ったモンスターのレベルの数だけこのカードのレベルを下げる。また、このカードが戦闘を行う場合、そのダメージステップ終了時まで自分が受ける効果ダメージは０になる。

パワー・ジャイアント
レベル６→２

「さらに手札のロックストーン・ウォリアーを召喚、さらにモアイ迎撃砲を反転召喚」

俺のフィールドに一気にモンスターたちが展開されていく

「行くぜ、パワー・ジャイアントで裏守備モンスターに攻撃」

クリスタルの巨人が自らの右腕を発射する

「知っていると思うがモアイ迎撃砲だ」

クリスタルの拳がモアイ迎撃砲の体を貫き破壊する

パワー・ジャイアント　攻撃力２２００＞モアイ迎撃砲　守備力２０００

「さらにモアイ迎撃砲でロックストーン・トークンに攻撃“イースターレーザーキャノン”！！！」

（ＢＬ先輩、ご覚悟を）

いや、モアイよ

それは酷い呼称だ

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００＞ロックストーン・トークン　守備力０

「さぁ、これでフィールドはがら空き、ロックストーン・ウォリアーで直接攻撃」

ロックストーン・ウォリアーが地面に腕を突き刺すと三園先輩の周りに石の柱が出現する

「うお～～～～」

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力１８００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

三園
ＬＰ４０００－１８００＝２２００

「ック、やるじゃないか」

やっと初ダメージだぜ、やっぱ俺が以前使っていたデッキって硬いカードが多いな

「俺はメイン2でモアイ迎撃砲を裏守備表示に変更してターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札１枚
モンスター　パワー・ジャイアント、ロックストーン・ウォリアー、裏守備
魔法トラップ　リバース×１

三園
ＬＰ２２００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、魔法発動“ライトニング・ボルテックス”」

ライトニグ・ボルテックス
通常魔法
手札を1枚捨てて発動する。相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊する。

「手札を1枚墓地に送り相手フィールド上の表側表示モンスターを全て破壊する」

天から雷が降り注ぎ俺のフィールド上のモンスターをいっそうしていく

「……俺はモンスターを裏守備でセットしターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札１枚
モンスター　裏守備
魔法トラップ　リバース×１

三園
ＬＰ２２００
手札０枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン」

さて、どうする

相手の場には裏守備が1体

俺の場の裏守備はモアイ迎撃砲とすでに相手に知られている

この状況でモンスターをセットしたとなると考えられるパターンは2つ

1．攻撃力が2000を越えるモンスターがいなかったのでとりあえずモンスターを壁にした

2．守備系カードしかなかったから攻めたくても攻められなかった

どっちにしても俺のやる事は変らない

「モンスターを反転召喚“メタモルポット”」

俺のフィールドの裏守備カードが表になり壷の形をしたモンスターが出現する

メタモルポット
地属性レベル2

岩石族
攻撃力７００守備力６００
効果
リバース：お互いの手札を全て捨てる。その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを５枚ドローする。

「互いのプレイヤーは手札を全て捨てデッキから新たにカードを５枚ドローする」

正直相手が岩石デッキだからこのカードは危険だけど背に腹は変えられん

「手札が肥えたところでメタモルポットを生け贄に“ビック・ピース・ゴーレム”を召喚」

突如俺のフィールドのメタモルポットがくるくる回りだし中から巨大な岩石を吐き出す

さらに壷の中から小さな石がいくつか放たれ空中で合体しビック・ピース・ゴーレムの形になる

ビック・ピース・ゴーレム
レベル５地属性
岩石族
攻撃力２１００守備力０

効果
相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードはリリースなしで召喚する事ができる。

「バトル、ビック・ピース・ゴーレムで裏守備モンスターに攻撃」

ずっしりずっしりと重量感あふれる歩き方で相手の裏守備モンスターに近づくビック・ピース・ゴーレム

「俺のモンスターは“伝説の柔術家”だ」

伝説の柔術家
レベル３地属性
攻撃力１３００守備力１８００
効果
守備表示のこのカードと戦闘を行ったモンスターは、ダメージステップ終了時に持ち主のデッキの一番上に戻る。

相手フィールドに出現した柔道着を着たおっさんを俺のビック・ピース・ゴーレムの拳が押しつぶす

ビック・ピース・ゴーレム　攻撃力２１００＞伝説の柔術家　守備力１８００

「伝説の柔術家の効果、守備表示状態のこのカードが攻撃された時攻撃したモンスターをデッキトップに戻すぜ」

天から柔道着がヒラヒラと舞い降りてビック・ピース・ゴーレムの顔面にへばりつく

そして２．３どもだえるとビック・ピース・ゴーレムの体がフィールドから消える

「チィ、俺はリバースを１枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

三園
ＬＰ２２００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、モアイ迎撃砲を召喚」

またお前か、っと言いたいがナイスタイミグでいいカードを持ってたな

「バトル、モアイ迎撃砲で直接攻撃」

「ック、トラップ発動“ガードブロック”」

ガードブロック
通常トラップ
相手ターンの戦闘ダメージ計算時に発動する事ができる。その戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になり、自分のデッキからカードを１枚ドローする。

「ヌオ～～～、でもレーザー飛んできて怖ぇ～～」

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

「ダメージを与えられなかったか、メイン2にモアイ迎撃砲を裏守備にしてリバースを1枚セットしてターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

三園
ＬＰ２２００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、ビック・ピース・ゴーレムを通常召喚」

再び俺のフィールドに巨大な岩石のモンスイターが現れる

「バトル、ビック・ピース・ゴーレムで裏守備モンスターに攻撃」

「リバース発動、強制脱出装置」

強制脱出装置
通常トラップ
フィールド上に存在するモンスター1体を持ち主の手札に戻す。

「ビック・ピース・ゴーレムを手札に戻してもらうぜ」

巨大なスプリングによってビック・ピース・ゴーレムが発っていた
地面が勢いよく飛び上がる

そしてその上に立っていたビック・ピースゴーレムが再びフィールドから消滅する

「クソ、俺はリバースカードを1枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

三園
ＬＰ２２００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、巨大ネズミを召喚、そしてモアイ迎撃砲を反転召喚」

さっきとは完全に立場が逆転されているな

「壁モンスターは存在しない、全モンスターで直接攻撃」

どうするリバースカードを使うか……いやライフで受けよう

「……アグ」

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

巨大ネズミ　攻撃力１４００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

誠

ＬＰ４０００－２５００＝１５００

「いっきにＬＰが逆転しちまったか」

ライフアドバンテージ

ボードアドバンテージ

全て一瞬で逆転か、さすがは元俺のデッキ

「俺はメイン2でモアイ迎撃砲を裏守備にしてリバースを1枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ１５００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

三園
ＬＰ２２００
手札４枚
モンスター　巨大ネズミ、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、まずはビック・ピース・ゴーレムを召喚」

再び出現する巨大な岩石のモンスター

「そして魔法発動“手札抹殺”」

手札抹殺

通常魔法
お互いの手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドローする。

「互いのプレイヤーは手札を全て墓地に捨て墓地に捨てた枚数分カードをデッキからドローする」

岩石デッキ相手にこのカードは自殺行為かもしれないが俺にだってメリットがある

臆せずどんどん行くぜ

「さらに俺は魔法発動“死者蘇生”」

死者蘇生
通常魔法
自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

「俺は墓地に眠るパワー・ジャイアントを攻撃表示で特殊召喚する」

バキバキバキ～～っと地面を突き破りながらパワー・ジャイアントが俺のフィールドに降り立つ

「珍しく上級モンスターのそろい踏みだ、まずはビック・ピース・ゴーレムで裏守備モンスターに攻撃」

「当然守備モンスターはモアイ迎撃砲だ」

裏守備状態のモアイ迎撃砲に俺の岩石モンスターの拳が叩きつけられる

ビック・ピース・ゴーレム　攻撃力２１００＞モアイ迎撃砲　守備力２０００

「さて、続けてパワー・ジャイアントで巨大ネズミに攻撃」

バシュ～～～っとクリスタルの腕が発射され巨大ネズミを貫き破壊する

パワー・ジャイアント　攻撃力２２００＞巨大ネズミ　攻撃力１４００

三園

ＬＰ２２００－８００＝１４００

「巨大ネズミの効果発動、デッキから激昂のムカムカを特殊召喚する」

やはりそのカードか

まぁ俺も巨大ネズミの効果で呼び出すカードは8割がたムカムカだしな

「俺の手札は4枚、よってムカムカの攻撃力は2800だ」

激昂のムカムカ
攻撃力1200→2800

「やっかいだね～～、俺はこれでターンエンドだ」

誠
LP1500
手札3枚
モンスター　ビック・ピース・ゴーレム、パワー・ジャイアント
魔法トラップ　リバース×2

三園
ＬＰ１４００
手札４枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×３

「俺のターン、手札が1枚増えてムカムカの攻撃力がさらに上昇する」

激昂のムカムカ
攻撃力２８００→３２００

「バトル、ムカムカでビック・ピースに攻撃」

相手の場のムカムカが巨大な腕を振り下ろすと同時に俺の場のビック・ピース・ゴーレムの体の半分が吹き飛ばされる

激昂のムカムカ　攻撃力３２００＞ビック・ピース・ゴーレム　攻撃力２１００

誠
ＬＰ１５００－９００＝６００

まずいまずいまずいまずい

俺のＬＰが０に近づいてる近づいてる

「ハ～～ハ～～ハ～～、小野寺、もう少し……もう少しで」

そして俺の貞操の大ピンチも近づいている

「俺はモンスターを１体裏守備でセットしターンエンドだ」

誠
ＬＰ６００
手札３枚
モンスター　パワー・ジャイアント
魔法トラップ　リバース×２

三園
ＬＰ１４００
手札４枚
モンスター　激昂のムカムカ、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×３

「お、お、俺の、俺のターン」

まずい、震える
俺が震えているのか
負けるのか俺は
負ける負ける負ける負ける負ける負けるまけるまけるまけるマケル
マケルマケルマケルＭＡＫＥＲＵＭＡＫＥＲＵＭＡＫＥＲＵ
（落ち着いて誠）
「！！！！！」
気が付くと俺は立ち尽くすかのように突っ立っていた
だがメガロックの声で正気に戻った
（メガロックか）
（まったく…誠今、我を忘れてたよ……それどころか仲間の事をまた忘れてたよ）
確かに、スフィアの時同様敗北の２文字を前に自分を見失い仲間の事もないがしろにしていた
（誠がたんせい込めて作った新デッキだよ、大丈夫……そのデッキには誠も気づいていない可能性が眠っているから、だから信じて）
「あぁ、俺は恐れないぜ…ドロー」

ここでこれをひいたか
自分で言うのもなんだがチートドローもたいがいにしろってやつだな
「魔法発動“ライトニング・ボルテックス”」
先程俺のフィールドで暴れまくった雷撃が今度は相手フィールドに降臨する
「手札を1枚捨てて相手の場の表側表示のモンスターを全て破壊する」
「俺のモンスターが」
「さらに手札の“コアキメイル・ガーディアン”を召喚」
ゴゴゴゴゴと地面から像が出現する
そしてその像が剣を構え動き始め相手に向かって対峙する

コアキメイル・ガーディアン
レベル４地属性
岩石族
攻撃力１９００守備力１２００
効果
このカードのコントローラーは自分のエンドフェイズ毎に手札から“コアキメイルの鋼核”１枚を墓地へ送るか、手札の岩石族モンスター1体を相手に見せる。または、どちらも行わずにこのカードを

破壊する。効果モンスターの効果が発動した時、このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。

「バトルだ、パワー・ジャイアントで裏守備モンスターに攻撃」

「リバース発動“和睦の使者”」

相手の場のトラップカードがオープンされるとその絵柄から普段とてもお世話になっている修道女3人娘が出現する

そして修道女3人が祈るを始めるとバリアのようなものが発生し俺のパワー・ジャイアントの攻撃をせきどめる

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは0になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

「だがモンスターは表側表示になってもらうぜ」

「ちなみに俺のモンスターはメタモルポットだ」

なんて事だ本日2度目の手札交換

「手札を全て捨ててデッキから5枚ドローするぜ」

アレだけドローしてもまだあいつを引かない

「俺はリバースカードを1枚追加してエンドフェイズに手札のロックストーン・ウォリアーを見せコアキメイル・ガーディアンを意地する」

「おっと、ならばこちらも、エンドフェイズにリバース発動“リビングデットの呼び声”」

リビングデットの呼び声
永続トラップ
自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「墓地に眠るガーディアン・スフィンクスを攻撃表示で特殊召喚する」

マジかよ、久しぶりに見るぜこいつを

ガーディアンスフィンクス
地属性レベル５
岩石族
攻撃力１７００守備力２４００
効果
このカードは１ターンに１度だけ裏側守備表示にする事ができる。
このカードが反転召喚に成功した時、相手フィールド上のモンスターは全て持ち主の手札に戻る。

「ック、ターンエンドだ」

誠
ＬＰ６００
手札４枚
モンスター　パワー・ジャイアント、コアキメイル・ガーディアン
魔法トラップ　リバース×２

三園
ＬＰ１４００
手札５枚
モンスター　メタモルポット、ガーディアン・スフィンクス
魔法トラップ　リビングデットの呼び声、リバース×１

「俺のターン、ガーディアン・スフィンクスの効果発動、このカードを裏守備にするぜ、さらに今裏守備になったガーディアン・スフィンクスを反転召喚」

「これも俺が以前よく使っていた手だ」

裏側守備表示になったガーディアン・スフィンクスであったがすぐさま表側攻撃表示に戻る

そして再び出現したスフィンクスが咆哮を放つと俺の場のモンスターが吹き飛ばされる

「これで止めだ、ガーディアン・スフィンクスで直接攻撃！！！」

「使うしかないか、トラップ発動和睦の使者」

さながらミラーマッチだぜ、互いに似たようなカードの応酬

「クソ、俺はリバースを2枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ６００

手札６枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

三園
ＬＰ１４００
手札４枚
モンスター　メタモルポット、ガーディアン・スフィンクス
魔法トラップ　リビングデットの呼び声、リバース×３

「俺のターン、召喚“コアキメイル・サンドマン”」
天上から砂が大量に降り注ぎ大きな山の形になり、その砂山の中からゴーレムが現れる

コアキメイル・サンドマン
レベル４地属性
岩石族
攻撃力１９００守備力１２００
効果
このカードのコントローラーは自分のエンドフェイズ毎に手札から“コアキメイルの鋼核”１枚を墓地へ送るか、手札の岩石族モンスター1体を相手に見せる。または、どちらも行わずにこのカードを破壊する。相手の罠カードが発動した時、このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。

「さらに手札のコアキメイル・ガーディアンを墓地に捨てパワー・ジャイアントを特殊召喚」

パワー・ジャイアント
レベル6→2

「パワー・ジャイアントの特殊召喚成功時トラップ発動“激流葬”」

激流葬
通常トラップ
モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚された時に発動する事ができる。フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

「互いの場のモンスターを全て破壊する」

「させか、コアキメイル・サンドマンの効果発動!!自身を生け贄にささげる事でトラップの発動を無効にし破壊する“ヴィクテム・サンクチュアリ”」

獣のような咆哮を揚げながらサンドマンが砂の粒子となって再び砂山に戻っていく

そしてつむじ風が発生し砂山が砂塵の大竜巻っぽくなって激流葬のカードを貫き破壊する

「バトル、パワー・ジャイアントでガーディアン・スフィンクスに攻撃」

クリスタルの巨人とスフィンクスが互いのフィールドの真ん中で取っ組み合う

そして俺のパワー・ジャイアントがスフィンクスの巨体を背負い投げし破壊する

パワー・ジャイアント　攻撃力２２００＞ガーディアン・スフィンクス　攻撃力１７００

三園
ＬＰ１４００－５００＝９００

やっとならんだか

しかしさすがは元俺のデッキ

激戦は避けられないか

「俺はリバースカードを1枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ６００
手札３枚
モンスター　パワー・ジャイアント
魔法トラップ　リバース×２

三園
ＬＰ９００
手札４枚
モンスター　メタモルポット
魔法トラップ　リビングデットの呼び声、リバース×２

「俺のターン、まずは地割れを発動させる」

地割れ
通常魔法
相手フィールド上に表側表示で存在する攻撃力が一番低いモンスター1体を破壊する。

バリ～～～ンと俺のパワー・ジャイアントが砕け散っていく

まずい俺のモンスターがいなくなってしまった

「さらに魔法発動“大嵐”」

大嵐
通常魔法
フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て破壊する。

「互いの場の魔法トラップカードを全て破壊する」

このパターン、まずいやつの手札にはアレがある

「そして……俺は墓地に眠る岩石族モンスターを8体除外し」

その台詞、やっぱりいやがった

「“メガロック・ドラゴン”を攻撃表示で特殊召喚する」

ゴゴゴゴゴゴゴゴと会場が激しく揺れ地面を突き破り巨大な岩のドラゴンが相手フィールドに唸りを上げながら出現する

メガロック・ドラゴン
地属性レベル７
岩石族
攻撃力?守備力?
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる。

「メガロック・ドラゴンは特殊召喚時除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントした数値になる、俺は８体除外したので攻撃力は５６００になる」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?→５６００

「……ふつくしい」

とりあえず俺のエースモンスターが出現したのだからそれっぽい台詞をつぶやく

これが俺が普段使っているエースモンスター

対峙してみるとこんなにも大きいモンスターなんだな

「バトルだ、メガロック・ドラゴンでマンモ・フォッシルに攻撃、“アースカノンインフェルノ”！！！！」

相手の場のメガロックの口に光が集結し始める

「さすがです先輩、俺のメガロックの攻撃をここまで再現するなんて」

「俺を認めてくれるのか小野寺……ようし、この砲撃を花火とし俺達の幸せな生活をスタートさせよう」

「ですが、俺が普段使っている戦略ゆえ弱点もわかります、俺は墓地に眠る“ホリクリボー”の効果発動」

ボコっと地面に穴が開きそこから工事現場のおっさんがつけている黄色いヘルメットをかぶりスコップを持ったクリボーが飛び上がってくる

「な、なんだそのカードは」

「ホリクリボー、俺の新しいカードさ……そしてホリクリボーの効果、それは相手のレベル7以上のモンスターが攻撃をした時墓地に眠るこのカードを自分フィールドに特殊召喚し相手のバトルフェイズを強制終了させる」

「な、なんだと」

ホリクリボー　（オリジナル）
レベル1地属性
岩石族
攻撃力３００守備力２００
効果
相手レベル7以上のモンスターの直接攻撃宣言時に発動する事ができる。このカードを墓地から特殊召喚し、バトルフェイズを終了する。この効果で特殊召喚したこのカードは、フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

「そんなカード、今まで使った事がないカードだと」

確かにメガロック・ドラゴンとハリケーンや大嵐などのコンボは強力だ

一瞬で超攻撃力のモンスターとして出現できるメガロック・ドラゴン

そしてその攻撃を確実に通せるようにする大嵐

だけどこのコンボが及ばない場所、隙は存在する

それは手札と墓地

クリボーにネクロガードナー、オネストに速攻のかかし

それらのカードで1度攻撃を防がれれば勝率は限りなく0に近くなる

墓地のモンスターは尽きメガロックを除去されればもはや見る目も

ない

俺が使っているデッキだ先輩以上に俺がその性能を知っている

「さぁ先輩、メイン2に強制移動ですよ」

「ック、俺はこれでターンエンドだ」

（落ち着くんだ、俺の場には最高の攻撃力を誇るメガロック・ドラゴンがいる……モンスター除去系魔法カードを引かない限り俺が負けることはない、小野寺がモンスター除去系カードを引くのが先か俺がマジックホール・ゴーレムを引くのが先か）

誠
ＬＰ６００
手札５枚
モンスター　ホリクリボー
魔法トラップ　なし

三園
ＬＰ９００
手札２
モンスター　メタモルポット、メガロック・ドラゴン
魔法トラップ　なし

「俺のターン、先輩もう一つの俺の新しい力を見せてあげます……
…俺はホリクリボーを生け贄にささげ」

（クリクリ～～～）

一瞬俺の方を向き手を2，3かい振りながらウインクをしてホリクリボーが光の粒となって消えていく

「“タクティカル・アース・ドラゴン”を召喚する！！！」

そして地面からメガロック・ドラゴンみたいに岩肌のドラゴンが出現する

メガロックと違う所は少しからだがキャシャで翼もはえていた

タクティカル・アース・ドラゴン　（オリジナル）
レベル６地属性
岩石族
攻撃力２２００守備力２０００
効果
１ターンに１度、エンドフェイズまでこのカードは下記の効果を得る。●このモンスターの攻撃力を１０００ポイントダウンさせる事でこのモンスターは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。●このモンスターの攻撃力を５００ポイントダウンさせる、このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超え

ていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。●このモンスターは相手プレイヤーに戦闘ダメージを与える事はできない、このカードは1度のバトルフェイズに2回攻撃を行う事ができる。

「タクティカル・アース・ドラゴンの効果発動、このカードの攻撃力を１０００ポイント下げる事でこのカードは直接攻撃する事ができる」

タクティカル・アース・ドラゴン
攻撃力２２００→１２００

「バトル、タクティカル・アース・ドラゴンで相手プレイヤーに直接攻撃“マグナ・バースト”！！！！！」

岩石の巨竜がその翼を大きく広げ大きく飛び上がる

そして相手の場のメガロック・ドラゴンを飛び越えるくらい高いところでその体を止め口から熱線が放たれる

そしてその熱線は三園先輩の体を貫く

「ギャ～～～～～～～」

タクティカル・アース・ドラゴン　攻撃力１２００（直接攻撃）＞
相手プレイヤー

三園
ＬＰ９００－１２００＝－３００

デュエルが終了し互いの場のモンスターが消滅する

「何故だ、何故俺を拒むんだ～～～～～、小野寺～～～～～～～～～～」

それは拒みますよ

さすがの腐女子連中も今回ばかりは黙り込んでたし

「とりあえず先輩、すごく楽しいデュエルでした、卒業おめでとうございます……それでは」

いつもだったら握手をするところだがさすがに身の危険を感じたので俺は早々にその場を去った

「ッダ～～～～～、疲れた～～～」

俺は廊下に設置されているベンチに倒れこむように座る

「スフィアの時以上の恐怖に襲われたけど、どうにか勝てたぜ」

（クリクリ～～～）

「お、誰かと思えば命の恩人様じゃないか」

俺の目の前に半透明だが先程のデュエルで使用したホリクリボーが姿を現す

「そうか、何か不思議な力的なものを感じたのはお前がデュエルモンスターズの精霊だったからか」

ホリクリボーのアゴをゴロゴロすると嬉しそうに体を揺らす

（ニーチャンニーチャン、本日のエースモンスターをほっぽって獣といちゃつくとはええ度胸やな）

「……せっかく人が新しい仲間との絆を深めているのに無粋なヤツだな」

声のしたほうを見てみると少しからだが透けている女性が俺の隣に座っていた

「なんでやってきた有無を言わず精霊世界に返れ」

（初対面なのに酷い言いようや）

「俺の部屋の事も考えてくれ、今俺と真間の2人部屋でメガロックにムカムカにモアイ、巨大ネズミ3姉妹と部屋が狭いのにさらにお前のようなしゃべり方だけでキャラを判断してもらおうとするあざといやつまで増えたら部屋が狭くなてしょうがない、引越しを考えるわ」

（なぁ、普通こういう時って新キャラは大歓迎って雰囲気になるはずやろ、何でここまで否定されなあかんのや、そこの毛玉とのスィートタイムは何だったんや）

「マスコットキャラと不必要な萌えキャラだったらここまで差が出るわ」

（そのマスコットキャラやけどなんかもめてるで）

「ん！？」

（クリクリクリ～～）

（キュキュキュ～～）

気が付くといつの間にか巨大ネズミ3女とホリクリボーが取っ組み合っていた

まぁ取っ組み合っているとは言ってもじゃれている風にしか見えな

いのだが

（ほらほら、ケンカしないの）

ヒョイっとマスコット生物を2体持ち上げるメガロック

（始めまして、私はメガロック…それと巨大ネズミの3女ちゃん）

「こらメガロック、見知らぬ人にむやみやたらと話しかけるんじゃありません」

（意地でも追い返す気まんまんなんやな）

（まぁまぁ大将、ここは穏便に精霊の1人や2人増えたって変らないよ）

「あの狭い部屋に男性2人女性6人ペットが2匹、体は16歳でも精神は20歳だ、精神衛生上よろしくない、そして何よりこれ以上レギュラーキャラが増えると作者がスペックオーバーする……現にモアイがさっきから黙り込んでいるじゃないか」

（そんな事いう人嫌いです）

「まったく、これからカイザーとのデュエルが待っているんだ」

（だったら一致団結をしないといけないね誠）

「まぁ、さっきムカムカも言ってたが今更精霊が増えてもしゃーなしだな」

俺は手の平を前に突き出す

すると次々と俺の精霊たちがその手に自らの手の平（前足？）を重ねていく

「よろしくな、俺の頼りになる相棒達」

（（こっちこそ、よろしく））

第４３話卒業式で告白なんてベタな事、今時ドラマでもやらないと、かつてみさ

ちなみに三園先輩の名前の由来はクソミソテクニックからです。つーか何気に久しぶりの誠目線、アレ？この小説の主人公って（笑）

この卒業デュエルで男性の告白されると言うネタは前から考えてました。ですが“バレンタインデーの伏線”“新旧岩石デッキ対決”は当初のネタにはなかったんです。

とりあえず蛇さんとのコラボデュエルは卒業デュエルが終わってからのせようと思います。

ちなみに誠の新岩石デッキですが、オリカも入った岩石族ビートデッキです。低レベルで攻撃力高めのカードでバンバン攻めて魔法トラップでサポート。

次回はもっとスピード更新したいですが……そうだ、エヴォルーションマウスピースを使って加速すれば

「現実逃避はやめなさい」

すまない真間、いつも突っ込みを入れてくれて。

それでは次回に会いましょう。

第４４話超絶対決！！岩石の竜ＶＳ鋼の龍（前書き）

お久しぶりです、最近本当に更新スピードが落ちたと実感してます。

まぁ主な原因はグリーのゲームなんですけどね（爆）

今年中に誠１年編を終了させたいんですが間に合うのかどうか……

……

それでは卒業デュエル誠ＶＳカイザー編どうぞ。

※１０月２０日訂正しました。

第４４話超絶対決！！岩石の竜ＶＳ鋼の龍

前回までの遊戯王ＧＸ～ＧＹＺ～は

「全校生徒の諸君らに宣言するの～～ね」

「なんだなんだ、何が始まるんだ」

「セニョ～～ル及びセニョ～～ラ達には、タッグチームを組んでナンバー１チームを決めてもらうの～～ね」

「「な、なんだって～～～」」

「どういうことなんだよクロノス先生」

「詳しく～～は、校長先生から聞くの～～ね」

「おはようございます皆さん、このデュエルアカデミアに火山があるのは知ってますね」

「俺と吹雪さんがデュエルしたところだったな」

「実はその山頂にトロフィーが突き刺さっておりまして」

「それとタッグデュエルが何の関係があるんだ？」

「このトロフィーなんですが最強のタッグチームでないと引き抜けない仕掛けになっておりまして」

「どこの特別調理食材だよ」

「ですので、皆さん……学年、性別は問いません、すばらしいタッグチームが結成されるのを期待していますよ」

「さて、校長先生の長い話が終わったところで真間」

「なんだ」

「タッグパートナーのあてはあるか？」

「とりあえず、目の前にガキの頃からの長い付き合いの幼馴染がいるんだが」

「だが、俺達はそれを望んでない」

「あぁ、きっとお前と組めば最高のチームになるかもしれん、だが」

「「俺はお前と戦いたい」」

「ようし、互いに最高のパートナーを見つけ出しデュエルアカデミア・タッグトーナメントに挑もう、そして決勝戦で戦おう」

「っと言うわけで冥衣、タッグチームを組もうぜ」

「えっと～～～～、ゴメン誠、私もうレオナとタッグ組んじゃってるんだ」

「そんな、冥衣……あの時の約束は、嘘だったのかよ、俺の部屋でキン肉マンの超人タッグトーナメント編をみて、タッグ組もうって言ったじゃないか……俺が岩石族でお前が雷族で……あの時の約束は嘘だったのか」

「その感想自体が嘘だ」

「アレ？そうだっけ？」

「こうだったじゃない」

「ねぇ誠、ふと思ったんだけど２０００万パワーズのロングホーン・トレインってあるじゃない」

「あぁ、またの名をキラメキ流血列車と呼ばれているあの技だな」

「思ったんだけど、これってラーメンマンがバッファローマンをかかえる意味がわからないのだけど」

「何を言っているんだ冥衣、原作でも言ってたが１０００万パワーに１０００の技で２０００マンパワーズだと言ってたじゃないか、そしてあのロングホーン・トレインこそその力と技の融合した姿じゃないか……あとバッファローマンのパートナーはラーメンマンじゃなくモンゴルマンだ！！！！」

「明らかにラーメンマン、じゃなかったモンゴルマンがんばりすぎじゃない…どう考えても普通のハリケーンミキサーの方が強いと思うけど」

「モンゴルマンの重要性はキン肉マン?世～究極の超人タッグ編～でわかるだろうに」

「やっぱツープラントと言ったら“タッグフォーメーションA”でしょう」

「いや、アレこそ突っ込みどころ満載なツープラントじゃないか」

「何言ってるのよ、テリーマンも珠玉のツープラントって言ってたじゃない」

「その珠玉のツープラントだが最初はネプチューンマンの胸にチョット傷つけただけで終わってるじゃないか、あんなんだったらラーメンマン脳みそえぐられる事なくゴングで守りきれるわ」

「これが真実じゃない」

「でも、その後タッグを組みたいなって話しをしたじゃないか」

「た、確かにそうだけど」

「って、デュエルに勝ったらギャラ（デュエリストポイント）は7：3だって」

「捏造するな」

「結局冥衣とタッグは組めなかったか、だったらティアさんとタッグを組もう……過去に組んだ事があるんだ、きっといいタッグチームになるに違いない」

「っと言うわけで、俺とタッグを組んでくれないかティアさん」

「ゴメン、無理」

「誘って0．2秒で断られた～～～何故だ!?かつての黄金コンビ“ザ・マシンガンズ”の強さを他の生徒に思い知らせてやろうぜ」

「誰がマシンガンズよ!!どの道もうパートナーを決めちゃったから無理よ」

「何故にホワイ!?一緒に楓&友紀コンビと戦った仲じゃないか」

「その楓さんとコンビを組んだんだけど」

「……悔しいです（ザブングル）」

「やっぱパートナーは同じ男同士でないとな、性別と言う名の壁がここぞという局面でデュエルにどう影響を与えるかわかったもんじゃない、でも同じ男同士熱い友情で結ばれた結束ならどんなこんな状況でも乗り越えられる、っと言うわけでこの小説を読んでいる人にすっかり忘れ去られている昭二の所に行ってみよう」

「え!?もうチーム組んだの?」

「ゴメン誠君、俺もうパートナー決めちゃってるんだ」

「なん…だと、えぇい誰だ誰と組んだ……今すぐここにパートナーを連れて来い、パートナーの顔を見ないと俺の気がすまないぞ」

「いや、顔を見るも何もずっと俺の隣にいるんだけど」

「久しぶりだな小野寺、俺が君島のパートナーだ」

「アレ?三沢いたんだ」

「いたよ最初から」

「クソ、なんかエンジェルビーツで野球メンバーが全然集まらない日向を思い出すがどんどん行くぞ」

「ゴメン、もうパートナー決めちゃってるんだ」

「スマナイ、他をあたってくれ」

「無理ポ」

「1日1本アイスをおごってやったら考えてやってもいいぞ」

「美女以外の頼みは聞けない」

「デュエリストポイント24000ポイントくれたら考えてやってもいい」

「ボクと契約して魔法少女になってよ」

「クソ、誰も俺とタッグを組んでくれない、やはり名前か、誠という名前がいけないのか……俺完全に最終話付近で築き上げていっていたハーレムがボロボロに崩れ落ちていく誠ばりに皆に見捨てられてるよ、このままじゃあ俺まで“誠死ね”っと言われてしまうじゃないか、いやだ～～ナイスボートだけはいやだ～～～」

「アレ？誠君だ」

「あ、スバル久しぶり」

「そうだよね～～、この小説を読んでくれている人のほとんどが私とティアがこの小説の準レギュラーだってことを忘れているんじゃないかってくらい久しぶり……それよりも誠君もうタッグパートナー決まった？」

「いや、それが全然決まらなくて…今思えばキン肉マンでスグルと万太郎も最後の最後までパートナー決まらなかったよな～～～なんて思えないくらいまずいと思っている」

「結構大丈夫っぽく思えるのは気のせい？」

「いや、だいぶ精神的にまいってる、タッグパートナーがここまで決まらないとは思いもせず」

「だったらさ、私と組まない」

「え!?俺と、スバルが？」

「そう、タッグチームになろうよ」

「……スバル」

「何？」

「結婚を前提にお付き合いしてください」

「……ハイ」

「……ッハ！！今俺寝てた」

三園先輩とのデュエルが終わりベンチでくつろいでたら新しい精霊とであって気が付けばベンチでぐっすり眠っていたようだ

ベンチから起き上がり背筋を伸ばし全身の関節をほぐす

「なんか、すごくいい夢を見ていた気がするが今何時だ？」

ポケットからＰＤＡを取り出すと１時間ほど眠っていたのがわかる

「って、後１時間でカイザーとのデュエルが始まっちまうじゃないか」

俺は大急ぎでデュエル場の控え室に向かって走っていく

せっかく原作キャラが俺をデュエルの相手に指名してくれたのに遅刻はシャレじゃすまない

“全速全身ＤＡ”っと心の中で叫びながら控え室に向かう

数分後

俺はどうにか控え室に滑り込みカイザーとのデュエルに向けデッキを調整している

俺の隣には同じくカイザーと戦う真間に十代もいた

「ようし、デッキ調整終了…真間と十代はどうだ」

「おう、バッチシだ…カイザーとのデュエル、互いに忘れないものにしようぜ２人とも」

「あ、あぁ」

ものすごい興奮状態の真間に対し十代はどこか思いつめた表情で覇気がなかった

「しっかし、こうして3人でいるとこの学校に始めてきた時を思い出すな」

「もしかして、万丈目達とデュエルした時の話か」

「あぁ、十代についていって、万丈目達とデュエルすることになっ

て……懐かしいな、アレからもう1年たったんだな」

「1年、色々とあったな」

「それで～は、これより本日のメインイベント、カイザー亮の卒業デュエルを始まるの～ね」

「「ワ～～～～～～」」

「どうやら、感傷に浸ってる暇もないみたいだな」

「順番は特に決まってなかったけど、誰から行く？」

「当然……1年前と同じく俺から行かせてもらうぜ」

デッキを1度ケースにしまいデュエルディスク片手にデュエル場の入り口に向かう

「あの時も言ったけど、勝とうな、真間…十代」

「もちろんだ」

「……」

真間はちゃんと返事してくれたが十代は相変わらず上の空といった感じだ

しっかりしてくれよ、お前はこれからカイザーと攻撃力2万3万という超パワーインフレなデュエルを繰り広げてくれるんだからよ

「そんじゃあかっこよく先陣を切ってくるぜ」

「「ワ～～～～～」」

デュエル場につくと会場全体が興奮状態につつまれていた

そして俺の目線の先にはこの学園最強のデュエリストカイザー亮が立っていた

「最初の相手は小野寺か」

「ハイ、不肖小野寺　誠、オシリスレッドですが全力全開で先輩に挑ませていただきます」

ケースからデッキを取り出しシャッフルを始める

「デュエルの前に一つ聞いてもいいですか？」

「なんだ」

「どうして卒業デュエルの相手にオシリスレッドの俺に真間、それと十代を選んだんですか？」

「お前は、俺の眼力を疑っているのか？」

「いいえ、ただの興味本位です」

「小野寺　誠、俺が知る限り最もデッキと固い絆で結ばれたデュエリストだ……どんなピンチや逆境もそのデッキで乗り越えてきた、そして空栗　真間、彼はデュエルに誰よりも忠実だ、決して不正を許さない、デュエルを神聖なものと考える彼の精神は俺のリスペクト精神に通ずるものがある……最後に遊城　十代、デュエルを愛する心が奇跡と言う可能性を秘めた未知数のデュエリスト、この３人なら卒業デュエルにふさわしいと」

「そうですか」

話を終え俺はデッキをデュエルディスクにセットする

「それじゃあ熱く楽しいデュエルにしましょう、カイザー」

「「デュエル！！！」」

誠
ＬＰ４０００

亮
ＬＰ４０００

「先攻はいただきます、ドロー」

手札は上々、いけるいける～

「モンスターを裏守備でセットしリバースカードを1枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

亮
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「俺のターン、“サイバー・ドラゴン・ツヴァイ”を攻撃表示で召喚」

カイザーの場にサイバードラゴン程重装甲ではないがプロトサイバー程細身でないクオーターな機械の竜が出現する

サイバー・ドラゴン・ツヴァイ
レベル４光属性
機械族
攻撃力１５００守備力１０００
効果
このカードは相手モンスターに攻撃する場合、ダメージステップの間攻撃力が３００ポイントアップする。１ターンに１度、手札の魔法カード１枚を相手に見せる事で、このカード名はエンドフェイズ時まで“サイバー・ドラゴン”として扱う。また、このカードが墓地に存在する場合、このカードのカード名は“サイバー・ドラゴン”として扱う。

「このカードは攻撃時攻撃力が３００ポイント上昇する、バトルだ、サイバードラゴン・ツヴァイで裏守備モンスターに攻撃“エヴォリューション・キャノン”」

機械のドラゴンの口から光線が発射され俺のモンスターに向かって飛んでくる

「俺のモンスターは“ドラゴンズ・ゲート”だ」

俺の場の裏守備モンスターが表側表示になると同時に巨大な門が出現する

ドラゴンズ・ゲート　（オリジナル）
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１００守備力２０００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた時デッキからドラゴン族または名前にドラゴンと名のつくモンスター1枚を手札に加える。

「ドラゴンズ・ゲートの守備力は２０００、パワーアップしたサイバードラゴン・ツヴァイの攻撃力でも届かないぜ」

サイバー・ドラゴン・ツヴァイ
攻撃力１５００→１８００

機械のドラゴンの口から放たれた光線が俺の場の巨大な門に阻まれる

「さぁ、２００の反射ダメージを受けてもらいますよカイザー」

「手札から速攻魔法発動“サイバネティック・ブースター”」

サイバネティック・ブースター　（オリジナル）
速攻魔法
自分フィールド上の機械族モンスター1体の攻撃力をエンドフェイズまで４００アップする。そのモンスターが“サイバー”と名のつくモンスターであった場合、相手モンスターを戦闘によって破壊した時デッキからカードを1枚ドローできる。

「サイバー・ドラゴン・ツヴァイの攻撃力をエンドフェイズまで４００ポイント上昇する」

サイバー・ドラゴン・ツヴァイ
攻撃力１８００→２２００

「ッゲ、ドラゴンズ・ゲートを上回った」

突如サイバー・ドラゴン・ツヴァイの背中にブースターのようなものがくっつく

それと同時に光線の太さも一回り大きくなり俺の巨大な門を破壊する

サイバー・ドラゴン・ツヴァイ　攻撃力２２００＞ドラゴンズ・ゲート　守備力２０００

「俺のモンスターが、だがドラゴンズ・ゲートの効果発動…でっきからドラゴン族モンスターまたはドラゴンと名のつくモンスターを１枚手札に加える、俺はデッキから“リトルロック・ドラゴン”を手札に加えます」

「だったら俺はサイバネティック・ブースターの効果でデッキからカードを１枚ドローする、そしてリバースカードを１枚セットしターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

亮

ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　サイバー・ドラゴン・ツヴァイ
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、さっき手札に加えたリトルロック・ドラゴンを攻撃表示で召喚」

ベキベキベキ～～～っと地面が割れそこからメガロック・ドラゴンよりも一回り小さい岩の肌のドラゴンが出現する

リトルロック・ドラゴン
レベル４地属性
岩石族
攻撃力１９００守備力１２００
効果なし

「バトルだ、リトルロック・ドラゴンでサイバー・ドラゴン・ツヴァイに攻撃“アースハウンド”！！」

岩肌のドラゴンの口から熱線ではなく音波のようなものが発射される

そしてその音波がカイザーの場のサイバー・ドラゴンもどきに直撃し粉々に破壊する

リトルロック・ドラゴン　攻撃力１９００＞サイバ・ドラゴン・ツヴァイ　攻撃力１５００

亮
ＬＰ４０００－４００＝３６００

「「ガヤガヤガヤガヤ」」

ダメージステップが終了すると同時に騒ぎ始めるギャラリー共

「おい、あのオシリスレッド……カイザーにダメージを与えたぞ」

「マジかよ」

「キャ～～～亮様～～」

「小野寺　誠、夜道には気をつけなさいよ～～」

完全に俺アウェーっす、ティアさんの時以来だぜ

久しぶりに叫ばせてくれ…理不尽じゃ～～～～～～

「メイン2、俺はリバースカードを1枚追加してターンエンドです」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　リトルロック・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×２

亮
ＬＰ３６００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、召喚“プロト・サイバー・ドラゴン”」

カイザーの場にドラゴンというよりヘビに近い機械のモンスイターが出現する

プロト・サイバー・ドラゴン
レベル３光属性
機械族
攻撃力１１００守備力６００

効果
このカードはフィールド上に表側表示で存在する限り、カード名を“サイバー・ドラゴン”として扱う。

「さらに魔法発動“融合”」
きやがったか、2体合体か3体合体か

融合
通常魔法
手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

またまた意表をついて手札全ての機械族モンスターを融合させキメラをよぶか？

「場のサイバー・ドラゴンとして扱えるプロト・サイバー・ドラゴンと手札のサイバー・ドラゴンを融合、融合召喚“サイバー・ツイン・ドラゴン”」

カイザーの場に2体の機械のドラゴンが出現しその体を重ねる
そして1度激しく光るとそれらが合体し双頭の機械竜、サイバーツイン・ドラゴンの姿になっていた

サイバー・ツイン・ドラゴン
レベル8光属性
機械族
攻撃力2800守備力2100
融合　サイバー・ドラゴン＋サイバー・ドラゴン
効果
このカードの融合召喚は、上記のカードでしか行えない。このカードは一度のバトルフェイズ中に2回攻撃する事ができる。

「サイバー・ツイン・ドラゴンでリトルロック・ドラゴンに攻撃“エヴォリューション・ツイン・バースト”」

サイバー・ツイン・ドラゴンの右側の首が大きくしなる

そして振り下ろされると同時に光線が口から発射され俺の場のリトルロック・ドラゴンに向かって飛んでくる

「……」

どうする、このリバースを使うか

ここは……ライフで受ける

「ッグ」

光線が俺の場のドラゴンの体を貫き破壊する

サイバー・ツイン・ドラゴン　攻撃力２８００＞リトルロック・ドラゴン　攻撃力１９００

誠

ＬＰ４０００－９００＝３１００

「まだだ、サイバー・ツイン・ドラゴンは1度のバトルフェイズに2回攻撃を行う事ができる、追撃の“エヴォリューション・ツイン・バースト”」

先程とは別の首が大きくしなる

そして振り下ろされると同時にその口から光線が発射され今度は俺に向かって飛んでくる

「うおおぉぉぉぉおおおお」

サイバー・ツイン・ドラゴン　攻撃力２８００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

誠
ＬＰ３１００－２８００＝３００

「所詮ここまでか」

「カイザー相手ならしょうがない」

「俺だったらカイザーに勝てたのに何であんなレッドなんか」

おいおい、まだデュエルは終わってねーぞ

だが、たった2ターンで一気にＬＰが４桁切るとは

恐るべしカイザー亮

「俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ３００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

亮
ＬＰ３６００
手札２枚
モンスター　サイバー・ツイン・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、ドロー」

攻撃力２８００の２回攻撃モンスター
まずはあのカードをどうにかしないと

「魔法発動“宝石の発掘”」

宝石の発掘
通常魔法
手札の岩石族モンスターを１体墓地に送りデッキからカードを２枚

ドローする。

「手札の岩石族モンスター1体を墓地に送りデッキからカードを2枚ドローする」

よしこのカードなら

「“ロックストーン・ウォリアー”を召喚」

地面から岩が数個浮かび上がってくる

そしてそれらがまるで無重力状態のごとく浮かび上がり空中で合体しロックストーン・ウォリアーの形になる

ロックストーン・ウォリアー
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１８００守備力１６００
効果
このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。このカードの攻撃によってこのカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、自分フィールド上に“ロックストーン・トークン”（地属性レベル１岩石族攻撃力０守備力０）２体を特殊召喚する。このトークンはアドバンス召喚のためにはリリースできない。

「バトルだ、ロックストーン・ウォリアーでサイバー・ツイン・ドラゴンに攻撃」

2つ首の機械竜に向かって俺のロックストーン・ウォリアーが走り出す

「アイツはバカか!?攻撃力が低いモンスターで攻撃するなんて」

「勝負を捨てたのか」

「でも、ロックストーン・ウォリアーが自分から攻撃して戦闘破壊された時トークンが発生するけど、それが狙いか？」

再び騒がしくなるギャラリーたち

つーか一人は多少わかっているようだけど

「そしてロックストーン・ウォリアーの攻撃宣言時速攻魔法“虚栄巨影”」

虚栄巨影
速攻魔法
モンスターの攻撃宣言時、フィールド上に表側表示で存在するモン

スター1体を選択して発動する事ができる。選択したモンスターの攻撃力は、そのバトルフェイズ終了時まで1000ポイントアップする。

「虚栄巨影の効果でロックストーン・ウォリアーの攻撃力を1000ポイント上昇させるぜ」

ロックストーン・ウォリアー
攻撃力1800→2800

ロックストーン・ウォリアーの影が突如大きくなりそのまま足をつたって本体を飲み込んでいく

そして全身が真っ黒になると同時にベキベキっと骨が粉砕される音が数回響く

そして黒い影がだんだんシルエットをかえていきまるで獣のような形相になる

いや、チョット怖いんすけどこの演出

って、俺がひいているうちに戦闘が始まってしまっている

双頭の機械竜と漆黒の獣が取っ組み合う
なんか、昔の怪獣映画を思い出すな～～

ロックストーン・ウォリアー　攻撃力２８００＝サイバー・ツイン・ドラゴン　攻撃力２８００

ドカ～～～ンと取っ組み合っていた２匹のモンスターが爆発する
そしてその爆発の中から岩の塊が２つ転がってきて俺のフィールドにとどまる

「ロックストーン・ウォリアーの効果、このカードが攻撃をして戦闘破壊された時自分フィールド上にロックストーン・トークンを２体特殊召喚する」

「なるほど、相打ちによってフィールド上のモンスターがなくなるのを防いだわけか」

「その通りです、これで俺はターンエンドです」

誠

ＬＰ３００
手札３枚
モンスター　ロックストーン・トークン×２
魔法トラップ　リバース×２

亮
ＬＰ３６００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、召喚“サイバー・フェニックス”」

カイザーのフィールドに火柱が上がりそこから鋼鉄の不死鳥がその姿を現す

サイバー・フェニックス
レベル４炎属性
機械族
攻撃力１２００守備力１６００
効果
このカードが自分フィールド上に表側攻撃表示で存在する限り、自分フィールド上に存在する機械族モンスター１体を対象とする魔法・

罠カードの効果を無効にする。フィールド上に表側表示で存在するこのカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキからカードを1枚ドローする事ができる。

「バトル、サイバー・フェニックスでロックストーン・トークンに攻撃」

サイバー・フェニックスの翼にビーム上の刃が展開される

そしてその翼をはばたかせてサイバー・フェニックスが俺の場の岩の塊の1つを切り裂き飛び去っていく

サイバー・フェニックス　攻撃力1200＞ロックストーン・トークン　守備力0

「ッグ、残るトークンは1体か」

「俺はこれでターンエンドだ」

誠

ＬＰ３００
手札３枚
モンスター　ロックストーン・トークン
魔法トラップ　リバース×２

亮
ＬＰ３６００
手札２枚
モンスター　サイバー・フェニックス
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、ドロー」

さて、どうする

手札には巨大ネズミがいる

本来だったら巨大ネズミでサイバー・フェニックスを攻撃しボードアドバンテージを取り戻し激昂のムカムカへの布石とするのだが

俺のＬＰは３００、ここは手堅く行くべきか

（私の出番はないのかしら？）

俺がうだうだ考えていると長女の声が聞こえてくる

タブに魔俺の手札にある巨大ネズミは長女なんだろう

（長女か、スマナイがチョット今は出番を与えられそうにない）

（そう、出番がないなんて不幸ね……私）

「俺は“コアキメイル・ガーディアン”を攻撃表示で召喚」

ゴゴゴゴゴと地面から石像が俺のフィールドにはえてくる

そしてノッシノッシと起き上がり手に持った刀を抜き戦闘態勢に入った

コアキメイル・ガーディアン
レベル４地属性
岩石族
攻撃力１９００守備力１２００
効果
このカードのコントローラーは自分のエンドフェイズ毎に手札から“コアキメイルの鋼核”１枚を墓地へ送るか、手札の岩石族モンスター１体を相手に見せる。または、どちらも行わずにこのカードを破壊する。効果モンスターの効果が発動した時、このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。

「バトル、コアキメイル・ガーディアンでサイバー・フェニックス

に攻撃」

たったったったと軽やかに走り出すコアキメイル・ガーディアン

そして手に持った刀ですれ違いざまにサイバー・フェニックスの体を3枚に下ろす

コアキメイル・ガーディアン　攻撃力１９００＞サイバー・フェニックス　攻撃力１２００

亮

ＬＰ３６００－７００＝２９００

「戦闘破壊されたサイバー・フェニックスの効果でデッキからカードを1枚ドローする」

クソ、やっぱＬＰのアドバンテージは向こうが上だな

こっちのライフはすでに３００

そして相手はサイバー流の使い手

強引に攻めたいがここは慎重に行くべきだ

「エンドフェイズ、俺は手札のビック・ピース・ゴーレムを相手に見せてコアキメイル・ガーディアンを意地…ターンエンドです」

誠
ＬＰ３００
手札３枚
モンスター　ロックストーン・トークン、コアキメイル・ガーディアン
魔法トラップ　リバース×２

亮
ＬＰ２９００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、相手の場にモンスターが存在し自分フィールドにモンスターが存在しない時“サイバー・ドラゴン”を特殊召喚する事ができる、いでよ、サイバー・ドラゴン」

バチバチバチと巨大なスパークが発生する

そしてカイザーの場に先程のプロトやツヴァイ等のパチモンとは違う本物のサイバー・ドラゴンが出現する

サイバー・ドラゴン
レベル５光属性
機械族
攻撃力２１００守備力１６００
効果
相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在していない場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

「サイバー・ドラゴンでコアキメイル・ガーディアンに攻撃“エヴォルーション・バースト”」

サイバー・ドラゴンの口から構成が放たれ俺の場の岩の騎士を貫き破壊する

サイバー・ドラゴン　攻撃力２１００＞コアキメイル・ガーディアン　攻撃力１９００

誠
ＬＰ３００－２００＝１００

危ね～危ね～～

巨大ネズミで攻撃していたら負けていたぜ

「メイン2、リバースカードを1枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ１００
手札３枚
モンスター　ロックストーン・トークン
魔法トラップ　リバース×２

亮
ＬＰ２９００
手札２枚
モンスター　サイバー・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、巨大ネズミを守備表示で召喚」

（ようやく私の出番のようね）

俺の場にいつもお世話になっている骸骨を片手に持った文字通り巨

大なネズミが出現する
長女のせいかその表情にはどこか渋い影のようなものが垣間見える

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

「俺はこれでターンエンドです」

誠
ＬＰ１００
手札３枚
モンスター　ロックストーン・トークン、巨大ネズミ
魔法トラップ　リバース×２

亮
ＬＰ２９００
手札２枚
モンスター　サイバー・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、サイバー・ドラゴン・ツヴァイを召喚しバトル、サイバー・ドラゴン・ツヴァイでロックストーン・トークンに攻撃」

サイバー・ドラゴン・ツヴァイ
攻撃力１５００→１８００

再び現れたサイバー・ドラゴン・ツヴァイ

まるでさっきパチモン呼ばわりしたのを怒ってるかのごとく暴れ始め俺のロックストーン・トークンを踏み潰す

サイバー・ドラゴン・ツヴァイ　攻撃力１８００＞ロックストーン・トークン　守備力０

「そして追撃の“エヴォルーション・バースト”」

再びサイバー・ドラゴンの口から光線が発射され巨大ネズミを焦がしていく

（私の不幸を無駄にしたら承知しないわよ、マスター）

（任せとけって、お前の犠牲無駄にはしない）

サイバー・ドラゴン　攻撃力２１００＞巨大ネズミ　守備力１４５０

「巨大ネズミの効果発動、戦闘破壊された事によりデッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスターを攻撃表示で特殊召喚できる…
…当然俺は“激昂のムカムカ”を攻撃表示で特殊召喚する」

（ヨッシャ～、久しぶりに行くぜ）

デュエルディスクからカードが１枚飛び上がりそれを空中でキャッチ

そのままデュエルディスクにカードをセットすると俺の場にいつもお世話になっている岩と蟹をたしたモンスターが出現する

激昂のムカムカ
地属性レベル５

攻撃力１２００守備力６００
自分の手札1枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

「俺の手札は3枚、よってムカムカの攻撃力は２４００に上昇する」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→２４００

「俺はメイン2では何もせずターンエンドだ」

誠
ＬＰ１００
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

亮
ＬＰ２９００
手札２枚
モンスター　サイバー・ドラゴン、サイバー・ドラゴン・ツヴァイ

魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、手札が増えたことでさらにムカムカの攻撃力が上昇する」

激昂のムカムカ
攻撃力２４００→２８００

「バトル、ムカムカでサイバー・ドラゴン・ツヴァイに攻撃“アングリー・ブロー”」

ムカムカがその場で転がり始め巨大な落石のごとくカイザーのサイバー・ドラゴン・ツヴァイに向かっていく

「トラップ発動“アタック・リフレクター・ユニット”」

アタック・リフレクター・ユニット
通常トラップ
自分フィールド上の“サイバー・ドラゴン”１体を生け贄に捧げて発動する。自分の手札・デッキから“サイバー・バリア・ドラゴン”１体を特殊召喚する。

「サイバー・ドラゴンを生け贄にデッキから“サイバー・バリア・ドラゴン”を特殊召喚する」

サイバー・ドラゴンが突如光につつまれる

そして光がおさまるとそこには追加装甲に身を包んだサイバー・ドラゴンがいた

サイバー・バリア・ドラゴン
レベル６光属性
機械族
攻撃力８００守備力２８００
効果
このカードは通常召喚できない。このカードは“アタック・リフレクター・ユニット”の効果でのみ特殊召喚する事ができる。このカードが攻撃表示の場合、１ターンに１度だけ相手モンスター１体の攻撃を無効にする。

「サイバー・バリア・ドラゴンの効果発動、１ターンに１度相手モンスターの攻撃を無効にする、“エヴォリューション・バリア・プロテクション”」

サイバー・バリア・ドラゴンの襟巻きのようなものが展開し電磁バリアのようなものが発生する

そしてそのバリアによって俺のムカムカの攻撃が阻まれてしまった

「防がれたか、だったらメイン2……モンスターを1体裏守備でセットしターンエンドだ」

激昂のムカムカ
攻撃力2800→2400

誠
LP100
手札3枚
モンスター　激昂のムカムカ、裏守備×1
魔法トラップ　リバース×2

亮
LP2900
手札2枚
モンスター　サイバー・ドラゴン・ツヴァイ、サイバー・バリア・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×1

「俺のターン、サイバー・ドラゴン・ツバイとサイバー・バリア・ドラゴンを守備表示に変更しターンエンドだ」

誠
ＬＰ１００
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

亮
ＬＰ２９００
手札３枚
モンスター　サイバー・ドラゴン・ツヴァイ、サイバー・バリア・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、行くぜ新カード“大地を喰らう者”を召喚」

ベキベキベキ～～～っと地面からまがまがしいメデューサ・ワームっぽいミミズのようなモンスターが出現する

大地を喰らう者
レベル３地属性
岩石族
攻撃力８００守備力１０００

効果
このカードが召喚、特殊召喚成功時デッキからカードを3枚墓地に送る、この効果で墓地に送った岩石族モンスターの数によってこのカードは下記の効果を得る。1枚、このカードの攻撃力を1000ポイント上昇させる。2枚、このカードを生け贄にささげる、相手フィールド上のカード1枚を破壊する。3枚、このカードは守備表示になりデッキからカードを2枚ドローできる。

「大地を喰らう者の効果でデッキからカードを3枚墓地に送る、そして墓地に送ったカードの中の岩石族モンスターの数によって様々な効果が得られる、俺は2枚墓地に送ったので相手フィールド上のカードを1枚破壊する、サイバー・バリア・ドラゴンを破壊だ」

大地を喰らう者がサイバー・バリア・ドラゴンに向かって飛んでいく

そしてその体に巻きつきそのまま地面の中に引きずり込み互いに消滅していった

「そしてバトル、ムカムカでサイバー・ドラゴン・ツヴァイに攻撃だ」

（今度こそ行くぜ！！！）

ピョ～～～～ンと大きく飛び上がるムカムカ

そしてその巨体でサイバー・ドラゴン・ツヴァイの体を圧殺していった

激昂のムカムカ　攻撃力２４００＞サイバー・ドラゴン・ツヴァイ
守備力１０００

やっとカイザーのフィールドのモンスターが消えてなくなった

だがこの状況を作り上げるまでに時間をかけすぎてしまった

サイバー・ツイン・ドラゴンで消費した手札も整い始めているはず

「俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ１００
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

亮
ＬＰ２９００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、サイバー・フェニックスを守備表示で召喚しターンエンドだ」

誠
ＬＰ１００
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

亮
ＬＰ２９００
手札３枚
モンスター　サイバー・フェニックス
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、手札が貧しそうですね…俺からのプレゼントです魔法発動“天の落し物”」

悪役のカードでイメージ悪いけどな（某大魔法使いの声で）

天の落し物　（マンガＧＸオリジナル）
通常魔法
互いのプレイヤーはデッキから3枚引きその後手札を2枚捨てる

「互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローシ2枚墓地に送る、そして“モアイ迎撃砲”を攻撃表示で召喚」

モアイ迎撃砲
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１１００守備力２０００
効果
このカードは1ターンに1度裏側守備表示にする事ができる。

（頼んだぜ俺のメインアタッカー）

（ハイ、ご期待にそえるようがんばります）

「バトル、ムカムカでサイバー・フェニックスに攻撃」

ムカムカの背中から岩のとげが一本発射されサイバー・フェニックスに突き刺さりその体を破壊していった

激昂のムカムカ　攻撃力２４００＞サイバー・フェニックス　守備力１６００

「サイバー・フェニックスの効果でデッキからカードを1枚ドローする」

「ここで一気にＬＰを減らす、モアイ迎撃砲でダイレクトアタック…“イースターレーザーキャノン”」

モアイ迎撃砲の口から放たれたレーザー砲がカイザーの足下に着弾し爆発を起こす

「ぐおぉぉ」

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

亮

ＬＰ２９００－１１００＝１８００

「メイン2、モアイ迎撃砲を自身の効果で裏守備状態にセットしターンエンドだ」

誠
ＬＰ１００
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ、裏守備×２
魔法トラップ　リバース×２

亮
ＬＰ１８００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、再びサイバー・ドラゴンを特殊召喚する」

再びカイザーの場に現れるサイバー・ドラゴン

だがその攻撃力ではモアイを破壊するのが関の山だぞ

「さらにプロト・サイバー・ドラゴンを召喚し速攻魔法“フォトン・ジェネレーター・ユニット”を発動」

フォトン・ジェネレーター・ユニット
速攻魔法
自分フィールド上の“サイバー・ドラゴン”２体を生け贄に捧げて発動する。自分の手札・デッキ・墓地から“サイバー・レーザー・

ドラゴン”１体を特殊召喚する。

「俺はサイバー・ドラゴンとサイバー・ドラゴンとしても扱えるプロとサイバー・ドラゴンを生け贄にデッキから“サイバー・レーザー・ドラゴン”を攻撃表示で特殊召喚する」

カイザーの場の機械の竜が光となって重なり合う

そして光が晴れると流線型ボディーの美しい機械のドラゴンになって出てくる

サイバー・バリア・ドラゴン
レベル７光属性
機械族
攻撃力２４００守備力１８００
効果
このカードは通常召喚できない。このカードは“フォトン・ジェネレーター・ユニット”の効果でのみ特殊召喚する事ができる。このカードの攻撃力以上の攻撃力か守備力を持つモンスター１体を破壊する事ができる。この効果は１ターンに１度しか使えない。

「サイバー・レーザー・ドラゴンの効果発動、１ターンに１度このカードよりもステータスが高いモンスター１体を破壊する、俺は激

昂のムカムカを破壊する」

サイバー・レーザー・ドラゴンの尻尾が

「“フォトン・エクスターミネーション”」

尻尾から放たれたレーザーがムカムカに直撃し爆発が起こる

「さらに攻撃は続くぞ、サイバー・レーザー・ドラゴンで裏守備になったモアイ迎撃砲に攻撃、“エヴォリューション・レーザーショット”」

今度は口から光線を放つレーザー・ドラゴン

その光線が向かうと同時に俺のモアイ迎撃砲のカードが表になりその姿を現すが一瞬で破壊されてしまった

サイバー・レーザー・ドラゴン　攻撃力２４００＞モアイ迎撃砲守備力２０００

「たった１ターンでボードアドバンテージを跳ね返してくるとは」

天の落し物は失敗だったか

「俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ１００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

亮
ＬＰ１８００
手札２枚
モンスター　サイバー・レーザー・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、モンスターを裏守備でセット、さらにリバースカードを１枚セットしてターンエンドだ」

誠
ＬＰ１００
手札２枚
モンスター　裏守備×２
魔法トラップ　リバース×３

亮
ＬＰ１８００
手札２枚

モンスター　サイバー・レーザー・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、サイバー・レーザー・ドラゴンで左の裏守備モンスターに攻撃だ」

ヨッシャ、そっちはあたりだぜ

「俺のモンスターは“メタモルポット”」

メタモルポット
地属性レベル２
岩石族
攻撃力７００守備力６００
効果
リバース：お互いの手札を全て捨てる。その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを５枚ドローする。

サイバー・レーザー・ドラゴン　攻撃力２４００＞メタモルポット守備力６００

「メタモルポットのリバース効果発動、互いのプレイヤーは手札を

全て捨てデッキからカードを5枚ドローする」

融合使い相手に手札補充は無謀かもしれないがこっちもなりふり構ってられない

「メイン2、俺はリバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ１００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×３

亮
ＬＰ１８００
手札４枚
モンスター　サイバー・レーザー・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、裏守備モンスターを生け贄に激昂のムカムカを召喚」

再び俺のフィールドに出現するムカムカ

（今日はずいぶんと私に期待を寄せてくれるね）

（悪いな、数少ない俺の上級モンスターだからな、おまえは）

「俺の手札は5枚、よって攻撃力は３２００になる」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００↓３２００

「バトル、ムカムカでサイバー・レーザー・ドラゴンに攻撃」

ゴロゴロ～～～っと転がっていきムカムカがサイバー・レーザー・ドラゴンを押しつぶす

激昂のムカムカ　攻撃力３２００＞サイバー・レーザー・ドラゴン
　攻撃力２４００

亮
１８００－８００＝１０００

ようやくここまで減らせる事ができた

俺のＬＰが尽きるのが裂きか向こうが咲きか

「俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ１００
手札５枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×３

亮
ＬＰ１０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、リバースカードを1枚追加しトラップ発動、“光の召集”」

光の召集
通常トラップ
自分の手札を全て墓地へ捨てる。その後、捨てた枚数分だけ自分の墓地に存在する光属性モンスターを手札に加える。

「俺は手札を４枚墓地に送り墓地に眠る光属性のモンスターを４枚回収する、そしてリバースカード発動、融合」

この局面で呼ぶモンスターはアレしかいない

「手札のサイバー・ドラゴン3体を融合」

先程の鋼のドラゴンの胴体が再び出現する

先程と同じで首が2本の状態であったが

「融合召喚、“サイバー・エンド・ドラゴン”！！！！！」

カイザーがデュエルディスクにカードをセットするとフィールドに電流が走る

そして先程の機械のドラゴンのあいていた中央の部分からも機会のドラゴンの首が生える

そして背中に翼が展開し先程のツイン・ドラゴンよりも一回り大きい巨大な機械の竜が出現する

サイバー・エンド・ドラゴン
レベル１０光属性

機械族
攻撃力４０００守備力２８００
融合　サイバー・ドラゴン＋サイバー・ドラゴン＋サイバー・ドラゴン
効果
このカードの融合召喚は上記のカードでしか行えない。このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「バトルだ、サイバー・エンド・ドラゴンで激昂のムカムカに攻撃、“エターナル・エボリューション・バースト”！！！！！」

３つの首から放たれた光線が一つにまとまって虹色の美しい光線へと変化する

って見とれている場合じゃない、この攻撃を喰らえば俺のＬＰは０に

「リバース発動“地霊術～鉄～”」

地霊術～鉄～
通常トラップ
自分フィールド上に存在する地属性モンスター１体を生け贄に捧げる。自分の墓地から、生け贄に捧げたモンスター以外でレベル４以下の地属性モンスター１体を特殊召喚する。

「俺は激昂のムカムカを生け贄に捧げる」

俺の場のムカムカの足下に魔方陣のようなものが出現しムカムカの体を光の粒子に変えていく

「地霊術～鉄～の効果で墓地からレベル４以下の地属性モンスター１体を特殊召喚できる」

「サクリファイス・エスケープか、だがどんなモンスターを召喚しても俺のサイバー・エンド・ドラゴンは貫通効果を持っている、守備表示でも逃れはできないぞ」

「俺が特殊召喚するのはロックストーン・ウォリアーだ」

先程の魔方陣から人の形を下岩男が腕を交差させて出現する

そして巨大な光線に飲まれてその場から一瞬で退場する

サイバー・エンド・ドラゴン　攻撃力４０００＞ロックストーン・ウォリアー　守備力１６００

「ロックストーン・ウォリアーが戦闘を行う場合俺に発生する戦闘ダメージは0になる」

「なるほど、考えたな」

ロックストーン・ウォリアーと地霊術～鉄～のコンボ

恐ろしい攻撃力の貫通効果もちモンスター、サイバー・エンド・ドラゴンの為に温存していたコンボだぜ

「俺はこのままターンを終了する」

誠
ＬＰ１００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

亮
ＬＰ１０００
手札１枚
モンスター　サイバー・エンド・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン」

まずい、最高に興奮してきた

学園最強のデュエリストとここまで白熱したデュエルができるなんて

首の皮1枚でどうにか生き延びれたこの状況

ナイスな展開じゃないか（ヒロインに最低ですと罵られ続けた主人公の声で）

「久しぶりにやってやるぜ、ディスティニードロ～～～～！！！！」

俺が引いたのは

「ようし、まずは邪魔なリバースカードを破壊する、“サイクロン”発動」

俺の場に魔法カードが出現しその絵柄から旋風が巻き起こる

そしてその旋風はカイザーの場のリバースカードを連れ去っていく

「俺のカードは“トラップ・ジャマー”だ」

半分ブラフだったかあのリバースは

サイクロン
速攻魔法
フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して破壊する。

トラップ・ジャマー
カウンタートラップ
バトルフェイズ中のみ発動する事ができる。相手が発動した罠カードの発動を無効にし破壊する。

「さて、舞台は整った…俺は墓地に眠る岩石族モンスターを10体除外し」

（さて、それじゃあ新デッキでの初の出番だ、気合入れないとね）

（そんじゃあフィニッシュは頼んだぜ）

「“メガロック・ドラゴン”を攻撃表示で特殊召喚」

ベキベキベキ～～～っと地面が大きく割れそのクレパスの中から俺のデッキ最強のカード、メガロック・ドラゴンが大きく飛び上がりその巨大な姿をあらわす

メガロック・ドラゴン
地属性レベル７
岩石族
攻撃力?守備力?
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる。

「メガロック・ドラゴンの攻撃力守備力はこのカードを特殊召喚するとき除外した岩石族モンスターの数×７００した数値になる、俺は１０体除外した為攻撃力守備力は７０００になるぜ」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?→７０００

対峙しあう互いのエースモンスター
３首の機械竜に超大型の岩石竜
最高に熱いフィールドだぜ

「バトルフェイズにはいる」

さて、どうする

（どうしたんだい、誠）

（いや、ここで攻撃をすべきかどうか）

（相手の場にリバースカードは存在してないよ、攻め入り時じゃないのかな？）

（いや、なんかいやな予感がする）

そう、生前の二次小説でオリジナル主人公とカイザーとのデュエルでカイザーがここぞと言う時にカウンターとして使っていたカードがあった気が……

カイザーの手札は1枚

光の召集を発動させたのだからあの手札は光属性のモンスター

光…属性

ここは試してみるか

幸、相手の手札は1枚

この賭けが失敗しても

「バトルフェイズ開始時トラップ発動“和睦の使者”」

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは０になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

「そしてバトルだ、メガロック・ドラゴンでサイバー・エンド・ドラゴンに攻撃“アースカノン・インフェルノ”！！！！！」

（これで終わりだカイザー）

メガロックの口から今までに見た事ないくらいの巨大な熱線が放たれサイバー・エンド・ドラゴンに向かって飛んでいく

この攻撃が通れば俺の勝ちだ！！！

「ダメージステップ、手札の“オネスト”の効果を発動」

ラス１の手札それっすか

オネスト
レベル４光属性
天使族
攻撃力１１００守備力１９００
効果
自分のメインフェイズ時に、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを手札に戻す事ができる。また、自分フィールド上に表側表示で存在する光属性モンスターが戦闘を行うダメージステップ時にこのカードを手札から墓地へ送る事で、エンドフェイズ時までそのモンスターの攻撃力は、戦闘を行う相手モンスターの攻撃力の数値分アップする。

「オネストの効果でサイバー・エンド・ドラゴンの攻撃力が相手モンスターの攻撃力分上昇する」

サイバー・エンド・ドラゴンの翼が光り始めメカチックな翼から天使の翼に変化する

サイバー・エンド・ドラゴン
攻撃力４０００→１１０００

「迎え撃て、“エボリューション・バースト”！！！！！」

サイバー・エンド・ドラゴンの口から巨大なメガロック・ドラゴンの熱線を超える超巨大な光線が発射される

「させるか～～、和睦の使者の効果で俺に発生するダメージは０になりモンスターは戦闘破壊されない」

メガロックとサイバー・エンド・ドラゴンの光線の間にいつもの修道女が一人出現する

そしてプロテクトシェード的なバリアを両手で展開し攻撃を受け止める

つーかどこの初代リーンフォースっすかあんた

とりあえずなのはA′ｓ映画化オメ

メガロック・ドラゴン　攻撃力７０００＜サイバー・エンド・ドラゴン　攻撃力１１０００

「俺はこれでターンエンドだ」

危うく敗北するところだったぜ

しかしこれで再バーン・エンド・ドラゴンの攻撃力は４０００に戻る

そしてそれ以外に手札、フィールドにカードはない

さぁ、どう出るカイザー

誠
ＬＰ１００
手札４枚
モンスター　メガロック・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×１

亮
ＬＰ１０００
手札０枚
モンスター　サイバー・エンド・ドラゴン
魔法トラップ　なし

「俺のターン、魔法発動“サイバネティック・リペアー”」

サイバネティック・リペアー　（オリジナル）
通常魔法

自分フィールド上に“サイバー・ドラゴン”を融合素材とした融合モンスターが存在する時発動できる、そのモンスターの融合に使われたサイバー・ドラゴンの数だけデッキからカードを1枚ドローできる。このカードを発動させたターンバトルフェイズは行えない

「俺の場にサイバー・ドラゴンを3体融合させたサイバー・エンド・ドラゴンが存在する、よってデッキからカードを3枚ドローする」

なんちゅードロー加速だ

3枚ドローってチートだろう、まぁ発動条件少し厳しいしデメリットもあるか

「俺は速攻魔法“融合解除”」

融合解除
速攻魔法
フィールド上に表側表示で存在する融合モンスター1体を選択してエクストラデッキに戻す。さらに、エクストラデッキに戻したそのモンスターの融合召喚に使用した融合素材モンスター1組が自分の墓地に揃っていれば、その一組を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「合体を解除せよ、サイバー・ドラゴン」

サイバー・エンド・ドラゴンの首が本体から飛び上がり3体のサイバー・ドラゴンとなってカイザーの場に特殊召喚される

このパターン、まさか目の前で本当に見られるとは

「俺は魔法カード“パワー・ボンド”を発動させる」

パワー・ボンド
通常魔法
手札またはフィールド上から、融合モンスターカードによって決められたモンスターを墓地へ送り、機械族の融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。このカードによって特殊召喚したモンスターは、元々の攻撃力分だけ攻撃力がアップする。発動ターンのエンドフェイズ時、このカードを発動したプレイヤーは特殊召喚したモンスターの元々の攻撃力分のダメージを受ける。この特殊召喚は融合召喚扱いとする。

「3体のサイバー・ドラゴンを再び融合、サイバー・エンド・ドラゴンを特殊召喚」

きやがったぜ、これが正真正銘サイバー流最強コンボ

再び機械の竜の胴体が出現しその3つの台座のようなところにサイバー・ドラゴン3体が合体し3首の翼竜が再誕する

「パワー・ボンドで融合召喚したモンスターの攻撃力は2倍になる」

サイバー・エンド・ドラゴン
攻撃力４０００→８０００

まさか、実際にこの目で融合解除からのパワー・ボンドのコンボを見れるとは夢にも思ってなかった

だが、このターン攻撃は封じられている

ってことはあの手札のうち1枚はアレだな

「さらに俺は“サイバー・ジラフ”を攻撃表示で召喚」

ですよね～～

サイバー・ジラフ
レベル3光属性
機械族
攻撃力３００守備力８００
効果
このカードを生け贄に捧げる。このターンのエンドフェイズまで、

このカードのコントローラーへの効果によるダメージは０になる。

「サイバー・ジラフの効果発動、自身を生け贄に捧げ俺はこのターン効果ダメージを受けなくなる」

鉄板コンボありがとうございます

だがまずいな、次のターンあの攻撃力８０００の貫通攻撃を防ぐ手立てはない

俺のターンで何かを引かなければ

「エンドフェイズに俺はパワー・ボンドの効果で融合召喚したモンスターの元々の攻撃力分のダメージを受けるがサイバー・ジラフの効果で無効となる、これでターンエンドだ」

誠
ＬＰ１００
手札４枚
モンスター　メガロック・ドラゴン
魔法トラップ　リバース×１

亮
ＬＰ１０００
手札０枚

モンスター　サイバー・エンド・ドラゴン
魔法トラップ　なし

「俺のターン」

ここでマジックホール・ゴーレムをドローし効果を使いメガロック・ドラゴンで直接攻撃できれば俺の勝ちなんだが新デッキには入っていない

何をドローすればいい、何を

（……誠）

（メガロックか）

俺がカードをドローするのをためらっているとメガロックが話かけてきてくれた

（ずいぶんと追い込まれてるね）

（あぁ、さすがはアカデミア最強のデュエリストだ…完全に追い詰められてしまった、あのカードを超えるにはいったいどうしたらいいかわからない）

（誠、デュエル前にカイザーが言った事覚えてる？）

（カイザーが俺に言った事？）

（そう、よ～～く思い出してみて）

デュエルが始まる前、確か俺がどうしてオシリスレッドの3人を卒業デュエルの相手に選んだか聞いたんだよな

確かその時カイザーは

“小野寺　誠、俺が知る限り最もデッキと固い絆で結ばれたデュエリストだ……どんなピンチや逆境もそのデッキで乗り越えてきた”

（！！！！！）

（思い出したみたいだね）

（あぁ、あの化け物モンスターを目の当たりにして大事な事を忘れてたぜ）

（そう、私達と誠だったらどんなピンチだって乗り越えられる…こういう話知ってる？）

（なんだ？）

（強いプレイヤーは、何が出ても最高の状況を作り出せる、デッキを完全に理解し次にどんなカードが出ても展開を有利にするプレイングをするからだって）

（完全にどっかで聞いた台詞だな、主にコロコロで）

（じゃあ、その先の事、何をすべきかもわかるよね）

（あぁ、ただ……カードを引けばいいんだ）

「決めてやるぜ、ドロー」

究極極限状態でディスティニードローしたカードは

「装備魔法発動“巨大化”」

巨大化
装備魔法
自分のライフポイントが相手より下の場合、装備モンスターの攻撃力は元々の攻撃力を倍にした数値になる。自分のライフポイントが相手より上の場合、装備モンスターの攻撃力は元々の攻撃力を半分にした数値になる。

メガロックの額に印が出現しその体を大きくしていく
そしてサイバー・エンド・ドラゴンよりも大きくなりデュエル場の天上スレスレくらいまで大きくなった

メガロック・ドラゴン
攻撃力７０００→１４０００

「イッケ～～～～、メガロック・ドラゴンでサイバー・エンド・ドラゴンに攻撃だ“アースカノン・インフェルノ”！！！！！！！！！」

先程よりも一回りも二回りも巨大な熱線がメガロックの口から放たれる
そしてその熱線はサイバー・エンド・ドラゴンだけでなく全てを飲み込むかのごとくカイザーの場を埋め尽くしていた

「うお～～～～～～～～～」

メガロック・ドラゴン　攻撃力１４０００＞サイバー・エンド・ドラゴン　攻撃力８０００

亮

LP1000－6000＝－5000

「……」

「……」

一体どうなった

メガロック・ドラゴンの攻撃がサイバー・エンド・ドラゴンに通ったところまでは覚えている

気が付けば立体映像のモンスターたちは消えてなくなっている

ダメだ、考えようとしても頭の中が真っ白になって何も考えられない

「……勝者、小野寺　誠」

「「ワ～～～～～～～～～～」」

「お…お、ゥオッシャ～～～～～～～～」

校長の宣言と共に活気を取り戻すデュエル場

それを切り裂くかのごとく俺も雄たけびを上げる

俺、勝ったんだ…カイザーに

「いいデュエルだった」

歓喜に震えているとカイザーが俺のところにやってくる

「ありがとうございますカイザー、最高に熱く楽しいデュエルでした」

ガシっと力強く握手する

「まだ始まったばかりだが、卒業デュエルの相手に君を選んで正解だった」

「カイザー、言っておきますが俺達オシリスレッド3人は全戦全勝させてもらいますよ」

「ッフ、それは頼もしく、楽しみでもある」

「最後に……卒業おめでとうございます、プロリーグでの活躍期待してます」

1年前と同じ俺が先陣を切り先取点を取った

後の2人にも期待するぜ

第４４話超絶対決！！岩石の竜ＶＳ鋼の龍（後書き）

サイバー流、書くのは難しいです。

何気に主要キャラとのデュエルで初めてオリキャラが勝ったデュエルなんですが、カイザーファンに石投げられそうです。

次回は真間ＶＳカイザーか番外編になると思います。

それではまた次回お会いしましょう……今年中に更新できると信じて

１００万アクセス記念番外編～お嬢様だけど別にツンデレじゃない～（前書き）

どうも冬将軍です。

この遊戯王ＧＸ～ＧＹＺ（ごちゃまぜ、やりすぎ、自重なし）～のアクセス数がついに１００万を超えました。

１年と半年、こんなに多くのかたに読んでいただいてもらい感謝感激です。

それでは１００万アクセス記念小説をどうぞ、１００万アクセス記念小説なのに誠目線ではありません※この作品の主人公は誠です。

１００万アクセス記念番外編～お嬢様だけど別にツンデレじゃない～

視線変更～レオナ～

それは、いつもと同じ日常でした

朝、１日の始まり

女子寮の食堂で友達と朝食をとりながら今日の授業や昨晩思いついたコンボの話に花を咲かせる

そして登校

女子だけでなく男子の姿も見え始める

級友と一緒に教室に向かう

そして教室で駄弁ったり宿題を見せ合ったり

そして授業が始まり

昼にはお弁当を広げる者

購買で昼食を済ませる者

デュエルに熱中する者

お昼休みなんだから休みなさいよ

なんて考えるのは無粋ですわね、ここはデュエルアカデミアなのですから

そして昼からの授業が始まり

放課後

平穏なアフタースクールを満喫し今日もいつもどおりに終了するそのはずでした

ですが、その日だけは違いました

「東条、すまないが……この資料を資料室にしまってくれないか」

「わかりました」

その日最後の授業が終わり私は先生から段ボール箱を一つ預かったさっきの授業で間違って持ってきてしまった物らしいのですがまぁ特に断る理由もありませんし私はそのダンボールをもって移動する事にしました

「よいしょっと」

ダンボールに書いてあった番号の棚に先程のダンボールを戻し任務を完了する

後は先生に報告して放課後をどのように過ごすのか考えるだけだったのですが

「ガチャ」

「え！？」

ドアが閉められる音が響く

私以外の者はいないはずだったのですが

「誰かいますの？」

ドアの方に声を掛けるとそこには一つの人影が

少し薄暗くて確認しづらいのですがブルーの男子制服の男が一人ドアの前に立っていた

「ハ～～ハ～～ハ～～」

近づくとその生徒が肩で息をするくらい息切れをしているのがわかる

「あら、あなたは」

近くまで行くとやっと顔を確認できた

３日ほど前私に告白をしてきた男子生徒でした

まぁ、私は恋愛ごとに興味がないので断ってしまったんですけど
ですがそんな彼が何故ここに？
「どうしましたの……そんなに息を切らせ、キャ！！！」
一瞬で視界が回転する
視界が安定すると私の目の前には先程の男子生徒が私に覆いかぶさっているのがわかる
まずい、さっき押し倒された時に足をくじいたみたいです
そして両腕は完全に押さえつけられている
この状況はすごくまずいです
とても少年誌では描かれない惨劇が
「君が…君が悪いんだ、僕は君をこんなにも愛しているのに」
普段でしたら合気道でこの手のやからを成敗する事はできますが先程の怪我が原因で思うように体が動かない
このままでは、このままでは陵辱バッドエンドになってしまいます
「ハ～～ハ～～、ハハハ……ハウ」
突如私にのしかかっている体重が消えてなくなる

顔を上げると先程の男性が宙吊り状態で手足をばたつかせています

「まったく、人が探し物をしてるというのに獣みたいにうねりやがって」

そして1回転し地面に私を押し倒した男が叩きつけられる

そして追い討ちでみぞおちに拳を叩きつけられ男は気絶する

「さてと、立てるか」

掌が私に差し伸べられる

その力強い掌をつかみ私は起き上がろうとしたが足に痛みが走り立ち上がることができない

「足を痛めたのか？」

「えぇ、どうやら倒れた時にくじいたようで」

「だったらしょうがない」

私の足と背中に暖かな感触が広がる

そして次の瞬間訪れる浮遊感

しばらくしてお姫様抱っこされている事に気が付く

「チョット、恥ずかしいですわね」

「あぁ、俺もスゲー恥ずかしい」

そう言いながら資料室を後にする私達

部屋から出ると日が差し込み私を救出してくれた殿方の顔が見え始める

「……誠さんでしたか」

「あぁ、そうだ」

先程私を助けてくれたのは誠さんでした

そしてお姫様抱っこされたまま私は保健室に運ばれた

そして翌日

誠さんが職員室に来るようにと放送がかかりました

ある予感がしたので私は誠さんと一緒に職員室に行く事にすると職員室には昨日私を押し倒したブルーの男子生徒が

何でもこの生徒が昨日いきなり誠さんに襲われて資料室に閉じ込められたと先生方に訴えたみたいです

これはかなり好都合でした

わざわざ犯人を捜す手間が省けたというものです

私はその場で昨日の事を説明しました

私の足の捻挫という証拠がありますので誠さんは無罪放免

変わりにその男子生徒が退学処分となりました

そして後日

「キ～～～ンコ～～ンカ～～ンコ～～ン」

「それでは午前の授業はこれまで」

教師のその一言で一気に活気付きだす教室内

「さて、私も昼食にしますか」

「お～～～いレオナ～～」

かばんの中に教科書をしまい食堂に向かおうとすると誠さんが話しかけてきました

「お昼だけど……今日も食堂？」

「エェ、今日も食堂ですませようとお思いでしたが」

「よかった、それじゃあチョット俺と付き合ってくれないか」

そして私は誠さんに連れられデュエルアカデミアの屋上にきました

日差しが強いですが風が冷たく心地いい場所ですわ

「さて、ここら辺でいいかな」

どこからともなく誠さんがレジャーマットを取り出し屋上に引きつめていきます

そしてかばんからお弁当箱を2つ取り出しマットの上に置く

「さぁ、どうぞお嬢様」

ものすごくぎこちない英国紳士風の挨拶をして私をマットまで誘導する誠さん

まぁ私もレディーの端くれ、がんばっている殿方の努力を無駄にしないためにうまく受け止める

ぎこちない足取りでレジャーマットの上に誘導され腰を下ろす

「それで紳士様、ここで一体私に何をしていただけますの？」

「まぁ、お嬢様の口に合えばいいんだけど」

そういって誠さんはお弁当箱を一つ開けて私の足下にそれを置く

「こないだ、俺をかばってくれたお礼に弁当を作ってみた」

「こないだ？」

「ほら、俺が職員室に呼び出された時」

あぁ、あの件でしたか

「別にたいした事じゃありませんわ、私も犯人を退学に追い込めましたので……むしろあの時私を助けていただき私の方こそ感謝していますわ」

本当に、誠さんには感謝してますわ

「まぁ、とにかく食べてくれ、味は保障するぜ」

そういってかばんから割り箸を取り出す誠さん

「大丈夫ですわ、エコチックなマイ箸を持ってますので」

「……今縦ロールの中から箸を出さなかったか？」

「女性に質問をするのは無粋ですわよ」

弁当箱を手に取り中身を確認する

右側には白米が敷き詰められておりそのまんなかには梅干が一つ
そして左側にはおかず
から揚げにマカロニサラダにかぼちゃの芋もちに卵焼き
とりあえず私はご飯に埋め込まれている梅干を少しずらし赤く染まった白米を口に運ぶ
「ハハハ」
「どうしましたの」
梅干の酸味で口がいっぱいになる中誠さんが突如笑みをこぼしたのでどうしたのか聞いてみると
「やっぱ最初はそこから行くよな」
見てみると誠さんも私と同じく梅干が埋まっていた所を先に食べていたようです
「意外と庶民じみたところがあるんだな、レオナさんも」
「言っておきますが、私は両親が少しお金を持っているだけでいたって一般的な市民ですわ」
「一般市民はお嬢様口調でしゃべったりそんな存在感あふれる縦ロールであったりはしないと思うぞ」

「ご馳走様です」

「お粗末様」

お弁当箱の中が綺麗に綺麗になくなる

それと同時に紙コップに入ったお茶が私の前に置かれた

「味はどうだった？」

「えぇ、実においしかったですわ」

私も自分で料理をしたりするので味にはうるさいが誠さんの料理は

申し分ない味だった

高級レストランに出てくる完成された美味ではなく

どこか穴があるものの人間くさいおいしさの料理

誠さんの料理はそんなイメージに当てはまる

「お弁当箱は洗ってから返しますわ」

「いやいいよ、この場で回収するから」

そう言って弁当箱を私から受け取りかばんの中にしまう誠さん

「それにしても、意外と料理が上手なんですね」

「まぁな、下手の物好きだけどな」

いいえ、本当に上手でしたわ

バレンタインの時もそうでしたがデュエリストでなく料理人になってはどうでしょうか？

普通に食べいけると思うのですが

翌日

「誠さん、チョットいいですか」

「ん……なんだ」

放課後

その日の授業を全て終え帰ろうとしていた誠さんに声を掛ける

「これから、あいてます？」

「特に予定はないけど」

「でしたら、チョットお付き合いしてくださるかしら？」

「って、食堂にやってきたがなんかあるのか？」

「えぇ、こないだのお弁当のお礼をしようと思いまして」

「別にいいのに、俺が助けられたからそのお礼のつもりだったし」

「私も犯人を見つけ出す手助けをしてもらったようなものですし…
それにあの時助けていただいたお礼もまだでしたので気にしなくて
いいですわ」

「まぁ、もらえるんだったら俺は何でももらっちゃうぜ」

「それではここで待っててください」

ひとまず誠さんを置いておいて私はカウンター付近に足を運ぶ

さて、何を送ればよいでしょうか？

こういう異性に対してかしこまった贈り物なんて選んだ事がないの
で正直戸惑っています

まぁ育ち盛りの男の子ですので食べ物というのもありなのですが出
来れば形が残るものをプレゼントしたいです

ふと特売品が置かれているワゴンを見てみると

「……これはどうなのでしょうか？」

縁日などでよく見かけるヒーローのお面にビックリマンチョコが数個

それと月寒アンパンと書かれた謎のマンジュウ1つに何故か袋に入

ったやきそばが一つ

「……」

何故かは知りませんがこれらをプレゼントすればいい気がいたします

まぁ、前に本人が“俺はキモオタだ！！！”っと豪語してましたの

で喜ぶでしょう、きっと

「まいどあり、またきてね」

さすがは在庫処分セール価格だけあってかアレだけ買ってもお札を

使わずにすみました

ビニール袋に入ったプレゼントをかかえ誠さんの元に戻ってみると

何かもめている様子でした

「どうしましたの誠さん」

「あ、レオナさん……いや、チョット変なのにからまれちまって」

「貴様、オシリスレッドのくせに気安く東条さんに話かけるな」

何かと思えばオベリスクブルーの生徒が誠さんに因縁をつけている

みたいです

おそらくオシリスレッドが女性と仲良くしているのが気に入らないのでしょう

「お前は知らないかもしれないが東条さんは俺達オベリスクブルーの中でも高嶺の花の中の高嶺の花な存在、そんな高貴な存在にお前のようなドロップアウトが互いに面識去れているだけでもあつかましいのに互いに名前で呼び合うなど」

たかがオシリスレッドといっていますが実力だけならオベリスクブルークラスはあるはずです

そもそも他校との交流試合で代表に選ばれたり授業の実技デュエルで負けなしだったりと実力は結構知られているはずなんですが

「どんな手を使って東条さんを籠絡させたかは知らないが、お前から東条さんを取り戻してやる、デュエルだ」

そういってデュエルディスクをかまえるブルーの男子

「面倒ごとはゴメンだがデュエルは大歓迎だ、うけてたつ」

そういって誠さんもデュエルディスクをかまえ始める

なんといいますか、本当にデュエルが大好きみたいです

きっと数秒後にはどうしてデュエルをしたのか忘れていると思います

「さぁ、熱く楽しいデュエルにしようぜ」

「「デュエル！！」」

誠
ＬＰ４０００

モブ男
ＬＰ４０００

「俺のターン、俺は“ジェネティック・ワーウルフ”を攻撃表示で召喚」

相手のフィールドに４本腕の白獅子の仮面をかぶったモンスターが出現する

ジェネティック・ワーウルフ
レベル４地属性
獣戦士族
攻撃力２０００守備力１００
効果なし

「さらに“デーモンの斧”と“ビッグバン・シュート”をワーウルフに装備」

相手プレイヤーがデュエルディスクにカードを差し込むとジェネテ

ィック・ワーウルフの目の前に斧が出現しそれを握ると同時にオーラのようなものにつつまれる

デーモンの斧
装備魔法
装備モンスターの攻撃力は１０００ポイントアップする。このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリースする事でこのカードをデッキの一番上に戻す。

ビッグバン・シュート
装備魔法
装備モンスターの攻撃力は４００ポイントアップする。装備モンスターが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。このカードがフィールド上から離れた時、装備モンスターをゲームから除外する。

「これによってジェネティック・ワーウルフの攻撃力が３４００に上昇し貫通効果も付与される」

ジェネティック・ワーウルフ
攻撃力２０００→３４００

「俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

モブ男
ＬＰ４０００
手札３枚
モンスター　ジェネティック・ワーウルフ
魔法トラップ　デーモンの斧、ビックバンシュート

「俺のターン、まずは“神獣王バルバロス”を妥協召喚」

どこからともなく遠吠えが響き獣の足音が数回響くと下半身が漆黒の獣、人の体、ライオンのタテガミを持ったモンスターが誠さんの場に降り立つ

神獣王バルバロス
レベル８地属性
獣戦士族
攻撃力３０００守備力１２００

効果
このカードはリリースなしで通常召喚する事ができる。この方法で通常召喚したこのカードの元々の攻撃力は１９００になる。また、このカードはモンスター3体をリリースして召喚する事ができる。この方法で召喚に成功した時、相手フィールド上に存在するカードを全て破壊する。

「妥協召喚したのでバルバロスの攻撃力は１９００に下がる」

神獣王バルバロス
攻撃力３０００→１９００

「ハハハ、惨めだな……レベル８のモンスターなのに攻撃力がたった１９００とは」

「何を言う、生け贄なしで召喚できて攻撃力１９００は十分アタッカーとして合格だろう」

「フン、でもその攻撃力じゃあ俺のジェネティック・ワーウルフには届かないぞ」

「まぁ、ぶっちゃけバルバロスは餌みたいなもんだ、俺は手札から“アドバンスドロー”を発動する」

アドバンスドロー
通常魔法
自分フィールド上に表側表示で存在するレベル8以上のモンスター1体をリリースして発動する。自分のデッキからカードを2枚ドローする。

「バルバロスを墓地に送りデッキからカードを2枚ドローする」

「せっかく召喚したモンスターを墓地に送ってまで手札交換をするなんて、そうとう切羽詰ってるんじゃないか、サレンダーするなら今のうちだぞ、ハハハハハハハ」

学食にブルーの生徒のいやみな笑い声が響き渡る

それに便乗して大笑いする他のブルーの生徒

「さらに俺は手札から“デーモンとの駆け引き”を2枚発動」

「ハハハハハ…ハ？」

誠さんがデュエルディスクにカードを2枚セットした瞬間ブルーの生徒の笑い声が止まる

デーモンとの駆け引き

速攻魔法
レベル８以上の自分フィールド上のモンスターが墓地へ送られたターンに発動する事ができる。自分の手札またはデッキから“バーサーク・デッド・ドラゴン”１体を特殊召喚する。

「その効果により俺はデッキから“バーサーク・デット・ドラゴン”２体を特殊召喚する」

バーサーク・デッド・ドラゴン
レベル８闇属性
アンデット族
攻撃力３５００守備力０
効果
このカードはデーモンとの駆け引きの効果でのみ特殊召喚が可能。相手フィールド上の全てのモンスターに１回ずつ攻撃が可能。自分のターンのエンドフェイズ毎にこのカードの攻撃力は５００ポイントダウンする。

誠さんのフィールドに体のほとんどが腐敗して削げ落ちている巨大なドラゴンが２体出現する

「そして魔法発動“死者蘇生”」

死者蘇生
通常魔法
自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

「墓地に眠るバルバロスを攻撃表示で特殊召喚」

誠さんのフィールドに再び先程のライオン戦士が出現する

「そんな、たった1ターンで最上級モンスターが3体も」

逃げ道はなかったようですわね

まぁ、ろくなリバースカードを引かなかった自分を恨みなさいとしか言いようがありませんわね

「行くぜ、バーサーク・デット・ドラゴンでジェネティック・ワーウルフに攻撃」

1体目のバーサーク・デット・ドラゴンの口から黒い瘴気が放たれる

そしてその瘴気につつまれジェネティック・ワーウルフの体が腐敗していき骨だけの姿になっていった

バーサーク・デット・ドラゴン　攻撃力３５００＞ジェネティック・ワーウルフ　攻撃力３４００

モブ男
ＬＰ４０００－１００＝３９００

「そして残ったモンスターで連続ダイレクトアタック」

「うわ～～～～～」

バーサーク・デット・ドラゴン　攻撃力３５００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

神獣王バルバロス　攻撃力３０００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

モブ男
ＬＰ３９００－６５００＝－２６００

１ターンキル

誠さんが普段使っている岩石デッキとは違うデッキ

頭が悪いというイメージがありますが意外と幅広い戦略性を持っているようですね

「悪い、話の都合で速攻でけりをつけさせてもらった」

「そんな、俺が、俺がオシリスレッドごときに、チクショ～～～～～」

涙と鼻水を撒き散らしながらどこかに去っていくブルーの男子

登場から退場まで美しくないの一言に尽きますわ

「しかし、容赦ない一手でしたわね」

「なんだ、見てたのかレオナさん」

「それはアレだけ騒ぎになればいやでも目に付きますわ、それよりも」

私は先程勝ったお菓子類が入った袋を誠さんに手渡す

「こないだの昼ごはんのお礼ですわ」

「そんな、お礼だなんて…あんがと、中見てもいいか?」

「いいですわ、気にいていただけると幸いですけれど」

ガサガサと袋を調べる誠さん

「お!!!これは」

ものすごく嬉しそうな顔をして袋の中から取り出したのは先程購入したお面

「仮面ライダーディケイドのお面だ～～」

そして躊躇なくそのお面をはめる

「通りすがりの仮面ライダーだ、覚えておけ」

「いえ、そんなドヤ顔されても私にはどうしていいかわからないのですが」

何はともあれプレゼントを気に入ってもらえてよかったです

まぁ、想像以上喜んでますが

「最近、レオナ…よく誠と一緒にいるよね」

「そうでしょうか」

ある日の放課後

冥衣さんと雪さんの3人でお茶をしていると冥衣さんが変な話題をふってきました

「確かに、レオナさんっていつも孤高で気高いってイメージがありましたけど最近よく誠さんと一緒にいますよね」

「言われてみれば、そうかもしれませんわね」

「それに、なんか丸くなりませんですか？」

「あぁ、確かに最近レオナ丸くなったかも？」

丸く、ですか？

コロコロとふくよかな体系になってきたって事でしょうか？

「レオナ、言っておくけど丸くなったって言うのは性格的な意味であって体系的な意味じゃないからね」

「！！！！！」

完全に無意識の内におなかのお肉をつまんでいたようです

しかもうかつにそれを親友見られてしまうとは

「でも、本当にレオナさん雰囲気変りましたよ…前はどこか近づきがたい雰囲気をまとってましたが今ではすっかり社交的になって」

「そうですね、前の私はどこか冷めていて誰とも距離を置いているところがあったかもしれませんわね」

これも、誠さんの影響でしょうか

「でも、なんかレオナさんと誠さんが親密になって……これは冥衣さんもウカウカしてられませんね」

「な、何で私が出てくるのよ」

「……誠さん、か」

「この場合、このカードの効果を殺してしまうのでこのカードをデッキに入れるのではなく似たようなカードを変わりに入れる事で」

現在は授業中

デュエルの戦術理論の授業中ですが私の耳に先生の声はぜんぜん入ってきません

私の興味の対象は前の席

小野寺　誠に向いていた

ちょうど斜め目の席で熱心にノートを書いている

あまり勉強は得意でないと言うイメージでしたが案外熱弁家のようですね

「このカードの攻撃名は“エグザミネーション・ノヴァ”、このカードの攻撃名は“ビックバン・ダイナマイト・ナックル”、こいつの効果名は“エンゲージ・リロード”」

なにやら意味不明なワードが聞こえてますが

「小野寺」

「ハイ」

「このフィールドでお前が取るべき行動を答えてみろ」

どうやら先生も誠さんが授業中に意味不明なうわごとを言っていたことに気づいたようです

“どうだ?答えられるか?”っといやみたらしい視線を送ってます

「えっと～、まずは永続魔法バルハラの効果で手札の創造の代行者ヴィーナスを特殊召喚しＬＰを１０００支払ってホーリーシャイン・ボールを2体デッキから特殊召喚し手札のシャイン・エンジェルを通常召喚しその召喚に対しカウンタートラップのキックバック発動、相手の場の王宮のお触れのせいで無効化されてますがカウンター

ラップが発動したのでボルテニスを特殊召喚できます、って特殊召喚したボルテニスの効果でヴィーナスにホーリーシャイン・ボール2体にシャインエンジェルをコストに相手の場のカードを全て破壊、ボルテニスの直接攻撃で勝ち……どうです」

「……正解だ」

以外にも戦術というものが誠さんにもあるようですね

あの難易度の高い詰めデュエルを正解するとは

「先生」

「なんだ小野寺」

「ボルテニスの効果名は“ジャッジメント・ボルテック”攻撃名を“エクスキューション・フルボルト”なんていうのはどうでしょうか？」

ものすごい凛々しい顔してすごく厨二な発言する誠さん

教室全体がピシっと凍りついたのがわかります

誠さんの親友の真間さんだけは爆笑してますが

「メガロック・ドラゴンで相手プレイヤーに直接攻撃“アースカノン・インフェルノ”！！！！」

「ギャ～～～～～」

モブ
ＬＰ２２００－８４００＝－６２００

「うっしゃ、熱く楽しいデュエルだったぜ」

先ほどのデュエル戦術講義は終わり今は実習の時間です

デュエル場には６組のデュエリストがいるのですがその中でも誠さんはひときわ目立っていた

目立っていたと言うか一人だけうるさいというか騒がしいというか

「とりあえずモンスターで攻撃で私の勝ちですね」

「うぎゃ～～～～」

モブ
ＬＰ４００－１０００＝－６００

私も目の前のデュエリストのＬＰを０にする

それにしても

熱く楽しいデュエル……ですか

視線変更～誠～

「このカードの攻撃名は“グラビティー・ペイン”このカードの攻撃名は“プレッシャー・カノン”やりました先生、千の攻撃名がついにきまりました」

「誰が先生だ誰が」

千のモンスターに千の攻撃名が書かれたノートを真間に見せる

「しっかしよくもまぁ、攻撃名がかぶることなく１０００も思いついたよな」

「フッフッフ、そのノートは俺の地と汗と涙と鼻水の結晶だからな」

「最後のはいらないと思うぞ」

『あなた、最低です。あなた、最低です。あなた、最低です。』

「おや、メールが来たみたいだ」

「いや、何その着信音」

ちなみにこの着メロは最近はまっているアニメの着声だ

いや～～、スパロボＬでは大変お世話になりました、次は是非ＰＳ２でラインバレルとジャック・スミスを使いたいものだ

「何々」

ＰＤＡを操作しメールを開いてみると文章が一つ

“午後４時海岸の海の家の前にて待っております、最高のデッキを持参してください”

なんだ挑戦状か何かか？

「なんだ誠、果たし状でももらったのか？」

「そうみたいだ、ここは早速この千の攻撃名が書かれたノートをフルに活用してみようじゃないか」

「千回も攻撃する前にデュエル決するって」

視線変更～レオナ～

「メールは、読んでいただけたでしょうか」

放課後になたと同時に私は誠さんにメールを送った

私の中にあるこの感情

この感情が何かを確かめる為に

私は誠さんとデュエルする事を決めた

以前、雪さんが真間さんにしたように

私も誠さんにデュエルを申し込む事にしたんです

しかし、待ち合わせの時間まであと1時間もあります

こんなに早く来てしまうなんて、もう少し早い時間に召集をかければよかったですわ

「しかし、おかしな話ですわね」

この私がまさか恋だの愛だのという事を考えるとは思いもよりませんでした

一応フィアンセはいますがどこかほっとけない弟のような存在ですし

同年代の男の子もどちらかといえば年下感覚でした

自分が何でもそつなくこなせる分、無意識の内に他人との間に壁を作っていたのかもしれません

どこか冷めていたところもあった私ですが彼と出会って変った

このことを感謝しているのか？それとも単純に好きなのか？

この気持ち、確かめたいですわ

「祭りの場所はここか」

「！！！！！！！」

まだ待ち合わせの時間まで３０分近くあると言うのに浜辺に姿を現した誠さん

心の準備がまだ整いきれていませんが、せっかくやってきた殿方を待たせるのも

「来てくれましたか、誠さん」

私の声に気づきこちらを振り向く誠さん

「アニキ、ここにもライダーがいたよ」

「誰がアニキですか」

時々わけのわからない発言をして回りを凍らせるのがこの人の玉に傷な所です

「アレ？もしかしてこのメールをくれたのはレオナなのか？」

「ハイ、そうですが…もしかして名前を書き忘れてしまいましたか？」

「あぁ、差出人不明だったぜ」

そういって私にＰＤＡを見せてくれる誠さん

確かに名前が抜けていました

私としたことが、くだらないミスをしてしまったようですわ

「って、早速だけどデュエルしようぜ」

「えぇ、私もそのつもりですので」

互いにデュエルディスクをかまえる

「さぁ、熱く楽しいデュエルにしようぜ」

熱く楽しいデュエルですか

期待してますわ、誠さん

「「デュエル！！！」」

誠
ＬＰ４０００

レオナ
ＬＰ４０００

「レディー・ファーストだ、先攻は譲るぜ」

「それでは私から、ドロー」

このデッキは冥衣さんたちと作ったデッキその２

初の対人戦です、どう回るかためさしてもらいます

「私は“ハウリング・インセクト”を守備表示で召喚しますわ」

砂浜の中から巨大なバッタのモンスターが私の場に出現する

ハウリング・インセクト
レベル３地属性
昆虫族
攻撃力１２００守備力１３００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた時、デッキから

攻撃力１５００以下の昆虫族モンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。その後デッキをシャッフルする。

「さらにリバースカードを1枚伏せてターンエンドですわ」

誠
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

レオナ
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ハウンリング・インセクト
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、いけ“マンモ・フォッシル”」

ゴゴゴゴっと誠さんの足下が大きく揺れ砂を大量に含んだマンモスのゾンビが出現する

体が完全に浮かび上がったと同時にその体の隙間から砂が大量に流

れ出てきています

マンモ・フォッシル
レベル４地属性
岩石族
攻撃力１８００守備力０
効果
このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、相手ライフに４００ポイントダメージを与える。

「バトル、マンモ・フォッシルでハウリング・インセクトに攻撃」
誠さんの場のマンモフォッシルのアゴから岩石が発射され私の場のハウリング・インセクトを押しつぶし破壊する

マンモ・フォッシル　攻撃力１８００＞ハウリング・インセクト守備力１３００

「ハウリング・インセクトの効果発動、デッキから攻撃力１５００以下の昆虫族モンスター1体を連れてこれます、私は“アルティメット・インセクト～レベル３～”を守備表示で特殊召喚しますわ」

デッキからカードが1枚飛び出てくる
それをデュエルディスクにせっとすると私の場に銀色の甲殻に身を包んだ虫が出現する

アルティメット・インセクト～レベル3～
レベル3風属性
昆虫族
攻撃力１４００守備力９００
効果
“アルティメット・インセクト～レベル1～の効果で特殊召喚した場合、このカードがフィールド上に存在する限り、全ての相手モンスターの攻撃力は３００ポイントダウンする。自分のターンのスタンバイフェイズ時、表側表示のこのカードを墓地に送る事で“アルティメット・インセクト～レベル5～”1体を手札またはデッキから特殊召喚する（召喚・特殊召喚・リバースしたターンを除く）。

「だったらこっちもマンモ・フォッシルの効果発動、相手モンスターを戦闘破壊した時相手に４００ポイントのダメージを与える」

レオナ
ＬＰ４０００－４００＝３６００

先制点は取られてしまいましたか

「俺はリバースを1枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　マンモ・フォッシル
魔法トラップ　リバース×１

レオナ
ＬＰ３６００
手札４枚
モンスター　アルティメット・インセクト～レベル３～
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、スタンバイフェイズに私のアルティメット・インセクトはレベルアップいたしますわ」

私の場の銀の甲殻の虫の背中が割れ始めそこから一回り大きな虫のモンスターが飛び上がり私の場に降り立つ

アルティメット・インセクト～レベル５～
レベル５風属性
昆虫族
攻撃力２３００守備力９００
効果
“アルティメット・インセクト～レベル３～”の効果で特殊召喚した場合、このカードがフィールド上に存在する限り、全ての相手モンスターの攻撃力は５００ポイントダウンする。自分のターンのスタンバイフェイズ時、表側表示のこのカードを墓地に送る事で“アルティメット・インセクト　～レベル７～”１体を手札またはデッキから特殊召喚する（召喚・特殊召喚・リバースしたターンを除く）。

「アルティメット・インセクト～レベル５～はレベル３の効果で特殊召喚された時相手フィールド上のモンスターの攻撃力を５００下げる能力を身に着けますわ」

マンモ・フォッシル
攻撃力１８００→１３００

「さらに“インセクト・ナイト”を召喚」

ザシュっと大きな剣が天から落下し砂浜に突き刺さる

そして魔方陣のようなものが発生しそこから二足歩行の昆虫が出現しその剣を引き抜き天にかかげる

インセクト・ナイト
レベル４地属性
昆虫族
攻撃力１９００守備力１５００
効果なし

「バトル、インセクト・ナイトでマンモ・フォッシルに攻撃」

鎧をまとった二足歩行の昆虫が誠さんの場のマンモ・フォッシルに向かって飛んでいく

「リバース発動“収縮”」

収縮
速攻魔法
フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターの元々の攻撃力はエンドフェイズ時まで半分になる。

「収縮の効果でインセクト・ナイトの攻撃力を半減するぜ」

誠さんの場の魔法カードから光が放たれそれを浴びた私のインセクト・ナイトがみるみる小さくなっていく

インセクト・ナイト
攻撃力１９００→９５０

「迎え撃てマンモ・フォッシル」

まるでハエのごとく小さくなったインセクト・ナイトを飲む込んでしまうマンモ・フォッシル

インセクト・ナイト　攻撃力９５０＜マンモ・フォッシル　攻撃力１３００

レオナ
ＬＰ３６００－３５０＝３２５０

「そしてマンモ・フォッシルの効果で４００ポイントのバーンダメージを与える」

レオナ
ＬＰ３２５０－４００＝２８５０

「しかし、私のモンスターは残っていますわ、アルティメット・インセクト～レベル５～でマンモ・フォッシルに攻撃」

巨大な昆虫の背中に羽が展開される

そしてその羽ではばたきだし誠さんの場のゾンビのマンモスを体当たりで粉砕する

いささかエレガントさが足りない攻撃ですね

アルティメット・インセクト～レベル５～　攻撃力２３００＞マンモ・フォッシル　攻撃力１３００

誠
ＬＰ４０００－１０００＝３０００

「できれば、そっちから攻撃してほしかったね」

「そんな初歩的なプレミはいたしませんわ、これでターンエンドです」

誠
ＬＰ３０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

レオナ
ＬＰ２８５０
手札４枚
モンスター　アルティメット・インセクト～レベル５～
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、モンスターを裏守備でセットしリバースを１枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ３０００
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

レオナ
ＬＰ２８５０
手札４枚
モンスター　アルティメット・インセクト～レベル５～
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、このスタンバイフェイズにアルティメット・インセクトが更なる進化をとげますわ」

アルティメット・インセクトの体がムクムクと大きくなっていく

アルティメット・インセクト
レベル７風属性
昆虫族
攻撃力２６００守備力１２００
効果
“アルティメット・インセクト～レベル５～”の効果で特殊召喚した場合、このカードが自分フィールド上に存在する限り、全ての相

手モンスターの攻撃力・守備力は７００ポイントダウンする。

「さらに“クロスソード・ハンター”を攻撃表示で召喚」

地面が大きく膨れ上がりそこから４本角のクワガタムシが出現するフィールドに出ると同時に体に付いた砂をほろうかのように体をふるわせる

クロスソード・ハンター
レベル４風属性
昆虫族
攻撃力１８００守備力１２００
効果
自分フィールド上にこのカード以外の昆虫族モンスターが存在する場合、自分フィールド上に存在する昆虫族モンスターが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「クロスソード・ハンターの効果で私の場の昆虫族モンスターに貫通効果を与えますわ」

「まずいねぇ、相手モンスターのステータスを落とすアルティメッ

ト・インセクトに貫通効果を与えるクロスソード・ハンター……面白いコンボだ」

「お褒めに上がり光栄ですわ、それではバトル、クロスソード・ハンターで裏守備モンスターに攻撃」

「俺のモンスターは“巨大ネズミ”だ」

巨大ネズミ
地属性レベル４
獣族
攻撃力１４００守備力１４５０
効果
このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力１５００以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

誠さんの場の裏守備カードが表になりネズミがドクロをかかえた状態でモンスターが出現する

ですが次の瞬間私のクロスソード・ハンターの角にからまれる

「アルティメット・インセクトの効果でステータスが下がりますわ」

巨大ネズミ
守備力１４５０↓７５０

「巨大ネズミ粉砕ですわ」

４本の角がギチギチと閉められていき巨大ネズミの体を粉砕する

クロスソード・ハンター　攻撃力１８００　巨大ネズミ　守備力７５０

誠
ＬＰ３０００－１０５０＝１９５０

「巨大ネズミの効果発動、わかっているとおもうが俺が連れてくるのは“激昂のムカムカ”だ」

ズズズズっと巨大な岩石が誠さんのフィールドに浮かび上がってくる

そしてその岩が割れて中から岩のような甲羅を背負った巨大な蟹が

出現する

激昂のムカムカ
地属性レベル５
攻撃力１２００守備力６００
自分の手札１枚につき、このカードの攻撃力・守備力はそれぞれ４００ポイントアップする。

「俺の手札は３枚、よってムカムカの攻撃力は２４００になる」

激昂のムカムカ
攻撃力１２００→２４００

「ですが私のアルティメットインセクトの戒めを受け攻撃力が下がりますわ」

激昂のムカムカ
攻撃力２４００→１７００

「バトルフェイズ続行、アルティメット・インセクトで激昂のムカ

ムカに攻撃」

アルティメット・インセクトの背中から大量の虫が出現し誠さんの激昂のムカムカに向かって飛び始める

「アルティメット・インセクトの攻撃宣言時速攻魔法“虚栄巨影”発動」

虚栄巨影
速攻魔法
モンスターの攻撃宣言時、フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する事ができる。選択したモンスターの攻撃力は、そのバトルフェイズ終了時まで1000ポイントアップする。

「その効果で激昂のムカムカの攻撃力を1000ポイントアップさせる」

誠さんの場の魔法カードから黒い影が飛び出しムカムカの陰とくっつきとてつもなく大きなシルエットと化す

そしてその影を見た虫達がいっせいに散り始めどこかへと消え去ってしまいます

激昂のムカムカ
攻撃力１７００→２７００

「反撃の“アングリー・ブロー”！！！」

そしてムカムカの腕が大きく振り上げられ私のアルティメット・インセクトの体に叩きつけその体を砂の海に沈めてしまった

アルティメット・インセクト～レベル７～　攻撃力２６００＜激昂のムカムカ　攻撃力２７００

レオナ
ＬＰ２８５０－１００＝２７５０

「私の最上級モンスターをやるなんて」

おまけに相手モンスターのステータスを下げていたアルティメット・インセクトが消滅した事で誠さんの場のモンスターも本来の力を取り戻してしまいます

激昂のムカムカ
攻撃力１７００→２４００

「やっと厄介なモンスターがいなくなったか、その代償としてこっちは色々と失っちまったけどな」

確かにまだＬＰも手札もこっちが上

ですが私の場にモンスターが１体

向こうの場にもモンスターが１体のみですが上級モンスター

「私はリバースを１枚伏せてターンエンドですわ」

誠
ＬＰ１９５０
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　なし

レオナ
ＬＰ２７５０
手札３枚
モンスター　クロスソード・ハンター
魔法トラップ　リバース×２

「俺のターン、いっけ～～“モアイ迎撃砲”」

ズズズズっと砂浜の中から人の顔をかたどった石像が浮かび上がってくる

モアイ迎撃砲
地属性レベル４
岩石族
攻撃力１１００守備力２０００
効果
このカードは１ターンに１度裏側守備表示にする事ができる。

「バトル、激昂のムカムカでクロスソード・ハンターに攻撃」

誠さんのムカムカと私のクロスソード・ハンターがフィールドの中央でぶつかり合う

ハサミと角、それぞれの武器が絡み合う

ですがムカムカに私のモンスターがグイグイと押されていきその体を砂浜に沈められる

激昂のムカムカ　攻撃力２４００＞クロスソード・ハンター　攻撃力１８００

レオナ
２７５０－６００＝２１５０

「そして追撃の“イースターレーザーキャノン”！！！」

「ック」

誠さんの場のモアイ迎撃砲の口の中に光が収束していきそれらが一つの光線となって私の体を貫く

モアイ迎撃砲　攻撃力１１００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

レオナ
ＬＰ２１５０－１１００＝１０５０

まずいですわ

さっきまで優勢だったのに激昂のムカムカが展開してから完全に状況がひっくり返されてます

これが誠さんのデュエル

「メイン2でモアイ迎撃砲を自身の効果でセット状態にしターンエンドだ」

誠
ＬＰ１９５０
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ、裏守備×１
魔法トラップ　なし

レオナ
ＬＰ１０５０
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

「私のターン、永続魔法“虫除けバリアー”発動」

私と誠さんの間に光のラインが数本走り境界線のようなものを作り上げていく

虫除けバリアー
永続魔法

相手フィールド上に表側表示で存在する昆虫族モンスターは攻撃宣言をする事ができない。

「私はモンスターを1体裏守備でセットしターンエンド」

誠
ＬＰ１９５０
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ、裏守備
魔法トラップ　なし

レオナ
ＬＰ１０５０
手札２枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　虫除けバリア、リバース×２

「俺のターン、手札が1枚増えてムカムカの攻撃力が上昇」

激昂のムカムカ
攻撃力２４００→２８００

「さらに、モアイ迎撃砲を反転召喚してバトル、ムカムカで裏守備モンスターに攻撃」

「わかっているとは思いますが永続トラップ発動“ＤＮＡ改造手術”」

ＤＮＡ改造手術
永続トラップ
種族を１つ宣言して発動する。このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上に表側表示で存在する全てのモンスターは宣言した種族になる。

「私は昆虫族を宣言しますわ」

ＤＮＡ改造手術のカードが激しく光り始める

そしてその光を浴びた誠さんの場の激昂のムカムカとモアイ迎撃砲の背中に昆虫の羽根が生え始める

激昂のムカムカ

岩石族→昆虫族

モアイ迎撃砲

岩石族→昆虫族

「そして虫除けバリアにはじかれるわけか」

私の場のモンスターに向かっていた激昂のムカムカでしたが私達の間のバリアにはじかれ誠さんの

フィールドに転がり戻っていく

「虫除けバリアをはったんだからやっぱそれが伏せてあったか、とりあえずメイン2でモアイ迎撃砲を裏守備に戻すぜ、そしてリバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

激昂のムカムカ

攻撃力２８００→２４００

誠

ＬＰ１９５０

手札３枚

モンスター　激昂のムカムカ、裏守備×１

魔法トラップ　リバース×１

レオナ
ＬＰ１０５０
手札２枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　虫除けバリア、ＤＮＡ改造手術、リバース×１

「私のターン、モンスターを生け贄に“セイバー・ビートル”を召喚」

突如私の場の裏守備カードに紐のようなものがからみはじめ繭のようなものに変化する

そしてその眉の中から角が光り輝くヘラクレスオオカブトが誕生する

セイバー・ビートル
レベル６地属性
昆虫族
攻撃力２４００守備力６００
効果
このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「バトル、セイバー・ビートルで裏守備モンスターに攻撃」

ピョ～～～～ンと大きく飛び上がるセイバー・ビートル

そしてその角が誠さんの場の裏守備モンスターのカードを貫く

「知ってると思うがモアイ迎撃砲だ」

セイバー・ビートル　攻撃力２４００＞モアイ迎撃砲　守備力２００

誠

ＬＰ１９５０－４００＝１５５０

「ック、これはまずいな」

「私はこれでターンエンドですわ」

誠

ＬＰ１５５０

手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×１

レオナ
ＬＰ１０５０
手札２枚
モンスター　セイバー・ビートル
魔法トラップ　虫除けバリア、ＤＮＡ改造手術、リバース×１

「俺のターン、ムカムカの攻撃力が上昇するが攻撃できないのは痛いな……おまけに貫通もちのカードがいるからむやみに守備表示でモンスターを出す事さえできない、俺はリバースを１枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ１５５０
手札３枚
モンスター　激昂のムカムカ
魔法トラップ　リバース×２

レオナ
ＬＰ１０５０
手札２枚
モンスター　セイバー・ビートル
魔法トラップ　虫除けバリア、ＤＮＡ改造手術、リバース×１

「私のターン」

う～～～ん、いまいち手札のモンスターがさえません

虫除けバリアーとＤＮＡ改造手術があるのでセイバー・ビートルと
激昂のムカムカを同士討ちさせ直接攻撃に持ち込むという選択肢も
ありますが

ですが私のＬＰは１０５０

あまり冒険できる数値でもなく

かといって手札が増えるごとに攻撃力を増やしていく激昂のムカム
カをこれ以上野放しにするのも危険

ここは思い切って

「バトル、セイバー・ビートルで激昂のムカムカに攻撃」

再び舞い上がる私のヘラクレスオオカブト

今度は激昂のムカムカの体に飛び掛りその体を切断する

だがセイバー・ビートルも無傷ではすまずその体に激昂のムカムカ
の角が何本か刺さり互いの体が爆散する

セイバー・ビートル　攻撃力２４００＝激昂のムカムカ　攻撃力２４００

「メイン2に私はモンスターを裏守備でセットしターンエンドですわ」

誠
ＬＰ１５５０
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

レオナ
ＬＰ１０５０
手札２枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　虫除けバリア、ＤＮＡ改造手術、リバース×１

「俺のターン“ビック・ピース・ゴーレム”を召喚」

先ほど倒したはずのモアイ迎撃砲が再び誠さんの場に出現する
そしてその顔をひっくり返すと裏側にも顔がありそこから手足がはえビック・ピース・ゴーレムの姿となる

ビック・ピース・ゴーレム
レベル５地属性
岩石族
攻撃力２１００守備力０
効果
相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードはリリースなしで召喚する事ができる。

「バトルフェイズに入る」

「バトルフェイズに入っても誠さんのフィールド上のモンスターは私のＤＮＡ改造手術と虫除けバリアーの効果で攻撃は封じられていますわ」

うねうねうねっと生々しい音を上げながらビック・ピース・ゴーレムの背中に虫の翼が生えてくる

ビック・ピース・ゴーレム
岩石族→昆虫族

「残念だったな、リバース発動永続トラップ“王宮のお触れ”」

王宮のお触れ
永続トラップ
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカード以外のフィールド上の罠カードの効果を無効にする。

「王宮のお触れの効果でＤＮＡ改造手術の効果を無効にさせてもらうぜ」

ビリビリっと私のＤＮＡ改造手術のカードに電流が走る

そして先ほどビック・ピース・ゴーレムの背中にはえた虫っぽい羽が消滅していく

ビック・ピース・ゴーレム

昆虫族→岩石族

「これで虫除けバリアーを突破できる、バトルだビック・ピース・ゴーレムで裏守備モンスターに攻撃」

「私のモンスターは“ダニポン”ですわ」

私の場の裏守備モンスターが表になりつぶらな瞳の少しデフォルトされたダニっぽいモンスターが出現する

ダニポン
レベル２地属性
昆虫族
攻撃力６００守備力６００
効果
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキから守備力１０００以下の昆虫族モンスター１体を手札に加える事ができる。

私のモンスターはあっさりと誠さんの顔面岩モンスターに押しつぶされる

ビック・ピース・ゴーレム　攻撃力２１００＞ダニポン　守備力６００

「ダニポンの効果発動、デッキから守備力１０００以下の昆虫族モンスターを１体手札に加えます、私は“チェーンソー・インセクト”を手札に加えますわ」

「お、中々リスキーなカードを使うんじゃないか、俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ１５５０
手札３枚
モンスター　ビック・ピース・ゴーレム
魔法トラップ　王宮のお触れ、リバース×１

レオナ
ＬＰ１０５０
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　虫除けバリア、ＤＮＡ改造手術、リバース×１

「私のターン、チェーンソー・インセクトを召喚」

まがまがしい機械音と共に角のかわりに取り付けられたチェーンソーを唸らせながら半分機械族が入った昆虫モンスターが出現する

チェーンソー・インセクト
レベル４地属性
昆虫族
攻撃力２４００守備力０
効果
このカードが戦闘を行った場合、ダメージステップ終了時に相手プレイヤーはカード１枚をドローする。

「バトル、チェーンソー・インセクトでビック・ピース・ゴーレムに攻撃」

ギリギリギリっとチェーンソーのハサミがビック・ピース・ゴーレムの体を挟み込む

そして火花を激しく散らしながらその体を真っ二つに切り裂いていきました

チェーンソー・インセクト　攻撃力２４００＞ビック・ピース・ゴーレム　攻撃力２１００

誠
ＬＰ１５５０－３００＝１２５０

「だが、強力なカードにはリスクが伴う…チェーンソー・インセクトの効果で俺はデッキからカードを１枚ドローできるぜ」

これは少々まずいかもしれませんわね

この局面で１枚ドローさせる

このドローで戦局が完全にゆれるかもしれません

かといって王宮のお触れのせいでトラップカードによる反撃ができない

「私はこれでターンエンドですわ」

誠
ＬＰ１５５０
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　王宮のお触れ、リバース×１

レオナ
ＬＰ１０５０
手札３枚
モンスター　チェーンソー・インセクト
魔法トラップ　虫除けバリア、ＤＮＡ改造手術、リバース×１

「俺のターン、モンスターを裏守備でセットしてターンエンドだ」

誠
ＬＰ１５５０
手札３枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　王宮のお触れ、リバース×２

レオナ
ＬＰ１０５０
手札３枚
モンスター　チェーンソー・インセクト
魔法トラップ　虫除けバリア、ＤＮＡ改造手術、リバース×１

「私のターン」

これはアレでしょうか？

誠さんは自分の王宮のお触れに苦しめられている

「このデュエルいただきます、墓地に眠る昆虫族モンスターを2体除外しデビルドーザーを特殊召喚いたします」

私の場に先ほど破壊されたハウンリング・インセクトとダニポンの死骸が出現する

そして砂の中から謎の腕が出現し地中の引きずり込む

その後ベキとかバキなどの何か硬いものを粉砕する音が数回した後砂の中からおぞましいムカデが出現する

デビルドーザー
レベル８地属性
昆虫族
攻撃力２８００守備力２６００
効果
このカードは通常召喚できない。自分の墓地の昆虫族モンスター２体をゲームから除外した場合のみ特殊召喚する事ができる。このカードが相手ライフに戦闘ダメージを与えた時、相手のデッキの上からカードを１枚墓地へ送る。

「このターンでいただきますわ、デビルドーザーで裏守備モンスターに攻撃」

「俺のモンスターは“メタモルポット”だ」

メタモルポット
地属性レベル２
岩石族
攻撃力７００守備力６００
効果
リバース：お互いの手札を全て捨てる。その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを５枚ドローする。

おぞましいムカデが土煙を上げながら疾走する
そしてその巨体で誠さんの表側になったメタモルポットを踏み潰し破壊する

デビルドーザー　攻撃力２８００＞メタモルポット　守備力６００

「メタモルポットの効果発動、互いのプレイヤーは手札を全て墓地に送りデッキから新たに５枚ドローする」

手札交換カード、目的はきっとあの切り札を手札に持ってくる事と

墓地を肥やすこと
ですが、その豊富な手札使う前に決めさせてもらいますわ
「私は今手札から墓地に送られたドクロがん・レディバグの効果を発動しますわ」

ドクロがん・レディバグ
レベル４地属性
昆虫族
攻撃力５００守備力１５００
効果
このカードが墓地に送られた時、自分は１０００ライフポイント回復する。

「効果でＬＰを１０００回復しますわ」

レオナ
ＬＰ１０５０＋１０００＝２０５０

「そしてチェーンソー・インセクトで直接攻撃」

残った昆虫族モンスターが誠さんに向かって飛翔する

「リバース発動、速攻魔法“死者への供物”」

死者への供物
速攻魔法
フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を破壊する。次の自分のドローフェイズをスキップする。

誠さんの場に突如聖は移動のようなものが出現する

そしてそこから一筋のレーザーが放たれ私のチェーンソー・インセクトを破壊する

「なるほど、王宮のお触れでトラップを封じ魔法メインのデッキで攻めていくデッキですね」

「そういう事だ」

まずいですわ、次のターンどんな反撃が待っているのか

「私はこれでターンエンドですわ」

誠
ＬＰ１５５０
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　王宮のお触れ

レオナ
ＬＰ２０５０
手札５枚
モンスター　デビルドーザー
魔法トラップ　虫除けバリア、ＤＮＡ改造手術、リバース×１

「俺のターン、決めさせてもらうぜレオナ」

やはり先ほどの５枚ドローで切り札をひいていたようですわ

「俺は墓地に眠る６枚除外して“メガロック・ドラゴン”を特殊召喚するぜ」

誠さんのフィールドに巨大な岩肌のドラゴンが地中より浮上する

メガロック・ドラゴン

地属性レベル７
岩石族
攻撃力?守備力?
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる。

「俺は６体除外したので攻撃力は４２００になるぜ」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?→４２００

ですが私の場には攻撃力２８００のデビルドーザーがいます
たとえデビルドーザーが攻撃されてもダメージは１４００
まだ私はやられない

「さらに墓地に存在する“スキル・サクセサー”の効果発動」

スキル・サクセサー
通常トラップ

自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。このターンのエンドフェイズ時まで、選択したモンスターの攻撃力は４００ポイントアップする。また、墓地に存在するこのカードをゲームから除外する事で、自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体の攻撃力はこのターンのエンドフェイズ時まで８００ポイントアップする。この効果はこのカードが墓地へ送られたターンには発動する事ができず、自分のターンのみ発動する事ができる。

「墓地に眠るこのカードをゲームから除外しメガロック・ドラゴンの攻撃力を８００ポイント上昇させる」

メガロック・ドラゴン
攻撃力４２００→５０００

「やられましたわ、フィールド上のトラップは効果を無効にされていますが墓地で発動するカードは別」

おそらく先ほどのメタモルポットの効果で墓地に送ったのでしょう

「あぁ、そして攻撃力が上がったメガロック・ドラゴンでデビルドーザーを攻撃“アースカノン・インフェルノ”！！！！！！」

誠さんのメガロック・ドラゴンが発熱しだし全身から蒸気が吹き出

てくる

そして真っ赤な火の玉と化して私の場のデビルドーザーに飛んできて炎を巻き上げながら全てを飲み込んでいった

メガロック・ドラゴン　攻撃力５０００＞デビルドーザー　攻撃力２８００

レオナ
ＬＰ２０５０－２２００＝－１５０

「オッシャ～～～、レオナ…熱く楽しいデュエルだったぜ」

「私も、楽しかったですわ」

互いの健闘をたたえ硬く握手する

このデュエルでわかりました

私は……

「っというわけで今度誠さんのこの想いを告げようと思います」

「へ～～～、フ～～～ン、そうなんだ～」

いつもの放課後のティータイム

雪さんと冥衣さんとお茶を楽しむ時間にこの間の誠さんとのデュエルを2人に話す

冥衣さんは平静を装っているつもりでしょうがティーカップがありえないくらい小刻みに震えています

「でもレオナさん、確かフィアンセがいませんでしたか？」

「大丈夫です、誠さんならきっと正臣さんを再起不能になるまでケチョンケチョンにしてくれますわ」

「……レオナさんって意外と鬼なんですね」

「でも、意外よね…レオナが誠に惹かれるなんて」

「えぇ、自分でも不思議に思っています、冥衣さん…私は負ける気はありませんので」

「なななななななんで私にそんな事言うのかわけがわからないのだけれども」

動揺してスプーンでなくティーカップを回しだす冥衣さん

そして次の日の放課後

「さて、冥衣さんは何かアクションを起こしたのでしょうか？」

しかし私も意地の悪い女性だと思います

私があんな事言えばきっと冥衣さんは誠さんに想いを告げる

むしろ、あぁでもしないと冥衣さんは誠さんに告白をしなかったと思います

そして、もし冥衣さんがふられたら私が告白しよう

決して冥衣さんを自滅させようとしているわけではない

1年近く自らの想いに言い訳をしごまかし続けていましたが冥衣さんは誠さんが好きです

それなのについ最近好きになった私から告白するのはチョットずるいと思いまして

もし誠さんが冥衣さんの告白をＯＫしたのならそれはそれで私は嬉しい

誠さんは私が大好きな男性

冥衣さんは私の大切な親友

そんな２人が幸せになれるのだから、私としては問題はないですが、私は冥衣さんがふられて私と結ばれて欲しいと思っている

「本当に、酷い話ですわ」

「ＰＲＲＲＲＰＲＲＲＲ」

などと黄昏ているとＰＤＡが鳴り出す

「メール、差出人は冥衣さん」

メールには“体育館裏に来て欲しい”

っとだけ書かれてあった

「ここですわね」

体育館裏についてみるとそこに冥衣さんが一人泣きじゃくっていました

「冥衣…さん？」

声を掛けると顔を上げだす冥衣さん

その目は真っ赤に充血し涙でくしゃくしゃになった顔はお世辞にも見ていられるものではありませんでした

「レ、レオナ～～」

どうやら誠さんに告白をしたみたいですね

そして、玉砕してしまったようです

しかし体育館裏で告白とはずいぶんと古風な

「私、誠に…ふられちゃった」

「そうですか」

今にも泣き出しそうな冥衣さんの体をそっと抱きしめる

ただでさえキャシャな体がその時は想像以上にか細く感じました

「誠、私の事はライバルであるけど…恋人とかは、作る気がないって……二次元の女の子しか恋愛対象でないって」

誠さん、精神が悪い意味で致命的ですわね

普通気のない女の子でも告白されれば多少は揺らぐものだというのに

しかし、敵は想像以上に強敵のようですわね

「でも、誠……これからもいい好敵手としてよろしくなって、言ってくれて」

その言葉を最後に再び泣きじゃくる冥衣さん

その日の晩まで私は冥衣さんに付きっ切り慰め続けた

そしてさらに翌日

冥衣さんもすっかり落ち着きを取り戻し次は私が告白しようと思います

冥衣さんと同じく体育館裏に来るようにメールを送ったのですが

今度は差出人の名前も書きましたし大丈夫です

しかし、すごく緊張します

冥衣さんもこんなに緊張していたのでしょうか

「俺、参上」

「！！！！！！！！！」

またしても心の準備ができてないのにこの人は

相変わらず空気が読めないというか神出鬼沈というか

「おう、レオナ…なんだこんなところに呼び出して、かつあげか？言っておくがジャンプしても小銭の音はしないぜ」

「いつの時代のヤンキーですか、今の子供にわからないネタは自重しなさい」

この人本当に高校生でしょうか？まぁそのネタを理解した私もどうかと思いますが

「本題に入ってもよろしいでしょうか？」

「あぁ、いいぜ」

「その、私は……あのですね……その……いえ、こんなの私らしくないですわね」

1度深呼吸をし精神を整える

「私は、誠さんが好きです…友として出なく…一人の男性として」

言ってしまった、言ってしまいましたわ

心臓がありえないくらい早まり今にも爆発しそうですわ

「なんか、最近流行ってるのか…告白が」

「誠さん、答を聞きたいのですが」

「そう……だな」

わざとらしくむせ私と向き合う誠さん

先ほどの少しふざけた表情が一変し完全にまじめな表情へと変った

「ゴメン、してると思うけど俺…二次元の女性しか愛せないんだ」

しかし、話を聞いてたとはいえあんなまじめな顔ですごい事口走ってますねこの非リア充

「だから君とは……！！！！」

誠さんの面を喰らった顔が私の視界全体に広がる

きっと、私もものすごい顔をしているかもしれない

単刀直入にいてしまえば強引にキスをしてしまいました

唇を奪う、っというより強奪の領域ですけれども

「な、何を」

我に返り唇を離す誠さん

ですが腕でしっかり首をホールドしているので離れきれず視界いっぱいにその慌てふためいた顔が映ります

これは、いいものですわね

「虚言しか吐き出さない迷惑な口ですので、ふたをしようかと」

「いや、それはおかしくな……！！！」

再び何か言おうとした誠さんでしたがその口を再びふさぐ

体育館裏に互いの唇の生々しい音だけが響き渡る

「ング、チョット待ってってレオナ」

「なんです、誠さん」

「何度も言うが俺は二次元の女性しか愛せない、だから君を愛す事はできないんだ」

「えぇ、誠さんがそういった特殊な思考を持ったかただというのは知ってますわ」

先ほどのディープなものとは違い今度はついばむような軽いキスをする

「ですから、その思考を私が書き換えてあげますわ」

「え、チョ・・・おま」

数分後

今誠さんは私の膝枕で静かに寝息を立てています

一応説明しておきますが決してＲ－１８の世界には足を突っ込んではいません

まぁ、私的にはそれでもかまわなかったのですが

残念ながら私の猛攻に耐え切れず気絶をしてしまったようです

「ですが、静かな寝顔ですね」

普段はあんなに雄雄しいギラギラした目をする人ですが寝顔だけは穏やかのようです

軽く頭をなでるとそれに反応して首を動かす誠さん

「意外と、かわいらしい面もあるのですね」

最後に前髪を掻き分けおでこに軽く口づけをする

さらに数ヵ月後

半分強引に私の方から既成事実を作った私達は付き合うこととなりました

まぁ、世間様から見ればあまりほめられた事ではないかもしれませんが

非人間的未来を行こうとしていた若者を救済したのです、むしろ胸を張ってしまいましょう

そんな誠さんと私は今船の上にいる

「意外と、落ち着いているのですね」

「まぁな、挨拶前に慌てふためいてもしょうがないし」

今日は3連休の初日

この連休で私は誠さんと両親の所に挨拶に行こうと決め今に至ります

しかし、少しぐらい動揺してもいいのではないでしょうか

「って、誠さんタバコを逆に逆にくわえてますわ」

「……」

「いえ、そもそもなんでタバコを?未成年じゃないですか」

「とりあえず動揺を表現しようと思って」

意外と動揺をしているのでしょうか?

「そう身構える必要もないですわ、私の両親はいたって普通の両親ですので」

「たとえ相手が令嬢の親御さんでも、貧民の親御さんでも普通は緊張するもんなんだよ」

「まったくしっかりしてください、誠さんは今日私のお父様お母様と挨拶した後フィアンセの正臣さんと私の婚約権をかけて文字通り決闘してもらいますのですから」

「え!?チョット待ってくれ、そんな話聞いてないぞ、誰?フィアンセって初耳なんだけど」

「えぇ、聞かれなかったので初耳のはずですわ」

「この現代っ子め~~~~」

ありえないくらい腰をそらしさらにツイストし始める誠さん

「まったく、誠さん」

「今度は何だ……！！！」

隙を突き誠さんの唇を奪う

駄々っ子をおとなしくするのに1番有効な手段で

「大丈夫ですわ、あなたには勝利の女神がついているのですから」

「勝利の女神というより、淫乱の女神の方が正しいと思うが」

「……」

「痛い痛い痛い、アームロックは地味に痛いって」

まったくこの人は、少しは女心と言うものを学んで欲しいものです

「しっかしレオナ、最近笑うようになったな」

「何ですの急に」

「最近思ったんだ、前はどこか冷めていた表情ばかりしていて…なんつーか、自分は輪の中に入れずずっと観覧する者だ的なオーラを放っててさ、でも最近本当に笑うようになったって思う」

「それもこれも全て、誠さんのおかげですわ」

あなたといるといろんなことが見えてくる

あなたといると自分が変っていく

あなたのおかげで今の私がいる

本当にありがとうございます

「誠さん」

「再び何だ」

「心の底から……あなたを愛してますわ」

これからも、ず～～っと一緒です、誠さん

１００万アクセス記念番外編～お嬢様だけど別にツンデレじゃない～（後書き）

とりあえず言わせてください。

「どうしてこんなにエロくなった！！？？」

元々最近自分の中で株が急上昇しているレオナメインの話を書きたいと思っていたのですが何でこんなにラストがエロくなった？最近エロゲ控えていてその反動であろうか（自問自答）

それとやっぱお嬢様キャラって書きづらいです、誰だよレオナをお嬢様キャラに仕立て上げたの、ハイ私です。元々レオナは使い捨てキャラでレギュラー化する予定はなかったんですけどね。

しかもレオナはうめ吉さんの世界にゲスト出演する予定がありますので、この小説でうめ吉さんもレオナのキャラをつけめればいいのですが

「でも肝心の作者さんがつかめなければ伝えようがないと思うのですが」

っぐ、痛いところを

「それと一つ言いたかったのですが私の使用デッキ植物族デッキと昆虫族デッキってあまりお嬢様キャラに会わないと思うのですが」

安心しろ、東園寺から受け取ったライロデッキは十分お嬢様っぽいから

「そんな裏設定があったのですね」

ふと思えばもう１１月、誠達が２年に上がるの来年になるな（遠い目）

それでは皆さんまた会いましょう、冬将軍でした。

コラボその2～鋼と鋼のぶつかり合い、まさにガンダムファイト～（前書き）

今日けいおん！の映画を見に行きました。いや～～いい映画だった、もう少ししたら仮面ライダーのムービー大戦メガミックス。そして冬コミ……さぁ、満足させてもらおうか。

来年はゴーカイジャーＶＳギャバンにウルトラサーガ、さらになのはの映画も……

「作者さん、前書きは作者の近状報告の場じゃないんです、早く本編に入ってください」

「シルビア！！！！」

今回は蛇さんの小説“遊戯王　鋼鉄の旅人”とのコラボ小説第２弾です。それではどうぞ。

コラボその2～鋼と鋼のぶつかり合い、まさにガンダムファイト～

「お～～～い、誠、入るぞ」

誠と真間の部屋のドアがノックされ開放される

そこには年中雪だるま姿の作者が立っていた

「って、アレ？真間だけか？」

部屋の中には誠の姿がなく真間が一人デッキをいじっていた

「アレ？たしかこの作品の作者だったっけか？」

「おう、真間……誠がどこに行ったか知ってるか？」

「出かけたぞ、何でも角川書店って所に行って全力で謝ってくるって言ってた」

「角川書店？何故？とりあえず電話でもするか」

どこからともなく携帯電話を取り出しコールをする

「ＰＲＲＲＰＲＲＲＰＲＲＲ、もしもし小野寺です」

「久しぶりだな誠、作者だ」

「おひさし、つーかどうした？」

「いや、チョットお前に用事があって今レッド寮の部屋に来ているんだけどお前今どこにいる」

「角川書店の前だ」

「何故？」

「俺は浅はかだった、“そらのおとしもの”のＤＶＤを見て開始２０分で“このエロアニメはダメすぎる”っと思ってしまった、だが最後まで見てみたらなんてすばらしいアニメなんだと改心した」

チラっと作者がテレビの方を見てみると“そらのおとしもの”のＤＶＤが山積みになっていた

「そういやぁお前に貸したっけこのＤＶＤ」

「とりあえず俺は今から製作者全員に謝罪しまくってくる」

「いや、これから蛇さんとコラボデュエルが始まるから戻って来い」

「すまない作者、お前も知っているだろう……俺が１度やろうとした事は決して曲げないバリバリにメタルな男だと、彦星のごとくたとえ想い人と１年に１度しか出会えなくなるとしても俺は角川書店さんに謝罪する……そういえば作者、仮面ライダー電王トリロジーエピソードレッド～ゼロノス編～のＤＶＤ持ってない？スッゲー見たいんだけど」

「いいから戻って来い」

「悪いが戻れない、“ちょびっつと最終兵器彼女をたして２でわっ

たらそらのおとしものになるんじゃね”っという思いが俺の心のどこかにある限りそっちには戻れない……アレ？なんだ？赤い軌道のミサイルが大量に飛んでき……」

「ズドドドドドド～～～ン、ツーツーツー」

「……さよならだ、誠」

携帯を折りたたみ地面に置き手を合わせる冬将軍

「しかし困ったな、誠が永久追尾空対空弾～アルテミス～に打ち抜かれたとなるとコラボのデュエルストをどうするかだ」

「なぁ作者、さっきから何を言っているのか全然わからないんだが」

「……そうだ、真間」

「とりあえずすごくいやな予感しかしないがなんだ」

「異世界のデュエリストとかに興味ありませんか？」

「キャッチセールスか宗教の勧誘かよ」

「頼む、俺の顔を立てると思って…小説書き同士の付き合いってのもあるんだよ」

「まぁ、デュエルができると言うなら大歓迎だ」

「それじゃあ早速異世界に行ってみようか」

そういってどこからともなくパソコンを取り出し操作し始める冬将軍

「カタカタカタカタカタ」

「座標位置固定、デビゲノム上昇、エネルギー開放、ゲートオープン！！！」

「いや、何かのネタなのかもしれないが俺では突っ込めないぞ」

カチっとエンターキーが押されると同時に部屋の真ん中にワームホールが出現する

「しかしこのゲートに突っ込むのはチョット抵抗があるな」

「大丈夫、全自動でゲートに入れるから」

ゲートを見て少し抵抗がある真間であったが突如そのゲートの中から無数の黒い腕のようなものが伸び始める

そしてそれらの腕が真間の体にまとわりつきずるずるとゲートの中に引きずり込んでいく

「ッチョ、これスゲー怖いんだけど」

「右腕とか持ってかれないように気をつけろよ～～」

「だから俺は突っ込みはできな……」

台詞を言い終える前に大量の腕が真間の全身を包み込みゲートの中に完全に引きずり込む

「……ッハ！！！」

気が付くと真間はどこかの教室のような場所に立っていた

「デュエルアカデミアではないな、ここはどこだ」

2．3回首をふる真間

すると黒板に何かが書かれていることに気が付く

「何々……“シブヤを出ろ”？なんのこっちゃ」

「ガラガラガラ」

「！！！！」

黒板のメッセージを読むと突如教室のドアが開き制服に身を包んだどこかの生徒達が大量に教室内に入ってくる

そして真間を取り囲むかのように生徒達が終結する

「な、なんだよ」

「行ってらっしゃい」

「行ってらっしゃい」

「行ってらっしゃい」

「行ってらっしゃい」

「いや、これは……なんだ」

まるで狂ったかのように“行ってらっしゃい”を連呼する生徒達

そんな死んだ魚の目のような生徒達の間をぬって一人の男が真間の前にやってくる

「旅は道ずれ、ユアーナッシング」

謎の台詞と共に謎の男が手に持った日本刀が振り上げる

「危な！！！」

とっさに危険を察知した真間は座っていたイスごと後退する

すると先ほどまで真間の前においてあった机が綺麗に真っ二つに切り裂かれる

「マジかよ……真剣」

「犬も、歩けば…某角川小説」

今度は日本刀が2、3度宙を舞うと今度は胴をなぎ払うかのように放たれる

「させっか」

尻にひいてたイスを回転させるように持ち替え刀の前に持ち上げる

そして刀の刃部分をせきどめる

だが勢いだけは殺しきれず真間の体が吹き飛ばされる

「ッグ、こいつはまずいね」

手に持っていた変わり果てたパイプイスを放り投げる真間

「かかってきな、日本かぶれ」

拳を2，3度回し力をこめる真間

「能あるタカは…トシにツッコミをいれられる」

「フン」

再び振り上げられる日本刀

だが真間は日本刀を握った拳に自らの左拳をぶつける
そしてあいた右腕の拳を謎の男のみぞおちに叩き込む
「……かって～～」
「フン！！！」
「！！！！！！！」
ひるんだ隙に謎の男が真間の襟元をつかみ壁に叩きつける
「エグ！！！」
「死して、屍を…疲労困憊」
日本刀が逆手にかまえなおされる
その切っ先が真間の喉元に向く
「マジかよ」
「バシュ～～～ン」
日本刀が真間に向かう直前謎の光がどこからともなくやってきて男の日本刀を弾き飛ばす
「ハ～～～～」
「！！！！！」

壁に叩きつけていた真間の体を今度は乱暴に投げ飛ばす謎の男
そして光がやってきた方向を向くと
「ゴホ、ゴホ……ゆ、雪か」
負傷した箇所をかばいながら立ち上がる真間
その視線の先には雪がたっていた
「なんだ、その格好は」
「いえ、これがこの世界の戦う女性の姿らしいのですが」
体の回りには粘土細工っぽい昆虫の甲殻っぽい鎧に身を包んだ雪
すると先ほどの男がどこからともなく長い槍のような物を取り出す
「フェイト／ゼロは名作です、ロックマンゼロも名作です」
ブォンブォンと槍が風を切る音が響く
その姿を見て雪は右腕を前に突き出す
すると腕に張り付いていた甲殻が展開し剣のような姿に変形する
「不肖、牧島　雪……まいります」
先に動いたのは雪だった

雪の剣と化した右腕が男に向かって突き出される

しかし男も手に持った槍の棒の部分でそれを受け止める

そして雪の剣を受け止めたところを軸に槍が大きく旋回する

そのまま槍の刃の部分が雪の頭に向かって落っこちてくる

「ハイ！！！」

しかし刃が雪の脳天を割る事はなくとっさに左腕の甲殻部分で槍の刃を受け止める雪

そして右足を突き刺すように雪が男の懐に蹴りを突き刺す

そして蹴りがヒットした瞬間足に取り付いていた甲殻部分が延び男の体を吹き飛ばす

「ハ～～～～～」

開いた距離を埋めるかのように雪が宙を舞う

体を縦にグルグルと回転させ遠心力が加わった斬撃を男に叩きつける

起き上がり槍で受け止めようとする男であったがその槍ごと男の体が真っ二つに切り裂く

「ヌオォォォォォオオオオ」

断末魔を上げながら男の全身に緑色のアルゴリズム的な数字が浮かび上がり男の体の表面を回転し始める

そして粒子となってその体が霧散し消滅していく

「大丈夫でしたか真間さん」

「あぁ、どうにか助かったぜ雪」

ポンポンとズボンを払いながら立ち上がる真間

「しっかし、すごい格好だな」

「そ、そんなにジロジロ見ないでください、恥ずかしいです」

顔を真っ赤にしてもじもじしだす雪

するとガキンっと金属音と共に甲冑がはずれ3つの勾玉っぽい物体となって宙に消えていく

「ところで雪、その力はどこで？」

「ハイ、実は先ほどこの作品の作者と名乗る人物が突如やってきまして、なんでも真間さんを間違ったところに転送したとか何とかで…って危なそうなので先ほどの装備と謎の袋を渡されたんです」

「そうか、すまないな、こんな迷惑なことに巻き込んでしまって」

「いいえ、いつも助けてもらっているお礼です」

「それとすっかりコスプレキャラが定着してないか」

「それは言わないでください」

少し恥ずかしそうに笑う雪

「それよりも、異世界のデュエリストがいる世界に行きましょう真間さん」

「あぁ、でもどうやって行くんだ」

「そこも作者さんから聞いてます、この教室の机と言う机を全て使ってピラミッドを作れば何でも扉が開かれるとか」

「たぶんなんかのネタだと思うのだが誠でないと突っ込むやつがいないな」

「とりあえず机を並び替えましょう」

作業する事数分

教室のど真ん中に物々しい机のピラミッドが出来上がっていた

「さぁ、これでどうなる」

「ゴゴゴ

ピラミッドが完成すると突如地響きがし始め黒板が二つに割れる
そして黒板が開いたところにドアが一つ取り付けられていた
「このドアか」
「そうみたいですね、早速行きましょう」
ドアノブをひねり扉を開く雪
すると光があふれ出し2人をつつみこんでいく
「ッキャ」
「うわ～～～～」
「う、ここは」
真間が目を覚ますと列車の座席に座っていた
そしてその隣では雪がまだ気を失っている
「おい、雪…目を覚ませ」

雪の体を2，3度ゆする真間

「う、うぅ、アレ？真間さん、ここは？」

「どうやら列車みたいなんだが、何が起こってるのかわけがわからない」

席から立ち上がり辺りを見回す真間

少し古いタイプの列車で木製の座席が並んでおり真間達が座っているところだけ座席が2つ向かい合う形になっていた

そして車両には真間達以外の人の姿が一切なかった

「またあの男（作者）違う世界に飛ばしたんじゃないのか？」

などと不安になる2人

「ガラガラガラ」

「「！！！！」」

突如沈黙を破るかのように車両のドアが一つ開く

「お、ここかここか」

一人の男が真間達のしゃりょにやって来る

「はじめまして、君達が誠の同級生のデュエリストかな」

「あぁ、そうだ」

「あ、挨拶がまだだったな…俺の名は鋼野　龍一だ、君達の世界とは違う世界のデュエリストだ」

「なるほど、作者が言ってた異世界のデュエリストとは君のことか、あ！！俺の名前は空栗　真間だ」

「私の名前は七野　雪です、鋼野さん」

「龍一でいいぜ、誠にもそうよんでもらってるし」

「誠を知ってるのか？」

「あぁ、以前別世界で誠とデュエルしてな……ところで一つ聞きたいんだけど」

「なんだ」

「君達はデュエルモンスターズの精霊とか見えるかい？」

「「精霊！？」」

「どうやら見えないみたいだな」

そう言って龍一はカードを1枚デッキケースの中にしまう

「ところで龍一、前にもこんな形で異世界のデュエリストとデュエルをしたんだよな」

「あぁ」

「つまり帰る方法も知ってるってわけだな」

「前はデュエルしたら自動的にそれぞれの世界に戻れたぜ」

「そうですか」

「ググ～～～～」

「「……」」

社内に響き渡る腹の虫の音

そして雪のおなかに向けられる真間と龍一の視線

「あ、あはは、なんか安心したらおなかがすきましたね」

「確かに、お腹がすいたな」

「そういえば前回誠は作者からお土産を預かっていたけど」

「そういえば私作者さんから預かってるものがあります」

「早速あけてみるか」

席に戻り袋の中身を広げ始める雪

「おぉ、懐かしいな“白い恋人”に“ワカサイモ”、“ロイズのチョコレートチップス”に“カツゲイン”おまけに“キビダンゴ”か」

「完全に北海道の人でないとわからないワードだらけだな」

「アレ？真間さん、キビダンゴってどれですか」

「いや、どう見てもこれだろう」

そう言って真間は板状のお菓子の袋を手にとる

「それがキビダンゴなんですか？」

「そうか、内地の人にはわからないか…北海道でキビダンゴっていったらこういう板状の味がついたお餅がオブラートのような物につつまれているんだ」

「しっかしこうしてみると見事にお菓子類しか入ってないな」

「作者さんが地元自慢したいようですがどう考えても空振りです」

「とりあえず食べようぜ」

数分後

作者が用意したお菓子を全て平らげた３人

すると列車がどんどん減速し始め駅のような場所で停車する

「ついたみたいだな」

「そうみたいですね、降りますか」

「そうだな、車内でデュエルってわけにも行かないし」

電車から降りる3人

降りた先は駅のホームではなく広いスタジアムのようなところであった

「なるほど、ここでデュエルしろってわけだな」

「そうみたいだ、それじゃあ真間、早速始めようぜ」

「あぁ、誠に勝ったという腕前見せてもらうぜ」

互いに距離を置きデュエルディスクをかまえ始める

「せっかくだ、冬将軍さんが考えてくれたカードが入ったこのデッキで行くぜ」

「「デュエル」」

真間
ＬＰ４０００

龍一
ＬＰ４０００

「俺のターン“ロボット刑事Ｋ”を守備表示で召喚」

デッキからカードを１枚ドローしデュエルディスクにカードを１枚セットする龍一

すると真っ赤なスーツに身を包みベレー帽をかぶった機械人間が龍一の場に出現する

ロボット刑事Ｋ　（オリジナル）
レベル４地属性
機械族
攻撃力１６００守備力１８００
効果
相手がドローフェイズ以外にデッキからカードをドローした時コイントスを行い表が出ればドローしたカードを確認することができる。

「なんだ、見た事ないカードだと……なるほど、さすがは異世界のデュエリスト、俺の知らない力を持っているってわけか」

「いや、正直俺もよくは知らないんだ、なんとなく効果が面白かったんで入れたんだけど」

「そうか、きっと誠だったらわかったのかもしれんが、つーかきっとわかるな」

「そうです！！そんなことがあった時の為に作者さんからメモを預かってます」

「メモ？」

「ハイ、相手デュエリストが冬将軍さんが考えたカードを使ってきて誰も元ネタがわからない時はこのメモを読めと言われました」

ゴソゴソっとポケットをあさる雪

そして1枚のメモを取り出し目の前に広げる

「読みますね……“ググれカスが”だそうです」

「「……」」

「とりあえずあの男は俺が始末しておく」

「そうか、とりあえず続けるぞ、俺はリバースカードを1枚セットしてターンエンド」

真間
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

龍一
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロボット刑事Ｋ
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン」

（守備力１８００か、地味に高いな…手札に倒せるモンスターはいないし）

「俺は“純金犬マロン”を守備表示で召喚」

真間の場に黄金に光るやたらとまぶしい犬のロボットが出現する

純金犬マロン　（オリジナル）
レベル４光属性
機械族
攻撃力１０００守備力１０００
効果
このカードが戦闘によって破壊された時互いのプレイヤーはデッキからカードを1枚ドローする。このカードが効果によって破壊された時プレイヤーはデッキからカードを2枚ドローする。

「俺はこれでターンエンドだ」

真間
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　純金犬マロン
魔法トラップ　なし

龍一
ＬＰ４０００
手札４枚
モンスター　ロボット刑事Ｋ
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、モンスターを裏守備でセットしロボット刑事Kを攻撃表示に変更」

龍一がデュエルディスクのカードの向きを買える

するとフィールド上のスーツに身を包んだ紳士なロボットが自らの服に手をかける

そして“ゴー”っと叫び声を上げると同時に服が剥ぎ取られスーツのしたからは先ほどのすらっとしたボディーからは創造できない少しメタボチックなロボットボディーのモンスターになる

「な、チョ、何これ？」

「ぞくに言う着痩せするタイプでしょうか？」

「いや、着痩せにしても限度があるだろ」

「やっぱこういう知識だけは豊富な誠が必要だ」

「ググれカスが」

「雪、気に入ったのかその台詞」

「とりあえずバトルだ、ロボット刑事Kで純金犬マロンに攻撃だ」

ガシンガシンと古めかしい足音を上げながらロボット刑事が純金の犬ロボットに近づく

そしてその体を持ち上げ地面に乱暴に叩きつけそのボディーを破壊する

（（うわ、攻撃が地味））

ロボット刑事Ｋ　攻撃力１６００＞純金犬マロン　守備力１０００

「純金犬マロン効果発動、戦闘破壊された時互いのプレイヤーはデッキからカードを１枚ドローできる」

「だがこの瞬間、ロボット刑事Ｋの効果発動、相手がドローフェイズ以外にカードをドローしたときコイントスをし表が出ればそのカードを確認する事ができる」

ド～～ンっと立体映像の巨大なコインが地中から天に向かって飛び上がりそのままっすぐ地面に着地する

「表だ、ロボット刑事Ｋの効果発動、ドローカードを確認する」

ロボット刑事Ｋが再び真っ赤なスーツに身を包み真間に歩み寄る

そしてカードを１枚確認しぽっけからメモを取り出しペンを走らせる

ペンが止まると今度は龍一のもとにむかい先ほどメモした紙を龍一に渡す

「何々、ブロンズアーム・スマッシャー…レベル４の地属性機械族のバニラカード、って何この演出、これまた地味だな」

「本当、どんなキャラなんだろうなこのロボット刑事Ｋ」

「ググれカスが」

「雪、そのネタはさすがに鮮度が切れてきてるぞ」

「俺はこれでターンエンドだ」

真間
ＬＰ４０００
手札６枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

龍一
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　ロボット刑事Ｋ、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、“ブロンズアーム・スマッシャー”を攻撃表示で召喚」

真間の場に右腕部分に巨大な鉄のハンマーが取り付けられた人型ロボットが出現する

ブロンズアーム・スマッシャー　（オリジナル）
レベル４地属性
機械族
攻撃力１７００
効果なし

「バトル、ブロンズアーム・スマッシャーでロボット刑事Ｋに攻撃」

真間の場のモンスターのハンマーが龍一の場のロボット刑事Ｋの体をぺしゃんこに押しつぶす

ブロンズアーム・スマッシャー　攻撃力１７００＞ロボット刑事Ｋ　攻撃力１６００

龍一

ＬＰ４０００－１００＝３９００

「先手は取られたか、だがこのままじゃ終わらないぜ」

「ッフ、望むところだ、俺リバースカードを1枚伏せてターンエンドだ」

真間
ＬＰ４０００
手札５枚
モンスター　ブロンズアーム・スマッシャー
魔法トラップ　リバース×１

龍一
ＬＰ３９００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、反転召喚“鋼鉄戦士ツイン・クラスター”」

龍一の場の裏守備状態のカードが表側表示になるとそのカードの柄から背中合わせの機械人形が出現する

鋼鉄戦士ツイン・クラスター　（オリジナル）
レベル２地属性
機械族
攻撃力７００守備力３００
効果
機械族モンスターを生け贄召喚する場合、このモンスター１体で２体分の生け贄とする事ができる。

「このカードは機械族モンスターを生け贄召喚する時１体で２体分の生け贄となる」

「ダブルコストモンスターか」

「俺はツイン・クラスターを生け贄に“ディフォーマー・ライオコンボイ”を守備表示で召喚」

ツインクラスターが光の渦につつまれる

そしてその渦が巨大な旋風となり中から金色のタテガミと煌く純白のボディーのライオンが飛び出し龍一の場に降り立つ

ディフォーマー・ライオコンボイ　（オリジナル）
レベル７風属性

機械族
攻撃力２５００守備力１８００
効果
このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。
●攻撃表示：このモンスターは戦士族としても扱う、１ターンに１度手札の同じ種族のモンスターカードを１枚墓地に送る事でエンドフェイズまでこのカードの攻撃力はエンドフェイズまで５００ポイントアップする、この効果は相手ターンでも使用できる。●守備表示：このモンスターは獣族としても扱う、１ターンに１度相手フィールド上の魔法トラップカードを１枚破壊する。

「ライオコンボイの効果発動、１ターンに１度相手の場の魔法トラップカードを１枚破壊できる、俺は真間の場のリバースカードを破壊する」

ライオコンボイのタテガミから旋風が放たれる

そしてその旋風が真間の場のリバースカードを貫き破壊する

「ック、攻撃の無力化が」

「そして手札の“トランスフォーム”を発動」

トランスフォーム　（オリジナル）
速攻魔法
フィールド上の機械族モンスターの表示形式を変更する。守備表示モンスターが攻撃表示になった時そのモンスターのコントローラーはデッキからカードを1枚ドローする。攻撃表示モンスターが守備表示になった時そのモンスターのコントローラーはＬＰを５００回復する。

「ライオコンボイを攻撃表示に変更し効果で1枚ドロー」
龍一の手にある魔法カードから光が放たれライオコンボイに光が注がれる
そして光を浴びたライオコンボイがライオンから二足歩行のロボットに変形する

「うお、さっきのロボット刑事Ｋとは打って変わってど派手な演出じゃないか」

「まぁ、司令官だけはあるってことだな、さらにライオコンボイの効果、手札の同じ種族のモンスターを墓地に送り攻撃力を５００ポイント上昇させる」

ライオコンボイ
攻撃力２５００→３０００

「バトルだ、ライオコンボイでブロンズアーム・スマッシャーに攻撃」

ガシャガシャっとライオコンボイが両腕に拳銃を構える

そしてそこから光の弾丸が連射されブロンズアーム・スマッシャーの体を貫き破壊する

ライオコンボイ　攻撃力３０００＞ブロンズアーム・スマッシャー　攻撃力１７００

真間
ＬＰ４０００－１３００＝２７００

「さっきのお返しだぜ、これでターンエンドだ」

ディフォーマー・ライオコンボイ

攻撃力３０００→２５００

真間
ＬＰ２７００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

龍一
ＬＰ３９００
手札４枚
モンスター　ライオコンボイ
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン」

カードをドローする真間

そしてそのカードを身ながら長考する

「どうした真間、打つ手なしか？」

「いや、俺は今引いた“死者蘇生”を発動」

死者蘇生
通常魔法
自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

「龍一、お前の力を借りるぜ、ツイン・クラスターを蘇生」

真間の場にツイン・クラスターが出現する

「そしてツイン・クラスターを生け贄に“ゴールドフット”を召喚」

再び出現したツイン・クラスターだったが再び光の渦につつまれる

そしてその中からひときわ輝く金色のロボットが出現する

ゴールドフット　（オリジナル）
光属性レベル７
機械族
攻撃力２２００守備力２４００
効果
自分フィールド上の魔法カードとトラップカードを１枚ずつ墓地に送ることで相手フィールド上の魔法トラップを全て破壊する。

「しかし、そのカードの攻撃力でも俺のライオコンボイは倒せないぞ」

「さらに俺は手札から魔法カード“ガチバトル”を発動する」

ガチバトル　（オリジナル）
通常魔法
互いのモンスターゾーンにレベル7以上の表側攻撃表示モンスターが1体しか存在しない時のみ発動できる。このターンのバトルフェイズ中互いのモンスターは攻撃力と守備力を合計した数値でバトルを行う、互いのモンスターはバトルフェイズ終了時までこのカードの効果意外で攻撃力は増減されない。

「このカードの効果で互いのレベル7以上のモンスターは攻撃力守備力の合計値でバトルを行う」

ゴールドフット
攻撃力２２００→４６００

ディフォーマー・ライオコンボイ
攻撃力２５００→３３００

「バトル、ゴールドフットでライオコンボイを攻撃“ゴルドストライク”」

ゴールドフットの足が激しく光り始める

そしてゴールドフットが宙に舞う発行する足でライオコンボイの体を貫き破壊する

ゴールドフット　攻撃力４６００＞ディフォーマー・ライオコンボイ　攻撃力３３００

龍一
ＬＰ３９００－１３００＝２６００

「ック、だがリバース発動“受け継がれる勇者の魂”」

受け継がれる勇者の魂　（オリジナル）
通常トラップ
自分フィールド上の機械族モンスターが破壊された時発動できる。
自分のデッキ、手札から“勇者エクスカイザー”１体を特殊召喚するｔる。

「俺はデッキから勇者エクスカイザーを特殊召喚」

龍一のリバースカードから乗用車が１台飛び出す

そしてそれが変形しだして胸にライオンをかかえる人型ロボットの姿になる

勇者エクスカイザー　（オリジナル）
レベル４光属性
機械族
攻撃力１７００守備力１１００
効果
手札のレベル7以上の機械族モンスターを墓地に送る事でデッキから“キングローダー”か“ドラゴンジェッター”を1枚手札に加える事ができる。

「またカッコイイロボットがやってきたな、俺はこのままターンエンドだ」

ゴールドフット
攻撃力４６００→２２００

真間
ＬＰ２７００
手札３枚
モンスター　ゴールドフット
魔法トラップ　リバース×１

龍一
ＬＰ２６００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

「俺のターン、エクスカイザーの効果発動、手札のレベル7以上の機械族モンスターを墓地に送りデッキから“キングローダー”を手札に加えそのまま召喚」

エクスカイザーから光が放たれ地平の彼方を照らす

そして照らされたところから巨大なトレーラーが走ってくる

キングローダー　（オリジナル）
レベル５地属性
機械族・ユニオン
攻撃力１２００守備力２０００
効果
自分フィールド上に“勇者エクスカイザー”が表側表示で存在する場合このカードは生け贄なしで召喚できる。１ターンに１度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上のエ

クスカイザーに装備、または装備を解除して表側守備表示で特殊召喚する事ができる。このカードを装備しているモンスターが戦闘によってモンスターを破壊するたびにデッキからカードを1枚ドローする。1体のモンスターが装備できるユニオンは1枚まで。装備モンスターが効果によって破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。

「レ、レベル5のモンスターを生け贄なしで召喚ですか」

「キングローダーは自分フィールド上にエクスカイザーが存在する時生け贄なしで召喚できるんだ……そしてキングローダーをエクスカイザーにユニオン」

巨大トレーラーの上に乗っかるエクスカイザー

「だが攻撃力は変らないぞ」

「ッフ、俺は融合デッキの“キングエクスカイザー”の効果発動、自分の場のキングローダーをユニオンしたエクスカイザーを生け贄に特殊召喚できる」

エクスカイザーが大きく飛び上がると同時にキングローダーが起き上がる

そして人の形となって前面が開放される

その中にエクスカイザーが入り再びキングローダーが閉じられる

キングエクスカイザー　（オリジナル）
レベル８地属性
機械族
攻撃力２５００守備力２０００
融合
効果
このカードは自分フィールド上の“キングローダー”装備しているエクスカイザーを生け贄にする事で融合デッキから特殊召喚する事ができる（融合のカードを必要としない）。このモンスターが戦闘によって破壊した効果モンスターの効果を無効にする。

「キングエクスカイザーでゴールドフッドに攻撃“サンダー・フラッシュ”！！！」

キングエクスカイザーの足から剣が放たれる

そしてそれをキャッチし白い巨人が真間に向かってブーストする

そして手に持った剣でゴールドフットの体を真っ二つにした

キングエクスカイザー　攻撃力２５００＞ゴールドフット　攻撃力

２２００
真間
ＬＰ２７００－３００＝２４００

「すごいです、上級モンスターの応戦につぐ応戦」

「まったく、せっかく上級モンスターを呼び出したのにもう逆転か」

「なんだ、真間…嬉しそうじゃないか」

「あぁ、大いに嬉しい、こんなに全力でぶつかり合えているんだ…テンションが上がらないわけがない」

「やっぱ誠の親友だな、同じ目をしてやがる、獣の目つきのごとくギラついているくせに心は浮かれているが思考は常に勝利に向かっている」

「嫌いか、こんなデュエリスト」

「最高だぜ」

ビシっとサムズアップを真間に向ける龍一

「さて、話はそれちまったがデュエルを続けよう、俺はリバースを１枚セットしてターンエンドだ」

真間
ＬＰ２４００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

龍一
ＬＰ２６００
手札３枚
モンスター　キングエクスカイザー
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、モンスターを裏守備でセットしリバースを１枚追加してターンエンドだ」

真間
ＬＰ２４００
手札２枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×２

龍一
ＬＰ２６００

手札3枚
モンスター　キングエクスカイザー
魔法トラップ　リバース×1

「俺のターン、ならこの勇者のもう一つの姿を見せてやろう、まずは魔法発動“フォームアウト”」

フォームアウト　（オリジナル）
速攻魔法
フィールド上に表側表示で存在するキングエクスカイザーまたはドラゴンカイザー1体を選択してエクストラデッキに戻す。さらに、エクストラデッキに戻したそのモンスターの特殊召喚に使用するモンスターが自分の墓地に揃っていれば、そのモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「俺はキングエクスカイザーをエクストラデッキに戻し墓地に眠るエクスカイザーとキングローダーを特殊召喚」

キングエクスカイザーが合体を解除し元のエクスカイザーとキングローダーの形になる

「上級モンスターの合体を解除か、何を狙ってやがる」

「まったく、いい目をしてやがる…俺は手札の“ドラゴンジェット”を召喚する」

ドラゴンジェット　（オリジナル）
レベル５風属性
機械族・ユニオン
攻撃力１５００守備力１５００
効果
自分フィールド上に“エクスカイザー”が表側表示で存在する場合このカードは生け贄なしで召喚できる。１ターンに１度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上のエクスカイザーに装備、または装備を解除して表側守備表示で特殊召喚する事ができる。このカードを装備したモンスターが攻撃する時相手フィールドの魔法・トラップカードを１枚破壊する事ができる。

「このドラゴンジェットもキングローダーと同じくレベル５のモンスターだが自分フィールド上にエクスカイザーが存在する場合生贄なしで召喚できる、そしてドラゴンジェットをエクスカイザーにユニオン」

先ほどのキングローダー同様、龍一の場のエクスカイザーが巨大な戦闘機の上に乗っかる

「そしてドラゴンジェットをユニオンしているエクスカイザーを生贄に“ドラゴンカイザー”をエクストラデッキから特殊召喚する」

ドラゴンカイザー　（オリジナル）
レベル８風属性
機械族
攻撃力２２００守備力１７００
融合
効果
このカードは“ドラゴンジェッター”を装備した“エクスカイザー”を生け贄にする事で融合デッキから特殊召喚する（融合のカードを必要としない）。１ターンに１度、メインフェイズに相手フィールド上の魔法トラップカードを２枚までエンドフェイズまで除外する。

「ドラゴンカイザーの効果発動、相手の場の魔法とラップカードを２枚までエンドフェイズまで除外できる」

ドラゴンカイザーの胸から光線が２本放たれ俺の場のリバースカード２枚を貫く

「さて、安心できる状況を確保したところでバトル、ドラゴンカイザーで裏守備モンスターに攻撃“ドラゴン・アーチェリー”！！！

！」

「俺のモンスターは“メカニック・パンディモ”だ」

真間の場の裏守備カードが表になると奇妙な四角い箱が出現する

メカニック・パンディモ　（オリジナル）
レベル３地属性
機械族
攻撃力２００守備力５００
効果
リバース：手札を２枚墓地に送りデッキからカードを３枚ドローする。

ドラゴンカイザー　攻撃力２２００＞メカニック・パンディモ　守備力５００

「だがメカニック・パンディモの効果発動、手札を２枚捨ててデッキからカードを３枚ドローする」

「手札一斉交換か、俺はこれでターンエンド」

「そしてエンドフェイズに俺のリバースカードが戻ってくるな」

真間の場に先ほどドラゴンカイザーに除外されたリバース２枚が戻

ってくる

真間
ＬＰ２４００
手札３枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

龍一
ＬＰ２６００
手札２枚
モンスター　ドラゴンカイザー、キングローダー
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、反撃開始だ…まずは“ミサイルスナイパー”を通常召喚」

真間の場にミサイルランチャーを担いだコマンダーっぽいモンスターが出現する

ミサイルスナイパー（オリジナル）

闇属性レベル４
機械族
攻撃力１５００守備力１０００
効果
自分フィールド上のミサイルトークン１体を生け贄にささげることで相手フィールド上のモンスター１体の攻撃力をターン終了時まで５００ポイントダウンさせる。

「さらにリバース発動、“ゲットライド”」

ゲットライド
通常トラップ
自分の墓地に存在するユニオンモンスター１体を選択し、自分フィールド上に表側表示で存在する装備可能なモンスターに装備する。

「その効果で墓地に眠る“強化支援メカヘビー・ウェポン”をミサイルスナイパーにユニオン」

真間のデュエルディスクが光だしセメタリーの部分から翼のはえた機械が出現する

そしてその機械がそのままミサイルスナイパーの足場となりその体を宙に浮かせた

強化支援メカ・ヘビーウェポン
レベル３闇属性
機械族
攻撃力５００守備力５００
効果　ユニオン
１ターンに１度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上の機械族モンスターに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。この効果で装備カード扱いになっている場合のみ、装備モンスターの攻撃力・守備力は５００ポイントアップする。１体のモンスターが装備できるユニオンは１枚まで。装備モンスターが破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。

「そしてヘビー・ウェポンのユニオンを解除」

ヘビー・ウェポンに乗っかっていたミサイルスナイパーであったがそこから飛び降り真間のフィールドに２体のモンスターが並ぶ

「さらに魔法発動“ミサイル複製術”」

ミサイル複製術　（オリジナル）
通常魔法
自分の場の機械族モンスター1体を生け贄にささげる、生け贄にささげたモンスターのレベルの数まで自分のフィールドに“ミサイルトークン”（地属性レベル1機械族攻撃力500守備力0このカードは機械族モンスターの効果の生け贄にしかできない）を特殊召喚する。

「俺はヘビー・ウェポンを生け贄にミサイルトークンを3体特殊召喚する」

ヘビー・ウェポンが1度バラバラに分解されミサイルとして再構築されていく

「そしてミサイルスナイパーの効果発動、ミサイルトークンを生け贄に相手モンスターの攻撃力を500ポイントダウンさせる、俺は3体のミサイル・トークンを生け贄にドラゴンカイザーの攻撃力を1500ダウンさせる」

ミサイル・トークン3体が光につつまれミサイルスナイパーのロケットランチャーの中に装填されていく

そしてそこから3つの光が放たれドラゴンカイザーの体を貫いていく

ドラゴンカイザー
攻撃力２２００→７００

「バトル、ミサイルスナイパーでドラゴンカイザーに攻撃」

ピンっとミサイルスナイパーが腰につけていた手榴弾の安全ピンを抜く

そしてそれがドラゴンカイザーに向かって放り出され爆発しドラゴンカイザーを木っ端微塵に粉砕した

ミサイルスナイパー　攻撃力１５００＞ドラゴンカイザー　攻撃力７００

龍一
ＬＰ２６００－８００＝１８００

「上級モンスターの次はコンボ攻撃か、中々楽しませてくれるぜ」

「ッフ、龍一もいい目をしてるじゃないか……俺はこれでターンエンドだ」

真間
ＬＰ２４００
手札２枚
モンスター　ミサイルスナイパー
魔法トラップ　リバース×１

龍一
ＬＰ１８００
手札２枚
モンスター　キングローダー
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン…行くぞ、チューナーモンスター“すもも”を召喚」

龍一の場にタンバリンを持った小さな女の子が出現する

すもも　（オリジナル）
レベル１風属性
機械族　チューナー
攻撃力１００守備力４００
効果

墓地の機械族モンスター2体をゲームから除外し手札、墓地のこのカードを守備表示で特殊召喚できる。

「いくぞ、レベル5のキングローダーにレベル1のすももをチューニング」

すももが手に持っていたタンバリンを天に掲げると同時に光の輪となり宙に飛んでいく

そしてその輪っかの中にキングローダーがジャンプしはまり込む

「アルゴリズムの牢獄に囚われし鉄の乙女よ、今こそ封印を解き放ち自由なる野を翔けよ、シンクロ召喚!!!降臨せよ“ちぃ”」

先ほどの輪っかとキングローダーが激しい光につつまれその光の中から無機質な表情の女の子が出現し静かに龍一の場に着地する

ちぃ　（オリジナル）
レベル6光属性
機械族
攻撃力2200守備力1400
シンクロ　機械族チューナー＋チューナー以外の機械族モンスター1体以上
効果
シンクロ召喚成功時フィールド上に存在するこのカード以外の全てのカードをゲームから除外する。LPを1000ポイント払う事で

このモンスターをエクストラデッキに戻しシンクロ召喚に使用したモンスター1組を自分の墓地から特殊召喚できる（この効果は1ターンに1度しか使用できない）

「シ、シンクロ召喚？」

「アレ？もしかしてシンクロ召喚知らないの？」

「あぁ、初めて聞く」

「真間さん、龍一さんは別の世界のデュエリストです…きっとシンクロ召喚っていうのは向こうの世界にある召喚方法なんだと思います」

「雪、なんで台詞が棒読みなんだ？」

「さっきのメモに龍一さんがシンクロ召喚というものをしたら読むようにといわれていた所があったので」

「いっそ作者が来いと思うな」

「とりあえず説明させてもらうぜ……シンクロ召喚というのはチューナーというモンスターとチューナーでないモンスターを場から取り除きエクストラデッキ、まぁ後の融合デッキから場から取り除いたモンスターのレベルと合計が同じモンスターを特殊召喚できる特別な召喚方法なんだ」

「ッフ、さすがは異世界交流デュエル…俺の知らないカードのオンパレードじゃないか、ますます興奮してきたぜ」

「さて、続けるぞ…ちぃの効果発動、シンクロ召喚成功時フィールド上のちぃ以外のカードを全て除外する」

「なんだと！！！」

真間と龍一の場のカードに突如０と１の数字が無数に浮かび上がり始める

そしてそのアルゴリズムのマークと一緒にカードが薄くなり始め最終的にはフィールドにちぃだけが残る

「バトル、ちぃで直接攻撃」

龍一の攻撃宣言と共にちぃの体から旋風が発生する

そしてその旋風が真間に襲い掛かる

「うお～～～～～～」

ちぃ　攻撃力２２００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

真間

ＬＰ２４００－２２００＝２００

「真間さん」

「後一歩と言った所だけど」

「あぁ、俺のＬＰは風前の灯……ここで逆転できたら最高にカッコイイ展開だと思わないか」

「あぁ、最高にカッコイイと思うぞ俺はリバースを１枚追加してターンエンドだ」

真間
ＬＰ２００
手札２枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

龍一
ＬＰ１８００
手札１枚
モンスター　ちぃ
魔法トラップ　リバース×１

「俺のタ～～～～～ン」

力強くデッキからカードを引く真間

「相手フィールド上にモンスターが存在する時、手札のユニオン・ストライカーを攻撃表示で特殊召喚することができる」

真間の場に少し細めのフレームでできた人型ロボットが出現する

ユニオン・ストライカー　（オリジナル）
レベル３地属性
機械族
攻撃力１２００守備力８００
効果
自分フィールド上にモンスターが存在せず相手フィールド上にモンスターが存在する時手札から特殊召喚することができる。１ターンに１度自分の墓地に存在するユニオンモンスター１体を選択し、自分フィールド上に表側表示で存在する装備可能なモンスターに装備する。

「ユニオン・ストライカーの効果発動…墓地に眠るヘビー・ウェポンをこのカードに装備させる」

真間のデュエルディスクのセメタリー部分が光だしその光の中からヘビー・ウェポンが姿をみせユニオン・ストライカーに装着される

ユニオン・ストライカー
攻撃力１２００→１７００

「そしてヘビー・ウェポンのユニオンを解除する」

「なるほど、生け贄モンスターが２体に増えたって所か」

「あぁ、俺はモンスター２体を生け贄に“皆殺しにするキラーマシン”を召喚」

真間がデュエルディスクにカードをセットすると巨大な地鳴りが響き渡る

そして真間の足下に突如機械のゲートが出現し巨大なバルカン砲と鋼の爪を手にしたロボットがリフトアップしてくる

皆殺しにするキラーマシン（オリジナル）
レベル８闇属性
機械族
攻撃力２５００守備力０
効果
このカードは特殊召喚できない、このカードの生け贄は全て機械族モンスターでなければならない。このカードが自分フィールド上に召喚された時自分フィールド上のこのカード以外の全てのモンスターを破壊する。バトルフェイズ中このカードの攻撃力を１０００下げることでこのカードは相手モンスターに追加攻撃を行うことがで

きる。このモンスターが追加攻撃を行った場合エンドフェイズ時このカードは守備表示になる。

「さらに装備魔法“ブレイク・ドロー”をキラーマシンに装備させる」

ブレイク・ドロー
装備魔法
機械族モンスターにのみ装備可能。装備モンスターが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、自分のデッキからカードを1枚ドローする。このカードは発動後3回目の自分のエンドフェイズ時に破壊される。

「バトルだ、キラーマシンでちぃに攻撃」

巨大な鋼の爪が拳となってちぃのキャシャな体を押しつぶし破壊する

皆殺しにするキラーマシン　攻撃力２５００＞ちぃ　攻撃力２２００

龍一
ＬＰ１８００－３００＝１５００

「ブレイク・ドローの効果でデッキからカードを１枚ドローする…
…メイン２にリバースカードを１枚追加してターンエンド」

真間
ＬＰ２００
手札０枚
モンスター　皆殺しにするキラーマシン
魔法トラップ　ブレイク・ドロー、リバース×１

龍一
ＬＰ１５００
手札１枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、“キングジョー”を召喚」

どこからともなくＵＦＯが現れ龍一のフィールドで滞空する
そしてＵＦＯのボディーが大きく開くとそこから金ぴかのロボットが落下し激しく土埃を巻き上げながら龍一のフィールドに降り立つ

キングジョー　（オリジナル）
レベル３地属性
機械族
攻撃力１２００守備力９００
効果
自分メインフェイズ中に発動できる、このカードをリリースし自分フィールドにキングジョーＡパーツトークン、キングジョーＢパーツトークン、キングジョーＣパーツトークン（それぞれレベル１地属性機械族攻撃力４００守備力３００、このトークンはシンクロ素材にできない）を特殊召喚する。

「キングジョーの効果発動、このカードを生け贄に自分フィールド上にキングジョートークンＡ、Ｂ、Ｃを特殊召喚する」

キングジョーの体から光が放たれる

そして光が晴れるとキングジョーは頭部、上半身、下半身の３つのパーツに分離した

「俺はこれでターンエンドだ」

真間
ＬＰ２００
手札０枚
モンスター　皆殺しにするキラーマシン
魔法トラップ　ブレイク・ドロー、リバース×１

龍一
ＬＰ１５００
手札１枚
モンスター　キングジョーＡパーツトークン、キングジョーＢパーツトークン、キングジョーＣパーツトークン
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、魔法発動“番犬ガオガオ”」

真間が魔法カードを発動させると龍一の背後にブリキでできた犬が出現する

番犬ガオガオ　（オリジナル）
通常魔法

このターンのエンドフェイズ時まで自分フィールド上のモンスターが相手モンスターを戦闘破壊する時相手ＬＰに４００ポイントのダメージを与える。

「バトル、皆殺しにするキラーマシンでキングジョーＡパーツトークンに攻撃」

真間の場のキラーマシンがその両腕でキングジョーの頭部パーツを挟む

そしてそのままキングジョーの頭部をぺしゃんこに押しつぶす

皆殺しにするキラーマシン　攻撃力２５００＞キングジョーＡパーツトークン　守備力３００

「番犬ガオガオの効果発動、相手フィールド上のモンスターを破壊した事で相手のＬＰに４００ポイントのダメージを与える」

突如龍一の場のブリキの犬がほえ始める

そのあまりの騒音に龍一は両耳を指でふさぐ

龍一
ＬＰ１５００－４００＝１１００

「さらにキラーマシンの効果発動、攻撃力を１０００ポイント下げる事で相手モンスターに追加攻撃できる」

皆殺しにするキラーマシン
攻撃力２５００→１５００

「バトル続行、皆殺しにするキラーマシンでキングジョーＢパーツトークンに攻撃」

再び動き始めるキラーマシン

そして目から光線を発射しキングジョーの上半身を破壊する

皆殺しにするキラーマシン　攻撃力１５００＞キングジョーＢパーツトークン　守備力３００

「番犬ガオガオの効果でダメージを受けてもらうぜ」

再びほえ始めるブリキの犬

「この演出マジで勘弁なんだけど」

龍一
ＬＰ１１００－４００＝７００

「さらに皆殺しにするキラーマシンの効果発動、攻撃力を１０００下げる事で追加攻撃できる」

皆殺しにするキラーマシン
攻撃力１５００→５００

「キラーマシンで残ったキングジョーのパーツに攻撃」

ガコンガコンとキラーマシンの脚部の側面が展開し巨大なガトリングガンが出現する

そしてすさまじい轟音と共にガトリングガンが火を噴く

皆殺しにするキラーマシン　攻撃力５００＞キングジョーＣパーツトークン　守備力３００

「そしてガオガオの効果で４００ダメージだ」

龍一
ＬＰ７００－４００＝３００

「すごいです、まれに見る激戦です」

「さすがだぜ真間、誠のライバルだけあって心の底から震えるデュエルだ」

「俺もだぞ、ここまで楽しめるデュエルはめったにない……龍一、最高のライバルだぜお前は」

「あぁ、俺も心からそう思う」

「デュエルを続けるぜ、このターンのエンドフェイズに俺のキラーマシンは守備表示に変更される、俺はこれでターンエンドだ」

真間
ＬＰ２００
手札０枚
モンスター　皆殺しにするキラーマシン
魔法トラップ　ブレイク・ドロー、リバース×１

龍一
ＬＰ３００
手札１枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、手札を１枚伏せて“命削りの宝札”発動」

命削りの宝札　（マンガオリジナル）
通常魔法
自分の手札が５枚になるようにドローする。５ターン後のスタンバイフェイズ時手札を全て墓地に送る。

「俺はデッキからカードを5枚ドローする」

「さぁ！！！見せてくれ龍一最高の反撃…否、反劇を！！！」

「チョット待て、真間目に力入れすぎ、目力どころの話じゃないから放送できないぞその顔」

「ッフ、これからの展開が楽しみでしょうがないぜ」

「誠といい真間といい、いい目をしやがるぜ…手始めに魔法発動死者蘇生、墓地に眠るドラゴンカイザーを特殊召喚する」

龍一の場に再び青いボディーの巨人が出現する

「さらに魔法発動フォームアウト、ドラゴンカイザーを対象に発動、このカードをエクストラデッキに戻し墓地に眠るエクスカイザーとドラゴンジェットを特殊召喚、そしてエクスカイザーの効果で手札のレベル7以上の機械族モンスターを墓地に送りデッキからキングローダーを手札に加えそのまま召喚、そしてエクスカイザーにキングローダーをユニオンしエクストラデッキのキングエクスカイザーを特殊召喚」

めまぐるしく展開していく龍一のフィールド

「さらにエクストラデッキのグレートエクスカイザーの効果発動、自分フィールド上のエクスカイザーとドラゴンジェットをゲームから除外しこのカードを特殊召喚する」

再び出現したキングエクスカイザーとドラゴンカイザーが大空に飛

び上がる
そしてドラゴンジェットが様々なパーツに分離しエクスカイザーに合体していく
そして最後に頭部が変形しグレートエクスカイザーとなって龍一のフィールドに降り立つ

グレートエクスカイザー　（オリジナル）
レベル１０光属性
機械族
攻撃力３５００守備力２７００
融合　キングエクスカイザー＋ドラゴンジェッター
効果
自分フィールド上に存在する上記のカードをゲームから除外した場合のみ、融合デッキから特殊召喚が可能。このカードを対象とする装備魔法の効果は全て“このカードの攻撃力を５００ポイント上昇させる”に変る。

「さらにリバース発動“勇者のエンブレム”」

勇者のエンブレム
通常魔法
自分の墓地の“勇者エクスカイザー”をゲームから除外して発動する。以下の効果から1つを選択して適用する。●自分フィールド上のモンスター1体の攻撃力を1000ポイント上昇させる。●自分フィールド上のモンスター1体が守備表示モンスターを攻撃した時にその守備力を攻撃力が越えていれば、その数値だけ相手に戦闘ダメージを与える。●デッキからカードを2枚ドローする。

「俺はこのカードの効果でグレートエクスカイザーでキラーマシンに攻撃」

グレートエクスカイザーが右腕にソードみだり腕に弓をかまえる

そしてその2つを重ねると金色の剣となる

そしてその剣を大きく振りかぶり真間のフィールドに向かって走り出す

「トラップ発動“聖なるバリア～ミラーフォース～”」

聖なるバリア～ミラーフォース～
通常トラップ
相手がモンスターで攻撃した時、相手の攻撃表示モンスターをすべて破壊する。

「このカードの効果でグレートエスカイザーを破壊する」

グレートエクスカイザーの体が激しい爆炎につつまれる

「手札か速攻魔法発動“デモリション・トラップ”」

デモリション・トラップ　（マンガオリジナル）
速攻魔法
通常トラップが発動した時発動できる。そのカードの効果を無効にし装備カードとして自分フィールド上のモンスター1体に装備する。

「ミラーフォースの効果を無効にしグレートエクスカイザーに装備、さらにグレートエクスカイザーの効果発動、このカードを対象にする装備カードの効果は全てこのカードの攻撃力を５００ポイント上昇させる効果に書き換えられる」

爆炎の中からグレートエクスカイザーが先ほどと同じ態勢で飛び上がってくる

そしてその手に握られた剣にグレイモアの爆炎が収束していく

グレートエクスカイザー
攻撃力３５００→４０００

「これで終わりだ“サンダー・フラッシュ”！！！！！！」

「うわ～～～～～～」

グレートエクスカイザー　攻撃力４０００＞皆殺しにするキラーマシン　守備力０

真間
ＬＰ２００－４０００＝－３８００

「ハ～～ッハッハ、最高だったぜ龍一」

「真間も、最高のデュエリストだぜ」

互いの健闘をたたえがしっと握手する2人

「誠にも言ったけどまたデュエルしような」

「あぁ」

互いの腕が離れると同時に3人の体が光の粒子と化して足下から消滅していく

「今度は誠と一緒に会おうぜ」

「あぁ、きっとアイツもリベンジに燃えていると思うぞ」

「ッフ、楽しみだぜ」

そうして完全に3人の姿が消滅していった

「アレ？ここは」

「お！！気づいたか真間」

「誠、って事は元の世界ってわけか」

「お疲れさん真間」

部屋の中に誠と冬将軍の姿があった

「戻ってきてたのか誠」

「あぁ、あっちの世界に行ったついでにダイブマシーンでシナプスに潜入し空のマスター全員半殺しにしてきたＺＥ☆」

「お前は本当に自重という事を知らないな」

などと雑談していると

「ＰＲＲＲＰＲＲＲＲ」

「お！！真間のＰＤＡなってるぞ」

「本当だ」

ポケットからＰＤＡを取り出し画面をタッチする真間

「お！！龍一からメールが来ている……作者、お前宛だ」

「お！！なんだ」

「お前が考えたカードデッキの感想だそうだ」

「ほう、彼はなんて答えてくれた」

「“使いやすい使いにくい以前にわかりにくい、よい子も悪い子も

元ネタわからねーよ”っだそうだ」

「ダメだしだった～～～～」

「そう、俺からお前に言いたい事があったんだ」

「なんだ、この際だドンと来い」

「ググれカスがってなんだ～～～～」

真間の右ストレートが雪だるまの頭部を粉々に打ち砕く

「言いたい事と言いつつもちゃっかり攻撃してる～～～～」

「なぁ、作者……今度はこの作品とのコラボしたいんだけど」

「ッフ、お前は強欲だな誠」

「何だよこのやり取り」

「「あなた最低ですと罵られ続けた主人公が出ているアニメの悪役同士のやり取りだ」」

「もうお前等だけでデュエルし続けてくれ、コラボしたら人様に迷惑だ」

コラボその2～鋼と鋼のぶつかり合い、まさにガンダムファイト～（後書き）

龍一のデッキは元々蛇さんのところで募集していたスーパーロボットをカードにしようという企画で作ったカードが入ったデッキです。こんなに突っ込みどころ満載のデッキなのに何故誠を参戦させなかったと書き終わってから後悔してます。

しかし改めてみてもても龍一のデッキが酷い、完全に龍一のキャラが崩壊してしまった、蛇さんなんて言うだろうか。

それでは皆さん次はクリスマスに会いましょう。

クリスマス番外編2～聖夜に奇跡はつき物です～（前書き）

お久しぶりです皆さん。

ふと思ったんですがクリスマスの小説ってやっぱクリスマスに更新すべきなのかクリスマスイブに更新すべきなのか……アレ？そもそも２４日ってクリスマス？イブ？サンタクロースが子供たちにクリスマスを渡すタイミングはどっち？などと考えているとイブは終わってしまいました。

今回は誠が転生する前のお話です。ですのでＬＰは８０００スタートです。それではどうぞ。

クリスマス番外編2～聖夜に奇跡はつき物です～

これは、小野寺　誠が転生する前のお話である

西暦２０××年１２月２３日

「小野寺、このケーキで最後だ」

「了解です」

とあるケーキ屋の厨房

大勢の従業員がケーキ作りに追われている

その中にまだ転生する前の小野寺　誠の姿もあった

「ようし、これで終了です」

真っ白な箱に真っ赤なリボンを上手にしめる誠

「クリスマスケーキのノルマ達成、お疲れ様です」

ひときわ大きい純白の帽子の男性のその一言で一気に張り詰めた空気が抜け落ちリラックスムードが流れる厨房

「「お疲れ様です」」

最後に従業員全員が整列し店長に挨拶をして更衣室にぞろぞろと姿を消していく

「いや～～、疲れた疲れた」

制服をロッカーの中にしまい着替え始める誠

着替えている最中先輩が声を掛けてくる

「お疲れさん」

「あ、先輩…お疲れ様です」

「明日はいよいよクリスマスだな」

「そうですね」

「明日はなんか予定あるのか」

「ありますよ、映画を見に行こうかと思います」

「お！！やっぱり彼女とデートか」

「いえ、一人で見に行きます」

その誠の一言でガクっとなる誠の先輩

「一人でって、そもそも何の映画を見るんだ」

「まず朝一でけいおん！の映画を見てその後仮面ライダーのムービー大戦でテンションをメガマックスにし最後に近所のカード屋でデュエルして過ごす、これが俺の明日の予定です」

「いや、彼女とかいないのか？」

「俺はまだ爆発したくないので」

「スマナイ、日本語で話してくれ」

「まぁ、俺もリア充爆発しろはニコニコ動画で知っただけで元ネタまではわかりません」

バタンとロッカーを閉める誠

「それじゃあ先輩、よいクリスマスを」

「お前にだけは言われたくないがな」

「ただいま～～～っと、まぁ一人暮らしなんだから誰もいないんだけどな」

家に着くなりストーブとテレビの電源を同時に入れる誠

「さて、早速録画した深夜アニメを見ないとな」

着ていた服を放り投げ洗濯籠にたたきつけると同時に寝巻きに着替える

「一週間たまりにたまってたからな、まずはＦａｔｅ／ＺｅｒｏみてＡＧＥだな……本当北海道って深夜アニメが少ないよな～～、ニコニコ動画で未来日記見れたのはうれしいけど、来年のアクエリオンも楽しみだけどな……しもた！！！！ゼアル録画し忘れた～～～～まぁいいや、とりあえずゴーカイジャーと仮面ライダーフォーゼ見ようっと」

帰宅後、アニメを見ながら誠はデッキケースからカードを数枚取り出す

「では、早速仕事中に思いついたコンボでデッキを作ってみるか」

「タカ♪トラ♪♪バッタ♪♪♪タ！ト！！バ！！！タトバ♪タァトォバァ♪」

カードを取り出すと同時に誠の携帯電話がなり始める

「誰だこんな時間に、あ！！高校時代の友達からだ」

通話ボタンを押すと同時にハンドフリーにして携帯をテーブルの上におく誠

「おう、誠久しぶりだな」

「そうだな、そっちは元気でやっているのか」

「どうにかな、俺はお前とは違ってフリーターじゃなくそれなりの役職だから、結構疲れるわ」

などと雑談しながらもカードをいじる手を止めない誠

「そういえば明日はクリスマスだけど誠は何か予定はあるのか？」

「明日はけいおん！と仮面ライダーの映画を見に行かないといけない、もちろん一人で」

「相変わらずみたいだなお前は」

「そういうお前はどうなんだよ」

「フッフッフッフ、実はクリスマスに彼女とデートします」

「爆発しろ」

「長年彼女を求めついにクリスマスデートできるという浮かれまくった親友に向ける言葉がそれか」

「俺はリア充の友を持った記憶はない……そうか、すまない脳内設定の彼女とデートするんだな、いやはやすまない、てっきり早とちりをしてしまった」

「いや、実在する彼女だけど」

「今こそスパイダーのガイアメモリの力を使うときだな」

「越えてはいけない一線を超えるんじゃない」

翌日の早朝

「ｚｚｚｚｚ、バ、バカヤロー…俺はブルマよりもスパッツ派だｚｚｚｚｚｚ」

「誠、朝だよ」

「ｚｚｚこの怪我は俺の怪我じゃないと思い込む、そうすれば痛くないんだ……なに!?月姫の琥珀さんだと!!!!違う、これは東　三四郎のパクリだｚｚｚｚｚｚ」

「誠、起きてってば」

「ｚｚｚｚ……頼むよ母さんもう少し寝かせてくれ、って、!!

！！！」

ガバっと起き上がる誠

そして部屋には誠のほかに人影がひとつ

「おはよう誠」

「……幼馴染の女の子？」

「お約束のギャグはいいから」

ハ～～～っとため息をつく青髪でボーイッシュな女性

「って……君誰？」

東方不敗よろしな感じの謎のポーズをとり警戒する誠

「誠が心から信頼している存在、と言ったところかな」

「俺が心から信頼している存在？」

「よ～～く考えてよ誠、あるはずだよ誠が心のそこから信頼している存在が」

「お金」

「なんて低俗な人間なんだ」

「もりしゅ～さんシェフさんライさん」

「いや、私闇ゲのｕｐ主さんじゃないから」

「職場の先輩……にはいないよな信頼している人」

「なにこの社会不適合者宣言」

ハ～～～っとため息をつく謎の女性

「だったらヒント、誠はいったい何」

「キモオタ、ニート、非リア充、ガンダムその他もろもろ」

「本当誠っていろいろと間違った生き方してるよね」

「そうだ、確かに間違っている…俺がガンダムじゃない、俺が、俺達が、ガンダムだ！！！！」

「セブンスソード振り回しながら何叫んでるのさ」

「つまり君は！！！」

「ガンダムじゃないから」

連続して回答しても一向に答えにたどり着けない誠

うんうんうねっていると謎の女性が誠の机からデッキケースを取って誠に渡す

「誠、さすがにここまでヒントを出したらわかるよね…自分が何者

で自分が1番信頼している者」

「まぁ、さすがの俺もここまでされたら答えは出てくるさ」

ケースのふたを開けてカードを1枚取り出し女性に突きつける誠

「俺はデュエリスト、そんな俺が1番信頼している物、それは俺のエースモンスター“メガロック・ドラゴン”だ」

「やっとわかったんだ、でも今誠が持ってるカードは聖なるバリア〜ミラーフォース〜だよ」

「……」

あわててカードをデッキケースに戻し今度はデッキをケースから取り出し1枚1枚確認する誠

そして1枚のカードを女性に突きつける

「俺はデュエリスト、そんな俺が1番信頼している者、それは俺のエースモンスター“メガロック・ドラゴン”だ」

「なかったことにしようと思うんだけどごまかしきれてないから」

「って、結局君の正体は何なんだ？」

「今誠が持ってるじゃん」

チョイっとメガロック・ドラゴンのカードを指差す謎の女性

その言葉を聴いて誠はカードとその女性を何度も見比べる

「いや、まったくもって意味がわからないんだけど」

「そうだね～～、アニメ風にいえばメガロック・ドラゴンの精霊って言ったところかな」

「それを言われてもなおの事意味不明なんだけど、ぜんぜん絵柄と違うじゃないか」

「誠、鶴の恩返しって知ってる？」

「あぁ、助けた鶴が人間の娘になって主人公の所にくるも主人公がヘタレであったため肉体的な御礼ができず鶴が布を織りつつも“ッケ、この根性なしが”っと悪態をついたというあの有名な民謡だな」

「なんかすっごく氏家ト全的フィルターがかかった解釈しているけど、そんな感じ…こんなんなりでも私はメガロック・ドラゴン」

「まだいろいろと突っ込みたいところがあるが言わせてくれ、何で俺の嫁キャラの中でも上位にいるマブラヴの柏木さんの姿をしているんだ」

「誠の思考回路の中にある女性の姿のデータをあさって、誠が好きそうでかつ私のイメージに合いそうな姿を検索したらこの姿になったんだ」

「まったく、早くソリッドビジョンのデュエルディスク出てくれと日々願っていたがもう実現するとは、とんだ浦島太郎だぜ俺は、さっきまで民謡の話をしてただけに」

「うまいことを言ったつもりかｗｗｗｗ」

「ほう、貴様少しはニコニコ動画用語がわかると見た」

「それは四六時中誠と一緒だしね、それよりも」

すっかり警戒をといた誠の腕に突如抱きつくメガロック

「チョ！！おま」

「誠、デートしよう」

「どうしてそうなる」

「せっかくのクリスマスなのに彼女もいなくアニメに没頭する童貞だなんてかわいそうでかわいそうで…だから誠の１番のパートナーが実体化して誠に素敵なクリスマスをプレゼントしようかと思ったわけ」

「だが、断る」

「どうして？私は誠が好きな女性の姿をしているんだよ、普通デートに誘われたら普通テンションがあがるものだけど」

「ずっと俺と一緒にいるんだったら知ってるはずだろう、俺はリア充にはならない…もしデートしているところが誰かに見つかってみろ、俺が今まで築き上げてきた“二次元にしか興味がない”っという俺の硬派なイメージが打ち砕かれてしまう」

「どう考えてもメリットのないイメージだと思うんだけど……まぁわかってたことだし」

「そうか、わかってくれて助かるよ」

そういってメガロックは腕を組んだまま引っ張るように誠の体を持ち上げる

「誠が行かないと主張するなら私は無理にでも連れて行くよ、デートに」

「うわっは～～～、さすがは俺のエースモンスター、俺を知り尽くしてらっしゃるわ～～」

そして数分後

マクドナルドの店内に寝巻きでなく私服に着替えた誠とメガロックがいた

「って、どうすれば君は満足して成仏するんだ?」

朝食代わりに朝マックを食べながら誠はメガロックに話しかけていた

「当然今日1日私とデートしてもらったら私は満足だよ、でも成仏

ってちょっとひどくない？私悪霊とかの類じゃないんだけど…まったく、せっかく誠のために誠好みの女の子になってやってきたのに」

「マブラヴの柏木さんの姿をして出てきたのはＧＪだ、だがあえて言わせてもらうぞ、二次元って言うのはあくまで直接接触することがないから二次元なんだ、実際に接触してしまったらもう二次元ではない、お前は俺の中の柏木さんを怪我したんだ、その罪万死に値する」

「余計な気遣いが原因でまさかの死刑宣告、ひどいよ誠…女の子には優しくしようよ」

「俺は二次元の女の子には優しいがリアルの女には冷徹になれる男だ」

「む～～、こうなったらこのまま～～～っと誠の家に居座ってやる」

「それは勘弁してくれ」

すごいスピードで頭を下げ始める誠

「わかった、今日1日デートする…それでいいだろう」

「……それって女性をデートに誘うせりふじゃないよね」

「……ったく、しゃーない」

少し乱暴に残っていたポテトとハンバーガーを無理やり自らの口に

突っ込む誠

そして左手でトレイを持ち残った右腕でメガロックの右腕をつかむ

「デート、しようぜ」

そう言って誠はゴミ箱にゴミを突っ込みそのままメガロックを外に連れ出す

ファーストフードを飛び出して数メートル

メガロックの手を引っ張っていた誠は1度停止する

「アレ？どうしたの誠」

「デートする前に話しておきたいことがある」

つないだ手を離しメガロックと向かい合う誠

「お前のことどう読んでいいか」

「どうって、メガロックでいいんだけれども」

「いや、さすがにそれはまずいだろう、ここは漫画やアニメの世界じゃないんだし天下の往来で女性に対し“メガロック”はチョット

抵抗がある」

「それじゃあさ、名前をつけてよ」

「名前をか」

「そう、他のメガロック・ドラゴンにはない誠と私だけにしかない証的な意味でほしいな」

ものすごい笑顔を誠に向けるメガロック

「……ペギー松本」

「何ゆえモモレンジャー？」

「じゃあ、はるこ…“晴子”でどうだ」

「晴子、いいね気に入った」

「まぁ、その姿のキャラの名前なんだけどな」

「誠ぉ、女性とデートしているときに他の女性の話はＮＧだよ」

「ハッハッハッハ、岩石族が何を言ってやがる」

「こうしてじかに会ってみてわかることってあるんだね～～、まさか誠がここまで鬼畜だとは」

「安心しろ、俺は平穏な日常を脅かそうとする敵にだけ冷徹になるだけだ」

「その発言、胸キュンポイント－５０００だよ」

「ファイブゴッドドラゴンの直接攻撃並みか」

「そうだよ、誠はもう致命傷クラスのダメージを負ってるんだからね」

「うっわ～～～～、両の頬を膨らませて怒りを体現する人始めて見た～～」

腕を組みフグやハリセンボンのごとく頬を膨らませて怒りを表現するメガロック

「それじゃあ致命傷をくらったところで俺が大好きな大逆転ってやつを狙ってみますか」

そう言って誠はメガロックのがっちりと組まれた腕から手のひらに手を伸ばす

そしてそのまま再び駆け出していく

「ッチョ、誠」

「まずは映画館にいくぞ」

数時間後

「まさか、連続で映画を見るとは思わなかったよ」

映画館の中のベンチにぐったりと腰を下ろすメガロック

少しつらそうに目頭を手で押さえていた

「なんだ、映画2本を連続で見ただけでもうダウンか」

「チョット映像酔いしたかもしれない…誠はタフだね」

「まぁ、2年前にゴーオンジャーVSシンケンジャーとなのはに遊戯王にFateの映画と連続で見たことあるしな」

「どんだけタフなんだよ……さて次行こうか」

「気分はもういいのか?」

「少し気分よくなったし…それに1日は短いんだからドシドシ遊んでいかないと」

「じゃあ行くか晴子、ついてこれるか」

「何ゆえフェイトのアーチャーっぽく言った?」

数分後

「なぁ晴子、壷盗みのカード見つかった？」

「いいや、見つからないよ」

誠とメガロックはカード屋でノーマルカードの棚を一緒にあさっていた

「つーか壷盗みなんて使いようのないカードなんで探してるの？」

「いや、俺の想像が正しければ後2年もしないうちに強欲な壷が制限に復活すると思うんだ」

「ブラックホールや開闢の使者が復活したからってそのカードは未来永劫復活しないから絶対に」

雑談しつつもノーマルカードをあさる2人

「つーか若い男女2人がどうしてカード屋で黙々とカードを探さないといけないのさ？」

「しょうがないだろ、大会まで後1時間もあるんだし、時間は有意義に使わないと」

「アレ？師匠じゃないっスか」

「「ん？」」

誠とメガロックがカードの山と格闘していると突如一人の女性が話しかけてきた

「お久しぶりっス師匠」

「おう、久しぶりだな」

「誠…この人は？」

「あぁ、こいつは高校時代の俺の後輩だ」

「うっス、はじめまして、小野寺師匠の高校時代の後輩“相場（あいば）沙希（さき）”っス」

「後輩といっても、アニ研の部室の片隅でひたすら遊戯王やってただけだけどな」

「ところで師匠、この女性は彼女さんっスか？」

「もしそう見えるのなら今すぐ病院に行こう、眼科でなく精神の方に」

「一言で2人の人間に対し中傷するなんてなんてひどい発言だ」

「まさに一石二鳥だな」

「一石二鳥は普通プラスになる時の言葉っス、明らかに師匠はマイナスに向かってるっス」

などと3人で雑談をしていると

「ＰＲＲＲＰＲＲＲＲ」

「お、バイトの先輩から電話だ」

突如誠の携帯電話が鳴り出す

そして誠は電話を片手に外に出る

そして店内に取り残されるメガロックと沙希

「ところで、晴子さん…師匠とは、小野寺先輩とはどういう関係なんですか？」

「関係というか、お隣同士で…お互いクリスマスなのに色気ない１日をすごす羽目になりそうなんで、互いに退屈してたから一緒に出かけようって話になって」

「へ～～～～、すごいっスね晴子さん、あの先輩を連れ出すなんて」

「そうかな」

「自分も最初は師匠にものすごく邪険に扱われてたんスけど…ようは先輩女性が苦手なんっス」

「そうなんだ」

「非リア充な精神を長年貫くあまり異性に対する免疫がないんっス、だから慣れてくれるまでいろいろと悪態ついたり酷いこと言ったりしたりするっスけど…用は軽い照れ隠しなんっスよ、でも1度なつけばすっごいいい人なんっスよ」

「誠は犬か猫みたいなんだね」

「まぁ、弟子1号としてはそんな師匠と仲良くしてほしいわけっス」

「沙希さん」

「なんスか？」

「沙希さんは、もしかして誠のこと好きなの？」

「う～～～ん、好きだったっスね…師匠は本当にいい人でっス、でも知ってのとおり師匠は非リア充っスから……付け入る隙なんてなかったっス」

「そうなんだ」

「まぁ、今自分には好きな人がいますし」

「へ～～～、ねぇねぇ、どんな人」

「この人っス」

ポケットから携帯電話を取り出しパカっと開く沙希

「って、ＫＯＦの草薙　京じゃん」

「そうっス、京様最高っス、いや～～～～～先輩にゲームを進められてすっかりはまっちゃったっスよ」

「つまり沙希さんにとって草薙　京は嫁…いや旦那なんだね」

「いえ、京様にはイオリンがいますので自分が入り込む事はできないっス」

「腐ってる～～～～～～～」

「いや～～お待たせ、晴子…壷盗み見つかった」

メガロックの絶叫と同時に戻ってくる誠

「帰ってきたなこの元凶」

「なんだそれは……それよりももうすぐ大会が始まるなエントリーしようぜ」

「そうだね」

「自分も負けないっス」

そして数分後

「まさか、最初の相手が誠とはね」

「あぁ、俺の挑むのであれば1つだけ覚えておけ……命乞いはするな、時間の無駄だ」

「映画の影響受けるの早すぎだし」

互いのデッキをカットしそれぞれのデッキ置き場にセットする

「それじゃあ晴子、デュエル開始だ」

「「デュエル」」

誠
ＬＰ８０００

メガロック
ＬＰ８０００

「私のターン、モンスターを裏守備でセットしリバースカードを1枚セットしてターンエンド」

誠
ＬＰ８０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　なし

メガロック
ＬＰ８０００
手札４枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、“マシンナーズ・ギアフレーム”を召喚」

マシンナーズ・ギアフレーム
レベル４地属性
機械族
攻撃力１８００守備力０
効果　ユニオン
このカードが召喚に成功した時、自分のデッキからマシンナーズ・ギアフレーム以外のマシンナーズと名のついたモンスター１体を手札に加える事ができる。１ターンに１度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上の機械族モンスターに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

1体のモンスターが装備できるユニオンは1枚まで。装備モンスターが破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。

「マシンナーズ・ギアフレームの効果でデッキからマシンナーズ・フォートレスを手札に加える、そしてバトルだ、ギアフレームで裏守備モンスターに攻撃だ」

「私のモンスターは“ライトロード・ハンター　ライコウ”だよ」

ライトロード・ハンター　ライコウ
レベル2光属性
獣族
攻撃力２００守備力１００
効果
リバース：フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する事ができる。自分のデッキの上からカードを3枚墓地へ送る。

「デッキトップから3枚墓地に送りギアフレームを破壊するよ」

「チィ、俺はリバースカードを2枚伏せてターンエンドだ」

誠
ＬＰ８０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

メガロック
ＬＰ８０００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、“カードガンナー”を召喚」

カードガンナー
レベル３地属性
機械族
攻撃力４００守備力４００
効果
１ターンに１度、自分のデッキの上からカードを3枚まで墓地へ送って発動する。このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで、墓地へ送ったカードの枚数×５００ポイントアップする。また、自分フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時、自

分のデッキからカードを1枚ドローする。

「カードガンナーの効果発動、デッキトップからカードを3枚墓地に送りエンドフェイズまで墓地に送ったカード1枚につき攻撃力を５００ポイント上昇させる」

カードガンナー
攻撃力４００→１９００

「バトル、カードガンナーで直接攻撃」

カードガンナー　攻撃力１９００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

誠
ＬＰ８０００－１９００＝６１００

「私はこれでターンエンドだよ」

カードガンナー

攻撃力１９００→４００

誠
ＬＰ６１００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

メガロック
ＬＰ８０００
手札４枚
モンスター　カードガンナー
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン、“グリーン・ガジェット”を召喚」

グリーン・ガジェット
レベル４地属性
機械族
攻撃力１４００守備力６００
効果
このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、デッキからレッド・ガジェット１体を手札に加える事ができる。

「グリーン・ガジェットの効果でデッキからレッド・ガジェットを手札に加える…そしてバトル、グリーン・ガジェットでカードガンナーに攻撃」

グリーン・ガジェット　攻撃力１４００＞カードガンナー　攻撃力４００

メガロック
ＬＰ８０００－１０００＝７０００

「カードガンナーの効果発動、フィールド上のこのカードが墓地に送られたときデッキからカードを１枚ドローする」

「これ以上の進撃は無理か、これでターンエンドだ」

誠
ＬＰ６１００
手札４枚
モンスター　グリーン・ガジェット

魔法トラップ　リバース×２

メガロック
ＬＰ７０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、“カードブロッカー”召喚」

カードブロッカー
レベル３地属性
戦士族
攻撃力４００守備力４００
効果
このカードは召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、守備表示になる。自分フィールド上に表側表示で存在するモンスターが攻撃対象に選択された時、このカードに攻撃対象を変更する事ができる。このカードが攻撃対象になった時、自分のデッキのカードを上から３枚まで墓地へ送る事ができる。墓地へ送ったカード１枚につき、このカードの守備力はエンドフェイズ時まで５００ポイントアップする。

「カードブロッカーの効果発動、召喚・反転召喚・特殊召喚成功時このカードは守備表示になる」

「……」

「どうしたんだい誠、難しそうな顔しちゃって」

「いや、今までお前が使ったカードを見てどんなデッキか推理しているんだが」

「フッフッフッフ、わかるかな～、私はこれでターンエンド」

誠
ＬＰ６１００
手札４枚
モンスター　グリーン・ガジェット
魔法トラップ　リバース×２

メガロック
ＬＰ７０００
手札５枚
モンスター　カードブロッカー
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン」

デッキからカードをドローし手札に加え聴講する誠

（ライコウにカードガンナーにカードブロッカー……この時点ではまだなんとも言えないが3，4つ警戒しないといけないカードがある）

「俺はグリーン・ガジェットを生贄に“機械王”を召喚する」

機械王
レベル6地属性
機械族
攻撃力2200守備力2000
効果
フィールド上に表側表示で存在する機械族モンスター1体につき、このカードの攻撃力は100ポイントアップする。

「互いの場には機械族モンスターは1体のみ、よって機械王の攻撃力は100ポイント上昇する」

機械王

攻撃力２２００→２３００

「バトル、機械王でカードブロッカーに攻撃だ“メガヒート・ナックル”！！！」

「カードブロッカーの効果発動、デッキトップからカードを３枚まで墓地に送り守備力を１枚につき５００アップする、私は３枚墓地に送り守備力を１５００ポイント上昇させる」

カードブロッカー
守備力４００→１９００

「だが俺の機械王のステータスのほうが上だ」

機械王　攻撃力２３００＞カードブロッカー　守備力１９００

「……俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ６１００
手札４枚
モンスター　機械王
魔法トラップ　リバース×２

メガロック
ＬＰ７０００
手札５枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、モンスターを裏守備でセットしターンエンドだよ」

「どうしたどうした、防戦一方か」

「ッフ、その余裕どこまで持つかな」

誠
ＬＰ６１００
手札４枚
モンスター　機械王

魔法トラップ　リバース×２

メガロック
ＬＰ７０００
手札５枚
モンスター　裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン“レッド・ガジェット”を召喚」

レッド・ガジェット
レベル４地属性
機械族
攻撃力１３００守備力１５００
効果
このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、デッキからイエロー・ガジェット１体を手札に加える事ができる。

「レッド・ガジェットの効果でデッキからイエロー・ガジェットを手札に加える、さらにフィールド上の機械族モンスターが増えたことで機械王の攻撃力が上昇する」

機械王
攻撃力２３００→２４００

「バトル、機械王で裏守備モンスターに攻撃“メガヒート・ナックル”」

「私のモンスターは伝説の柔術家だよ」

「ッゲ」

伝説の柔術家
レベル３地属性
攻撃力１３００守備力１８００
効果
守備表示のこのカードと戦闘を行ったモンスターは、ダメージステップ終了時に持ち主のデッキの一番上に戻る。

機械王　攻撃力２４００＞伝説の柔術家　守備力１８００

「伝説の柔術家の効果発動、守備表示のこのカードを攻撃したモンスターをダメージステップ終了時デッキトップに戻すよ、そしてその効果にチェーンしてトラップ発動“ブロークン・ブロッカー”」

ブロークン・ブロッカー
通常トラップ
自分フィールド上に存在する攻撃力より守備力の高い守備表示モンスターが、戦闘によって破壊された場合に発動する事ができる。そのモンスターと同名モンスターを2体まで自分のデッキから表側守備表示で特殊召喚する。

「とりあえずチェーン処理に入るね、まずはブロークン・ブロッカーの効果でデッキから柔術家2体をデッキから守備表示で特殊召喚、さらに伝説の柔術家の効果で機械王をデッキトップに戻すね」

「クソ、俺の機械王が…その上伝説の柔術家2体ってなんてうっとおしいフィールドなんだ」

「さぁどうする誠」

「ようし、だったらレッド・ガジェットで……攻撃できるか～～、バトルフェイズ終了、リバースを1枚追加してターンエンドだ」

誠
ＬＰ６１００
手札４枚
モンスター　レッド・ガジェット
魔法トラップ　リバース×３

メガロック
ＬＰ７０００
手札５枚
モンスター　伝説の柔術家×２
魔法トラップ　なし

「私のターン、モンスター１体を裏守備でセット、リバースカードを１枚伏せてターンエンド」

誠
ＬＰ６１００
手札４枚
モンスター　レッド・ガジェット
魔法トラップ　リバース×３

メガロック
ＬＰ７０００
手札４枚
モンスター　伝説の柔術家×２、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

「俺のターン」

（攻撃力１３００のレッド・ガジェットに攻撃してこなかった、防御を固めるデッキなのか？）

「俺はレッド・ガジェットを守備表示に変更、さらに“サイバー・ヴァリー”召喚」

サイバー・ヴァリー
レベル１光属性
機械族
攻撃力０守備力０
効果
次の効果から１つを選択して発動する事ができる。●このカードが相手モンスターの攻撃対象に選択された時、このカードをゲームから除外する事で自分はデッキからカードを１枚ドローし、バトルフェイズを終了する。●このカードと自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター１体を選択してゲームから除外する。自分のデッキからカードを２枚ドローする。●このカードと自分の手札１枚

をゲームから除外する。自分の墓地のカード1枚を選択してデッキの一番上に戻す。

「俺はこれでターンエンドだ」

誠
ＬＰ６１００
手札４枚
モンスター　レッド・ガジェット、サイバー・ヴァリー
魔法トラップ　リバース×３

メガロック
ＬＰ７０００
手札４枚
モンスター　伝説の柔術家×２、裏守備×１
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、モンスターを裏守備でセットしてターンエンド」

誠
ＬＰ６１００

手札４枚
モンスター　レッド・ガジェット、サイバー・ヴァリー
魔法トラップ　リバース×３

メガロック
ＬＰ７０００
手札４枚
モンスター　伝説の柔術家×２、裏守備×２
魔法トラップ　リバース×１

「ひどいこうちゃく状態だな、俺のターン、サイバー・ヴァリーの第２の効果発動・・・自身と自分フィールド上の表側表示のモンスターを１体除外する事ですデッキからカードを２枚ドローする」

サイバー・ヴァリーとレッド・ガジェットのカードを裏返し墓地の底に置く誠

そしてデッキからカードを２枚ドローする

「どう、いいカードは引けた？」

「あぁ、まずは魔法発動“ブラック・ホール”」

ブラック・ホール

通常魔法
フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

「フィールド上のモンスターをすべて問答無用で破壊する…まぁ俺の場にはいないから被害が出るのは一方的にそっちだけだけどな」

「アチャ～～、せっかくがんばって出したモンスターが」

「そして手札の“スクラップ・リサイクラー”を召喚」

スクラップ・リサイクラー
レベル３地属性
機械族
攻撃力９００守備力１２００
効果
このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、自分のデッキから機械族モンスター１体を選択して墓地へ送る事ができる。１ターンに１度、自分の墓地に存在する機械族・地属性・レベル４モンスター２体をデッキに戻す事で、自分のデッキからカードを１枚ドローする。

「スクラップ・リサイクラーの効果発動、召喚成功時デッキから機械族モンスター１体を墓地に送る事ができる、俺はマシンナーズ・フォートレスを墓地に送り今墓地に送ったフォートレスの効果発動、

手札のイエロー・ガジェットとマシンナーズ・ソルジャーを墓地に送りこのカードを特殊召喚する…さらにスクラップ・リサイクラーの効果発動墓地に眠るイエロー・ガジェットとグリーン・ガジェットをデッキに戻しその後デッキからカードを1枚ドローする」

「さすがはマシンナーズデッキ、めまぐるしくカードが回るね」

「さて、反撃といきますか…マシンナーズ・フォートレスとスクラップ・リサイクラーで直接攻撃」

マシンナーズ・フォートレス　攻撃力２５００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

スクラップ・リサイクラー　攻撃力９００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

メガロック
ＬＰ７０００－３４００＝３６００

誠

「ＬＰで受けたのか、俺はこれでターンエンドだ」

ＬＰ６１００
手札４枚
モンスター　スクラップ・リサイクラー、マシンナーズ・フォートレス
魔法トラップ　リバース×３

メガロック
ＬＰ３６００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×１

「私のターン、それじゃあそろそろ私の反撃といきますか…魔法発動“ライトニング・ボルテックス”」

ライトニグ・ボルテックス
通常魔法
手札を１枚捨てて発動する。相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊する。

「ハンドを１枚きり相手の場の表側表示モンスターを全て破壊する」

「わ～～い、さっきのブラホのお返しですね、わかります」

「さらにリバース発動“針虫の巣窟”」

針虫の巣窟
通常トラップ
自分のデッキの上からカードを５枚墓地に送る。

「針虫の巣窟の効果で自身のデッキからカードを５枚墓地に送る、そして墓地に眠る岩石族モンスター１３体を除外し“メガロック・ドラゴン”を特殊召喚」

メガロック・ドラゴン
地属性レベル７
岩石族
攻撃力?守備力?
このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する岩石族モンスターを除外する事でのみ特殊召喚できる。このカードの元々の攻撃力と守備力は、特殊召喚時に除外した岩石族モンスターの数×７００ポイントの数値になる。

「このカードの効果は当然知ってるよね」

「あぁ、通常召喚できず墓地に岩石族を任意の枚数墓地から除外する事で特殊召喚できるカード、そしてそのステータスは特殊召喚時に墓地から除外した岩石族モンスターの数×７００した数値となる」

「よくわかってるね」

メガロック・ドラゴン
攻撃力?→９１００

「そうか、カード・ガンナーやライコウで墓地を肥やしメガロックのステータスを引き上げその一撃に全てをかけるデッキってわけか」

「そう、それが私流メガロックデッキ、誠のメガロックデッキとは違ったデッキだよ」

「嬉しいね、俺以外にメガロック・ドラゴンを使うデュエリストに出会えるとは」

「それじゃあいくよ、メガロック・ドラゴンで直接攻撃」

「だが勝機を見誤ったな…リバース発動“和睦の使者”」

和睦の使者
通常トラップ
このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは０になる。このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

「このカードの効果で俺へのダメージは０になる」

「やっぱアレだね、魔法トラップ除去カードが少ないこのご時世、メガロック・ドラゴンみたいなばくち系フィニッシャーは流行らないのかね」

「あぁ、昔は良かった…大嵐にハリケーンに大寒波を１枚ずつつめられた、あの頃に戻りたいな」

「とりあえず私はこれでターンエンドだよ」

誠
ＬＰ６１００
手札４枚
モンスター　なし
魔法トラップ　リバース×２

メガロック
ＬＰ３６００
手札３枚
モンスター　メガロック・ドラゴン

魔法トラップ　なし

「俺のターン、さて…メガロックよ」

デッキからカードを1枚ドローしメガロックにらむ誠

「このターンで決める、俺の全力全壊でな！！！さっき破壊されたマシンナーズ・フォートレスの効果発動、手札のマシンナーズ・フォートレスと機械王を墓地に送り復活、さらにリバース発動“リビングデッドの呼び声”」

リビングデッドの呼び声
永続トラップ
自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「俺は墓地に眠る機械王を攻撃表示で特殊召喚する」

「誠、いくらモンスターを並べても私のメガロック・ドラゴンは超えられないよ」

「確かにメガロック・ドラゴンは強い、俺の最も信頼するモンスターだしな…まったくいつ見ても

惚れ惚れするカードだぜ……最高のカードだよ……パワーだけはな！！！」

「何かあるみたいだね」

「あぁ、最後のリバース発動“リミッター解除”！！！！」

リミッター解除
速攻魔法
このカード発動時に、自分フィールド上に表側表示で存在する全ての機械族モンスターの攻撃力を倍にする。この効果を受けたモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

「俺のフィールドの機械族モンスターのリミッターを開放、攻撃力を2倍にする」

マシンナーズ・フォートレス
攻撃力２５００↓５０００

機械王
攻撃力２２００↓２４００↓４８００

「さぁ、グランドフィナー……いや、ティロ・フィナーレと行こうか、まずはマシンナーズ・フォートレスでメガロック・ドラゴンに

攻撃」

マシンナーズ・フォートレス　攻撃力５０００＜メガロック・ドラゴン　攻撃力９１００

誠
ＬＰ６１００－４１００＝２０００

「そして戦闘破壊されたマシンナーズ・フォートレスの効果発動、戦闘破壊された時フィールド上のカード１枚を破壊する、もちろんメガロック・ドラゴンを破壊する」

「……これは負けたかな」

「あぁ、機械王と残ったマシンナーズ・フォートレスで直接攻撃“マキシマムヒート・ナックル”」

機械王　攻撃力４８００（直接攻撃）＞相手プレイヤー

メガロック
ＬＰ３６００－４８００＝－１２００

数時間後

「優勝は山下君です」

「パチパチパチパチ」

カード屋に割れんばかりの拍手が響く

「いや～～～、自分2回戦で負けちゃったっス」

「私は1回戦で誠に負けちゃった」

「俺も準決勝まで行ったんだけどな～～～、2回戦以降から俺のデッキがばれててすっげ～～戦いにくくなったんだけど何でだろう」

「そいりゃああんだけ大声で叫びまくってたらみんなにばれるって」

「さて、それじゃあ大会もお開きみたいですし、自分はこれで帰るっス」

「おう、お疲れさん…久しぶりに会えてよかったぜ」

「それじゃあ師匠に晴子さん、また今度」

そういい残し沙希は帰っていった

「さて、それじゃあ俺たちも帰るか」

そして夜

「ただいま」

部屋に戻る誠とメガロック

「いや～～～、今日は楽しかったね誠」

「まぁ、俺もそれなりに楽しめた、サンキューなメガロック」

「なんか、ファーストコンタクトの時に比べてずいぶんとフレンドリーになったね」

「そうか？」

「最初はすっごい悪態ついてたけど、すっごく親しい態度っていうかさ」

「まぁ、デュエルしたんだ…俺達はもう友達だ」

（そういえば沙希さん言ってたっけ、ようは誠は怖がってるってだけだって…ようはそういうことだったんだな）

「さて、それじゃあ私はもう帰るね」

「なんだ、まだ1日は終わらないぞ」

「いや、たくさん誠と遊べたし私は大満足だよ」

「そうか、それじゃあ」

スっと手をメガロックに向かって差し出す誠

「それじゃあ私も」

ガシっと互いの手を握り合う2人

「熱く、楽しい1日だったぜ」

「私も、最高に楽しかったよ」

スっと硬く握り合った手を抜くメガロック

「それじゃあね、誠……また、どこかで」

そしてメガロックは光の粒となって消えていく

「……アレ!?俺今まで何してたんだ!?なんか記憶が、今日1日の俺の行動にもやがかかったかの如くいろいろと思い出せんが……まぁたぶん映画見てカード屋行ってと素晴ら

しい1日だったに違いない」

そう言ってテレビとストーブのスイッチを入れる誠

「さて、とりあえず来年のバイトを探さないとな……工事現場か、結構給料いいな」

そして月日が流れた

視線変更～メガロック～

「これから、、デュエルアカデミアでの生活が始まるのか」

デュエルアカデミアレッド寮の屋根の上

目の前には私の相棒がたたずんでいる

数ヶ月前会った時と変わっていない

外面は若くなってるけど間違いなく私の相棒小野寺　誠だった

「何度思ったか、本当に遊戯王の世界に来ちゃったんだよな」

前の世界じゃあデュエルモンスターズの精霊が存在できない世界だったから

クリスマスに奇跡的に1日だけ実体化できたけど最終的には私がの世界でした事はかかわった人々の記憶から消えてしまっていたし

でも、この世界なら

「もしかして、前の世界に未練でもあった？」

「無かったと言えば嘘になる、でも……そのうち慣れてくるさ、こっちの世界にもアニメや特撮という物は有る、前いた世界とは全然内容とかは違うが」

「アレレ、もしかして早くもホームシック？」

「なわけねーよ、一応生前は一人暮らしだぜ、それに心のどっかではしょうがないってあきらめてるところも有るしな・・・あとは突き進むだけだ」

「結構あっさりしてるんだね」

「まぁな……っで」

やっとこっちを振り向く誠

「誰？」

「っや、初めてだね……って言ったほうがいいのかな？」

前の世界で会ったこと有るけどね

「あのう・・・どちら様でしょうか？」

「ひどいな、あんなに長年パートナーをしているのに」

「パートナー……だって？」

「そうだよ、君がそう言ってくれたんじゃないか、エースだのパートナーだの相棒だの」

「ま、まさか…メガロック・ドラゴンなのか」

「そうだよ、君のデッキのエースモンスター、メガロック・ドラゴンの精霊だよ」

あの時と同じ反応、何もかも懐かしい

「なんで女性なんだ～～～～」

「な！？どうしたのいきなり」

突如頭を抱えだし腰を激しくツイストし始める誠

「なんで俺の相棒メガロック・ドラゴンが擬人化（萌えキャラ）になってるんだ～～～受け入れられね～～～～～～」

「どうどう、落ち着こうよ」

「悪い、かなり取り乱していた」

息を切らせながらも落ち着きを取り戻す誠

「それじゃあ落ち着いたところで」

「コレからよろしくね、、誠」

私は誠に自分の手を差し出す

「あぁ、、よろしくな」

ガシっと硬く握られる両者のこぶし

誠、これからずっと一緒だね

クリスマス番外編2～聖夜に奇跡はつき物です～（後書き）

ふと思ったんですが俺の小説って前書きが無駄に長すぎなのでしょうか？デュエルパートよりも日常パートが長生きが…その上不必要なマニアックネタのオンパレードで小説を読んでくださる方々に見苦しい思いをさせている気も……まぁいまさらスタイルは変えられないか（爆）

今年も残すところあとわずか、結局2年生編間に合わなかったな、ネタはいろいろとあるのに相変わらず小説が進まないｏｒｚ

最後になりましたが皆さん、よいクリスマスを、そしてまた来年会いましょう。

謹賀新年

「誠よ、今日は俺のスペシャルカードを拝ませてやる、年賀カードオープン“謹賀新年”！！！！」

「だったら真間よ、俺のコンボを受けてみろ、初夢3連コンボ“1富士”“2鷹”“3茄子”」

「誠に真間……何してるの」

「「新年のご挨拶だ」」

「まったく、バカやってないで、みんなそろっているんだから」

「そうです真間さん誠さん、主役の2人がいないと始まらないんですから」

「そうだな」

ガバっと服を放り投げる誠と真間

すると一瞬でデュエルアカデミアの制服からはかま姿に変わる

「皆様、新年あけましておめでとうございます、今年も遊戯王ＧＸ～ＧＹＺ（ごちゃ混ぜ、やりすぎ、自重なし）～をよろしくお願いします」

「っというわけで皆さん新年ですね、私は今喪中ですのでおめでとうございますの発言は控えさせてもらいます、作者です」

「まぁ、いつもの座談会みたいなものだな」

「まぁな、っというわけで早速お手紙を読もうと思います」

「ひどいうえに急な展開だ」

「サテライトに御住まいのペンネーム“羽クリ及びジャンクシリーズ激ラブ”さんから」

「なんかものすごくＰｏｗｅｒ・ｏｆ・Ｆｅｌｌｏｗｓ　的な感じだな」

「“誠、リア充なのはお前の方じゃないか?”だそうです」

「いや、どこからどう見たって道産子らしい立派なキモオタで非リア充じゃないか」

「いや、誠…北海道人が誤解されるから」

「大体俺が異性にもてたりするわけないじゃないか、なぁみんな」

「「……」」

「なんだ、みんなその“うっわ～～こいつ本気で言ってるのかよ”っと言いたげなその目は…特に冥衣と三女、視線に若干の殺気を感じるんだけど」

「別に、ただなんとなくＩＳのヒロインたちの心境がわかったかな～～～～って感じかな」

（キュキュキュ～～）

「何を言ってるんだか…それよりも作者、正月なんだからお年玉くれ」

「このなんちゃって高校生が、お前肉体年齢は１６だけど精神は２０じゃないか」

「心はな、でも体は高校生なんだ、お年玉くれよ」

「お前な～～、チヨちゃんが言ってたじゃないか、高校生なのでお年玉はもらわないですって」

「いや、そのネタ古すぎだろう……つーかお年玉以前にせっかくの座談会なんだから何かしてくれよ」

「そうだな……だったら願い事を言ってみろ、どんな願いでも叶えてやるぞ」

「どうする、仮面ライダー電王の方でボケるべきかまどか☆マギカでボケるべきか」

「まぁ、このキモオタおいておいて、まずは真間、何か願い事はないか」

「そうだな～～～、早く2年生にあがりたいな」

「……」

「なぜ目をそらす」

「いや、何度も前書きとかで書いているんだけど俺も早く2年生編書きたいよ」

「だったら早く書けよ、後俺とカイザーが戦ったら2年生編だろ」

「いいや、真間ＶＳカイザーの後に没ネタ集的なお話ともう1度座談会する予定なんだよ…2年生編は今年の年末になりそうだ」

「妙にリアルな発言だなおい」

「じゃあ次、誠…お前の願い事は何だ？」

「金銀財宝とか、不老不死とか、マンガンゼンセキとか」

「そのネタはもういいから、何かほしいものとかないのか」

「……ツッコミ役」

「え！？」

「ボケキャラの最高のパートナー、神様ってひどいよね…転生者俺しかいないから誰も俺のボケについてこれない」

「……そんな事ない」

「じゃあ作者、俺にツッコミを入れてくれるか」

「……それは」

「俺がしてやんよ」

「「！！！！！」」

突如声がしたほうに振り返るとそこには一人の青年が立っていた

ＢＧＭ変更～１番の宝物～

「お、お前は、俺が気まぐれで作ったのはいいがまったくもってストーリーが進んでいない遊戯王ＧＸ～トラの目のスナイパー～の主人公、聖斬刀　紅」

「俺がツッコミしてやんよ、これが…俺の本気だ」

「お前は、俺のツッコミのハードルの高さを知らない」

「どんなマニアックなネタでも、俺がツッコミしてやんよ」

「俺はキモオタだぞ、アニメや特撮にエロゲネタが多いぞ」

「どんなボケでもって言っただろう！！！」

「！！！！！」

「アニメでも、特撮でも、エロゲネタだって…俺がツッコミしてやんよ、どんなタイミングでもツッコミしてやんよ、どんなにマニアックなネタでもボケはボケだ、どんなボケでも俺がツッコミしてやんよ」

「無理だよ、俺のボケ本当にわかりづらいから」

「俺、今度そっちの小説の世界に行くんだよ…ある時お前がまた変なボケをかますんだ…でも回りはどうリアクションしていいか戸惑っちまうんだよ、そこで俺が“ボケるのはいいがネタを考えなさい”ってツッコムんだ…それが出会い、話をしてさ、俺もアニメや漫画やエロゲにはまって…いつしかお前専属のツッコミ役と化している…そういうのはどうだ？」

「ねぇ、その時はさ……いつも感想で“ツッコミきれね～～”って疲れている、リュウガさんとか、楽にしてあげてね」

「まかせろ」

「……よかった」

そして光の粒子となって消えていく誠

「……よかったのか？」

「よかったさ」

「お前は、これからどうする」

「まだ残るさ、俺の方の小説は1話しかのってないしな」

「って、だから俺しんでんじゃ～～～～～～～ん」

「ズド～～～～～～ン」

「ギャ～～～～～」

突如空から誠が落下してきて作者の上に強烈に着地する

「相変わらず座談会や番外編で俺を殺すよなお前は」

「あぁ、でも紅がＧＹＺの世界に行くのは本当だ」

「「え!?マジなの？」」

「俺の中の予定ではトラの目のスナイパーを１０話くらいで終わらせて紅と直接コンタクトを取ってＧＹＺの世界の行ってもらう的な流れにしようと思っていたんだよ」

「って、紅はいつＧＹＺの世界にやってくるんだ」

「……」

「だから目をそらすなって」

「まぁ、気長に待ってくれ」

「きっと再来年になるんだろうな」

「それじゃあ最後に作者、お前の今年の目標を聞きたい」

「そうだな、昨年はマニアックなネタばっかやってたからな…今年はマニアックなネタ自重したいな」

「「……」」

「ん!?どうしたみんな」

「「今回のお話の時点ですでに無理だ～～～～～～～」」

「最後に皆様、今年もこの遊戯王ＧＸ～ごちゃ混ぜ、やりすぎ、自重なし～と小野寺　誠、そして遊戯王ＧＸ～トラの目のスナイパー～と聖斬刀　紅を」

「「よろしくお願いします」」

「なぁ、作者よ……俺の願い事なんだけど」

「アレ？三沢いたんだ」

「……俺の願いは座談会のオチに使わないでほしい事かな」

謹賀新年（後書き）

ついにきました２０１２年、世間はお正月ムードですが私は正月出勤のためいまいち正月気分が出てこない。

本編でも書いたんですが本当にいい加減誠たちを2年生に上げたいです。去年の今頃は学園祭のデュエルを更新したよな～～（遠い目）

最後になりましたが皆さん、今年も遊戯王ＧＸ～ごちゃ混ぜ、やりすぎ、自重なし～をよろしくお願いします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4527l/

遊戯王ＧＸ～ＧＹＺ（ごちゃ混ぜ、やりすぎ、自重なし）～

2012年1月1日21時49分発行